

# 元朝秘史蒙古語文法講義

——附 元朝秘史蒙古語辭典——

小澤重男著

風間書房

A Grammar on the Language  
of "Secret History of Mongols"

*by*

Shigeo Ozawa

KAZAMA SHOBO

Tokyo Japan

「はしがき」に代えて

## 「はしがき」に代えて

昭和59（1984）年の2月から平成元（1989）年の2月まで、まる6年間をかけて、私は『元朝秘史全訳（上・中・下）』、『元朝秘史全訳続攷（上・中・下）』  
√全六巻を上梓し、江湖の御批判を仰ぐ機会をもった。そして、最後の巻『全訳続攷（下）』の「あとがき」において、私は、次の機会に“元朝秘史蒙古語文法”の執筆に向う旨の文を草した。その時から4年間の時間を闊した現在、私はその約束のなかば近くを果しえた感をもつ。残余のほぼ $\frac{1}{2}$ は再び次の機会に預けることをお赦し願わねばならないが、しかし、本巻に記述した部分は秘史蒙古語の動詞論の大部分をカバーすることが出来たので、秘史蒙古語を読解する上での、ささやかな一助たり得たと考える。

\* \* \* \*

私は、言語研究における音声と文字を扱う部分及び語彙論は文法には含めない立場に立つので、秘史蒙古語文法についても、大きく「動詞論」、「実詞論」、「虚辞論」、「文論」の四部分に分けて執筆を進めた。本巻では、上述のようにその中心をなす「動詞論」の大半を記述し終えたので、次の機会には残りの総ての部分を含めて、秘史蒙古語文法の記述を完了したい考えである。草稿の時点では、本書一巻の中に秘史蒙古語文法の総てを収めようと考えていたが、動詞論に思わぬ紙幅を費し、又、今まで上記全六巻に分載されていた「元朝秘史蒙古語辞典」をまとめて（多くの誤植を正し、体裁を整えて）一書の形で収め、更に、上記六巻全巻にわたる「語句・事項総索引」をも注入した結果、「実詞論」以下を次巻にゆずることになった。再度、おゆるしを乞う次第である。

秘史蒙古語の研究は、私の生涯の中で、大きな時間を占めた研究であったが、何とか近い将来にその終点に到し得ようかとの予想を立てられそうな昨今である。

## 2 「はしがき」に代えて

モンゴル系の言語の研究には、未だ行なわれなければならぬ、多くの研究作業が残っている。私の残された生涯の中で、その何分の一が実現できるか、その予見はもとより困難であるが、その何分の一の実現に向けて今後も精進を重ねたい所存である。

最後に、今回も本書の出版に際し、多大な御好意と御協力を賜った風間書房社長、風間務氏、及び本書の編集にひと方ならぬ御協力をいただいた編集部佐藤和久氏の両氏に深甚なる感謝を捧げると共に、困難な印刷に携さわれて下さった中台整版の関係者各位にも心からの謝意を表明するものである。

又、本書所収の「元朝秘史蒙古語辞典」の作成には、東京学芸大学講師齊藤純男氏、「語句・事項総索引」の作成には、東京外国語大学助手温品雅三氏の大きな協力を受けた。両氏の御援助なかりせば、この二者の作成は困難に陥ったであろう。記して篤い感謝の念を明かにしたい。

平成五年，新春吉日。

冬晴れの日，入間川の寓居にて。

小 沢 重 男

(なお、本書は平成4年度文部省科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の交付を受けて出版されたものである。文部省当局の御好意に、これ亦、大きな感謝の念を禁じ得ない)。

## 凡 例

1. 秘史の原文は、四部叢刊十二巻本に依ったが、葉德輝十二巻本及びソ連十五巻本(パンクラートフ氏の序文をもつソ連版、モスクワ、1962)、静嘉堂文庫十五巻本(原山焯氏の御好意で、氏の作成になる「ソ連本・陸氏本異同対照表」を利用させていただいた)を適宜参照して原文校合を行った。又、『額尔登泰校勘蒙古秘史 校勘本』(呼和浩特1980)、『Bayar: Monggul-un nicuča tobčiyān(巴雅尔: 蒙古秘史上・中・下)』(呼和浩特1981)をも参考に供した。

2. 本書の結講は、節毎(従来の訳註書に於ても、原文は節毎に分けられているが、これは勿論、便宜上のことであって、漢字音訳原文に第一節、第二節などと記されているものではない)に分けた原文とその傍訳、その下に施したローマ字転写、更にその下に記した日本語直訳、そして節毎に附した訳文と註釈とから成る。註釈は、余りにも紙数をとるので語学的註釈を専らとし、歴史学にわたる註釈は、〔実録〕、〔村・秘〕その他に見られる優れた註釈にゆずった。

3. 秘史原文の表示は、従来の訳註書に従い、十二巻本全体を282節に分けて行すが、本書では、この節分けに加えて、巻数、葉数、行数をあわせ示した。例えば、§5(一3六~3十)は第五節、この第五節は巻一の第3葉の六行目から同3葉の十行目までに亙ることを示している。なお、行数は一葉の表面から裏面へかけての通し行数である。

4. モンゴル語の固有名詞の日本語表記は片仮名を以て表わし、転写字 a をア、e をエ、i をイ、o、ö をオ、u、ü をウでそれぞれ表記し、これらの母音を伴う音節、例えば qa, ke, ki, qo, kö, qu, kü カ、ケ、キ、クで表わした。(qo と kö; qu と kü はカナ表記では区別がなくなるが、転写字が施されているので問題はない)。tu, tü; du, dü はトゥ; ドゥで表わし、ču, cü; ju, ju はチュ; チュで表記した。



## 4 凡例

3. 秘史原文のローマ字転写は『服部四郎：元朝秘史の蒙古語を表わす漢字の研究』所収の「音訳漢字順位表」の第一種転写を参考にしてモンゴル語を十分考慮に入れた私自身の決定した転写字に従って行った。転写に関して特に必要と思われるものについては本文中に注記したが、総体として以下の諸点に御留意願いたい。

1. 近年のモンゴル語研究の成果を取り入れて、若干の語に長母音の表記を行った。<sup>(1)</sup>

2. モンゴル語の対格語尾表記のために用いられた「兀, 亦」及び母音の後に用いられたこの二字はyiと転写し、それ以外の場合はiで転写した。例えば、阿<sup>中</sup>合宜 aqa-yi(兄を), 答亦孫 dayisun(敵), 亦<sup>中</sup>列古 irekü(来る)の如し。

3. モンゴル語の属格語尾を表記した「因」及び母音の後に用いられた「因, 寅」はyinと転写した。例えば、阿<sup>中</sup>合因 aqa-yin(兄の), 帖因 teyin(そのように), 阿寅<sup>新</sup> ayi(n)l(アイル)の如し。なお、「引者」はinjeでyinjeとはしない。

4. 你刊(一), 箴<sup>中</sup>兒干(善射者)の刊, 干は服部先生の第一転写ではk'an, kanであるが、モンゴル語を考慮してken, genと転写する。兀該(〜でない), 幹歌歹(オゴデイ)の該, 歹もモンゴル語を考慮してgaj, dai, ではなくgej, dejと転写する。

昂客(和平), 桑沽<sup>中</sup>兒(セングル河)の昂, 桑も同様に, ang, sangではなくeng, sengと転写する。

<sup>中</sup>合札<sup>中</sup>兒(土地), <sup>中</sup>合<sup>中</sup>刺(黒い)の「<sup>中</sup>合」は前者ではgajar, 後者ではqaraと転写し分ける。これもモンゴル語を考慮に入れた転写である。<sup>中</sup>忽兒班(三) gurban, <sup>中</sup>忽<sup>中</sup>刺(雨) quraのgu-, qu-も同様である。

5. 埃, 擺, 歹, <sup>中</sup>孩, 台, <sup>中</sup>灰, 恢など語末に-iをもつ二重母音はai(ej) bai, dai(dei), qai~gai, tai(tei), qui, küiのように転写し, 保, 倒, 卯, 擗など語末に-uをもつ二重母音もbau, dau, mau, neüと転写した。

N. Poppe: On the Velar Stops in Intervocalic position in Mongolian.  
Ural-Altische Jahrbücher, Band XXXI.

N. Poppe: The Primary Long Vowels in Mongolian. Journal de la Société  
Finno-Ougrienne 63, 1962.

野村正良: 「原蒙古語の母音体系に就いての研究」, 名古屋, 1979.

〔註〕この凡例は『全訳統5(下)』の凡例をそのまま踏襲したものであるが、次の点でつけ加えた処がある。

ローマ字転写字としてk, g, t, d, (極く稀にč, ĵ)を追加した。例えば「客<sub>ト</sub>帖<sub>ト</sub>」kebte-((横たわる))は時に「格<sub>ト</sub>帖<sub>ト</sub>」gebte-として現われるが、これはkebte-の書写上の変種と認めgebte-とする。(漢字面の「格」を尊重してgeとする)。又、「<sup>中</sup>合屯」qatun(后)は、屢々「<sup>中</sup>合敦」qadunとしても現われ、数量的には「<sup>中</sup>合敦」の方が優勢である。これには、それなりの理由を認め得るが、やはり漢字面を尊重しqadunと転写を施した。(以上)

(1) 服部四郎: 「蒙古祖語の母音の長さ」, 『言語研究』36号, 東京, 1959.

## 略語表

参考文献類，その他の略語を以下に掲げる。

- [B.M.N.] Bayar : Monggul-un ničuča tobčiyān. 呼和浩特, 1983.
- [C.S.H.] F.W.Cleaves : The Secret History of the Mongols, Cambridge Massachusetts, London, England. 1982.
- [Č.M.K.] Čoyijingjab : Monggol kelen-ü jüj-yin sudlul, Köke qota, 1989.
- [E.A.N.T.] Eldengtej, Ardajab: Monggul-un ničuča tobčiy-a—seyiregülel tayilburi. 呼和浩特, 1986, 12.
- [H.G.G.] E.Heanisch : Die Geheime Geschichichte der Mongolen. Leipzig, 1948.
- [H.N.T.] E.Haenisch : Manghol un Niuca Tobca'an, Wiesbaden, 1962.
- [H.G.K.] 服部四郎 : 元朝秘史の蒙古語を表わす漢字の研究. 東京, 1946.
- [H.M.E.] Hangin Gombojab : Mongolian English Dictionary, 私家版.
- [H.T.S.] W. Hung : The Transmission of the Book Known as the Secret History of the Mongols, HJAS, Vol.14, No 3 and 4, 1951.
- [H.W.M.] E.Haenisch : Wörterbuch zu Manghol-un Niuča Tobca'an, Leipzig, 1939.
- [K.M.R.F.] J.E.Kowalewski : Dictionnaire-Mongol-Russe-Français, Kasan, 1844-1849.
- [K.K.J.] 貝塚茂樹, 藤野岩友, 小野忍 編 : 角川漢和中辞典, 東京, 1959.
- [K.S.H.] Kei Kwei Sun : The Secret History of the Mongol Dynasty, Aligarh, 1957.
- [Ko.K.J.] 諸橋轍次, 鎌田正, 米山寅太郎 : 広漢和辞典, 東京, 1981.
- [L.H.Y.] M.Lewicki : La Langue Mongole des Transcriptions Chinoises du XIVE Siècle. Le Houa-yi yi-yu de 1389.
- [L.M.E.] F.D.Lessing : Mongolian-English Dictionary, Berkley and Los-Angels, 1960.
- [L.N.V.I.] L.Ligeti : Notes sur le vocabulaire mongol d'Istanboul, Acta Orientalia Hungarica, Vol. XVI, 1963.
- [L.S.H.] L.Ligeti : Secrete History of Mongols. (村上教授より借用のゼロックス・コピー本)

- [L.H.S.] L.Ligeti : Histoire Secrète des Mongols, Akademiai Kiadó, Budapest, 1971.
- [L.V.I.] L.Ligeti : Un vocabulaire mongol d'Istanbul, Acta Orientalia Hungarica, Vol. XIV, 1962.
- [M.D.O.] A.Mostaert : Dictionnaire Ordos, New York. London, 1968, 1968.
- [M.Q.P.] A.Mostaert : Sur Quelques Passages de L'histoire Secrète des Mongols, Cambridge, Massachusets, 1953.
- [O.M.X.] 小沢重男 : 現代モンゴル語辞典, 東京, 1983.
- [P.H.S.] P.Pelliot : Histoire Secrète des Mongols, Paris, 1949.
- [P.M.L.] N.Poppe : Das mongolische Sprachmaterial einer Leidener Handschrift, Известия Академии Наук СССР. 1927-8.
- [P.P.S.] N.Poppe : The Mongolian Monuments in Hp'ags-pa Script, Second Edition translated and edited by J.R.Krueger, Wiesbaden. 1957.
- [P.G.W.M.] N.Poppe : Grammar of Written Mongolian. Wiesbaden, 1954.
- [R.I.S.H.] I. de Rachewilz : Index to the Secret History of the Mongols, Bloomington, 1972.
- [R.K.W.] G.J.Ramstedt : Kalmückisches Wörterbuch, Helsinki, 1935.
- [R.S.H.] I.de.Rachewilts : The Secret History of the Mongols, Papers on Far Eastern History 4~31, 1971~1985 (巻一から巻十二まで全巻の訳註).
- [S.M.D.M.] A. de Smedt et A. Mostaert : Dictionnaire-Monguor-Français. Peip'ing, 1933.
- [Š.M.T.] Šačja : Monggul üsüg-ün dürim-ün toli bičig, (内蒙古人民出版社), 北京, 1960.
- [T.K.J.] 藤堂明保 : 学研漢和大辞典, 東京, 1981.
- [T.M.E.J.] D.Tömörtogoo : 現代蒙英日辞典(小沢・蓮見訳), 東京, 1979.
- [T.M.G.T.] A. Temir : Moğolların gizli tarihi, Ankara, 1948.
- [U.S.H.] Urgunge Onon; The History and the Life of Chinggis Khan, LIEDEN, NEW YORK, KOBENHAVEN, KÖLN. 1990.
- [Д.Н.Т.] Ц.Дамдинсүрэн : Монголын нууц товчоо, Улаанбаатар, 1976.
- [Д.Т.] В.М.Наделяев, Д.М.Насилов, Э.Р.Тенишев, А.М.Щербак : Древнетюурский словарь, Ленинград, 1969.
- [Да.Н.Т.] Т.Дашцэдэн : Монголын нууц товчоо, Улаанбаатар, 1985.
- [Г.М.Р.] К.Ө.Голстунский : Монгольско-русский словарь, С-Петербургъ, 1893
- [К.С.С.] С.А.Козин : Сокровенное сказание, монгольская хроника 1240г.под названием Mongγol-un Niγuča Tobčiyau, Юань Чо Би Ши, монгольский обьденный изборник, том I, Москва-Ленинград, 1941.
- [Л.М.Р.] Лувсандэндэв : Монгольско-русский словарь, Москва, 1957.
- [Л.М.Х.] Ш.Лувсанвандан : Орчин цагийн монгол хэлний зүй, Улаанбаатар, 1967.
- [Л.М.Б.] Ш.Лувсанвандан : Орчин цагийн монгол хэлний бүтэц, Улаанбаатар, 1968.
- [П.М.А.] Н.Н.Поппе : Монгольский словарь, Мукалдимат ал-Адаб, Часть I — II, Москва-Ленинград, 1938.
- [П.Н.Т.] Н.Пэрлээ : Нууц товчоонд гарлаг газар усны зарим нэрийг хайж олсон нь, Улаанбаатар, 1968.
- [Р.М.Б.] Б.Ринчен : Монгол бичгийн хэлний зүй, I~IV. Улаанбаатар, 1964~67.
- [Р.Т.Н.] В.В.Радловъ : Опытъ словаря тюркскихъ наречій, С-Петербургъ, 1893-1911.
- [Ц.М.Х.] Я.Цэвэл : Монгол хэлний товч тайлбар толь, Улаанбаатар, 1966.
- [Ч.Б.Р.] К.М.Черемисов : Бурятско-русский словарь, Москва, 1973.
- [那・実] 那珂通世 : 成吉思汗実録, 東京, 旧版, 1907, 新版, 1943.
- [小・祕] 小林高四郎 : 蒙古の秘史, 東京, 1941.
- [白・音・祕] 白鳥庫吉 : 蒙文音訳元朝秘史, 東京, 1943.
- [村・祕] 村上正二 : モンゴル秘史1~3, 東京, 1970~76.
- [道・祕] 道潤梯步 : 蒙古秘史, 呼和浩特, 1979.
- [札・蒙・新] 札奇斯欽 : 蒙古秘史新譯並註釈, 台北, 1979.
- [内・蒙・漢] 内蒙古大学蒙古語文研究室編 : 蒙漢辞典, 呼和浩特, 1976.
- [内・祕・校] 額爾登泰, 烏云達賚 : 蒙古秘史, 校勘本, 呼和浩特, 1980.
- [蒙・祕・選] 額爾登泰, 烏云達賚, 阿薩拉图 : 《蒙古秘史》語彙選釈, 呼和浩特, 1980.
- [花・都・祕] 花賽, 都嘎尔札布 : 《蒙古秘史》校勘本, 呼倫貝尔, 1984.
- [Ma.N.T.] Mangsang : Monggul-un niγuča tobčiyau. 呼和浩特, 1985.
- [蒙・分] 蒙文分類辞典, 新版, 呼和浩特, 1978.
- [土・漢] 土漢对照詞彙, 互助土族自治県, 1982.
- [布・東] 布和等編 : 東鄉語詞彙, 呼和浩特, 1982.
- [恩・達] 恩和巴圖 : 達漢小詞典, 呼和浩特, 1983.
- [恩・達・詞] 恩和巴圖等編 : 達斡爾語詞彙, 呼和浩特, 1984.

## 10 略語表

- 〔哈・土・詞〕 哈斯巴特尔等編：土族語詞彙，呼和浩特，1985。  
〔陳・保・詞〕 陳乃雄等編：保安語詞彙，呼和浩特，1985。  
〔保・裕・詞〕 保朝魯等編：東部裕固語詞彙，呼和浩特，1984。  
〔武・巴・詞〕 武達等編：巴尔虎土語詞彙，呼和浩特，1983。  
(bur.)ブリヤート方言 (cha.)チャハル方言 (dag.)ダウール方言  
(kalm.)カルムク方言 (khal.)ハルハ方言 (mo.)蒙古文語  
(mid.mo.)中世モンゴル語 (mogh.)モゴール方言 (mong.)モンゴオール方言  
(ord.)オールドス方言 (pao.)保安方言 (tung.)東郷方言 (yog.)東部裕固方言  
(paks.)パクバ蒙古語 (華甲・乙・丙)華夷訳語 甲種本，乙種本，丙種本  
(三合)三合便覧 (廬)廬龍塞略 (至元)至元訳語  
(武)武備志 (蒙總)蒙文總彙

なお，その他の参考文献については，本文中に，随時註記した。

## 目次

「はしがき」に代えて……………	1
凡例……………	3
略語表……………	7
元朝秘史蒙古語文法講義	
第一部 動詞論	
第一講 動詞の終止形〔I〕……………	3
第二講 動詞の終止形〔II〕……………	79
第三講 動詞の形動詞形……………	116
第四講 動詞の副動詞形〔I〕……………	171
第五講 動詞の副動詞形〔II〕……………	218
付録 再考すべき若干の章句……………	273
元朝秘史蒙古語辞典……………	281
元朝秘史全訳語句・事項総索引……………	571
あとがき……………	1

# 第一 部

(動詞論)

## 第一部 動詞論

### 第一講 動詞の終止形〔I〕

蒙古語の動詞は、その職能の点から見て、終止形、形動詞形、副動詞形の三範疇に分けて記述するのが適切である。元朝秘史蒙古語も、勿論、この例に洩れない。これらの諸形は、殆ど総て、動詞語幹に接尾される語尾によって表現される。それ故、蒙古語の動詞の記述は、これら諸活用語尾の記述にあてられることになる。

〔I〕終止形。終止形は、文を終止させる職能をもつ。終止形語尾は、時制を表示する敘時語尾群〈A〉と、命令・希望・懸念などを表示する敘想語尾群〈B〉との二群に分れる。以下、〈A〉語尾群と〈B〉語尾群とに分けて、実例を以て例示する。

1. 〈A〉語尾群。以下の諸語尾が〈A〉に属する時制語尾である。

- (a)  $-mu^2$ ,  $-mu\dot{i}^2$ ,  $(-mi)$
- (b)  $-yu^2$ ,  $(-yu\dot{i}^2)$ ,  $-yi$
- (c)  $-u^2$ ,  $-u\dot{i}^2$ ,  $-i$ ;  $-a\dot{i}^2$
- (d)  $-ba^2$ ,  $-ba\dot{i}^2$ ,  $-bi$
- (e)  $-ju'u^2$ ,  $-ju'u\dot{i}^2$ ,  $-ji'ai^2 \sim -jigi$
- (f)  $-la'a^2$ ,  $-la'a\dot{i}^2$ ;  $-lu'a^2$ ,  $-lu'a\dot{i}^2$ ,  $-ligi \sim -liyi$
- (g)  $-a^2$ ,  $-a\dot{i}^2$

この〔A〕群の諸語尾の中に、我々は、「秘史蒙古語」にのみ存在する大きな特徴を見ることが出来る。それは、男性単数形、女性単数形、及び(男・女)複数形という、性・数による語尾の使い分けである。その特徴が最も顕著に見

てとれるのは (d), (e), (f) の諸語尾においてであるが, (b), (c) においても原則的に, 上の特徴は読みとれる。ただ (a) と (g) においては, 女性形として期待される -mi と -'i は発見されない。以下, 順を追って [A] 語尾群の用例を吟味する。

(a) -mu<sup>2</sup>, -mui<sup>2</sup>, (-mi)

<1> § 15 (一 9 四~ 9 七) 朶奔篋兒干 牙温 古温 赤 客延
ya'un kü'un čī keyēn
フブン・メルゲン “如何なる 人ぞ 故” と

阿撒中忽阿速 帖舌列 古温 鳴詰列舌論 必馬阿里黑伯牙兀歹 牙苔周
asagu'āsu tere kü'un ügülerün bi Ma'ālic=baya'ūđaj yadaju
間おは かの 人 言うに “我 マフリグ・バヤウダイなり, 困乏して

近歩木 帖舌列 戈舌劣額速 訥 米(中)合 納察 納苔幹亮……客主兀 (1)
yabumu tere gōrō'ēsün-ü miqan-ača nada ög……kējū'ū
あり, その かもしか の 米 を 我に 与えよ……”と云えり。

<2> § 171 (六 7 六~ 7 七) 額捏 客列 亦舌列兀魯額 成吉思中合罕
ene kele ire'ūlü'ed Činggis qahān
この 言を 来さしめて チングス 可汗の

鳴詰列舌論 兀舌魯兀敦 主舌児扯歹 額賓 赤 牙兀 客額木 赤馬宜
ügülerün Uru'ūd-un Jürčedej ebin čī ya'ū ke'emū čimayī
言うに “ウルウド族の デュルチェディ 伯父 汝は 何と 言う, 汝を

莽来刺牙 客額罷 (2)
manglajlaya ke'ēbe
先鋒となさん” と云えり。

<3> § 101 (二 46 六~ 46 九) 別勒古台因 額客宜 孫都刺温勅都周
Belgütej-yin eke-yi sundula'ū(n)ldužu
人名の 母行 教盤騎着
ベルゲテイの 母 を あい乗りさせて

中豁牙兒 闊揚 亦訥 扯兒別格勅者温勅周 中合蒼舌刺周 古児抽 亦舌列額(楊)
qoyar kōd inu čerbegelje'ū(n)ljü qadaraju kürčü ire'ed
二本の 足を ←彼女の ぶらぶら垂らせ 騎走し 到り 来て

額捏 帖児堅 朶脱舌刺 牙温 帖額周 阿木 客額罷 中豁阿黒臣 額篋堅
ene tergen dотора ya'un te'ējū amu ke'ēbe Go'ācčin emegen
“この 車の 中に 何 つみて ある” と云えり。 ゴアクチン 老婆の

鳴詰列舌論 翁中合孫 帖額周 阿木 客額畢 (3)
ügülerün ungasun te'ējū amu ke'ēbi.
言うに “羊毛 つみて あり” と云えり。

<4> § 77 (二 9 九~ 10 一) 泰亦赤兀惕阿中合迭兀因 中合失温
Tajyiči'ūd aqa de'ū-yin gaši'un
種名 兄弟的 舌
“タイチウド 兄弟(から)の 苦しみか

倒兀孫牙丹 哈赤客捏 阿不舌蘭 赤苔中忽訥 客額周 不恢突児
daū'usun yadan hači ken-e aburan čidaqun-ū ke'ējū būkūj-dür
受 不得 警 誰行 報 能麼 説着 有的時
終りかね, うらみ 誰もて 報じ 得べきや” と云いて ある に

納馬宜也勤 你親訥 速舌里木孫 阿馬訥中合中合孫 孛勤中合梅 塔 (4)
namayi yēkin nidün-ü surimusun aman-u qacasun bolgamuī ta.
将我 為甚 眼的 毛 口的 梗 做有 恁
“我を 如何そ 目の まつ毛, 口の とげ となすや 汝等。”

<5> § 170 (六 3 三~ 3 五) 札木中合 鳴詰列舌論 田迭 兀舌魯兀惕
Jamuqa ügülerün tende Uru'ūd
人名 説 那裏 種
チャムカの 言うに “そこに ウルウド,

忙中忽傷 客延 亦兒堅 亦訥備 帖迭 亦兒堅 亦訥 中合 忽勒都梅者  
 種 慶道 百始 他的有 那 百姓 他的 斃殺 有  
 Mangcūd keyēn irgen inu būi, tede irgen inu qadquldumui-je. (5)  
 マングト と云う 人衆 ←彼のあり、 彼等 人衆は ←彼の (よく) 戦い合うぞ

<6> § 199 (八10八~11一) 必蒼泥 額赤捏 別兒 李額速 亦列  
 俺 行 背丸 也 有呵 対面  
 bidan-i ečine ber bö'ēsü ile  
 “我等を 影に あり て も 面前の

篋凶 中豁羅別兒 李額速 幹亦中刺 篋凶 薛乞周 迓步阿速 迭額舌列  
 般 遠 也 有呵 近 般 想 着 行 呵 上  
 metü qola ber bö'ēsü oyira metü sedkijü yabu'asu de'ere  
 如く 遠 く に ありても 近くが 如く 想 い 行かば 上

騰格理迭 別兒 亦協額克迭梅者 塔 客延 札兒黑 李勒罷 (6)  
 天 行 也 被護助 有也者 您 慶道 聖旨 做了  
 tenggeri-de ber ihe'ēgdemüi-je ta keyēn jarlic bolba.  
 天 に ぞ 加護さる べし 汝等” と 勅 せり。

<7> § 166 (五40五~40九) 札木中合 兀勒斤鳴詰列論 帖木真 安荅  
 人名 讚 說 名 契交  
 Jamuqa ulgin ügülerün Temüjin anda  
 ジャムカ 議して言うに “テムジン 盟友

米訥 乃馬訥 塔揚中罕突兒 客列禿 額勒赤禿 備由 阿蠻亦訥  
 我的 種 的 人名 行 話 有的 使臣有的 有 口 他的  
 minu Najman-u Tayang qan-dur keletü elčitü büyü, aman inu  
 ←わが ナイマン族の タヤン 汗 に 通ぜる 使者もちて あり、 口は ←彼の

額赤格可兀 客額周 阿木 阿不舌里 亦訥 幹額舌列 備由 亦帖格主兀  
 父 子 說着 有 德性 他的 男 有 倚仗 着  
 ečige kō'ū ke'ējü amu aburi inu ö'ere büyü, itegejü'ü  
 「父 子」 と云いて あり、 性は ← 彼の 異なりて あり、 信じてか

阿梅 塔 額薛 撻迭額速 塔納 牙兀 李勒中忽 (7)  
 有 您 不曾 撫 先 呵 您行 如何 中  
 amui ta, ese nende'ēsü tan-a ya'ū bolqu  
 ある 汝等、 急襲 せざれば 汝等に 何が 起らむ”

<1> の yadaju yabumu は《困乏して(困勞して)歩いている》と直訳できる語句である。動詞語幹 yada-は《疲勞する、疲れはてる》を意味するが、《～し難い、～しかねる》の意にも屢々用いられる動詞である。yabu-は一般に《行く》と解される語幹であるが、《歩いて進む》が原義で、こゝでも“私、マアリグ・バヤウダイは疲れはてて歩いています”を表わすのが yadaju yabumu である。この -mu は、この例から知られるように、《現に行なわれている動作——動詞の表わす意義は大きく分けて動作(行動)・状態・存在を表示するものと定義しうるが、特に必要のない場合は、これら三者を「動作」によって代表させる。以下これに倣う——》を表示する。動作の主体は bi Ma'ālic=baya'ūдай という一人の男性である。序いでながら附言すれば、Ma'ālic は不詳の語であるが、baya'ūдай の語幹の baya-は実詞 bayan 《富んだ、裕福な》を意味する語であるから、baya'ūдай——(ū)дай は「氏族; 部族」を意味する接辞——Ma'ālic=baya'ūдай という個有名は《困窮者》のイメージから遠い。この Ma'ālic=baya'ūдай が“yadaju yabumu”というのは、何か特別な事情を意味しているのかも知れぬ。

<2> の čī ya'ū ke'emü の -mü も《何と云う》の主体は čī 《汝》で、この čī は勿論、単数の男性である。この場合の《何と云う》の《云う》は厳密には《これから言》うのであるからテンスとしては未来に属する動作に対して用いられている。-mu<sup>2</sup> は——mui<sup>2</sup> も——この様に、未来の動作に対しても用いられる。

<3> の ya'ūn te'ējü amu と unggasun te'ējü amu は《何をつんであるか》、《羊毛をつんである》とも読めないこともないが、むしろ日本語の《何がつんであるか》、《羊毛がつんである》に解する方がよいと思う。前者の如く解するとすれば、ya'ūn, unggasun でなく ya'ū, unggasu の方が秘史蒙古語においても希ましいと思われる(現代モンゴル語なら、この様な場合には、必ず юу тээж байна (вэ)? унгас тээж байна となる)。amu はこの場合、助動詞であるが、《現につんである》状態、又は《現につまれている存在》を表



8 元朝秘史蒙古語文法講義

わしている。

〈4〉, 〈5〉, 〈6〉は  $-mui^2$  の文例である。〈4〉の *bolgamui ta* ((~と) 為す (や), 汝等), 〈5〉の *qadquldumui-je* (戦い合うぞ), 〈6〉 *ihe'egdemui-je ta* (加護さるべしぞ, 汝等) の ((~と) 為す), (戦い合う), (加護される) 主体が、総て複数の主体である——*ta* (汝等), *tede irgen* (彼等人衆)——ことに注目しなければならない。〈4〉の *bolgamui* の  $-mui$  は“汝等が我を〈目のまつ毛, 口中の刺〉としている”現状を表わし, 〈5〉の *qadquldumui-je* は“よく戦い合う”という事実が一般認識 (というと少し大袈裟だが) として表現され, 〈6〉の *ihe'egdemui* (加護さるべし) は未来に属する動作である。なお 〈7〉は a-(ある; いる) における *amu* の単数性, *amui* の複数性を明示する証例として示した。

以上の事実から、男性単数形  $-mu^2$ , 複数形 (複数では原則として男性・女性の区別はない)  $-mui^2$  の区別の存在が認知される。

$-mu(i)^2$ —— $mu^2$  と  $-mui^2$  の両方を示す方法として  $-mu(i)^2$  と表記する。他の諸語尾においても同様。例えば  $-ba(i)^2$  は  $-ba^2$  と  $bai^2$  とを合わせ表示する——の意義素を《ある動作が現時点で遂行されつゝあり, 又将来においても遂行される》と指定することができる。又、この語尾は、《ある動作に対する、現時点での一般的認識》をも表現すると言ふことが出来よう。

他の諸語尾との比較から、 $-mu(i)^2$  にも女性単数形としての  $*-mi$  が期待されるが、今までのところ、「秘史蒙古語」以外の文献にも、この形は実証されない。その唯一の例外は、「ライデン語彙<sup>(1)</sup>」における *qarqami* の  $-mi$  である。

ポッペ博士は、この語に *qarqami* (?) の如く疑問符を附して  $-mi$  に疑問を投げかけられ、

Vielleicht Praes. vom Verbum *qarqa-*, vgl. mo. *γарγa-* 'herausgehen lassen'

とされている。動詞語幹 *garca-* 《出す》に  $-mi$  が接尾されていることは明かであるから、この  $-mi$  は、当時すでに失なわれていた  $*-mi$  の名残りかも知

れぬ。他の実例が切望される。

なお、秘史全巻に互っての  $-mu^2$  の実例は66例、 $-mui^2$  の実例は63例で、ほぼ互角というところ。これら全例を通して、上述の  $-mu^2$  の単数男性形なることは全く疑問の余地なしと断じうるが、 $-mui^2$  の複数形なること、 $-mu^2$  の如く明晰しかねる、少なからぬ実例に逢着する。

これは、 $-i$  系語尾——筆者は  $-mui^2$ ,  $-bai^2$ ,  $-ju'ui^2$ ,  $-la'ai^2$  等々の語末に  $-i$  をもつ諸語尾を  $-i$  系語尾と呼ぶ——の総てに言い得ることであり、これについては、特に一項目を立てて後述する。

〔b〕  $-yu^2$ , ( $-yui^2$ ),  $-yi$

ポッペ博士によって deductive present 《演繹的現在》と呼ばれる、この語尾  $-yu^2$  は秘史蒙古語においては全86例を数える。しかし、その  $\frac{2}{3}$  の57例は「備由~備由」——これをヘーニッシュ氏は *buiyu*, ペリオ氏は *büyü*, コージン<sup>(2)</sup>氏は *biyu*, リゲティ氏は *büyyü*, ダンツェデン氏は *buyu* とそれぞれ転写するが、筆者は *büyü* と転写し、結果的にペリオ氏のそれと一致する。その理由については註7を参照——であり、その他は18語幹に接尾された29例であるから、 $-mu(i)^2$  に比すれば、その使用範囲は限られていると言えよう。以下に実例を挙げる。

〈1〉 § 188 (七五五~五七) 的克撒中合命 涅坤 兀速納 王中罕  
地名 的 水名 水行 人名  
 Didig=saqal-un Nekün=usun-a Ong qan  
デイディク・サカル の ネクン 川 に オン 汗は

杭中合周 幹舌羅中忽 孛命 乃馬訥 中合舌刺兀勤 中豁舌里速別赤 突舌児  
渴着 入 傲 種名的 哨望的 人名 行  
 hanggaju oroqu bolun Najman-u qara'ül Qori=sübeči-dür  
渴して 到達することになり ナイマン族の 斥候, コリ・スベチ 兵

10 元朝秘史蒙古語文法講義

幹<sup>子</sup>羅<sup>主</sup>兀<sup>必</sup> 王<sup>中</sup>罕<sup>脩</sup>由<sup>客</sup>額<sup>速</sup> 兀<sup>祿</sup> 塔<sup>紐</sup> 額<sup>薛</sup> 不<sup>失</sup>舌<sup>列</sup>周<sup>田</sup>迭  
 入<sup>了</sup>來<sup>我</sup> 人<sup>名</sup> 有<sup>說</sup>呵<sup>不</sup> 認<sup>不</sup> 曾<sup>信</sup> 者<sup>那</sup> 裏<sup>裏</sup>  
 oruju'ū bi Ong qan büyü ke'ēsü ülü tanin ese büširejü tende  
 入<sup>った</sup>。 “我<sup>オン</sup> 汗<sup>なり</sup>” と云<sup>わ</sup>ば (彼<sup>は</sup>) 識<sup>ら</sup>ず 信<sup>ぜ</sup>ずして そこに

阿<sup>刺</sup>主<sup>兀</sup> (8)  
 殺<sup>了</sup>來<sup>我</sup>  
 alaju'ū.  
 殺<sup>せ</sup>り。

<2> § 147 (四50二~50六) 成<sup>吉</sup>思<sup>中</sup>合<sup>罕</sup> 鳴<sup>訥</sup>列<sup>論</sup> 歹<sup>亦</sup>孫<sup>迓</sup>步<sup>黑</sup>三  
 太<sup>祖</sup> 皇<sup>帝</sup> 說<sup>說</sup> 敵<sup>敵</sup> 行<sup>了</sup>的<sup>的</sup>  
 Činggis qahān ügüleriŋ daiyisun yabugsan  
 チンギス 可<sup>汗</sup>の 言<sup>う</sup>に “敵<sup>た</sup>りて” 行<sup>け</sup>る

古<sup>温</sup> 阿<sup>刺</sup>黑<sup>撒</sup>你<sup>顏</sup> 歹<sup>亦</sup>速<sup>兒</sup>中<sup>合</sup>黑<sup>撒</sup> 你<sup>顏</sup> 別<sup>耶</sup>延<sup>你</sup>兀<sup>周</sup> 客<sup>列</sup>遣<sup>遣</sup>  
 人<sup>殺</sup>了<sup>的</sup> 自<sup>的</sup>行<sup>反</sup>做<sup>了</sup>的<sup>的</sup> 自<sup>的</sup>行<sup>身</sup>自<sup>的</sup>行<sup>着</sup> 歲<sup>着</sup> 話<sup>自</sup>的<sup>行</sup>  
 kü'ün alacsan-iyān daiyisurqacsan-iyān beye-yēn ni'ūju kele-bēn  
 人<sup>は</sup> 殺<sup>せ</sup>る<sup>を</sup>を(己<sup>が</sup>), 敵<sup>対</sup>せ<sup>る</sup>を(己<sup>が</sup>) 自<sup>ら</sup> 隠<sup>し</sup>, 言<sup>を</sup>を(己<sup>が</sup>)

不<sup>察</sup>周<sup>阿</sup>由<sup>由</sup> 額<sup>捏</sup>不<sup>舌</sup>倫<sup>客</sup>額<sup>速</sup> 門<sup>荅</sup> 阿<sup>刺</sup>黑<sup>撒</sup>你<sup>顏</sup>  
 諱<sup>着</sup> 怕<sup>有</sup> 這<sup>箇</sup>呵<sup>說</sup>呵<sup>却</sup> 殺<sup>了</sup>的<sup>自</sup>的<sup>行</sup>  
 bučaju ayu(yu), ene bürün ke'ēsü munda alacsan-iyān  
 秘<sup>して</sup> 恐<sup>る</sup>もの<sup>なり</sup>, 此<sup>奴</sup> は と云<sup>わ</sup>ば 逆<sup>に</sup> 殺<sup>せ</sup>る<sup>を</sup>を(己<sup>が</sup>),

歹<sup>亦</sup>速<sup>兒</sup>中<sup>合</sup>黑<sup>撒</sup> 你<sup>顏</sup> 兀<sup>祿</sup> 不<sup>察</sup>(你) 門<sup>荅</sup> 只<sup>安</sup> 備<sup>由</sup> (9)  
 反<sup>做</sup>了<sup>的</sup> 自<sup>的</sup>行<sup>不</sup> 隱<sup>諱</sup> 却<sup>却</sup> 告<sup>告</sup> 有<sup>有</sup>  
 daiyisurqacsan-iyān ülü buča(n) munda j'ān büyü.  
 敵<sup>対</sup>せ<sup>る</sup>を(己<sup>が</sup>) 秘<sup>せ</sup>ず, 逆<sup>に</sup> 告<sup>げ</sup>て あり。”

<3> § 65 (一45七~45九) 訥<sup>温</sup>可<sup>兀</sup>楊<sup>馬</sup>訥<sup>嫩</sup>秃<sup>黑</sup> 中<sup>合</sup>舌<sup>刺</sup>由<sup>由</sup>  
 兒<sup>兒</sup> 孩<sup>兒</sup> 俺<sup>的</sup> 營<sup>盤</sup> 看<sup>看</sup> 有<sup>有</sup>  
 “nu'ün kö'üd manu nuntug qarayu,  
 “男<sup>の</sup> 子<sup>は</sup> ← 我<sup>等</sup>の 居<sup>る</sup>地<sup>を</sup> 守<sup>る</sup>もの<sup>なり</sup>,”

幹<sup>勤</sup>可<sup>温</sup> 馬<sup>訥</sup> 汪<sup>格</sup>兀<sup>者</sup>克<sup>迭</sup>由<sup>也</sup>速<sup>該</sup>中<sup>忽</sup>荅<sup>格</sup>兒<sup>圖</sup>兒<sup>米</sup>訥<sup>幹</sup>都<sup>牙</sup>  
 女<sup>孩</sup>兒<sup>俺</sup>的<sup>顔</sup>色<sup>看</sup>有<sup>名</sup> 親<sup>家</sup> 家<sup>裏</sup> 我<sup>的</sup> 去<sup>來</sup>  
 ökin kö'ün manu öngge üjegdeyü, Yesügei quda ger-tür minu oduya,  
 女<sup>の</sup> 子<sup>は</sup> ← 我<sup>等</sup>の 顔<sup>貌</sup>を<sup>見</sup>らる<sup>る</sup>なり, イエスゲイ 親<sup>族</sup>よ 包<sup>に</sup> ← 我<sup>が</sup> 行<sup>か</sup>む,

幹<sup>勤</sup>米<sup>訥</sup>兀<sup>出</sup>兀<sup>堅</sup>備<sup>由</sup> 中<sup>忽</sup>荅<sup>兀</sup>者<sup>禿</sup>該<sup>客</sup>額<sup>周</sup>……。(10)  
 女<sup>子</sup> 我<sup>的</sup> 小<sup>有</sup> 親<sup>家</sup> 看<sup>看</sup> 說<sup>着</sup>  
 ökin minu üčü'ügen büyü, quda üjetügei ke'ējü…….  
 娘 <sup>← 我</sup> が お<sup>さ</sup>なく ある<sup>なり</sup>, 親<sup>族</sup>よご<sup>ら</sup>んあ<sup>れ</sup>” と云<sup>い</sup>て……。

<4> § 188 (七6十~7二) 帖<sup>舌</sup>列<sup>兀</sup>格<sup>突</sup>兀<sup>兒</sup>額<sup>篋</sup>亦<sup>訥</sup>鳴<sup>訥</sup>列<sup>論</sup>舌<sup>論</sup>  
 那<sup>那</sup> 言<sup>語</sup>裏<sup>裏</sup> 妻<sup>妻</sup> 他<sup>他</sup>的<sup>的</sup> 說<sup>說</sup>  
 tere üge-dür eme inu ügüleriŋ  
 その 言<sup>に</sup> 妻<sup>の</sup> ← 彼<sup>の</sup> 言<sup>う</sup>に

額<sup>篋</sup>古<sup>温</sup> 那<sup>中</sup>孩<sup>孩</sup> 你<sup>兀</sup>舌<sup>兒</sup>台<sup>客</sup>額<sup>克</sup>迭<sup>宜</sup>者<sup>必</sup> 阿<sup>勒</sup>壇<sup>蓋</sup>討<sup>兀</sup> 別<sup>舌</sup>兒<sup>兒</sup>  
 婦<sup>人</sup> 的<sup>的</sup> 面<sup>皮</sup>有<sup>的</sup> 被<sup>被</sup>說<sup>也</sup> 者<sup>者</sup> 我<sup>我</sup> 金<sup>金</sup> 盃<sup>盃</sup> 也<sup>也</sup>  
 eme kü'ün noqaj ni'ürtaï ke'эгdeyi-je bi, altan jantaï'ü ber  
 “女<sup>人</sup>は 犬<sup>(の)</sup>如<sup>き</sup> 顔<sup>あり</sup>” と言<sup>わ</sup>る<sup>る</sup>なり 我<sup>, 黄金</sup>の 盃<sup>を</sup>ば

亦<sup>訥</sup> 幹<sup>克</sup> 兀<sup>孫</sup>別<sup>舌</sup>兒<sup>兀</sup>楊<sup>中</sup>忽<sup>周</sup> 兀<sup>兀</sup>禿<sup>中</sup>孩<sup>客</sup>額<sup>主</sup>為<sup>為</sup>。(11)  
 他<sup>的</sup> 与<sup>与</sup> 水<sup>水</sup> 也<sup>也</sup> 汲<sup>汲</sup> 着<sup>着</sup> 飲<sup>飲</sup> 者<sup>者</sup> 說<sup>了</sup>有<sup>有</sup>  
 inu ög, usun ber udquju u'ütucaï ke'ējü'üj.  
 ← 彼<sup>の</sup> 与<sup>え</sup>よ, 水<sup>を</sup>ば 汲<sup>み</sup>て 飲<sup>ま</sup>めん” と云<sup>え</sup>り,

<5> § 55 (一35五~35九) 田<sup>迭</sup>訶<sup>額</sup>命<sup>兀</sup>真<sup>鳴</sup>訥<sup>列</sup>舌<sup>論</sup> 帖<sup>迭</sup>中<sup>迭</sup>  
 那<sup>裏</sup> 婦<sup>人</sup> 名<sup>名</sup> 說<sup>說</sup> 那<sup>那</sup>  
 tende Hö'elün=üjin ügüleriŋ tede  
 そこに ホエルン・ウヂンの 言<sup>う</sup>に “彼<sup>等</sup>

忽<sup>兒</sup>班<sup>合</sup>舌<sup>刺</sup>泥<sup>兀</sup>中<sup>合</sup>巴<sup>兀</sup>赤<sup>赤</sup>舌<sup>赤</sup>来<sup>赤</sup>舌<sup>赤</sup>来<sup>阿</sup>察<sup>不</sup>速<sup>楊</sup>備<sup>備</sup>  
 三<sup>箇</sup> 人<sup>行</sup> 覺<sup>覺</sup> 麼<sup>麼</sup> 你<sup>你</sup> 顔<sup>色</sup> 顔<sup>色</sup> 行<sup>行</sup> 不<sup>不</sup> 是<sup>是</sup> 有<sup>有</sup>  
 gurban haran-i uqaba'ü čï, čïraï čïraï-āča busud büj,  
 三<sup>人</sup>を 覺<sup>れ</sup>るか 汝, 顔<sup>色</sup> 顔<sup>色</sup> から 異<sup>り</sup>てあり,

阿<sup>民</sup> 圖<sup>兒</sup> 赤<sup>訥</sup> 古<sup>兒</sup>恢<sup>赤</sup>来<sup>壇</sup>備<sup>備</sup> 阿<sup>民</sup> 額<sup>列</sup> 赤<sup>訥</sup> 孛<sup>額</sup>速<sup>完</sup>勒<sup>只</sup>格<sup>格</sup>  
 性<sup>命</sup> 裏<sup>裏</sup> 你<sup>的</sup> 到<sup>到</sup>的<sup>的</sup> 顔<sup>色</sup>每<sup>每</sup>有<sup>有</sup> 性<sup>命</sup> 但<sup>但</sup> 你<sup>的</sup> 有<sup>有</sup> 呵<sup>呵</sup> 車<sup>車</sup> 前<sup>前</sup>  
 amin-tür čïnu kürküj čïraïtan büj, amin ele čïnu bö'ēsü öljige  
 命<sup>に</sup> ← 汝<sup>の</sup> 到<sup>る</sup> 顔<sup>も</sup>ちてあり, 命<sup>だ</sup>に ← 汝<sup>の</sup> あらば 車<sup>の</sup>前<sup>室</sup>

土<sup>屯</sup> 幹<sup>乞</sup>楊<sup>中</sup>合<sup>舌</sup>刺<sup>兀</sup>土<sup>屯</sup> 中<sup>合</sup>禿<sup>備</sup> 阿<sup>民</sup> 額<sup>列</sup> 赤<sup>訥</sup> 孛<sup>額</sup>速<sup>速</sup>  
 每<sup>每</sup> 女<sup>子</sup>每<sup>每</sup> 黑<sup>車</sup> 每<sup>每</sup> 婦<sup>婦</sup>人<sup>有</sup> 性<sup>性</sup>命<sup>命</sup> 但<sup>但</sup> 你<sup>的</sup> 有<sup>有</sup> 呵<sup>呵</sup>  
 tutum ökid qara ü tutum qatud büj, amin ele čïnu bö'ēsü  
 ごと<sup>に</sup> 乙<sup>女</sup>達, 黒<sup>車</sup>(の<sup>車</sup>) ごと<sup>に</sup> 女<sup>達</sup> あり, 命<sup>だ</sup>に ← 汝<sup>の</sup> あらば

幹<sub>女子</sub>乞<sub>婦人</sub>中<sub>得</sub>合<sub>也者</sub>秃<sub>你</sub> 幹魯亦者 赤……。(12)  
 öki qatu oluyi-je čī…….  
 乙女・婦女を 得るものなり 汝……”。

以上の5例から  $-yu^2$  が男性単数形,  $-yi$  が女性単数形なることが知られる。その意義素は《ある動作が従前からの知識によって, 現に行なわれる》と措定される, 日本語では《知っての如く, 知られているように~する, ~するものだ》と訳せば当る。

〈1〉の bi Ong qan büyü は《知って通り, 我は王汗である》の意で, 王汗は当時ケレイド族の大王として草原社会の覇者であったことからすれば王汗の bi Ong qan büyü と発した büyü は  $-yü$  の意をよく示している。

〈2〉の kele-bēn bučaju ayuyu も“一般的には, 敵対行動をとったことを隠し, 何も言わず恐れるものである”を意味し, bučaju ayuyu 《秘して恐る》の ayuyu はこのニュアンスをよく伝えている。

一般的常識からすれば, 当然 kele-bēn bučaju ayuyu なのだが, munda ji'an büyü 《むしろ逆に告げている》となる。この ji'an büyü の büyü は“今, 彼が現実に告げたように, 知っての通り《告げている》”という状況で用いられたものである。秘史蒙古語における bū-《ある, いる》と a-《ある, いる》との意義の相違については後述する機会があるが büyü < bū-yü は屢々用いられる形であるのに ayu < a-yu が一例も見られないのは, その意義素に帰因するものである。なお, 原文の「阿由(怕有)」を「阿由<由>」と校したのは傍訳の(怕有)を参照した処置で, 夙にヘーニッシュ氏, ラケヴィルツ氏, リゲティ氏等も ayuyu と校している。筆者の『元朝秘史全釈(下)』の p.173 では「阿由」のままになっているので「阿由<由>」と校さねばならない。又, 原文の「兀禄 不察」の「不察」をヘーニッシュ氏, コージン氏は bučaju と校し, ペリオ氏も bučaju? とし, ラケヴィルツ氏は buca[?], リゲティ氏も buca[sic] とされている。ダシツェデン氏は buča のままである。しかし, これは「不察<你> buča<n>」と校すべきものである。bučaju と校する

場合には, 上の否定辞は「額薛 ese」であって, 「兀禄 ülü」ではない。連接接合副動詞  $-ju$  を否定するのは ese であって ülü ではない。然るに, ここでは ülü buča と見えるのであるから, これは当然 ülü bučan と校さねばならない。同時接合副動詞  $-n$  を否定するのは「兀禄 ülü」である<sup>(8)</sup>。

$-yi$  は  $-yu^2$  の女性形である。文例〈4〉, 〈5〉からその事実が知られる。〈4〉の ke'egdeyi-je の主語 bi が女人であることは行文からして何の疑いもない。〈5〉の oluyi-je の主語は čiledü—Hö'elün-üjin の夫, 上の引用中には出て来てないが——であって女性ではないが, 文例から知られる通り, この文はホェルン<sup>フツ</sup>夫人の語った文そのものである。それ故, こゝに oluyu-je でなく oluyi-je が用いられたと見ることができる。この  $-yi$  は“命さえあれば, (女人は多いのだから, 一般的に考えれば) 女人は得られるものである”の意を表わすのに適切な語尾として用いられている。

複数形と目される  $*-yui^2$  は, 現在までの処, 現存の文献からは発見されない。

### (c) $-u^2$ , $-ui^2$ , $-i$ ; $-ai^2$

この  $-u^2$  系語尾——こゝでは,  $-u^2$ ,  $-ui^2$ ,  $-i$ ;  $-ai^2$  を一括してこの様に呼ぶ——も主に「秘史蒙古語」にのみ見られる特徴的語尾である。他の文献の用例を殆ど参考に出来ないので, この語尾の意義素の措定には困難を伴うが, 面白いことに動詞語幹 ayis-《現に近づきつつある》に  $-ui^2$  が附されたと認められる文語形 ayisui, ハルハ方言の айсий, オルドス方言の ās<sup>u</sup>i などの一語が現在まで残っているので, これらの表わす意味の考察が手助けになる。先ず文例を以下に示す。

〈1〉 § 172 (六11九~11十) 兀都<sub>日</sub>兒<sub>日</sub> 格格<sub>明</sub>延<sub>明</sub> 孛<sub>教</sub>勒<sub>教</sub>中<sub>着</sub>合<sub>着</sub>周<sub>着</sub> 兀<sub>看</sub>額<sub>呵</sub>速<sub>見</sub>

兀都	兒	格格	延	孛	勒	中	合	周	兀	額	速
日		明		教	教	着			看	呵	
üdür		gegeyēn		bolcaju					üje'	ēsü	
日		明る		させて					見れば		

中<sup>後</sup>裕亦納察 你<sup>一箇</sup>刊古温 阿亦速 古<sup>來有</sup>舌兒抽 亦<sup>到着</sup>列額速 李<sup>來</sup>幹<sup>呵</sup>舌兒出阿主兀(13)  
 qoyina-ča niken kü'ün ayisu, kürčü ire'ēsü Bo'örču aju'ū.  
 後より一人の人近づきつつあり、到り 来れば ボオールチュ なりき。

〈2〉 § 91 (二32一~32二) 中<sup>自後</sup>裕亦納察 合<sup>人毎</sup>舌蘭 兀<sup>陸</sup>不兒速不兒 捏<sup>驛着</sup>客周  
 qoyina-ča haran ubur subur nekejü  
 後えより人々 陸統と 追い

阿亦速 你<sup>一箇</sup>刊 察<sup>白</sup>(中)合安 秣<sup>馬有</sup>(舌)驪秃 古温 兀<sup>套馬竿</sup>兀兒中合 把<sup>拿符</sup>(舌)里周 中<sup>独自</sup>合黑察阿兒  
 ayisu, niken čaga'an moritu kü'ün u'ürga bariju gagča'ār  
 来りつつあり、一人の白 馬に乗れる人 馬捕竿をつかみて ひとり

恢亦徹周 阿亦速。(14)  
 güjyičeju ayisu.  
 趣上着 来り  
 追いつき 来つつあり。

〈3〉 § 255 (二32一~32二) 額<sup>這</sup>捏 兀<sup>言語裏</sup>格突舌兒 成<sup>太祖</sup>吉思中<sup>皇帝</sup>合罕 札<sup>聖旨</sup>(舌)兒里黑  
 ene üge-dür Činggis qahān jarlic  
 この言に チンギス 可汗 勅して

李<sup>做</sup>魯<sup>人名</sup>舌命 幹<sup>遺較每</sup>歌<sup>言語每</sup>歹 額<sup>說的</sup>亦<sup>有呵</sup>門 兀<sup>中也者</sup>格思 鳴<sup>說了</sup>詰<sup>說了</sup>列古 字<sup>說了</sup>額速 李<sup>說了</sup>魯者 客<sup>別</sup>額<sup>(15)</sup>  
 bolurun "Ögödej eyimün üges ügülekü bö'ēsü bolu-je" ke'ebe.  
 曰 "オゴデイ かかる 言を 申すこと あらば よからむぞ" と云いぬ。

〈4〉 § 265 (三2十~3三) 成<sup>太祖</sup>吉思中<sup>皇帝</sup>合罕 鳴<sup>說</sup>詰<sup>種名</sup>列古 唐<sup>百姓</sup>兀<sup>種名</sup>楊 亦<sup>百姓</sup>舌兒堅  
 Činggis qahān ügülerün "Tangüd irgen  
 チンギス 可汗の 言うに "ダングトの 人衆

必<sup>咱</sup>蒼泥 主<sup>心</sup>舌魯格 牙<sup>不能着</sup>蒼周 中<sup>回了</sup>合舌里<sup>原作</sup>罷<sup>伯</sup> 客<sup>說他的</sup>額坤 必<sup>咱每</sup>蒼 額<sup>使臣</sup>勒<sup>且</sup>臣 馬<sup>且</sup>中<sup>且</sup>合  
 bidan-i jürüge yadaju qariba ke'ekün, bida elčün maqa  
 我等を '心 憶して 帰れり' と云わむ、我等 使者を か

亦<sup>教去着</sup>列周 額<sup>使臣</sup>勒赤泥 門<sup>只</sup> 額<sup>遣</sup>捏 擲<sup>地名</sup>幹<sup>行</sup>舌兒中<sup>行</sup>合<sup>行</sup>楊塔 莎<sup>試着</sup>必<sup>言語</sup>刺周 兀<sup>其他的</sup>格 阿<sup>其他的</sup>訥  
 ileju elčün-i mun ene Čo'orqad-ta sobilaju üge anu  
 遣わし 使者の(帰れるまで) まさに この チョオールカドで 養生し 言を ←彼等の

兀<sup>省着</sup>中<sup>退呵</sup>合周 亦<sup>中也者</sup>出阿速 李<sup>說着</sup>魯者 客<sup>說着</sup>額周……。(16)  
 uqaju iču'āsu bolu-je" ke'eju…….  
 吟味して 退かば よからむぞ" と云いて……。

〈5〉 § 136 (四19六~19八) 額<sup>如今</sup>朶額 巴<sup>再</sup>撒 歹<sup>敵</sup>亦<sup>行</sup>孫突<sup>挨着</sup>舌兒 失<sup>敵</sup>中<sup>敵</sup>罕 歹<sup>敵</sup>亦<sup>敵</sup>孫  
 "edö'e basa daiyisun-dur šiqan daiyisun  
 "今 また 敵 に 近づき 敵に

木<sup>他每也</sup>楊古 李<sup>做了</sup>魯<sup>說了</sup>宜 客<sup>太祖</sup>額<sup>皇帝</sup>額<sup>種</sup>楊 成<sup>行</sup>吉思中<sup>上</sup>合罕 主<sup>馬</sup>舌兒<sup>了</sup>勤突<sup>了</sup>舌兒 秣<sup>原作</sup>(舌)驪刺罷<sup>伯</sup>  
 mud kü boluyi" ke'e'ed Činggis qahān Jürkin-dür morilaba.  
 彼等 は ならんとす" とて チンギス 可汗 デュルギン族に 出馬せり。

〈6〉 § 199 (八7八~8二) 中<sup>地的</sup>合札<sup>遠行</sup>舌命 中<sup>想着</sup>裕刺<sup>軍的</sup>宜 薛<sup>軍的</sup>楊<sup>軍的</sup>乞周 扯<sup>軍的</sup>舌里<sup>軍的</sup>昆  
 gajar-un qola-yi sedkijü čerig-ün  
 地の 遠きを 思い、 軍の

兀<sup>馬死</sup>刺阿 秃<sup>瘦</sup>舌魯埃 兀<sup>未</sup>都兀牙 中<sup>愛惜</sup>合亦<sup>您</sup>刺刺<sup>中</sup>(楊)中<sup>行</sup>渾 古<sup>行</sup>捏速<sup>行</sup>邊巴<sup>了</sup>舌刺埃  
 ula'ā turu'aj üdu'üi-e qayiraladqun künesü-bēn bara'aj  
 馬 いまだ瘦せざるに 愛惜せよ、 糧食を(已が) 終らざ

兀<sup>未</sup>都兀<sup>行</sup>(耶) 中<sup>省</sup>忽赤<sup>您</sup>阿<sup>驕</sup>楊<sup>馬</sup>中<sup>瘦</sup>渾 阿<sup>瘦</sup>黑<sup>了</sup>弱 秃<sup>了</sup>舌命<sup>了</sup>巴<sup>呵</sup>舌刺阿速 中<sup>愛</sup>合亦<sup>惜</sup>刺刺<sup>呵</sup>阿速 兀<sup>不</sup>祿  
 üdü'üi-e quči'adqun acta turun bara'āsu qayirala'āsu ülü  
 るに 節約せよ、 去勢馬 瘦せ果てなば 愛惜すとも せん

李<sup>中有</sup>魯<sup>行</sup>宜 古<sup>行</sup>捏<sup>糧</sup>孫<sup>了</sup>巴<sup>了</sup>舌<sup>了</sup>蘭<sup>了</sup>巴<sup>呵</sup>舌刺阿速 中<sup>省</sup>忽<sup>惜</sup>察<sup>呵</sup>阿速 兀<sup>不</sup>魯 李<sup>中有</sup>魯<sup>不</sup>宜。(18)  
 boluyi künesün baran bara'āsu quča'āsu ülü boluyi.  
 なし、 糧食 尽き 果てなば 節約すとも せんし。

<7> § 100 (二44十~45二) 中豁阿(黒)臣 額篋堅 鳴話列舌論 必  
 婦人名 老婦 說 我  
 Go'acčïn emegen ügülerün bi  
 ゴアクチン 老婆の 言うに "我は"

帖木只訥埃備 也客 格兒 圖兒 中豁紐 乞兒中合舌刺 亦舌列列額 格兒  
 人名 的有 大 家 裏 羊 刺 來了 家  
 Temüjin-ü-ēi yeke ger-tür qonin qirgara irele'ē ger-  
 テムジン家の者なり、 主 家に 羊(の毛)を かりに 來れり、 包

秃舌里頭 中合舌里周 阿亦石 客額畢。(19)  
 自的 行 回着 來有 說了  
 tür-iyēn qariju ayiši ke'ēbi.  
 に ←自分の 掃り 來りつつあり"と云えり。

<8> § 254 (±25二~25五) 主舌魯格捏徹 脫舌列克先 額客余延  
 心 行 生了的 母 自的 行  
 jürügen-eče töregsen eke-yüyēn  
 心臟 より 生れし 母 を(己が)

赤馬中合阿速 赤納舌兒 亦訥 者乞舌兒抽 札里舌刺兀勒魯阿速 兀祿  
 教性 呵 情 他的 冷着 教 息 呵 不  
 čimadqa'āsu činar inu jekirčü jalira'ū[1]lu'āsu ülü  
 苛まましめば 心性 ← 彼女の 冷えて 息ましめんとすれど 詮

李里 客額里迭徹 脫舌列克先 額客余延 格木舌里兀(舌)魯額速 格訥額舌兒  
 中 肚皮 行 生了的 母 自的 行 教 怨 呵 怨 悔  
 boli, ke'ēli-deče töregsen eke-yüyēn gemüri'ülü'ēsü genü'er  
 なし、 肚 より 生れし 母 を(己が) 悲しめば 悲悔 ←

亦訥 格思格額速 兀祿 李里。(20)  
 他的 消 呵 不 中  
 inu gesge'ēsü ülü boli.  
 彼の女の 融かしめんとすれど 詮 なし。

<9> § 109 (三14一~14三) 脫黒脱阿別乞宜 客卜帖額(楊) 李額帖列  
 人名 行 睡着 有間  
 Tocto'ā=beki-yi kekte'ed bö'ētele  
 トクトフ・ベキ が 睡って いる間に

古舌兒古宜 勤勳中豁沐舌漣捏 不坤 只中合臣 不離中合臣 戈舌劣兀魯臣  
 到的行 河名 河 行 有的 打魚的每 捕貂鼠的每 捕野獸的每  
 kürkü-yi Qilqu müren-ne bükün jicačïn bulugačïn gōrō'ülüčïn  
 到ることを へルコ 河 に いる 漁夫達 貂鼠取り達 獵師達

塔勒必黒撒 蒼因 阿亦石 客延 雪泥 都鄰 客連 古舌兒堅 韓出為。(21)  
 放來的 敵人 來也 麼道 夜 兼行 言語 送到 去了  
 talbigsad dayin aiši keyen söni dūlin kelen kürgen odču'ūj.  
 "放ちたる 敵 來りつつあり"とて 夜を徹して 言を 送り 行けり。

<10> § 255 (±28七~28十) 額捏 兀格突(舌)兒 察阿歹 木赤勳者周  
 這 言語 裏 人名 晒 着  
 ene üge-dür Ča'adaĵ müčiljeĵü  
 この 言 に チャーダイ 微笑して

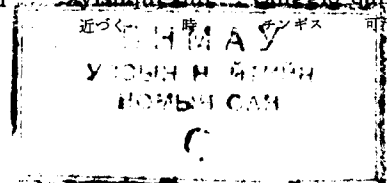
鳴話列舌命 拙赤因 古出秃宜 額舌兒迭門 中合舌里兀 兀祿 鳴話連  
 說 人名 的 氣力有的行 技能 的 回 不 說  
 ügülerün Joči-yin küčütü-yi erdem-ün qari'ū ülü ügülen,  
 言う "ヂョチの 力あるを、 技能の 返答を 言わず、

阿馬阿舌兒 阿刺黒三 阿赤阿速 兀祿 李里 兀格額舌兒 兀窟兀魯克先  
 口教 殺了的 狀 呵 不 中 言語 教 死了的  
 ama'ār alacsan ači'āsu ülü boli, üge'er ükü'ülügsen  
 口もて 殺せるは 積まんとせど 詮なし、 言葉もて 死なせしは

兀赤顏速 兀祿李里。(22)  
 剝 呵 不 中  
 übči'ēsü ülü boli.  
 剝がさんとせど 詮なし。"

<11> § 195 (七35五~35八) 納中忽中崑訥 朶舌羅納只 中豁舌兒埋 蒼阿舌鄰  
 山名 崖 的 東 辺 裙 經過  
 Naqu cun-u doronaĵi qormui da'ārin  
 ナクの懸崖の 東 麓を 経て

察乞舌兒馬兀楊 古舌兒抽 阿亦速中灰 突舌兒 成吉思中合罕訥 中合舌喇兀勳  
 地名 到着 來 的 時 太祖 皇帝的 哨望的  
 Čaqirma'ūd kürčü ayisnui-dur Činggis qahan-u qara'ül  
 チャキルマウードに 到り 近づく、時、チンギス 可汗 の 哨兵



兀者周 乃蠻 古舌兒抽 阿亦賽 客延 客連 古舌兒格額速……。(23)  
 見着 種名 到着 來也 麼道 話 送到 阿……  
 üjeju Najman kürcü ayisai keyen kelen kürge'esü…….  
 見て “ナイマン族 到り 近づきつつあり”と 言を 送らば……。

〈12〉 § 195 (七33三~33五) 帖迭 牙兀楊 幹樂中豁你楊赤那 忽勒迭周  
 那的每 甚麼每 多 羊 每 狼 趕着  
 tede ya'üd olon qonid čino hüldejü  
 “あの 何と 多くの 羊を 狼の 追いて

中豁團突舌兒 古中兒帖列 忽勒迭周 亦舌列古 箴圖 額迭 牙兀楊 哈舌關  
 圈子 裏 直到 趕着 來的 般 這的每 甚麼每 人  
 qoton-dur kürtele hüldejü irekü metü ede ya'üd haran  
 かこい に まで 追い 来る 如く、 これら 如何なる 人々

帖因 忽勒迭周 阿亦賽 客延 阿撒黑罷。(24)  
 那般 趕着 來也 麼道 問了  
 teyin hüldejü ayisai keyen asagba.  
 かく 追い 来りつつある力”と 問いぬ。

〈13〉 § 195 (七34三~34四) 斤只邊 木勒禿勒迭周 額朵額 額薛兀  
 鉄索自的行 被説着 如今 不曾麼  
 ginji-bēn mültüldejü edö'e ese'ü  
 “額を(己が) 脱されて 今 \*ザヤ

不黑撒周 阿黑撒楊 巴牙思抽 帖因 失列箴勒禮 阿亦賽 帖迭 客額主為。(25)  
 拘束着 有的每 喜歡着 那般 垂懸着 來也 那的每 説了  
 bucsaju aqsad bayasču teyin šilemeljen ayisai tede ke'eju'üi  
 怒りを抱き ありし者ども 喜びて かく 涎垂らしつ 来りつつあら\* 彼等”と云えり。

〈14〉 § 129 (四3八~4三) 迭兀邊 給察舌里 阿刺(黑)蒼罷<sup>原作</sup>客延  
 中兄弟的 人名 行 被殺了 麼道  
 de'ü-bēn Taičar-i alacdaba keyen  
 “弟を(己が) タイチャルを 殺されぬ”とて

札木舌合 帖舌里兀田 札蒼舌關 哈舌兒班 中忽舌兒班 中合鄰 那闊扯周  
 人々 等項 種名 十 三 部 敵伴着  
 Jamuqa teri'üten Jadaran harban gurban qarın nököčejü  
 チヤムカを 頭とする チヤダラン、 十 三 部族が 連合三

中忽舌兒班 土箴楊 李勒周 阿刺兀帆楊土舌兒 中合兀的牙舌兒 蒼巴周 成吉思  
 三 万 敵着 山名 依着 越遇着 太祖  
 curban tümed bolju Ala'ü'üd Turca'üd-iyar dabaju Činggis  
 三 万と なりて アラウート トルガウト山を 越之 チングス

中合罕突舌兒 秣舌驪刺周 阿亦賽客延 亦舌列薛徹 木勒客脫塔黑 李羅勒歹  
 皇帝 行 上馬 着 來也 麼道 種名 如 人名 人名  
 qahān-dur morilaju ayisai keyen ikires-eeče Mülke=totaq Boroldaj  
 可汗 に 出馬し 来りつつあり”とて イキレス族から ムルケ・トタグ、 ボロルダイ

(中)豁牙舌兒 成吉思中合罕泥 古(舌)連勒古迭 不恢突舌兒 客連 古舌兒堅  
 兩箇 太祖 皇帝 行 地名 行 有 時 話 送到  
 qoyar Činggis qahān-i küre(n)lgü-de бүкүй-дүр kelen kürgen  
 二人 チングス 可汗 の クレルグ に ある 時 言を 送り

亦舌列主為。(26)  
 來了  
 irejüki.  
 来れり

以上14例を挙げたが、この -u 系語尾の用例は秘史蒙古語においてもそれ程多くはないので、以上の14例は、この語尾の意義素の解明には十分であろう。因みに -u 系語尾の全例を以下に挙げておこう。

-u                      -ui(-uyi)                      -i                      -ai  
 ayis- 阿亦速(15例)                      ナシ                      阿亦石(7例)                      阿亦賽(7例)  
 bol- 李魯(者)(3例)                      李魯宜(3例)                      李里(3例)                      (bolai)

この他に、不確実な例として、上述の「阿余兀魯 ayu'ül-u」(六21六)の -u、「多ト禿来(者) dobtul-ai-je」(六4五)の -ai を入れても、この -u 系語尾の用例は40例に過ぎない。更に、この語尾の接尾された語幹は ayis- と bol- に限られるので、秘史蒙古語の時点において、-u 系語尾は特殊な語尾であったと結論づけられる。文語形に ayisuï (ハルハ方言形 айсуй) のみが現在まで残っているのも秘史の時代の現象をそのまま現代にまで持ち越した感を与える。

ここで上記の文例を吟味して見よう。〈1〉の *ayisu* は「日が明けて見ると、後から誰かが、こちらに *ayisu* (近づいてくる)」として用いられ、〈2〉の二つの *ayisu* も *nekejü ayisu*, *güiyičejü ayisu* で、ともに“今現に”(《追いつき来りつつある》, 《追いつき来りつつある》)という《現在進行》中の動作を表わしている。そして、その現在進行中の動作の主体はいずれも単数の主体であることと行文から明示されている。

〈3〉, 〈4〉の *bolu-je* の *-u* は《是である》の意を示す *bol-* に附され、後続の *-je* と共に、その《是なる》ことを現に強く肯定する用法で、〈1〉, 〈2〉の現在進行中の動作を示す意味の一変形と考えられる。

〈5〉の *dajyisun mud kü boluyi* の *boluyi* は漢字面「李魯宜」に従って *boluyi* となるが、これは *-lui* を表わす適切な漢字を欠くための処置であり、*-ui* と見て大過ない。パクパ文字蒙古語においても例えば、動詞の過去時制の *-bai*<sup>2</sup> に当る形を、時に *-bei*, 時に *-beyi* と表記し、三人称命令形 *-tucai*<sup>2</sup> に当る形を、一方で *-tuqai*, 一方で *-tuqayi* と表記し、そこに表記上の揺れが見られる。

この *boluyi* (*bolui*) は《今、現になりつつある》の意と解すると誠に収まりがよい。〈1〉, 〈2〉の現在進行中の動作を表示する意と同様と見られる。〈6〉の二つの *boluyi* (*bolui*) の *-uyi* (*-ui*) は 〈3〉, 〈4〉の *bolu* の *-u* と同じ用法であり、*ülü* が前置されて、その否定形になっている。〈5〉, 〈6〉ともに *bol-* 《なる; 是である (の否定)》の主体が複数である点だけが異っている。即ち、*bolu* は男性単数形、*boluyi* (*-ui*) は複数形である。

〈7〉〈9〉の *ayiši*, 〈8〉〈10〉の *boli* の *-i* は女性単数形と規定し得よう。〈7〉の *qariju ayiši* 《帰り来つつあり》の主体はテムジン一家の忠実な召使い、老婆ゴアクテンである。ついであるが、ここに、*-ba*<sup>2</sup> の女性形語尾 *-bi* が *ke'ēbi* の中に現われている。〈9〉の *ayiši* の主体は *talbigsad dayin* 《放ちたる敵人》であって女性ではない。どうしてここに女性形語尾 *-i* が用いられたか。筆者は、当時のテムジン、チンギス可汗軍にとって“敵”は“弱きもの、劣れるも

の”と見做されていたと考える。それ故、*dayin* に対し、女性形 *ayiši* が用いられたものと思われる。

〈8〉の *ülü boli* の *-i* も額客 *eke* 《母》——この場合は拙赤、察阿歹、斡歌歹などの母、孛児帖 *Börte*, 即ちテムジンの槽糠の妻のことである——についての描写に用いられている。*-i* が用いられる必然性がここにある。しかし、〈10〉の *boli* の *-i* に関してはその必然性が、はっきりしない。今後の課題として残しておきたい。

〈11〉から〈14〉までの4例は *ayisai* の用例である。この *-ai* も文脈から複数形なること確実である。〈11〉の *ayisai* 《近づきつつあり》の主体は *Najman* 部族である。秘史蒙古語では「部族」は複数扱いを受けていることも確実である。〈12〉の *ayisai* の主体は *ede ya'ūd haran* 《これら、如何なる人々》であり、〈13〉の場合は、*bucsaju acsad* 《怒りを抱きありし者ども》であり、〈14〉の *ayisai* の主体も《チャムカを頭とするチャダラン部族》である。上の事実から見て、*-ai* が複数の機能を示すことは明かである。ここに、しかし、問題がある。

*ayis-* については、*ayis-u*, *ayiš-i*, *ayis-ai* が実証され、それぞれ男性単数形、女性単数形、複数形なること上述の如くであるが、何故か、*ayis-ui* (漢字面では「阿亦速宜」従って、転写面では *ayis-uyi* として現われる可能性が高いが) が見られない。

*bol-* については、*bol-u*, *bol-uyi* (*-ui*), *bol-i* が見られ、*bol-ai* は見られない。(蒙古語文語の *bol-ai* は、形の上からは *bol-* に *-ai* のついた形と同形であるが、こゝで問題にしている *-u* 系語尾の一員としての *-ai* であるか否か、文語の *bolai* を精査する必要があり、現段階においては、確言は出来ない)。

一方、秘史蒙古語において、複数形として期待される *\*ayisuyi* (*\*ayisui*) は、秘史においては実証されない。*ayis-* においては *ayisai* が、*bol-* においては *boluyi* (*bolui*) が、複数形である。即ち *-ai* と *-uyi* (*-ui*) がともに秘

史蒙古語に於ては複数形として機能しているのである。この -ai と -uyi (-ui) との関係をいかに考えるか、これが、現在の筆者には不明である。又、これと関連して、文語形では ayisu でなく、少くとも形の上では、秘史に一例も見られない ayisui, odui のみが見られ、又、ハルハ方言等の口語の分野でも aicyū のみが見られ、秘史の ayisu に当る形が見られないのは何故か、これも未解決の問題である、この二点は今後の考究にかゝるが、何かよいお考えがあれば、御教示を賜われれば幸甚である。

以上 -u<sup>2</sup> 系語尾の諸例の吟味から、この語尾の意義素を《動作が現に進行中》と措定する。そして、その現に進行中の動作への話し手の強い好悪の感情が示される場合もあると言うことができる。

なお、筆者は上例〈5〉の boluyi を、かって、bol-u-yi と分析し、-yi を前述の -yu の女性形と見て、そのように記述したことがあるが、現在では上述の如く、bol-uyi と見て -uyi は複数形とする見解をとる。

以上で -u<sup>2</sup> 系語尾の記述を終えることにするが、最後に、次の特徴を述べておかねばならない。それは -u<sup>2</sup> 系の語尾は総て、対話文(会話文)の中に於てのみ用いられ、敘述文——いわゆる地の文——に於て用いられた例は一例も見られないことである。このことは、何を意味するかと言えば、この -u 系語尾は、話し言葉において多用された語尾であったということである、更に、ayisu の頻用は、この語尾 -u<sup>2</sup> のもつ意義素が、動詞 ayis- の意義素とよく合致したからとも言えよう。

#### ④ -ba<sup>2</sup>, -bai<sup>2</sup>, -bi

上述の (a)~(c) の語尾群は時制的観点から見れば、現在時制 (the present tense) に属す語尾である。以下の (d) から (g) までの語尾群は過去時制 (the past tense) に属する語尾となるが、その意義素は、それぞれ異なり、従来、その規定が不分明の嫌いがあった。本書では、その点の解明に意を注いだ。

-ba<sup>2</sup> 系語尾から始めよう。この語尾 -ba<sup>2</sup>, -bai<sup>2</sup> が蒙古語文語においても

常用される語尾であることは周知の事実であるが、-bi の方は文語には、私の知る限りでは発見されない。ただパクパ字蒙古文獻に僅か一例のみではあるが見い出されることを附言しておこう。<sup>(10)</sup>

〈1〉 § 106 (三 7 六 ~ 8 二)		札木中合	巴撒	鳴詰列舌論
		人名	再	説
		Jamuqa	basa	ügülerün
		ヂャムカ	また	言うに

帖木真安答	脫幹舌鄰勅中罕	阿中合	中豁牙舌刺	鳴詰列客延	鳴詰列舌論
人名 契合	人名 皇帝 兄		兩商行	説 應道	説
Temüjin anda	To'ōri(n)l qan aqa		qoyar-a	ügüle keyēn	ügülerün
"テムジン盟友	トオーリル 汗 兄		二人に	言へ	と 言うに

必不舌命	中合舌額阿禿	禿乞顏	撒出罷	必	中合舌刺不中合因
我 阿	遠看見的	英頭自的 行	祭了也	我	黑 強牛的
bi bürün	qara'ātu	tug-iyān	sačuba	bi	qara buqa-yin
「我 は	遠くより見ゆる	旗幟を(己が)	祭れり	我	黒き 牡牛の

阿舌刺孫你牙舌兒	不克里克先	不舌兒乞舌連	不恢	擣牙禿	可兀舌兒格邊
皮子 教	慢 了的	擊 擊 有的	有 的	聲 有的	鼓 自的 行
arasun-iyār	bürigsen	bürkiren	büküj	dau'ūtu	kö'ürge-bēn
皮 もて	はりたる	とどろき	わたる	者の出づる	太鼓 を(己が)

迭列揚罷	必	中合舌刺中忽舌兒都你顏	兀訥罷	必	中合唐中忽迭額里顏
打了也	我	黑 快馬 自的 行	騎 了也	我	鋼硬 衣裳 自的 行
deledbe	bi,	qara qurdun-iyān	unuba	bi,	qatanggu de'el-iyēn
打てり	我,	黒き 速馬 に(己が)	騎せり	我,	鋼鉄の如き衣 を(己が)

額木思罷	必	中合壇 只答班	把舌黒罷	必	中合楊中忽舌刺速禿	速木你顏
穿了也	我	鋼 槍自的 行	拿了也	我	有挑皮 的	箭 自的 行
emüsbe	bi,	qatan jida-bān	bariba	bi,	qadqurāsutu	sumun-iyān
つてたり	我,	鋼鉄の 槍 を(己が)	とれり	我,	山桃皮をまける	矢 を(己が)

幹那刺罷	必	中合阿楊篋舌兒乞楊途舌兒	中合楊中忽(勳)敬	秣舌驪刺牙
扣了也	我	姓氏 行	廝 殺	上馬咱
onolaba	bi,	Qa'ād=merkid-tür	qadquldun	morilaya
番えたり	我,	カアード・メルキド族に	戦い合いに	出馬せん



李額<sup>客</sup>延 鳴<sup>話</sup>列<sup>……</sup>。(27)  
 便 慶道 說  
 bö'ed' keyēn ügüle…….  
 ぞ と 言え……。

<2> § 179 (六34八~35三) 巴撒 成吉思<sup>中</sup>合<sup>罕</sup> 札木<sup>中</sup>合<sup>安</sup>蒼<sup>蒼</sup>  
 再 太祖 皇帝 人名 契交行  
 basa Činggis qahān Jamuqa anda-da  
 また チングス可汗 ジャムカ 盟友 に

鳴<sup>話</sup>列<sup>客</sup>延 鳴<sup>話</sup>列<sup>舌</sup>論 中<sup>罕</sup> 額<sup>赤</sup>格<sup>迭</sup>徹 米<sup>訥</sup> 兀<sup>瞻</sup>牙<sup>芬</sup>周  
 說 慶道 說 皇帝 父 行 我的 見 不得着  
 ügüle keyēn ügüleriin qan ečige-deče minu üjen yadaju  
 言へ と 言うに “汗なる 父 より ← 我が (我を) 嫌いて

中<sup>合</sup>中<sup>合</sup>察<sup>兀</sup>勒<sup>罷</sup> 赤 兀<sup>舌</sup>里<sup>蒼</sup> 李<sup>速</sup>黑<sup>三</sup> 必<sup>蒼</sup>訥 中<sup>罕</sup> 額<sup>赤</sup>格<sup>因</sup> 闊<sup>闊</sup>  
 教分離了 你 先 起身的 咱的 皇帝 父 的 青  
 qacača'ülba čī, urida bosuqsan bidan-u qan ečige-yin kökō  
 遠ざからしめたり 汝, さきに 起きしが ← 我等の 比なる 父 の 青き

充<sup>兀</sup>兀<sup>中</sup>忽 不<sup>列</sup>額 納<sup>蒼</sup> 兀<sup>舌</sup>里<sup>蒼</sup> 李<sup>思</sup>抽 兀<sup>黑</sup>蒼<sup>舌</sup>命 奈<sup>亦</sup>蒼<sup>罷</sup>者 赤  
 鍾 飲 有來 我行 先 起着 被飲的 妒 了也者 你  
 čung u'ūqu büle'ē, nada urida bosču ūcdarūn najiyidaba-je čī,  
 杯を 飲む なりき, 我に 先に 起き 飲まるる時, (我を)妬みたり 汝,

額<sup>朶</sup>額 中<sup>罕</sup> 額<sup>赤</sup>格<sup>因</sup> 闊<sup>闊</sup> 充 把<sup>中</sup>刺<sup>揚</sup>中<sup>渾</sup> 客<sup>堆</sup>者 中<sup>豁</sup>羅<sup>揚</sup>中<sup>渾</sup>塔  
 如今 皇帝 父 的 青 鍾 飲了着 幾多 費 的 您  
 edō'ē qan ečige-yin kökō čung baradqun kedūj-je qorodqun ta  
 今や 和なる 父 の 青き 杯 を(飲み)ほせ, いかにしてても 少くせよ 汝”

客<sup>額</sup>周 亦<sup>列</sup>罷<sup>別</sup>(28)  
 說着 去了  
 ke'ējū ilebe.  
 とて 遣りぬ。

<3> § 136 (四19八~20一) 主<sup>舌</sup>兒<sup>乞</sup>泥 客<sup>魯</sup>舌<sup>洌</sup>訥 闊<sup>朶</sup>額<sup>阿</sup>舌<sup>刺</sup>命  
 種 行 河名 的 地名 的  
 Jürkin-i Kelüren-ü Ködö'ē=aral-un  
 デュルキン族が ケルレン河の コデエ・アラル の

朶<sup>羅</sup>安<sup>李</sup>勒<sup>蒼</sup>兀<sup>揚</sup>塔 不<sup>恢</sup>突<sup>舌</sup>兒 亦<sup>舌</sup>兒<sup>堅</sup> 亦<sup>訥</sup> 倒<sup>兒</sup>里<sup>罷</sup>俗<sup>撒</sup>察<sup>別</sup>乞  
 地名 行 有 時 百姓 他的 擄掠了 人名  
 Dolo'an=bolda'ūd-ta büküj-dür irgen inu dau'ūliba, Sača=beki  
 ドロアン・ボルダグ に いる 時に 人衆を ← その 襲いとれり。 サチャ・ベキ

泰<sup>出</sup> 中<sup>豁</sup>牙<sup>舌</sup>兒 噶<sup>延</sup> 別<sup>[也]</sup>昔<sup>顏</sup> 都<sup>塔</sup>阿<sup>罷</sup>俗<sup>(29)</sup>  
 人名 兩箇 少 醫身 自的 行 走了  
 Taiču qoyar čöyēn beyes-iyēn duta'āba.  
 タイチュ 二人は 少なき 身もて 逃走せり。

<4> § 120 (三34二~34七) 巴<sup>舌</sup>魯<sup>刺</sup>撒<sup>察</sup> 中<sup>忽</sup>必<sup>來</sup> 中<sup>忽</sup>都<sup>思</sup>  
 種名 行 人名 人名  
 Barulas-ača Qubilai Qudus  
 パロラス族より クビライ, クドゥス

阿<sup>中</sup>合<sup>納</sup>舌<sup>兒</sup> 迭<sup>兀</sup>捏<sup>舌</sup>兒 亦<sup>舌</sup>列<sup>罷</sup>俗<sup>(原)</sup> 忙<sup>中</sup>忽<sup>蒼</sup>察 哲<sup>台</sup> 多<sup>中</sup>豁<sup>中</sup>忽<sup>徹</sup>兒<sup>必</sup>  
 兄 每 弟 每 來了 行 人名 人名  
 aqa nar de'ü ner irebe. Mangūdača Jetei Doqolqu=čerbi  
 兄 弟 達 来れり。 マングード族より デェテイ, ドコルク・チュルビ

阿<sup>中</sup>合<sup>迭</sup>兀 中<sup>豁</sup>牙<sup>舌</sup>兒 亦<sup>舌</sup>列<sup>罷</sup>。(30)  
 兄 弟 兩箇 來了  
 aqa de'ü qoyar irebe.  
 兄 弟 二人 来れり。

<5> § 177 (六26一~26八) 赤 阿<sup>米</sup>安 中<sup>忽</sup>舌<sup>羅</sup>中<sup>渾</sup> 兀<sup>魯</sup>昔<sup>顏</sup> 格<sup>周</sup>  
 你 性命自的 行 刁了 百姓 自的 行 撒着  
 “čī ami-'ān qurogun ulus-iyān gējū  
 “汝は 命を(己が) おしみ 民を(己が) 捨て

噶<sup>延</sup>古<sup>溫</sup> 土<sup>隴</sup>阿<sup>周</sup> 中<sup>合</sup>舌<sup>兒</sup>抽 中<sup>合</sup>舌<sup>刺</sup>乞<sup>蒼</sup>敬 古<sup>舌</sup>兒<sup>中</sup>罕<sup>突</sup>舌<sup>兒</sup>  
 少 人 走着 出着 種 的 人名 皇帝 行  
 čöyēn kù'ün duta'āju garču Qara=qitad-un Gür qan-dur,  
 僅かな人 逃げ 出て カラ・キタド の グル 汗 に,

垂<sup>沐</sup>洌<sup>捏</sup> 撒<sup>舌</sup>兒<sup>蒼</sup>兒<sup>命</sup> 中<sup>合</sup>札<sup>舌</sup>刺 幹<sup>揚</sup>罷<sup>者</sup> 赤 你<sup>刊</sup>桓 兀<sup>祿</sup>  
 河名 河行 回回 的 地 行 了也者 你 一年 不  
 Čui müren-e Sarta'ül-un gajar-a odba-je čī, niken hon ülü  
 チュイ 河 なる サルタウールの 地 に 行けるぞ 故, 一年

倒兀孫 巴撒 古舌兒中罕納察 歹只周 中合舌兒抽 委兀敬 唐兀敬  
 受 再 人名 皇帝 処 反着 出着 種的 種的  
 dau'usun basa Gür qan-nača daijiu garču Uj'ūd-un Tangūd-un  
 終らずして また グル汗より 背き いで、 ウィウルの、 タングードの

中合札舌里牙舌兒 牙但周 阿亦速舌倫 塔奔 亦馬阿楊 失舌兒戈列周  
 地 行依着 窮乏着 來 時 五箇 羔羴 拘着  
 cajar-iyār yada(n)ju ayisurun tabun ima'ād širgölejü  
 地 に 疲れ 來るに 五四の 山羊に シルゴをつけて

撒阿周 亦啞周 駝篋額訥 赤孫 中合納周 亦啞周 中合黑察 莎中豁舌兒  
 擠着 喫着 駝駝 的 血 刺着 喫着 独 瞎  
 sa'āju idejü, teme'en-ü čisun qanaju idejü, gagča soqor  
 乳を搾り 食べ、 駝駝 の 血を 嘔血し 食べ、 唯一匹の めくらの

中合里温 秣舌驪秃 亦舌列罷者<sup>罷原</sup>赤 (31)  
 黑鬃尾黃 馬 有的 來了 也者 你  
 qali'un moritu irebe-je čī  
 黒鬃黄尾の馬にのみ 乗れるぞ 汝

<6> § 209 (九 1 四 ~ 1 八) 額迭 中忽必來 者勒篋 者別 速別格台  
 這每 人名 人名 人名 人名  
 ede Qubilaj Jelme Jebe Sübegetej  
 これ等 クビライ ゼルメ ゼベ スベゲテイ

塔 朶舌兒邊 那中合昔顏 薛(楊)乞克先突舌兒 勺舌里兀勒周 亦列額速  
 您 四箇 狗每自的 行 想了的 行 教 指 着 教 去 着  
 ta dörben noqas-iyān sedkigsen-dür jori'ülju ile'esü  
 汝等 四 犬 を(己が) 思いし(処) に 向わせ 遣らば

古舌兒客額克先突(舌)兒 古舌魯坎客倫 中合勒 客額克先突舌兒  
 到 說 來 的 行 石 撞 碎 惹 說 來 的 行  
 kür ke'egsen-dür kürü kemkelün qal ke'egsen-dür  
 “到れ” と 言 える 時、 石 を 砕 き、 “襲へ” と 言 える 時、

中合蒼中(含)中合倫 超堅 <赤>刺兀泥 超兀倫 扯額勒兀速泥 你秃倫  
 崖 撞 破 明 石 行 碎 深 水 行 斷 絶  
 qada qamqalun čeügen čila'un-i čeü'ülün č'e'l usun-i nitulun  
 岩 を 砕 き 光 る 石 を 砕 き わり、 深 き 水 を 断 ち て

阿伯者塔。(32)

有來 也者 您  
 abaj-je ta.  
 あり ぞ 汝等。

<7> § 174 (六 16 九 ~ 17 二) 忙中豁倫 幹樂勤 札木中合魯阿  
 達達的 多半 人名 一同  
 Mongcol-un olongkin Jamuqa-lu'a  
 モンゴル の 大部は チャムカと共に、

阿勒壇 舌忽察中兒 魯阿 必丹突舌兒備 帖木真魯額 歹亦只周  
 人名 人名 一同 咱 行 有 人名 一同 反着  
 Altan Qučar-lu'a bidan-dur büi, Temüjin-lü'e daiyijü  
 アルタン クチャルと共に 我等 に あり。 テムジン と 離反し

中合舌魯黑三 忙中豁勤 中合阿幹中渾 帖迭 秣舌驪 兀訥阿壇 抹敦  
 出了的 達達 那裏去 那每 馬 單騎的有 木  
 garugsan Mongcol qa'a odqun tede, morin unu'atan, modun  
 出でたる モンゴル 何処へ行かん 彼等、 馬の のりものをもち、 木の

捏木舌列田 孛勒<sup>原作</sup>帖迭。(33)  
 遮蔽的 做了 那裏  
 nemüreten bolba(baj) tede.  
 蔽いものをもつ に到れり 彼等。

<8> § 129 (四 4 七 ~ 4 十) 成吉思中合罕 札木中合蒼 田迭  
 太祖 皇帝 人名 行 那裏  
 Činggis qahān Jamuqa-da tende  
 チングス 可汗 チャムカ に そこに

歌多勒格克迭周 斡那訥 哲舌列捏 中合ト赤中合牙 中豁舌兒罷<sup>原作</sup> 札木中合  
 被推動者 河 名 的 地名 行 狭 処 鉢 了 人名  
 ködölgegdejü Onon-u Jeren-e qabčicaj-a qorba. Jamuqa  
 うち負かされ オノン河の ゼレネ 峽間 に 身をさげぬ。 チャムカの

鳴話列舌論 斡那訥 哲舌列捏迭 中豁舌兒中合罷<sup>原作</sup> 必蒼 客額周  
 說 河 名 的 地名 行 教 錄 了 咱 說 着  
 ügülerün Onon-u Jere-ne-de qorgaba(baj) bida ke'eju  
 言うに “オノン” の ゼレネ に 追いこめ り 我等” とて

中合舌里舌命……。(34)  
 回時  
 qarirun…….  
 帰る時……。

<9> § 136 (四20六~20八) 撒察 泰出 (中)豁牙舌兒 鳴訥列舌論  
 人名 人名 兩箇 說  
 Sača Tajču qoyar ügülerün  
 サチャ タイチュ 二人の 言うに

鳴訥列克先 兀格都舌里顏 巴 額薛 古舌兒罷<sup>原作</sup> 兀格思突舌兒 馬訥  
 說了 的 言語裏 自的 行 俺 不曾 到了 言語每 裏 他的  
 ügülegsen üge-dür-iyēn ba ese kürbe(bei), üges-tür manu  
 “言いし 言 に ← 己が 我等 到らざりき、 言 に ← 我等の

古舌兒格 客額額<sup>揚</sup> 兀格昔顏 篋迭舌列周 土失周 幹克罷<sup>原作</sup> (35)  
 教到 說了 宮語、 自的 行 教知着 伸頸着 与了  
 kürge ke'e'ēd üges-iyēn mederejü tüsijü ögbe(bei).  
 到らしめよ” とて 言 を(己が) 自ら知りて ゆだね 与えたり。

<10> § 248 (土6八~7三) 成吉思中合罕 額耶突舌兒 阿訥  
 大祖 皇帝 商量 萬 他的  
 Činggis qahān eye-dür anu  
 チンギス 可汗 和議 に ← 彼等の

幹舌羅周 中豁塔<sup>揚</sup> 中豁塔<sup>揚</sup>圖舌兒 額額<sup>舌列揚</sup> 保兀黑撒<sup>揚</sup> 扯舌里兀的  
 從着 城子每 城子每 裏 攻 下的 軍 每行  
 oroju qotad qotad-tur e'ered bau'ügsad čeri'üd-i  
 入りて 城 城 に 囲み攻め 駐留せる 兵士等を

中合舌里兀勤周 亦出罷<sup>原作</sup> 王京丞相 莫州撫州捏舌列禿 中豁失兀納  
 數回 着 退了 人名 郡名 名字 有的 術 行  
 qari'ülju içuba(bai). Ongging-čingseng Moju Fuju neretü qoši'ün-a  
 帰らしめ 退けり。 オンギン・丞相 莫州、撫州の名をもつ 山鼻 に

古舌兒帖列 成吉思中合阿泥 忽迭周 中合舌里罷 阿兀刺孫 額<sup>揚</sup> 必苔訥  
 直到 大祖 皇帝 行 逆着 回了 段 匹 財物 咱 的  
 kürtele Činggis qa'an-i hüdejü qariba. a'ürasun ed bidan-u  
 到るまで チンギス 可汗 を 送り 帰らぬ。 網布 物品を 我等の

扯舌里兀扯 答阿(中)灰阿察 阿赤周 乞不兀的牙舌兒 阿赤阿班 塔塔周  
 軍 每 儘 力 駄着 煎綱 教 駄 自的 縛着  
 čeri'üd da'aquī-ača ačiju kibu'üd-iyār ači'ā-bān tataju  
 兵士等 耐える ほどに 積みて、 熟綱 もて 荷 を(己が) 縛り

迓步罷<sup>原作</sup> (36)  
 行了  
 yabuba(bai).  
 行けり。

<11> § 17 (一10四~10五) 帖因阿塔刺 朵奔篋兒干兀該字<sup>動罷</sup>  
 那般 住間 無 做了  
 teyin atala Dobun=mergen ügei bolba.  
 かくあるうちに ドブン・メルゲン 死 せり。

朵奔篋兒格泥 兀該 孛魯黑撒訥(中)豁亦納 阿蘭中豁阿 額<sup>舌列</sup> 兀該<sup>為</sup>  
 行 無 做了 的 後 婦人名 丈夫 無  
 Dobun=mergen-i ügei bolucsan-u qoyin-a Alan=go'ā ere ügei'üi  
 ドブン・メルゲン の 死 せる の 後 アラン・ゴア 夫 なく

孛額<sup>揚</sup> 中忽兒班 可兀<sup>揚</sup> 脫舌列温<sup>勸畢</sup>。(37)  
 便 三箇 兒子每 生了  
 bö'ed gurban kō'üd tōre'ülbi.  
 ありて 三人の 子を 生めり。

<12> § 40 (一23六) 帖<sup>舌列</sup> 敦蒼 客額里台 額<sup>篋</sup> 孛端察<sup>舌兒途兒</sup>  
 那 半孕 肚皮 有的 婦人 行  
 tere dunda ke'elitei eme Bodončar-tur  
 その 妊娠 せる 女 ボドンチャルの許に

亦<sup>舌列周</sup> 可兀<sup>列畢</sup>。(38)  
 來着 兒生了  
 irejü kō'ülebi.  
 來りて 子を生めり。

<13> § 155 (五25八~25十) 也速干中合敦 額格赤額 兀者額<sup>揚</sup>  
 名 娘子 姐姐 自的。 見了  
 Yesügen qatun egeči-yēn üje'ed  
 イェスゲン 妃 姉 を(己が) 見て

兀<sup>舌</sup>里<sup>蒼</sup> 鳴<sup>話</sup>列<sup>先</sup> 兀<sup>格</sup>突<sup>舌</sup>兒<sup>兒</sup> 古<sup>舌</sup>命<sup>命</sup> 孛<sup>思</sup>抽<sup>抽</sup> 撒<sup>兀</sup>黑<sup>三</sup>  
 先前 説了的 言語裏 到着 起着 坐了的  
 urida ügülegsen üge-dür kürün bosçu sa'ücsan  
 さきに 言いし 言に 到り 起ちて 坐れる

孛<sup>思</sup>畢<sup>畢</sup>。(41)  
 做了  
 bolbi.  
 なれり。

撒<sup>兀</sup>鄰<sup>都</sup>里<sup>顏</sup> 撒<sup>兀</sup>勅<sup>周</sup> 門<sup>門</sup> 幹<sup>額</sup>孫<sup>孫</sup> 朵<sup>羅</sup>撒<sup>兀</sup>畢<sup>畢</sup>。(39)  
 位子 自的<sup>行</sup> 教<sup>坐着</sup> 他 自己 下 坐了  
 sa'ürin-dur-iyän sa'ülju mun ö'ësün doro sa'übi.  
 席に ←己が 坐らしめ 彼女 自ら 下に 坐れり。

〈14〉 § 156 (五24八~25一) 塔<sup>塔</sup>兒<sup>兒</sup> 亦<sup>亦</sup>兒<sup>兒</sup>格<sup>格</sup>泥<sup>泥</sup> 倒<sup>倒</sup>鄰<sup>鄰</sup>巴<sup>巴</sup>刺<sup>刺</sup>周<sup>周</sup>  
 種 百姓 行 擄了 着  
 Tatar irgen-i dauḷin baraju  
 タタル 人衆を 掠奪し 終り

你<sup>刊</sup>兀<sup>都</sup>兒<sup>兒</sup> 成<sup>吉</sup>思<sup>中</sup>合<sup>罕</sup> 中<sup>合</sup>蒼<sup>蒼</sup> 撒<sup>兀</sup>周<sup>周</sup> 温<sup>温</sup>蒼<sup>刺</sup>勅<sup>都</sup>兒<sup>兒</sup> 也<sup>遂</sup>中<sup>合</sup>敦<sup>敦</sup>  
 一 日 太祖 皇帝 外面 坐着 共飲 時 名 娘子  
 niken üdür Činggis qahān gadā sa'ūju undalaldurun Yesüj qaḡun  
 ある 日 チンギス 可汗 外に 坐り 飲みあう時 イェスイ 妃

也<sup>速</sup>干<sup>中</sup>合<sup>敦</sup> 只<sup>只</sup>里<sup>里</sup>訥<sup>訥</sup> 敦<sup>敦</sup>蒼<sup>蒼</sup> 撒<sup>兀</sup>周<sup>周</sup> 温<sup>温</sup>蒼<sup>刺</sup>勅<sup>敦</sup> 不<sup>恢</sup>突<sup>突</sup>兒<sup>兒</sup>  
 名 娘子 兩箇的 中間 坐着 共飲 有的時  
 Yesügen qaḡun jirin-ü dunda sa'ūju undalaldun büküj-dür  
 イェスゲン 妃 二人の 間に 坐り 飲み合い あるに

也<sup>遂</sup>中<sup>合</sup>敦<sup>敦</sup> 也<sup>客</sup>迭<sup>迭</sup> 嚙<sup>兀</sup>列<sup>列</sup>勅<sup>畢</sup>畢<sup>畢</sup>。(40)  
 名 娘子 大行 嘆息 了  
 Yesüj qaḡun yekede seü'ürelbi.  
 イェスイ 妃 いたく 嘆息せり。

〈15〉 § 189 (七10六~10八) 額<sup>額</sup>朵<sup>朵</sup>額<sup>額</sup> 那<sup>那</sup>中<sup>合</sup>訥<sup>訥</sup> 擣<sup>擣</sup>温<sup>温</sup> 亦<sup>亦</sup>都<sup>都</sup>舌<sup>舌</sup>列<sup>列</sup>恢<sup>恢</sup>  
 如今 狗 的 声 将近的  
 edö'ë noḡan-u dau'ün idüreküj  
 今や 犬どもの 声 (悪の) 近づく

中<sup>忽</sup>察<sup>察</sup>勅<sup>勅</sup>中<sup>忽</sup>察<sup>察</sup>梅<sup>梅</sup> 中<sup>中</sup>合<sup>合</sup>敦<sup>敦</sup>訥<sup>訥</sup> 必<sup>必</sup>蒼<sup>蒼</sup>訥<sup>訥</sup> 古<sup>古</sup>兒<sup>兒</sup>別<sup>別</sup>速<sup>速</sup>回<sup>回</sup> 札<sup>札</sup>撒<sup>撒</sup>黑<sup>黑</sup> 中<sup>中</sup>忽<sup>忽</sup>兒<sup>兒</sup>察<sup>察</sup>  
 吠 吠 有 娘子的 咱的 人名 的 法度 鋒利  
 qučal qučamuḡ, qaḡun-u bidan-u Gürbesü-yin jasag qurča  
 吠えを 吠えてあり、 妃の ←我等の グルベスの 規律 きびしく

上掲15例の内、〈1〉-〈5〉は  $-ba^2$  の用例、〈6〉-〈10〉は  $-bai^2$  の用例、そして〈11〉-〈15〉は  $-bi$  の用例である。 $-ba^2$  が男性単数形、 $-bi$  が女性単数形なること極めて明白であるが、 $-bai^2$  に関しては問題がある。ここには複数形と見て疑いなき用例のみを示したが、 $-bai^2$  には複数形以外の職能もある。これは上述したように  $-i$  系語尾全体にかゝわる問題なので、後段で一括して扱うことにする。

さて、蒙古語文語をはじめとし、現行するモンゴル系の言語には、いわゆる過去時制の語尾が三種類ある。文語に例をとれば、 $-ba(i)^2$ 、 $-juqui^2$ 、 $-lug-a^2$  の三語尾である。これら三種の語尾が、意義素の上でどの様な相違があるかは従来、明確であるとは言い難い。筆者は「秘史蒙古語」という共時面で、これら各語尾の意義素を措定し、その意義上の相違を明かにしたい。先ず  $-ba^2$  系語尾——上記の  $-u^2$  系語尾に倣う。以下同様——から始めよう。

〈1〉はチャムカが盟友テムジン（後のチンギス可汗）とケレイトの族長、トオリル・オン汗に伝えた、チャムカの言葉の中で用いられた  $-ba^2$  の用例である。sačuba bi 《祭れり我》、deledbe bi 《打ち鳴らしたり我》、unuba bi 《騎れり我》、emüsbe bi 《身につけたり我》、bariba bi 《執れり我》、onokaba bi 《矢を番えたり我》ともにチャムカ自身が自分自身の動作を言表した形で、対話文の中における一人称 bi 《私》の動作を言表した用法である。

〈2〉は成吉思可汗がチャムカに対して発した言葉の中で、成吉思可汗がチャムカの行為に言及して、qacača'ūlba čī 《離さしめたり汝》、naiyidaba-je čī 《嫉めり汝》の čī 《汝》に明かなように、第二人称の動作を言表した用法である。〈5〉の odba-je čī 《行きたり汝》、irebe-je čī 《来たれり》もこの用例に数えられる。

〈3〉、〈4〉の ke'ēbe 《〜と云えり》は〈1〉、〈2〉、〈5〉とは異なり、対話文

ではなく叙述文における第三者（三人称）の動作の言表である。〈2〉の末尾の …ke'ejü ilebe (……とて遣わしぬ) の ilebe はこの範疇に入る。

-ba 系語の使用例は秘史全巻を通じて総計803例の多きにのぼるが、これは秘史という文献が、テムジン・チンギス可汗の編年の一代記の性格をもち、且、-ba<sup>2</sup> 系語尾がモンゴル系の言語における、最も一般的な過去時制語尾であることから推して、当然の数である。

現在、我々の見ることの出来る秘史の流布本では、三巻本、五巻本を問はず、この -ba<sup>2</sup> 系語尾は、殆ど総て漢字「罷」によって一律に表記されている。これは、「罷」の字の意味が過去の事象を表現するのによく適するからである。しかし、周知のように §103以後（三巻本の巻三以後）から「客額罷<sup>原作</sup>」、「孛勤中合罷<sup>原作</sup>」の如き註記「<sup>原作</sup>別」、「<sup>原作</sup>俗」が現われ——巻二の冒頭 §69にも「赤舌列罷<sup>原作</sup>」が2回、「孛魯罷<sup>原作</sup>」が1回現われるが、それ以後は、この註記は姿を消して、§103以後復活する——、現存の「罷」系本の原本として、「巴(伯)~別」系本のあったことが知られる。巻一、巻二には(一21三)「多汪中豁<sup>巴</sup>」(一21五、二33七)「客額別」のように「巴~別」(-ba~-be) が若干ではあるが用いられ、これは母音調和による交替形を表記したことは自明なので、現存の「罷」系本の前に「巴(伯)~別」系本が存在したことは明かである。現存の「罷」系本の巻三以後に現われる上述の註記は、基本的には男性語幹に「<sup>原作</sup>俗」、女性語幹に「<sup>原作</sup>別」の方針を以て施されているが、「<sup>原作</sup>俗」の方は女性語幹にも屢々施されている——例えば、(三34三、五、九)「赤舌列罷<sup>原作</sup>」の如く——ので「伯」は男性・女性の区別なく用いられたと見るべきである。(十14七)には「幹<sup>舌</sup>羅兀罷<sup>入</sup>」の如く「八」が唯一見られるが、この「八」は華夷訳語甲種本の来文の(華甲Ⅱ、b13四、八)などに「歹亦只八(反了)」、「中合舌里八(回了)」として見える「八」と同一であり、又、この来文においては、「八」の他に「巴、別、伯」が -ba<sup>2</sup> 系語の表記に用いられ、秘史巻一、巻二における表記法と類似する。元朝秘史の漢字音訳年代と華夷訳語のそれとの前後関係については詳しく論ずべきであるが、それは今後の考究にゆずり、こゝでは秘史巻

一、巻二の -ba<sup>2</sup> 系語尾の表記法の華夷訳語来文の表記法との類似のみを指摘しておくにとどめる。

さて、本題にもどって -ba<sup>2</sup> 系の語尾の使用例をもう一度吟味しよう。

文例 〈1〉、〈2〉、〈5〉の対話文における -ba<sup>2</sup> は一人称の bi、二人称の či が現実に行った動作の確認者としての言表であるところに大きな特徴がある。即ち -ba<sup>2</sup> によって表示された動作は話し手或いは書き手によって確認された、或いは確認扱いされた動作である。この“確認扱いされた動作”について言及する必要がある。以下に文例を更に二つ加える。

〈16〉 §59 (一40六~40十) 塔塔舌里 倒兀里周 赤舌列<額>速 田迭  
騰着 来了呵 那裏  
 Tatar-i dau'uliju ire'esü tende  
タタル族を 掠取して 来れば そこに

詞額侖兀真 客額里台 不舌侖 幹難訥迭里温孛勤蒼中合 不恢突児  
名 懐孕 <有着> 河名的地名 有時  
 Ho'elün=üjin ke'elitei bürün Onan-nu Deli'ün=boldac-a бүкүй-дүр  
オエルン・ウジン 懐任して ありて オノン河の デリウーン・ボルダグ に ある 時

勺卜田迭 成吉思中合罕 脫舌列主為 脫舌列恢突児 巴舌刺温中合児 舌里顔  
正 那裏 皇帝 生了有来 生 時 右 手 自的 行  
 jöb tende Činggis qahān törejü'üi, töreküi-dür bara'un gar-tur-iyān  
まさにその地にて チンギス 可汗 生れたり。 生まるる に 右の 手に (己が)

失阿因帖堆 那敦<sup>(<sup>口</sup>)</sup>合惕渾 脫舌列主為 塔塔舌命 帖木真兀格宜  
髀石的 般 血塊 握着 生了有来 的 行  
 ši'a-yin tedüi nödün hadqun törejü'üi Tatar-un Temüjin-üge-yi  
踝骨 ほどの 血塊を 握りて 生れたり。 \*タタル族の テムジン・ウゲ を

阿(ト)赤舌刺黑三突児 脫(舌)列罷客延 帖木真捏舌列 幹<sup>(<sup>舌</sup>)</sup>恢 帖亦模。(42)  
将来 時 生了 慶道 名字 与的 那般有  
 abčiraqsan-dür törebe keyen Temüjin nere ögküi teyimü.  
連れる 時に 生れぬ” とて テムジンの 名を 与えるは かくなり。

〈17〉 §60 (一41四~41八) 也速該把阿秃舌命 詞額侖兀只捏扯  
名 的 名 処  
 Yesügei ba'atur-un Hö'elün=üjin-eče  
イエスゲイ・バートル の ホエルン夫人 より

34 元朝秘史蒙古語文法講義

帖木真 中合撒兒 中合赤温 帖木格 額迭朶兒邊可兀<sup>脇</sup> 脫舌列罷 帖木侖  
 名 名 名 名 遺 四 子每 生了 名  
 Temüjin Qasar Qači'ün Temüge ede dörben kö'üd törebe. Temülün  
 テムジン カサル カチウン テムゲ これら 四人の 子 生れぬ。 テムルン

捏舌列台 你刊斡勤 脫舌列畢 帖木真泥 也孫納速禿 不恢突兒  
 名字 的 一 女 生了 行 九 歳 有 時  
 neretei niken ökin törebi. Temüjin-i yesün nasutu бүкүй-дүр  
 なる名の 一人の 娘 生れぬ テムジンの 九 才にて ある 時

拙赤中合撒兒 朶羅安納速禿不列額 中合赤温額勤赤 塔奔納速禿 不列額  
 名 七 歳 有来 名 五 歳 有来  
 Joči=qasar dolo'an nasutu бүле'е, Qači'ün=elči tabun nasutu бүле'е,  
 ヂョチ・サル 七才 にて ありき, カチウン・エルチ 五 才にて ありき,

帖木格斡勤赤斤 中忽難不列額 帖木侖斡列格台不列額。(43)  
 名 三歳 有来 名 攝車的 有来  
 Temüge=odčigin gunan бүле'е, Temülün ölegetei бүле'е.  
 テムゲ・オドチギン 三才 なりき, テムルン 攝らんの中にありき。

この秘史卷一の § 59, § 60 はテムジンの出生とテムジンの弟妹、即ちテムジン家の構成を述べたくだりである。“タタール族のテムジン・ウゲを連れて来た時に生れた”と云ってテムジンという名が与えられたと書かれているが、この“生れた”が《確認扱いたされた動作》である。秘史の著者はテムジンが“生れた”ことを厳密に確認したわけでは勿論ないが“タタールのテムジン・ウゲを捕虜にした時にテムジンが生れた”というのは、いわば《確認事項》として取扱われたのである。それ故、前文に二度現われる törejü'üi (生れた) が keyēn で導かれた対話文の中では törebe になっているのである。ここに -ju'u² 系語尾との -ba² 系の語尾の相違がすでに垣間見られるが、-ju'u² 系語尾については後に詳述する。

800 余例の多きにのぼる -ba² 系語尾のほぼ 3 分の 2 は上述の対話文 (quotative sentence) の中で用いられているが、敘述文 (narrative sentence) に用いられている用例も少なくはない。文例 <3>, <4> は、その中のほんの二、三例に過ぎないが、ここに用いられる -ba² 系語尾も《確認された動作》を示

すものと解しうるので——後述の -ju'ū 系語尾との対比において明らかになる——-ba² 系語尾の意義素を《過去の動作の確認》と措定し、「確認過去」の語尾と呼ぶ。確認される過去故に、その過去は現在の用例では近い過去を示すことが多く、秘史では“edö'ë (今)……-ba² (～した)”の形が対話文の用例の場合には屢々見られることになる(この形の文例については、後述の -la'ā 系語尾との対比において明らかになる)。

秘史における -ba² 系語尾は上述の如く、文の主語の性・数によって使い分けられているが、この使い分けは、1664年の作と言われる通称「蒙古源流」では、すでに完全に失なわれている。この、性・数による使い分けの崩壊がいつ頃始まり、いつ頃終了したかの調査・研究を筆者は未だ行っていないが、出実詞形成接辞 -tu²~-tai²~-tan² の同様の現象の調査・研究とともに、残された課題の一つである。臆測するに、この現象の崩壊は14世紀後半に始まり15世紀後半には完了したのであるまいか。後考に委ねたい。

最後に複数形の -bai² について一言しておく。この -bai² は、漢字面では「伯」で表記されていることが殆んどで、<6>の「阿伯者塔」では、本文で「伯」が用いられている例である。他の圧倒的に多くの場合は註記「<sup>原作</sup>伯」によって表わされる。それは<7>の「<sup>原作</sup>孛斡罷伯」、<8>の「<sup>原作</sup>斡斡罷伯」のように、動詞語幹が男性母音の bol-, 女性母音の ög- と関係なく、複数形の場合は「伯」のみで表わされている。複数形でない場合は、女性語幹の場合は当然「<sup>原作</sup>斡斡罷伯」、「<sup>原作</sup>客額罷別」、「<sup>原作</sup>赤舌列罷別」の如く、「別」-be によって表記される。

なお、「伯」が複数表示の語尾であることは、動詞の対動形(ある動作を相手方と対立する形で協同して行う形) 語尾 -ldu²- を伴う動詞語幹の註記は必ず「<sup>原作</sup>伯」が記されていることも「伯」が複数形を示すことをよく物語っている。

例えば(三23四, 26一)「<sup>原作</sup>客額勤都罷斡伯」、(四46八)「<sup>原作</sup>帖別舌鄰勤都罷斡伯」(抱き合った)、(六27三)「<sup>原作</sup>勺魯中合勤都罷斡者<sup>原作</sup>斡斡必答 jolucalduba(bai)-je bida」(相遇せしぞ我等)のように牧挙に違がない。

又、ire-《来る》の如き女性語幹が「伯」の註記でなく、いわば正規の「別」

の註記が施されている場合は、正しく単数形である。

(六26七) 中合察 莎中豁 手兒 中合里温 秣手驪 秃 亦 手 列 罷 者 罷 者 別 (44)

独 瞎 黒鬃尾黄 馬 有的 来了 也者  
gacča soqor qali'ūn moritu irebe-je  
ひとり めくらの カリウン 馬にのって 来りし ぞ

上例の「罷者別」はその一例である、秘史蒙古語では、-bai<sup>2</sup>はこの様に複数形としての機能を未だはっきり持っていた事が知られる。

(e) -ju'ū<sup>2</sup>(-ču'ū<sup>2</sup>), -ju'ū<sup>1</sup>(-ču'ū<sup>1</sup>), -ji'āi[-jigi(-čigi)]

この -ju'ū<sup>2</sup> 系語尾は、意義素の点で前項の -ba<sup>2</sup> 系語尾と対照的な語尾である。そこで、-ba<sup>2</sup> 系語尾と対照する意味で、以下に長文の文例を示す、秘史巻六の § 183, § 184の文章である。

<1> § 183 (六44八~47一) 成吉思 中合罕 門 巴 朮 渚 納

太祖 皇帝 只 河名(行)  
Činggis qahān mun Baljuna  
チンギス 可汗は その バルヂユナ湖で

兀速 不 恢 突 手 兒 中合 撒 手 兒 額 篋 可 兀 邊 也古 也松格

飲 有 時 人名 妻 子 自的 行 人名 人名  
usulan būküj-dür Qasar eme kō'ū-bēn Yegü Yesünger  
(馬群等に)水をやり ある 時 カサルは 妻 子 を(己が), イェク イェスンゲ

秃 中 忽 壇 中 忽 手 兒 班 可 兀 的 顔 王 中 罕 突 兒 格 周 斡 延 別 耶 思

人名 等 三箇 子 每 自的 行 人名 行 撤着 少 醫身  
Tug tan gurban kō'ūd-iyēn Ong qan-dur gējū čöyēn beyes  
トゥグ 等 三人 子達 を(己が) オン 汗のもとに おきて 少なき 身の

那 可 的 耶 思 里 顔 中 合 手 兒 出 阿 中 合 余 安 客 延 成吉思 中 合 阿 泥 額 手 鄰

伴当 毎 領着 自的 行 出 着 兄 自 行 廢道 太祖 皇帝 行 尋  
nōkōd-iyēr-iyēn garču aqa-yu'an keyēn Činggis qa'an-i erin  
遠友 もて ← 己が 出て “兄 を(自分の)”とて チンギス 可汗 を 探し

中 合 手 刺 温 碩 都 訥 你 手 路 兀 斡 乞 古 手 里 周 斡 斡 斡 牙 丹 牙 坦 周 失 手 里

山 名 的 嶺 毎 緣 着 得 不能 困乏 着 生皮  
Qara'ūn-jidün-ū niru'ūd kigürjū olun yadan yada(n)ju širi  
カラウン・ヂドゥン の 尾根を 横切りて 得られず 困乏して 皮

失 手 兒 不 孫 亦 經 周 迓 步 阿 錫 巴 朮 渚 納 蒼 成 吉 思 中 合 罕 突 手 兒 捏 亦 列 罷 者 別

筋 喫着 行 了 水 名 行 太祖 皇帝 行 相合 了  
širbusun idejü yabu'ād Baljuna-da Činggis qahān-dur neylebe.  
腿を 食し 行きて バルヂユナ湖にて チンギス 可汗 に 合せり。

中 合 撒 手 里 亦 手 列 兀 魯 額 錫 巴 牙 思 抽 成 吉 思 中 合 罕 王 中 罕 突 手 兒 額 斡 巨

人名 行 教 来 了 喜歡着 大 祖 皇帝 人名 行 使臣  
Qasar-i ire'ülü'ed bayasču Činggis qahān “Ong qan-dur elči  
カサル を 来さしめて 喜び チンギス 可汗は “オン 汗 に 使者を

亦 列 耶 客 延 額 耶 秃 周 沼 兀 手 里 耶 歹 中 合 里 兀 蒼 手 兒 兀 手 良 中 合 歹

差咱 廢道 商量 着 種 人名 種  
ileye” keyēn eyetüjü Ĵeü'üriyedej Qali'udar, Uriyangqadaï  
遣らん” と 讓して ヂェウリェデイ氏の カリウダル, ウリヤンカダ氏の

察 中 忽 手 兒 中 罕 中 合 豁 牙 里 牙 手 兒 鳴 訥 列 周 亦 列 手 論 中 罕 額 赤 格 迭

人名 兩箇 行 教 說 到 去 的 皇帝 父 行  
Čaquirqan qoyar-iyār ügülejü ilerün qan ečige-de  
チャクルカン 二人 もて 言い 遣るに “汗なる 父 に

中 合 撒 手 論 兀 格 客 延 鳴 訥 列 錫 呻 客 延 鳴 訥 列 手 論 阿 中 合 顔

人名 的 言語 廢道 說 您 廢道 說 兄 自的 行  
Qasar-un üge keyēn ügüledkün keyēn ügülerün 'aqa-yān  
「カサル の 言」 とて 申せ と 言うに 『兄 を(己が)

中 合 手 喇 周 中 合 手 刺 阿 亦 訥 札 卜 中 合 罷 中 孩 亦 周 (口) 合 兀 魯 中 合 亦 訥

望着 形 影 他的 不見 了 踏着 道路 他的  
qaraju qara'ā inu jabqaba, qaiyiju ha'uluga inu  
望みて 姿を ← 彼の 失えり, 探し尋ねて 路跡を ← 彼の

斡 斡 牙 蒼 罷 斡 中 孩 亦 刺 周 擣 兀 班 額 薛 莎 那 思 蒼 罷 斡 豁 錫

得 不能 了 叫 着 声 自的。 不曾 被聽 得了 星 毎  
olun yadaba, qaiyilaju dau'ū-bān ese sonosdaba, hod  
得 ざりき, 叫びて 声 を(己が) 聞かれざりき, 星々を

中 合 手 喇 周 兀 手 兒 邦 迭 手 列 秃 孛 斡 周 格 卜 帖 木 必 額 篋 可 温 米 訥

望着 枕頭 有 的 斡 着 臥 有 我 妻 子 我的  
qaraju urbang deretü bolju gebtemü bi, eme kō'ūn minu  
望みて 草木の根を 枕と なし 臥せり 我, 妻 子は ← 我が

中罕 額赤格突舌兒備 亦帖兼只 額舌列延 幹魯阿速 中罕 額赤格突舌兒  
 皇帝 父 行 有 倚仗 指望 得阿 皇帝 父 行  
 qan ečige-dür büi, itegemji ereyēn olu'asu qan ečige-dür  
 汗なる 父の もとに あり, 信 望を 得なば 汗なる 父の もとに

幹<sup>楊</sup>中忽 必 客額周 亦列<sup>原作</sup>罷別 客延 鳴話列<sup>楊</sup>呻 巴撒 鳴話列<sup>舌</sup>論 巴  
 去 我 説着 去了 麼道 説 您 再 説 俺  
 odqu bi ke'ejü ilebe' keyēn ügüledkün, basa ügüleriün ba  
 行かむ 我』 とて 遣せり, と 申せ” また 言うに “我等は

塔泥 兀荅阿<sup>舌</sup>蘭 歌多勒周 客魯<sup>舌</sup>洌訥 阿<sup>舌</sup>兒中合勒苟吉迭 李勒札勒都牙  
 您行 隨即 動着 河名的 地名 行 相約〈咱〉  
 tan-i uda'aran ködöljü Kelüren-ü Argal-geügi-de boljalduya,  
 貴下に 統き 動きて ゲルレン河の アルガル・ゲウギ にて 約合せん,

塔 田迭 亦<sup>舌</sup>列<sup>楊</sup>坤 客延 李勒札勒都周 帖堆 中合里兀荅<sup>舌</sup>兒  
 您 那裏 來 您 麼道 約會了 着 即便 人名  
 ta tende iredkün keyēn boljalduju tedüi Qali'udar,  
 貴下 そこに 來れ” と 約し かくて カリウダル,

察中忽<sup>舌</sup>兒中罕 中豁牙<sup>舌</sup>里 亦列<sup>額</sup>額<sup>楊</sup> 主<sup>舌</sup>兒扯歹 阿<sup>舌</sup>兒中孩 中豁牙<sup>舌</sup>里  
 人名 兩箇行 教去了 人名 人名 兩箇行  
 Čačurqan qoyar-i ile'ed Jürčedej Arqaj qoyar-i  
 チャクルカン 兩者 を 遣りて デュルチュェデイ, アルカイ 二名 を

阿勒斤赤刺周 巴勒渌納 納活<sup>(舌)</sup>刺察 成吉思<sup>中</sup>合罕 兀荅阿<sup>舌</sup>蘭  
 頭 咱 傲着 水名 海子 処 太祖 皇帝 隨即  
 alginčilaju Baljuna na'ür-ača Činggis qahān uda'aran  
 先鋒軍となし バルチュナ 湖 より チンギス 可汗 統きて

額兀速勒扯周 中合<sup>舌</sup>命 株<sup>舌</sup>驪刺黑撒阿<sup>舌</sup>兒 客魯<sup>舌</sup>洌訥 阿<sup>舌</sup>兒中合勒苟吉迭  
 共起 着 出 上馬 依着 河名的 地名 行  
 e'ūsülčejü carun morilacsa'ar Kelüren-ü Arcal-geügi-de  
 発ち合い 出て 上陣しつつ ゲルレン河の アルガル・ゲウギ に

古<sup>舌</sup>兒罷<sup>原作</sup> (45)  
 到了  
 kürbe.  
 到りぬ。

〈2〉 § 184 (六48一~49九) 中合里兀荅<sup>舌</sup>兒 察中忽<sup>舌</sup>兒中罕

人名 人名  
 Qali'udar Čačurqan  
 カリウダル チャクルカン

中豁牙<sup>舌</sup>兒 王中罕突<sup>舌</sup>兒 古<sup>舌</sup>兒抽 中合撒<sup>舌</sup>命 兀格 客延 額<sup>你</sup>迭徹  
 兩箇 人名 行 到着 人名 的 言語 麼道 自這裏  
 qoyar Ong qan-dür kürčü Qasar-un üge keyēn ende-čē  
 二人 オン 汗のもとに 到りて “カサル の 言” とて ここ より

鳴話列周 亦列克先 兀格思 鳴話列主<sup>為</sup> 王中罕 阿勒壇帖中兒<sup>箴</sup>  
 説着 去了的 言語毎 説了 有 人名 金 撒 帳  
 ügüleju ilegsen üges ügüleju'üi. Ong qan altan terme  
 言い 遣りたる 言々を 語れり。 オン 汗 黄金の 帳を

李思中合周 格捏<sup>楊</sup> 中忽<sup>舌</sup>林蘭 阿主<sup>為</sup> 中合里兀荅<sup>舌</sup>兒 察中忽<sup>舌</sup>兒中罕  
 起着 不意 做筵席 有來 人名 人名  
 bosqaju gened qurimlan aju'üi. Qali'udar Čačurqan  
 起て 心ゆるし 宴をはり ありき。 カリウダル, チャクルカン

中豁牙<sup>舌</sup>命 兀格突<sup>舌</sup>兒 王中罕 鳴話列<sup>舌</sup>論 帖因 李額速 中合撒<sup>舌</sup>兒  
 兩箇的 語 裏 人名 説 那般 有阿 人名  
 qoyar-un üge-dür Ong qan ügüleriün teyin bö'esü Qasar  
 二人 の 言 に オン 汗 曰く “さも あらば, カサル

亦<sup>舌</sup>列秃該 客額周 亦帖兼只 亦秃<sup>(舌)</sup>兒格泥 亦列耶 客延 亦列<sup>勒</sup>都主<sup>為</sup>  
 教來者 説着 倚仗的 人名 行 教去咱 麼道 共教去了  
 iretügei ke'ejü itegemji Itürgen-i ileye keyēn ileldüju'üi,  
 來れかし” とて “信ある イトゥルゲンを 遣らん” とて 共に遣りき。

帖堆 亦<sup>舌</sup>列額<sup>楊</sup> 李勒札勒中合札<sup>舌</sup>刺 阿<sup>舌</sup>兒中合勒苟吉迭 古<sup>(舌)</sup>兒恢魯額  
 即便 來了 約會 地行 地名 行 織 到  
 tedüi ire'ed boljal cajar-a Argal-geügi-de kürküj-lü'e  
 かく 來りて 約会の 地 なる アルガル・ゲウギ に 到れ ば

巴魯阿 也客宜 兀者周 亦秃<sup>(舌)</sup>兒堅 額勒臣 中合<sup>舌</sup>鄰 秃塔阿主<sup>兀</sup>  
 巴魯阿 也客宜 見着 人名 使臣 回 走 了  
 baru'ā yeke-yi üjeju Itürgen elči qarin duta'aju'ü.  
 人影 大なる を 見 イトゥルゲン 使者 返り 逃走せり。



中合里兀蒼舌命 秣舌麟 中忽舌兒敬 阿主兀 中合里兀蒼舌兒 癸趨扯周  
 人名 的 馬 快 有來 人名 趕上着  
 Qali'udar-un morin qurdun aju'u. Qali'udar güiyičejü  
 カリウダルの 馬 速く ありき。 カリウダル 追いつきて

把舌里中忽 主魯格 牙蒼周 兀中里蒼温 中豁亦納温 亦訥 豁黑脫舌里中罕  
 拿的 心 不能着 前 後 他的 橫 斷  
 bariqu jirüge yadaju urida'un qoyina'un inu hectorican  
 捉うる 心 ためらい 前を 後を 彼の よぎり

迓步中仄突兒 察中忽舌兒中合訥 秣舌麟 兀蒼安 阿主兀 中豁亦納察 速木納  
 行 時 人名 的 馬 遲 有來 自後 前的  
 yabuqi-dur Čaqrqan-u morin uda'an aju'u. qoyina-ča sumun-u  
 行く 時 チャクルカンの 馬 おそく ありき、 後 より 矢 の

古(舌)兒恢 兀主兀舌列 亦秃舌兒格訥 阿勒壇 額篋額勒秃 中合舌刺阿黑騮回  
 到的 梢頭 行 人名 的 金 鞍 有的 黑 騮馬的  
 kürküi üjü'ür-e Itürgen-ü altan eme'eltü qara agta-yin  
 とどく さき に イトゥルゲンの 黄金の 鞍もてる 黒き 去勢馬 の

中忽揚忽札兀舌兒 撒兀壇刺 中合舌兒鏤主兀 田迭 亦秃舌兒格泥  
 髻 尖 坐 直到 射 了 那裏 人名 行  
 guyang huja'ür sa'ütala qarbuju'u. tende Itürgen-i  
 後脚の つけ根を (馬が)坐るまで 射れり。 そこに イトゥルゲンを

中合里兀蒼舌兒 察中忽舌兒中罕 中豁牙舌兒 把舌里周 成吉思中合(中)罕突舌兒  
 人名 人名 兩箇 拿着 太祖 皇帝 行  
 Qali'udar Čaqrqan qoyar bariju Činggis qahān-dur  
 カリウダルの チャクルカン 二人を 捉え チングス 可汗 に

阿卜赤舌刺罷<sup>原作</sup> 成吉思中合罕 亦秃舌兒堅突舌兒 兀祿 客列列勒敬  
 將來 了 太祖 皇已 人名 行 不 說話  
 abčirba. Činggis qahān Itürgen-dür ülü keleleldün  
 つれ来りぬ。 チングス 可汗 イトゥルゲン に 言葉をかわさず、

中合撒舌兒突舌兒 阿卜抽 斡都<sup>中</sup>渾 中合撒舌兒 篋迭秃該 客額罷<sup>原作</sup>  
 人名 行 將着 去 您 人名 知道者 撤 了  
 Qasar-dur abču odudqun, Qasar medetügei ke'ebe.  
 “カサル に つれ 行け、 カサル 知るべし” と云いぬ。

阿卜抽 斡都阿速 中合撒舌兒 亦秃舌兒堅突舌兒 兀祿 客列列勒敬 門  
 將着 去 呵 人名 人名 行 不 說話 只  
 abču odu'asu Qasar Itürgen-dür ülü keleleldün mun  
 つれ 行けば カサル イトゥルゲン に 言葉をかわさず その

田迭 察卜赤周 格罷<sup>原作</sup> (46)  
 那裏 欲着 撤了  
 tende čabčiju gēbe.  
 場にて 斬り 棄てり。

〈3〉 § 144 (四36五~三38) 乃馬訥 不亦舌魯黑中罕 阿勒台因  
 種 人名 地名 的  
 Najman-u Buyiruc qan Altai-yin  
 ナイマン族の ブイルグ 汗は アルタイの

額不舌兒 兀魯黑塔黑 勺舌鄰 中合中合潺 闊多勒主為 篋舌兒乞敬 脫黑脫阿  
 前 地名 指着 離着 動有 種 的 人名  
 ebür Uluctac jorin qacačan ködöljü'üi, Merkid-ün Tocto'ā  
 南 ウルタグを 指し はなれ 動けり。 メルキト族の トクトア

因 可温 中忽秃 薛涼格 勺舌鄰 闊多勒主為 斡亦舌刺敬 中忽都(中)合別乞  
 的 兒子 名 地名 指着 動了有 種 的 人名  
 -yin kö'un Qutu Selengge jorin ködöljü'üi. Oyirad-un Quduca=beki  
 の 子 クトッは セレンゲ河を 指して 動けり。 オイラド族の クドゥガ・ベキ

槐 迭篋屨 失思吉思 勺舌鄰 闊多勒主為 泰亦赤兀敦 阿兀出  
 林 争 地名 指着 動 了有 種 名 人名  
 hoj temečen Šisgis jorin ködöljü'üi. Taiyiči'ud-un A'uču  
 森を 求めて シスギス 指して 動けり。 タイチウート族の アウチュ。

把阿秃舌兒 斡難 勺舌鄰 闊多勒主為 札木中合 斡額里顏 中合  
 勇士 河名 指着 動 了有 人名 自 皇帝  
 ba'atur Onan jorin ködöljü'üi. Jamuqa ö'er-iyen qa  
 パートルは オナン河 を目指して 移動せり。 ジャムカは <sup>メカ</sup>己を 汗と

額兒古克薛<sup>楊</sup> 亦舌兒格泥 倒兀里阿<sup>楊</sup> 額(舌)湍古涅 忽舌魯兀 札木中合(中)合鄰  
 撤了拍的每 百姓 行 槍了 河名 順着 人名 回  
 ergügšed irgen-i dau'üli'ad Ergün-e huru'ü Jamuqa qarın  
 推挙せし 人衆 を 掠奪し エルグネ河を 下りて ジャムカ 返り

闊多勒主為 阿泥帖因 不塔刺黑蒼周 王中李 額舌湍古涅 忽舌魯兀  
 動了有 他每行 那般 潰散着 人名 河名 順着  
 ködöljü'üi, ani teyin butalacdaju Ong qan Ergüne huru'ü  
 動けり。 彼等を かく 潰散されて オン 汗 エルグネ河を 下りて

札木中合宜 捏客罷 成吉思(中)合罕 幹難 竹克 泰亦赤兀敦 阿兀出  
 人名行 追襲了 名 皇帝 河名 姓 種 的 人名  
 Jamuqa-yi nekebe. Činggis qahān Onan jüg Taijiči'üd-un A'üču  
 ジャムカを 追えり。 チングス 可汗は オナン河 へ タイチウード族の アウーチュ。

把阿秃舌里 捏客罷 阿兀出把阿秃舌兒 兀魯思秃舌里顏 古(舌)魯額揚  
 勇士行 追襲了 人名 勇士 百姓裏 自的 行 到 る  
 ba'atur nekebe. A'üču ba'atur ulus-tur-iyān kūrū'ed  
 パートルを 追えり。 アウーチュ・パートルは 民 に ←己が 到りて

兀魯昔顏 都舌兒別兀倫 闊多勒格額揚 阿兀出把阿秃舌兒 (中)豁敦幹舌兒長  
 百姓自的 行 忙走 動了 人名 人名  
 ulus-iyān dūrbe'ülün ködölge'ed A'üču ba'atur Qodung-orčang  
 民を(己が) 忙しめ 動かし アウーチュ・パートル, コドン・オルチャン

泰亦赤兀揚 幹納訥 赤納只 額帖額揚 許列兀揚 秃刺思壇 扯(舌)里兀的顏  
 種 每 河 的 那 耶 一 邊 多 余 方 牌 有 的 每 軍 每 自 的 行  
 Taijiči'üd Onan-u činaji ete'ed hüle'üd tulastan čeri'üd-iyēn  
 タイチウード族は オナン河の かなたなる 側に 残余の 盾もてる 兵士等 を(己が)

札撒周 中合楊中渾勒都牙 客延 札撒周 擺主為 成吉思中合罕 古舌魯額揚  
 整治着 斬殺唯 廢道 整治着 立着有 名 皇帝 到了  
 jasaju qadqulduya keyēn jasaju baiju'üi. Činggis qahān kūrū'ed  
 整え “会戦せん” とて 整え 立てり。 チングス 可汗 到りて

泰亦只(兀揚)魯阿 中合楊中渾勒都罷 馬石 額客舌倫額客舌倫 中合楊中渾勒都周  
 種 和他 斬殺了 好生 翻覆翻覆 斬殺着  
 Taijiči'üd-lu'ā qadqulduba. maši ekērün ekērün qadqulduju  
 タイチウード族 と 会戦せり まさに 繰返し 繰返し 会戦し

只勒蒼 李(勒)蒼周 門 中合楊渾勒都三 中合札舌刺 失秃(勒)都周 中豁那罷  
 晚 被敵着 只 斬殺 的 地 行 相 抗 着 宿 了  
 jilda boldaju mun qadqulducsan gajar-a šitüldüju qonuba.  
 日暮れに なられ その 会戦せる 地に 相抗して 宿れり。

兀魯思 巴 都舌兒別周 阿亦速舌倫 門古 田迭 扯舌里兀魯額週  
 百姓每 也 忙起 着 來 時 也 那裏 軍 每 自 的 行  
 ulus ba dūrbejü ayisurun mun-kü tende čeri'üd-lü'e-bēn  
 民 も 急ぎて 来るに まさに そこにて 兵士等 と ←己が

中合秃 古舌列額列周 中豁那勒都罷。(47)  
 一処 札營 着 共 宿 了  
 qamtu küre'elejü qonolduba.  
 共に 營をかまえて 宿り合いたり。

〈4〉 §1 (一 1 三, 四, 六) 成吉思(中)合罕訥 忽札兀兒 迭額舌列  
 名 皇帝 的 根 原 上  
 Činggis qahān-u huja'ur de'ere  
 チングス 可汗 の 根原は 上

騰格舌理額扯 札牙阿秃 脫舌列克先 李兒帖赤那 阿主兀 格兒該 亦訥  
 天 処 命 有 的 生 了 的 蒼 色 狼 有 妻 他 的  
 tenggeri-eče jaya'atu töregsen Börte-čino aju'ü. gergei inu  
 矢 よりの 命運もて 生れし ボルテ・チノ なりき。 妻 ← 彼の

中豁埃 馬舌闌勒 阿只埃 騰汲思客秃勒周 亦舌列罷 幹難 沐舌漣訥  
 慘白色 鹿 有來 水名 波 着 來 了 河名 河 的  
 Qo'aj mara(n)l aji'aj. Tenggis ketüljü irebe. Onan müren-nü  
 コアイ・マラル なりき。 テングス水 を 渡りて 来れり。 オナン 河 の

帖舌里兀捏 不峯(中)罕(中)合勒敦訥 嫩秃黑刺周 脫舌列克先 巴塔赤罕阿主兀。(48)  
 源 行 山 名 行 營 營 做 着 生 (了) 的 人 名 有 來  
 teri'ün-e Burqan=qaldun-na nuntuqlaju töregsen Batačiqan aju'ü.  
 源 なる ブルカン・カルドゥン山に 居營して 生れたるは バタチガン なりき。

上の §183は、チングス可汗がケレイド族との死闘の末、わずかに19人の復臣の部下と共にバルヂュナ湖に落ちのび、その濁水を飲んで、再起を誓いあったと言う、いわゆる「濁水の誓い」の場に、チングス可汗の弟カサルが妻子をケレイトの王汗のもとに残せるまま帰還し、その残した妻子の引渡し願に、カリウダル、チャクルカンの二名を王汗の許へ、使者とし遣わしたくたりである。そして、それに続く §184は王汗がカサルの願いを受け入れ、イトゥルゲン

なる使者をチンギス陣營に赴かせるが、イトゥルゲンは、その陣營のたゞならぬ氣配を察して逃亡をはかる。しかし、カリウダル、チャクルカンに捕えられカサルに処断されることが述べられている。

以上の内容を理解した上で、§ 183, § 184の文中に用いられた  $-ba^2$  系語尾と  $-ju'ü^2$  系語尾を観察して見よう。

§ 183には  $-ju'ü^2$  系語尾が一つも見られないのに対し、§ 184では反対に  $-ju'ü^2$  系語尾が優勢である。これは何故だろうか。§ 183, § 184の文は、少くともテンスという観点から見れば、そこには、何等の相違は認められない。それは、この2節に亘る文章を通読していただければ、直ちに了解されることである。筆者が長文に亘る § 183, § 184を敢て文例としてここに表示したのも、先ず第一に、この点を知っていたべきだったからである。即ち  $-ba^2$  系語尾と  $-ju'ü^2$  系語尾の相違は、テンスには求められないということである。それなら、どうして現実にこのような違いが認められるのか。それは話し手或いは書き手の過去に対する動作の把握の仕方にある。即ちその相違は、 $-ba^2$  系語尾が過去の動作を確認(或いは確認扱い)の立場から把握するのに対し、 $-ju'ü^2$  系語尾は、過去の動作を不確認(或は不確認扱い)の立場から把握する点にある。

§ 183の文は、いわばチンギス可汗側で起った内容の記述であり、その動作は話し手(この場合は秘史のこの文の書き手)にとって確認された動作であり——少くとも確認扱いできる動作であり——ここに  $-ba^2$  系語尾のみが現われているのは当然である。「秘史」という文献の著者は不明であるが、成吉思可汗側<sup>サイド</sup>の有力な影の家臣であったことは自明の事柄に属する)。

§ 183の中の、カサルが Baljunada Činggis qahān-dur neyilebe (バルヂュナ湖でチンギス可汗に合した)ことを秘史の著者(編者)は自ら確認したか、或いは確認扱い出来るほど確かな動作として把握したのである。その他の jabqaba, yadaba, sonosdaba, ilebe はカサル自身の言葉として語られた対話文の中にあり、当然  $-ba^2$  系語尾が用いられて然るべき処であり、文末の

kürbe (到った)についても、上の neyilebe と同一に見ることができる。

次節 § 184に移ると、一転して  $-ju'ü^2$  系の語尾が現われる。先ず最初の ügülejü'üi はカサルの使者としてのカリウダル、チャクルカン二人が《話した、語った》のであり、秘史の書き手は、この二人の使者の《話した》動作を勿論確認したわけでない。又、次の qurimlan aju'üi (宴を催していた)動作も不確認の動作である。残りの ileldüjü'üi (使者を)遣り合った), duta'aju'ü (逃げた), aju'ü (であった), qarbuju'ü (射た)も総て、話し手(この場合は、秘史の書き手)にとって不確認の動作である。

しかし、カリウダルとチャクルカンの二人が王汗の使者イトゥルゲンをチンギス可汗の許に abčiraba (連れて来た)のは、ここに  $-ba$  が用いられていることによって、確認された動作であろうことが知られるしチンギス可汗が、「カサルが知るべし(カサルに任せよ)」「と云った」ことや、文末の gēbe (棄てた)ことも、話し手(秘史の書き手)によって、その動作が確認されたので ke'ebe, gēbe と  $-be$  が用いられたとすることが出来る。

〈3〉の文中に五回現われる ködöljü'üi (移動した)はその主体がそれぞれナイマン族のブイルク汗、メルキド族のトクトアの息子のクトゥ、オイラド族のクドガ・ベキ、タイチウド族のアウチュ・バートル、そしてヂャムカである。これらの人々は、総てテムヂンをバルヂュナ湖に追いつめた敵将の族長であり、アンティ・テムヂン陣營に属する人々である。これらの人々の《移動せし》ことを総て ködöljü'üi の如く、 $-ju'ü^2$  系語尾によって秘史の書き手は表現した。筆者は、この事実に注目したい。彼等の《移動した》動作は、確かに秘史の書き手によって目前で確認された動作ではあるまい。しかし、戦の帰趨を分けた、この種の“移動せり”が、秘史の書き手によって認知されなかったことも、これ亦、あり得ないことである。

$-ba^2$  系語尾に「確認扱い」を認めたのと同じ立場に立って、筆者は、 $-ju'ü^2$  系語尾にも「不確認扱い」を認めたい。上の数個の ködöljü'üi は、この「不確認扱い」の  $-jü'üi$  として処理するのが適切と考えられる。

この確認扱い対不確認扱いの考えを、視野を拡げて別の角度から眺めると、更に興味深い事実が現われてくる。

「元朝秘史」という文献の中で展開される、チンギスを中心とする人間関係を大きく、チンギス陣営 [A] 対非チンギス陣営 [B] に二分した時、この [A] 陣営に属する人間の行った動作は「確認扱い」されて  $-ba^2$  系語尾で表示され、之に反し [B] 陣営に属する人々の行った動作は「不確認扱い」されて  $-ju'u^2$  系語尾で表示されるということである。文例〈3〉の多くの  $ködöljü'üi$  はこの大きな原側がそのまま適用された諸例であり、又、〈3〉に現われる *nekebe* (追撃せり)、*qonoba* (宿れり)、*qonolduba* (共に宿れり) などの  $-ba^2$  系語尾も、この原側に立って見れば当然の帰結である。

秘史という文献の世界では、上の様に、チンギス可汗 vs 非チンギス可汗の構図の下に、多くの事象を語りうるが、当然のことながら、この様な構図のわく外で行われる、或いは行なわれた動作も勿論存在する。

文例〈4〉はその種の動作が、秘史蒙古語では、如何に表現されているかを示す好例である。文例〈4〉は秘史卷一、冒頭の一文である。

この冒頭の一文はチンギス可汗の遠祖を語ったモンゴル族の族祖伝説の最初の部分である。こゝには、未だ「チンギス vs. 非チンギス」の構図はない。ここで「確認対非確認」の原理はどのように適用されるか。

《チンギス可汗の根元は、上天よりの命運もて生れしボルテ・チノなりき。その妻コアイ・マラルなりき》

上の二つの“なりき”に当る蒙古語は  $aju'u$ ,  $aji'ai$  である。この両形は、いうまでもなく、 $a-ju'u$ ,  $a-ji'ai$  からなり、 $-ju'u^2$  系語尾が存在を意味する動詞語幹に接尾された形である。

存在——存在も状態も動作の一つの現われ方である——を意味する  $a-$  (ある、いる) に  $-ju'u^2$  系の語尾が附された  $aju'u$  は、上の原則に従えば《あった、いた》存在を、話し手(書き手)が不確認の立場で把握したことを示す形といえる。《あった、いた》という過去の存在を確認してないことは、その過

去における存在(あった、いた)が、話し手(書き手)にとって「未知の存在」であったことに通じる。

「確認 vs 不確認」が、ここでは——存在を意味する動詞の場合には——「既知 vs 未知」という姿を変えた図式で、よりよく説明される可能性がある。

実は、モンゴル系の言語には、《ある、いる》を意味するもう一つの動詞語幹  $bü-$  がある。この  $bü-$  は次項で述べる  $-la'a$  系語尾と合して秘史蒙古語では主として「不列額」 $büle'e$  の形のもとに現われる。

本項の  $aju'u$  に対する、これ以上の探求は、従って、次項の  $büle'e$  への言及の際まで一時預っておきたい。

ここでは、 $aju'u(i)$  は「事物の過去における存在を不確認の立場で把握した形」としておくことにする。

さて、 $aju'u$  の説明が長くなってしまったが、〈4〉には *Tenggis ketüljü irebe* (テンギスを渡りて来りぬ) の *irebe* が見える。この  $-be$  は如何に見るべきか。秘史の書き手にとって、*irebe* は勿論、確認された(来た)ではあり得ないから、これは“確認扱い”された  $-be$  である。それでは、この  $-be$  がどうして確認扱いされ得るか。それは、前文でボルテ・チノとコアイ・マラルの二者が紹介され、その既知の情報の上に立った二者の行った動作として *irebe* が確認扱いされたのであると見ることができる。秘史における、この種の  $-ba^2$  系語尾の用例は間々見られるところである。

以上、 $-ba^2$  系語尾との対比の上で  $-ju'u^2$  系語尾の表わす意義の検討を行った。この検討をふまえて、 $-ju'u^2$  系語尾の意義素を《ある動作が、過去において、話し手(書き手)の不確認のままに行なわれた》と指定する。別な表現を用いれば《話し手の不確認のままに行なわれた過去の動作》と言うことも出来よう。

最後に、 $-ju'u^2$  ( $-ču'u^2$ ) が男性単数形、 $-ju'üi^2$  が複数形なることを文例に従って実証しておこう。

〈2〉の  $ügülejü'üi$  (話した) の主語はカリウダルとチャクルカン、二人の使

## 48 元朝秘史蒙古語文法講義

臣であり、従って複数形  $-ju'ui$  が用いられている。

qurimlan aju'ui も《宴を催していた》のは王<sup>中</sup>合であるが、実質的には勿論、王罕を長とするケレイド族全員である。従って  $aju'ui$  となる。

ileldüjü'üi も成吉思可汗と王<sup>中</sup>罕の両方が ileldü- したので  $-ju'ui$  が用いられた。

次の duta'aju'ü 《逃亡した》の主語はイトゥルゲンであるから、当然  $-ju'ü$  である。

次の二つの aju'ü はともに馬について述べたもので、これも当然単数形である。

qarbuju'ü 《射た》の主語はチャクルカンであって、これ亦  $-ju'ü$  が用いられるべきものである。

以上、 $-ju'ü$  が男性・単数形、 $-ju'ui$  が複数形なることに疑義はない。

次に <4> の aji'ai である。この aji'ai は、§ 155 (五22九) にも nadača egeči Yesüi neretei nadača de'ere qan kü'un-e jokiqui aji'ai-je。《我より、姉のイェスイなる者、我より増して汗<sup>汗</sup>なる人に適するなるぞ》と見え、女性形単数形と見ることが許されよう。秘史には見えないが、他の諸語尾との対比から見て、当然期待される女性形  $-jigi$  ( $-čigi$ ) が [S. M. I. 1315]<sup>(11)</sup> に実証されるのは興味深い。

この  $-jigi$  と秘史の  $-ji'ai$  との関係如何について考えるべきであるが、暫らくは措く。

なお、aju'ü(i) は時に、テンスの観点から見ると、〈過去〉とは見られない場合が少数ではあるが散見される。それ等についても後にふれる機会があろう。

### (f) $-la'ā^2$ , $-la'āi^2$ , $-lu'ā^2$ , $-lu'āi^2$ , $-ligi$ ~ $-liyi$

上記の諸語尾を前述に倣って  $-la'ā^2$  系語尾と呼ぶ。筆者は曾て、小論「中世蒙古語の動詞語尾の体系」<sup>(12)</sup> において、中世蒙古語の動詞終止形語尾群に、性・数による使い分けが存在し、それらが、男性単数形、女性単数形、複数形の範

疇に分けられることを説いた。本稿でも、その枠組みに従って記述を進めているが、上記の拙論では、諸語尾の意義素の記述まで考察を加えることが出来なかった。今回は、その欠を補うために、専ら、上掲論文の基盤の上に立って、又その後の研究の上に立って、意義素の記述に努めながら筆を進めて来ている。(a)~(e) の諸語尾についても、上の観点からの記述に従ったし、今後もこの態度を持しつゝ記述する所存である。

ところで、これから取りあげる  $-la'ā^2$  系語尾は、筆者に上掲論文を執筆させた直接の動機となった語尾群なのである。その意味で、この  $-la'ā^2$  系語尾には、筆者は一種の愛着と懐しさを今でも感じている。閑話休題。

$-la'ā^2$  系語尾の問題点の一つは、蒙古語文語では主流をなす  $-lucā^2$  に当る秘史蒙古語形  $-lu'ā(i)^2$  が、秘史蒙古語では非主流であり、主流をなすのは  $-la'ā(i)^2$  であるという事実である。

$-lu'ā(i)^2$  の用例は秘史12巻に亘って30例を数えるが、 $-la'ā(i)^2$  の用例は、その倍近い51例を数える。動詞語幹  $bü-$  に、語尾  $-la'ā(i)^2$  の附された  $büle'ē$  (186例)、 $büle'ēi$  (36例) を加えれば  $-la'ā^2$  系語尾そのものの使用例は多数にのぼるが、 $büle'ē$ 、 $büle'ēi$  は別に考察することにし、先ず  $-lu'ā(i)^2$  と  $-la'ā(i)^2$  の関係を吟味する必要がある。

蒙古語文語でも古い文献では、例えば [S. M. I. 1335], [S. M. I. 1338], [I. A. 1340]<sup>(14)</sup> に見られるように、 $büle'ē$  に当る  $bülege$  が主流であって、 $bülüge$  はテュルケスタン蒙古語文書の一部にはじめて現われる。従って、 $bülege$  に限って言えば、文語でも  $-legē$  が主に用いられていたと言えよう。

こゝで、 $-la'ā^2$  と  $-lu'ā$  の関係についての考察に入ろう。

### 1. $-la'ā^2$ ~ $-la'āi^2$

<1> § 93 (一34七~35二) 納<sup>中</sup>忽伯顔訥 格児圖児 古児罷 納<sup>中</sup>忽伯顔

人 名 的 家 裏 到 了 人 名  
Naqu bayan-nu ger-tür kürbe. Naqu=bayan  
ナク・バヤンの包に到れり。ナク・バヤン

可兀邊 孛斡兒出宜 札(ト)中合周 你孫 你勸下速巴兒 阿主兀 格捏帖  
 人名 行 失着 弟 淚 教 有來 忽然  
 kö'ü-bēn Bo'örču-yi jabqaju nisun nilbusu-bār aju'ū. gened  
 子 を(己ガ) ボォールチュを 失いて 鼻水 涙 もて ありき。 不意に

古兒帖周 可兀邊 兀者周 你刊帖 委亦刺木 你刊帖 董中豁都木  
 到着 兒自的, 見着 一次 哭有 一次 怪有  
 kürtejü kö'ü-bēn üjeju nikente uijilamu, nikente dunggodumu.  
 掃り到着れて, 子 を(己ガ) 見て 一たびは 泣き 一たびは 叱責せり。

可温亦訥 孛斡兒出鳴詰列舌論 牙温孛斡罷 撒因那可兒 蒙塔你周  
 兒子 他的 人名 說 甚麼 做了 好 伴當 艱難  
 kö'ün inu Bo'örču ügülerün ya'un bolba sayin nökör mungtaniju  
 子 ←彼の ボォールチュの 言うに “何ぞ 起れる, よき 伴 艱難して

阿亦孫 阿主兀 那可徹周 幹都刺阿必 額朶額 亦舌列罷客額惕 合温(勸)周  
 來 有來 做伴着 去了來 我 如今 來了 說了 走馬 着  
 ayisun aju'ū. nököčejü odula'ā bi, edö'e irebe kē'ed ha'ū(n)lju  
 米り ありき。 伴たりて 行きぬ 我, 今 掃り来れり” とて 馳け

幹抽 客額舌列 不中忽黑三 南不中合 撒兀魯中合班 阿(ト)赤舌刺罷。(49)  
 去着 野地裏 蓋了的 皮桶 皮斗 自的 行 將來了  
 odču ke'er-e bugucsan nambuca sa'uluca-bān abčiraba.  
 行きて 草原に 隠せる 皮袋 皮桶 を(己ガ) 持ち来れり。

<2> § 102(一48八~49三) 額迭中忽兒班篋兒乞惕 額兒帖訥 訶額命  
 遺 三箇 種名 在先的 母名  
 ede curban Merkid erten-ü Hö'elün  
 これら 三姓 メルキド族は “古き日の ホェルン・

額客宜 赤列都[迭扯] 不里周 阿卜塔刺埃客延 額朶額 帖舌列幹雪(勸)幹旋  
 母行 人名 自 奪着 被要了 麼道 如今 那 響 報  
 eke-yi Čiledü-deče buliju abtala'ai keyen edö'e tere ösöl ösön  
 エケを チレドより 奪い 取られぬ” とて 今 力の 双みを 報じ

亦舌列(克)薛(惕) 阿主兀 帖迭 篋兒乞惕 鳴詰列勸都舌論 訶額命訥  
 來了 有來 那 種名 共說 母名的  
 iregsed aju'ū. tede Merkid ügüleldürün “Hö'elün-nü  
 来りし なりき。 かれ等 メルキド族の 言い合うに ホェルン の

哈赤阿不舌闌 額朶額 額篋昔阿訥 阿不罷 哈赤顏 阿不舌刺罷 必蒼  
 響 報 如今 婦人每 他的 要了 響自的行 報了 咱  
 hači aburan edö'e emes-i anu abuba. hači-yān aburaba bida  
 仇を 取り, 今 女達を ←彼等の とれり。 仇を(己ガ) 取れり 我等”

客額勸都周 不喇中罕中合勸敦察 保兀周 格亦惕秃舌里顏 阿只舌刺罷。(50)  
 共說着 山 名 自 下着 家裏每 自的 行 回去了  
 ke'eldüju Burqan=qaldun-nača bau'uju geyid-tür-iyen ajiraba.  
 と云い合いて ブルカン・カルドゥン山より 下りて 家々 に ←己ガ 帰還せり。

<3> § 108 (三12三~12七) 札木中合 鳴詰列舌論 孛羅安 別兒  
 人名 說 風雪 也  
 Jamuqa ügülerün boro'an ber  
 ジャムカの 言う “風雪 なり

孛魯阿速 孛斡札勸突舌兒 中忽舌刺別舌兒孛魯阿速 中忽舌刺勸突舌兒 不  
 做阿 約會 裏 雨 也 做阿 聚會 裏 休  
 bolu'asu boljal-dur, qura ber bolu'asu qural-dur bū  
 とも 約會 に, 雨 なり とも 集會 に

中豁只蒼牙 額薛兀 客額勸都列埃 必蒼 忙中豁勸 者 安蒼中合舌兒壇  
 落後咱 不曾 共說 來麼 咱每 達達的 応許声 做響 有的每  
 qojidaya ese'ü ke'eldüle'eji bida, Mongcol je andacartan  
 おくれまい” と云いあわざりや 我等, 「モンゴル族は 『ヂェー』の宣響をもつ

不速秃 者迭扯 中豁只蒼黑撒泥 者舌兒格迭扯 中合舌兒中合牙 客額勸都列埃  
 不有來麼 応許行 落後的 行 班列 裏 教出去咱 共說 來  
 busutü, je-deče qojidacsan-i jerge-deče gargaya ke'eldüle'eji  
 に非ずや, 『ヂェー』より おくれたる を 順列 より 出さん” と云いあえり”

客額罷。(51)  
 說了  
 ke'ebe.  
 と云いぬ。

<4> § 118 (三31二~31六) 訶額命額客宜 董中豁都阿 兀都兀耶  
 婦人名 母行 作声 末  
 Hö'elün=eke-yi dunggodu'ā üdü'üi-e  
 ホェルン・エケ の 言発せ ざる に

李<sup>舌</sup>兒帖兀真 鳴<sup>舌</sup>話列<sup>舌</sup>論 札木<sup>中</sup>合安<sup>舌</sup>蒼 委亦<sup>中</sup>當<sup>中</sup>合 客額<sup>突</sup>顛 不列<sup>顛</sup>額  
 婦人名 說 人名 契合 好萊旧 被說 有来  
 Börte=ujin ügüleriin Jamuqa anda uijidangca ke'egden büle'e,  
 ボルテ・ウジンノ 言う “チャムカ 盟友 あき易し' と云われ ありき、

額<sup>突</sup>朵<sup>突</sup>額 必<sup>舌</sup>蒼<sup>舌</sup>納<sup>舌</sup>察 委亦<sup>中</sup>忽<sup>中</sup>忽 察<sup>黑</sup>字<sup>黑</sup>勒<sup>黑</sup>罷 禿<sup>中</sup>合<sup>舌</sup>命 札木<sup>中</sup>合 安<sup>舌</sup>蒼<sup>因</sup>  
 如今 咱每行 厭的 時 傲了 恰綽的 人名 契合的  
 edö'e bidan-ača uijidqu čag bolba, tugar-un Jamuqa anda-yin  
 今 我等 より 飽くる 時に なれり、 さきほどの チャムカ 盟友 の

客<sup>列</sup>列<sup>克</sup>先 客<sup>連</sup>連 必<sup>舌</sup>蒼<sup>突</sup>兒<sup>兒</sup> 孛<sup>額</sup>額 折<sup>失</sup>失古 兀<sup>格</sup>備<sup>由</sup>……。(52)  
 説来的 話 咱每行 便 欲圖的 言語 有  
 kelelegsən kelen bida-dur bö'ed ješikü üge büyü.  
 語りし 言葉、 我等 にぞ たくらむ 言なり。

<5> § 163 (五34二~35一) 額<sup>迭</sup>迭 朵<sup>舌</sup>兒<sup>邊</sup>邊 曲<sup>魯</sup>兀<sup>的</sup>的 古<sup>舌</sup>兒<sup>恢</sup>恢<sup>因</sup>  
 遺 四 傑 到 時  
 ede dörben külü'üd-i kürküj-yin  
 これら 四人の 俊傑の 到る

兀<sup>舌</sup>里<sup>蒼</sup>蒼 忽<sup>刺</sup>安<sup>中</sup>忽<sup>忽</sup>蒼 朮<sup>昆</sup>昆 擺<sup>亦</sup>亦<sup>都</sup>都<sup>中</sup>忽<sup>忽</sup> 孛<sup>命</sup>命 秣<sup>舌</sup>兒<sup>納</sup>納<sup>安</sup>安 中<sup>忽</sup>忽<sup>牙</sup>牙  
 先 地名 行 人名 對陣 傲 馬 自的 驅  
 urida Hula'an=cud-da Senggüm baiyilduqu bolun morin-u'an guya  
 さきに フラアン・ゴド にて セングム 對戦する にいたり、 馬 の(己が) 復脚を

中<sup>合</sup>黑<sup>蒼</sup>蒼周 阿<sup>卜</sup>蒼<sup>中</sup>忽<sup>忽</sup> 孛<sup>勒</sup>勒周 不<sup>恢</sup>恢<sup>突</sup>突<sup>舌</sup>兒<sup>兒</sup> 額<sup>迭</sup>迭 朵<sup>舌</sup>兒<sup>邊</sup>邊 曲<sup>魯</sup>兀<sup>楊</sup>楊  
 被射着 被捉 傲着 有 時 這 四 傑 每  
 qacdaju abdaqu bolju büküj-dür ede dörben külü'üd  
 射られ 捉らわことに なりて ある 時、 これら 四人の 俊傑

古<sup>舌</sup>兒<sup>抽</sup>抽 阿<sup>不</sup>不<sup>舌</sup>刺<sup>阿</sup>阿<sup>楊</sup>楊 亦<sup>舌</sup>兒<sup>格</sup>格 幹<sup>舌</sup>兒<sup>中</sup>中<sup>合</sup>合 額<sup>箴</sup>箴<sup>兀</sup>兀 不<sup>古</sup>古<sup>迭</sup>迭<sup>宜</sup>宜 阿<sup>不</sup>不<sup>舌</sup>刺<sup>周</sup>周  
 到着 教了 百姓 人烟 妻子 都 行 教着  
 kürčü abura'ad irge orca eme kö'ü bügüde-yi aburaju  
 到り 教いて 人衆 散民 妻子 すべて を 教い

幹<sup>克</sup>罷<sup>伯</sup>伯 田<sup>迭</sup>迭 王<sup>中</sup>罕<sup>罕</sup> 鳴<sup>話</sup>話<sup>列</sup>列<sup>舌</sup>論 額<sup>舌</sup>兒<sup>迭</sup>迭 撒<sup>因</sup>因 額<sup>赤</sup>赤<sup>格</sup>格<sup>迭</sup>迭 [赤]納<sup>納</sup>  
 与了 那裏 人名 說 在前 好 父 行 <你>的  
 ögbe. tende Ong qan ügüleriin “erde sayin ečige-de činu  
 与えぬ。 そこに オン 汗の 言う “かって よき 父 に ← 故の

額<sup>捏</sup>箴<sup>圖</sup>圖 幹<sup>敦</sup>敦<sup>巴</sup>巴<sup>舌</sup>刺<sup>黑</sup>黑<sup>三</sup>三 兀<sup>魯</sup>魯<sup>昔</sup>昔<sup>顏</sup>顏 阿<sup>不</sup>不<sup>舌</sup>刺<sup>周</sup>周 幹<sup>克</sup>帖<sup>列</sup>列<sup>額</sup>額 額<sup>朵</sup>朵<sup>額</sup>額 巴<sup>撒</sup>撒  
 這 殺 去 了 了的 百姓 自的 行 教 着 被与了 如今 再  
 ene metu odun baracsan ulus-iyän aburaju ögtele'e, edö'e basa  
 かくの 如く 行き はてし 民人 を(己が) 教い 与えられき、 今 また

可<sup>兀</sup>兀<sup>納</sup>納<sup>延</sup>延 幹<sup>敦</sup>敦<sup>巴</sup>巴<sup>舌</sup>刺<sup>黑</sup>黑<sup>三</sup>三 兀<sup>魯</sup>魯<sup>昔</sup>昔<sup>米</sup>米<sup>納</sup>納 朵<sup>舌</sup>兒<sup>邊</sup>邊 曲<sup>魯</sup>魯<sup>兀</sup>兀<sup>的</sup>的<sup>顏</sup>顏  
 子 自的 行 去 了 了的 百姓 行 我的 四 傑 自的 行  
 kö'ün-ü-yen odun baracsan ulus-i minu dörben külü'üd-iyen  
 子の ←己が 行き はてし 民人を ←わが 四人の 俊傑 を(己が)

亦<sup>舌</sup>列<sup>周</sup>周 阿<sup>不</sup>不<sup>舌</sup>刺<sup>周</sup>周 幹<sup>克</sup>帖<sup>罷</sup>罷<sup>原作</sup> 哈<sup>赤</sup>赤 中<sup>合</sup>里<sup>兀</sup>兀<sup>中</sup>忽<sup>忽</sup>忽<sup>宜</sup>宜 騰<sup>格</sup>格<sup>舌</sup>理<sup>理</sup>  
 <去>着 教 着 被与了 恩 回的 行 天  
 ilejü aburaju ögtebe. hači qari'ülqu-yi tenggeri  
 遣わし 教い 与えられたり。 恩を 返すべき を 天

中<sup>合</sup>札<sup>舌</sup>舌<sup>命</sup>命 亦<sup>赫</sup>赫<sup>額</sup>額<sup>勒</sup>勒 箴<sup>迭</sup>迭<sup>禿</sup>禿<sup>該</sup>該 客<sup>額</sup>額<sup>罷</sup>罷。(53)  
 地 護助 知道 者 說了  
 gajar-un ihe'eil medetügej ke'ebe.  
 地の 加護の 知るべし' と云いぬ。

<6> § 196 (七44二~44五) 塔<sup>陽</sup>陽<sup>温</sup>温 額<sup>客</sup>客 古<sup>兒</sup>兒<sup>別</sup>別<sup>速</sup>速<sup>宜</sup>宜 成<sup>吉</sup>吉<sup>思</sup>思  
 人名 的 母 名 行 太祖  
 Tayang-un eke Gürbesü-yi Činggis  
 タヤン の 母 グルベス を チンギス

中<sup>合</sup>罕<sup>罕</sup>罕 阿<sup>卜</sup>赤<sup>舌</sup>刺<sup>兀</sup>兀<sup>勒</sup>勒<sup>周</sup>周 鳴<sup>話</sup>話<sup>列</sup>列<sup>舌</sup>論 赤<sup>赤</sup>赤 忙<sup>中</sup>中<sup>豁</sup>豁<sup>命</sup>命 忽<sup>你</sup>你<sup>舌</sup>兒<sup>兒</sup>兒 卯<sup>危</sup>危  
 皇帝 教 將 来 着 說 你 連連的 氣息 牙  
 qahān abčira'ülju ügüleriin či Monggol-un hünir ma'ui  
 可汗 つれ来さしめて 言う “汝、 ‘モンゴル’ の 匂い 悪し'

客<sup>額</sup>額<sup>周</sup>周 額<sup>薛</sup>薛<sup>兀</sup>兀 不<sup>列</sup>列<sup>額</sup>額 額<sup>朵</sup>朵<sup>額</sup>額 也<sup>勤</sup>勤 亦<sup>舌</sup>列<sup>罷</sup>罷<sup>原作</sup> 赤<sup>赤</sup>赤 客<sup>額</sup>額<sup>周</sup>周 成<sup>吉</sup>吉<sup>思</sup>思  
 說着 不曾 有来 如今 如何 来了 你 說着 太祖  
 ke'eju ese'ü büle'e, edö'e yekin irebe čiči ke'eju Činggis  
 と 言わざりしや、 今 なんぞ 来れる 汝' と云いて チンギス

中<sup>合</sup>罕<sup>罕</sup>罕 阿<sup>不</sup>不<sup>刺</sup>刺<sup>阿</sup>阿。(54)  
 皇帝 要了 来  
 qahān abula'a.  
 可汗 (彼女を) 取りぬ。

〈1〉から〈6〉まで、 $-la'ā(i)^2$ の用例のみを挙げた。〈1〉の  $odula'ā\ bi$  の用例から  $-la'ā^2$  が男性単数形なること明かである。この  $bi$  は  $Bo'örču$  だからである。ところで、この一文は、 $Načū$  が自分の息子の  $Bo'olču$  が何処かに行つて了つて悲しんでいるところに  $Bo'olču$  が帰つて来て、悲しんでいる父親の有様を見て“いかにぞなれる、よき友の艱難して来りあり、友たりて行けり我 ( $odula'ā\ bi$ )、今 (帰) 来りぬ ( $edö'ē\ irebe$ )” と  $Bo'olču$  が父親の  $Načū$  に対して語つた言葉である。ここで注意すべきは“友たりて行ける ( $odula'a$ )”の  $odula'ā$  は“今、帰来りぬ ( $edö'ē\ irebe$ )”より《以前の動作》である。即ちテンスの観点からすれば、 $irebe$  より  $odula'ā$  は《より以前の、より過去》の動作を表わしていることである。この点に注意をはらいながら  $-la'ā^2$  系語尾の用例を調べて見ると、この現象は、すべての  $-la'ā^2$  系語尾によく適合することが知られる。

〈2〉の  $Hö'elün\ eke-yi\ Čiledü-deče\ buliju\ abtala'āi$  《“ホエルン・エケをば、チレドの許より奪い取られたり”》の  $buliju\ abtala'āi$  も  $edö'ē\ tere\ ösöl\ ösön\ iregsed$  《今、その讐みを報じ来りし》よりも過去の行為である。

更に〈3〉の  $ese'ü\ ke'eldüle'ei\ bida$  《～と言ひ合わざりしか》の  $ke'eldüle'ei$  《～と言ひ合ひたり》は  $čamga$  がこの言を發した時点より明かに以前の行為である。

〈4〉  $ke'egden\ büle'ē$  《～と云われている》も  $edö'ē\ bidan-ača\ ujuqu\ čag\ bolba$  《今、我等より倦む時となれり》の《なれり》より過去のことである。

〈5〉の  $ögtele'ē$  《与えられたり》も亦、 $edö'ē\ basa……aburaju\ ögtebe$  《今また……救い与えられぬ》の時より過去のことである。

〈6〉の  $ke'ejü\ ese'ü\ büle'ē$  《～と云わざりしや》も直後の  $edö'ē\ yekin\ irebe\ či$  《今、なんぞ来れる汝》と比して、時間的には明かに以前の行為である。

このように、語尾  $-la'ā(i)^2$  はテンスの点から見れば、発話時の過去のもう一段前の過去を表わす語尾である。従つて「 $erte-la'ā(i)^2……edö'ē-ba(i)^2$ 」

の文形を示すことが多く、ここに挙げた〈4〉、〈5〉にもその形が見えている。

《かつて～した、そして今また～した》と一般化するこの文形の前項の《～した》を  $-la'ā(i)^2$  は表示するものであると言うことができる。

上例の〈1〉の  $odula'ā$ 、〈2〉の  $abtala'āi$ 、〈3〉の  $ke'eldüle'ei$ 、〈4〉の  $büle'ē$ 、〈5〉の  $ögtele'ē$ 、〈6〉の  $abula'ā$  には  $-la'ā^2$  と  $-la'āi^2$  との両者が見え、 $-la'ā^2$  が男性単数であることは上述の通りであるが、 $-la'āi^2$  の方も複数形と認めうることは用例を注意深く読めば、自ずと了解される。〈2〉の  $abtala'āi$  の直後にかりに主語を挿入するとすれば、筆者は躊躇することなく、 $ba$  《我々 exclusive》を入れるであろうし、巻二において「 $ba$ 」の註記が取入れられてあつたとしたら、〈2〉の「阿不罷、阿不<sub>舌</sub>刺罷、阿只<sub>舌</sub>刺罷」の後には必ずや「阿不罷<sub>原</sub>」の如く見られたであろう。

〈3〉の  $ke'eldüle'ei$  の  $-le'ei$  については何の説明の要もあまい。直後に  $bida$  《我々, inclusive》が見られる。

〈4〉の  $büle'ē$ 、〈5〉の  $ögtele'ē$ 、〈6〉の  $abula'ā$  についても男性単数形なることに何等の疑問の余地はない。

$-la'ā^2$  系語尾の意義素の措定に先立って、秘史蒙古語ではマイナーな地位にあると云つても、語尾  $-lu'ā(i)^2$  について検討する必要がある。

## 2. $-lu'ā^2\sim-lu'āi^2$

〈1〉 § 145 (四42九～43五) 必帖因 薛揚乞周 中合阿訥 杭(中)合黑三  
 我 那般 想着 皇帝的 枯渴了的  
 $bi\ teyin\ sedkijü\ qa'an-u\ hanggacsan$   
 “我 かく 思いて 「可汗の 喉かわきたる

薛揚乞勸 額(舌)魯思速該 客延 你敦 中合舌刺 額因 薛揚乞周 幹都魯阿  
 心 趣上 麼道 眼 黑 這般 想着 去了來  
 $sedkil\ erüssügei\ keyen\ nidün\ qara\ eyin\ sedkijü\ odulu'ā$   
 心に 到らん とて 向うみずに かく 思いて 行きぬ



必<sup>原</sup>客額<sup>別</sup>成吉思<sup>中</sup>合罕<sup>罕</sup> 鳴<sup>語</sup>詰<sup>列</sup>論<sup>論</sup> 額<sup>朵</sup>額<sup>額</sup> 牙<sup>温</sup> 客<sup>額</sup>古<sup>古</sup> 額<sup>舌</sup>兒<sup>帖</sup>帖

我 說了 皇帝 說 如今 甚麼 說 在前  
 bi ke'ēbe. Činggis qahān ügülerün edö'ē ya'un ke'ēkü, erte  
 我 と云いたり。 チンギス 可汗の 言う “今 何か 言はん、 古き

兀<sup>都</sup>兒<sup>兒</sup> (中)忽<sup>舌</sup>兒<sup>班</sup>班<sup>篾</sup>篾<sup>兒</sup>乞<sup>楊</sup>楊 亦<sup>舌</sup>列<sup>周</sup>周 不<sup>舌</sup>峒<sup>中</sup>罕<sup>泥</sup>泥 中<sup>忽</sup>兒<sup>班</sup>班<sup>蒼</sup>蒼

日子 三 種 名 來着 山 行 三 次  
 üdür gurban Merkid irejü Burqan-ni gurbanda  
 日 三姓 メールドの 来りて ブルカン山 を 三たび

中<sup>忽</sup>赤<sup>兀</sup>兀<sup>中</sup>中<sup>灰</sup>突<sup>舌</sup>兒<sup>兒</sup> 阿<sup>民</sup>民 米<sup>訥</sup>訥 你<sup>刊</sup>刊<sup>帖</sup>帖 阿<sup>卜</sup>抽 中<sup>合</sup>魯<sup>魯</sup>魯<sup>阿</sup>阿 赤

教 繞 時 性命 我的 一次 得着 出了 來 你  
 quči'ülquj-dur amin minu nigente abču garulu'ā čī,  
 めぐらされる 時 命を ← わが 一たび とり 出でぬ 汝、

額<sup>朵</sup>額<sup>額</sup> 巴<sup>撒</sup>撒 哈<sup>黑</sup>抽<sup>抽</sup> 不<sup>恢</sup>恢 赤<sup>速</sup>泥<sup>泥</sup> 阿<sup>馬</sup>阿<sup>舌</sup>兒<sup>兒</sup> 食<sup>民</sup>民<sup>周</sup>周 阿<sup>民</sup>民 米<sup>訥</sup>訥

如今 又 乾 着 有的 血 行 教 口 啞着 性命 我的  
 edö'ē basa hacču büküj čisun-i ama'ār simi(n)jü amin minu  
 今 また 乾き ある 血 を 口もて 吸いて 命を ← わが

僧<sup>帖</sup>帖<sup>龍</sup>龍 赤<sup>龍</sup>龍<sup>別</sup>別 (55)

開 豁 了 你  
 sengtelbe čī.  
 開けり 汝。”

<2> § 255 (±30六~31二) 額<sup>舌</sup>兒<sup>帖</sup>帖 阿<sup>勒</sup>壇<sup>壇</sup> 中<sup>忽</sup>察<sup>舌</sup>兒<sup>兒</sup> 中<sup>豁</sup>牙<sup>舌</sup>兒<sup>兒</sup>

erte Altan Qučar qoyar  
 “かつて アルタン クチャル 二人

額<sup>捏</sup>捏 篾<sup>凶</sup>凶 兀<sup>格</sup>格 巴<sup>舌</sup>刺<sup>勒</sup>都<sup>周</sup>周 只<sup>池</sup>池 兀<sup>格</sup>思<sup>舌</sup>里<sup>顏</sup>顏 兀<sup>祿</sup>祿 古<sup>舌</sup>兒<sup>古</sup>因<sup>因</sup>

這 般 言語 議定了 着 却 言語每 自的 行 不 到 的  
 ene metü üge baralduju jiči üges-tür-iyēn ülü kürkü-yin  
 かくの 如き 言を 定め合いて、 むしろ 言辭 に ←彼等の 到らざる の

秃<sup>刺</sup>刺 客<sup>舌</sup>兒<sup>兒</sup> 乞<sup>克</sup>迭<sup>魯</sup>魯<sup>埃</sup>埃 黯<sup>巴</sup>巴<sup>兒</sup>兒 孛<sup>勒</sup>中<sup>合</sup>黑<sup>蒼</sup>魯<sup>埃</sup>埃 額<sup>朵</sup>額<sup>額</sup> 阿<sup>勒</sup>壇<sup>壇</sup>

上 頭 怎 被 做 來 怎 被 做 了 來 如今 人 名  
 tula ker kigdelü'ej, yambar bolgacdalū'aj, edö'ē Altan  
 故 いかにか 為されたる、 いかにぞ 為されたる、 今 アルタン

中<sup>忽</sup>察<sup>舌</sup>兒<sup>兒</sup> 中<sup>豁</sup>牙<sup>舌</sup>兒<sup>兒</sup> 兀<sup>魯</sup>兀<sup>蒼</sup>蒼<sup>察</sup>察 壇<sup>魯</sup>魯<sup>阿</sup>阿 撒<sup>勒</sup>中<sup>合</sup>勒<sup>都</sup>都<sup>牙</sup>牙 帖<sup>迭</sup>迭<sup>泥</sup>泥

人 名 兩 箇 子孫每 行 您 一同 教 分 咱 他 每 行  
 Qučar qoyar-un uru'üd-ača tan-lu'ā salgalduya, teden-i  
 クチャル 二人の 親族 より 汝等 と 分けあわせしめん、 彼等を

兀<sup>者</sup>者<sup>周</sup>周 牙<sup>兀</sup>兀 幹<sup>幹</sup>幹<sup>勒</sup>勒<sup>蒼</sup>蒼<sup>中</sup>中<sup>渾</sup>渾 塔<sup>塔</sup>塔 客<sup>額</sup>額<sup>額</sup>額<sup>楊</sup>楊 幹<sup>歌</sup>歌<sup>歹</sup>歹 牙<sup>兀</sup>兀 客<sup>額</sup>額<sup>木</sup>木 客<sup>列</sup>列<sup>列</sup>列

看 着 如 何 怠 慢 了 您 說 了 人 名 甚 說 有 說  
 üjejü ya'ü osoldaqun ta ke'ē'ed Ögödej ya'ü ke'emü, kelele  
 見て(あらば) 何を 誤つべき 汝等” と云いて “オゴデイ 何 と云うや、 述べよ”

客<sup>額</sup>額<sup>龍</sup>龍<sup>別</sup>別 (56)

說 了  
 ke'ēbe  
 と云いぬ。

<3> § 256 (±35一~35五) 成<sup>吉</sup>思<sup>中</sup>中<sup>合</sup>罕<sup>罕</sup> 秣<sup>舌</sup>駟<sup>刺</sup>刺<sup>舌</sup>龍<sup>龍</sup> 唐<sup>兀</sup>兀<sup>楊</sup>楊

太 祖 皇 帝 上 馬 時 種  
 Činggis qahān morilarun Tangūd  
 チンギス 可汗 出馬するに タングートの

亦<sup>舌</sup>兒<sup>格</sup>格<sup>訥</sup>訥 不<sup>舌</sup>兒<sup>中</sup>罕<sup>突</sup>突<sup>舌</sup>兒<sup>兒</sup> 額<sup>勒</sup>勒<sup>臣</sup>臣 亦<sup>列</sup>列<sup>舌</sup>龍<sup>龍</sup> 巴<sup>舌</sup>額<sup>温</sup>温 中<sup>合</sup>兒<sup>兒</sup> 赤<sup>訥</sup>訥 孛<sup>勒</sup>速<sup>速</sup>

百 姓 的 人 名 行 使 臣 差 時 右 手 你的 做 我  
 irgen-ü Burqan-dur elčün ilerün bara'un gar činu bolsu  
 人衆 の ブルカン に 使者を 遣りて言う “右 手 ← 汝の たらん”

客<sup>額</sup>額<sup>魯</sup>魯<sup>額</sup>額 赤<sup>赤</sup>赤 撒<sup>舌</sup>兒<sup>塔</sup>塔<sup>兀</sup>兀<sup>勒</sup>勒 亦<sup>舌</sup>兒<sup>格</sup>格<sup>捏</sup>捏 阿<sup>勒</sup>壇<sup>壇</sup> 阿<sup>舌</sup>兒<sup>中</sup>含<sup>只</sup>只<sup>額</sup>額 塔<sup>速</sup>速<sup>勒</sup>勒<sup>蒼</sup>蒼<sup>周</sup>周

說 來 你 回 回 百 姓 行 金 麼 繩 自 的 行 被 斷 着  
 ke'ēlü'e čī, Sarta'ül irgen-e altan argamji-yān tasuldaju  
 と云いぬ 汝、 サルタウールの 人衆 に 黄金の 絆繩 を(己が) 断たれ

幹<sup>魯</sup>魯<sup>勒</sup>勒<sup>滌</sup>滌 秣<sup>舌</sup>駟<sup>刺</sup>刺<sup>龍</sup>龍<sup>龍</sup> 必<sup>必</sup>必 巴<sup>舌</sup>刺<sup>温</sup>温 中<sup>合</sup>兒<sup>兒</sup> 孛<sup>龍</sup>龍 秣<sup>舌</sup>駟<sup>刺</sup>刺<sup>龍</sup>龍<sup>龍</sup> 客<sup>額</sup>額<sup>周</sup>周

折 証 上 馬 了 我 右 手 做 上 馬 說 着  
 olulčan morilaba bi, bara'un gar bolun morila" ke'ejü  
 確認すべく 出馬せり 我、 右 手 となりて 出馬せよ” と云い

亦<sup>列</sup>列<sup>額</sup>額<sup>速</sup>速……。(57)

去 阿  
 ile'ēsü…….  
 遣らば……。

<4> § 177 (六21十~22九) 必蒼 中豁牙舌兒 牙兀 客額勒都列埃  
 咱 兩箭 甚麼 共說了來  
 bida qoyar ya'ū ke'eldüle'ei  
 “我等 二人 何 と云い合いたるや”

勺舌峯中合勅中忽訥 忽刺阿訥峯楊 孛勒蒼峯楊塔 必蒼 額薛兀 鳴話列勒都魯埃  
 山名 的 山名 行 咱 不当 共 說 來 慶  
 Jorcal=cun-u Hula'an-u'ūd bolda'ūd-ta bida ese'ū ügüleldülü'ei,  
 チョルガル・グンの フラアーンの峯々, ボルダクの峯々に 我等 語り 合わざりしか,

速都禿 抹中合牙 雪都舌兒帖額速 雪都舌兒堅突舌兒 亦訥 不幹舌羅牙  
 牙有的 蛇行 被挑咬呵 挑咬 裏 他的 休入咱  
 südü'tü mocaj-a südürte'ēsü südürgen-dür inu bū oroya,  
 齒ある 蛇行 そそのかさるも そそのかしに ← その入るまじ,

速都額舌兒 阿馬阿舌兒 幹魯勒察周 不失舌列耶 額薛兀 客額勒都列埃  
 牙教 口教 对証着 信咱 不曾 共說來慶  
 südü-'ēr ama-'ār olulčaju büšireye ese'ū ke'eldüle'ei,  
 齒もて 口もて 確かめ合い 信じ合わん と云わざりしか,

額染額 中罕 額赤格米訥 速都額舌兒 阿馬阿舌魯 幹魯勒察周 中合中合察罷  
 如今 皇帝 父 我的 牙教 口教慶 对証着 分離了  
 edö'e qan ečige minu südü-'ēr ama-'ār olulčaju qacačaba  
 今 汗なる 父 ← わが 齒もて 口もて 確かめ合いて はなれたり

赤……。(58)  
 你  
 či…….  
 故……。

<5> § 223 (九30一~30五) 巴撒 古出古(舌)兒 抹赤蒼 亦舌兒格  
 再 人名 木匠行 百姓  
 basa Küčügür moči-da irge  
 また クチュグル 木匠に “人衆”

禿塔黑蒼周 額你迭徹 田迭徹 中忽卜赤周 札蒼舌刺納察 木勅中合勅中忽  
 被欠着 這処 那処 取捨着 種名 処 人名  
 tutačadaju ende-če tende-če gubčiju, Jadaran-ača Mulqalqu  
 足りず, ここより そこより 徴収し—チャダランより ムカルク

主乞耶舌兒 那可扯魯額 古出古(舌)兒 木勅中合勅中忽 中豁牙舌兒 你客捏  
 正依着 做伴來 人名 人名 兩箭 一行  
 jüg-iyēr nököcelü'e, Küčügür Mulqalqu qoyar niken-e  
 親しく 伴たりぬ— クチュグル ムカルク 二人 一緒に

敏中合刺周 額耶禿勒都周 阿楊中渾客額罷。(59)  
 千戸敬着 商量着 住您說了  
 mingcalaju eyetüldüjü adqun ke'ēbe.  
 千戸たりて 相はかりて あれ”と云いぬ。

この語尾 -lu'ā<sup>2</sup>~ -lu'āi<sup>2</sup> の用例は, -la'ā<sup>2</sup>~ -la'āi<sup>2</sup> に比して少なく, 総計 27例を数えるのみである。中でも -lu'āi<sup>2</sup> は僅か3例に過ぎない。

興味深いことは近世以後の文語形 bülüge に当る \*bülü'e が秘史には一例をも数えられないことである。büle'e 170例, büle'ei 31例の多きにのぼる事実から考えると, \*bülü'e が一例も見られないことは, 秘史の土台となった中世期の蒙古語には, -lu'ā(i)<sup>2</sup> そのものは用いられたものの, bülü'e は存在しなかったと見るべきであろうか。この問題は後でもう一度取上げるのでここでは -lu'ā(i) の吟味に移ろう。

<1> はチャムカ連合軍とのコイテンでの戦闘で重傷を負ったチンギス可汗をヂェルメガ献身的に介抱し, 裸になって敵陣に忍び込み, チンギスの渴を癒すべくタラグ(一種のヨーグルト)を持ち来って与えた件の一文である。ここに見える odulu'ā, carulu'ā の後者の -lu'ā は前項 -la'ā<sup>2</sup> の項で見た「erte …—la'ā(i)<sup>2</sup>, edö'e…—ba<sup>2</sup>」の様式のままであり, -la'ā(i)<sup>2</sup> の代りに -lu'ā が現われていることを知る。即ち -lu'ā(i)<sup>2</sup> も発話時の過去より更に以前の過去を示している。odulu'ā の -lu'ā もヂェルメの発話時より以前の行為が odulu'ā (行った) で示されている。

<3> の ke'elü'e čī (言えり汝) もタングドのブルカンが《(かつて) 汝の右手にならんと言えり汝》とチンギスに誓約した時のことを述べたもので, サルタウルの人衆に向って《出陣せり我》の時点より以前の行為を示している。

<4> の ügüleldülü'ei の -lü'ei も「より古い過去」を示し, 他の用例に準

じて扱ひ得るが〈2〉の *kigdelü'ëi* と *bolcaçdalu'ai* と共に、これら *-lu'ai*<sup>2</sup> をもつ動作の主体が複数である処から見て、*-lu'ai*<sup>2</sup> は *-lu'a*<sup>2</sup> の複数形なることが知られる。

〈5〉の *nököçelü'e* 《友たりき》も「より古い過去の時からの動作として *nököçe-*《友となる、友として交わる》を捉えたものである。(なお、この § 223 の読解については、筆者の『元朝秘史全訳統攷(中)』の p. 250~p. 252 参照)

以上によって *-lu'a*<sup>2</sup> は単数男性形、*-lu'ai*<sup>2</sup> は複数形なることが明かであり、それは *-la'a*<sup>2</sup> が単数男性形、*-la'ai*<sup>2</sup> が複数形なることと全く平行的である。*-la'a(i)*<sup>2</sup>、*-lu'a(i)*<sup>2</sup> とともに、テンスの点から見れば《発話時の過去より以前の過古》を表わす語尾と規定し得よう。

ところで、この *-la'a*<sup>2</sup> 系語尾は *-ba*<sup>2</sup> 系語尾、*-ju'u*<sup>2</sup> 系語尾と比較すると、その用例は多くはない。*-ba*<sup>2</sup> 系語尾の出現の 800 以上、*-ju'u*<sup>2</sup> 系語尾の出現の 330 以上に較べると、*-la'a*<sup>2</sup> 系語尾の使用例 77 は遙かに少ない。もっとも、*büle'e* が 186 例、*büle'ëi* が 36 例数えられるので、これを加えれば 299 例になり、*-ju'u*<sup>2</sup> 系語尾との差はそれほどなくなる。*-ju'u*<sup>2</sup> 系語尾の 330 例以上の中には、*aju'u* 79 例、*aju'üi* 18 が含まれていることも忘れてはなるまい。

ここで *-la'a(i)*<sup>2</sup> と *-lu'a(i)*<sup>2</sup> との関係如何を考察する順序となった。*-i* 系語尾はここでも複数形であることがすでに証されているので、基本的には *-la'a*<sup>2</sup> と *-lu'a*<sup>2</sup> とは如何なる関係にあるかが考察されねばならない。

先ず *-lu'a*<sup>2</sup> の用例を見よう。*-lu'a*<sup>2</sup> の用例そのものは秘史全巻を通じて 27 例であるが、上には、その一部を挙げた。〈1〉の *odulu'a bi* はヂェルメがチンギスに向って話した言葉の中で用いられ *carulu'a çi* は逆にチンギスがヂェルメに向けて発した言葉の中で用いられている。

〈3〉の *ke'ëlü'e çi* もチンギスが西夏のブルカンに対して発した言辞の中にあり、〈5〉の *nököçelü'e* も又、家臣である *Güçügür* に対し、チンギスが発した言辞の中にある。

この様に *-lu'a*<sup>2</sup> は総て、「対話文」の中に見られ、いわゆる「地の文」で用いられることは極めて稀である。これは *-lu'a* に限らず、*-la'a*<sup>2</sup> 系語尾総てにあてはまる大きな特色である。*-ba*<sup>2</sup> 系語尾や *-ju'u*<sup>2</sup> 系語尾は、「対話文」、「地の文(敘述文)」の別なく平均的に用いられるが、*-la'a*<sup>2</sup> 系語尾はそうではない。*(büle'e(i))* はその唯一の例外であり、「敘述文」における用例も多く認められる。

さて、〈1〉の *odulu'a bi* 《我行けり》の *bi* はヂェルメであり、彼ヂェルメが主君のチンギスに向って自分の行った行為 *odulu'a* を示している。即ち主君(優位にある話し相手)に対し、劣位にある話し手 *bi* が自己の行為を報じた述語動詞の中に *-lu'a* は用いられている。

翻って〈2〉の *carulu'a* は優位にある話し手チンギスが、劣位にある話し相手 *çi* の行為を述べた述語動詞の中に *-lu'a* が用いられている。

〈3〉の *ke'ëlü'e* の *-lü'e* も〈2〉の *-lu'a* と同様、チンギスが話し相手の“汝ブルカン”の行為を報じた述語動詞として用いられている。〈5〉の *nököçelü'e* の *-lü'e* も劣位にある話し相手自身の行為を述べた述語動詞の中にある。

〈1〉の *-lu'a* と〈2〉、〈3〉、〈5〉の *-lu'a*<sup>2</sup> の違いは、〈1〉が「劣位者→優位者」の線の対話文であるに対し、〈2〉、〈3〉、〈5〉の場合は「優位者→劣位者」の線の対話文であることであり、更に〈1〉においては劣位者が、自己の行為を述べた述語動詞の中に *-lu'a* が用いられているのに対し、〈2〉、〈3〉、〈5〉においては、優位者が相手(劣位者)の行為を報じた述語動詞の中に *-lu'a*<sup>2</sup> が用いられている点にある。しかし、この〈1〉、〈2〉、〈3〉、〈5〉の文を熟視すれば、そこに共通する姿がある。*-lu'a*<sup>2</sup> は上例の総てにおいて「劣位者」の行為を描述した述語動詞の中に現われていることである。

この「劣位者」及び「劣位者扱いされる者」の行為を描述するのが *-lu'a*<sup>2</sup> 系語尾であり、それ以外の場合には *-la'a*<sup>2</sup> 系語尾が用いられるとすれば、*-lu'a*<sup>2</sup> 系語尾と *-la'a*<sup>2</sup> 系語尾の関係を一律に取扱うことができると考えられる。

*-lu'a*<sup>2</sup> 系語尾全 27 例の中、上には 4 例を示したのみであるが、残りの 23 例は

- § 44 (一26四) a-lu'ā 《いた, あった》; § 62 (一43一) ayisu-lu'ā 《近づいた》
- § 72 (二3七) nidura-lu'ā 《涸れた》; § 158 (五28九) bariqda-lu'ā 《捉えられた》
- § 170 (六4九), § 170 (六6四), § 179 (六35八) yabu-lu'ā 《行った》
- § 193 (七25三) baq'ū-lu'ā 《下りた》; § 197 (七47六) idqa-lu'ā 《諫めた》
- § 246 (十44七) baracda-lu'ā 《終えられた》; § 271 (十二19九) talbi-lu'ā 《放った》
- § 72 (二3八) čēüre-lü'ē 《酔けた》; § 85 (二23六) kele-lü'ē 《言った》
- § 177 (六22二) ügüleldü-lü'ē 《話し合った》; § 198 (八5一) ke'ē-lü'ē 《〜と云った》
- § 245 (十35六) ile-lü'ē 《遺った》; § 252 (十二16六) ögü-lü'ē 《与えた》
- § 254 (十二22九) ke'ēgde-lü'ē 《〜と云われた》; § 255 (十二30八) kikde-lü'ē 《された》
- § 255 (十二35二) ke'ē-lü'ē 《〜と云った》;
- § 265 (十二4六), § 265 (十二4八) ügüle-lü'ē 《話した》
- § 272 (十二23六) ke'ēgde-lü'ē 《〜と云われた》

以上の如くである。これらは総て「劣位者」又は「劣位者扱いされる者」の行為を描述する述語動詞の語尾として用いられている。しかし、

§ 179 (六35七~35九) 阿勒塔泥 赤馬宜 中忽秃刺中罕 魯 篋顛  
 人名行 你行 人名 皇帝 但 管  
 Altan-i čimayi Qutula qan-lu meden  
 “アルタンを お前を 「クトゥラ 汗 が 治め

迂歩魯阿 刺赤格余延 篋顛 阿黑撒阿吉兒 赤中罕 孛勤客額速  
 行 來 父 目的 管 住来的依着 你 皇帝 做 說阿  
 yabulu'ā ečiǵe-yüyēn meden aqsa'ār čī qan bol kē'ēsü  
 ゆきたり、 父 の(己が) 治め ありたるにより 汝 汗 たれ' と云えど

額薛古 孛勤罷者 赤 (60)  
 不曾也 背敢也者 你  
 ese-kü bolba-je čī.  
 背せさりしぞ 汝

における yabulu'ā は“クトゥラ汗治めゆけり”の yabulu'ā であるから劣位者と見ることは出来ない感がある。これなどは yabula'ā とあって然るべきであろうが、敢て言うならば、この場における劣位者アルタンに対してチンギスが発している言葉故に yabulu'ā が用いられたかとも思える。その他の、例えば(二3七)の niduralu'ā 《涸れた》、(二3八) čēü'ürelü'ē 《砕けた》の -lu'ā<sup>2</sup> はその主語が無生物なので、-lu'ā<sup>2</sup> が用いられたものと解される。

以上、-lu'ā 諸例の分析から、-lu'ā<sup>2</sup> は劣位者及び劣位扱いされる者の動作の述語動詞に用いられることが明かになった。筆者は、この -lu'ā(i) を「劣位形」と呼び -la'ā(i)<sup>2</sup> の変異形と見做すことにする。之に対し、-la'ā(i)<sup>2</sup> の方を「一般形」と呼びたい。

次に büle'ē(i) と aju'ū(i) について述べなければならない。

#### ◎büle'ē(i) と aju'ū(i)

前項の aju'ū(i) の考察に際して一時預かりにした問題を、ここに、büle'ē(i) との関連の下に再度とりあげる。

-la'ā<sup>2</sup> 系語尾の大きな特徴は前述した如く、その殆どが、対話文中で用いられることにあった。büle'ē(i) を除く全62例の中で、普通の敘述文の述語動詞語尾として用いられたのは僅か3例のみである。しかし、büle'ē(i) を考慮に入れると、事情は変わってくる。というのは、büle'ē~büle'ēj は対話文と同様に敘述文の述語動詞として用いられることも少なくないからである。秘史巻一の各部族の genealogy が語られる部分では、büle'ē が頻出する。その一部を下に示そう。

§ 40 (一23六~24一) 帖舌列 敦荅 客額里台 額篋 孛端察途兒  
 那 半孛 肚皮有的 婦人 行  
 tere dunda ke'ēlitej eme Bodončar-tur  
 かの 妊 娠 せる 女 ボドンチャルのもとに

亦<sup>舌</sup>列周 可<sup>兀</sup>列畢 札<sup>脇</sup>亦兒格訥 可<sup>温</sup> 不<sup>列</sup>額 客<sup>延</sup> 札<sup>只</sup>舌刺歹  
 来 着 兒生了 世人 百姓 的 兒子 有来 麼道 兒 名  
 irejü kö'ülebi. jad irgen-ü kö'ün büle'e keyen Jajiradaï  
 来りて 子を生みぬ。"チャド 人衆 の 子 なり" とて チャダラダイ

捏<sup>舌</sup>列亦<sup>脇</sup>罷 札<sup>舌</sup>蒼舌刺訥 額<sup>不</sup>格 帖<sup>舌</sup>列 孛<sup>魯</sup>罷 帖<sup>列</sup>札<sup>舌</sup>蒼舌刺歹因<sup>可</sup>温  
 名字 興了 種 名 的 祖 那箇 做了 那 人 名 的 兒子  
 nereyidbe. Jadaran-u ebüge tere boluba. tere Jadaradaï-yin kö'ün  
 の名を与えぬ。チャダラン族の 祖は 彼 なりき。その チャダラダイ の 子は

土<sup>古</sup>兀<sup>歹</sup>捏<sup>列</sup>秃 不<sup>列</sup>額 土<sup>古</sup>兀<sup>歹</sup>因<sup>可</sup>温 不<sup>舌</sup>里<sup>不</sup>勒<sup>赤</sup>魯<sup>不</sup>列<sup>額</sup>  
 兒 名 名字有 的 有来 人 名 的 兒子 兒 名 有来  
 Tügü'üdej neretü büle'e, Tügü'üdej-yin kö'ün Buri=bulçiru büle'e.  
 トグウーデイの名をもちて ありき、 トグウーデイ の 子 ブリ・ブルチル なりき。

不<sup>舌</sup>里<sup>不</sup>勒<sup>赤</sup>魯<sup>不</sup>列<sup>額</sup> 中<sup>合</sup>蒼<sup>安</sup> 不<sup>列</sup>額 中<sup>合</sup>蒼<sup>安</sup>訥<sup>可</sup>温 札<sup>木</sup>中<sup>合</sup>  
 人 名 的 兒子 兒 名 有来 人 名 的 兒子 兒 名  
 Buri=bulçiru-yin kö'ün Qada'an büle'e. Qada'an-nu kö'ün Jamuqa  
 ブリ・ブルチル の 子 カダアン なりき、 カダアン の 子 チャムカ

不<sup>列</sup>額 札<sup>舌</sup>蒼<sup>舌</sup>訥<sup>孛</sup>魯<sup>黑</sup>壇 帖<sup>迭</sup> 孛<sup>魯</sup>罷。(61)  
 有 来 一 種 姓 氏 每 那 每 做 了  
 büle'e. Jadaran oboctan tede boluba.  
 なりき。チャダラン 姓をもつは 彼等 なりき。

§ 41 (一24五~24九) 帖<sup>舌</sup>列<sup>額</sup>篋<sup>巴</sup>撒 孛<sup>端</sup>察<sup>兒</sup>阿<sup>察</sup> 你<sup>刊</sup>可<sup>温</sup>  
 那 婦 人 再 處 一箇 兒子  
 tere eme basa Bodončar-ača niken kö'ün  
 その 女 また ボドンチャル より 一人の 子を

脫<sup>舌</sup>列<sup>兀</sup>勒<sup>畢</sup> 把<sup>舌</sup>里<sup>周</sup> 阿<sup>不</sup>黑<sup>三</sup> 額<sup>篋</sup> 不<sup>列</sup>額 客<sup>延</sup> 帖<sup>舌</sup>列 可<sup>兀</sup>泥<sup>泥</sup>  
 生 了 拿 着 要 了 的 婦 人 有 来 麼 道 那 兒 子 行  
 töre'ülbi. bariju abugsan eme büle'e keyen tere kö'ün-i  
 生めり。 "促え 取りし 女 なりき" とて その 子 を

巴<sup>阿</sup>舌<sup>里</sup>歹<sup>捏</sup>列<sup>亦</sup>罷 巴<sup>阿</sup>舌<sup>里</sup>訥<sup>額</sup>不<sup>格</sup> 帖<sup>舌</sup>列<sup>孛</sup>魯<sup>罷</sup> 巴<sup>阿</sup>舌<sup>里</sup>歹<sup>因</sup>可<sup>温</sup>  
 名 名字 興了 種 名 的 祖 那箇 做了 的 子  
 Ba'aridaï nereyidbe. Ba'arin-u ebüge tere boluba, Ba'aridaï-yin kö'ün  
 パーリダイ と名づけぬ。パアリン族の 祖は 彼 なりき。パアーリダイ の 子

赤<sup>都</sup>中<sup>忽</sup>勒<sup>孛</sup> 孛<sup>魯</sup> 赤<sup>都</sup>中<sup>忽</sup>勒<sup>孛</sup>孛<sup>魯</sup> 額<sup>篋</sup>思 幹<sup>羅</sup>秃<sup>不</sup>列<sup>額</sup> 可<sup>温</sup> 亦<sup>訥</sup>  
 兒 名 力 士 兒 子 力 士 婦 人 每 多 有 来 子 他 的  
 Čiduqul=bökö, Čiduqul=bökö emes olotu büle'e. kö'ün inu  
 チドククル・ボコ、 チドククル・ボコは 女 多くもちてありき。 子は ← 彼の

篋<sup>捏</sup>篋<sup>秃</sup>脫<sup>舌</sup>列<sup>罷</sup> 篋<sup>年</sup>巴<sup>阿</sup>訥<sup>鄰</sup>幹<sup>孛</sup>魯<sup>黑</sup>壇 帖<sup>迭</sup> 孛<sup>魯</sup>罷。(62)  
 繁 多 生 了 一 種 姓 氏 每 那 每 做 了  
 mene metü törebe. Menen=ba'arin oboctan tede boluba.  
 おびたたく生れぬ。 メネン・パ ーリン 姓もてるは 彼等 なりき。

§ 42 (一24二~24四) 別<sup>勒</sup>古<sup>訥</sup>台 別<sup>勒</sup>古<sup>訥</sup>楊 幹<sup>孛</sup>魯<sup>黑</sup>壇<sup>孛</sup>魯<sup>罷</sup>  
 人 名 一 種 姓 每 做 了  
 Belgünüteï Belgünüd oboctan bolba.  
 ベルグンタイ ベルグヌート 姓をもつことになれり。

不<sup>古</sup>訥<sup>台</sup> 不<sup>古</sup>訥<sup>楊</sup> 幹<sup>孛</sup>魯<sup>黑</sup>壇 孛<sup>魯</sup>罷 不<sup>中</sup>忽<sup>不</sup>合<sup>塔</sup>吉 中<sup>合</sup>塔<sup>斤</sup> 幹<sup>孛</sup>魯<sup>黑</sup>壇  
 人 名 一 種 姓 每 做 了 人 名 一 種 姓 每  
 Bügüteï Bügünüd oboctan bolba. Buqu=qatagi Qatagin oboctan  
 ブグタイ ブグヌード 姓をもつことになれり。 ブク・カタギ カタギン 姓をもつこ

孛<sup>魯</sup>罷 不<sup>中</sup>忽<sup>秃</sup>撒<sup>勒</sup>只 撒<sup>勒</sup>只<sup>兀</sup>楊 幹<sup>孛</sup>魯<sup>黑</sup>壇 孛<sup>魯</sup>罷 孛<sup>端</sup>察<sup>兒</sup>  
 做 了 人 名 一 種 姓 每 做 了 人 名  
 boluba. Buqutu=salji Salji'üd oboctan boluba. Bodončar  
 とになれり。 ブクト・サルヂ サルヂウート 姓をもつことになれり。 ボドンチャル

孛<sup>兒</sup>只<sup>斤</sup> 幹<sup>孛</sup>魯<sup>黑</sup>壇 孛<sup>魯</sup>罷。(63)  
 一 種 姓 每 做 了  
 Borjigin oboctan boluba.  
 ボルヂギン 姓をもつことになれり。

§ 43 (一25六~25十) 孛<sup>端</sup>察<sup>舌</sup>命<sup>的</sup> 阿<sup>不</sup>鄰<sup>額</sup>篋<sup>迭</sup>扯 脫<sup>舌</sup>列<sup>克</sup>先  
 自娶 的 妻 如 生 了  
 Bodončar-un ablin eme-deče töregsen  
 ボドンチャル の 本 妻 より 生れたるは

把<sup>舌</sup>林<sup>失</sup>亦<sup>不</sup>刺<sup>秃</sup>中<sup>合</sup>必<sup>赤</sup>捏<sup>舌</sup>列<sup>秃</sup> 不<sup>列</sup>額 帖<sup>舌</sup>列<sup>中</sup>合<sup>必</sup>赤 把<sup>阿</sup>秃<sup>舌</sup>命<sup>的</sup>  
 兒 子 名 勇 士 的  
 Barim=siyiratu=qabiči neretü büle'e. tere Qabiči=ba'atur-un  
 バリム・シイラト・カビチの 名をもちてありき。 その カビチ・バアトルの

額客。 引者亦舌列克〔先〕泥 孛端察兒 塔塔周 不列額 你刊 可温  
 <母> 的 從 嫁 來 了 的 敬 妾 着 有 來 一 箇 兒 工  
 eke-yin inje iregsen-ni Bodončar tataju büle'ë. niken kö'ün  
 母 の 從女として來れる を ボドンチャル 妾となしてありき。 一人の 子

脫列罷 沼兀〔舌〕列歹捏〔舌〕列禿 不列額 沼兀〔舌〕列歹 兀〔舌〕里荅 主格黎突  
 生 了 兒 名 名字有的 有 來 名 在 前 以 等 懸 肉 祭 天  
 törebe. Jeü'üredei neretü büle'ë. Jeü'üredei urida jügelü-dü  
 生れぬ ゼウーレデイの名をもちて ありき。 ゼウウーレデイ さきに 祭祀処に

幹舌樂 不列額。(64)  
 入 有 來  
 oron büle'ë.  
 入りて ありき。

§40には büle'ë が4回, §41には2回, §43にも2回現われている。この中で, §40の始めの büle'ë と §41の最始の büle'ë は keyë- (〜と云う) に導かれる文なので, 対話文の büle'ë の一種と認められるが, 他の büle'ë は総て敘述文における büle'ë である。

従って -la'a² 系語尾の一特徴と考えられる《対話文に於て用いられる》は必須条件というわけではない。-la'a² 系語尾を -ba² 系語尾, -ju'ü² から特徴づける要素はどこにあるか? §43 の tere Qabiči=ba'atur-un eke-yin inje iregsen-ni Bodončar tataju büle'ë, niken kö'ün törebe 《そのカビチ・バートゥルの母の從女として來た者をボドンチャルは妾にしていた。一人の子が生れた》を見ると, 「子が生れた」時点より「妾にしていた」時点は, 《より以前, より過去》なることが知られる。これは, 上の対話文の文例から得た結論と一致する。即ち -la'a² 系語尾の基本的性格はテンスの観点からは 《-ba² で表わされる過去より以前の過去》の表示にあると規定できよう。

一方 §30の次の büle'ë を如何に見るべきだろうか。

§30 (一18七~18十) 不中忽中合塔吉 阿中合亦訥 孛端察兒蒙中合黑  
 兄 他的  
 Buqu-qatagi aqa inu Bodončar=mungqac  
 ブク・カタギ 兄は ←彼の “ボドンチャル・ムンガク

迭兀余延 額捏 幹難 沐舌漣 忽舌魯兀 幹都刺阿 客延 額舌鄰亦舌列周  
 弟 自的 這 河 順水 去了 麼道 尋 來着  
 de'ü-yüeyē ene Onan müren huru'ü odula'a keyēn erin irejü  
 弟は ←己が この オノン 河を 下りて 行きぬ と さがし 來りて

統格黎〔克〕 (中) 豁舌羅中罕 忽舌魯兀 擣兀周 亦舌列〔克〕 薛〔斃〕 亦兒堅途兒  
 小 河 順水 起着 來 了 的 百 姓 行  
 Tüggelic coroqan huru'ü neü'üjü iregsed irgen-tür  
 トゥンゲリグ 小川を 下って 移り 來れる 人衆 に

帖亦模 帖亦謨 古温 帖亦模 秣驎禿 不列額 客延 速舌刺阿速…。(65)  
 那般 那般 人 那般 馬 有 來 麼 道 問 呵  
 teyimü teyimü kü'ün teyimü moritu büle'ë keyēn sura'asu…  
 “かく かくの 人, かく 馬にのりてありき” と 問わば…。

ここではボドンチャル(チングスの直接の祖先)を捜しに出た, 彼の兄ブク・カタギが, トゥンゲリグ川を下って移動して來た人衆に “かく, かく人, かく馬にのりてありき” (こういう様な人が, こういう様な馬に乗っていた(答だが見なかったか?)とボドンチャルのことを尋ねたのである。moritu büle'ë は直訳すれば《馬もちありき》だが勿論《馬にのっていた》の意。

ブク・カタギは弟のボドンチャルがどういう風貌で, どういう馬にのっていたかを勿論知っていた, 即ち moritu büle'ë (馬にのっていた) の büle'ë 《いた》は, 前以てブク・カタギの知見の中にあつた, いわば《既知の“いた”》である。büle'ë は過去の存在を既知の立場から認定する語と見られる。

-la'a² 系語尾には, この様に一般的に《過去の動作を既知の立場から眺める》という有力な要素もあるのではないか。

上の要素は -la'a² 系語尾をテンスの観点から《過去以前の過去》と規定した前述の要素とよくマッチすると思われる。

上記の -la'a² 系語尾の諸文例を再読すれば, それらの -la'a 系語尾の附されている述語動詞は総て《既知の立場》から《過去以前の過去》を語った述語動詞である。

bü- (ある, いる) に -le'ë の接尾された büle'ë が《過去の存在を既知の

立場から認定する語》とすれば a-《ある, いる》に -ju'ü のついた aju'ü は《過去の存在を未知の立場から認定する語》と言いうる。büle'ë と比較する意味で, 次に aju'ü の好例を二つ挙げる。

§ 7 (一四九～五一) 朵奔篋児干 帖迭 亦児堅都児 古舌魯額速  
 Dobun mergen tede irgen-dür kürü'ësü  
 ドブン・メルゲン 彼の 人衆 に 到れば

兀年古中豁阿撒因 阿勒答児 捏舌列 也客台 阿蘭中豁阿捏舌列台 古温捏  
 ün-en-kü go'ā sayin, aldar nere yeketej Alan-go'ā neretej kü'ün-e  
 真 に 美しく よき, 名 声 たかき アラン・ゴア-の名をもつ, 人 に

別児 幹克帖埃 兀都为 幹勤 阿主兀 (66)  
 ber ögte'ëj üdü'üj ökin aju'ü.  
 ぞ 与えられざりし 乙女 ありき。

§ 32 (一三三～二〇四) (中)豁舌藍阿塔刺 統格黎(克) 中豁舌羅(中)罕  
 qoram atala, Tünggelig coroqan  
 しばし あるに, トンゲリグ 小河 を

幹額迭 你刊 古温 阿亦孫 備由 古児周 亦舌列別速 李端察児門阿主兀 (67)  
 ö'ëde niken kü'ün ayisun büyü. kürjü irebësü Bodončar mun aju'ü.  
 逆りて 一人の 人 近づきてあり。 到り 来れば ボドンチャル 自身 なりき。

この § 7 と § 32 の aju'ü は状況が相似の文脈にあり, 前者はドワ・ソコルが弟のトブン・メルゲンに“トンゲリグ川に沿って移ってくる人衆の車に, 一人のみめ美しい女性がいる, まだ人に与えられていないなら, 弟のドブン・メルゲンお前に求めよう”と云ってドブン・メルゲンを見に行かせる。そして, この § 7 の《トブン・メルゲン, かの入衆に到れば, げに美わしき, 声望高きアラン・ゴアなる名の, 人にぞ与えられざる娘ありき》の aju'ü であり, これは《その様な美貌の誉れの高い娘がいた》ことを以前から知っていたのではな

く, むしろ未知の立場から描述したものであり, § 32 の aju'ü も《到り来れば, ボドンチャルそのものなりき》の《なりき》を描述したもので, ボドンチャルが到着してはじめてボドンチャルなることが分かったのであって, その時点までは, 未知の立場からの描写である。

これに反し, büle'ë は, 例えば上記の文例 § 40 の Tügü'üdej-yin kö'ün Büri=bulčiru büle'ë 《トゥグウデイの子はブリ・ブリチルなりき》, Büri=bulčir-yin kö'ün Qada'an büle'ë 《ブリ・ブリチルの子はカダアンなりき》などの büle'ë 《なりき》は「トゥグウデイの子はブリ・ブリチル, ブリ・ブリチルの子はカダアン」なることを既知の立場から言表したのであって, 同じ《なりき》でも, aju'ü と büle'ë との間には上記の如き相違が存するのである。

aju'ü と büle'ë には, この様な相違が見られ, これは -ju'ü<sup>2</sup> 系語尾と -la'a<sup>2</sup> 系語尾の意義素の相違に帰因するものであるが, しかし, 同時に動詞語幹 a- と bü- のもつ意義素とも深い関係をもち, a- の意義素と -ju'ü の意義素が相容れる内容をもつ故に aju'ü は多く見られるのに, a-la'a は殆ど見られず, 逆に bü- の意義素は, -le'ë の意義素とは相容的なのに, -ju'ü の意義素とは相容れない故に büle'ë のみが多く用いられ büjü'ü は極めて稀にしか現われないという事実となって現われることになる。

しかし, 特殊な場合には a- と -la'a<sup>2</sup> 系語尾の結びつき, bü- と -ju'ü<sup>2</sup> 系語尾の結びつきも許されないことはなく, それ故, その極めて, 珍重さるべき例として alu'a (一26四), büjü'üj (三15六) がそれぞれ唯一例が認められるのである。

a- と bü- の意義素については, ここでは措いて後述するが, これについては以前にも言及したことがあるので参照されたい。

ここに, もう一つ特筆おくべきことがある。それは「誰々の子は, 何々の名をもっていた」の「名をもっていた」は必ず neretü (neretej, nereten) büle'ë の形をとることである。neretü büle'ë 7 例, neretej büliyi (büle'ë) 2 例, nereten büle'ë 4 例, 総じて13例である。これは「~の名をもってい

た」の「いた」を秘史の書き手が、「既知」の立場から認定していたことを意味する。興味あるのは(四50六)に見える、唯一の例外である。

§ 147 (四50二～四50十) 成吉思<sub>太祖</sub>合罕<sub>皇帝</sub> 鳴話<sub>說</sub>列舌<sub>言</sub>論 歹亦孫<sub>敵</sub>

Činggis qahān ügülerün daiyisun  
チンギス 可汗の 言う “敵として”

迓步<sub>行</sub>黑<sub>了</sub>三<sub>的</sub> 古温<sub>人</sub> 阿刺<sub>殺</sub>黑<sub>了</sub>撒<sub>自</sub>你<sub>的</sub>顏<sub>行</sub> 歹亦速<sub>反</sub>舌<sub>敵</sub>兒<sub>了</sub>中<sub>的</sub>合<sub>自</sub>黑<sub>行</sub>撒<sub>的</sub>你<sub>行</sub>顏<sub>自</sub> 別耶延<sub>自</sub> 你兀周<sub>藏</sub>

yabugsan kü'ün alaqsan-iyān daiyisurqacsan-iyān beye-yēn ni'ūju  
行ける 人は 殺せるを(己が), 敵対せる を(己が) 自ら 隠し

客列邊<sub>話</sub> 不察周<sub>諱</sub> 阿由<sub>着</sub> 額捏不<sub>怕</sub>舌<sub>有</sub>命<sub>這</sub> 客額速<sub>呵</sub> 門蒼<sub>說</sub> 阿刺<sub>殺</sub>黑<sub>了</sub>撒<sub>自</sub>你<sub>的</sub>顏<sub>行</sub>

kele-bēn bučaju ayu, ene bürün kē'ēsü munda alaqsan-iyān  
言 を(己が) はばかりであり, これ は と云えば 逆に 殺せる を(己が)

歹亦速<sub>反</sub>舌<sub>敵</sub>兒<sub>了</sub>中<sub>的</sub>合<sub>自</sub>黑<sub>行</sub>撒<sub>的</sub>你<sub>行</sub>顏<sub>自</sub> 兀祿<sub>不</sub> 不察<sub>隱</sub>(你) 門蒼<sub>諱</sub> 只安<sub>却</sub> 備由<sub>告</sub> 那可徹<sub>有</sub>禿<sub>可</sub>

daiyisurqacsan-iyān ülü bučan munda jī'an büyü, nököčeltü  
敵対せる を(己が) はばかりず, むしろ 告げてあり, 伴たるべき

古温<sub>人</sub>備<sub>有</sub>由 只舌<sub>人</sub>兒<sub>名</sub>中<sub>字</sub>合<sub>有</sub>阿<sub>來</sub>歹<sub>有</sub> 捏<sub>他</sub>舌<sub>戰</sub>列<sub>的</sub>禿<sub>口</sub> 阿主<sub>白</sub>兀<sub>口</sub> 門<sub>者</sub> 者別<sub>戰</sub>列<sub>察</sub>古<sub>中</sub> 阿蠻<sub>阿</sub>察<sub>罕</sub>

kü'ün büyü, jirco'adaï neretü aju'ū, mun jebelekü aman čagān  
人 なり, デルゴアダイの名をもちて ありき, かの 戦う 口 白き

中忽刺<sub>黃</sub>宜<sub>馬</sub> 米訥<sub>我</sub> 阿蠻<sub>鎮</sub>你<sub>子</sub>舌<sub>骨</sub>魯兀<sub>射</sub> 中合<sub>了</sub>舌<sub>的</sub>兒<sub>上</sub>鏤<sub>頭</sub>黑<sub>人</sub>撒<sub>名</sub>訥<sub>字</sub> 禿刺<sub>者</sub> 者別<sub>名</sub> 提<sub>字</sub>舌<sub>做</sub>列<sub>着</sub>亦<sub>抽</sub>揚<sub>抽</sub>

qula-yi minu aman niru'ū qarbugsan-u tula jebe nereyidčü  
くり毛馬を ← わが 類 部 を 射 た る の 故に チェベの名を与え

者別<sub>戰</sub>列<sub>嗶</sub>耶 亦馬<sub>教</sub>宜<sub>他</sub> 客延<sub>慶</sub> 者別<sub>道</sub> 捏<sub>人</sub>舌<sub>名</sub>列<sub>字</sub>亦<sub>做</sub>揚<sub>着</sub>抽<sub>根</sub> 迭<sub>前</sub>舌<sub>我</sub>兒<sub>的</sub>格<sub>行</sub>迭<sub>慶</sub> 米訥<sub>道</sub> 迓步<sub>行</sub> 客延<sub>慶</sub>

jebeleye imayi keyēn jebe nereyidčü dergede minu yabu keyēn  
戦わせん 彼を” とて チェベと 名づけ “傍に ← わが 行け” と

札舌<sub>聖</sub>兒<sub>旨</sub>里<sub>勅</sub>黑<sub>罷</sub> 李勅<sub>做</sub>罷<sub>。</sub> (68)

jarlic bolba.  
勅し ぬ。

この§ 147は、コイテンの戦いで、チンギスの馬の頸背を射り抜いた男ヂェベについての一節である。彼は上の事実を自ら告白し、己が身の処断をチンギスに委ねた。チンギスは、敵対したことを普通はひた隠すものなのに、この男は自ら包み隠さず述べた、信ずるに足るとし、彼にヂェベ(鏃; 槍等の尖端)の名を与えた。彼はタイチウド族の出身で, jirco'adaï neretü aju'ū (《デルゴアダイの名をもちてありき》)であった。タイチウド出身の、この人物が、デルゴアダイと言う名をもっていたことなどは秘史の書き手にとって《既知》の筈はないのである。それ故、ここでは、jirco'ataï neretü büle'e とは言えないのである。aju'ū と büle'e のちがいを示す好例と言えよう。

この項を終るに当って、-la'a<sup>2</sup> 系語尾の意義素を考えて見ると以下のようなろう。即ち、《ある過去の動作の、それ以前の動作が、話し手(書き手)——及び他者を含めて——の既知の立場で遂行された》と指定する。そして、この意義素の故に、この語尾は屢々《回想的、追想的》、或いは《詠歎的》な意味を伴って使用されると附加することが許されるであろう。又、büle'e 及びaju'ū については特別な用法があるが、註(17)にゆずる。

なお、近世以後の蒙古文語では -lucā<sup>2</sup> が専ら用いられ、-lacā<sup>2</sup> が姿を消してしまうのは何故かが疑問として残る。これは機会を得て、後に考えることにしたい。

《g》 -'ā<sup>2</sup>, -'āi<sup>2</sup>

この語尾 -'ā<sup>2</sup> は現代のモンゴル語ハルハ方言などでは -aa<sup>4</sup> (-raa<sup>4</sup>) として現われる語尾で、いわゆる未完了の語尾である(この語尾は、本来は形動詞語尾であり、後に再び取上げたい)。

秘史では、-'ā<sup>2</sup> の他に、-'āi<sup>2</sup> の形も見られ、これは、上の諸語尾と同様、



72 元朝秘史蒙古語文法講義

複数形である。

-'ā² は全14例, -'ai² は全21例で、語尾としては少数派に属する。以下に-'ā² 及び -'ai² の用例の若干を挙げる。

<1> § 68 (一48九~一49三) 中晃中豁塔歹 察舌刺中合

種名 Qonggotadaj Čaraqa  
“コンゴタダイの チャラカ

額不格訥可温 蒙力克 幹(亦)舌刺備客額速 兀舌里周 亦舌列温(勳)周  
老人の子 名 根前有說了 喚着 教来着  
ebügen-ü kō'ün Münglig oyira büi kē'ēsü uriju ire'üljü  
老人の子 ムンリグ 近くありと云わば よび 来させて

鳴話列舌論 察中合米訥 蒙力克 可兀揚 兀出格禿 不列額 必可兀邊  
說 孩兒我的 名 兒子 小有時 有来 我兒子行  
ügülerün čaca minu Münglig kō'üd üčügētü büle'e, bi kō'ü-ben  
言う “兒←わが ムングよ、 子等は おさなく あり、 我子(己が)

帖木只泥 古舌里格楊帖 塔勳必周 亦舌列舌命 札兀舌刺 塔塔兒 亦兒格捏  
名行 做女婿 放下着 来的 路間 百姓行  
Temüjin-i küriged-te talbiju irerün ja'ūra Tatar irgen-e  
テムジンを 婿に おきて 来る時 途次 タタルの 人衆に

幹亦速刺黑蒼阿 必 朶脫舌刺 米訥 卯危備由……。(69)  
被陰審了 我 内 我的 歹有  
oyisulacda'ā bi, dотора minu ma'ūi büyü…….  
ひそかに計られたり 我 休中 ← わが 悪く あり……。”

<2> § 105 (三3九~4四) 帖木真 札木中合突舌兒 中合撒舌兒

人名 人名行 人名  
Temüjin Jamuqa-dur Qasar,  
テムジンは チャムカ に カサル

別勳古台 中豁牙舌里 亦列舌命 札木中合 安蒼蒼 鳴話列客延 鳴話列周  
人名 兩箇 使去 人名 契合行 說 壓道 說着  
Belgüteḡ qoyar-i ilerün Jamuqa anda-da ügüle keyēn ügülejü  
ベルグタイ 二人を 遣わずに、 “チャムカ 盟友に 言へ” と 言いて

亦列舌命 中忽舌兒班 篋舌兒乞楊帖 亦舌列周 幹舌羅班 豁脫舌兒中忽  
去 三箇 種名行 来着 位 空  
ilerün curban Merkid-te irejü oro-bān hogtorcu  
遣るに “三姓” メルキドに 来て 居を(己が) からに

字勳中合(黑)蒼阿必 幹那(舌)兒 你刊壇 不速禿必蒼 幹雪里顏 客舌兒  
被做 了 我 一箇的 不是有的麼咱 誰 自的 意生  
bolgacda'ā bi onor nikenten busutū bida, ösöl-iyēn ker  
なされたり 我、 本は 一つに あらざるか 我等、 仇を(己が) いか

幹薛坤 額不舌里顏 含屯勳迭額必 赫里格訥 兀舌魯黑 不速禿必蒼  
報 懷行自的 彼去了一半 我 肝的 親 不是有的麼咱  
ösekün ebür-iyēn hemtü(n)lde'e bi, heligen-ü uruc busutū bida,  
報ずべき、 懷を(己が) なかばとられたり 我、 肝の 親族に あらざるか 我等、

哈赤顏客(舌)兒 哈赤刺(中)渾 必蒼 客額周 亦列罷。(70)

誰 自的 意生 報的 咱每 說着 去了  
hači-yān ker hačilaqun bida ke'ējü ilebe.  
誰を(己が)いかに 仇うつべき 我等” と云い 遣りぬ。

<3> § 260 (±44八~45三) 田迭 李幹舌兒出 木中合黎

那裏 人名 人名  
tende Bo'örču Muqali  
そこに ボールチュ ムカリ

失吉中忽都中忽 中忽舌兒班 幹赤舌命 幹纏箴勳禮 阿黑撒揚 撒舌兒塔兀勳  
人名 三箇 賽 不服 有的每 回回  
Šigi=quduqu curban öčirün öčen meljen acsad sarta'ul  
シギクドク 三人 賽して曰く “まつろはざりし サルタウールの

亦舌兒格訥 莎勳塔泥 朶羅亦楊蒼兀勳周 巴刺中合楊 亦舌兒格 阿訥 阿不埃  
百姓的 王行 教屈下着 城子每 百姓 他的 要了  
irgen-ü soltan-i doroyidda'ülju balacad irge anu abu'ai  
人衆の 王を 屈服せしめて 城々、 人衆を←彼等の 取りり

蒼蒼 中忽必牙周 阿卜蒼中忽 幹籠格赤 巴刺中合孫 中忽必牙勳都周 阿卜中渾  
咱每 分着 被要的 城名 城 共分 要的每  
bida. qubiyaju abdaq Ölüngeči balagasun, qubiyalduju abqun  
我等、 分け 取るべき オルンゲチ 城、 分けあい 取るべき

可兀<sup>揚</sup> 不古迭 成吉思<sup>中</sup>合阿訥埃 備。(71)  
 兒子每 都 太祖 皇帝的 有  
 kō'ūd bügüde Činggis qa'ān-ū'āi būi  
 子等 すべて チンギス 可汗のもの なり。

〈4〉 § 175 (六18八一~19一) 帖因 釋兀周 阿亦速<sup>(中)</sup>灰突舌兒  
 那般 起着 來 時  
 teyin neü'ūjü ayisuquj-dur  
 かく 移り 近づく 時

古捏速捏 阿把蘭 迓步<sup>(中)</sup>灰突舌兒 中忽亦勒蒼舌兒 牙舌刺昔顏 阿納埃  
 執行 打闘 行 時 人名 傷痕自的 痊可  
 künesün-e abalan yabuquj-dur Quyildar yaras-iyān ana'āi  
 糧食 のため 巻狩りし 行く に、 クイルダル 傷の (己が) なおら

兀都兀耶 成吉思<sup>中</sup>合罕納 亦<sup>中</sup>合阿速 兀祿李命 戈劣額孫突舌兒  
 來行 太祖 皇帝行 勸 咱 不訪 走 獸行  
 üdü'ūi-e Činggis qahan-a idqa'asu ülü bolun gōrō'ēsün-dür  
 ざる に チンギス 可汗 に 諫止されど 背んぜず 獸(狩り) に

多卜禿勒<sup>中</sup>忽 孛命 《中》忽克迭<sup>舌</sup>列周 那克赤<sup>原</sup>罷<sup>別</sup> (72)  
 衝 傲 重 癯着 過去了  
 dobtulqu bolun hügderejü nögčibe.  
 馳けることたりて 病重くなりて 身まかれり。

〈1〉, 〈2〉は -'ā~-'ē の用例, 〈3〉, 〈4〉は -'āi~-'ēi の用例である。

〈1〉 oyisulagda'ā bi 《ひそかにうらまれたり我》, 〈2〉の oro-bān hocorgu bolgacda'ā bi 《己が居を空にされたり我》, ebür-iyēn hemtū(n)lde'ē bi 《己が懐のなかばをとられたり我》の -'ā~-'ē は文字通り未完了の語尾の好例である。過去において行なわれた動作がいまだに続いていて, oyisulagda'ā bi, dotora minu ma'ūi büyü 《ひそかにうらまれたり我, わが身中, 悪しくあり》の如く, タタール族にひそかに一服盛られ, その結果, dotora minu ma'ūi büyü なのである。

oro-bān hocorgu bolgacda'ā bi も, 己が居処を蹂躪されて, いまだにそのままである, 己が懐のなかばを奪われて (妻のブルテを掠奪されたこと) い

まだにその状態のままであることを, この -'ā~-'ē は示している。

〈3〉の balagad irge anu abu'āi bida は, 彼等の城々, 人衆を奪い取って, 現に取ったまゝであることを示す。bida が後続している処から -āi<sup>2</sup> は複数形である。

〈4〉 yaras-iyān ana'āi üdü'ūi-e 《自分の傷々がまだ癒っていないうちに》も yaras-yara 《傷》の複数形——なので ana'āi の如く -'āi が用いられている。なお, 現代のモンゴル語の若干の方言で ungsādui 《まだ読んでない》, irēdūi 《未だ来ていない》の様に用いられる -ādui~ēdūi などは, この -'ā(i)<sup>2</sup> üdü'ūi に由来すること明かである。現代のハルハ方言では -aadγi<sup>3</sup> はすでに用いられず, ирээдүй цаг 《未だ来てない時→未来》など化石的に残っているのみである。

\* \* \* \* \*

以上で, 秘史蒙古語に現われる, 《時》を現わす終止形語尾の総てを記述した。この他に, 若干の研究者によって《現時の -d》が記述されているが, 筆者は, この -d を時制語尾ではなく, 冒頭で述べた [B] 群の絛想語尾の一つと見るので, その個所で言及したい。

#### 第一講の註

- (1) N. Poppe, Das mongolische Sprachmaterial einer Leidener Handschrift. Известия Академии Наук ССР, 1927.
- (2) E. Haenisch, Wörterbuch zu Mangḡol un Niuca Tobca'an, Leipzig, 1939.
- (3) P. Pelliot, Histoire Secrète des Mongols. Paris, 1949.
- (4) С. А. Козин, Сокровенное сказание, монгольская хроника 1240г. под названием Монḡол-ун Ниḡуца Товчиуан, Юань Чао Би Ши монгольский обыденный изборник, том I, Москва-Ленинград, 1941.
- (5) L. Ligeti, Histoire Secrète des Mongols, Budapest, 1971.
- (6) Т. Дашцэдэн, Монголын Нууц Товчоо, Улаанбаатар, 1985.
- (7) 備由~脩由は服部先生生の第三種転写に従えば bui-yiu となるが, 筆者は「備由~脩由」を蒙古語の 𐰽 に当る語と見る。この文語形 𐰽 は従来 buyu と読まれるが, 筆者はこれを動詞語幹 bū- 《ある, いる》に, 前述の動詞語尾 (b) -yu<sup>2</sup> が接尾された形と見て büyü と転写する。筆者の考えでは, ウィグル字を借用して,

自己の言語を書写したモンゴル人は、būyū (～である), būi (～である), bū (～であれ)——bū は bū- の語幹そのものの形で命令形である。(～であれ)の意味から禁止の助詞に発展したものである——などを、その発音通りに  $\text{ᠪᠦᠢᠦ}$  と書くことなく、 $\text{ᠶ}$  (yod) を一枚づつ節約して  $\text{ᠪᠦᠢ}$  と書写した。その結果、字面上では、恰も男性母音形の buyu, bui, buu という形が出来上った。どうして yod を節約したかと言えば、一枚節約しても būyū と読むことが可能だからである。例えば  $\text{ᠪᠦᠢᠯᠠ}$  は boyila, buyila, böjle, būjle の如く四通りに読むことができる。即ち男性語にも女性語にも読めるのである。buyila も būjle も辞書には登録されていて《歯茎》の意。男性語の oyi~uyi は女性語においては öi~üi であって  $\text{ᠶ}$  (yod) が一枚少くないわけである。従って、būyū の場合も  $\text{ᠶ}$  (yod) を一枚節約して  $\text{ᠪᠦᠢ}$  と書いても būyū を表わし得たのである。 $\text{ᠪᠦᠢ}$  も同じ理由で būi と読める。 $\text{ᠪᠦᠢ}$  は、現代モンゴル語の例えばハルハ方言などでは bū (ᠪᠦᠢ) と発音される。bū をそのまま書けば  $\text{ᠪᠦᠢ}$  か  $\text{ᠪᠦᠢ}$  となる。しかし、 $\text{ᠪᠦᠢ}$  は上記の būyū  $\text{ᠪᠦᠢ}$  と同形になり、又  $\text{ᠪᠦᠢ}$  も būkü (総ての、あるところ) という語があって語形の上で衝突をもたらす。そこで  $\text{ᠪᠦᠢ}$  という男性母音形が用いられたものと思われる。

## (8) ülü と ese については

小沢重男：元朝秘史蒙古語における兀祿 ülü と額薛 ese について。『中世蒙古語諸形態の研究』東京、開明書院、1979を参照していただければ幸いである。

## (9) 文語では ayisui の他に、oduᠢ《今現に行っている、行く途中である》が見られる。例えば、著者不明のアルトン・トプチのいわゆるゴムボイェブ本（東洋文庫蔵）には

Yisügei-dü Deᠢ=sečin jolgaᠢu asa᠒ur-un Kiyud yasutu Borᠢjigin omug-tan  
 イエスゲイにデイ・セチンが 会って 尋ねるのに “キユド 族の ボルヂギン 姓をもつ  
 quda köbegün qamicāsi yabunam geᠢju asa᠒quᠢ-dur, Yisügei ügülebe, gagča  
 親 子よ 何処へ 行くのか” と 尋ねると、 イエスゲイが 云った、 “一人  
 köbegün-iyēn Temüčin-i Olqunūd-tu kürge erirün oduᠢ geᠢju kelekü-dür  
 子 の テムチンを オルクスウダ族に 婿を 求めに行くところだ” と 云う と  
 ……

上のように oduᠢ が現われている。なお、kürge eri-《婿を求める》は beri eri-《嫁を求める》とあるべきと思われるが、《婿として嫁にくれる人——テムチンを婿として遇する人——》と解すれば、読めないこともない。

## (10) 1321年のドワゲル後の碑文に ögbi《与えた》が見える。なお、

N. Poppe, The Mongolian Monuments in ᠬᠥᠮᠦᠨ-pa Script. Otto Harrasowitz. Wiesbaden, 1957.

の p. 39 を参照。

## (11) F. W. Cleaves, The Sino-Mongolian Inscription of 1355 in memory of Chang Ying-Jui. H. J. A. S. vol. 13, June 1950, Numbers 1 and 2.

これを [S. M. I. 1355] と略称。p. 121の註151を参照。

- (12) 小沢重男：中世蒙古語の動詞語尾の体系、『言語研究 no. 40, 1961』  
 (13) F. W. Cleaves, The Sino-mongolian Inscription of 1338 in memory of Jigünte, H. J. A. S. vol. 14, 1951.  
 これを [S. M. I. 1338] と略称。  
 (14) F. W. Cleaves, The Lingji of Arug of 1340. H. J. A. S. vol. 25, 1964-1965.  
 これを [I. A. 1340] と略称。  
 (15) L. Ligeti, Monuments Préclassiques I, XIII<sup>e</sup> et XV<sup>e</sup> Siècles, Budapest, 1972 (p. 222参照)  
 (16) Ozawa Shigeo, Auxialiary verb a- and bū- in Middle Mongolian. 『東京外国語大学論集15』, 東京, 1967.  
 (17) aᠵu'ü(i) と büle'ē(i) は、原則的には過去の動作を示す語尾であるが、以下にあげる aᠵu'ü は未来の動作に関係し、büle'ē は詠歎的表現を示すものである。

a) § 255 (土33八) 幹歌歹因 兀舌魯吉 幹郎突舌兒 (中)忽赤阿速 忽客舌列  
 人名 的 子孫行 青原裏 包裹咱 牛行  
 Ögödeᠢ-yin urug-i olang-dur quč'i'äsu hūker-e

兀祿 亦陞克迭古 幹兀坤突(舌)兒 中忽赤阿速 那中合牙 兀祿 亦陞克迭古  
 不被 被 喫 脂 膏 裏 包裹咱 狗 行 不 被 喫  
 ülü idegdekü, ö'ükün-dür quč'i'äsu noqaᠢ-a ülü idegdekü

脱舌列額速 米訥 兀舌魯黑因舌兒 你客訥兀 撒因 兀祿 脱舌列古 阿主兀  
 生 咱 我的 子孫 裏 一箇 也 好的 不 生 麼 有來  
 töre'ēsü minu urug-tur niken-üü sayin ülü törekü aᠵu'ü

客延 札舌兒里黑 字魯阿傷……。  
 麼道 聖旨 做了……。  
 keyēn jarliᠢ bolu'äd……。

b) § 165 (五39二, 四) 田迭 桑昆 幹額舌里顏 也客只連 薛乞周  
 那裏 人名 自己 大 做 想  
 tende Senggüm ö'er-iyēn yekeᠢilen sedkiᠵü

鳴訥列舌論 必答訥 兀舌魯黑 安都舌兒 幹都阿速 阿刺兀納 擺亦周 額額捏克徹  
 說 咱的 親 他每行 去 阿 門後行 立着 專一  
 ügüleriün bidan-u urug an-dur odu'äsu ala'ün-a baijiᠵu e'ēnegče

中豁亦馬舌兒 中合舌胸中忽阿主兀 阿訥 兀(舌)魯黑 必丹突舌兒 亦舌列額速  
 正 面 看 有 他的 親(族) 俺每 行 來 阿  
 qoyimar qaraqū aᠵu'ü, anu urug bidan-dur ire'ēsü

中豁亦馬舌刺 撒兀周 阿刺兀納 中合舌闌阿主兀 客延……。  
 正面 坐着 門後行 看 有 麼道……。  
 qoyimar-a sa'ūju ala'ūn-a qaran aju'ū keyēn……。

c) § 92 (二23六) 成吉思中合罕 中合蒼黑把阿禿舌命 兀格宜 勺卜失耶周  
 太祖 皇帝 人名 勇士的 言語行 道是着  
 Činggis qahān Qadaḡ ba'atur-un üge-yi jöbšiyeju

札舌兒里黑 李魯舌命 凶思 中罕你顏 帖卜臣 牙蒼周 阿民 中豁舌羅中渾 孔客禿該  
 聖旨 傲 正主 皇帝自的。 棄捨 不能着 性命 刁着 教離的遠者  
 jarlig bolurun tus qan-iyān tebčin yadaju amin qoroquḡ künḡketüḡei

客延 不勅中合勅都中忽 額舌列 帖舌列 兀祿兀脣 那可祉克迭古 古温 不列額  
 麼道 斯殺的 丈夫 那箇 不是有麼 伴当可做的 人 有來  
 keyēn bulḡalduquḡ ere tere ülü'ū büjnököčegdekü kü'ün büle'e

客額額……。  
 說了  
 ke'e'ēd

(a) の ülü törekü aju'ū は文脈から見て、明かに《生まれなだらう》の意。“オゴデイの子孫で、青草に包んでも牛に食べられない、脂肉に包んでも犬に食べられない、そんな子供が生まれるなら、わが親族には、一人のよき子も生まれなだらう”と読めるが、この《生まれない》は未来の動作に属することは明白である。ここにどうして aju'ū が出て来るのか。それは aju'ū がもつ不可知性によるものと思える。aju'ū は《過去の存在を未知の立場から認定する》語であるが、《未来》は常に未知なるものである。それ故、aju'ū のこの特性を利用して、現在・未来の形動詞 törekü に後置して、未来の未知性を強く表現したのが、この aju'ū であろうと筆者は考える。(b) の qaraqū aju'ū, qaran aju'ū についても同様なことが言える。

(c) の büle'e は nököčegdekü kü'ün 《伴にされるべき人》に後置されて、この nököčegdekü kü'ün を一種の詠歎をこめて肯定的に断定している。これも《過去の存在を既知の立場から認定する》ことと結びついている。自分の仕える主人（正主）に忠実であることが、当時のモンゴル草原貴族における戦士の条件であった。チンギスは特にこの面を重視したことは秘史全篇に漲っている。正主に対する忠誠は、彼等にとっては、当然の、守らるべき、既定のモラルである。nököčegdekü kü'ün büle'e の büle'e は従って、その、いわば既定の事実を強く詠歎的に表現したものの理解されよう。

## 第二講 動詞の終止形〔Ⅱ〕

§1. 前講では、文を終止する機能をもつ動詞の変化形、即ち動詞の終止形語尾の中、いわゆる“時”を表示する時制語尾の全般に亘って説明を試みた。本講では、同じ終止形として機能する、命令、願望などの諸語尾を説明して、終止形語尾の記述を完成することにした。

秘史蒙古語に見られる命令形、願望形の諸語尾は以下の如く要約される。

### 1. 命令形

- (a) 動詞語幹そのまま
- (b) -dqun<sup>2</sup>
- (c) -ctun<sup>2</sup>, -ctud<sup>2</sup>
- (d) -tugai<sup>2</sup> ……………対三人称

### 2. 願望形

- (e) -su<sup>2</sup> ……………一人称単数
- (f) -sugai<sup>2</sup> ……………一人称複数 exclusive
- (g) -ya<sup>2</sup> ……………一人称単複数 inclusive
- (h) -'üjiai<sup>2</sup>, -'üjiyi
- (i) -d

蒙古語文語及び現代の諸方言に見られる

-cārai<sup>2</sup> (-aapañ<sup>4</sup>), -cāsaï<sup>2</sup> (-aacañ<sup>4</sup>), -g/-g

の三語尾は秘史蒙古語からは発見できない。この三語尾は、恐らく近世の発達と見られるが、今後の研究に委ねられる問題の一つである。

以下、順を追って、命令形語尾及び願望形語尾の解説に移りたい。

〔I〕 命令形

(a) 語幹そのままの形

多くの言語で見られるように、秘史蒙古においても、動詞の語幹そのものが、二人称に対する直接命令を表わす。その例は非常に多い、こゝでは、その若干例を示すにとどめる。

<1> § 207 (八41一~41七) 帖舌列 察黒途舌兒 鳴詰列舌論
tere čag-tur ügülerün
その 時 に 言う

在勺 孛魯阿速 騰格舌理迭 薛楊乞勳突(舌)兒 古舌兒格克迭額速
jōng jōb bolu'asu tenggeri-de sedkil-dür kürgege'ēsü
予言 正しく ならば、 天 にて 想い に 到ら るれば

納馬 中忽頰額箴思禿 孛勳中合 客額列額 赤 額朶額 勺禿刺
nama gučin emestü bolga ke'ele'e čī, edö'e jōb tula
我行 三十箇 妻 妻有的 教做 你 如今 是的上頭
我に 三人人の 妻女 を もたしめよ” と云えり 汝、 今 正しかる故

莎余舌兒中合周 額迭 幹舌羅黒撒楊 亦舌兒格訥 撒回 額箴宜 撒回幹乞
soyurqaju ede orogsad irgen-ü sayin eme-yi sayin öki
嘉して これら 降れる 人衆 の よき 妻女 を、 よき 乙女を

兀者周 中忽頰額箴思 莎汪中忽周 阿(ト) 客延 札舌兒里 孛勳罷。(73)
üjeju gučin emes soonguju ab keyēn jarlig bolba.
見て 三十人の妻女達を 選びて 取れ” とて 勳 しぬ。

<2> § 68 (一49三~49六) 朶脫舌刺 米訥 卯危備由 兀出格楊
dotora minu mau'ūi büyü, ücūged
(体の)中 ←わが 悪しく あり、 幼く

中豁擲(舌)魯黒撒楊 迭兀捏舌里顏 別勳必孫 別兒格泥顏 阿撒舌刺中忽宜
qočorugsad de'ü-ner-iyēn, belbisun bergen-iyēn asaraqu-yi
落 後 的 每 弟 每 自 的 行 寡 婦 嫂 嫂 行 照 顧 的
残れるもの(を)、 弟 違 を(己が)、 やもめなる 嫂 を(己が) 見やる を

赤箴迭 可兀米訥 帖木只泥 幹脫兒刊 幹楊抽 阿ト抽亦舌列
či mede, kō'ū minu Temüjin-i ötürken odču abču ire
汝 管せよ、 子 ←わが テムゲン を 疾く 行き つれ 来れ、

察中合米訥 蒙力克 客額楊 那克赤罷。(74)
čaca minu, Münglig kē'ed nōgčibe.
孩兒 我的 名 說 娶了
子 ←わが、 ムンリグよ” と言いて 身まかりぬ。

<3> § 105 (三3九~3十) 帖木真 札木中合突舌兒 中合撒舌兒
Temüjin Jamuqa-dur Qasar
人名 人名 行 人名
テムジン、 チャムカのもとに カサル

別勳古台 中豁牙里 亦列舌論 札木中合 安荅荅 鳴詰列 客延 鳴詰列周
Belgüteji qoyar-i ilerün Jamuqa anda-da ügüle keyēn ügüleju
ベルグディ 二人 を 遣るに “チャムカ 盟友 に 言へ” とて 言い

亦列舌論……。 (75)
去
ilerün……。
遣るに……。

以上三文例に見られる bolga (為せ), ab (とれ), mede (管せよ), ire (来れ), ügüle (言へ, 語れ) は、すべて動詞語幹 bolga-, ab-, mede-, ire-, ügüle- そのまゝの形で、何等の語尾をとらない。これを「ゼロ語尾をとる」としても悪いことはあるまいが、筆者は従来通り、語幹そのものが二人称に対する直接命令を示すとしておきたい。

(b) -dqun<sup>2</sup> (c) -gtun<sup>2</sup>, -ctud<sup>2</sup>

いわゆる古典期の文語——筆者は“古典期”の代りに“近世”を用い、「近世蒙古語文語」、簡潔には「近世文語」と呼ぶ。以下これに倣う——には -dqun<sup>2</sup> は稀であって、そのメタテーゼ形の -gtun<sup>2</sup> が一般的である。しかし、秘史蒙古語においては、-gtun<sup>2</sup> は § 230 (十二七, 八) に「客額克敦」ke'ēgdün として二回現われるのみで、その他は -gtun<sup>2</sup> の複数形 -ctud<sup>2</sup> がこれ亦二回現われるに過ぎない。即ち § 93 (二三五) に「兀種(勅)都克禿楊」üje(1)dügtüd, 帖(ト)赤勅都(克)禿楊 te(b)čildü(g)tüüd の二例である。之に反して -dqun<sup>2</sup> は116例が見られ、少くとも秘史蒙古語では圧倒的に -dqun<sup>2</sup> が用いられている。-gtun が -dqun<sup>2</sup> の metathesis による変異形であることは明かで、上の客額克敦 ke'ēgdün の直後に全く同じ文脈で客額楊坤 ke'ēdkün が用いられていることから知られる。秘史蒙古語は -dqun<sup>2</sup>→gtun<sup>2</sup> の推移期の言語と言うことができよう。

以下に -dqun<sup>2</sup> 及び -gtun<sup>2</sup> の文例を示すが、この語尾の示す意義素は明確なので、116例中の若干例を示せば十分である。

〈1〉 § 181 (六42二~42四) 中合楊中忽勅都阿訥 帖舌里兀楊 兀格思備  
 斯殺的 頭每 言語每有  
 qadquldu'ān-u teri'ūd üges büi,  
 “合 戦 の はじめの 言辞 なり、”

必勅格別乞 脫朶延 中豁牙舌兒 中合楊中忽勅都中灰 禿黑 孛思中合楊中渾  
 人名 人名 兩箇 斯殺的 旌纛 立起 您  
 Bilge=beki Tödöyēn qoyar qadqulduqi tug bosqadqun  
 ビルゲ・ベキ, トドイエン 二人は 合戦 の 旌纛を 起てよ、

阿黑闐思 塔舌兒中忽刺兀魯楊中渾 阿舌里牙勅 兀該備者 客額罷別 (76)  
 騙馬每 放肥了着 您 疑意 無有也者 說了  
 aqtas targula'üludqun, ariyāl ügei büi-je ke'ēbe.  
 去勢馬を 肥 や せ、 疑うことなるべし” と云いぬ。

〈2〉 § 149 (五4五~4八) 帖木真 納馬宜 兀祿 兀窟兀勅古  
 名 我行 不 數 死  
 Temüjin namayi ülü ükü'ülkü,  
 “テムジン 我を 死なしめざらん、”

塔 可兀楊 迭兀捏(舌)兒 米訥 幹帖(舌)兒 中合舌里楊中渾 失舌兒古額禿  
 您 兒子每 弟 每 我的 快 回 您 人名  
 ta kō'ūd de'üner minu öter qaridqun Širgü'etü  
 汝等, 子達 弟達 ← わが つとに 帰れ, シルグエトク

納馬宜 阿刺周 亦列兀澤 客延 也客擣兀阿舌兒 中孩刺罷。(77)  
 我行 殺着 去了恐 麼道 大 声 叫了  
 namayi alažu ile'üjei keyēn yeke dau'ū'ār qailba.  
 我を 殺し さらまじ” とて 大 声 もて 呼びぬ。

〈3〉 § 227 (九42八~43一) 客失兀敦 幹脫古思 中忽塔阿(舌)兒  
 班 每的 為長的。 第三  
 keši'ūd-ün ötögüs guta'ār  
 当直班の 長老達は 第三

中忽塔阿(舌)兒 客失克圖兒 額捏 札舌兒里黑 客失克帖捏 莎那思中合楊中渾  
 第三 班 裏 這 聖 旨 房衛的每行 教 聽 您  
 guta'ār kešig-tür ene jarlig kesigten-e sonosqadqun  
 第三の 当直 時に この 勅を 当直兵達 に 聞かせよ

額薛 莎那思中合阿速 客失兀敦 幹脫古思 阿勅蒼壇 孛勅禿孩。(78)  
 不曾 教 聽 阿 班 每的 為長的每 罰 每 教 敬者  
 ese sonosqa'asu keši'ūd-ün ötögüs aldaltan boltucaj.  
 聞かさざらば 当直班 の 長老達 罰 もちて あれ”

〈4〉 § 199 (八8七~8九) 抹舌兒途舌兒 塔訥 戈舌劣額孫  
 路 行 您的 野 獸  
 mör-tür tanu gōrō'ēsün  
 途 に ← 汝等の 狩獸

幹樂備者 阿魯思 薛楊乞周 迓步中灰突舌兒 扯舌里昆 古兀泥  
 多 有者 隔越 想着 行 時 軍的 人行  
 olon büi-je, alus sedkijü yabuqi-dur čerig-ün kü'ün-i  
 多か らん ぞ、 遠きを 想い 行く 時 兵 士 を

戈<sup>青</sup>劣額孫突舌兒 不 哈兀勸<sup>中合楊中渾</sup> 客木不該 不 阿巴刺<sup>楊中渾</sup>。(79)  
 野 獸 行 依 教走馬 您 限 無 休 匪 獵 您  
 gürö'ēsün-dür bñ ha'ülcadqun, kem ügei bñ abaladqun"  
 狩獸の もとに 馳けしむる勿れ、 きり なく 卷狩りするなかれ"

<5> § 184 (六49五~49七) 成吉思<sup>中合罕</sup> 亦秃<sup>舌兒堅突舌兒</sup> 兀禄  
 太 祖 皇 帝 人 名 行 下  
 Činggis qahān Itürgen-dür ülü  
 チンギス 可汗は イトゥルゲンに ものも

客列<sup>勸</sup> 中合撒<sup>舌兒突舌兒</sup> 阿卜抽 幹都<sup>楊中渾</sup> 中合撒<sup>舌兒</sup> 篋迭秃<sup>該</sup>  
 説 話 人 名 行 將 着 去 您 人 名 知 道 者  
 keleldün Qasar-dur abču odudqun, Qasar medetügei  
 言わす “カサルのもとに つれて 行け、 カサル 知るべし”

客額<sup>原作</sup>罷<sup>別</sup>。(80)  
 説 了  
 ke'ēbe.  
 と云いぬ。

<6> § 230 (十2四~3一) 《中》忽壇 中豁<sup>舌兒</sup> 《中》忽必思 乞恢  
 柳 箭 筒 但 動 斂  
 hutan qor hubis kiküj-  
 “柳の 矢筒 一 揺れする

突<sup>舌兒</sup> 中豁<sup>只楊</sup> 額薛 擺亦<sup>黑撒楊</sup> 中忽<sup>舌兒敦</sup> 迓步<sup>蒼勸壇</sup> 客卜帖<sup>兀勸</sup>  
 時 落 後 不 曾 立 來 的 每 快 行 的 每 宿 衛  
 dür qōjid ese baiyicsad qurdun yabudaltan kebte'ül  
 時、 おくれ 立 た ざりし、 快き 行いもてる 宿直兵 ←

米訥 幹勸<sup>澤田</sup> 客卜帖<sup>兀勸</sup> 米訥 幹脫<sup>古思</sup> 客卜帖<sup>兀勸</sup> 客額<sup>克敦</sup> 幹歌<sup>列</sup>  
 我的 吉慶的每 宿 衛 我的 老的每 宿 衛 説 您 人 名  
 minu öljeiten kebte'ül minu ötögüs kebte'ül ke'ēgdün, Ögöle  
 わが、 吉祥ある 宿直兵を ← わが 「長老なる 宿直兵」 と云え、 オゴレ

扯<sup>舌兒必魯額</sup> 幹<sup>羅黑撒楊</sup> 蒼闌 秃<sup>舌兒中合吉</sup> 也客思 秃<sup>兒中合兀楊</sup>  
 官名 一同 入 的 每 七十 散班每行 大 每 散班每  
 čerbi-lü'ē orocsad dalan turqag-i yekes turqa'ūd  
 侍從 と共に 入れる 七十人の 当直番を 「大なる 当直番達」

客額<sup>克敦</sup> 阿兒孩<sup>因</sup> 把阿秃<sup>的</sup> 幹脫<sup>古思</sup> 把阿秃<sup>楊</sup> 客額<sup>楊坤</sup> 也孫帖  
 説 您 人 名 的 勇士 行 老 每 勇士、 説 您 人 名  
 ke'ēgdün, Arqai-yin ba'atud-i ötögüs ba'atud ke'ēdkün Yesinte  
 と云え、 アルカイ の 勇士等 を 「長老の 勇士達」 と云へ、 イェンテエ、

不吉歹<sup>壇</sup> 中豁<sup>兒赤泥</sup> 也客思 中豁<sup>中</sup>兒臣 客額<sup>楊坤</sup> 客延 札兒里<sup>黑</sup>  
 人 名 等 帶 弓 箭 的 行 大 每 帶 弓 箭 的 每 説 您 麼 道 聖 旨  
 Bügidei-ten qorčïn-i yekes qorčïn ke'ēdkün keyën jarlig  
 ブギデイ等の 矢筒人 を 「大なる 矢筒人」 と云え、 と 統

孛<sup>勸罷</sup>。(81)  
 斂 了  
 bolba.  
 ありぬ。

<7> § 93 (二35四~35六) 納<sup>中忽伯顏鳴訥列舌論</sup> 中豁<sup>牙舌兒</sup>  
 人 名 説 兩 箇  
 Naqu=bayan ügülerün qoyar  
 ナク・バヤンの 言う “二人の

札刺兀<sup>思備</sup> 塔 兀<sup>種勸都克秃楊</sup> 抹那 中豁<sup>亦納</sup> 不 帖<sup>卜赤勸都克秃楊</sup>  
 少年 每 有 您 相 顯 您 明 後 休 相 棄 您  
 jala'ūs büi ta, üje(n)ldügtüd mönō qoyina bñ tebčildügtüd  
 若者 なり 汝等、 相見てゆけ、 この 後 な 棄て合いそ”

客額<sup>罷</sup>。(82)  
 説 了  
 ke'ēbe.  
 と云いぬ。

以上、7文例に見られる bosqadqun (立てよ), tarcula'üldqun (肥えさしめよ), qaridqun (帰れ), sonosqadqun (聞かせよ), ha'ülcadqun (走らせよ), abaladqun (卷狩せよ), odudqun (行け), ke'ēdkün (~と云へ), ke'ēgdün (~と言へ), üje(n)ldügtüd (見合え), tebčildügtüd (棄て合え)の諸例は、その文脈から見て、すべて、二人称複数に対する命令形であり、-dqun<sup>2</sup>の意義素は基本的には(二人称複数に対するの重々しい命令)と措定

しうる。

文例 (6) においては, ke'egdün が二度用いられている直後に ke'ëdkün が現われ, 漢語傍訳も「説您」を一様に示し, その上, この両者は全く同一の文脈に用いられているので, 前述したように -gtun<sup>2</sup> (ここでは -gdün) は -dqun<sup>2</sup> の metathesis による変異形と見ることができる。なお, 近世文語では -dqun<sup>2</sup> が姿を消し, この -gtun<sup>2</sup> が用いられるに到っていることは周知の事実である。

-dqun<sup>2</sup> が原則的には二人称複数に対する命令形であるように -gtun<sup>2</sup> も本来は対二人称複数形と見られるが——単数形は -gtui<sup>2</sup> (ポッペ氏の Grammar, p.90 参照)——文例 (8) には -gtüüd が実証され, これは -gtun<sup>2</sup> の複数形なること明かなので, 秘史蒙古語においては, 《特定の複数者》に対しては, -gtud<sup>2</sup> が用いられたと解されよう。

文例 (8) においても, ボオルチュの父, ナク・バヤンが, テムジンとボオルチュの二人に対して発した言葉の中で ta üje(n)ldügtüüd 《汝等, 相見よ→“互に助け合って行け”の意》, (ta) bü tebčildügtüüd 《(汝等) 棄て合うなかれ》と述べているのである。

(d) -tugai<sup>2</sup>

上述の「語幹そのままの形」と -dqun<sup>2</sup>~-gtun<sup>2</sup> は二人称に対する命令を意味するが, この -tugai<sup>2</sup> は第三人称に対する命令を表わす。即ち, 第三者が《~するように》, 第三者に《~させよ》の意義素をもつ。しかし, 秘史の言語では, 極く稀にはあるが, 二人称に対する命令としても用いられる。この形は, 現代の文語でも屢々用いられ, 口語でも, 例えば, monggul ulus mandutugai 《モンゴル国が興隆せよ→モンゴル万歳》のような常套句の中には散見される。

<1> § 124 (三46九~46十) 別勒古台 中合舌刺勒歹脱中忽舌刺温  
人名 人名  
Belgütei Qaraldaı=tocura'ün  
ベルグタイ カラルダイ・トゥグラウン

(中) 豁牙舌里 阿黑塔 把舌里秃中孩 阿黑塔臣 李勒秃中孩 客額罷<sup>原作</sup> (83)  
兩箇 騎馬 教 拿 龍馬人 敬者 説了  
qoyar-i agta baritugai, agtačın boltugai ke'ëbe.  
二人 を “騎馬を 可さどらせよう, 馬管理人 たるべし” と云えり。

<2> § 133 (四12五~12七) 額不格思 額赤格昔 必答訥  
祖 宗 父親每行 咱每的  
ebüges ečiges-i bidan-u  
“祖父達 父達 を ←われらの

巴舌刺黑撒<sup>楊</sup> 塔塔舌里 中合撒牙 必答 脱幹舌鄰<sup>勅</sup> 中罕 額赤格 幹帖舌兒  
了了的 種 行 併 每 咱每 人名 皇帝 父 快  
baracsad Tatar-i qamsaya bida, To'ōri(n)l qan ečige öter  
害せる タタル族を 併吞せん われ等, トオリル 汗 父よ 疾く

亦舌列秃該 客延 額捏 客連 古(舌)兒堅 額勅臣 亦列罷<sup>原作</sup> (84)  
來者 麼道 這 言語 送 使臣 去了  
iretügei keyēn ene kelen kürgen elčın ilebe.  
來れかし” とて この 言を とどけに 使者を 遣りぬ。

<3> § 163 (五33六~33十) 可克薛古撒<sup>卜</sup>刺中合 倒兀里黑蒼周  
人 名 行 被擄 着  
Kögsegü=sabrac-a dau'ülicdaju  
コグセグ・サブラグ に 掠奪されて,

王中罕 成吉思中合罕突舌兒 額勅赤 亦列主為 額勅赤 亦列舌倫 乃馬納  
人名 太祖 皇帝 行 使臣 差去了 使臣 使時 種 的  
Ong qan Činggis qahān-dur elči ilejü'üi, elči ilerün Najman-a  
オン 汗 チングリス 可汗 に 使者を 遣りたり。 使者を 遣るに “ナイマン族に

亦兒格 幹舌兒中豁班 額箴可兀邊 倒兀里黑蒼罷 必 可兀捏扯延  
百姓 人姻 自的 行 妻子 自的 行 被擄 了 我 子  
irge orgo-bān eme kö'ū-bēn dau'ülicdaba bi, kö'ün-eče-yēn  
人衆 散民 を 妻 子 を 掠奪されぬ 我, 子 より←自分の

朵舌兒邊曲魯兀的 赤訥 中忽余周 亦列罷<sup>原作</sup> 必 亦(舌)兒格 幹舌兒中豁  
四 傑 你的 索着 去了 我 百姓 人姻  
dörben külü'üd-i činu guyuju ilebe bi, irge orgo  
四 傑 を←女の 乞い(使者を)遣りぬ 我, 人衆 散民を



米訥 阿不舌刺周 幹克禿該 客額周 亦列主為。(85)  
 我的 教着 與者 說着 去了來  
 minu aburaju ögtügei ke'ējü ilejü'üj.  
 ←わが 教い 与えよ とて 遣りたり。

<4> § 171 (六七八~七十) 主舌兒址迭宜 董中豁楊中忽因 兀舌里苔  
 人名行 作声的 先  
 Jürčede-yi dunggodqu-yin urida  
 ゴールチェデイの 言発するの 前に

忙中忽敦 中忽亦勒蒼舌兒薛禪 鳴話列舌論 安苔因 額木捏 必  
 姓的 人名 說 契交的 前 我  
 Mangcūd-un Quyildar=sečen ügüleri anda-yin emüne bi  
 マングート族の クイルダル・セチェンの 言う “盟友の 前に われ

中合楊中忽勒都速 抹那中豁亦納 幹捏赤楊 可兀的 米訥 阿撒舌刺中忽宜  
 斯殺 以後 孤 兒行 我的 據學的 行  
 qadquldusu, mōnō qoyina önečid kō'ūd-i minu asaraq-yi  
 戦わん、 この 後 みなし 子達を ← わが 見やる を

安苔 箴迭禿該 客額罷<sup>原作</sup> (86)  
 契交 知道者 說了  
 anda medetügei ke'ēbe.  
 盟友 知るべし” と云いぬ。

<5> § 205 (八三三~六三三) 額朵額 不舌里訥 迭額舌列 撒兀舌里  
 如今 衆的 上 坐位  
 edö'ē büirin-ü de'ere sau'uri  
 “今 衆の 上なる 座に

撒兀周 也孫阿勒蒼突舌兒 不阿勒蒼禿中孩 李幹舌兒出 巴舌刺温 中合舌命  
 坐着 九次 罰 裏 休 罰 者 人名 右 手的  
 sa'ūju yesün alda-dur bū aldatugai, Bo'örču bara'un gar-un  
 坐して 九回の 過ち にも 替 めざるべし、 ボオルチュ 右 手の

阿勒台 迭舌列列古訥 土綿箴迭禿該 客延 札舌兒里黑 李勒罷 (87)  
 山名 枕的 万戸 教管者 慶道 聖旨 做了  
 Altaï derelekün-ü tümen medetügei keyēn jarlic bolba.  
 アルタイ山を 枕するもの の 万戸を 知らしめよ” と 勅 しぬ。

<6> § 278 (三三三~三三九) 雪泥 牙阿舌刺勒 客列圖 古温  
 夜 忙 言語有的 人  
 söni ya'āral keletü kü'ün  
 “夜、 忙ぎなる 話しある 人

亦舌列額速 客下帖兀勒魯額 中含禿 擺亦周 客列列勒都禿該 幹舌兒朵  
 米呵 宿衛 與 一同 整治着 教說者 宮  
 ire'ēsü kebte'ül-lü'e qamtu baiyiju keleldütügei, ordo  
 来らば 宿直兵 と 共に ありて(立ちて) 話し合うべし、 宮殿、

格舌兒圖兒 幹舌羅中忽 中含舌兒中忽宜 中晃中豁舌兒台 失舌刺中罕壇  
 房裏 入的 出的行 人名 人名等  
 ger-tür oroqu carqu-yi Qonggortaj Širaqantan  
 包に 入り、 出づるを コンゴルタイ、 シラクタン等

札撒兀勒 客下帖兀勒魯額 中含圖 札撒禿中孩。(88)  
 官名 宿衛 与 一同 整治者  
 jasa'ül kebte'ül-lü'e qamtu jasatugai.  
 治め人 宿直兵 と 共に 治むべし。”

<7> § 76 (二八五~二八七) 泰亦赤兀楊 阿中合迭兀耶顏 中合失兀  
 種名 兄弟 自的 苦  
 Taiyici'üd aqa de'ü-yeyēn gaši'ü  
 “タイチウド族 兄弟の 苦しみ

客舌兒 阿不舌刺中渾 必蒼 客額周 不恢突(舌)兒 額兒帖 阿蘭額客因  
 怎生 報得 咱每 說着 有的時 在前 婦人名 母的  
 ker aburaqun bida ke'ējü büküj-dür erte Alan eke-yin  
 をいかに 報ずべき われ等” と云い ある時、 かつての フラン 母の

塔奔兀楊箴圖 也勤額耶 兀格温備 塔不禿該 客額畢。(89)  
 五箇 子每 般 為甚 商量 無每有 您休 說了  
 tabun kō'üd metü yēkin eye üge'un büi ta бүтүгөй ke'ēbi  
 五人の 子等の 如く、 なんで 和 なく あるや 汝等、 やめよ” と云いぬ。

<8> § 189 (七一一~七一一) 帖温突舌兒 額客 亦訥 古舌兒別速  
 那的裏 母 他的 人名  
 te'ün-dür eke inu Gürbesü  
 そこに 母 ← 彼の グルベスの

鳴話列<sup>舌</sup>論 也乞兀者 帖迭額<sup>舌</sup>里 忙豁<sup>勤</sup> 亦<sup>舌</sup>兒堅 忽訥<sup>舌</sup>兒 卯兀壇  
 說 要做甚麼 那的裏 達達每 百姓 氣 歹每有  
 ügüleriin yēki'ūje tede'ēr-i, Mongcol irgen hünür mau'ūtan,  
 言う “いかにするや 彼等を, モンゴル 人衆 匂い 悪しく

<11> § 145 (四43八~43十) 額迭<sup>中</sup>忽<sup>舌</sup>兒班 土撒昔 赤訥 薛<sup>勤</sup>乞<sup>勤</sup>  
 這 三件 恩每行 你的 心  
 ede gurban tusas-i činu sedkil  
 “これら 三つの 功績 を←汝の 心の

中忽<sup>卜</sup>察速 巴<sup>舌</sup>刺<sup>兀</sup>壇 不列埃 昂吉荅 中豁羅不周 不禿該…。(90)  
 衣服 暗每有 有來 別處 遠 有着 有着者  
 qubčasu bara'ūtan büle'ēi, anggida qolo büjü bütügei  
 衣服 うす汚れて あり, はなれて 遠く あり あらしめん……”。

朵脫<sup>(舌)</sup>刺 米訥 阿禿<sup>中</sup>孩 客延 札<sup>舌</sup>兒里 孛<sup>勤</sup>罷。(93)  
 内 我的 存<者> 麼道 聖旨 做了  
 dотора minu atugai keyēn jarlic bolba.  
 中に ← わか あれ” と 勤 しぬ。

<9> § 174 (六16六~16八) 帖温突<sup>舌</sup>兒 阿赤<sup>黑</sup>失<sup>舌</sup>命 鳴話列<sup>舌</sup>論  
 那的裏 人名(的) 說  
 te'ün-dür Ačig-širun ügüleriin  
 そこ に アチグ・シルン の 言う

中罕<sup>中</sup>罕 不禿該 額赤捏 不古可兀額<sup>舌</sup>里<sup>舌</sup>命 額<sup>勤</sup>別孫 札刺麻 乞周  
 皇帝 皇帝 休 背処行 有的 子 尋 時 (ナ) (ン) 做着  
 “qan qan bütügei, ečine бүкү кө'ү erirün elbesün jalama kiju  
 “汗, 汗 やめよ, かくれ ある 子を 求むる時 魔法の ギャラマを 作りて,

阿備巴備 客延 額<sup>舌</sup>鄰 札<sup>勤</sup>巴<sup>舌</sup>里<sup>梅</sup> 必荅 額敦 脫<sup>舌</sup>命 巴刺<sup>黑</sup>三  
 (ナ) (ン) 麼道 尋 告 有 咱每 這些 生 了的  
 abuī babuī keyēn erin jalbarimuī bida, edüi törün baragsan  
 アブイ バブイ と云いて 求め 折るなり 我等, かく 生れ おおせし

可兀 桑古迷 阿撒<sup>舌</sup>刺<sup>牙</sup>……。(91)  
 子 人名行 孺拳 咱……。  
 kö'ü Senggüm-i asaraya…….  
 子 セングム を 見やらん

<10> § 225 (九36六~36七) 客<sup>卜</sup>帖兀里 也客延兀<sup>舌</sup>鄰 阿中合刺<sup>周</sup>  
 宿衛行 人名 為長着  
 kebte'ül-i Yeke=ne'ürin aqalaju  
 “宿直兵 を イェケ・ネウリン 長たりて

敏<sup>中</sup>合 篋迭周 阿禿<sup>(中)</sup>孩 客延 札<sup>舌</sup>兒里 孛<sup>勤</sup>罷。(92)  
 干 管着 有着者 麼道 聖旨 做了  
 mingca medeju atugai keyēn jarlic bolba.  
 干戸を 知らしめてあれ” と 勤 しぬ。

以上1~11における -tucaï<sup>2</sup> の諸実例を通して、この語尾の意義素を《第三者がある動作を行うこと・第三者をしてある動作を行わせること》と原則的に指定し得よう。

しかし、2の iretügei, 3の ögtügei, 4の medetügei などは、話し相手に対する要求、願望であり、必ずしも第三者にのみ用いられるとは云えない。話し相手を第三者と見たてゝ、話し手の要求、願望を表現する例と言える。7, 8, 9は bü- に接尾した例、10, 11は a- に接尾した例である。

bü- (ある, いる) に -tügei を接尾した bütügei は本来は語構成の通り《(第三者が)~であれ》を意味し、文例8の anggida qolo büjü bütügei 《はなれ, 遠くにありてあれ》の bütügei はその好例である。その《~であれ》から《そのままであれ》→《止まりあれ》→《やめよ》の意を経過し、現代の禁止の助辞——動詞の命令形に前置される——に転成した。現代の bitügei yabu 《行くな》はこの様にして成立した。文例7, 9の bütügei は上の《やめよ》の段階の意の用法と見ることができる。

文例7の bütügei は、その内容から見て、複数の話し相手に対して発せられた語であり、又、文例9の bütügei も話し相手に対して用いられている。この事を考慮に入れば、-tucaï<sup>2</sup> は発生的には、二人称に対しても、三人称に対しても用い得る機能を持っていたと考えても差支えあるまい。

同じ《ある, いる》を概略的に意味する動詞語幹 a- に接尾される atucaï は bütügei が持った如き意味上の変遷を迎ることなく、《~であれ》意のまま

推移した。これは、後述するように、a- が同じ存在を意味する動詞語幹でも、《客観的存在》をその基幹的意義素として所有しているところに帰因するものと考えられる。atugai 《〜であれ》は現代の文語文でも散見されるところである。

なお、近世の文語では、動詞語幹 bol-, bayi- に接尾し boltugai, bayitugai の形で《〜であるばかりでなく、〜のみならず》の意に用いられる特殊な用法があるが、秘史蒙古語においては、文例1の boltugai に見る通り、本来の意に用いられるのみである。しかし、

§ 80 (二15一~15五) Temüjin šiguī dotora curban qonoju garsu keyēn mori-yān kötöljü ayisuquī-dur morin-ača eme'el inu mül-türejü qočorču'ū. qariju üjebēsü eme'el kömü(n)ldürgelegse'er olanglacs'aār mültürejü qočorču'ū. olang-či boltugai kömü(n)ldürge basa ker mültürekü büle'ē. (94)

における olang-či boltugai 《肚帯はよしとしよう》の boltugai に、上述の(〜であるばかりでなく)の意味の萌芽を見ることができると思われる。

現代のハルハ方言などで用いられる、二人称を通しての三人称に対する命令形 -g(-g) は、秘史においては未だ見られない。

〔II〕 願望形

(e) -su², (f) -sucai²

-su² 及び -sucai² が一人称の願望を表示する語尾であることは -su² (110例), -sucai² (24例) の実例から明白であるが、-su² と -sucai² との関係如何ということになると、それは必ずしも分明とはいえない。

しかし、敢てその関係を追求すれば、発生的には -su² は一人称単復数形、-sucai² はその文体的変異形といえるかとも考えられる。以下に実例を読みながら論を進めよう。

<1> § 105 (三4五~5一) 巴撒 客舌列亦敦 朕幹舌鄰勅 中罕訥  
再 種 名 的 名 皇 帝 的  
basa kereyid-ün To'ōri(n)l qan-nu  
また ケレイド族 の トオリル 汗 の

鳴話列克先 兀格昔 札木中合答 鳴話列周 亦列舌倫 額舌児迭 兀都舌児  
説 了 的 言 語 毎 人 名 行 説 着 去 在 前 日 子  
üğülegsēn üges-i Ĵamuqa-da üğülejü ilerün erde üdür  
言 い し 言 を ザムカ に 言 い 遺 る に “昔 日

也速該 中罕額赤格迭 米訥 土撒撒亦 乞克迭克薛泥 薛乞周 那闊扯速  
人 名 皇 帝 父 行 我 的 濟 好 被 做 了 的 行 想 者 做 伴  
Yesügei qan ečige-de minu tusa sayi kigdegsen-i sedkijü nököčesü  
イエスゲイ 汗 なる 父 に ← わ が 功 益 を 行 い し を 想 い て 「伴 たらん

必 (中)豁牙舌児土篋擧勅周 把舌刺温中舌児孛倫 秣舌驪刺速 札木中合  
我 二 万 毎 做 着 右 手 做 上 馬 人 名  
bi, qoyar tümed bolju bara'un gar bolun morilasu Ĵamuqa  
我, 二 万 と な り て, 右 翼 と し て 上 馬 せん, ザムカ

迭兀迭 客列列周亦列 札木中合迭兀 中豁牙舌児 土篋擧 秣舌驪刺秃中孩  
弟 行 説 着 去 人 名 弟 二 万 毎 上 馬 教  
de'ū-de kelejü ile, Ĵamuqa de'ū qoyar tümed morilatucaī,  
弟 に 言 い て 遺 れ, ザムカ 弟 は 二 万 出 陣 す べ し,

中含秃擧中忽孛勅札安 札木中合迭兀迭址 孛勅秃中孩 客額罷。(95)  
相 合 的 約 会 人 名 弟 自 教 做 説 了  
qamtudqu bolja'an Ĵamuqa de'ū-de boltugai ke'ebe.  
お ち あ り 約 会 (地) は ザムカ 弟 に ま か す べ し と 云 い ぬ。

<2> § 100 (二44四~44五) 帖木真 阿中合納児 迭兀捏児  
人 名 兄 毎 弟 毎  
Temüjin aqa-nar de'ū-ner  
テムジン 兄 弟 達 は

秣驪刺周 額児帖 孛額擧 不児罕竹克中合児罷 中豁阿黑臣 額篋堅  
馬 上 着 疾 早 便 山 名 処 上 了 婦 人, 老 婦 人  
morilaĵu erte bö'ed Burqan ĵüg carba. Qo'agčün emegen  
上 馬 し て 早 々 に ブルカン山 へ 上 り ぬ, コアクテン 老 姿 は

李兒帖兀只泥你兀速客延 李刊合舌刺兀台 帖兒堅圖兒  
 名 行 要藏 慶道 黒 有的 車 裏  
 Börte=üjin-i ni'üsu keyēn bōkēn qara ūtai tergen-tür  
 ボルテ夫人 を “隠さん” とて 幌つきの 黒き 木枠の 車 に

兀訥温勒周……。(96)

教坐着……。  
 unu'ū(n)lju……。  
 のせて……。

<3> § 265 (三3四~3十) 你多泥 不(舌)兒中罕 赤 鳴話列舌論

去年 人名 你 説  
 nidoni Burqan čī ügülerün  
 去年 ブルカン 汝の 言うに

巴 唐兀揚 亦舌兒堅 巴舌刺温 中合舌兒 赤訥 李勒速 客額魯額。(97)

俺 種名 百姓 右 手 你的 做我 説来  
 ba Tangūd irgen bara'ün gar čīnu bolsu ke'elü'ē.  
 “我等 タングート 人衆 右 翼 ← 汝の たらん” と云いぬ。

<4> § 24 (一15六~15九) 李端察兒 兀舌魯中合 額薛脫阿(黒)蒼周

親行 不曾 被数着  
 Bodončar urug-a ese to'agdaju  
 ボドンチャル 親族に 数えられず

額(你)迭阿塔刺 牙温客額周 中豁蒼阿舌里秃 中豁多黎薛温勒秃 幹舌羅黒

這裏 住 甚麼 説着 脊 梁 痞 有的 秃 尾 黒脊  
 ende atala ya'ün ke'ejü gol da'aritu godoli se'ū(n)ltü orog  
 “ここ ありつつ 如何” とて 背に 鞍傷ある 秃びた 尾をもつ 黒背の

升中忽刺宜 兀訥周 兀窟額速亦訥 兀窟速該 阿阿速亦他阿速該 客額周

青白馬 行 騎着 死 阿 他的 死也者 活阿 他的 活也者 説着  
 šingqula-yi unuju ükü'ēsü inu üküšügej a'asu inu asugaï ke'ejü  
 灰褐色の 馬に のりて “死なば ← 彼の 死なん、 生きなば←彼の 生きん” とて

幹難沐舌漣 忽(舌)魯兀 約兒赤周 塔勒必罷。(98)

河 順水 去着 放了  
 Onan müren huru'ū yorčiju talbiba.  
 オナン 河に 沿い下り 行き されり。

<5> § 260 (土47四~47六) 額捏 訶舌羅捏 巴黒塔揚 亦舌兒格訥

這 西 地名 百姓的  
 ene hörön-e Bactad irgen-ü  
 “この 西に バクタド 人衆の

中合里伯 莎勒壇 客額古 備 客額梅 帖温突舌兒 巴 阿牙刺速中孩

人名 王 說的 有 説有 那的每行 俺 征進咱  
 Qalibaj soltan ke'ekü büj ke'emüi, te'ün-dür ba ayalasugaï  
 カリバイ ソルタン なる者 あり とぞ、 彼に われら 遠征せん”

客延 幹赤額速……。(99)

慶道 奏 阿……。  
 keyēn öči'ēsü  
 と 奏すれば……。

<6> § 103 (二51一~51三) 不(舌)峒中罕中合都泥 馬納中合兒不舌里

山名 行 每 早  
 Burqan=qaldun-i manacar büri  
 “ブルカン・カルドゥンを 朝 ごとに

馬里牙速中孩 兀都兒不(舌)里 幹赤速該 兀舌魯中渾 兀舌魯黒 米訥

祭祀 每 日 禱告 子々 孫孫 我的  
 maliyasugaï, üdür büri öčisügej, urug-un urug minu  
 祭し折らん、 日ごとに 奏し折らん、 親族の 親族よ ← わが

兀中合秃中孩 客延……。(100)

省着 慶道  
 uqatucaï keyēn……  
 心せよ” とて……。

文例1の nököčesü, morilasu の主語は bi であり、2の ni'üsu の -su の主語も文面には表われていないが “ni'üsu bi” の -bi であること明かである。

しかるに文例3の bolsu の主語は ba Tangūd irgen (《われらタングート人衆》) であって、主語は複数形の ba である。即ち -su<sup>2</sup> は一人称の単複いづれの主語に対しても用いられる。

一方、文例5の *ayalasucai* の主語は、この語の直前に置かれている *ba* (我々) であるが、6の *maliyasucaï*, *öčisügeï* の *-sucaï*<sup>2</sup> の主語はテムヂンを含めた *ba* と解し得ないこともないが、素直に読めばテムヂン自身即ち *bi* と解せよう。即ち、*-su*<sup>2</sup> と *-sucaï*<sup>2</sup> の差異は「数」の観点のみからでは解決し得ないことが知られる。とは言え、*-su*<sup>2</sup> の使用例110語の殆ど総ては一人称単数の主語をもっている。上記の *bolsu* は、極めて稀な1例であり、その他には §123に見られる *ögsü ba* (与えん、我等) の3例のみである。従って *-su*<sup>2</sup> は一人称単数と言ってよく、上の *bolsu* と *ögsü* は特殊な用例というべきである。その特殊な用例については後で考察することにして、*-sucaï*-に移ろう。*-sucaï*<sup>2</sup> の実例は、*-su*<sup>2</sup> に較べると少ない。*-sucaï* 17例 (内、*asucai* 3例)、*-sügeï* 7例 (内 *ögsügeï* 2例) 合計して24例のみで、*-su*<sup>2</sup> の110例に比して少ない。

文例4の *üküsügeï* (死なん)、*asucai* (生きん) の主語は文面には表われていない *bi* (我) であり——この文はボドンチャルが自己を第三者的に表現し *ükü'esü inu* (彼が死ぬならば)、*a'äsu inu* (彼が生きるならば) と表現されているところから従来、見解の分かれている一文である——文例5の *ayalasucai* の主語は *ayalasucai* 直前にある *ba* (我々 (exclusive)) である。文例6の *maliyasucaï* と *öčisügeï* については上述したところである。

即ち *-sucaï*<sup>2</sup> も主語の単・複に捉らわれることなく用いられている。*su*<sup>2</sup>-と *-sucaï*<sup>2</sup> が秘史の言語でどの様に使い分けられていたのか、今の処、明言は出来ないが、*-sucaï*<sup>2</sup> 24例を精査すれば、*-sucaï*<sup>2</sup> は *-su*<sup>2</sup> に比して、(より強い願望、意志) の表現に当てられていることが判明する。*-sucaï*<sup>2</sup> についての実例を以下に若干補足して見よう。

<7> § 165 (五40十~41三) 阿勒壇 中忽察舌兒 鳴話列舌論 巴  
 人同 人名 説 俺  
 Altan, Qučar ügüleriün ba  
 アルタン, クチャルの 言う “われら

訶額命 額客因 可兀泥 阿中合宜 阿刺周 迭兀宜 帖卜赤周 幹克速該  
 母名 母的 子行 兄行 殺着 弟行 棄着 與咱  
 Hö'elün eke-yin kö'ün-i aqa-yi alaju, de'ü-yi tebčijü ögsügeï,  
 ホエルン 母の 子を 兄を 殺し、 弟を 捨て やらん、

客額主為 額不格真 那牙勤 中合舌兒塔阿揚 鳴話列舌論 中合舌兒  
 説了 種人 種人 種人 説 手  
 ke'eju'üj. Ebügejin, Noyakin, Qarta'ad ügüleriün gar  
 と云いたり。 エブゲジン, ノヤキン, カルタアドの 言う “手を+

亦訥 中合舌兒答周 闊勒亦訥 闊勒迭周 幹克速該 客額主為。(101)  
 他的 拿着 脚 他的 拿着 與咱 説了  
 inu gardaju köl inü köldëjü ögsügeï ke'eju'üj.  
 彼の とり、 足を←彼の とりて やらん” と云いたり。

<8> § 169 (五48七~48十) 巴歹約舌兒赤周 那可舌兒 阿都兀赤  
 人名 去着 件当 放馬的  
 Badaï yorčijü nökör adu'üči  
 バダイ 行きて 伴なる 馬飼

乞失里中合 扯舌列訥 鳴話列克先 兀格思 鳴話列主兀 乞失里黑 鳴話列舌論  
 人名 行 人名 的 説了 言語毎 説了 人名 説  
 Qišilig-a Čeren-ü ügüleksen üges ügüleju'ü. Qišilig ügüleriün  
 キシリクに チェレンの 語れる 言の葉を 語れり。 キシリクの 言う

必 巴撒 幹揚抽 兀中合速中孩 客額周 格舌兒突舌兒 幹揚出為 (102)  
 我 再 去着 察聽咱 説着 家裏 出了  
 bi basa odču uqasucai ke'eju ger-dür odču'üj.  
 “我 また 行きて さぐり覚らん” とて 包に 入りたり。

<9> § 249 (土9四~9九) 成吉思中合阿泥 莎余兒中合阿速 巴  
 太祖 皇帝行 恩賜 呵俺  
 Činggis qa'an-i soyurqa'äsu ba  
 チンギス 可汗が 嘉赦下さるなら “われら

唐兀(楊) 亦舌兒堅 溫都舌兒 迭舌列速訥 捏木舌列帖 幹思格周 幹樂  
 種 百姓 高 薦草的 遮護 教長着 多  
 Tangüd irgen ündür deresün-ü nemüre-te ösgeju olon  
 タングート 人衆は 高き はやがぬ草の 遮護の もと 育てつ、 多くの

駝駝額 <small>駝駝</small> teme'ed 駝駝を	中合舌兒中合周 出着 garcaju 發出し、	中合 係官 qa 賈ぎ	孛勒中合周 教敬着 bolcaju となして	幹克速 与我 ögsü 与えん、	幹舌兒箴格 我子 örmege 粗毛を	捏客周 織着 nekejü 織りて
阿兀 <small>段匹</small> a'ūrasun 織物	孛勒中合周 教敬着 bolcaju となし	幹克速 与速 ögsü, 与えん、	幹幹舌兒中忽 放的 o'örqu 放つ	失鴉温 鷹 šibau'ün 鷹を	速舌兒中合周 調着 surcaju 調教し	
中忽舌刺兀勒周 聚着 qura'ülju 集めつ	撒亦 <small>好的每</small> sayid よきものを	亦撒 <small>他的</small> inu ←その	古 <small>舌</small> 兒格兀命 教送 kürge'ülün 送りつ	阿速中孩 常川 asugai けん*	客延 奏了 keyen と	幹赤罷 <small>原作</small> 奏了 öcibe. 奏せり。

(103)

文例7の ögsügei はアルタンとクチャル及びエブゲチン、ノヤキン、カルタア達達の《強い意志》の現われを示し、文例8の uqasugai は bi basa odču uqasugai 《我もまた行きて認知せん》に見られる様に、同僚のパダイの言をキンリグ自身がふたたび赴いて確かめようと云う強い意志・願望の表現である。更に文例9では ögsü が二度現われ、その文の最後を asugai で強く結んでいる。これらの諸例を見ると、上述した、-sugai<sup>2</sup> は -su より《一層強い願望・意志》を表示すると見ることが許されると思われる。と共に注目されることは -sugai<sup>2</sup> 24例の半数ほどは複数形の主語と共に用いられていることである。

秘史の言語では、いわば少数派であった -sugai<sup>2</sup> が後の文語に残って、-su<sup>2</sup> の方は比較的早い段階で——と云っても「蒙古源流」(1656年の作)や Lu. Altan Tobči では -su<sup>2</sup> はまだ多数派である——姿を消すに到ったのも、-sugai<sup>2</sup> の方が《より強い願望・意志》を示していたことに帰因するのではあるまいか(それに -sugai<sup>2</sup> の方が -su<sup>2</sup> よりも一音節多く、話し手に一種の安堵感を与えたとも言えようか)。

上に宿題とし残しておいた文例3の bolsu と §123 の ögsü を考えよう。§123の ögsü ba 《与えよう我々は》、文例3の ba Tangūd irgen……bolsu 《我々タングート人衆は……になろう》における ögsü も bolsu も、複数形の

主語をもっている。-su<sup>2</sup> は原則的には単数形なのに何故、こゝに -su<sup>2</sup> が用いられたか。上に単数の主語に対して用いられた -sugai<sup>2</sup> が《より強い願望・意志》の表示の故に用いられたことを説いたが、この -su<sup>2</sup> の場合は、まさにこの逆である。即ち -su<sup>2</sup> によって《より弱い願望・意志》を示したのである。不見中罕を主にいたゞくタングート人衆は成吉思汗の bara'ün gar 《右手》になることを切望したのではなく仕方なしに《右手になろう》と云ったのである。§123の ögsü も然りである。アルタン、クチャル、サチャベキ達は心からテムヂンを「中合罕」に推したわけではなかった。後に成吉思汗に背いて誅されること、秘史の後段で語られている(§136, §246, §255 参照)。このように見れば、これら bolsu, ögsü の -su<sup>2</sup> をよく説明しうる。

ここからは推測の域を出ることは出来ないが、発生的には -su<sup>2</sup> は一人称単数形、-sugai<sup>2</sup> は一人称複数形として機能し、-sugai は又一人称単数の《強い願望・意志》の表示に用いられ、それといわば裏腹に -su<sup>2</sup> が一人称複数形の《弱い願望・意志》の表示に用いられたものであろう。秘史蒙古語における -su<sup>2</sup> と -sugai<sup>2</sup> の諸用例から筆者は、-su<sup>2</sup> と -sugai<sup>2</sup> との関係を上如く推論したいと思う。

(g) -ya<sup>2</sup>

前項の -su<sup>2</sup>, -sugai<sup>2</sup> が一人称複数形として用いられた場合は、相手を含まない、こちら側だけの《我々の願望・意志》を表示する(exclusive) のに対し、この -ya<sup>2</sup> は相手を含みこんだ《我々の願望・意志》を表示する。

-su<sup>2</sup>, -sugai<sup>2</sup> が現代の話し言葉では殆ど用いられなくなったのに反し、-ya<sup>2</sup> は現在でも盛んに用いられる点で、息の長い語尾とすることができる。以下に若干例を提示する。

<1> §36 (—22—~22三)	田迭 <small>那裏自</small> tendeče かくして	阿中合亦納 兄 他的 aqa inu 兄 ←彼の	鳴詰列舌論 説 ügülerün 言う	者帖因 是那般 je teyin “然り、かく
--------------------	--	-----------------------------------	------------------------------	----------------------------------

孛額速 格児秃 舌里顏 古児抽 阿中合納児 迭兀捏児 額耶屯(勅) 都周 帖迭  
 有 呵 家 裏自的 行 到着 哥哥 每 兄弟 每 商量 着 那  
 bö'ësü ger-tür-iyēn kūrčü aqa-nar de'ū-ner eyetü(n)ldüjü tede  
 あらば 包 に ← 己が 到り 兄 弟 達に ともにはかりて それらの

亦児格泥 哈兀魯牙 客額(勅) 都周。(104)  
 百姓 行 尽擲咱每 共説 着  
 irgen-i ha'ūluya ke'ēldüjü.....  
 人衆 を 擧奪せん” と共に云いて……。

<2> § 101 (二46一~46五) 帖迭 扯舌里兀<sup>勅</sup> 帖堆 中合塔舌刺罷  
 那 軍 每 只那般 點着去了  
 tede čeri'ūd tedüj qataraba.  
 それらの 兵士達 かく 走り行きぬ。

中豁阿黑臣額篋堅 孛額 舌列 阿刺<sup>黑</sup> 忽客 舌里顏 迭列 都額<sup>勅</sup> 幹帖児連  
 名 老婦人 腰 花 牛 自的 行 打了着 疾 快  
 Qo'acčin emegen bö'ere alag hūker-iyēn deledü'ēd öterlen  
 コアクチン 老婆 腰の まだらの 牛 を(己が) 打ちて 疾く

捏兀古 孛命 帖児格納 騰格里(克)<sup>中</sup> 忽忽思 幹罷<sup>罷</sup> 騰格里(克)<sup>邊</sup>  
 起行 做呵 車 的 車 軸 折 玄了 箇軸 自的 行  
 ne'ükü bolun tergen-ü tenggelig qucus odba. tenggelig-bēn  
 移 らんとするに 車 の 車軸 ポキッと折れぬ。 車軸 を(己が)

中忽中忽(舌)<sup>刺</sup>(黑) 蒼周 迸歩 中合的 牙児 槐圖児 癸遷周 幹 舌羅牙  
 被 折 着 步行 着 林 裏 走着 入 咱  
 quculagdaju yabucad-iyār hoj-tur güyiju oroya  
 折られて 徒歩 もて “森 に 走り 入らん”

客額 勅 敦不恢突児.....(105)  
 相 説 有的 時.....  
 ke'ēldün бүкү-дүр.....  
 と共に云いてある時.....。

<3> § 110 (三16一~16四) 田迭址 帖木真 脫幹 舌鄰<sup>勅</sup> 中罕  
 自那裏 名 名  
 tendeče Temüjin To'ōri(n)l qan  
 かくして テムチンは トオリル 汗,

札木中合 安蒼 中豁牙舌刺 門 雪你 孛額<sup>勅</sup> 鳴帖列周 亦列 舌命 額 舌里古  
 人 名 契合 兩 箇 本 夜 便 説 着 去 專 的  
 Jamuqa anda qoyar-a mun söni bö'ed ügülejü ilerün erikü  
 チャムカ 盟友 二人 に その 夜に た龍ちに 言いて 遣るに “求むるべき

客 舌列 吉顏 幹(勅) 罷 必 雪你 不都里耶 額 你迭 保兀牙 必蒼 客額 周  
 用 自的 得了 我 夜 休 兼行咱 這裏 下咱 咱每 説着  
 kereg-iyēn olba bi, söni bū düliye, ende baq'ūya bida” ke'ējü  
 もの を(己が) 得ぬ 我, 夜を 徹すまじ, ここに 下馬せん 我等” と云いて

兀列罷。(106)  
 去了  
 ilebe.  
 遣りぬ。

<4> § 104 (三2四~2八) 額朵額 帖 舌列 兀格都 舌里顏 古 舌命  
 如今 那 言語 自的 行 到  
 edō'ē tere üge-dür-iyēn kürün  
 “今や かの 言 に ← 己が 到り

不 讎 中罕 裕 中 忽 因 中合 舌里兀 不 古 迭 篋 舌 児 乞 的 不 舌 列 勅 帖 列  
 貂 鼠 襖 子 的 回 奉 都 種 名 直至 毀滅  
 bulucan daqu-yin qari'ū bügüde Merkid-i büreltele  
 黒貂の 外衣 の 返礼に 総ての メルキド族が 破壊するまで

孛 児 帖 兀 只 泥 赤 訥 阿 不 舌 刺 周 幹 克 速 必 中合 舌 刺 不 讎 中罕 裕 中 忽 因  
 婦 人 名 行 你的 數着 與 我 黒 貂 鼠 襖 子  
 Börte-üjin-i činu aburaju ögsü bi, qara bulucan daqu-yin  
 ボルテ夫人 を ← 汝の 教い 与えん 我, 黒き 貂の 外衣 の

中合 舌 里 兀 中合 木 篋 児 乞 的 中合 塔 赤 周 中合 屯 孛 児 帖 宜 赤 訥  
 回 奉 普 種 名 行 破 着 娘子 婦人名 行 你的  
 qari'ū qamug Merkid-i qaltačiju qatun Börte-yi činu  
 返礼に 全 メルキド族を 破り, 后 ボルテ を ← 汝の

中合 舌 里 兀 勅 周 阿 不 赤 舌 刺 牙 必 蒼 赤 札木中合 迭 兀 迭 客 連 乞 周  
 回 着 将 来 咱 你 人 名 弟 行 言語 做着  
 qari'ülju abčiraya bida, či Jamuqa de'ū-de kelen kijü  
 返し 取らん 我等, 汝 チャムカ 弟 に 伝 言して

亦列……。(107)

教去  
ile…….  
遺れ”……。

<5> § 133 (四11十~12二) 成吉思<sup>太祖</sup>思<sup>皇帝</sup>中<sup>說</sup>合<sup>在</sup>罕<sup>前</sup> 鳴<sup>語</sup>話<sup>言</sup>列<sup>う</sup>舌<sup>る</sup>論<sup>る</sup> 額<sup>昔</sup>舌<sup>行</sup>兒<sup>了</sup>帖<sup>的</sup>  
Činggis qahān ügüleriin erte  
チンギス 可汗の 語り “昔

兀<sup>日</sup>都<sup>子</sup>舌<sup>行</sup>列<sup>種</sup>徹<sup>名</sup> 塔<sup>百</sup>塔<sup>姓</sup>舌<sup>姓</sup>兒<sup>姓</sup> 額<sup>祖</sup>不<sup>宗</sup>格<sup>父</sup>昔<sup>親</sup> 額<sup>行</sup>赤<sup>了</sup>格<sup>了</sup>昔<sup>的</sup> 巴<sup>了</sup>舌<sup>了</sup>刺<sup>的</sup>徹<sup>的</sup>撒<sup>雜</sup>黑<sup>有</sup> 幹<sup>有</sup>失<sup>的</sup>兀<sup>的</sup>帖<sup>的</sup>  
üdü-eče Tatar irgen ebüges-i ečiges-i baracsad öšiten  
日より タタル族 人衆は 祖父達 父達を 害せし 仇ある

亦<sup>百</sup>舌<sup>姓</sup>兒<sup>有</sup>堅<sup>來</sup> 不<sup>如</sup>列<sup>今</sup>額<sup>今</sup> 額<sup>這</sup>朶<sup>這</sup>額<sup>這</sup> 額<sup>機</sup>捏<sup>會</sup> 中<sup>機</sup>合<sup>裏</sup>納<sup>裏</sup>勛<sup>併</sup>突<sup>咱</sup>舌<sup>咱</sup>兒<sup>每</sup> 中<sup>併</sup>合<sup>咱</sup>撒<sup>咱</sup>牙<sup>每</sup> 必<sup>咱</sup>蒼<sup>每</sup>  
irgen büle'e, edö'e ene qanal-dur qamsaya bida  
人衆 なりき、今や この 機に 併呑せん 我等”

客額額……。(108)

說了  
ke'e'ed…….  
と云いて……。

-ya<sup>2</sup> は秘史全巻から193にのぼる使用例を発見しうる使用頻度の高い方の語尾であり、現代語でも屢々用いられるので、その表わす意義素の措定はそれほど困難ではない。筆者は上掲の諸用例の吟味から -ya<sup>2</sup> の意義素を《話し手が話し相手と共に、ある行為・動作を行なおうと言う話し手の願望》と措定する。これは、上の文例1~5を通して実証される。

文例1, 2の ha'üluya 《掠奪せん》と oroya 《入らん》の直後にともに ke'eldü- 《~と云い合う》が附されていることに注意したい。ke'eldü- の -ldü は《共に~する》を意味する「対動形」の接辞である。又3~5の文例では bau'üya 《下馬せん》, abčiraya 《連れ来らん》, qamsaya 《併合せん》の直後に bida 《我々》が見える。bida は一人称複数形 inclusive の代名詞であり、《相手

含めた我々》である。傍訳では常に《咱, 咱每》が附され、ba 《俺》と区別される。ここには5例だけ示したに過ぎないが、他の文例でもこの -ya<sup>2</sup> は頻出するので、ここでは、これ以上の挙例をさけた。

(h) -'ūjai<sup>2</sup>, -'ujā<sup>2</sup>, -'ujiyi

-ūjai<sup>2</sup> は文語形 -gūjai<sup>2</sup>, 現代のハルハ方言の -yyzai<sup>2</sup> に当る、N. Poppe 教授が dubitative と呼ぶ語尾である。秘史全巻に15例発見される。その数例を以下に示しつつ、解説する。

<1> § 131 (四9五~9九) 別<sup>人</sup>勛<sup>名</sup>古<sup>名</sup>台<sup>名</sup> 鳴<sup>說</sup>話<sup>言</sup>列<sup>う</sup>舌<sup>る</sup>論<sup>る</sup> 篋<sup>傷</sup>兒<sup>未</sup> 兀<sup>未</sup>都<sup>浅</sup>為<sup>く</sup>  
Belgütej ügüleriin mer üdü'üi  
ベルグテイの 言う “傷 浅く

不<sup>有</sup>列<sup>來</sup>額<sup>上</sup> 米<sup>我</sup>訥<sup>的</sup>禿<sup>頭</sup>刺<sup>上</sup> 阿<sup>兄</sup>中<sup>弟</sup>合<sup>行</sup>迭<sup>相</sup>兀<sup>怪</sup>突<sup>恐</sup>舌<sup>敬</sup>兒<sup>我</sup> 卯<sup>不</sup>兀<sup>我</sup>中<sup>不</sup>合<sup>我</sup>鄰<sup>不</sup> 李<sup>我</sup>魯<sup>不</sup>勛<sup>我</sup>察<sup>不</sup>兀<sup>不</sup>齋<sup>我</sup> 必<sup>我</sup>兀<sup>不</sup>祿<sup>我</sup>  
büle'e, minu tula aqa de'ü-dür mau'üqalin bolulča'ūjai, bi ülü  
ありき、わがために 兄弟に 仲違い ならざるよう、 我ゆ

阿<sup>際</sup>勛<sup>事</sup>札<sup>我</sup>中<sup>比</sup>忽<sup>して</sup> 必<sup>我</sup> 亦<sup>我</sup>刺<sup>比</sup>阿<sup>と</sup>舌<sup>よく</sup>里<sup>有</sup>備<sup>あり</sup>由<sup>兄</sup> 阿<sup>兄</sup>中<sup>弟</sup>合<sup>行</sup>迭<sup>相</sup>兀<sup>怪</sup>突<sup>恐</sup>舌<sup>敬</sup>兒<sup>我</sup> 撒<sup>怡</sup>亦<sup>纒</sup> 亦<sup>慣</sup>只<sup>熟</sup>里<sup>慣</sup>都<sup>熟</sup>勛<sup>慣</sup>纏<sup>れ</sup>  
aljaqu, bi ila'ari büyü, aqa de'ü-dür sayi ijilidülčen  
ゆしからず、我比してよくあり、兄弟にて やっと 慣れあい

不<sup>有</sup>恢<sup>時</sup>突<sup>有</sup>舌<sup>時</sup>兒<sup>有</sup> 阿<sup>兄</sup>中<sup>弟</sup>合<sup>行</sup> 不<sup>休</sup>禿<sup>且</sup>該<sup>且</sup> 中<sup>且</sup>豁<sup>住</sup>舌<sup>住</sup>魯<sup>説</sup>木<sup>了</sup>揚<sup>了</sup> 擺<sup>説</sup>宜<sup>了</sup> 客<sup>説</sup>額<sup>了</sup>額<sup>了</sup>…… (109)  
büküj-dür aqa bütügej, qorumud baiyi ke'ebe.  
あるに 兄 やめよ、 しばし(そのまま)あれ”と云いぬ。

<2> § 169 (五48四~48六) 額<sup>妻</sup>篋<sup>他</sup>亦<sup>他</sup>訥<sup>の</sup> 阿<sup>人</sup>刺<sup>名</sup>黑<sup>名</sup>赤<sup>名</sup>…… 鳴<sup>說</sup>話<sup>言</sup>列<sup>う</sup>舌<sup>る</sup>論<sup>る</sup>  
eme inu Alacčid ügüleriin  
妻 ← 彼の アラグチドの 言う

帖<sup>那</sup>舌<sup>泛</sup>列<sup>濫</sup> 迭<sup>言</sup>列<sup>語</sup>篋<sup>的</sup> 兀<sup>甚</sup>格<sup>麼</sup>赤<sup>敬</sup>訥<sup>有</sup> 牙<sup>甚</sup>温<sup>麼</sup>李<sup>敬</sup>魯<sup>有</sup>梅<sup>有</sup> 哈<sup>人</sup>舌<sup>也</sup>蘭<sup>也</sup> 巴<sup>也</sup> 兀<sup>敬</sup>年<sup>真</sup>米<sup>誠</sup>〔石〕格<sup>真</sup>兀<sup>誠</sup>澤<sup>誠</sup>  
tere deleme üge činu ya'un bolumuj haran ba üne(n)mišige'ūjei  
“その あだし 言葉 ← 汝の 如何に なるぞ、 人々 も 真となさざらん”



客額主為。(110)

說了  
ke'ejü'üj.  
と云いたり。

<3> § 149 (五 4 五 ~ 4 八)

帖木真 納馬宜 兀祿 兀窟兀勒古  
名 我行 不 教死  
Temüjin namayi ülü ükü'ülkü,  
“テムジン 我を 死なしめざらん、”

塔 可兀楊 迭兀捏(舌)兒 米訥 幹帖(舌)兒 中合(舌)里楊中渾 失(舌)兒古額禿  
您 兒子每 弟 每 我的 快 回 您 人名  
ta kō'ūd de'ū-ner minu öter qaridqun, Širgü'etü  
汝等 子達 弟 達よ ←わが、 疾く 帰れ、 シルグエトク

納馬宜 阿刺周 亦列兀澤 客延 也客擣兀阿(舌)兒 中孩刺罷。(111)

我行 殺着 去了恐 麼道 大 聲 叫了  
namayi alaju ile'ūjei keyēn yeke daq'ū-'ār qajlaba.  
我を 殺し さらざるよう” とて 大 声 もて 叫びぬ。

<4> § 179 (六 37 一 ~ 37 五)

額朶額 中罕 額赤格迭 米訥  
如今 皇帝 父 行 我的  
edö'ē qan ečige-de minu  
今は 汗 なる 父 に ←わが

撒亦途(舌)兒 那可扯周 幹古楊坤 委亦当中合 客額克迭兀者塔  
好 生 做伴着 與 您 好 怠慢 恐被說 您  
sayitur nōkōčejü ögüdkün, uiyidangca ke'ēgde'ūjē ta,  
よく 伴たりて 与えよ、 「あきやすし」と云われまいぞ 汝等、

察兀(舌)忽里因 禿(舌)魯額列 阿主為 不 客額兀魯楊坤 中忽兒班

官 名的 倚仗 但 有 来 休 被 說 您 三  
Ča'ūd=quri-yin tuluc ele aju'ū bū ke'ē'üldkün, curban  
「ヂャウト・クリ の 支えられもの にてぞ ありき」と 言われまじ、 三

沐(舌)冽教 帖(舌)里温 客捏別(舌)兒 不 保兀魯楊中渾 客額周 亦列(原)別 (112)

河 的 源 頭 任 誰 行 也 休 教 下 營 說 着 去 了  
müred-ün teri'ün ken-e-ber bū bau'üludqun ke'ejü ilebe.  
河 の 源 に 誰にても 下營さすまじ” とて 遣りぬ。

<5> § 190 (七 14 五 ~ 14 十) 阿刺中忽石的吉楊中忽(舌)里 月孽忽難

人 名 人 名  
Alaquiš=didigid=quri Yuqunan  
アラクシ・ディディギド・クリ ユクナン

捏(舌)列禿 額赤赤耶(舌)里顏 成吉思(中)合罕納 鳴(舌)訥列周 亦列(舌)命 乃馬訥  
名字有的 使臣 自的行 太 祖 皇帝 行 說 着 去 種 名的  
neretü elč'in-iyēr-iyēn Činggis qahan-a ügülejü ilerün Najman-u  
なる名の 使者 もて ←己が チンギス 可汗 に 言いて 遣るに “ナイマン族の

塔陽 中罕 中(舌)豁(舌)兒 赤訥 阿不(舌)刺 亦(舌)列梅 納馬宜 巴(舌)刺温  
人名 皇帝 箭筒 你的 取 来 有 我行 右  
Tayang qan qor činu abura iremüj, namayi bara'ün  
タヤン 汗 矢筒を ← 汝の とるべく 来る、 我を 「右

中(舌)合(舌)兒(舌)字(舌)勒 客額周 亦(舌)列(舌)主兀 必 額薛(舌)勒罷 額朶額必 赤馬答  
手 做 說着 来了有 我 不 曾 做了 如今 我 你 行  
gar bol ke'ejü irejü'ū, bi ese bolba, edö'ē bi čimada  
翼 なれ” とて 来れり、 我 肯ぞなりき。 今 我 汝に

薛(舌)列兀(舌)勒周 亦(原)列(舌)別 亦(舌)列周 中(舌)豁(舌)里顏 阿(舌)不(舌)答兀澤 赤 客額周  
教 省 着 去了 来 着 箭筒自的行 恐被要了 你 說着  
sere'üljü ilebe. irejü qor-iyān abda'ūjai čī ke'ejü  
知らせ 遣りぬ。 来て 矢筒 を(己が) 奪われまいぞ 汝” とて

亦列主為。(113)

去了有  
ilejü'üj.  
遣りぬ。

<6> § 199 (八 6 九 ~ 7 八)

帖迭泥 只兀(舌)兒禿 字(舌)勒周 你思抽  
他 每行 翅 有的 做着 飛 着  
teden-i jī'ürtü bolju nisčü  
彼等が 翼 もち なりて 飛びて

騰(舌)格(舌)理突(舌)尾 中(舌)合(舌)魯阿速 赤 速別額台 升(舌)中(舌)豁(舌)兒 字(舌)勒周 你思抽  
天 行 上 阿 您 人 名 海 青 做着 飛  
tenggeri-dür garu'āsu čī Sübe'etej šingqor bolju nisčü  
天 に 上らば、 汝 スペエタイ 海青 たりて 飛びて

兀禄兀 不 ülü'ü	把舌里兀只宜 拿 麼 bari'ūjiyi,	塔舌兒巴中罕 土 撥 鼠 tarbacan	孛勤周 做着 bolju	乞木速阿舌里顏 爪甲 自的行 qimusu'ār-iyān	馬勒塔周 跪 着 maltaju	
中合札舌兒途舌兒 地 行 cajar-tur	幹舌羅阿速 入 阿 oro'āsu	察里舌兒 鉄 鉄 čalir	孛勤周 做着 bolju	擲舌周 擊 着 čokiju	額舌里周 尋 着 erijü	〈兀〉禄兀 不 ülü'ü
地上 壓 かざるや	に 入らば	鉄 鉄 鉄	たりて	打ち	求め	追いつ

古亦扯古 赤……。(114)  
 趕上麼 你  
 güyicëkü čiči…….  
 かざるや 汝……。

文例1の「孛魯察兀齋」bolulča'ūjai は bol-u-lča-'ūjai と分析され、漢字「兀齋」によって-'ūjai が表記されている。文例5の「阿、蒼兀澤」abda'ūjai では「兀澤」が-'ūjai を表わしている。

文例2,3の「兀年米〔石〕格兀澤」,「亦列兀澤」においても「兀澤」が見え、これは女性母音語幹なので üne(n)mišigē'ūjei, ile'ūjei と転写される。文例4の「客額克迭兀者」ke'egde'ūjē の「兀者」は「兀齋, 兀澤」の文字面での変種である。文例6の「把舌里兀只宜」bari'ūjiyi の「兀只宜」も同種の変種と見られる。

この語尾は《第三者が、ある行為・動作を“行なわなければよいが…; 行なわないうように”との話し手の懸念、心配)を表わし、丁度、文語の -gārai<sup>2</sup>, ハルハ方言などの -aapai<sup>4</sup> の逆の意味を示す。

文例1の minu tula aqa de'ū-dür ma'u'ūqalin bolulča'ūjai はベルグテイが“私のために兄弟仲違いしないように”との表現で-'ūjai の好例である。文例2の haran ba üne(n)mišigē'ūjei も“普通の人々が本当と思わなければいいのですが”というイエケチェレンの妻の懸念がよく表わされている。

文例3の Širgü'ētü namayi alaju ile'ūjei も“シルダエトウが私を殺してしまおうといけないから”という話しの強い懸念を表わしている。

文例4の uiyidangca ke'egde'ūje “あきっぱいと言われないように”, 日本語の文語的表現を使えば、この場合は《ゆめ〜まいぞ》ということになる。

文例5の qor-iyān abda'ūjai “矢筒を取られよいうように, 取られまいぞ”の-'ūjai も、この語尾の意味がはっきり表われている。

文例6の ülü'ü bari'ūjiyi は否定疑問の意を表わす ülü'ü が bari'ūjiyi に前置されていて、なかなか直訳困難であるが、teden-i から bari'ūjiyi までの文意は《彼等が翼もち飛び天空に上らば、汝スベエテイ海青たりて飛び促えざらんや》となり、懸命形の打消しに反語の疑問が附加された形と読めるであろう。

上記の -gārai<sup>2</sup>, -aapai<sup>4</sup> が秘史蒙古語には未だ一例も見られないのに、その反対の意味内容を示す -ūjai<sup>2</sup> の方がこの様に使用されているのに筆者は興味を感じる。-gārai<sup>2</sup> が何時頃から文献の世界に現われ始めるかも調べる必要のある問題である。

最後に、この語尾の意義素を《話し手以外の第三者がある動作を行なわいうよとの話し手の懸念・疑念・心配)を表示すると措定しておく。

### (i) -d

この語尾 -d に最初に注目したのは C. A. Козин 氏であり、彼はこの語尾を indicativform と認め、Poppe 氏もこれに従っている<sup>(1)</sup>。筆者もかつてはこれを indicativeform と認めたが、現在では、むしろ、《断定法)とでも呼ぶべき意味を表わす語尾と考える。以下に用例と共に述べる。

〈1〉 § 21 (—13—~13七) 雪你<sup>不</sup>舌里 超堅 失舌刺 古温  
 夜 毎 明 黄 人  
 sönid büri čeügen šira kü'ün  
 夜 ごとに 薄 黄 の 人

格格命 額舌魯格 朵脫中合因 格格額兒 幹舌羅周 客額里 米訥 必里周  
 房の 天窓 門額 的 明裏 入着 肚皮 我的 摩着  
 ger-ün erüge dotoga-yin gege'er oroju ke'eli minu bilijü  
 ゲルの の 天窓 戸上のあき間の 明るみもて 入り、 腹を ← わが さすりて、

格格延 亦訥 客額里突兒 米訥 升格古 不列額 中合(舌)魯舌命 納舌蘭  
 明 他的 肚皮裏 我的 透 有來 出時 日  
 gegeyēn inu ke'ēli-dür minu šinggekü büle'ē. garurun naran  
 光 ← その 腹 に ← わが しみ透る なりき。 出ずるに、 日

撒舌刺因 乞里耶兒 失舌刺那孩篋圖 拭察班勒札周 中合兒中忽不列額 迭列篋  
 月的 透入裏 黃 狗 般 爬 着 出 有來 造次  
 sara-yin kiliyēr šira noqaj metü šičabaljaju qarqu büle'ē, deleme  
 月 の 境の頃、 黄色き 犬 のごと 這い 出ずる なりき、 みだりに

也勤 鳴詰列塔 挑兀別兒 中合阿速 忝迭克亦訥 騰吉舌里因 可兀(揚)  
 如何 說 您 為那般 省 阿 明白 他的 天的 子  
 yēkin ügüled ta. teü'über uqa'āsu temdeg inu tenggeri-yin kō'üd  
 如何 に 言うぞ 汝等。 そをもて 省みれば 示すところ ←その 天 の 子

備由者 中合舌刺 帖舌里兀禿 古温途兒 中合泥勒中罕 也勤 鳴詰列塔  
 有也者 黑 頭 人行 比 着 如何 說 您  
 büyü-je. qara teri'ütü kü'ün-tür qanilcan yēkin ügüled ta.  
 なる ぞ。 黒き 頭もてる 人 に なぞらえ 如何に 言うぞ 汝等。

中合木中渾中合楊 李魯阿速 中合(舌)刺除思 田迭 兀中合楊者 客額罷。(115)  
 普的 帝王 做 阿 下 民 那裏 省 說了  
 qamug-un qad bolu'āsu qaračus tende uqad-je ke'ēbe.  
 昔 き 王達 たらば 平民達は そこに 省み覚るなり”と云いぬ。

<2> § 64 (一44六~44十) 巴 翁吉舌刺楊 亦兒堅 額兒帖  
 俺 百姓 自在前  
 ba Unggirad irgen erte  
 われ等 ウンギラ族 人衆 昔の

兀都舌列址 者額因 只孫 幹乞訥 汪格田 兀魯思兀祿 帖篋徹楊  
 日子 外甥的 顔色 女的 顔色有的毎 国 不 争  
 üdür-eče je'e-yin jisün ökin-ü önggeten, ulus ülü temečed,  
 日より 娘 の 容色、 乙女 の 顔色もてり、 人々 争わざるなり、

中合察兒 中豁阿幹乞的 中合罕 李魯黑撒納 塔訥 中合撒黑帖兒堅圖兒  
 腮 美 女子行 皇帝 做 了 您的 大 車 裏  
 qačar go'a ökid-i qahan bolucsan-a tan-u qasac tergen-tür  
 頬 美わしき 乙女等を 汗 たりし(もの) に ←汝等の 高き 車 に

兀訥温勒周 中合舌刺不兀舌刺 可勒格周 中合塔舌刺温勒周 幹楊拙 中合屯  
 教坐着 黑 駝 駝 駕着 點 着 去着 娘子  
 unu'ü(n)lju qara bu'ūra kölgeju qatarau(n)lju odču qatun  
 の せ、 黒き 雄駝を つけ 馳らせ 行きて 右の

撒兀舌鄰圖兒 中合禿 撒兀魯模 巴 兀魯思 亦兒堅 兀祿 帖篋徹楊 (116)  
 位 裏 一箇 教坐有來 俺 国 百姓 不 争  
 sa'ürin-tür qamtu sa'ulumu ba, ulus irgen ülü temečed.  
 座 に とともに 即かしむ 我等、 民人、 人衆は 争はざるなり。

<3> § 153 (五17五~17七) 成吉思中合罕 札撒黑 鳴詰列勒都舌論  
 太祖 皇帝 軍法 共 說  
 Činggis qahān jasac ügüledürün  
 チンギス 可汗 軍規を 申しあわせて言う

歹亦孫古兀 蒼舌魯阿速 幹勒札突舌兒 不 擺亦牙 蒼舌命巴舌刺阿速  
 敵 人 勝了阿 財 行 休 立 咱 勝了阿  
 dajyisun kü'ü daru'āsu olja-dur bū baiyiya darun bara'āsu  
 “敵 人を 下すも 戦利品 に 立ちどまるまじ、 下し 終らば

帖舌列 幹勒札 必蒼訥埃 備者 中忽必牙勒都楊者 必蒼 那闊舌兒古兀捏  
 那 財 咱每的 有也者 共分 也者 咱 被敵人行  
 tere olja bidan-u'āi büi-je, qubiyaldud-je bida, nökör kü'ün-e  
 その 戦利品 我等のもの るなぞ、 分けあひものぞ 我等、 敵 人 にて

亦出阿黑蒼阿速 土舌魯訥 多ト禿魯黑三 中合札舌兒都舌里顔 額客額舌魯<也>  
 起 退 阿 始初的 衝的 地面裏自的 翻身 咱  
 iču'agda'āsu türün-ü dobtulucsan cajar-dur-iyān eke'ēriye,  
 退かざるれば もとの 襲撃せる 地 に ← 己が もどらん、

土舌魯訥 多ト禿勒中罕突舌兒 額薛 額客額舌魯克先 古兀泥 抹可舌里兀魯<也>  
 始初的 衝的 時裏 不曾 翻身的 人行 斬了者 咱  
 türün-ü dobtulcan-dur ese eke'ērügen kü'ün-i mökōri'ülüye  
 もとの 襲撃(地) に もどらざる 人を 斬らしめん”

客延 札撒黑刺勒都罷伯 (117)  
 慶道 共 整治 了  
 keyēn jasaqlalduba.  
 とて 軍規を定め合いぬ。

〈4〉 § 176 (六19八~20三) 中合<sup>勅</sup>中合<sup>因</sup> 捕魚<sup>舌</sup>兒 納活<sup>舌</sup>兒途<sup>舌</sup>兒  
 河 名 的 海子名 海子 行  
 Qalqa-yin Büyür na'ür-tur  
 “ハルハ 河の ブユル 湖 に

兀<sup>勅</sup>都米納阿壇 失兀<sup>迭</sup>舌里 亦<sup>啞</sup>周 克兀<sup>訥</sup>周 逐步<sup>楊</sup> 帖迭  
 銀刀 做鞭 有的 露 喫着 風 騎着 行每 那的每  
 üldü mina'atan, ši'üderi idejü kei unuju yabud tede,  
 劍の 鞭をもち、 露 を くらいて、 風にのりて、 行くなるぞ 彼等

赤<sup>楊</sup>中<sup>忽</sup>中<sup>忽</sup> 忽札兀<sup>舌</sup>刺 帖<sup>舌</sup>兒格(克) <額>箴<sup>勅</sup>田 翁吉<sup>舌</sup>刺楊 備客延  
 注 的 根 源 行 人 名 人 名 等 種 有 嬰 道  
 čidququ huja'ür-a Tergeg Eměl-ten Unggirad büi keyen  
 注ぐ 河口 に テルゲク エメル 等の ウンギラド族 あり” と

阿刺<sup>勅</sup>都中<sup>灰</sup> 兀<sup>都</sup>舌兒 哈<sup>舌</sup>刺訥 米<sup>中</sup>合 亦<sup>啞</sup>楊 <帖>迭 古<sup>舌</sup>魯<sup>勅</sup>扯古兀<sup>都</sup>舌兒  
 斬殺 的 日 人 的 肉 喫每 那的每 相 到 的 日  
 alalduqi üdür haran-u miqa ided tede, kürülčeki üdür  
 殺し合う 日には 人 肉を くらうなるぞ彼等、 到り合う 日には

箴迭<sup>周</sup> 主<sup>舌</sup>兒址迭<sup>宜</sup> 兀<sup>魯</sup>兀<sup>的</sup>牙<sup>舌</sup>兒 亦<sup>列</sup>罷<sup>原</sup> 亦<sup>列</sup>舌<sup>命</sup> 翁吉<sup>舌</sup>刺楊  
 知 着 人 名 行 (種名) 領着 教去了 去 時 種  
 medeju jürcede(i)-yi Uru'üd-iyär ilebe. ilerün Unggirad  
 知りて デュルチュェデイをして ウルウド族 もて 遣りぬ。 遣わす “ウンギラド

古兀<sup>訥</sup>米<sup>中</sup>合 古捏<sup>速</sup>列<sup>楊</sup> 帖<sup>迭</sup> 斤<sup>只</sup>邊 木<sup>勅</sup>禿<sup>勅</sup>迭<sup>周</sup> 額<sup>朵</sup>額 額<sup>薛</sup>兀  
 人 的 肉 做行機 那的每 鉄索自的 行 被脱着 如今 不曾  
 kü'ün-ü miqa künesüled tede, ginji-ben mültüldeju edö'e ese'ü  
 人 肉を 食するぞ 彼等、 鎖 を(己が) とかれて 今や \*あらずや

亦<sup>舌</sup>兒堅 額<sup>舌</sup>兒帖 兀<sup>都</sup>舌<sup>列</sup>徹 者<sup>因</sup> 只<sup>速</sup>額<sup>舌</sup>兒 幹<sup>乞</sup>訥 汪<sup>格</sup>額<sup>舌</sup>兒  
 百 姓 在 前 日 子 行 外甥的 容貌依着 女 的 顔色 依着  
 irgen erte üdür-eče jē-yin jisü'er ökin-ü öngge-ēr  
 人衆 「昔の 日 より 娘 の 容色もて、 乙女 の 顔色 もて

不<sup>黑</sup>撒<sup>周</sup> 阿<sup>黑</sup>撒<sup>楊</sup> 巴<sup>牙</sup>思<sup>拙</sup> 帖<sup>因</sup> 失<sup>列</sup>箴<sup>勅</sup> 阿<sup>亦</sup>賽 帖<sup>迭</sup> 客<sup>額</sup>主<sup>為</sup>。(119)  
 拘束着 有的每 喜歡着 那般 垂涎着 来也 那的每 說了  
 bucsaju aqsad bayasču teyin šilemeljen ayisai tede ke'eju'ü.  
 怒りたけたる者 喜びて かく 涎をたらし 来れる\* 彼等” と云いたり。

客<sup>額</sup>速 額<sup>勅</sup>薛<sup>楊</sup>者 木<sup>楊</sup> 不<sup>勅</sup>中<sup>合</sup>亦<sup>訥</sup> 客<sup>額</sup>速 中<sup>合</sup>楊<sup>中</sup>忽<sup>勅</sup>都<sup>楊</sup>者 必<sup>蒼</sup>  
 說咱 投降 也者 他每 反 他的 說呵 斬殺 也者 咱每  
 kē'ēsü elsed-je mud bulca inu kē'ēsü qadqudud-je bida  
 と云わば、 和解するなり、 彼等 「叛逆←彼等の」 と云わば 合戦するなり 我等”

〈6〉 § 189 (七9九~10二) 田<sup>迭</sup> 可<sup>克</sup>薛<sup>兀</sup>撒<sup>ト</sup>舌<sup>黑</sup> 鳴<sup>訥</sup>列<sup>主</sup>兀  
 那裏 人 名 說了有  
 tende Kögse'ü=sabrac ügüleju'ü,  
 えこに コグセウ・サブラダ 言いたり、

客<sup>額</sup>周 亦<sup>列</sup>額<sup>速</sup> 主<sup>舌</sup>兒址<sup>歹</sup>突<sup>舌</sup>兒 額<sup>勅</sup>先 幹<sup>羅</sup>主<sup>為</sup>。(118)  
 說 着 去 了 人 名 投降 入 了  
 ke'eju ile'ēsü jürcede-i-dür elsen oroju'uj.  
 とて 遣らば デュルチュェデイに 降り 入りたり。

兀<sup>窟</sup>克<sup>先</sup> 中<sup>罕</sup>古兀<sup>訥</sup> 帖<sup>舌</sup>里<sup>温</sup> 亦<sup>訥</sup>塔<sup>古</sup> (口)豁<sup>黑</sup>脫<sup>勅</sup>周 阿<sup>ト</sup>赤<sup>舌</sup>刺<sup>楊</sup>  
 死了的 皇帝 人 的 頭 他的 您 也 割断 着 将 来  
 ükügsen qan kü'ün-ü teri'ün inu ta-kü hogtolju abčirad  
 “死せる 汗たる 人 の 頭を ← 彼の 汝等 きりとて もち来れるぞ

〈5〉 § 195 (七33八~34四) 帖<sup>迭</sup> 朵<sup>舌</sup>兒<sup>邊</sup> 那<sup>中</sup>孩<sup>思</sup> 失<sup>舌</sup>列<sup>門</sup>  
 那的每 四個 狗每 生銅  
 tede dörben noqajs širemün  
 彼等 四匹の 犬ども 生鉄の

那<sup>闊</sup>額<sup>帖</sup> 塔<sup>古</sup> 客<sup>木</sup>格<sup>舌</sup>里<sup>楊</sup> 牙<sup>温</sup> 勺<sup>乞</sup>(中)灰 那<sup>中</sup>合<sup>訥</sup> 必<sup>蒼</sup>訥  
 第二次 您 也 教碎 了 甚麼 宜 的 狗 的 咱的  
 nökö'ete ta-kü kemkerid ya'ün joqiqui, noqan-u bidan-u  
 次に 汝等 踏み砕くなり、 いかに 適うべき、 犬 の ← 我等 の

莽<sup>来</sup>壇 石<sup>兀</sup>赤 中<sup>豁</sup>失<sup>兀</sup>壇 石<sup>不</sup>格 客<sup>列</sup>田 帖<sup>木</sup>(舌)兒<sup>幹</sup>列<sup>田</sup>  
 額顯有的 鑿 子 嘴 有的 錐 子 舌 有的 鐵 心 有的  
 manglajan, ši'üči qoši'tan, šibüge keleten, temür öreten,  
 額をもち、 のみの 嘴をもち、 錐の 舌をもち、 鉄の 心をもち、

中<sup>忽</sup>察(中)灰 擣<sup>温</sup> 卯<sup>危</sup>孛<sup>勅</sup>畢 亦<sup>難</sup>察<sup>必</sup>勅<sup>格</sup>中<sup>罕</sup> 鳴<sup>訥</sup>列<sup>列</sup>額  
 吠 的 声 歹 做了 人 名 皇帝 說 来  
 qučaqui daq'ün maq'ui bolbi, Inanča-bilge qan ügülele'e,  
 吠ゆる 声 悪しく なれり、 イナンチャ・ビルゲ 汗 (かつて)言えり、

額箴 札札為 額舌列必 幹脫勤罷<sup>原作</sup>別 (120)  
 婦人 年少 丈夫 我 老 了……。  
 eme jalal'ūi ere bi ötölbe…….  
 妻 若く、 夫なる 我 老いぬ……。”

<7> § 145 (四40三~40七) 札兀<sup>舌</sup>刺 幹都<sup>舌</sup>倫 巴 亦<sup>舌</sup>列<sup>舌</sup>倫 巴  
 其間 去 時 并 來 時 并  
 ja'ūra odurun ba irerün ba  
 その間 行くに も 来るに も

古溫捏 額薛 兀者克迭罷 騰格<sup>舌</sup>理 古 亦協額罷 者 塔<sup>舌</sup>刺<sup>黑</sup>  
 被人行 不曾 見 了 天 只 護 助 了 也者 酪  
 kü'ün-ne ese üjegdebe, tenggeri-kü ihe'ēbe~je, tarag  
 人 に 見られざりき。 天 ぞ 護れり、 乳糖を

不<sup>舌</sup>里額禿宜 阿<sup>卜</sup>赤<sup>舌</sup>刺<sup>揚</sup> 門 者勤箴 幹額孫 古 兀孫 額<sup>舌</sup>里周  
 器皿中盃有的 將來 了 只 人名 自己 只 水 尋 着  
 büri'ētü-yi abčirād mun jelme ö'ēsün-kü usun eriju  
 器に入れたるを もち来りて、 その チェルメ 自ら 水を 求め

阿<sup>卜</sup>赤<sup>舌</sup>刺<sup>周</sup> 塔<sup>舌</sup>刺<sup>黑</sup> 只兀<sup>舌</sup>刺<sup>周</sup> 中合阿納 兀兀<sup>勤</sup>罷。 (121)  
 要 着 酪 調 着 皇帝行 教飲了  
 abčiraju tarag jī'ūraju qa'ān-a u'ülba.  
 もち来りて 乳糖を 混ぜ 可汗 に 飲ましめぬ。

以上の文例——6, 7を除く——に用いられている -d を調べて見ると次の事実を知る。即ち、-d は常に引用動詞《~と云う》に導かれた文中において用いられ、その際、複数形の主語に呼応して用いられ、多くの場合、間投詞「者~je」と共に用いられるという事である。

この語尾 -d をもつ実例は秘史全巻を通じて26例を求めうるが、その中で、文例6, 7の3例の中、7の -d は後述するように、この語尾から除外されるので、全24例である。この24例の総てに、上述の二項 (ke'e- に導かれる文中、及び複数形主語の存在) は適用され、14例は ~je を伴って現われている。

上の事実から、-d は、専ら口語表現において用いられ、その表わす意義素を《複数の主体、集団が、ある動作を断定的に遂行する》と指定することが出

来る。主体の意志が、強く、断定的に行なわれるという点から見て、筆者は、-d を、“a rare present-future tense form” ([P. H. S.] p. 39, c) 参照) とは見ずに、conclusive (或いは decisive) form の語尾と呼びたい。

文例を、二つほど補足して、更に説明を加えよう。

<8> § 227 (九43三~43八) 客失兀敦 幹脫古思 阿中合刺黑蒼罷  
 斑毎的 為長的分 為長了  
 keši'ūd-ün ötögüs aqalaodaba

額列 客延 撒察温 幹<sup>舌</sup>羅<sup>黑</sup>撒<sup>揚</sup> 米訥 客失<sup>克</sup>帖泥 納蒼察 額耶 兀該  
 但 麼道 同等毎 入了的。 我的 感傷的毎行 我行 商量 無  
 ele keyen sača'ün orogsad minu kešigten-i nadača eye ügej

不 桓叱都<sup>揚</sup>(中)渾 札撒<sup>黑</sup> 欵迭額速 納蒼只阿<sup>揚</sup>中渾 抹闊<sup>舌</sup>里兀勤坤  
 休 怪責者您 法度 動着呵 我行 告您 分處 斬的  
 bū hončidudqun, jasag kōnde'ēsü nada jī'ādqun mōkōri'ülkūn

約速壇 孛額速 必蒼 抹闊<sup>舌</sup>里兀魯<sup>揚</sup>者<sup>(2)</sup> 你失<sup>黑</sup>蒼中渾 約速壇 孛額速  
 理有的毎 有阿俺 處斬也者 合打的毎 理有的毎 有阿  
 yosutan bö'ēsü bida mōkōri'ülūd~je nišigdaqun yosutan bö'ēsü

客<sup>卜</sup>帖兀勤周 你失<sup>勤</sup>者。 (122)  
 教臥 着 打 也者  
 kebte'üljü nišid~je

<9> § 278 (三45八~46三) 札撒<sup>黑</sup> 欵帖額速 必蒼納 札阿禿<sup>中</sup>孩  
 法度 動呵 咱毎行 告者  
 jasag kōnte'ēsü bidan-a ja'ātucaj,

兀窟兀勤迭古 約速禿 孛額速 必蒼 抹闊<sup>舌</sup>里兀魯<sup>揚</sup>者 客薛額<sup>克</sup>迭古  
 可教死的 理有的 有阿 咱毎 斬 也者 可懲戒的  
 ükü'üldekü yosutu bö'ēsü bida mōkōri'ülūd~je kese'ēgdekü

約速禿 孛額速 必蒼 雪余<sup>揚</sup>者。 (123)  
 理有的 有阿 咱毎 教導也者  
 yosutu bö'ēsü bida söyüd~je

ここに追加した文例8, 9は法に触れた人々の処置を述べた内容であり, “斬るべき者は斬り, 打つべき者は打ち, 教導すべき者は教導する” という強い意志を以てする断行を提示する, この語尾 -d を伴う動詞が用いられている。けだし好例と言うべきである。

ここで, 最初に例外として残しておいた文例6, 7に言及する。

この -d を, 起源的には *converbum modale* (様式副動詞) -n の複数形とする上述のポッペ説の一資料として文例6を読むことも可能ではある。文例6の内容はナイマン族の闘将コグセウ・サブラグのタヤン汗に対する諫言を含んだ歎息の文章である。曰く“死せる皇帝人の頭を, 汝等・斬りて持ち来り (*abčirad*), 更には, 汝等 践み砕き (*kemkerid*), いかに適うべき” と。ここに見られる二つの -d は上記の如く副動詞 -n の機能を示す訳文を施しうるが, 一方, “死せる皇帝人の頭を, 汝等 斬りて持ち来れるぞ, 更には, 汝等 践み砕けるぞ, いかに適うべき” のように, 今問題にしている -d の意味にとっても十分読解可能である。しかし, このいずれを採るべきかとなれば, 筆者はやはり後者の解を採りたい, 前者の -n の複数 -d 形と理解するよりも「断定決行の -d」と解する方が, より文意に則すると筆者には感じられるからである。“-d は起源的には -n の複数形” とする強い根拠は現在の処実証されているとは言えず, この点から見ても, 上のポッペ説に, 遽には左袒しがたい。

文例7の阿ト赤舌刺<sup>傷</sup> *abčirad* の -d は, 筆者の考えでは, -d と認めるべきではなく, 阿ト赤舌刺<sup>傷</sup>を, 阿ト赤舌刺阿<sup>傷</sup> *abčira'ād* の不完全表記か, 或いは *abčirād* と読み, いずれにしても, 分離副動詞語尾 -'ād の不完全表記形と認むべきものとする。従って, 語尾 -d の用例ではなく, -ād<sup>2</sup> の用例に加えられるべきである。<sup>(3)</sup>

この -d を -ād の不完全表記形と認むべき根拠は明確である。-d のもつ特徴たる複数形の主語との共存, 間投詞 ~je の不在, 更に文脈から見た意味上の不適格などから断言できる。

以上, 第一講及び本講において, 筆者は, 秘史蒙古語に現われる, 総ての動詞終止形語尾を記述し終った。この他にも, 現在・未来の形動尾 -qu<sup>2</sup>, -quj<sup>2</sup>, -qun<sup>2</sup> が, 否定文及び疑問文 (及び, ごく稀には平叙文) において終止形として機能する, 若干の文例も発見されるが, それら諸例については, 該当の形動詞の項で言及することにした。

## 第二講の註

- (1) N.N. Poppe, Die Sprache der mongolischen Quadratschrift und das Yüan-ch'ao pi-shi. Asia Major, Neue Folge, I Jahrgang 1944, 1 Heft.  
N. Poppe, The Mongolian Monuments in ᠬᠢᠮᠠᠨ Script, Otto Harrassowitz, Wiesbaden, 1957.
- (2) この語「抹闊舌里兀魯<sup>(傷)</sup>者」は従来, 総ての研究者によって, 正しく読まれていない。<sup>(傷)</sup>を補って, *mököri'ülüd-je* と読むべきである。なお, 筆者の「元朝秘史全訳(中)」p. 299の註(12)を参照されたい。
- (3) この語「阿ト赤舌刺<sup>傷</sup>」は従来, Дашцэдэн 氏を除いて総ての研究者によって *abčirad* と読まれているが, 上述したところから知られるように, *abčirād* と読むべきことが知られる。筆者の「元朝秘史全訳(下)」の p. 143を参照されたい。  
なお一例を追加する必要がある。§ 248 (±6九) の「額額舌列額<sup>傷</sup>(攻)」*e'ëred* も「額額舌列額<sup>傷</sup>」*e'ëre'ëd* の不完全表記と認められ, *e'ëred* ではなく *e'ërëd* と転写されねばならない。この -d は, 本項の -d ではなく, 分離副動詞 -'ëd と認むべき故である。筆者の「全訳統攷(下)」の p. 229, L1 の *e'ëred* も *e'ërëd* と訂正されるべきものである。

## 第三講 動詞の形動詞形

§1. 形動詞形とは形容詞（広く言えば実詞）の職能をもあわせもつ動詞の変化形のことである。日本語の連体形にあたる形と考えていただいで大過ない。動詞と実詞の職能を共有するので、その実詞的職能を重視する観点から <sup>(1)</sup> үйлт нэр (動名詞), цагт нэр (時間実詞) と呼ぶ学者もいる。筆者は動詞の一変化形と見るので、従来の通り、「形動詞形」と呼んで、以下の記述を行う。

形動詞は上述のように、動詞の職能と実詞の職能を共有する形であるから、文中においては動詞としても実詞としても機能する。

形動詞形は、動詞語幹に一定の語尾の接尾によって形成される。以下に秘史蒙古語に現われる諸語尾を、実例とともに順次記述する。

秘史蒙古語に現われる語尾群は以下の如くである。

- I. 現在・未来の形動詞語尾  $-qu^2$ ,  $-qui^2$ ,  $-qun^2$
- II. 完了の形動詞語尾  $-gsan^2$ ,  $-gsad^2$
- III. 未完了の形動詞語尾  $-'ā^2$ ,  $-'āi^2$
- IV. 愛好性表示形動詞語尾  $-gči^2$ ,  $-gčīn^2$
- V. 恒常性表示形動詞語尾  $-dag^2$

§2. 形動詞語尾の中で多用されるのは、(1) の  $-qu^2$  系語尾と (2) の  $-gsan^2$  系語尾である。まず (1) から始めよう。

[I]  $-qu^2$ ,  $-qui^2$ ,  $-qun^2$ 

秘史蒙古語における、 $-qu^2$  系語尾の特徴は、その文脈において、性と数によって区別されて用いられることである。

$-qu^2$  男性単数形

$-qui^2$  女性単数形; 述語形

$-qun^2$  男性・女性を問わない複数形

秘史蒙古語では、以上の体系が、ほぼ確認されるが、問題は  $-qui^2$  である。

N. Poppe 氏は

Forms in  $-*qui^2$  were feminine by origin, and those in  $-*qu$  masculine. Forms in  $-*qun$  were originally plural.<sup>(2)</sup>

と述べているが、少くとも秘史蒙古語における  $-qui^2$  の用例を見るかぎり、femine とのみ認めるわけには行かない。これは、以下に示す諸実例を見れば自ら明かである。そこで、まず  $-qui^2$  の実例から始めよう。 $-qui^2$  の用例は150余例を数えるが、その10例を以下に挙げる。

[a]  $-qui^2$ 

<1> § 194 (七27十~28三)

忙中豁命	幹籠勤	札木中合魯阿
達達的	多半	人名 一同
Monggol-un	olungkin	Jamuqa-lu'ā
"モンゴル族 の	大半は	ジャムカ と共に

額你迭	必丹突舌兒	備	坤都額篋回	失額恢	中合札舌刺	額薛
這裏	咱每	行 有	重 婦人的	尿 處	地 行	不曾
ende	bidan-dur	büj.	kündü eme-yin	ši'eküi	cajar-a	ese
ここに	我等	に あり。	妊 婦 の	尿する	地 にも	

中合舌魯黑三	古舌兒都訥	秃中忽命	別勤只額勤突舌兒	額薛	古舌魯克先
出的	車脚的	犢的	喫草行	不曾	到了的
carucsan,	kürdün-ü	tugul-un	belji'el-dür	ese	kürügsen
出でざる,	車輪 の	仔羊 の	牧地 にも		到らざる,

額篋	塔陽	只舌魯格	牙苔舌命	額薛兀	額迭	兀格思	鳴話列周
婦人	人名	心	不能時	不曾	這	言語每	說着
eme	Tayang	jirüge	yadarun	ese'ü	ene	üges	ügüleju
女(の如き)	タヤン,	心	臆するに	*(ざりしか)	この	言を	言いて

亦(舌)列主為。(124)

米 了有
ireju' üj.
米ざりしか.*

<2> § 71 (二2七~2十) 帖舌列 兀格圖兒 幹兒伯莎中合台  
 那 言語裏 婦人名 婦人名  
 tere üge-tür Orbai, Soqatai  
 その 言 に オルバイ, ソカタイ

只舌鄰中合禿楊 鳴話列舌論 兀舌里周兀祿 幹帖恢抹兒台 赤 兀赤舌刺阿速  
 向箇 娘子每 說 喚着不 可與的 道子 有的 你 遇着 呵  
 jirin qatud ügüleriin uriju ülü ögteküi mörtej či, učira'asu  
 二人の 后達の 曰く “招きて 与えられざる 道理あり 汝, 遭遇せば

亦啞古約速台 赤 古舌列周兀祿幹帖古抹兒台 赤 古兒帖額速 亦啞古  
 喫的 理有的 你 請着不 可與的 道子有的 你 若到 呵 喫的  
 idekü yosutaj či güreju ülü ögtekü mörtej či, kürte'esü idekü  
 食する 道理あり 汝, 請いて 与えられざる 道理あり 汝, 到られなば 食する

約速台 赤 俺巴中孩 中合罕 泥 兀窟別兀 赤 客額周 訶額命捏  
 理有的 你 名 皇帝 行 死了 你 說着 太祖母名 行  
 yosutaj či Ambacaj qahan-ni ükübe'ü či ke'eju Hö'elün-ne  
 道理あり 汝, アムバガイ 可汗 を 死せるぞ 汝, とて ホエルン に

古兒帖列 額因 客額克迭恢 字勅畢 (察額主兀)。(125)  
 到了 這般 被說的 做了 (說着了)  
 kürtele eyin ke'egdeküi bolbi (ke'eju'ü)  
 まで かく 云わるに なれり” (と云いぬ)

<3> § 112 (三20六~21二) 別勅古台 額客余延 阿不舌刺 幹楊抽  
 人名 母 自的 行 取 去着  
 Belgütej eke-yüyän abura odču  
 ベルグタイ 母 を(己が) とりに 行きて

格舌兒圖舌兒 亦訥 別勅古台把舌刺温 額閏闔別舌兒 幹羅羅中忽魯阿 額客  
 房 裏 他的 人名 右 門 裏 入去 呵 母  
 ger-tür inu Belgütej bara'un e'üden-bër oroqulu'a eke  
 ゲル に ← その ベルグタイは 右の 戸口 より 入らんとするに 母は

亦訥 訥卜搭舌兒中孩 涅克經額勅台 沼温 額閏闔別舌兒 中合舌魯阿楊  
 他的 破衣 羊皮衣 有的 左 門 裏 出了  
 inu nabdarqaj nekej de'eltej jeju'un e'üden-bër caru'ad  
 ←彼の 破れ古びたる 羊皮の衣をきて 左の 戸口 より 出でて

中合蒼納 不速 古温捏 鳴話列舌論 可兀楊米訥 中合楊李勅主兀  
 外 行 別箇 人行 說 兒子每 我的 王子每 做了  
 gadana busu kü'ün-ne ügüleriin kö'üd minu qad bolju'ü  
 外にて 他の 人 に 言うに “子達 ← 我が 王子 となれり

客額克迭梅 必 額你迭 卯危古温 突舌兒 土別周 額朵額 可兀的顏  
 被說有 我 這裏 歹人 行 配着 如今 兒子每自的 行  
 ke'egdemüj, bi ende mau'üj kü'ün-dür tubeju edö'e kö'üd-iyän  
 と云わる, 我 ここにて 悪しき 人 に 配され 今 子達 の(己が)

你兀舌兒 客舌兒 兀者恢 必 察額楊 癸趨周 石中灰 槐突舌兒  
 面 忽生 見 我 說了 走着 密林 裏  
 ni'ür ker üjeküi bi ke'ed güiyüj šigu j hoj-dur  
 顔を いかで 見るや 我” とて 走りて 密 林 に

石舌兒中窟主兀。(126)  
 鑽 入 了  
 širguju'ü.  
 這りこめり。

<4> § 98 (二42六~42九) 訶額命 額客因 格兒朵脫舌刺 歌勅勅恢  
 母名 母的 家 内 勅使的  
 Hö'elün eke-yin ger dotora ködölküj  
 ホルエン 母 の ゲル にて 働く

中豁阿黑臣 額篋堅 孛思拙鳴話列舌論 額客 額客 幹帖兒 孛思 中合札兒  
 婦人名 老婦人 起着 說 母 母 疾快 起 地  
 Qo'acčin emegen bosču ügüleriin eke eke öter bos gajar  
 コアクチン 老婆 起きて 曰く “母よ 母よ とく 起きよ, 地

迭兒別魯梅 土不舌里温 莎那思塔木 札勅中含失黑壇 泰亦赤兀(楊) 阿亦孫  
 節 動有 震的 聲 聽得着 擾怕了的 種名每 來  
 derbelümüj tübüri'un sonostamu, jalqamšigtan Tajyiči'üd ayisun  
 ゆれてあり, 蹄の音 聞こえあり, 恐るべき タイチウド族 来りて

阿中忽訥 額客幹帖兒 孛思 客額畢。(127)  
 莫不有 母 疾快 起 說了  
 aqun-ü eke öter bos ke'ebi.  
 ある や 母 とく 起きよ” と云いぬ。



<5> § 155 (五22六~22十) 也速干中合敦 鳴話列舌論 中合罕  
 名 娘子 說 皇帝  
 Yesügen qaḍun ügülerün qahān  
 イェスゲン 妃の 曰く “可汗

那闊額 委亦列 米訥 額勒臣 必蒼訥 札兀刺 幹帖舌兒連 哈兀勒中灰  
 第二 勾当 我的 使臣 咱的 路間 快 走的  
 nökö'ē üjyile minu elčün bidan-u ja'ūra öterlen ha'ülquj,  
 次なる 行為は ← 我が 使者が ←我等 の 道中 すみやかに 馳り、

莎余舌兒中合阿速 納馬宜 古兀捏 孛多蒼 孛勒中合周 阿撒舌刺木  
 恩 賜 呵 我行 人行 物行 傲着 擡舉 有  
 soyurqa'āsu namayi kü'ün-e bodo-da bolcaju asaramu.  
 おゆるし下されば(申します) 我をば 人 に、大切なものに なして 世話しあり。

巴撒 客舌列克 <折>舌列吉顏 拙額兀勒古耶 札木揚 塔勒必兀勒罷。(129)  
 再 所用 需 自的 行 教搬運的行 站每 教 放了  
 basa kereg jereg-iyēn jö'e'ülküj-e jamūd talbi'ülba.  
 又 必要なる 昌々 を 運ばしむる に 駅程を 置かしたり。

納蒼察 額格赤 也遂 捏舌列台 納蒼察 迭額舌列中罕 古兀捏 勾乞中灰  
 比我 姐姐 名 名字有的 比我 高 皇帝 人行 合宜的  
 nadača egeči Yesüj neretej nadača de'ere qan kü'ün-e joqiqi  
 我より 姉なる イェスイなる名の者 我より まして 汗なる 人 に 適する

<7> § 170 (五1五~2四) 阿勒赤歹因 阿黑駟思 阿都兀刺兀勒孫  
 人名 的 駟馬每 教放牧的  
 Alčidai-yin actas adu'ula'ulsun  
 アルチダイ の 駟馬 放牧人

阿只埃者 賽亦 古舌列干 古舌列格連 不里吉 額朵額 馬中合 額捏  
 有來 也者 恰纒 女 婿 做女婿 有來 如今 不知 遺  
 aji'āi-je, sayi küregen küregelen büligi. edö'e maqa ene  
 ならんぞ さき頃 婿 を とりて ありき。 今は はて この

赤吉歹 牙的舌兒 主亦列 主亦列 那中豁安突舌兒 阿黑駟昔顏 阿都兀蘭  
 人名 人名 一路 一路 青草 裏 駟馬每白的行 牧放  
 Cigidej, Yadir jüyile jüyile noco'an-dur actas-iyān adu'ulan  
 ギギデイ、 イヤディル ところ ところ 緑草地 にて 駟馬 を(己が) 放牧し

孛都勒中罕突舌兒 <中>合阿黑石 約舌兒赤畢 客額畢。(128)  
 亂 離 裏 那裏 去了 說了  
 bodulgan-dur qa'acši yorčibi ke'ēbi.  
 乱れ にて いづくへ 行けるか” と云いぬ。

迓步中灰突舌兒 <中>豁亦那察 卯温都舌命 額不舌里耶舌兒 忽刺安不舌魯中合揚  
 行的 時 自後 山名的 前 依着 地名  
 yabuqi-dur qoyina-ča Maḡ=ündür-ün ebür-iyēr Hula'an-buruqad  
 行く 時 後 より マウ・ウンドルの 南面 を フラン・ブルカド を

<6> § 281 (三54十~55五) 幹歌歹中合罕 鳴話列舌論 額赤格余延  
 名 皇帝 說 父 自的 行  
 Ögödej qahān ügülerün ečige-yüyēn  
 オゴデイ 可汗の 曰く “父 の(己が)

蒼阿舌鄰 阿亦<速>中灰 歹亦訥 臉兀速泥 兀者周 歹因 古舌兒罷  
 經過 來 的 敵 的 塵土行 見着 敵 到來了  
 da'arin ayisuquj dajyin-u to'usun-i üjeju dajyin kürbe  
 経て 来る 敵軍 の 破塵 を 見て “敵人 到れり”

也客幹舌樂突舌兒 撒兀周 中合罕額赤格曰 中豁亦納 委亦列都克先 米訥  
 大 位 裏 坐着 皇帝 父 的 後 傲了的勾当 我的  
 yeke oron-dur sa'ūju qahān ečige-yin qoyina üjyiledügsen minu  
 大 位 に 即きて 可汗なる 父 の 後に 行いしは ← 我が

客額周……。(130)  
 説着……。  
 ke'eju……。  
 と云いて……。

札中忽敦 亦舌兒堅突舌兒 阿牙刺周 札中忽揚 亦舌兒堅 木中忽揚中合罷 必  
 金人的 百姓 行 征進着 金人每 百姓 窮絶了 我  
 jacud-un irgen-dür ayalaju jacud irgen muqudqaba bi,  
 チャグドの 人衆 に 征旅し チャグドの 人衆を きわめつくせり 我。

<8> § 171 (六9九~10二) 阿泥蒼舌魯周 升格恢 納舌蘭  
 他每行 勝着 落的 日  
 ani daruju šinggeküj naran  
 彼等を 制して 沈む 日輪の

中忽不<sup>舌</sup>里 迭<sup>舌</sup>額<sup>列</sup> 塔<sup>申</sup> 不<sup>恢</sup>突<sup>舌</sup>兒 必<sup>蒼</sup>訥<sup>埃</sup> 額<sup>客</sup>額<sup>兒</sup>兒<sup>抽</sup>  
 低 山 上 伯 有 的 俺 的 翻 着  
 quburi de'ere tašin büküi-dür bidan-u-'āi eke'erčü  
 立の 上に かかり ある 時 我々のものども もどりて、

中忽亦<sup>勅</sup>蒼<sup>里</sup> 兀<sup>納</sup>黑<sup>三</sup> 牙<sup>舌</sup>刺<sup>禿</sup>宜 阿<sup>不</sup>阿<sup>揚</sup> 中<sup>合</sup>舌<sup>里</sup>周 成<sup>吉</sup>思<sup>中</sup>合<sup>罕</sup>  
 人 名 行 到了的 傷 有的行 將了 回 着 太 祖 帝 皇  
 Quyildar-i unacsan yaratu-yi abu'ād qariju Činggis qahān  
 クイルダルを 落ちたる 傷つきたるを 連れ 帰り、 チンギス 可汗、

必<sup>蒼</sup>訥<sup>埃</sup> 王<sup>中</sup>罕<sup>納</sup>察 中<sup>合</sup>中<sup>合</sup>忽<sup>都</sup>黑<sup>三</sup> 中<sup>合</sup>札<sup>(舌)</sup>刺<sup>察</sup> 中<sup>合</sup>中<sup>合</sup>察<sup>周</sup>  
 咱 的 人 名 處 斃 殺 了 的 地 處 分 離 着  
 bidan-u-'āi Ong qan-nača qadquldugsan gajar-ača qagačaju  
 我等がものども 王 汗 より、 合戦せる 地 より はなれ

兀<sup>迭</sup>失<sup>迭</sup> 歌<sup>多</sup>勅<sup>周</sup> 中<sup>合</sup>中<sup>合</sup>潺 中<sup>合</sup>裕<sup>那</sup>罷<sup>別</sup>。(131)  
 晚 行 動 着 分 離 宿 了  
 üdeši-de ködölju qagačan qonoba.  
 夕べのうちに 移り動きて はなれ 宿りぬ。

〈9〉 § 194 (七28六~28九) 塔<sup>陽</sup>中<sup>罕</sup> 鳴<sup>訥</sup>列<sup>舌</sup>論 古<sup>出</sup>禿  
 人 名 帝 皇 說 氣 力 有 的  
 Tayang qan ügülerün küčütü  
 タヤン 汗の 曰く “力あり

斡<sup>抹</sup>黑<sup>禿</sup> 古<sup>出</sup>魯<sup>克</sup> 古<sup>舌</sup>魯<sup>勅</sup>扯<sup>恢</sup> 阿<sup>刺</sup>都<sup>(中)</sup>灰 兀<sup>都</sup>兒 馬<sup>中</sup>合 額<sup>捏</sup>  
 勇 有 的 人 名 到 的 相 殺 的 日 莫 不 這  
 omoctu Küčülüg kürülčeküi aralduqui üdür maca ene  
 勇 ある クチュルグよ 相到り 殺し合う 日に きて この

斡<sup>抹</sup>吉<sup>顏</sup> 不<sup>塔</sup>勅<sup>必</sup>禿<sup>中</sup>孩 古<sup>舌</sup>魯<sup>勅</sup>纏 中<sup>合</sup>禿<sup>敦</sup> 巴<sup>舌</sup>刺<sup>阿</sup>速  
 勇 自 的 行 休 放 了 者 相 到 相 合 了 了 阿  
 omoc-iyān bū talbitugai kürülčen qamtudun bara'asu  
 勇 を(己が) 放たざるべし、 相到り 合戦となり おわらば

中<sup>合</sup>中<sup>合</sup>察<sup>(中)</sup>灰 馬<sup>中</sup>合 別<sup>舌</sup>兒<sup>客</sup>備<sup>者</sup> 客<sup>額</sup>罷。(132)  
 相 離 莫 不 難 有 也 者 說 了  
 qagačaqui maca berke büj-je ke'ebe.  
 はなるは きて 難く あるぞ” と云いぬ。

〈10〉 § 149 (五7一~7五) 失<sup>舌</sup>兒<sup>古</sup>額<sup>禿</sup> 成<sup>吉</sup>思<sup>中</sup>合<sup>罕</sup>納  
 人 名 太 祖 帝 皇 行  
 Širgü'etü Činggis qahān-a  
 シルグエトツの チンギス 可汗 に

鳴<sup>訥</sup>列<sup>舌</sup>論 塔<sup>舌</sup>兒<sup>中</sup>忽<sup>台</sup>乞<sup>舌</sup>鄰<sup>禿</sup>禿<sup>吉</sup> 把<sup>舌</sup>里<sup>周</sup> 阿<sup>亦</sup>速<sup>舌</sup>命 只<sup>池</sup> 圖<sup>思</sup>  
 說 人 名 行 拿 着 來 着 却 正 主  
 ügülerün Targutaj=qiri(n)ltuc-i bariju ayisurun jiči tus  
 言う “タルグダイ・キリルトグ を とらえ 来るに 「なお 己が

中<sup>合</sup>你<sup>顏</sup> 兀<sup>者</sup>額<sup>禿</sup> 客<sup>舌</sup>兒 兀<sup>窟</sup>兀<sup>勅</sup>恢 客<sup>額</sup>周 帖<sup>臣</sup> 牙<sup>蒼</sup>周 塔<sup>勅</sup>必<sup>周</sup>  
 皇 帝 自 的 行 着 着 您 生 教 死 說 着 猜 不 能 着 放 着  
 qan-iyān üje'ed ker ükü'ülküi ke'eju tebčin yadaju talbiju  
 汗 を(己が) 見て いかん 死なすべき” とて 棄つる 能わず 放ち

亦<sup>列</sup>周 成<sup>吉</sup>思<sup>中</sup>合<sup>罕</sup>納 古<sup>出</sup> 斡<sup>克</sup>速<sup>客</sup>延 亦<sup>舌</sup>列<sup>罷</sup>罷<sup>別</sup>。(133)  
 教 去 着 太 祖 帝 皇 行 氣 力 与 麼 道 來 了 說 了  
 ileju Činggis qahan-na küčü ögsü keyen irebe ke'ebe.  
 やりて 「チンギス 可汗 に 力を 与えん” とて 来りぬ” と云いぬ。

まず、文例1~5を読んで見よう、〈1〉は、ナイマン族の勇将コグセグ(コグセウ)・サブラグが懦弱なタヤン汗を“女のタヤン”と云ってなじった文の一節である。küdü eme-yin si'eküi gajar の si'eküi の主体は küdü eme (妊娠せる女)であるから、-küi は女性形と認めるにやぶさかではない。〈2〉はオルバイ、ソカタイ二人の後の言葉であり、その文中に女性形が現われるであろうことは容易に想像されるが、現に、この文中には ögteküi, kē'egdeküi の -küi の他にも、第一講で詳述した -ba<sup>3</sup> の女性形 -bi が見られ、更に後述する実詞形成接辞 -tu<sup>2</sup> の女性形 -tai<sup>2</sup> も用いられていて、-küi が用いられて然るべき環境の文である。しかし、ideküi yosutaj, ögteküi mörtej とあるべき処に idekü yosutaj, ögtekü とも見えて、女性形としての -qui<sup>2</sup> の行使が秘史の言語においても、すでに弱まり始められつゝあることを示すかの如くである。(もっとも、こゝでは、最初に ögteküi mörtei と明白な女性形表示が為されているので、後続の idekü yosutaj, ögtekü mörtei においては、ideküi, ögteküi を避けたとも見られるが)。

〈3〉の文中に見られる *üjeküi* はベルグテイの母の発した言中に現われている形であり、これ又、女性形の *-küi* と認める条件をもっている。この *-küi* は終止形として機能していることが注目される。

〈4〉の *Hö'elün eke-yin ger dotora ködölküi Qo'acčin emegen* (ホエルン母の<sup>ぐ</sup>家中で働くコアクチン老婆)の *ködölküi* の *-küi* も *emegen* にかゝる形動詞形であり、女性形と見られる好例と云えよう。この文の末尾には *-bi* 女性形も見えている。

〈5〉はチンギス可汗の後の一人イエスゲンがチンギス可汗に奏した言葉の一節である。ここに見られる *nadača egeči Yesüi neretei nadača de'ere qan kü'ün-e joquqi aji'ai-je* (私より姉の(「年上の」の意)イエスイという名の(もの)は私よりまして、汗たる人に適しているでしょう)における *joquqi* の *-qui* は、前出の *neretei* の *-tei* 女性形、直後の *aji'ai-je* の *-ji'ai* 女性形との関連において、女性形の *-qui* として用いられていると認められる。この文は、更に *büligi* の *-ligi*, *yorčibi* の *-bi*, *ke'ebi* の *-bi* など秘史蒙古語における女性形諸語尾が豊富に発見される一文である。

以上、〈1〉～〈5〉にあげた諸例は、その使用されている環境から判断して、女性形と見做しうる事例であり、この限りにおいては、*-qui*<sup>2</sup> を *-qu*<sup>2</sup> の女性形と認めるよい根拠となりうる用例と思える。

しかし、〈6〉以下の用例を見ると、単純にこの *-qui*<sup>2</sup> を女性形と断じ得ないとの結論に達する。

〈6〉の *nökö'e üiyile minu elčin ja'ūra öterlen ha'ülqui, basa kereg jereg-iyen jö'e'ülküi-e jamüd talbi'ülba* (次なる、わが<sup>おこない</sup>事業は、我等が使臣、道中速かに赴むべく、また必要なる物々を運ばすべく、駅を置かしめぬ)の *ha'ülqui* は後出の *jö'e'ülküi-e* と対比して *ha'ülqui-a* と読むべきもので、この *-a* を省略して、*jö'e'ülküi-e* の *-e* で *ha'ülqui* と *jö'e'ülküi* との両方を受けた文である。即ち *nökö'e üiyile minu* (私の次なる仕事は)、*elčin ja'ūra öterlen ha'ülqui (-a)*, (使者が道中、速かに馳けるように)、*basa*

*kereg jereg-iyen jö'e'ülküi-e* (また必要な物々を運ばせるように)、*jamüd talbi'ülba* (駅を置かせた(ことである))と読むべき文章で、こゝでの *ha'ülqui, jö'e'ülküi* の *-qui* と *-küi* は曲用語尾 *-a*<sup>2</sup> を伴って、従属節の述語動詞として用いられ、その主体は *elčin* であり、女性形と認めることは出来ない。

〈7〉の *yabuqi* も *-dur* を伴った従属節の述語動詞で、その主体は *Čigidei, Yadir* という二人の馬飼いであって、*-qui* を女性形とは認められない。その次に見える *ayisqi dayin* (せまり来る敵ども)の *-qui* は *dayin* を修飾する形動詞本来の機能を示す *-qui* であるが、これも通常、女性形と認められまい。<sup>(8)</sup>

〈8〉の *šinggeküi naran* (沈む太陽)の *-küi* は *naran* を修飾し、*tašin бүküi-dür* の *-küi* は、曲用語尾 *-dür* に伴われて述語動詞を形成する。共に女性形と見ることは出来まい。

〈9〉の *kürülčeküi aralduqi* の *-küi*, *-qui* も *üdür* を修飾し、女性形とは認め難い(これには別の見解もありうるが、ここでは記さない)。

〈10〉の *ükü'ülküi* の *-küi* は疑問文における終止形の機能を果たした *-küi* で、勿論女性形の *-küi* と認めることは出来ない。

以上の如く、*-qui*<sup>2</sup> には女性形と目される用法と然らざる用法の二種類の存在が知られる。

従って問題になるのは女性形ならざる *-qui*<sup>2</sup> が、どのような場合に用いられるのか、より具体的には、例えば上の〈6〉～〈10〉における *-qui*<sup>2</sup> などは他の *-qu*<sup>2</sup>, *-qun*<sup>2</sup> と比して、如何なる文脈的特徴の下に用いられるが問われることになる。

そこで、ひとまず *-qu*<sup>2</sup> と *-qun*<sup>2</sup> について言及すべき時点に立到った。

[b] -qu²

<1> § 78 (二11二~12三)

格兒圖兒	赤舌列周	幹舌羅(中)灰魯阿
家裏	來着	入去呵
ger-tür	irejü	oroquj-lu'ā
ゲルに	(婦り)来り	入るや

兀真額客	(中)豁牙兒	可兀客都延	赤舌來	兀中合周	鳴話列舌論
名母	兩箇	兒子每行	容顏	省着	說
üjin eke	qoyar	kö'üked-üyēn	čiraj	uqaju	ügülerün
夫人なる母は	二人の	子達の(己が)	顔つきを見て	覺り	言うに

八舌刺黑撒	中合刺兀納察	米訥	中合刺	中合魯舌命	中合兒都舌里顏
魔尽了的	自然処	我的	猛然	出時	手自的裏
baracsad	qala'ün-ača	minu	qalad	carurun	car-čur-iyān
*無法もの達,	火戸より	←我が	激しく	出ずるに	手に←己が

中合舌刺那敦	哈中渾脫舌列里吉	額捏中合兒必速班	中合札中忽	中合撒兒
黑血塊	握者生了來	這胞衣自的行	咬的	狗名
qara nödün	hadqun töreligi	ene. qarbisu-bān	qajaqu	Qasar
黒き血こごりを	つかみて生れたり	こは。胞衣を(己が)	咬む	カサル

那中孩箴圖	中合蒼途兒	多ト禿勒中忽	中合ト闌箴圖	阿兀舌里顏	蒼舌命
狗般	崖子行	衝的	獸名般	氣自的行	丘
noqaj metü,	qada-dur	dobtulqu	Qablan metü,	a'ür-iyān	darun
犬の如く,	崖に	襲う	大虎の如く,	怒りを(己が)	おさえ

牙蒼中忽	阿兒思闌	箴圖	阿米都札勒吉速	客古	蟒(中)古思	箴圖
不得	獅子	般	活的吞	說的	莽蛇	殺
yadaqu	arslan metü,	amidu jalcisu	kēkü	mangcus metü,		
得ざる	獅子の如く,	生けるを	呑まん	とする	大蛇の如く,	

薛兀迭兒舌里顏	多ト禿勒中忽	升中豁兒	箴圖	薛米耶兒	札勒吉中忽
影自的行	衝的	海青	般	嚙声的	吞的
se'üder-tür-iyēn	dobtulqu	šingqor metü,	semiyēr	jalciqu	
影に←己が	突き進む	海青の如く,	声をのみて	呑みこむ	

出舌刺中合箴圖	孛脫中合你顏	孛兒必	中合札中忽	不兀舌刺	箴圖
魚名般	駝羔兒自的行	後跟	咬的	風雄駝	般
čuraqa metü,	botocan-iyān	borbi	qajaqu	bu'ūra metü,	
狗魚の如く,	仔駝駝の(己が)	後跟を	咬む	雄駝駝の如く,	

李舌羅罕圖兒	失中合中忽	赤那	箴圖	可兀的顏格鄰牙蒼周	可兀的顏
風雪裏	靠着	狼殺		兒子每自的行	趣不得着
borohān-tür	šiqaqu	čino metü,	kö'üd-iyēn	gelin yadaju	kö'üd-iyēn
風雪に	迫り来る	狼の如く,	子達を(己が)	追いやり得ず,	子達を(己が)

亦啞古	昂吉兒箴圖	客ト迭石顏	欵迭額速	幹箴兒古	啞額李舌里箴圖
喫的	鴛鴦般	窩巢自的顏	動着呵	党護	射狼般
idekü	anggir metü,	kebdeš-iyēn	könde'ēsü	ömërkü	čö'ëbōri metü,
喫う	黃鴨の如く,	ねぐらを(己が)	ふれなば	詳がり襲う	射狼の如く,

把舌里周	兀祿撒阿舌刺中忽	巴兒思箴圖	巴刺木	多ト禿勒中忽	巴舌魯(黑)
拿着	不不疑式的	虎殺	妄	衝的	獸名
bariju	ülü sa'āraqu	bars metü,	balamud	dobtulqu	baruc
とらえて	ためらわざる	虎の如く,	みだりに	突きつむ	猛犬の

箴圖 把舌刺罷。(134)

般 魔尽了  
metü, baraba.  
如く 害せり。

<2> § 201 (八18五~18九)

迭列該	額朵額	別連	李魯黑三突舌兒
天下	如今	見成	做了時
delegej	edö'ë	belen	bolucsan-dur
天下の	今や	とどのい	なれる時に

那可扯周	牙温土撒	李勒中忽	必	捫蒼	安蒼回	中合舌刺	雪你訥
作伴着	有甚濟	傲的	我	却	契合的	黑	夜的
nököčejü	ya'ün tusa	bolqu	bi.	munda	anda-yin	qara	sönin-ü
友たりて	如何なる	功助	たるべき	我。	むしろ	盟友の	暗き夜の

沼兀敦突舌兒	赤訥	幹舌羅中忽	必	格格延	兀都舌命	薛傷乞勒	赤訥
夢裏	你的	入	我	明白	日裏	心	你的
jeü'üdün-dür	činu	oroqu	bi,	gegeyēn	üdü-r-ün	sedkil	činu
夢に←汝の	入るべし	我,	明るき	日の	心を←汝の		

勾巴阿中忽	必	札中合因	赤訥	孛額孫	札興温	赤訥	幹舌魯格孫
教生受	我	額的	你的	瓜子	底標的	你的	刺
joba'āqu	bi,	jaqa-yin	činu	bö'ēsün	jabing-un	činu	örügesün
舌しますすし	我,	標の←汝の	しらみ	戸把の←汝の	練		

孛斡忽必 (135)  
 我 我  
 bolqu bi.  
 たるべし 我”。

〈3〉 § 82 (二18八~19二) 速勒都孫 鎮兒中罕失舌刺 拙(ト)  
 種名 人名 正  
 Suldus-un Sorqan=šira jōb  
 スルドゥス族の ソルカン・シラ 右側を

荅阿舌里周 兀者周 鳴訥列舌論 拙(ト) 額列 額亦木 阿兒中合禿因 禿刺  
 經過 見着 說 正 但 這般 才 有的 上頭  
 da'ariju üjeju ügülerün jōb-ele eyimü argatu-yin tula  
 通りて 見て 言う “まさに かくの如き 才もつ 故に、

你敦都舌里顏 中合禿禿 你兀兒禿舌里顏 格舌禿秀 客延 泰亦赤兀禿  
 眼 自的 行 火 有的 面 自的 行 光 有的 麼道 種名  
 nidün-dür-iyēn caltu ni'ūr-tur-iyān gerētü kēyēn Taiyiči'ūd  
 「目 に ← 己が 火あり 顏 に ← 己が 光あり とて タイチウド族の

阿中合迭兀迭延 帖因額列 乃塔黑丹 阿主兀 赤 帖因古客(ト)帖 兀祿  
 兄 弟 自的 行 那般 但 嫉 妒 有 你 那般 只 臥着 不  
 aqa de'ū-deyēn teyin-ele naiṭagdan aju'ū, či teyin-kū kebte, ülü  
 兄 弟 に(巴が) かように ねたまれて あり、 汝 かよう に 臥せ、 告げ

札阿中忽 必 客額揚 那克赤罷。(136)  
 告 我 說了 過去了  
 ja'aqu bi kē'ed nōgčibe.  
 ぞ 我” とて 過ぎぬ。

〈4〉 § 145 (四41八~42一) 成吉思中合罕 巴撒 鳴訥列舌論  
 皇帝 再 說  
 Činggis qahān basa ügülerün  
 チンギス 可汗 また 曰く

納馬宜 額亦木 孛斡周 格ト田 孛額帖列 你出禿 也勤 癸趨周  
 我行 這般 做着 臥 有問 赤裸 為甚 走着  
 namayi eyimü bolju gebten bö'etele ničügün yēkin güiyijü  
 “我が かように なり 臥し あるうちに はだがにて 如何ぞ 走り

幹舌羅罷 赤 把舌里黑荅阿速 納馬宜 額亦木宜 兀祿兀 只阿中忽 不列額  
 入 了 你 被拿了呵 我行 這般行 不 告麼 有來  
 oroba či, barigda'asu namayi eyimü-yi ülü-ü ji'aqu büle'ē  
 入れる 汝、 とらえられなば 我が かくある を 告げ ざるべき や

赤 客額罷<sup>原作</sup>。(137)  
 你 說了  
 či ke'ēbe.  
 汝” と云えり。

〈5〉 § 177 (六21三~21六) 中罕 額赤格迭 米訥 鳴訥列客延  
 皇帝 父 行 我的 說 麼道  
 qan ečige-de minu ügüle kēyēn  
 “汗なる父 に ← 我が 言え” と

鳴訥列舌論 中罕 額赤格 米訥 牙温 吃馬舌兒圖舌兒 納馬 阿余兀罷  
 說 皇帝 父 我的 甚麼 嘆 怪 裏 我行 教怕 了  
 ügülerün qan ečige minu ya'un čimar-tur nama ayu'ülba  
 言うに “汗なる父よ ← 我が 如何なる 咎 にて 我を 諭せるや

赤 阿余兀中忽 孛額速 卯温可兀的顏 卯温別里捏的顏  
 你 教 怕 的 有阿 歹 兒 自的 歹 媳婦 自的  
 či, ayu'ülqu bö'ēsü mau'un kō'ūd-iyēn mau'un beri-ned-iyēn  
 汝、 諭すこと あらば 悪しき 子達 を(己が) 悪しき 嫁 どもを(己か)

納亦舌兒中康中罕 也勤 兀祿 阿余兀魯 赤……。(138)  
 睡教足了 如何 不 教怕 你  
 nuyir qangan yēkin ülü ayu'ulu či  
 惰 眠せしめ なんぞ 諭さざるや 汝”……。

上記〈1〉に見える qaṣaju (咬む), dobtulqu (襲う), yadaqu (〜し得ない), kēkü (〜と云う), dobtulqu (襲う), jalciqu (吞む), qaṣaju (咬む), siqaju (近づく), idekü (食らう), ömērku (群がり守る), sa'āraqu (疑らう), dobtulqu (襲う) の諸語の -qu<sup>2</sup> は総て後続する実詞を修飾する、形動詞本来の機能を果し、被修語たる後続の実詞は総て孳猛な動物であり、文法的には男性語扱い出来る諸語と見られよう。

〈2〉の bolqu は ya'un tusa bolqu bi (いかなる益助たれるや我) における

述語終止形として用いられ、この bi はチャムカである。次の joba'aqu bi 《苦しむるならん我》の joba'aqu, bolqu bi 《～ならん我》の bolqu, とともに同様である。即ちチャムカの行為を表示する述語終止形として機能している。-qu 系語尾は、この様に推量を意味する終止形として用いられている事が知られる。

〈3〉の ülü ja'aqu bi 《告げさらん我》の -qu も bi 《我》即ちスルドゥス族のソルカン・シラの行為を表わす述語動詞の終止形として用いられている。

〈4〉の ülü-ü ji'aqu či 《告げさらんや汝》の -qu は či 即ちヂェルメの行為を示した ülü-ü ji'aqu の -qu である。

そしし、〈5〉の či ayu'ülqu bö'esü では či ayu'ülqu が《汝が恐れさすこと→叱責すること→論すこと》bö'esü 《あらば》の主格として機能し、文意としては《汝が叱責するとすれば→論すとすれば》の意を示し、ayu'ülqu の主体は či——こゝでは王中罕——である。

以上の諸例から、-qu<sup>2</sup> は単数の男性の行為を受ける形であることが知られ、又、男性単数の実詞を修飾する形であることが知られる。-qu<sup>2</sup> の用例は秘史全巻の中から300数例を得られるが、上の原則から脱れるものはない。-qu<sup>2</sup> には上記の他に、bü- 《ある、いる》, a- 《ある、いる》, bol- 《なる、ある》と連って活用連語として用いられる用法もある。

〈6〉 § 264 (十29十～30四) 帖木真 額捏 你刊 闊闊 米訥  
 名 這 一箇 乳 我的  
 Temüjin ene niken kökō minu  
 テムジン この 一つの 乳を ←我が

把舌刺中忽 不列額 中合赤温 斡惕赤斤 中豁牙兀刺 孛勤周 你刊 闊闊  
 喫了 有来 人名 人名 兩箇 做着 一箇 乳  
 baraqu bule'e. Qači'un, Odčigin qoya'ula bolju niken kökō  
 飲みほす なりき。 カチウン、 オドチギン 二人ともに なりて 一つの 乳を

兀禄 把舌刺中忽 不列額 中合撒兒 不舌倫 中豁牙兀兒 不舌里 闊闊  
 不 喫了 有来 人名 有 兩箇 全 乳每  
 ülü baraqu bule'e. Qasar bürün qoyar büri kökōd  
 飲み ほさざり き。 カサル にありては 二つの 全き 乳を

米訥 把舌刺周 扯額只 阿為 孛勤塔刺 阿木舌兒里兀勤周 扯額只 阿為  
 我的 喫了着 智屬 寬 做 直到 安寧 了 着 智屬 寬  
 minu baraju če'eji a'ui boltala amurli'ülju če'eji a'ui  
 ←我が 飲みほし 胸 寬く なるまで 安心せしめ 胸 寬く

孛勤中合忽 不列額 (139)  
 教做 有来  
 bolgaqu bule'e.  
 させしめ たり。

〈7〉 § 165 (五38十～39四) 田迭 桑昆 斡額舌里顔 也客只連  
 那裏 人名 自己 大 做  
 tende Senggüm ö'er-iyēn yekejilen  
 そこに セングム 自ら を 大となし

薛楊乞周 鳴話列舌論 必荅訥 兀(中)魯黑 安都舌兒 斡都阿速 阿刺兀納  
 想着 說 咱的 親 他每行 去 呵 門後行  
 sedgiju ügülerün bidan-u urug an-dur odu'asu ala'un-a  
 想いて 曰く “我等の 親族 彼等のもとに 行かば 戸口 に

擺亦周 額額捏克徹 中豁亦馬舌兒 中合舌喇中忽 阿主兀 (140)  
 立着 專一 正面 看 有  
 bajijiu e'enegče qoyimar qaraqū aju'ū.  
 ありて つねに 裏座に 面する ならむ。

〈8〉 § 111 (三18八～19二) 中鶻刺都卯兀 失鴛温 中忽讎中合納  
 鳥名 歹 鳥 鼠  
 quladu mau'ū šibau'un qulucana  
 “白超なる 悪しき 鳥は 鼠

窟出鱧捏 亦啞古 札牙禿 孛額帖列 中鶻 脫中鶻舌刺兀泥 亦啞速客延  
 小鼠 喫的 命有的 既 天鵝 鶻 鶻 行 要喫壓道  
 küčügene idekü jayātu bö'etele qun togura'un-i idesü keyēn  
 小鼠を 喫う 定めもち あるに 白鳥 鶻 を 喫はむ と

者申阿主兀 中忽納舌兒卯兀 赤勒格舌兒 必 中忽禿黑台 速台 兀只泥  
 想着 有来 歹 人名 我 福 有的 福有的 婦人名  
 ješin aju'ū. qunar mau'ū Cilger bi qutuctaj sutaj üjin-i  
 高きを望みありき。 外様 悪しき チルゲル、 我 福あり、 成福ある 夫人を

中忽舌里牙周 亦舌列古幸翁 中豁脫刺 篋舌兒乞(楊)帖 渾討兀 孛勤罷 (141)  
 取拾着 来着傲的 都行 姓行 禍 傲  
 quriyajū irekü bolun qotola Merkid-te hunt'a'ū bolba.  
 取め 来たらんとし 普く メルキド族に 禍 たりぬ。

この様に、-qu<sup>2</sup>は幅広く用いられ、男性単数形と規定しうる、-qu<sup>2</sup>と-qui<sup>2</sup>との関係を述べるに先立って -qun<sup>2</sup> について述べておこう。

[c] -qun<sup>2</sup>

-qun<sup>2</sup> が -qu<sup>2</sup> 及び -qui<sup>2</sup> の複数形であることは明白であって、以下に示す諸例から、はっきりと実証される。しかし、文語の世界では17世紀末頃から、この -qun<sup>2</sup> は姿を消し、現代の話し言葉に於ても用いられず、若干の語の中に化石的に残っているに過ぎない。例えば、kereglegdekün (хэрэглэгдэхүүн) 《必需品》, бүрildükün (бүрэлдэхүүн) 《成員; 成分》, medegdekün (мэдлэгдэхүүн) 《概論, 総論》, угагдахун (ухагдахуун) 《概念》などの語の -qun/-kүнに、その残影をとどめている。なお、-qun<sup>2</sup> の -u<sup>2</sup>- がハルハ方言では長母音で表記されているが、これは興味ある現象である。以下に -qun<sup>2</sup> の用例を示す。-qun<sup>2</sup> も秘史全巻から147例を見出し得て、-qu<sup>2</sup> の300数例には及ばないが、-qui<sup>2</sup> に近い使用例を認めうる。

<1> § 270 (三16八~16九) 額迭 阿牙刺中忽泥 兀魯思 篋迭坤  
 遣 征進的每行 百姓 管的每  
 ede ayalaqun-i ulus medekün  
 これら 征旅するものを 民人 を統べる

可兀楊 可兀都延 古 也客可兀 阿牙刺兀勤禿中孩 兀魯思 巴  
 大王每 兒子每自的 也 大兒子 教征進者 百姓 也  
 kö'üd kö'üd-üyēn~kü yeke kö'ü ayala'ültucaj. ulus ba  
 王子等 王子等 の(己が) 長子に 征旅せしめよ。 民人 をば

兀祿篋迭坤 可兀楊 土篋敦 敏中合敦 札兀敦 哈舌兒巴敦  
 不 管的每 大王每 万的 千的 百的 十的  
 ülü medekün kö'üd, tümed-ün mingad-un ja'üd-un harbad-un  
 統べざる 王子等, 万戸の, 千戸の, 百戸の, 十戸の

那牙楊 幹樂古温 處別舌兒 孛額速 可兀都延 阿中合宜  
 官人每 多人 誰也 有呵 兒子自的 長行  
 noyad olon kü'ün ken~ber bö'ēsü kö'üd-üyēn aqa-yi  
 長官等, 多くの 人 誰 にて ありても 子達の の(己か) 長を

阿牙刺兀勤禿中孩 (142)  
 教征進者  
 ayala'ültucaj.  
 征旅せしめよ。

<2> § 112 (三21五~21九) 不舌峒中罕泥 中忽赤勤都黑撒楊 中忽舌兒班  
 山名行 相國統了的 三  
 Burqan-i qučilducsad curban  
 ブルカン岳を 相めぐりし 三

札兀楊 篋舌兒乞的 兀舌魯中渾 兀舌魯中合 古舌兒帖列 忽捏速額舌兒  
 百 種名 子孫的 子孫行 到了 灰行  
 ja'üd merkid-i urug-un urug-a kürtele хүнесү'эр  
 百の メルキド族を 親族の 親族に 到るまで 灰のごと

客亦思帖列 兀里楊格罷 許列克薛楊 額篋可温 阿訥 額不舌里楊坤 篋都昔  
 刮般 珍絶了 余剩的 妻子 他的 可懷抱的 般每行  
 keyistele üldigebe. hülegsed eme kö'ün anu ebüridkүн metüs-i  
 飛散するまで 誅滅せり。 残れる 女子 ← 彼等の いただくべき 如き人々を

額不舌里楊罷 額閎闐突舌兒 幹舌羅兀勤荅中渾 篋都昔 額閎闐 都舌里顏  
 懷抱了 門裏 入的 般每行 門 自的 行  
 ebüridbe. e'üden-dür oro'uldaqun metüs-i e'üden-dür-iyēn  
 いだけり。 戸に 入らせらるべき 如き人々を 戸に ← 己が

幹舌羅兀勤罷 (143)  
 入 了  
 oro'ülba.  
 入れり。

<3> § 152 (五14十~15二) 額朶額 帖木真 可温突舌兒 帖因  
 如今 名 兒行 那般  
 edö'e Temüjin kö'ün-dür teyin  
 “今, テムジン 子に, かく

迂步黑撒你顏 兀馬舌兒塔周 忽箴該 赫里格 額不舌里傷拙 迂步木  
 行了的自的行 忘了着 臭 肝 懷着 行着  
 yabucsan-iyān umartaĵu hümegei helige ebüridčü yabumu,  
 行きし を(己が) 忘れ, 臭き 肝を いだき 行く,

客舌兒 乞坤 必蒼 客額勸都罷 (144)  
 怎生 做 咱 共說了  
 ker kikün bida ke'eldübe.  
 いかに なすべき 我等”と云い合いたり。

<4> § 146 (四47八~48三) 鎖舌兒中罕失舌刺 鳴話列舌論 必  
 名 說 我  
 Sorqan=šira ügülerün bi  
 ソルカン・シラ 曰く “我

朶脫舌刺安 孛連 亦楊客勸 薛楊乞周 不列埃 也勤牙阿舌刺中忽 必  
 内自的行 見在 倚仗 想着 有來 為甚 忙 我  
 dotorā'an bölen idkel sedkiĵü büle'eĵ, yēkin ya'āraqu bi,  
 心中 ととのい 信じ 想いて ありき, なんて 急べきや我,

牙阿舌刺周 兀舌里傷 亦舌列額速 泰亦赤兀傷 那牙傷 米訥 中豁綽舌魯黑三  
 忙着 先 來阿 種 官人每 我的 落後的  
 ya'āraĵu urid ire'ēsü Taiyiči'üd noyad minu qočorugsan  
 急ぎて さきに 来らば タイチウド族の 長官 我が 残りし

額箴可温 阿都温 亦啞額泥 米訥 忽捏速額舌兒 格亦思格坤 帖迭  
 妻子 馬羣 喫食行 我的 灰飛般 癩了 那的每  
 eme kö'ün adu'un ide'en-i minu хүнесү'эр geyisgekün tede  
 妻子, 馬群, 食料 を ←我が 灰のごと 飛散せしめん 彼等”

客額周 兀禄牙阿舌關 額朶額 中合罕都舌里顏 捏亦連 亦都舌列周  
 說着 不忙 如今 皇帝 行自的 相合 趕上着  
 ke'eĵü ülü ya'āran edö'e qahān-dur-iyān neyilen idüreĵü  
 とて 急がずして 今 可汗のもとに ←己が 合し 追いつき

亦舌列罷別原作 巴 客額罷原作 (145)  
 來了 俺 說了  
 irebe ba ke'ēbe.  
 来れり 我々”と云いたり。

<5> § 22 (一14一~14六) 巴撒 阿蘭中豁阿 蒼奔可兀楊 帖延  
 再 五子 自的  
 basa Alan=go'ā tabun kö'üd-teyēn  
 また フラン・ゴア 五人の 子達 に(己が)

雪余額兒兀格鳴話列舌論 塔 塔奔可兀楊米訥 中合(黑)察 客額里額扯  
 教訓 言語 說 您 五子每 我的 獨 肚皮 裏  
 söyü'er üge ügülerün ta tabun kö'üd minu gagča ke'ēli-eče  
 訓せる 言を 言う “汝等 五人の 子達は ←我が 唯一つの 脱 より

脫舌列罷 塔 禿中合中倫 塔奔 木速楊 箴圖 中合黑察 中合黑察 孛魯阿速  
 生了 您 恰續 五隻 箭 般 獨 獨 做阿  
 törebe. ta tugar-un tabun müsüd metü gagča gagča bolu'asu  
 生れぬ。 汝等 さきほどの 五本の 矢柄の 如く 一人 一人 ならば。

帖舌列 你只額勸 木速楊 箴圖 客捏別兒 乞勸八舌刺 中忽中忽勸蒼中渾 塔  
 那 一隻 箭 殺 任誰也 容易行 被折折 您  
 tere niĵi'el müsüd metü ken-e~ber kilbar-a quguldaqun ta,  
 かの 一もごとの 矢柄の 如く 誰にても たやすく 折らるべし 汝等,

帖舌列出黑台 木速楊 箴圖 含禿 你刊額也田 孛魯阿速 客捏別兒  
 那 束的 箭 般 一同 一商位 有阿 任誰也  
 tere čugtai müsüd metü qamtu niken eyeten bolu'asu ken-e~ber  
 かの 束ねたる 矢柄の 如く ともに 一つの 和もちてあれば 誰にても

乞勸八舌刺 也勤 孛勸中渾 塔 客額畢 阿塔刺 阿蘭中豁阿 額客阿訥兀該  
 容易行 如何 孃的 您 說了 住間 母 他的 無  
 kilbar-a yēkin bolqun ta ke'ēbi. atala Alan=go'ā eke anu ügei  
 たやすく なんぞ なるべき 汝等”と云いぬ。(かく)あるに フラン・ゴア 母 ←彼等の 身ま

孛勸畢 (146)  
 做了  
 bolbi.  
 かりぬ。

<1> の ayalaqun-i の -qun 《征戦するもの達》は形動詞の実詞的用法を示すもので、複数形の -qun が用いられているのは、いかにも処を得ている感がある。次の medekün の -kün は kö'üd kö'üd 《子息達》にかゝる形動詞本



来の用法で  $k\ddot{o}'\ddot{u}d$  は  $k\ddot{o}'\ddot{u}n$  の複数形であり、又、 $\ddot{u}l\ddot{u} medek\ddot{u}n$  の  $-k\ddot{u}n$  も同様である。

〈2〉の  $eb\ddot{u}ridk\ddot{u}n$ ,  $oro'\ddot{u}ldaqun$  の  $-k\ddot{u}n$ ,  $-qun$  も後続の  $met\ddot{u}s$  ( $met\ddot{u}$  の複数形) にかかる形動詞用法で、この種の用法は18世紀以後は影をひそめた。

〈3〉の  $ker kik\ddot{u}n bida$  の  $-k\ddot{u}n$  は  $bida$  (我等) の述語動詞として用いられた終止形としての用法で、一人称複数形  $bida$  に呼応して  $-k\ddot{u}n$  となっている。

〈4〉の  $keyisgek\ddot{u}n tede$  (彼等) も〈3〉と同様の用法で、主語  $tede$  に呼応して  $keyisge-k\ddot{u}n$  が用いられている。

〈5〉の  $quculdaqun ta$ ,  $bolqun ta$  の  $-qun$  は  $ta$  (汝等) に呼応して用いられた形で、〈3〉, 〈4〉, 〈5〉には人称代名詞の複数形の例を示したものである。

以上で  $-qun^2$  が  $-qu^2$ ,  $-qui^2$  の複数形なることを明示しえたと考える。

\* \* \* \* \*

$-qun^2$  が複数形なることが確認されたので、こゝで再び  $-qu^2$  と  $-qui^2$  の関係に立ちもどらねばならない。

$-qui^2$  はその文例1~5で知られるように、女性の主体の動作・行為を表現する述語動詞として用いられ、女性を表わす実詞にかかる修飾語としても用いられるので、少くとも、 $-qui^2$  の一部は  $-qu^2$  の女性形と認めうと思われる。しかし、 $-qui^2$  の実例の多くは、その文脈から判断して女性形とは認め難く、その数例のみではあるが、 $-qui^2$  の文例〈6〉~〈10〉において示した如くである。

そこで、 $-qui^2$  の用例を更にくわしく吟味する必要に迫られる。 $-qui^2$  の諸曲用形を  $-qu^2$  と対比して見よう。

	-qu <sup>2</sup> 275例
-qui <sup>2</sup> 105例	
(gen.) -qui <sup>2</sup> -yin 4例	-qu <sup>2</sup> -yin 19例

(dat. loc.) -qui <sup>2</sup> -dur <sup>2</sup> 173例	-qu <sup>2</sup> -dur <sup>2</sup> 2例
(acc.) -qui <sup>2</sup> -yi 15例	-qu <sup>2</sup> -yi 30例
(instr.) -qui <sup>2</sup> -bār <sup>2</sup> 1例	-qu <sup>2</sup> -bār <sup>2</sup> なし
(abl.) -qui <sup>2</sup> -ača <sup>2</sup> 17例	-qu <sup>2</sup> -ača <sup>2</sup> 3 (-kü deče 1)
(comi.) -qui <sup>2</sup> -lu'ā <sup>2</sup> 20例	-qu <sup>2</sup> -lu'ā <sup>2</sup> 8例

上表を見て概略的に言えることは、 $-qui^2$  は  $-qu^2$  に比して曲用語尾を伴う際に用いられることが多いと云うことである。

特に顕著なのは与位格語尾を伴う場合で、 $-qui^2$ -dur<sup>2</sup> の173例に対し、 $-qu^2$ -dur<sup>2</sup> は僅か2例に過ぎない。又、 $-qui^2$ -ača<sup>2</sup> の17例に対し、 $-qu^2$ -ača<sup>2</sup> は3例のみである。この比率が逆転するのは (gen.)  $-qui^2$ -yin 4 :  $-qu^2$ -yin 19, (acc.)  $-qui^2$ -yi 15 :  $-qu^2$ -yi 30 のケースであるが、これは、属格語尾の  $-yin$  と対格語尾の  $-yi$  が本来的には  $-qui^2$  であるべき語末の  $-i$  を吸集した結果、 $-qu^2$ -yin,  $-qu^2$ -yi の形をとったと見做せよう。

即ち、 $-qui^2$  には①男性形  $-qu^2$  に対する女性形  $-qui^2$  と②曲用語尾に連結して文の述語を形成する  $qui^2$  との両者が、たまたま、同じ音形を担った  $-qui^2$  として秘史の言語に現われていると見る事が出来る。

この形動詞形  $-qu^2$ ,  $-qui^2$ ,  $-qun^2$  に関連して、筆者は、ここに (〜がない) を意味する否定実詞、「兀該」とそれに属する、いくつかの語に言及して、合わせて中世蒙古語における実詞 (主に形容詞) の性と数に関しても、こゝで取上げておきたい。形動詞は「形容詞的機能」をもつ動詞の一変形とすれば、当然のことながら、「形容詞」そのものとの関連も考察の対象に入ることは道理の然らしめる処である。

さて、兀該 (ない)  $\ddot{u}gei$  は蒙古語文語では  $\ddot{u}gei$  として現われる語であるが、秘史蒙古語には、兀該の他に兀該兀, 兀該為, 兀該温, 更に兀格兀, 兀格為, 兀格温の諸形が、ほぼ同じ意味に用いられている。これらの諸形を十分吟味する必要がある。秘史蒙古語全巻には以上の語は以下の使用例をもつ。

兀該  $\ddot{u}gei$  61例, 兀該兀  $\ddot{u}gei'\ddot{u}$  8例, 兀該為  $\ddot{u}gei'\ddot{u}i$  2例, 兀該温  $\ddot{u}gei'\ddot{u}n$

3例, (\*兀格亦) ナン, 兀格兀 üge'ü 4例, 兀格為 üge'üi 1例, 兀格温 üge'ün 7例。

兀該が61例の多きを数えるが, その他の形はそれほど多くないので, 兀該の他の諸形の用例を先ず例示する。

<1> § 166 (五41四~41六) 脛幹舌鄰勒 鳴詰列舌論 阿舌兒中合察

人名 説 料 来  
To'ōri(n)l ügüleriin arga-ča  
トオリル の 言う “策を案じ

幹楊拙 帖木只泥 兀魯思 亦訥 阿不牙 兀魯思顔 阿不答阿速 兀魯思  
去着 名 行 百姓 他的 要咱 百姓 自的 行 被要了呵 百姓  
odču Temüjin-i ulus inu abuya, ulus-(i)yān abda'āsu ulus  
行きて テムジン を, 民人を ← 彼の 取らむ, 民人 を(己が) 取られなば 民人

兀該兀 孛魯阿速 也乞坤 帖迭 客額主為 (147)

無 做 呵 待如何 他每 說了  
ügei'ü bolu'āsu yēkikün tede ke'eju'ūi.  
なく ならば いかによべき 彼等” と云えり。

<2> § 201 (八19七~20一)

必 不舌命 額客 額赤格迭徹 兀出干  
我 有的 母 父 行 小  
bi büriin eke ečige-deče üčügen  
“我 にありては 母 父 より 幼くして

中豁綽舌兒拙 迭兀捏舌兒 兀該兀 額篋 米訥 朶抹黒赤 亦帖格勒 兀該兀  
落 後 着 弟 每 無 妻 我的 好長話 備 仗 無  
qočorču de'ü-ner ügei'ü, eme minu domoči, itegel ügei'ü  
残り, 弟達は なく, 妻は ← 我が 口多く, 信 なき

那可傷禿 挑兀別舌兒 騰格舌理額徹 札牙阿禿 安荅荅 許列克迭罷者  
伴当每有的 為 那般 天 行 命 有的 契合行 被勝 了也者  
nöködtü, teü'ü-bēr tenggeri-eče jaya'ātu anda-da hülegdebe-je.  
僚友あり, それ もて 天 よりの 定めもてる 盟友に おくれをとれる ぞ”。

(148)

<3> § 207 (八42三~42五) 中豁舌兒赤荅察 額耶兀該兀 槐回  
人名 行 商量 無 林的  
Qorči-dača eye ügei'ü hoj-yin  
“コルチ より 相議せず 森 の

亦舌兒堅 額回帖回 不 迓步禿(中)孩 額耶 兀格兀 迓步中忽宜 牙兀  
百姓 這般 那般 休 行者 商量 無 行的每 行 甚  
irgen eyin teyin bū yabutucaı eye üge'ü yabuqu-yi ya'ū  
人衆は あれ これ 行かざるべし, 相議せず 行ける を 何ぞ

撒阿舌刺黒荅中忽 客延 札舌兒黒黒 孛勒罷 (149)

疑 惑 慶道 聖旨 做了  
sa'aragdaqu keyēn jarlig bolba.  
ためらわるべき” と 勅 せり。

<4> § 17 (一10四~10六) 帖因阿塔刺 朶奔篋兒干兀該孛罷

那般 住間 無 做了  
teyin atala Dobun=mergen ügei bolba.  
かく あるに ドブン・メルゲン 身まかれり。

朶奔篋兒格泥 兀該孛魯黒撒訥(中)豁亦納 阿闌中豁阿額舌列兀該為孛額楊  
行 無 做了 的 後 婦人名 丈夫 無 便  
Dobun=mergen-i ügei bolucsan-u qoyina Alan=go'ā ere ügei'üi bö'ed  
ドブン・メルゲン 身まかりし の 後 フラン・ゴア 夫 なく して

中忽兒班 可兀楊 脫舌列温勒畢 (150)

三 箇 兒子每 生了  
gurban kö'üd töre'ü(n)lbi.  
三人の 子達を 生めり。

<5> § 35 (一21七~21九) 田迭扯 孛端察兒 鳴詰例舌論

那裏自 説  
tende-če Bodončar ügüleriin  
そこ より ボドンチャルの言う

禿中合舌命 統格黎克 中豁舌羅中合納 不坤 亦兒堅 也客兀出干卯危  
恰 纒 河 名 河 行 有的 百姓 大 小 歹  
tucar-un Tünggelig goroqan-a бүкүн irgen yeke üčügen, maı'ui  
“まきほどの トゥングレグ 河 に ある 人衆 大 小, 惡

撒因 帖舌里兀失亦舌刺 兀該温 撒察温備 勤勒巴兒 亦兒堅備 必蒼  
 好 頭 蹄 無 每 一般每有 容易 百姓 有 咱每  
 sayin, teri'ü siyira ügei'ün sača'un büi, ki(n)lbar irgen büi, bida  
 善, 頭 蹄 なく 等しなみ なり。 たやすき 人衆 なり, 我等

帖迭泥 哈兀魯牙 客額罷 (151)  
 他每行 盡擄咱每 說了  
 teden-i ha'uluya ke'ēbe  
 彼等 を 掠奪せむ” と云いぬ。

<6> § 164 (五36二~36七) 納馬宜 幹脫勤周 温都帖 中合舌魯阿速  
 我行 老着 高魁 行 上 呵  
 namayi ötöljü ündüd-te garu'āsu  
 我 老いて 高き に のぼらば,

中合兀赤楊罷 必 中合兀赤楊拙 中合勤都楊塔 中合舌魯阿速 中合木黑  
 旧 了 我 旧 了 着 崖 每行 上 呵 普  
 —qa'ūcidba bi—qa'ūcidču qaldud-ta garu'āsu qamug  
 —老いたり 我— 老いて 高崖 に のぼらば, 普き

兀魯思 虔 箴迭古 迭兀捏兒 米訥 阿不舌里 兀該温備 中合黑察  
 百姓 誰 管 弟 每 我的 德行 無 每 有 獨  
 ulus ken medekü, de'ü-ner minu aburi ügei'ün büi, qacča  
 民人を 誰が 統ぶるや, 弟 達 ← 我が 徳性 なき なり。 ひとりの

可温 米訥 兀該失圖 桑昆 中合黑察備由 帖木真 可兀泥  
 子 我的 無 般 人名 獨 有 名 子 行  
 kö'ün minu ügei' šitü Senggüm cacča büyü. Temüjin kö'ün-i  
 子 ← 我が なきが如き セングム たゞ一人 なり。 テムジンなる子 を

桑古門 阿中合李勤中合周 中豁牙舌兒可兀禿 李勤周 阿木速中孩  
 人名的 <兄> 做着 兩 子 有 做着 歇 息 我  
 Senggüm-ün aqa bolcaju qoyar kö'ütü bolju amusugai  
 セングム の 兄 となし 二人の子もち たりて 休まんかな”

客額周…… (152)  
 說 着  
 ke'ējü. ……  
 と云いて……。

<7> § 152 (五12十~13四) 田迭 王中罕訥 迭兀捏(舌)兒  
 那裏 人名 的 弟 每  
 tende Ong qan-nu de'ü-ner  
 そこに 王 汗 の 弟 達,

那牙楊 乞額楊 鳴話列勤都舌論 額捏 中罕 阿中合 必蒼訥 兀格兀  
 官人每 等 共 說 這 皇帝 哥哥 咱的 窮  
 noyad ki'ēd ügüledürün ene qan aqa bidan-u üge'ü  
 長官達 などの 言う “この 汗なる 兄 ← 我等 の ますしき

阿不舌里禿 忽箴該 赫里格 額不舌里楊拙 逐步由 阿中合迭兀宜 巴舌刺罷  
 性 有的 臭 肝 懷 着 行 有 兄 弟 行 了 了  
 aburitu hümegei helige ebüridcü yabuyu, aqa de'ü-yi baraba,  
 徳性をもち, 臭き 肝 を いだきて 行くなり, 兄 弟 を 殺めぬ,

中合舌刺乞蒼楊 途舌兒 巴 幹羅罷 古 兀魯思 巴 勺巴阿木 額朵額  
 種 裏 也 入 了 也 百 姓 也 數 辛 苦 有 如 今  
 Qara=qitad-tur ba oroba-kü, ulus ba joba'āmu, edō'e  
 カラ・キタド に も 入りし ぞ, 民人を も 苦しむるぞ, 今

額兀泥 客舌兒 乞坤 必蒼…… (153)  
 這箇行 怎生 怎做 咱……  
 e'ün-i ker kikün bida.  
 二奴 を いかに すべき 我等……”。

<8> § 210 (九4三~4六) 中忽難 闊闊擲思 中豁牙舌刺察  
 人名 人名 兩個 行  
 Qunan, Kököčös qoyar-ača  
 クナン, ココチョス 二人 より

額耶兀格兀 不 委亦列楊坤 客延 札舌兒里黑 李勤罷 (154)  
 商量 無 休 做事 您 麼道 聖 首 做了  
 eye üge'ü bū üjyiledkün keyēn jarlig bolba.  
 相識せず 行うなかれ” と 勤 しぬ。

<9> § 227 (九42三~42八) 巴撒 門 古温 別也中合楊 厄別(楊)臣  
 再 只 那人 身 体 病  
 basa mun kü'ün beye qad ebedč'in  
 また その 者 身 体 病い

兀該 客失昆 那牙楊途舌兒 額耶 兀格兀巴撒 門 客失克禿  
 無 班的 官人每 行 商量 無 再 只 感衝有的  
 ügei kešig-ün noyad-tur eye üge'ü basa mun kešigtü  
 なく 当直 の 長官 に 相議 せず, また その 当直兵

中忽兒班塔 客失克 豁阿舌刺阿速 中忽臣 朶羅安 別舌里額思 莎余額楊  
 三 次 班 脫了呵 三十 七 条子 教導了  
 gurbanta kešig ho'āra'āsu gučin dolo'an beri'es söyü'ed  
 三度 当直を 怠らば 三十 七 鞭を いましめて一

必丹突舌兒 迓步中灰班 別舌兒客失額 阿主兀 額赤捏 中豁羅 中合札舌刺  
 咱 行 行的 自的 行 作 難 有 來 背 処 行 遠 地面 行  
 bidan-dur yabuquī-bān berkešiyēn aju'ū ečine qolo gaǰar-a  
 一我等のもとに 仕うる を 嫌いて あらん—ひそかに 遠き 地 に

亦列牙客延 札舌兒里黑 李勤罷 (155)  
 教去咱 麼道 聖旨 做了  
 ileye keyēn ǰarlic bolba.  
 送らむ”と 勤 しぬ。

<10> § 208 (八45九~46三) 成吉思中合罕 亦巴(中)合別乞宜  
 太祖 皇帝 夫人名 行  
 Činggis qahān Ibača=beki-yi  
 チンギス 可汗 イバガ・ベキ を

主舌兒扯歹耶 莎余舌兒中合周 幹古舌倫 亦巴中合蒼 鳴話列舌論 赤馬宜  
 人名 行 恩賜着 與時 夫人名 行 說 你行  
 ǰürčedej-ye soyurqaǰu ögürün Ibača-da ügüleriün čimayi  
 ヂュルチュエデイに 恩賜し 与うるに イバガ に 言う “汝を

兀里格 扯額只 赤訥 兀格為 兀者思古良 塔刺 卯危 額薛 客額罷者  
 ナン 智懐 你的 無 看 像 容貌 歹 不曾 說了 也者  
 ülige če'ēji činu üge'üi üjesgüleng tala mau'ūi ese ke'ēbe~je  
 「聡 明さ ← 汝の なく, 容貌 外面 悪し」と 云わざりしぞ

必……。(156)  
 我  
 bi…….  
 我……”。

<11> § 46 (一27十~28二) 中合闌歹因可兀楊 不蒼安中忽楊中忽刺中忽  
 名 的 子每 粥飯 撰  
 Qalandaj-yin kō'ūd buda'an qudqulaqu  
 カランダイ の 子達 飯 を かきまぜ,

額乞 帖舌里兀兀格温禿刺 不蒼阿楊 幹李黑壇 帖迭 李魯罷 (157)  
 腦 頭 無的每 上頭 一種 姓每 那的 做了  
 eki teri'ū üge'ün tula Buda'ad obocan tede boluba.  
 腦 頭なき(秩序なき) 故に ブダアド 姓をもてる者と 彼等は なれり。

<12> § 51 (一31九~32二) (中)忽圖刺中合罕訥可兀楊 拙赤  
 名 皇帝的 子每 名  
 Qutula qačan-nu kō'ūd Joči,  
 クトゥラ 名汗 の 子達 ジョチ,

吉兒馬兀 阿勒壇 (中)忽兒班 不列額 (中)忽闌把阿禿命可温 也客扯(舌)連  
 名 名 三箇 有來 名 的 子 名  
 Girma'ū, Altan curban büle'ē. Qulan=ba'atur-un kō'ün Yeke=  
 ギルマウ, アルタン, 三人 なりき。 クラン・バアトル の 子 イェケ・

不列額 把歹乞失黎(黑)中豁牙兒 蒼兒(中)罕敦 那顏 帖舌列 不列額<sup>(5)</sup>  
 有來 名 名 兩箇 自在 的 官人 那箇 有來  
 čeren büle'ē. Badai, Qišilig qoyar darqa(n)d-un noyan tere büle'ē.  
 チレン なりき。 バダイ, キシリグ 二人の 自由人 の 長は 彼 なりき。

中合蒼安 脫朶延中豁牙兒 兀舌魯黑 兀格温 不列額 (158)  
 (名) (名) 兩箇 子嗣 無 有來  
 Qada'an, Tödöyēn qoyar uruc üge'ün büle'ē.  
 カダアン, トドイエンの 二人 世つぎ なく ありき。

<13> § 126 (三50四~50七) 脫幹舌里勒 中罕 帖木真 可兀泥  
 人名 皇帝 名 兒子  
 To'ōril qan Temüjin kō'ün-i  
 トオリル 汗 “テムジン なる子 を

米訥 中罕 李勤中合中忽 秦 勺ト 忙中豁勒 中合 兀格温 客舌兒 阿中渾  
 我的 皇帝 教做 的 好生 是 遠達 皇帝 無每 怎生 過的  
 minu qan bolcaqu na jōb, Monggol qa üge'ün ker aqun  
 ← 我が 汗 たらしむ は まさに 正しい, モンゴル族は 汗 なくして いかにか 過すべき

塔額捏額也邊不厄迭楊坤額也掌吉邊不塔魯楊中渾  
 您這商量自的休裏您商量結了的自的休解了您  
 ta, ene eye-bēn bū ebdekdün, eye janggi-bēn bū taludqun,  
 故等, この和を(己が)こわすなかれ, 和の結び目を(己が)とくなかれ,

札中合班不談禿魯楊中渾客額周亦列周。(159)  
 衣領自的行休扯了您說着去着  
 jaqa-bān bū tamtuludqun ke'ējü ilejü.  
 襟を(己が)ひきさくなかれと云いて遣りて。

<14> § 279 (正47五~47六) 札温中豁你答察 你刊中豁級  
 百羊処 一羊  
 ja'ün qonid-ača niken qonin  
 百匹の羊から一匹の羊を

中合舌兒中合周門札兀舌刺兀格温都塔兀納幹克禿該(160)  
 教出着只其間窮乏的行動與者  
 cargaju mun ja'ūra üge'ün duta'un-a ögtügej.  
 出しその間なきもの欠けるものに与うべし。

<15> § 280 (正52六~52七) 札温中豁你答察 你刊主撒黑  
 百羊行 一箇一歳  
 ja'ün qonid-ača niken jusac  
 百匹の羊から一匹の二才羊を

中合舌兒中合周兀格温都塔兀納幹(克)恢撒因備(161)  
 出着窮缺行與的好有  
 cargaju üge'ün duta'un-a ögküi sayin büj.  
 出しなきもの、欠けるものに与うるはよくあり。

《～がない》を意味する語は、蒙古語文語の ügej, ハルハ方言の үгэй, カルマグ方言 ugē~ugā, プリヤート方言 угы, オルドス方言 ugūi 等々、現代の諸方言でも頻用される語である。秘史蒙古語でも多く「兀該」ügej として現われることは上記の如くであるが、文例 <1>~<15> に示したように、秘史蒙古語に於ては、兀該の他に兀該兀, 兀該為, 兀該温, 兀格兀, 兀格為, 兀格温の六つの異った形が、兀該と同じ意の如く用いられている。これらの六つの

異形は兀該に比して、数の上では極めて少数なので漫然と見逃され兼ねないが、注意深く読めば、これらの六形は動詞語尾の -ba², -bi, -bai² などと同様に、性と数によって使い分けられていることが知られる。文例 <1>~<15> は、この事実を示す実例として例示したものである。

説明の便宜上、<4> 及び <10> の兀該為と兀格為から始める。<4> の Alan-go'ā ere ügej'üi bö'ed《アラン・ゴアは夫がいないのに》の ügej'üi は Alan-go'ā に関する述語として用いられ、<10> の č'e'iji činu üge'üi, üjesgüleng tala mau'üi 《女の胸なく、容貌悪し》の üge'üi もチンギス可汗の後の一人イバガベキに関する述語の中に用いられた形である。

兀該為の用いられている他の一例、§ 18 (一11一) も、全く同じ文脈で以下の如く見える。即ち

§ 18 (一10九~11二) 兀舌里答 朵奔蔑兒格捏扯脫舌列克先  
 在前 處生了  
 urida Dobun mergen-eče töreksen  
 さきに ドブン・メルゲン より 生れし

別勒古訥台 不古訥台 中豁牙兒 可兀楊 亦訥 額客余延 阿闌中豁阿因  
 名 名 兩箇 兒子每 他的 娘 自的 母 名的  
 Belgünütej Būgünütej qoyar kō'ūd inu eke-yüyēn Alan-go'ā-yin  
 ベルグヌタイ、 ブグヌタイ 二人の 子達 ← 彼女の 母 の(己が) アラン・ゴアの

額赤捏 鳴話列勒都舌命 額捏 額客 必答訥 阿中合迭兀 兀也中合牙 古温  
 背処 共 說 這 母 咱每的 兄 弟 房 親 人  
 ečin-e ügüleldürün ene eke bidan-u aqa de'ū üye qaya kü'ün  
 かげで 言うに “この 母 ← 我等の 兄弟 親類 縁者

兀該 額舌列 兀該為 李額帖列 額迭中忽兒班可兀楊 脫舌列温勒畢(162)  
 無 丈夫 無 既 這 三 子每 生了  
 ügej, ere ügej'üi bö'etele ede gurban kō'ūd töre'ülbi.  
 なく、 夫 なく ありつつ これら 三人の 子達を 生めり。

以上の兀該為、兀格為の用いられた文脈から見て、ügej'üi, üge'üi が兀該、兀格兀の女性形なること確実であり、女性形を特徴づける要素が -'üi であることも明白である。

次に文例〈5〉,〈6〉の兀該温, 〈11〉,〈12〉,〈13〉,〈14〉,〈15〉の兀格温に注目したい。

〈5〉の ügei'ün は直後の sača'ün とともに, Tünggelig goroqan-a bükün irgen (トウングゲリグ・小川にいる人衆) の述語を形成し, 〈6〉の ügei'ün büi は de'ü-ner minu (わが弟達) の述語である。〈6〉では, 兀該温のすぐ後に, 「可温米訥兀該失圖」とあることに注意したい。兀該は可温米訥(わが子)という単数形に対して用いられている。

〈11〉の兀格温は Qalandaj-yin kö'üd (カランダイの子供達) を受けた述語として機能し, 〈12〉の兀格温は Qada'an, Tödöyēn qoyar (カダアン, トドイェン二人) を受ける述語である。

〈13〉の üge'ün は Monggol qa üge'ün ker aqun ta (モンゴル族は, 汗なく如何に過すべき汝等) の文中に用いられ, üge'ün ker aqun とし て Mönggol 即ち ta を受けた述語である。

〈14〉,〈15〉の üge'ün duta'ün は(困窮者)を意味する慣用的語句である。直訳すれば(ものなく, 足らざる人々)と解せよう。

以上7例の üge(i)'ün に共通するのは——〈14〉,〈15〉を除く——述語としての üge(i)'ün の主体がすべて複数の実体であることである。即ち, 兀該温, 兀格温は兀該, 兀格兀の複数形である。そして, その音声徴標は末尾の「温」-ü'n にあるとすることができる。

「兀該為, 兀格為」が女性単数形, 「兀該温, 兀格温」が複数形なることが明らかになった現在, 残しておいた「兀該兀, 兀格兀」が男性単数形であろうとの推測は容易である。

文例〈1〉,〈2〉,〈3〉の「兀該兀」と〈7〉,〈8〉,〈9〉の「兀格兀」の吟味を後廻しにしたのは, 上の理由による。

〈1〉の ulus ügei'ü bolu'asu (民人がなくなれば)における ügei'ü は bolu'asu と連合して, ulus に対する述語動詞であるが, ulus (民人) という語は, 秘史の言語では普通は複数扱いされる語である。従って, ここでも

üge(i)'ün が期待されるが, 現実には ügei'ü が現われている。これは ulus をまとまった一集団として単数的に取扱った場合と解せようか。

〈2〉に見られる二つの ügei'ü は主語 bi を受ける述語であり, 単数男性形と見做しうる。

〈3〉の eye ügei'ü(相談せず)を受けるのも単数・男性の主体と見て大過ない。

〈7〉の üge'ü は直後の aburitu にかゝる定語として用いられ, その主体は ene qan bidan-u (我等の, この汗) であり, 〈8〉の eye üge'ü は〈3〉の eye ügei'ü と同じ用法である。

上述したことを整理すると

(mas. sing.) (femi. sing.) (pl.)

兀該兀                  兀該為                  兀該温

兀格兀                  兀格為                  兀格温

となって, -兀(-ü) が男性単数, -為(-üi) が女性単数, そして-温(-ün) が複数を表示する徴標であることも自ずと知られる。

形容詞語尾の -qu<sup>2</sup>, -qui<sup>2</sup>, -qun は, その体内に上記の -ü, -üi, -ün を含んでいるのではあるまいか。

-qu<sup>2</sup> 系形動詞語尾の成立には二つの仮説をたてることのできるように思う。

その一は, -qu<sup>2</sup> 系語尾を -\*q-ü<sup>2</sup>, -\*q-üi<sup>2</sup>, -\*q-ün<sup>2</sup> と分析して考え, -\*q- を以て形動詞職能の徴標と見て, この -\*q- に上の -ü<sup>2</sup>, -üi<sup>2</sup>, -ün<sup>2</sup> が接尾されて -qu<sup>2</sup>, -qui<sup>2</sup>, -qun<sup>2</sup> が成立したとする見解である。形動詞職能の徴標としての \*q<sup>2</sup>(\*g<sup>2</sup>) は完了形動詞形の -g-san<sup>2</sup> の -g-, 愛行形動詞形の -gči の -g-, 恒常・多回体形動詞形 -dag<sup>2</sup> の -g<sup>2</sup> にも現われる。\*q<sup>2</sup> は子音の前, 及び語末においては -g<sup>2</sup>-, -g<sup>2</sup> とし て現われるので, 上記の形をとることになる。

-qu<sup>2</sup>, -qui<sup>2</sup>, -qun<sup>2</sup> を上の如く解する場合には -\*qū<sup>2</sup>>-qu, -\*qūi<sup>2</sup>>-qui<sup>2</sup>, -\*qūn<sup>2</sup>>-qun<sup>2</sup> と仮定しなくてはなるまい。秘史蒙古語の段階では, -\*qū<sup>2</sup>, -\*qūi<sup>2</sup>, -\*qūn<sup>2</sup> の母音の長さは失なわれて短母音となっていたであろう。現代のハルハ方言を土台とするキリル文字モンゴル語には -qun<sup>2</sup> の伝承形としての

可能性をもつ若干の語が残っているが、それらの語は古い長さを伝存するものとも考えられるとも思える（前述の p. 132 参照）。

その二の見解は、 $-qu^2$  に  $-ū^2$ ,  $-ūj^2$ ,  $-ūn^2$  が附されて

$-qu^2-ū^2 > -qū^2$ ,  $-qu^2-ūj^2 > -qūj^2$ ,  $-qu^2-ūn^2 > -qūn^2$

が形成されたとする見解である。この見解に立つ場合でも  $-qu^2$  などは本来は  $-qū^2$  の如く長母音をもっていたと考えねばならない。

ここで、「兀該」そのものについて考察する必要に迫られる。

兀該は秘史全巻を通じて61の使用例を数え、兀該兀、兀格兀などの諸形に較べると遙かに多く用いられる。そして、その用法は

- (1) 述語的に用いられるもの。
- (2) 形容詞的（又名詞的）に用いられるもの。
- (3) 副詞的に用いられるもの。

の三種に分類しうる。その若干例を示そう。

〈1〉 § 80 (二15九~15十) 巴撒 也孫 (中)豁那 亦啞延 兀該  
再 九 宿 茶飯 無  
 basa yesün qonoc ide'yēn ügei  
また 九 泊 食物 なく

阿周 捏舌列兀該 客兒 兀窟(克)迭恢 中合兒速 客額周……。(163)  
住着 名 無 怎生 死的 出我 說着……。  
 aju nere ügei ker ükügdeküi, garsu ke'ējü…….  
適し “名 なく いかで 死なるべき、 出でむ” とて……。

〈2〉 § 161 (五30六~30八) 成吉思 中合罕 雪泥 門 田迭  
太祖 皇帝 夜行 只 那裏  
 Činggis qahān sōni mun tende  
チンギス 可汗 夜 その そこに

中豁那周 中合楊中忽勒都牙客延 馬納中合舌兒 額舌兒帖 兀都舌兒 格亦兀命  
宿 斯 殺 咱 麼道 明早 晨 日 明  
 qonoju qadqulduya keyēn managar erte üdür geyi'ülün  
宿りて “合戦せむ” とて 明るる日 早く 夜の 明るるや

王中罕 擺亦蒼勒突舌兒 兀者額速 兀該 孛勒蒼周 額迭赤 必蒼泥  
人名 訥 立 処 看 呵 無 被做着 這的每 俺行  
 Ong qan-nu baiyidal-dur üje'ēsü ügei boldaju ede čī bidan-i  
王 汗 の 陣營 に 見れば いない なられ “やつらは 我等 を

土烈食連阿主兀 客額……。(164)  
做燒飯 有也者 說着  
 tülešilen aju'ū kē'ēd…….  
たきものとし きりき” とて……。

〈3〉 § 214 (九14十~15二) 哲台 者勒蔑 中豁牙舌兒 鳴訥列 論  
人名 人名 兩箇 說  
 Jetei, Jelme qoyar ügüleriün  
ヂェテイ、ヂェルメ 二人の 言う

馬泥 兀該 孛額速 斡脫舌兒 癸趨周 古舌兒抽 額薛 阿刺阿速  
我行 無 有呵 快 走着 到着 不曾 殺呵  
 mani ügei bö'ēsü, ötür güjijü kürčü ese ala'asu,  
我々が なく あらば、 とく 走り 到て 殺さざれば、

阿勒塔泥 額蔑古温 也琴不列額 (165)  
婦人名 婦人 怎地 有來  
 Altani eme kü'ün yēkin büle'ē.  
アルタニは 女 人 いかになせるか。”

〈4〉 § 123 (三44七~44十) 昂客兀都舌兒 額耶赤訥 厄(ト)迭額速  
太平 日 商量 你的 壞 呵  
 angke üdür eye činu ebde'ēsü  
“平和の 日に 和が ←汝の 破れなば

額舌列思 中合舌刺蒼客 額蔑可兀迭扯 馬訥 希舌里扯兀勒周 額者兀該  
家人的 家 活 処 妻 子 処 俺的 分離 着 主 無  
 eres qara-dača eme kö'üd-eče manu hiriče'üljü eje ügei  
一族の 男衆 から、 女 子供 から ←我等の はなさしめ 人 なき

中合札舌刺 格周 斡 額堆 兀格 巴刺(勒)都周 額因 阿蠻 阿勒蒼周  
地 行 撤着 去 這些 言語 講 定 着 自這般 盟誓 着  
 gajar-a gējü od edüi üge baralduju eyin aman aldaju  
地 に 棄て 行け” かく 言を 講し定め、 かく 誓言し、

帖木只泥 成吉思<sup>中合罕</sup> 客延 捏<sup>舌</sup>列亦<sup>(揚)抽</sup> 中罕 李<sup>勳</sup>中合<sup>罷</sup> (166)  
 人名 行 人名 皇帝 慶道 名 着 皇帝 教做了  
 Temüjin-i Činggis qahān keyēn nereyidčü qan bolcaba.  
 テムジン を “チンギス 可汗” と 名づけて 王と なせり。

<5> § 149 (五三八~四四) 帖木真 納馬<sup>宜</sup> 兀<sup>祿</sup> 阿<sup>刺</sup>中<sup>忽</sup>  
 人名 我行 不 殺  
 Temüjin namayi ülü alaqu,  
 “テムジン 我を 殺 さざらむ、”

帖木只泥 兀<sup>出</sup>干 察<sup>黑圖</sup>舌<sup>兒</sup> 你<sup>教</sup>都<sup>舌</sup>里<sup>顏</sup> 中<sup>合</sup>勳<sup>禿</sup> 你<sup>兀</sup>舌<sup>兒</sup>  
 名 行 小 時 裏 眼 自的<sup>行</sup> 火<sup>有</sup>的 面  
 Temüjin-i üčügen čac-tur nidün-dür-iyēn caltu, ni'ür-  
 テムジンが 幼き 時に 「目 に ← 己が 火あり、 顔

都<sup>舌</sup>里<sup>顏</sup> 格<sup>舌</sup>列<sup>禿</sup> 不<sup>列</sup>額 客<sup>延</sup> 額<sup>種</sup> 兀<sup>該</sup> 嫩<sup>禿</sup>黑<sup>突</sup>舌<sup>兒</sup> 中<sup>豁</sup>綽<sup>舌</sup>兒<sup>抽</sup>  
 自的<sup>行</sup> 光 有<sup>的</sup> 有<sup>來</sup> 慶<sup>道</sup> 主 無 宮<sup>盤</sup> 裏 落<sup>後</sup>着  
 tur-iyān gerētü büle'ē keyēn ejen ügei nuntug-dur qočorču  
 に ← 己が 光 ある なり」 とて 主 なき 幕<sup>營</sup>地 に 残りて

阿<sup>梅</sup> 客<sup>延</sup> 阿<sup>不</sup>舌<sup>刺</sup> 幹<sup>揚</sup>抽 阿<sup>卜</sup>赤<sup>舌</sup>刺<sup>周</sup> 速<sup>舌</sup>兒<sup>中</sup>合<sup>阿</sup>速 速<sup>舌</sup>兒<sup>中</sup>忽  
 有 慶<sup>道</sup> 取 去<sup>着</sup> 將<sup>來</sup> 着 教<sup>訓</sup> 呵 学<sup>的</sup>  
 amui keyēn abura odču abčiraju surga'āsu surqu  
 あり とて とりに 行きて つれ来り ‘教えれば 学びとる

箴<sup>圖</sup> 備<sup>由</sup> 客<sup>延</sup> 鎖<sup>納</sup> (6) 兀<sup>舌</sup>里<sup>額</sup> 荅<sup>阿</sup>中<sup>罕</sup> 速<sup>舌</sup>兒<sup>中</sup>合<sup>中</sup>忽 箴<sup>圖</sup>  
 般 有 慶<sup>道</sup> 新 三<sup>歲</sup> 二<sup>歲</sup> 教<sup>的</sup> 般  
 metü büyü keyēn sona üri'ē da'āgan surgaqu metü  
 如き なり' とて 慣れざる 三才の、 二才の牛を 調教する 如く

速<sup>舌</sup>兒<sup>中</sup>罕<sup>雪</sup>因 迓<sup>步</sup>刺<sup>阿</sup>……。(167)  
 教<sup>訓</sup> 行<sup>來</sup>  
 surcan söyin yabula'ā……。  
 教え 訓し 行けり……。”

<6> § 281 (五五五~五五七) 巴<sup>撒</sup> 那<sup>關</sup>額 委<sup>亦</sup>列 兀<sup>速</sup>兀<sup>該</sup>  
 再 次 勾<sup>当</sup> 水 無  
 basa nökö'ē üiyile usu ügei  
 “また 次なる 行ないは 水 なき

中<sup>合</sup>札<sup>舌</sup>刺 中<sup>忽</sup>都<sup>兀</sup>楊 額<sup>舌</sup>里<sup>兀</sup>勳<sup>周</sup> 中<sup>合</sup>舌<sup>兒</sup>中<sup>合</sup>兀<sup>勳</sup>周 兀<sup>魯</sup>思 亦<sup>舌</sup>兒<sup>堅</sup>  
 地 行 井 每 教 掘<sup>着</sup> 教 出 着 国 百姓  
 gajar-a qudu'ūd eri'üljü garca'ülju ulus irgen  
 地 に 井戸 を 掘り 出させ 民人 人衆をして

兀<sup>孫</sup> 額<sup>別</sup>速<sup>捏</sup> 古<sup>舌</sup>兒<sup>格</sup>兀<sup>勳</sup>罷 (168)  
 水 草 行 教 到<sup>了</sup>  
 usu ebesün-e kürge'ülbe.”  
 水 草 に 到らしめぬ。

<7> § 278 (五四四~四四七) 巴<sup>撒</sup> 門 古<sup>温</sup> 厄<sup>別</sup>傷<sup>臣</sup> 申<sup>勳</sup>塔<sup>阿</sup>  
 再 只 人 病 緣<sup>故</sup>  
 basa mun kü'ün ebedčün šilta'ā  
 “また 同じ 人 病いの 理由

兀<sup>該</sup>客<sup>失</sup>昆 幹<sup>脫</sup>歹<sup>突</sup>舌<sup>兒</sup> 額<sup>耶</sup> 兀<sup>該</sup> 中<sup>忽</sup>塔<sup>阿</sup>舌<sup>兒</sup>塔 客<sup>失</sup>克  
 無 筵<sup>的</sup> 老 行 商<sup>量</sup> 無 第<sup>三</sup>次 班  
 ügei kešig-ün ötödej-dür eye ügei guta'arta kešig  
 なく、 当<sup>番</sup>の 長 に 相<sup>議</sup>せず 三度目<sup>に</sup>ても 当<sup>直</sup>を

豁<sup>阿</sup>舌<sup>刺</sup>阿<sup>速</sup>……。(169)  
 脫<sup>了</sup> 呵……  
 ho'āra'āsu  
 怠らば……。”

<8> § 29 (一八二~一八五) 帖<sup>迭</sup>亦<sup>兒</sup>堅 李<sup>端</sup>察<sup>舌</sup>命 中<sup>合</sup>兒<sup>赤</sup>中<sup>孩</sup>  
 那 百姓 黃<sup>黨</sup>  
 tede irgen Bodončar-un qarčigai  
 その 人衆 ボドンチャル の 黃黨を

中<sup>忽</sup>余<sup>阿</sup>速 額<sup>薛</sup>幹<sup>克</sup>罷 帖<sup>迭</sup>亦<sup>兒</sup>堅 李<sup>端</sup>察<sup>舌</sup>里 客<sup>訥</sup>埃<sup>把</sup>  
 崇<sup>着</sup> 不<sup>曾</sup>与<sup>了</sup> 那 百姓 誰<sup>的</sup> 井  
 guyu'āsu ese ögbe. tede irgen Bodončar-i ken-ü-ēi ba  
 乞<sup>わ</sup>ば 与えざりき。 その 人衆 ボドンチャルを “誰 の 者 か

牙<sup>兀</sup>訥<sup>埃</sup>別<sup>客</sup>延 阿<sup>撒</sup>黑<sup>中</sup>忽 兀<sup>該</sup> 李<sup>端</sup>察<sup>兒</sup>別<sup>帖</sup>迭 亦<sup>兒</sup>格<sup>泥</sup> 牙<sup>温</sup>  
 甚<sup>的</sup> 慶<sup>道</sup> 問<sup>的</sup> 無 也 那 百姓 行 甚<sup>麼</sup>  
 ya'ün-u-ai be keyēn asacqu ügei Bodončar be tede irgen-i ya'ün  
 如何 の 者 か” と 問<sup>わ</sup>ず ボドンチャル も その 人衆 を “如何なる



亦兒堅客延 阿撒温勸察中怒兀該 迓步勸都罷 (170)  
 百姓 麼道 相問 無 共行了  
 irgen keyēn asa'ū(n)lčaqu ügei yabulduba.  
 人衆 と 相問わ ず 行き来せり。

以上の語例から、「兀該」が秘史蒙古語において、どの様に用いられたかの概要をつかみ得る。〈1〉～〈3〉は兀該が動詞に伴なわれて文の述語動詞として機能し、〈4〉～〈6〉は直後の実詞に対する定語《～のない～》として用いられ、〈7〉、〈8〉においては副詞句として《～せずに、～しないで》の意に用いられ、又、形動詞に後置されて動詞の否定形を作り、現代モンゴル系言語に広く使用される動詞一般の否定法の起源がすでにこゝに観取される。

又、§ 100 (二45十)における Temüjin-i büküi-yi ügei ese uqabi (テムジンがいるか、いないかを気づかなかつた)の ügei は、純粹に名詞《いないこと》として用いられた用法と言うことができよう。

こゝまでの考察で「兀該」が基本的には実詞であり、動詞の範疇に入らないことが明かになったが、更に、この語 ügei の構成を、兀該兀、兀格兀などと関連の中で分析し、合わせて、-qu<sup>2</sup> 系語尾との関係を考えて見たい。

\* \* \* \* \*

兀該 ügei, 兀格兀 üge'ü, 兀格為 üge'üi, 兀格温 üge'ün と並記して見ると、共通の語幹として \*üge- を取り出すことができよう。

一方、兀該 ügei, 兀該兀 ügei'ü, 兀該為 ügei'üi, 兀該温 ügei'ün と並べて見ると、こゝからは \*ügei- を共通の要素として取り出すことができる。しかし兀該兀などを ügei'ü > üge-i'ü > üge-i-ü と見て、-i- を e と ü の間の介入子音と見れば、語幹 \*üge- を導き出せて、上記の語幹 \*üge- と同一の語幹 \*üge- を認めることができる。この《ない、存在しない》を意味する動詞的語幹に、出動実詞形成接辞 -gü, -güi, -gün などが接尾された、文語形 ügegü, ügegüü, ügegüi などの形を我々は現に辞典類の中に見ることができ、現在、最も信用できるハルハ方言の辞典 [L. M. X] には

ҮГҮҮ үгийгүү, үгээгүү (ügegüü)

ҮГЭЭГҮҮ үгийгүү, хоосон, ядуу (ügegüü)

ҮГИЙГҮҮ үгээгүү (ügegüü)

の如く見えて、同一の文語形 ügegüü がハルハ方言では үгүү, үгээгүү, үгийгүү として現われるかの如くである。

秘史の「兀格兀」üge'ü の正規の発展形は ügü であるから、ハルハ方言の үгүү はまさにそのものであり、үгээгүү は文語 ügegüü の音読みそのままの形であろう。үгийгүү は恐らく、比較的近代に起った口語形と思われるが、内蒙古大学の蒙古語文研究所の編になる「蒙漢辞典」——この辞典は現在すでに購入不能であるが、文語辞典としては最良の辞典の一つである——には ügei-güü として登録されている。この形を見ると秘史の「兀該兀」の後身と見られそうだが、恐らくそうではあるまい、文語形 ügeigüü は既存の ügegüü の類推形として新しく現われた形と思われる。その ügeigüü の口語読みが үгийгүү である。Я. Цэвэл 氏が [L. M. X] を編纂した当時1960年代の前半には、口語形として үгийгүү は存在したが、文語形としては ügegüü のみしか存在しなかったので、үгийгүү に対しても ügegüü が当てられた。しかし1970年代の後半に発行された「蒙漢辞典」では үгийгүү に相当する ügeiguü がすでに文語形として定着していたので、「蒙漢辞典」には ügeigüü が登録されたものと考えられる。

さて、話しを本筋にもどして、《無、不存在》を意味する動詞的語幹 \*üge- は実詞形成接辞 -i(-i) をとって ügei が作られる。この -i は《有》を意味する biü における -i と同一物である。\*üge- に見られる《無、不存在》の意は ülü (動詞に前置されて否定形をつくる小辞), üdü'ü(i) (まだ～しない) との対比から見て、第一音節の \*ü- に宿ると言えようが、ülü の -lü, üdü'ü(i) の -dü-, ügei の -ge- が如何なる意味と職能をもつか、現在までの処、残念ながらの不明である。

以上、秘史蒙古語に見られる「兀格兀」系と「兀該兀」系の諸形の分析から最終的に、語幹 \*üge- を抽出し、この語幹に実詞形成接辞の -i, -ü, -üi;

-ün が接尾されて「兀該, 兀格兀, 兀格為, 兀格温; 兀該兀, 兀該為, 兀該温」の諸形が得られることを説いた。

こゝで最後に述べべきことは、この -i, -ū, -ūi, -ün を形動語尾の -qu<sup>2</sup>, -qui<sup>2</sup>①<\*-q-ui<sup>2</sup>, -qui<sup>2</sup>②<\*-q-u-i, -qun<sup>2</sup> の諸形の中にそのま、見出すことができると言うことである。かくして -qu<sup>2</sup> は男性単数形語尾、-qui<sup>2</sup>①は女性単数形語尾、-qui<sup>2</sup>②は述語形語尾、-qun<sup>2</sup> は複数形語尾と規定しうる。

-qui<sup>2</sup>① と -qui<sup>2</sup>② とは簡単に前で触れたように、-q に女性形表示の -ūi が接尾した -qūi<sup>2</sup>① と -q に述語形形成接辞の -i が接尾する際 -q と -i の間に介入母音 -u- が挿入されて出来上った -q-u-i>-qui<sup>2</sup>② とがたまたま同一の形をもつに到ったものである。-qui<sup>2</sup> の用例が示す女性形語尾としての用法〈1〉～〈5〉と〈6〉～〈10〉が示す述語的用法は、上の如く見ることによって解決される。

-qu<sup>2</sup> 系語尾の記述を結ぶに当り、この語尾の意義素を《或る動作が、現在及び未来において行なわれるべき(もの、こと)》と措定する。

なお、筆者は、こゝで中世蒙古語の実詞、特に形容詞の性格にも言及すべきことを前言したが、-qu<sup>2</sup> 系語尾と ügei 系諸形との記述に思わぬ時間を費したので、こゝでは形容詞に対する言及を後にゆずり、形動詞語尾の中で -qu<sup>2</sup> 系語尾に劣らず重要な -gsan<sup>2</sup> 系語尾の記述に移ることにする。

[II] -gsan<sup>2</sup>, -gsad<sup>2</sup> と [III] -ā<sup>2</sup>, -āi<sup>2</sup>

-gsan<sup>2</sup> は「完了の形動詞語尾—— -gsad<sup>2</sup> は複数形——, -ā<sup>2</sup> は未完了の形動詞語尾—— -āi<sup>2</sup> は複数形(?)——」と原則的に言うことができる。

秘史全巻から -gsan の用例126例, -gsen の用例122例, 合わせて248の使用例を拾い出せる。複数形の -gsad 58例, -gsed 25例の総てを合計すると331の用例が見られ、極めて多用される語尾群の一つであると言っても過言ではあるまい。

-ā<sup>2</sup>, -āi<sup>2</sup> は、これに反してその用例は限られていて、-ā は11例, -ē は3例, -āi 14例, -ēi 7例など総計して35例を数えるのみである。

完了形の -gsan<sup>2</sup> は現代の諸方言でも盛に用いられ、ハルハ方言では -can<sup>4</sup>

として用いられる。複数形の -gsad<sup>2</sup> の方は -can<sup>4</sup> ほど頻用されることはないが稀に -rcad<sup>4</sup> の形で用いられ、この複数形は、-gsad<sup>2</sup> の -g- を保存している点で興味ぶかい。稀にしか用いられない故にこそ -gsad<sup>2</sup> の -g- が保たれたのである。言語には、この種の現象が間々見られるものである。この -rcad<sup>4</sup> もその例に洩れない。

-ā<sup>2</sup> も現代にまで伝存され、ハルハ方言では -aa<sup>4</sup>～-raa<sup>4</sup> の形で多用され、特に否定形の -(r)aarγū<sup>4</sup> は -санγū<sup>4</sup> に代って最も一般的な過去時制の否定形として用いられる。

以下に -gsan<sup>2</sup>, -gsad<sup>2</sup>; -ā<sup>2</sup>, -āi<sup>2</sup> の用例を示しつ、この二語尾の解説に移ろう。なお、-ā<sup>2</sup>, -āi<sup>2</sup> は終止形としても用いられ、それについては p.71 を参照のこと。

〈1〉 § 118 (三29五～29七) 帖木真 札木中合 中豁牙舌児

人名 人名 兩箇  
Temüjin Jamuqa qoyar  
テムジン、 ジャムカ 二人

阿馬舌刺都舌命 你刊桓 [孛勤周] 那可額 豁訥 札舌林 阿馬舌刺都周  
相親愛 一年 [傲着] 第二年的 半 相親愛着  
amaraldurun niken hon [bolju] nökö'ē hon-u jarim amaralduju  
親しみ合うに 一年 [経ちて] 次なる 年 の なかば(まで) 親しみ合い、

帖舌列 阿黑三 嫩秃中合察 你刊 兀都兒 擢兀耶 客額都周……。(171)  
那 住的 營盤 行 一 日 起咱 共說着  
tere agsan nuntug-ača niken üdür neü'üyē ke'eldüjü…….  
その ありし 幕營地 より 一 日 “移らむ” と云い合いて……。

〈2〉 § 73 (二4九～5一) 訶額命兀真 格周擢兀克迭舌命

婦人名 撤着 起行時  
Hö'elün=üjin gējū neü'ügderün  
ホエルン・夫人 棄て 移らる時

秃黑刺周 別耶別兒 秣舌驪刺周 札舌里木務亦兒格泥 亦出合罷 帖迭別兒  
真頭拿着 親身 上馬着 一半 百姓行 退了 那的每也  
tuclaju beye-bēr morilaju jarimūd irgen-i ičugaba. tede ber  
羆をたて 自ら 上馬して なかばほどの 人衆 を もどらせり。 彼等

亦出<sup>中合</sup>黑<sup>蒼</sup>黑<sup>三</sup> 亦兒堅 兀禄脱<sup>黑</sup>壇 泰亦只兀敦 中豁亦納察  
 退了<sup>的</sup> 百姓 不定 種名的 後自  
 ičucaɗacsan irgen ülü toctan Tajyiji'ūd-un qoyina-ča  
 もどらさせられし 人衆 定まらず タイチウド族の 後より

釋兀主為。(172)

起了  
 neü'üjü'üi.  
 移れり。

<3> § 63 (一43十~44三) 也速該<sup>中</sup>忽<sup>蒼</sup> 額捏 沼兀敦 米訥  
 名親家 遣我 夢的  
 Yesügej quda ene jeü'üdün minu  
 \*イエスゲイ クダよ、この 夢を ← 我が

赤馬亦 額列 可兀別延 兀都<sup>舌</sup>里<sup>揚</sup>抽亦<sup>舌</sup>列古耶 兀者克先 阿主兀  
 你行 但 兒子行 引着来的行 見了 有来  
 čimayi ele kō'ü-beyēn uduridču ireküj-e üjegen aju'ü.  
 汝 こそか 子を(己が) つれ 来る 故に 見たる ならむ、

沼兀敦 撒因 沼兀都列罷 牙温 沼兀敦 阿中忽 塔 乞牙<sup>揚</sup> 亦兒格訥  
 夢 好 夢了 甚麼 夢 有 您 人氏 百姓的  
 jeü'üdün sayin jeü'üdülebe, ya'un jeü'üdün aqu, ta kiyad irgen-ü  
 夢を ← よき 夢見たり、 いかなる 夢 なるか、 汝等 キャド 人衆の

速勒迭兒 亦<sup>舌</sup>列周 札阿<sup>(中)</sup>合<sup>黑</sup>三 阿主兀。(173)  
 吉兆 来着 告了 有来  
 sülder irejü ja'acagsan aju'ü  
 吉兆 来りて 告げしめし ならむ。”

<4> § 155 (五21十~22三) 額捏 兀格突<sup>舌</sup>兒 成吉思<sup>中</sup>合<sup>罕</sup>  
 這 言語裏 太祖皇帝  
 ene üge-dür Činggis qahān  
 この 言に チンギス 可汗の

鳴訥<sup>舌</sup>列<sup>舌</sup>論 額格赤 赤訥 赤馬蒼察 撒因<sup>ト</sup>克先 孛額速 額<sup>舌</sup>里兀魯耶  
 說 姐姐 你的 比你 好 有来 有呵 教導 咱  
 ügüilerün egeči činu čimadača sayin bügsen bö'ēsü eri'ülüye,  
 言う 姉 ← 汝の 汝より 良く ありし ならば 尋めしめむ、

額格赤顏 亦<sup>舌</sup>列額速 斎亦刺周 幹克古由 赤 客額罷<sup>原作</sup>。(174)  
 姐姐 自的 行 来呵 驟着 与 麼 你 說了  
 egeči-yēn ire'ēsü jaiyilaju ögküi-ü či ke'ēbe.  
 姉が ← 己が 来らば 退き 与うる や 汝”と云いぬ。

<5> § 224 (九30八~31二) 兀魯思 擺亦兀魯<sup>察</sup>黑<sup>撒</sup>揚  
 國 共立了的 每  
 ulus bajyi'ülulčacsad  
 國を ともに建てしものどの

勺<sup>李</sup>勒都<sup>黑</sup>撒的 敏<sup>中</sup>合<sup>敦</sup> 那牙<sup>揚</sup>李<sup>勒</sup>中<sup>合</sup>周 敏<sup>中</sup>合 敏<sup>中</sup>合刺<sup>周</sup>  
 生受了的每 千戶的 官人 教做着 千 千做着  
 jobolducsad-i mingad-un noyad bolgaju minca mingalaju  
 ともに苦しみあいしものどもを 千戸の 長と なし、 千を 千戸となし、

敏<sup>中</sup>合<sup>敦</sup> 札兀敦 (口)合<sup>舌</sup>兒巴敦 那牙<sup>揚</sup> 土失周 秃篋列周  
 千戶的 百戶的 十 每的 官人每 委付着 萬做着  
 mingad-un, ja'ūd-un, harbad-un noyad tüšijü tümelejü  
 千戸の、 百戸の、 十戸の 長官に 任じ、 万をなして

秃篋敦那牙<sup>揚</sup> 土失周 秃篋敦 敏<sup>中</sup>合<sup>敦</sup> 那牙<sup>揚</sup>塔 莎余<sup>勒</sup>中<sup>合</sup>勒  
 萬每的 官人每 委付着 萬每的 千每的 官人每(行) 恩賜  
 tümed-ün noyad tüšijü tümed-ün, mingad-un noyad-ta soyulqal  
 万戸の 長に 任じ 万戸の、 千戸の 長官に 嘉賞の

幹克帖坤 篋秃薛 莎余<sup>舌</sup>兒<sup>中</sup>合<sup>勒</sup> 幹克抽……。(175)  
 可与的每 殺每行 恩賜 與着  
 ögtekün metüs-e soyurqal ögču…….  
 与らるべき 如き人々に 嘉賞を 与え……。

<6> § 200 (八15三~15六) 客里 客額額速 客<sup>舌</sup>列亦<sup>揚</sup>  
 幾時 說呵 種名  
 keli ke'ē'sü Kereyid  
 “いつか と云はば ケレイド

亦<sup>舌</sup>兒堅魯額 中<sup>合</sup>(舌)刺<sup>中</sup>合<sup>勒</sup>只<sup>揚</sup>額<sup>列</sup>揚<sup>帖</sup> 中<sup>合</sup>揚<sup>中</sup>忽<sup>勒</sup>都<sup>中</sup>灰<sup>突</sup>舌<sup>兒</sup> 王中罕  
 百姓一同 地名 行 斬殺的時 人名  
 irgen-lü'e Qara=qaljid=eled-te qadquduqui-dur Ong qan  
 人衆と カラ・カルジド 沙漠にて 合戦せる 時 王 罕なる

額赤格迭 鳴詰列克薛揚 兀格昔顏 薛舌列兀勒周 亦列克先 土撒 赤訥  
 父 行 說了 的 言語自的 行 提 省 着 教來的 恩 你的  
 ečige-de ügülegsed üges-iyēn sere'üljü ilegsen tusa činu  
 父 に 語りし 言 をば(己の) 知らせ よこせしは 功助 ← 汝の

備者 巴撒 乃蛮 亦舌兒格泥 兀格額舌兒 兀窟兀勒周 阿馬阿舌兒  
 有也者 再 種名 百姓 行 言語裏 教死者 口 教  
 büj~je, basa Najman irgen-i üge-'ēr ükü'üljü ama-'ār  
 な るぞ, また ナイマン 人衆 を 言もて 死なせ, 口もて

阿刺周 阿余兀魯撒你顏 阿荅里楊中合禿該 客額周 客列 亦列克先 赤訥  
 殺着 教怕來的 自的 行 教比方 者 說着 話 教來的 你的  
 alaju ayu'ulugsan-iyān adalidqatugaj ke'ējü keke ilegsen činu  
 殺し 恐れしめし を 「(死せるに)比すべし」 とて 言を よこしたるは 汝の

土撒 孛勤主為者 客延……。(176)  
 恩 做了有來也者 麼道  
 tusa bolju'ūi~je keyēn…….  
 功助 なりしぞ” とて……。

<7> § 82 (二18四~18六) 帖舌列 阿勒荅黑三 古温 也客(禱)兀把兒  
 那 脱了的 人 大 声 教  
 tere aldagsan kü'ün yeke dau'ū-bār  
 その 先いし 人 大 声 もて

巴舌里牙 古温 阿勒荅罷 客延 中合亦刺(中)灰突兒 塔兒中合黑撒楊  
 拿住 人 脱了也 麼道 叫 時 的 散了的  
 bariya kü'ün aldaba keyēn qayilaquī-dur tarqaqsad  
 “とらわれ 人 逃げたり” と 叫ぶ に 分散せし

泰赤兀楊 中忽舌里周 亦舌列周 兀都兒篋圖 撒刺兀舌刺 幹難訥屯泥  
 種名 聚着 來着 白日 殺 月明 裏 名的 林行  
 Taiyiči'ūd quriju irejü üdür metü sara'ūr-a Onan-nu tün-ni  
 タイチウド族 集まり 来り 白日の 如き 月明のもと, オナンの 林 を

別迭舌列罷 (177)  
 排尋了  
 bederebe.  
 探索せり。

<8> § 244 (十26十~27十) 見中豁塔歹 蒙力克 額赤額因  
 種 人名 父 的  
 Qongqotadaï Münglig eči'e-yin  
 コンコタン族の ムンリダ 父 の

可兀楊 朶(舌)羅安 不列埃 朶羅阿訥 敦荅都 闊闊出 帖騰格舌理  
 兒子每 七 箇 有來 七箇 的 中間 人名 巫名  
 kō'ūd dolo'ān büle'ēj. dolo'ān-u dundadu Kōkōčü Tebtenggeri  
 子達は 七人 ありき。 七人 の 中間の ココチュは テブテンゲリ

不列額 帖迭 朶羅安 見中豁壇 中合撒舌里 幹篋舌列周 札你赤主為  
 有來 那 七箇 種 名 行 黨比着 打了來  
 büle'e. tere dolo'ān Qongqotan Qasar-i ömērejü jančiju'ūi.  
 なりき。 その 七人の コンコタンは カサル を 群がりて 打ちたり。

中合撒舌兒 朶羅安 見中豁塔納 幹篋舌列周 札你赤黑荅阿 客延  
 人名 七箇 種 行 黨 着 被打了 麼道  
 Qasar dolo'ān Qongqotan-a ömērejü jančigda'a keyēn  
 カサルは “七人の コンコタン に 群がりて 打たれり” とて

成吉思中合阿納 莎歌都額速 成吉思中合罕 不速楊途舌兒 乞靈刺周  
 皇帝行 跪告阿 太祖 皇帝 別的每行 怒着  
 Činggis qa'an-a sögödü'ēsü Činggis qahān busud-tur qilinglaju  
 チンギス 可汗 に 跪まづかば, チンギス 可汗 他のもの に 怒り

阿中灰敦荅 客列列古 孛命 成吉思中合罕 乞靈都舌里顏  
 有中 間 說的 做 太祖 皇帝 怒 裏自的 行  
 aquj dunda kelelekü bolun Činggis qahān qiling-dur-iyān  
 ある さなかに 言うに なりて チンギス 可汗 怒り に ← 己が

中合撒舌里 鳴詰列舌論 阿米禿荅 兀祿 亦刺黑荅中忽阿察 不列額 赤  
 人名 行 說 生命有的 行 不 被勝 有 行 有來 怒  
 Qasar-i ügülerün amitu-da ülü ilacdaqu-ača büle'e čī.  
 カサル を 言うに “生ある者 に 負くるなき ほど なりしぞ 汝,

客舌兒 亦刺黑荅阿 赤 客額克迭周 中合撒舌兒 你勤不速 阿勒荅阿楊  
 怎麼 被勝了 你 被說着 人名 淚 墮了  
 ker ilacda'a čī ke'egdejü Qasar nilbusu alda'ad  
 いかに 負けたる 汝” と云われ, カサル 涙を (見わず)落し

李思抽 約<sup>舌</sup>兒赤周 中合<sup>舌</sup>兒 馬危刺周 中忽<sup>舌</sup>兒班 兀都<sup>舌</sup>兒 額薛  
 起着 去着 人名 煩惱着 三 日 不曾  
 bosču yorčiju Qasar ma'ūjlaju curban üdür ese  
 起ちて 去り カサル 悩みて 三 日 来

亦<sup>舌</sup>列罷 (178)  
 来了  
 irebe.  
 ざりき。

<9> § 177 (六28五~28八) 巴撒 必<sup>舌</sup>蒼古出古<sup>舌</sup>兒台不亦<sup>舌</sup>魯黑中合泥  
 再 咱 人名 皇帝行  
 basa bida Güčügürtej=buyirug qan-i  
 “また 我等は クチュグ ブイルグ 汗を

兀魯黑塔中渾 莎中<sup>舌</sup>豁黑兀速<sup>舌</sup>納察 阿勒台 蒼巴兀侖 《中》忽勒迭周 活<sup>舌</sup>籠古  
 地名 的 水名 處 山名 越過 趕了着 水名  
 Uluctag-un Soqog usun-ača Altaï daba'ūlun hüldejü Ürünggü  
 ウルク岳 の ソカク 水より アルタイを 越えしめ 追いて ウルング河を

忽<sup>舌</sup>魯兀 幹都阿<sup>楊</sup> 乞赤<sup>舌</sup>勒巴石 納活<sup>舌</sup>刺 抹中忽<sup>楊</sup>中合周 阿不<sup>舌</sup>埃者 必<sup>舌</sup>蒼  
 順 去了 海子名 海子行 窮極着 要了也者 咱每  
 huru'ū odu'ād Kičil=baši na'ūr-a moqudqaju abu'āi-je bida,  
 下り 行きて キチル(湖) 湖に 殲滅し とりたる ぞ 我等”

田迭徹 中合<sup>舌</sup>里周 阿亦速中<sup>舌</sup>灰突<sup>舌</sup>兒……。(179)  
 自那裏 回着 来 時……。  
 tendeče qariju ayisuquj-dur…….  
 そこより 帰り 来るに……。

<10> § 179 (六36一~37一) 塔泥 中合<sup>楊</sup> 李魯黑(中)[渾] 客額周  
 您行 皇帝每 敬 每 說着  
 tan-i qad boludqun ke'ējü  
 “汝等を「汗々に なるよう」と云いて

牙蒼周 塔納赤 中罕 李勳 客額克迭周 箴顯 逐步罷者 必 塔泥  
 不能着 您行 你 皇帝 敬 被說着 管 行了也者 我 您行  
 yadaju tan-a či qan bol ke'эгдеjü meden yabuba-je bi, tan-i  
 能わず、 汝等に「汝 汗 たれ」と云われ 統べ 行ける ぞ 我、 汝等が

中合<sup>楊</sup> 李魯黑三 李額速 幹樂歹因突<sup>舌</sup>兒 阿勒斤赤 哈兀勒中合<sup>舌</sup>蒼阿速  
 皇帝 做了 有呵 多 敵 行 頭哨 教 奔 呵  
 qad boluqsan bö'ēsü olon dayin-dur alginči ha'ūlgacda'asu  
 汗に なりし あらば 多くの 敵 に 尖軍たりて 奔らせらるれば

騰格<sup>舌</sup>理迭 亦協額克迭額速 歹亦孫 古温泥 倒兀里中<sup>舌</sup>灰突<sup>舌</sup>兒 中合<sup>舌</sup>察兒  
 天 行 被護助 呵 敵 人行 擄 行 罷  
 tenggeri-de ihe'эгде'ēsü daiyisun kü'ün-i dau'ūliquj-dur qačar  
 天神 に 加護されるれば 敵 人 を 掠擄する に 類

中<sup>舌</sup>豁阿 幹乞 中合<sup>舌</sup>敦 額箴宜 中合<sup>舌</sup>兒中[舍] 撒因 阿黑<sup>舌</sup>駟 阿<sup>舌</sup>赤<sup>舌</sup>刺周  
 美 女 娘子 婦人行 勝 好的 騙馬 將來 着  
 go'ā öki qačun eme-yi qarqam sayin acta abčiraju  
 美しき 乙女、 婦人、 女 を、 尻の よき 騙馬を もち来り

幹古埃 不列額者 必 幹<sup>舌</sup>刺阿 戈<sup>舌</sup>劣額孫突<sup>舌</sup>兒 兒<sup>舌</sup>秃<sup>舌</sup>刺兀勒蒼阿速  
 與 有来 也者 我 野 獸 行 教出團 咱  
 ögü'ei büle'ē-je bi, ora'ā görö'ēsün-dür utura'ūlda'asu  
 与え ありし ぞ 我、 逃げまどう 獸 に 先かけさせられなば

中合<sup>舌</sup>蒼因 戈<sup>舌</sup>劣額孫 中合<sup>舌</sup>亦訥 你客帖列失中合周 幹古埃 不列額者 必  
 崖 的 獸 前脚他的 一并 擠着 與 有来 也者 我  
 qada-yin görö'ēsün qa inu niketele šiqaju ögü'ei büle'ē-je bi,  
 岩山 の 獸をば、 前脚を ←その 一つに おさえ 与え ありし ぞ 我、

崑訥 戈<sup>舌</sup>劣額速 中忽<sup>舌</sup>牙亦訥 你客帖列 失中合周 幹古埃 不列額者 必  
 山崖的 獸 後脚他的 一并 擠着 與 有来 也者 我  
 gun-u görö'ēsü guya inu niketele šiqaju ögü'ei büle'ē-je bi,  
 山崖の 獸をば 後脚を ←その 一つに おさえ 与え ありし ぞ 我、

客額<sup>舌</sup>命 戈<sup>舌</sup>劣額速 客額里亦訥 你客帖列 失中合周 幹古埃 不列額者  
 曠野的 獸 肚 他的 一并 擠着 與 有来 也者  
 ke'er-ün görö'ēsü ke'eli inu niketele šiqaju ögü'ei büle'ē-je  
 草原の 獸をば、 腹 ←その 一つに おさえ 与え ありし ぞ

必……。(180)  
 我  
 bi…….  
 我……”

〈1〉の *acsan*, 〈2〉の *ičugacdačsan* は直後の *nuntug*, *irgen* を修飾する形動詞形本来の最も一般的用法である。〈3〉の *üjegen*, *ja'agacsan* は *aju'ū* と共に活用連語を形成し述語動詞として機能している。

〈4〉の *egeči činu čimadača sayin bügsen bö'ēsü* 《汝の姉が汝より好かりしならば》の *bügsen* は極めて珍しい例で、秘史においても、この一例のみである。*bügsen bö'ēsü* (～であったならば) で述語動詞を形成している例である。

〈5〉の *bajiyi'ülčacsad* 《共に建てしもの達》, *jobolduacsad* 《共に辛苦を分つたもの達》は複数形 *-gsad* の一例としてあげたが、複数形は特にこのように(～したもの達)のように、“その行為を行った人々”の意の実詞を形成することがある。

〈6〉の *ügülegsed üges-iyēn* は中世蒙古語の一特徴である、定語と被定語間の数の一致が、この種の無生物の語にまで見られることの例証の一つとしてあげた。又、〈6〉の文末近くの *kele ilegsen činu tusa bolju'ū~je* 《言葉を寄せしは、汝の恩功なりしぞ》の *ilegsen* は文の主語として働いた形動詞の一例である。

〈7〉~〈10〉は  $-ā^2$ ,  $-āi^2$  の文例を示したが、*-gsan* も文中に見えるので合わせて御留意願いたい。

〈7〉の *bariyā kü'ün* は捕虜として(つかまえていた人)の意で *baricsan kü'ün* (つかまえた人)とは異なることに注意しなければならない。*bari-* に  $-ā$  が接尾して介音として  $-y-$  が挿入され *bariyā* となったもの。

〈8〉の *jančigda'ā* 《なぐられた》の  $-ā$  と *ker ilagda'ā* 《どうしてやられた(負けた)か》の  $-ā$  は、この語尾の好例である。*jančigda'ā* は単なる *jančigda* 《なぐられた》の  $-ba$  とは異なり、《なぐられた》行為が感覚的にはまだ終わっていない、未完了として捉えられていることを示している。

*ilagda'ā* の  $-ā$  も同様で、単純に《やられた、負けた》のではなく、《負けた》状態が、そのま、現在にまで残っている、従って *ker ilagda'ā čī* (どう

して負けたのか)は表現としては *ilacda* より強く、一種の驚きをも表わしているとも言えようか。

〈9〉の *abu'ai-je bida* の  $-ai$  も *moqudquju abu-* の状態が現在まで持続していることを示し、合わせて強意の表現として用いられている。*bida* 《我等》が主語であるから、 $-ai$  は複数形かとも考えられるが、〈10〉の *abčiraju ögü'eī-je bi* の *bi* 《我》を見ると、 $-ai$  は単数の主語にも用いられている。従って  $-ai^2$  が複数形とにわかに決することは出来ない。更に考慮すべきである。

ところで、〈10〉の三つの *ögü'eī-je bi* の  $-eī$  も、この語尾のもつ特色をよく表わしている。

〈10〉の文はテムヂンがアルタン、クチャル、サチャ、タイチュなどに推されて、*qan* の位に即く際、彼テムヂンはアルタン、クチャルなどをいわば先輩として *qan* たるべしと推し、彼等に辞退された結果、自ら *qan* 位に即かざるを得なかったとの件の一駒である。テムヂンはサチャ、タイチュが *qan* になったなら、私は頬美わしき乙女、婦女、更に尻ぶりのよい馬を敵軍から奪って *abčiraju ögü'eī büle'e-je* 《つれて来て与えていたのだぞ》と言ったのである。現実には、サチャとタイチュにも断わられて、テムヂンが *qan* 位に即いたので *ögü'eī* 《与えていた》わけではない。即ち事実と反する仮定の表現を  $-ā^2$ ,  $-āi^2$  は表わし得たのである。この語尾のもつ「未完了性」が、この様な表現を可能にしたと説明できよう。

更にもう一つ  $-ā^2$ ,  $-āi^2$  の特色は《未だ～しない》を意味する「兀都為」*üdü'üi* と結びついて用いられることである。§7 (一4十) の *Dobun mergen tede irgen-dür kürü'ēsü ünēn kü go'ā sayin aldar nere yeketej Alan-go'ā neretej kü'ün-ne ber ögte'eī üdü'üi* ökin *aju'ū* の《人にぞ未だ与えられざる娘なりき》の *ögte'eī* にその一例をうかがうことができる。これも、 $-āi^2$  系語尾のもつ「未完了性」の然らしめるところである。

最後に、この二語尾の意義素を簡潔に

「-gsan<sup>2</sup>~-gsad<sup>2</sup> は“ある動作の完了した(もの・こと)”, -ā<sup>2</sup>~-āi<sup>2</sup>

は“ある動作の未だ終らざるもの・こと”を表示する

とすることが出来よう。

なお、-gsan<sup>2</sup>, -gsad<sup>2</sup> については、末尾音を落した -gsa<sup>2</sup> を考えさせる若干例がないわけではない。例えば § 30 (一18九) の Tüנגgeli(g) huru'ü neü'üjü 亦<sup>2</sup>列薛 (irese) irgen-dür teyimü teyimü kü'ün teyimü morintu büle'e における亦<sup>2</sup>列薛は「亦<sup>2</sup>列(克)薛(楊)」iregsed と註して読まれるのが一般であるが、これと iregse と読み、-gsa<sup>2</sup> を考える読み方もあろうかとも思える。しかし、この種の用例の稀少さを考えると -gsa<sup>2</sup> を認める立場には立ちにくいと思う。後考に値する。

#### [IV] -gči<sup>2</sup>, -gčīn<sup>2</sup>

この語尾 -gči<sup>2</sup> は現代のモンゴル語、例えばハルハ方言などにも -гчи として生きている。しかし、秘史蒙古語には、極めて限られた使用例が認められるのみである。以下に列記しよう。

- 1 § 105 (三5九) 歹亦只(黒)赤 daiyijieči <反的>
- 2 § 105 (三6一) 帖篋扯(克)赤 temečegči <争的>
- 3 § 159 (五29六) 中合(楊)中忽(勒)都(黒)赤 qadquldugči <斃殺的>
- 4 § 177 (六24二) 阿刺(黒)赤 alacči <好殺的>
- 5 § 185 (六51四) 不(勒)中合(勒)都(黒)赤 bulcaldugči <斃殺的>
- 6 § 187 (七4四) 阿不(黒)赤 abugči <好要的>
- 7 § 195 (七35五) 脫那(黒)臣 tonocčīn <剝脫的毎>
- 8 § 195 (七35六) 阿不(黒)臣 abucčīn <要的毎>
- 9 § 195 (七39七) 穩(楊)黒赤 untagči <睡的>
- 10 § 195 (七39七) 李速(黒)赤 bosugči <起的>

以上、10例が知られる。(なお、§ 46 (一28三)の「阿(舌)魯(黒)赤」adarucči <間諜> も加えれば11例となる) -gčīn<sup>2</sup> は -gči<sup>2</sup> の複数形である。後世の蒙古語文語、現代の諸方言に見られる複数形 -gčid<sup>2</sup>, -гчид は秘史の言語からは発

見されない。

-gči<sup>2</sup> は -g<sup>2</sup>-či と更に分解され、形動詞としての徴標である -g-(-g-) に、(〜するのを好む, 〜するのに巧みな)の意を表わす接尾辞 -či が附されて作られたものである。この -či は、「その接尾辞の附される実詞に結びつく職業に従事する人」を表わす -či——例えば qoni(n)《羊》→qoniči《羊飼い》, adu'ū《馬》→adu'ūči《馬飼い》などの -či——とは本来別物である。

-gči<sup>2</sup> の用例を以下に示そう。

#### <1> § 105 (三5九~6二) 蒼(ト)赤(秃) 中(豁)舌(兒) 蒼(舌)兒(巴)勒(札)中(灰)突(舌)兒

蓋子有的 箭筒 搖閃 時  
dabčitu qor darbaljaquī-dur  
ダブチの入れる矢筒の ゆれ動く に

#### 歹(亦)只(黒)赤 歹(亦)舌(兒)兀(孫) 額(朵)額 幹(舌)兒(中) 涇(蘇)涼(格) 中(豁)舌(牙)舌(命) 塔(勒)中(渾)

反的 人名 如今 水名 水名 阿箇的 地名  
daiyijieči Daiyir-usun edō'e Orqon Selengge qoyar-un Talqun  
逃げ去る ダイル・ウスンは 今 オルゴン、セレンゲ 兩河 の タルクン

#### 阿(舌)刺(刺) 備(者) 中(合)中(兀)勒(孫) 克(亦)思(恢)突(舌)兒 中(合)舌(刺) 槐 帖(篋)扯(克)赤

行 有也者 蓬蒿 風刮 時 黒 林 争的  
aral-a büj-je, qamqa'ulsun keiyisküi-dür qara hoj temečegči  
島 に ある ぞ、 蓬蒿の 吸きとぶ に 黒き 林に 争い逃ぐる

#### 中(合)阿(台)蒼(舌)兒(馬)刺 額(朵)額 中(合)舌(刺)只(客)額(舌)列(備)者 (181)

人 名 如今 地名 野甸行 有也者  
Qa'ataj=darmala edō'e Qaraji ke'er-e büj-je.  
カアタイ・ダルマラ 今 カラジ 草原 に あるぞ。

#### <2> § 159 (五29四~29七) 田(迭)徹 成(吉)思(中)罕 王(中)罕

自那裏 太祖 皇帝 人名  
tendeče Činggis qahān Ong qan  
そこより チンギス 可汗 王 汗

#### 中(豁)舌(舌)兒 中(合)舌(里)周 阿(亦)速(中)灰(突)舌(兒) 乃(馬)訥 中(合)楊(中)忽(勒)都(黒)赤

兩箇 回着 来的 時 種的 斃殺的  
qoyar qariju ayisuquī-dür Najman-u qadquldugči  
二人 帰る 来る に ナイマン族の いくさ上手の

可克薛兀撒(ト)舌刺黒 巴亦荅舌刺黒別勅赤舌列 扯舌里克 札撒周  
 人名 地名 行軍 整治着  
 Kögse'ü=sabrac Bayidarag=belčir-e čerig jasaju  
 コグセウ・サブラダグ バイダラダグ・ベルチル 兵を 整え

兀納中合周 阿刺周 兀朮納黒 阿不黒臣 兀舌魯兀楊 忙中忽楊 客額克迭楊  
 臥倒着 殺着 財物 剝脱 要的毎 種名 種名 被說的  
 unagaju alaju üb tonag abugačïn Uru'üd Mangcüd ke'ëgded  
 倒し 殺し、 刺ぎもの 好みとる ウルウド、 マングウド族、 と云わるぞ

中合楊中忽勅都中忽 孛翁阿主兀。(182)  
 要 斯殺 有 來  
 qadqulduqu bolun aju'ü.  
 合戦するに なりて ありき。

帖迭……。 (185)  
 那的毎……。  
 tede……。  
 彼等は……”。

<3> § 185 (六51四) 額捏 不勅中合勅都黒赤 只舌兒吉訥  
 這 斯殺的 姓的  
 ene bulcaldugči Jirgin-ü  
 この 能く戦えるは デルギンの

<6> § 195 (七39五~39九) 札木中合 鳴話列舌論 帖舌列 訶額命  
 人名 説 那 名  
 Jamuqa ügülerün tere Hö'ëlün  
 チャムカの 言う “彼は ホエルン

中合荅黒把阿禿舌兒 阿主兀 (183)  
 人名 勇士 有來  
 Qadac=ba'atur aju'ü  
 カダダ・バートル なりき。

額客因 你勅中合可温 幹斡赤斤 赫里格禿 客額克迭由 額舌兒帖 穩榻黒赤  
 母的 最小的子 人名 肝有的 被說有 早行 睡的  
 eke-yin nilqa kö'ün Odčigin heligetü ke'ëgdeyü. erte untagči  
 母の 末子 オドチギン、 「心やさし」と云わるなり。 早く ねるを好み

<4> § 187 (七4四~4六) 赤速禿脫那黒 阿不黒赤 只舌兒斤  
 血有的 剝脱 好惡的 姓  
 čisutu tonog abugči Jirgin  
 血ぞめの 剝脱物を 好みとる デルギンの

幹舌刺牙 孛速黒赤 巴舌魯阿納察 別舌兒兀禄 中豁綽舌魯由 擺荅刺察  
 晩行 起的 多 処 也 不 落後有 立 処  
 oraj-a bosugči, baru'an-ača ber ülü qočoruyu, bajdal-ača  
 晩く 起くるを好み、 衆より ぞ おくれざるなり、 対陣より

把阿禿的 只速周 中忽必牙周 古舌兒格勅敦 牙荅罷<sup>原作</sup> (184)  
 勇士 行 割開着 分着 共到 時 不能了  
 ba'atur-i jisüju qubiyaju kürgeldün yadaba.  
 勇士達を ちりぢりに 分けて あい足らしめ ざりき。

別舌兒 兀禄 中豁綽荅由 客額主為 (186)  
 也 不 落後有 說了  
 ber ülü qočodayu ke'ëjü'üj.  
 ぞ おくれざるなり” と云えり。

<5> § 195 (七35四~35七) 札木中合 鳴話列舌論 帖迭 鑽荅禿  
 人名 説 那的毎 鐘有的  
 Jamuqa ügülerün tede jidatu  
 チャムカの 言う “彼等、 槍もつ

以上の諸用例を見るに、-gči<sup>2</sup>, -gčïn<sup>2</sup> の -či, -čïn を qoniči, qoničïn; adu'üči, adu'üčïn の -či, -čïn と同一接尾辞と解するよりも、現代のハルハ方言などで用される ажил 《仕事》~ажилч (ajilči) 《仕事好きの、仕事上手の》, хөдөлмөр 《労働》~хөдөлмөрч 《労働好きの》, эх орон 《母国》~эх оронч 《愛国的な》などの -ч(-či) と同一物と解すべきかと考えられる。この -či は修飾する語が「人、生物」を表わす場合が圧倒的に多いので、又、形の上でも、上の qoniči の -či と同形なので、この -či と混同され、発生的には《~

額舌列宜 只兀周 赤速禿 脫那黒脫那黒臣 兀勅都禿額舌列宜 《中》忽勅迭周  
 男子行 趕着 血有的 剝脱的毎 刀有的 男子行 趕着  
 ere-yi jü'üju čisutu tonog tonogčïn, üldütü ere-yi hüldejü  
 男を 追い 血ぞめの 刺ぎものを好みて刺ぐ、 刺もつ 男を 追い



するのを好む)を意味した形動詞語尾 -gči<sup>2</sup> が、時の流れと共に(～するのを好む人)の意に用いられるに到り、現在では——例えば, surugči (学生, 生徒), kelegči (話し手) など—— -gči そのものが(～する人, ~するもの)を意味する語尾と化しつつある感がある。

goniči の -či は秘史の言語では複数形として -čid がすでに見られるが、この -gči<sup>2</sup> に関しては、複数形は秘史では -gčin<sup>2</sup> である。しかし、後世、-gči<sup>2</sup> そのものが、上述の如き変化を蒙るにつれて、複数形として -gčid<sup>2</sup> が現われることになる。なお秘史以外の中世蒙古語を調査の上で、この問題はもう一度取上げるべきものかとも考えられるが、今は一応、上の如く考えておく。

[V] -dac<sup>2</sup>

《常に～する, いつも～する》を意味するこの語尾 -dac<sup>2</sup> は秘史の言語では殆ど用いられていず、以下に示す三例のみである。現代のハルハ方言では -dar<sup>4</sup> として盛んに用いられるのと対照的である。以下に用例をあげる。

〈1〉 § 105 (三 五 七 ~ 五 九) 額朶額 帖舌列戈勒篋 答失(中)灰突舌児

如今	那	鞍轡	拍	時
edö'ē	tere	gölme	dabšiqui-	dur
"今,	かの	鞍轡を	たたく	に,

可兀舌児格因 擣兀孛中合周 可乞迭克 脫黑脫阿 不兀舌刺 客額舌列

敵	的	声	做着	輕驚動的	人名	地名	野甸行
kö'ürge-yin	daū'ū	bolcaju	kökideg	Tocto'ā	Bu'ūra	ke'er-e	
(戦の)太鼓	の	音と	聞きなし	動揺常ならぬ	トクトアは	ブウラ	草原に

備者 (187)  
有也者  
būi-je  
あるぞ"

〈2〉 § 167 (五 42 九 ~ 43 二) 額朶額 可温突舌児 米訥 帖因

如今	子	行	我的	那鞍
edö'ē	kö'ün-	dür	minu	teyin
"今	子	に	← 我か	かく

卯危薛乞額速 騰格舌理迭 兀禄 塔阿刺黑苔中渾 必苔 札木中合

歹	想	呵	天	行	不	被	愛	咱每	人名
maū'ūj	sedki'ēsü	tenggeri-de	ülü	ta'alagdaqun	bida,	Jamuqa			
悪く	想わば	天	に	愛されざるべし	我等,	ヂャムカは			

迓步苔黑客列秃 不列額 勺不兀 塔不兀 鳴話連 備由客延 額薛

走作	言語	有来	是駭	是駭	說	有	麼道	不曾
yabudac	keletü	büle'ē,	jöb-ü'ü	tab-u'ü	ügülen	büyü	keyēn	ese
口舌の	常にまわるものなり,	然り, 然りと	言いあるなり"	とて				

塔阿刺周 亦列主為 (188)

愛	着	去	了
ta'alaju	ilejü'ūi		
喜ばずして	遣れり。		

〈3〉 § 105 (三 6 四 ~ 6 六) 帖舌列可乞迭克 脫黑脫阿因 額舌魯格

那	輕驚動的	人名	的	天窓
tere	kökideg	Tocto'ā-yin	erüge	
"かの	動揺常なき	トクトア	の	天窓の

迭額舌列 亦訥 幹羅羅周 額舌児動 額額迭 亦訥 俺不舌魯 苔阿舌里周

上	他的	入	着	緊要的	帳房	骨子	他的	塌了	撞	着
de'ere	inu	oroju	erkin	e'ēde	inu	embürü	da'ariju			
上に	← 彼の	入りて	心なる	門櫃を	← その	うち	砕きて			

額篋 可温亦訥 額出帖列 好兀魯牙……。(189)

婦人	兒子	他的	尽絶了	毀了咱
eme	kö'ün	inu	ečültele	ha'uluyā.....
妻	子を	←彼の	ことごとく	掠取せむ……。

以上の三例——と云っても kökideg が二例であるが——ともに -dac<sup>2</sup> のもつ意味あいがよく表現された用例である。kökideg というのは(ちょっとしたことにも, いつも心が動く, いつもそわそわする)の意が表現されているし, yabudag kele も直訳すれば(いつも, よく歩きまわる舌)とでもなるが, いわゆる(口舌の徒)を意味するのに, yabudag keletü は, なかなか言い得て妙である,

上述したように, この -dac<sup>2</sup> は, 現代のハルハ方言ではよく用いられる。例

えば

Та өглөө бүр хэдэн цагт босдог вэ?

貴方は 毎 朝 何 時 に 起きます か

Би сургуульд өдөр бүр явдаг.

私は 学校へ 毎 日 通う。

の босдог や явдаг 等は、この語尾の表わす意義素《動作の恒常性・多回性》によくマッチした表現として終止形として用いられるのが一般である。

以上で「秘史蒙古語」における総ての形動詞語尾の解説を終えたことになる。

### 第三講の註

- (1) モンゴル国の生んだ偉大な言語学者、故 Ш. Лувсанвандан 教授はその著 Орчин Цагийн Монгол Хэлний Бүтэц (Улаанбаатар, 1968) において нэр үг (実詞) を цагт нэр (時間実詞) と цаггүй (無時間実詞) の二つに分けている。
- (2) N. Poppe, The Mongolian Monuments in HP'AGS·PA Script. Wiesbaden, 1957, p. 40 参照。
- (3) dayin (敵軍) を“女性視”すると考えれば、この -qui を女性形と見る立場もとれないことはない。筆者は、かつて、これについて一文を草したことがある。
- (4) 「中合(黒)察」を筆者は『元朝秘史全釈(上)』の p. 130, § 22 の 2 行目に「中合(黒)察」としたが、この(黒)は(黒)に改める。原文には「中合~~察~~」とあり、これは「中合黒察」の誤りなので、(黒)ではなく(黒)としなければならない。
- (5) この文、Qulan=ba'atur-un kö'ün Yeke=čeren büle'e. Badaj, Qišilig qoyar darqa(n)d-un noyan tere büle'e の darqa(n)d を筆者は『元朝秘史全釈(上)』の p. 210 において「バダイ、キシリグ、二人のダルカンの長は彼なりき」とし、ダルカンを個有名詞の如き訳を与えたが、これは darqan (自由人——税賦などを治むる必要のなき、特権者) と解すべきものと考ええる。
- (6) 「鎖納」を「鎖紐」の誤写とする説について、筆者は『元朝秘史全釈(下)』の p. 196 の註 (8) において言及した。ペリオ、コージン、モスタールト諸氏、及び [蒙・秘選] にならって、「鎖 [紐]」と校すべきかとの考えに現在では傾いているが、もう少し考えて見たい。
- (7) 四部叢刊本、葉德本には莎中豁黒兀速舌納察とあるが、「舌納」の「舌」は勿論必要ない。そこで、本書では〈舌〉として示した。ソ連15巻には「舌」は見られず、この点では、ソ連本を以て正とすべきである。

## 第四講 動詞の副動詞形 [I]

§ 1. 副動詞は副詞的な職能をもつ動詞の一変化形の謂である。従って文を終止する機能はない。しかし、文を中止し、後文との接続の役目は果し能るし、又、述部の一部として機能する。

副動詞形も、動詞の他の活用形と同様に、動詞語幹に語尾を接尾することによって形成される。

「秘史蒙古語」においては、蒙古語文語や現代のハルハ方言などに比して、その語尾の種類は少なく、次の10種の語尾の使用が認められる。

1. 連接接合副動詞語尾 -ju<sup>2</sup>~-ču<sup>2</sup>
2. 同時接合副動詞語尾 -n
3. 分離副動詞語尾 -'ad<sup>2</sup>
4. 限界副動詞語尾 -tala<sup>2</sup>
5. 条件副動詞語尾 -'āsu<sup>2</sup>, -bāsu<sup>2</sup>
6. 継続副動詞語尾 -gsa'ār<sup>2</sup>, -gsabār<sup>2</sup>
7. 目的副動詞語尾 -ra<sup>2</sup>
8. 予告副動詞語尾 -run<sup>2</sup>
9. 副動詞語尾 -ūta<sup>2</sup>
10. 副動詞語尾 -quča<sup>2</sup>~-quiča<sup>2</sup>

以上10類の語尾の中、(9) と (10) は極めて少数の用例をもつに過ぎず、実質的には、「秘史蒙古語」における副動詞語尾は、上の (1) -ju<sup>2</sup>~-ču<sup>2</sup> から (8) -run<sup>2</sup> までの 8 種類とすることができる。以下に、これら副動詞語尾を、実例を提示しつつ、解明したい。

上記の副動詞語尾の中、秘史の言語のみならず、蒙古語文語更には現代のモンゴル語諸方言において多用されるのは (1) 連接接合副動詞語尾、(2) 同時接合副動詞語尾、(3) 分離副動詞語尾の三者であり、この三語尾について詳しい

## 172 元朝秘史蒙古語文法講義

分析が要請される。秘史の言語を資料として、筆者は先ず、この三語尾を考えて分見たい。例によって、これら三語尾の用例の吟味から始めるが、(1)の  $-ju^2 \sim -čü^2$  の用例だけでも多くの用例を示す必要があり、三語尾総ての用例を合わせると、かなりの多数にのぼるものと思われる。

$-ju^2$  と  $-čü^2$  は異形態の関係にある——動詞語幹の末音が  $b, d, g(g), r, s$  に終る場合には  $-čü^2$  が、それ以外の場合には  $-ju^2$  が用いられる——ので以下には、時間とスペースの節約のために  $-ju^2$  を以て代表させる。

筆者は、従来、この三語尾を個々に取り上げて考えて来たが、こゝでは初めての試みとして従来と異なり、これら三語尾を、いわば one set として記述して見たいと考えている。 $-ju^2$  にしても  $n-$  にしても或いは  $-'äd^2$  についても、一応無難な記述は従来もないわけではないが、しかし、これら三語尾の本質的な相違は一体どこにあるのかという問題についての万人をして納得せしめる見解を筆者自身今まで持てなかったし、先人の著作類からも知ることは出来ない。又、モンゴル語を母語とするモンゴルの学者・研究者の詳しい、且、筆者をして納得せしめる見解に筆者は接していない。その様なわけで、今回は、自分を含めて、多くの学者・研究者諸賢に納得していただける様な見解を提出できればと願って、この項を書き下したいと願っている。

§2. 上にも述べた様に、 $-ju^2, -n, -'äd^2$  の三語尾は秘史蒙古語において、上からこの順序で第一、第二、第三とランクされる最も多用される語尾群である。なかでも  $-ju^2$  の使用例は多く、試みに秘史十二卷（又は十五卷）のいずれの一葉を開いても、この語尾にぶつからないことは極めて稀である。

そこで、この  $-ju^2$  を中心にして記述を進めて行くが、その前に、ごく簡潔に、この三語尾についての従来の見解を述べておく。

一言で云えば、日本語の「ご飯を食べている」、「鳥が飛んで行った」、「毎朝6時に起きて散歩する」、「風が出て雨が降って来た」などの文の「て、で」を表わすのが、この  $-ju^2$ 、などの三語尾である。現代日本語の「て、で」は外

界の事実としては異った行為・現象を同じ「て、で」で表わすが、モンゴル系の言語では、異った行為・現象には、それぞれ異った形式  $-ju^2, -n, -äd^2$  を用いるのである。その際、「で、て」の使用については応揚な——言葉を変えて言えば「鈍感な」——我々現代の日本人にとっては、モンゴル人が、この三語尾を使い分ける本能的基準がつかめないのである。この三語尾の使い分けは、モンゴル人にとっても、多分に本能的要素が多いため、彼等自身にとっても、その使い分けの本質的基準を発見するのが困難なのである。それ故、モンゴル人学者の手になる文法書類においても、この三語尾については、大まかな記述のみしか見られないのである。

この三語尾についての従来の中でのやはり N. Poppe 教授の次の記述が簡にして要を得て優れている ([P. W. M. G.] p. 96~p. 97)。

372. The *converbum imperfecti* expresses an action performed simultaneously with the main action.

The suffix is  $-ju/-jü$  when the stem ends in a vowel, diphthong, or the consonant  $l$ ,  $-ču/-čü$  when it ends in  $\gamma, b, s, d, g$ , and  $r$ .

*abču* taking      *olju* finding  
*bosču* rising      *ögčü* giving  
*kelejšü* saying      *yabužu* going

*bosči* (under colloquial influence) rising  
*yabuži* (under colloquial influence) going

373. The modal converb expresses an action indicating the manner in which the main action is performed. The action of the converb and that of the main verb are closely related or fuse into one, e. g., "to arrive riding horseback."

The suffix is  $-n$  with the union vowel  $-u/-ü-$  if the stem ends in a consonant.

*nisün* (*nis-*) flying *nisün irebe* He came flying

*güyin* running in *güyin yarba* He came out running, or He ran out.

373. The *converbum modale* is by origin a verbal noun. Its plural (with the suffix *-d* replacing the final *n* of this converbal form) acted in Pre-classical Mongolian as a form of the present tense (vide § 413).

374. The *converbum perfecti* expresses an action completed before the main action starts, e. g., “he did and……,” “after doing……” The suffix is *-γad/-ged* with a union vowel on stems ending in consonants.

*yabuγad* after having gone

*keleged* he said and……, after saying

Poppe 教授のこの記述は原則的には受け入れられるが、この記述のみでは、現実の蒙古語文の理解は困難である。例えば、-nの例文で示されている *nisun irebe*; *güyin yarba* は又、*nisčü irebe*, *nisüged irebe*, *güyifü irebe*, *güyiged yarba* とも言うことができるのである。この三者の違いについては、従来何の言及もない。筆者は、これらの現象を含めて、この三語尾の本質を追求して見たい。以下の文例から読んで見る。

<1> § 54 (一34四~34八) 帖舌察黑突兒 也速該把阿秃兒 幹難  
那 時分 名 河名  
tere čag-*dur* Yesügej=*ba*'atur Onan  
その 時 に イェスゲイ・バートル, オナン

沐漣捏 釋鴉兀蘭 迂歩(中)灰突兒 篋兒乞敦 也客赤列都 幹勒  
河 処 放 鷹 行 時 的 分 種 名 的 名  
*müren-ne* šibau'ulan *yabuquj-dur* Merkid-ün Yeke=*čiledü* Ol-  
河 に 鷹 狩 し 行く に メルキド族 の イェケ・チレドク, オル

中忽訥兀楊 亦兒格捏扯 幹乞阿(ト)抽 額兀思格周 阿亦速中忽宜 勺魯中合周  
種 名 百姓 処 女子要着 取 着 來 的 行 遇 着  
*qunu'üd* irgen-eče öki abču e'ūsgejü ayisuqu-yi jolugaju  
クヌウド族 人衆 より 乙女を娶りて 発ちて 來接しあるに 避いて

汪格亦周 兀者額速 汪格只速 不失台 幹乞中合秃兀者周 格兒秃舌里顏  
探 着 看 呵 顔 色 別 有 的 女 子 婦 人 見 着 家 自 的 行  
önggeyijü üje'esü öngge jisü bušitaj öki qatu üjejü ger-tür-iyēn  
見おろし 見れば 容 色 ことさなる 婦人を 見て 包 に ←己が

中合舌鄰好温勒周 捏坤太子阿中合余安 蒼舌里台幹楊赤斤 迭兀邊  
回 奔 着 人 名 兄 自 的 行 名 弟 行  
qarin hau'ū(n)lju Nekün=tajdz aqa-yu'an, Daritaj=odčigin de'ū-bēn  
婦りに 奔りて ネクン・タイズ 兄 を(己が), ダリタイ・オドチギン 弟 を(己が)

兀都舌里楊抽 亦舌列主為 (190)  
引 着 來 る  
uduridču irejü'ūj.  
引きつれ 来れり。

<2> § 26 (一16七~16十) 亦啞恢 亦啞延 兀該 阿舌倫  
喫 的 茶 飲 無 住 時  
ideküj ideyēn ügej arun  
喫り 食物 なく ある時,

赤那因中昆途兒 (中)裕兒中合黑三戈舌劣額孫 馬舌里牙周 中合兒錢周  
狼 的 崖 行 開 住 的 野 物 窺 覷 射 着  
čino-yin cun-tur qorgacsan görö'esün mariyaju qarbuju  
狼 の 懸崖 に 追いこみたる 狩獵物を うかがいて 射

阿刺周 亦啞勒都額楊 赤那因亦啞克先泥 忝古勒都周亦啞額楊 幹額舌倫  
殺 着 喫 兼 着 狼 的 喫 了 的 拾 着 喫 兼 着 自 己  
alaju ideldü'ed čino-yin idegsen-i temgüldüjü ide'ed ö'er-ün  
殺して 食ぶ合いて, 狼 の 食べたる を 拾い合いて 喫いて 己 が

中裕幹來(巴)安 中合兒赤(中)孩巴安別兒 帖只額勒敦 帖舌列桓中合兒羅 (191)  
喉 嚥 自 的 黃 鷹 自 的 也 養 兼 着 那 年 出 子  
qo'olaj-ba'an qarčigaj-ba'an-ber teji'eldün tere hon carba.  
喉 を(己が), 鷹 を(己が) も 養い合って その 年 出でぬ。

<3> § 154 (五19三~21六) 塔塔舌里 木中忽楊中合周 倒鄰巴舌刺周  
種 行 教 絶 着 擄 了 着  
Tatar-i muqudqaju daqlin baraju  
タタル族を 窮滅して 掠め 終りて

兀魯思 赤<sup>舌</sup>兒堅 阿訥 客<sup>舌</sup>兒 乞坤 客<sup>舌</sup>延 成吉思<sup>中</sup>合罕 也客 額耶  
 國 百姓 他的 怎生 做咱 麼道 太祖 皇帝 大 商量  
 ulus irgen anu ker kikün keyēn Činggis qahān yeke eye  
 “民人 人衆を ← 彼等の いかい 為すべき” と チンギス 可汗, 大 相談に

兀魯思乞<sup>舌</sup>牙里顏 中合<sup>黑</sup>察 格<sup>舌</sup>兒圖<sup>舌</sup>兒幹<sup>舌</sup>羅周 額耶禿<sup>都</sup>羅  
 一族 自的<sup>行</sup> 獨 房子 裏 入着 共商量 了  
 urug-iyār-iyān gagča ger-tür oroju eyetüldübe.  
 一族 もて ← 己が 唯一の 包 に 入りて 相談し合いぬ。

額耶禿<sup>都</sup>羅論 額<sup>舌</sup>兒迭兀<sup>都</sup>列徹 塔塔兒 赤<sup>舌</sup>兒堅 額不<sup>格</sup>思 額赤<sup>格</sup>昔  
 商量 說道 在先 日子 行 種 百姓 祖宗 父親 行  
 eyetüldürün erđe üdür-eče Tatar irgen ebüges ečiges-i  
 相談し合うに 古き 日 より タタル族 人衆, 祖父達 父達 を

把<sup>舌</sup>刺<sup>黑</sup>三 不<sup>列</sup>額 額不<sup>格</sup>思 額赤<sup>格</sup>孫 幹<sup>旋</sup>勒<sup>幹</sup>雪周 乞<sup>散</sup>勒<sup>乞</sup>撒周  
 魔盡的 有來 祖宗 父親 的 響 報着 仇 報着  
 baragsan büle'ē. ebüges ečiges-ün ösöl ösöjü qisal qisaju  
 殺めたる なり。 祖父達, 父達 の うらみを 報じ 仇を うちて

赤温突<sup>舌</sup>兒 兀里周 乞<sup>都</sup>周 阿<sup>刺</sup>周 幹<sup>古</sup>牙 兀里<sup>揚</sup>帖<sup>列</sup> 乞<sup>都</sup>牙  
 車 轄行 比着 盡絶着 殺着 與咱 盡 絶 殺着  
 č'i'ün-dür ülijü qiduju alaju ögüyē ülidtele qiduya,  
 車轄(の高き)に 比して 斬り 殺し やらん, 絶え尽くるまで 屠らん,

許<sup>列</sup>克<sup>薛</sup>的 孛<sup>幹</sup>里<sup>都</sup>牙 竹<sup>克</sup>竹<sup>克</sup> 中<sup>忽</sup>必<sup>牙</sup>勒<sup>都</sup>牙<sup>客</sup>延 額耶巴<sup>舌</sup>刺<sup>勒</sup>都<sup>周</sup>  
 剩 的。 奴婢做使咱 各 処 分 咱 麼道 商量 定了着  
 hülegsed-i bo'oliduya, jüg jüg qubiyalduya keyēn eye baralduju  
 残りしもの を 奴隷とせん, 方 方に 分け合わん” と 相談を 終り合いて

格<sup>舌</sup>兒<sup>帖</sup>徹 中合<sup>舌</sup>魯<sup>阿</sup>速 塔塔<sup>舌</sup>倫 也客<sup>扯</sup>連 別<sup>勒</sup>古<sup>台</sup>額<sup>徹</sup> 黯<sup>巴</sup>兒  
 房子 行 出 呵 種 的 人名 人名 処 怎生  
 ger-teče garu'asu Tatar-un Yeke=čeren Belgütej-eče yambar  
 包 より 出ずれば, タタル族 の イェケ・チェレン, ベルグテイ より “如何なる

額耶 額耶禿<sup>都</sup>羅<sup>原作</sup> 客<sup>延</sup> 阿<sup>撒</sup>黑<sup>主</sup>兀 別<sup>勒</sup>古<sup>台</sup> 鳴<sup>詰</sup>列<sup>舌</sup>論 塔<sup>泥</sup>  
 商量 商量 了 麼道 問了 有來 人名 說 您行  
 eye eyetüldübe keyēn asačju'ü. Belgütej ügülerün tan-i  
 相談を 議し合いたる” と 問えり。 ベルグテイの 言うに, “改等を

不<sup>古</sup>迭<sup>耳</sup> 赤温突<sup>舌</sup>兒 兀里周 乞<sup>都</sup>牙 客<sup>額</sup>勒<sup>都</sup>羅<sup>原作</sup> 客<sup>額</sup>主<sup>兀</sup>  
 都 行 車 轄 行 比着 尽殺 共 說了 說 有來  
 bügüde-yi č'i'ün-dür ülijü qiduya ke'ëldübe ke'ëju'ü,  
 なべて を 車轄 に 比して 屠らん” と云 いぬ” と云えり。

別<sup>勒</sup>古<sup>台</sup>因 額<sup>捏</sup> 兀<sup>格</sup>突<sup>舌</sup>兒 也客<sup>扯</sup>連 塔塔兒<sup>都</sup>里顏  
 的 這 言語 裏 人名 種 自的<sup>行</sup>  
 Belgütej-yin ene üge-dür Yeke=čeren Tatar-dur-iyān  
 ベルグテイ の この 言 に イェケ・チェレン, タタル族 に ← 己が

統<sup>中</sup>合<sup>黑</sup>塔<sup>勒</sup>必<sup>周</sup> 中<sup>豁</sup>兒<sup>中</sup>合<sup>黑</sup>刺<sup>主</sup>兀 中<sup>豁</sup>兒<sup>中</sup>合<sup>黑</sup>撒<sup>揚</sup> 塔塔<sup>舌</sup>兒<sup>途</sup>兒  
 伝説 放 着 寨子 把了 来 寨子 把了的 種 行  
 tungqag talbiju qorqa[ç]laju'ü qorcagsad Tatar-tur  
 伝言を 流して 塞 にこもれり, 塞にこもりし タタル族 に

必<sup>答</sup>訥 扯<sup>舌</sup>里<sup>兀</sup>揚 額<sup>額</sup>列<sup>坤</sup> 孛<sup>倫</sup> 馬<sup>石</sup> 穆<sup>失</sup>主<sup>兀</sup> (中) 豁<sup>舌</sup>兒<sup>中</sup>合<sup>刺</sup>撒<sup>揚</sup>  
 咱 的 軍 每 要 攻 做阿 好生 磨耗了 寨子 把了的。  
 bidan-u čeri'üd e'ërekün bolun maši samsiju'ü. qorgalagsad  
 我等 の 兵士達 攻むることたりして いたく 失ないたり。 塞にこまれる

塔塔<sup>舌</sup>里 勺<sup>孛</sup>周 幹<sup>羅</sup>兀<sup>勒</sup>周 兀魯<sup>揚</sup>刊 赤温突<sup>舌</sup>兒 兀里周 乞<sup>都</sup>中<sup>灰</sup>突<sup>舌</sup>兒  
 種 行 生受着 教入 着 尽 絶 車 轄 行 比着 尽 殺 時  
 Tatar-i joboju oro'ülju ülüdken č'i'ün-dür ülijü qidujuj-dür  
 タタル族 を 苦勞して 降しめて 絶え尽くすに 車轄 に 比して 屠る 時

塔塔<sup>舌</sup>兒 鳴<sup>詰</sup>列<sup>勒</sup>都<sup>舌</sup>論 古<sup>温</sup> 土<sup>屯</sup> 中<sup>罕</sup>純 都<sup>舌</sup>里顏 乞<sup>禿</sup>中<sup>孩</sup>  
 種 共 說 人 各 袖裏 自的<sup>行</sup> 刀  
 Tatar ügüledürün kü'ün tutun qančun-dur-iyān qitugaj  
 タタル族の 共に言うに “人 ごとに 袖 に ← 己が 小刀を

中<sup>罕</sup>出<sup>刺</sup>周 迭<sup>舌</sup>列 阿<sup>奔</sup> 兀<sup>窟</sup>耶 客<sup>額</sup>勒<sup>都</sup>周 巴<sup>撒</sup> 馬<sup>石</sup>古 穆<sup>失</sup>主<sup>兀</sup>  
 袖 条 藉背 要 死 咱 共 說 着 再 外生也 磨耗有來  
 qančulaju dere abun üküye ke'ëldüjü basa maši-kü samsiju'ü.  
 袖に入れ 枕を 取りて 死なん” と云い合いて 亦 いたく ぞ 失ないたり。

帖<sup>堆</sup> 塔塔<sup>舌</sup>里 赤温突<sup>舌</sup>兒 兀里周 乞<sup>敦</sup> 把<sup>刺</sup>周 田<sup>迭</sup> 成<sup>吉</sup>思<sup>中</sup>合<sup>罕</sup>  
 那些 種 行 車 轄 行 比着 尽 絶 殺了着 那裏 太祖 皇帝  
 tedüj Tatar-i č'i'ün-dür ülijü qidun baraju tende Činggis qahān  
 かく, タタル族 を 車轄 に 比して 屠り 終りて そこに チンギス 可汗

札舌兒里黑 李魯舌論 必蒼 兀魯乞牙里顏 也客 額耶巴舌刺勒都黑撒泥  
 jarlic bolurun bida urug-iyār-iyān yeke eye baraldugsan-i  
 勅 するに “我等 一族もて 己が大 相議を 終り合ひし を

別勅古台因 札阿中忽因秀刺 必蒼訥 扯舌里兀 馬石 穆失牙罷  
 Belgüteḷ-yin ja'āqu-yin tula bidan-u čeri'ūd maši samšiyaba.  
 ベルグタイ の 告げる の 故に、 我等 の 兵士達 いたく 失いぬ。

額兀訥 中豁亦納 也客額耶突舌兒 別勅古台 不 幹舌羅禿中孩 額也  
 e'ün-ü qoyina yeke eye-dür Belgüteḷ bū orotucaḷ eye  
 この 後 大 相議 に ベルグタイ は 入らざらん、 相議

巴舌刺蒼刺 (中)合蒼納 不古泥 札撒禿該 札撒阿 客舌列兀舌里 中忽刺中孩  
 baratala gadana бүкүн-и жасатуцаḷ, жаса'ад кере'үр-и қулацаḷ  
 終るまで 外なる ものごとを 治むべし、 治めて 争い を、 盗み、

中忽蒼勅 委亦列帖泥 札舌兒中忽刺禿中孩 額耶巴舌刺阿速 幹脫克 兀黑撒訥  
 qudal üyiviletен-и жаркулатуцаḷ, eye bara'asu ötög ügsan-u  
 虚言の 罪人達を 裁断すべし、 相議 終らば 祝酒を 飲みし

中豁亦納 別勅古台 蒼阿舌里台 中豁牙舌兒 田迭 幹舌羅禿中孩 客延  
 qoyina Belgüteḷ, Da'aritaj qoyar tende orotucaḷ keyән  
 後 人名 人名 兩箇 那裏 入者 慶道 と

札舌兒里黑 李勅罷 (192)  
 jarlic bolba.  
 勅 したぬ。

<4> § 188 (七五四~八一)

王中罕 桑昆 中豁牙舌兒  
 Ong qan Senggüm qoyar  
 オン 汗、 セングム 二人

別耶昔顏 歹亦只周 中合舌兒抽 幹都阿 的的克撒中合命 涅坤兀速納  
 beyes-iyēn daiyijijū carču odu'ād Didig=saqal-un Nekün usun-a  
 整身 的行 反着 出着 去了 地名 的 水名 水行  
 自う 難反し 出て 行きて ディディグ・サカルの の ネクン 川にて

王中罕 杭中合周 幹舌羅中忽 李命 乃馬訥 中合舌刺兀勅  
 Ong qan hangcaḷu oroqu bolun najman-u qara'ül  
 オン 汗 濁して 入る に いたり、 ナイマン族 の 斥候

中豁舌里速別赤突舌兒 幹舌羅主兀 中豁舌里速別赤 王中罕泥 把舌里主兀  
 Qori=sübeči-dür oroju'ū. Qori=sübeči Ong qan-i bariju'ū  
 人名 行 入つ来 人名 人名 行 拿了来  
 コリ・スベチ(の許)に 入れり、 コリ・スベチ オン 汗 を 捉えたり。

必 王中罕 脩由 客額速 兀禄 塔級 額薛 不失舌列周 田迭 阿刺主兀  
 bi Ong qan büyü ke'esü ülü tanin ese büširejü tende alaju'ū,  
 “我 オン 汗 なり” と云えど 識らず、 信ぜずして、 そこに 殺めたり。

桑昆 的的克撒中合命 涅坤兀速納 兀禄幹舌樂 中合蒼温  
 Senggüm Didig=saqal-un Nekün usun-a ülü oron gadana  
 セングム ディディグ・サカルの の ネクン 川 に 入らざ、 外邊を

約舌兒赤周 川勅突舌兒 幹舌羅周 兀速舌兒中合舌命 中忽刺暢 臆魯阿禿周  
 yorčijū čöl-dür oroju usurqarun қулад hilu'ātuju  
 行きて 沙漠に 入りて 水をもとむるに、 野性馬の 蛇にさされ

擺亦中忽泥 桑昆 保兀周 馬舌里牙主兀 桑古門 那可舌兒  
 baiyiqun-i Senggüm bau'ūju mariyāju'ū. Senggüm-ün nökör  
 立ちある を セングム 下馬して うかがえり。 セングム の 僚友

闊闊出 阿黑鬪赤 額殘禿 桑昆魯額 中忽舌兒巴兀刺 阿主兀  
 Kököčü actači emetü Senggüm-lü'e curba'ūla aju'ū.  
 ココチュ 馬夫、 妻をつれ セングム と共に 三人にて ありき。

抹<sup>舌</sup>驪<sup>顏</sup> 闊<sup>闊</sup>出 阿<sup>黑</sup>驪<sup>赤</sup>答<sup>安</sup> 把<sup>舌</sup>里<sup>兀</sup>勳<sup>主</sup>為 闊<sup>闊</sup>出 阿<sup>黑</sup>驪<sup>赤</sup> 阿<sup>黑</sup>驪<sup>赤</sup>  
 馬 自的 行 人 名 管馬的 自 行 教 拿 着 有 來 人 名 管馬的 驪 馬  
 mori-yān Kōkōčü astači-da'an bari'ülju'üi. Kōkōčü agtači acta  
 馬 を(己が) ココチュ 馬夫 に(己が) 執らしめたり。 ココチュ 馬夫、 去勢馬

亦<sup>訥</sup> 闊<sup>脫</sup>魯<sup>額</sup>揚 中<sup>合</sup>舌<sup>鄰</sup> 中<sup>合</sup>塔<sup>舌</sup>刺<sup>主</sup>為 額<sup>篋</sup> 亦<sup>訥</sup> 鳴<sup>訥</sup>訥<sup>列</sup>舌<sup>論</sup>  
 他的 牽 了 回 點 着 有 來 妻 他的 說  
 inu kōtōlü'ēd qarın qataraju'üi. eme inu ügülerün  
 ←彼の 索きて 返り 奔りたり。 妻の ←彼の 言うに

阿<sup>勤</sup>塔<sup>塔</sup>宜 額<sup>木</sup>思<sup>埃</sup>突<sup>舌</sup>兒 唵<sup>塔</sup>塔<sup>宜</sup> 亦<sup>啞</sup>埃<sup>突</sup>舌<sup>兒</sup> 闊<sup>闊</sup>出 米<sup>訥</sup>  
 金 有 的 行 穿 時 滋味 有 的 喫 時 人 名 我的  
 altata(i)-yi emüsküj-dür amtata(i)-yi ideküj-dür Kōkōčü minu  
 “金餘ある を 身につくる に 美味ある を 食する に、 「ココチュ←我が」

客<sup>額</sup>古 不<sup>列</sup>額 中<sup>罕</sup>你<sup>顏</sup> 桑<sup>古</sup>迷 也<sup>勤</sup> 帖<sup>因</sup> 帖<sup>卜</sup>赤<sup>周</sup> 格<sup>周</sup>  
 說的 有 來 皇帝自的 行 人 名 行 如何 那般 捨 着 撒 着  
 ke'ēkü büle'ē. qan-iyān Senggüm-i yēkin teyin tebčijü gējü  
 と云う なりき、 汗 を(己が) セングム を などで かく 捨て おきて

幹<sup>敦</sup>脩<sup>脩</sup>由 赤 客<sup>額</sup>周 額<sup>篋</sup> 亦<sup>訥</sup> 擺<sup>亦</sup>周 中<sup>豁</sup>綽<sup>舌</sup>兒<sup>出</sup>為……中略……  
 去 有 你 說 着 妻 他的 立 着 落 後 了 有  
 odun büyü či ke'ējü eme inu baiyiju qočorču'üi.  
 行きあるや 汝” と云いて 妻 ←彼の 立ちて 残れり。

田<sup>迭</sup>徹 闊<sup>闊</sup>出 阿<sup>黑</sup>驪<sup>赤</sup> 阿<sup>勤</sup>壇 盞<sup>訂</sup>兀 亦<sup>訥</sup> 阿<sup>卜</sup>客<sup>廷</sup> 中<sup>豁</sup>亦<sup>納</sup>黑<sup>石</sup>  
 自那裏 人 名 管馬的 金 盃 孟 他的 要 麼 道 望 後  
 tendeče Kōkōčü astači altan jantau'ü inu ab keyēn qoyinacši  
 それより ココチュ 馬夫 “金 盃を ← 彼の とれ” と 後へ

幹<sup>幹</sup>舌<sup>魯</sup>阿<sup>揚</sup> 中<sup>合</sup>塔<sup>舌</sup>刺<sup>主</sup>兀 帖<sup>堆</sup> 亦<sup>舌</sup>列<sup>額</sup>揚 成<sup>吉</sup>思<sup>中</sup>合<sup>罕</sup>突<sup>舌</sup>兒  
 撒 了 點 了 有 那些 來 了 太祖 皇帝 行  
 o'ōru'ād qataraju'ü. tedüi ire'ēd Činggis qahān-dur  
 投げ捨てて 奔り。 かく 来りて チンギス 可汗 のもとに

闊<sup>闊</sup>出 阿<sup>黑</sup>驪<sup>赤</sup> 亦<sup>舌</sup>列<sup>周</sup> 桑<sup>古</sup>迷 帖<sup>因</sup> 川<sup>勤</sup>突<sup>舌</sup>兒 格<sup>周</sup>  
 人 名 管馬的 來 着 人 名 行 那般 地名 行 撒 着  
 Kōkōčü agtači irejü Senggüm-i teyin čöl-dür gējü  
 ココチュ 馬夫 来り、 “セングム を かく 沙漠 に 置き

亦<sup>舌</sup>列<sup>罷</sup><sup>原作</sup> 必<sup>客</sup>廷 田<sup>迭</sup> 鳴<sup>訥</sup>訥<sup>列</sup>都<sup>克</sup>先 兀<sup>格</sup>昔<sup>顏</sup> 不<sup>古</sup>迭<sup>宜</sup> 帖<sup>古</sup>思  
 來 了 我 麼 道 那 裏 共 說 了 的 音 語 自 的 行 都 行 全  
 irebe bi keyēn tende ügüleldügsen üges-iyēn bügüde-yi tegüs  
 来りぬ 我” と そこにて 語りし 言 を(己が) なべて を すべて

鳴<sup>訥</sup>訥<sup>列</sup>周 幹<sup>古</sup>額<sup>速</sup> 成<sup>吉</sup>思<sup>中</sup>合<sup>罕</sup> 札<sup>舌</sup>兒<sup>里</sup>黑 李<sup>魯</sup>舌<sup>論</sup> 額<sup>篋</sup>宜 亦<sup>訥</sup>  
 說 着 与 阿 太祖 皇帝 聖 旨 做 妻 行 他的  
 ügülejü ögü'ēsü Činggis qahān jarlic bolurun eme-yi inu  
 語り やらば チンギス 可汗の 勅 するに “妻 を ←彼の

莎<sup>舌</sup>兒<sup>中</sup>合<sup>周</sup> 門 闊<sup>闊</sup>出 阿<sup>黑</sup>驪<sup>赤</sup>宜 圖<sup>思</sup> 中<sup>罕</sup>你<sup>顏</sup> 額<sup>因</sup> 帖<sup>卜</sup>赤<sup>周</sup>  
 恩 賜 着 只 人 名 管馬的 行 正 主 皇帝自的 行 這 般 捨 着  
 soyurqaju mun Kōkōčü agtači-yi tus qan-iyān eyin tebčijü  
 嘉賞し、 その ココチュ 馬夫 を 己が 汗 を(己が) この如く 捨て

亦<sup>舌</sup>列<sup>主</sup>為 額<sup>亦</sup>模 古<sup>温</sup> 額<sup>朵</sup>額 虔<sup>突</sup>舌<sup>兒</sup> 那<sup>可</sup>扯<sup>額</sup>速 亦<sup>帖</sup>格<sup>克</sup>迭<sup>古</sup>  
 來 了 有 這 般 人 如 今 誰 行 做 伴 阿 可 倚 仗  
 irejü'üi. eyimü kü'ün edō'e ken-dür nōkōče'ēsü itegegdekü  
 来れり。 かゝる 人、 今 誰 に 友たるとも 信ぜらるべき”

客<sup>額</sup>周 察<sup>卜</sup>赤<sup>周</sup> 格<sup>罷</sup> (193)  
 說 着 斬 着 撒 了  
 ke'ējü čabčiju gēbe.  
 と云いて 斬り 捨てぬ。

<5> § 198 (八 1 二 ~ 5 三) 箴<sup>舌</sup>兒<sup>乞</sup>揚 亦<sup>舌</sup>兒<sup>堅</sup> 倒<sup>里</sup>周  
 種 名 百 姓 虜 着  
 Merkid irgen daŋliju  
 メルキド族 人衆を 掠めて

脫<sup>脫</sup>脫<sup>阿</sup>別<sup>乞</sup>回 也<sup>客</sup>可<sup>温</sup> 中<sup>忽</sup>都<sup>回</sup> 中<sup>合</sup>敦<sup>揚</sup> 禿<sup>該</sup> 朵<sup>舌</sup>列<sup>格</sup>捏  
 人 名 的 大 子 人 名 的 娘子每 名 名  
 Tocto'ā=beki-yin yeke kō'ün Qudu-yin qadud Tügej, Döregene  
 トクトア・ベキ の 長 子 クドゥ の 后達 トグゲイ、 ドルゲネ

只<sup>舌</sup>里<sup>捏</sup>徹 朵<sup>舌</sup>列<sup>格</sup>捏<sup>宜</sup> 田<sup>迭</sup> 幹<sup>歌</sup>歹<sup>中</sup>合<sup>罕</sup>納 幹<sup>乾</sup>罷<sup>原作</sup> 箴<sup>舌</sup>兒<sup>乞</sup>敦  
 兩 箇 内 名 行 那 裏 人 名 皇帝行 与 了 種 名 的  
 jirin-eče Döregene-yi tende Ögödej qahān-a ögbe. Merkid-ün  
 二人 より ドルゲネ を そこに オグデイ 可汗 に 与えぬ。 メルキド族 の

札<sup>舌</sup>里木<sup>楊</sup> 兀魯思 歹亦只周 台<sup>中</sup>合<sup>勒</sup> 中<sup>豁</sup>舌<sup>兒</sup>中<sup>合</sup> 中<sup>豁</sup>舌<sup>兒</sup>中<sup>合</sup>刺<sup>主</sup>為  
 一半 百姓 反着 山頂 寨子 寨子 把了  
 jarimūd ulus daiyijiju taiqal qorga qorgalaju'ūi.  
 若干の 民人 離反して 山頂の 寨に とりこもれり。

田迭 成吉思<sup>中</sup>合<sup>罕</sup> 札<sup>舌</sup>兒里<sup>黑</sup> 孛魯<sup>舌</sup>命 鎖<sup>舌</sup>兒<sup>(中)</sup>罕失刺回 可<sup>温</sup>  
 那裏 太祖 皇帝 聖旨 做 人名 的 子  
 tende Činggis qahān jarlic bolurun Sorqan-šira-yin kō'ūn  
 そこに チンギス 可汗 勅 し て ソルカン・シラ の 子

沉白<sup>宜</sup> 那牙<sup>刺</sup>周 沼<sup>温</sup> 中<sup>合</sup>舌<sup>命</sup> 扯<sup>舌</sup>里兀<sup>的</sup>耶<sup>舌</sup>兒 中<sup>豁</sup>舌<sup>兒</sup>中<sup>合</sup>刺<sup>黑</sup>撒<sup>楊</sup>  
 人名 行 官做 着 左 手的 軍 領着 寨子 把了 的 每  
 Čimbaj-yi noyalaju jeū'ūn gar-un čeri'ūd-iyēr qorgalacsad  
 チンバイ を 長となし 左 翼 の 軍兵達 もて 寨にこもりし

篋<sup>舌</sup>兒<sup>乞</sup>的 額<sup>舌</sup>列兀<sup>命</sup> 亦<sup>列</sup>罷 脫<sup>黑</sup>脫<sup>阿</sup> 中<sup>忽</sup>都 赤<sup>刺</sup>温  
 種 名 行 教 攻 去了 人名 人名 人名  
 Merkid-i e'ēre'ūlūn ilebe. Tocto'ā, Qudu, Čila'ūn  
 メルキド族 を 攻めしめに 遣りぬ。 トクトアは クド、 チラウン

可<sup>兀</sup>的<sup>耶</sup>舌<sup>里</sup>顏 噶<sup>延</sup> 別<sup>耶</sup>思 歹<sup>亦</sup>只<sup>周</sup> 中<sup>合</sup>舌<sup>魯</sup>撒<sup>泥</sup> 成<sup>吉</sup>思<sup>中</sup>合<sup>罕</sup>  
 子每 自的 行 少 醫身 反着 出了 的 行 太祖 皇帝  
 kō'ūd-iyēr-iyēn čöyēn beyes daiyijiju garcsan-i Činggis qahān  
 子達 もて ← 己が 僅かの人々 離れ 出でたる を チンギス 可汗

捏<sup>客</sup>周 阿<sup>勒</sup>台<sup>因</sup> 額<sup>不</sup>舌<sup>列</sup> 兀<sup>幹</sup>勒<sup>者</sup>周 忽<sup>客</sup>舌<sup>兒</sup> 只<sup>勒</sup> 中<sup>合</sup>不<sup>舌</sup>兒  
 追襲着 山名 的 前 住冬 着 牛 兒 年 春  
 nekeju Altaj-yin ebür-e übüljeju hüker jil qabur  
 追いて アルタイ山 の 南面 に 越冬し 牛の 年の 春、

阿<sup>舌</sup>来<sup>亦</sup>牙<sup>舌</sup>兒 蒼<sup>巴</sup>周 幹<sup>都</sup>阿<sup>速</sup> 乃<sup>馬</sup>訥 古<sup>出</sup>魯<sup>克</sup> 兀<sup>魯</sup>昔<sup>顏</sup>  
 山名 越着 去 呵 種名 的 人名 百姓自的 行  
 Araj-iyār dabaju odu'asu Najman-u Küčülüg ulus-iyān  
 アライ 山を 越えて 行けば ナイマン族の クチュルグ—民人 を(己が)

阿<sup>卜</sup>中<sup>合</sup>兀<sup>勒</sup>周 帖<sup>舌</sup>列 歹<sup>亦</sup>只<sup>周</sup> 中<sup>合</sup>舌<sup>魯</sup>撒<sup>阿</sup>舌<sup>兒</sup> 噶<sup>延</sup> 古<sup>温</sup> 篋<sup>舌</sup>兒<sup>乞</sup>敦  
 被要 着 那 反着 出了 以来 少 人 種名 的  
 abqa'ūlju tere daiyijiju garucsa'ār čöyēn kü'ūn Merkid-ūn  
 取られ その 背走し 出づるまゝに 僅かな人数もて—メルキド族 の

脫<sup>黑</sup>脫<sup>阿</sup> 中<sup>豁</sup>牙<sup>舌</sup>兒 捏<sup>亦</sup>列<sup>周</sup> 額<sup>舌</sup>兒<sup>的</sup>盾 不<sup>黑</sup>都<sup>舌</sup>兒<sup>麻</sup> 忽<sup>札</sup>兀<sup>舌</sup>刺  
 人名 兩 箇 相合着 水名 的 地名 根源 行  
 Tocto'ā qoyar neyileju Erdiš-ūn Bugdurma huja'ūr-a  
 トクトア 二人 相合して エルディシュ河の ブグトルマ 源 にて

中<sup>含</sup>舌<sup>楊</sup>抽 扯<sup>舌</sup>里<sup>吉</sup>顏 札<sup>撒</sup>周 阿<sup>主</sup>為 成<sup>吉</sup>思<sup>中</sup>合<sup>罕</sup> 古<sup>舌</sup>兒<sup>抽</sup>  
 相合着 軍 自的。 整治着 有来 太祖 皇帝 到着  
 qamtudču čerig-iyēn jasaju aju'ūi. Činggis qahān kürčü  
 ともになりて 兵 を(己が) 整え ありき。 チンギス 可汗 到て

擺<sup>亦</sup>勒<sup>都</sup>阿<sup>速</sup> 脫<sup>黑</sup>脫<sup>阿</sup> 田迭 失<sup>把</sup>因<sup>速</sup>木<sup>納</sup> 禿<sup>思</sup>蒼<sup>周</sup> 兀<sup>納</sup>主<sup>兀</sup>  
 對陣 阿 人名 那裏 乱箭的 箭行 被射着 倒了有  
 bajyildu'asu Tocto'ā tende šiba-yin sumun-a tusdaju unaju'ū.  
 戦えば トクトア そこに 流れ 矢 に 当りて 倒れたり。

可<sup>兀</sup>楊 亦<sup>訥</sup> 牙<sup>速</sup> 亦<sup>訥</sup> 把<sup>舌</sup>鄰 牙<sup>蒼</sup>周 別<sup>耶</sup>宜 亦<sup>訥</sup> 阿<sup>卜</sup>抽 幹<sup>敦</sup>  
 子每 他的 骨頭 他的 拿 不能着 身行 他的 将着 去  
 kō'ūd inu yasu inu barin yadaju beye-yi inu abču odun  
 子達 ← 彼の かばねを ←彼の みとり かねて 体 を ←彼の とり 行き

牙<sup>蒼</sup>周 帖<sup>舌</sup>里<sup>兀</sup> 亦<sup>訥</sup> 豁<sup>黑</sup>脫<sup>勒</sup>周 阿<sup>卜</sup>抽 約<sup>舌</sup>兒<sup>赤</sup>主<sup>兀</sup> 田迭 乃<sup>蠻</sup>  
 不能着 頭 的 他 割断 着 将着 去了 有 那裏 種名  
 yadaju teri'ū inu hogtolju abču yorčiju'ū. tende Najman  
 かねて、 頭を ← 彼の 断ちて もち 行けり。 そこに ナイマン族の

篋<sup>舌</sup>兒<sup>乞</sup>楊 孛<sup>魯</sup>命 中<sup>合</sup>舌<sup>楊</sup>抽 擺<sup>亦</sup>勒<sup>敦</sup> 牙<sup>蒼</sup>周 不<sup>舌</sup>魯<sup>委</sup>關 歌<sup>多</sup>魯<sup>舌</sup>命  
 種 名 共 一同 着 對陣 不能着 逃 動 時  
 Merkid bolun qamtudču bajyildun yadaju, buru'ūilan ködölürün  
 メルキド族 と 共になりて 戦い 能わず、 逃走し ゆくに

額<sup>舌</sup>兒<sup>的</sup>失<sup>客</sup>舌<sup>魯</sup>命 出<sup>卜</sup>禿<sup>思</sup>抽 幹<sup>變</sup>乞<sup>顏</sup> 兀<sup>孫</sup>突<sup>舌</sup>兒 兀<sup>窟</sup>兀<sup>勒</sup>主<sup>為</sup>  
 水名 渡 時 沉 落着 多 自的 行 水 裏 教死了 来有  
 Erdiši ketülürün čüb tusču olonki-yān usun-dur ükü'ūlju'ūi.  
 エルディシュ河を 渡る時 溺れて 多くを ←己が 水中 に 死なせしめたり。

噶<sup>延</sup> 中<sup>合</sup>舌<sup>魯</sup>撒<sup>楊</sup> 乃<sup>蠻</sup> 篋<sup>舌</sup>兒<sup>乞</sup>楊 額<sup>舌</sup>兒<sup>的</sup>失 客<sup>禿</sup>命<sup>巴</sup>舌<sup>刺</sup>周  
 少 出了 的 每 種名 種名 水名 渡 了 着  
 čöyēn garucsad Najman, Merkid Erdiši ketülün baraju  
 僅かの 脱出せし ナイマン族、 メルキド族は エルディシュ河を 渡り 終りて



中合中合潺 歌多勳主為 乃馬訥 古出魯克 中罕 委兀舌兒台  
 分離 動了有 種名的 人名 種名  
 qagačan ködöljü'üj. Najman-u Küčülüg qan Uj'ürtai  
 分かれ 動きぬ。 ナイマン族の クチュルク 汗は ウィグル族の

中合舌兒魯兀的 蒼阿舌鄰 撒舌兒蒼兀倫 中合札舌刺 乘沐舌冽壯 不坤  
 種名行 經過 回回的 地行 河名 河行 有的  
 Qarlu'üd-i da'arin Sarđa'ül-un gajar-a Čüj müren-e bükün  
 カルク族を 経て サルタウルの 地にて チュイ河にある

中合舌刺乞蒼敦 古舌兒中罕 突舌兒 捏亦連 幹錫出為 篋舌兒乞敦  
 種名的 人名 行 相合 去了有 種名的  
 Qara-qitad-un Gür qan-dur neyilen odču'üj. Merkid-ün  
 カラ・キタドの グル汗に 合し 行けり。メルキド族の

脫黑脫阿因 可兀錫 中忽都 中合(勳) 赤刺温 帖舌里兀田 篋舌兒乞錫  
 人名的 子每 人名 人名 人名 等項 種名  
 Tocto'ā-yin kö'üd Qudu, Gal, Čila'un teri'üten Merkid  
 トクトアの 子達、 クドゥ、 ガル、 チラウン 等の メルキド族は

中康里泥 欽卜察兀的 蒼阿舌鄰 約舌兒赤主為 田迭扯 成吉思中合罕  
 種名行 種名行 經過 去了有 自那裏 太祖 皇帝  
 Qanglin-i Qibča'üd-i da'arin yorčiju'üj. tendeče Činggis qahān  
 カンリン キブサグを 経て 行けり。 そこより チングス 可汗

中合舌里周 阿舌来亦牙舌兒 蒼巴周 阿兀舌魯兀錫突舌兒 保兀罷 兀白  
 回着 山名 依着 越着 家每自的 行 下了 人名  
 qariju Araj-iyār dabaju a'ūru'ūd-dur baq'ūba. Čimbaj  
 返りて アライ山を 越え 本營に 下馬しぬ。 チンバイ

台中合勳 中豁舌兒中合 中豁舌兒中合刺黑撒錫 篋舌兒乞的 木中忽魯中合主為 田迭  
 山頂 寨子 把寨子的 種名的 教窮絶了 那裏  
 taiqal qorca qorcalacsad Merkid-i muqudqaju'üj. tende  
 山頂の 寨に こもれる メルキド族を 窮滅せり。 そこに

篋舌兒乞的 成吉思中合罕 札舌兒舌里 李魯舌命 乞都中忽泥 阿訥  
 種名的 太祖 皇帝 聖旨 做 尽殺行 他的  
 Merkid-i Činggis qahān jarlic bolurun qiduqun-i anu  
 メルキド族を チングス 可汗 勅して 屠るべき を一彼等の

乞都兀勳周 許列克薛的 阿訥 扯舌里兀錫帖 塔刺兀勳罷伯 巴撒 兀舌里蒼  
 尽 殺着 余剩的行 他的 軍 每 行 教騰了 再 先前  
 qidu'ūljū hūlegsed-i anu čeri'ūd-te tala'ūlba. basa urida  
 屠りて 残れる を一彼等の 共達に 分掠せしめぬ。 又 さきに

幹羅黑三 篋舌兒乞錫 阿兀舌魯兀蒼察 歹亦真 李思出兀 阿兀舌魯兀錫  
 投入的 種名 家每行 反 起有 家每  
 orogsan Merkid a'ūru'ūd-ača daiyijin bosču'ū. a'ūru'ūd-  
 降りし メルキド族 本營より 飯き おこれり。 本營

突(舌)兒 不坤 闊脫臣 心蒼訥 帖迭泥 蒼舌魯主兀 田迭 成吉思中合罕  
 裏 有的 家人每 咱的 他的每行 勝了 那裏 太祖 皇帝  
 dur bükün kötöčin bidan-u teden-i daruju'ū. tende Činggis qahān  
 に ある 家人達 ←我等 の 彼等を 圧せり。 そこに チングス 可汗

札舌兒里黑 李魯舌命 屯蒼中合 巴 阿兀魯牙 客額魯額 木錫 額列  
 聖旨 做 全也 教存咱 説来 他每 但  
 jarlic bolurun tumdacā ba a'ūluya ke'ēlü'ē, mud ele  
 勅するに 「全きにぞ あうしめん」と云えり、(然るを)彼等は

歹亦真 阿主兀 客延 篋舌兒乞的 竹克竹克 忽魯錫帖列  
 反 有来 麼道 種名行 各各 尽絶  
 daiyijin aju'ū keyēn Merkid-i жүг жүг hülüdtele  
 動き あり とて メルキド族を 方々に 尽くるまで

中忽必牙兀勳罷伯 (194)  
 教共分 了  
 qubiya'ūlba.  
 分与せしめぬ。

この三語尾の性格上、上にあげた文例〈1〉～〈5〉は長文にわたることになったが、まず、こゝに出てくる -ju<sup>2</sup>, -n, -ād<sup>2</sup> 三語尾の使用頻度を以下にかゝげる。

-ju<sup>2</sup>: 〈1〉 ab-ču, e'ūsge-jū, jiluca-ju, önggeyi-jū, üje-jū haq'ū(n)l-ju, udurid-ču 〈2〉 mariya-ju, qarbu-ju, ala-ju, temgüldü-jü  
 〈3〉 muqudqaja-ju, bara-ju, oro-ju, ösö-jü, qisa-ju, ülijü, ala-

ju, baraldu-ju, üli-jü, talbi-ju, jobo-ju, oro'ülju, üli-jü, qančula-ju, ke'ëldü-jü, üli-jü, bara-ju <4> daiyiji-ju, gar-ču, hangga-ju, büšire-jü, yorči-ju, oro-ju, baḡ'ūju, tebči-jü, gē-jü, ke'ē-jü, baiyi-ju, ire-jü, gē-jü, ügüle-jü, soyurqa-ju, tebči-jü, ke'ē-jü, cabči-ju <5> daḡli-ju, daiyiji-ju, noyala-ju, daiyiji-ju, neke-jü, übülje-jü, daba-ju, abqa'ül-ju, daiyiji-ju, neyile-jü, qamtud-ču, jasa-ju, tusda-ju, yada-ju, ab-ču, yada-ju, hoctol-ju, ab-ču, qamtud-ču, yada-ju, (čüb) tus-ču, bara-ju, qari-ju, daba-ju, qidu'ül-ju,

-ju<sup>2</sup>の実例は文例<1>に7例, <2>に4例, <3>に17例, <4>に18例, <5>に25例, 総じて71例にのぼる。

-n: <1> šibau'ūla-n, qari-n <2> teji'ëldü-n <3> daḡli-n, keyē-n, keyē-n, keyē-n, ülüdke-n, abu-n, qidu-n, keyē-n <4> tani-n, oro-n, qari-n, yēki-n, odu-n, keyē-n <5> e'ere'ülü-n, bari-n, odu-n, bolu-n, baiyildu-n, buru'ūjla-n, ketülü-n, ketülü-n, qacača-n, da'āri-n, neyile-n, da'āri-n, daiyiji-n, daiyiji-n

-nは<1>に2例, <2>に1例, <3>に7例(ただし, keyē-nのみで4例), <4>に6例, <5>に14例, 計30例である。-ju<sup>2</sup>の半数弱という処である。

-ād<sup>2</sup>: <1> 0, <2> ideldü-'ēd, ide-'ēd <3> jasa-'ād <4> odu-'ād, kötölü-'ēd, o'ōru-'ād, ire-'ēd <5> 0

-ād<sup>2</sup>は文例<1>と<5>において一つの実例もなく, <2>に2例, <3>に1例, <4>に4例, 合して僅かに7例を数えるに過ぎない。

以上, 文例<1>~<5>において示された -ju<sup>2</sup>, -n, -'ād<sup>2</sup>の実例数は, そのまま, 秘史蒙古語総体における様態を示し, -ju<sup>2</sup>は最も多用される語尾であり, 逆に -'ād<sup>2</sup>は用いられることの少ない語尾であることが知られる。現代のモンゴル語諸方言では, 話し言葉として使用されることの少ない -nは秘史蒙

古語では, 比較的広く用いられ, 当時においては, -'ād<sup>2</sup>に比して余程多く用いられている。

試みに, この三語尾の中で -ju<sup>2</sup>のみ, -nのみ, -'ād<sup>2</sup>のみをとって用いられた用例を, 秘史十二巻にわたって調べて見ると, -ju<sup>2</sup>は362の動詞語幹に接尾された用例を, -nは106語幹に接尾された用例を発見しうろが, -'ād<sup>2</sup>のみをとった動詞語幹は僅かに5語幹に過ぎない(勿論, -'ād<sup>2</sup>と共に, -ju<sup>2</sup>, -nをとる語幹を数えれば, その数は高くなるが, 純粹に -ād<sup>2</sup>のみを伴った語幹——例えば jalci-《のみはず》は jalci'ādが二回現れるのみで, jalciju, jalcinは見られない——は5語幹のみである)。

これによって見ても, 文例<1>~<5>における -ju<sup>2</sup>, -n, -'ād<sup>2</sup>の用例の分布状況は, 秘史蒙古語総体における, この三語尾の使用状況をよく反映していると見てほぼ誤りないものと見做しうる。

秘史蒙古語における, この三語尾の使用分布状況を更に確認するために, 主要動詞<sup>(1)</sup>における状況を調べておこう。

1. ab-: ab-ču 46, ab-u-n 7, ab-u-'ād 19
2. abura-: abura-ju 13, abura-n 4, abura-'ād ㊦
3. ala-: ala-ju 15, ala-n 4, ala-'ād 1
4. bari-: bari-ju 49, bari-n 3, bari-'ād 2
5. baḡ'ū-: baḡ'ū-ju 28, baḡ'ū-n 2, baḡ'ū-'ād 4
6. baiyi-(bayi-): baiyi-ju 17, baiyi-n 3, baiyi-'ād ㊦
7. bol-: bol-ju 68, bolun 54, bol-u-'ād 4
8. bolga-: bolga-ju 17, bolga-n 14, bolga-'ād 2
9. bü-~bö-: bü-jü 1, \*bü-n ㊦, bö-'ēd 28
10. daba-: daba-ju 8, daba-n 4, daba-'ād 2
11. daḡ'ūli-(daḡli-): daḡ'ūli-ju 15, daḡli-ju 3; daḡ'ūli-n 1, daḡli-n 2; daḡ'ūli-'ād 1, daḡli-'ād 1
12. da'āri-: da'āri-ju 9, da'āri-n 10, da'āri-'ād 1

13. else-: else-jü ゼ口, else-n 14, else-'ēd ゼ口  
 14. car-: car-ču 34, car-u-n 2, car-u'ād 1  
 15. carga-: carga-ju 16, carga-n 3, carga-'ād ゼ口  
 16. ködöl-: ködöl-jü 23, ködöl-ü-n ゼ口, ködöl-ü-'ēd 1, ködöl-ü-yēd 1  
 17. kür-: kür-čü 48, kür-ü-n 6, kür-ü-'ēd 4  
 18. kürge-: kürge-jü 8, kürge-n 9, kürge-'ēd ゼ口  
 19. kürge'ül-ü-: kürge'ül-jü 1, kürge'ül-ü-n 2, kürge'ül-ü-'ēd 8  
 20. hülde-: hülde-jü 19, hülde-n ゼ口, hülde-'ēd 6  
 21. ide-: ide-jü 6, ide-n 4, ide-'ēd 2  
 22. ile-: ile-jü 20, ile-n 1, ile-'ēd 6  
 23. ilca-: ilca-ju 15, ilca-n ゼ口, ilca-'ād ゼ口  
 24. ire-: ire-jü 70, ire-n 2, ire-'ēd 5  
 25. ire'ül-: ire'ül-jü 5, ire'ül-ü-n 1, ire'ül-ü-'ēd 6  
 26. jasa-: jasa-ju 29, jasa-n 1, jasa-'ād 2  
 27. jöbšiye-: jöbšiye-jü 13, jöbšiye-n 2, jöbšiye-'ēd ゼ口  
 28. jori-: jori-ju 7, jori-n 7, jori-'ād ゼ口  
 29. ketül-: ketül-jü 6, ketül-ü-n 5, ketül-ü-'ēd 1  
 30. ke'ē-: ke'ē-jü 149, ke'ē-n~keyēn 389 ke'ē-'ēd 20  
 31. ke'ēgde-: ke'ēgde-jü 14, ke'ēgde-n 1, ke'ēgde-'ēd 1  
 32. ki-: ki-jü 6, ki-n 3, ki-'ēd 7  
 33. mede-: mede-jü 23, mede-n 8, mede-'ēd 5  
 34. neke-: neke-jü 15, neke-n 1, neke-'ēd ゼ口  
 35. neü'ü-: neü'ü-jü 12, neü'ü-n ゼ口, neü'ü-'ēd ゼ口  
 36. neyile- neyile-jü 1, neyile-n 12, neyile-'ēd ゼ口  
 37. od-: od-ču 48, od-u-n 11, od-u-'ād 4  
 38. ög-: ög-čü 21, ög-ü-n 6, ög-ü-'ēd 2  
 39. oro-: oro-ju 35, oro-n 10, oro-'ād 1, oru-'ād 1

40. oro'ül-: oro'ül-ju 19, oro'ül-u-n 2, oro'ül-u-'ād 3  
 41. qacača-: qacača-ju 10, qacača-n 10, qacača-'ād ゼ口  
 42. qari-: qari-ju 22, qarin 15, qari-'ād ゼ口  
 43. sa'ü-: sa'üju 30, sa'ü-n 2, sa'ü-'ād ゼ口  
 44. sedki-: sedki-jü 33, sedki-n 2, sedki-'ēd ゼ口  
 45. šiqā-: šiqā-ju 5, šiqā-n 7, šiqā-'ād ゼ口  
 46. sonos-: sonos-ču 10, sonos-u-n ゼ口, sonos-u-'ād 5  
 47. soyorqa-: soyorqa-ju 22, soyurqa-n 1, soyurqa'ād ゼ口  
 48. talbi-: talbi-ju 23, talbi-n 2, talbi-'ād 1  
 49. tata-: tata-ju 14, tata-n 1, tata-'ād 2  
 50. tebči-: tebči-jü 5, tebči-n 10, tebči-'ēd ゼ口  
 51. tüši-: tüši-jü 12, tüši-n 3, tüši-'ēd 1  
 52. udurid-: udurid-ču 9, udurid-u-n 2, uduridu-'ād 2  
 53. unu-: unu-ju 12, unu-n ゼ口, unu-'ād 2  
 54. uqa-: uqa-ju 12, uqa-n 3, uqa-'ād ゼ口  
 55. ügüle-: ügüle-jü 33, ügüle-n 6, ügüle-'ēd 1  
 56. üje-: üje-jü 29, üje-n 4, üje-'ēd 11  
 57. yabu-: yabu-ju 24, yabun 2, yabu-'ād 3  
 58. yada-: yada-ju 41, yada-n 8, yada-'ād ゼ口  
 59. yorči-: yorči-ju 14, yorči-n ゼ口, yorči-'ād ゼ口

この主要動詞に対する三語尾の接尾状況を見ると、-ju<sup>2</sup>が圧倒的な使用例を示し、又、59語中の半数以上が、上述の接尾状況を裏書きしている点で、その使用頻度数は -ju<sup>2</sup>, -n, -'ād<sup>2</sup> の順序に並ぶことが巨視的には明かである。しかし、① kürge'ül-ü-n 2, kürge'ül-ü-'ēd 8, ② hülde-n ゼ口, hülde-'ēd 6, ③ ile-n 1, ile-'ēd 6, ④ ire'ül-ü-n 1, ire'ül-ü-'ēd 6, ⑤ sonos-u-n ゼ口, sonos-u-'ād 5, ⑥ üje-n 4, üje-'ēd 11などの動詞においては、-nと-'ād の用例数は逆転し、又、⑦ ke'ē-n~keyēn 389の突出、⑧ else-n 14に

対する else-jü, else-'äd のゼロ, 更に ㉔ ilca-jü 15 に対する ilca-n, ilca-'äd のゼロ, ㉕ neü'ü-jü 12 に対する neü'ü-n, neü'ü-'äd のゼロ, ㉖ neyile-n 12 に対する neyile-jü 1, neyile-'äd ゼロ等々の現実は何を物語るのであろうか。

以上の事実を頭に入れた上で, -ju<sup>2</sup>, -n, -'äd<sup>2</sup> 三者の表わす意味——最終的には意義素——の考察に入る。

\* \* \* \* \*

文例<1>は, テムヂンの父イエスゲイ・バアトゥルがメルキド族のイエケ・チレドから, 彼の新妻ホエルンを奪いとる<sup>くど</sup>伴で, 一つの物語りとして, 比較的, 大方に知られている一節である。この §54 は 5 行の原文からなる小節であるが, この 5 行の中に 7 個の -ju<sup>2</sup> が用いられている。-n は 1 例のみ, -'äd<sup>2</sup> は一つもない。これだけを取って見ても -ju<sup>2</sup> の多用性が実証される。さて,

「その時, イエスゲイ・バアトゥル, オナン河にて šibaḡ'ūlan yabu-  
quī-dur (鷹を放ち行くに) メルキド族のイエケ・チレドのオルクヌ  
ウドの人衆より öki abčü e'ūsgejü ayisqu-yi jolucaju önggeyijü  
üje'ēsü (乙女を娶り発ち来るに遭い, 見おろし見れば), öngge jisü  
bušitaj öki qatu üjejü (容色尋常ならざる女人を見て) ger-tür  
-iyēn qarın haḡ'ū(n)lju (己が包<sup>ズル</sup>に馳りかえり) 己が兄ネクン・タ  
イズ, 己が弟ダリタイ・オドチギンを uduridčü irejü'üi (ひきつれ  
来れり)」

という, この文は -ju<sup>2</sup> の表わす意味の解明に好箇の材料を与えてくれる。

-ju<sup>2</sup> の本質は複数の動作を, ひとまとまりの一連の動作としてとらえ, 接合する点にある。その際, 複数の動作の時間的前後関係は継起的であるが, それを断絶的に捉えず, 一連の動作の流れとして捉える点に特色がある。

上の öki abčü e'ūsgejü ayisqu-yi jolucaju önggeyijü üje'ēsü の öki abčü e'ūsgejü ayisqu (乙女を娶り発ち近づき来る) は, この文の書き手にとっては一連の動作として捉えられ, その間に大きな断絶はない。線状的表现

を, その本質とする言語による表現では, 話し手(書き手)にとって, ひとまとまりの一連の動作として捉えられる表現でも線状的に展開させざるを得ない。その線状的に展開する複数の動作を接合するのが -ju<sup>2</sup> の役割である。

更に öki abčü e'ūsgejü ayisqu-yi に jolucaju önggeyijü üje'ēsü が続き, 最終的には öki から üje'ēsü までを一連の動作のひとまとまりと秘史の書き手は捉えているが, jolucaju の -ju において, 一連の動作の流れの中に小さな段落を見ている感がある。この -ju にふれるに先立ち, <2> の mariyaju .....ideldü'äd, にも言及しておく心要があろう。

<2> の mariyaju qarbuju alaju ideldü- (窺い射り殺し食べ合う) もまさに, これらの複数の動作・行為を, ひとまとまりの, 一連の動作として捉えて, この一連の動作の区切りを ideldü'äd の -'äd が示しているのである (-'äd については後述)。temgüldüjü ide'äd の temgüldüjü ide- も同様に解することができる。

ところで, -ju<sup>2</sup> にはもう一つ注目すべき用法がある。それは<1>の önggeyijü üje'ēsü, uduridčü irejü'üi に於て見られる如き -ju<sup>2</sup> の用法である。この önggeyi- (見おろす) と üje- (見る) との関係, uduri- (引きつれる) と ire- (来る) の関係は, 時間的な前後関係のない, いわば共起関係にある。即ち, (見おろして→(そして) 見る), (引きつれて→(そして) 来る) のではなく, (見おろす) と (見る), (引きつれる) と (来る) は, ともに同時に行なわれている動作である。事実の世界のこの種の行為は言語表現では線状的に表現せざるを得ない。この様に時間的に共起する複数動作・行為を言語表現上, 線状的に表示するのに -ju<sup>2</sup> が用いられるのである。

しかし, 考えて見れば, -ju<sup>2</sup> のこの種の用法は -ju の本質(複数の動作を一連の動作として捉え, それらを接合する)からすれば, 当然の用法で, önggeyijü üje- も uduridčü ire- も一連の動作を形成する一駒と見ることができ。

ここで, 上で言い残した「小さな段落」を示すかの如き -ju<sup>2</sup> に言及したい。

〈1〉の *jolucaju*, *üjejü* の *-ju*, 更に 〈3〉の *daulin baraju*, *eye baralduju*, *tungqac talbiju* などの *-ju* を例にとって見る。*öki abču e'ūsgejü ayisuqu-yi jolucaju önggeyijü üje'ēsü* を読み下す時、これを一息に読み下すことは可能である。しかし、文中のいづこか一点に *pause* をおくとすれば、それは *jolucaju* の次である。*öki* から *üje'ēsü* までの一連の流れの中で、*jolucaju* のところでカンマを附して読むことは可能である。〈3〉の *baraju*, *baralduju*, *talbiju* の *-ju* もこの種の *-ju* として読むことができよう。

〈4〉の文例は後廻しにして 〈5〉を読むと、文頭の *dauliju*, *ulus daiyijiju*, *čimбай-yi noyalaju*, *Činggis qahān nekejü*, 次の *übüljejü*, *ulus-iyān abqa'ülju*, *neyilejü*, *qamtudču*, *barin yadaju*, *odun yadaju*, *bayildun yadaju*, *ketülün čüb tusču*, *ketülün baraju*, *Činggis qahān dabaju*, *qiduqun-i anu qidu'ülju* 等々の *-ju* は総て、話し手（書き手）の意識としては、一連の行動の流れの中での小段落を示す用法である。

以上、多くの *-ju* の用例を観察すれば、その中に、用法上の若干の違いを読みとることができるが、この語尾の本質を《複数の動作・行為を一連のまとまりとして接合する》との意義素を仮定することによって、総ての *-ju* を説明しようとする。モンゴル系の言語において、最も多用される *-ju* をこのように見て次に *-'äd²*, *-n* について考えて見よう。

§3 *-'äd²*. Poppe 教授は上の *-ju* を *converbum imperfecti*, この *-'äd* を *converbum perfecti* とし、この二者を対立的にとらえている。この見解は大きい観点から見れば支持しうるが、*-ju²* も個々の動作に関して純粹に時の観点から見れば“完了的”と見做しうる用法も多いので——上述から明かである——筆者は *-ju²* を *converbum imperfecti* と呼ぶことに躊躇を感じる。

モンゴル人が *-ju²* をむしろ“完了的”な語尾と捉えていることを、動詞の否定語 *ülü* と *ese* の用法が教えてくれる。

秘史蒙古語における著しい事実の一つに、*ülü* と *ese* の厳密な使い分けがあ

る。

[A] *ülü* *ülü* は以下の動詞活用形に前置されて用いられる。全使用例は156例。疑問否定形の *ülü'ü* の23例を含めると179例の使用例が認められる。

- (a) *-mu(i)²* 兀禄 斡羅梅 *ülü oro-mui* (八21五), 兀禄 孛魯梅 *ülü bol-u-mui* など5例。
- (b) *-yu²~yi* 兀禄 札撒由 *ülü jasa-yu* (七38一), 兀禄 孛魯宜 *ülü bol-u-yi* (八8一) など6例。
- (c) *-i* 兀禄 孛里 *ülü bol-i* (±25五) など4例。
- (d) *-d* 兀禄 帖蔑徹 *ülü temeče-d* など2例。
- (e) *büj* の前 兀魯兀 備 *ülü'ü büj* (六27六) など4例。
- (f) *-qu²~quj²~qun²* 兀禄 古兒古 *ülü kür-kü* (±30八), 兀禄 升格恢 *ülü šingge-küj* (八17一), 兀禄 斡羅中渾 *ülü od-qun* など55例。
- (g) *-n* 兀禄 塔級 *ülü tani-n* など93例。
- (h) *-'üjai²~'üjiyi* 兀禄 中豁綽孛魯兀沢 *ülü qočoru-'üjai* など4例。
- (i) *-run* 兀禄 斡羅(黑)蒼命 *ülü orocda-run* 1例。

*ülü* はこの様に多くの活用形に前置されて否定の意を表わすが、特徴的なことは、*-mu(i)²*, *-yu²*, *-qu²* など動詞の現在及び未来の語尾に前置されることである。そして更に興味深いのは、同時接合副動詞形 *-n* の否定形は、この *ülü* の前置によって形成されることであり、その例は極めて多い。これは注目されねばならない。*-qu²~quj²~qun²* に前置される *ülü* の用例も多く、*ülü-n* と *ülü-qu²* など全用例の  $\frac{3}{4}$  以上を占める。

[B] *ese* *ese* は以下の動詞活用形に前置されて否定形を作る。*ese* の全用例は98例、否定疑問形の *ese'ü* 20例を加えると118例を数えるが、*ülü* に比して、その数は少ない。

- (a) *-ba²~bai²~bi* 額薛 孛魯罷 *ese bol-ba* (六35七), 額薛

- 李勤<sup>原作</sup>中合罷<sup>俗</sup> ese bolga-baj (四1七), 額薛兀<sup>中合畢</sup> ese uqa-bi (二45五) など45例。
- (b) -la'ā(i)<sup>2</sup>~-lu'ā(i)<sup>2</sup> 額薛 幹古列額 ese ög-ü-le'ē (八28五), 額薛 客額<sup>克迭魯額</sup> ese ke'ēgde-lü'ē (±22九), 額薛兀 客額<sup>勤都列埃</sup> ese'ū ke'ēldü-le'ēi (五22四) など22例。
- (c) -ju'ū(i)<sup>2</sup>~(-ču'ū(i)<sup>2</sup>) 額薛 中合<sup>舌兒</sup>中合<sup>主兀</sup> ese garga-ju'ū (±44五), 額薛 塔阿刺主為 ese ta'āla-ju'ūi (五39六) など10例。
- (d) -csan<sup>2</sup>~csad<sup>2</sup> 額薛 失<sup>克兒</sup>中合<sup>黑三</sup> ese širga-gsan (八43十), 額薛 兀者<sup>克先</sup> ese üje-gsen (二20六) 〈不曾見的〉, 額薛 擺亦<sup>黑撒</sup> ese bajyi-gsad (十2四) 〈不曾 立来的每〉など14例。
- (e) -ju<sup>2</sup>~-ču<sup>2</sup> 額薛 不石<sup>舌</sup>列周 ese büšire-jü (七5八), 額薛 幹<sup>克帖周</sup> ese ögte-jü (十33一) 〈不曾 被与着〉, 額薛兀 巴牙思抽 ese'ū bayas-ču (七35七) 〈不曾麼 喜歡着〉など10例。
- (f) -'āsu<sup>2</sup> 額薛 帖乞 阿刺阿速 ese teki ala-'āsu 〈不曾也殺呵〉, 額薛 兀者額速 ese üje-'ēsü 〈不曾見呵〉など15例。
- (g) -tala<sup>2</sup> 額薛 都塔塔刺 ese duta-tala (七4一) 〈不曾 缺少了〉 1例。
- (h) -muḯ 額薛兀阿梅 ese'ū amuḯ (±27二) 〈不曾 有麼〉 1例。

上の挙例から読みとれる ese の特徴は, -ba<sup>2</sup>, -la'a<sup>2</sup>, -ju'ū<sup>2</sup> など動詞の過去形に前置されて否定の意を表わすことである。即ち大原則として, ülü は動詞の現在・未来時の否定, ese は過去時の否定として用いられることが明白である。

たゞ一つ (h) ese'ū amuḯ が例外として挙げられるが, この例外は説明可能と思われる。<sup>(2)</sup>

さて, こゝで, 注目すべきは, 問題の副動詞 -ju は ese によって否定され, ülü が用いられた例が1例も存在しないことである。

ese は上述のように過去時の否定に用いられるのが, その本務であることを考えると, ese によって否定される -ju<sup>2</sup> は, -ju<sup>2</sup> の接尾される動作を本質的

には完了的に捉えていることを意味する。

-ju<sup>2</sup> は複数の動作を一連の流れとして接合するのがその本質であるが, その一連の流れを構成する個々の動作は, モンゴル人には完了的に意識され, 捉えられると言うことができようか。これと対比さるべきものが上記の「lü -n」であるが, それは次の -n の項で解くことにし, ここでは -'ād<sup>2</sup> について述べねばならない。

上記の文例から <2> の ideldü'ēd, ide'ēd, <3> の jasa'ād, <4> の odu'ād, kötölü'ēd, o'öru'ād, ire'ēd の7例を得られるのみで, -'ād<sup>2</sup> は秘史蒙古語では -ju<sup>2</sup> と -n に比して使用例が少ない。秘史蒙古語で使用例が少ないと言うことは, 中世蒙古語の段階では, -'ād<sup>2</sup> < -gād<sup>2</sup> の使用されることがそれ程多くなかったことを示すと見て誤りあるまい。

この語尾は, Poppe 教授の指摘の如く, *converbum perfecti* と見ることが可能である。

-'ād<sup>2</sup> は継起する前後の動作の関係を提示し, -'ād の附された前項の動作が終了してから後項の動作が行なわれることを示す。従って, -'ād は日本語では《～してそして, ～してから》の意味あいをもつのであって, -ju<sup>2</sup> (及び -n —これについては後述) とは, はっきりと区別される。このことは上例の ideldü'ēd を含めて7例をよくお読み願えれば了解していただけるであろう。たゞし, 現代のモンゴル語, 例えばハルハ方言などでは, この -'ād<sup>2</sup> の後身である -aad<sup>4</sup> は単純に《～してから》だけの意味では説明しかねる現象にも遭遇する。例えば

(a) Шувуу нисэж ирэв. 《鳥が飛んで来た》

(b) Шувуу нисээд ирэв. 《鳥が飛んで来た》

の (a) と (b) は日本語では共に同じ訳文が与えられる。しかし, モンゴル人の言語感覚では, この両者には微妙なちがひがある。そもそも нисээд ирэв の -ээд (秘史蒙古語の -'ād<sup>2</sup>) は原則的に《～してから》の意であるから нисээд ирэв は原則通りならば《飛んでから来た》となって意味をなさない。《飛んで

来る)は《飛んでから》,そして《来る》の様に動作自体の前後関係はないわけで、本来はここに -'ād が用いられることは原則的にはあり得ないことである。然るに、この種の -'ād——現代語の -aad<sup>4</sup>——は現代語では一般的に使用される。そこで、(a) (b) の表現に現行の言語では屢々ぶつかることになる。(a) と (b) との微妙なニュアンスの差は何処にあるかと調べて見ると、未だはっきりしたことは言えないが (b) の нисээд ирэв の方は“飛んだ結果(こゝに)来た”と解すれば、-ээд のもつ本来の意が活かされると思われる。これに対し、нисэж ирэв は文字通り“飛んで来る”を一連の動作として捉えたものと見ることが出来る。又、後出の -n をとった нисэн ирэв も文章語としては用いられる形で、これは、日本語の“飛び来る”に当る表現と言うことが出来よう。上の三者はこのような微妙なニュアンスの違いをもたらすものと考えられる。

秘史蒙古語における -'ād には、この種の用例は認められず、《ある動作をなし終えて》の意義素を -'ād に仮定して大過ないと考えられる。

§4 -n 秘史蒙古語における一つの特徴は語尾 -n の多用である。-n は Poppe 教授によれば *converbum modale* (*modal verb*) と呼ばれ、“主動作が遂行される様態(様式)を示す行為”を表わすと言う。Poppe 教授のこの見解を考慮に入れつつ、-n をもう一度考察し直してみたい。

-n は、-n によって結ばれる後項の動作(ポッペ氏の主動作)がどのように行なわれるかを示す *manner* を表示すると見る、例えば、文例〈2〉の ö'er-ün qo'olaj-ba'an qarčigaj-ba'an~ber teji'eldün tere hon garba. の -n は tere hon garba 《その年は過ぎた》に対して、どのようにして過ぎたかを“養い合って”過ぎたと説明しているとする。この点から見れば、“主動詞が遂行される様態を示す行為(養い合う) teji'eldü- に -n が接尾されてこの行為が表現されていると見ることは可能である。しかし、一方、この -n は teji'eldü- と tere hon gar- を同時元で結びつける機能を果すとも見られる。即ち teji'eldün 《養い合い(ながら)》 tere hon garba 《その年は過ぎた》と

読むことも可能であり、日本語で《……養い合ってその年は暮れた》と訳読するのに何の抵抗もない。

しかし、〈1〉の ger-tür-iyēn qarın haq'ū(n)lju を《家に帰り奔り》と解することには抵抗がある。これを《帰りに奔り》とすれば日本語として抵抗は少なくなる。この場合、《帰りに》は後項の動作(主動作)《奔る》の方法を示す動作とは認め難いが、広い意味での様式、様態を示す動作と認めることは許されよう。

-n を *converbum modale* と見るのは、この立場によると思われる。一方、-n は上の teji'eldü-n において見たように、前後の動作を同時元で結ぶ機能を果すとも見られる(この場合は、前述の -ju<sup>2</sup> との関連が追求されねばならないが)。

そこで、秘史蒙古語総体を通じて、-ju<sup>2</sup>, -ād<sup>2</sup>, -n の三語尾の中で、-n のみしか取らない動詞語幹があるか否かを調べて見よう。その調査が -n の本質を教えるかも知れないからである。

- da'ūs-u-n 《終る》1, debse-n 《跳ぶ》1, dötele-n 《近づく》1  
 duta'ül-u-n 《不足させる》2, du'ülca-n 《知らせる》1  
 ebesüle-n 《草でつくる》1, ečidke-n 《絶やす》1  
 elčileldü-n 《使者を送りあう》1, else-n 《和する》14  
 emčüle-n 《私有とする》1, emečilegde-n 《女のように見下される》1  
 horči-n 《まわる, かこむ》15  
 e'ere'ül-ü-n 《攻囲させる》3, geli-n 《追いはらう》1  
 gerisgeledü-n 《遮りあう》1, gerle-n 《包をつくる》2  
 geyi'ül-ü-n 《明るくさせる》2, giiji-n 《沿う》2  
 görüledü-n 《攻めあう, なぐりあう》1, kürgeldü-n 《到らせ合う》1  
 kü'üleldü-n 《人々にし合う》1, hiče-n 《恥じる》1  
 hulal-u-n 《赤くなる》1, huyil-u-n 《渦まく》1  
 hürü-n 《けずる》2, ibül-ü-n 《充満する》1

jabila-n (あぐらをかく) 2, jemle-n (叱る, 非難する) 1  
 ješi-n (高望みする) 2, jibši'erülče-n~jibšiyērülče-n (整え合う) 2  
 jibsiyēr-ü-n (整治する) 1 jingkü-n (中傷する) 2  
 joba'ā-n (苦しめる) 1, jöriče-n (錯綜する) 2  
 kemkele-n (粉々にする) 1, kešigle-n (分割する) 1  
 ketügelje-n (横ぎる) 1, keyisge-n (飛散さす) 2  
 kōnde-n (ふれる) 2, könggele-n (軽くする) 1  
 kö'üčile-n (息子にする) 2, mali'ā-n (仕える) 1  
 mara'ā-n (仔細にする) 1, melje-n (しらをきる) 1  
 mingcala-n (千戸にする) 2, neyile-n (一つになる, 合流する) 12  
 nitulu-n (絶つ) 1, nöğči-n (過ぎる, 去る) 1  
 nuntucla-n (居営する) 1, oljalaldu-n (財をとり合う) 1  
 öče-n (さからう) 1, ötürle-n (迅速に行なう) 2  
 qanilca-n (比べる) 1, qojida-n (おくれる) 1  
 qolbāra-n (並ぶ) 2, qono'ül-u-n (宿らせる) 2  
 quriyaldu-n (収め合う) 1, gadal-u-n (探索する) 2  
 saču-n (撒く) 2, segiü'ül-ü-n (引きあげる) 2  
 sereldü-n (気づき合う) 1, šiljiri-n (移動する) 1  
 širqa-n (傷つける) 1, soyurqa'ül-u-n (恩賞を施さす) 1  
 taši-n (手をたたく) 2, taq'ü-n (追う) 1  
 teberildü-n (抱き合う) 1, teji'eldü-n (養い合う) 1  
 tocta-n (定まる) 1, to'ā-n (数える, 見なす) 1  
 to'ōri-n (廻る) 2, tüble-n (中心になる) 1  
 tülešile-n (梵きものにする) 2, uda'āra- (後につづく) 3  
 üderi-n (昼食をとる) 1, ulgi-n~ulki-n (讒言する) 2  
 unji-n (垂れる) 1, ucdu-n (迎える) 3  
 usula-n (水をやる) 2, undur-u-n (湧き出る)

yadar-u-n (臆する) 2, yekejile-n (威張る)  
 amara'āli-n (親しむ) 1, ayis-u-n (近づく) 8  
 bürkire-n (とどろく) 1, buru'ūila-n~buru'üyila-n~burūila-n (逃  
 げる) 4  
 buru'ūdqa-n (逃がす) 1, büselgü-n (かこむ) 1  
 čida-n (できる) 1, denggeče-n (等しくする) 3  
 de'üčile-n (弟とする) 1, duradulča-n (回想する) 1  
 dürbe'ül-ü-n (敗走させる) 1, harbala-n (十戸にする) 1  
 kigde-n (される) 1, ja'ūla-n (百戸にする) 1  
 jasaldu-n (治めあう) 1, neke'ül-ü-n (追わせる) 4  
 nemürleldü-n (蔽いとし合う) 1, neyileldü-n (合流しあう)  
 ö'ermičile-n (別になる) 1, oyisulaldu-n (ひそかにうらむ) 1  
 qarbiyaldu-n (射あう) 1, temeče-n (争う) 2  
 torol-u-n (仔馬が母馬をかこみ喜び疾走する) 1, tungqu-n (告げる) 1  
 üjü'üle-n (尖端にならす) 1

以上の106の語幹は -n のみをとっているがこれらの中で興味がひかれるのは、else-n 14例, horči-n 15例, neyile-n 12例, ayis-u-n 8例などである (horči- と neyile- については, horči-jü 2例, neyile-jü 1例が認められるが)。1例や2例の用例では, 偶然の可能性があるが, 10例前後, 一つの形のみが用いられるとなれば, それは偶然とは見られないと思われる。それ故, else-, horči-, neyile-, ayis- が -n を接尾する例が圧倒的に多いというこの事実は, 何等かの意味をもつのではあるまいか。

まず ayis-u-n を調べて見る。

§9 (一六九~六十) Burqan-qaldun-u ejed Burqan bosqacsan Šimči=  
ブルカン・カルドゥン山の 主, ブルカン山を 興こせし シムチ・

bayan Uriyangqaj-dur neü'üjü ayisun aju'ü. (195)  
バヤン ウリヤンカイ に 移り 来りつつ あり。



§ 32 (一20三) qoram atala Tüנגgelig goroqan ö'ēde niken kü'ün  
しばし あるに, トンゲリグ 小川を 廻りて 一人の 人

ayisun büyü. (196)  
近づきつつ あり。

§ 93 (二34十~35一) sayin nököř mungtaniju ayisun aju'ü. (197)  
よき 僚友 艱難して 来つつ あり。

§ 94 (二42八~42九) jalqamšictan Taiyiči'üd ayisun aqun-u, eke  
“頑強頑強なる タイチウド族 近づきつつあるや, 母,

öter bos ke'ēbi. (198)  
はやく起きよ”と云えり。

§ 100 (二44五~44八) Qo'ägč'in emegen Börte-üjin-i ni'üsu keyēn  
コアクチン 老 妾は ホルテ 夫人を“かくさん”とて

böken qara ütaï tergen-tür unu'ülju bö'ere alag hüker köljü  
幌つきの 黒 わくの 車 に のせて, 腰の まだらな 牛 を つけ

Tenggelig goroqan ö'ēde ködöljü ayisun büküj-dür……(199)  
チンゲリグ 小川を 廻りて 移動し 来つつ ある に

§ 120 (三33八~33九) ede gurban Togura'ün aqa-nar de'ü-ner sōni  
これら 三 トグラウンの 兄 達 弟 達は 夜を

dülildüjü ayisun aju'ü. (200)  
徹し合いて 近づきつつ あり。

§ 170 (六2六~2七) Ong qan tere nekejü ayisun aju'üi ke'ējü  
“王 汗 それ 追い 近づきつつ あり” とて

(201)

§ 170 (六2十~3一) tere ayisuqij-dur Jamuqa, Ong qan-lu'ā  
その 近づきつつあるに, チャムカは 王 汗 と

qamtu ayisulčaju ayisun aju'ü. (202)  
共に 相近づき 来りつつ あり。

以上8例ともに、ayisun が《ある、いる》を意味する a- 及び bü- に結びついているのが特徴的である。動詞語幹 ayis- は《近づいて来る(視野の中に入っている)》を意味し、その語義の中に“現に動作が遂行中”という進行態の意味を蔵している。それ故、ese との結びつきから知られた《完了的》な意義素を蔵する -ju をとることなく、《現在の》な -n との結合のみが用いられると考えられる。その語義自体の蔵する上述の特性から見て、過去を表わす

-ba<sup>2</sup>, -ju'ü(i) 等との結合は原則的に存在しなからうとの推測に立って調べて見ると、予想の如く ayis(u)ba, ayisuju'ü(i) は秘史蒙古語からは1例も見出すことはできない。僅かに ayisula'ā, ayisulu'ā, ayisula'ai の3例を捨うことができるが、これ等は、その文脈から見て明かに“現在の”であり、上の -la'ā, -lu'ā, -la'ai の三例は -la'ā 系の語尾の特殊な一面の解明に手がかりを与えるものとも思える。それについては註3を参照していただくこととして本題にもどる。

-n が現在進行態の意義素をもつ ayisu- に集中的に接尾する事実は、この語尾の特質を浮び上らせる。この語尾は複数の動作を時間的に同時的に結びつけ、それを単一の動作として扱うところにその本質があると見るべきかと考えられる。ayisun a-, ayisun bü- も《現に近づき来ている》動作の ayisu- と a-, bü- を -n で結びつけていると見ることができよう(尚、本例の a- と bü- は、これ亦、a- と bü- の意義素の認定に好個の実例と思えるが、それについても、ここでは触れる余裕はない。後述する機会がある)。

次に else-n 14例を考察する。

§ 176 (六20三~20五) Jürčedej-dür elsen oroju'üi, elsen orogdaju  
ヂュルチュェデイ に 和 服せり, 和 服せられて

Činggis qahān ya'ü-ber anu ese köndebej. (203)  
チンギス 可汗 何に も ←彼等の ふれざりき。

§ 182 (六43十~44一) tede Qorulas ülü bulgan elsen irebe. (204)  
彼等 コラス族 敵対せず 和し 来りぬ。

§ 235 (十10九~10十) Qarlu'üd-un Arslang qan Qubilaj-dür elsen  
カルルク族 の アルスラン 汗は クビライ に 和し

ireju'üi. (205)  
来れり。

§ 239 (十14四~14五) Oyirad-un Quduqa=beki tümen Oyirad-un  
オイラード族の クドゥガ・ベキ 一万の オイラードの

urida elsen oroju irebe. (206)  
さきに 和し 下りて 来りぬ。

§ 239 (十14十~15三) Kirigisüd-ün noyad Yedi, Inal, Aldi'er,  
キリギス族 の 長達 イェデイ, イナル, アルディエル

Örbeg=digin, Kirgisūd-ün noyad elsen oroju čaca'anūd šingqud,  
オルベグ・ディギン, キルギス族の長達和服して白き禿鷹,

čaca'anūd actas, qaranu'ūd bulucad abu'ād irejü Joči-da a'uljaba.  
白き去勢馬, 黒き貂をもち来りてテュチに歸しぬ。

(207)

§ 239 (十15九~16二) Oyirad-un Quduga=beki-yi uctun urida elsen  
オイラド族のクドゥガ・ベキを迎え, “さきに和し

tümen oyirad-iyān uduridun irebe keyen soyurqaju kö'ün-e inu  
一万のオイラトを(己が)ひきつれ来りぬ”と嘉賞し子に←彼の

Inalči-da Čečeyigen-i ögbe. (208)

イナルチにチュチュイゲンを与えぬ。

§ 248 (十6二~6七) Altan qan Onggin=čingseng-ün ene üge  
全帝は王京・丞相のこの言を

jöbšiyejü eyin bö'ed boltucaj keyen elsen Čingis qahān-a Gungju  
是とし“かくこそあれ”とて和し, チンギス可汗に公主

neretej öki gargaaju altan münggün, a'ūrasun ed tawar čerig-ün  
なる名の娘を出し, 金銀, 絹布類の品品を軍の

kü'ün-e küčün-e mede'ülün da'āquj-ača Jundu-ača gargaaju  
人々に, 力に統べ耐えうるほど中都より出し

Čingis qahān-dur Onggin=čingseng kürgejü irebe. elsen  
チンギス可汗に王京・丞相がとどけ来りぬ。和し

irgedejü Čingis qahān eye-dür anu oroju qotad qotad-tur e'erēd  
来られてチンギス可汗和睦に←彼等の入りて, 城街城街に攻め

baū'ūcsad čeri'ūd-i qari'ulju ičuba. (209)

下りし軍兵達を返しもどりぬ。

§ 248 (十5三~5六) Altan qan-i soyurqa'asu Monggol-un qan-dur  
“金帝がおゆるし下されば, モンゴルの汗に

edo'ed-tür elsen eyetüye, eye-dür oroju Monggol-i iču'asu  
今に於ては和し相識せん, 和睦に入りてモンゴルをもどさば,

ičucacsan-u qoyina basa busu sedkil bida tende eyetüldüd~je.  
もどしたるの後また他の考えを我等はそこに相識し合わんぞ”

(210)

§ 249 (十8一~8四) tere morilagsa'ār Qašin irge-dür yorčiba.  
その出陣せるままに, 合申の人衆に赴きぬ。

Joriju kürü'esü Qašin irgen-ü Burqan elsen bara'un gar činu  
目指し到れば合申の人衆のブルカン和服し“右手←汝の

bolju küčü ögsü keyen Čaca nertej öki Čingis qahān-a gargaaju  
たりて力を与えん”とてチャガなる名の娘をチンギス可汗に出し

ögbe. (211)

与えぬ。

§ 251 (十11六~12二) basa Jeuguan-dur elsen ilegsed Jūbqan  
また, 趙官に和しに遣りしチュブカンを

teri'üten olon elčin-iyen Qitad irgen-ü Aqutai Altan qa'an-a  
頭とせる多くの使者を(己が)キタド人衆のアクタイ, 金皇帝に

jedkügdejü Čingis qahān noqaj jil Qitad irgen-dür morilaba.  
とどめられてチンギス可汗戊年, キタド人衆に出馬せり。

elsen baraju Jeuguan-dur ilegsed elčin-i yekin jedkün bülegej  
“和し終りて趙官に遣りの使者達をなんぞとどめありき”

keyen morilarun Čingis qahān Tungguan amasar joriju Jebe-yi  
とて出馬するにチンギス可汗灌関の関口を目指し, テュベを

Čabčiyal-iyār bolgaba. (212)

居庸関によらしめぬ。

§ 253 (十18一~18三) Altan qan Nangjing oroju ö'er-iyen elsen  
金帝南京に入りて自ら和服

mürgüjü Tenggeri neretü kö'ü-ben ja'un nöködtü-yi Čingis  
叩頭し, テンゲリなる名の子を(己が)百人の僚友もてるをチンギス

qahān-dur turqac boltucaj keyen ilejü'ü. (213)

可汗に“待衛兵たるべし”とて遣したり。

以上14例の中, § 239 の elsen, § 248 の……keyen elsen, § 249 の elsen 3例を除くと, 他の11例は総て elsen oro-, elsen ire-, elsen oroju ire-, elsen eyetü- 等々の如く, いわば動詞連結形である。else- は el (和, 和睦) に -se- が接尾されて作られた《和する, 帰順する》を意味する動詞である。elsejü oro-, elsejü ire- が一例も見られないのは, else- と oro-, ire- を結ぶのに -jü では else- の意味合いが弱まる感を当時のモンゴル人は覚えたのではあるまいか。elsejü oro- などの形が一例も見えないのは, 恐らく上述の感覚に帰因するであろう。elsen oro- となつてはじめて《和順する》の意が

的確に表現されたものと思える。else- と oro-, ire- などは、二つの（時には二つ以上の）の動作ではあるが、それは、時を同じくする、時を共にする、一動作の如く把握されたものと見るべきである。

後続する動詞をもたない三例の elsen も elsejü よりも、その意が明確に示され得たからによるであろう。elsejü, else'ed が全く見られないのは、-n のもつ意義素とかゝわりがあるものと想定しなければなるまい。ここで、neyile- と horči- の用例を吟味して見たい。

neyile- の12例は以下の如くである。

§ 107 (三10六~10十) Temüjin tendēce čerig e'ūsgejü To'ōri(n)l  
テムジン そこより 兵を 発し、 トオリル

qan nigen tümen, To'ōri(n)l qan-nu de'ū Ĵaqa=gambu nigen  
汗 一 万, トオリル 汗 の 弟 チカガムブ 一

tümen qoyar tümed-iyēr Qimurqa gorqon-u Ayi(n)l=qaracana-da  
万, 二 万 もて キムルカ 小川 の アイル・カラガナ に

ba'ūju büküj-dür neyilen bau'ūba. (214)

下營し ある 時 合し 下營しぬ。

§ 116 (三25九~26一) Temüjin Ĵamuqa qoyar Qorqonag ĵubur-a  
テムジン, チャムカ 二人 コルコナグ チュブルに

neyilen bau'ūju erten-ü anda tungqulduju amaralduya ke'eldübe.  
合し 下營し, “さきの日の 盟友を 重ね合いて 親しみ合わん” と云い合ひぬ。

(215)

① § 120 (三34五~34七) Bo'ōrču-yin de'ū Ögölen=čerbi Arulad-ača  
ボオルチュの 弟 オゴレン チェルビ, アルラド より

qacačaju aqa-dur-iyān Bo'ōrču-dür neyilen irebe-kü. (216)  
はなれ, 兄 に←自分の ボオルチュに 合し 来りぬ ぞ。

② § 120 (三34七~34九) Ĵelme-yin de'ū Ča'ūrqa, Sübe'etej=ba'atur  
チェルメの 弟 チャウルカン, スベエテイ・バアトル

Uriangqan-ača qacačaju Ĵelme-dür neyilen irebe. (217)  
ウリヤンカン より はなれて チェルメのもとに 合し 来りぬ。

§ 122 (三42十~43二) ede basa Ĵamuqa-dača qacačaju ködöljü  
これらは 又 チャムカ より はなれて 動き

Temüjin-i Qimurqa corogqan-u Ayil=qaragana-da bau'ūju büküj-  
テムジンの キムルカ 小川 の アイル・カラガナ に 下營し ある

dür neyilen bau'ūba. (218)

時 合し 下營せり。

§ 129 (四6一~6四) Qongqodadaĵ Münglig ečige tende Ĵamuqa-  
コンゴダイ族の ムンリグ・エチゲ そこに チャムカの

dur aju. Münglig ečige dolo'an kö'ūd-lü'e-bēn Ĵamuqa-dača  
もとに ありて ムンリグ・エチゲは 七人の 子達 と共に←己が チャムカのもとより

qacačaju tende Činggis qahān-dür neyilen irebe. (219)

はなれて そこに チンギス 可汗 に 合も 来りぬ。

§ 142 (四34八~34十) bidan-u manglan teden-dür ungsilduju ung-  
我等 の 尖兵達, 彼等 に 叫び合いて,

šiju ĵilda boldaju managar qadqulduya ke'ējü ičuju gol-dur  
叫びて 夕暮れ になられ “翌日 戦わん” とて 退き, 本軍に

neyilen qonoba. (220)

合し 宿りぬ。

§ 146 (四47九~48三) yēkin ya'āraqu bi, ya'āraju urid ire'ēsü  
“なんぞ 急ぐべき 我, 急ぎて さきに 来らば,

Taijiči'ūd noyad minu qočurugsan eme kö'ün adu'un ide'en-i  
タイチウド族の 長 わが 残りし 妻 子, 馬群 食糧を

minu hūnesü'er geyisgekün tede ke'ējü ülü ya'āran edō'e qahān-  
←我が 灰のごと 飛び散らすべし 彼等” とて 急がず, 今 可汗

dur-iyān neyilen idürejü irebe ba. (221)

のもとに←己が 合し 追いつき 来れり 我等”

§ 162 (五32九~33一) Tocto'a-yin Qutu Čila'un qoyar kö'ūd tende  
トクトアの クトゥ, チラウン 二人の 子達 そこに

bürün irge-bēn abu'ad qacačaju ečige-dür-iyēn neyilen Selengge  
ありて, 人衆を(己が)とりて はなれ, 父のもとに←己が 合し, セレンゲを

huru'ü ködöljü'üj. (222)

下りて 移れり。

§ 177 (六30一~30四) Merkid-ün Tocto'a-yin kö'ün Qudu, Čila'un  
“メルキド族の トクトアの 子 クトゥ, チラウンの

qoyar irge orga-bār-iyān čima-dürbürün tere so'or-tur ečige-  
二人は 人衆 散民 もて←己が 汝のもとにありて, その 争乱にて 父

dür-iyēn neyilen Barguĵin oron čima-dača dayiĵin ködöljü'üj-  
に←己が 合し バルグジンに入り 汝より 背き 移れる

je. (223)

ぞ”。

§ 198 (八三七～三九) *Naïman-u Küčülüg qan Uj'ürtai Qarlu'üd-i*  
 ナイマン族のクチュルダ汗はウイウル族、カルルグ族を

*da'arin Sarta'ül-un cajar-a Čüi müren-e bükün Qara=kitad-un*  
 経てサルタウル族の地にチウイ河にある西遼の

*Gür qan-dür neyilen odču'üi.* (224)  
 グル汗に合し行けり。

§ 253 (±18四～19一) *Činggis qahān ičuya keyēn Čabčiyal-iyār*  
 チングス可汗“退かん”とて居庸関もて

*tende ičurun Qasar-i jeü'ün gar-un čeri'üd-iyēr dalaġ giġin ilerün*  
 そこに退くに、カサルをして左手の兵士達もて海にそいて遣るに、

……中略……*Tau'ür müren ö'ede dabaġu yeke a'ürug-tur neyilen*  
 “タウル河を遡りて越えて大本營に合し

*iredkün ke'ējü ilebe.* (225)  
 来れ”とて遣りぬ。

以上12例の *neyilen* の中、*neyilen baü'ü-*、*neyilen ire-* などの動詞連結形が10例。§ 162, § 177の *neyilen* は直統の動詞を持たない。正確には *neyileġü* (八二六) が1例見られ、*neyilen* のみではないが、動詞語幹 *neyile-* は *-n* と結びつくことが圧倒的に多いことは上例の如くである。

§ 107, § 116, § 122 の *neyilen baü'ü-*、§ 120①, ②, § 129, § 253 の *neyilen ire-*、—— § 146の *neyilen idüreġü ire-* もここに含められよう——、§ 142の *neyilen qono-*、§ 198 の *neyilen od-* の総てに於て、*neyile-* と、直統する動詞との間に時間的前後関係はなく、*neyile-* と直統の *baü'ü-*、*ire-* *qono-*、*od-* 等とは行為としては同時的である。

§ 162, § 177の *neyilen* は共に、文末の *ködöljü'üi* (移動した) の様態を示すものとして《合流しに》と解される *converbum modalia* の好例と言えるが、これととも、*neyile-* と *ködöl-* の動作は、モンゴル人の感覚としては同時元で捉えられている。

次に *horči-* の用例を示そう。

§ 57 (—39四～39六) *Qutula-yi qa ergü'ed Qorqonag-un saġlacar*  
 クトゥラを汗に推戴しコルコナグの繁茂せる

*modun horčïn qabirca-ta ha'ūluca ebüdüg-te ölkeg bolutala*  
 木をかこみ肋骨まで地面に、膝まで塵土になるまで

*debsebe.* (226)  
 崩りぬ。

§ 79 (二14七～14五) *Temüjin-i morila'ülju burūdqañ hoj-tur*  
 テムチンを馬にのせて逃がし、森に

*duta'āju odquġ-yi Taiġiči'üd üjeġü hüldeġü Tergüne ündür-ün*  
 逃げ行くをタイチウド族見て追いてテルグネ丘の

*šigui-dur šircuġu orobasu Taiġiči'üd oron yadaġu šigui-dur horčïn*  
 密林にもぐり入れればタイチウド族入り得ず密林にてかこみ

*saġġu…….* (227)  
 守りて……。

§ 80 (二16一～16四) *tere amasar böġlen unacsan qošilig-un tedüġ*  
 その口をふさぎ倒れし小帳幕のほどの

*čacān kürü horčïn carbāsu ülü bolqu, modud-i sumuči qitucaġ-*  
 白き鉱石をめぐり出でんとせど能わず、木々を矢削り小刀

*bār-iyān hoctoli'ād mori-yān qaltari'ūlu'ād carquġ-lu'ā Taiġiči'üd*  
 にて←己がたちきりて馬を(己が)滑らせ出ずるとタイチウド族

*saġġu aġu'ü.* (228)  
 守りてありき。

§ 145 (四40七～41二) *qahān ügüleriñ dotora nidün minu geyibe*  
 可汗の言うに“心、目←我が明けり”

*ke'ed öndeyijü sa'ütala üdür geyijü gegēn bolġu üje'ēsü tere*  
 とて身を起し坐しあるに夜明け明るくなりて、見ればその

*sa'ügsan horčïn Ĵelme-yin šimin šimin böġlegsen čisun asqacsan*  
 坐れるまわり、ヂェルメの吸い吸いしてかたまれる血を吐きたる

*horčïn namurqañ bolġu'ü.* (229)  
 まわりは血みどろなりき。

① § 192 (七20八～20十) *kebte'ül söni ger horčïn kebtäkün-iyēn*  
 宿直番は夜ツル包をかこみ臥すべきを(己が)

*kebte'ülġü e'üden-dür baiyiqun-iyān kešiglen bai'yi'ültucaġ.* (230)  
 臥せしめ、戸口に立つべきを(己が)順次に立てしむべし。

② § 192 (七21四～21七) *gurban söni gurban üdür kešig üdür-iyēn*  
 “三夜三日の当直日が←己が

*daü'üsču mun-kü yosu'ār gurban söni qonolduġu ye'üdgeldüġü*  
 終わり、同じそのツル寝もて三夜宿り合いて交代し合いて

sōni kebte'ül atucaj, horčîn kebtejü qonotucaj keyēn jarlic  
夜 宿直番 であれ かこみ 臥して 宿るべし” と 勅  
bolba. (231)  
しぬ。

§ 195 (七35一~35四) tede ya'ūd, erte talbigsad unugan eke-yüyēn  
汝等 如何なる者ぞ、早く 放てし 仔馬が 母 の(己が)

šün kökōjü eke-yüyēn horčîn torolun güiyikü unugad metü yēkin  
乳を 吸いて 母 の(己が) まわりを めぐり 走る 仔馬群の如く いかんぞ

teyin to'origan ayisaj tede keyēn asagču'ū. (232)  
かく めぐりて 来る や 彼等” と 問えり。

§ 229 (九47七~47十) kebte'ül sōni ordo horčîn kebtejü e'ūden  
“宿直番は 夜 宮居を かこみ 臥して、 戸口を

daruju bajyicsad kebte'ül sōni oroqun haran-i ekid anu dalbaru  
おさえて 立ちし 当直番は 夜 入る 人々 を 腦が←彼等のダサリと割れ、

mürüs anu ba'ūtala čabciju o'ōrudqun. (233)  
肩が ← 彼等の そぎ落ちるまで 斬り 捨てよ”

① § 230 (十1四~1六) hodutaj sōni ordo ger minu horčîn kebtejü  
星ある 夜、 宮居 包 ← 我等の かこみ 臥して

oro dotora ese oçjadqacsan öljeiten kebte'ül minu ündür oron-  
臥床の 中にて 驚かしめざる、 吉祥もてる 宿直番は ← 我か 高き 位

dur kürgebe. (234)  
に 到らしめぬ。

② § 230 (十1八~1九) šiltesütej ger minu horčîn jirim ülü kin  
細条で編める 包を ← 我が かこみ まどろみも せず

bajyiju jirüge amu'ulucsan čing sedkilten kebte'ül minu jirgalang  
立ちて 心臓を 安んせしめし 誠 心もてる 宿直番は ← 我が 喜楽の

oron-dur kürgebe. (235)  
位 に 到らしめぬ。

③ § 230 (十1十~2一) ibülün büküj daiyisun dotora irgetej ger  
“充滿し ある 敵の 中にて 縁布ある 包を

← minu horčîn hirmes ülü kin idqaju bajyicsad itegelten kebte'ül  
我が かこみ 目ばたきもせず (敵を)とどめ 立ちし 信ある 宿直番

minu.” (236)  
← 我が。

§ 234 (十9八~10一) būrin kešigten turca'ūd-i, ordo horčîn ordo-  
“すべての 輪番の 当番兵達 を、 宮居を かこむ 宮居

yin ger-ün kö'ūd-i, adu'učin qoničîn temēčîn hūkečîn-i ordo  
の 家 の 子達 を、 馬夫達 羊夫達 駱駝夫達 牛夫達 を 宮居を

darun Dodaj=čerbi uqaju atucaj. (237)  
制する ドダイ・ケルビが 主管して あれ。

§ 245 (十40七~40九) Činggis qahān gereljü, šiqagdaju jayila  
チンギス 可汗 気おくれし 迫られて “退け、

garuya ke'e'ēd carqu-lu'ā Činggis qa'n-i horčîn qorčîn turqa'ūd  
出でん” と云いて 出づる や チンギス 可汗 を かこみ 矢筒士達 当番兵達

to'ōrin bajyiba. (238)  
とりまき 立ちぬ。

§ 278 (三42四~六) basa kebte'ül minu beye ča'ada ordo horčîn  
“また 容直番は 我が 身に そいて 宮居を かこみ

bajyiju e'ūden daruju kebtetügej. (239)  
立ちて 戸帳に 接して 臥すべし。

horči- 《(物の周囲を) とりまく; 廻る》も horčiju が 2例見られるので、  
horčîn のみとは言えないが、-n との結びつきは上例の如く、15例にものぼ  
る。horčiju の 2例を参考のために挙げて見る。

§ 121 (三37十~38六) ja'ārin irejü nadur nidün-dür-iyēn üje'ülbe.  
神告 来りて 我に 目 に ← 己が 見せぬ。

qo'āčîn üniyēn irejü Jāmuqa-yi horčiju yabuju ger tergen inu  
淡黄色の 牝牛の 来りて チャムカ をば めぐりて 行き 包 軍を ← 彼の

mürgüle'ed Jāmuqa-yi mürgüjü öre'ele eber-iyēn quculaju soljir  
突きて チャムカ を 突きて 片方の 角 を(己が) 折りて 不揃いの

ebertü bolju eber minu ača keyēn keyēn Jāmuqa-yin jüg mō'ōlen  
角に なりて “角を ← 我が 与えよ”と云い 云い チャムカ の 方へ 吼え

mō'ōlen širo'aj sačun sačun bayimu. (240)  
吼え 土を まきあげ まきあげし 立ちあり”。

§ 254 (三23十~24一) tan-i törekü-yin urida hodutaj tenggeri  
“汝等の 生れる の 前、 星ある 天

horčiju büle'ē, olon ulus bulca büle'ē, oron-dur-iyān ülü oron  
めぐりて ありき、 さはなる 民人 飯き ありき、 臥床 に ← 己が 入らず

oljalaldun büle'ē. körisütej etügen körbejü büle'ē, gür ulus  
覆り合いて ありき。 土壌ある 大地は まろびて ありき、 あまねき民人

bulga büle'ë, könjile-de'yën ülü kebten görüledün büle'ë. (241)  
 坂き ありき, 衾 に(己が) 臥さず 争い合い ありき。

この2例の horčiju と15例の horčin を頭に入れて -n のことを考察した<sup>(5)</sup>い。

horčin の15例の中 §79の horčin saqi-, §80 horčin gar-, §192<sup>②</sup>の horčin kebte-, §195の horčin torolun güiyi-, §229, §230<sup>②</sup>の horčin kebte-, §279の horčin baiyi- の8例が動詞連結形で horči- と後続動作の同時性を -n で結んでいる。§57の horčin は文末の debse- (跳びはねる) と同時的であり, saqlacar modu を《とりまきながら跳びはね舞った》のである。§230<sup>②</sup>の前者は horči- と hirmes ülü ki- との同時性, 後者は jirim ülü kin との同時性が -n によって結ばれている。§245の horčin も文末の to'örin baiyiba と同時的である。

しかし, §145, §234の horčin は趣を異にする。§234の ordo horčin 《オルドをかこむ》は ordo-yin ger-ün kö'üd 《オルドの家子達》にかゝる形容句で, horčin は機能として形動詞である。Poppe 教授が“-n は発生的には形動詞”としている一例かとも考えられる。§145の horčin は更に一歩進んで現代語と同様《周周》を意味する実詞と見るべきである。文脈から見て §145の tere sa'ücsan horčin, bögleksen čisun asqacsan horčin の二つの horčin は実詞として《周匝, まわり》と読まねばなるまい。

しかし, この horčin の -n は副動詞の -n からの転化ではなく, 出動実詞形成接辞の -n と見ることも可能であろう。そう解すれば, 副動詞 -n の用例からは, この §145の horčin は除かれる。

以上, §145の2例の horčin を除いた13例の horčin の -n は複数の動作を同時元で結びつける職能をもち, いままで見て来た ayis-u-n, else-n, neyile-n, における -n の職能と等質である。

\* \* \* \* \*

-n とのみ集中的に結合する ayisun, elsen, neyilen, horčin の吟味を通し

て, 筆者は -n を様態(式)副動詞語尾と呼ぶよりも, むしろ「同時接合副動詞語尾」と呼ぶことにしたい。-n における《同時接合的職能》を重く見たいからである。

ところで, 前述の, 動詞 ke'ë- 《～と言う, ～と思う》に接尾する -n ke'ë-n~keyën の389例という突出について一言しておく。ke'ën~keyën の389例に対し, ke'ë-(keyë-)jü 145例, ke'ë-(keyë-)'ed 27例は秘史蒙古語における, この三語尾の使用状況に反する処があり, それは, 言うまでもなく, ke'ë-(keyë-)n の突出による。次の例を読んで見よう。

- ④ { §15 (一四四~九五) Dobun mergen ya'ün kü'ün či keyën asagu'äsu, tere kü'ün ügülerün……(242)  
 §19 (一七七~一八〇) ede tabun kö'üd-iyën jergelen sa'ü(n)lju niiji'el müsüd quculudqan ke'e'jü ögbe. (243)
- ⑤ { §18 (一七九~一八〇) ger dotora gacča Ma'alic=baya'üdaı kü'ün büyü, ede gurban kö'üd te'ün-ü'eı büj-je keyën eke-yüyën ečine keleldüküj-yi eke anu Alan go'a uqaıu……(244)  
 §13 (一七九~一八〇) Dobun mergen ügülerün nökör širolca da kējü'ü. ögsü ke'e'jü a'üšigitu jildü arasun inu abču čö'e bucu-yin miqa kübčün-i Dobun mergen-e ögbe (245)

④, ⑤ともに秘史卷一の巻初に近い文章である。④の §15 keyën asag'äsu と ke'e'jü ögbe とを比較して見ると, 一見したところでは, この keyë-n と ke'e'-jü との間に, 取立てた違いが見られない感がある。しかし, 仔細に検討すれば, 日本語訳からも知られるが, 前者は《～と(言って)——通常, この(言って)は必要ない——尋ねれば》と解せられるが, 後者は《～と言って与えた》のように, 《～と(言って)》と《～と言って》の違いがある。keyë- と asagu- との間には時間的間隔がないのに反し, ke'ë- と ög- の間には一つの流れではあるが, 時間的前後関係がある。

⑤の場合は keyën, ke'e'jü の次に若干の語句が挿入されて keleldüküj-yi

と ögbe に接続するが、上述の関係には変りがない。前者《〜と己が母の蔭で  
言い合いあるを》と後者《“与えよう”と言って〜ドブン・メルゲンに与へぬ》  
とは -n と -ju<sup>2</sup> の相違をはっきり示している。

ke'e-(keye-)-n が ke'e-jü よりも抜群に多く用いられるのは、この -n と  
-jü の表わす意義素の相違からもたらされたものと言える。一般に《と（言っ  
て）〜する》——例えば㉔、㉕の keyen asacu-, keyen keleldü- の如き——の  
動詞連結では ke'e-(keye-) と後接の動詞との関係は極めて密接で同時的であ  
る。それ故、連接接合の -ju<sup>2</sup> よりも同時接合の -n が当然のこととして多用  
される結果になる。

最後に -n の意義素を《複数の動作を同時元で接合し、日本語では“〜し”  
と訳せば当る場合が多い》と措定する。以上を以て第四講を終える。

第四講の註

(1) ここで主要動詞と呼んだのは、この三語尾の使用例の合計数が15例以上にのぼ  
る動詞のことである。例えば (2) abura- は abura-jü 13, abura-n 4, abura-'ad  
ゼロで合計17例にのぼるので、ここでの主要動詞に入る。ただし、この原則から脱  
れる動詞を、こゝに入れた場合があるが、それは筆者の考えによる。この主要動詞  
表は、種々興味ある事実を提示するが、それについては、機会を改めて取上げたい  
と考えている。

(2) この ese'ü amuj は以下の文に現われる。

§ 254 (±26六〜27四) 

額格	蔑徹	塔訥	塔塔周	額舌劣魯額	撒察温	客捏
肩甲	行	您的	扯着	人一同	齐等	怎生
egem-eče	tan-u	tataju	ere-lü'e	sača'un	ken-e	
		肩甲を ← 汝等の	引き	男子と	等しく	誰がため

李勒中合中忽	古主兀担徹	塔訥	塔塔周	古温魯額	撒察温	客捏	李勒中合中忽
傲的麼	頭項行	您的	扯着	人一同	齐等	怎生	傲的麼
bolgaqu,	küju'un-eče	tan-u	tataju	kü'un-lü'e	sača'un	ken-e	bolgaqu,
なせるや、	頭	を ← 汝等の	引きて	人と	等しく	誰がため	なせるや、

客額周	不亦	塔訥	阿舌里勒中合周	不舌兒備	塔訥	額舌兒古兀勒周	額舌列因
説着		您的	教淨着	脚後根	您的	教携起	看
ke'e'jü	buyi	tan-u	arilgaju	burbuj	tan-u	ergü'üljü	ere-yin
とて	汚物を ← 汝等の		浄め、	後腿を ← 汝等の		あげしめ	男の

額甘突(舌)兒	阿黑驪因	中合舌兒(中)甘突(舌)兒	古舌兒格周	額朵額	塔訥安	撒亦		
肩	行	驪馬的	後勝	行	教到着	如今	你比自的行	好
egem-dür,	agta-yin	qargam-dur	kürgejü	edö'e	tan-u-'an	sayi		
肩甲	に	去勢馬の	尻	に	到らせ、	「今	汝等の ← 己が	よきを

兀者速	客延	薛楊乞周	額薛兀	阿梅	李黑塔	中合敦	必答訥	納舌蘭	篋圖
見我	麼道	想着	不曾	有麼	賢明	娘子	咱的	日	般
üjesü	keyen	sedkijü	ese'ü	amuĭ,	bocta	qaḍun	bidan-u	naran	metü
見ん	と	想いて	あらざるや、	賢き	右は	← 我等の		日輪の如く	

格裕延	納語舌兒	篋圖	迭勒格舌兒	薛楊乞勒禿	不列額	客額
明	海	般	寬洪	心有的	有來	說了
gegeyēn,	na'ür	metü	delger	sedkiltü	büle'e	ke'ebe.
明るく、	大湖の	如く	広大なる	心もちて	あり	に云いぬ。

この文は、テムジン・チンギス可汗の次男チャダイが己が兄ヂョチの出生をめぐ  
って、口にすべからざる事を語った時——それは、己が母ボルテへの配慮を欠く故  
に——チャダイを諫めた幕臣ココチョスの言辞の最終の部分である。チンギスの槽  
糠の妻として狂乱怒濤の中を生きた妻ボルテは、又ヂョチ、チャダイ、オゴデイ、  
トルイの4男の母でもあった。秘史の§254後半は、ココチョスをして、戦乱に明け  
暮れた当時のモンゴル草原において、ボルテがテムジンと共に大きな艱難辛苦を乗  
り越えて、息子達をいかに雄々しき益良夫に育て上げたかを語りしめている。その  
最後の言として、

“今や汝等のよき(晴姿)を見ん”

と想いてあらざるや (ese'ü amuj)

と言っているのである。amuj は現在形であるから ülü'ü amuj が秘史蒙古語文法  
の点から見ればありうべき形である。こゝに ese が用いられたのは、過去からこの  
時までの様々なことがらを想起しつつ、今汝等のよき益良夫ぶりを見ようと想っ  
ているのではないかという過去への回想を ese'ü に語りしめたものではなからうか。  
この破格の ese'ü を筆者は、この様に見たいと思う。

(3) ayisu- が -la'a(i)<sup>2</sup> 系の語尾をとる例が3例ある。秘史蒙古語における -la'a(i)<sup>2</sup>  
系の語尾は、すでに詳説した様に、その本質は過去における行為・動作を回想的に  
敘述するところにある。

現代のハルハ方言をはじめとするモンゴル語諸方言でも、この本質は失なわれて  
いないが、それと共に、例えばハルハ方言では、

Одоо би харилаа。《今、帰ります、帰るところです》

の様な -лаа<sup>4</sup> の用法がある。この -лаа<sup>4</sup> は少くともテンスの点から見れば、現在及  
び未来に属する行為に用いられる -лаа<sup>4</sup> であり、《回想》には結びつかない。この  
-лаа<sup>4</sup> が何処に由来するのか、筆者はかねてから気になっていたが、秘史蒙古語の  
ayisula'a, ayisulu'a にその端緒を求めうることを知った。

## § 62 (一42八~43二) 德薛禪 鳴詰劣舌論 也速該中忽答 虔途兒 勺舌里周

名 說 名 親家 難行 指者  
Dej sečen ügüleriün Yesügei quda ken-dür joriju  
デイ・セチェンの言うに “イエスゲイ 縁者よ いずこに 目指して

阿亦速刺阿 客額主兀 也速該把阿秃兒鳴詰劣舌論 額捏可兀訥 米訥  
來 說有 名 說 這 兒子的 我的  
ayisula'ā ke'ejü'ü. Yesügei=ba'atur ügüleriün ene kö'ün-ü minu  
来つあるや” と云えり。 イェスゲイ・バアトルの言うに “この 子 の ←我が

納中合出納兒 斡勒中忽訥兀惕 亦兒堅途兒 斡乞中忽余速客延 阿亦速魯阿  
母舅 比行 人 氏 百姓 行 女 索 麼道 來  
nağaču-nar Olqunu'üd irgen-dür öki Guyusu keyën ayisulu'ā  
叔父 達 オルクスウド 人衆 に 「嫁を求めん」とて 来つあり”

客額主兀  
說有  
ke'ejü'ü.  
と云えり。

ここに見られる ayisula'ā, ayisulu'ā の -la'ā, -lu'ā は、その文脈から見て《回想》の -la'ā, -lu'ā とは見られない。ayis-u- のもつ《現にこちらへ向って・あちらへ向って》移動しつつある》という動作の現行態を表示する意義素と相俟って -la'ā, -lu'ā は《今現に〜しつつある》を意味すると見ねばならない。この《今現に〜している》の意味から《今から〜する》への意味上の移行を考えることには、それほど大きな抵抗はない。現代のモンゴル語諸方に見られる《これから〜する》を意味する -maa' は、知りうる限りでは、ここに起源を求めうると思われる。

(4) keyën keyën (〜と云い云い), mö'ölen mö'ölen (吼え吼え), sačun sačun (まきあげ, まきあげ) は -n が reduplicate された形で、この様な形式からも -n の《同時性》がよく証されると云えよう。keyën keyën, mö'ölen mö'ölen, sačun sačun は、その同時的行為をさらに強調的に表現した様式と見ることが出来る。秘史蒙古語には、例えば、keyëjü keyëjü, mö'ölejü mö'ölejü, 或いは saču'ad saču'ad の如き形が見られないだけに、この -n -n の形式は、注意されなければなるまい。

(5) 本文では -n をのみとる動詞語幹を考察したが、-ju<sup>2</sup> のみ、-äd<sup>2</sup> のみをとる動詞語幹もあるので、それを以下に列記しよう。

abčira-ju 17 abčira-n ゼロ abčira'ad ゼロ  
güyi-jü 13 güyi-n ゼロ güyi-'ed ゼロ  
ilga-ju 15 ilga-n ゼロ ilga-'ad ゼロ  
yorči-ju 14 yorči-n ゼロ yorči-'ad ゼロ

以上の4動詞は -ju<sup>2</sup> のみを取って、-n, -äd<sup>2</sup> を取った例が一つも見られない。これは偶然ではあるまい。ここでは、これについての考察の余裕はないが、これら

の動詞語幹のもつ意義素との関連の上で考察するべきであろう。

bü-jü 1 \*bü-n ゼロ bö-'ed < \*bü-'ed 28

この語 bö'ed は語幹 bü- に -'ed が附され、bü- の母音 ü が幾分広くなり bö'ed として現われていると見るが、büjü 1例, \*bün ゼロなのに対し、bö'ed 《〜であつて》のみが28例と突出するのは何等かの理由がある筈である。又、上の \*bün が1例も見られず、この \*bün に到っては秘史蒙古語のみならず、蒙古語文語、現代のモンゴル語諸方言においても全く発見されないことも、当然その理由を考えて見なければならぬ。

bö'ed が28例と突出しているのは、この語が本来の意《〜であつて》の他に特別な意に用いられた例の多いことに帰因する。この、いわば特殊な bö'ed については「元朝秘史全訳統改(上)」p.12註(1)を参照されたい。

さて、筆者は動詞語幹 bü- に対し、一つの仮説を提示しておきたい。

秘史蒙古語には「不舌命」bürün という形が22例見られる。これは、従来、bü-rün と分析され、動詞語幹 bü- に converbum praeprativum (準備副動詞) の -rün が附されたものとする。

この不舌命22例を精査すると、二つの異った用法に分けられることが判明する。

- (1) (二29八) 赤不舌命 či Bürün (你呵), (三七) 必不舌命 bi Bürün (我呵)  
(四50四) 額捏不舌命 ene Bürün (這箇呵), (五9五) 王中罕不舌命 ong qan Bürün (人名有呵)  
(七42八) 必不舌命 bi Bürün (我呵), (八19七) 必不舌命 bi Bürün (我有的)  
(十30二) 中合撒舌兒不舌命 qasar Bürün (人名有), (三4八) 必不舌命 bi Bürün (我有的)  
(三23四) 納馬宜不舌命 namayi Bürün (有呵), 巴不舌命 ba Bürün (俺有呵)  
(三32八) 不舌里宜 不舌命 Büri-yi Bürün (人名行 有呵)
- (2) (一40九) 客額里台 不舌命 ke'elitej Bürün (懷孕 有的)  
(三10四) 不舌兒吉額舌兒吉迭 不舌命 Bürgi ergide Bürün (岸名岸行有來)  
(四2六) 斡劣該不刺中合 不舌命 Ölögej bulag-a Bürün (地名 住着)  
(五32十) 田迭不舌命 tende Bürün (那裏者呵)  
(六30二) 赤馬突舌兒 不舌命 čimadur Bürün (你行有呵)  
(七13三) 亦魯中合兀魯阿惕 不舌命 idqa'ulu'ad Bürün (被勸 了 有着)  
(八12二) 乃蠻魯阿不舌命 Naïman-lu'a Bürün (種名一同 有的)  
(八27七) 土失額惕 不舌命 tüši'ed Bürün (委付了 有着)  
(九34四) 莎那速阿惕 不舌命 sonosu'ad Bürün (聽了 有呵)  
(九43一) 莎那速阿惕 不舌命 sonosu'ad Bürün (聽了 有)  
(三45二) 莎那速那惕 不舌命 sonosu'ad Bürün (聽了 有問)

(1)に属する11例と(2)に属する11例を対比して見ると同じ「不舌命」でありながら、



同一視し得ないこと一目瞭然である。(1)に属する不舌音は bi (我), ċi (汝), ba (我々), ene (これ), ong qan (王汗), Qasar (カサル) など代名詞, 個有名詞を受けて, その上接の語を強く提示する語として用いられ, 簡潔に表現すれば日本語の《～は》で訳出できる。これは傍訳字の「呵」からも窺うことができる。一般に「呵」は秘史では条件副動詞語尾「一阿速(額速)」、「一巴速(別速)」《～ならば》に附される傍訳字である。上の(五九五)王中罕 不舌音の「有呵」, (七四二八) 必不舌音の「我呵」, (八一九七) 必不舌音の〈我有呵〉(有的とあるのは呵の誤写), 巴不舌音の〈俺有呵〉などの〈有呵〉から見ると bi bürün は bi (我), bü- (である), -rün (～する時) から《我である時→我であれば→我ならば→我は》の過程を経て《～は》の意を表示するに到ったものと解される。

(2)の不舌音は(1)の場合と事情が異なる。

(三10四) Bürgi ergide bürün 《ブルギ岸にいて》, (四2六) Ölögei bulag-a bürün 《オロゲイ泉にいて》さらに(五32十) tende bürün 《そこにいて》, (六30二) ċimadur bürün 《汝のもとにいて》などは与位格の語尾の次に bürün が現われ bü- (いる, ある) の意がはっきり示されている。しかし, ここに見られる -rün は(1) -rün とは異っている。それは秘史の傍訳者にも理解されていた如く, 例えば上の Ölögei bulag-a bürün の傍訳は「地名住着」とあり, bürün に「住着」をあてている。又, (七13三) idqa'ulu'äd bürün, (八27七) tüši'ed bürün の bürün に対しては「有着」が附され, (1)の場合の「呵」と異り, ここでは「着」が現われている。(2)の場合は分離副動詞語尾 -'äd/'ed と共に bürün が用いられているのも特徴的である。(2)の bürün の表わす意味は《～にいて; ～であって》と解され, (1)の《～は》とは質的に異り, 《いる, 存在する》の意が濃厚であり, büjü, \*bün, bü'ed > bö'ed などによって表わされる意に近いものと思われる。以上の状況から判断して, 筆者は, この(2)に属する bürün は bü-rün ではなく \*bür-ü-n と見る。即ち, 従来, 「存在」を意味する動詞語幹として一般に認知されている bü- は, より古くは \*bür- であったと考えたい。この \*bür- は同時接合副動詞語尾 -n 以外の動詞語尾と接する際には語末の -r は消失し, -n と接する時のみ bür-ü-n として本来の形を保持し, かくして bür-ü-n > bürün (2) が生れ蒙古語の世界に定着した。bürün (1) は \*bür- に語尾 -rün が接尾したもので, -n 以外の語尾と接する際には \*bür- の -r は消失する故に, \*bür- > bü- に -rün が接尾され bürün (1) が形成されたものと考えられる。

要約すれば

\*bür-rün > bü-rün > bürün (1)

\*bür-ü-n > bürün (2)

と公式化できよう。

モンゴル系の言語には, 母音で始まる(或いは母音のみの)動詞語尾が皆無なので, 古い段階で \*bür- > bü- が成立したと考えられよう。-n の接尾に際してのみ \*bür- の -r が生きているのは, 子音に終る動詞語幹に -n が接尾される時には,

常に介入母音としての -u- が挿入されるモンゴル系言語における常道に従ったものと説明されよう。

このように, bü- のより古い形として動詞 \*bür- (いる, ある) を仮定することによって bürün (1) と bürün (2) の意味上の差異は容易に説明されると筆者は考える。

然らば, こゝに想定した \*bür- (いる, ある) は単に観念上, 理論上の形かと言うに, そうではない。筆者は bürin (総ての, あらゆる; 完全な), büri (～毎) の二語の中の \*bür- に上記のより古い語幹 \*bür- が現われていると見たいと思うのである。

第五講 動詞の副動詞形〔Ⅱ〕

前講にひきついで副動詞語尾の解説を行うが、その用例の多い語尾の順に以下に記述を進める。

§ 1. 条件副動詞語尾 -'āsu<sup>2</sup>, -bāsu<sup>2</sup>

-'āsu<sup>2</sup> は秘史蒙古語では広く用いられ、その表わす意味も、かなり多様である。既定の条件にも、仮定の条件にも用いられ、又、現在、未来、過去を問わない。更に助詞 ber を伴い——或いは伴なわなくともよいが——譲歩の意味を表わすこともあり、その上、理由を表わすこともある。日本語では《～ならば、～だったならば、～したら、～した時；～でも、～だったとしても；～なので、～だったので》等と訳することができる。

-bāsu<sup>2</sup> は、その表わす意味、用法、ともに -'āsu<sup>2</sup> と異なるところはないが、-bāsu の13例、-bēsü の7例で、その用例は -'āsu 217例、-'ēsü 239例に比して極めて少ない。-bāsu<sup>2</sup> の20例の中、その $\frac{3}{4}$ 弱の13例までが巻一、巻二に集中していることを見る<sup>(1)</sup>と、-bāsu<sup>2</sup> は -'āsu より一段古い形かとも思料される。以下に -'āsu<sup>2</sup>, -bāsu<sup>2</sup> の実例を見よう。

〈1〉 § 137 (四22六～23三) 赤刺温中孩亦赤 統格 中合失

人名 人名 人名  
 Čila'ün=qajyiči Tüŋge, Qaši  
 チラウン・カイチは トンゲ, カシ

中豁牙舌兒 qoyar 二人の	可兀的〔耶舌里〕顔 kö'üd-iyēr-iyēn 兒子自的行 子達 をつれ←己が	巴撒 basa 再	成吉思中合罕突舌兒 Činggis qahān-dur 太祖 皇帝 行 チンギン 可汗 に	阿兀勅札周 a'üljaju 拜見 着 謁見して
-----------------------	--	-----------------	--	-----------------------------------

鳴話列舌論 ügülerün 説 言うに	阿勒壇 altan 金	孛莎中合 bosoga 門限	赤訥 činu 你的	撒乞周 sakiju 守着 守りて	阿秃中孩客延 atucaɣ keyēn 教住 麼道 あらしめよ」とて	幹克罷 <sup>原作</sup> ögbe 与了 与えぬ	必 bi, 我 我は、
-------------------------------	-------------------	----------------------	------------------	----------------------------	---	--	----------------------

阿勒壇 altan 黄金の	孛莎中合 bosoga 門限	赤訥 činu 你的	撒乞周 sakiju 守着	阿秃中孩客延 atucaɣ keyēn 教住 麼道	幹克罷 <sup>原作</sup> ögbe 与了	必 bi, 我	幹(舌)兒堅 örgen 寛
---------------------	----------------------	------------------	---------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------	----------------------

額閏闕 e'üden 戸限	額兒古周 ergüju 擡 着 挙げ	幹克秃該客延 ögtügei keyēn 教与 麼道 しめよ」とて	幹克罷 <sup>原作</sup> ögbe 与了	必 bi, 我	幹(舌)兒堅 örgen 寛
---------------------	-----------------------------	--	---------------------------------	---------------	----------------------

額閏闕捏徹 e'üden-neče 戸限	赤訥 činu 你的	幹額舌列 ö'ere 別 はなれ	幹都阿速 odu'āsu 去 咱 行かば	幹舌列亦訥 öre inu 心 他的 みずおちを←彼の	米跌舌里周 miderijü 賜 着 けりて	格揚坤 gēdkün 徹 すてよ”
----------------------------	------------------	---------------------------	-------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------	----------------------------

客額罷<sup>原作</sup> (245)  
 説了  
 ke'ebe.  
 と云えり。

〈2〉 § 168 (五46一～46六) 兀舌里黑答周 成吉思中合罕 哈舌兒班  
 urigdaju Činggis qahān harban  
 被 喚 着 太祖 皇帝 十  
 招かれて チンギス 可汗 十

哈舌闕 haran 人	阿亦速舌論 ayisurun 来 時	札兀舌刺 ja'ūra 路間	蒙力克 Münglig 人名	額赤格因 ečige-yin 父 的	格舌兒圖舌兒 ger-tür 家 裏	(中)豁那阿速 qono'āsu 宿 呵 宿れば
-------------------	--------------------------	----------------------	----------------------	--------------------------	--------------------------	-----------------------------------

田迭 tende 那裏	蒙力克 Münglig 人名	額赤格 ečige 父	鳴話列舌論 ügülerün 説	察兀舌兒別乞宜 Ča'ūr=beki-yi 女 名 行 “チャウル・ベキ を	中忽余阿速 cuyu'āsu 索 呵 乞へば	木揚魯 mud~lu 他比但 彼等 を
-------------------	----------------------	-------------------	------------------------	---	---------------------------------	------------------------------

必答泥 bidan-i 俺 行 我々 を	朵舌藍只刺周 doromjilaju 下 観 着 さげすみて	兀禄 ülü 不 与え	幹昆 ögün 与 ず	不列額 büle'e, 有来 ありき、	額朵額 edö'e 如今 今	客舌兒 ker 忽生 なんぞ	不舌魯兀牙 buru'uj-a 特地 ことさら
-------------------------------	---	----------------------	----------------------	------------------------------	-------------------------	-------------------------	----------------------------------

不兀勸札舌兒 亦啞舌列 兀舌里主兀。(246)

許寤 筵席 喚來 喚着(了)  
bu'ūljar idere uriju'ū.  
婚約の食を 食するべく 招きたる”

<3> § 108 (三12三~12七) 札木中合鳴話列舌論 李羅安別舌兒  
人名 說 風雪 也  
Jamuqa ügülerün boro'an~ber  
チャムカの 言うに “風雪 なり

李魯阿速 李勸札勸突舌兒 中忽舌刺別舌兒 李魯阿速 中忽舌刺勸突舌兒 不  
做呵 約會 裏 雨 也 做呵 聚會 裏 休  
bolu'āsu boljal-dur, qura~ber bolu'āsu qural-dur bū  
とも 約會 には、 風雨 なりとも 聚會 には

中豁只荅牙 額薛兀 客額勸都列埃 必荅 忙中豁勸 者 安荅中合舌兒壇  
落後咱 不曾 共說來麼 咱每 達達每 応許声 做誓 有的每  
qojidaya ese'ū ke'eldüle'eī bida, Mongcol je andacartan  
おくれまいそ と言い 合わざりしや 我等、 「モンゴル人は チューの 宣誓者に

不速禿 者迭扯 中豁只荅黑撒泥 者舌兒格迭扯 中合舌兒中合牙 客額勸都列埃  
不有來麼 応許行 落後了的 行 班列 裏 教出去咱 共說來  
busutū je-deče qojidacsan-i jerge-deče gargaya ke'eldüle'eī  
あらずや、 チューより おくれし者 を 戦列 から はずさん、 と言い合いたるなり”

格額戩。(247)  
說了  
ke'ēbe.  
と云えり

<4> § 188 (七7九~8一) 門 闊闊出 阿黑驕赤宜 圖思 中罕你顏  
只 人名 管馬的 行 正主 皇帝 自的 行  
mun Kököčü actači-yi tus qan-iyān  
かの ココチュ 馬夫 を “己が 汗を(己が)

額因 帖赤周 亦舌列主為 額亦模 古温 額朶額 虔突舌兒 那阿扯額速  
這般 捨着 來了有 這般 人 如今 誰行 做伴 呵  
eyin tebčijū irejū'ū. eyimū kü'ūn edō'e ken-dür nököče'ēsū  
かく 捨て 来れり。 かゝる 人、 今、 誰 に 友たるとも

亦帖格克迭古 客額周 察赤周 格罷<sup>原作</sup> (248)

可倚仗 說着 斬着 撒了  
itegegdekü ke'ejū čabciju gēbe.  
信ぜらるべきや” とて 斬り 捨てぬ。

<5> § 29 (一18二) 帖迭亦兒堅 李端察舌命 中合兒赤(中)孩  
那 百姓 黃 鷹  
tede irgen Bodončar-un qarčicaj  
それらの人衆 ボドンチャル の 鷹を

中忽余阿速 額薛幹克戩。(249)  
索着 不曾 与了  
guyu'āsu ese ögbe.  
乞えど 与えざりき。

<6> § 200 (八13一~13六) 乃蠻 篋舌兒乞的 木中忽惕中罕巴舌刺阿速  
種名 種名 行 教 窮 極 呵  
Naiṃan Merkid muqudqaṅ bara'āsu  
ナイマン族、メルキド族を 窮滅し 了れば、

札木中合 乃蠻魯阿不舌命 田迭 兀魯昔顏 阿荅阿速 門  
人名 種名 一同 有的 那裏 百姓 自的 行 被要了呵 他  
Jamuqa Naiṃan-lu'ābürün tende ulus-iyān abda'āsu mun  
チャムカ ナイマン族と共にありて、 そこに 民人 を(己が) 取られたれば、 彼は

塔奔那可楊禿 幹幹舌兒察黑 李勸周 儻魯 迭額舌列 中合舌兒抽 兀中忽勸札  
五箇 伴当有的 劫(賊) 做着 山名 上 上着 羶羊  
tabun nöködtü o'örčac bolju Tanglu de'ere garču ugulja  
五人の僚友と共に 殘賊に なりて タンル山 に 上りて 羶羊を

阿刺周 失舌刺周 亦啞舌命 田迭 札木中合 那可楊帖延 鳴話列主兀  
殺着 燒着 喫時 那裏 人名 伴当每 行 說了有  
alaju širaju iderün tende Jamuqa nököd-teyēn ügüleju'ū,  
殺し 燒きて 食するに そこに チャムカ 僚友 に(己が) 言うに、

客訥 可兀<sup>楊</sup> 額捏 兀都<sup>毛</sup>兒 兀中忽勸札 阿刺周 額因 亦啞模  
誰的 子每 這 日 羶羊 殺着 這般 喫有  
ken-ü kō'ūd ene üdür uculja alaju eyin idemū  
“誰 の 子等、 この 日 羶羊を 殺し かく 食するか”

客額主兀。(250)

說了有  
ke'ējü'ū.  
と云えり。

〈7〉 § 190 (七15九~16四) 巴撒 別勒古台 那顏 鳴訖列舌論  
再 人名 官人 說  
basa Belgütej noyan ügülerün  
また ベルグテイ ノヤンの 言うに

阿米堆 孛額帖列 那可舌列 中豁舌里顏 阿卜荅阿速 阿黑三 牙温 土撒脩  
造 有聞 伴当行 箭筒 自的 行 被要了阿 活的 甚 濟 行  
amiduj bö'ētele nökör-e qor-iyān abda'āsu aqsan ya'ün tusa büj,  
“生きて ありながら 敵 に 矢筒 を(己が) 取られなば 生きる 何の 益 あらん。

脫舌列克先 額舌列迭 兀窟額速 塔乞 中豁舌兒弩門魯(阿)班 牙孫魯阿  
生了的 男子行 死 呵 也 箭筒 弓 一同自的 行 骨頭一行  
töregsen ere-de ükü'ēsü taki qor numun-lu'ā-bān yasun-lu'ā  
生れし 男子 として 死すとも 矢筒・矢 と共に←己が 骨 と共に

你刊捏 客卜帖額速 兀禄兀撒回備 乃蠻 亦舌兒堅 兀魯思 也客秃  
一行 隊 呵 不 好 有 種名 百姓 国 大有的  
niken-e kebt'ēsü ülü'ū sayin büj, Najman irgen ulus yeketü  
一緒 に 死なば よからずや, ナイマン 人衆は 「民人 大にて

亦舌兒格 幹羅秃 客延 也客 兀格 鳴訖連 阿主兀。(251)  
百姓 多有的 慶道 大 言說 說 有  
irge olotu keyēn yeke üge ügülen aju'ū.  
人衆 多し とて 大 言を 言いて ありき。”

〈8〉 § 85 (二22九~23四) 格舌倫別勒格 循秃速舌魯額楊 額速吉顏  
家虎 記号 生馬跡子 傾了 熟馬跡子自的 行  
ger-ün belge šün tūsürü'ēd esüg-iyēn  
包 の しるしは 乳を (皮袋に)注ぎ 馬乳酒 を

雪你迭 兀都兒察亦塔刺 不列窟 不列額 帖舌列別勒格 莎那思抽 逐步巴速  
徹夜 日 明到了 澎 有来 那 記号 聽 着 行 呵  
sōni-de üdür čayitala bülekü büle'ē. tere belge sonosču yabubāsu  
夜を徹し 日の あくるまで たゞき打つ なりき。 その しるし音を 聞き 行けば,

不列兀舌倫 儻兀 莎那思抽 古兒抽格兒圖兒 亦訥幹舌羅巴速 鎖兒中罕失舌刺  
澎 的 声 聽 着 到 着 家 裏 他的 入 呵 名  
büle'ür-ün dau'ū sonosču kürčü ger-tür inu orobāsu Sorqan-šira  
たゞき聲 の 音 聞きて 到り, 包 に ←彼の 入らば ソルカン・シラ

額客邊 迭兀捏舌里顏 額舌鄰幹楊 額薛兀 客列魯額必 也勤 亦舌列罷赤  
母自的 行 弟每 自的 行 尋 去 不曾 說 來麼 我 為甚 來了 你  
eke-bēn de'ū-ner-iyēn erin od, ese'ū kelelü'ē bi, yekin irebe či  
“母 を(己が), 弟 達 を(己が) さがし 行け” と云わざりしや 我, いかんぞ 來れる 汝”

客額罷 沉白赤老温 中豁牙兒可兀楊亦訥 鳴訖列舌論 失保兀中合泥  
說了 名 名 兩 箇 兒每 他的 說 雀 兒 行  
ke'ēbe. Čimbaĭ, Čilaŭ'ün qoyar kō'ūd inu ügülerün šibaŭ'ūqan-i  
と云えり, チンバイ, チラウ 二人の 子達の ←彼の 言うに “雀 を

土林台 不塔圖兒 中豁兒中豁巴速 不塔 阿不舌刺主為 額朶額 必丹途兒  
龜 多 糞 裏 趕 入 呵 糞 教 了 有 如今 咱 行  
turimtai buta-tur qorcobāsu buta aburaĭju'ūj, edō'ē bidan-dur  
雀鷹が 糞 に 追込まば, 糞は 教いたり, 今 我等のもとに

亦舌列克薛泥 也勤 帖因客額木 赤 格延……。(252)  
來了的 行 為甚 那般 說有 你 慶道……。  
iregsen-i yekin teyin ke'emü či geyēn…….  
來れる を なんぞ かく 言うや 汝” と云いて……。

〈9〉 § 66 (一46三~46四) 幹乞亦訥 兀者別速 你兀兒秃舌里顏  
女子 他的 看 呵 面 自的 行  
ōki inu üjebesü ni'ür-tur-iyān  
汝を ←彼の 見れば 顏 に ←己が

格舌列台 你敦秃舌里顏中合勒台 幹乞泥兀者周 幹因秃舌里顏幹舌羅温(勒)罷  
光 有 眼 自的 行 火有 女子行 見 着 心意 自的 行 教 入 了  
geretej nidün-tür-iyēn caltai ökin-i üjeju oyin-tur-iyān oro'ū(n) lba.  
光あり, 目 に ←己が 火ある 乙女 を 見て, 心 に ←己が とどめぬ。

帖木真捏扯 你刊 納孫 也客 哈兒班台 阿主兀 孛兒帖捏舌列台  
人 名 如 一 歲 大 十 歲 有 來 名 名字有的  
Temüjin-neče niken nasun yeke harbantai aju'ū. Börte neretej.  
テムジン より 一 才 上の 十才もて ありき。 ボルテの 名あり。

雪你<sup>(中)</sup>豁那周 馬納<sup>(中)</sup>合<sup>(兒)</sup>石 幹乞亦訥 中忽余巴速 徹薛禪鳴詰列<sup>(舌)</sup>論  
 夜 宿着 明日 女 他的 索 呵 名 説  
 söni qonoju manacarši öki inu guyubāsu Dej=sečen ügüleriün  
 夜 宿りて あくる日 乙女を一彼の 乞えば デイ・セチュンの 云うに

幹變討兀 中忽余温勳周 幹克別途 迭額只列克迭古 輟延討兀 中忽余温勳周  
 多 遍 索 着 与 呵 崇 上 少 遍 索 着  
 olon ta'ū guyu'ū(n)lju ögbēsü de'ejilegdekü, čöyēn ta'ū guyu'ū(n)lju  
 “多き 度 乞われて 与えれば 崇めらる 少なき 度 乞われて

幹克別速 朶舌藍只刺黑蒼中忽……。(253)  
 与 呵 下 覷 ………。  
 ögbēsü doramjilacdaqu…….  
 与うれば さげすまる。”……。

〈10〉 § 32 (一20三~20四) <sup>(中)</sup>豁<sup>(舌)</sup>藍阿塔刺 統格黎<sup>(克)</sup> <sup>(中)</sup>豁<sup>(舌)</sup>羅<sup>(中)</sup>罕  
 畧 住間 小河  
 qoram atala Tünggelig goroqan  
 しぼし あるに トンゲリグ 川を

幹額迭 你刊 古温 阿亦孫 備由 古兒周 亦<sup>(舌)</sup>列別速 孛端察兒 門  
 逆水 一 人 来 有 到着 来 呵 是  
 ö'ēde niken kü'ün ayisun büyü. kürjü irebēsü Bodončar mun  
 廻りて 一人の 人 近づきつつあり。 到り 来れば ボドンチャル 彼

阿主兀。(254)  
 有  
 aju'ū.  
 なりき。

以上〈1〉~〈10〉の文例を一つずつ見て行こう。〈1〉の anggida odu'asu, ö'ere odu'asu——ともに《はなれ行かば》の意——の'asuは《(～ならば)と訳し得る, 假定条件を表わす典型的な用例である。〈2〉の qono'asuは《宿れば, 宿ると》と解すべき既定条件の-'asuであり, 後続の Ča'ūr=beki-yi guyu'asuは《チャウル・ベキを求めたれば》の意で, 時間的には過去の既定条件である。

〈3〉の boro'an~ber bolu'asu《風雪たるとも》, qura-ber bolu'asu《雨たるとも》の意で, -berを伴う-'asuの用法である。

〈4〉の ken-dür nököce'ēsü《誰に僚友として交わるとも》の意で, -berを伴うことなく譲歩の意を表わしている。〈5〉の guyu'asuも《乞うとも, 求むとも》と読むべき用例である。

〈6〉の Najman, Merkid muqudqaqan bara'asu, Ĵamuqa Najman-lu'ā büriün tende ulus-iyān abda'asuの二つの-'asuの中, 前者の-'asuは《(チンギス可汗が) ナイマン族, メルキド族を窮滅し尽したところ》とでも日本語訳できる用例で, 訳文上は異なるところがあるが, 既定条件の-'asuである。後者の abda'asuの-'asuは《とられたので》或いはもつと軽く《取られて》ぐらいに日本語訳される-'asuである。《チャムカはナイマン族と一緒にいて, そこで, 自分の民人を取られて——取られたので——彼は五人の僚友をつれた残賊となって, タンル山に上り……》と読めばこの-'asuは文脈上無理なく解しうる。'asu<sup>2</sup>-には, この様に既定条件の変種として“理由”を表わす用法があることを知らねばならない。

〈7〉の abda'asuは假定条件の-'asuで問題はないが, 次の töregsen ere-de ükü'ēsü takiの-'ēsüは takiに伴なわれて, 通常の假定条件の-'ēsüとは幾分趣を異にする感がある。

筆者はこの文を『全訳統攷(上)』p. 264において《生れし男子にとって, 死すとも, 己が矢筒・矢と骨と一つにて斃れなばよきにあらずや》と解し, ükü'ēsü takiを《死すとも》と解した。この解は, 基本的には受入れられると現在でも考えているが, ükü'ēsü takiを《死ぬる以上は, 死ぬる限りは》と解する方が, より良き読解ではないかと考える。ere-de ükü-一つのまとまりと見て《男子として死ぬ》と見ると, ere-de ükü'ēsü taki(この takiは tekiとして現われる方がより文法的ではある)を《男子として死ぬ以上, 死ぬ限り》の日本語訳の方が希望しいと筆者は見る。このように用いられた-'ēsü takiは假定条件の強調形と呼び得るであろう。

〈8〉, 〈9〉, 〈10〉は -bāsu<sup>2</sup> の用例を示した。〈8〉の yabubāsu, orobāsu の -bāsu は既定条件, qorcobāsu の -bāsu は仮定条件の表示である。テムバイ, チラウソンの兄弟の発したこの šibaŋ'ūqan-i turimtai buta-tur qorcobāsu buta aburaju'ui (鶻をはい鷹が叢に追いこめば, 叢は(それを)救うものなり)——(窮鳥, 懐に入らば, 獵子もこれを撃たず)に凝せられる——の一言がテムデンの運命を大きく変えた。ソルカン・シラは二人の息子のこの言を入れてテムデンをかくまい, テムデンは九死に一生を得る。この話, 勿論真偽の程はわからぬが, 秘史をいどころ一篇の挿話である。

〈9〉の üjebēsü, guyubāsu, ögbēsü の -bāsu<sup>2</sup> はともに, この語尾の典型的な用法である。ここに見える

ni'ür-tur-iyān gerētei, nidün-tür-iyēn caltai ökin  
 顔 に ←己が 光あり, 目 に ←己が 火ある 乙女

は, 少し前の § 62 の

nidün-tür-iyēn caltu, ni'ür-tur-iyān gerētü kö'ün

と形容句の順序は異なるものの同一の表現である。注意すべきは, 前者の gerētei, caltai に対し, 後者は caltu, nidütü を示すことである。《~をもつ, ~を所有する》の意を以て極めて生産的に用いられる現代のモンゴル語——例えばハルハ方言等々の——-raŋ/-rəŋ/-toŋ の淵源は勿論, この caltai, nidütēi の -tai/-teji であるが, この形は, 上例から明かな様に“女性形”であって, 男性形の -tu/-tü に対立する形である。現代のハルハ方言などで, 女性形に起源をもつ -tai/-teji が生産的で, 男性形の -tu/-tü の方は石化した語にのみ用いられる非生産的な接辞である。これには何等かの理由がある筈であるが, まだ明確な解を与えるに到っていない。この接辞 -tai<sup>2</sup>, -tu<sup>2</sup>, -tan<sup>2</sup> の厳密な通時的な研究—当然のことながら, 共時的研究も—が強く希まれる。

なお, 《目に火あり, 顔に光ある》の語句は優れた《子女》の形容句として現代まで生きていられると言われているが, 筆者はまだ, 現在のモンゴルの人々との対話の中で, この語句を耳にしたことはない。

〈10〉の kürjü——正しくは kürčü とあるべきもの——irebēsü Bodončar munaju'ü (到りて見れば, ボドンチャル, 彼, なりき)の -bēsü は現在の既定条件の好例と思えたので, 最後に加えた。

以上, 秘史蒙古語における -'āsu<sup>2</sup>, -bāsu<sup>2</sup> の諸用法の解明は尽されたと思えるが, 譲歩と理由を意味する用例と -'āsu<sup>2</sup> によって導かれる従属節の主語は対格語尾を伴って現われる例を附加しておく。

〈11〉 § 195 (七37十~38一) 中豁兒秃 古兀泥 中豁脫刺宜  
 帶弓箭的 人行 都行  
 qortu kü'ün-i qotola-yi  
 矢筒 人 を まるごと

札勤吉阿速 中豁幹來都里顏 兀祿 脫舌兒蒼由 古卜臣 額舌列宜 俺古額速  
 嚙阿 喉嚨 自的 不 被 碍 有 全 男子行 吞阿  
 jalci'āsu qo'olaj-dur-iyān ülü tordayu, kübcin ere-yi emgü'esü  
 のみこむとも のど に ←己が とどまらざるなり, 全き 男子 を ぶくめども

幹舌列 兀祿 札撒由。(255)  
 心 不 点 有  
 öre ülü jasayu  
 心 治まらざるなり。

〈12〉 § 150 (五八十~9三) 帖兀訥 中豁亦納 成吉思中合罕突舌兒  
 那的 後 太祖 皇帝 行  
 te'ün-ü qoyina Činggis qahān-dur  
 その 後 チンギス 可汗 に

客舌列亦敦 札中合敢不 帖舌兒速揚帖 不恢突舌兒 那可徹舌列 亦舌列羅  
 種 (的) 人名 地名行 有時 做伴 來了  
 Kereyid-ün Jaqa=gambu Tersüd-te бүкүй-дүр нөкөчере иребе.  
 ケレイド族の チャカ・ガンブ テレスド に ある 時 僕友たるべく 来れり。

帖舌列 亦舌列克先突舌兒 篋舌兒乞楊 中合楊中忽勒都舌刺 赤舌列額速  
 那 來了時 種 斃 殺 來了阿  
 tere iregsen-dür Merkid qadquldura ire'esü  
 その 来りし時 メルキド族 合戦に 来れば

成吉思<sup>中合罕</sup> 札<sup>中合敢不</sup> 乞額<sup>楊</sup> 中<sup>合楊中忽勒都周</sup> 亦出阿<sup>罷</sup>。(256)  
 太祖 皇帝 人名 等 斃 殺 着 教退了  
 Cinggis qahān Jaqa=gambu kiged qadqulduju iču'āba.  
 チンギス 可汗, ザカカ・ガンブ 等 合戦して 退けぬ。

<13> § 174 (六17二~17四) 帖迭 阿泥 額薛 亦<sup>舌</sup>列額速 斡<sup>楊</sup>抽  
 那裏 他行 不曾 来 呵 去着  
 te(n)de ani ese ire'ēsü odču  
 “そこに 彼等 来らざれば 行きて

秣<sup>舌</sup>驪<sup>訥</sup> 准<sup>舌</sup>蒼兀<sup>勳</sup>斡<sup>斡</sup> 中<sup>豁</sup>舌<sup>兒</sup>埋刺<sup>周</sup> 阿<sup>(ト)</sup>赤<sup>舌</sup>刺<sup>楊</sup> 必<sup>蒼</sup> 帖迭額<sup>舌</sup>里  
 馬 乾 糞 殺 包 着 将 来 也者 咱每 他每 行  
 morin-u junda'ül metü qormaïlaju abčirad bida tede'er-i  
 馬 糞 の 如く 袖に包みて もち来るぞ 我等 彼等 “を”

客額<sup>原</sup>駭<sup>別</sup> (257)  
 說了  
 ke'ēbe  
 と云えり。

<14> § 240 (十17九~18一) 秃馬<sup>楊</sup> 亦<sup>舌</sup>兒客<sup>訥</sup> 那<sup>顏</sup> 歹<sup>都</sup>中<sup>忽勒</sup>  
 種 百姓的 官人 人名  
 Tumad irgen-ü noyan Daiđuqul=  
 トゥマド 人衆 の 長官 ダイドゥコル。

莎<sup>中</sup>豁<sup>舌</sup>里<sup>行</sup> 兀窟額速 額斡 亦訥 孛脫<sup>中</sup>灰塔<sup>舌</sup>兒<sup>中</sup>渾 秃馬<sup>楊</sup> 亦<sup>舌</sup>兒格<sup>泥</sup>  
 行 死了呵 妾 他的 婦 人名 種 百姓行  
 soqor-i ükü'ēsü eme inu Botoquï=tarcun Tumad irgen-i  
 ソコル が 死にたるもて 妻 ← 彼の ボトクイ・タルグン, トゥマド 人衆 を

斡迭<sup>周</sup> 阿<sup>主</sup>兀。(258)  
 管着 有来  
 medejü aju'ū.  
 治め ありき。

<11> の jalgi'äsu, emgü'ēsü の -'äsu<sup>2</sup> は《~しても》の譲歩の意を示す好例である。

<12> の qadquldura ire'ēsü 《殺し合いに来たので》と訳出しうる -'ēsü<sup>2</sup> である。

<13> の tede—tende の書写上の誤り—ani ese ire'ēsü 《そこに、彼等が来なければ》は対格形 ani 《彼等を》が主語として機能し、<14> の Daiđuqul=soqor-i の -i も主語表示の -i である。-'äsu<sup>2</sup>, -bäsu<sup>2</sup> に導かれる従属文の主語は、このように主文の主語と異なる場合には対格形によって表示され、これは秘史蒙古語から現代まで長く保持されている、モンゴル系諸言語における大きな特徴の一つである。最後に -'äsu<sup>2</sup>, -bäsu<sup>2</sup> の意義素を次のように措定する。

“-'äsu<sup>2</sup>, -bäsu<sup>2</sup> は、この語尾の接尾される動詞の動作が、後出の主文の動作に対し、広い意味で、何等かの条件を示すものである”と。

§2 限界・到達副動詞語尾 -tala<sup>2</sup>

この語尾 -tala<sup>2</sup> は秘史蒙古語の時代から今日のモンゴル語諸方言に到るまで用いられ続けている語尾の一つである。この語尾は基本的には、ある動作の到達点、限界を示すが、一方、その到達点までの過程をも表わしうる。日本語では《~するまで; ~する間》と訳せば当ることが多い。

しかし、秘史蒙古語では、この基本的な意味から派生されたと思われる用法もあり、かなり多義的に用いられている語尾と言うことが出来よう。以下に示す事例によって、この語尾の用法に接していただきたい。

<1> § 112 (三21五~21七) 不<sup>舌</sup>峯<sup>中</sup>罕<sup>泥</sup> 中<sup>忽</sup>赤<sup>勳</sup>都<sup>撒</sup> 中<sup>忽</sup>舌<sup>兒</sup>班  
 山名 行 相 西 繞 了的 三  
 Burqan-ni qučildugsad curban  
 ブルカン山 を めぐり合った 三

札兀<sup>楊</sup> 斡<sup>舌</sup>兒<sup>乞</sup>的 兀<sup>舌</sup>魯<sup>中</sup>渾 兀<sup>舌</sup>魯<sup>中</sup>合 古<sup>舌</sup>兒<sup>帖</sup>列 忽捏速額<sup>舌</sup>兒  
 百 種名 子孫的 子孫行 子孫行 到了 灰行  
 ja'üd Merkid-i uruc-un uruc-a kürtele hūnesü'er  
 百 メルキド族を 親族の 親族に 到るまで、 灰のごと

客亦思帖<sup>列</sup> 兀里<sup>楊</sup>格<sup>羅</sup>。(259)  
 刮 般 珍絶了  
 keyistele ülidgebe  
 吹き飛ばまで俄絶やしにせり。

〈2〉 § 11 (一7五~7六) 都娃鎖中豁舌兒 阿中合亦訥 朶朶兒邊  
 人名 兄 他的 三  
 Duwa=soqor aqa inu dörben  
 ドワ・ソコル, 兄は←彼の 四人の

可兀禿 不列額 帖堆 阿塔刺 都娃鎖中豁舌兒 阿中合亦訥 兀該  
 子 有来 那般 住間 人名 兄 他的 無  
 kö'ütü büle'e. tedüj atala Duwa=soqor aqa inu ügej  
 子もちてありき。 かく あるうちに ドワ・ソコル 兄 ←彼の なく

孛魯羅。(260)  
 做了  
 boluba.  
 なれり。

〈3〉 § 17 帖因 阿塔刺 朶朶兒干兀該孛魯羅。(261)  
 那般 住間 無 做了  
 teyin atala Dobun=mergen ügej bolba.  
 かく あるうちに ドブン・メルゲンなくなれり。

〈4〉 § 22 (一14六) 阿塔刺 阿蘭中豁阿 額客阿訥兀該孛魯羅 (262)  
 住間 母 他的 無 做了  
 atala Alan=co'ā eke anu ügej bolbi.  
 そのうち アラン・ゴア 母 ←彼等の なくなれり。

〈5〉 § 90 (二27八~27十) 你刊 兀都兒 失兒中合 阿黑鬪壇  
 一 日 慘白 鬪馬等  
 niken üdür širga acta-tan  
 一 日, 薄栗毛の 鬪馬など

乃蠻舌驪(驪) 格舌命 迭兒格迭 擺亦周 不恢亘 迭額兒篋 亦舌列周  
 八箇 馬每 家的 根前 立着 有的行 劫賊 来着  
 najman morid ger-ün dergede bajiyju büküj-yi de'erme irejü  
 八頭の馬の 包の 傍に 立ちて あるを 盜賊 来り。

兀者帖列 迭額兒篋(篋)抽 約兒赤罷。(263)  
 看着 劫着 去了  
 üjetele de'ermedčü yorčiba.  
 見る間に, 強奪し 行けり。

〈6〉 § 187 (七3十~4三) 客舌列亦(亦)兒格 倒兀里周  
 種名 百姓 勇着  
 Kereyid irge dau'ulijn  
 ケレイド族の人衆を 掠奪し

客捏別兒 額薛 都塔塔刺 禿格額勒都罷(原) 土綿禿別額泥 禿格額勒都周  
 任難行也 不曾 欠少了 共散与了 万姓行 共散着  
 ken-e-ber ese dutatala tüge'eldübe. tümen Tübe'en-i tügeldüjü  
 誰にも 欠けるなきまで わけ与え合たり。 トゥメン・トゥベゲンを わけ合いて

禿格帖列 阿不勒察罷(原) (264)  
 勾了 共要了  
 tügetele abulčaba.  
 十分に とり合った。

ここに挙げた6例は -tala<sup>2</sup> が、《~するまで; ~する間》を意味する、いわば本来の意を示す用例である。〈1〉の urug-un urug-a kürtele は《子々孫々に到るまで》を意味する慣用的語句で、秘史では屢々見られる表現である。又、直後の hünüsü'er keyistele も《灰の如く吹き飛ばすまで》も慣用表現で屢々用いられる。ともに、kür-《到る》-tele《まで》, keyis《吹き飛ばす》-tele《まで》の語構成なることを俟たない。

〈2〉, 〈3〉の tedüj atala, teyin atala は日本語の《そうこうする内に》に当る表現で、蒙古語では、日本語の《そうこう》の《こう》がなく《そうするうちに》である。tedüj《それほど》は edüj《これほど》, tedüj《それほど》, kedüj《どれほど》の系列の一語であり tedüj atala は直訳すれば《それほどある間に》となる。a-tala の a- は《ある, いる》を意味する基本動詞で、事物の客観的存在が示され、同じ《ある, いる》を意味する bü- は事物の主観的存在を意味する点で、この両者は基本的に区別される。

tedüj atala《かくあるうちに》の a-tala《ある間に, あるうちに》の a-《ある, いる》は個人の主観にかかわる《ある》ではないことは、その文脈から見て明らかであり、動詞 bü- を用いることは出来ない。a- と bü- については項を改めて後に詳説したい。



本題にもどる。〈4〉は *tedüi* も *teyin* もない単独で、しかも文頭に現われる *atala* で珍らしい例である。秘史でもこの様に用いられた例は他には見られない。これは、*tedüi* や *teyin* の省略された場合とも考えられないこともないが、筆者は *atala* が単独に用いられた例と見たい。

*atala* だけで《そのうち》を意味する用法と考える。

〈5〉の *üjetele* は《見ている間に》の意を表わすが、文章の味としては *üjetele de'ermedcü yorčiba* は《見ている間に→目の前で強奪して行った》との感を与える。

〈6〉の *ken-e-ber ese dutatala* の *-tala* は《誰にも不足しないまで》が直訳だが、意とするところは《誰にも不足しないほどに》と解しうる。

以上の6例は *-tala*<sup>2</sup> のもつ基本的な意味、《～するまで; ~する間》を示す用例であるが、以下の *-tala* は幾分趣を異にする。

〈7〉 § 174 (六15八~16三) *田迭 中豁亦納察 中合蒼安蒼都都舌児中罕*  
 那裏 後 処 人名  
*tende qoyina-ča Qada'an=daldurqan*  
 そこに 後より カダアン・ダルドゥルカン

額篋 可兀捏扯延 中合中合思亦舌列篋<sup>原作</sup> 亦舌列周 中合蒼安蒼都都舌児中罕  
 妻 子 自的 行 分離 来了 来着 人名  
*eme ko'ün-eče-yēn qacas irebe. irejü Qada'an=daldurqan*  
 妻、 子達 から(己が) はなれ 来りぬ。 来りて カダアン・ダルドゥルカン、

王中罕納兀格客延 鳴話列舌論 王中罕可兀邊 桑古迷  
 人名 的 言語 麼道 說 人名 子自的 人名 行  
*Ong qan-nu üge keyēn ügülerün Ong qan kö'ü-bēn Senggüm-i*  
 王 汗 の 言 とて 云う に、 王 汗、 息子 ←己が セングム が

兀出馬阿舌児 昂格思格中合察舌児 兀納塔刺 中合黒蒼周 迭額舌列 亦訥  
 射 名 數 紅 腮 倒了 被射着 上 他的  
*učuma'ār enggesge qačar unatala qacdaju de'ere inu*  
 ウチュマ矢もて 紅色の 頬を (馬から)落ちるまで 射られ 上に ← その

額客額舌児抽 田迭 鳴話列主為。(265)  
 翻 着 那裏 說了有  
*eke'erčü tende ügülejü'üj.*  
 もどり帰り そこに 言った。

〈8〉 § 197 (七47三~48二) 中忽闌中合敦 鳴話列舌論 納牙阿  
 女子 娘子 說 人名  
*Qulan qatun ügülerün Naya'a*  
 クラン 妃の 言りに “ナヤア

鳴話列列額 成吉思中合罕訥 也客那顏愷由 必 必蒼 中合禿 幹乞  
 說 来 太祖 皇帝的 也 官人 有 我 咱 一同 女子  
*ügülele'e, Činggis qahān-u yeke noyan büyü bi, bida qamtu öki*  
 言えり、 「チンギス 可汗 の 大 長官 なり 我、 我等 とにも

赤訥 中合罕納 兀者兀魯耶……中略……額朵額 納牙蒼察 阿撒黒塔刺  
 你的 皇帝行 共 獻 咱 如今 人名 行 問 問  
*činu qahān-na üje'ülüye……edö'e Nayā-dača asactala*  
 行きて 可汗 に 献上しよう…… 今 ナヤア より 尋ねるより

中合罕 莎余舌児中合阿速 騰格舌里因 札牙阿舌児 額赤格額客  
 皇帝 恩 賜 阿 天的 命 裏 父 母  
*qahān soyurqa'asu tenggeri-yin jayā'ār ečige eke*  
 可汗 おゆるし下されば、 天神 の お定めて 父 母の

脱舌列兀魯克先 馬舌里顏納察 阿撒中忽阿速 客延 幹赤兀勒主為。(266)  
 生了的 皮膚 行 問 阿 麼道 教 奏 了  
*töre'ülügsen mariyān-nača asagu'asu keyēn öči'üljü'üj.*  
 生んだ 肌 より 問はば(いかん)と 奏上せしめり。

〈9〉 § 256 (七35五~35八) 不舌児(中)罕泥 董中豁都埃 兀都兀牙  
 人名 行 作 声 未 行  
*Burqan-ni dungcodu'ai üdü'üj-e*  
 ブルカン が 声 を 出さ ざる に

兀舌里蒼 阿沙敢不 鳴話列舌論 古出 牙丹 李額帖列 中罕 李勳塔刺  
 先 人名 說 氣力 不能 有 間 皇帝 做  
*urida Ašagambu ügülerün küčü yadan bö'etele qan boltala*  
 まき立ちて アシャガムの 言りに “力 足りず ありなが 汗 たるは

牙温	客額周	扯舌里克	兀禄	捏綿	也客	兀格	鳴話列周	亦列主兀。
甚	説着	軍	不	派	大	話	説着	教去了
ya'ün	ke'ējü	čerig	ülü	nemen	yeke	üge	ügülejü	ilejü'ü.
いかに	とて	兵を	増	ます	大	言を	言いて	通りぬ。

(267)

〈7〉の *kö'ü-bēn Senggüm-i učuma'ār enggesge qačar unatala qačajü* は《自分の子、セングムがウチュマ矢で紅い頬を（馬から）落ちるまで（したたかに）射られて》と解すべき文で *unatala* の意味上の主語は *Senggüm-i* 対格形で表示される。これは上述の *-'äsu'* の場合と同様である。この *unatala* の *-tala* は《～するまで》という基本的な意味で理解できるが、〈8〉の *asactala* の *-tala* は《～するまで；～する間に》の意ではびったりしない。

筆者は『全訳統攷（上）』の p. 369 の註（9）において、《ナヤアから尋問している間に》と解したが、こゝは、モンゴルの諸学者の訳文

Наяа ноёноос асуухын оронд 《ナヤア長官から尋問する代りに》

を以て是とすべきとしたい。前後の文脈を考慮すると、この *asactala* は《尋ねる代りに、尋ねるよりも》の意と採る方が文意がより明かになる。クラン后は“ナヤアから尋問するより、父母の生んでくれた私の肌に尋ねれば（いいでしょう）”とチンギス可汗に奏上させたのである。*-tala*<sup>2</sup> には、この種の用法も見られることを附加しておきたい。

〈9〉の *bö'etele* の *-tele* は、従来 *-tala*<sup>2</sup> と同一視されているが筆者はこれを疑っている。*-tele* を *-tala*<sup>2</sup> と見れば、当然語幹を *bö'ē-* としなければならぬ。しかし、《ある、いる》を意味する語の語幹は *bö-<bü-* であって *bö'ē-* なる語幹は存在しない。それ故、筆者は *bö'etele* を *bö'ē-tele* と見ることは賛成できない。筆者の考えでは、これは *bö'ed+ele>bö'etele* と見るべきもので、それは *bö'etele* の表わす意味から知られる。*bö'ed* は秘史蒙古語では特殊な用法が見られるが、基本的には *bö-<bü-* に分離副動詞語尾 *-'ed* の接尾した形であり、《～であって》を意味する形である。しかし、時には《～

であるのに》の逆説の意をも表わす。

§ 17 (—10四～10六) *Teyin atala Dobun=mergen ügei bolba. Dobun mergen-i ügei bolucsan-u qoyina Alan=gowa ere ügei'üj bö'ed gurban kö'üd töre'ü(n)lbi.* (268)

上文の *bö'ed* は《アラン・ゴアは夫がいなくあるのに（夫がいなくのに）》のように逆説の意に用いられる。*bö'etele* は、この逆説の *bö'ed* を更に強制的に表現するために助辞 *ele* を附加して *bö'ed+ele>bö'etele* として成立したものである。それ故、秘史蒙古語に見られる *bö'etele* の全14例は殆ど総て、逆説的な《～であるのに、～でありながら》の意を示すのである。

*bö'etele* は、以上の観点から、筆者は *-tala*<sup>2</sup> の用例とは見ない。ところで、後続の *boltala* はどうであろう。*kücü yadan bö'etele qan boltala ya'ün* 《力致らずにあるに、汗たるは如何》と読めるが、*qan boltala* は直訳すれば《汗になるまで》であるが《汗にまでなるとは如何》の意と解せよう。*-tala*<sup>2</sup> は秘史全巻から123例——これは、「延べ語例」である。今まで挙げて来た、この種の総数は総て「延べ語例」である。これを「異なり語例」にすれば、その数は減少する——を発見しうるので、*-'äsu'* ほどではないが、多用される副動詞語尾の一つと見られることは確かである。

### § 3 動作保持副動詞語尾 *-gsa'är*<sup>2</sup>

この語尾の成り立ちは「完了の形動詞」*-gsa(n)*<sup>2</sup> に実詞造格語尾 *-bär*<sup>2</sup> の添加に由来する。即ち *\*-gsa<sup>2</sup>-bär<sup>2</sup>>-gsabär<sup>2</sup>~<sup>(2)</sup>-gsacär<sup>2</sup>>-gsa'är* の過程によって成立したものである。従って、その表わす意味も《～したことを以て、～したことによって》が元来のもので、この意味は、秘史蒙古語には、未だその度合の濃淡はあれ残っている。以下に示す若干の用例の中から、その始原的意味をくみとることも出来る。

〈1〉 § 180 (二15一～15五) 帖木真石<sup>(中)</sup> 恢朶脱<sup>舌</sup>刺<sup>三</sup> 中忽児班<sup>三</sup>  
 名 密 林 内 三  
*Temüjin šicuī dotora curban*  
 チムジン 林の 中にて 三

中豁那周 中合兒速客延 秣驪顏 可脱(勅)周 阿亦速(中)〈灰〉突兒 秣驪納察  
 宿着 出去找 麼道 馬自的行 索着 来的時 馬自  
 qonoju garsu keyēn mori-yān kōtōljū ayisuquj-dur morin-ača  
 泊して “出てん” とて 馬を(己が) 索きて 近づき来る に 馬より

額篋額(勅) 亦訥 木勸禿舌列周 中豁擲兒出兀 中合舌里周兀者額速 額篋額勅  
 鞍子 他的 脱着 墮落了 回着 看呵 鞍子  
 eme'el inu mültürejü qoçorču'ū, qariju üje'ēsü eme'el  
 鞍 ← 彼の はずれ 残れり、 かえりて 見れば 鞍は

可門勸都兒格列克薛額兒 幹郎刺(黑)撒阿兒 木勸禿舌列周 中豁擲兒出兀。(269)  
 拔臂 依着扣着 肚帶依舊扣着 脱着 墮落了  
 kōmū(n) Idürgelegse'er olanglacsar mültürejü qoçorču'ū.  
 胸がいをつけたるまゝ、 肚帯をつけたるまゝ はずれ 残れり。

〈2〉 § 94 (三36五~36六) 田迭扯 帖木真 別(勸)古台 中豁牙兒  
 那裏 人名 人名 兩個  
 tendeče Temüjin Belgütej qoyar  
 それより テムジン、 ベルグタイ 二人は

德薛禪訥 孛兒帖兀只泥 也孫納速禿 不恢突兒兀者周 亦舌列克薛額兒  
 人名 的 人名 行 九 歲 有時 見着 来了  
 Dej=sečen-ü Börte-üjin-i yesün nasutu бүкүй-дүр үежү ирегсе'эр  
 デイ・セチェンの ボルテ・ウジン を—(テムジン)九才 なる時 に 会い 来てより

中合中合察周 不列額 客魯舌漣 沐(舌)漣 忽中魯兀 額鄰幹(勸)罷。(270)  
 離着 有來 河名 河 順 尋 去了  
 qacačaju büle'e Kelüren müren huru'ū erin odba.  
 わかれて ありき — ケルレン 河を 下って さがし 行きぬ。

〈3〉 § 95 (二38三~38六) 孛幹兒出 別(勸)古台宜 古兒格兀魯額  
 人名 人名 行 教到了  
 Bo'örču Belgütej-yi kürge'ülü'ed  
 ボオルチュ ベルグタイ を 到らして

額赤格都舌里顏 兀祿 客列連 孛戈禿兒 中晃中豁舌里兀訥阿(勸) 孛舌羅  
 父 自的行 不 說 拱背 甘草黃馬 騎了 脊  
 ečige-dür-iyēn ülü kelemen bögötür qongqor-i unu'ad boro  
 父 に ← 己が 言わず 猫背の 栗毛の馬にのりて 灰色の

幹兒木格遺孛克禿舌魯額 別勸古台魯額亦舌列罷 帖舌列 那可徹克薛額兒  
 毛衫自的行 揶揄了 人名 一同 来了 那裏 自傲 伴了  
 örmüge-bēn bögtürü'ed Belgütej-lü'e irebe. tere nököčegse'er  
 毛布 を(己が) 馬につけ ベルグタイ と共に 来れり。 その 友たりつつ

那可徹恢 約孫 帖亦模。(271)  
 做伴的 理 那般有  
 nököčeküj yosun teyimü.  
 友たる ことわり 理 かくあり。

〈4〉 § 118 (三31五~31八) 禿中合舌倫 札木中合安荅因 客列列克先  
 恰纒 人名 契合的 說来的  
 tugar-un Jamuqa anda-yin kelelgesen  
 さきの チャムカ 盟友 の 話せる

客連 必荅突兒 孛額 折失古 兀格備由 必荅 不 保兀牙 額捏  
 話 咱每行 便 欲因的 言語 有 咱每 休 下咱 這  
 kelen bida-dur bö'ed ješikü üge büyü. bida bū baq'üya, ene  
 言葉は 我等 に ぞ もくろむ 言葉 なり。 我等は 下屬んまじ、 この

歌多魯克薛額兒 失里兀牙 中合中合潺 雪泥 都鄰 歌多魯牙 孛額  
 動了的 的 善行 分離 夜 兼行 動咱 便  
 ködölügse'er šili'üj-ā qacačan söni dülin ködölüye bö'ed  
 動きたるまゝ ひたと はなれ 夜を徹して 移らん それ

客額罷<sup>原作</sup> (272)  
 說了  
 ke'ēbe.  
 と云えり。

〈5〉 § 134 (四15五~15六) 格舌列亦教 脱幹舌鄰刺王捏舌列  
 種名的 人名 行 王名分  
 Gereyid-ün To'ori(n)-a Ong nere  
 ケレイド族 の トオリル に 王 なる名を

田迭幹(克)罷<sup>原作</sup> 王中罕捏舌列 王京丞相温 捏舌列亦都(克)薛額(舌)兒  
 那裏 与了 名分 人名 的 名 了 的 上頭  
 tende ögbe. Ong qan nere Ong-ging Čingseng-ün nereyidügse'er  
 そこに 与えぬ。 王 汗の 名 王 京 丞相 の 名づけたるにより

田迭徹 字(勅)罷。(273)  
 自那裏 做了  
 tendeče bolba.  
 そこより 起りぬ。

<6> § 179 (六35七~35九) 阿勅塔泥 赤馬宜 中忽秃刺中罕 魯  
 人名 行 你 行 人名 但  
 Altan-i čimayi Qutula qan-lu  
 “アルタンを 汝を 「クトゥラ 汗が

篋顛 迓步魯阿 額赤格余延 篋顛 阿黑撒阿舌兒 赤 中罕 字勅客額速  
 管 行 来 父 自的 管 住来的依着 你 皇帝 做 説呵  
 meden yabulu'ā ečiǵe-yüyen meden agsa'ār čī qan bol ke'ēsü  
 治め ありき 父 の(己が) 治め ありたるまゝ 汝 汗 たれ」と云わば

額薛 古 字勅罷者 赤……。(274)  
 不留 也 肯做 也者 你……。  
 ese-kü bolba-je čī…….  
 肯 ぜざりしりぞ 汝……。

<7> § 183 (六46九~47二) 巴勒渚納 納渚(舌)刺察 成吉思中合罕  
 水名 海子 媽 太祖 皇帝  
 Baljuna na'ūr-ača Činggis qahān  
 バルヂユナ 湖 より チンギス 可汗

兀荅阿舌闌 額兀速勅扯周 中合舌命 秣舌驪刺黑撒阿舌兒 客魯舌洌訥  
 隨即 共起着 出 上馬 依着 河名的  
 uda'aran e'ūsülčejü garun morilagsa'ār Kelüren-ü  
 続いて 出立し合い 出て 出馬せるまゝ ケルレン河の

阿舌兒中合勅苟吉迭 古舌兒罷別(原作) (275)  
 地名 行 到了  
 Arcal-geügi-de kürbe.  
 アルガル・ゲウギに 到りぬ。

<8> § 187 (七3一~3四) 幹樂 歹因突舌兒 哈兀魯阿速  
 多 敵 行 奔 呵  
 olon daiyin-dur ha'ulu'asu  
 “多くの 敵に 攻撃せば”

幹勅札幹魯阿速 幹魯黑撒阿舌兒 阿不楊中渾 兀刺阿 戈舌劣額孫 阿刺阿速  
 財物 得 呵 得了的依着 要 您 野 獸 殺 呵  
 olja olu'asu olugsa'ār abudqun, ura'ā gōrō'ēsün ala'asu  
 財物を 得れば 得たるまゝに 取れ、 逃げまどう 獸を 殺さば

阿刺黑撒阿舌兒 阿不楊中渾 客延 札舌兒里黑 字勅罷。(276)  
 殺 了的依着 要 您 麼道 聖旨 做了  
 alagsa'ār abudqun keyēn jarlic bolba.  
 殺せるまゝに 取れ” と 仰せに なった。

<9> § 205 (八37二~37八) 巴撒 帖兀訥 中豁亦納 塔塔舌兒  
 再 那的 後 種名  
 basa te'ün-ü qoyina Tatar  
 “また その 後 タタルの

亦舌兒堅突舌兒 蒼蘭捏木舌兒格思帖 失秃額額都周 中豁那阿速 中忽舌刺  
 百姓 行 地名 行 共抗拒 着 宿 呵 雨  
 irgen-dür Dalan-nemürges-te šitü'e'eldüjü qono'asu qura  
 人衆に ダラン・ネムルゲスにて 対陣し合いて 宿らば 雨

兀都舌兒 雪泥 兀舌兒古勅只 主薛舌列恢突舌兒 雪你 納馬宜 那亦舌兒  
 日 夜 如常 霖 雨 下 時 夜 我行 睡  
 üdür söni ürgülji jüsereküi-dür söni namayi noyir  
 日 夜 常に 降りしきる 時、 夜 我を 「眠り

阿(ト)秃中孩 客延 捏木舌兒格邊 捏木舌魯克薛額舌兒 米納 迭額舌列  
 教得者 麼道 覆衫 自的 行 覆衫 被 着 我的 上  
 abtucaj keyēn nemürge-bēn nemürügse'er minu de'ere  
 とるべし” とて 掛布を 蔽いつつ わが 上に

中忽舌刺兀禄出不舌里兀命 雪泥 蒼兀思塔刺 擺亦周 幹舌列額列 闊里顏  
 雨 不 教 漏 夜 画 了 直到 立着 隻 脚自的 行  
 qura ülü čuburi'ülun söni da'üstala baijiyu öre'ele köl-iyēn  
 雨 漏らしめず、 夜の つくるまで 立ちて 片 足を(己が)

中合黑濕蒼 也兀楊客周 不列額 赤 曲魯昆 赤訥 別勅格 阿主兀者…  
 独 次 換 着 有 来 你 蒙 蒙 的 你的 効 驗 有 来 也 者  
 cacčan-da ye'üdkejü büle'e čī, külüg-ün činu belge aju'ü-je…  
 一度 のみ かえて ありき 汝、 剛 俺 の ← 汝の あかし なりし ぞ…”

…。(277)

…  
……。

〈10〉 § 225 (九35十~36三) 成吉思 中合阿訥 札兒里黑  
 太祖 皇帝的 聖旨  
 Cinggis qahān-u jarlig  
 チンギス 可汗 の 勅

孛魯撒阿兒 敏中合答察 亦勒中合周 札兀敦 哈舌兒巴敦 那牙敦  
 徹了的依着 千每 処 選擇着 百每的 十每的 官人每的  
 boluḡsa'ār mingcad-ača ilgaju ja'ūd-un harbad-un noyad-un  
 せるにより 千戸 より 選びて 百戸 の、 十戸 の 長官達の

可兀的 門古 札舌兒里(黒)吉牙(兒) 亦勒中合周 中合舌兒中合周 亦舌列周  
 兒子每行 只也 聖旨 依着 揀択着 出着 来着  
 kö'ūd-i mun-kü jarlic-(g)iyār ilgaju gargaju irejü  
 子等 を まさに その 勅 により 選び 出し 来りて—

兀舌里答 納顏 客卜帖兀勒 不列埃 乃蠻 札兀楊 孛勒中合駱(原作) 乃蠻  
 在前 八十 宿衛 有来 八 百每 教做了 八  
 urida nayan kebte'ül büle'eji najman ja'ūd bolgaba. najman  
 かって 八十人の宿直兵 なりき — 八 百人となせり。 “八

札兀楊 迭額舌列 敏中合 都兀舌兒格禿該 客額駱(原作) (278)  
 百每 上 千 教満者 說了  
 ja'ūd de'ere mingca dü'ūrgetügei ke'ēbe  
 百人の 上、 千人に 充たすべし” と云いぬ。

この語尾 -gsa'ār<sup>2</sup> の後身が現代モンゴル語ハルハ方言の -caap<sup>4</sup> であり、  
 この語尾 -caap<sup>4</sup> は

1. Чамайг үхтлээ унтсаар байтал одоо үдэш болох гэж байна  
 お前が 死ぬほど 睡りつめていているうちに もう 夕方に なるう としている  
 Шүү.  
 よ。
2. Хоосон хувингаа хангинуулсаар орж ирэв.  
 からの うつわを 響かせながら 入って 来た。

3. Би ирсээр 3 хонож байна.

私は 来て以来 三 泊して いる。

4. Гүй(н) гүйсээр хүрч ирлээ.

走り 走りながら やって 来た。

に見られるように、現代語では《動作の継続》を意味する副動詞語尾として用いられる。日本語では《～しながら、～し続けて; ~して以来》と訳せばまず当る。この現代語の意味の一段階前の意味を秘史の言語は示していると見られる。上記の文例を読んで見る。

〈1〉の kömü(n)ldürgelegse'er 《胸がいをつけたまゝで》, olanglasa'ār 《肚帯をつけままで》は《胸がいをつけながら》, 《肚帯をつけながら》と解しても《つけたままで》には劣るものの不可というわけではない。

〈2〉の Börte-üjin-i yesün nasutu бүкүй-дүр үежү iregse'er は《ボルテ・ウジンにを(テムジンが)九才の時に会ったまゝで別れていた》は《会って以来別れていた》と読むことも可能である(この文の Börte-üjin-i の -i を erin odba が受ける)。

〈3〉の nököčegse'er nököceküi yosun teyimü は《友となれるまゝ友たる<sup>ことわり</sup>理はかくの如し》は《友となりつゝ友たる理はかくの如し》とも読める。

〈4〉の ködölügse'er 《移動せるまゝ》も《移動しながら》としても大きな違和感はない。

しかし、〈5〉の nereyidügse'er はそうは行かない。

Ong qan nere Ong-ging Čingseng-ün nereyidügse'er tendeče bolba は《王汗(なる)名は王京丞相の名づけしによりそこより起れり》と読むべき一文で、nereyidügse'er の -gse'er は《~せしにより、~せるを以て》と解さねばならない。これは、この語尾の語構成のまゝの意味であり、この意味は次の〈6〉の acsa'ār でもそのままあてはまる。ečige-yüiyen meden acsa'ār čī qan bol は《己が父の治めありしにより、汝汗たれ》と読むべきであろう。もっとも、ここは《己が父の治めありたるまゝ、汝汗たれ》とも読めないことはない。しかし、前者の解の方がベターであろうと筆者は見る。

〈7〉の morilagsa'ār (《出馬せるまま》)は《出馬しながら》に勝る。〈8〉の olucsa'ār, alacsa'ārは《得たるまま》,《殺せるまま》の他の解はあり得ない。

〈9〉の nemürge-bēn nemürügse'ēr の -gse'ēr は《〜しつゝ》と解しうる用例である。《己が掛衣を蔽いたるまま》と解することも出来るが、ここは、《蔽いつつ》と訳したい。

〈10〉の Činggis qahān-u jarlic bolucsa'ār は《チンギス可汗の勅せしままに》とも《チンギス可汗の勅せしにより》とも、いずれにも読めて甲乙決し難いが、後者の語構成本来の意味をとる。

このように見ると、秘史蒙古語では《〜せるまま》の如く、動作の継続の一段階前の「動作の保持」を意味する例の多いことが知られる。筆者は秘史蒙古語の -gsa'ār を「動作保持の副動詞語尾」と呼びたい。

現代のハルハ方言の -caap<sup>4</sup> の示す《〜しながら; 〜して以来》の意は秘史時代の -gsa'ār<sup>2</sup> がもつ《〜せしにより》から《〜せしまま》を経て《〜しつゝ》と変容して来たものである。

§4 目的副動詞語尾 -ra<sup>2</sup>

-ra<sup>2</sup> が、出動実詞形成語尾の -r に、古い実詞与位格語尾 -a<sup>2</sup> が附されて成立したものであることはポッベ教授の説かれている通りである。

しかし、通常「与位格語尾」と呼ばれる -a<sup>2</sup> は、後段の「実詞の曲用語尾」の項で詳しく言及する如く、単なる与位格語尾ではなく、その -a<sup>2</sup> そのものが《〜のために》の意味をそれ自身の中にもっている故に、-r-a<sup>2</sup>>-ra<sup>2</sup> の成立過程を経た -ra<sup>2</sup> に《〜するために》の意をもつに到ったものである。その表わす意味から -ra<sup>2</sup> を一般に「目的副動詞語尾」と呼ぶ。

秘史全巻から -ra の接尾した用例22例, -re の接尾した12例, 合わせて34の使用例を拾うことが出来る。以下にその若干を示そう。

〈1〉 §90 (二27十~28一) 別勅古台 斡中豁都児 蒼児吉 中晃中豁舌里  
 人名 秃尾 (ナン) 甘草黄馬  
 Belgütei ocodur dargi qongqor-i  
 ベルグテイ 短か尾の 明るき 栗毛の馬に

兀訥周 塔児巴中合赤刺舌刺 斡抽 不列額。(279)  
 <斡>着 土撥鼠 捕 去着 有来  
 unuju tarbagačilara odču büle'ē.  
 のりて タルバガン狩りに 行きて ありき。

〈2〉 §100 (二44十~45二) 中豁阿(黒)臣 額篋堅 鳴詰列舌論 必  
 婦人名 老婦 説 我  
 Qo'agčün emegen ügüleriün bi  
 コアクチン 老婆の 言うに “我は

帖木只訥埃 備 也客 格児圖児 中豁紐 乞児中合舌刺 亦舌列列額  
 人名 的有 大 家裏 羊 剃 来了  
 Temüjin-ü'ēi büi, yeke ger-tür qonin qircara irele'ē,  
 テムジン 家の者なり、主 家に 羊(毛)を かりに 来れり、

格児秃舌里顔 中合舌里周 阿亦石 客額畢。(280)  
 家 自的 行 回 着 来有 説了  
 ger-tür-iyēn qariju ayiši ke'ēbi.  
 包に ←己が 帰る 来るなり”と云いぬ。

〈3〉 §149 (五2六~2九) 失(舌)児古額秃 額不堅 孛孫牙蒼中忽  
 人名 老人 起 不能的  
 širgü'ētü ebügen bosun yadaqu  
 シルグエトク 老人 起く能わざる

塔舌児中忽台宜 帖舌児堅 迭額舌列 兀訥周 格迭舌児古 迭額舌列 亦訥  
 人名 行 車 上 上着 僂仰 上 他的  
 Taqgutaï-yi tergen de'ēre unuju gedergü de'ēre inu  
 タルグタイを 車 上に のりて、 仰向けの 上に ←彼の

阿黒塔蘭 撒兀周 乞秃中孩 中合舌児中合周 鳴詰列舌論 可温 迭兀捏舌児  
 騎 坐着 刀子 出 着 説 兒子 弟 每  
 actalan sa'ūju qitucaï garcaju ügüleriün kō'ün de'ü-ner  
 馬のりに 坐りて 刀を 出し 言うに “子、弟 達←

赤訥 赤馬宜 不里周 阿不舌刺 亦舌列(原) 赤馬宜 中合你顔 中合舌児蒼罷  
 你的 你行 奪着 要 来了 你行 皇帝 自的 行 下手 了  
 činu čimayi buliju abura irebe, čimayi qan-iyān gardaba  
 汝の 汝を 奪い 取りに 来れり、 汝を 「汗を(己が) 手になせり」

客延 額薛 帖乞 阿刺阿速 中合你顔 中合舌児蒼匿 客延 阿刺中忽古  
 慶道 不曾 也 殺 呵 皇帝 自的 行 下手 了 慶道 殺了 也  
 keyēn ese-teki ala'asu qan-iyān gardaba keyēn alaqu-kū,  
 とて、 え 殺さざりしも 「汗 を(己が) 手にかけたり」とて (我を)殺さんぞ。

阿刺阿速 帖乞 門古 阿刺黒蒼中忽古 必……。(281)  
 殺 呵 也 也 被 殺 我……。  
 ala'asu-teki mun-kü alaadaqu-kü bi…….  
 (汝を)殺 さば、 まさに 殺されんかな 我……”

<4> § 168 (五45七~46一) 田迭徹 桑昆 鳴話列舌論 木揚魯  
 自那裏 人名 説 他每但  
 tendeče Senggüm ügüleriin mud-lu  
 それより セングムの 言りに “彼等 は

必蒼訥 察兀舌児別乞宜 中忽余(你)不列額 額朶額 不兀勸札舌児 亦啞舌列  
 咱的 女 名 行 索 有 来 如 今 許婚筵席 喫  
 bidan-u Ca'ūr=beki-yi guyun büle'e. edö'e bu'üljar idere  
 我等 の チャウルベキ を 求め ありき。 「今 婚約の食を 食しに

亦舌列楊坤客延 兀都舌児 李(勸)札周 兀舌里周 亦舌列兀勸周 田迭把舌里牙  
 来 您 慶道 日子 约会着 喚着 教来着 那裏 拿 咱  
 iredkün keyēn üdür boljaju uriju ire'üljü tende bariya  
 来れ” と 日を 約して 招き 来らせ そこにて とらえん”

客額勸都周 者 客延 額耶 把舌刺勸都周 察兀舌児別乞宜 幹古耶  
 共 説 着 那般者 慶道 商議 定 着 女 名 行 与 咱  
 ke'eldüjü je keyēn eye baralduju Ca'ūr=beki-yi ögüye,  
 と云い合いて 「ヂュー」と 話まとまりて “チャウル・ベキ を 与えん、

不兀勸札舌児 亦啞舌列 亦舌列楊坤 客延 亦列罷<sup>原作</sup> (282)  
 定婚筵席 喫 来 您 慶道 去了  
 bu'üljar idere iredkün keyēn ilebe.  
 婚約の食を 食べに 来れ” と 遣りぬ。

<5> § 267 (三9五~9八) 成吉思中合罕 察速秃阿察 歌多勸周  
 太祖 皇帝 山名 処 勸 着  
 Činggis qahān Časutu-ača ködöljü  
 チンギス 可汗 雪山 より 動きて

兀舌刺中孩巴刺中合速 額朶額 不<恢>突児 不舌児罕 成吉思中合罕納  
 城 名 城 破 有 時 人名 太祖 皇帝行  
 Uraqaj balacasu ebden бүкүй-дүр Burqan Činggis qahan-a  
 ウラカイ 城を 破り ある 時 ブルカン、 チンギス 可汗 に

阿兀勸札舌刺 亦舌列罷<sup>原作</sup> (283)  
 拜 見 来 了  
 a'üljara irebe.  
 謁見すべく 来りぬ。

以上 <1>~<5> の文例における -ra<sup>2</sup> は総て《~するために、~するべく、~しに》と解し得る。この5例からも知られるが、-ra<sup>2</sup>の接尾された語には動詞が直続して、「-ra<sup>2</sup> 述語動詞」のパターンをとる。即ち「~しに~する」の文型での使用例が殆ど総てである。この語尾は現代の話し言葉ではすでに用いられることはないが、安定した意味をもつ、この語尾が、いかにして口語の世界から姿を消したのかを考えて見る必要がある。今後の研究課題の一つである。

§5 予告副動詞語尾 -run<sup>2</sup>

この語尾 -run<sup>2</sup> は蒙古語文語及び現代のモンゴル諸方言語においては、若干の限られた語と共に用いられる他、殆ど使用されることのない語尾であるが、秘史蒙古語においては然らずで、かなり幅広く用いられる。

-run の166例の中の bol-u-run (jarlic bolurun の -run) が44例、-rün の426例の中の ügüleriin の306例、ilerün の28例が特に顕著である。この jarlic bolurun の bolurun と ügüleriin が文語に残って、時たま用いられるのである。これら bolurun, ügüleriin, ilerün を除いても -run<sup>2</sup> の用例は200例を優に越えるので、秘史蒙古語における -run は有力な副動詞語尾と見る必要がある。

この語尾は、蒙古語文語の最古の文典である1831年の I. J. Schmidt 氏の文典<sup>(4)</sup>や1835年の Александр Бобровников<sup>(5)</sup> の文典では、「過去時の終止形語尾」と記述されているが、1849年の Алексей Вобровников<sup>(6)</sup> の文典では、すでに

деепричастие пригготовительное (準備副動詞) の語尾として記述され、以後、N. Poppe 氏に到るまで、この名称が使われている (preparative verb)。

Poppe 氏は preparative verb について次のように記している。<sup>(7)</sup>

380. The preparative verb expresses an action which is preparatory to and induces the main action: "in consequence of doing.....", "as he did....", "because he did..."

この an action which is preparatory to and induces the main action を -run<sup>2</sup> が expresses するという見解は、大筋において異論はないが現実の蒙文の例示が乏しく、これだけの説明では、秘史の多くの用例を読解するには極めて不十分と言わざるを得ない。そこで秘史蒙古語における -run<sup>2</sup> の用法を以下に吟味したい。

<1> § 90 (二28五~29四) 別勅古台鳴詰列舌論 必捏客速 客額駭  
人名 説 我 襲去 説了  
Belgütej ügüleriin bi nekesü ke'ebe.  
ベルグテイの言うに “我 追わん” と云えり、

中合撒兒 鳴詰列(舌)論 赤兀祿赤蒼中忽 必捏客速 客額駭 帖木真  
人名 説 你 不 能 我 襲去 説了 人名  
Qasar ügüleriin čī ülü čidaqu, bi nekesü ke'ebe, Temüjin  
カサルの 言う “汝 能わず、 我 追わん” と云えり、 テムジン

鳴詰列舌論 塔兀祿 赤蒼中忽 必捏客速 客額周 蒼兒吉 中晃中豁舌里  
説 你 不 能 我 襲去 説着 (ナン) 黃馬行  
ügüleriin ta ülü čidaqu, bi nekesü ke'eju dargi qongqor-i  
言う “汝 等 能わず、 我 追わん” と云いて 明るき 粟毛の馬に

帖木真 兀訥周 失兒中合阿(黑)駙塔泥 額別速訥 阿魯兒(中)孩巴兒  
人名 騎着 慘白 駙馬 等行 草的 掃道  
Temüjin unuju širca actatan-i ebesün-ü alurqaj-bār  
テムジン のりて 薄黄色の 駙馬などを 草の 踏まれ跡 もて

抹赤吉周 中忽兒班中豁那周 馬納中合兒額兒帖 抹兒途兒 幹欒 阿都溫圖兒  
踏 踐着 三 宿着 清 早 路 行 多 馬羣 裏  
möčgiju gurban qonoju managar erte mör-tür olon adu'un-tur  
辿りて 三 泊し、 あくる日 早く 道 に 多くの 馬群 のもとに

你刊 古舌魯篋列可温古温 格兀撒安 阿中忽兒勻勅中合周 失兒中合  
一箇 爽 利 後生 人 騾馬 擠 有的行 遇着 慘白  
niken gürümele kö'ün kü'ün ge'ü sa'an aqu-yi jolcaju širca  
一人の さわやかなる 若き 人 牝馬を 搾り ある に 会いて、 薄黄色の

阿(黑)駙塔泥 速舌刺巴速 帖舌列 可温 鳴詰列舌論 額捏 馬納中合兒 納舌闌  
駙馬 等行 挨問 阿 那 後生 説 這 清 早 日  
actatan-i surabāsu tere kö'ün ügüleriin ene managar naran  
駙馬などを 尋ねれば その 若者の 言うに “この 朝、 日

兀兒中忽中忽因 兀舌里蒼 失兒中合 阿(黑)駙壇 乃蠻秣舌驪 額兀別兒  
出 的 前 慘白 駙馬 等 八箇 馬每 這裏 行  
urguqu-yin urida širca actatan Najman mori e'ü-ber  
出ずる の 前 薄黄色の 駙馬など 八頭の 馬を このあたりを

忽迭周 約兒赤駭 抹兒 亦訥 必札阿周 幹克速客額……。(284)  
趕着 去了 踐 他的 我 告着 与(我) 説了……。  
hüdejü yorčiba, mör inu bi ja'aju ögsü ke'ed…….  
追いて 行けり、 踏 ← その 我 告げ やらん”と云いて、……。

<2> § 113 (三22六~23四) 脱幹舌鄰勅中罕 札木中合 中豁牙舌里  
人名 皇帝 人名 兩箇行  
To'öri(n)l qan Jamuqa qoyar-i  
トオリル 汗、 チャムカ 二人に

帖木真 不識舌恰 鳴詰列舌論 中罕 額赤格米訥 札木中合安蒼 中豁牙舌刺  
名 知 惑 説 皇帝 父親 我的 人名 契合 兩箇行  
Temüjin büsiren ügüleriin qan ečige minu, Jamuqa anda qoyar-a  
テムジン 感じ入りて 言う “汗なる 父 ← わが、 チャムカ 盟友 二人に

那闊扯克迭周 騰吉舌里 中合札舌刺 古出捏篋克迭周 額舌兒客禿 騰吉舌里迭  
被做伴 着 天 地名 氣力 被添着 威勢有的 天 行  
nököčegdejü tenggiri gajar-a küčü nemegedejü erketü tenggiri-de  
伴となられ 天 地 に 力を 添えられ、 威權ある 天 に



248 元朝秘史蒙古語文法講義

捏<sup>舌</sup>列亦<sup>揚</sup>抽 額客 額禿格捏 古<sup>舌</sup>兒格周 額<sup>舌</sup>列哈赤禿 篋<sup>舌</sup>兒乞<sup>揚</sup>

被題着 母地行 到着 男子 讎報 種名  
 nereyidčü eke etügen-e kürgejü ere hači Merkid  
 名指しされて 母なる 大地に 到られて 男の 仇敵 メルクドの

亦<sup>舌</sup>兒格泥 額不<sup>舌</sup>兒 巴阿訥 豁<sup>黑</sup>脫<sup>舌</sup>兒<sup>中</sup>灰<sup>字</sup>勸<sup>中</sup>合<sup>韻</sup>原<sup>伯</sup> 赤赤里格巴 阿訥

百姓行 懷也 他的 空 教敬了 肝也 他的  
 irgen-i ebür~ba anu hoctorguj bolgaba, helige-ba anu  
 人衆を 懷をも←彼等の 空に なせり, 肝をも←彼等の

含<sup>帖</sup>勸<sup>韻</sup>原<sup>伯</sup> 必蒼 幹<sup>舌</sup>羅巴 阿訥 豁<sup>黑</sup>脫<sup>舌</sup>兒<sup>中</sup>灰<sup>字</sup>勸<sup>中</sup>合<sup>韻</sup>原<sup>伯</sup> 兀<sup>舌</sup>魯<sup>中</sup>渾

教闕了 咱 位子也 他的 空 教敬了 親行  
 hemtelbe bida, oro~ba anu hoctorguj bolgaba, urug-un  
 やぶれり 我等, 床をも←彼等 空に なせり, 親族の

巴 古温泥 兀魯格<sup>韻</sup>原<sup>伯</sup> 必蒼 許<sup>列</sup>克<sup>薛</sup>的 巴 阿訥 阿<sup>舌</sup>兒<sup>必</sup>刺<sup>韻</sup>原<sup>伯</sup>

也 人行 教癩了 咱每 余剩的也 他的 摘要了  
 ~ba kü'ün-ni ülüdgebe bida, hülegsed-i~ba anu arbilaba  
 も\* 人 を\* 根だやしにせり 我等, 残りし者ともをも←彼等の とりこにせる

者 必蒼篋<sup>舌</sup>兒<sup>乞</sup>揚 亦<sup>舌</sup>兒格泥 帖堆 不散<sup>中</sup>合<sup>周</sup> 亦出牙 客額<sup>勸</sup>都<sup>韻</sup>原<sup>伯</sup>

也者 咱每 種名 百姓行 那些 教毀乱着 延咱 共說了  
 ~je bida, Merkid irgen-ni tede busangaju ičuya ke'ældübe.  
 ぞ 我等, メルクドの 人衆を 彼等を 殲滅させ 退かん” と云い合えり。

(285)

<3> § 254 (±22四~22八) 拙赤宜 董<sup>中</sup>豁<sup>揚</sup>中<sup>忽</sup> 因 兀<sup>舌</sup>里<sup>蒼</sup>

人名行 作声的 前  
 Joči-yi dungcodqu-yin urida  
 チョチの 声出す (の) 前に

察阿歹 鳴<sup>話</sup>列<sup>舌</sup>論 拙赤宜 客<sup>列</sup>列 客<sup>額</sup>翁 拙赤余兀 土申 鳴<sup>話</sup>列<sup>梅</sup>

人名 說 人名行 說 說時 人名行 慶 委付 說有  
 Ča'adaĭ ügülerun Joči-yi kelele ke'erün Joči-yu'ü tüşin ügülemüj,  
 チャアダイの 言う “チョチが「申せ」と 言う時, チョチを(か) 任じて 言うや,

額捏 篋<sup>舌</sup>兒<sup>乞</sup>歹<sup>出</sup>勸<sup>兀</sup>勸<sup>札</sup>兀<sup>舌</sup>刺 客<sup>舌</sup>兒 篋<sup>迭</sup>兀<sup>勸</sup>坤 必蒼 客額<sup>恢</sup>魯額

這 種 怎生 教管 咱每 恰說呵  
 ene Merkidej čul ulja'ür-a ker mede'ülkün bida ke'eküj-lü'e  
 この メルクド族のまぎれなき 申し子に いかにか 続べさすべき 我等” と云う や

拙赤 李速<sup>阿</sup>揚……。(286)

人名 起了……。  
 Joči bosu'ad…….  
 チョチ 起ちて……。

<4> § 260 (±46五~47七) 中<sup>見</sup>中<sup>孩</sup>中<sup>豁</sup>兒<sup>赤</sup> 中<sup>見</sup>塔<sup>中</sup>合<sup>舌</sup>兒<sup>中</sup>豁<sup>舌</sup>兒<sup>赤</sup>

人名 帶弓箭的 人名 帶弓箭的  
 Qonggai qorči, Qongtaġar qorči,  
 コンガイ 矢筒人, コンタガル 矢筒人,

拗<sup>舌</sup>兒<sup>馬</sup>中<sup>罕</sup> 中<sup>豁</sup>兒<sup>赤</sup> 額迭 中<sup>忽</sup>兒<sup>班</sup> 中<sup>豁</sup>兒<sup>臣</sup> 成吉思<sup>中</sup>合<sup>阿</sup>訥

人名 帶弓箭的 這 三箇 帶弓箭的 太祖 皇帝行  
 Čormaqan qorči ede curban qorčın Činggis qahān-a  
 チョルマカン 矢筒人 これら 三人の 矢筒人, チングス 可汗に

幹<sup>赤</sup>翁 李<sup>羅</sup> 失鴛温 保里牙突<sup>舌</sup>兒 撒亦幹<sup>羅</sup>中<sup>忽</sup> 篋圖 可<sup>兀</sup>揚

奏 離 鷹 調習裏 恰纒入的 般 兒子每  
 öčirün boro šibaŋ'ün baġliyā~dur sayi oroqu metü, kö'üd  
 奏するに “離 鳥の 調教に 今まさに入れて 如く, 子達の

撒亦 額堆 阿牙蘭 速<sup>翁</sup>不<sup>恢</sup>突<sup>舌</sup>兒 可<sup>兀</sup>的 升塔翁 篋捏 篋<sup>圖</sup>

恰纒 這些 征進 學 有時 兒子每行 退役 類類 般  
 sayi edüj ayalan surun бүкүj~dür kö'üd-i šingtalun mene metü  
 今まさにかく 戦旅し 学び ある時 子等を 隠せしめ あまたに

也勤 額<sup>因</sup>董<sup>中</sup>豁<sup>都</sup>木 可<sup>兀</sup>揚 阿余周 薛<sup>楊</sup>乞<sup>里</sup>額 阿<sup>勸</sup>中<sup>合</sup>撒<sup>兀</sup>澤

為甚 這般 恠責有 兒子每 怕着 心 自的行 驚 意 恐  
 yekin eyin dungcodumu, kö'üd ayuġu sedkil-iyēn alqasa'ūġaj,  
 なんぞ かく 叱責するや, 子等 恐れて 心を(己が) 乱さざらまじ,

納<sup>舌</sup>蘭 升格古額徹 兀<sup>舌</sup>兒<sup>中</sup>忽<sup>中</sup>忽<sup>蒼</sup> 古<sup>舌</sup>兒<sup>帖</sup>列 歹<sup>因</sup> 亦<sup>舌</sup>兒<sup>堅</sup>備 馬泥

日 落 旭 出 旭 行 直到 敵 百姓有 俺行  
 naran šinggekü-eče urguqu~da kürtele dajyin irgen büj, man-i  
 日 没する(方) より 出づる(方) に 到るまで 敵たる 人衆あり, 我等を

脱斡都 那中豁的顔 秃乞吾兒抽 亦列額速 歹因 亦吾兒格泥巴 騰格舌理  
 西番每 狗每自的 唆着 教去呵 敵 百姓行俺 天  
 töbödüd noqod-iyān tükirčü ile'ēsü daiyin irgen-i ba tenggeri  
 狐 犬どもを(己が) けしかけ 遣らば、 敵なる 人衆を 吾等 天

中合札 舌刺 古出 捏篋克迭周 阿勒壇 蒙古 阿兀舌刺孫 塔巴舌兒  
 北行 氣力 被添着 金 銀 段匹 財物  
 gaġar-a küčü nemegejü altan münggü a'ūrasun tabar  
 地 に 力を 添えられて 金 銀 絹段 財物

亦吾兒堅 幹舌兒中罕 赤馬蒼 阿卜赤舌刺速中孩 阿里 亦吾兒堅 客額額速  
 百姓 人烟 您行 將來咱 那箇 百姓 說阿  
 irgen orqan čimada abčirasuġaj, ali irgen ke'ē'ēsü  
 人衆 散民を 汝に もち来らん、 いずれの 人衆なるやと言わば、

額捏 詞舌羅捏 巴黑塔 亦吾兒格訥 中合里伯 莎勒壇 客額古備 客額梅  
 這西 種名 百姓的 人名 王 說的有 說有  
 ene höröne Bactad irgen-ü Qalibaj soltan ke'ēkü büj ke'emüj,  
 この 西なる バグタト 人衆の カリバイ 王 と云える あり と云う、

帖温突 舌兒 巴 阿牙刺速中孩 客延 幹赤額速 中合罕 莎幹舌刺周 額迭  
 那的每行 俺 征進咱 麼道 奏呵 皇帝 解釈着 這  
 te'ün-dür ba ayalasuġaj keyēn öči'ēsü qahān so'ōraju ene  
 それに 吾等 戦旅せん” と 奏さば 可汗 續まりて この

兀格思 因舌兒 札里舌刺周……。(287)  
 言語每裏 怒息着……。  
 üges-tür ġaliraju……。  
 言に 怒りを取めて……。

〈5〉 § 177 (六31七~31九) 叱馬舌命 約孫突舌兒 額勒臣 亦舌列  
 怪責的 道理 使臣 教來  
 čimar-un yosun-dur elči ile,  
 “咎の 理に 使者を 遣わせ、

亦舌列 舌命 中忽(勳)巴舌里中忽舌里 亦都舌兒堅 中豁牙舌里 亦舌列 中豁牙舌里  
 教來時 人名 人名 兩箇行 教來 兩箇行  
 ilerün Qulbari=quri, Idürgen qoyar-i ile, qoyar-i  
 遣わずに クルバリ・クリ イドルゲン 二人を 遣わせ、 二人を

額薛亦 舌列額速 那闊只宜 亦列 客額周 亦列額速……。(288)  
 不曾教來呵 第二行 教來 說着 去了  
 ese ile'ēsü nököji-yi ile ke'ējü ile'ēsü.  
 遣わざれば 第二の人を 遣わせ”とて 遣わざば

〈6〉 § 105 (三3九~4四) 帖木真 札木中合突舌兒 中合撒舌兒  
 人名 人名 行 人名  
 Temüġin ġamuġa-dur Qasar,  
 テムゲン、 チュムカ に カサル、

別勒古台 中豁牙舌里 亦列舌命 札木中合 安蒼蒼鳴訥列 客延鳴訥列周  
 人名 兩箇行 使去 人名 契合行 說 麼道 說着  
 Belgüteġ qoyar-i ilerün ġamuġa anda-da ügüle keyēn ügülejü  
 ベルグタイ 二人を 遣わずに “チュムカ 盟友に 言え”とて 言いて

亦列舌命 中忽舌兒班 篋舌兒乞揚 亦舌列周 幹舌羅班 豁黑脱舌兒中忽  
 去 三箇 種名 來着 位 空  
 ilerün curban Merkid irejü oro-bān hogtorġu  
 遣るに “三メルキド族 来りて 床を(己が) 空に

字勒中合(黑) 蒼阿 必 幹那舌兒你刊壇不速秃必蒼 幹雪里顔 客舌兒幹薛坤  
 被做了 我 (ナシ) 一箇的 不是有的麼咱 離自的 怎生 報  
 bolcagda'a bi, önör nikenten busutü bida, ösöl-iyēn ker ösekün,  
 させられたり 我、 族は 一をもつにあらざや 我等、 仇を(己が) いかにとるべき、

額不 舌里顔 含屯勒迭額必 赫里格訥 兀魯黑不速秃必蒼  
 懷行自的 被去了一半 我 肝的 親 不是有的麼咱  
 ebür-iyēn hemtü(n)lde'ē bi, heligen-ü uruc busutü bida,  
 懷を(己が) なかば割かれたり 我、 肝の 親族に ならずや 我等、

哈赤顔 客舌兒 哈赤刺(中)渾 必蒼 客額周 亦列罷 (289)  
 鎌自的 怎生 報的 咱每 說着 去了  
 hači-yān ker hačilaqun bida ke'ējü ilebe.  
 鎌を(己が) いかにとるべき 我等”とて 遣りぬ。

〈7〉 § 257 (土36九~37二) 討來只勳 撒舌兒塔兀勳 亦舌兒堅突舌兒  
 兎年 回回 百姓行  
 tauġaj ġil Sarta'ül irgen-dür  
 兎の年、 サルタウル 人衆に

阿舌刺亦牙舌兒 蒼班 秣舌驪刺舌命 成吉思中合罕 中合秃納察 中忽闌  
 地名 依着 越着 上馬 時 太祖 皇帝 娘子 內 婦人名  
 Araĭ-iyār daban morilarun Činggis qahan qatun-ača Qulan  
 フライ鯨を 越え 出馬するに チンギス 可汗 后 より クラン

中合秃泥 阿奔 阿牙刺舌命 迭兀捏舌列徹 幹楊赤斤 那顏泥 也客  
 娘子行 將了 征進時 兄弟 內 人名 官行 大  
 qatun-i abun ayalarun de'ū-ner-eče Odčigin noyan-i yeke  
 后 を つれ 征旅する時 弟 達 より オドチギン 長官 を 大

阿兀舌魯突(舌)兒 土失周 秣舌驪刺罷<sup>原作</sup> (290)  
 老 營 裏 委付着 上馬了  
 a'ūrug-dur tūšijū morilaba  
 本營 に 任じ 出馬せり。

<8> § 74 (二五四~五十) 泰亦赤兀<sup>種名</sup> 阿中合迭兀 訶額命兀真泥<sup>婦人名</sup>  
 Taiyiči'ūd aqa de'ū Hō'elün=ūjin-ni  
 タイチウド 兄弟, ホエルン・ウジン を

別勒必孫泥 可兀<sup>子每</sup> 兀出格<sup>小的每</sup> 額客思可兀的<sup>母每</sup> 嫩秃黑圖兒<sup>營盤裏</sup> 格周擣兀克迭周<sup>撤着</sup>  
 belbisün-ni kō'ūd üčüged ekes kō'ūd-i nuntug-tur gējū neū'ügdejū  
 寡婦 を 子達 幼き者達 母 子達 を 居營地 に ずてて(移れり。)移られて

訶額命兀真 額篋 篋兒干 脫舌列周 兀出格<sup>小每</sup> 可兀的顏 帖只額<sup>養時</sup>  
 Hō'elün=ūjin eme mergen törejū üčüged kō'ūd-iyēn teji'ērün  
 ホエルン・ウジンは—女 丈夫に 生れ— 幼き 子達 を(己が) 養うに

兀乞塔刺 李黑塔刺周 豁只塔刺 不薛列周 幹難沐<sup>河名</sup> 幹額迭 亦舌刺蒼<sup>河水</sup>  
 ukitala boctalaju hōjitala büselejū Onan müren ö'ēde irada  
 きりりと 髪を結びあげ、 丈短かく 帯して オナン 河 を(或いは)遡り(或いは)下り

突趣周 幹里兒孫 抹亦勒孫 添古周 兀都兒雪你 中豁幹來 帖只額<sup>養了</sup>。(291)  
 güijijū ölirsün moyilsun temgüjū üdür söni qo'ölaj teji'ēbe.  
 走りて オリル モイル を 摘みて 日 夜 喉嚨を 養いたり。

<9> § 21 (一13一~13四) 雪你<sup>夜</sup> 不舌里<sup>每</sup> 超堅失<sup>明</sup> 刺古温<sup>黃人</sup>  
 sönid büri čeügen šira kü'ün  
 夜 ごと 薄黃 色 の人、

格舌命額舌魯格 朵脫中合因 格格額兒 幹舌羅周 客額里 米訥 必里周  
 屏的 天窗 門額 的 明 裏 入着 肚皮 我的 摩着  
 ger-ün erüge dotoga-yin gege'er oroju ke'eli minu bilijū  
 包 の 天窗、 門額 の 明るみより 入りて 腹を ← わが 摩し、

格格延亦訥 客額里突兒米訥 升格古不列額 中合(舌)魯舌命 納舌闌  
 gegeyēn inu ke'eli-dür minu šinggekü büle'ē. garurun naran  
 明 他的 肚皮 裏 我的 透 有來 出 時 日  
 光 ← その 腹 に ← わが 透り入るなりき。 出ずるに 日

撒舌刺因 乞里耶兒 失舌刺那<sup>(中)</sup>孩篋圖 拭察班勒札周 中合兒中忽不列額。(292)  
 sara-yin kil-iyer šira noqaj metü šičaba(n)ljaju qarqu büle'ē.  
 月的 透入光裏 黃 狗 般 爬 着 出 有來  
 月 の はざまに 黄色き 犬の 如く 這い 出ずる なりき。

<10> § 213 (九9三~10五) 巴撒 成吉思中合罕 札兒里黑 李魯<sup>聖旨</sup> 舌命<sup>做</sup>  
 basa Činggis qahan jarlic bolurun  
 又 チンギス 可汗 勅 するに

汪古兒 李舌羅兀勒 中豁牙兒 巴舌刺温 沼温 額帖額<sup>右</sup> 塔中豁牙兒<sup>左</sup>  
 Önggür, Boro'ül qoyar bara'ün jeü'ün ete'ēd ta qoyar  
 \*オングル ボロウル 二人よ、 右 左 側に、 汝等 二人の

保兀兒臣 亦啞筵 秃客額<sup>給散時</sup> 舌命 巴舌刺温 額帖額<sup>右</sup> 擺亦黑三 撒兀黑撒納<sup>立的每</sup>  
 baū'ürčin ideyēn tüke'ērün bara'ün ete'ēd baiyicsan sa'ūcsan-a  
 膳夫達は 食物を 配り供するに、 右 側に 立てる(もの) 坐れる(もの) に

兀禄都塔兀命 沼温 額帖額<sup>左</sup> 者兒格列克先 額薛克薛捏 兀禄<sup>不</sup>  
 ülü duta'ülun jeü'ün ete'ēd jergeleksen esegsen-e ülü  
 不 教 欠了 左 辺 列了 的 不 曾 的 不  
 欠かしめず、 左 側に 並べる(もの)、 然らざる(もの) に 欠か

都塔兀命	塔中豁牙舌里	帖因	禿格額額速	米訥	中豁幹來	兀祿	中忽臣
教欠了	您 兩箇行	那般	給 散 阿	我的	喉嚨	不	洪聲
duta'ülun,	ta qoyar-i	teyin	tüge'e'ësü	minu	qo'olaj	ülü	qučin
しめず、	汝等 二人 の	かく	配り供せしなば、	わが	喉	つかえず	

薛惕乞勳	阿木由	額朵額	汪古(舌)兒	李舌羅兀勳	中豁牙(舌)兒	抹舌驪刺周
心	安有	如今	人名	人名	兩箇	上馬着
sedkil	amuyu,	edö'e	Önggür	Boro'ül	qoyar	morilaju
心	休まるなり、	今	オングル	ボロウル	二人	上馬し

迓歩周	亦啞額	幹樂	古兀捏	禿格額楊坤	客延	札兒里黑	李勳駭 (293)
行着	喫食	多	人行	給 散	廢道	聖旨	做了
yabuju	ide'e	olon	kü'ün-e	tüge'ëdkün	keyën	jarlig	bolba.
行きて	食物を	衆き	人 に	配り与えよ	と	勳	しぬ。

上に挙げた〈1〉～〈10〉の文例に見られる  $-run^2$  は  $-run^2$  の基本的な性格を示す用例であり、若干の説明を必要とする。

$-run^2$  は後続の主文の動詞の動作を予告するのがその本来の職能であり、それ故、〈1〉、〈2〉、〈3〉の6例の  $ügülerün$  《言うのに》には、総て  $ke'e-$  (～と言う) が置かれ、これから  $ügüle-$  《言う、語る》ことを  $-rün^2$  によって“予告し”  $ügülerün$  以後の文言は  $ügüle-$  する人の言辞となり、それが  $ke'e-$  (～と言う)、 $ke'ën ügüle-$  (～と(云って)言う) で閉じられて、形としては「某々が  $ügülerün$  (言うのに)…… $ke'e-$ ( $keye-$ ) (～と言う)、 $ke'ën ügüle-$  (～と(云って)言う) ということになる。〈4〉以下も勿論総て同じ形式である。

〈4〉の  $öçirün$  《奏上するに》…… $keyën öçi'ësü$  《……と(云って)奏上すれば》

〈5〉の  $ilerün$  《遣るのに》…… $ke'e'jü ile'ësü$  《……と(云って)遣れば》

〈6〉の  $ilerün$  《遣るのに》…… $ke'e'jü ilebe$  《……と(云って)遣った》

〈7〉の  $morilarun$  《出馬するのに》…… $morilaba$  《出馬した》

〈8〉の  $teji'erün$  《養うのに》…… $teji'ebe$  《養った》

〈9〉の  $garurun$  《出るのに》…… $garuqu büle'e$  《出るのだった》

〈10〉の  $jarlig bolurun$  《勅するのに》…… $jarlig bolba$  《勅した》

この様に、 $-run^2$  によって予告される動作がそのまま、後続の主文の動作と

なって文を結ぶ、この形式が  $-run^2$  の本来的な用法である。

$ügülerün$  も本来は  $ke'e-$  ( $keye-$ ) のみによって結ばれるのではなく  $ke'ën$  ( $keyën$ )  $ügüle-$  がより正常であり、現に秘史蒙古語には、少数ではあるが、 $keyën ügüle-$  が実証される。しかし、 $keyën ügüle-$  は意味的に重複するので  $ke'e-$  ( $keye-$ ) のみで用いられることに傾いて来たものと思われる。

この様に《 $-run^2$  は、 $-run^2$  が附される動作の予告をする》のがその本来の職能なので、筆者は、この語尾  $-run^2$  を「予告副動詞語尾」と呼ぶことにする。(なお文例〈5〉の人名「中忽(勳)巴舌里中忽舌里」を『全訳統攷(上)』の p. 115 では(勳)が補われていないが、これを補う)

秘史蒙古語における  $-run^2$  は後続の主要動作を予告するものとして用いられ、原則として  $-run^2$  の接尾される動詞と同一の動詞によって主文が結ばれる。それは以上の10例から知られよう。この原則的な用法は秘史蒙古語においては顕著であるが、この用法のいわば一変種として  $-run^2$  によって予告された動作と主文の動作とが同一ならざる用法も見られる。

〈11〉 § 151 (五11一～11三) 帖兀訥 中豁亦訥 王中罕訥 迭兀

那的	後	人名的	弟
te'ün-ü	qoyina	Ong qan-nu	de'ü
その	後	王 汗	の 弟

額兒客舌合刺	王中罕	阿中合蒼安	阿刺黑蒼舌命	不(舌)魯兀楊抽	幹楊抽
人名	人名	兄 自的	被 殺 時	逃 躲 着	去 着
Erke=qara	Ong qan	aqa-da'an	alagdarun	buru'üdču	odču
エルケ・カラ、	王 汗	兄 に(己が)	殺されんとするに	逃げ	行きて

乃馬訥 亦難察 中罕突舌兒 幹舌羅主為。(294)

種的	人名	皇帝	行	投入了
Najman-u	Inanča	qan-dur	oroju'üj.	
ナイマン族の	イナンチャ	汗の許に	入れり。	

〈12〉 § 73 (二 4 五～4 八) 田迭中晃中豁塔歹 察舌刺中合額不干

那裏	種名	名	老人
tende	Qongqotadaj	Čaraqa	ebügen
そこに	コンコタダイの	チラカ	老人の

鳴話列舌論 撒因 額亦格因赤訥(中) 古舌里牙黑蒼黑三 兀魯昔馬訥 不舌里訥  
 說 好 父 的 你的 取 來 的 百姓行 俺的 衆的  
 ügülerün sayin ečige-yin činu quriyačdacsan ulus-i manu būrin-ü  
 言うに “よき 父 の ← 汝の 集められたる 民人 を ←吾等の 總て の

兀魯思阿(ト)抽 釋兀克迭舌命 亦傷中合中忽字命 額因乞克迭罷客主兀 ……中  
 百姓每 將着 起行 時 勤 時~時 這般 做了 說了  
 ulus abču neü'ügderün idqaqu bolun eyin kigdebe kējü'ü……中  
 民人 を とり 移らるる時 謙めんとし かく なされたり” と云えり……中

略… 詞額命兀真 格周釋兀克迭舌命 禿黑刺周 別耶別兒 秣舌驪刺周  
 婦 人名 撒着 起行 時 莫頭拿着 親身 上馬 着  
 略…Hö'elün=üjin gējü neü'ügderün tuqlaju beye-bēr morilaju  
 略…… ホエルン・ウデンは 捨て 移らるる時 旗幟をもち 自ら 馬に騎し

札舌里木陽 亦兒格泥 亦出中合罷。(295)  
 一 半 百姓 行 退了  
 jarimūd irgen-i ičugāba.  
 なにがしかの 人衆 を とりもどしぬ。

<13> § 208 (八43四~43十) 委亦列 亦訥 主舌兒扯歹 赤  
 句当 他的 人名 你  
 üiyile inu jürcedeј či  
 仕事を ← 彼の チュルチェデイ 汝が

委亦列揚罷者<sup>原</sup>別 委亦列都舌命 主舌兒扯歹赤 多ト禿勸周 只舌兒吉泥  
 做 了也者 做 時 人名 你 衝着 姓 行  
 üiyiledbe-je üiyiledürün jürcedeј či dobtulju jirgin-i  
 行いたる ぞ。 行うに、 チュルチェデイ 汝は、 襲いて チルギン を、

禿別格泥 董中合亦的 中忽舌里失列木泥 敏中罕禿舌兒中合兀的 額舌兒乞揚  
 姓 行 姓 行 人名 行 千 護 衛 行 緊要 每  
 Tübergen-i Duncayid-i Quri=šilemün-i mincan turga'ūd-i erkid  
 トッベゲン を、 ドンガイド を、 クリ・シレムン を 千の 近衛兵団 を 主たる

扯舌里兀的 不古迭宜 蒼舌魯周 也客中豁勸突舌兒 古舌兒抽 桑古門  
 軍 每 都 行 勝着 大 中軍 行 到 着 人名 的  
 čeri'ūd-i bügüde-yi daruју yeke col-dur kürčü Senggüm-ün  
 軍隊 を すべて を 押し、 大 本隊 に 到り セングム の

昂格思格中合察舌兒 兀出馬中合舌兒 中合舌兒鏤<sup>馬</sup>撒訥 禿刺 蒙客  
 紅 腮 箭 名 射 了 的 上頭 長生  
 enggesge qačar učumagār qarbučsan-u tula müngke  
 額 骨を ウチュマ箭もて 射りし 故、 永しえの

騰格舌理迭 額兀顛 只羅阿 捏格克迭罷者<sup>原</sup>作伯 (296)  
 天 行 門 牽智 被開 了也者  
 tenggeri-de e'üden jilo'ā negēgdebe-je.  
 天(の加護)により 命 運の 開けたる ぞ

<14> § 145 (四40一~40三) 額速克幹命 牙蒼周 你刊 也客  
 馬孛子(得) 不能着 一箭 大  
 esüg olun yadaју niken yeke  
 馬乳酒を 得られずして、 一箭の大なる

不舌里額台 塔舌刺黑 帖舌兒格捏徹 亦訥 阿不阿揚 額舌兒古周 亦舌列罷<sup>原</sup>別  
 器皿中盒來的 酪 車 忽 他的 要了 攪着來 來了  
 būri'ēteј tarag tergen-eče inu abu'ād ergüjü irebe.  
 器に入れる 乳酪を 車 より ← その 取りて 擡げもち 来りぬ。

札兀舌刺 幹都舌命 巴 亦舌列舌命 巴 古温捏 額薛 兀者克迭罷。(297)  
 其間 去時 并 來時 并 被人行 不曾 見了  
 ja'ūra odurun ba irerün ba kü'ün-ne ese üjegdebe.  
 途中 行く も 帰る も 人 に 見られざりき。

<15> § 189 (七9七~9八) 田迭 帖舌里温 帖巨塔亦黑蒼舌命  
 那 頭 那般 被祭祀時  
 tende teri'ün teyin tayiodarun  
 そこに 頭の かく 祭らるる時

亦捏主兀 亦捏額罷<sup>原</sup>別 客延 塔陽中罕 客未客舌魯格赤乞列兀勸主為。  
 咲有來 咲了 麼道 人名 皇帝 破碎 踐踏 了  
 inejü'ü ine'ēbe keyēn Tayang qan kemkerü gečikile'üljü'üj.  
 笑いたり。 “笑えり” とて タヤン 汗 粉々に ふみつけしめたり。

(298)

文例 <11>~<15> は、御覽のように、<11> の *alacdarun* は後続の結びには *alacda-* は見えず *oroju'ūi* である。<12> の二つの *neü'ügderün* に対しても後文に *neü'ügde-* は現われない。<13> の *üjyiledürün* も同様で、<14> の *odurun*, *irerün*, <15> の *tayicdarun* も共に、後続文に *-run<sup>2</sup>* に呼応する *odu-*, *ire-*, *tayicda-* は見られない。

以上11~15の *-run<sup>2</sup>* を見れば、1~10の文例の如く *-run<sup>2</sup>* を伴う動詞が後続の主文の動詞と必ずしも同一でなくても *-run<sup>2</sup>* が用いられる事が知られる。

この様に *-run<sup>2</sup>* は文型の点で異なる二種類のパターンに用いられるが、*-run<sup>2</sup>* そのものの意味は、この二種類において異なるわけではなく、共に《~するの、~する時》と解することが可能である。そして、この二種類のいずれの場合でも *-run<sup>2</sup>* は後続文の動作を導く点で共通している。11~15の文例の *-run<sup>2</sup>* も高い観点に立って見れば後続文の動作の一種の予告と見られないこともない。

<11> の *aqa-da'an alacdarun buru'üdču odču Inanča qan-dur oroju'ūi* の *alacdarun* 《殺されんとするに》は後続の《逃げ行きてナイマンのイナンチャ汗の許に入れり》に対する一種の予告、先告と見られようし、12の *bürin-ü ulus abču neü'ügderün* 《諸々の民を取りて移動されとするに》も後続の *idqaqu bolun eyin kigdebe* 《諫め(ることになり)て、かく為されたり》を導くための予告と見て大過あるまい。

上の如く見れば *-run<sup>2</sup>* は或る動作を予告的に提示して、その予告の動作が、そのまま後に行なわれるか、或いは、その予告の動作との関連の下に後続の動作が展開されると見ることが可能である。

従って、*-run<sup>2</sup>* を「予告の副動詞語尾」と呼ぶことは、以上の諸点を考慮しても許されようかと考える。

以上、*-run<sup>2</sup>* について従来より詳しく言及したが、この語尾 *-run<sup>2</sup>* の本来的用法の文例を、最後に、数例加えて提示しておこう。

<16> § 115 (三24七~25四)

帖木真 脱幹舌鄰勅 中罕 札木中合  
 人名 人名 皇帝 人名  
 Temüjin To'ōri(n)l qan Jamuqa  
 テムジン、 トオリル 汗、 チャムカ

中忽舌児班 中含秃楊抽 篋舌児乞敦 綽舌児中罕格舌児 擲中豁兀兀勅周 綽黑台  
 三箇 相同着 種名的 房子 推倒 着 固姑  
 gurban qamtudču Merkid-ün čorgan ger čogoli'ūlju čogtai  
 三人 力を合わせ メルキド族の 住み 家を 打ちくだし、 冠をおびたる

額篋宜 阿舌児必刺周 幹舌児中罕 薛凉格 中豁牙舌合 塔勅中渾阿舌刺刺察  
 婦人行 擄 着 河名 河名 兩箇的 地名 自  
 eme-yi arbilažu Orqan Selenge qoyar-un Talqun=aral-ača  
 女を 擄え、 オルカン セレンゲ 両河の タルクン 川洲より

亦出舌合 帖木真 札木中合 中豁牙舌児 中含秃(楊)抽 中豁中児中豁納黒主不舌児  
 退時 人名 人名 三箇 相同着 地名  
 ičurun Temüjin Jamuqa qoyar qamtudču Qorqonač=jubur  
 退くり テムジン、 チャムカ 二人は 力を合わせ コルコナグの 森を

勺舌鄰 亦出罷<sup>原作</sup> 脱幹舌鄰勅 中罕 亦出舌合 不舌峒(中)罕中合勅訥  
 指着 退了 人名 皇帝 退時 山名 的  
 jorin ičuba. To'ōri(n)l qan ičurun Burqan=qaldun-u  
 指して 退けり。 トオリル 汗の 退くに ブルカン・カルドゥン山の

格舌魯別舌児 詞闊舌児彙主不舌児蒼阿舌鄰 中合察兀舌刺秃速ト赤楊  
 背後依着 地名 經過 地名  
 gerū-ber Hökörtü=jubur da'ārin Gača'ūratu=sübčid,  
 北側を ホコルトク 森を 経て、 ガチャウラトゥ・スブチド、

忽里牙秃速ト赤楊 蒼阿舌鄰 戈舌魯延 亦訥 阿把刺阿楊 土兀刺因  
 地名 經過 野物 其他的 打困了 河名  
 Huliyātu=sübčid da'ārin görüyēn inu abala'ad Tu'ūla-yin  
 フリヤストク・スブチドを 経て 狩獣を ← その 巻狩して、 トーラ河の

中含舌刺屯泥 勺(舌)鄰 亦出罷<sup>原作</sup> (299)  
 黒 林行 指着 退了  
 qara tün-i jorin ičuba.  
 黒森を 指して 退きぬ。

<17> § 165 (五38七~38十) 阿馬<sup>舌刺</sup>黑 迭額<sup>舌列</sup> 蒼<sup>中忽</sup>舌兒  
 親厚 上面 重  
 amarag de'ēre dabqur  
 “親しき 上に 重ねて”

阿馬<sup>舌刺</sup>黑 孛魯牙 客延 成吉思<sup>中合罕</sup> 薛<sup>魯乞</sup>周 拙赤迭 乘古門  
 親厚 做咱 麼道 太祖 皇帝 想着 名行 人名の  
 amarag boluya keyēn Činggis qahān sedkijū Joči-de Senggüm-ün  
 親しく ならん” とて チンギス 可汗 思いて ジョチに セングム の

朵宜 察兀<sup>舌兒</sup>別乞宜 中忽<sup>亦</sup>舌命 桑古門<sup>可</sup>温 禿撒<sup>中合</sup>蒼 必蒼<sup>訥</sup>  
 妹子 妹名 行 索 時 人名の 子 人名 行 咱的  
 dōyi Ča'ūr=beki-yi cuyirun Senggüm-ün kö'ün Tusaqa-da bidan-u  
 妹 チェウル・ベキ を 乞うに、 セングム の 子 トゥスカに 我等 の

中豁<sup>真</sup>別乞宜 阿<sup>舌刺</sup>真 幹古<sup>耶</sup>客延 (中)忽<sup>亦</sup>阿速……。(300)  
 女名 行 相換 与咱 麼道 索 阿 ……。  
 Qojin=beki-yi araljin ögüye keyēn cuyi'āsu…….  
 コジン・ベキ を 換りに 与えん” と 乞はば ……。

<18> § 173 (六14八~15三) 孛羅<sup>中忽</sup> 帖<sup>舌列</sup> 兀格<sup>突</sup>舌兒  
 人名 那 言語 裏  
 Borogül tere üge-dür  
 ボログル(の) その 言に

亦<sup>舌列</sup>額速 中合<sup>中忽</sup>都<sup>中渾</sup> 不<sup>列</sup>埃 歹<sup>亦</sup>納 不<sup>舌</sup>魯為<sup>闌</sup> 歌<sup>多</sup>額<sup>速</sup>  
 来 呵 斯殺 有来 敵行 躲 動了 呵  
 ire'ēsü qadqulduqun büle'ej, daiyin-a buru'ūlan ködölde'ēsü  
 (敵)来らば 合戦すべき なり、 敵に 逃げ 動かれば

必<sup>蒼</sup> 扯<sup>舌里</sup>吉顏 只<sup>失</sup>額兒<sup>抽</sup> 中合<sup>中忽</sup>都<sup>陽</sup>者 客<sup>額</sup>周 歌<sup>多</sup>額<sup>陽</sup>  
 咱每 軍 自的 行 整 擲 着 斯殺 也者 說着 動了  
 bida čerig-iyēn jibši'ercü qadquldud-je ke'ejü ködölbe.  
 我等 兵 を(己が) 整え直し 合戦するものぞ とて 動きぬ。

歌<sup>多</sup>魯<sup>命</sup> 活<sup>中</sup>灰<sup>温</sup>魯<sup>格</sup>只<sup>陽</sup> 幹<sup>額</sup>迭 歌<sup>多</sup>魯<sup>陽</sup> 蒼<sup>闌</sup>捏<sup>木</sup>舌兒<sup>格</sup>思  
 動時 水名 水名 逆着 動了 地名  
 ködölürün Ulquī=šilügejid ö'ēde ködölü'ed Dalan=nemürges  
 移動するに ウルクイ・シルゲグド川を 遡りて 動きて ダラン・ネムルグスに

幹<sup>舌羅</sup>羅<sup>原作</sup> (301)  
 入了  
 oroBa.  
 入りぬ。

<19> § 175 (六18三~18七) 田迭<sup>徹</sup> 成吉思<sup>中合</sup>罕  
 自那裏 太祖  
 tende-če Činggis qahān  
 そこ より チンギス 可汗

蒼<sup>闌</sup>捏<sup>木</sup>舌兒<sup>格</sup>薛<sup>額</sup>徹 中合<sup>中合</sup> 忽<sup>舌</sup>魯<sup>兀</sup> 歌<sup>多</sup>魯<sup>命</sup> 脱<sup>幹</sup> 脱<sup>幹</sup>刺<sup>勅</sup>都<sup>陽</sup>  
 地名 処 河名 順 動時 数 共数 了  
 Dalan=nemürges-eeče Qalqa huru'ū ködölürün to'ō to'ōlalduba.  
 ダラン・ネムルグス より カルカ川を 下り 動くに (兵)数を 数えぬ。

脱<sup>幹</sup>刺<sup>勅</sup>都<sup>阿</sup>速 中豁<sup>牙</sup>兒<sup>敏</sup>中<sup>罕</sup> 只<sup>舌</sup>兒<sup>瓦</sup>安<sup>札</sup>兀<sup>陽</sup> 孛<sup>勅</sup>羅<sup>原作</sup> 你<sup>刊</sup>敏<sup>(中)</sup>干  
 共数 呵 兩 千 六 百 做了 一 千  
 to'ōlaldu'āsu qoyar mingan jirwa'an ja'ūd bolba. niken mingan  
 数うれば 二 千 六 百 なりき。 一 千

中忽<sup>舌</sup>兒<sup>班</sup>札<sup>兀</sup>陽 成吉思<sup>中合</sup>罕 中合<sup>中合</sup>因<sup>詞</sup> 舌<sup>列</sup>捏<sup>只</sup> 額<sup>帖</sup>的<sup>耶</sup>舌兒  
 三 百 太祖 皇帝 河名 的 西 辺 依 着  
 curban ja'ūd Činggis qahān Qalqa-yin höreneji etēd-iyēr  
 三 百(の兵), チンギス 可汗は カルカ川 の 西 辺 を

擣<sup>兀</sup>羅<sup>原作</sup> (302)  
 起了  
 neŋ'ūbe.  
 移りぬ

<20> § 279 (五50六~50八) 巴<sup>撒</sup> 鳴<sup>話</sup>列<sup>周</sup> 亦<sup>舌</sup>列<sup>命</sup> 不<sup>古</sup>迭<sup>捏</sup>徹  
 再 說着 来 都 行  
 basa ügüleju irerün bügüden-eče  
 又 言いて 来るに “もろもろの物事 より

札<sup>木</sup>陽 塔<sup>勅</sup>必<sup>兀</sup>勅<sup>中</sup>忽 委<sup>亦</sup>列 拙<sup>別</sup>額<sup>徹</sup> 勺<sup>ト</sup> 都<sup>舌</sup>刺<sup>陽</sup>中<sup>合</sup>主<sup>為</sup> 客<sup>額</sup>周  
 站每 放 的 事 是 行 是 提 說 了 說 着  
 jam-ūd talbi'ūlqu üyile jōb-eeče jōb duradqaju'ūi ke'ejü  
 駅站 を 置かしむる 仕事 正しきより正しく 提言せり” と云いて

亦舌列主為。(303)

来了有  
irejü'üj.  
来れり。

この追加5例は -run<sup>3</sup> の本来の用法を示したが、〈19〉のみは〈18〉の kö-dölürün と対照させる意味で第二の用法の ködölürün を示した。

§6 副動詞語尾 -ūta

現代のモンゴル語のハルハ方言などに時たま見られる副動詞語尾 -уут<sup>2</sup> は秘史の言語に一例ではあるが見出される。§103の「兀中合兀塔」は uqa- と -'ūta に分析されよう。§103の文を以下に示そう。

§103 (二49九~50三) 帖木真 帖迭中忽児班篋児乞惕 馬中合惕  
 人名 那 三箇 種名 夷  
 Temüjin tede curban Merkid magad  
 テムジン “彼等 三 メルキド族 まこと

格亦秃舌里顔 阿只舌刺罷<由> 不克抽兀阿梅客延 別勒古台 孛斡兒出  
 家 自的 行 回了 有 伏了 有 麼道 人名 人名  
 geyid-tür-iyēn ajirabai-ū bügcü-ū amuj keyēn Belgütej, Bo'örču,  
 住家 に ← 己が 帰らし か、 ひそみ て かある、” とて ベルグタイ、 ボオルチュ。

者勒篋 中忽児巴泥 篋舌児乞敦 (中) 豁亦納察 兀中合兀塔 中忽児班 中豁那黑  
 人名 三箇 行 種名 後 自 察 探 三 宿  
 Jelme curban-i Merkid-ün qoyin-ača uqa'ūta curban qonog  
 チェルメ 三人 を メルキド族 の 後 より 探索がてら 三 宿

蒼中合温勳周 篋舌児乞的 孔客温勳周 帖木真 不兒中罕 迭額舌列扯  
 種 着 種名 離遠 着 人名 山名 上 自  
 daga'ūlju Merkid-i küngke'ü(n)ljü Temüjin Burqan de'ere-če  
 従わしめ メルキド族 を 遠ざけしめて テムジン、 ブルカン山 上 より

保兀周 額(ト)徹兀邊 抹額列惕抽 鳴話列舌論……。(304)  
 下着 背 前自的 行 推 着 説 ……  
 baq'ūju ebče'ü-bēn mö'ēledcū ügülerün……  
 下りて 胸 を(己が) おさえて 云うのに ……

この uqa'ūta については従来の秘史研究者の何人からも何等の言及がないが、これは uqa-'ūta と分析し、この -'ūta が上述の -уут<sup>2</sup> の前身であると解すれば、文脈上、見事に読むことができる。-уут<sup>2</sup> については、<sup>(8)</sup>モンゴル科学アカデミーの編になる書物の p.177 に

Далимдах нөхцөл үйл үг

Үйл үгсийн үндсэн дээр „-нгуут, -нгүүт“, заримдаа „-уут, -үүт“ нөхцөл залгаж далимдах нөхцөл үйл үгийг үүсгэнэ. Гийгүүлэгчээр төгссөн үгэнд „-нгуут, -нгүүт“ -ийг залгавал өмнө нь эгшиг жийрэглэнэ. Жишөө нь: Харай+нгуут—*харайнгуут*, эргэ+нгүүт—*эргэнгүүт*, үз+үүт—*үзүүт*, гар+уут—*гаруут*.

Далимдах нөхцөл үйл үг „ирэнгүүтээ, явангуутаа“ гэх мэтээр ерөнхийлөн хамаатуулахын зүүвэр авах ба, ирэнгүүт минь, явангуут чинь, явангуут нь гэх мэтээр биеийн хамаатуулах зүүвэр авч 1, 2, 3-р биеийн алинд хамаатай болохыг заана.

Далимдах нөхцөл үйл үг өгүүлбэрт хэрэглэгдэхдээ тухайн үйл хөдлөлийг гүйцэтгэмэгц дараагийн үйл явдал залган болох санааг илтгэнэ. Ийм утгаар хэрэглэгдэхдээ хоёр үйл явдал нь тус тусдаа эзэнтэй ч байж болно. Жишээлбэл:……中略……*Харангуут нүдээ дарав.* (Ч.Лх.) *Михаил идэж байсан хэрчим талхаа ширээн дээр салам шидэж хөвөнтэй дээлээ нөмрүүт ухас хийн гарав.* (З.Б.)

Бас далимдах нөхцөл үйл үг тухайн үйл явдлыг гүйцэтгэх зуураа дараагийн үйл явдлыг гүйцэтгэх санааг илтгэсэн байж болно. Ийм утгаар хэрэглэгдэхдээ хоёр үйл явдлыг гүйцэтгэх эзэн нь нэг байна. Жишээлбэл: *Сайн явж ирсэн ганц морь маана л эцэж ирлээ гэж цай хийнгүүт хариу хэлбэл...*(Б.Р.) *Дэндэв явангуут эргэж хараад одоо яая гэх вэ...*эв. (Ц.У.) 後略。



264 元朝秘史蒙古語文法講義

現代のハルハ方言や内蒙古の若干の方言では -hryyt<sup>2</sup>, -yyt<sup>2</sup> として用いられ、大きく二つの意に用いられ(〜するとすぐ)の意と(〜する傍ら, ~する一方, ~がてら)の意を表わす。

内蒙古大学の蒙古語文研究所の編になる Odo üy-e-yin monggul kele 《現代モンゴル語》<sup>(9)</sup> には -ngcūta<sup>2</sup> の記述はあるが -yyt<sup>2</sup> に当る -gūta<sup>2</sup> は記されていない。しかし、この書物にも

ene 《-ngcūta・-nggūte》 jegübüri-tej dalimdagulqu nökücel-iyer cool ni, nige üile-yi güičedkekü-yin dalim-iyar nögüge üile-yi kičigekü-yi jigan・a, basa jarim-dagān, tuqaj-yin üile-yi güičedkekü bayidal-taj bolqu-taj jerge ögēr-e nigen kereg oru door-a-bān bolqu-yi jicadag.

の如き記述が見られ、-ngcūta (-hryyt) ~ -nggūte (-hryyt) の表わす意味については同様の解説が見られる。

さて、問題の uqa'ūta の -'ūta は文語形なら -cūta, ハルハ方言の形なら -yyt で現われるので、その文脈上の意味から見て、この -yyt の前身と見て通りあるまい。uqa'ūta は

Merkid-ün qoyina-ča uqa'ūta curban qonog daga'ū(n)ju……  
メルキトの 後 から 探索する一方、三 泊 従行せしめて

上のように《入念に吟味し探索する傍ら; 探索する一方》、さらに簡潔には《探索しながら》と解することが可能である。

現代の話し言葉の知識が秘史の言語の研究にも有用である一例と言えるが、次の -qu(i)ača<sup>2</sup> も現代語の知識によって解決される事例である。

§ 7. -qu(i)<sup>2</sup>-ača<sup>2</sup> について。

この -qu(i)<sup>2</sup>-ača<sup>2</sup> は単純な副動詞語尾ではないが秘史蒙古語では“副動詞的”に用いられているので、こゝで記しておく。

§ 248 (±6二~6七) 阿勤壇 中罕 王京丞相温 額捏 兀格  
金 皇帝 人名 的 這 言語  
Altan qan Ongging Cingseng-ün ene üge  
金国の 汗は オンギン・チンサン の この言を

勺卜失耶周 額因 孛額揚 孛勤禿中孩 客延 額勤先 成吉思中合阿納  
道是着 這般 便 敬者 麼道 婦附 太祖 皇帝行  
jöbišiyejü eyin bö'ed boltucaj keyen elsen Činggis qa'an-a  
是とし、 “かく ぞ あれかし” とて 和し、 チンギス 可汗に

公主捏舌列台 幹乞 中合舌兒中合周 阿勤壇 蒙昆 阿兀舌刺孫  
名字有的 女子 出着 金 銀 殿匹  
Güngjü neretej öki cargaju altan münggün a'ürasun  
公主なる名の 乙女を 出し、 金 銀 絹段、

額揚塔巴舌兒 扯舌里昆 古兀捏 古出捏 篋迭兀命 蒼阿中灰阿察  
財物 軍 人行 氣力行 教知了 儘力拿的行  
ed tabar čerig-ün kü'ün-e küčün-e mede'ülün da'aquī-ača  
財物を 軍(の) 人、に、 力に 述べ 耐えるほどに

中都阿察中合舌兒中合周 成吉思中合罕突舌兒 王京丞相 古舌兒格周  
大都 処 出着 太祖 皇帝行 人名 送着  
Jundu-ača cargaju Činggis qahān-dur Ongging Cingseng kürgejü  
大都 より 出して チンギス 可汗に オンギン・チンサン とどけ

亦舌列罷俗<sup>原作</sup> (305)  
来了  
irebe.  
来りぬ。

§ 244 (±27三~27十) 中合撒舌兒 朶羅安 晃中豁塔納 幹篋舌列周  
太祖 七箇 種名行 党着  
Qasar dolo'an Qongqotan-a ömërejü  
カサル “七 コンコタンに 群がりて

札你赤黑答阿 客延 成吉思中合阿納 莎歌都額速 成吉思中合罕  
被打了 麼道 皇帝行 跪告呵 太祖 皇帝  
jančigda'a keyen Činggis qa'an-a sögödü'ësü Činggis qahān  
打たれたり” とて チンギス 可汗に 跪つかば、 チンギス 可汗、

不速<sup>楊</sup>途<sup>舌</sup>兒 乞靈刺周 阿<sup>中</sup>忽敦<sup>蒼</sup> 客列列古 孛<sup>命</sup> 成吉思<sup>中</sup>合罕<sup>罕</sup>  
 別的 每行 怒着 有 中間 說的 傲 太祖 皇帝  
 busud-tur qilinglaju aqu dunda kelelekü bolunn Činggis qahān  
 他なることに 怒り ある さまに 話すこと たりて チンギス 可汗

乞靈都<sup>舌</sup>里顏 中合撒<sup>舌</sup>里 鳴話<sup>列</sup>論 阿米禿<sup>蒼</sup> 兀<sup>祿</sup> 亦刺<sup>黑</sup>蒼<sup>中</sup>忽阿察<sup>察</sup>  
 怒 裏自的行 人名 行 記 性命有的行 不 被勝 了有行  
 qiling-dur-iyān Qasar-i ügülerün amitu-da ülü ilacdaqu-ača  
 怒りにて ← 己が カサル(の事)を 言うに “生あるもの に 敗れざるほど

不列額 赤 客<sup>舌</sup>兒亦刺<sup>黑</sup>蒼<sup>阿</sup> 赤 客額克迭周 中合撒<sup>舌</sup>兒 你<sup>勳</sup>不速 阿<sup>勳</sup>蒼<sup>楊</sup>  
 有來 你 怎 生 被勝 了 你 被說着 人名 淚 墮 了  
 bülü'e či, ker ilacda'a či ke'egdejü Qasar nilbusu alda'ad  
 なりき 故、 なんぞ 敗れたる 故” と云われ カサル 涙を(思はず) 流し、

孛<sup>思</sup>抽 約<sup>舌</sup>兒赤周 中合撒<sup>中</sup>兒 馬危刺周 中忽<sup>舌</sup>兒班 兀<sup>都</sup>兒 額<sup>薛</sup>  
 起着 去 着 人 名 憤 惱 着 三 日 不曾  
 bosču yorčiju Qasar ma'ūjlaju curban üdür ese  
 起ちて 行きて、 カサル 悩みて 三 日 来た ら ざ

亦列<sup>語</sup>別<sup>原</sup> (306)  
 來了  
 irebe.  
 りき。

§ 254 (±21八~22四) 成吉思<sup>中</sup>合罕<sup>罕</sup> 札<sup>(舌)</sup>兒里<sup>黑</sup> 孛<sup>魯</sup>命<sup>命</sup>  
 太祖 皇帝 聖 旨 傲  
 Činggis qahān jarlig bolurun  
 チンギス 可汗 勳 する に

中合敦 別<sup>舌</sup>兒 古温 孛<sup>額</sup>速 也遂因 兀<sup>格</sup> 拙別<sup>(徹)</sup>勺<sup>ト</sup> 客<sup>楊</sup>別兒  
 娘子 也 人 有阿 婦人名的 言語 是上 是 任 誰  
 qatun-ber kü'ün bö'esü Yesüi-yin üge jöb-eče jöb, ked-ber  
 “女 人 にありても イエスイ の 言、 是 より 是なり 誰人も

成兀<sup>捏</sup>兒 可兀<sup>楊</sup> 塔 別<sup>舌</sup>兒 孛<sup>幹</sup>兒出 木中合里壇 額<sup>因</sup> 額<sup>薛</sup>  
 弟 每 兒子每 您 也 人 名 人 名 遺 般 不曾  
 de'ū-ner kö'üd ta-ber Bo'örču Muqali-tan eyin ese  
 弟 達、 子達、 汝等 \*も ボオルチュ、 ムカリ \*等(も) かく 言を提

都<sup>舌</sup>刺<sup>楊</sup>中合罷<sup>原</sup> 必別<sup>舌</sup>兒 兀<sup>舌</sup>里都昔 兀<sup>祿</sup> 兀<sup>蒼</sup>阿<sup>舌</sup>刺<sup>(中)</sup>灰阿察<sup>察</sup>  
 提 說了 我 也 祖宗 行 不 隨 後的 行  
 duradqaba. bi-ber uridus-i ülü uda'araqū-ača  
 せざりき。 我 は 祖宗 を 繼 が ざる も て

兀<sup>馬</sup>兒<sup>塔</sup>周 阿<sup>主</sup>兀 兀<sup>窟</sup>良額 兀<sup>祿</sup> 額<sup>舌</sup>魯思帖古耶徹 穩<sup>楊</sup>刺<sup>周</sup>  
 忘 了 着 有來 死的行 不 被 得 着 睡 着 着  
 umartaju aju'ū, üküleng-e ülü erüsteküi-eče untaraju  
 忘れて ありき、 死 に 到れざるもて 眠りて

阿<sup>主</sup>兀 客額額<sup>楊</sup> 可兀敦 米訥 阿<sup>中</sup>合 拙赤備者 牙兀 客額木 赤  
 有來 說 了 兒子每 我的 長 人名 有也者 甚 說有 你  
 aju'ū ke'e'ed kö'üd-ün minu aqa Jöci büj-je, ya'ū ke'emü či  
 ありき” とて “子達 の ← わが 長は チョチ なる ぞ、 何 と云う 汝、

客列列 客額罷。(307)  
 說 說 了  
 kelele ke'ebe.  
 申せ” と云えり。

上の § 248 の da'āquī-ača, § 244 の ilacdaqu-ača, § 254 の uda'āraqū-ača, erüsteküi-če については、従来、正確に読まれていない。その理由は上の -qu(i)-ača<sup>2</sup> が理解されていないからである。

-qu(i)<sup>2</sup>-ača<sup>2</sup> は現在・未来の形動詞語尾 -qu(i)<sup>2</sup> に奪格語尾の -ača<sup>2</sup> が添加された形であるが、この形が意味する《～することから》或いは《～することによって》の意を以てしては上の § 248, § 244, (§ 254) の文は訳読はできない。

ここでも、現代のハルハ方言の -хуйц<sup>2</sup> が、この問題を解決してくれる。

この -хуйц<sup>2</sup>——文語形で書けば -quyīča<sup>2</sup>——については、次の様な記述が見られる。<sup>(10)</sup>

Ирээдүй цагт, хир хэмжээ заах үйлт нэр  
 Үйл үгийн үндсэн дээр „-хуйц/-хуйц“ нөхцөл залгаж ирээдүй  
 цагт, хир хэмжээ заах үйлт нэрийг үүсгэнэ.……後略。

そして、文例として4例が示されているので、その2例のみをこゝに挙げておく(『全釈統攷(下)』には4例総てを挙げておいた)。

*Ажил маань мэдэгдэхүйц сайжирч байна.*

*Чиний нас ийм юмыг ойлгохуйц болсон доо.*

現代の文語の例を、二、三つけ加えておこ<sup>(11)</sup>う。

1. üge-yi-ni itegejü bolquyiča mergen kümün dā.
2. ene keüked gobi-yin malčid-un dotor·a-ača segül-ün kedün jil-dü mal-iyān qamug-un jīšiy·e bolquyiča sayin-iyār mallaju, qamug-un türgen-iyēr öskegsen yum bayin·a
3. kijü čidaquyiča ajil bayin·a dā.
4. erdem sorquyiča keüked bayin·a dā.

この -quyiča<sup>2</sup> の表わす意味とその形は、明かに、秘史の言語の -qu(i)<sup>2</sup>-ača<sup>2</sup> の後身と認められる。

§248の da'āquī-ača は da'ā-《耐える》に -quī-ača が接尾されて《耐える限り、耐えるほど》の意と解すれば、この文意は明瞭であり、§244の ülü ilaqda- qu-ača も《(生あるものには)勝たられない(即ち“負けぬ”)ほど》の意味である。しかし、§254の -quī<sup>2</sup>-ača<sup>2</sup> はこの語尾構成の表わす意味そのもので十分理解可能であって、上の二例の如く -qu(i)<sup>2</sup>-ača の示す特殊な意味を適用する必要はあるまい。『全釈統攷(下)』p. 289, 註(8)で述べたことを変える必要はない。

しかし、ここでも -qu(i)<sup>2</sup>-ača<sup>2</sup> を上の二例と同様の意として読むことも可能と思える。bi-ber uridus-i ülü uda'āraqū-ača umartaju aju'ū, üküleŋge ülü erüsteküj-eče untaraju aju'ū を“祖宗の人々にひき続かないほどに忘れていた”と解し“祖宗の人々に続かない”とは“祖宗の人々と同様に死ぬことはない”と見れば“祖宗の人々は死んで行ったが、その種のことは自分の身には引きつづいて起ることはないとするほど死を忘れていた”とパラフレーズして読めないこともなかろう。そして、次の句も“死ということなどには全

く乗ぜられないほど、(死に対する思いが)眠っていた”と読もうと思えば読めなくはなかろう。

筆者は、現在でも『全釈統攷』で述べた考察を変更するものではないが、現代語に残る -quī<sup>2</sup>-ača<sup>2</sup> の特殊の意を適用しても、多少の無理はあるものの、その解も或はあり得ようかとの上<sup>(11)</sup>に立って、その可能性を述べてみた。

\* \* \* \* \*

なお、現代語に見られる -хуйц<sup>2</sup>, -quyiča<sup>2</sup> は形動詞的にも副動詞的にも機能するので、モンゴルの学者は、この語尾を形動詞語尾の一つと認めていることをこゝに附記する。

以上、秘史蒙古語に見られる総ての副動詞語尾の記述を終えたが、現代のハルハ方言等々、及び現代の文語に見られる副動詞語尾(文語形を示す)-baču<sup>2</sup>, -qulā<sup>2</sup>, -mačča<sup>2</sup> などの諸語尾は秘史蒙古語には見られず、これ等諸語尾は後世の発達になるものと考えられる。

#### 第五講の註

(1) 卷一、卷二以外では卷三に1例、卷四に2例、卷六に1例、卷八に1例、卷十に2例の合計7例である。

- §108 (三11七) 古舌兒別速 kürbēsü <到呵>
- §136 (四18七) 札阿巴速 ja'ābasu <告呵>
- §146 (四46一) 阿撒黑巴速 asačbāsu <問呵>
- §185 (六51一) 擺赤巴速 bajiybāsu <立呵>
- §199 (八8六) 阿巴刺巴速 abalabasu <圍獵呵>
- §238 (十13三) 赤列別速 ilebēsü <去呵>
- §242 (十23十) 客額別速 ke'ēbēsü <說呵>

以上の7例である。

さて、-āsu<sup>2</sup> の用例は秘史全巻を通して極めて多く、それに比して -bāsu<sup>2</sup> は20例に過ぎないので、-āsu<sup>2</sup> と -bāsu<sup>2</sup> の間に何等かの用法上の相違が、かりにあるとしても、それを探るのは至難と思える。しかし、こゝで -bāsu<sup>2</sup> についての特色を以下に述べておく。先ず第一は、本文で述べた様に20例の中、13例が卷一、卷二に集中していること、第二に -bāsu<sup>2</sup> 20例の17例までが、いわゆる“地の文”において用いられているという事実である。対話文の中に用いられている qorčobāsu (文例8) と ögbēsü (2回、文例9) はともに当時の俚諺を述べたところに見られるものであ

る。この様な事実から見ると、-bāsu は秘史の言語の当時すでに、古風な文語の色彩を帯びに形であったのではなかろうか。そして、一般的には -'āsu<sup>2</sup> の方が通行していたものと考えられる。

(2) -gsabār<sup>2</sup>~gsagār<sup>2</sup> の形は完了形動詞語尾の -gsan<sup>2</sup> の -n をもたない -gsa<sup>2</sup> に -bār が接尾して成立したものと見られる。-gsan<sup>2</sup> に -iyār の接尾した -gsaniyār に由来するのが、現代のハルハ方言などに見られる -снаар<sup>4</sup> であろうと思われる。

-gsa<sup>2</sup> そのものの確実な使用例に筆者は未だ接したことがないが、-gsabār<sup>2</sup> は17世紀の著者不明の Altan Tobči においてかつて目撃した記憶がある。それを書きとめて置かなかつたので、こゝに例示し得ないのを遺憾とする。(時を得て調べて見たい)

(3) [P. W. M.] の p. 180 に次の如く見える

658. As remarked in § 657, many converbs are fossilized forms of oblique cases of verbal nouns.

The *converbum finale* ending in -r-a is the dative-locative (suffix -a) of a noun ending in -r (cf. *amur* “peace, rest” from *amu-* “to rest”). Originally such forms answered the same question as the dative-locative, e. g., *ider-e* now “in order to eat”—formerly “to the eating” or “toward the eating”: It should be remarked that this converb corresponds, from the point of view of meaning, to the dative-locative in -a of the *nomen futuri* in -qu<sup>i</sup>, e. g., *saγur·a=saγuruqu<sup>i</sup>-a* “in order to sit”

(4) I. J. Schmidt, *Grammatik der Mongolischen Sprache*, St. Petersburg. 1831, p. 56.

(5) Александр Бовровников, *Грамматика Монгольского Языка*, Санктпетербургъ. 1835, p. 60.

(6) Алексей Вовровников, *Грамматика Монгольско-калмыцкого Языка*, Казань. 1849

(7) [P. W. M.] p. 98 の 380. 及び 658.

658. には次のようにある。

The same can be said of the *converbum praeparativum* in -r-un. The latter was originally a genitive (suff. -un) of a noun ending in -r (cf. supra). Thus, *amitan-i jobaγulur-un kilinče üñleddügsen amu<sup>i</sup>* “He committed sins by causing sufferings to living beings,” originally was “He committed sins of tormenting living beings.” It should be added, however, that the genitive served in Ancient Mongolian or in Common Altaic both as genitive and instrumental.

ポッペ教授のこの記述の大筋には異論はないが、古代蒙古語で genitive が instrumental にも機能したとの確実な例証を筆者は残念ながら知らない。

(8) БНМАУ Шинжлэх Ухааны Академи, Орчин цагийн Монгол Хэл Зүй (現

代モンゴル語文法), Улаанбаатар, 1966.

(9) *Öbür Monggul-un yeke surgaguli-yin Dumdadu ulus-un kele bičig udq·a jokiya-l-un salburi-yin monggul kelen-ü tasug, Odu üy·e-yin monggul kele, degedü debter, doogadu debter* (現代モンゴル語, 上・下) 呼和浩特, 1964.

(10) 註(8)の書の p. 162. 参照

(11) Nasunbayar, Qaserdeni, Sečen čogtu, Dawādagwa, Türgen, Naranbatu, Orčin Čag-un Monggul kele (現代モンゴル語) 呼和浩特 1982. p. 327 参照及び註(9)の書の p. 813 参照

## 付録 再考すべき若干の章句 (一)

筆者は1984年から1989年にかけて『元朝秘史全釈(上・中・下)』、『元朝秘史全釈続攷(上・中・下)』の全六巻を江湖に送り、識者の批判を仰いだ。その後、現在に到る数年の間に、秘史の若干の章句に関し、筆者自身、従来と異なる見解をもつに到った個所が生じている。ここでは、その中の若干を述べて筆者自身の従来の見解との対比の上で考えて見たい。

## (一)

先ず最初に § 254の次の語句を再考したい。

§ 254 (±24五~24八) 帖亦木 察黒突(舌)児 古薛周 額薛 迺步罷者  
那般 時 裏 思想着 不曾 行了 也者  
 teyimü čag-dur küsejü ese yabuba-je  
そのような 時 に 希んで いなかったのだ

古舌魯勅扯恢突(舌)児 孛勤罷者 不舌魯兀惕抽 額薛 迺步罷 不勅中合勅都中灰突(舌)児  
相 遇 時 做了也者 躲 着 不曾 行了 厮 殺 時  
 kürülčeküj-dür bolba-je, buru'üdču ese yabuba bulcalduquj-dür  
到り合う時 に 起ったのだ。 逃げかくれはしなかった 争い合いの 時に

孛勤罷者 阿馬舌刺周 額薛 迺步羅者 阿刺勅都中灰突(舌)児 孛勤罷者。  
做了也者 相愛着 不曾 行了也者 厮 殺 時 做了也者  
 bolba-je, amaraju ese yabuba-je alalduquj-dür bolba-je.  
起ったのだ。 愛してはいなかったのだ。 殺し合う 時に 起ったのだ。

この文章は

teyimü čag-tur

( küsejü ese yabuba-je  
 ( kürülčeküj-dür bolba-je  
 ( buru'üdču ese yabuba  
 ( bulcalduquj-dür bolba-je

( amaraĵu ese yabuba-je  
aralduquĵ-dur bolba-je

上の如く kũ-, bu-, a- で頭韻をふんだ二行毎の韻文として読むべきことは確実であり、筆者は、この六行の韻文を『全訳統攷(下)』の p.279 の総訳で

かかる時に (かのこと起れり)

望みあらざりしぞ (ボルテ妃は)

争い到り合う時に、起りしぞ (かのこと)。

身を逃がれて行かざりしぞ、

闘い合う時に、起りしぞ (かのこと)

愛し行かざりしぞ、

殺し合う時に、起りしぞ (かのこと)。

上の様な訳文を与え、p.297 の註(13)で

“(ボルテ妃は) 希んでいなかった、

到り合う時に、(ある事件が) 起ったのだ”

“(ボルテ妃は) 逃げはしなかった、

争い合う時に、(あの事件が) 起ったのだ”

“(ボルテ妃は) 愛していなかった (他の男を)、

殺し合う時に、(ある事件が) 起ったのだ”。

このように敷衍して述べている。しかし、今一度原文を熟視すると、küsejü ese yabuba, buru'üdju ese yabuba, amaraĵu ese yabuba の三句を《望みあらざりしぞ、希んではいなかった》、《身を逃がれて行かざりしぞ、逃げはしなかった》、《愛し行かざりしぞ、愛してはいなかった》と解することの他にも読み方があるとの考えに達したからである。

küsejü ese yabuba-je を《望みて、(かく) 行かざりしぞ》即ち《望んで(も)、(その通りには) 行かなかったのだ》と読んで、そして buru'üdju ese

yabuba を《身を<sup>のが</sup>駈れて、(かく) 行かざりしぞ。逃げて(も)、(そうは) 行かなかった》と読み、 amaraĵu ese yabuba-je を《愛して、(かく) 行かざりしぞ。愛して(も)、(そうは) 行かなかったのだ》と読むのである。

即ち teyimü čag-tur 《かかる時に》——とは、この上文から知られるように“天地動転の戦時擾乱の時に”の意——すべて、意志に反して、ボルテ妃の思っても見なかったことが起ったという事実をココチョスはヂョチ、チャアダイの二人に向けて心から諫めたのである。

このように、

küsejü ese yabuba-je	望みて、(かく) ゆかざりしぞ、
kürülčeküj-dür bolba-je	争い合う時に起りしぞ (かのこと)。
buru'üdčü ese yabuba (-je)	<sup>のが</sup> 駈れて、(かく) ゆかざりしぞ、
bulgaldquĵ-dur bolba-je	闘い合う時に起りしぞ (かのこと)。
amaraĵu ese yabuba-je	愛して、(かく) ゆかざりしぞ、
alalduquĵ-dur bolba-je	殺し合う時に起りしぞ (かのこと)。

上の一文を読み改めたいと現在では考えている。

(二)

§ 183 (六45六~46五) 王中罕突<sup>舌</sup>兒 額<sup>勅</sup>臣 亦列牙客延 額耶禿周  
 人名 行 使臣 差 咱麼道 商量 着  
 Ong qan-dur elčin ileyē keyēn eyetüjü  
 王 汗 に 使者を 遣わそう と(云って) 相談し

沼兀<sup>舌</sup>里耶歹 中合里兀荅<sup>舌</sup>兒 兀中良中合歹 察兀<sup>舌</sup>兒中罕 中豁牙<sup>舌</sup>里牙<sup>舌</sup>兒  
 種 人名 種 人名 商 箇 行 教  
 Ĵeü'üriyedeĵ Qali'udar Uriyangqadaĵ Ča'urqan qoyar-iyār  
 ギェウウリィェ氏の カリウダル、 ウリヤンカ氏の チャクルカン 二人 をもって

鳴訖列周 亦列<sup>舌</sup>命 中罕額赤格迭 中合撒<sup>舌</sup>命 兀格客延 鳴訖列<sup>湯</sup>坤客延  
 説 着 去 時 皇帝 父 行 人名 的 言語 麼道 説 您 麼道  
 ügülejü ilerün qan ečige-de Qasar-un üge keyēn ügüledkün keyēn  
 話し 遣わすのに “汗なる 父 に「カサル の 言葉」と云って 言え” と(云って)

鳴詰列<sup>舌</sup>論 阿中合<sup>顏</sup> 中合<sup>舌</sup>刺周 中合<sup>舌</sup>刺阿亦訥 札<sup>ト</sup>中合<sup>顏</sup> 中孩亦周  
 說 兄 自的 行 望 着 形 影 他的 不見了 踏 着  
 ügüleriün aqa-yān qaraju qara'ā inu jabqaba, qaiyiju  
 言うのには 「兄を(自分の) 望見し 姿を ← その 失った, 探し尋ねて

中合兀魯中合 亦訥 幹<sup>命</sup> 牙<sup>苔</sup><sup>原</sup> 中孩亦刺周 擣兀班 額<sup>薛</sup>  
 道 路 他的 得 不能了 叫 着 声 自的 行 不曾  
 qa'ūluga inu olun yadaba, qaiyilaju dau'ū-bān ese  
 路跡を ← その 見つけ かねた, 叫び呼んで 声 を(自分の)

莎那思<sup>原</sup> 豁<sup>楊</sup> 中合<sup>舌</sup>喇周 兀<sup>舌</sup>兒邦 迭<sup>(舌)</sup>列禿 孛<sup>勤</sup>周 格<sup>ト</sup>帖木  
 被聽得了 星每 望 着 (ナン) 枕頭有的 做着 臥 着  
 sonosdaba, hod qaraju urbang deretü bolju gebtemü  
 聞かなかつた, 星を 望見して 草木の根の 枕をもつことに なり 臥した

必 額<sup>幾</sup>可温 米訥 中罕 額赤格突<sup>舌</sup>兒備 亦帖兼只 額<sup>舌</sup>列延  
 我 妻 子 我的 皇帝 父 行 有 倚 仗 指 望  
 bi eme kö'ün minu qan ečige-dür büi itegemji ere-yēn  
 私は, 妻 子は ← 我が 汗なる 父の 処に いる, 信じられる 男 を(自分の)

幹魯阿速 中罕 額赤格突<sup>舌</sup>兒 幹<sup>楊</sup>中忽 必 客額周 亦列<sup>原</sup>羅 客<sup>延</sup>  
 得 阿 皇帝 父 行 去 我 說 着 去 了 麼道  
 olu'asu qan ečige-dür odqu bi ke'eju ilebe keyēn  
 得れば 汗なる 父の 処に 行きます 私は」と(云って) 違わした と(云って)

鳴詰列<sup>楊</sup>坤 巴撒 鳴詰列<sup>舌</sup>論……。  
 說 您 巴 說 ……。  
 ügüledkün basa ügüleriün ……。  
 言え, 又 言うのに ……。

上記 § 183 の「客延 鳴詰列<sup>楊</sup>坤」は、その文脈から見て、二語上の「幹<sup>楊</sup>中忽必」の次に置かれねばならないことは、夙に那珂通世博士によって実行されていた(服部二郎博士はこれについて、すでに『H. G. K.』の p. 9 において指摘された)。筆者是那珂博士の、この改定の上に立った訳文「……我が妻子は、罕額赤格の処にあり。信頼を望み得ば(明訳若差一箇可倚仗の人來呵)、<sup>かんえらげ</sup>罕額赤格の処に往かん、我」と言へ」と云ひて遣りぬ。又言はく……」(〔那・実〕 p. 215) を見逃して「客延 鳴詰列<sup>楊</sup>坤」の位置をそのまま読んで、誤訳を施した。ここに、〔那・実〕に従って「客延 鳴詰列<sup>楊</sup>坤」を「幹<sup>楊</sup>中忽 必」

の次に移して(“……「汗なる父のもとに行かん我」と云え”とて遣わしぬ)と改訳することにした。

\* \* \* \* \*

次に、文中の eme kö'ün minu qan ečige-dür büi (わが妻子は汗のもとにあり) に連らなる「亦帖兼只額<sup>舌</sup>列延 幹魯阿速」についてである。

筆者は、この句を(信ある男を得れば)と解した(『全訳統攷(上) p. 181)。これは「額<sup>舌</sup>列延」を傍訳の〈指望〉に依らず、総訳(上記の実録の明訳参照)に従って itegemji ere-yēn と解した上での訳解である。筆者はこの解と共に、もう一つの可能性をここに指摘したい。

それは「額<sup>舌</sup>列延」を傍訳に従って〈指望〉と解する訳解である。筆者は『全訳統攷(上)』(p. 183)においても動詞語幹 \*ere- の存在は十分考慮できると記したが、動詞語幹 ere- は秘史卷十、23葉、十行目の「額<sup>舌</sup>列周〈指望着〉」の ere- に実証される(前著に於て、この ere- を見落したのは筆者の不注意である)。傍訳も〈指望〉であって、本節の「額<sup>舌</sup>列延」に対する〈指望〉と等しい。この ereyēn は ere- から作られた実詞と見て過りはない。問題は itegemji ereyēn olu'asu qan ečige-dür odqu bi の itegemji ereyēn olu'asu を如何に解するかである。

itegemji は(信頼、信任)を意味する語で、現代でも用いられる一般的な語で問題はないが、ereyēn はその意を考えて見えばなるまい。

前述したように、ere- が用いられている § 254 (±23十) の「額<sup>舌</sup>列周」を調べて見る。

§ 254(±23九～±23十) 中罕 額赤格 赤訥 可兀敦 朵脱<sup>舌</sup>刺  
 皇帝 父親 你的 兒子毎的 裏  
 qan ečige činu kö'ūd-ün dotora  
 汗なる 父は ← 汝の 子達の の 中で

赤馬<sup>苔</sup> 額<sup>舌</sup>列周 不列額。  
 你行 指望着 有来  
 čimada ereju büle'e.  
 汝に 望みを託している。

この文脈に見える ere- は《囑望する、期待する、望みを託する》ほどの意と思われる。傍訳の〈指望〉も、これを支持する。文語の eremelje-, ハルハ方言の эрмэлзэ- も

[内・蒙・漢] eremeljekü [及] 期望, 企望, 渴望, 指望, 盼望, 希望。

[Ц. М. Х.] эрмэлзэх 1. хүсэх ээрэх, горилох; *малчдад гарын авлага*  
望む, 希望する, 期待する 牧民達に 手 引きに

*болох нэг зүйл бичихийг би эрмэлзэж байна* 2. эрэмцэх  
なる 一つのものを 書くことを 私は 希んで いる。 熟考する

語幹 ere- に接辞 -melje- が附されて作られた語であること確実である。

このように見れば、この erejü büle'ē の ere- が《希みを託す、期待する》の意として用いられたと見ることは問題あるまい。この ere- から作られた実詞が ereyēn<\*eregēn である。

そこで、問題の itegemji ereyēn olu'āsu であるが、直訳すれば《信頼・期待（或いは‘願望’）を得るならば）となる。ここで考えねばならないことは“誰が olu'āsu”なのかということである。換言すれば olu'āsu の主体は王汗なのかカサルなのかということである。王汗を主体と見れば、この文を“あなた（即ち王汗）が私（即ちカサル）に対し”《信頼・期待を得るならば）と読めないこともなからう。又、olu'āsu の主体をカサル自身と見れば《（私があなたの）信頼・期待を得るならば）と読むことが可能と思える。筆者は、この後者を選びたい。

というのは、この句 itegemji ereyēn olu'āsu を含む文は、カサルの言であり、その前後には、一貫して、この発話の主体者として「必〈我〉」が見られるからである。即ち hod qaraju urbang deretü bolju gebtemü **bi**, eme kö'ün minu qan ečige-dür büj, itegemji ereyēn olu'āsu qan ečige-dür odqu **bi** keyēn ügüledkün を見ると olu'āsu の主体は「必」bi《我》となすべきであろう。itegemji ereyēn olu'āsu 《信頼・期待を得るならば（私が）》は別の表現をすれば、“あなた（王汗）が私を信頼して下さるならば”とも見

られるから、意味の上からすれば、上の二つからの撰択は大きな問題ではないとも言えようか。

とまれ、この「亦帖兼只 額<sup>5</sup>列延 幹魯阿速」は『全釈統攷（上）』p.183 で示した見解とここに示した見解の二つの可能性があることをここに記して、そのいずれをとるかは、更に考究するべき問題として今後に委ねたいと考える。

\* \* \* \* \*

以上、『元朝秘史全釈（上・中・下）』及び『元朝秘史全釈統攷（上・中・下）』に開陳した数々の見解の中から、現時点において再考を試みたい事項の二項について言及した。この他にも、まだ言及すべき章句が少なからず残っているが、それ等についても早い機会に、何等かの形で言及したいものと思っている。



# 元朝秘史蒙古語辭典

## 検索上の注意

### 1 収録語について

『元朝秘史』に現れる語のうち、固有名詞を除いた、総ての語を収録した。

### 2 見出し語の配列順について

1. 漢字そのものの順序ではなく、各漢字のローマ字転写の順で配列した。

2. 各項目の並び順は次のようなアルファベット順である。

a e i o ö u ü b č d g h ĵ k l m n q g s t s t y

3. 各項目の中での見出し語の並び順は次のようなアルファベット順である。

a b č d dz e g g h i ĵ k l m n o ö q r s š t u ü y

4. 各漢字音毎のアルファベット順なので、例えば「阿卜荅-」(abda-)の方が「阿把」(aba)より前に置かれる。これは漢字「卜」(b)が漢字「把」(ba)より前置されるからである。

5. 漢字のローマ字転写の順で配列したので、漢字面では区別がなくても、ローマ字転写では区別して別々に扱っている。即ち、同じ漢字でも異なった場所に現れることがある。例えば「中合勒-」(qal-)はqの項、「中合勒」(gal)はGの項に見られる。oとö, uとü, 稀にaとeに関しても同様である。

6. 「赤」「引」「因」は、それぞれ語頭で i, in, in, 母音の後で yi, yin, yin とし、配列順もこれに従った。

7. 「-温勒-」(-ül<sup>2</sup>-)〈使役語尾〉、「完勒者」(ö(n)lje)《吉祥》などの場合の「温」や「完」は、それぞれ ü<sup>2</sup>, o<sup>2</sup>と読まれるものであるが、-ün<sup>2</sup>-, on<sup>2</sup>の位置に置いた。

8. 原本の誤写と思われるものは、正しいと思われる漢字に従って並べた。例えば「赤刺兀泥」(ila'ün-i)は「赤刺兀泥」(čila'ün-i)《石を》の誤りと認めてčの項に配列した。

9. 同形のもは、名詞、動詞の順に配列した。「脱列」(töre)《制度、道筋》は

「脱舌列-」(töre-)《生れる》より前に置かれる。動詞の中では、命令形、語幹の順に並べた。

10. 動詞の語尾変化形は一項に集められているが受動形、使役形、対動形、相動形は見出し語にあげた。
11. 漢字面で分割し得ない場合は、見出し語に収めた。例えば「亦純」(ičün)はičü-《退く》の副動詞形であり、ičü-nと分析すべき語であるが、「純」は分割できないので、このまま見出し語に「亦純」をあげた。又、「兀速訥」(usunu)はusun《水》の属格形でusun-uと分析すべきものであるが、「訥」は分割できないので「兀速訥」のまま見出し語とした。

### 3 記号について

1. 原文中の小字——例えば「ト」、「勳」、「楊」、「你」など——を補う場合には( )で示す。例えば原文には「客帖」keteとあるが、正しくはkebteである故「客(ト)帖」とする。等々
2. 原文中の補助記号の小字——「舌」、「中」、「口」——を補う場合にも( )を用いる。例えば「捏列」neleは正しくはnereなので「捏(舌)列」とする。忽舌兒班hurbanは正しくはgurbanと考えられるので「(中)忽兒班」とする等々。
3. 原文には哈罕hahānとあるが、正しくはqahānと考えられるので「(中)合罕とし、( )を用いて「(中)合」とする。
4. 原文には中合舌兒班qarbanとあるが、正しくはharbanと考えられる故、「(口)合舌兒班とし、( )を用いて「(口)合」とする。
5. 《 》は原文の補助記号の削除の際に用いる。例えば(六28六)「兀速舌納察」の「舌」は明かに不必要なので「兀速(舌)納察」とする。この例は極めて稀。
6. 《 》は又、次の場合にも用いた。動詞ile-《遣わす》は「亦舌列-」を以て表記されるのが正常であるが、屢々「亦舌列-」《来る》と誤記される。この様な場合「亦(舌)列-」と校して、ile-と読むべきものとした。又、動詞hülde-《追いかける》は「忽勳迭-」が正しいが、これも屢々「中忽勳迭-」と誤記される。この場合にも「(中)忽勳迭-」と校してhülde-と読むべきものとした。

7. < > は原文の小字の誤記を正すのに用いた、例えば、原文には「撒勳只兀勳」と見えるがsalji'üdを正しきものと認め「撒勳只兀<楊>」と校した。
8. < > は原文の小字ならざる文字の誤記を正すのに用いた。例えば(七3九)「撒勳帖」salteはselteの誤りなので<薛>勳帖と校した。
9. [ ] は原文の漢字欠落に対する補足を示す。
10. < → > は参照を意味し、[ → ] は変更を意味する。訳文中の単なる[ ] は補足説明。

### 4 ローマ字転写字について

1. 原則として『全釈』及び『全釈続攷』における転写の方針をそのまま用いたが、t, d, k, g, j, čの転写字を加えた。例えば与位格語尾-durは-突舌兒、-都舌兒で表記されるのが正則であるが、-durであるべき場所に、-turを表記すべき-秃舌兒、-途舌兒、-圖舌兒などが用いられることが間々見られる。このように-dur(-突舌兒など)であるべき場所に-tur(-秃舌兒など)が表われている場合には、それを-turと転写し、本来は-durであるべきことを示した。
2. 漢字「古」は本来は蒙古語のgüを示すべき文字であるが、秘史の原文では、この字は又küをも表記するのにも用いられる。従って「古」のみは例外的にküとgüの二様の転写字が施される。
3. 転写に際して、辞典の見出し語の転写字面では形態素の切れ目に「・」を施し、それ以外の場所では、曲用語尾と活用語記の前には「-」ハイフオンを施し、その他の助辞(及び複数接辞)の前には「~」を記した。

(注意) 卷一、卷二では卷三以後の「舌兒」に対し、常に「兒」のみで書かれる。その他、卷一、卷二のみに見られる幾つかの特徴がある。それらの若干については、『全釈』及び『全釈続攷』において言及したが、将来、「文字論と音論」をまとめる際に一括して言及する所存である。

## a

- \*阿- a- (有, 往, 存, 活) ある, いる。
- 阿速 -'āsu —15八; 八14五; 九2一
- 巴 -ba —32五, 七; 二22二
- 罷 -ba —15十; 七47一
- 伯者 bai-je 十1八
- 中渾 -dqun 七19九; 九30五; 三12七, 27四
- 都中孩 -ducaj 二40四; 三48九, 49一
- 黑撒阿舌兒 -gsa'ār 六35八; 七43六
- 黑撒楊 -gsad 四47三; 七34三, 43十; 三44九; 三14四, 六
- 黑撒敦 -gsad-un 三43三
- 黑三 -gsan 三29六; 五43九; 七15十; 八45三; 三43三
- 只埃 -ji'āi —1四; 五22九
- 主 -ju 八14六
- 周 -ju 二15十, 35八; 三18二; 四6二; 六11五; 七33二; 八28九; 九23六; 十10二, 26一; 三29五, 32五; 三23五
- 主兀 ju'ü —1三, 六, 2六, 5一, 五, 6五, 19五, 20四, 35一, 44一, 三, 46五, 48一; 二16四, 19一, 26七, 29八, 34八, 35一, 36九, 39五, 九, 48六, 十; 三18一, 四, 十, 33九, 34一, 二; 四40一, 41三, 50六; 五9七, 11五, 29七, 31八, 39二, 四; 六4十, 6五, 11三, 十, 23三, 六, 29五, 42六, 48九, 49一, 51四; 七6三, 16四, 六, 22九, 23二, 47八, 49一; 八5二, 36四; 九42七; 十18一, 20十, 40一; 三15一, 20十, 22二, 三, 33八; 三31十, 44六
- 主兀者 -ju'ü-je 四17六; 六25九, 39九, 十; 八33六, 37九, 45三; 三15八, 16七
- 主為 -ju'üj 四21九, 35七, 46九; 六2七, 3一, 37三, 48三; 七1六, 26四, 六, 七; 八2八; 九19九
- 主為者 -ju'üj-je 四47七; 九26二, 三; 三8八
- 刺埃 -la'āi 三8六
- 魯阿 -lu'ā —26四
- 木 -mu 二46八, 九; 五4四, 五, 40七; 十24四, 37八; 三45六; 三33九
- 木者 -mu-je 七48五
- 梅 -muj 二49十; 五4一, 40八; 三27二, 45六; 三48八
- 中忽 -qu —10二, 44二; 五30八; 七33七; 八48二; 九2六, 7八, 22七, 三17五; 三57七
- 中忽宜 -qu-yi 二29一
- 中忽訥 -qun-u 二42九; 七11四, 25三

- 中忽牙 -quya[→-quj-a] ㄊ21六  
 -中忽由 -quyu[→-quj-ū] ㄊ15六, 八; ㄊ34七, 49七  
 -恢突兒 -kuj-dur[→-quj-dur] [恢→中灰] ㄊ27四  
 -中灰 quj ㄊ23四; ㄊ27五  
 -中灰都舌里顏 -quj-dur-iyān ㄊ16三  
 -中渾 -qun ㄊ49三, 50五; ㄊ12四; ㄊ19六, 七  
 -舌命 -run ㄊ16七; ㄊ35五; ㄊ5三  
 -速該 -sugai[→sugai] [該→中孩] ㄊ51八  
 -速中該 -sugai ㄊ34五; ㄊ9九  
 -塔刺 -tala ㄊ7五, 10四, 14六, 15六, 20三; ㄊ13五; ㄊ13五; ㄊ38四  
 -秃中孩 -tugaj ㄊ3二3二, 6三; ㄊ22八, 43九; ㄊ53四; ㄊ19八, 21六; ㄊ20四, 21一, 36六, 十, 37七, 40二, 46三; ㄊ5九, 24六, 26二; ㄊ48一  
 -突中孩 -ducaj ㄊ10一  
 -牙 -yā ㄊ12六; ㄊ14八  
 -由 -yu ㄊ50四
- \*阿《傷》都- a·ldu- (相過) [a·ldu-, 傷→勳, a- の對動形]  
 -中渾 -qun ㄊ9四
- \*阿勳都- a·ldu- (共過) [a- の對動形]  
 -罷 -ba ㄊ53十  
 -黑三突舌兒 -gsan-dur ㄊ5九六
- \*阿《黑》都- a·ldu- (有) [a·ldu-, 黑→勳, a- の對動形]  
 -埃 -'āi ㄊ4一
- \*阿黑蒼- a·gda- (被住) [a- の受動形]  
 -主兀者 -ju'ū-je ㄊ17三
- \*阿兀勳- a·'ūl- (教活) [a- の使役形]  
 -罷 -ba ㄊ55九  
 -中忽 -qu ㄊ46六
- \*阿兀勳蒼- a·'ūl·da- (教存) [a- の使役·受動形]  
 -中忽 -qu ㄊ13八
- \*阿兀魯- a·'ūl·u- (教存) [a- の使役形]  
 -牙 -yā ㄊ5一
- 阿卜 ab (要, 取, 將) 取れ [ab- の命令形] ㄊ7三; ㄊ41六
- \*阿卜- ab- (要, 取, 將) 取る。  
 -罷 -ba ㄊ22六; ㄊ16二  
 -抽 -ču ㄊ8八, 49五; ㄊ16四, 十, 17七, 41八; ㄊ24二; ㄊ2九; ㄊ3七, 10四, 24二, 27六, 32七; ㄊ28二, 49六, 七; ㄊ23二, 45九; ㄊ3一, 二; ㄊ28十, 31四, 39二, 34七; ㄊ1三, 四, 2六, 4一, 10七, 九, 43六; ㄊ1五, 5八, 11六

- 出為 -ču'ūi ㄊ4九  
 -恢魯阿 -küj-luā[→quj-lu'ā] [恢→中灰] ㄊ36一; ㄊ47二  
 -中忽 -qu ㄊ33六, 九, 34一, 二; ㄊ7六, 31八; ㄊ8七; ㄊ21三; ㄊ15十  
 -中忽兀 -qu-'ū ㄊ33六  
 -中渾 -qun ㄊ45二  
 -秃中孩 -tugaj ㄊ37五; ㄊ21十, 49一; ㄊ21二; ㄊ7九, 11七, 39六
- \*阿(卜)- a(b)- (要, 取, 將) [同上]  
 -抽 -ču ㄊ32二, 34五; ㄊ1六, 3三, 4七, 22一, 28四, 39三; ㄊ10六, 34四, 43四
- \*阿卜蒼- ab·da- (被, 要, 得, 捉, 取) [ab- の受動形]  
 -阿速 -'āsu ㄊ41五; ㄊ15十; ㄊ12二  
 -罷 -ba ㄊ8二, 25六; ㄊ1五  
 -中忽 -qu ㄊ34四; ㄊ30十; ㄊ45一  
 坤 -kun [→-qun, 坤→中坤] ㄊ49二  
 -兀澤 -'ūjaj ㄊ14九
- \*阿卜中合兀勳- ab·qa·'ūl- (教要) [ab- の使役形]  
 -罷 -ba ㄊ18八  
 -周 -ju ㄊ39十, ㄊ2五
- \*阿卜塔- ab·ta- (被要) [ab- の受動形]  
 -主為 -ju'ūi ㄊ23一  
 -刺埃 -la'āi ㄊ48九  
 -來 -lai ㄊ17八
- \*阿不- ab·u- (要, 將, 將來) 取る。  
 -阿勳 -'ād ㄊ20五, 42三; ㄊ47四 (阿卜-); ㄊ33一; ㄊ3四, 40三; ㄊ14二, 32九, 十; ㄊ10一, 29八; ㄊ46九; ㄊ47九; ㄊ11一, 13三, 六, 15三, 七; ㄊ16一, 52五  
 -阿速 -'āsu ㄊ16五  
 -埃 -'āi ㄊ3四, 45一  
 -埃者 -'āi-je ㄊ28八; ㄊ11五  
 -罷 -ba ㄊ7九, 49一; ㄊ10七; ㄊ43五; ㄊ21十; ㄊ16十  
 -傷中渾 -dqun ㄊ3二, 三; ㄊ25九, 十; ㄊ6二, 8三  
 -黑赤 -gči ㄊ4四  
 -黑臣 -gč'in ㄊ35六  
 -黑三 -gsan ㄊ6七, 24六; ㄊ27十, 28三, 37八  
 -黑撒的 -gsad-i ㄊ18八  
 -刺阿 -la'ā ㄊ2九四; ㄊ44五; ㄊ17一  
 -刺埃 -la'āi ㄊ14五  
 -舌刺 -ra ㄊ1四; ㄊ20六; ㄊ2九, 4一; ㄊ44四; ㄊ14七

-舌命 -run 七1七

-牙 -yā 四34三; 五2四, 41五; 七14二

阿奔 ab·u·n (要) [ab·u- の同時接合副動詞形] 五3二, 20八; 六53四; 九21一; 十3一, 36十, 50二

\*阿不勒察- ab·u·lča- (相要) [abu- の相動形]

-罷 -ba 一15一; 七4三

-周 -ju 四16四

-牙 -yā 五37八

阿(卜)鄰 abulin (自娶的) 最初の(夫婦について)。一25七, 28五

阿卜赤舌刺 abčira (将来) [abčira-の命令形] 三21四; 五49五

\*阿卜赤舌刺- abčira- (将来) つれて来る, もって来る。

-罷 -ba 一38四; 二39十; 五23八; 六49五; 十51二

-罷者 -ba-je 八36三

-楊 -d 四40五; 七9十

-楊者 -d-je 六17四

-楊中渾 -dqun 七9二

-周 -ju 一10一, 43八; 二17五, 39二; 三20三, 24二, 43五; 四17四, 23五, 40六; 五4一; 六36六; 七29六; 十10一, 15十, 16六, 51一

-主兀 -ju'ū 八12九

-黑三 -gsan 一38五

-黑三突兒 -gsan-dur 一40九

-舌命 -run 三1八

-速中孩 -sugai 十47四

-塔刺 -tala 八9九

-牙 -yā 三2七; 七11七, 12五

\*阿卜赤舌刺兀勒- abčira·'ül- (教将来) [abčira- の使役形]

-周 -ju 七9四, 12一, 44三; 十41二

-中忽 -qu 十56六

阿卜里中合 abliqa (受賜) ほろび。六53三; 九21一, 十

阿把 aba (屈狩) 巻がり。七15三, 18二

-蒼察 -dača 八8七

\*阿把勒都- aba·ldu- (相搏) くみあう。

-周 -ju 十23三

-舌命 -run 四8九

\*阿把勒都兀勒- aba·ldu·'ül- (教厮搏) [abaldu- の使役形]

-罷 -ba 四27四

\*阿把勒都兀魯- aba·ldu·'ül·u- (教厮搏) [同上]

-牙 -yā 四26十

\*阿把刺- aba·la- (打罽) 狩をする。

-阿楊 -'ād 三25三

-阿速 -'āsu 三43六; 九25十; 十1六, 11一

-巴速 -bāsu 八8六

-楊中渾 -dqun 八8四, 六

-周 -ju 七15一

-恢突舌兒 -kuj-dur[→quj-dur] [恢→中恢] 十6一

-中忽 -qu 七10九

-中灰突兒 -quj-dur 十40三

-舌命 -run 五37三

-牙 -yā 五37四

阿把蘭 aba·la·n (打罽) [aba·la- の同時接合副動詞形] 六18九; 十7四

阿把刺勒敦 aba·la·ldu·n (共罽) [aba·la·ldu- の同時接合副動詞形] 十6二

阿巴中合 abaqa (叔叔) 叔父。六24二; 十24三

-蒼察 -dača 六24八

-因 -yin 十28十, 30八, 56五

-魯阿班 -lu'ā-bān 五9九

-余安 -yu'ān 一7七

\*阿巴舌里- abari- (登) 登る。

-楊中渾 -dqun 七39二

周 -ju 七37三

阿巴舌鄰 abari·n (登) [abari- の同時接合副動詞形] 七36一, 37三, 39三, 42六

\*阿巴舌里兀魯- abari·'ül·u- (教爬) [abari- の使役形]

-牙 -yā 十32二, 四

阿必楊 abid (肚臟) 小肋骨; 直腸。一8四

\*阿必楊刺- abid·la- (卜) 占う。

-阿速 -'āsu 十21八, 十, 22五

\*阿不舌刺- abura- (教) 教う。

-阿楊 -'ād 五34五; 六31二

-罷 -ba 二49一

-黑三 -gsan 三16七; 九14九

-周 -ju 三1六, 2五; 五13八, 33九, 34五, 七, 九, 35三; 六24九, 25一, 四, 31三, 五

-主兀 -ju'ū 五35九

-主為 -ju'ūj 二23四

-木者 -mu-je 二22三

-中忽訥 -qun-u 二12五

-中渾 -qun 二8六

- 秃中孩 -tugaĭ 四46四  
 -牙 -yā 三5五, 七; 五4九  
 阿不舌闊 abura·n (報) [abura- の同時接合副動詞形] 一33八; 二9十, 48十; 三5六  
 阿不舌里 aburi (徳) 性格; 徳性 五36四, 40七; 十43九, 44一  
 -顔 -yān 十44八; 十45八  
 阿不舌里秃 aburi·tu (性児有的) 性格をもつ。一27五; 五13一; 十25十  
 阿備 abuj (ナシ) [未詳 (まじない言葉?)]。六16八  
 阿察 ača (将来) [ača- の命令形] もってこい。三38五  
 \*阿察阿刺- ača·'ā·la- (駄駄) 積荷する。  
 -周 -ju 六2九  
 \*阿赤- ači- (駄) 積む。  
 -阿速 -'asu 十28九  
 -周 -ju 一9一; 二28三; 十8八; 十7二; 十23四, 56二  
 阿赤阿 ači·'ā (駄駄) 積荷, 荷物。六12七  
 -班 -bān 六12六; 十7三  
 -納 -n-a 十27三  
 阿赤阿壇 ači·'ā·tan (駄駄有的) 荷物を積んだ。十7七  
 阿赤阿秃 ači·'ā·tu (駄駄有的) 同上。六12六; 十4九, 5九  
 阿赤敦 ači·d·un (貼班的) [ačid の属格] 親衛隊の。十43一  
 阿曷中渾 adqu·n (掌着) [adqu- “つかむ” の同時接合副動詞形] 一43六  
 \*阿荅刺- ada·la- (作崇) たたる, 仇をする。  
 -梅 -muĭ 十21六, 九, 22四  
 阿荅里 adali (相似) 同じ, 似ている。一19四; 五24一; 七48九, 十; 十50七  
 \*阿荅里曷中合- adali·d·qa- (教比方) [adalid- の使役形] 比べる; 同一にする。  
 -秃中孩 -tugaĭ 八15八  
 \*阿荅舌児荅- adarġa- (ナシ) [adar- の受動形] 中傷される。  
 -阿速 -'asu 五37八  
 阿荅舌合中泥 adar·qan·i (ナシ) [adarqan の対格] 五37八  
 阿荅舌児中罕 adar·qan (ナシ) 中傷, おどし。  
 -突舌児 -dur 六22六  
 \*阿荅舌児塔- adar·ta- (ナシ) [adar- の受動形] 中傷される。  
 -阿速 -'asu 六22六  
 阿荅舌魯黒赤 adaru·gči (間諜) [adaru- (策を弄する) + -gči]。一28三  
 阿都赤 adū·či (放馬的) 馬を牧養する人。  
 -荅安 -da'an 五49四  
 \*阿都刺- adū·la- (牧養) 馬を牧養する。⟨→adu'ū·la-⟩  
 -秃中孩 -tugaĭ 三47二

- 阿都刺兀侖 adū·la·'ül·u·n (教牧放) [adū·la- の使役形の同時接合副動詞形] 五14一  
 阿都孫 adū·sun (頭口) 馬畜類。一14十  
 阿都兀 adu'ū (馬羣) 馬, 馬群。三47二; 四11三; 六28一  
 -班 -bān 四2九, 3四; 五46九; 八21十, 35八  
 阿都兀赤 adu'ū·či (放馬的) 牧馬者。五48六, 八  
 阿都兀巨 adu'ū·čün (放馬的) [adu'ū·ci の複数形] 三30一, 七; 九26三; 十9十  
 \*阿都兀刺- adu'ū·la- (牧放) 馬を牧養する。⟨→adu'ū·la-⟩  
 -阿曷 -'ad 十47十  
 -罷 -ba 三46一  
 -周 -ju 三45七, 八, 十  
 阿都兀闌 adu'ū·a·n (牧放) [adu'ū·la- の同時接合副動詞形] 六2二  
 阿都兀刺兀勤孫 adu'ū·la·ül·sun (教放牧的) 牧馬人 (複数形)。六1十  
 阿都兀訥安 adu'ūn·u·an (羣自的行) [adu'ūn の再帰属格形] 四3一  
 阿都兀孫 adu'ū·sun (頭口) 家畜, 人以外の動物。十21七  
 阿都温 adu'ū·n (馬羣) 馬, 馬群。一23三; 四2七, 八, 48一; 五18七, 32八, 46八;  
 六29十; 七16六  
 阿只舌児中合 aġirga (児馬) 仔馬。四31三  
 \*阿只舌刺- aġira- (因去) 帰る, 去る。  
 -罷 -ba 二49三  
 -罷田 -baten[→baġ-ū, 田→由] 二49九  
 -中忽 -qu 五30八  
 阿勤 al (大紅) 赤い。十12七  
 \*阿勤- al- (失) 失う。  
 -中渾 -qun 十33五  
 阿勤荅 alda (度) 両手を拡げた長さ, 尋。七37七, 38七, 八  
 \*阿勤荅- alda- (墮, 失, 脱) なくなる, 失なわれる。  
 -阿曷 -'ad 十27八, 36四, 40二  
 -阿速 -'asu 九6五, 17六; 十23七  
 -罷 -ba 二18五, 20四; 十37八  
 -罷者 -ba·ġe 八43三  
 黒三 -gsan 二18五; 九15八  
 -周 -ju 三44四; 八10五  
 -主為 -ju'ūġ 九14三  
 -中忽余兀 -quyu'ū [-quġ-u'ū] 十31九  
 -秃中孩 -tugaġ 八29九, 38四; 九17六  
 阿勤荅兀勤 alda·'ül (教罰) [alda·'ül- の命令形]。八30九  
 \*阿勤荅兀勤 alda·'ül- (教脱) なくす, 失なう; 罰する。  
 -周 -ju 四42五

\*阿勒答兀勒答- alda-'ül-da- (可罰) 罰せられる。[alda-'ül-の受動形]  
-中渾 -qun 八30九

阿勒答勒 alda-l (罰) 罰。九6五, 17五  
-突舌兒 -dur 八29八, 38四; 九24八

阿勒答勒壇 alda-l-tan (罰有的) 罪ある者。八31六; 九34四, 42十, 43二; 十7二; 三45五, 54四, 五

阿勒答兒 aldar (声) 名声, 有声。一4十; 十12六; 三8五

阿勒斤赤 algin-či (頭哨) 斥候。一22六, 八; 三43二; 六36四; 三26二, 31十

\*阿勒斤赤刺- algin-či-la- (頭哨做) 斥候にする。斥候を放つ。  
-周 -ju 六46九; 七22七, 32五; 八44六

\*阿勒斤赤刺兀勒- algin-či-la-ül- (教頭哨) 斥候にさせる。  
-周 -ju 六50九

阿勒斤臣 algin-či-n (哨望的) 斥候 (複数形)。三55八

\*阿勒札- alja- (艱難) 苦心する, 艱難する; とどこおる。  
-阿惕 -'äd 六14三, 33九  
-中忽 -qu 四9七; 三20一  
-兀齋 -'üjaj 六17六

\*阿勒札黑答- alja-cda- (艱難) [alja-の受動形]  
-舌翁 -run 三21三

阿勒只阿思 alji'äs (差) 過失, 心配。八19一, 29一; 三56六, 七, 57一

\*阿勒只牙- aljiya- (離了) はなれる, はなす。  
-中忽牙察 -quyača [->quj-ača] 四41五

\*阿勒中合撒- alcasa- (懈怠) はなれる; 心が乱れる。  
-兀澤 -'üjaj 三45八, 46九

\*阿勒中合撒勒都- alcasa-ldu- (分離) [alcasa-の対動形]  
-中渾 -qun 八9六

阿勒中合撒兀勒 alcasa-'ül (教分了) [alcasa-の使役形の命令形] 六40七

阿勒壇 alta-n (金) 金。三27十, 28三; 四17二, 22七, 九; 三48六, 49二, 50六; 七2七, 八, 7一, 三; 八28九; 十7四, 12七, 13二, 四; 三5三, 6四, 15一, 20三, 35三, 36三, 47二; 三4十, 9八, 九, 14四, 21七, 26一, 十, 29三

阿勒塔塔宜 alta-tayi [altataj-i] (金有的行) 金のついでるものを。七6五

阿勒塔台 alta-taj (金有的) 金をもてる(もの)。三15五, 16五; 三26一

阿勒塔壇 alta-tan (金有的) 同上。(複数形) 三26十

阿刺 ala (腿叉) 腿のつけ根。  
突舌兒 -dur 八28八

\*阿刺- ala- (殺) ころす。  
-阿惕 -'äd 四3四

-阿速 -'äsu 五2十, 3一; 七3三; 九15二

-埃 -'äj 五3七, 5一

-罷 -ba 四15二

-罷者 -ba-je 六23九

-黑赤 -gči 六24二

-黑撒阿舌兒 -gsa'är 七3三; 九25十

-黑撒你顔 -gsan-iyän 四50三, 五

-黑三 -gsan 四15八; 三28九

-周 -ju 一8四, 16八; 二27四; 四14三; 五4七, 19八, 27五, 41一, 50一; 七35六; 八12四, 六, 15七; 九14四

-主兀 -ju'ü 七5八

-主為 -ju'üj 四15三, 18五, 46九; 九14八; 十18五, 六

-中忽 -qu 五3八

-中忽古 -qu-gü[->kü] 五3一

-中忽因 -qu-yin 五9九

-牙 -yā 四42三

阿闌 ala-n (殺) [ala-の同時接合副動詞形] 五3六

\*阿刺勒都- ala-ldu- (相殺) [ala-の対動形]

-恢 -küj[->quj] [恢->中灰] 七28七

-中灰 -quj 七34一; 八15二, 45八

-中灰突舌兒 -quj-dur 三24八

\*阿刺黑答- ala-gda- (被殺) [ala-の受動形]

-罷 -ba 四3八

-魯阿 -lu'ā 九21九

-周 -ju 七42六; 三20二

-中忽古 qu-gü[->kü] 五3一

-舌翁 -run 四46三; 五11二; 六23十; 九12七

阿刺兀勒 ala-'ül (教殺) [ala-'ül-の命令形] 八20四

\*阿刺兀勒- ala-'ül- (教殺) [ala-の使役形]

-中忽 -qu 六51七

\*阿刺兀魯- ala-'ül-u- (教殺) [ala-の使役形]

-舌翁 -run 八20三

阿刺出中合 alačug-a (帳房行) [alačugの与位格形] 帳房に。三30二, 八

阿刺黑 alag (花) まだらの, ぶちの。二44六, 46三; 五13五

\*阿刺黑赤刺- alag-čila- (偏向) 依古ひいきする; まだらにする。

-罷 -ba 三32八

阿刺黑赤兀魯 alagči-üd (花色) [alagčiの複数形] 斑の。三45七; 六3七

阿刺沙思 alašas (淮馬) 去勢馬 (テュルク語) (?). 三26一



阿刺兀納 ala'un·a (門後行) [ala'un '戸口の傍' の与位格形] 五39一, 四  
 阿刺閼納 ala'un·a (門後行) [ala'un の与位格形] 九13二  
 阿郎吉舌兒 alanggir (木做的(弓)) シベリヤ・からまつの木で作った弓。三26六  
 阿里 ali (那箇) どれ。八37九; 五47四; 五24九  
 阿魯兒中孩 alurqaj (掃道) (草の上の) ふみあと道。  
 -巴舌兒 -bār 二26五, 28九, 47五  
 阿魯思 alus (越過) かけはなれて。四29一; 七38三; 八8三; 十44八  
 阿魯昔 alus-i (隔越) [alus の対格形] 八19一  
 阿馬 ama (口) 口。五49二  
 -阿舌兒 -'ār 四39三, 43五; 五37七, 八; 六22三, 六, 八; 七42五; 八15七; 九25  
 四; 五28九  
 -阿舌里顏 -'ār-iyān 六13十; 九16七  
 -阿舌魯 -'ār-ū 六22五  
 -安 -'ān 二19七; 四39一  
 -訥 ·n-u 二10一; 六13八; 九16十  
 阿馬禿 ama·tu (口有的) 口のある。五43三  
 阿馬阿舌刺鄰 ama'ārālin [ama'ārāli- '親しむ' の同時接合副動詞形] 五37十  
 \*阿馬舌刺- amara- (相愛) 愛する。  
 -周 -ju 五24七  
 -牙 -yā 三27八  
 \*阿馬舌刺勑都- amara·ldu- (相親愛) 親しみ合う。[amara- の対動形]  
 -周 -ju 三28七, 29六  
 -中灰 -quj 三27七  
 -舌命 -run 三29五  
 -牙 -yā 三26一  
 阿馬舌刺黑 amara·g (親厚) 親しい。五38七<sup>2</sup>  
 阿馬撒舌兒 ama·sar (口子) 入口。二16一; 五12一  
 阿馬撒舌刺 ama·sar·a (口子行) [amasar の与位格形] 二15七, 八, 24八; 四20二;  
 五32八; 六29九, 50十; 五12八  
 阿馬撒舌里 ama·sar·i (口子行) [amasar の対格] 五12六  
 -牙舌兒 -yār [amasar の造格形] 五12三  
 阿蛮 ama·n (口) 口。二25七; 三44四; 四25八, 49四, 50七; 五40七; 六53一; 八10  
 五, 21三, 43三; 九20九; 五21三, 31八, 32五  
 -突舌兒 -dur 八28十  
 阿蛮你舌里兀 ama·n niri'ū (鎖子骨) あご骨。⟨→aman niru'ū⟩ 四49四  
 阿蛮你舌魯兀 ama·n niru'ū (鎖子骨) 同上。四50七  
 \*奄都舌里(黑) 蒼- amduri·gda- (被荒忙) [amduri- 'あわてる; 憂える' の受身形]  
 -舌命 -run 四38九

\*奄都舌里黑蒼- amduri·gda- (同上) 同上。  
 -命[→舌命] -lun[→run] 四41四  
 奄秃舌鄰 amturi·n (荒忙) [amduri- の同時接合副動詞形] 四43六  
 阿米 ami (命) 命。四22十; 六16五  
 -安 -'ān 六26一  
 -納 ·n-a 三19五  
 -你顏 ·n-iyān 二50七, 八, 十; 三18七, 19四  
 -泥顏 ·n-iyān 一35九  
 -訥 ·n-u 三27七; 六52四  
 -顏 -yān 六23十, 24三, 51七; 八45九; 九20九; 十43七; 五39五  
 阿米臣 ami·čin (管米的) 食糧係。⟨→amu·čin⟩ 五53六  
 阿米都 ami·du (命有的) 生きてる。二11七; 六40五  
 阿米堆 ami·duj (活) 生きている。七15九  
 阿米壇 ami·tan (生靈) 生きもの, 動物。  
 -突舌兒 -dur 五20十  
 阿米禿 ami·tu (性命有的) 生命のある。二23八; 七23七, 24七  
 -蒼 -da 十27六  
 阿民 ami·n (性命) 命。一35七, 八; 三27六; 四43三, 五, 八; 五3六, 4九, 十<sup>2</sup>;  
 六52二; 七3五, 31三; 八22四; 九41九, 17一; 十7四; 五11二, 14四  
 -突舌兒 -dur 八21四, 七; 九15三, 九, 16三, 17三  
 -都舌里顏 -dur-iyān 四28三  
 -你顏 -niyān 四43六  
 -圖舌兒 -tur 一35六  
 阿木撒阿舌里 amsa'āri (可懼) 恐ろしい(?)。七37二  
 \*阿木- amu- (安, 歇息) 休む。  
 -周 -ju 四40七  
 -木者 -mu·je 八20二  
 -中忽 -qu 九2四  
 -速中孩 -suqaj 五36六  
 -由 -yu 九9十  
 \*阿木兀勑- amu·'ūl- (教安) 休ませる。[amu-の使役形]  
 -罷 -ba 三48九, 49一  
 -周 -ju 四1九  
 \*阿木兀魯- amu·'ūl·u- (教安) 全上。  
 -黑三 -gsan 十1九  
 阿木臣 amu·čin (管米的) 食糧係。⟨→ami·čin⟩ 五48四  
 阿木中忽郎 amu·gu·lang (安寧) 平和(な), 安らか(な)。五52八  
 \*阿木舌兒里- amu·r·li- (息, 安寧) 休息する。

- 罷 -ba 五26一  
-罷者 -ba'je 五26一, 十24九
- \*阿木舌兒里兀勒- amu·r·li·'ül- (安寧) [amu·r·li- の使役形]  
-周 -ju 十30三
- \*阿木舌兒里兀勒- amu·r·li·'ül·da- (教寧息) [amu·r·li·'ül- の受動形]  
-周 -ju 三35九
- 阿木舌兒里兀倫 amu·r·li·'ül·u·n (寧息) [amurli'ül- の同時接合副動詞形] 十30十
- 阿納埃 ana'ai (又是也) 又も, 又々。  
-因 -yin 七27八
- \*阿納- ana- (痊可) (病氣が) 治る。  
-埃 -'ai 六18十  
-禿中孩 -tugaj 三11二
- 阿泥 an·i (他每行) [\*an の対格] 彼等を。二21八; 四37一; 六9九, 17二; 七27三;  
三1七, 38十, 39一
- 阿訥 an·u (他的) [\*an の属格] 彼等の。一11四, 14六, 19七, 47十; 二49一; 三21  
七, 22十, 23一<sup>2</sup>, 三, 46八; 四20二, 九<sup>2</sup>, 22五, 39十; 五1五, 16二<sup>2</sup>,  
18二, 19三, 39三; 六20四, 28二<sup>2</sup>, 52八; 七2七, 九, 12一<sup>2</sup>, 四, 14二,  
16四, 五, 六, 七, 八, 23十, 24三, 27六, 32一<sup>2</sup>, 九; 八4六<sup>2</sup>, 13十;  
九47五, 九<sup>2</sup>; 十18四; 三6八, 13七, 18九, 45一; 三3二, 8四, 五, 21  
一, 26二, 30二, 38二, 47一, 二, 不明1
- \*阿黑荅刺- aqda·la- (騎) 馬にのる, 馬のりになる。(<→aqdala->  
-周 -ju 四27九
- \*阿黑撒- agsa- (帶) 帯びる (矢筒などを), つける。  
-罷 -ba 三45一<sup>2</sup>, 二  
-周 -ju 三46七  
-中忽牙 -quya[→quj-a] 九37五; 三42十
- 阿黑塔 acta (驕馬) 去勢馬。三43四, 46十; 四8五
- 阿黑驕 acta (驕馬) 同上。二30一; 六36六; 七6四, 48四; 八7十; 九20二, 33六,  
48十; 三5七, 45五; 三23一, 39五, 47七  
-宜 -i 十16七  
-因 -yin 六49三; 七29二; 三26十
- 阿黑驕赤 acta·či (管馬的) 馬の管理者。七6二, 四, 7三, 五, 20六  
-荅安 -da'an 七6三  
-宜 -yi 七7九
- 阿黑塔臣 acta·čin (籠馬人) 同上。(複數形) 三46十
- \*阿黑塔刺- acta·la- (騎) 馬にのる, 馬のりになる。(<→aqdala->  
-周 -ju 五3三
- 阿黑塔蘭 acta·la·n (騎) [aqta·la- の同時接合副動詞形] 五2七

- 阿黑驕思 acta·s (驕馬每) 去勢馬。五50七; 六1十, 21二, 42三; 七15五, 七<sup>2</sup>, 23二,  
24一, 26五, 27一, 五, 六; 十15二; 三9十, 53十  
-禿舌里顏 -tur-iyān 七20八
- 阿黑驕撒寒 acta·s·ača (驕馬每行) [actas の奪格形] 十8八
- 阿黑驕昔牙舌兒 acta·s·iyār (驕馬母教) [actas の造格形] 十15八
- 阿黑驕昔牙舌里顏 acta·s·iyār·iyān (驕馬自的) [actas·iyār の再帰造格形] 八19六
- 阿黑驕昔顏 acta·s·iyān (驕馬每自的) [actas の再帰対名] 六2一, 四, 八, 11六;  
七23六, 24二
- 阿黑驕思禿 acta·s·tu (驕馬有) 去勢馬に乗った。一2八
- 阿黑驕壇 acta·tan (驕馬等) 去勢馬など。二9六, 27八, 29三, 30三, 六; 八35一
- 阿黑驕塔泥 acta·tan·i (驕馬等行) [aqtatan の対格形] 二28四, 八, 29一, 30九; 八  
36一
- 阿中合 aqa (兄) 兄。一7五, 六, 11一, 18七, 20八, 九<sup>2</sup>, 十, 21二, 四, 22一, 28  
三, 37一, 三; 二1三, 5五, 8二, 五, 9九, 12四, 19一, 六, 36十;  
三7六, 8八, 34四, 十, 45二; 四9六, 八<sup>2</sup>, 25四, 六, 28七; 五13一,  
二, 31一, 36六; 六23七; 九4六, 8九, 9一, 二, 22一, 三, 五, 23三<sup>2</sup>;  
十16二, 五, 22十; 三22三, 28六, 29一; 三14三, 七, 17六, 七<sup>2</sup>, 20一,  
23八, 24八, 31八, 九, 32十, 36二, 43九, 47六, 48一, 49八, 十, 50二,  
51十, 57五, 七  
-阿察 -ača 三17五  
-班 -bān 二14一  
-察 -ča 三49九  
-荅 -da 三32九, 53一  
-荅安 -da'an 五11一  
-突舌兒 -dur 三15四, 19五, 53一  
-都舌里顏 -dur-iyān 三34六  
-顏 -yān 六45九; 三23六  
-宜 -yi 五41一; 三17二, 三, 五, 18五, 19八, 23一  
-因 -yin 九19九; 三18四, 23四  
-余安 -yu'an 一20八, 34八; 六45二; 三32四; 三23十
- \*阿中合刺- aqa·la- (為長) 長上者として振舞う, 指導する。  
-罷 -ba 九43八  
-周 -ju 三49三; 七19八; 九2五, 36六, 九, 37二, 三, 四, 五, 六, 七; 三  
43九  
-禿中孩 -tugaj 三16六, 七
- \*阿中合刺黑荅- aqa·la·gda- (被為長) [aqa·la- の受動形]  
-罷 -ba 九43四; 三45七, 十
- 阿中合納舌兒 aqa·nar (兄母) 兄達。一14九, 22二, 五, 23三; 二8三, 13七, 44四,

- 46十; 三33八, 十, 34三, 35一; ㄱ22十, 52一, 二
- 阿中合中罕 aqa·qan (長些) より目上の(者)。ㄱ29五
- 阿(舌)監 aram (車底) 羊脛い。三45八
- \*阿舌児巴- arba- (呪) 呪う。  
-楊中渾 -dqun ㄱ24四
- \*阿舌児必刺- arbila- (擄要) とりこにする。  
-罷 -ba 三23三  
-周 -ju 三24八, 27十, 28三
- 阿舌児賓 arbin (寛広) 広大な, 多量の。八18十; ㄱ17八
- 阿舌児察 arča (栢木) かしわの木, 桧。三26九
- \*阿舌児赤- arči- (拭) 拭く。  
-阿楊 -'ad 十38二
- 阿舌児臣 arči·n (抹) [arči- の同時接合副動詞形] ㄱ46三
- 阿児中合 arga (計策) 方法, 手段。  
-巴舌児 -bār 八45五
- 阿児中合察 arga·ča (論来) 手段を講じて; はかつて。二3二; 五41四; ㄱ35十
- \*阿舌児中合刺- arga·la- (使見識) なんとかする, 手段を講ずる。  
-周 -ju 十40一
- 阿舌児中合思 arga·s (計量) [arga の複数形] 六42一
- 阿児中合丹 arga·tan (使智量) 智恵のある(者)。[複数形] 四28三; 八33七
- 阿児中合禿 arga·tu (才有) 智恵のある。  
-因 -yin 二18九
- 阿舌児中含只 argamji (繫繩) 紐, 繩。  
-顔 -yān ㄱ20三, 35三
- 阿児思闌 arslan (獅子) 獅子。二11六
- 阿舌鬚阿禿 ara'a·tu (大牙有的) 奥歯・牙のある。五37七
- 阿舌刺阿禿 ara'a·tu (大牙有的) 同上。六22五
- 阿舌刺勸真 aralji·n (相換) [aralji- '交換する' の同時接合副動詞形] 五38九
- 阿舌刺刺 aral·a (鳥行) [aral の与位格形] 川中島。三6一
- 阿舌刺速 ara·su (皮子) 皮膚, 皮。⟶arasun⟶  
-巴舌児 -bār 三8三
- 阿舌刺孫 ara·su·n (皮子) 同上。一8八  
你牙舌児 -niyār 三7八
- 阿舌闌 aran (僅得) 殆ど, 辛うじて。二37一
- \*阿舌闌勸只- ara(n)lji- (相換) 交換する。  
-周 -ju 三26九
- 阿舌里赤 ariči (救護) 救護の。三27七
- \*阿舌里勸 aril- (浄) 清まる, 清澄になる。

- 周 -ju 十12四
- \*阿舌里勸中合- aril·ga- (教浄) 清める。  
-周 -ju ㄱ26九
- \*阿舌里牙- ariya- (猶予) ためらう, 疑う。  
-中忽 -qu 四28三
- 阿舌里牙勸 ariya·l (疑) 疑い。ためらい。五50九; 六42四
- \*阿舌鄰勸- ari(n)l- (浄) 清まる。  
-周 -ju 十12五
- 阿舌魯 aru (背) 後, 奥。一37六; 七29二
- \*阿思中合- asga- (吐) 吐く, 撒く, 流す。  
-阿楊 -'ad 四39四, 41六  
-阿速 -'asu 四41三  
-黒三 -gsan 四41一  
-中忽宜 -qu-yi 四41六  
-牙 -yā 七27六
- \*阿撒黒- asag- (問) 尋ねる。⟶asagu-⟶  
-罷 -ba 六5三; 七33五, 37六; ㄱ16六  
-巴速 -bāsu 四46一  
-抽 -ču 七47二; ㄱ49十  
-出兀 -ču'ū 六3二, 三; 七33二, 35一, 四, 36四  
-主兀 -ju'ū 五20一  
-中忽 -qu 一18三; ㄱ39四  
-速 -su 三31一  
-塔刺 -tala 七47九  
-禿中孩 tugai 九47四, 48六; ㄱ39一
- \*阿撒黒蒼- asag·da- (被問) [asag- の受動形] ⟨→asag·ta-⟩  
-舌命 -run 七48二
- \*阿撒黒塔- asag·ta- (被問) [asag- の受動形] ⟨→asag·da-⟩  
-周 -ju ㄱ22一
- \*阿撒中忽- asagu- (問) 尋ねる。  
-阿速 -'asu 一9四; 四34四; 六5四; 七48一  
-黒三 -gsan 九48八  
-舌命 -run 七37四, 39四
- 阿撒中渾 asagu·n (問) [asagu- の同時接合副動詞形] 七47二; 十29一
- \*阿撒温勸察- asa'ū(n)·lča- (相問) 尋ね合う。[asa'ū- の相動形]  
-中忽 -qu 一18四
- \*阿撒舌刺- asara- (收拾) 世話する, 持上げる。  
-阿楊 -'ad 十9七

- 罷 -ba 一16五; 四17九  
 -楊中渾 -dqun 六17六; 十3十  
 -黑撒楊 -gsad 七2八  
 -黑三阿兒 -gsan·ār 三18一  
 -周 -ju 七10五; 九11四; 十8七, 八  
 -木 -mu 五22七  
 -梅 -muj 十7六  
 -中忽 -qu 四42七; 六40一  
 -中忽宜 -qu-yi 一49四; 六7十; 三24八  
 -中灰 -quj 十7八  
 -秃中孩 -tugaj 十4七, 八, 九; 三39八, 十  
 -牙 -yā 六16九
- \*阿撒舌刺兀勒- asara·'ül- (教抬拳) [asara- の使役形]  
 -周 -ju 九23五
- \*阿撒舌刺兀魯- asara·'ül·u- (奴隸) [同上]  
 -黑三 -gsan 三18一
- \*阿撒舌刺溫勒- asara·'ü(n)- (教收拾) [同上]  
 -罷 -ba 二23九
- \*阿撒兀(勒)- asa'ül- (教問) 尋ねさす。[asa'ü- の使役形]  
 -舌刺 -ra 四45十
- 阿三 asa·n (担) [asa- 'かつぐ' の同時接合副動詞形] 七34九
- \*阿失吉- ašigi- (打) 打つ。  
 -罷 -ba 四18十  
 -周 -ju 十33九, 十, 34三, 35七  
 -主為 -ju'üj 四7四
- \*阿失吉刺勒都- ašigi·la·ldu- (厮) 続けて打ち合う。[ašigi·la- の對動形]  
 -周 -ju 四10六
- \*阿失吉克答- ašigi·gda- (被打) [ašigi·gda-克→黑] 打たれる。[ašigi- の受動形]  
 -周 -ju 四7四  
 -恢 -küj[-→quj] [恢→中灰] 四7六
- 阿兀 a'ü (地角) 隅。四31五
- 阿兀楊動 a'ü·dki·n (教寬) [a'üdki- '寬くする' の同時接合副動詞形] 三30三
- 阿兀勒滌 a'ülča·n (拜見) [a'ülča- の同時接合副動詞形] 四23五
- \*阿兀勒札- a'ülja- (拜見) 会う。(<→a'ülča->)  
 -罷 -ba 十13六, 15三  
 -周 -ju 四22一, 七  
 -中灰突舌兒 -quj-dur 三10一, 二  
 -舌刺 -ra 三9七

- 舌命 -run 三9八
- \*阿兀勒札兀勒- a'ülja·'ül- (教拜見) [a'ülja- の使役形]  
 -罷 -ba 十11二, 15九; 三44八; 三10二  
 -周 -ju 三46一; 三34二
- 阿兀勒札兀魯- a'ülja·'ül·u- (教拜見) [a'ülja- の使役形]  
 -阿速 -'äsu 三45九
- 阿兀勒札兀倫 a'ülja·ül·u·n (教拜見) [a'ülja·ül- の同時接合副動詞形] 三31七
- 阿中兀刺 a'üla (山) 山。七34八
- 阿兀刺 a'üla (山) 同上。三30一; 四49五, 六; 五28七; 七36一, 37三, 38三, 39三,  
 42六; 十19十; 三1九  
 -突舌兒 -dur 三30七; 七42七  
 -宜 -yi 七42十  
 -因 -yin 七39二, 十
- 阿兀刺 a'üla (山) 同上。  
 -因 -yin 七32七; 八9六, 44三
- \*阿兀刺刺- a'üla·la- (山上) 山に登る。  
 -黑撒楊 -gsad 三7六
- 阿兀刺思 a'üla·s (山每) [a'üla の複數形] 三32一
- 阿兀中合 a'üga (氣力) 力, 氣力。八9八
- 阿兀舌兒① a'ür (確) 確。五13七
- 阿兀舌兒② a'ür (氣) 大氣; 怒。三34六
- 阿兀舌里顏 a'ür·iyān (氣自的行) [a'ür②の再帰形] 二11六; 十29五
- \*阿兀舌兒刺- a'ür·la- (怒) 怒る。  
 -阿速 -'äsu 七38二  
 -周 -ju 十29二
- 阿兀舌兒壇 a'ür·tan (剛氣, 氣有的) 怒れる。四25九, 十
- 阿兀舌刺速 a'üra·su (匹帛) 反物。十8十; 三15五, 九, 16六
- 阿兀舌刺速楊 a'üra·su·d (段匹) [a'ürasu の複數形] 三5九
- 阿兀舌刺孫 a'üra·su·n (段子) 反物。十13五; 三6四, 7二, 9七, 10七, 15二, 47三;  
 三4十, 26一, 48二
- 阿兀舌魯黑 a'ürug (老小營) 陣營, 本陣。四18二; 十7七  
 -突兒 -dur 三37一  
 -圖舌兒 -tur 三18十, 19六; 三20二
- 阿兀舌魯兀楊 a'ürü'üd (家每, 老小營) [a'ürug の複數形]  
 -突舌兒 -dur 八4三, 九  
 -圖舌兒 -tur 四18三, 六
- 阿兀舌魯兀蒼察 a'ürü'üd·ača (家每行) [a'ürü'üd の奪格形] 八4八
- 阿兀失吉 a'üšigi (肺) 肺臟。四25八; 八15二

阿兀失吉秃 a'ūšigi·tu (肺有的) 肺のある。一八八  
 阿兀牙 a'ūya[->a'ūi-a] (寛行) [a'ūi の与位格形] ㄱ48八  
 阿為 a'ūi (寛) 広大な。十30三, 四; ㄱ30二  
 阿牙 aya (征進) 戦旅。ㄱ9一  
 \*阿牙刺- aya·la- (征進) 征戦する, 戦旅に出る。  
 -阿速 -'āsu ㄱ17八  
 -黑撒惕 -gsad ㄱ16六, 27五  
 -黑三 -gsan ㄱ15六, 16三, 28一  
 -周 -ju ㄱ12十, 34三, 55二  
 -中忽泥 -qun-i ㄱ16八  
 -中灰突舌兒 -quj-dur ㄱ9一  
 -舌翁 -run ㄱ37一  
 -速中孩 -sugaj ㄱ47六  
 阿牙闌 aya·la·n (征進) [ayala- の同時接合副動詞形] ㄱ46七  
 \*阿牙刺兀勦- aya·la·'ūl- (教征進) [ayala- の使役形]  
 -罷 -ba ㄱ48二, 49三, 十; ㄱ15八, 28三  
 -中忽 -qu ㄱ17五  
 -中灰 -quj ㄱ18七  
 -秃中孩 -tugaj ㄱ16九, 二17, 三  
 \*阿牙刺兀魯- aya·la·'ūl·u- (教征進) [ayala- の使役形]  
 -木 -mu ㄱ17七  
 -舌翁 -run 八10二  
 阿牙中合 ayaga (斝皿, 盞) 容器。七2八, 9六; 九46四, 八; 十4九; ㄱ9九, 11  
 六, 29六, 39八  
 阿顏 aya·n (征進) 戦旅, 征戦。ㄱ28九  
 -突舌兒 -dur 九12一; ㄱ9二  
 圖兒 -tur 二28十  
 阿亦馬黑 ayimag (部落) 集落・家の集団。五25三<sup>2</sup>, 五; ㄱ49六  
 阿亦馬乞牙舌里顏 ayimak·iyār·iyān (部落自的毎) [ayimag の再帰造格形] 五25七  
 阿亦馬中渾 ayimag·un (部落的) [ayimag の属格] 五25四  
 阿亦馬兀答察 ayima'ūd·ača (部落毎的行) [ayimag の複数奪格形] 五25七  
 \*阿亦中合黑刺- ayiqag·la- (訶告) さん言する。  
 -主兀 -ju'ū 五15三  
 \*阿亦思- ayis- (来) 来る, 近づく。  
 -中忽 -qu 七36四  
 -中忽泥 -qun-i 七34十  
 阿亦賽 ayis·aj (来也) [ayis-aj] 来る, 近づく。四4一; 七31八, 33五, 34四, 35三,  
 八; ㄱ15四; ㄱ4三

阿亦速 ayis·u (来有) [ayis-u] 同上。二19七, 29八, 32一, 二, 八, 33八; ㄱ39二;  
 六11十, 13五, 六, 26八; 七46二; ㄱ34九  
 -者 -je 七37九  
 -魯 -lu 七36九  
 \*阿亦速- ayis·u- (来) 近づいて来る, 近づく。  
 -恢 -küj[->quj] [恢→中灰] ㄱ16五; 八35四  
 -恢突舌兒 -kuj-dur[->quj-dur] [恢→中灰] 一37二, 15九; 二15二, 七; 五  
 15十; 六9一, 三, 五, 18九; 八35二; ㄱ38八  
 -恢宜 -kuj-yi[->quj-yi] [恢→中灰] ㄱ16四  
 -刺阿 -la'ā 一42八  
 -刺埃 -la'āi 五6四  
 -魯阿 -lu'ā 一43一  
 -中忽宜 -qu-yi 一3十, 34六  
 -中灰 -quj 六2三  
 -中灰突舌兒 -quj-dur ㄱ32六; 四13九; 五2三, 29五; 六2十, 8七, 31六,  
 28八; 七31七; ㄱ10十  
 -中恢突舌兒 -quj-dur [恢→中灰] ㄱ38八  
 -中渾 -qun 一4三; 三15四; 七33八, 36一, 三, 37五, 39四; ㄱ2二  
 -舌翁 -run 一9一; 二37三; 三29十, 38九; 四38二; 五5五, 7二, 46二; 六  
 26五, 44四; 七45九; 八33八; 九13五, 27六, 28二  
 阿亦孫 ayis·u·n (来) [ayis-u- の同時接合副動詞形] 一6五, 20三; 二35一, 42八,  
 44八; 三33六; 六2七, 3一; -古 -gu 三34一, 二  
 \*阿亦速勦察- ayis·u·lča- (共来) [ayis-u- の相動形]  
 -周 -ju 六3一  
 阿亦石 ayiš·i (来) [ayis- の女性形] 二45二; 三10四, 14三; 四11四, 12五, 34一;  
 ㄱ1十  
 阿因勦 ayi(n)l (營) ファイル, 家。二21八  
 -突舌兒 -dur 三20五  
 阿寅勦 ayi(n)l (營) 同上。  
 -圖兒 -tur 二17一  
 阿余 ayu (怕) [ayu- の命令形] 恐れよ。六6五  
 \*阿余- ayu- (怕) 恐れる。  
 -罷 -ba 十31二; ㄱ8七  
 -罷者 -ba-je ㄱ45七  
 -周 -ju 一35一; 二13七; 四28二, 41五; 五14三, 25十; 七42六; 十34七; ㄱ8  
 六, 八, 46九; ㄱ34六  
 阿云 ayu·n (怕) [ayu- の同時接合副動詞形] 十31二  
 \*阿余兀勦- ayu·'ūl- (教怕) [ayu- の使役形]

-罷 -ba 六21四

-周 -ju 七11三

-中忽 -qu 六21五

阿余兀里 ayu·'ül·i (教怕) 恐れさせる。三34十

阿余兀魯 ayu·'ül·u (教怕) 恐れさせる。六21六

\*阿余兀魯- ayu·'ül·u- (教怕) [ayu- の使役形]

-罷 -ba 六21八

-黑撒你顔 -gsan-iyān 八15八

-刺阿 -la'ā 八22三

\*阿余兀勒荅- ayu·'ül·da- (被教怕) [ayu·'ül- の受動形]

-刺阿 -la'ā 八10四

\*阿余温勒荅- ayu·'ü(n)l·da- (被驚怕) [同上]

-罷 -ba 二51一

唉 ai (ナシ) ああ。六33七

唉亦 aiyi (嘆声) ああ。七10四, 13六, 七29九

\*埃速- ais·u- (来) 近づく, 来る。

-中忽魯阿 -qu-lu'ā 一36二

俺塔塔宜 amta·tai (→amta·tai-yi) (滋味有的行) [amta·tai 'おいしいもの' の対格] 七6六

安荅 anda (契合) 義兄弟。三1九, 7六, 16一, 22七, 25十<sup>2</sup>, 26二, 四<sup>2</sup>, 五, 十, 27六, 八, 28七, 30一<sup>2</sup>, 六, 31三; 四1四, 六; 五9七<sup>2</sup>, 10四, 11九, 30六, 八, 35七, 36十, 40六; 六5一, 6五, 7十, 25六, 26九, 27五, 40二, 七, 41一<sup>2</sup>, 九; 七33五, 36五, 八, 42七; 八13二, 五, 14九, 17一, 18一, 三, 19二, 四, 20一, 二, 三, 21二, 22一, 33七, 43三; 九20八

-阿察 -ača 三49五; 八18十

-荅 -da 三3十, 4五, 27十, 28二, 四; 四1九; 六34八, 39八; 七42三; 八12十, 19七, 十

-突舌兒 -dur 五40九; 六4八, 5一, 6四

-宜 -yi 三5二, 8九; 四1七

-因 -yin 三9一, 二, 31五; 四1五, 九; 六7九; 八18七, 20八

-亦顔 -yi-yān 八17七, 十

-魯阿 -lu'ā 八16十

安達 anda (契交) 義兄弟。二39四, 五, 八

\*安荅赤蘭勒都- anda·čila(n)·ldu- (契合共做) 共に義兄弟になる。

-罷 -ba 三26九

\*安荅中合- anda·ga- (説誓) 盟約する。

-周 -ju 六34一

\*安荅中合勒都- anda·ga·ldu- (共盟誓) 盟約し合う。

-周 -ju 四31四

安荅中合舌兒壇 anda·ga·r·tan (做誓有的每) 盟約せる (者)。三12五

安都舌兒 an·dur (他每行) [\*an の与位格形] 五39一; 三35十

\*安都舌里- anduri- (荒) あわてる。

-周 -ju 四41六

昂格思格 angesge (紅) [-→enggesge] 紅, 頬紅などの類。六9六, 16一; 八43八

\*昂格失格- anggešige- (学) [-→enggešige-] 学ぶ, 真似る。

-周 -ju 三32五

\*昂吉赤舌刺- anggičira- (分離) 離れる。

-罷 -ba 六22九

昂吉荅 anggida (外) 他に, 別に。二33五; 四22九; 七11十, 23八, 24八; 八8七, 9七, 14八, 15一, 21三, 26十; 九33七, 34一; 十6九, 7十; 三40一

昂吉兒 anggir (鴛鴦) おしどり。二12一

昂客 angke (太平) [-→engke] 平和, 大平。三44二

昂中合 angqa (最) はじめ。一30五; 三26一; 四25四

奧中合 aūca (氣) 力, 強力。九31六

## e

- 額卜扯兀 ebče'ü (臂) 胸。〈→ebče'ün〉  
-邊 -bēn 二50三; 六12二; 十36三
- 額卜扯兀<sub>脇</sub> ebče'ü·d (臂前) [ebče'ü の複数形] 三30二
- 額卜扯温 ebče'ü·n (臂前) 胸。〈→ebče'ü〉  
突舌兒 -dür 三31五
- 額(卜)徹温 ebče'ü·n (胸) 同上。  
-都舌里顏 -dür-iyēn 二51十
- \*厄卜迭 ebde- (壞) 破壊する。  
-坤 -dkün 三50六  
-額速 -'ēsü 三44二  
-古 -gü[→kü] 十24二
- \*額卜迭 ebde- (破) 同上。  
-額<sub>脇</sub> -'ēd 三43八  
-周 -jü 三14七, 43六; 三27七, 29一
- \*額卜迭克迭 ebde·gde- (被壞) [ebde- の受動形]  
-舌倫 -rūn 三21六, 22三
- 額卜顛 ebde·n (破) [ebde- の同時接合副動詞形] 三43七; 三9七
- 厄別(脇)臣 ebedčīn (病) 病氣。九42四
- 厄別<sub>脇</sub>臣 ebedčīn (病) 同上。三21三, 44四
- \*額別<sub>脇</sub> ebed- (痛, 疼) 痛む。  
-罷 -ba [→be] 三5三, 四  
-抽 -čü 二21十; 三1九  
-古 -gü[→kü] 八14十, 15二
- \*額別都 ebed·ü- (疼) 同上。  
-克先 -gsen 三11一  
-木 -mü 二1四
- 額別(舌)兒 eber (角) つの。三38五
- 額別舌兒 eber (角) 同上。三26七  
-禿 -tü 三28五, 38四
- 額別舌里顏 eber·iyēn (角) [eber の再帰格形] 三38四
- \*額別舌列 ebere- (痛) 痛む。  
-帖列 -tele 七28四
- 額別速捏 ebe·sūn·e (草行) [ebesūn の与位格形] 三55七
- 額別速訥 ebe·sūn·ü (草的) [ebesūn の属格形] 二26五, 28八, 47五
- 額別孫 ebe·sū·n (草) 草。一15十, 17七; 六21二

- 額別速速[→連] ebesüsü (喫草) [ebesü·le·n, ebesü·le- '草を食べる' の同時接合副動詞形] 二30四
- 額廣 ebin (伯父) 伯父。六7二
- 額不都克 ebüdüg (膝) 膝。十29七  
-帖 -te 一39五
- \*額不都克列 ebüdüg·le- (脰膝按) 膝に据える。  
-周 -jü 四27十
- 額不干 ebügan[→ge·n] (老人) 老人。二3六, 4四, 六; 三36二; 九4九
- 額不格 ebüge (租) 同上。一23八, 24七, 26六
- 額不格思 ebüge·s (祖宗) 祖先。[ebüge の複数形] 五19六<sup>2</sup>
- 額不格思 ebüge·s (祖宗) 同上。四12一, 五, 13三, 19四; 九12三; 三8七
- 額不格捏 ebüge·n·e (老人行) [ebügen の与位格形] 九19四
- 額不格泥 ebüge·n·i (老人行) [ebügen の対格形] 二3八
- 額不格訥 ebüge·n·ü (老人的) [ebügen の属格形] 一48九; 五5四
- 額不堅 ebüge·n (老人) 老人。二41四; 五1八, 2二, 六, 6十, 7一; 六41八; 九5六, 20一, 27四, 十
- 額不見 ebür (懷) 胸。  
-安 -'ān[→'ēn] 一37六  
-禿舌里顏 -tür-iyēn 二43九
- 額不(舌)兒 ebür (前) 同上。四36五
- 額不舌兒 ebür (懷, 前) 同上。三5三, 10三, 六, 22十; 七32七, 九  
-途舌兒 -tür 八46三  
-禿舌里顏 -tür-iyēn 十39三
- 額不舌列 ebür·e (前) [ebür の与位格形] 二27一; 三28六; 四2六; 八2三
- 額不舌里顏 ebür·iyēn (懷) [ebür の再帰格形] 三4三
- 額不舌里耶兒 ebür·iyēr (前) [ebür の造格形] 三8八; 六2二, 五, 14七
- \*額不舌里(脇) ebürīd- (可懷抱) 胸に抱く; 懷に入れる。  
-坤 -kūn 三21七
- \*額不舌里<sub>脇</sub> ebürīd- (懷, 懷抱) 同上。  
-罷 -ba[→be] 三21八  
-抽 -čü 五13二, 15一
- 額徹 ečē (父) 父。〈→eči'ē, ečige〉
- \*額赤<sub>脇</sub>格 ečīd·ge- (滅) 消滅させる。  
-牙 -yā[→yē] 十23十
- 額赤<sub>脇</sub>刊 ečīd·ke·n (教絶) [ečīd·ke-〈→ečīd·ge-〉 の同時接合副動詞形] 三12七
- 額赤額 eči'ē (父) 父。〈→ečē, eičge〉  
-因 -yin 十26十
- 額赤格 ečige (父, 父親) 同上。〈→ečē, eči'ē〉 二1六, 29九, 33九, 39六, 九; 三

1五, 九, 22七; 四6二<sup>2</sup>, 12六; 五13七, 35五, 36八<sup>2</sup>, 十, 37一, 40七, 46三; 六21四, 八, 十, 22四, 八, 九, 24九, 25五, 六, 27六, 29一, 30四, 31三, 六, 39六, 40十, 41七, 52八; 七29一, 47十; 八25二, 33七, 九, 36四, 47五; 九7一, 21四; 十38四, 39二, 40二; 十一23九, 25五, 50四; 十二19八, 22十

-迭 -de 三4七; 五34六; 六21三, 28二, 37一, 45八; 八15五, 33三; 十一22九, 29一

-迭徹 -deče 六34六; 八19八; 九7三

-迭延 -deyēn 三56一

-突舌兒 -dür 六24七, 27四, 46三, 46四

-都舌里顏 dür-iyēn 二38四; 五33一, 42五; 六30二; 八35五

-魯額 -lü'e 二39四, 五, 八; 五36九; 六26九

-思 -s 四47六

-思 -s 五6八

-昔 -si [·s-i] 四12一, 五, 13四, 19四; 五19六; 三8七

-孫 ·s-ün 五19七

-顏 -yēn 五43七; 九33四

-宜 -yi 六40五; 九12四; 十24八, 43八, 44三; 十一51一; 十二1四

-因 -yin 二4六, 33十; 三1八; 五4八, 43九, 46二, 47一; 六26八, 29九, 34十, 35二, 40三, 六; 八33八; 十24三, 五, 26十, 44九; 十一23四, 29五, 32四; 十二14五, 33二, 34九, 55一, 56十, 57二

-余延 -yüyēn 五9八; 六23七, 35八; 七28四; 九21九; 十一14四, 15五, 19六, 46九, 47三, 54六, 55十, 57八

額赤捏 eči·ne (背尅, 背尅行, 背尅了, 背行, 暗地行) 蔭で, かくれて, 一10十, 11四; 五26六; 六16七; 八10八; 九34八, 42七; 十23十; 十一44七

-温 -'ün 十31四; 十一15九, 16九

\*額出勒- ečü·l- (尽絶) 絶える。

-帖列 -tele 三6六, 13四

額傷 ed (物, 財, 財物) 物, 財宝。十一5九, 6五, 7二, 15二, 七, 九, 16三, 九; 十二26八

\*額傷客- edke- (割) きりひらく, 割る。

-周 -jü 四22五

額迭 ede (這, 這每, 這的每) これらの。[ene の複数形] 一11二, 三, 八, 12七, 15六, 19八, 30六, 31四, 41五; 二33五, 48八; 三5一, 9九, 10一, 11九, 12一, 17五, 33八, 41十, 49二; 四24七, 25三, 33四, 34七, 43八; 五5九, 25二, 34一, 二, 四, 35十, 42五; 六30八, 九, 31一, 33七, 41六, 42八; 七18八, 33四, 42一, 七; 八27六, 41五; 九1四, 十, 4九, 5一, 19五, 28五; 十3九, 十, 29八, 36八; 十一15四, 16二, 37四, 44五, 46五,

47七, 49七; 十二16五, 八, 29五, 41九, 42二, 三, 47四, 49六, 八, 50一

-赤 -či 五31八; 六29四

-額舌兒 -'ēr 五42七; 六42一; 七13六; 八21一

額迭泥 ede·n·i (這的每行) [eden の対格形] 二3二

額朶額 edö'e (今, 如今) 今。一19八, 37五, 43八; 二9四, 20五, 十, 22二, 三, 23五, 25六, 35一, 41九, 48九, 49一; 三2四, 5七, 十, 6二<sup>2</sup>, 20十, 27八, 31四; 四1七, 12二, 13四, 19六, 43二, 四, 48二, 49七; 五4四, 13三, 14十, 22九, 25十, 26四, 30七, 34八, 36二, 42九, 45八, 46五, 49八; 六22四, 八, 31六, 33四, 35二, 37一, 40二, 51八; 七7十, 10六, 11三, 14八, 15五, 26七, 29三, 34三, 35七, 44四, 47六, 九; 八10五, 14四, 六, 18一, 三, 五, 19二, 20十, 22三, 六, 29四, 34三, 38三, 41四, 47七; 九7五, 8七, 9十, 21九, 23十, 26三, 28九, 29一, 31五, 七; 十30八, 34三, 36六, 37十; 十一4九, 5四, 8六, 15八, 16七, 27一, 30九; 十二4三, 六, 8八, 19九, 22七, 23六, 30八, 37三, 49二, 57一

額朶額傷 edö'e·d (如今) 同上。

-圖舌兒 -tür 十一5四

額都 edü (許多) このような; 多くの。三39七

額堆 edü·i (只這般, 這些, 方纔) このような, これほどの。二20七; 三4五, 12十, 44四; 四42五, 八; 五43六, 九; 六12九, 41五; 八28七, 十; 十一45四, 46七

-余延者 -yüyēn-je 十一31九

額敦 edü·n (這些每, 這些) このような, [edüの複数形] 四6五, 31一; 六16八

額額迭 e'ēde (帳房骨子, 門框) ゲルの骨組; 門や窓の格子, 三6五, 七, 13八, 十

\*額額迭兀勒- e'ēde·'ül- (解了) [e'ēde- '乳が酸化する' の使役形] 一周-jü, 十一24九

額額蔑克 e'ēmeg (圈的) 耳飾り, イアリング, 四17二

額額捏克徹 e'ēnegče (專一) 専ら; 永久に。五39二

\*額額(舌)列- e'ēre- (攻) 攻める, 包囲する。

-周 -jü 十一3一

\*額額(舌)列- e'ēre- (攻, 要攻) 同上。

-傷 -d 十一6九

-坤 -kün 五20五

-周 -jü 十一2八

\*額額(舌)列克迭- e'ēre·gde- (被攻) [e'ēre- の受動形]

-舌命 -rün 十一4二

\*額額(舌)列兀勒- e'ēre·'ül- (教攻) [e'ēre- の使役形]

-罷 -ba[→be] 十一2九

額額(舌)列兀命 e'ēre·'ül·ü·n (教攻) [e'ēre·'ül- の同時接合副動詞形] 八1十; 十一2十; 十二21一



## 312 元朝秘史蒙古語辞典

- 額額(舌)連 e'ere·n (匪) 攻める, 包囲する。[e'ere- の同時接合副動詞形] 十1三
- \*額克迭- egde-[ende- 克→你] (差) 誤ちをおかす。  
-古 -gü[→kü] 八13二, 五
- 額甘 egam[→gem] (肩) 肩。  
-突(舌)児 -dür 十26十
- 額格篋徹 egem·eče (肩甲) [egem の奪格形] 九11六; 十26六
- 額格赤 egeči (姐姐) 姉。五22八, 23一  
-迭延 -deyēn 五23四  
-顔 -yēn 五23二, 四, 八
- 額格赤篋楊 egeči·med (大女) 年上の女。七1六
- 額者 eje (主) 主, 主人。三44三
- 額者楊 eje·d (主每) [eje(n) の複数形] 一6四; 十21五, 22二
- 額者你顔 eje·n·iyēn (主) [ejen の再帰格形] 八13四
- 額禮 eje·n (主人, 主) 主, 主人。一5三, 33六; 三39一, 三; 五3十; 八35九; 十56七
- 額只額 eji'ē (到今) 今まで。五42九, 44二; 八40九
- 額客 eke (母, 娘) 母。一11一, 12六, 14六; 二5十, 6二, 十, 8三, 11二, 35七, 37四, 42七<sup>2</sup>, 十, 43二, 三, 五, 九; 三20五, 七, 22九, 33二; 四7一, 17五, 九, 24一, 七; 五13十; 六52八; 七9一, 11八, 37六, 44二, 47十; 八19八; 九11一, 13八; 十12四, 22六, 23二, 28六, 29二, 三, 五, 31五; 十26二, 30二; 十12四
- 邊 -bēn 二21一, 23二, 25六  
-迭 -de 二7十; 三24二, 30六, 33一; 四17五, 23五; 八30二; 九11九; 十22七, 23一, 25六, 28六, 29一, 31三  
-迭扯 -deče 一27四; 三31一  
-迭徹 -deče 十29二  
-突舌児 -dür 九12九  
-宜 -yi 二46六, 48八, 50三; 三17八, 21四, 31二; 七29五; 十30十, 31一  
-因 -yin 一25八, 42二; 二6三, 8六, 39一, 42六; 五41一; 七39六; 九13七, 17二  
-思 -s 二3二, 五, 5六, 13七  
-禿 -tü 八19四  
-余延 -yüyēn 一10十, 11四, 14九; 二6九, 7四; 三20六; 七35二<sup>2</sup>; 十24八, 25二, 四
- \*額客額舌児- eke'er- (翻) 向きを変える。<→ekēr·ü-  
-抽 -čü 六9八, 十, 16二  
-[抽] -[čü] 六12五  
-出為 -čü'üi 六8九

\*額客額舌魯- eke'er-ü- (翻身) 同上。

-克先 -gsen 五17九

-牙 [-yā→yē] 五17九

額客舌倫 ekēr·ü·n (翻覆) [ekēr-<→eke'er- の同時接合副動詞形] 四37十<sup>2</sup>

\*額客温勒- eke'ü(n)- (曲) 曲げる。

-周 -jü 二7二

額乞 eki (腦) 頭。一28一

-湯 -d 九47九; 十38二

額勅 el (治平) 平和。五9六

額勅別速 elbesü (ナシ) 祈祷。

-額舌児 -'ēr 七10三

額勅別孫 elbesü·n (ナシ) 同上。六16七

額勅赤 elči (使臣) 使節, 使者。三50三; 四1二; 五11十, 33六, 七; 六27一, 40八; 七9四, 13九, 15二; 十34八, 35六

-迭 -de 十33七

-宜 -yi 十33八, 35七

-田 -ten 十33八

-禿 -tü 五30七, 40六

-顔 -yān[→yēn] 十33六, 十, 34二, 六

-耶里顔 -yer-iyān[→iyēn] 七14五

額勅赤列勒敦 elči·le·ldü·n (使臣往来) [elči·le- '使者を往来させる' の対動・同時接合副動詞形] 四10九

額勅赤捏 elčín·e (使臣行) [elčín の与位格形] 十3三, 52九

額勅赤捏徹 elčín·eče (使臣行) [elčín の奪格形] 七28四; 十28九

額勅赤泥 elčín·i (使臣行) [elčín の対格形] 十11十; 十3二, 49四

額勅赤泥額児 elčín·i'ēr (使臣行教) [elčín の造格形] 一33三

額勅赤你顔 elčín·iyēn (使臣自的) [elčín の再帰格形] 十11七, 20二

額勅赤你耶舌児 elčín·iyēr (使臣教) [elčín の造格形] 十12二

額勅赤訥 elčín·ü (使臣的) [elčín の属格形] 十49一

額勅赤訥延 elčín·ü·yēn (使臣自的) [elčín の再帰格形] 十20五

額勅臣 elči·n (使臣) 使節, 使者。四12七; 六31七, 40十<sup>2</sup>, 41一, 41二<sup>2</sup>, 41四<sup>3</sup>, 45六, 48八; 十12一, 十35二, 43三, 七; 十3一, 48十, 50四, 55三

額勅迭必耶舌児 eldeb·iyēr (諸般) 十10一

\*額勅古- elgü- (釣) 釣る。

-周 -jü 二7一

額勅古兀児 elgü·'ür (釣) 釣竿。二7一

\*額勅薛- el·se- (投降, 帰附) 降服する, 和する。

-楊者 -d·je 六20二

- 額速 -'ēsü ㄊ18八  
-克薛惕 -gsed ㄊ21四
- 額勅先 else·n (投降, 婦附) [else- の同時接合副動詞形] 六20三, 四, 43十; 十10五, 14五, 15一, 十; ㄊ5四, 6三, 七, 8二, 11六, 十, 18一
- \*額勅薛克迭- else·gde- (被婦附) [else- の受動形]  
-周 -jü ㄊ18三
- \*額勅薛兀勅- else·'ül- (教婦附) [else- の使役形]  
-周 -jü ㄊ10三, 四, 11一, 二, 18六, 19四; ㄊ27十  
-主兀 -jü'ü ㄊ26五
- 額列 ele (但) 直前の語を強調する助詞。-35七, 八, 37五, 七, 43九, 44一; 二6九, 18九, 19一; 三21三, 39七; 四1八; 五3二, 16三, 23四, 25三, 44八, 48三; 六37三; 七12二, 23八, 24七, 29十, 34七, 35九, 37二, 39一; 八5二; 九43四, 八; 十44六; ㄊ20十, 23一; ㄊ45七, 50一, 52十
- 額列惕 ele·d (沙磧) [elesün '砂, 砂漠' の複数形] 六1九; 九16四
- 額里格惕 elige·d (肝每) [eligen '肝臟' の複数形] (<→helige) 四22五
- 額鄰出昆 elinčüg·ün (曾祖) [elinčüg (曾祖父母) の属格形] 六39二
- 額劣兀惕 elö'üd (駝名) 駝駝の一種。ㄊ27二
- 額蔑 eme (婦人, 妻) 女; 妻。-22九, 23六, 24五, 六; 二5七; 三1四<sup>2</sup>, 6六, 13四, 21七, 44三; 四45七, 九, 46一, 47十; 五32六, 33七, 34五, 48四; 六15九, 29八, 31二, 42六, 44十, 46二, 52五, 九; 七6五, 八, 十<sup>2</sup>, 10二, 27八, 28二; 八19九; 九15二; 十17十; ㄊ56五
- 迭扯 -deče 一25七, 28五, 29六; 三37八, 43十  
-宜 -yi 一22八; 三24八; 六36六; 七7八; 八41五  
-因 -yin 七28一  
-思 -s 一24八; 八41六; 十21二  
-思秃 -s-tü 三40一; 八41三  
-昔 -s-i 二49一  
-昔顏 -s-iyän[→iyēn] ㄊ8五  
-秃 -tü 七6二
- 額蔑赤列克顛 eme·čile·gde·n (被做婦人) [emečilegde- '女のようにされる' の同時接合副動詞形] 七28六
- 額蔑額(勅) eme'el (鞍子) 鞍。二15二
- 額蔑額勅 eme'el (鞍子, 鞍) 同上。二15三, 25九; 十33九, 35七  
-秃 -tü 六49三; 七25一; 九48十; ㄊ39五  
-秃宜 -tü-yi 七22十
- 額蔑額里顏 eme'el·iyän[→yēn] (鞍子) [eme'el の再婦格形] 二41九
- 額蔑額命 eme'el·ün (鞍子) [eme'el の属格形] 八8七
- 額蔑格 emege (婆婆) 老婆。

- 惕 -d ㄊ29十  
-的 -d-i ㄊ30二  
-秃 -tü 八18十
- 額蔑堅 emegen (老婦人, 老婦) 同上。二42六, 44五, 十, 45四, 46二, 九
- \*額米額- emi'e- (惶懼) 懼れる。  
-罷 -ba[→be] 十29二
- 額木敦 emüdü·n (袴) 下ばき, ズボンの類。四42四
- 額木捏 emüne (前, 前面) 前(に), 南(に)。四49九; 五36一; 六7九, 8一, 四, 52九; 七19五; 九21七; ㄊ56十, 57一, 三  
-扯 -če 二9七, 10五
- \*額木思 emüs- (穿) (衣服などを) 身につける, 着る; (はきものを) はく。  
-罷 -ba[→be] 三7十, 8五  
-抽 -čü 七37九; 九20二
- \*額木思- emüs- (穿) 同上。  
-恢突舌兒 -küj-dür 七6五
- \*額木速- emüs·ü- (穿) 同上。  
-克先 -gsen 九48十; ㄊ39五
- \*額木思格- emüs·ge- (教穿, 帶) [emüs- の使役形]  
-周 -jü 三20四; 五13六
- \*額木思格克迭- emüs·ge·gde- (被穿) [emüs·ge- の受動形]  
-額速 -'ēsü 三1九
- 額木思格克 emüs·ge·g (上見) 引出物。二39十
- 額你迭 ende (這, 這裏) ここに, ここで。二30五, 七; 三9一, 16三, 20十, 35八; 四46二; 七27十  
-扯 -če 三2九, 8十, 9二  
-徹 -če 五6二; 六48二; 七14一; 九30二; 十34五, 35九; ㄊ20三, 50三, 四, 54二
- \*額你迭- ende- (差) 間違える。同上。  
-坤 -kün ㄊ33五
- 額捏 ene (這) この。-9六, 11一, 18七, 42九, 43一, 五, 七, 八, 十; 二11五, 24十, 29二, 41七, 46八; 三30四, 十, 31七, 50五; 四4三, 12二, 七<sup>2</sup>, 13四, 15九, 18七, 31十<sup>2</sup>, 32一, 41二, 46六, 七, 50四; 五5六, 6七, 13一, 15四, 20三, 22九, 十, 23五, 26二, 34七, 48二, 七; 六4八, 九, 6一, 7六, 17五, 25七, 34一, 50八, 51四; 七3九, 10三, 11一, 13十, 15二, 三, 16四, 九, 18一, 23七, 24四, 26三, 四, 27八, 28三, 五, 八, 31九, 36四, 37二, 46一, 47八; 八12五, 19二, 21八, 32一, 34三, 38二, 45八, 47一; 九3九, 34三, 42九, 46十; 十1三, 29八, 十, 36六, 37九; ㄊ5十, 6二, 15七, 16七, 22六, 28七, 29七, 30七, 32一, 43七, 47四;

ㄱ 2九, 3二, 5二, 11六, 17四, 31六, 七, 34一, 45一, 四, 56四, 八  
 額捏堅 enegen (ナシ) 固有名詞 (?). 四33五  
 \*額舌兒別格勒折兀勒 erbe·gelje·'ül- (強形勢) 虚勢を張らせる。  
 -周 -jü 十19三  
 額(舌)兒迭 erde (在前, 早) 早く, 早い。〈→erte〉 六6三, 28十  
 額舌兒迭 erde (在前, 早) 同上。〈→erte〉 二42五; 三4七; 五13四, 19五, 31七, 34  
 六, 48一; 六29三  
 額舌兒迭米額舌兒 erdem·i'ër (技能) [erdem の造格形] ㄱ22十  
 額舌兒迭迷耶舌兒 erdem·iyër (技能) [同上] ㄱ19七  
 額舌兒迭木田 erdemüd·ten (技能每有) 技能をもてる (者)。四25九  
 額舌兒迭木田 erdemü·ten (技能) [同上] 七19三; 八19五; 九32四  
 額舌兒迭門 erdem·ün (技能) [erdem の屬格形] ㄱ28八  
 額舌兒点 erdem (技能) 才能。七10十  
 -禿 -tü 十30四, 五, 六  
 額兒點圖 erdem·tü (技能有) 技能をもてる (者)。十30四, 五; 六  
 額兒吉 ergi (岸) 河岸, 懸崖。二6十, 17三  
 -迭 -de 二39一, 41三, 42四  
 額舌兒吉 ergi (岸) 同上。三10三  
 -迭 -de 三10四  
 \*額兒古 ergü- (立) あげる, 持ち上げる。  
 -額楊 -'äd 一39四  
 \*額(舌)兒古- ergü- (擡) 同上。  
 -克薛楊 -gsed 四36十  
 -周 -jü 四23一  
 \*額舌兒古- ergü- (擡, 立) 同上。  
 -罷 -ba[→be] 四31六; ㄱ14二  
 -額楊 -'äd 四31六; 九20一  
 -周 -jü 四40三; ㄱ14三  
 -耶 -yë 四31二  
 \*額舌兒古兀勒- ergü·'ül- (教擡, 被立) [ergü-の使役形]  
 -周 -jü ㄱ26九; ㄱ15二  
 \*額舌兒估- ergü- (擡) 同上。  
 -周 -jü 三38七  
 額舌兒客 erke (威勢) 權利, 權力。  
 -禿 -tü 三22八  
 額舌兒乞爾 erki·d (緊要) [erkin の複數形] 五18四; 八43七, 44九; ㄱ4七  
 額舌兒勤 erkin (緊要) 重要な。三6五, 13三; 八43一, 44二  
 額兒帖 erte (在前, 早, 疾早) 早い; 昔の。〈→erde〉 一44六; 二8六, 28九, 39三,

八, 44三  
 額(舌)兒帖 erte (在前) 同上。ㄱ30六  
 額舌兒帖 erte (在前, 在先, 早) 同上。三17六; 四11十, 13八, 20四, 43二; 五36九,  
 47三, 49五; 六19六, 23六; 七29三, 35一, 39七, 八16九, 21九; 九24十,  
 十35二  
 額兒帖捏扯 erten·eče (自在前) [erte(n) の奪格形] 一45三  
 額兒帖訥 erten·ü (在先的) [erte(n) の屬格形] 二48八  
 額舌兒帖訥 erten·ü (在前的) [同上] 三25六; 四19三; 七9一, 11二  
 額舌列 ere (丈夫, 男子, 人, 人口, 軍) 男, 夫。一10五, 11一; 三22九; 四25九; 五  
 23七; 六52二; 七10三; 九33六; 十16六; ㄱ5七, 45五; ㄱ47七  
 -迭 -de 七16一  
 -突舌兒 -dür 十19六  
 -宜 -yi 四46二, 四, 八; 七35五<sup>2</sup>, 38一  
 -因 -yin 二29八; 七23八, 29二; 十19七; ㄱ26十  
 -魯額 -lü'e 九11六; ㄱ26七  
 -思 -s 二6八; 三44二  
 -余延 -yüyën 四46三  
 \*額舌列- ere- (指望) 望む, 願望する。  
 -周 -jü ㄱ23十  
 額舌列宸 erebin (男子) ere-yin と読み「額舌列寅」と校すべきもの。ㄱ6一  
 額舌列坤 (幹抹中渾) erekün(omoqun) (勇猛的, 敢望与人相鬥) 勇敢な。〈→omogun〉  
 二6九; ㄱ2四, 4六; ㄱ5十  
 \*額舌列列- ere·le- (做丈夫) 夫とする。  
 -速 -sü 七6九  
 \*額舌列未失- ere·mši- (還丈夫) 男ぶる。  
 -周 -jü ㄱ35五  
 額舌列木克 eremüg (不生駒的) 不妊の。二25七  
 額舌列兀 ere'ü (罪) 罪。  
 -突舌兒 -dür 九6五, 24八  
 \*額舌列兀列- ere'ü·le- (罪) 罰する, 罪にする。  
 -周 -jü 九34八  
 -牙 -yā[→yë] 九45五  
 -耶 -yë ㄱ44十, 45四, 46七  
 額舌列兀(舌)列- ere'ü·re- (罪) 同上。[ere'ü·le- 舌列→列] ㄱ40六  
 額舌列延 ere·yën (指望) 願望, のぞまれること。六46三  
 額舌廉迭克 (詹迭克) eremdeg(jemdeg) (殘疾) 片輪の。〈→jemdeg〉 二7一  
 \*額舌里- eri- (尋) 探す, 求める。  
 -古 -gü[→kü] 三16二

- 周 -jü 三21二; 四39十, 40六; 八7三; 土52三  
 -舌命 -rün 六16七  
 -牙 -yā[→yē] 十5三  
 -耶 -yē 二20七, 十
- 額(舌)鄰 eri·n (尋) [eri- の同時接合副動詞形] 二21一, 36八  
 額(舌)鄰 eri·n (尋) [同上] 一18八; 二22四, 23二, 25七; 六16八, 45二  
 \*額(舌)里格列- erige·le- (掛) 頸に飾りや帯などを掛ける。  
 -周 -jü 二51四  
 \*額(舌)里兀勒- eri·ül- (教尋, 教掘) [eri- の使役形]  
 -古 -gü[→kü] 六22十, 23一  
 -周 -jü 六14四; 土48九, 55六  
 \*額(舌)里兀魯- eri·'ül·ü- (教尋) [同上]  
 -額速 -'esü 五23六  
 -耶 -yē 五23二  
 額(舌)里兀勒孫 eri·'ül·sün (尋的) 探索する者。九12十<sup>2</sup>  
 額(舌)里温 eri'ü·n (下額) 下顎。  
 -突(舌)兒 -dür 八28七  
 額(舌)里顏 eriye·n (領着) [eriye- '導く, 統率する' の同時接合副動詞形] 六八十  
 額(舌)魯格 erüge (天窗) 天窗。〈→örüge〉 一13一; 三6四, 13八; 十20一, 42十, 43二  
 \*額(舌)魯思<sup>①</sup>- erüs- (趕上) 遭う。  
 -速該 -sügej 四42十  
 \*額(舌)魯思<sup>②</sup>- erüs- (得) 捕える。  
 -罷 -ba[→be] 三20三  
 -抽 -čü 三17十  
 額(舌)魯孫 erüs·ü·n (得, 奪) [erüs<sup>②</sup>- の同時接合副動詞形] 二48三, 五; 六16五  
 \*額(舌)魯思帖- erüs·te- (被得, 被害) [erüs<sup>②</sup>- の受動形]  
 -古耶徹 -güyeče [→küj-eče] 土22二  
 兀澤 -'üjaj[→'üjej] 二32四  
 額(舌)思格勒 esgel (幾年不生駒的) (馬について) 何年も仔を産まない。三28一  
 額(舌)薛 ese (不曾, 不) ~でない [動詞の過去形に前置される] 一4四, 15二, 六, 18二, 20十, 21三; 二19四, 20六, 45五; 三21二, 31一; 四1七, 20七, 35十, 40四, 45三; 五2十, 17九, 18六, 27七, 30七, 32二, 39六, 40八, 43二; 六2九, 17三, 20四, 28四, 五, 31八, 35七, 46一, 51三; 七2一, 4一, 5八, 14八, 23十, 28一, 二, 29二, 九; 八18三, 21四, 22五, 28四, 五, 八, 29一, 33九, 43十, 46三; 九2八, 3十, 4一, 二, 三, 8四, 五, 12一, 三, 15二, 五, 八, 17五, 42十; 十1五, 2四, 6八, 11二, 23二, 24四, 27九, 28三, 35一, 43六; 土16一, 十, 21十, 22九, 24

- 五, 六, 七, 33四, 44五, 七; 土3七, 4五, 8二, 23九, 24十, 34四, 40一, 45四  
 額(舌)薛古 ese gü[→kü] (不曾也) ~でない。四19六; 六35九; 七24十  
 \*額(舌)薛- ese- (不曾) ~でない。  
 -克(舌)捏 -gsen-e 九9八  
 額(舌)兒古 esergü (迎着) 反対に, 逆に。二32五, 44六, 51三  
 額(舌)兒古 esergü (迎着) 同上。三40二  
 額(舌)兒古 esergü (迎着) 同上。四4五, 32十, 34三; 五12一; 六8六, 9二, 六, 26十; 七32一; 十38十, 39七; 土15四, 六, 38四; 土50三, 五  
 \*額(舌)兒古列- esergüle- (迎) 対する, 敵対する。七42八  
 額(舌)兒 ese·'ü (不曾, 不曾麼) [ese に疑問を表すüがついた形] 二23二; 三1六, 2三, 12五; 六22一, 四, 七23三, 五, 41八, 十; 七28三, 34三, 35七, 44四; 八22三; 土24十, 25一, 27二; 土35一  
 額(舌)先 esen (安存) 安全な 三6三; 九17一  
 額(舌)速克 esüg (馬奶子) 馬乳。四40一  
 \*額(舌)速克赤列- esüg·čile- (馬奶子喫) 馬乳を飲む。  
 -周 -jü 一17八, 19五  
 額(舌)速吉顏 esüg·iyän (熟馬奶子) [esüg の再帰格形] 二22五  
 額(舌)速兀 esü'üd (馬奶子) [esüg の複数形] 四39十  
 額(舌)速勒扯 esü·lče- (共長) 互いに成長する。  
 -克(舌)先 -gsen 九6三  
 額(舌)失格 esige (粘糞, 小糞, 糞) 雄の子山羊。五13五  
 -因 -yin 七36十; 土35四  
 額(舌)帖 etäd (辺傍) 側, 傍。〈→ete'ed〉 一45三  
 額(舌)帖的耶兒 etäd·iyär (依着) [etäd の造格形] 六18六, 八  
 額(舌)帖額 ete'ed (邊, 一邊) 側, 傍。〈→etäd〉 四37七; 九9五, 六, 七, 10三; 十9三, 五, 八, 38六; 土23八; 土40十, 41三, 五, 七, 十, 42二  
 額(舌)帖額教 ete'ed·ün (辺的) [ete'ed の属格形] 十39八  
 額(舌)秃堅 etügen (地) 大地, 地。土24三  
 -突(舌)兒 -dür 八20五  
 額(舌)秃捏 etügen·e (地行) [etügen の与位格形] 三22九  
 額(舌)秃泥 etügen·i (他行 [他→地]) [etügen の対格形] 十40三  
 額(舌)秃格 etüged (處) [etügen の複数形]  
 -突(舌)兒 -dür 七16八  
 額(舌)兀別兒 e'übär (這裏行) ところ。二29三  
 額(舌)兀別兒 e'übär (這般) 同上。六6二  
 額(舌)兀迭 e'üde (門) 門。  
 -帖(舌)泥 -ten-i 八30四

-延 -yēn 二41九  
 額兀迭臣 e'ūde·čin (管門的) 門番, 番人。三40六  
 額兀闕 e'ūde·n (門) 門。十39五, 42十  
 額兀顯 e'ūde·n (門) 同上。八43九  
 額閣迭訥 e'ūden·ü (門的) [e'ūden の屬格形] 六39二  
 額閣迭臣 e'ūde·čin (把門的) 門番。七21二; 十5七  
 額閣迭訥 e'ūden·ü (門子的) [e'ūden の屬格形] 九6一  
 額閣闕 e'ūde·n (門) 門。二9五; 四22十; 五44五; 九47八; 十38九, 40五; 三10二, 40五, 42五  
 -別舌兒 -bēr 三20七, 八  
 -突(舌)兒 -dür 十5七  
 -突舌兒 -dür 三21八; 七20九; 三37七  
 -都舌里顏 -dür-iyān[→iyēn] 三21九  
 -捏徹 -neče 四22四, 23一  
 -訥 -nü 四22三  
 -圖兒 -tür 一46八  
 額閣闕赤 e'ūden·či (把門的每) 門番。七20六  
 額兀坤 e'ükün (脂膏) 脂。  
 -突舌兒 -dür 三31七  
 額兀列 e'üle (雲) 雲。  
 -台 -tai[→tej] 十1二  
 額兀連 e'üle·n (雲) 同上。十12四  
 額兀捏徹 e'ün·eče (比這箇行, 這箇行) これから, 四15十; 七48五  
 額兀泥 e'ün·i (這箇行) [e'ün の対格] これを。五13三  
 額兀訥 e'ün·ü (這的) [e'ün の屬格] これの。五21二  
 額兀舌刺 e'ūra [→re] (久) [舌刺→舌列] 久しく, 永久に。八20五  
 \*額兀舌列- e'üre- (ナン) 碎ける, 崩れる。  
 -周 -jü 七16七  
 \*額兀思- e'ūs- (起) 出発する; 見送る, 送る。  
 -抽 -čü 四13八, 32三  
 \*額兀思格- e'ūs·ge- (送將去, 取, 起, 做起) [e'ūs- の使役形]  
 -罷 -ba[→be] 二37三  
 -周 -jü 一34六, 45二; 三10七; 四12十  
 額兀思堅 e'ūs·ge·n (送→送) [e'ūs·ge- の同時接合副動詞形] 二37三  
 \*額兀速勒扯- e'ūs·ü·lče (共起) [e'ūs- の相動形]  
 -周 -jü 六46十  
 額也 eye (商量) 話し合い; 和合。三50五  
 -邊 -bēn 三50五

-田 -ten 一14五  
 額耶 eye (商量) 同上。二8七; 三44二; 五19四, 九, 20一, 21一, 三, 五, 45十; 六9六; 八42三, 四; 九4四, 42四, 43五; 十5四; 三39七, 44五, 45七  
 -突舌兒 -dür 五15四, 21二; 三5五, 十, 6八  
 -都舌里顏 -dür-iyān[→iyēn] 四10十; 三3七  
 -田 -ten 五40三  
 \*額耶秃- eye·tü- (商量) 話合う; 和合する。  
 -周 -jü 六46六; 八31三; 九4五; 三15四, 19五, 十, 53一  
 \*額耶秃(勸)都- eye·tü·ldü- (商量) [eyetü- の対動形]  
 -周 -jü 三38十  
 \*額耶秃勸都- eye·tü·ldü- (共商量, 商量) [同上]  
 -罷 -ba[→be] 五19五, 20一  
 -擲者 -d·je 三5六  
 -周 -jü 三42十; 七19九; 九2九, 7七, 30四, 36十; 三40九, 41一, 四, 六, 43四, 六  
 -舌命 -rūn 五19五  
 \*額耶屯(勸)都- eyetü(n)·ldü- (商量) [同上]  
 -周 -jü 一22二  
 額亦木 eyi·mü (這般, 這般有) このような。二18九, 24十; 四41八; 六39三; 三5四, 18七  
 -宜 -yi 四41十  
 額亦模 eyi·mü (這般) 同上。三16七; 七7十, 15八, 16九  
 額亦門 eyi·mü·n (這般, 這般每) [eyimü の複數形] 三32二; 三6三  
 額因 eyi·n (這, 這般, 自這般) このように。二2十, 4八, 12六, 48三; 三44四; 四7六, 9五, 18八, 42十; 五15二, 六; 六41六; 七7十, 23六, 29四, 36九, 42一; 八9一, 12六, 42四; 十6六, 36八, 37四; 三6二, 21十, 35九, 45六, 46九; 三30七  
 俺不舌魯 embü·rū (塌) くずれて, くだけて。三6五, 13三  
 俺出 emčü (梯已) 私有の財産。四22四, 26四; 六39三; 七1十; 九6一, 33七, 十; 十3七; 三14六  
 俺出連 emčü·le·n (同上) [emčü·le- '私有のものとする' の同時接合副動詞形] 十3六  
 俺古 emgü[→kü]- (吞) 飲み込む。  
 -額速 -'ēsü 七38一  
 昂格思格 enggesge (紅) 紅, 頰紅などの類。[anggesge→enggesge] 六9六, 16一; 八43八  
 \*昂格失格- enggešige-[anggešige- →enggešige-] (学) 学ぶ, 真似る。  
 -周 -jü 三32五  
 昂客 engke (夫平) 平和, 太平。(angke→engke) 三44二

## i

亦不侖 *ibul·u·n* (紛攘) [*ibul-~ibül-* (紛糾する) の同時接合副動詞形] 十1十  
 亦赤勤 (札舌兒中合黑) *ičikin* (*jarqaq*) [*ilkin jarqaq*, 赤→勸] (粉皮) 鞣した氈鹿の皮。  
 三23九 <→*jarqaq*>

\*亦出- *iču-* (退, 回去) 退く。

-阿速 *-'äsu* 三5五; 三3三  
 -罷 *-ba* 三25一, 四; 四16二; 六17七; 十31三; 三6十  
 -周 *-ju* 四34十; 七32六; 三2七  
 -舌翁 *-run* 三24六, 25一; 三18四  
 -牙 *-yā* 三23四; 十31三; 三18四

亦純 *iču·n* (退) [*iču-* の同時接合副動詞形] 三29三

\*亦出阿- *iču·'ā-* (教退, 退) [*iču-* の他動詞・使役形]

-罷 *-ba* 五9三  
 -周 *-ju* 四10八, 19二; 六9五; 三13二

亦出安 *iču·'ā·n* (教退) [*iču·'ā-* の同時接合副動詞形] 四45六

\*亦出阿黑答- *iču·'ā·gda-* (趕退) [*iču·'ā-* の受動形]

-阿速 *-'äsu* 五17八

\*亦出黑答- *iču·gda-* (可退) [*iču-* の受動形]

-中灰 *-quj* 三5四

\*亦出中合- *iču·gā-* (退, 教退) [*iču-* の他動詞]

-阿 *-'ād* 四46十  
 -罷 *-ba* 二4十  
 -黑撒訥 *-gsan-u* 三5五  
 -牙 *-yā* 四45四

\*亦出中合黑答 *iču·gā·gda-* (退) [*iču·gā-* の受動形]

-黑三 *-gsan* 二4十

亦惕客勸 *idkel* (倚仗) 信頼。四47八

\*亦惕中合- *idqa-* (勸, 勸当, 止当, 阻当, 当) 諫める。

-阿速 *-'äsu* 四10四; 六18十; 八33十  
 -罷 *-ba* 一38三; 十18八  
 -周 *-ju* 八38二; 十2一  
 -魯阿 *-lu'ā* 七47六  
 -中忽 *-qu* 二3九, 4七  
 -中忽突兒 *-qu-dur* 二3六  
 -中渾 *-qun* 五49三  
 -秃中孩 *-tugaḯ* 九35一, 36五

\*亦惕哈- *idha-* [→*idqa-*] (勸) 同上。[哈→中合]

-羅 *-ba* 一38三

亦惕中罕 *idqa·n* (止当) [*idqa-* の同時接合副動詞形] 二15五, 八; 十43九

\*亦惕中合兀魯- *idqa·'ül·u-* (被勸) [*idqa-* の使役形]

-阿惕 *-'ād* 七13三

\*亦啞- *ide-* (喫, 喫兼) 食べる。

-惕 *-d* 七34一  
 -惕坤 *-dkün* 五47一  
 -額惕 *-'ed* 一16九; 五11七  
 -額速 *-'esü* 七21一  
 -克先泥 *-gsen-ni* 一16八  
 -古 *gü* [→*kü*] 二2八, 九; 三18三, 九  
 -周 *-ju* 五14八; 六26六, 七; 七33十  
 -恢 *-küj* 一16七; 二2三  
 -恢突舌兒 *-küj-dür* 七6六  
 -中灰 *-quj* [→*küj*] [中灰→恢] 三12六  
 -模 *-mü* 八12六  
 -舌列 *-re* 五45八, 46一, 六  
 -舌翁 *-rün* 八12四  
 -速 *-sü* 三18四, 十

\*亦啞- *ide-* (喫) 同上。

-周 *-ju* 六45四

\*亦迭- *ide-* (喫) 同上。

-速 *-sü* 三45十  
 -帖列 *-tele* 九46六

亦顛 *ide·n* (喫) [*ide-* の同時接合副動詞形] 一16三; 二27五; 八12七; 九46七

\*亦啞克迭- *ide·gde-* (被喫) [*ide-* の受動形]

-古 *-gü* [→*kü*] 三31七, 八 (亦啞啞-), 33六, 七

\*亦啞勸都- *ide·ldü-* (共喫, 喫兼) [*ide-* の對動形]

-額惕 *-'ed* 一16八  
 -周 *-ju* 八17二  
 -主為 *-ju'ūj* 三13八

亦啞額 *ide·'ē* (喫食, 茶飯, 食) 食物。五32五; 八17一; 九10一, 三; 十5五; 三12四

-邊 *-bēn* 一14十 (亦迭額)

亦啞額捏 *ide·'ēn·e* (茶飯行, 茶飯処) [*ide'ēn* の与位格形] 一23三, 27七, 八

亦啞額泥 *ide·'ēn·i* (喫食行, 食行) [*ide'ēn* の對格形] 四48一; 十4十, 5一<sup>2</sup>; 三39八

亦啞失 *ide·ši* (喫食) 食物, 食糧

-秃 *-tü* 七37八

亦啞延 ide·yēn (茶飯食) 食物。一16七; 二15九; 十5三; 三2七

亦啞筵 ide·yēn (茶飯喉喫食) 同上。四11四; 六29十; 九9五

\*亦都舌列- idüre- (趕到, 趕上, 將近) 追いつく。

-周 -jū 四42六, 48三

-恢 -küj 七10七

\*亦克禿捏- igtüne- (ナシ) 努める, 努力する。[yigtüne→jigtüne-]

-周 -jū 四13一

\*亦古勳古- igülgü- (ナシ) [赤古勳古- čigülgü- ‘集まる’ の誤写か?]

-周 -jū 六50七

\*亦協- ihē- (護助) 護る, 加護する。

-周 -jū 八20六

\*亦協額- ihe'ē- (護助) 同上。

-罷 -ba[→be] 四40五

\*亦協額克迭- ihe'ē·gde- (被護助) [ihe'ē- の受動形]

-額速 -'ēsü 六36三

-周 -jū 七3六; 八29十; 三4二

-梅者 -müj-je 八11一

\*亦赫額克迭- ihe'ē·gde- (被護助) [同上]

-額速 -'ēsü 三49五

\*亦協額克迭- ihe'ē·gde- (被護助) [同上]

-額速 -'ēsü 三36三

亦赫額勳 ihe'ēl (護助) 保護, 庇護。〈→ihēyēl〉五34十; 六25八

亦協耶勳 iheyēl (護助) 同上。八33五 〈→ihe'ēl〉

亦只里都勳纏 ijilidü·lče·n (慣熟) [ijilidü·lče- ‘瓦に慣れる’ の同時接合副動詞形] 四9八

\*亦勳中合- ilca- (選揀, 揀, 揀選, 揀択, 時揀) 選ぶ; 区別する。

-罷 -ba 九36八

-黑三 -gsan 九39五

-周 -jū 四25七, 十; 七19一, 三, 四, 21九; 九31八, 32一, 36一, 二, 八, 39八; 十3七; 三48四, 六

-梅 -muj 三22十

亦刺阿舌里 ila'ari (較好) かなり良い。四9七

\*亦刺黑- ilag- (勝) 勝つ; 克つ。

-罷 -ba 三24二

-抽 -ču 四10六

\*亦刺黑蒼- ilag·da- (被勝, 可勝) [ilag- の受動形]

-阿 -'ā 十27七

-阿速 -'āsu 三23三

-中忽 -qu 四27五, 28二; 三56三

-中忽阿察 -qu-'ača 十27七

亦列 ile (露着, 対面, 当面, 面前) 明らかな(に), 目にみえる(て), 向い合った(て)。二17十; 八10九, 14一, 22八

-宜 -yi 三24二

-兀兀 -'ü'ü 六35五

亦列 ile (教去, 去, 教来) [ile- の命令形] 三2八, 4九; 六31九, 40八, 九, 十, 41一, 二, 三, 四<sup>2</sup>

\*亦列- ile- (去, 差去, 差, 教出, 使, 来, 教来, 使去, 走去) 送る, 派遣する。

-罷 -ba[→be] 二25十, 38三; 三4四, 9四, 16四, 50三; 四12七, 13六, 27十, 28四, 45十; 五33九, 34二, 46一; 六19十, 34四, 35三, 37五, 40九, 41六, 46四; 七14九; 八1九, 7七; 三1五, 2十, 15三, 19一, 37二, 三, 六, 41八, 九, 42五, 43四; 三20六, 36一

-罷者 -ba[→be] -je 九23六

-別速 -bēsü 十13三

-額勳 -'ēd 五11十, 43五; 六27一, 46八; 七14四, 25二

-額速 -'ēsü 四1二, 32二; 六20三, 30八, 31九; 九1五; 十21七, 34三; 三35五, 36一, 43五, 47一; 三3八, 4四, 20一, 33十, 49十

-克薛勳 -gsed 三11六, 十

-克薛額兒 -gse'er 一39一

-克先 -gsen 三4五; 六48二; 八15六, 九; 三49十

-古 -gü[→kü] 十34六, 八

-古宜 -gü-yi[→kü-yi] 六39三

-周 -jū 三50七; 四1十; 五6三, 六, 九, 7四, 11三, 18七, 47一; 七9四; 八36八; 九1九, 27九, 28三; 三2九, 39十; 三3一, 7七

-主古 -jügü 六6五

-主恢 -jükj 七28五

-主兀 -jü'ü 一33九; 四12九, 31十; 七14二; 十12二, 34三; 三18三, 35八

-主為 -jü'üj 四11二; 五33七, 十, 42七, 43二; 七14十, 25四, 27七, 28三, 42九; 十12九, 33六; 三12八; 三5二, 20三, 30九

-魯額 -lü'e 十35六

-舌命 -rün 一33三, 五; 三3十<sup>2</sup>, 4六, 16二; 四1四, 13三, 33五; 五33七, 43三 (亦《舌》列舌命); 六5三, 19六, 45八; 七13十, 14六, 26五, 42三, 四; 八6四; 十13一; 三18五, 35二, 37四, 42一; 三3四, 19五

-速 -sü 三20三

-速該 -sügej 三50五

-禿該 -tügej 三32九

-兀澤 -'üjai[→jei] 五4七

-牙 -yā[→yē] 六45六; 九34八, 42七  
 -耶 -yē 五46九; 六48六; ㄱ32七, 44七  
 亦連 ile·n (教來) [ile- の同時接合副動詞形] ㄱ27四  
 \*亦列勒都- ile·ldü- (共教去, 教共去) [ile- の對動形]  
 -罷 -ba[→be] ㄱ19三  
 -主為 -jü'üi 六48六  
 亦魯卜帖 ilübtē (順便) 便利な, 都合のよい。ㄱ52九  
 亦魯該 ilügei (下唇) 下唇。  
 -亦顏 -yiyān[→yiyēn] 四27八  
 亦馬阿魯 ima'ād (粘糲, 殺糲) 山羊。[ima'an の複數形] 五11六, 14七; 六26六  
 亦馬阿舌里 ima'ari (因他行, 他行) [人稱代名詞3人稱單數造格形] 五42九, 44二  
 亦馬苔 ima·da (他行) [人稱代名詞3人稱單數與位格形] 七1九; 九2八; ㄱ18三  
 亦馬宜 ima·yi (將他, 教他, 他行) [人稱代名詞3人稱單數對格形] 二47三; 四50八;  
 五10二; 八14一; ㄱ12四  
 亦納黑短 ina·gši (以這相) こっちへ。十15五  
 亦納兀魯 ina'üd (寵信的每) 寵臣達。[inaq '寵愛' の複數形]  
 \*亦捏- inē- (咲) 笑う。  
 -主兀 -jü'ü 七9七  
 \*亦捏額- ine'e- (咲) 同上。  
 -罷 -ba[→be] 七9八  
 \*亦捏額兀魯- ine'e'ül·ü- (教咲) [ine'e- の使役形]  
 -兀坤 -dkün ㄱ30五  
 亦捏舌魯 ine·rū (燒飯祭) こちら側へ。二1九  
 亦訥 in·u (他的) [\*in の屬格形] 彼(女)の。-7五, 六, 七, 8四<sup>2</sup>, 八, 9十, 10  
 一, 十, 12六, 13二, 五, 15八<sup>2</sup>, 18七, 20四, 十<sup>2</sup>, 21二, 三, 四, 22一,  
 24八, 30五, 35二, 三, 36三, 37一, 38三, 42三, 46三, 六; 二15二, 17  
 七, 21十, 23一, 三, 六, 29四, 十, 30一, 33十, 34九, 35八, 37四, 46  
 七, 十, 47一, 48四, 五; 三6五<sup>2</sup>, 六, 七<sup>2</sup>, 9九, 13九, 五<sup>2</sup>, 20六, 七,  
 25三, 30十<sup>2</sup>, 38二, 43七, 八, 46一, 二; 四3三, 4六, 5一, 8七, 14  
 三, 四, 19十, 22三, 十, 23二, 25五, 26四, 27九<sup>2</sup>, 十, 28五, 八, 九,  
 32十, 40三, 46八, 49五; 五2四, 五, 七, 3三, 4四, 五, 八, 九, 十,  
 5一, 三, 9八, 10四, 13七, 17二, 23七, 26五, 27五, 十<sup>2</sup>, 28六, 34七,  
 37八, 40七<sup>2</sup>, 41三<sup>2</sup>, 四, 44四, 48四, 六, 50五; 六3四<sup>2</sup>, 12七<sup>2</sup>, 13六,  
 十, 16二, 19三, 20二, 21二, 22三, 23二, 27八, 36八, 九, 十, 40三,  
 45九, 十, 48十, 52五; 七1四, 六, 6四, 五, 八, 十, 7七一, 三, 九,  
 9二, 四, 十, 11八, 21一, 36五, 43五, 45五, 八2十<sup>3</sup>, 3一, 6四, 七,  
 12七, 21二, 四, 九, 22八, 十, 36五, 43四, 45八, 46九; 九6一, 14一,  
 二, 15六, 七, 16七, 28八, 32七, 33五, 六, 十, 47四; 十11六, 16一,

17十, 24四, 28十, 29一, 五, 31四, 33八, 九, 38七, 八, 39二, 八, 40  
 五, 41三, 43三; ㄱ5八, 9八, 15二, 17一, 18八, 21四, 25三, 五, 38  
 一, 40六, 50七, 51一; ㄱ5九, 14七, 32一, 三, 34三  
 \*亦中忽舌里- iquri- (移) 退く, 離れる。  
 -周 -ju 七34七  
 亦中忽舌里中合勒教 iquri·ga·ldu·n (相擲, 相擲) [iquri- の使役·對動·同時接合副  
 動詞形] 四35二, 49二  
 亦舌兒格 irge (地狀) モンゴル包の側壁の下部の部分。  
 -台 -tai[→tei] 十1九  
 亦舌兒格 irge (羶) 去勢羊。三45六; ㄱ23二, 52六, 53四  
 -思 -s 六44二  
 亦(舌)兒格 irge (百姓) 人衆; 人民。五18四, 33九; 七4一; 十23五  
 亦(舌)兒格 irge (百姓) 同上。四21八, 46九; 五10三, 13八, 27六, 32五, 六, 33七,  
 34五; 六28一, 29八, 30一, 五, 31二, 四; 七1二, 十, 3七, 4六, 16  
 三, 45四; 八44八; 九30二; 十16八, 22八, 23二, 三, 四, 六<sup>2</sup>, 七, 八,  
 25六, 31四, 五; ㄱ45一; ㄱ47三  
 -邊 -bēn 四32十; 十33五, 34四, 35一, 五  
 -突舌兒 -dür ㄱ8一  
 亦兒格捏 irgen·e (百姓行) [irgen 與位格形] 一32十, 33七, 49二  
 亦(舌)兒格捏 irgen·e (百姓行) [同上] ㄱ20一  
 亦(舌)兒格捏 irgen·e (百姓行) [同上] ㄱ20四, 30五, 35三; ㄱ3六, 16三, 48五,  
 八, 49二  
 亦兒格捏扯 irgen·eče (百姓兒) [irgen の奪格形] 一34五  
 亦(舌)兒格捏扯 irgen·eče (百姓行) [同上] 三16六  
 亦(舌)兒格捏徹 irgen·eče (百姓行, 百姓兒) [同上] 八26九; ㄱ8二, 13二, 47八  
 亦(舌)兒格捏扯延 irgen·eče·yēn (百姓自的兒) [irgen·eče の再帰格形] ㄱ9十  
 亦兒格泥 irgen·i (百姓行) [irgen の對格形] 一18四, 22二, 23三; 二4十  
 亦(舌)兒格泥 irgen·i (百姓行) [同上] ㄱ50二  
 亦(舌)兒格泥 irgen·i (百姓行) [同上] ㄱ22五, 23三; 四26二, 三, 36十, 45六; 五  
 1五, 24八; 八10四, 15六, 42一; 九12五, 六; 十15五, 16八, 17十, 18  
 十, 21八; ㄱ45四, 51四, 52四; ㄱ4二, 5九, 12三, 十, 26七, 27九,  
 29一, 二, 34五, 七, 47二  
 亦兒格訥 irgen·ü (百姓的) [irgen の屬格形] 一23七, 44三; 二39四  
 亦(舌)兒格訥 irgen·ü (百姓的) [同上] 九11三; ㄱ21四  
 亦(舌)兒格訥 irgen·ü (百姓的) [同上] 三43三; 四10九, 25三, 39九; 六27九; 七  
 43九, 48三; 八30三, 十, 40一, 41五; 十15六, 17九, 20一, 21一, 三,  
 六; ㄱ8二, 10六, 八, 十, 11一, 七, 35一, 44十, 47五, 49二; ㄱ8二,  
 六, 12二, 15四, 五, 19五, 22二, 55八



亦(舌)兒格訥延 irgen·ü·yēn (百姓自的) [irgen の再帰属格形] 四25六  
 亦兒堅 irgen (百姓) 人々, 人衆; 人民。一3九, 5三, 7九, 17五, 18二, 三, 四, 19三, 21八, 九, 33一, 44六, 十, 45四, 47九; 二5一; 四6五  
 -都兒 -dür 一4九  
 -都舌里顏 -dür-iyän[→iyēn] 二16十  
 -突舌兒 -dür 三10十, 12九  
 -訥 -nü 一4三  
 -途兒 -tür 一17六, 18九, 36十, 42二, 十; 二30三  
 亦舌兒堅 irgen (百姓) 同上。四11十, 12一, 19十, 26四, 45二; 五9四, 13五, 19三, 六; 六3四<sup>2</sup>, 六, 八, 19十, 29十; 七11二, 九, 16三, 23九, 45七; 八1二, 42三; 十21四, 33一, 四, 35四; 十一8八, 9四, 44四, 46十, 47三, 四, 49一<sup>2</sup>; 十二2四, 十, 3五, 8八, 12八, 18一, 二, 21五, 七, 22三, 23十, 55二, 六  
 -突(舌)兒 -dür 三20六  
 突舌兒 -dür 三15四, 六; 五27二, 三; 七21十; 八37二, 41十, 47七; 十14三, 17八; 十一3, 11九, 36九, 49八, 51九, 三1二, 四, 4一, 15十, 19十, 20八, 30五, 55二, 八  
 -魯額 -lü'ë 八15三  
 亦舌刺答 irada (下水) 川を下って。二5八  
 亦舌列 ire (来, 教来) [ire- の命令形] 一49五; 二14一; 六30六, 31七, 八, 41二  
 \*亦舌列- ire- (来, 教来) 来る。  
 -阿速 -'äsu[→'ësü] 一40六  
 -埃 -'aj[→'ej] 一48一  
 -罷 -ba[→be] 一1四, 17七; 二1四, 六, 23三, 28四, 32七, 35一, 37六, 四; 三1六, 31二, 34三, 五; 四6一, 四, 五, 34二, 40三, 42六, 47四, 48三; 五2九, 4九, 5四, 6四, 七, 7五, 9一, 12二, 30七; 六8五, 12九, 13九, 14二, 15十, 27三, 44一; 七7六, 15三, 23六, 44四; 九28三; 十11七, 十, 14五, 16一, 34四; 十一6七, 12九, 15六, 16三, 六; 十二9四  
 -罷古 -ba-gü[-be-kü] 三34七, 十, 35二, 三, 四, 五, 五, 八, 九, 十<sup>2</sup>, 36二, 四, 41一, 二, 三, 四  
 -罷者 -ba-je[→be-je] 六38五; 九23九  
 -別速 -bēsü 一20四  
 -畢 -bi 二45六  
 -罷坤 -dkün 五45八, 46一; 六46七; 八9三; 十一9一; 十二4九  
 -額 -'ë 二46八  
 -額揚 -'ed 四34二; 六48六; 七7四; 十一43九  
 -額速 -'ësü 四47十; 五6十, 9二, 10一, 11八, 13九, 14九, 23二, 39三; 六

11八, 十, 14五, 九, 17三, 24三, 八, 26一, 30六, 31八; 八36十; 九48一; 十一36四, 44六; 十二1八, 38四  
 -克薛(揚) gsed 一18九; 二48九  
 -克薛揚 -gsed 三49六  
 -克薛揚 -gsed 五5九; 九39八; 十3七  
 -克薛額兒 -gse'er 二36七  
 -克[薛]泥 -g[se]ni [→gsen-i] 一25八  
 -克薛泥 -gsen-i 二23五  
 -克先- gsen 七15二; 十一1六  
 -克先突舌兒 -gsen-dür 五9一  
 -古 -gü[→kü-] 一19八; 三19一; 四42八; 七33四  
 -古耶 -güye [→küj-e] 一44一  
 -周 -jü 一7二, 17九, 18八, 19四, 23六, 36十, 43六, 44三; 二4四, 7十, 11二, 18七, 27九, 41五, 44十; 三1四, 4一, 8九, 9十, 15八, 33一, 37七, 十, 38一; 四9四, 21七, 34一, 43三, 46五, 49四; 五1六, 7一, 26一, 34九, 48一, 七, 49十; 六2四, 15十, 25四, 29六, 31五, 42八, 51五; 七7五, 14九; 八22一, 36十; 九13三, 14七, 17一, 36二; 十11二, 13六, 14五, 15三, 七, 38五; 十一4一, 六, 14八, 19五, 40一; 十二3九, 11四, 13一, 35七  
 -主兀 -jü'ü 四3四; 五26四; 七14八  
 -主為 -jü'üj 一34八; 二13六; 四4三; 五2五, 5八; 七7十, 27九; 十10十; 十一52五; 十二50二, 八  
 -恢 -küj 一17二  
 -恢突舌兒 -küj-dür 五5二  
 -恢魯額 -küj-lü'ë 一35四; 五2五; 六8五  
 -坤 -kün 九34十  
 -列額 -le'ë 二30七, 45二  
 -木 -mü 一19八  
 -梅 -müj 七14七  
 -舌倫 -rün 一49二; 四40四; 六31七, 40八, 十; 九5八; 十12三; 十一17六, 28十, 50三, 六  
 -帖列 -tele 九15九  
 -秃孩 -tucaj[→tügej] [孩→該] 二1六  
 -秃該 -tügej 四12六; 六48五; 八27九; 九32九, 33二; 十13五  
 \*亦(舌)列- ire- (来, 教来, 将来) 同上。  
 -罷 -ba[→be] 一4六; 二38三; 四32四; 五14二; 六26七; 十16八, 27十  
 -額速 -'ësü 九28四; 十一42三  
 -克薛揚 -gsed 五7六

-周 -jü 四50十; 九12九

-主為 -jü'üi 三18三

-坤 -kün 九15五

-禿該 -tugei 九32七, 47五

\*亦舌劣克迭- ire·gde- (被来) [ire- の受動形]

-罷 -ba[→be] 四19六

-周 -jü 五10二; 六24十; 八12九; 十34一, 35八; 土6七, 8七; 土10六

-中灰額徹 quj-eče [→küj-eče] [中灰→恢] 四13六

\*亦舌劣勤都 ire·ldü- (共来) [ire- の対同形]

-周 -jü 七33二

\*亦(舌)列兀勤- ire·'ül- (教来) [ire- の使役形]

-周 -jü 四47一

\*亦舌列兀勤- ire'ül- (教来) [同上]

-周 -jü 五25二, 44六, 45九

亦舌列兀列埃 ire·'üle'eï (来) [亦舌列列埃 ire·le'eï の誤りと思われる] 五9五

\*亦舌列兀魯- ire·'ül·ü- (来, 教来, 到来) [ire- の使役形]

-阿魯 -'ad[→äd] 六45五

-額魯 -'äd 四32一, 九; 五5四; 六7六, 12一

亦舌列兀論 ire·ül·ü·n (教来) [ire·ül- の同時接合副動詞形] 土1八

② \*亦舌列溫(勤)- ire·'ü(n)l- (教来) [ire- の使役形]

-周 -jü 一48十

亦舌連 ire·n (来) [ire- の同時接合副動詞形] 二26七; 六13七

亦思該 isgei (禮) フェルト。三47七, 八

-禿 -tü 八30三

\*亦薛舌里 iseri (床) 床几。六21六

-因 -yin 二24七; 九13一

-耶舌連 -yērēn 五50一

\*亦帖格- itege- (倚仗) 信賴する, 頼る。

-周 -jü 六1六

-主兀 -jü'ü 五40八

\*亦帖格克迭- itege·gde- (可倚, 倚仗) [itege- の受動形]

-古 -gü[→kü] 七8一

-坤 -kün 九28五

亦帖格勤 itege·l (倚仗, 中倚附, 可倚仗) 信賴。八19九

-田 -ten 五5九; 六11四; 十2二; 土8六, 九

-帖捏 -ten-e 六1三

-禿 -tü 九49二; 土4八; 土38七, 十

亦帖堅 itege·n (倚附) [itege- の同時接合副動詞形] 四39二

亦帖兼只 itege·mji (倚仗) 信賴。六46三, 48五

亦禿格孫 itüges·ün (皮桶) [itüges '皮桶' の属格形] 四10五

引者 inje (從嫁) 王室の娘の嫁入りに従う人々。一25八

腰哲 ingje (從嫁) 同上。

-思 -s 八47五

-薛扯延 -s-eče-yēn 八47八

影吉舌兒察黑 inggirčac (单鞍) 被いをつけぬ鞍。

-途舌兒 -tur 六12七

## 0

幹阿舌刺- o'āra- (脱) 離れる, ぬけ出す。

-黒三 -gsan 九42一

幹孛(黒) obog (姓, 姓氏) 姓。

-壇 -tan 一25二, 四, 29八

幹孛黒 obog (姓, 姓氏) 同上。

-壇 -tan 一7九, 23十, 24七, 25二, 三, 四, 27六, 七, 九, 28一, 三, 五, 29五, 六, 31一; 一50五

-秃 -tu 一26五

-秃宜 -tu-yi 四26三

圖 -tu 一6三

幹赤舌刺 očira[→oyira] (根前) 近くに。[赤→赤] 一48十

幹(楊) od (去) [od- の命令形] 行く。一46十

幹(楊) od (去) [同 上] 二21一, 23一, 25七; 三44一, 四; 八28一, 47九

\*幹(楊) od- (去) 行く, 行きつく。〈→od・u-〉

-出為 -čū'ūi 四2八

\*幹(楊) od- (去) 同上。

-罷 -ba 二10六, 16四, 28五, 32七, 39七, 46四; 五14四; 七43八; 八6九; 十14四, 28六; 一1五, 34五

-罷者 -ba-je 六26三

-抽 -ču 一17八, 44九, 45二, 47四, 48三, 49五; 二1二, 九, 3六, 16十, 27二, 28一, 35六, 39三; 三1四, 9三, 20六, 24二; 四3一, 27八, 45十; 五3七, 4一, 11二, 12一, 13五, 十, 40四, 五, 41四, 43五, 48九; 六17三, 20九, 25二; 七11七, 12四, 16五; 八44五; 十18二, 34二; 一18七, 九, 37五, 七, 39七; 一24十

-抽兀 -ču'ū 二4五

-出為 -čū'ūi 三14三, 17九; 四2五, 5二; 五30九, 48十; 八3九, 10五; 十3五

-(中)忽 -qu 二20七

-恢突兒 -küi-dür[→qui-dur] [恢→中灰] 一42四

-恢宜 -küi-yi[→qui-yi] [恢→中灰] 二14三

-中忽 -qu 一33一; 五48三; 六42六, 46四; 十21三

-中灰突兒 -qui-dur 一33二

-中渾 -qun 六17一; 九27八; 一2六<sup>2</sup>

-秃(中)孩 -tugai 二1五

-秃中孩 -tugai 九46五, 47六

\*幹楊蒼- od·qa- (被去, 可去) [od- の受動形] 〈→od·ta-〉

-罷者 -ba-je 十43七

-中忽 -qu 五46八

\*幹[楊]塔- od·ta- (去) [同 上]

-周 -ju 四2十

\*幹楊塔- od·ta- (被去) [同 上]

-周 -ju 一56二

幹多舌刺 odora (箭名) 箭の名称。三47四

\*幹都- od·u- (去) 行く。〈→od-〉

-阿楊 -'ād 二26四; 六28七, 43八; 七5五

-阿速 -'āsu 四22九, 23二, 五, 39一, 41五; 六29十, 49八; 七16六, 46五; 八2四; 十28五, 35八, 36十, 37二; 一21一, 三

-楊中渾 -dqun 六49七

-黒三 -gsan 五11五, 35九; 十16六, 33五; 一15一

-黒撒訥 -gsan-u 二25五

-刺阿 -la'ā 一18八; 二35一, 41八

-魯阿 -lu'ā 四43一

-木 -mu 一19五

-梅 -muḡ 一37八

-舌命 -run 四40三, 42二; 八47七; 一34三

-兀只 -'ūji 一57五

-牙 -yā 一45八; 五6四

幹敦 od·u·n (去) [od- の同時接合副動詞形] 二29七; 五34七, 八, 35七, 十, 46十; 六31四; 七6七; 八3一, 6七; 九13四

\*幹黒札楊- oğjad- (驚) 驚き恐れる。

-抽 -ču 八6七; 十30七

\*幹黒札楊中合- oğjad·qa- (教驚, 虚驚) [oğjad- の他動詞使役形]

-黒三 -gsan 十1五

-牙 -yā 七23九

幹中合秃兒 ogatur (秃尾) 尾の短い。八35六

幹中豁阿塔 ogo'āta (一發) 全く, 完全に。一49二

幹中豁都兒 ogoḡur (秃尾) 尾の短かい。二27十, 28二, 29四

幹中忽中合 ogugā (整) 全き, 全く。七4三

\*幹(勅)- ol- (得) 得る, 手に入れる; 見つける。〈→ol·u-〉

-罷 -ba 三16三

\*幹(勅)- ol- (得) 同上。

-周 -ju 三24二; 六12九; 九11三; 一35四

-主為 -ju'ūi 四17二

- 中渾 -qun 二20五
- \*幹勒蒼- ol·da- (得) [ol- の受動形]  
-黒三 -gsan 四24二, 四, 五, 六
- 幹勒札 olja (財, 財物) 獲得物, 戦利品。五17六; 七3二; 九25八  
-突舌兒 -dur 五17六, 18六
- \*幹勒札刺 olja·la- (財得) 分捕る, 戦利品などを獲得する。  
-黒撒揚 -gsad 五18七
- 幹勒札刺勒敦 olja·la·ldu·n (相劫財) [olja·la- の対動・同時接合副動詞形] 二24二
- 幹郎 olang (肚帯) 腹帯。二15四  
-你顔 -niyān 五28八
- \*幹郎刺- olang·la- (肚帯依旧和) 腹帯をつける。  
- (黒) 撒阿兒 -gsa'ār 二15四
- 幹里兒孫 olirsun~ölirsün (杜梨) 野性の果実 (梨の一種か)。二5九
- 幹羅阿舌兒 olo'ār (多) 多く。三35二
- 幹羅泥 olon·i (多行) [olon の対格形] 八9四
- 幹羅秃 olotu (多, 多有的) 多くある。-24八; 七16三
- 幹樂 olon (多) 多くの, 多い。-37十, 38一, 46六; 二28十; 三43二; 五9三, 26一, 37二; 六28一, 36三; 七3一, 10五, 15四, 16六, 八, 19六, 23九, 24九, 十, 25三, 26六<sup>2</sup>, 27九, 31十, 33三; 八8二; 九6二, 10一, 25八, 34三, 39五; 十33二; 十一9五, 10七, 七, 11十, 20九, 21五, 24一, 30二, 39三, 41八, 45五, 52五<sup>2</sup>; 三1六, 16五, 17一, 八, 十, 23三, 九, 27五, 34十, 37十, 47七, 52八, 56一
- 乞顔 -ki-yān 八3四
- 勤 -kin 六16九
- 納察 -nača 七31九
- 泥 -ni 六22十
- \*幹魯- ol·u- (得) 得る。(<→ol->)
- 阿速 -'āsu 六46三; 七3二; 九25八; 十12八
- 埃 -'āi 三35四
- 亦者 -yi·je 一35八
- 黒撒阿(舌)兒 -gsa'ār 九25九
- 黒撒阿舌兒 -gsa'ār 七3二; 三6二
- 黒撒揚 -gsad 九29六
- 黒三 -gsan 九7六, 33六; 十12五
- 中忽 -qu 一38三
- \*幹魯勒察- ol·u·lča- (対証, 折証) 照合する; 話し合って理解する。  
-周 -ju 五37九; 六22三, 五, 七, 八  
-速 -su 三3十, 4三

- 幹魯勒滂 ol·u·lča·n (折証) [ol·u·lča- の同時接合副動形] 三35四; 三10十
- 幹命 ol·u·n (得) [ol- の同時接合副動詞形] 四40一; 六45三, 十
- 幹籠勒 olungkin (多半) 大半。七27十
- 幹扶吉顔 omog·iyān (勇自的) [omog の再帰格形] 七28八
- 幹抹(黒) omog (勇) 勇しさ; 傲慢さ。  
-壇 -tan 四25十
- 幹抹黒 omog (勇狂, 勇) 同上。三34八  
-壇 -tan 四26二, 29一  
-中秃 -tu 七28七
- 幹抹中渾 omog·un (狂) [omog の複数形] 二6九; 三2四, 4六; 三5十
- \*幹抹舌兒中合- omog·rqa- (雄勇逞) 勇ましく行動する, 傲慢に振舞う。  
-中忽泥 -qun-i 三46八
- 幹抹舌里兀魯 omori'ū·d (臂每) [omori'ū '胸' の複数形] 三46八
- \*幹那- ono- (算計) 策略を用いる, はかる。  
-黒撒阿舌兒 -gsa'ār 三7七 (馬の)
- 幹那 ono (扣子) 刻み目, 溝。  
-秃 -tu 三8六
- \*幹那刺 ono·la- (扣子) 矢を番える。  
-罷 -ba 三8一, 六
- 幹弩(ト)赤 onubči (剡箭扣) 矢はずに刻み目をつけるのに用いる小刀。六34二
- \*幹幹兒- o'ōr- (去, 放) 棄てる, 放つ。  
-罷 -ba 一11十, 17三  
-抽 -ču 一37六<sup>2</sup>; 二9五
- \*幹幹舌兒- o'ōr- (去, 放) 同上。  
-抽 -ču 五44五  
-中忽 -qu 二9七  
-速中孩 -sugai 三23二  
-秃中孩 -tugai 三38三
- 幹幹兒察黒 o'ōrčag (劫賊, 劫) 強盗, 殘賊。五26四; 八12三
- \*幹幹舌兒乞- o'ōrki- (去) [幹幹兒乞-?] 捨てる。  
-周 -ju 四28六
- \*幹幹舌魯- o'ōr·u- (飛放, 放) 棄てる, 放つ。(<→ōr·u->)  
-阿魯 -'ād 一17八  
-楊中渾 -dqun 九47十  
-黒撒泥 -gsan-i 十41一
- \*幹幹兀魯- o'ō'ūlu- (撒下) 投げ捨てる。[幹幹魯兀魯- o'ōru'ūl·u- の誤か] 四47五
- 幹中豁舌兒 oqor (短) 短い。三32八; 三54三
- \*幹舌兒- ōr- (去) 捨てる。(<→ōr->)

- 抽 -ča 十39九  
 幹(舌)兒孛 ordo (宮) 宮廷。  
 -因 -yin 十4五  
 幹(舌)兒朵 ordo (宮室, 宮) 同上。三43三; 六28二; 七16七; 九47七; 十1四, 5六, 十, 7五, 9七, 九, 十; 三38五, 39十, 40三, 五, 42五  
 -突(舌)兒 -dur 三42六  
 -因 -yin 九47一; 十4五, 9二, 四, 六, 七, 九, 10二; 三37八, 40十, 41二, 四, 七, 九, 42二  
 -思 -s 三58七  
 -思突(舌)兒 -s-dur 三52八  
 -思圖(舌)兒 -s-tur 三20四  
 \*幹(舌)兒乞揚- orkid- (引証) 引用する, 証拠を置く。  
 -抽 -ču 三46二  
 幹兒乞敦 orkid·u·n (引証) [orkid- 同時接合副動詞形] 二12七  
 幹(舌)兒中合 orqa (人烟) 人家; 民草。〈→orqan, orqo〉五10三, 32七, 34五; 六29八, 31二; 七45四; 三21七  
 -班 -bān 六30五; 三22三  
 -巴(舌)里顏 -bār-iyān 六30二  
 幹(舌)兒中罕 orqan (人烟) 同上。三47三  
 幹(舌)兒中豁 orqo (人烟) 〈→orqa(n)〉五33九  
 -班 -bān 五33四; 六31四; 三21五  
 幹(舌)刺阿 ora'ā (野) (卷狩の圍みの中で) 逃げまわる, 逃げまどう (馬など)。六36七  
 \*幹(舌)刺黑蒼- ora·gda- (被投入) 〈→oro·gda-〉 [ora- の受動形]  
 -黑撒納 -gsan-a 三34六  
 幹(舌)刺牙 oray·a [→oraḷ-a] (晩行) 晩く。七39七  
 幹(舌)羅 oro (位子, 位) 位王座。〈→oron〉三5二, 23一; 八18五, 47一, 三; 十3八; 三4四; 三56一  
 -班 -bān 三4一; 三23二  
 幹(舌)羅 oro (痕跡) 跡。十43六  
 \*幹(舌)羅 oro- (入, 投入, 投降, 從) 入る, 投降する。  
 -阿 -'ā 二30八  
 -阿速 -'āsu 八7二, 四  
 -罷 -ba 四41七, 九; 五13三; 六15三, 51二; 七44二  
 -巴速 -bāsu 二14四, 23一  
 -周 -ju 一3九, 13二; 二26六; 三6五, 13九; 四43七; 五4四, 9五, 19五; 六40四, 51五; 七5十, 20七; 九12九<sup>2</sup>, 13三, 41九, 46一, 47五; 十5八, 14四, 15一, 35三, 38五, 39九; 三5五, 6八, 18一, 38十; 三40九, 41二, 四, 七, 42七, 56五

- 主兀 -ju'ū 五15八; 七5六  
 -主兀者 -ju'ū-je 六24一  
 -主為 -ju'ūi 二7八; 五11三; 六20三; 三13六  
 -梅 -muḷ 八21七  
 -黑撒楊 -gsad 八41五; 九38四, 43四; 十2七; 三45六  
 -黑三 -gsan 八4七, 46四  
 -中忽 -qu 四42三; 五30九; 七5二; 八18八; 十5六; 三5十, 46七; 三38六  
 -中忽魯阿 -qu-lu'ā 三20七  
 -中忽泥 qun-i 九36五  
 -中忽由 -quyu [→qui-u] 七47八  
 -中灰 -qui 九41七  
 -中灰突(舌)兒 -qui-dur 六44四; 三44一, 45一  
 -恢魯阿 -küi-lu'ā [→qui-lu'ā] [恢→中恢] 二11二  
 -中渾 -qun 九46九, 47八; 三39三; 三38二  
 -舌倫 -run 九32四, 41七  
 -禿中孩 -tucai 五21三, 六; 九6六, 24九, 37二, 三, 四, 五, 41一, 三, 四, 六, 48四; 三41十, 42三, 43五, 六, 八  
 -牙 -yā 二46四; 三6四; 五37六; 六22三, 六  
 \*幹(舌)羅(黑)蒼- oro·gda- (見入) [oro- の受動形]  
 -舌倫 -run 四11一  
 \*幹(舌)羅黑蒼- oro·gda- (被入, 被投入, 恐入) [oro- の受動形]  
 -埃 -'āi 八34一  
 -周 -ju 六20四; 三3七  
 -中灰牙察 -quiyača [→qui-ača] 六40一  
 \*幹(舌)羅勤都- oro·ldu- (入, 共入, 教入) [oro- の對動形]  
 -刺阿古 -la'ā-gü [→la'ā-kü] 五15四  
 -舌倫 -run 九37一  
 -速 -su 五40十  
 -禿中孩 -tucai 三43一  
 \*幹(舌)羅兀勒- oro·'ül- (入, 教入, 教投入, 教授降) [oro- の使役形]  
 -罷 -ba 三21九; 四43八; 七19三; 十14七  
 -蒼中渾 -da·qun 三21八; 九34五  
 -周 -ju 五12三, 15九, 20六, 24二; 六5二, 27七; 七21九, 42三; 九34七; 十15五, 16八; 三19三, 42九, 44四; 三4二, 11五, 27六, 29三, 35三  
 -主兀 -ju'ū 八32四  
 -中忽 -qu 十30七, 八  
 -中忽宜 -qu-yi 九32二

-秃孩 -tugai [-→tugaj] [孩→中孩] 九32五, 37六

\*幹(舌)羅兀魯- oro·'ül·u- (教入) [oro- の使役形]

-牙 -yā 六五

\*幹舌羅兀魯- oro·ül·u- (教入, 教投入, 教投降, 被入, 投入, 入) [oro- の使役形]

-阿魯 -'ād 六20九; 十14九; 十二19五

-阿速 -'āsu 八9九

-中渾 -dqun 九31九, 十; 十41三

-黑三 -gsan 十三34八

-黑三突(舌)兒 -gsan-dur 九31七

-舌命 -run 九31九, 十, 32三, 六, 八, 十<sup>2</sup>

\*幹舌羅兀(舌)魯- oro·'ūr·u- (入, 教入) [oro·'ül·u-, oro- の使役形]

-舌命 -run 七19一, 二

幹羅兀命 oro·'ül·u·n (教入) [oro- の使役・同時接合副動詞形] 十18十, 21九

㊦ \*幹舌羅温勳- oro·'ū(n)l- (教入) [oro- の使役形]

-罷 -ba 一46四

幹(舌)羅阿 oro'ā (狡) 捕えにくい, 逃げまわる。<→ora'ā> 三43五

幹舌羅阿 oro'ā (野) 同上。五37三; 九25九

幹舌羅出 oroču (晚生的) おそく生れた。八29六, 31七

幹舌羅黑 orog (黒脊) (馬の毛色について) 蒼灰色の, 灰褐色の。一15七, 16四 (幹舌羅(黒)); 二29五; 三8四; 八35七

幹舌羅失兀命 oroši'ül·u·n (定体) [orosi'ül- '居を定める' の同時接合副動詞形] 十三49三

幹舌羅申 orošin (常川) 常に。十三47十

幹舌樂 oro·n (入) [oro- の同時接合副動詞形] 一25十; 二14四; 三14六; 六30三; 七5九; 十31八; 十二24二

幹舌樂 oro·n (位子, 位) 位, 王位 <→oro>

-突舌兒 -dur 七3七, 九; 八38二; 十1三, 六, 九; 十三54十

-都舌里顔 -dur-iyān 十二24二

幹舌樂 oro·n (被寢) 寢床。十1五, 35三, 36二

\*幹舌魯- ör·u- (撤) 棄てる。<→ōru>

-阿魯 -'ād 七7四

幹舌魯納 orun·a (替代行) 代りに。[orun の与位格形] 十三23十

\*幹莎勳答- osol·da- (怠慢) 怠たる, なげやりにする。

-中渾 -qun 十三31一

-速中孩 -sugaj 十三45五

幹兀舌兒察黒 o'ūrčaq (劫賊) 賊, 強盜。九12八

幹宜 oyi (性情) 気持, 感情。五4四

幹亦納 oyi·n·a (情行) [oyi(n) の与位格形] 十三24八

幹亦舌刺 oyira (近, 根前) 近くの(に)。一19八; 二45五; 八10九

幹赤 [-→亦] 舌刺 očira [-→oyira] (根前) 同上。一48十

\*幹亦速刺- oyisula- (陰害) ひそかに考える; はかる。<→öyisüled·ü->

-中渾 -dqun 十37四

\*幹亦速刺勳- oyisu·la·ldu- (陰害) [oyisula- の対動形]

-梅 -muǰ 十36九

幹亦速刺教 oyisu·lad·u·n (暗懐) [oyisulad- の同時接合副動詞形] 一48二

\*幹亦速刺黒答- oyisu·la·gda- (被陰害) [oyisula- の受動形]

-阿 -'ā 一49二

幹因 oyi·n (情懐, 心意) 気持, 感情。

-都舌里顔 -dur-iyān 五24一

-秃舌里顔 -tur-iyān 一46四

完(勳)者 o(n)lǰe (外財) 獲得物, 戦利品。<→olǰa>

-兀 -u 二33九

\*完只- onǰi- (罰) 未詳(önǰi- '過ぎる' と読むべきか?)

-秃中孩 -tugaj 十三45八

\*完勳答 o(n)l·da- (得) [ol- の受動形] <→ol·da->

-来 -lai 三21二

应吉 onggi (柄) (刀, 鎌, などの) 柄の部分にある孔

-秃 -tu 三8六

\*在札勳答- ongjal·da- (被断絶) [ongjal- の受動形, ongjal- は未詳なるも '断つ' の意か]

-周 -ju 八44九

\*在刺只- onglaj- (ナシ) 空にする; えぐる。

-中渾 -dqun 三46九

## ö

- 幹纏 öče·n (不服) [öče- ‘恨む, 復讐する’ の同時接合副動詞形]。±44九
- \*幹赤- öči- (奉, 稿告) 上奏する; 祈る。
- 罷 -ba[→be] ±9九
- 額速 -'esü 五26三; ±21七, 45九, 47六; ±2九, 10九, 22八, 34一
- 周 -jü ±12三, 九; ±42一, 三; ±28十, 30九
- 主兀 -jü'ü ±31十
- 舌命 -rün ±20七, 44九, 46六; ±22二, 33六
- 速 -sü 四15九
- 速該 -sügej ±51二
- 幹赤勅 öči·l (奏事) 上奏。七48七, 九
- 田 -ten -45四
- \*幹赤兀勅- öči·'ül- (教奏) [öči- の使形形]
- 主為 -jü'üi 七48二
- 幹赤兀里 öči·'üli (禱祝) 祝詞。二51五
- 幹赤干 öčigan[→gen] (昨前) 昨日; 過ぎた。二21八
- 幹赤堅 öčigen (昨前, 昨) 同上。二9三; ±36五, 38七
- 幹暢刊 ödken (濁, 稠) 濃い, 滋味のある。三8四; ±4十; ±39九
- 幹敦 ödü·n (翎) 羽。-19七
- 幹額迭 ö'ede (逆水, 逆着, 逆, 上, 高) (河の流れを) 逆上って; 上へ。-20三, 五, 36四, 37三; 二5八, 26六, 44七; 三9一, 三, 10五; 四11三, 12四; 五28七, 30一; 六15二, 29三; 七22七, 42五; ±18十, 19五, 39六<sup>2</sup>
- 幹額の顔 ö'e·d·iyän (自毎) [ö'er の複数・再帰格形] 五46六
- 幹額兒 ö'er (自家) 自分。二24一
- 幹額舌兒 ö'er (自己) 同上。
- 都舌里顔 -dür-iyän [→iyän] 五10二; ±15三
- 秃舌里顔 -tür-iyän [→iyän] 九41八
- 幹額舌列徹 ö'er·eče (自己裏) [ö'er の奪格形] 五25四
- 幹額舌里顔 ö'er·iyän (自, 自己, 自己行, 自的行) [ö'er の再帰格形] 四36十; 五38十, 39四; 七28五; 八32二; ±18一; ±57四
- 幹額舌命 ö'er·ün (自己, 自己的, 自, 自的) [ö'er の属格形] -16九; 四26四; 六52八; 八32一, 45二; 九7五, 六, 25四, 29六, 43九; 十24一, 二; ±40三; ±18一
- 幹額舌兒迷赤速 ö'er·mi·čile·n (別做) 八14五 [ö'er·mi·čile ‘別とする’ の同時接合形]
- 幹額舌列 ö'ere (別, 另) 別に, 他に。〈→öre〉三23二; 五25四, 七, 40八; 七43六; 八9七, 14八, 15一, 20七, 28八; 九4二, 7二; 十7十; ±36一; ±3

十, 40二

- 幹額速揚 ö'esüd (自毎, 自己毎) [ö'esün の複数形] 九25五; ±46一
- 幹額孫 ö'esün (自己, 自己的) 自分で, 自ら。-33一, 六; 二29六; 四40六, 45九; 五10二, 12一, 23十, 43五; 六27一; 七1七, 32四; 八35八; 九25六; 十18七, 29三, 34一, 35八; ±41十
- \*幹暢(→克) öd-[→ög-] (与) 与える。
- 罷者 -ba-je [→be-je] ±23四
- \*幹(克)- ög- (与) 同上。
- 罷 -ba[→be] -8九; 二41十, 51五; 四15五
- 罷者 -ba-je[→be-je] 六25四
- 抽 -čü 三26八
- 中灰 -quj[→küj] [中灰→恢] ±52七
- 速 -sü 三43五; 四49十
- \*幹克- ög- (与) 同上。
- 罷 -ba[→be] -11十, 12一, 15三, 18二; 二39十; 三24三, 33一; 四15五, 17五, 19三, 20八, 22五, 八, 23一, 三, 六, 27五; 五27六, 34六, 35八, 九, 50八; 七1四, 八1五, 14二, 24五, 十, 40二, 46十, 48一; 九2八, 10五; 十13八, 16二, 三, 四, 21十, 22一, 23二, 三, 四, 五, 六, 七, 八, 31五; ±8四, 10一, 16四; ±13三
- 罷者 -ba-je[→be-je] 六28三; 九1三, 7五
- 別 -be 二25十
- 別速 -bäsü -46七<sup>2</sup>
- 赤為 -či'üi -48三
- 抽 -čü -32十, 47三; 二25九; 三26三; 四25八; 五12三; 六24六, 30六; 七25二; 八9三, 47六, 九; 九5九, 28十, 31二; 十25六, 29五; ±26五, 六; ±10五, 25十
- 古 -gü[→kü] ±57二
- 古宜 -gü-yi[→kü-yi] 四16一; 八31九
- 古耶 -güye[→küj-e] ±21八
- 古由 -güyü[→küj-ü] 五23七
- 周 -jü -10一; 四42七
- 恢 -küj -40十
- 速 -sü -8八, 9六, 46九; 二40二, 三; 三2一, 二, 六, 43六, 七; 四50二; 五6六, 7四, 46七; 六25二, 38九, 51十; 八20六, 27八, 34五; 十12九, 16九; ±8三, 九, 9六, 七, 29二, 十, 32八
- 速該 -sügej 五41二, 三
- 秃該 -tügej ±1六; 四23一; 五33九; 六52六, 七; 九33四, 八, 34一; ±47五, 六

幹克 ög (与) [ög- の命令形] 与えよ。一9六; 六24九, 34四; 七7二; 八30五

\*幹克迭- ög·de- (与, 被与, 可与) [ög- の受動形]

-克先 -gsen 一5五; 五25九  
-古牙 -güye [->küi-e] 八28四

\*幹克帖- ög·te- (与被与, 可与) [同上]

-埃 -'ai[->'ei] 一4十  
-罷 -ba[->be] 五34九; 六31五  
-克先 -gsen 一4五; 五23六  
-古 -gü[->kü] 二2八  
-周 -jü 十35一  
-恢 -küi 二2八  
-中坤 -qun[->kün], [中坤->坤] 九31一  
-列額 -le'e 五34八

\*幹古- ög·ü- (与) 与える。

-埃 -'ai[->'ei] 六36六, 八, 九, 37一  
-楊坤 -dkün 四1十; 六37二  
-額楊 -'ed 六27四  
-額速 -'esü 六31三; 七7八  
-克薛訥 -gsen-ü 五10四  
-克薛的 -gsed-i 二16十  
-克先 -gsen 九33五  
-列額 -le'e 二41七, 八; 八28三, 五; 二8二  
-魯額 -lü'e 二16六  
-木 -mü 八29四; 二15十, 16九  
-舌刺 -ra[->re] [舌刺->舌列] 五6三  
-舌列 -re 九28三  
-舌倫 -rün 五36一; 八46一; 二8九; 二8一  
-牙 -yā[->yē] 五19六; 九17七, 19一; 十13一  
-耶 -yē 五38十, 45十; 十11三, 22八; 二5八, 十; 二22五, 48二, 五

幹昆 ög·ü·n (与) [ög- の同時接合副動詞形] 二25九<sup>2</sup>; 五36一, 39五, 46五; 二3九

\*幹克客兀勅- ög·ke·'ül- (教了) [ög- の使役形] 与えさせる。

-周 -jü 六14五

幹克里格 ög·lige (支請, 賞) 施物。八34四; 二48一

\*幹亦速列都- öyisü·le·d·ü- (陰害) ひそかに考える; 策る。(<->oyisula-)

-克薛你顔 -gsen-iyēn 二57三

幹乞 öki (女, 女子) 女, 娘。一34五, 七, 35八, 42三, 十, 46三, 六; 三43四, 六36五; 七46六, 47四, 48四; 八41五; 十11三, 13一, 16三; 二5八, 6四, 8四

-遺 -bēn 一33六

-楊 -d 一35七, 45四; 三39十; 五27五; 七1六; 十21一, 三; 二9十, 13九, 17二, 52三, 56六

-的 -di [-d-i] 一44七; 七12一; 十4四, 21十; 二8五

-的顔 -d-iyēn 一45一

-都延 -d-üyēn 八45二

-顔 yān(->yēn) 二37五; 七45七, 46一

幹乞泥 öki·n·i (女子行) [ökin の対格形] 一46四; 七46三

幹乞泥顔 öki·n·iyēn (女子自的, 女自行) [ökin の再帰格形] 一33一, 46九

幹乞你顔 öki·n·iyēn (女子自的, 女自的) [同上] 六24六; 九23五

幹乞訥 öki·n·ü (女子的, 女的) [ökin の属格形] 一44六, 45四; 六20一

幹動 öki·n (女, 女子) 女, 娘, 嫁。一4二, 5一, 四, 七, 6六, 32十, 41五, 45七, 八, 46八; 三43三; 四46二; 五22一, 25九; 六52七; 九17七, 19一

-泥 -ni 一5四

幹勅澤 öljai[->jei] (吉慶, 福) 吉祥, 福。(<->ö(n)lje, ö(n)ljej)

-壇 -tan[->ten] 十1六

-田 -ten 十2六

-秃 -tü 十16七

幹勅者 ölje (福) 同上。

-秃 -tü 九6四

幹勅客克 ölkeg (灰土) 塵。一39五

幹勅客思 ölke·s (山下) [ölke '山の南面の麓' の複数形] 七27四 (<->ö(n)lke)

幹勅迷 ölmī (脚面) 足の裏 (のつま先の部分)。

-亦耶舌兒 -'iyēr 二30一

幹列 öle (黒青) (馬の毛について) 灰青色 (の)。一45二

幹列格 ölege (揺車) 乳母車, ゆりかご。

-台 -tai[->tei] 一41八

幹列該 ölegei (揺車) 同上。四14四

-台 -tai[->tei] 八28六

-帖額徹 -te-'eče 九5七

幹郎 olang[->öleng] (青草) 家畜の飼草

-突(舌)兒 -dür 二33五

-突舌兒 -dür 二31六

幹里兒孫 ölirsün~ölirsun (杜梨) 野生の果実 (梨の一種か)。二5九

\*幹劣思- ölös- (飢) 腹がへる。

-抽 -čü 五12一

\*幹劣速- ölös·ü- (飢) 同上。

-克薛泥 -gsen-i 六28三



\*幹舌羅思- örös-[->ölös-] (飢) 同上。

-拙 -čü 九12八

\*幹羅速- ölös-ü- (飢) 同上。

-木薛兒 -müser- 腹をへらすこともなく。-37四

幹魯克 ölüg (死) 死んだ, 死体。八20四

\*幹魯木列- ölümlē- (向前, 鏖戦) 命をかける。命を賭して前進する。

-克薛訥 -gsen-ü 八45十

-古 -gü[->kü] 五56十

-周 -jü 五57二

幹魯木連 ölümlē-n (向前) [ölümlē- の同時接合副動詞形] 五26一

\*幹箴兒- ömēr- (党, 党護) 護る, 保護する。->ömēre-, ömöre->

-古 gü[->kü] 二12一

\*幹箴舌列- ömēre- (党, 党比) 同上。->ömer-, ömöre->

-周 -jü 十27二, 三

\*幹抹舌列- ömöre- (党) 同上。

-周 -jü 十36五

幹捏赤葛 öne·či·d (孤, 孤每) 孤兒 [複数形] 六7十; 五24七

幹捏赤敦 öne·či·d·ün (孤兒每的) [önečid の属格形] 六53三

\*幹捏赤舌列- öne·či·re- (孤独) 孤独になる, 孤兒になる。

-坤 -kün 五23九

幹那赤敦 önö·či·d·ün (孤独的) [önöčid->önečid] の属格形] 九21一, 十

幹那舌兒 önör (ナツ) 宗族, 親族。三4二

幹舌兒中豁里牙舌兒 ör qol·iyär (惱項) [ör qol '中心, 腦天' に造格語尾 -iyär の附さ

れた形。] 五54三 (->qol)

幹舌兒 ör (自己) 自分。

-秃舌里顔 -tür·iyän 四6五

幹舌里顔 ör·iyän (自己) [ör の再帰格形] 五15二

幹(舌)兒堅 örgen (寬) 広い。四23一

幹舌兒堅 örgen (寬) 同上。四22十; 八7七; 五20八

幹舌兒魯兀葛 örlü'üd (豪強每) [örlüg '英傑' の複数形]。八19五

幹舌兒箴格 örmege (襖子, 襖衫) 毛の上着。五9六 (->örmüge)

-邊 -bän 八36九

幹舌兒木格 örmüge (毛衫) 同上。->örmege)

-邊 -bän 二38五

幹舌列 öre (心, 心窩) 心, みずおち。->örö) 四23二; 七38一; 八14十

-邊 -bän 二1四

-田 -ten 七33十

幹舌列 öre (弓) 別々に, 離れて。->ö're) 六4七

\*幹舌列 öre- (出, 捨) 捨てる。

-克撒 [->薛] 訥 -gsanu[->gsen-ü] 八45九

-周 -jü 四43七; 九20九

幹舌列額列 öre'ele (辺傍, 一隻, 隻) (馬の) 左側; 片方。-45三; 三38三; 八14五, 37七

幹舌劣 örö (心) 心。->öre) 三5三

幹舌羅 örö (心窩) 同上。二21十

幹舌劣額列 örö'ele (一隻) (一對のもの) 片方の。-9十

幹舌羅額列 örö'ele (一隻) 同上。四27一, 二

幹舌羅列 öröle (隻) 同上。九7三 (->örö'ele)

幹舌魯克 örüg (寧, 寧靜, 敦厚) 靜寂(な), 平穩(な)。十1三; 五29四

-突舌兒 -dür 十7六

幹舌魯格 örüge (天窗) 天窗。->erüge)

-台 -tai[->tei] 十1二

幹舌魯格孤 örügesü-n (刺) とげ。八18九

\*幹思- ös- (長) 成長する, 育つ。

-拙 -čü 八28七, 十

-古魯額 -gü[->kü]-lü'e, 八33四

-中灰魯額 -quj-lü'e [->küj-lü'e] [中灰->恢] 九6三

\*幹思格- ös·ge- (長, 教長) [ös- の使役形]

-罷者 -ba·je[->be·je] 八29二, 三

-周 -jü 一45一; 五9五; 五8五

-舌命 -rün 五26四

\*幹薛- öse- (報) 報いる; 仇をとる。->ösö->

-坤 -kün 三4二

\*幹雪- ösö- (報) 同上。

-周 -jü 五19五

幹雪格亦耶舌兒 ösögeiyär [->ösögej-iyär] (教脚後根) [ösögej '踵' の造格] 五29十

幹雪(勅) ösöl (讐) 復讐, 仇。二48九 (->ösö(n)l)

幹雪勅 ösöl (仇, 讎) 同上。一40二; 九12五; 五20五

幹雪里顔 ösöl·iyän (讎自的) [ösöl の再帰格形] 三4二, 5四

\*幹旋- ösö-n (報, 讎) [ösö- の同時接合副動詞形] 一40二; 二48九; 三5四, 17八; 九12五; 五20五

幹旋勅 ösö(n)l (讎) 復讐, 仇。五19七

\*幹速動止- ös·ü·lče- (共長) [ös- の相動形]

-克先 -gsen 八33五

幹失 öš (讐) 復讐, 反目。

- 秃 -tü 五1八  
 幹失 öši (驪, 臂) 同上。  
 -田 -ten 四12一, 19三; 八10四; 九12四  
 -秃 -tü 九4二  
 幹失顔 öš·iyēn (臂自的行) [öš の再帰格形] 五11五  
 幹帖児 öter (疾快) 速い(く)。〈→ötör〉 二42七, 九, 43二, 三  
 幹帖舌児 öter (快) 同上。四12六; 五3八, 4六, 5一  
 幹帖児連 öter·le·n (疾快) 急いで。[öter·le- ‘急ぐ’ の同時接合副動語形]。  
 〈→ötör·le·n〉 二43四, 46三  
 幹帖舌児連 öter·le·n (快) 同上。四13一; 五55三  
 \*幹帖児箴列- öterme·le- (近梁子般射) 射殺す; 散々に射る。  
 -周 -jü 二10五  
 幹脱歹 ötödaï[→deï] (老) 老輩, 老人。  
 -突舌児 -dür 五44五  
 幹脱克 ötög (進酒, 喝蓋) 酒盃, 進酒。五21五; 五29六  
 \*幹脱克列兀勒- ötög·le·ül- (喝蓋, 教喝蓋) 酒盃をはず; 進酒を飲む。  
 -周 -jü 七2十, 9六; 九24七, 26四  
 幹脱堅 ötögen (地) 地, 大地。〈→etügen〉 五30二  
 幹脱古 ötögü (老) 年とった, 老年の。七9二, 11二  
 -思 -s 二12七; 三49六; 九42八, 十, 43三; 十1四, 2六, 九; 五46一; 五44  
 八, 十, 45五, 六  
 -昔 -s-i 九41六; 五43二, 44九  
 -孫 -s-ün 三27六  
 \*幹脱古列- ötögü·le- (為長) 年長者となる。  
 -古泥 -güni[→kün-i] 九40十  
 \*幹脱勒- ötöl- (老) 年をとる。  
 -罷 -ba[→be] 五36二; 七10三  
 -古 -gü[→kü] 一46九  
 -周 -jü 五36二  
 \*幹脱勒迭- ötöl·de- (被老) [ötöl- の受動形]  
 -恢 -küi 七29七  
 幹脱舌児 ötür (快, 疾快, 快疾) 速い(く)。[öter] 二1六; 六14三; 八20二; 十31六  
 幹脱児刊 ötür·ken (快) 更に速い(く)。一49五  
 \*幹脱舌児列- ötür·le- (教疾快) [öter·le-] 迅速に行動する。  
 -秃該 -tügei 八21一  
 幹脱舌児連 ötür·le·n (作急, 恢) [ötör·le- の同時接合副動詞形] 四32三; 六50三  
 幹兀坤 ö'ükün (脂膏) 脂肪。  
 -突(舌)児 -dür 五33六

- \*幹耶薛- öyese- (食食) むさぼる。  
 -克先 -gsen 七36二, 八  
 完迭堅 öndegen (卵) 卵。五31九  
 完勒者 ö(n)lje (吉慶) 吉祥, 福。〈→öljei〉  
 -田 -ten 三49六  
 完勒澤 ö(n)ljei (吉慶, 福) 吉祥, 福。〈→ölje〉  
 -秃 -tü 八14九, 33五  
 完勒只格 ö(n)ljige (車前, 前) 車の前室。一35七  
 -迭 -de 一4四  
 -台 -tai[→tej] 一45一  
 完勒客 ö(n)lke (山前) 山の南面。  
 -迭 -de 七43九  
 \*汪迭亦- öngdeyi- (欠伸起, 伸起) 伸び上る; 起き上る。  
 -周 jü 四40九; 十36二  
 汪格 öngge (顔, 顔色) 顔, 顔色。一34七, 45一, 五, 七; 三43三  
 -額舌児 -'er 六20一  
 -田 -ten 一44六  
 汪格古顔 önggegü·yēn (増蓋自的行) [önggegü ‘足し, 補足’ の再帰格形] 八8五  
 \*汪格亦- önggeyi- (探) うかがう, のぞく。  
 -周 -jü 一34六

## u

兀必思 ubis (但動) かすかに然し止まることなく動くさま。十2二

兀不兒 速不兒 ubur subur (陸續) ぞろぞろと、次々に。二32一

\*兀赤舌刺- učira- (遇) 遇う。

-阿速 -'āsu 二2八; 七47七, 48四

-罷 -ba 六44五

-周 -ju 三15五; 七46十

-恢 -küj[→qui] [恢→中灰] 七47八

\*兀赤舌刺<sup>駁</sup> učira·ldu- (都相) [učira- '遇う'の対動形]

-罷 -ba 六43十

兀出馬阿(舌)兒 učuma·ār (射名教) 矢の名称。[učuma の造格形] 六16一

兀出馬中合舌兒 učuma·gār (箭名) [同上]。八43八 [učumac-ār とすべきか?]

\*兀<sup>楊</sup>中忽- udqu- (汲) 汲む。

-周 -ju 七7二

\*兀蒼- uda- (遲) 遅れる; 久しくなる。

-罷 -ba 四47七

兀蒼阿都 uda'adu (次) 次の, 2番目の。四28七, 九

兀蒼阿納 uda'an·a (遲行) [uda'an の与位格形兼副詞形] 九23九

\*兀蒼阿舌刺- uda'āra- (隨後) 後に続く, 後を継ぐ。

-恢阿察 -küj-ača[→qui-ača] [恢→中灰] 二22一

兀蒼阿舌蘭 uda'āra·n (隨即) [uda'āra- の同時接合副動詞形] 六46五, 十; 十28七

\*兀蒼阿(舌)刺<sup>都</sup> uda'āra·ldu- (隨即趨) [uda'āra- の対動形]

-罷 -ba 一35三

兀蒼阿舌刺<sup>勅</sup> uda'āra·ldu·n (共隨即) [uda'āra·ldu- の同時接合副動詞形] 九13九

兀蒼安 uda'an (遲) 遅い, ゆっくりした; 久しい。六49一; 三49一

兀蒼勅 udal (遲) 遅れること。十2三

\*兀都- udu- (引誘, 誘引) 策略でおびき寄せる。

-周 -ju 七27三; 八45五; 二1七

\*兀都舌里<sup>都</sup> udurid- (引, 領) 導く, 引率する。

-抽 -ču 一20五, 34八, 37一, 44一; 六25一; 十14六

\*兀都舌里<sup>勅</sup> uduril-[→udurid-] (弓, 引) 同上。[勅→都]

-抽 -ču 二13六, 41五

\*兀都(舌)里<sup>都</sup> uidud- (引) 同上。

-抽 -ču 一45九

\*兀都舌里都- udurid·u- (領) 同上。

-阿<sup>楊</sup> -'ād 四5九, 十

兀都舌里<sup>都</sup> udurid·u·n (引, 教統) [udurid- の同時接合副動詞形] 六4三; 十16一

兀中忽<sup>勅</sup>札 ugulja (獐羊) 盤羊, 野性の雄山羊。八12三, 五

-因 -yin 八12六

兀中忽<sup>舌</sup>兒中合 ugūrqa (套竿) 馬取竿。〈→兀兀兒中合〉

-禿 -tu 八6八

兀哈里 uhāli (金奔子) 手斧。十19七

兀乞塔刺 uki·tala (緊) しっかりと。二5七

\*兀乞牙兀<sup>勅</sup> ukiya·'ül- (教洗) [ukiya- '洗う'の使役形] 洗わせる。

-周 -ju 七12二

兀勅斤 ulgi·n (譖) [ulgi- '誹謗する'の同時接合副動詞形] 〈→ulki·n〉  
五40五

兀勅勸 ulki·n (讒譖) 同上。五31二 〈→ulgi·n〉

兀刺 ula (脚底) 足の裏。

-突(舌)兒 -dur 二25十

-因 -yin 二26一

兀刺阿 ula'ā (馬疋, 騎坐馬匹) 駅伝用の馬。八7八; 九33一

兀刺阿訥 ula'ā·n·u (鋪馬的) [ula'ā(n) の属格形] 三53十

兀刺阿赤泥 ula'ā·čin·i (馬夫行) [ula'ā·čin の対格形] 三53六

兀刺阿臣 ula'ā·čin (馬夫) 馬夫。三49三, 52八, 53九, 十

兀藍 ulam (転) 更に; 徐々に; 増々。七3十<sup>2</sup>

\*兀里思- ulis- (葱帶) 狼などが声をひき延ばして鳴く, うなる。

-抽 -ču ~ -čü 三35六

兀魯思 ulus (百姓) 人々; 国。七16八

兀魯思 ulus (百姓, 百姓毎, 国) 同上。一44七, 十; 二4七, 16十; 三9一, 13十,  
15一, 16四, 39一, 六; 四6六, 38一; 五1四, 13三, 19一, 35八, 九,  
十, 36四, 41四, 五; 六24八, 25一, 四, 38十; 七10五, 16三, 45三; 八  
1五, 24九, 44九, 46八<sup>2</sup>; 九7三, 四, 30八; 十22八, 28二, 36十 (兀  
《舌》魯思), 37二; 三24一, 三; 三16八, 十, 23九, 48四, 十, 49二, 55六,  
八

-圖<sup>舌</sup>兒 -tur 五18二

-禿<sup>舌</sup>里顏 -tur-iyān 四37四

-顏 -yān 五41五

兀魯撒 ulus·a (百姓行) [ulus の与位格形] 三52八

兀魯撒察 ulus·ača (百姓裏, 百姓処, 百姓行) [ulus の奪格形] 三9二; 三47四, 53二

兀魯昔 ulus·i (百姓, 百姓行, 百姓毎, 人烟, 国行) [ulus の対格形] 二4七, 40二,  
三; 三1九, 2二, 6七; 四26三, 45四; 五34八, 43九; 七43九; 八18四,  
24二, 七, 29十, 30二, 45七; 九31六; 三25六; 三14八, 15三, 23三, 47  
一

- 兀魯昔牙舌兒 ulus·iyār (百姓依着) [ulus の造格形] ㄱ49五  
 兀魯昔牙舌闌 ulus·iyār·ān (百姓自的) [ulus·iyār の再帰造格形] 八45三  
 兀魯昔顏 ulus·iyān (百姓自的, 国自的) [ulus の再帰格形] 四37五; 五34七; 六26二; 七27二; 八2四, 12二; ㄱ20九, 21二, 三; ㄱ56二  
 兀魯速惕 ulus·ūd (百姓每) [ulus の複数形] 六38九  
 兀魯孫 ulus·un (国, 国的, 百姓的) [ulus の属格形] 一33六; 三38十, 39三, 九; 四27三, 29二; 八26十, 30七; ㄱ56六<sup>2</sup>  
 \*兀馬舌兒塔- umarta- (忘) 忘れる。  
 -周 -ju 五15一; ㄱ22二  
 -黑撒泥 -gsan-i ㄱ32五; ㄱ23五, 七  
 -黑撒你顏 -gsan-iyān 八14七  
 -中忽 -qu 八17二  
 \*兀馬[舌兒]塔- umarta- (忘) 同上。忘れる。  
 -中忽 -qu 八17八  
 \*兀馬舌兒塔黑答- umarta·gda- (可忘) [umarta- の受動形]  
 -中忽 -qu 八34二  
 兀馬舌兒壇 umarta·n (忘了) [umarta- の同時接合副動詞形] 八20九  
 兀木不 umbu (陷) (泥などの) だろどろした, ねとねとした。二48三  
 \*兀納 una- (倒, 落) 倒れる, 落ちる。  
 -阿速 -'āsu 九16五; ㄱ1九  
 -罷 -ba 十39二  
 -周 -ju 四27五  
 -主兀 -ju'ū 二15八; 六9七; 八2九  
 -黑三 -gsan 二16一; 六9十; ㄱ23三  
 -中忽 -qu 四28三  
 -塔刺 -tala 六12四, 16二  
 \*兀納中合- una·ga- (倒, 砍倒) [una- の他動詞形]  
 -周 -ju 四27二; 七35六  
 \*兀納黑答- una·gda- (被倒) [una- の受動形]  
 -周 -ju 六9八  
 兀納勒都- una·ldu- (共倒) [una- の対動形]  
 -周 -ju 七43四  
 \*兀納 unu- (騎, 断, 上) 乗る。  
 -阿魯 -'ād 二38四; 四42八  
 -罷 -ba 二29六, 43五<sup>2</sup>, 六<sup>2</sup>, 七<sup>2</sup>, 八<sup>2</sup>; 三7十, 8五  
 -周 -ju 一15七; 二24四, 28一, 八; 四39十; 五2七, 50三; 六12八; 七33十;  
 八35八, 36九; ㄱ1七  
 -黑三 -gsan 九48九; ㄱ39五

- \*兀納兀勒- unu·'ūl- (教騎, 教上) [unu- の使役形]  
 -罷 -ba 三28二, 五  
 -周 -ju 五2一; 八35七; 九16八, 20二  
 ㉔ \*兀納温(勒)- unu·'ū(n)l- (教坐, 教騎) [同上]  
 -周 -ju 二23七, 25八  
 ㉕ \*兀納温勒- unu·'ū(n)l- (教坐, 教騎) [同上]  
 -罷 -ba 二29五  
 -周 -ju 一44八, 45二; 二44六  
 兀納阿壇 unu·'ā·tan (单騎的有) [unu·'ā '乗りもの, 交通運輸の手段' に -tan のついた形]。六17二  
 兀納中合惕 unugad (駒兒每) [unugan の複数形] 七35三  
 兀納中罕 unuga·n (駒兒) 子馬。七35一  
 兀納中忽臣 unugu·čīn (放乳馬的, 放騾馬的, 放驢馬的) 乳搾りの係。ㄱ48一, 53五<sup>2</sup>  
 兀黑教 ugdu·n (接, 迎接) [ugdu- '迎える' の同時接合副動詞形] <→ugtu·n> 六27二; ㄱ15四  
 兀黑屯 ugtu·n (迎接) [同上] 十15十  
 兀中合 uqā (省) 了解, 物分り。四27八  
 \*兀(中)合- uha-[→uqa-] (省, 覚) 理解する, 気づく。[哈→中合]  
 -阿速 -'āsu 一13五  
 -周 -ju 四42三  
 \*兀中合- uqa- (省, 覚) 同上。  
 -阿速 -'āsu 六6二  
 -巴兀 -ba·'ū 一35五  
 -畢 -bi 二45五  
 -惕者 -d·je 一13七; 九2十  
 -黑撒你顏 -gsan-iyān ㄱ21六  
 -黑三 -gsan 九19七; 十44一  
 -黑三突舌兒 -gsan-dur 十24四  
 -周 -ju 一11四; 二11三; 五32二, 40一, 46八; 十10一, 40二; ㄱ21六, 45七; ㄱ3三, 49七  
 -速中孩 -sugaj 五48十  
 -秃中孩 -tugaj 二51三; 七3十  
 兀中合兀塔 uqa·'ūta (察探) [uqa- に -ūta のついた形] 探索しがてら。二50一  
 兀中合撒舌兒 uqa·msar (不覚) [uqa- に -msar のついた形] 知らずに。十18三  
 \*兀中合黑答- uqa·gda- (可覚) [uqa- の受動形]  
 -罷 -ba 六42二  
 兀中罕 uqa·n (省) [uqa- の同時接合副動詞形] 三30四, 十; ㄱ57三  
 \*兀中忽- uqu- (剝) 掘る。

-周 -ju 二6一

兀舌児邦 urbang (ナシ) 草木の根。六46二

\*兀舌児中忽- urgu- (出, 出来) (植物が) 成長する; (太陽が) 昇る。

-中忽蒼 -qu-da 二46十

-中忽因 -qu-yin 二29二

-中灰 -qui 八19三

-中灰魯阿 -qui-lu'a 十28九

-塔刺 -tala 八28七, 十

兀(舌)児秃 urtu (長) 長い。二20八

兀舌児秃 urtu (長) 同上。八17九; 二32七; 二24三

-蒼 -da 六14七

-因 -yin 五41七; 八10六

-思 -s 二27一

兀(舌)児圖 urtu (長) 同上。三8三

兀舌刺阿 ura'a (野) 逃げまわる, なかなかつかまらない。七3三 <→ora'a>

\*兀舌里- uri- (喚, 喚[→喚]) 呼ぶ。

-周 -ju 一48十; 二2七, 38四; 四47一; 五25二, 44六, 45九; 八32四

-主兀 -ju'u 五46六

-黒三突舌児 -Gsan-dur 八33八

-中渾 -qun 五46七

-舌刺 -ra 八28一

兀舌里魯 urid (先) 前に, 以前に。四47九

兀(舌)理蒼 urida (前) 同上。二38五

兀舌里蒼 urida (前, 先, 在前, 前面) 以前の(に); 南の, 前の。一10九, 25十; 二29二; 三11八, 17四, 26一, 29十, 49二; 四46九; 五9五, 17五, 23九, 34二, 36九; 六7八, 26九, 30九, 34十, 35一, 53一; 七20七; 八4七; 九20九, 31三, 36二, 七, 38四, 39六; 十5五, 9六, 14五, 15十, 18二, 19二, 20九, 21四, 39六, 44六; 二15七, 16六, 22五, 24一, 35六; 三15四, 八, 28一, 29六, 九, 37二, 43二, 三

-安 -'an 九2三

-察 -ča 五30六

-温 -'ün [複数形?] 六48十; 九47二; 二37九

兀舌里蒼訥 urida·n·u (在前的) 以前の。一48一

兀(舌)里都 uridu (在前) 以前に, 以前の。六27四

-思 -s 三27六

兀舌里都 uridu (在前, 在先有的) 同上。五11八; 二37四, 44一

兀舌里都昔 uridu·s·i (祖宗行) [uridu·s '祖先' の対格形] 二22一

\*兀舌里黒蒼- uri·gda- (被喚) [uri- の受動形]

-周 -ju 五46一

兀舌里牙 uri·ya (喚) 呼びかけ。

-蒼察 -dača 九17四

兀舌里牙舌児中渾 uri·yar·qun (爽利) 聡明な(に)。十2三

兀(舌)魯黒 urug (親, 子孫) 親族; 子孫。四17七; 五39一, 三; 九19九; 二33一

兀舌魯黒 urug (親, 子孫, 子嗣) 同上。一32一; 二51二; 三4三; 八46十; 二32十, 33一, 二

-途舌児 -tur 十44九; 二32五

-圖舌児 -tur 二31六, 33八

兀舌魯吉 urug·i (子孫行) [urug の対格形] 二33三, 五

兀舌魯吉牙舌児 urug·iyār (一族) [urug の造格形]

兀(舌)魯吉顔 urug·iyān (族自的) [urug の再帰格形] 九17七

兀舌魯吉顔 urug·iyān (族自的) [同上] 九19一

兀舌魯乞牙舌里顔 urug·iyār·iyān (一族自的) [urug の再帰・造格形] 五19四, 20十

兀舌魯中合 urug·a (親戚行, 親行, 親族行, 子孫行) [urug の与位格形] 一7八, 15二, 六; 三21六; 六25七, 52六, 53二; 七3一, 八; 八13十, 20五, 31三, 34二, 六, 39十, 47二; 九20十, 22六, 24七; 十3八; 二12五

兀(舌)魯中合 urug·a (子孫行) [同上] 五1四

兀舌魯中合察 urug·ača (宗族行, 子孫行) [urug の奪格形] 九38七, 八, 39三; 二43三

兀(舌)魯中合察 urug·ača (宗族) [同上] 九39二

兀(舌)魯(中)合察 urug·ača (宗族行) [同上] 九38五

兀舌魯中渾 urug·un (子孫的, 親的, 親行) [urug の属格形] 二51二; 三21六, 23二; 五1三; 六25七, 52六, 53二; 七2十, 3八; 八31二, 34二, 六, 39十, 47二; 九20十, 22六, 24七; 十3八; 二12五, 21九, 22六

兀舌魯(中)渾 urug·un (子孫的) [同上] 八20五

兀舌魯(中)渾 urur·un (子孫的) [同上] 八31二; 九22六

兀舌魯兀蒼察 uru'ūd·ača (子孫毎行) [urug の複数・奪格形] 二30十

兀舌魯黒石 urugši (向前) 前方へ。四33四

-蒼 da 一37七

兀舌魯思中罕 urusqa·n (流着) [urusqa- '流す' の同時接合副動詞形] 二17九

兀速 usu (水) 水。二24五, 48五, 55五

-惕 -d 一38一; 二30二 [複数形]

-壇 -tan 二49八; 二16一

\*兀速刺- usu·la- (飲水) 水を飲ませる。

-舌刺 -ra 八44五 [目的副動詞形]

兀速関 usu·la·n (飲) [usu·la- の同時接合副動詞形] 六44四, 九

## 354 元朝秘史蒙古語辭典

- 兀速納察 usun·ača (水行) [usun の奪格形] 七31四  
 兀速泥 usun·i (水, 水行) [usun の対格形] 四49九; 九1七  
 兀速你顔 usun·iyān (水自的) [usun の再帰格形] 三22三  
 兀速訥 usun·u (水的) [usun の属格形] 二17八; 三23九; 三22二  
 \*兀速舌児中合- usu·rqa- (尋水) 水を求める。  
 -舌 命 -run 七5十  
 兀孫 usu·n (水) 水。二3七, 17九; 四40六; 七7二; 十12五; 三21十, 55七  
 -突舌児 -dur 八3五, 33十  
 \*兀秃舌刺- utu·ra- (首先出去) 狩の時包囲から抜け出て先がけする。  
 -周 -ju 三43六  
 \*兀秃舌刺兀勒苔- utu·ra·'ül·da- (教出) [utu·ra- の使役・受動形]  
 -阿速 -'äsu 六36七  
 \*兀- ü- (飲) 飲む。  
 -周 -ju 四40七  
 -黒撒訥訥 -gsan-u 五21五  
 \*兀黒苔- ü·gda- (被飲) [ü- の受動形]  
 -舌 命 -run 六35一  
 \*兀兀勒- ü'ül- (教飲) [ü- の使役形]  
 -罷 -ba 四40七  
 \*兀兀- u'ü- (飲) 飲む。〈→ü〉  
 -罷 -ba 三24五, 29六  
 -周 -ju 三22一  
 -中忽 -qu 六34十  
 -中渾 -qun 三29九  
 -秃中孩 -tugaj 七7二  
 兀兀児中合 u'ürqa (套馬竿) 馬取竿。〈→ugürqa〉 二32二  
 -巴舌里顔 -bār·iyān 二32六  
 \*委亦惕- uiyid- (厭) 厭気がさす, あきる。  
 -抽 -ču 十36二  
 -中忽 -qu 三31五  
 委亦当中合 uiyidangca (好怠慢, 好厭旧) あきっぱい。三31四; 六37二  
 \*委亦刺- uiyila- (哭) 泣く。  
 -阿惕 -'ād 二4八; 十35三  
 -罷 -ba 四46五; 十36一  
 -周 -ju 一37九  
 -主為 -ju'üj 四7七  
 -木 -mu 二34九  
 -中忽宜 -qu-yi 十36三

- \*委亦刺(黒)苔- uiyila·gda- (突) [uiyila- の受動形]  
 -中忽 -qu 一38一  
 委亦鬧 uiyila·n (哭) [uiyila- の同時接合副動詞形] 四45八  
 \*温苔阿速- unda'ās·u- (渴) のどがかわく。  
 -木 -mu 四39五  
 \*温苔思- undās- (渴) 同上。  
 -抽 -ču 一47十  
 \*温苔刺- unda·la- (解渴) 飲む, のどのかわきをいやす。  
 -周 -ju 三25十  
 \*温苔刺勒都- unda·la·ldu- (共飲) [undala- の対動形]  
 -舌 命 -run 五24九  
 温苔刺勒教 unda·la·ldu·n (共飲) [undala·ldu- の同時接合副動詞形] 五24十  
 温丹 undan (飲, 止渴) 飲物。三45四; 四43八; 六14四; 十4十, 5一, 三; 三39八, 七  
 温都舌命 undurun [undur- 'わき出る' の同時接合副動詞形] 七25三  
 \*温只勒札- unji·lja- (垂) 垂れる; 垂らす。  
 -周 -ju 六13六  
 \*温榻- unta- (睡) 眠る。  
 -黒赤 -gči 七39七  
 \*温榻兀勒- unta·'ül- (教睡) [unta- の使役形]  
 -周 -ju 十1三  
 \*温榻舌刺- unta·ra- (睡着) 眠りこむ。  
 -周 -ju 三22三  
 -黒撒泥 -gsan-i 三32五; 三23五, 八  
 -黒撒你顔 -gsan·iyān 八14七  
 翁中合孫 ungasun (毛) 羊毛。二46九  
 \*翁失- ungši- (叫, 喚) 呼ぶ, 叫ぶ。  
 -周 -ju 二13十; 四34九, 46四  
 \*翁失(黒)苔- ungši·gda- (被叫) [ungši- の受動形]  
 -周 -ju 二14二  
 \*翁失刺(勒)都- ungši·la·ldu- (共呼) [ungšila- 'よびかける' の対動形]  
 -周 -ju 四34八

## ü

兀卜 üb (財物) 宝。七35六

兀卜赤- übçi- (剝) 剥ぎ取る。

-額速 -'esü 七28十

\*兀卜赤克迭- übçi·gde- (被剝) [übçi- の受動形]

-恢額徹 -küj-eče 八17九

兀不勒 übül (冬) 冬。五12四, 17一; 六27七, 八; 七4七; 七1二, 五

\*兀不勒者- übül·je- (住冬) 冬を過す。

-罷 -ba[→be] 五1六, 12五; 七4七

-周 -jü 五17二; 六27八; 八2三; 七1二

兀出干 üčüge·n (小) 小さい; 幼ない。〈→üčü'ügen〉—21八, 27八; 241八; 三32九; 四17一, 23四; 五3九; 八10二, 19八, 34十, 40九; 九23二

兀出格楊 üčüge·d (小的每, 小每, 小) [üčügen の複数形]—49三; 二5五, 七; 八16十; 十37五; 七24七

兀出格捏徹 üčüge·n·eče (從小) [üčügen の奪格形] 六3六

兀出格秃 üčüge·tü (小有的) [üčügen に -tü のついた形] 小さい; 幼ない。—49一

兀出兀干 üčü'üga·n [→gen] (小) 小さい。〈→üčügen〉四17四; 六34三

兀出兀堅 üčü'üge·n (小) 同上。—45八; 四7一

兀迭 üde (晚, 晚夕) 晚, 夕。六40三; 八20十; 十18二, 26一

-因 -yin 三45四; 十44五

\*兀迭舌里楊- üde·rid- (歇餉) 日中に休んで食べる

-抽 -čü 六1十

兀迭舌鄰 üde·ri·n (歇餉) [üderi- '日中に休んで食べる' の同時接合副動詞] 六1九

兀迭失 üde·ši (晚, 晚夕) 同上。二28二, 30二; 五49十

-迭 -de 六10二

兀迭石 üdeši (晚, 晚夕) 同上。六28十; 十44四

兀都楊 üdü·d (日每, 日) [üdür の複数形] 四13六, 19六; 六51一, 六

兀都児 üdü·r (日, 白日, 日子, 景) 日; 昼間。—3七, 8二, 11七, 19四; 二5九, 7七, 17三, 18七, 20四, 七, 22九, 24五, 27八, 33四, 35六, 39三, 八, 42二, 44八, 51二

兀都(舌)児 üdü·r (日) 同上。四20五, 24八; 十38七

兀都舌児 üdü·r (日, 明日, 日子, 昼, 日餉) 同上。三4七, 11八, 12八, 29七, 33六, 43九, 44二; 四12十, 26九, 40九, 43二, 45一, 47二; 五13四, 24八, 31七, 36九, 45九; 六1八, 11二, 九, 23六, 28三, 51二; 七19五, 六, 20六, 21四, 22六, 28七, 34一, 二, 46七; 八12五, 14十, 15二, 16六, 37四, 45八, 45九, 46六; 九2一, 3九, 23八, 39五, 六; 十27九, 43一;

七44五; 七10四, 37五

-途舌児 -tür 七25三

兀都声列 üdü·r·e (日行) [üdür の与位格形] 七4三

兀都声列扯 üdü·r·eče (自日子, 日自) [üdür の奪格形] —44六; 二3三

兀都声列徹 üdü·r·eče (日子行) [同上] 四11十; 五19五; 六20一

兀都(舌)列徹 üdü·r·eče (日子行) [同上] 四13三

兀都声里顔 üdü·r·iyên (日自的行) [üdür の再帰格形] 七21四

兀都声里耶舌児 üdü·r·iyêr (日裏) [üdür の造格形] 七48八

兀都声諭 üdü·r·ün (日的, 日裏) [üdür の属格形] 三17八; 八18八; 九46一, 48九; 七39四

兀都兀牙 üdü'üya [→üdü'üj-e] (未行) ~する前に, しないうちに。八7九; 七35六

兀都兀耶 üdü'üye [→üdü'üj-e] (未, 未行) 同上。三31三; 四42五; 五3七, 5一; 六18十; 十35二, 36一; 七35五

兀都為 üdü'üj (未的, 未) まだ~ない。—4十; 四9六

兀該 üge·j (無) ない。—7六<sup>2</sup>, 10四<sup>2</sup>, 11一, 14六, 九, 16七, 18四, 五, 26三, 46九; 二8四, 五, 10二<sup>2</sup>, 14一, 15十<sup>2</sup>, 45五; 三44三; 五3六, 十, 4十, 31八, 36五, 50十; 六11三, 29四, 42四; 七10十, 26十, 48三; 八8四, 21七, 35九; 九12三, 15一, 42四, 43五, 48四; 十2三, 5四, 28三, 43六, 44十; 七20十; 七12五, 六, 30八, 44四, 五, 45七, 49五, 55五, 56四, 七

-突児 -dür 二10二, 12三, 四

-突舌児 -dür 三48八, 十

兀該兀 üge·j'ü (無, 無的) 同上。[男性单数形] 〈→üge'ü〉五41五; 六9六; 七36六, 八; 八19八, 九, 35五, 42三

兀該為 üge·j'üj (無) 同上。[女性, 中性形] 〈→üge'üj〉—10五, 11一

兀該温 ügej'ün (無每, 無) 同上。[複数形] 〈→üge'ün〉—21八; 五36四; 七42八

兀格 üge (言語, 言説, 言) ことば。—14一, 20十, 21一, 二, 三, 32六; 二23六; 三4五, 27六, 30十, 31六, 44四; 四46六, 七; 五6八, 37一, 九, 47十, 48五, 49九, 50十; 六15十, 45八, 48二; 七13七, 16四, 九; 八24十, 30五, 39八, 九, 47二; 九28八; 十29一, 44七; 七6二, 21九, 30七, 35八; 七2九, 3二, 4三, 四, 5四, 10十, 11三, 12六, 32六, 34二, 35六, 57七

-別舌児 -bêr 三32五; 八22六

-邊 -bên 七24九

-突舌児 -dür 三12七; 四49六; 五20三, 22十, 23五, 九, 24一, 30十, 39六, 44一, 四; 六3八, 4六, 5六, 14九, 17五, 48四; 七6十, 14三, 16四, 27七, 28五, 十, 42四; 八13六, 29五, 32一; 十12十, 37九; 七28七, 29七, 32一; 七5五, 11四, 12八, 18三, 31六, 56五

- 都舌里顏 -dür-iyān[→iyēn] 三2四; 四20六; 五9九; 五3八  
 -額(舌)兒 -'ēr 五42四  
 -額舌兒 -'ēr 八15七; 五28十, 42三; 五3九, 43九  
 -宜 -yi 二1二; 三30四; 五26二, 48二, 七; 六50八, 51十; 七18一, 24四; 五二, 34一  
 -因 -yin 三1六  
 -思 -s 六48二; 七15八  
 -思突舌兒 -s-dür 七13六  
 -思圖舌兒 -s-tür 五18五, 六  
 -思 -s 二12七; 三9九, 10一; 五42五, 六, 七, 48九, 50五, 八; 六1三, 41五, 六, 42二, 八; 七27九, 28三, 42一, 48十; 八17二, 五, 八, 20九; 九25一, 47三; 五32二, 46一, 二; 五4六  
 -思突舌兒 -s-dür 四20七; 六33六; 八21二  
 -思圖舌兒 -s-tür 四20九; 五18五; 五47七; 五31八  
 -思秃舌里顏 -s-tür-iyēn 四1九; 五30四, 七  
 -昔 -s-i 三4六, 5一; 四20九; 五15二  
 -昔顏 -s-iyān[→iyēn] 四20八; 七7七; 八15五  
 -孫 -s-ün 六42一  
 -秃 -tü 七49一  
 -圖兒 -tür 一9十, 21四; 二2七  
 -圖舌兒 -tür 七37二  
 兀格兀 üge·'ü (無, 窮) ない; 貧しい。〈→ügei'ü〉[男性單數形] 五13一; 八42三, 四; 九4四, 42五  
 兀格為 üge·'üi (無) ない。〈→ügei'üi〉[女性, 述語形] 八49二  
 兀格溫 üge·'ün (無的每, 無, 無每, 無的, 窮) ない; 貧しい。〈→ügei'ün〉[複數形] 一28一, 32一; 二8七; 三50五; 五5十; 五47六, 52七  
 鳴話列 ügüle (說) [ügüle- の命令形] 一33五; 三3十, 7七, 8二, 七; 四1三, 六21三, 34八, 35四, 38三, 39八; 七42三; 八12十, 14三, 22七; 五31三; 五32九  
 \*鳴話列- ügüle- (說) 言う, 語る, 話す。  
 -罷 -ba[→be] 一21四; 三31一; 六5五, 42九; 五29九  
 -畢 -bi 一12六  
 -畢 -d 一13四, 六; 七13七  
 -畢坤 -dkün 六45八, 46五; 八21九, 22五  
 -額畢 -'ēd 七42一  
 -額速 -'ēsü 一21二; 四46六; 八13六, 16九, 21一, 28一; 五32九  
 -克薛畢 -gsed 八15五  
 -克薛泥 -gsen-i 五50六; 十44四, 五

- 克先 -gsen 三4六; 四1九, 20六; 五23九, 48八, 50五; 八20九; 九25一  
 -古 -gü[→kü] 五31三, 四<sup>2</sup>, 32二  
 -周 -jü 一33三, 十; 三3十, 4五, 六, 9四, 十, 16二; 四1四; 五39五, 42十, 43三, 四, 50八; 六5三, 45七, 48二; 七7七, 13十, 14六, 28三, 五, 42四; 八37十; 十12十; 五9九, 35八, 50七; 五12八, 17六, 32九, 50三, 六  
 -主兀 -jü'ü 五48九; 七9九; 八12五  
 -主為 -jü'üi 六16三, 48二; 七27九  
 -恢突舌兒 -küj-dür 五48四  
 -坤 -kün 九25二  
 -列額 -le'e 三1八; 七10二, 47三; 五24九  
 -魯額 -lü'e 五4五, 六  
 -木 -mü 一21四; 三30七, 十; 十28一  
 -梅 -müj 六6二; 五22六, 24九  
 -(舌)論 -rün 一37十; 二25五, 29二, 30五, 32三, 四, 35四; 四9六, 20四; 六14六; 七10十; 十25十; 五29七  
 -舌論 -rün 一4三, 8七, 9五, 14一, 19三, 20四, 21九, 七, 22一, 九, 33四, 35五, 37三, 42八, 九, 43一, 七, 46六, 47一, 48八, 十; 二1三, 五, 十, 2七, 3七, 4六, 8一, 三, 9二, 九, 11三, 14一, 18九, 19三, 六, 20三, 七, 32三, 28五, 六, 七, 30七, 33五, 七, 34十, 39七, 40一, 41六, 42七, 43二, 45一, 三, 四, 46九, 十, 50三; 三1四, 七, 十, 5二, 7六, 七, 12三, 八, 18二, 20九, 22六, 29十, 31三, 37七, 39五, 43一, 45三, 五, 46一, 47五, 48七, 49四; 四1二, 4八, 7五, 9四, 11十, 12八, 15七, 17六, 18八, 20六, 22一, 七, 28一, 39五, 40七, 41二, 四, 八, 42一, 43一, 46一, 47五, 八, 49二, 五, 50二; 五2八, 5六, 7二, 五, 15三, 九, 20一, 22六, 23一, 三, 25二, 八, 30六, 31一, 34六, 35七, 39一, 40五, 十, 41二, 四, 六, 42四, 43五, 44一, 六, 45七, 46三, 48一, 四, 九, 49一, 十, 六, 50四, 九; 六3三, 八, 4五, 七, 5五, 6一, 7六, 九, 8一, 11三, 七, 12一, 三, 16一, 六, 17五, 21三, 24八, 25七, 31三, 33七, 四, 34八, 35四, 38三, 39八, 41七, 45九, 46五, 48四, 50五, 51五; 七6五, 九, 十, 9一, 11八, 12三, 13六, 14三, 15四, 六, 九, 28六, 29一, 31二, 33五, 34七, 35四, 九, 36四, 37二, 六, 39一, 五, 九, 44三, 46一, 三, 47三; 八10一, 14三, 16九, 21二, 28二, 29六, 31七, 33四, 34十, 35三, 39五, 40八, 41一, 43一, 46一, 47四, 十; 九1二, 3七, 5六, 7一, 8一, 八, 11一, 14十, 15四, 19四, 20八, 21六, 22一, 23一, 24二, 五, 27一, 七, 28一; 十1二, 4五, 6八, 16五, 24一, 27六, 十, 29七, 31一, 33七, 34二, 七, 九, 35四, 36四, 39四, 九, 40二, 43四; 五1七, 15七, 16五, 六,



20三, 22五, 九, 23九, 28五, 八, 29九, 31二, 32四, 35六, 九; ㄱ 2一, 四, 十, 3四, 4四, 五, 5三, 17四, 18三, 22九, 24六, 29八, 30二, 四, 31七, 46十, 51十, 54十

-速 -sü 八24十

-由 -yü 五31二; ㄱ 31九

\*鳴詰《舌》列- ügüre-[→ügüle-] (説) 同上。

-(舌)論 -rün 十37十; ㄱ 8五

鳴詰連 ügüle・n (説) [ügüle- の同時接合副動詞形] 五43二, 三; 七16四; 九15十; ㄱ 28九; ㄱ 32六

\*鳴詰列(克)迭- ügüle・gde- (被説) [ügüle- の受動形]

-周 -jü 七28六

\*鳴詰列(克)迭- ügüle・gde- (被説) [同上]

-古田 -gü・ten[-küj-ü] [田→由] ㄱ 19七

-周 -jü 五42五, 七; 六1二, 41七

-坤 -kün ㄱ 49八

鳴詰列(克)顯 ügüle・gde・n (被説) [ügülegde- の同時接合副動詞形] ㄱ 35九

\*鳴詰列(勸)都- ügüle・ldü- (共説) [ügüle- の対動形]

-(舌)論 -rün 二48十

\*鳴詰列(勸)都- ügüle・ldü- (共説) [同上]

-克薛楊 -gsed 五15六

-克先 -gsen 五15二, 18四; 七7七

-周 -jü 三12十; 五37七; 八17二

-坤 -kün 八20十

-列額 -le'ë 八17五, 八

-魯埃 -lu'ai[→lü'ei] 六22二

-(舌)論 -rün 五4八, 12十, 17五, 20七, 37五; 七23二

-(舌)論 -rün 一10十; 五37二

\*鳴詰列(勸)兀- ügüle・'ül- (教説) [ügüle- の使役形]

-周 -jü 七16十; ㄱ 5四

兀者 üje (見) [üje- の命令形] 一43九

\*兀者- üje- (見, 看) 見る。

-罷 -ba[→be] 二21二, 30五, 37二

-別速 -bësü 一46三

-別由 -beyü[→bej-ü] 十29八

-別余兀 -beyü'ü[→bej-ü'ü] 七36九

-楊坤 -dkün 二47一; 七37一

-額楊 -'ëd 一20四; 二2二, 9八, 19四, 20六; 三11十; 五6五, 7三, 23八; 六2八, 51六

-額速 -'ësü 一34六; 二15三; 三15十, 33六; 四40十; 五23四, 31七; 六2五, 九11九, 13十, 29三; 七36十

-克薛你顏 -gsen-iyān[→iyēn] 九4九

-(克)薛你延 -gsen-iyēn 九19五

-(克)先 -gsen 二20六

-克先 -gsen 一44一; 二19四; 十12四

-古 -gü[→kü] 一38二

-古因 -gü[→kü]-yin 二50四; 四24八; 八30一; ㄱ 17三

-古魯額 -gü[→kü]-lü'ë 四27七

-周 -jü 一3十, 16四, 34七, 46四; 二1五, 14三, 18九, 22一, 二, 27十, 34九, 35八, 36七, 十; 四9四, 41二; 六2三, 14二, 33七, 48八; 七24九, 31七, 33一, 34十; 八41六; 十36四, 37七, 41一; ㄱ 31一

-恢 -küj 三21一

-(舌)列 -re 一4六; 二4五

-禿該 -tügej 一45九

-速 -sü ㄱ 27一

-帖列 -tele 二27九; 四42八

\*兀者(克)迭- üje・gde- (見, 被見, 被着) [üje- の受動形]

-罷 -ba[→be] 四40四

-別 -be 二21二

-額速 -'ësü 二21二

-古 -gü[→kü] 二17八

-由 -yü 一45七

兀者(克)顯 üje・gde・n (見) [üje・gde- の同時接合副動詞形] 一43七

\*兀者兀(勸)- üje・ül- (教見) [üje- の使役形]

-周 -jü 三39二

\*兀者兀(勸)- üje・'ül- (教見, 献与) [同上]

-罷 -ba[→be] 三38一

-速 -sü 七45七, 46二

\*兀者兀魯- üje・'ül・ü- (教見, 見教, 共献) [同上]

-列額 -le'ë 七29三

㊦ -木 -mü 一43十

-牙 -yā[→yē] 七46三

-耶 -yē 七47五

兀者思古良 üjesgü leng (看像) 外觀, 姿。八46二

兀種 üje・n (見) [üje- の同時接合副動詞形] 八17七, 十

兀騰 üje・n (見) [同上] 六34九

兀騰 üje・n (見) [同上] 十30九

㊦ \*兀穩(勳)都- üje(n)·ldü- (相願) [üje- の對動形]

-克禿揚 -gtüd 二35五

兀主兀連 üjü'üle·n (直到頭) [üjü'üle- '極限に到る' の同時接合副動詞形] 八10七

兀主兀舌列 üjü'ür·e (梢行, 梢頭, 梢頭行) [üjü'ür '先, 端' の与位格形] 五41七;

六49二; 八10六; 九13二; 十39八, 40十; 十一17十

\*兀窟- ükü- (死) 死ぬ。

-罷 -ba[→be] 四29三

-別兀 -be-'ü 二2一, 十

-額速 -'ësü 一15八; 七16一; 十17十

-克先 -gsen 五3六; 七9九

-古 -gü[→kü] 七31二

-周 -jü 四28四; 六11五; 八20四

-恢因 -küj-yin 四7六

-中灰都舌里顏 -quj-dur-iyän[→küj-dür-iyän] [中灰→恢] 五3二

-坤 -kün 十一18一

-舌命 -rün 十一13七; 十一5五

-速 -sü 五3二; 六51九; 七48六

-速該 -sügej 一15八

-耶 -yē 五20八

\*兀窟傷古- üküdgü- (昏) 意識を失う。

-周 -jü 七42四

\*兀窟克迭- ükü·gde- (死) [ükü- の受動形]

-恢 -küj 二15十

\*兀窟勳都- ükü·ldü- (共死, 共捨死, 死戰) [ükü- の對動形]

-主為 -jü'üj 七43四

-恢 -küj 八14十

-中灰 -quj[→küj] [中灰→恢] 八45九

兀窟良 üküleng (死) 死。

-額 -e 十一22二

兀窟兀勳 ükü·'ül (教死) [ükü·'ül- の命令形] 八30八

\*兀窟兀勳- ükü·'ül- (教死) [ükü- の使役形]

-罷 -ba[→be] 七11三

-古 -gü[→kü] 五4六

-周 -jü 八15七

-主為 -jü'üj 八3五

-恢 -küj 五7三

-坤 -kün 五6五

-速 -sü 五4三

\*兀窟兀魯- ükü·'ül·ü- (死, 教死) [同上]

-克先 -gsen 十一28十

-牙 -yā[→yē] 八21六

\*兀窟兀命- ükü·'ül·ü·n (教死) [ükü·'ül- の同時接合副動詞形] 五4三, 十; 六52

四; 十一12七

\*兀窟兀勳迭- ükü·'ül·de- (教死, 可教死) [ükü- の使役·受身形]

-額速 -'ësü 四49七; 六51九

-古 -gü[→kü] 十一45八

-坤 -kün 八30八

兀窟兀里 ükü·'ül·i (教死) [ükü·'ül- の断定形] 十一34十

\*兀坤勳都- ükü(n)·ldü- (捨死斃殺) [ükü- の對動形] <→ükü·ldü->

-牙 -yā[-yē] 三8七

兀勳都 üldü (刀, 鐮刀) 刀。<→ü(n)ldü> 六3六; 七33十

-額舌兒 -'er 四9一

-思 -s 三46七

-禿 -tü 七35五

\*兀勳格- üolge- (直穿) 突き刺す, 貫く。

-帖列 -tele 七38三, 六 <→ülketele>

\*兀里- üli- (比) 比べる。

-罷 -ba[→be] 五26五

-周 -jü 五19七, 20二, 六, 九; 九12六

\*兀里傷- ülid- (尽絶) 終る, 尽きる。<→üliüd->

-帖列 -tele 五19七; 十一7八

\*兀里傷格- ülid·ge- (殄絶) [üliüd- の使役形] <→üliüd·ke->

-罷 -ba[→be] 三21七

\*兀里傷客- üliüd·ke- (教毀滅) [同上]

-罷 -ba[→be] 四26三

兀里傷刊 üliüd·ke·n (尽絶) [üliüd·ke- の同時接合副動詞形] 九12六

兀里格 ülige (ナン) 胸腔。八46二

兀祿 ülü (不) ~でない。[動詞の現在形及び副動詞 -n の否定に用いる] 一7八, 15

二, 21二, 38二, 三, 44七, 十; 二1二, 2一, 三, 七, 八, 5一, 9二,

12二, 16二, 19二, 22二, 23六, 25九<sup>2</sup>, 28六, 七, 29六, 34一, 二, 38

四, 48四; 三27六, 32五, 37十; 四1六, 7三, 9二<sup>2</sup>, 七, 10四, 11一,

27二, 五, 28二, 34三, 38九, 39二, 40一, 45三, 48二, 50五; 五1十,

3八, 4六, 14五, 18六, 39五, 42十, 43四, 六, 44三, 46四, 十; 六17

六, 19一, 21六, 22十, 23一, 26四, 30六, 38十, 40三, 五, 43十, 49六,

八, 52四; 七4四, 5八, 九, 14四, 26九, 36十, 38一<sup>2</sup>, 39八<sup>2</sup>, 46六; 八

8一<sup>2</sup>, 八, 9四, 17一, 二, 八, 20三, 九, 21五, 六, 七, 22四, 六,

七, 37六, 47二; 九4九, 十, 9七, 八, 九, 19六, 34六; 十1八, 2一, 3九, 7三, 16七<sup>2</sup>, 27七, 30二, 31三, 39十, 43九; 土5二, 三, 15十, 22一, 二, 24二, 四, 25三, 五, 八<sup>2</sup>, 28<sup>2</sup>九, 六, 30八, 31四, 七, 八, 32七<sup>2</sup>, 33四<sup>2</sup>, 五, 六, 七, 八, 35七, 37七, 九, 39一, 40五; 土2五, 六, 3八, 九, 12八, 16十, 21八, 29七, 31八, 38九, 44八, 46一, 47三, 48八, 49五, 57三

-兀 -'ü [否定・疑問形] 三49三, 七; 四41十, 42八; 六52三; 七16二, 六, 七, 九, 29六; 八7一, 三, 六, 48二; 九2五, 7七, 15十, 22六; 土17五

兀魯 ülü (不) 同上。

-兀 -'ü 六27六; 十4一; 土28六

-兀宜 -'ü-yi [否定・疑問形に對格尾か附された形] 土6一

\*兀魯格- ülüd- (尽絶) 終る, 尽きる。〈→ülid〉

-帖列 -tele 土27八

\*兀魯格- ülüd·ge- (数廢) [ülüd- の使役形] 〈→ülüd·ke-〉

-罷 -ba[→be] 三23二

\*兀魯格客- ülüd·ke- (残滅) [同上] 〈→ülüd·ge-〉

-周 -jü 三5五

兀魯格刊 ülüd·ke·n (尽絶, 残滅) [ülüd·ke- の同時接合副動詞形] 五20六; 八45七

兀篋克石 üme·gši (迤北) 北方へ。土49五

兀篋舌列 üme·re (北行, 後) 北に, 後ろに。九14三

-額扯 -'eče 一19五

-延 -yēn 六52九

兀篋舌列扯 üme·re·če (自後) 後ろから。[ümere の奪格形] 二9七, 10五

兀篋舌列徹 üme·re·če (北処, 北行辺行) 北から。[ümere の奪格形] 五50四; 九48一; 土38四

兀你額格 ün'ed (乳牛每) [ün'ēn の複数形] 七12二

兀你延 üniyē·n (乳牛) 乳牛。三38一

兀年<sup>1</sup> ünen (銀鼠) 白貂。二50四

兀年<sup>2</sup> ünen (実, 真誠, 真実) 真実 (の)。三39六; 四42七; 五43七; 七49一; 八14十, 17十; 十36九; 土23八

-古 -gü[→kü] 一4九

\*兀年米[石] 格- ünenmišige- (做真誠) 真実と思う。

-兀澤 -'üjai[→'üjei] 五48五

兀訥昆 ünügün (粘灘羔兒) 子山羊。三28五

\*兀兒- ür- (負) 背負う。〈→ü'ür-〉

-抽 -ču 二41四

\*兀舌兒- ür- (背) 同上。

-抽 -ču 九5七

\*兀舌兒格- ür·ge- (教背) [ür- の使役形]

-周 -jü 十33九, 35六

\*兀舌兒格兀勒- ür·ge·'ül- (背) [ür·ge- の使役形]

-周 -jü 十19六

\*兀舌兒古- ürgü- (驚) 驚く。

-周 -jü 七42五; 土1八

兀舌兒古勒只 ürgülü (如常) 絶えず, 常と。八37四

兀舌里額 üri'e (三歳) (馬について) 三歳から五歳までの牡の馬。五4二

兀圖 ütü (只那) 一般の, 普通の(?)。七19二

\*兀兀舌兒- ü'ür- (擡) 背負う。〈→ür-〉

-抽 -ču 土2五

兀耶訥 üye·n·ü (旧的) 以前からの。六40四

\*兀耶·列- üyele- (筋節) 節にわける。

-罷 -ba[→be] 六21三

兀也 [中合牙] üye[qaya] (房親) 従兄弟。〈→qaya〉 一11一

兀亦勒孫 üyil·sün (樺皮) 白樺の樹皮。十2二

委亦列 üiyile (勾当, 事) 事, 仕事; 行い。七49二; 八43四; 九2五; 土33七, 八, 十, 35十, 50七, 55三, 五

-迭徹 -deče 六33九

-突(舌)兒 -dür 九28九

-突舌兒 -dür 土56七

-思 -s 土49八, 55十, 57九<sup>2</sup>

-昔 -s-i 土49六, 50一

-帖泥 -ten-i 五21四

\*委亦列格- üiyile·d- (做) する, なす, 行う。〈→üiyiled·ü-〉

-罷 -ba[→be] 土13九

-罷者 -ba·je[→be·je] 八43四

-坤 -kün 九4四, 五

\*委亦列都- üiyile·d·ü- (做) 同上。

-額速 -'ēsü 十38一

-曷坤 -dkün 五44八

-克先 -gsen 土55一

-舌命 -rün 八43五

温突舌兒 ündü·r (高) 高い。十1六; 土20七

温都(舌)兒 ündü·r (高) 同上。一45二

温都舌兒 ündü·r (高) 同上。七16八, 39二; 八7六, 20五, 28六, 44三; 土9四, 27二

温都舌命 ündü·r·ün (高的) [ündür の属格形] 二14三; 七3七

温都格 ündü·d (高処) [ündür の複数形]

-帖 -te 五36二

\*温只- ünji- (住, 休) とどまる, 休む; 長引く, 手間どる。

-克先 -gsen 九3十

-中灰突舌兒 -quj-dur[→küj-dür] 九4一 [中灰→恢]

温勒都 ü(n)ldü (環刀) 刀。〈→üldü〉

-別延 -beyēn 三8六

## b

巴<sup>1</sup> ba (俺) 我々は (排除的)。-44六, 十, 45一, 三, 五; 二8二; 三1六, 37八, 九, 十, 43二, 五, 六, 九; 四1四, 十, 20七, 48三; 五6四, 六, 七, 41一; 六8一, 46五; 八19二; 九28三; 十8六, 八, 9三, 四, 29一, 九, 42三, 47二, 六; 十一3五, 30五

巴<sup>2</sup> ba (也) ~も, さえ。二29六; 三22十, 23一<sup>2</sup>, 二<sup>2</sup>, 31一, 40一; 四9二, 38一; 五13三<sup>2</sup>, 48五; 八5一; 十31二<sup>2</sup>, 35一, 38一; 十一5七, 45五; 十二3九, 16十, 17四, 49一, 二, 56一

巴<sup>3</sup> ba (并) そして, また。四40四<sup>2</sup>; 九24六

把阿都舌兒 ba'ādu·r (勇士) 三47五; 四7五 〈→ba'atur〉

把阿秃<sup>鬚</sup> ba'ātu·d (勇士每) [ba'atur の複数形] 七21九; 九39六; 十2九, 9五

把阿秃的 ba'ātu·d·i (勇士每行, 勇士行) [ba'atud の対格形] 六4二; 七4五, 19四; 九39五; 十2九

把阿秃的顔 ba'ātu·d·iyān (勇士自的) [ba'atud の再帰格形] 六3九, 十

把阿秃舌兒 ba'ātu·r (勇士) 勇士, 英雄。三34八; 四37六; 六30七, 51五; 十一5; 十二16三

把阿秃舌里 ba'ātu·r·i (勇士行) [ba'atur の対格形] 二1十; 十一49五, 十

把阿秃<sup>舌</sup>里 ba'ātu·r·i (同上) [同上] 十一15七

把阿秃舌命 ba'ātu·r·un (勇士的) [ba'atur の属格形] 二1二; 十一27四

把備 babuj (ナシ) [祈りのことば? 意味不詳。] 六16八

\*巴荅舌兒乞- badarki- (説) 大きな声で話し聞かせる。

-周 -ju 十一46四

巴黑塔 阿勒荅- bacta alda- (入險直到) 深く入り込みそうになる(?)。

-塔刺 -tala 十一46三

巴刺中合臣 balaca·či·n (管城的) 城内の倉庫管理者 (穀倉以外の) 十一48四, 53六

巴刺中合<sup>鬚</sup> balaca·d (城, 城每, 城子, 城子每, 庫每) [balaca·su(n) の複数形] 五11四; 十一5一, 18九, 37七, 十, 40三, 41九, 43六, 44四, 十, 50三; 十二1一, 六, 48三

-都舌里顔 -dur·iyān 十一5一

-途舌兒 -tur 十一2八; 十二16二, 32二, 三

-圖舌兒 -tur 十二50三

巴刺中合的 balaca·d·i (城行) [balaca·d の対格形] 十一50十

巴刺中合的顔 balaca·d·iyān (城子自的) [balaca·d の再帰格形] 十一38一

巴刺中合教 balaca·d·un (形的, 城每的) [balaca·d の属格形] 十一27九, 55七

巴刺中合速 balaca·su (城, 城子, 城子行) 町, 市。〈→balagasu(n)〉 十一3三, 13六, 18六, 41七, 十, 42二, 九, 十, 43一, 六, 七, 八, 51二; 十二9五, 六,

27七

-班 -bān ㄅㄢ 五

-壇 -tan ㄊㄢ 十; ㄅㄢ 二四

巴刺中合速納察 balaga·sun·ača (城子每処, 城名行, 城処) [balaga·sun の奪格形]  
八31九; ㄅㄢ 43一, 50四; ㄅㄢ 9六

巴刺(中)合速納察 balaga·sun·ača (城子行) [同上] ㄅㄢ 42十

巴刺中合速泥 balaga·sun·i (城行, 城子行) [balaga·sun の対格形] ㄅㄢ 4一, 18六,  
19四

巴刺中合速訥 balaga·sun·u (城的, 城子的) [balaga·sun の属格形] ㄅㄢ 50六, 51三

巴刺中合孫 balaga·sun (城, 城子) 町, 市。⟨→balaga·su⟩ ㄅㄢ 2九, 19三, 45二; ㄅㄢ  
29一

-途舌兒 -tūr ㄊㄨㄥ 十, 39一, 49二, 九; ㄅㄢ 26三

巴刺木魯 balamud (妄) みだりに; 凶暴に。二12二

巴兒思 bars (虎) 虎。二12二

巴舌兒思 bars (虎子) 同上。八24三

\*巴舌刺- bara- (了) 終える, 終わる; 殺す, 亡ぼす。

-阿速 -'āsu 四45一, 48三; 五3六, 4十, 17六, 21五; 六13七; 七26七, 八,  
28九; 八7十, 8一, 12一; 九15十, 46七; 十21九

-埃 -'āi 八7九

-罷 -ba 四39五; 五13二

-荅刺 -dala 五21三

-魯中渾 -dqun 六35二

-黑撒魯 -gsad 四12一, 五, 13四, 19四; 九12四

-黑撒泥 -gsan-i 八45五

-黑三 -gsan 五34七, 八, 35七, 十; 六16九, 31四; ㄅㄢ 8七

-周 -ju 二6八, 21一, 八; 五19三, 24三; 六23八; 七18九, 21八; 八3六,  
17五, 24八, 32三; 十30十, 44四; ㄅㄢ 11十, 40五, 50二; ㄅㄢ 15四

-魯阿 -lu'ā 八39九

\*巴(舌)刺- bara- (同上) 同上。

-罷 -ba 九13八

\*把舌刺- bara- (斃尽, 殺了) 同上。

-罷 -ba 二12三

-黑三 -gsan 五19六

-周 -ju 三5二; 五20十; 十30三

-中忽 -qu 十29十, 30二

\*八舌刺- bara- (斃尽) 同上。

-黑撒魯 -gsad 二11三

\*巴舌刺黑荅- bara·gda- (被了, 定了) [bara- の受動形]

-罷 -ba ㄅㄢ 13五

-魯阿者 -lu'ā-je 十44七

\*巴舌刺魯都- bara·ldu- (定了, 議定了, 了) 共に終える (終わる), 定める。[bara- の  
対動形]

-黑撒泥 -gsan-i 五21一

-周 -ju 五19九; ㄅㄢ 30七

\*巴(舌)刺(動)都- bara·ldu- (議定) 同上。[同上]

-周 -ju 三44四

\*把舌刺魯都- bara·ldu- (共議定, 議定, 官商議定) 同上。[同上]

-罷 -ba 五50十

-黑撒泥 -gsan-i 五47十

-周 -ju 五37九, 45十, 49九

巴舌刺阿 bara'ā (形影) 形。ㄅㄢ 29六

巴舌刺秃 baratu (暗) 汚ない。

-壇 -tan 七11十

巴舌刺溫 bara'ūn (右) 右の。一40八; 四8九; 七14一, 四, 七; 八38四; 九9四,  
六, 10三, 28十; 十9二, 14二, 38六; ㄅㄢ 8二, 八, 35二, 四, 41六, ㄅ  
3五, 13七, 40十, 41二, 四, 42二, 52一

把舌刺溫 bara'ūn (同上) 同上。三2九, 4九, 20七

巴舌蘭 bara·n (了) [bara- の同時接合副動詞形] 八8一

\*把舌里- bari- (拿, 把) つかむ, 捕える, 取る。

-阿魯 -'ād 十39七; ㄅㄢ 15五

-阿速 -'āsu 九23三

-罷 -ba 三8一, 六; 四20三

-魯中渾 -dqun 八22九

-黑撒阿舌兒 -gsa'ār ㄅㄢ 6二

-黑撒魯 -gsad ㄅㄢ 14三; ㄅㄢ 38二

-周 -ju 一12二, 16三, 22八, 24五; 二6一, 13八, 16四, 32二, 43四; 三37  
七; 四8五, 14三, 20三, 27二, 42三, 46三; 五2一, 三, 5六, 6四,  
7二, 49五, 十, 50七; 六11六, 49五, 51六; 七9七; 八9一, 12八, 九,  
45六; 九14一, 二, 六, 15七, 27六, 八, 47二, 三; 十18五, 38七, 八,  
十; ㄅㄢ 34八, 37十

-主兀 -ju'ū 七5七

-主為 -ju'ūi 三15九; 四8七, 14一; 十21五

-中忽 -qu 六48十; 八13一, 三, 四

-中忽阿徹[→察] -qu-ača 十34六

-舌刺 -ra 十28五, 六

-秃中孩 -tugaï 三46十; 九48七, 八; ㄅㄢ 39四, 42七

-兀只宜 -'ūjīyī 八7一

-牙 -yā 五45九, 47三, 十, 48二, 50十

\*巴舌里- bari- (拿) 同上。

-周 -ju 一16五, 33二

-牙 -yā 二18五

\*把舌里黑蒼- bari·cda- (被拿) [bari- の受動形]

-阿 -'ā 一33七

-阿速 -'āsu 四41十, 42二

-周 -ju 十20四

-主兀 -ju'ū 十21八

-刺阿 -la'ā 九49三; 三38九

-魯阿 -lu'ā 五28八

-中忽 -qu 十21一

\*把(舌)里黑蒼- bari·cda- (同上) [同上]

-主兀 -ju'ū 十21五

把舌鄰 bari·n (把, 拿) [bari- の同時接合副動詞形] 七10六; 八2十; 十5九

\*把舌里勅都- bari·ldu- (相挨) [bari- の對動形]

-阿 -'ā 四28十

\*把舌鄰勅都- bari(n)·ldu- (相拿) [同上]

-周 -ju 二23五

\*把舌鄰勅都- bari(n)·ldu- (相拿) [同上]

-周 -ba 十38十

-中灰突舌兒 -quj-dur 十39一

\*把舌鄰勅都兀勅- bari(n)·ldu·'ül- (相接, 教授) [bari- の對動・使役形]

-速中孩 -sugaj 三50四

-秃中孩 -tugaj 三50五

\*把舌里兀勅- bari·'ül- (教拿, 教把, 把話) [bari- の使役形]

-罷 -ba 八22十

-周 -ju 六41六; 三3四, 8四

-主為 -ju'ūj 五15七; 七6三

\*把舌里兀魯- bari·ül·u- (教拿, 拿, 話) [同上]

-阿魯 -'ād 六2八

㊦ -黑三 -gsan 一19六

-舌翁 -run 六21一; 八6六

把舌里阿思 bari'ās (刑禁) 捕繩。五15九, 16二

巴舌魯 baru (尚昏) 薄暗がり。

-蒼 -da 二44八

巴舌魯阿 baru'ā (形影) 姿; 氣配; 形勢。六48七

巴舌魯阿納察 baru'an·ača (多尪) [baru'an<sup>㊦</sup> '多い; 衆多' の奪格形] 七39七

巴舌魯安 baru'an<sup>㊦</sup> (黑了) 暗い。二32八

巴舌魯黑 baruḡ (猛的) 貪慾な, すさまじい。一27八

巴舌魯(黑) baruḡ (同上) 同上。一27七

巴撒 basa (再, 又) また。一12一, 14一, 21二, 三, 24五; 二9四, 15五, 六<sup>2</sup>, 九<sup>2</sup>, 19三, 六, 20三<sup>2</sup>, 五, 九, 22二, 24六; 三4五, 7六, 27八, 33九, 34一, 36二, 40一, 41二, 三, 六, 八, 九, 十, 49三; 四7一, 19六, 22六, 33四, 41八, 43四, 六, 49一; 五5十, 13九, 十, 14二, 20八, 34八, 35七, 九, 37四, 43二, 48九, 49三, 50八; 六4五, 6一, 9二, 四, 13五, 26四, 27一, 28五, 34八, 35三, 38三, 39八, 46五; 七1五, 2六, 3四, 15九, 20五, 34十, 35十, 37四<sup>2</sup>, 39三; 八4七, 7六, 10一, 五, 15六, 27五, 29八, 30六, 十, 34十, 35十, 37二, 39五, 41七, 43一, 47四, 十; 九1二, 2六, 十, 3二, 5七, 7六, 8一, 9三, 11一, 12三, 16三, 17七, 19一, 四, 20三, 八, 21五, 23一, 24四, 九, 25七<sup>2</sup>, 27四, 29六, 九, 30二, 32一, 40九, 42二, 三, 五, 44十, 45九; 十4五, 6八, 8五, 17八, 21八, 25九, 36六; 十一4九, 十, 5六, 8四, 11六, 九, 32三, 49一, 五, 50二; 十二七, 7十, 15八, 17四, 19五, 36九, 40七, 41八, 42四, 八, 43二, 八, 十, 44三, 四, 八, 十, 45五, 46三, 七, 47六, 48一, 四, 七, 十, 50二, 四, 六, 55四, 五, 七, 56一, 八, 57四

\*巴撒阿刺- basa'āla- (種料, 管撰) 管理する, 監督する。

-周 -ju 九10四; 十4五

-速中孩 -sugaj 三46五

巴秃蒼 batu·da (堅固行) きつく。三36三

\*巴兀- ba'ū- (下, 落下) <→baū'ū->

-罷 -ba 六1九

-塔刺 -tala 九47九

\*巴牙思- baya·s- (喜歡, 喜懼) 喜ぶ。

-罷 -ba 二35九; 十12六

-抽 -ču 二36五, 40一; 四6六, 15四, 16二; 六45五; 七34四, 35七; 十13四; 十一45五

\*巴亦- bayi- (直到, 堆穀, 積穀) <→baiyi->

-塔刺 -tala 七43四; 十一2五, 13四

\*巴因勅都- bayi(n)·ldu- (對陣) <→bayildu->

-周 -ju 四49二 <把因勅都->

\*擺- bai- (立) <→baiyi->

-主為 -ju'ūj 四37八

-牙 -yā 七37三

擺因 baiyi·n (的) [baiyi- の同時接合副動詞形] 七43八; 十一23五

擺蒼勒 bai·dal (立処) (<→baiyidal)

-都舌里顔 -dur-iyān 六29二

擺蒼刺察 bai·dal·ača (立処) [bajdal の奪格形] 七39八

擺宜 baiyi (立, 住) [baiyi- の命令形] 二30五; 四9九

\*擺亦- baiyi- (立, 纒立, 直立, 止住, 堆般, 教立) 立つ。(<→bai->)

-阿速 -'āsu 五25六

-罷 -ba 二32六; 三12八; 五25七; 六8三, 9九, 11八; 七34九, 36一, 39三;  
十38三, 40九

-巴速 -bāsu 六51一

-楊中渾 -dqun 五25四

-黑撒阿舌兒 -gsa'ār 三49二

-黑撒楊 -gsad 九47八; 十2一, 五

-黑三 -gsan 九9六; 十19八; 十46二

-因 -yin 六12六

-周 -ju 二27九, 30四, 32九; 三30五; 五39二; 六11二; 七6八, 19五, 43一;  
八37七; 九39六, 48二; 十1八, 40六; 十23八; 十38五, 42五

-主兀 -ju'ū 七37四

-主為 -ju'ūj 三12一; 五18六; 七32七

-恢[→中灰] -kūj[→qui] 六12五

-木 -mu 三38六

-中忽 -qu 二30八

-中忽宜 -qu-yi 四45八

-中灰魯阿 -quj-lu'a 六8四

-中忽泥 -qun-i 七6一; 八36二

-中忽你顯 -qun-iyān 七20十

-中渾 -qun 四39八

-速 -su 六5十

-塔刺 -tala 八38二; 十18八; 十20十

-禿孩 -tugaj 十5八; 十37八, 40六

-牙 -yā 五17六; 七34八, 35十

擺亦蒼勒 baiyi·dal (立処) 陣所, 陣營。(<→bai·dal)

-突舌兒 -dur 五31七

-都舌里顔 -dur-iyān 五29十; 六29四

-壇 -tan 十2三

擺亦(勒)都 baiyi·ldu·l (陣) 陣。七32三

\*擺亦勒都- baiyi·ldu- (對陣, 對戰, 立) [baiyi- の對動形]

-阿速 -'āsu 八2八

-周 -ju 四4六, 35五; 五17四; 七32三, 45三; 十12十, 38六

-中忽 -qu 五34三; 六30十

-中灰突舌兒 -quj-dur 六28十

擺亦勒教 baiyi·ldu·n (對陣) [baiyi·ldu- の同時接合副動詞形] 五28三; 八3三, 44十

\*擺亦兀魯- baiyi·'ūl·u- (立, 教立) [baiyi- の使役形]

-阿楊 -'ād 八24四

-阿速 -'āsu 九2三

-黑三 -gsan 十47一

-舌倫 -run 十25六

-禿中孩 -tugaj 七20十

\*擺亦兀魯勒察- baiyi·'ūl·u·lča- (共立) [baiyi·'ūl- の相動形]

-黑撒楊 -gsad 九30八

擺亦兀魯勒潺 baiyi·'ūl·u·lča·n (同上) [baiyi·'ūl·u·lča- の同時接合副動詞形] 八24九

\*伯亦温(勒)- baiyi·'ū(n)l- (教停住) [baiyi- '立っている, とどまる' の使役形]

-中渾 -qun 一11十

伯牙訥 baiya·n·u (富的) [baiyan '富んだ' の屬格形] 四21九

\*邦列你- bangleni- [->bengle·ni-] (ナツ) 苦心する。

-周 -ju 八35三

保里牙 baqliya (教訓, 調習) 鷹狩りの鷹を調教する際に用として用いる道具。十29六

-突舌兒 -dur 十46七

\*保兀- baq'ū- (下, 囲, 下營) おりる, 駐營する。(<→ba'u->)

-阿楊 -'ād 三15七; 七18二; 十29三; 十14六

-阿速 -'āsu 八39七

-罷 -ba 一43九; 三10十, 42二, 四; 四16五; 五32一; 六21一, 43八; 八4三;  
十2七, 11三, 14七, 41十, 43一, 二, 52八; 十1十, 21二, 26四

-罷者 -ba-je 六29七

-楊者 -d-je 十43四

-楊中渾 -dqun 十18六, 41七, 九

-黑撒楊 -gsad 十6九

-黑三 -gsan 八46四

-勒(→黑)三 -gsan 四16十

-周 -ju 二25一, 39一, 42四, 47一<sup>2</sup>, 49二, 50二; 三10六, 九, 16五, 25五, 41  
六, 42二; 四38六, 46八, 十; 六20十; 七6一, 18三, 23七, 24七; 九5  
八; 十19六, 39八, 43九, 44六; 十9六, 58七

-魯阿 -lu'a 七25三

-中灰突舌兒 -quj-dur 六43九

-牙 -yā 三16三, 30一, 二, 七, 八, 31七; 四33十

保温 baq'ū·n (下) [baq'ū- の同時接合副動詞形] 三32五; 四34三

\*保兀勒- baq'ūl- (下駕, 削, 落下, 教下) 下ろす。

-罷 -ba 一47十; 一40六

-主兀 -ju'ü 六八

-禿中孩 -tugaj 十5十; 一40五

\*保兀魯- baq'ülu- (教下營) (<→baq'ül->)

-營中渾 -dqun 六37五

\*保溫勒- baq'ü(n)l- (下駕, 下, 教下) [同上]

-罷 -ba 一45九, 十

-周 -ju 二39九, 47三

\*保兀勒都- baq'ü·ldu- (共下) [baq'ü- の對動形]

-周 九16六

保兀舌兒赤 baq'ürči (厨子) 料理人。四7四, 五 (保兀(舌)兒赤), 18十; 七20六; 八47六<sup>2</sup>, 一15二, 16一

-荅 -da 九8一

-顏 -yān 八47九

保兀舌兒臣 baq'ürči·n (厨子, 厨子毎) [baq'ürči の複數形] 三45五; 七21二; 九46四, 五, 八

保兀(舌)兒臣 baq'ürči·n (厨子毎) [同上] 九9五

別 be (也) も, また。一46九<sup>2</sup>

\*別迭舌列 bedere- (排尋) 探す。

-罷 -ba[→be] 二18七

-額 額 -'ēd 二20六

-周 -jü 二19六

-耶 -yē 二19三, 五, 20三

\*別迭(舌)列- bedere- (同上) 同上。

-額 額 -'ēd 二20九

\*別乞列克迭- beki·le·gde- (被守禦) 堅固にされる。[beki·le- の受動形]

-周 -jü 一1六

別額 be'e (身子) (<→beye)

-禿 -tü 一27七

別勒 bel (且, 況) その上, さらに。五43六; 十36八

別勒必孫 belbisü·n (寡婦, 寡) 寡婦。一49四; 一24七

別勒[→勒]必孫 belbisü·n (寡婦) 同上。

-泥 -ni 二5五

別勒赤舌里耶兒 belči·r·iyēr (谷口, 川依着) [belčir '川などの合流(分岐)点' の造格形] 五31六; 六29六

別勒格 belge (定札, 記号, 効驗, 符驗) しるし。一47三; 二22九, 十; 八37九; 九47五

別勒只額勒 belji'el (喫草) 牧草地。

-突舌兒 -dür 七28二

\*別列傷- beled- (準備) 準備する。

-抽 -čü 十38三

\*別列都- beled·ü- (同上) 同上。

-克先 -gsen 十39六

別連 belen (見, 見成) 準備のできた。五50二; 八18六

-突舌兒 -dür 一19六, 47三

別兒 ber (也) ~で, ~によって [造格語尾], ~は [主題提示], ~も。一5三, 12九, 14四, 五, 19三<sup>2</sup>, 20十, 21二, 32六, 45五; 二3三, 4九, 十, 7二

別舌兒 ber (同上) 同上。三12一, 三, 四, 32七; 五9四, 15四, 27七, 43六, 七, 十; 六11五<sup>2</sup>, 20四, 21二, 22九, 十, 29五, 37四, 38十, 51三; 七1十, 4一, 7一, 二, 24一, 29五, 39八<sup>2</sup>, 46六; 八10九<sup>2</sup>, 十, 14八, 15一, 21三, 30五, 33六, 35五; 九48三, 五; 十4十, 13一, 36九; 一4八, 21五, 八, 十, 22一; 一4六, 17一, 18四, 22四, 23八, 24九, 35六, 39七, 50五, 52九

別(舌)兒 ber (同上) 同上。四47四; 五36二; 九48四

別兒格泥顏 bergen·iyēn (嫂嫂行) [bergen '兄嫁' の再帰格形] 一49四

別兒客 berke (艱難, 難) 困難な, つらい。二4七, 48三, 五

別舌兒客 berke (難, 深) 同上。七26六, 28九; 十18三

-都兀 -d·ü'ü [複數疑問形] 七16五

-禿 -tü 一36一

\*別舌兒客勒都克迭- berke·ldü·gde- (難攻) 強く抵抗される。

-周 -jü 一16四

別舌兒客失顏 berke·šiye·n (作難) [berke·šiye- の同時接合副動詞形] 九42七; 一44六

\*別舌兒客失耶- berke·šiye- (同上) 難決する。

-額速 -'ēsü 九34七

\*別舌兒帖- berte- (傷) 傷つく。

-帖列 -tele 七28四

別舌里堅 berigen (嫂) 兄嫁。(<→bergen) 一29六

別舌里額 beri'e (条子) 杖。(<→beriyē) 九43十

-因 -yin 九43十

別舌里額思 beri'e·s (条子, 杖毎) [beri'e の複數形] 九42二, 三, 六; 一44二, 七

別(舌)里額思 beri'e·s (杖毎) [同上] 一44三

\*別舌里額迭- beri'e·de- (条子打) 杖で打つ。

-速 -sü 九43十

別舌里耶 beriyē (杖子) 杖。(<→別舌里額) 一46二<sup>2</sup>

別舌里 beri (媳婦兒) 嫁。



-顔 -yēn ㄓ24七

別舌里捏 **beri.ned** (媳婦兒) [beri の複数形] 七12一

別舌里捏的顔 **beri.ned.iyēn** (媳婦自的, 媳婦自的行) [berined の再帰格形] 六21五; 七9五

\*別舌里列兀勒- **beri.le.'ül-** (教媳婦的礼行) 嫁としての礼をなさせる。

-周 -jū 七9六

別帖舌兒 **beter** (ナッ) 怒りやすい(?)。ㄓ32四 [kenter か?]

別耶 **beye** (身, 身子, 身材) 体, 身体。-20九; 二4九; 五3六, 5一; 七19三, 31三, 36五; 九33五, 42四; 十3六, 6八, 7六, 36十, 37一, 43二, 七; ㄓ8七, 21一, 二; ㄓ11二, 14六, 40一, 42五

-邊 -bēn 八32一

-突舌兒 -dür ㄓ23三

-宜 -yi 八2十

-秃 -tū 七37八

-延 -yēn 二50五; 三50四

別耶思 **beye.s** (罄身) [beye の複数形] 六45一; 八2一

別耶昔顔 **beye.s.iyēn** (身子自的行, 罄身自的行) [beye.s の再帰格形] 三14六; 五6三; 七5四, 45九

別耶昔耶舌兒 **beye.s.iyēr** (親身教) [beye.s の造格耶] 九25四

別延格敦 **beyen gedün** (親身) 自ら, 自分で。

別[耶]昔顔 **beye.s.iyēn** (罄自身的行) (<→beye.s.iyēn) 四20一

必 **bi** (我) 私。-9五, 六, 22十, 33七, 43五<sup>2</sup>, 49一, 三; 二19二, 23二, 28五, 六, 七, 29四, 九, 十<sup>2</sup>, 30六, 七, 32三, 五, 33五, 七, 九<sup>2</sup>, 十, 34一, 35一, 41七, 八, 45一, 六, 50七, 十, 51一; 三1七, 十, 2三, 六, 九, 4二, 三, 八, 7七, 八, 九, 十<sup>2</sup>, 8一<sup>2</sup>, 三, 四, 五<sup>2</sup>, 六, 七, 9二, 16三, 18四, 八, 19一, 三, 六, 20十, 21一, 30十, 31一, 二, 45九, 十; 四9七, 15九, 22九, 23一, 28二, 四, 39六, 42二, 六, 八, 九, 43一, 46二, 五, 47八, 九, 49六; 五3一, 4四, 15四, 16一, 25九, 30八, 33八, 九, 36二, 三, 40六, 48九; 六4九, 5四, 五, 6三, 7九, 12九, 22九, 23一, 三, 五, 27一, 28三, 五, 29五, 30五, 七, 33九, 36一, 三, 七, 八, 十, 37一, 39九, 46二, 四, 51八; 七5七, 7一, 六, 10三, 14一, 四, 八<sup>2</sup>, 42八, 46二, 47四, 48六; 八10二, 四, 17八, 18一, 三, 六, 八<sup>2</sup>, 十<sup>2</sup>, 19一, 七, 20七<sup>2</sup>, 九, 28四, 五, 八, 29一, 36七, 39八, 44四, 46三; 九2四, 七, 12十, 23八, 十; 十25六, 31二, 34三, 35八, 40四; ㄓ15十, 16六, 十, 22一, 31二, 四, 32四; 35四; ㄓ4五, 六, 八, 19七, 十, 20二, 23七, 十, 24一<sup>2</sup>, 二<sup>2</sup>, 三, 六, 九, 29五, 50三, 55二, 九, 57四, 七, 九

必赤- **biči-** (写) 書く。

-周 -jū 八31二; ㄓ58七

必赤克 **biči.g** (文書) 文書。八31二, 四

心蒼 **bida** (咱, 咱每) 我々。-21九; 二8五, 六, 9五, 20五, 49一; 三2七, 4二, 三, 四, 6三, 12五, 16三, 23一, 二, 三, 31七; 四4九, 9五, 12二, 六, 九, 18九, 19三, 20五, 35十; 五4九, 5一, 六, 6二, 三, 13四, 15二, 十, 17六, 20十, 37五, 43一, 44三, 七, 47三, 49二, 八; 六3九, 4四, 14十, 16八, 17四, 20二, 21十, 22一, 27三, 六, 28五, 八, 39十; 七9三, 11七, 15五, 16四, 26七, 27二, 七, 46三, 47四; 八14四, 36四, 39五, 44一; 九3一, 27八, 43七; 十81三; ㄓ4九, 5六, 22七, 45一; ㄓ2七, 八, 3一, 11五, 30三, 45九, 十, 48十, 49二

-突舌兒 -dur 三31六

必蒼納 **bida.n.a** (俺行, 咱行, 咱的行, 咱每行) [bidan の与位格形] 八9二, 三, 四, 30二; ㄓ5二; ㄓ45八, 46一, 49七

必蒼納察 **bida.n.ača** (俺行, 咱行, 咱每行, 俺妺, 咱妺) [bidan の奪格形] 三31四; 四8四; 六35六; 十6九, 7九; ㄓ40一, 45七, 54二

必蒼泥 **bida.n.i** (俺行, 咱行, 咱每行) [bidan の对格形] 五5七, 八, 31八, 39五, 43六, 46四; 六29五; 七21一; 八10八; 九46六; 十5十; ㄓ37五; ㄓ2十, 40二

必蒼訥 **bida.n.u** (俺的, 俺每的, 咱的, 咱每的) [bidan の属格形] -11一; 三3一, 15二, 24一, 30一, 三, 七, 九; 四2二, 8三, 12五, 13四, 17二, 18五, 19四, 33九, 34八, 46九; 五13一, 20五, 21一, 23七, 28六, 38三, 39一, 45七, 46八; 六4六, 11七, 12八, 34十, 39十, 40三, 六; 七10一, 七, 15五, 22九, 十, 24一, 27五, 29八, 32八, 33七; 八4九, 9二, 46十; 九19十, 32五, 33七, 34三, 六, 九, 40一; 十4九, 6八; ㄓ4六, 7二, 27二, 50八; ㄓ18四, 19八, 22十, 34十, 40一, 55三

必蒼訥埃 **bida.n.u.'ai** (俺的, 咱的, 咱每的, 咱的每) [bidan の属格形十-'ai] 我々のもの。三32十; 五17七; 六9十, 10一, 11六; 七23三

必丹 **bida.n** (俺, 俺, 咱, 咱每) (<→bida)

-突舌兒 -dur 五5九, 39三; 六16十, 七27十; 八9九, 21三, 36十; 九27六, 34五, 46三; ㄓ5二, 43五; ㄓ37七, 44六

-突(舌)兒 -dur 九32二, 33二, 34十, 42六

-魯 -lu 七23五

-魯阿 -lu'a 十6一; ㄓ40四

-途兒 -tur 二23五

𠵹都兀舌兒 **bildü'ür** (告天雀兒) 雲雀。五30八 (<→bilji'ür)

必𠵹只兀兒 **bilji'ür** (ナッ) 雲雀。二9三 (<→bildü'ür)

\*必刺- **bila-** (擄) 捕える。

-周 -jū 六38五

必列兀類 bile'üde·n (磨着) [bile'üde- '磨く' の同時接合副動詞形] 二19七

必列兀舌列徹 bile'ür·eče (余胙) [bile'ür '胙' の奪格形] 二二二

\*必里- bili- (摩, 揣摩) 撫でる, さする。

-周 -jü -13二; 五23二

\*必撒舌里兀勒- bisari·'ül- (盈満) [bisari- 'はみ出る' の使役形]

-周 -ju 十29七

\*必秃- bitü- (沿) ~に沿って行く; 順々にする。

-周 -jü 五14六

必秃兀舜 bitü·'ül·ü·n (徇, 教沿) [bitü- の使役・同時接合副動詞形] 二17二; 五48

十, 49五

◎ \*必秃温(勦)- bitü·'ü(n)l- (輪, 教徇) [bitü- の使役形] 順番に~する。-12二; 二21五

必屯 bitü·n (沿) [bitü- の同時接合副動詞形] 五11四

李多<sup>1</sup> bodo (領口) 大型家畜。七37八

李多<sup>2</sup> bodo (物) 物。

-荅 -da 五22七

李都勒中罕 bodul·gan (乱離) 混乱, 戦乱。

-突舌兒 -dur 五22十

李黑荅 bogda (賢明, 賢明的) 聖なる。⟨→boçta⟩ 八13五; 五24八

李黑塔 boçta (賢明) 同上。五27二

\*李黑塔刺- boçta·la- (固姑冠帶, 梳領) 既婚婦人が冠をつける。⟨→boçtola-⟩

-周 -ju 二五八; 五26三

\*李黑脱刺- boçto·la- (梳領) 同上。

-周 -ju 五26四

\*李中忽你揚中合- boçuni·d·qa- (教低) 低くさせる。

-周 -ju 六21七

李勒 bol (做) [bol- の命令形] 六35七, 九, 36二; 七二一, 14一, 七

\*李勒- bol- (做, 背做, 中) なる, ある。

-罷 -ba -7九, 10四, 19九, 28三; 二六四, 八, 34十; 三三三, 18六, 19二, 三, 31五, 45五; 四15六, 43十, 50十; 五21六, 25五, 46八, 49七; 六17二, 18五, 24二, 52十, 53四; 七三四, 十, 14八, 19七, 21七, 47九; 八9十, 11一, 13一, 二, 三, 五, 14一, 22五, 九, 25一, 27一, 29九, 30六, 31六, 34六, 38六, 40四, 41七, 42三, 五, 47三, 48三; 九二六, 4六, 八, 6六, 7八, 9三, 10二, 16一, 三, 17六, 20四, 21二, 22七, 24九, 25六, 26一, 五, 29二, 32一, 34二, 九, 36五, 七, 37八, 39七, 九, 十, 40二, 42八, 43三, 45六, 47一, 49一; 十三一, 7二, 10三, 11三, 16九, 19一, 26二, 33三; 五12三, 17五, 21七, 28七, 43四; 五六三, 7十, 8十, 10八, 11七, 12八, 16七, 八, 28三, 30六, 37六, 39十, 40

七, 42八, 43二, 46八, 54五, 56三, 57八

-罷者 -ba·je 六35七, 九; 八44二; 九六一, 17三; 五16八, 24六, 七, 八, 40二; 五56四, 六, 八

-畢 -bi -14六; 二二二; 七10二, 八, 29八, 九; 五22一

-周 -ju -6三, 7九, 48四; 二四四, 32八, 50四<sup>2</sup>; 三二二, 4八, 9三, 38四, 47五, 六, 七, 八, 48六, 八, 十; 四三三, 4五, 40九, 41八; 五26四, 34四, 36六, 40四, 42九, 44二; 六30十, 46二; 八六五, 八, 九, 7一<sup>2</sup>, 三, 四, 五, 12三, 19七, 30二, 33三, 40十; 九三三, 7七, 8三, 31三, 40九, 45四; 十12九, 21四, 22七, 30一; 五二二, 8三, 八, 17四, 32六, 五13十, 29六, 九, 35八, 九, 38十, 40九, 41二, 六

-主兀 -ju'ü 三20九; 四35七, 41二

-主兀者 -ju'ü·je 六23八; 五17六

-主為 -ju'üi 六21二; 十33八

-主為者 -ju'üi·je 八15九; 五57十

-中忽 -qu 二16二, 34二, 48四; 五40九; 七11六; 八18六, 十; 五30六

-中忽由 -quyu[→quj-ü] 七24四, 27一; 五45九; 五21九, 22六, 34一, 48七, 49六

-中灰 -quj 九19八

-中渾 -qun -14五; 八44一; 九34六

-忽納 -qun-a 九31二

-忽訥 -qun-ü 七26八

-速 -su 六40六; 七11四; 五35二; 五三五, 23十

-塔刺 -tala 三六八; 十30三; 五35七

-荅刺 -dala 四39三

-秃中孩 -tugaj 三三一, 5一, 46十, 47四; 四22二, 四; 八八六, 31六, 40一; 九4八, 20一, 34四, 39六, 七, 43三; 十7二, 13一; 五6三, 18三, 36四; 五45五, 48一, 49九, 54四, 五

秃(中)孩 -tugaj 四15三; 三39一; 九43一

\*李(勦)- bol- (候) 同上。

-周 -ju 八7四

-速 -su 二33八; 九4一

\*李勒荅- bol·da- (被做, 被黑做) [bol- の受動形]

-罷 -ba 二6九; 八19一

-周 -ju 二32八; 四34九; 五24一, 29九, 31八; 六28十; 七42十, 48九, 49一

-中忽由 -quyu[→quj-ü] 三18八, 19六

-舌倫 -run 六29四

\*李(勦)荅- bol·da- (被做) [同上]

-周 -ju 四37十

孛斡中合 bol·ga (教做) [bol·ga- の命令形] 三40一; 八41三

\*孛斡中合<sup>①</sup> bol·ga- (教做, 做, 煮熟, 審, 得做) なる; 煮える。[bol- の使役形]

-阿(楊) -'ād 十44十

-阿速 -'āsu 三43九; 十43三

-罷 -ba 一20十, 39三; 三22十, 23二, 05二; 四1七, 八, 26四; 九36三; 十12二; 十53九, 十

-周 -ju 一27九; 二25八; 三5八, 45六; 四42七; 五22七, 36六, 50一; 六11八; 九11六, 七, 30六; 十19十; 十9六, 七; 十12四

-梅 -muj 二10一

-中忽 -qu 三50四; 十30四; 十26七, 八; 十38九

-中忽由 -qu-yū[→-quj-ū] 四24九

-速 -su 三39七; 九11八

-秃中孩 -tugaĭ 八30六; 十5一

-牙 -yā 三43一; 七47二

\*孛斡中合<sup>②</sup> bolga- (斃殺) 反抗する, 戦う。

-周 -ju 十32八

\*孛(斡)中合<sup>①</sup> bol·ga- (做, 教做) [同上]

-阿(楊) -'ād 三39九

-罷 -ba 三44五

\*孛斡中合黑蒼- bol·ga·gda- (審実, 被做) [bol·ga-<sup>①</sup> の受動形]

-罷 -ba 十43三

-魯埃 -lu'āĭ 十30九

-由 -yu 五48三

\*孛斡中合(黑)蒼- bol·ga·gda- (被做) [同上]

-阿 -'ā 三4一

\*孛斡中合黑塔- bol·ga·gta- (同上) [同上]

-中渾 -qun 十44二

孛斡中合兀命 bol·ga·'ül·u·n (教做) [bol·ga- の使役・同時接合副動詞形] 十15四

\*孛斡中合阿- bol·ga'ā- (体覆) 確かめる, 調べる。

-罷 -ba 五49七

孛斡中罕 bol·ga·n (做, 做了, 做着, 教做, 審) [bol·ga- の同時接合副動詞形] 一7八,

21二; 二1二; 四9二, 17八; 五43七; 六1七; 七48八; 八47二; 十14十,

33四, 40四; 十12五, 34七

\*孛魯- bol·u- (做, 中, 肯, 說道) (→bol-)

-阿(楊) -'ād 一39九; 三44七; 十33九; 十17四

-阿速 -'āsu 一13六, 14三, 五, 19六; 三12三, 四, 39四, 八, 43二; 五41五; 八41二; 九2二; 十5二; 十17九, 23九

-罷 -ba 一7六, 17二, 23八, 24一, 七, 九, 25三<sup>2</sup>, 四<sup>2</sup>, 26六, 27六, 七, 十,

28二, 五, 29五, 七, 八, 31一; 二2三

-楊中渾 -dqun 六36一

-楊坤[→中渾] -dkün[→dqun] 六36二

-黑撒阿(舌)兒 -gsa'ār 九35十

-黑撒納 -Gsan-a 一44八

-黑撒訥 -Gsan-u 一7六, 10四, 26三; 八46六, 七

-黑三 -Gsan 二34一; 六36三; 十24十, 29五

-黑三突舌兒 -Gsan-dur 八18六, 十21二

-黑三訥 -Gsan-nu 一14九

-宜 -yi 四19七; 八8一, 二

-刺阿 -la'ā 八28五

-者 -je 十29六, 32二; 十3三

(この形は bol·u·je で -u- は現在を表わす語尾)

-周 -ju 一33六

-木 -mu 四41三

-木者 -mu·je 七31十

-梅 -muj 五48五; 八21六; 十36七

-恢[→中灰]牙察 küjyača[→quj-y-ača] 二2一

-舌命 -run 四25三, 六; 五20十, 26三; 六52一, 53二; 七1五, 2六, 3五, 7八, 20五, 24五, 31九; 八1七, 4五, 5一, 6二, 13七, 24八, 27六, 八; 九9四, 22四, 31三, 40一, 44十, 45九; 十8五; 十21八, 30一, 32一, 九, 42四, 47八, 50三; 十7七, 10四, 十, 22八, 37四, 43八, 十

-舌命 -run 十36九

-塔刺 -tala 一39六

-兀齋 -'ūjai 三49七

-牙 -yā 五38七

-由 -yu 三27七; 八22四

-由者 -yu·je 八20六

\*孛(黑)魯- bol·u- (做) [同上]

-罷 -ba 一25二

\*孛(舌)魯- bol·u- (同上) [同上]

-舌命 -run 十26九

\*索[→孛]魯- bol·u- (同上) [同上]

-舌刺 -ra 二6三

\*孛魯刺察- bol·u·lča- (共做, 相從) [bol·u- の相同形]

-周 -ju 一46十; 五9十; 六25六

-(中)忽 -qu 五10四

-兀齋 -'ūjai 四9七

\*李魯嬌(→勸)察- bol·u·lča- (共做) [同上]

-罷 -ba 十23九

\*李命勸察- bol·u(n)·lča- (同上) [同上]

-無撒你顏 -gsan·iyān 三25十

-周 -ju 三26四; 八14五

-舌命 -run 三26二

\*李魯中合- bol·u·ga- (教做) (→bol·ga-)

-周 -ju 一26五

李命 bol·u·n (做, 做了, 做的, 做着, 做呵, 共, 肯, 做時, 共做, 教做, 上頭, 呵, 要, 住) [bol- の同時接合副動詞形] 一33一; 二4七, 6八, 46三; 三2九, 十, 4九, 18五, 19一, 46七; 四6八, 10一, 28三, 29二, 35八, 38九; 五11五, 20五, 28七, 29七, 30九, 34三, 40三; 六9六, 16四, 19一, 23八, 30十; 七5六, 14四, 43二; 八3二, 41九, 45四; 九7四, 12八, 16二, 21七, 24二, 40二, 49三; 十18三, 21三, 27五; 十一5二, 35五, 39三; 十二4九

李《舌》命 bol·u·n (做, 做時, 肯) [同上] 六19一; 八19一; 十43十, 39十; 十二38八, 57七

李勸蒼中合 boldag·a (孤山, 孤山行) [boldag ‘獨立峯’ の与位格形] 二26八; 十二58六

李勸中合 bolga~bolqa (廝殺) 對抗, 對立, 戦い。十二32八

\*李楊(→勸)札- bolja- (約会) 約束する。

-周 -ju 五45九

\*李勸札勸都- bolja·ldu- (約会, 相約) [bolja- の對動形]

-周 -ju 六46七

-牙 -yā 三8十; 六46六

李勸札安 bolja·'ān (約会) 約束。三3一, 4十

李勸札勸 bolja·l (約会, 約会的) 約束。三9四, 11八, 12八; 六48七

-突舌兒 -dur 三12四

李勸札命 bolja·l·un (約会的) [boljal の属格形] 三12十

李里<sup>①</sup> boli (勾了, 中) [bol(i) の命令形] 一38三

李里<sup>②</sup> bol·i (中) [bol<sup>①</sup>- の現在形] 十二25三, 五28十<sup>2</sup>

\*李幹- bo'ō- (阻) 阻む。

-周 -ju 十18四

李幹勸 bo'ōl (奴婢) 奴隸。四22二, 四; 六38九, 39二, 三; 八13一, 三; 九5十

李幹里阿舌兒 bo'ōl·i'ār (好婢行) [bo'ōl の造格形] 六38五

李幹命 bo'ōl·un (奴婢, 奴婢的) [bo'ōl の属格形] 六38五, 六

\*李幹里都- bo'ōli·du- (奴婢做使) 奴隸にする。

-牙 -yā 五19九

李舌兒 bor (葡萄酒) 葡萄酒。十二56二

李兒必 borbi (後跟) かかと, 後脚の踵。二11九

李(舌)兒必 borbi (時後筋) 同上。四22三

李舌兒必你顏 borbin·iyān (脚後根自的) [borbin[→borbi] の再帰格形] 十二29三

李舌兒中孩 borqaj (高祖) 高祖父。

-因 -yin 六39一

李舌羅 boro (青) 灰色の, 灰褐色の。二38四; 八36九; 十41二

李舌羅 boro (離) 離(?) (上の語と同一語か)。十二46六

李舌羅安 boro'ān (風雲) 風雪。三12三 (→borohān)

李舌羅幹納 boro'ōn·a (風雪行) [boro'ōn[→boro'ān] の与位格形] 十一七

李舌羅罕 borohān (風雪) (→boro'ān)

-圖兒 -tur 二11九

李(舌)羅(黑)臣 borogčīn (離) 灰色の。一16三

李思 bos (起) [bos- の命令形] 二42七, 九

\*李思- bos- (起) 起きる; 起つ。

-畢 -bi 二43三

-抽 -ču 二42四; 六35一; 十27八

-出兀 -ču'ū 八4八

-速中孩 -sugaj 十二23四

\*李思- bos- (同上) 同上。

-抽 -ču 五16四, 23九

\*李思中合- bos·qa- (立起, 起) [bos- の使役形]

-勸中渾 -dqun 六42三

-周 -ju 六48三, 50六; 十二29四

\*李速- bos·u- (起, 起身) (→bos-)

-阿楊 -'ād 二43四, 45六; 九13四; 十38二; 十二22八

-埃 -'āi 十35二

-黑赤 -gči 七39七

-黑三 -gsan 六34十

李孫 bos·u·n (起) [bos- の同時接合副動詞形] 五2六

\*李莎- boso- (困, 塞) 包囲する, 塞ぐ。

-周 -ju 八13四; 十40六

李莎中合 bosoga (門限) 敷居。四22八; 十39六

-蒼察 -dača 二22四, 九

-突舌兒 -dur 八28六, 九

-因 -yin 四22二; 六39二; 九5十

李脱中合你顏 botogan·iyān (駝羔兒) [botogan ‘仔駝駝’ の再帰格形] 二11九

李額 bō'ē (師公) シャーマン。六41九

李額思 bō'ē·s (同上) [bō'ē の複數形] 十二21四<sup>2</sup>, 22一, 24三, 四

李額舌列 bō'ere (腰, 要) 腰, 腰部。二44六, 46二

李額孫 bö'ēsün (重子) しらみ。八18九

李額速訥 bö'ēsün·ü (虱子的) [bö'ēsün の属格形] 二50七

李額惕 bö'ed (便, 就便, 見有, 有間, 即便) ~であるのに, ~であって。

一10五; 三8二, 七, 16二, 30六, 31六, 八, 32八; 四11二, 45二; 五42九; 六1三, 五; 七15四, 16十, 24五, 29三, 48八; 八9一, 四, 十28七; 土6三, 35十; 土29九, 50二, 56二

李額勅(→惕) bö'ed (有了) 同上。四9二

李額帖 bö'ete (便) 同上。二44四 (→bö'ed)

李額速 bö'ēsü (呵, 有呵) ~ならば。一4五, 22一, 35七, 八; 二1五; 五7六, 23二; 六3九, 17五, 21五, 22九, 十, 36三, 48五; 七9三, 12三, 29五<sup>2</sup>, 31三, 35九, 39一, 九, 48六; 八10九<sup>2</sup>, 43十; 九13一, 15一, 八, 22五, 25三<sup>2</sup>, 33五, 六, 43六, 七; 十34九, 44一, 九; 土21九, 32二; 土4七, 5一, 17一, 45九, 十, 49九

李額帖列 bö'etele (既, 有間) ~でありながら。一11二, 32六; 三14一, 18三, 九; 四41九, 五43四; 六40六; 七15十; 九49二; 土35六; 土23一, 38八, 56七

\*李克列- bögle- (塞) 塞ぐ。

-周 -jü 土12五

-克先 -gsen 四38十, 39三, 41一; 六14一; 九16九

李克連 bögle·n (塞着) [bögle- の同時接合副動詞形] 二16一

李(克)速[→連] bögle·n (同上) [同上] 二15八

李克薛 bögse (髻, 尖兒) 尻。九1三; 土34三

-突舌兒 -dür 三2三

-圖兒 -tür 二40四

-秃 -tü 土34三

\*李克秃舌兒- bögtür- (駄) 馬に荷をつける。

-抽 -čü 八36九

\*李克秃舌魯- bögtür·ü- (捎駄) 同上。

-額惕 -'ed 二38五

李戈秃兒 bögötür (拱脊) 猫背の。 (→bökötür) 二38四

\*李客列- bökele- (氣力做) 強化する。

-周 -jü 九40二

-舌俞 -rün 九33三

李刊 bökēn (ナツ) 幌のついた。二44六

李可 bökö (力士, 勇士) 相撲取り。四27三, 29二

-因 -yin 九1三

李闊 bökö (勇士) 同上。十39四

李可思 bökö·s (壯) [bökö の複数形] 四25九

李闊思 bökö·s (力士) [同上] 十39六

李闊昔 bökö·s·i (力士行) [bökö の複数対格形] 十38三

李可舌来 bökörej (腰子) 年を取って曲がった(腰)。 (→bököre)

-因 -yin 三2三

李可舌列 bököre (同上) 同上。

-因 -yin 二40四

李闊秃舌兒 bökötür (拱脊) 猫背の。 (→bögötür) 八36八

\*李勅迭亦惕- bölde·yid- (另分, 孤零) 離れ出る。

-抽 -čü 六4七; 七42二

\*李勅迭亦惕客- bölde·yid·ke- (教孤零) [böldeyid- の使役形]

-惕坤 -dkün 五25五

李連 bölēn (見在) ぬるい。四47八

李劣克 bölög (叢) 群。一17六

李捨克 bölög (同上) 同上。一3九

李(舌)捨克 bölög (同上) 同上。一5三

李兒帖 börte (蒼色) 灰白色の。一1三

不察 buča (隱諱) [buča- の命令形] 四50五

\*不察- buča- (諱) 隠す, ひかえる。

-周 -ju 四50四

\*不察勅中合- bučalga- (教滾) 煮る。

-周 ju 四5一

不蒼安 buda'a·n (粥飯) 飯, 粥飯。一28一

不倒兀 buday'ü (弱) のろまな。一15二

不丹 budan (霧) 霧, もや。

-突舌兒 -dur 九8四

\*不黑撒- bugsa- (拘束) つなぐ。

-周 -ju 七34三

不吉 bugi (繩) 繩。土54三

不吉牙 bugiya (韁繩絆蹄) 馬の足枷。二50五

\*不勅只- bulji- (繞) 逃げ去る。 (→bu(n)lji-)

-阿速 -'äsu 四22三

不勅中合 bulga (反, 反乱, 斃殺) 戦い, 反乱, 敵。 (→bulgan, bu(n)lga) 六20二;

八22一; 十21四; 土9一, 18七, 24二, 四; 土30五

-突舌兒 -dur 九8五; 土9三

\*不勅中合- bulga- (斃殺) 争う。

-罷 -ba 十11二; 土10三

\*不勅中合勅都- bulga·ldu- (斃殺) [bulga- の対動形]

-黑赤 -gči 六51四

-刺阿 -la'a 六51八

-中忽 -qu 六52二

-中灰突舌兒 -quj-dur 土9二

-中灰突(舌)兒 -quj-dur 土24七

-舌命 -run 六51六

不動中合勸教者 bulga·ldu·n-je (同上) [bulga·ldu- の同時接合副動詞形+je] 土9三

\*不動中合黑蒼- bulga·gda- (被斃殺) [bulga- の受動形]

-舌命 -run 六51一

不動中罕 bulga·n (鬪) <→bulga> 六43十

\*不動避舌里- bultari- (趨避) なまける, さぼる。九34五

\*不里- buli- (奪) 奪う。

-罷 -ba 二9四

-周 -ju 二7九, 8二, 9三, 48九; 三17八; 四10七; 五2四, 九; 土2六, 4九

不健中罕 bulugan (貂鼠) 黒貂。一6一; 二39二, 十, 40一, 二, 41七; 三1八, 十, 2一, 四, 六, 23八, 九; 九5五, 6三

不健中合阿舌兒 buluga·'ar (貂鼠皮) 黒貂の皮 bulugan の造格形。四17三

不健中合臣 buluga·čin (捕貂鼠的每) 貂取り。三14二

不健中合楊 buluga·d (貂鼠每) [bulgan の複數形] 六44三; 十15三

不健中合的牙舌兒 buluga·d·iyar (貂鼠每教) [bulga·d の造格形] 十15九

不命 bulun (不(舌)命 bürün の可能性もある) (共) ~といっしよに (~こそは)。三42十

不中合 buqa (強牛) 牡牛。七37九

-因 -yin 三7八; 十19四, 八

不中合兀 buqa'ū (枷) 枷。二17六, 22一, 23六; 三20三

-班 -bān 二17九

-禿 -tu 二20七

不中忽 bugu (鹿) 鹿。八6八

-因 -yin 二50五

\*不中忽- buqu- (蓋) 蓋をする。

-周 -ju 二29七

不舌兒備 burbui (脚後根) かかと。<→borbin> 土26九

不兒中合里黒 burgalic (飄) ささめ雪。一19七

不兒中合孫 burga·su·n (榆条) 柳。二50六

不舌刺 塔舌刺 bura tara (漫散) ばらばらに, あちこちに。九8十, 22二

不舌刺兀 bura'ū (二歳牛) 二歳の牛。

-因 -yin 三26七

\*不舌魯(楊)- burūd- (躲) 逃亡する。

-中灰魯阿 -quj-lu'a 一35二

不(舌)碌兀 buru'ū (男) 逆のほうへ。七30一

不舌魯兀 buru'ū (不是, 不是了, 不是的) まちがった。十34八, 九; 土56三<sup>2</sup>, 四, 八, 九<sup>2</sup>, 57一, 八, 九

-宜 -yi 八38一

-顔 -yān 土45七

\*不舌魯兀楊- buru'ūd- (逃走, 躲, 逃躲) 逃げかくれる。

-罷 -ba 十31八

-抽 -ču 五14三, 15八, 25十; 六24一; 土24六

-出為 -ču'ūj 三14六

\*不(舌)魯兀楊- buru'ūd- (逃躲) 同上。

-抽 -ču 五11二

\*不舌魯兀(楊)- buru'ūd- (同上) 同上。

-抽 -ču 六24四

不舌魯兀楊中罕 buru'ūd·qa·n (逃避) [buru'ūd- の使役・同時接合副動詞形] 二14二

不舌魯兀敦 buru'ūd·u·n (躲着) [buru'ūd- の非分離副動詞形] 土13六

不(舌)魯兀敦 buru'ūd·u·n (同上) [同上] 二50五

不舌魯為闌 buru'ūj·la·n (躲) [buru'ūjla- '逃げかくれる' の同時接合副動詞形] <→burūjlan> 六14十

不舌魯委闌 buru'ūj·la·n (逃) [同上] 八3三

不舌魯兀亦闌 buru'ūyi·la·n (趨避着) [同上] 七43一

\*不舌魯兀失耶[→牙]- buru'ū·šiya- (說不是) まちがったことと見做す。

-罷 -ba 土57四

不舌魯兀牙 buru'ūy·a (特地, 特地行) [→buru'ūj-a] わざと。五46五, 六; 八22一

不舌雷闌 burūj·la·n (躲着) <→buru'ūjla·n> 六1四

\*不散中合- busan·Ga- (教毀乱) 破壊する, 散り散りにする。

-周 -ju 三23三

\*不桑- busang- (潰散) 散り散りになる。

-中灰 -quj 八45一

\*不桑中合黑蒼- busang·Ga·gda- (被潰散) [busang- の使役・受動形]

-罷者 -ba-je 八44十

不速 busu (別, 別箇, 不是) 他の, 他に。一35九; 二8四<sup>2</sup>, 10二<sup>2</sup>, 12三, 四; 三20九, 48七, 十; 四39二; 五25四; 七38九, 48二; 五; 八37九; 九24四; 土5六, 22九, 31十, 33四; 土22四, 30五, 38九, 48八

-禿 -tū 三4二, 三, 12六

-兀 -'ū 八29六

-宜 -yi 九34七

不速楊 busu·d (不是, 別的每, 別) [busu の複數形] 一35六; 七47六; 土43四; 土38

-途舌兒 -tur 十27五

不速的 busu·d·i (別的) [busu·d の対格形] 二14一  
 不石 buši (別) ~でない。二1二  
 不失 buši (同上) 同上。三43九; 八30五, 47二; 九4一  
 -台 -tai 一34七  
 不実 buši (同上) 同上。七10九  
 不塔 buta (叢) くさむら。二23四  
 -圖兒 -tur 二23四  
 \*不塔舌刺- buta·ra- (散, 潰散, 漫散) 四散する。散り散りになる。  
 -黒三 -gsan 二40三; 三1十; 五9四; 八46八  
 -周 -ju 一19七  
 -主為 -ju'üi 四36一, 45二  
 -中渾 -qun 一5一  
 \*不塔(舌)刺黒蒼- butara·gda- (潰散) [butara- の受動形]  
 -周 -ju 四37二  
 \*不塔舌刺兀勒察- butara·'ül·ča- (共出) [butara- の使役相動形]  
 -周 -ju 一24六  
 不兀勒札舌兒 bu'üljar (許婚筵席) 婚約の宴。五45八, 46一, 五, 十  
 不兀舌刺 bu'ūra (駱駝, 駝, 風雄駝) 去勢されていない牡駱駝。一44九, 45二; 二11九  
 不亦 buyi (ナン) 汚れもの, 汚物。一26九  
 奔勒中合 bu(n)lga (反) (→bulga) 五11五  
 奔勒(中)合 bu(n)lga (同上) [同上] 五9十  
 奔勒中合勒敦 bu(n)lga·ldu·n (相闘) [bulgaldu- の同時接合副動詞形] 二13十  
 \*奔勒只- bu(n)lji- (躲閃) (→bulji-)  
 -阿速 -'äsu 二48三  
 \*奔勒只温勒蒼- bu(n)lji·'ü(n)l·da- (被躲閃過) [bulji- の使役・受動形]  
 -罷 -ba 二50七  
 不 bǔ (休, 休教) ~なかれ。(禁止の助辭) 一47二; 二3三, 10三, 四, 21二, 23八;  
 三12四, 16三, 31七, 45四<sup>2</sup>, 六, 七, 46二, 三, 50六<sup>3</sup>; 四11二; 五17六,  
 21三, 37六, 八; 六6五, 22三, 六, 37三, 四, 40七, 52八; 七28八; 八  
 8四<sup>2</sup>, 八, 9七, 22八, 29九, 30五, 31五, 38四, 42四, 47三; 九4四,  
 6五, 17六, 24九, 25四, 34十, 36五, 43五, 48三, 四, 五, 六<sup>2</sup>; 十5  
 四, 6九, 7十; 一12六, 23四, 28六, 30五, 六; 一39一, 二<sup>2</sup>, 七, 40  
 二, 45七, 47一  
 \*不- bǔ- (有) いる; ある。  
 -額揚 -'äd(→bö'äd) 五49十; 八35九  
 -克先 -gsen 五23一  
 -古 -gü [→kü] 四2三; 六16七

-古泥 -gün-i [→kün-i] 三47六, 49三; 五21三; 七38四  
 -古宜 -gü-yi [→kü-yi] 一8四  
 -周 -jü 七11十  
 -主為 -ju'üi 三15六  
 -恢 -küi 二24八; 三7九; 四43五; 八12七, 33十<sup>2</sup>; 九12二, 14二; 十1七<sup>3</sup>, 十  
 -恢突兒 -küi-dür 一40七, 41六, 42一, 47十; 二8六, 9七, 十, 12五, 六, 13十  
 26八, 30二, 36七, 37六, 41二; 四, 42三, 六, 44八<sup>2</sup>, 46五  
 -恢突舌兒 -küi-dür 三1三, 四, 10九, 41六, 42二; 四9八, 10九, 43六; 五9一,  
 24十, 28二, 34四; 六1十, 9十; 七15一, 47三; 八30一; 一3三, 46四,  
 八  
 -恢突(舌)兒 -küi-dür 九13二, 14五  
 -恢額徹 -küi-'eče 八28六  
 -恢宜 -küi-yi 一16四; 二18八, 27九, 30四, 45五; 六12七; 九13四  
 -坤 -kün 一21七, 32九; 三14二; 五16三, 32八; 六1三, 29九; 七38三; 八3九,  
 4九; 一29五  
 -埋[→坤] -kün 一19四  
 -列埃 -le'ai [→le'ei] 三37九; 四4五, 9五, 18二, 九, 47九; 五46七; 六2十,  
 14五, 九; 七11十, 24十, 37一; 八44一; 九5九, 15六, 19七, 八, 九,  
 36三; 十26六, 36六, 44三, 十; 一20四, 26六, 35九, 36一; 一37三  
 -列埃者 -le'ai-je [→le'ei-je] 八34一  
 -列額 -le'e 一2九, 十, 3五, 7三, 五, 10二, 六, 13三, 四, 17九, 18十, 23七,  
 八, 九, 十<sup>2</sup>, 24六, 八, 25八, 九, 十<sup>2</sup>, 26九, 27一, 四, 五, 六, 七, 28  
 二, 四, 六, 29四<sup>2</sup>, 六, 30三, 四<sup>2</sup>, 六, 十, 31一, 四, 五, 六, 九, 十,  
 32一, 二, 39四, 41七<sup>2</sup>, 八<sup>2</sup>, 43八, 45五, 47二, 49一; 二15五, 17五,  
 22十, 27五, 28一, 33三, 36二, 39二; 三15九, 21四, 28九, 31四, 37十,  
 45九; 四8五, 六, 十, 9六, 12一, 25五<sup>2</sup>, 27一, 三, 28二, 六, 八<sup>2</sup>,  
 九, 十, 41十, 42三, 六, 七, 九; 五1十, 3十, 4四, 7八, 19六, 25  
 九, 30七, 43一, 45八, 46五; 六22十, 23一, 31五, 35一, 38六, 七, 八,  
 40一, 41八, 九<sup>2</sup>, 42一, 52三; 七6六, 9二, 29七, 33七, 37七, 44四;  
 八14九, 15一, 三, 18十, 20七, 21五, 27十, 36六, 37八, 44四, 47七;  
 九2四, 4十, 7二, 13八, 15二, 三, 十, 17一, 31四; 十27一, 七, 30  
 一, 二, 四, 七, 八, 37六, 38八, 39十; 一23十, 24一, 二, 三, 四<sup>2</sup>, 27  
 三, 40一; 一1七, 3十, 22九, 29九, 32六, 七, 33八<sup>2</sup>, 35一  
 -列額者 -le'e-je 六36六, 八, 十, 37一  
 -列周 -lejü (-列額 -le'e の誤りか?) 一24三  
 -列骸 -legei 一12一  
 -里吉 -ligi 五22九  
 -里亦 -liyi 一37五; 二37五

- 中灰[→恢] qui[→küj] 五43六  
 -中灰[→恢]突舌兒 -qui[→küj-dür] 三26二, 七; 四1六, 4三, 19十, 31九, 33十, 35六, 49七; 六31-, 44九, 50十; 八43三; 十29-, 35三; 十二3五, 七, 43七, 51十; 十五9七, 30七, 58七  
 -中灰[→恢]突舌兒者 -qui[→küj-dür-je] 三36二  
 -中灰[→恢]額徹 -qui[→küj'eče] 八40六; 十40三, 四  
 -中灰[→恢]宜 -qui[→küj-yi] 五1十  
 -中渾[→坤] -qun[→kūn] 六25三  
 -舌命 -rūn 一40七; 二29八; 三7七, 10四; 四2二, 50四; 五9五, 32十; 六30二; 七13八, 42八; 八12二, 19七, 27七; 九34四, 43一; 十30二; 十三4八, 23四, 30五, 32八, 45二  
 -禿該 -tügei 二8七; 四9八; 六16七; 七11十; 十24五  
 -由者 -yü-je 十22九。  
 \*不赤- büči- (罍) 罍む, 包罍する。  
 -罷 -ba [→be] 六50十  
 -周 -jü 五47三, 十; 五50十; 六51一  
 -耶 -yē 六50七  
 不教 büdün (本) 完全な。二50五; 八13四  
 \*不克- büg- (伏) 待伏せする。  
 -抽兀 -čü'ü [連接接合副動詞に疑問助辭 -ü が附された形] 二49十  
 不克迭兀里 bügde'ül-i (埋没行) [bügd'e'ül '無戸籍の人々'の対格形] 九29十  
 \*不古惕- bügüd- (完全) 完全になる; 満ちる。  
 -罷 -ba [→be] 三42二  
 \*不古惕格- bügüd-ge- (點視) [bügüd- の他動詞]  
 -額速 -'esü 六11二  
 \*不古惕格勅都- bügüd-ge-ldü- (全完, 相収集) [bügüd-ge- の対動形]  
 -克先 -gsen 八46九  
 -周 -jü 三2一  
 \*不古惕客- bügüd-ke- (點全) <→bügüd-ge->  
 -周 -jü 九41九  
 \*不古惕客(勅)都- bügüd-ke-ldü- (完全) <→bügüd-ge-ldü->  
 -周 -jü 二40三  
 不古惕刊 bügüd-ka-n [→bügüd-ke-n] (點視) [bügüd-ke- の同時接合副動詞形] 三44九  
 不古迭 bügüde (都, 都行) すべて, みな。三2五; 七31三; 九2三; 十45二  
 -額舌兒 -'er 五16三, 25三; 六9八  
 -宜 -yi 四39七, 42四; 五18八, 20二, 34五, 50八; 六28二, 29八, 31二; 七7七; 八43七; 九2五; 十50一

- 不古迭捏徹 bügüde-n-eče (都行) [bügüden の奪格形] 三50六  
 不列額捏徹 büle'en-eče (温的行) [büle'en '温い'の奪格形] 三24十  
 \*不列- büle- (澎) アイラグを作るのに büle'ür で上下にたゞまざる。  
 -窟 -kü 二22六  
 不列兀惕 büle-'ü-d (撞馬乳椎) [büle'ür の複教形] 四10五  
 不列兀舌命 büle-'ür-ün (澎的) [büle'ür '釀し杵'の属格形] 二22六  
 不勒惕 bülejd (忽然) 忽然と。三24十  
 \*不舌兒古- bürgü- (盖) ふたをする。  
 -周 -jü 八35六  
 不舌兒乞舌連 bürkile-n (鑿鑿) [bürkile- '響く'の同時接合副動詞形] 三7八  
 \*不舌列勅- bürel- (毀滅) 滅びる。  
 -帖列 -tele 三2五  
 \*不舌連勅- büre(n)l- (滅絶) 同上。  
 -帖列 -tele 三4八  
 \*不舌連勅格- büre(n)l-ge- (毀) [bürel- の使役形]  
 -禿坤 -tükün 二10三  
 不舌里<sup>①</sup> büri (毎) ~ごとに。一13一, 19四; 二51二  
 不(舌)里 büri (ナシ) 同上。二51二  
 不舌里<sup>②</sup> büri (全) すべて。十30二, 38五  
 \*不舌里- büri- (幔) 張る。  
 -克先 -gsen 三7八, 8四  
 不舌里額台 büri'e-tai [→büri'e-tej] (器皿中盃来的) 蓋つきの器に入った。  
 四40二  
 不舌里額禿 büri'e-tü (器皿中盃来有的) 同上。  
 -宜 -yi 四40五  
 不舌里訥 bürin-ü (衆的) [bürin の属格形] 二4七; 八38三  
 不(舌)里訥 bürin-ü (同上) [同上] 三57二  
 不舌里耶舌兒 büri-yer (衆) [büri の造格形] 三35二, 52四, 十  
 不舌鄰 bürin (衆) 全ての。十9八; 三2八, 13七, 16六, 37一, 40六, 43八, 52一, 二, 53二  
 不辭 büse (帶) 帶。三27十, 28三, 四, 29四  
 -邊 -bēn 二51三  
 -因 -yin 十12七  
 \*不辭列- büse-le- (繫, 繫衣, 繫腰) 帶を締める。  
 -周 -jü 二5八; 三26三, 四  
 \*不辭列兀勅- büse-le-'ül- (教繫; 帶教繫) [büse-le- の使役形]  
 -罷 -ba [→be] 三28一, 四  
 不辭勅昆 büselgü-n (罍) [büselgü- '取り罍む'の同時接合副動詞形] 七42十



\*不識舌列<sup>①</sup> būšire- (知感) 感謝する, 感動する。

-克先 -gsen 六25九

\*不失舌列<sup>②</sup> būšire- (信) 信じる; 信仰する。

-周 -jū 六1三; 七5八

-牙 -yā [→yē] 五37七; 六22七

-耶 -yē 五37九; 六22四

\*不失舌列克迭- būšire·gde- (可信) [būšire- の受動形]

-古 -gū [→kū] 五43四

不失舌連 būšire·n (信実) [būšire- の同時接合副動詞形] 五6六

不識舌恰 būšire·n (知感) [同上] 三22六; 六25六, 31三

\*不帖- būte- (完備, 塞満) 完成される, 満ちる; 窒息する; 蔽われる。

-額<sup>額</sup> -'ēd 四21七

-帖列 -tele 七25二; 五1十

\*不帖額- būte'ē- (完備) 完成させる, 終らせる (殺す)。<→bütü'e>

-罷 -ba [→be] 五10九

-周 -jū 四20十; 五12四

不帖兀那 būte·'ünö [那→耶 i-e] (暗行) 閉じられたままで。五10二

\*不秃額- bütü·'ē- (完備) <→būte·'ē->

-主兀者 -jū'ū-je 八45六

備 būi (有) いる, ~である。一21八, 九, 35六, 七, 八, 43二, 48八, 九, 十; 二8

五, 七, 29九, 30一, 六, 39六, 45一; 三2八, 5九, 6一, 二, 9一,

10四, 39九; 四34四; 五7九, 25七, 36四, 46七, 九, 50十; 六3三, 四,

七, 5四, 16十, 19九, 27六, 42二, 46三; 七16二, 24十, 27五, 十, 34

六, 42八; 八9十, 21八; 九8十, 22二; 十7七, 八, 29八, 34六; 五23

八, 28六, 29四, 30二<sup>3</sup>, 45三, 46十, 47五; 五17十, 22九, 49一, 二, 52

六, 七, 九

-者 -je 一11三, 26四; 二29九, 39六; 三2八, 5九, 6一, 二; 五17七; 六3八,

42四; 七28九, 29九, 48三; 八8二, 15六, 45八; 九2八, 4六, 6二,

15四, 45一, 三; 十8一, 22十, 23一, 28三; 五8十, 15九, 22四, 29一;

五11三, 18七, 24三, 38十, 46四, 六

備 būi (同上) 同上。六50六, 52三; 七10十, 11一, 13七, 十, 15五, 八, 16一, 23

五, 25四; 五2五, 34十

-者 -je 七11六, 33八; 九5一

備由 būyü (有) いる, ~である。一4四, 11三, 12八, 13五, 15二, 19四<sup>2</sup>, 八, 20

三, 45八, 49三; 二33十<sup>2</sup>, 34一, 39六, 九, 45四, 五; 三20五, 31六; 四

9七, 17八, 45十, 46三, 50六<sup>2</sup>; 五3六, 4二, 30九, 36五, 40七, 八,

42四, 43二, 七; 六5一, 6三, 13七; 七29十, 37五; 九12十; 十25十<sup>2</sup>;

五4九, 33十

-者 -je 三1九; 四17七; 五30八; 六39一; 五8九

備由 būyü (同上) 同上。七5七, 6七, 九, 10九, 36三, 39五, 47四

-者 -je 七6九, 31二, 38十

## č

察阿荅 ča'ada (貼身, 靠着) 寄りそって。九40一; 十3二, 5七; 卅40五, 42五

察阿勒孫 ča'al·sun (紙) 紙。

-突舌兒 -dur 八31四

\*察卜赤- čabči- (砍, 斬, 欲, 劈) 斬る。〈→čabuči-〉

-周 -ju 六49九; 七8一; 九47十; 卅38三

\*察(卜)赤- čabči- (砍) 同上。

-罷 -ba 四19一

-黑三 -gsan 一31六

\*察(卜)赤黑荅- čabči·gda- (被砍) [čabči- の受動形]

-周 -ju 四9一

\*察卜赤勒都- čabči·ldu- (共砍) [čabči- の對動形]

-速 -su 卅29三, 四

\*察卜赤刺勒都- čabči·la·ldu- (共砍) [čabči- の多回・對動形]

-周 -ju 四31三

\*察卜赤兀勒- čabči·'ül- (斫) [čabči- の使役形]

-周 -ju 十19九

\*察不赤- čabuči- (砍) 〈→čabči-〉

-主兀 -ju'u 四9一

察赤舌兒 čačir (帳子) 天幕, 帳幕。卅29四

\*察飽- čad- (喫飽) あきる, 飽食する。

-塔刺 -tala 七23七

\*察都- čad·u- (飽) 同上。

-木者 -mu·je 七24一

察中罕 čad·qa·n (教飽了) [čad- の使役・同時接合副動詞形] 七24二

察中忽郎 čadqulang (飽) 飽食した。二48四

察黑 čag (時) 時。一19八; 三31五; 七29九; 卅4四

-突兒 -dur 一34四

-突舌兒 -dur 五9六; 八10二, 16十

-突(舌)兒 -dur 七46五; 卅24五

-途舌兒 -tur 五43六; 八18二, 35一, 41一

-圖兒 -tur 一17二

-圖舌兒 -tur 五3九

-圖(舌)兒 -tur 九23二; 卅26二

察黑圖 čactu (酌中, 酌中有的) 凡庸な。六4十, 6二; 十40一

察黑都兀勒孫 čag·du·'ül·sun (後哨) 後衛隊。六1七

\*察黑刺- čacla- (斟酌) 抑制する; 考慮する, 了解する。

-罷 -ba 八32一

-周 -ju 十6二; 卅40三

\*察黑刺兀勒- čacla·'ül- (斟酌) [čacla- の使役形]

-周 -ju 卅53七

察中合 čaqa (孩兒) 子供, 兒童。一48十, 49五

-顏 -yān 五44一

察中合阿納 čaga'an·a (白行) [čaga'an の与位格形] 五43七

察中合阿泥 čaga'an·i (白馬) [čaga'an の對格形] 三28五

察中合阿訥兀惕 čaga'an·u'üd (白每) [čaga'an の複數形] 十15二<sup>2</sup>, 七, 八

察中合安 čaca'a·n (白) 白い。〈→čagān〉二25六, 32六; 八24四, 31四; 九20一; 十28七

察(中)合安 čaga'a·n (同上) 同上。二20四, 32一

察中罕 čagān (同上) 同上。四49四, 50七; 九20二 〈→čaga'an〉

察中忽兀 čag·u'ü (時敢) [čag に疑問の助辭が付いたもの] 卅4五

察中渾 čag·un (時裏) [čag の屬格形] 三1八

察(中)罕 čagān (白) 白い。〈→čaca'a'n〉一43五, 九; 二15七, 16一; 六44二; 七9五

察里舌兒 čalir (鉄鍬) 鍬。八7三

察孫 času·n (雪) 雪。一19七

察兀舌兒 ča'ür (征進) 征旅。卅32八

察兀(舌)兒 ča'ür (征) 同上。卅20八

\*察兀舌刺- ča'ūra- (出征, 征進) 征旅を行なう。

-周 -ju 十11六; 卅32八

察兀舌闌 ča'ūra·n (征進) [ča'ūra- の同時接合副動詞形] 卅20八

\*察兀舌刺兀勒- ča'ūra·'ül- (教出征, 教征出征) [ča'ūra- の使役形]

-罷 -ba 八10八, 24七; 十10九, 17九

\*察亦- čayi- (明) 夜があける。

-塔刺 -tala 二22九

擔察 čamča (衫兒) 肌着。

-班 -bān 一35十

敵中合舌兒荅兀倫 čangqarda·'ül·u·n (教疲乏) [čangqarda- '疲れ果てる' の使役・同時接合副動詞形] 七27六

扯額只 če'ěji (膂膈, 膂懷, 胸膈, 心懷) 胸, 上半身。八46二; 十30三, 四, 五

-突舌兒 -dür 三2二

-突(舌)兒 -dür 九23八

-圖兒 -tür 二40四

徹額只 če'ěji (膂懷) 同上。三49一

- 扯額勒 če'el (深) 河流の深い所。二3七; 九1九  
 徹額勒 če'el (同上) 同上。四49九  
 超堅 čeiŋgen (明) 白い, 明るい。-13一; 二3七; 四49九; 九1七  
 扯客舌来 čekeraj [→rej] (腔子) 年を取ってぜいぜいと音のする (胸)。  
 -因 -yin 三2二  
 扯客舌列 čekere (同上) 同上。  
 -因 -yin 二40四  
 \*扯兒別格勅者温勅- čerbe·ge·lje·'ü(n)l-(垂) [čerbe- '垂れる' の継続相・使役形]  
 -周 -jü 二46七  
 扯舌里克 čerig (軍) 軍隊, 兵隊。二44九; 三10六; 四12十, 13八, 32二, 46十; 五10  
 二, 29七, 八, 34一; 六4六, 九, 6一, 25二; 七29六, 32二, 33一; 十  
 6八, 九, 7一<sup>2</sup>, 三, 十, 18九, 19一; 十一2三, 12五, 35七; 十二3九, 17  
 八<sup>2</sup>, 40一, 二  
 扯(舌)里克 čerig (同上) 同上。十一40五  
 扯舌里格徹 čerig·eče (軍処) [čerig の奪格形] 十18二  
 扯舌里吉顏 čerig·iyān [→iyēn] (軍自的) [čerig の再帰格形] 四12十; 六4八,  
 6三, 14十; 七27三; 八2七  
 扯舌里吉耶兒 čerig·iyēr (軍) [čerig の造格形] 六5十  
 扯舌里昆 čerig·ün (軍, 軍的) [čerig の屬格形] 七29八; 八7八, 8三, 五, 七; 十  
 19二, 五; 十一5九, 6五; 十二34四  
 扯(舌)里昆 čerig·ün (軍的) [同上] 九2五  
 扯舌里克兀惕 čerig·'üđ (軍每) [čerig の複數形] 十一4九  
 扯舌里兀惕 čeri'üđ (同上) [同上] 二46二, 六; 三15二, 24一; 四11一, 17二, 45一,  
 46二, 九; 五11三, 20五, 21二, 23七; 六25十, 30八; 七25二, 46五, 47  
 五; 十一1九, 2八, 7二, 12四, 七, 八, 13七, 42一, 43四; 十二6二, 7  
 七, 20三, 21一  
 -魯額達 -lü'e-bēn 四38二  
 -突舌兒 -dūr 十19四  
 -帖 -te 七24六, 45九; 八4七  
 -途舌兒 -tūr 七47七  
 扯舌里兀的 čeri'üđ·i (軍每行) [čeri'üđ の対格形] 三11十; 八43七; 十一2四, 4七,  
 6九, 14八; 十二20九  
 扯舌里兀的顏 čeri'üđ·iyēn (軍自的, 軍每自的) [čeri'üđ の再帰格形] 三11十,  
 12二; 六28九; 十一3四  
 扯(舌)里兀的顏 čeri'üđ·iyēn (軍每自的) [同上] 四37七  
 扯舌里兀的耶兒 čeri'üđ·iyēr (軍領着, 軍每教, 軍每領着) [čeri'üđ の造格形] 八  
 1八; 十一4二; 十二18五, 41六  
 扯舌里兀教 čeri'üđ·ün (軍每) [čeri'üđ の屬格形] 二46十

- 誠 čing (至誠) 誠実な。十1九  
 称古勒圖克圖 činggültüg·tü (銅灌的) 先の曲がった(?)。三26四  
 超兀倫 čeu'ül·ün (碎) 碎いて。九1七 [čeu'ül- '碎く' の同時接合副動詞形]  
 潮舌魯 čeu'rü (同上) こなごなに碎いて。四49九  
 \*潮兀舌列- čeu'ü·re- (碎) 碎ける。  
 -魯阿[→額] -lu'ā[→lü'e] 二3七  
 赤 čī (你) お前, 汝。-9四, 21五, 22九, 35五, 九<sup>2</sup>, 38三, 49四; 二2八<sup>2</sup>, 九<sup>2</sup>,  
 十, 3九, 15四, 19二, 23三, 五, 28六, 29八, 30五, 32四, 44十, 45四;  
 三2七, 39五; 四41九, 42一, 43四, 六, 八; 五23三, 25七; 六4六, 6  
 一, 7七, 21五, 六, 八, 九, 十, 22五, 九, 23八, 九, 24三, 五, 八,  
 25九, 26一, 三, 八, 29二, 三, 30四, 31六, 七, 34九, 35一, 七<sup>2</sup>, 九<sup>2</sup>,  
 36二, 38八, 九, 39十, 40二; 七6八, 九, 10九, 14一, 九, 29三, 四,  
 十, 44三, 五, 46四, 47一; 八6十, 7三, 五, 六, 14六, 15一, 三, 18  
 五, 20二, 22一, 三, 五, 29六, 30一, 32一<sup>2</sup>, 33五, 九, 35三, 八, 36四  
 六, 八, 37二, 八, 41一, 四, 43四, 五, 47七, 48一, 二; 九1二, 2四,  
 八, 7三, 八, 8三, 四, 五, 六, 七, 八, 9二, 12二, 三; 十16五, 八,  
 22六; 十一27七<sup>2</sup>, 37八, 38一, 八; 十二15十, 16八, 九, 17三, 五, 22四,  
 十<sup>2</sup>, 23一, 九, 24十, 35三, 39十, 40二, 43五; 十三3四, 八, 5六, 30三,  
 32四, 34四, 五, 七, 九, 35七  
 赤出阿 čiču'ā (鞭子) 羊の尻尾の脂。二8五, 10二, 12四; 三48十  
 赤中渾 čidqu·n (傾下的) [čidqu- の同時接合副動詞形] 十1七  
 \*赤中忽- čidqu- (注) 注ぐ。  
 -中忽 -qu 四31五; 六19八  
 \*赤苔- čida- (能) できる。  
 -中忽 -qu 二28六, 七; 五2一; 七14四; 十一31四  
 -中忽因 -qu-yin 十一41四  
 -中忽訥 -qun-u 二9十  
 -中忽由 -quyu[→quj-ü] 七10六  
 -中灰阿察 -quj-ača 十37十  
 -中灰巴舌兒 -quj-bār 十一31五  
 -中渾 -qun 四45三; 六6三  
 赤丹 čida·n (同上) [čida- の同時接合副動詞形] 五44八  
 赤戈兒孫 čigö'r·sü·n (檜木) 杉; ひのき。二6一  
 赤歌 赤 čigöd (檜, 檜每) [čigörsün の複數形] 十36八, 37三  
 \*赤[→赤?]古勒古- čī?gülgü- (ナン) 集まる(?)。  
 赤乞 čiki (耳) 耳。  
 -邊 -bēn 十一25八  
 赤動 čiki·n (同上) 同上。四24九; 八30一; 十一17四

赤勒不兒 čilbūr (韁繩皮) 革條。四八七  
 赤[→赤]刺兀泥 i[→či]la'un-i (石行) [čila'un '石' の対格形] 九一七  
 赤老温 čilaγ'un (石) 石。〈→čila'un〉二三八; 四四九  
 \*赤列- čile- (喫, 困乏) 疲れる。  
 -周 -jū 一七八, 一九五; 七二六  
 赤魯篋 (中) 古卜赤兀兒 čilūme gubči'ūr (網) 魚捕りの網。二七三  
 赤馬 čima (嘆声) ああ。七二九  
 \*赤馬揚- čimad- (怪責, 嫌少) 責める, 咎める。  
 -罷 -ba 六三七  
 -抽 -ču 十二三二; 一四七  
 \*赤馬揚中合- čimad-qa- (教恠) [čimad- の他動詞]  
 -阿速 -'asu 一三五  
 赤馬蒼 čima·da (你行) あなたに。一四五, 九六; 二三九; 三一七; 六二四, 二七四;  
 七一四八; 八二九七, 三四五, 四七五<sup>2</sup>, 四八一; 一六八; 一三二, 三, 四七三; 一三六  
 赤馬蒼察 čima·da·ča (你自, 你行, 比你, 自你処) あなたから。二三二; 四四一五; 五  
 二一; 六三三; 一三三  
 赤馬都舌兒 čima·dur (你行) あなたに。六二四  
 赤馬都(舌)兒 čima·dur (同上) 同上。八一八五  
 赤馬突舌兒 čima·dur (同上) 同上。六二六, 三〇二  
 赤馬途兒 čima·dur (同上) 同上。二二九  
 赤馬魯阿 čima·lu'a (你一同) あなたと。九二九  
 赤馬亦 čima·yi (你行) あなたを。一三八  
 赤馬宜 čima·yi (同上) 同上。一四三; 二三四, 三二; 三三一; 四四四; 五二九<sup>2</sup>, 一五  
 五, 四一七, 四三六, 七; 六二七, 二六八, 二七三, 七, 二九四, 七, 三五六, 七, 三九  
 一; 七二四, 四六六; 八七七, 一〇一, 四六二, 五, 九; 一三三, 七  
 赤馬(舌)里中孩 čimariqai (怨) 怨みの。一三五七  
 赤馬(舌)里阿舌兒 čimar·i'ār (恠責) [čimar '怨' の造格形] 一四六  
 赤馬舌兒 čimar (恠) 恨み, 叱責。三二二  
 叱馬舌兒 čimar (恠責) 怨み; 叱責。  
 -圖舌兒 -tur 六二四, 三一六  
 \*赤馬舌兒刺- čimar·la- (恠) 恨む。  
 -中忽宜 -qu-yi 三二九  
 叱馬舌命 čimar·un (恠責的) [čimar の属格形] 六三一  
 \*赤納- čina- (煮) 煮る。  
 -周 -ju 一七七  
 赤納都 čina·du (那廂) むこうの。一七九  
 赤納黑石 čina·gši (往那廂, 那廂) むこうへ, むこうに。六二四, 八  
 赤納只 čina·ji (同上) むこうの。四三七

赤納納 čina·na (那邊, 邊廂) むこうに。四三六, 七, 三九; 一八七, 三九五  
 赤納舌兒 činar (情) 心情。一三五  
 赤納舌魯 čina·ru (那廂) むこうへ。六四, 六五  
 赤納温 čina·'ün (那廂行) むこうで, むこうを。八九五, 六  
 赤那 čino (狼) 狼。一五; 二二; 七三三; 九三九  
 -因 -yin 一六七, 八  
 赤納 činu (你的) あなたの。一三三, 三五, 七, 八, 三三, 三八, 四三; 一四六, 一九  
 七, 三七, 四〇, 三; 三一, 二, 五, 七, 四三, 四四; 二二<sup>2</sup>, 三,  
 四, 八, 九, 二二, 四三; 五二, 二, 三, 三三, 四三, 十, 四八, 四九;  
 六二三, 五, 十, 二五, 四, 七<sup>2</sup>, 二七, 二八, 三三, 四, 二九, 十, 三〇; 七  
 七, 二九, 六, 四六, 六, 四七; 八五, 九, 一八, 九<sup>2</sup>, 二〇, 二二  
 四, 六, 二八, 九, 二九, 三〇, 三三, 三六, 三六, 三七, 九, 四三, 四六, 四  
 五; 九二, 一〇, 一三, 一四, 一五, 一六, 一七, 一八, 一九, 二〇, 二一, 二二, 二  
 三, 七, 八, 二一, 二, 二九, 三二, 四五; 一三五, 二三<sup>2</sup>, 三三, 三六  
 \*赤兒- čir- (拖) 引きずる。  
 -抽 -čü 二四七  
 \*赤舌兒- čir- (同上) 同上。  
 -抽 -čü 四二, 二八; 一三五, 七  
 \*赤(舌)兒- čir- (同上) 同上。  
 -罷 -ba[→be] 一三八  
 赤舌来 čirai (顔色, 容顔) 顔色, 容貌。一三五; 二二; 七二八; 八二七, 十; 一四五  
 一; 一七九, 三四  
 -阿察 -'ača 一三五  
 -班 -bān 八四九  
 -壇 -tan 一三五  
 \*赤[→赤]舌里扯兀勒- či[→i]riče·ül- (分) 分ける。  
 -周 -jū 八三  
 赤速 čisu (血) 血。八二, 二二, 七  
 -班 -bān 六三; 一三五  
 -禿 -tu 七四, 三五  
 \*赤速蒼- čisu·da- (被血汚) 血まみれになる。  
 -周 -ju 四三  
 赤速泥 čisu·n·i (血行) [čisun の対格形] 四三, 三, 四  
 赤孫 čisu·n (血) 血。〈→čisu〉四二, 三九, 三九, 四一; 五二, 一四; 六三, 九  
 十, 一四, 二六, 三三; 七二; 九二, 九  
 赤兀 čir'ū (車轄) 車のくさびの類。三二  
 赤温 čir'ū·n (同上) 同上。  
 -突舌兒 -dür 五二, 二〇, 六, 九, 二六; 九二

\*赤兀迭兀勒- čī'ū·de·'ūl- (教倒) [čī'ūde- 'くさびの類がはずれる' の使役形]  
-速 -sū 三46二

\*赤兀勒- čī'ūl- (聚) 集まる。  
-周 -ju 四31二

㊦ \*赤温(勒)- čī'ū(n)l- (同上) 同上。  
-周 -ju 二20七

\*赤兀勒答- čī'ūl·da- (被聚) [čī'ul- の受動形]  
-周 -ju 十35五

\*赤兀勒中合- čī'ūl·ga- (教聚, 教完聚, 教衆) [čī'ūl- の他動詞]  
-周 -ju 四12十; 九9二, 22五, 29九  
-速中孩 -sugaḷ 九9一, 22三

\*赤兀魯- čī'ūl·u- (聚) <→čī'ūl- >  
-阿速 -'āsu 五47七, 48一  
-黑撒魯 -gsad 五25三

啜額孛舌里 čö'eböri (豺狼) 豺。二12一

輟額不中忽 čö'ë bucu (三歳鹿) 三歳鹿。一8三  
-亘 -yi 一9一  
-因 -yin 一8八, 9十

啜延 čöyēn (少) 少ない。三14六; 六26二, 45一; 七23五<sup>2</sup>, 31十, 43六, 45六; 八2  
一, 五, 3五  
-捏徹 -neče 七31十

輟延 čöyēn (同上) 同上。一46七; 六22九

啜額客輟 čö'ëked (ナシ) [čö'ëken の複教形] 七11一

啜額刊 čö'ëkan [→ken] (少) わずかの。七13十, 24十

\*啜可- čökö- (絶望) あきらめる, 絶望する。  
-列埃 -le'äi[→'ëi] 二37一

擗刺亦壇 čolayita·n (空欠) 中止する, 中断する。[čolayita- の同時接合副動詞形] 二32七

擗列思 čöles (順応着) まっすぐに貫いて。二31九

啜勒客 čolke (川) 草と水の豊かな谷あい。二1九

綽羅 čölö (空隙) 隙き間。七36六, 七  
-突舌兒 -dür 六12六

\*擗乞- čoki- (鑿) ほる, つつく; 打つ。  
-周 -ju 八7三

擗斡舌兒中合 čö'örga (鎖) 錠。  
-台 -tai 三46二

擗沉討兀 čöči·mtaḷ'ū (驚怕) こわがる。一47二

綽黑台 čög·tai (固姑) 女性の帽子の羽毛の束の付いた。三24八

\*擗中裕里兀勒- čogoli·'ūl- (推倒) 打ちこわす。[čogoli- の使役形]

-周 -ju 三24八

綽舌兒中罕 čorqan (ナシ) 覆われた, かぶせられた。三24八

\*出不舌里兀勒- čuburi·'ūl- (教溜, 流, 流出) [čuburi- 'したたる' の使役形]  
-周 -ju 四9三; 六13九; 14一, 三, 34三

出不舌里兀命 čuburi·'ūl·u·n (教漏) [čubri·'ūl- の同時接合副動詞形] 八37六

\*出察勒- čučal- (卸了) ほどく。  
-周 -ju 二23六

出黑台 čüg·tai (束的) 束ねた。一12二, 14四

\*出黑刺- čulga- (束) 束ねる。  
-周 -ju 一12一

出舌刺麻 你出棍 čurama ničügün (赤裸) 真っ裸。四39八

充 čung (鍾) 酒を貯める大きな器。六34十, 35二

\*出卜秃思- čüb tus- (猛投, 沉落) 沈む, おぼれる。  
-抽 -čü 八3四; 二39三

\*出出- čüčü- (指) つつく。  
-周 -ju 二23三

## d

\*荅阿- da'ā- (当, 儘力掌) 持ちこたえられる, 耐える; しみこむ。

-周 -ju ㄊ12九

-中灰阿察 -quī-'ača ㄊ6六

-恢[→中灰]阿察 -küi[→qui]-'ača ㄊ7二

荅阿中罕 da'āca·n (二歳駒) 二歳の馬。五4二

荅阿舌里 da'āri (瘡) 鞍傷。

-秃 -tu ㄊ15七, 16四

\*荅阿舌里- da'āri- (經過, 撞譏諷) 通りかかる, 攻める, おそいかかる, 壊す。

-阿楊 -'ād ㄊ3八九; 五11六

-罷 -ba ㄊ32七

-周 -ju ㄊ18九, 19六, 20九; ㄊ3六六, 七, 13十; ㄊ37七; ㄊ1七, 3九

荅阿舌鄰 da'āri·n (經過, 撞) [da'āri- の同時接合副動詞形] ㄊ313三, 25二, 三; ㄊ

2三, 六; ㄊ31六; ㄊ3八, 4一; ㄊ18七, 九

\*荅阿舌零- da'āring- (譏諷) そしる。

-中忽 -qu ㄊ4四, 六

\*荅阿兀魯- da'ā'ül·u- (烙透) [da'ā- 'しみこむ' の使役形]

-阿楊 -'ād ㄊ614四

荅ト赤 dabči (羔子) 弦のゆるんだ弓。

-秃 -tu ㄊ4五九

荅ト中忽舌兒 dabqur (重, 層) 重なった, 二重の。五38七; 七37八; 十7九

\*荅ト失- dabši- (拍) 足でたたく。

-恢[→中灰]空舌兒 -küi[→qui]-dur ㄊ35八

\*荅ト塔- dabta- (盪到) 鉄を鍛える; 何回もくりかえす。

-黒三 -gsan ㄊ736七

荅ト塔馬勒 dabta·mal (築到的) 重ねられた。ㄊ32三

荅ト秃阿舌兒 dab·tu'ār (第五) 五番目の。十12八, 13一

\*荅巴- daba- (過, 越過, 越) 越える。

-阿速 -'āsu ㄊ943一

-罷 -ba ㄊ38一

-黒撒的 -gsad-i ㄊ89一, 二

-周 -ju ㄊ43十; ㄊ2四, 4三; ㄊ6十; ㄊ1四, 2六, 18十; ㄊ20十

-中渾 -qun ㄊ934五

-塔刺 -tala ㄊ36九

荅巴 dabā (同上) 同上。(<→daba'ā)

-阿舌兒 -'ār ㄊ1四

荅巴阿 daba'ā (嶺) 嶺, 峠。八7六; ㄊ12六, 20七 (<→daba'ān)

荅巴阿楊 daba'ā·d (嶺每) [daba'ā の複數形] ㄊ2六

荅巴阿勒(→楊) daba'ā·d (同上) [同上] ㄊ37十

荅巴阿泥 daba'ān·i (嶺行) [daba'ān の対格形] ㄊ1六

荅巴安 daba'ā·n (嶺) (同上) (<→dabā, daba'ā) 四45六

\*荅巴兀魯- daba'ül·u- (教過) [daba- の使役形]

-楊中渾 -dqun ㄊ12六

荅巴兀倫 daba'ül·u·n (過, 越過, 教越過) [daba'ül- の同時接合副動詞形] 五28四;

六28六, 七27二

荅班 daba·n (越) [daba- の同時接合副動詞形] 五28三; 八7七; ㄊ20八, 36九

\*荅都- dad·u- (慣) 慣れる。

-黒三 -gsan ㄊ3六

荅子 dadz (金) 閃緞。四17三

\*荅勒- dal- (解) ほどく。

-周 -ju ㄊ29四

荅勒巴舌魯 dalbaru (打破, 劈開) ぐさぐさに打ち壊して。九47九; ㄊ29二; ㄊ38三

\*荅勒必- dalbi- (放下) 置く。

-周 -ju ㄊ46十

荅勒荅 dalda (遮護) 保護物; 隠れて。八46七

-荅 -da ㄊ35二

\*荅勒荅楊- dalda·d- (隠) かくれる。

-抽 -ču ㄊ9七, 八

\*荅勒荅舌里- dalda·ri- (躲避) 逃げかくれる。

-黒撒你顔 -gsan-iyān ㄊ29二

荅来 dalaḯ (海) 海。十40三; ㄊ18五

-突舌兒 -dur ㄊ7四

-因 -yin ㄊ52五

荅闌 dalan (七十) 七十。四4十; 七18十, 19七, 21八; 八19六; 九31四; 十2七

荅黒台 daḡtaḯ (樺皮小桶) 樺の皮で作った容器。

-突舌兒 -dur ㄊ63三

\*荅中合- daga- (隨) 従う。

-周 -ju ㄊ20八; ㄊ24八; ㄊ52七

\*荅中合兀勒- daga'ül- (教隨) [daga- の使役形]

-周 -ju ㄊ932七, 九, 33一; ㄊ8四

(○) \*荅中合温勒- daga'ü(n)l- (隨) [同上]

-周 -ju ㄊ50一

荅中忽 daqu (襖子, 皮襖) 毛皮の外衣。二39二, 十; 三1八; 五13六

-宜 -yi ㄊ239二

- 因 -yin 二40一, 二; 三1十, 2一, 四, 六
- \*蒼舌兒巴勒札- darba·lǎa- (揺閃) 揺れる。  
-中仄空舌兒 -quǐ-dur 三5九
- 蒼舌兒巴安 darba'an (招) 招き (?), 招集 (?). 九17四
- 蒼舌兒蒼思 darda·s (渾金段子, 綉金) [darda '緞子' の複数形] 十13二, 五; 三27一
- 蒼兒吉 dargi (ナシ) [毛色を強調する語] 鮮明な。二28一, 二, 七
- 蒼舌兒中合楊 darqa·d (自在毎) [darqan '租税などの免除の権利を与えられた人' の複数形] 九25七
- 蒼兒(中)罕敦 darqa(n)·d·un (自在的) [darqa(n)d の属格形] 一32一
- \*蒼舌兒中合刺- darqa·la- (自在, 教自在) 租税などを免除され自由に暮らす。  
-屬(中)渾 -dqun 九24六  
-屬中渾 -dqun 九24八  
-舌倫 -run 九25八  
-速 -su 九24三, 四
- 蒼舌兒中合蘭 darqa·la·n (自在, 做自在) [darqala- の同時接合副動詞形] 三39十; 七3一; 八42一; 九26四
- 蒼舌刺速納 darasu·n·a (酒行) [darasun '酒の一種' の与位格形] 三56三
- 蒼(舌)魯阿 daru'ā (常川) いつも。一26三
- 蒼舌魯察 daruča (隨即) 後ろからつづいて。二46六
- \*蒼舌魯察- daruča- (緊隨, 緊逐, 相隨, 相庄) すぐ後ろからつづく。  
-周 -ju 三15三; 七24三, 43四; 三2三
- \*蒼舌魯- daru- (勝, 壓) 庄する, 勝つ。  
-阿速 -'āsu 五17六  
-罷 -ba 六8六, 9三; 三2二  
-周 -ju 五18一; 六8六, 9一, 三, 五, 九; 八43七; 九1三, 47八; 十43一; 三2四, 4七, 13三, 38七, 八, 十, 39二; 三5七, 20十, 42六  
-主兀 -ju'ū 八4十  
-中忽 -qu 四27四
- \*蒼(舌)魯- daru- (勝) 同上。  
-罷 -ba 六8十
- \*蒼舌魯黑蒼- daru·gda- (被勝, 被庄) [daru- の受動形]  
-阿速 -'āsu 三4十  
-罷者 -ba·je 八20八
- \*蒼舌魯中合刺- daruga·la- (提調) 司どる, 長となる。  
-黑撒楊 -gsad 十5四  
-周 -ju 十5一  
-秃中孩 -tugaǐ 十4十; 三39九
- \*蒼舌魯中合刺黑蒼- daruga·la·gda- (同上) [darugala- の受動形]
- 黑撒楊 -gsad 十5二
- 蒼舌魯兀倫 daru·'ūl·u·n (教鎮) [daru- の使役・同時接合副動詞形] 八42二; 三30三
- 蒼舌倫 daru·n (庄, 勝) [daru- の同時接合副動詞形] 二11六; 四27六; 五17六; 十9十, 10二, 29六
- 蒼兀 da'ū (話) 声; 話。三3四
- 蒼温 da'ū·n (同上) [ta'ū- '追いつづける; ~しつづける' の同時接合形] 十29九
- \*蒼兀勒- da'ūl- (分付) 手渡す。  
-周 -ju 九47五
- \*蒼兀里- da'ūli- (擄掠) 掠める, 襲う, 奪う。(<→daǰ'ūli->)  
-周 -ju 四16三
- \*蒼兀思- da'ūs- (盡) 尽きる, 終わる。(<→daǰ'ūs->)  
-中忽 -qu 二24十; 八37十  
-塔刺 -tala 八37七
- 蒼兀思中罕 da'ūs·qa·n (教盡) [da'ūs- の使役・同時接合副動詞形] 三5一
- 蒼兀孫 da'ūs·u·n (受) [da'ūs- の同時接合副動詞形] 五14五
- 蒼亦訥 dayi·n·u (敵的) [dayin の属格形] 四34三
- 蒼亦舌兒 dayir (大) 大きな。十40三
- 蒼因 dayi·n (敵, 敵人, 敵的) 敵。三14三; 四34一; 六8四 [dayisun の複数形]  
-突舌兒 -dur 三43二
- \*歹只- daiji- (反) そむく, 背を見せる。(<→daiyiji->)  
-周 -ju 六26四
- 歹真 daiji·n (同上) [daiji- の同時接合副動詞形] 三19六; 七43六
- 歹孫 dai·su·n (敵) 敵。十30八
- \*歹亦只- daiyi·ji- (反, 反走) そむく, 逃げる; 背を向ける。  
-黑撒楊 -gsad 三7六  
-周 -ju 三18二; 六17一; 七5四; 八1六, 2二, 五
- 歹亦只(黑)赤 daiyi·jigči (反的) 敵対的な, 敵対を好む。三5九
- \*歹亦只兀勒- daiyi·ji·'ūl- (反了, 教驚) [daiyiji- の使役形]  
-罷 -ba 三40四  
-周 -ju 七11三
- 歹亦真 daiyi·ji·n (反, 入, 驚反) [daiyiji- 同時接合副動詞形] 五14五; 六30三; 八4八, 5二; 三38二
- 歹亦泥 daiyi·n·i (敵行) [dayin の対格形] 三2二
- 歹亦訥 daiyi·n·u (敵行) [dayin の属格形] 六2三, 14九
- 歹亦速 daiyi·su (反) 敵, 反逆。五26三 (<→daiyisun)
- 歹亦速納 daiyi·su·n·a (敵行) [daiyisu(n) の与位格形] 五25十
- 歹亦速訥 daiyi·su·n·u (敵的) [daiyisu(n) の属格形] 六14六
- 歹亦速百兒中罕 daiyi·su·r·qa·n (做敵人) [daiyisur·qa- の同時接合副動詞形] 三31

十, 34九

\*歹亦速舌兒中合- daiyi·su·r·qa- (反做) 敵対する, 逆らう。

-黒撒你顔 -gsan·iyān 四50三, 五

歹亦孫 daiyi·su·n (敵, 敵人) 敵。四19七, 43七, 50二; 五17五; 六14六, 36五; 八45

四, 46七; 十1十; 十一5二; 十二17十

-突舌兒 -dur 四19七; 五37二; 九12二

-突(舌)兒 -dur 九25八

歹因 daiyi·n (敵, 敵人) 敵。〈→dayin〉 八39四; 六2四, 五; 十一46十, 47一

-突舌兒 -dur 六36三; 七3一

丹突舌兒 dan·dur (您行) あなたたちに。[tan の与位格形] 四42二, 五

当刺速訥 danglasu·n·u (土塊的) [dangla·sun ‘土の山’の属格形] 十40三

\*倒里- daqli- (擄, 虜, 擄掠) 襲う, 掠め奪う。

-阿楊 -'ād 十一52四

-罷 -ba 三13九, 14一

-周 -ju 三1五; 八1二; 十一39七

\*倒里黒蒼- daqli·gda- (被虜, 被擄) [daqli- の受動形]

-罷 -ba 六30五

-舌命 -run 七45六

倒鄰 daqli·n (擄了) [daqli- の同時接合副動詞形] 五19三, 24八

倒兀 daq'ū (話) 声, 話。六21一

擣兀 daq'ū (聲) 声。一37八; 二22十; 三5八, 15七; 六41六; 八6六; 十一35六

-阿舌兒 -'ār 四45八; 五3四, 4七

-巴兒 -bār 一37九

-巴舌兒 -bār 四7七

-把兒 -bār 二18五

-班 -bān 六46一

-秃 -tu 三7九, 8四, 26八

\*倒兀里- daq'ūli- (擄, 虜, 擄掠, 搶) 〈→daqli-〉

-阿楊 -'ād 四36十

-罷 -ba 四19十; 五18二; 七45五; 八44八; 十20二

-周 -ju 一23三, 40六; 五1二, 13五, 十, 27七, 32七, 八; 六28一, 29十;

七4一; 十一12三, 26二, 27九, 29二

-主為 -ju'ūi 十一38一

-中灰突舌兒 -quī-dur 六36五

倒兀隣 daq'ūli·n (擄掠) [daq'ūli- の同時接合副動詞形] 三15三

\*倒兀里黒蒼- daq'ūli·gda- (被擄, 被虜) [daq'ūli- の受動形]

-罷 -ba 五33八

-黒三 -gsan 一48二 (擣兀里黒蒼黒三)

-周 -ju 五33六

-舌命 -run 五25十; 十一22四

\*擣兀舌里思- daq'ūris- (震動) 響きわたる; 共鳴する。

-塔刺 -tala 一37八

\*倒兀思- daq'ūs- (畢, 盡) 終わる, 尽きる。

-罷 -ba 十一58七

-抽 -ču 七21四

倒兀孫 daq'ūs·u·n (受) [daq'ūs- の同時接合副動詞形] 二9九, 12五; 六26四

擣温 daq'ū·n (聲) 声, 話。七10一, 六; 九15五, 17四 〈→daq'ū〉

-突(舌)兒 -dur 九14五

\*迭ト薛- debse- (跳躍, 喜躍) おどりはねる。

-罷 -ba [→be] 一39六

-古 -gū [→kü] 八39六

迭(ト)先 debse·n (跳躍) [debse- の同時接合副動詞形] 一39三

迭ト帖舌兒 debter (冊) 小冊。八31二

\*迭ト帖舌兒列- debter·le- (造冊) 綴じ合わせて小冊にする。

-克薛泥 -gsen·i 八31五

-周 -jū 八31二

\*迭不勤- debül- (沸) 沸き立つ。

-中灰 [→恢] -quī [→küi] 十一35八

\*迭不思- debüs- (鋪) 敷く。

-抽 -čü 十一25九

迭額克石 de'ëgši (往上, 向上) 上へ。四35六; 六21七; 七39二

\*迭額只列克迭- de'ëjile·gde- (崇上) 尊敬される。[de'ëjile- の受動形]

-古 -gū [→kü] 一46十

迭額勒 de'ël (衣服, 衣裳) モンゴル服。〈→degël〉 一20九; 四39七

-秃 -tü 三23十; 四45七

綏額勒 de'ël (衣服, 衣) 同上。九20二 〈→degël〉

-台 -tai [→tei] 三20八

迭額里顔 de'ël·iyān [→iyēn] (衣裳自的) [de'ël の再帰格形] 三7十

迭額命 de'ël·ün (衣服) [de'ël の属格形] 十一12七

迭額兒篋 de'erme (劫賊) 略奪, 強盜。二27九, 28四

\*迭額兒篋- de'erme·d- (劫) 略奪する, 強奪する。

-抽 -čü 二27九

\*迭額舌兒篋- de'erme·d- (搶, 被搶) 同上。

-抽 -čü 四2九, 十

\*迭額舌兒篋帖- de'erme·d·te- (被劫) [de'ermed- の受動形]

-周 -jū 八35一



\*迭額舌兒篋都- de'ërme·d·ü- (劫, 搶劫) <→de'ërmed- >

-克先 -gsen 八36一

-(舌)列 -re 四2七

\*迭額舌兒篋都勅扯- de'ërme·d·ü·lče- (共劫) [de'ërmed- の相動詞形]

-克辭訥 -gsen·ü 八21十

迭額舌兒篋敦 de'ërme·d·ü·n (劫) [de'ërmed- の同時接合副動詞形] 八36三

迭額舌列 de'ëre (上, 高, 上面, 在上) 上に。一1三, 3八, 8二, 37六, 43六; 二6十, 9六, 17三, 50六, 九; 三6五, 38七, 46三; 四3二, 27六, 八, 35八, 45六; 五2七<sup>2</sup>, 22八, 38七; 六8九, 9八, 九, 12五, 16二, 25八; 七9五, 11四, 六, 15三, 23五, 27六, 39十, 43二; 八10十, 12三, 37六, 38三, 39十, 41八; 九16六, 20三, 36四, 38五, 45一, 三, 48三; 十19十, 41二; 十一5八, 7五, 17九, 22十, 23三, 39七, 46四, 六, 56二

-額徹 -eče 六35九; 九19十

-因 -yin 八30十

-顔 -yān[→yēn] 一37六

-延 -yēn 七43三

迭額舌列扯 de'ëre·če (上自) [de'ëre の奪格形] 一3八, 36一; 二50二; 三13八

迭額舌列徹 de'ëre·če (上処) [同上] 四49三, 五, 八; 七43二; 十20一; 十一28四

\*迭克迭- degde- (騰起) わき起こる。

-克先 -gsen 三35七

迭格勅 degēl (衣服) モンゴル服 <→de'ēl >

-秃 -tü 六39五

迭格温 dege'ün (従上, 上, 上経過) 上方を。九48五, 七, 49三; 十29七; 十一38八, 39一, 三

迭勒 del (繫) 馬のたてがみ。四3二

迭勒別格迭扯 delbege (繩索行) 車につけられた馬の手綱

-迭扯 -deče 一37一

迭勒堅 del·ge·n (展開) [delge- '広げる' の同時接合副動詞形] 七23七, 24七

迭勒格舌兒 del·ger (寛洪) 広い, ひらかれた。十一27三

\*迭列揚- deled- (打) 打つ。

-罷 -ba [→be] 三7九, 8四

-抽 -čü 一35二, 36三; 八10七

\*迭列都- deled·ü- (打) 同上。

-額揚 -'ēd 二17七, 46三; 七30一

迭列該 delegej (天下, 寛) 世の中。八18五; 十一35九

迭列篋 deleme (造次, 泛濫) でたらめに。一13四; 五48五

\*迭里-<sup>①</sup> deli- (拽) 矢を引く。

-周 -jü 七38二<sup>2</sup>, 五, 六, 七

迭里<sup>②</sup> deli (許罷) 然り, よし。<→teli > 十24七

迭篋徹 dem·eče (応行) [dem '助け' の奪格形] 九17五

迭篋塵 demeče·n (争) [temeče- '争う' の同時接合副動詞形] 四36五

\*迭兒別魯- derbel·ü- (顛動) 揺れる。

-梅 -mūj 二42七

迭舌兒格 derge (根前) 傍。十一35八

迭兒格迭 derge·de (同上) 同上。一48八; 二27八

迭舌兒格迭 derge·de (同上) 同上。四50九; 九32五, 33二, 34六; 十9七, 26一; 十一29五, 32五, 48一; 十二2八, 九, 23四

-延 -yēn 八29三; 九2一

迭(舌)兒格迭 derge·de (同上) 同上。九34九

-温 -'ün 六1三 傍を。

\*迭兒格扯- derge·če- (傍) 沿う, 傍によりそう。

-周 -jü 一37二, 十

迭舌兒格纏 dergeče·n (並) [dergeče- の同時接合副動詞形] 四47一

\*迭舌兒篋勅帖- dërme·d·te- (却擄) 略奪される。[→de'ërme·d-]

-周 -jü 十18四

迭舌列 dere (墊背, 藉, 枕背) もたれ, 枕。五3二, 20八

-突(舌)兒 -dür 十一25八

-秃 -tü 六46二

\*迭舌列列- dere·le- (枕) 枕にする, 寄りかかる。

-周 -jü 十一25九

-古訥 -gün[→kün]-ü 八38五, 40三

\*迭舌列勅古- derelgü- (翻旋) 次々に進み退く。

-古 -gü [→kü] 六3五

迭舌列速訥 deresü·n·ü (蓆棘草的) [deresün 'はやがね草' の屬格形] 十一9五

迭兀 de'ü (弟) 弟。一11一, 28三, 37二; 二5五, 8二, 19七, 36十; 三2八, 十, 4十, 10八, 12九, 17七, 十, 34四, 七, 十, 44十, 45二, 46一; 四2五, 17七; 五11一, 47十; 六4六, 6一, 23十, 38四, 39一; 七1五; 八29六, 31七; 九8九, 22二, 32七; 十一47六, 48一, 57五

-遣 -bēn 一34八; 四3八

-迭 -de 三2八, 4九; 六38三; 九23三

-迭扯 -deče 三5一

-迭徹 -deče 十一57七

-迭延 -deyēn 一4五; 二19一; 八29七; 九23三

-突舌兒 -dür 四9六, 八

-魯額別顔 -lü'e-beyēn 一3七

-顔 -yān[→yēn] 九9一, 二, 22五

- 耶顔 -yeyān[→-yeyēn] 二8五  
 -宜 -yi 五13二, 41一; 九32八, 33一  
 -因 -yin 二9九, 12五  
 -余延 -yüyēn 一4六, 18七; 五31二; 九22三; 三14三  
 迭兀捏兒 de'ü·ner (弟每, 兄弟每) [de'ü の複数形] 一14十, 22二, 五, 23三; 二8三, 13七, 35八, 44四, 46十, 47一; 五12十  
 迭兀捏舌兒 de'ü·ner (弟每) [同上] 三33八, 十, 34三, 35一; 五2四, 八, 3四, 4六, 八, 36四; 八19八; 二21九; 三23一, 52一, 二  
 -禿 -tü 八19五  
 -途舌兒 -tür 十43四  
 迭兀捏舌列 de'ü·ner·e (弟每行, 弟行) [de'ü·ner の与位格形] 八30二; 十22七; 三21五  
 迭兀捏舌列徹 de'ü·ner·eče (弟内, 兄弟内) [de'ü·ner の奪格形] 五15七; 三37一  
 迭兀捏舌里 de'ü·ner·i (兄弟每行, 弟每行) [de'ü·ner の対格形] 五2五; 七19二; 十36八, 37四  
 迭兀捏舌里顔 de'ü·ner·iyān[→yēn] (弟每自的, 弟自的, 弟姪每自的) [de'ü·ner の再帰格形] 一49四; 二21一, 23二, 25七; 五9九, 15七; 六23八, 24二; 十37七; 三24七  
 迭兀捏舌命 de'ü·ner·ün (弟的每, 弟每的) [de'ü·ner の属格形] 八29七; 十22十, 43五  
 迭兀赤連 de'ü·čile·n (做弟) [de'ü·čile- '弟として扱う' の同時接合副動詞形] 八29三  
 \*迭兀兒- de'ür- (駄) 馬の背に物を積む。  
 -別 -be 二43九  
 點 dem (次序) 順序; 助け。六3五  
 \*登格扯- denggeče- (齊等) 並ぶ。  
 -坤 -kūn 十44九  
 登格纏 denggeče·n (齊等, 比肩) [denggeče- の同時接合副動詞形] 八31八; 九45四; 十43九  
 丁 ding (ナシ) 安心して。六21六  
 \*多ト禿勒- dobtul- (衝) 突進する, 攻める。  
 -罷 -ba 六8七, 9二, 四  
 -都中孩 -dugaj 六4四  
 -周 -ju 六8六, 八, 十; 八43五; 三2一, 13二  
 -恢[→中灰]突兒 -kui[→qui]-dur 六12三  
 -中忽 -qu 二11六, 八, 12三; 六9六, 19一  
 \*朶ト禿勒- dobtul- (衝) 同上。  
 -周 -ju 四49九, 50一  
 \*朶(ト)禿勒- dobtul- (走馬) 同上。二30八  
 多ト禿來者 dobtul·ai·je (衝也者) [dobtul-+ai+je] 六4五

- \*多ト禿魯- dobtul·u- (衝) <→dobtul- >  
 -黑三 -csan 五17八  
 \*多ト禿勒都- dobtu·ldu- (衝) 衝き進む, 突進する。[dabtul- の対動形]  
 -牙 -yā 六16六  
 \*多ト禿勒中罕- dobtul·ca- (教衝) [dobtul- の使役形] 六3十, 4一, 二  
 多ト禿勒中罕 (衝的) dobtul·gan  
 -突舌兒 -dur 五17九  
 \*多乞- doki- (楮點) 合図する, うなづく。  
 -周 -ju 二32六  
 朶羅安 dolo'ān (七箇, 七) 七。一27一, 30四, 六, 32六, 33四, 36九, 41七; 四6三, 25四, 28六; 五13四; 九42三, 六; 十26十, 27二, 三, 34四, 八, 35八, 38四, 五; 三51九; 三44三, 六, 58六  
 朶羅阿訥 dolo'ān·u (七箇的) [dolo'ān の属格形] 十27一  
 朶羅都阿舌兒 dolo·du'ār (第七) 七番目の。三52七  
 朶抹黑赤 domog·či (好長話) おしゃべり好きの。八19九  
 多舌兒中忽惕 dorgud (未完) 支配下に入れずに(?)。三19九  
 多舌兒中忽惕(→惕) dorgud (同上) 支配下に入れずに(?)。三15五  
 \*朶舌刺亦塔兀(勒)- dorayi·ta·'ül- (服下) [dorayita- '屈服する' の使役形]  
 -周 -ju 四26二  
 \*多舌來蒼兀勒- doraj·da·'ül- (屈下) [dorajda- '屈服する' の使役形]  
 -周 -ju 七3七  
 \*多舌來亦塔兀勒- dorajyi·ta·'ül- (同上) [dorajyita- '屈服する' の使役形]  
 -周 -ju 七1二  
 \*朶舌來蒼兀勒- doraj·da·'ül- (壓服下) [dorajda- '屈服する' の使役形]  
 -周 -ju 九12五  
 \*朶舌藍只刺- dora(n)·mji·la- (下覷) 輕蔑する。  
 -周 -ju 一7八; 五46四  
 \*朶舌藍只刺黑蒼- dora(n)·mji·la·cda- (同上) [doramjila- の受動形]  
 -中忽 -qu 一46八  
 朶舌藍只闌 dora(n)·mji·la·n (下覷着) [doramjila- の同時接合副動詞形] 五39五  
 朶舌羅 dorō (下) 下に。二24七; 五23十; 六13六; 七28十; 九4七; 十4八; 三23一, 39八  
 朶舌羅黑短 dorō·gši (往下) 下へ。四35六  
 朶(舌)羅温 dorō'ūn (暗地) ひそかに。六5二  
 \*朶舌羅亦惕蒼兀勒- doroyi·dda·'ül- (教屈下) 屈服させる。  
 -周 -ju 三44十  
 \*朶舌羅亦塔兀魯- doroyi·ta·'ül·u- (同上) 同上。  
 -黑三突舌兒 -csan-dur 三45四  
 多舌羅木只 dorō·mji (下等) 下等な(人間)。

-阿察 -'ača 七34七, 35十  
 朶舌羅木真 dorom·ji·n (同上) 同上。七10五  
 朶舌羅納 dorona (東行) 東に。六20十, 21一; 七11一, 13十; 九13七  
 -只 -ji (東辺) 東側の。六18七; 七31六  
 朶脱阿只 doto·'ā·ji (袴) 下ばき。  
 -秃 -tu 四39七  
 朶脱黒石 doto·gši (往裏) 中へ。三38一  
 朶脱申合 dotoGa (門額) モンゴル包の戸口の上部の空間。  
 -因 -yin 一13一  
 朶脱納 doto·na (裏行) 中に。九34九; 三15二  
 朶脱舌刺 doto·ra (内, 裏) 中に, 中で, 体内。一4二; 8三, 10一, 11二, 33五, 48  
 八, 49三; 二7六, 八, 15一, 17八, 24十, 27三, 37六, 42六, 46八, 47  
 二; 三42三, 46五, 49一; 四24三, 七, 十, 40八; 五12三, 26一; 六27七;  
 八27七, 27十, 33六; 九19十; 十1五, 十, 35三, 36二; 三14十, 23十  
 -安 -'ān 四39四, 47八; 五25一, 39六  
 -班 -bān 二21八  
 -察 -ča 四9四, 25七; 三15五  
 朶脱舌列[→舌刺] doto·re[→ra] (内) 同上。三10三  
 朶脱(舌)刺 doto·ra (内) 同上。四43九  
 朶脱舌刺温 doto·ra·'ūn (裏面) ~の中に。四39八  
 \*朶脱舌兒刺- doto·r·la- (做裏兒) 衣服に裏地を付ける。  
 -黒三 -gsan 四17三  
 \*多汪中豁- do'ongGod- (作聲) 声を出す。(<→dungGot->  
 -巴 -ba 一21三  
 \*多牙- doya- (整治) 整える。  
 -速 -su 三46四  
 朶臣 dōči·n (四十) 四十。六23七  
 \*朶列思格- dōlesge- (越関) ~に乗ずる(?)。  
 -古 -gū [→kü] 三56八  
 \*朶魯思格- dōlüs·ge- (散) 散り散りにする。  
 -周 -jū 六21七  
 朶魯思古- dōlüsgū- (越関) <→dōlesge->  
 -周 -jū 三31三  
 朶兒別兀列 dörbe·'ūle (四箇) 四人で。一15一  
 朶兒邊 dörbe·n (四, 四人) 四。一7五, 七, 九<sup>2</sup>, 31四, 41五; 二7五, 七  
 朶(舌)兒邊 dörbe·n (四, 四箇) 同上。四34七; 五34二; 六31四; 九1十  
 朶舌兒 dörbe·n (四, 四箇, 四班, 四件) 四。五33五, 34一, 四, 九; 六30五, 八,  
 九, 31一; 七33六, 八, 34五, 六; 八48一; 九1四, 九, 4九, 5一, 19

五, 36七, 40九, 41六; 十23六, 31五, 37五; 三21四; 三42三, 九, 十,  
 55十, 57八, 九  
 朶舌兒別泥 dörben·i (四箇行) [dörben の対格形] 四24十; 十25七  
 朶舌兒邊泥 dörben·ni (同上) [同上] 三47三  
 朶(舌)兒邊泥 dörben·ni (同上) [同上] 九11二  
 朶舌兒篋該 dörmegei (下等) 下等な人間。三31七, 32四  
 朶舌列卜赤 döre·bči (環子) 鼻輪。  
 -秃 -tü 四17三  
 \*朶舌劣- dörö- (生) 生れる。(<→töre-, törö->  
 -克先 -gsen 六39九<sup>2</sup>  
 朶舌劣 dörö (道理, 体制) 道理, 体制。(<→töre, törö) 三50六; 三57三  
 朶帖連 dōtele·n (超直) [dōtele- '近道を進む' の同時接合副動詞形] 三6三  
 \*朶脱列- dōtöle- (抄直) 近くなる。  
 -克先 -gsen 十31六  
 朶宜 dōyi (妹子) 妹。五38七 (<→düiyi)  
 朶亦篋- dōyi·med (次女) 次女。七1七  
 都舌刺 dura (心, 意) 心。五39七, 40一; 六33三; 三10九  
 -阿舌兒 -'ār 六52八; 三40三  
 -秃 -tu 四42三  
 都舌闌 dura·n (心) 同上。五44五; 六14三; 三24九  
 \*都舌刺- dura·d- (想) 想う。  
 -拙 -ču 一48二; 八20十  
 \*都舌刺中合- dura·d·qa- (提説) [durad- の使役形] 提言する。  
 -阿速 -'āsu 七24四; 三6一; 三49七  
 -罷 -ba 三22一  
 -黒三 -gsan 三21六; 三11三  
 -周 -ju 三32五; 三23五  
 -主為 -ju'ūj 三50八  
 -中忽 -qu 三23七  
 -舌論 -run 七23五; 三4四  
 都舌刺中罕 dura·d·qa·n (提) [dura·d·qa- 同時接合副動詞形] 三20七; 三2四, 33  
 二  
 \*都舌刺中合動都- dura·d·qa·ldu- (共提説) [durad·qa- の対動形]  
 -周 -ju 八14七  
 都舌刺都勳辱 dura·d·u·lča·n (共想着) [durad- の相動・同時接合副動詞形] 三25六  
 \*都塔- duta- (闕, 缺少) 欠ける, 不足する。  
 -罷 -ba 三43十  
 -塔刺 -tala 七4一

\*都塔兀魯- duta·'ül·u- (缺少) [duta- の使役形]

-阿速 -'äsu 五5三, 四

都塔兀命 duta·'ül·u·n (教缺了) [duta·'ül- の同時接合副動詞形] 九9七, 八

\*都塔阿- duta'ä- (走, 逃, 逃走) 逃げる。

-罷 -ba 一36四; 四20一

-周 -ju 一36三; 二14二; 八36三

-主兀 -ju'u 三19六

都塔安 duta'ä·n (逃) [duta'ä- の同時接合副動詞形] 三14六

都塔兀 duta·'ü (缺少) 欠けている。八28四, 五

-余安 -yu'an 九25六

都塔兀納 duta·'ün·a (乏的行, 缺行) [duta'ü(n) の与位格形] 五47六, 52七

都塔為 duta·'üi (缺少) <→duta'ü>

-班 -bän 九25三

\*都兀勅中合- du'ülqa- (宣諭) 聞かせる, 宣諭する。

-中灰 -quj 三37一

都兀勅中罕 du'ül·qa·n (同上) [du'ülqa- の同時接合副動詞形] 五46四

\*都牙勅- dural- (觀躍) 喜んで躍りあがる(?)。

-周 -ju 七34九

都牙勅 dural·u·n (同上) [dural- の同時接合副動詞形] 七35八

敦荅 dunda (中, 中間, 半朶, 半朶) 真中の, 中間に。一3四, 22八, 23六; 三30五; 五24十; 十27五; 五52三

敦荅都 dunda·du (中間, 中間的) 真中の, 中間の。一33四; 十27一

\*董中豁惕- dungGod- (作聲恠, 恠青) 声を出す。

-罷 -ba 五17二

-抽 -ču 十44三; 五40五

-中忽因 -qu-yin 六7八; 五22五

\*董(中)豁惕- dungGod- (作聲) 同上。

-罷 -ba 十23二

\*董中豁都- dungGod·u- (作聲, 恠, 恠責, 恠) 同上。

-阿 -'ä 三31二

-埃 -'äi 十36一; 五35五

-木 -mu 二34九; 五46九

-舌命 -run 十43九; 五46一; 五34二

董中豁敦 dungGod·u·n (恠責) [dungGod- の同時接合副動詞形] 十44四

堆亦 düiyi (妹子) 妹。<→döyi>

-邊 -bän 二23八

都列惕 düled (越, 愈) ずっと, ますます。六4十; 五21八, 22五

都里 düli (半) 夜ふけ; 昼すぎ。四39二, 四

-迭 -de 六28三

都《舌》里 düli (午) 同上。六1八

\*都里- düli- (兼行) (夜を) 徹する。

-額惕 -'ed 二33四; 六50九

-周 -ju 二33四; 三33六

-耶 -yē 三16三

都鄰 düli·n (同上) [düli- の同時接合副動詞形] 三14三, 31八, 32六; 十28八

\*都里勅都- düli·ldü- (共兼行) [düli- の對動形]

-周 -ju 三33九

\*都里里格- dülili·ge- (兼行, 兼行兼行) (夜を) 徹する。

-周 -ju 六50七; 三3三

\*都舌兒別- dürbe- (忙走, 忙起, 忙着行) 逃げまどう。

-克薛惕 -gsed 四45四

-周 -ju 三15一, 二, 四, 16四; 四38二

-坤 -kün 三15六; 四45五

-舌命 -rün 三23八

-《舌》命 -rün 四39十

都舌兒別兀命 dürbe·'ül·u·n (忙走) [dürbe- の使役・同時接合副動詞形] 四37五

都舌里 düri (白身) 普通の, 一般の(子弟, 人々) <→dürü>

-因 -yin 九32四, 十, 33九

都舌魯 dürü (同上) 同上。<→düri>

-因 -yin 七19二

\*都舌魯- dürü- (入, 投) 入れる。

-周 -ju 二13十; 九11四

\*都兀舌兒- dü'ür- (満) 満ちる。

-抽 -ču 八41九

\*都兀舌兒格- dü'ür·ge- (教満) [dü'ür- の他動詞使役形]

-周 -ju 九37七; 九38五

-速 -sü 三45八, 九

-禿該 -tügei 九36四

都兀舌兒堅 dü'ür·ge·n (同上) [dü'ür·ge- の同時接合副動詞形] 九31十

都兀舌連 dü'üre·n (満) いっぱいに, 満ちた。八21三; 五31八, 32五

都兀舌良 dü'üre·ng (満) いっぱいに。四25八<sup>2</sup>, 39三

都兀申 dü'üşin (黄昏) たそがれ。二32八

## g

\*格- gē- (撤, 棄, 委, 弃) ずてる。

-罷 -ba[→be] 六49九; 七8一

-楊坤 -dkün 四22五, 十, 23三; 五26六; 八22八

-楊冲[→坤] -dkün 八9十

-額楊 -'ēd 六1四

-(克)薛泥 -gsen-i 四17一

-周 -jū 一7八; 二3二, 六, 4九, 5六; 三44一, 四; 六26二, 45一; 七6七,  
7六; 七2六

-木 -mü 二21二, 四

-速 -sü 六35五<sup>2</sup>

\*格卜帖- gebte- (臥) 横たわる。〈→kebte-, →kebde-〉

-額速 -'ēsü 八20四

-周 -jū 九47七

-木 -mü 六46二; 十40一

格卜田 gebte·n (同上) [gebte- の同時接合副動詞形] 四41九; 七24四

\*格赤乞列- gečikile- (踐踏) 踏みつづける。

-中灰[→灰] -quī[→küi] 七30一

\*格赤乞兀勒- gečikile·'ül- (同上) [gečikile- の使役形]

-主為 -jū'ūi 七9八

\*格楊乞- gedki- (踏) 踏む。

-罷者 -ba[→be]-je 八29一

格迭兒古 gedergü (仰) 仰向けに。二17九

格迭舌兒古 gedergü (偃仰) 同上。五2七

格格 gegē (明裏) 光

-額兒 -'ēr 一13一

格格延 gegeyē·n (明, 白, 明白) 光; 明るい。一13二; 二7八, 8一, 20四; 六11九;  
七11五; 八18八; 九3四, 23八; 七27二

格堅 gegē·n (明) 明るい。四40九

格只格 gejige (後援, 援) 後援, しんがり; 辨髮。六4一, 二, 三, 四, 5七, 八,  
九; 七37三, 四; 七15七, 16四, 17七, 27四, 28二

格格只格列兀里 gejige·le·'ül·i (後援行) [gejige·le·'ül '殿をつとめる人' の対格]  
七43七

格勒不列 gelbüre (弱) 弱小の。二17五, 六

格鄰 geli·n (趕) 家畜を鞭で打って走らせる, 追う。[geli- の同時接合副動詞形] 二  
11十

\*格木舌里兀魯- gemüri·'ül·ü- (教怨) うらむ, うらませる。

-額速 -'ēsü 七25四

格木舌里兀魯 gemüri·'ül·ü·n (教怨) [gemür·'ül·(ü)- の同時接合副動詞形] 十3十  
格捏楊 gened (不意) 不意の(に), 突然。六2十, 48三, 50六; 十20一; 七3三

\*格捏楊格- genedge- (使不意) 不意をつく。

-周 -jū 七3二

格捏帖 genete (忽然) 突然, 不意。二34八

格年 genen (不想) 油断せる。三1四

格訥額舌兒 genü'er (怨悔) うらみ。七25五

格兒 ger (家, 房, 房子) モンゴル包。一10一, 11二, 15十, 26三; 二22四, 42八,  
45三, 四, 50六, 九

-都舌里顏 -dūr-iyēn 一17九, 38四; 二29六

-秃兒 -tūr 二7十

-秃舌里顏 -tūr-iyēn 一22一, 五, 34七, 45九, 48四; 二4四, 45二

-圖兒 -tūr 一45八; 二11二, 21九, 23一, 24七, 34三, 45一, 三

格舌兒 ger (房子, 家, 室) 同上。三24五, 38二, 43三, 46四, 五, 47八; 四24七; 六  
28二; 七16七, 20八; 八27十; 十1二, 八, 十, 4七, 5七, 7七, 9七;  
七39十, 40三

-突舌兒 -dūr 五48十; 九13七

-都舌里顏 -dūr-iyān[→iyēn] 五48一

-帖 -te 九12九

-帖徹 -teče 五19七, 47二; 七23十; 十16五; 七35五

-田 -ten 七7六

-秃 -tü 七4八, 5九

-秃舌里顏 -tūr-iyān[→iyēn] 三3九

-途舌兒 -tūr 八33七, 35四

-圖舌兒 -tūr 三20四; 五15九, 16三, 19九, 46三; 十5六; 七33八, 38六

格(舌)兒 ger (家, 室, 帳房) 同上。四24十; 十1五, 5十

-圖舌里顏 -tūr-iyān[→iyēn] 二35七

-額 -'ē 十24二

格(舌)翁 ger·ün (房的, 房子的, 家的) [ger- の屬格形] 一13一; 二22九, 27八; 五50  
四; 九48一; 十4六, 9九, 43二; 七33八, 37八, 38四

格(舌)翁 ger·ün (家的) [同上] 九14三

格兒該 gergeri (妻) 妻; 婦女。一1四, 二37四, 39九

-秃 -tü 一2五, 六

格舌兒該 gergei (同上) 同上。九13七, 16一

格舌兒堅 gergen (人口) [gergei の複數形] 三46五

格兒連 gerle·n (做) [gerle- '包をつくる' の同時接合副動詞形] 二50六, 九

格(舌)兒魯格 gerlüge (帳房下榻) モンゴル包の床の下に置く土台物。三38七

\*格舌列勒- gerel- (恐) 注意する, 気をつける。

-周 -jü 十40七

\*格舌列勒都- gereldü- (相關) 争う, 喧嘩する。(<→kereldü->)

-克先 -gsen 七38四

格舌列 gere (光) 光。

-台 -tai[→tej] 一46二

-田 -ten 七11五

-秃 -tü 一43二; 二18十; 五3十

格舌列勒 gerel (同上) 同上。二42五

格舌里額思 geriyēs (遺念) 遺言。十3九, 24三

格舌里思格 gerisge (遮風) 棚, 囲いの一種。三47八

格舌里思格列勒敦 gerisge-le-ldü·n (共遮護) [gerisgele- '囲いをする' の対動形の同時接合副動詞形] 三47八

格舌里昔顏 geriyēs·iyēn (遺念自的) [geriyēs (<→geriyēs) の再帰格形] 八47八

格舌魯 gerü (背後, 陰, 背陰) 山の北斜面。

-別舌兒 -bēr 三25一

-蒼察 -dača[-deče] 一17六

-迭 -de 五40四; 六1六

-額舌兒 -'ēr 六1四

\*格思格- gesge- (消) 消す; 化す。

-額速 -'ēsü 一25五

格失兀惕 geši'üd (枝每) 枝々。四10五 [geši'ü(n) の複数形]

格兀 ge'ü (課馬, 駉馬) 牝馬。二29一

-邊 -bēn 八35五

格温 ge'ü·n (駉馬) 同上。四31三

格兀惕 ge'ü·d (駉馬每) [ge'ü(n) の複数形] 三47九, 53五, 54一

格兀的顏 ge'ü·d·iyān[→iyēn] (駉馬自的) [ge'ü'd の再帰格形] 四40一

\*格耶克- geyeg- (驚駭) 驚く, 驚きおびえる。

-抽 -čü 十29二

\*格亦- geyi- (明) 明るくなる。

-罷 -ba[→be] 四40八

-額速 -'ēsü 三33六

-周 -jü 四40九

格因 geyi·n (明, 将明) [geyi- の同時接合副動詞形] 二42三, 44八; 四45一

格亦兀倫 geyi·'ül·ü·n (明, 教明) [geyi- 使役・同時接合副動詞形] 五31七; 六11二

\*格亦思格- geyis·ge- [→keyis·ge-] (廢) 吹きとばす。(<→keyisge->)

-坤 -kūn 四48一

格亦惕 geyid (家, 家毎) 本陣。

-秃舌里顏 -tür·iyān[→iyēn] 二49二, 九

格亦(惕) geyid (家毎) 同上。

-秃舌里顏 -tür·iyān[→iyēn] 四16四

鈎吉 geügi (鈎) 鈎針類。二7一, 二, 八, 8一

\*鈎吉列- geügi·le- (鈎) 鈎針でかける。

-周 -jü 二7二, 三

堅都 gendü (雄) (動物に関して) 雄の。九3九

吉只 giji (邊) 境, 縁, 辺境。

-阿(舌)兒 -'ar 一18八

吉真 giġin (沿) ~に沿って。一18五, 九

斤察思 ginčas (回顧) 横目で。四27七

斤只 ginġi (鉄索) 鉄鎖。

-邊 -bēn 七34三

\*斤只列- ginġi·le- (鉄索) 鎖でつなぐ。

-周 -jü 七33七

\*歌多勒- gödöl- [→ködöl-] (動) 動く。

-罷 -ba[→be] 二3五; 五28三; 六1五, 15一

-罷古 -ba·gü [→be·kü] 三32八

-罷者 -ba·je [→be·je] 六29三

-周 -jü 二44七; 三11七, 13六, 32六, 41十; 五5四, 14五, 31九; 六1七, 10三, 29五, 46五; 七18二, 27三, 31四, 43六, 八; 一38二, 42十, 43一; 一9五, 六

-主為 -jü'üġi 四45四; 五30一, 33二; 八3七

-主為者 -jü'üġi·je 六30四

-恢 -küġ 二42六

-坤 -kūn 七43二

\*歌多魯- gödöl·ü- (同上) 同上。

-額惕 -'ed 六15二

-克薛額舌兒 -gse'er 三31七; 六1八

-克薛耶舌兒 -gseyēr 五31十

-舌命 -rūn 六1五, 15一, 18四; 八3三

-牙 -yā [→yē] 三31八

-耶惕 -yēd 三41五

\*歌[多]勒- gödöl- (動) 同上。

-周 -jü 五31十

\*歌多勒迭- gödöl·de- (被動, 動) [gödöl- の受動形]

-額速 -'ēsü 六14十

-周 -jü 六29四

\*歌多勳格- gödöl·ge- (推動, 教勳) [gödöl- の使役形]

-罷 -ba [→be] 五18一; 土13一

-周 -jü 五1四; 六9 ; 七45四; 土1七, 2三, 13三, 14八

-恢突舌兒 -küi-dür 四21八

歌多勳堅 gödöl·ge·n (教勳) [gödöl·ge- の同時接合副動詞形] 四27三

\*歌多勳格克迭- gödöl·ge·gde- (被推動) [gödöl·ge- の受動形]

-周 -jü 四4七

\*歌多魯勳扯- gödöl·ü·lče- (共勳) [gödöl(ü)- の相動形]

-周 -jü 五30五

戈勳箠 gölme (鞍韉) 鞍の下敷(皮製, フルト製, 布製)。三5七

戈勳迷 gölmi (旋網) (主に魚を捕る) 網。八7五

戈舌劣額 görö'ë (野物) 獸 (狩の対象になる動物であるが猛獸類は含まれない)。<→  
göroyën)

-台 -tai[→tej] 一6二

\*戈舌劣額列- görö'ë·le- (捕獸) 狩をする; 獸を捕える。

-舌列 -re 一8三

戈舌劣額速 görö'ë·sü (獸) 狩の対象となる獸 (猛獸は除く)。六36九, 十

戈舌劣額孫 görö'ë·sü·n (野物, 獸, 野獸) 同上。一6三, 16七; 三43五; 六36八; 七  
3三; 八8二

-突舌兒 -dür 六36七; 八8四

-突(舌)兒 -dür 九25九

戈舌劣額孫 görö'ësün (走獸) 同上。

-突舌兒 -dür 六19一

戈舌劣額速捏徹 görö'ë·sün·eče (野獸行) [göroyësün の奪格形] 土48七

戈舌劣額速泥 görö'ë·sün·i (野獸行) [göroyësün の対格形] 土57五

戈舌劣額速訥 görö'ë·sün·ü (野物的, 野獸的) [göroyësün の属格形] 一9五; 三43  
六, 八

戈舌劣格孫 görögë·sün (獸) 同上。

-突舌兒 -dür 五37三

戈(舌)劣兀魯臣 görö'ül·ü·čün (捕野獸的每) 狩人。三14二

\*果舌瞞- görü- (窺伺) うかがい見る。

-舌列 -re 五26四

歌舌魯勳斡 görüle·ldü·n (相攻) [‘敵対する’ の対動形]。土24四

戈舌魯兀黎 görü'üli (可捕) 獸, 狩の対象の動物。一6四

戈舌魯延 görüyë·n (野物) <→göroyë> 三25三

哥兀兒 gö'ür (小皮桶) 皮袋。二25八

管只列 gönjile [→könjile] (被子) 掛布, 掛物。<→könjile>

-迭延 -deyën 八17三

古 gu [→kü] (也, 只) [前接の語を強める小辞] 二39九, 41八, 43三, 四; 三12二,  
15三, 28四; 四1十, 40四, 六, 47四; 五13三, 26三, 37三; 六41一, 二,  
四; 七9十<sup>2</sup>, 18五, 21五, 23六, 48五; 八24七, 九24六, 33十, 36一, 39  
九, 43十, 44一, 47六, 48九; 十4九, 36六; 土31五; 土16九, 17三, 24  
三, 33七, 八, 57八

古ト赤泥 gübčün·i[→kübčün·i] (全行) [kübčün の対格形] 一8九

古ト臣 gübčün[→kübčün] (全) 完全な, 全くの。二20四; 七36五, 38一

\*<sup>(中)</sup>古必牙勒都- qubiya·ldu- (分) [→<sup>中</sup>忽必牙勒都-]

-牙 -ya 二33六

古出 güčü[→küčü] (氣力, 力) 力。三22八, 49四; 五6三, 六, 7四; 六51十, 52  
五, 七; 八9八, 28三, 五, 44七; 九28三, 31六, 33二; 十12九, 30六,  
39四; 土8三, 九<sup>2</sup>, 29十, 35六, 45三; 土11四, 土47二

-額舌兒 -'er 土18四

-帖泥 -ten-i 四25九

-帖耶 -teye [→tej-e] 土4五; 土17九

-秃 -tü 七28六

-秃亓 -tü-yi 土28八

-秃因 -tü-yin 九1二

古出捏 güčü·n·e[→küčün·e] (氣力行) [küčü(n) の与位格形] 土6五; 土7九

古純 güčü·n[→küčün] (氣力) 力。<→küčü> 土29二

-突(舌)兒 -dür 九31五

-突舌兒 -dür 土28五

古出舌兒格古泥 güčü·rgeg·ün·i[→küčürkeg·ün·i] (氣力逞) 力強い。[küčürkeg の  
複數形] 三46七

古主兀 güjü'ü[→küjü'ü] (頸項) 頸, 首。土27一

古主兀捏徹 güjü'ü·n·eče (頸項行, 項頸行) [güjü'ü(n) の奪格形] 九11五; 土26八

古主温 güjü'ü·n[→küjü'ün] (頸項) [=küjü'ü] 九1三

-都里顏 -dür-iyän[→iyän] 二51三

古主渾[→温] güjühü·n [→küjü'ün] (同上) [同上]

-迭乞 -de-ki 四47五

古主兀斡 güjü'ü·d (頸項每) [küjü'ü(n) の複數形] 三46八

古里扯 güliče[→küliče] (等) [küliče- の命令形] 一19九

\*古里扯- güliče-[→küliče-] (等, 等候) 待つ。

-周 -jü 三30五; 四13七, 19六; 土51十

\*古里徹- güliče-[→küliče-] (等) 同上。

-罷 -ba[→be] 二10四

古里纏 güliče·n (等候) [küliče- の同時接合副動詞形] 土43二

古訥 gūn·ü (深的) [kūn の属格形] 五41七

古捏速 güne·sü[→künesü] (行粮) 食糧, 糧食。

-邊 -bēn 八7九

古捏速捏 güne·sü·n·e (粮行, 行粮行) [künesü(n) の与位格形] 六18九; 八8五

古捏孫 güne·sü·n[→künesün] (行粮) <→günesü) 八8一

古捏速列揚 güne·sü·le·d[→künesü-le·d] (做行粮) [künesüle- ‘食糧をつくる’ に動詞語尾 -d のついた形] 七34二

古舌兒 gür[→kür] (普) 普き, 全体の。四31六; 八29十, 30二, 七, 十, 40一; 九31六; 二24三

古舌里耶舌兒 gür[→kür]·iyēr (普教) [kür の造格形] 三14一

古舌兒 gür[→kür] (到) [kür- の命令形] 四49十; 九1六

\*古兒- gür-[→kür-] (到) 到る。

-罷 -ba[→be] →23四; 二30三, 33四, 34七, 35七

-畢 -bi 二6三

-抽 -čü →15十, 22一, 36二; 二23一, 26五, 39七, 44九, 46七

-周 -jü →20四

-恢 -küj →35六; 六49二

-恢突兒 -küj-dür 二9八, 24九

-魯額 -lü'e →35一

-帖列 -tele 二2十, 24七

\*古舌兒- gür- [→kür-] (同上) 同上。

-罷 -ba[→be] 四20七; 五18六; 六2四, 五, 47二; 十43十; 二42二

-罷者 -ba-je[→be-je] 七3八; 八44五

-別者 -be-je 八19四

-別速 -bēsü 三11七

-抽 -čü 二1九; 三3九, 13六; 四3二, 三, 32三, 33十, 46七; 五28三, 29八, 34四, 50四; 六1九, 11十, 12一, 13五, 九, 31一, 48一, 50九; 七23三, 31七, 八; 八2八, 43八; 九15一, 九, 27四; 十18一; 二1六, 十, 2十, 3二, 三, 8七, 13三, 39八; 三5七

-抽[→抽] -čü 十29三

-出為 -čü'üi 三11八; 七32十

-古宜 -gü-yi [→kü-yi] 三14二

-古因 -gü-yin[→kü-yin] 二30八; 三12九

-周 -jü 六8五

-恢魯額 -küj-lü'e 五47二

-中灰[→恢]突舌兒 -quj[→küj]-dür 五3四

-中灰[→恢]宜 -quj[→küj]-yi 七32十

-帖列 -tele 三21六; 五1四; 六52七, 53三; 七3一, 27四, 33三; 八13十, 19

三, 20六, 31三, 34二, 六, 40一, 42一, 47二; 九21一, 22六, 24七; 二2五, 7一, 25十, 38七, 39二, 46八, 49十, 九, 52二, 三; 三12五, 16一, 24八

-禿該 -tügai[→tügej] 三30二, 三, 八, 九

\*古(舌)兒- gür-[→kür-] (同上) 同上。

-罷 -ba[→be] 二4五

-恢魯額 -küj-lü'e 六48七

-中灰[→恢]因 -quj[→küj]-yin 五34二

\*古舌魯- gür·ü- [→kür·ü-] (同上) 同上。

-額魯 -'ēd →22五, 48四; 四37五, 九

-額速 -'ēsü →4九; 五5五, 七; 十14九, 28九; 二8二, 12八

-克先 -gsen 七28二

\*古(舌)魯- gür·ü- (同上) 同上。

-額速 -'ēsü 七22八; 八36二

古舌倫 gür·ü·n[→kür·ü·n] (到, 到着) [kür(·ü)- の同時接合副動詞形] 三2四; 四1九; 五18六, 23九; 二9十; 三3八

古舌兒格 gür·ge[→kürge] (教到) [kür·ge- の命令形] 四20七

\*古舌兒格- gür·ge-[→kür·ge-] (送到, 教到, 到, 送) 到らせる, とよける, 送る。  
[gür- の使役形]

-罷 -ba[→be] 三10一; 七46十; 八38二; 十1六, 十

-罷者 -ba-je[→be-je] 六28四, 五

-額速 -'ēsü 七31八; 二43八; 三5二, 46一

-克薛魯 -gsed 八13九

-克薛的 -gsed-i 七3九

-克薛訥 -gsen-ü 七3六; 十43五

-克先 -gsen 八13七

-古 -gü[→kü] 八13二; 九15三, 十

-周 -jü 三22九; 四31十, 32二; 九17一, 43九; 二6七, 26十

-舌列 -re 五48七

\*古(舌)兒格- gür·ge- (教到) [同上]

-克先 gsen 十1四

古舌兒堅 gür·ge·n (送到, 教到, 到, 送) [kür·ge- の同時接合副動詞形] 三14三; 四4三, 20九, 34二; 五48三, 49八; 七4四, 15三

古(舌)兒堅 gür·ge·n (送) [同上] 四12七

\*古舌兒格克迭- gür·ge·gde-[→kür·ge·gde-] (被到) [kür·ge- の受動形]

-額速 -'ēsü 八41三

古舌兒格勸教 gür·ge·ldü·n[→kür·ge·ldü·n] (共到的) [kür·ge- の對動・同時接合副動詞形] 七4五

\*古舌兒格兀勸- gür·ge·'ül-[→kür·ge·'ül-] (教到) [gür·ge- の使役形]



-罷 -ba[→be] ㄓ55七

-周 -jü ㄓ27三

\*古兒格兀魯- gür·ge·'ül·ü-[→kür·ge·'ül·ü] (同上) [同上]

-類編 -'äd 二38三

\*古舌兒格兀魯- gür·ge·'ül·ü-[→kür·ge·'ül·ü] (到, 教到, 被到) [同上]

-類編 -'äd 三10一, 14四; 四12八; 七26四, 31九; 九34三

\*古(舌)兒格兀魯- gür·ge·'ül·ü-[→kür·ge·'ül·ü] (到) [同上]

-類編 -'äd 四32二

古舌兒格兀魯 gür·ge·'ül·ü·n[→kür·ge·'ül·(ü)-] (教到時) [kür·ge·'ül·(ü)- の同時接合副動詞形] ㄓ37六

古(舌)兒格兀魯 gür·ge·'ül·ü·n[→kür·ge·'ül·(ü)-] (教送) [同上] ㄓ9八

\*古兒帖- gür·te-[→kür·te-] (到, 若到) [gür- の受動形]

-類速 -'ësü 二2九

-周 -jü 二34八

\*古舌兒帖- gür·te-[→kür·te-] (將到, 被到) [同上]

-古 -gü [→kü] 三18六, 19三

-周 -jü 七26三; 十29一; ㄓ21三

\*古(舌)兒帖- gür·te- (教到) [同上]

-罷 -ba [→be] 四28四

\*古舌魯勅扯- gür·ü·lče-[→kür·ü·lče-] (教共到, 相到, 共到, 相接, 到) [kür- の相動形]

-編坤 -dkün ㄓ30五

-古 -gü[→kü] 七34二

-周 -jü 四34四, 35六

-恢 -küj 七28七

-恢突舌兒 -küj·dür ㄓ24六

-速 -sü 五41八

-禿該 -tügai [→gej] 八10六

\*古(舌)魯勅扯- gür·ü·lče- (相接) [同上]

-周 -üj 四35五

古舌魯勅纏 gür·ü·lče·n[→kür·ü·lče·n] (相到) [kür·ü·lče- の同時接合副動詞形] 七28八

\*古舌魯勅徹- gür·ü(n)·lče-[→kür·ü(n)·lče-] (相到) <→kür·ü·lče->

-周 -jü 三12二

古舌兒都 gürdü [→kürdü] (輪) 車輪。

-辺 -bēn 六23四

-台 -taj [→tej] 六23四

古舌兒都訥 gürdün·ü[→kürdün·ü] (車腳的) [kürdünの屬格形] 七28一

古[→中忽]兒教 gu[→qu]rdun (快) 速い。-35一

古舌兒教 gürdün [→kürdün] (輪) 車輪。六23五

\*古舌列- güre- (請) 請う。

-周 -jü 二2八

古(舌)列類編 güre'ë·d [→küre'ë·d] (圈子每) [küre'ën (=küreyën) の複數形] 四4四

\*古舌列類列- güre'ë·le- [→küre'ë·le-] (下營, 札營, 割圈子) 圈營をしく。

-克薛楊 -gsed 四45二, 三

-周 -jü 四38三

-主兀 -jü'ü 七43七

古舌列類訥 güre'ën·ü [→küre'ën·ü] (圈子的) [küre'ën (=küreyën) の屬格形] 八36二

古舌列干 güregen [→küregen] (女婿) 婿。五22九, 25九

-魯額 -lü'e- 五23六

古舌列格 gürege [→kürege] (風匣) [→kü'ürge] ふいご。

-辺 -bēn 九5七

古舌列格楊 gürege·d[→kürege·d] (女婿每, 做女婿) [küregenの複數形] ㄓ13九

-魯阿 -lü'a [→lü'e] 八27五

-帖 -te 一47三

古舌列格(楊) gürege·d[→küreged] (做女婿) [同上]

-帖 -te 三35八

古(舌)列格(楊) gürege·d[→kürege·d] (同上) [同上]

-帖 -te 一47一

古舌列格連 gürege·le·n[→kürege·le·n] (做女婿) [kürege·le- (婿にする) の同時接合副動詞形] 五22九

\*古(舌)列列- güre'ë·le-[→küre'ë·le-] (下營) <→küre'ë·le->

-克先 -gsen 四39九

古舌列延 güreyën[→küreyën] (圈子, 營) 圈營; 群団。<→küre'ën> 三36三, 41一, 二, 四, 八, 九, 十; 五12三; 六27七

-突舌兒 -dür 八36一

-都舌里顏 -dür·iyän [→iyën] 七43七

古舌列筵 güreyën[→küreyën] (圈子) 同上。九8四

古舌里類訥 güri'ën·ü[küri'ën·ü] (圈子的) [küri'ën<→küreyën> の屬格形] 二30四

古舌里格楊 gürige·d[→kürige·d] (婿每, 做女婿, 做女婿) <→kürege·d> ㄓ17二, 52三

-帖 -te 一46十, 49二

古舌里堅 gürigen[→kürigen] (女婿, 女婿) <→küregen> ㄓ13一, 八, 九

古[→中忽]舌里牙黑答- gu [→qu] riya·gda- (収来)。[quriya- の受動形]

-黒三 -Gsan 二4六

古舌里延 güriyēn [→küriyēn] (圍子) <→küreyēn> 二30三

古舌魯 gürü (右) 大きい石。二15七; 四49十, 50一; 九1六

古舌魯額 gürü'e (酒局) 酒入れ。七2八

古舌魯篋列 gürümele (爽利, 苗条) 聡明な, 立派な。二28十; 五25六

\*古薛- güse-[→küse-] (思想) 希む, 頼む。

-周 -jü 二24五

古兀 gü'ü[→kü'ü] (人) 人。二20四; 五17五

-邊 -bēn 四8五

古兀捏 gü'ü·n·e (人行, 人処) [kü'ünの与位格形] 一43七; 二21二, 23八; 五17七, 22三, 四; 六66<sup>2</sup>九; 八8五; 九10一, 25四; 十5九, 6五; 十一6二

古兀捏徹 gü'ü·n·eče (人行) [kü'ünの奪格形] 二21九, 22六

古兀泥 gü'ü·n·i (人行) [kü'ünの対格形] 五1三, 17十, 25四, 48三; 六25三; 七37十; 八8三, 13八; 九34七, 45五, 47二, 48九<sup>2</sup>; 十30八; 十一31八, 57三

古兀訥 gü'ü·n·ü (人的) [kü'ünの属格形] 四17六, 七; 七9九, 19二, 34二, 37七; 八8七; 九32四, 十, 33九; 十一13七; 十二11三, 31九, 34三, 39四, 56五

古兀列勳敦 gü'ü·le·ldü·n[→kü'ü·le·ldü·n] (每人) 人に渡し合う。一12二

古兀児格 gü'ürge[→kü'ürge] (鼓) 大鼓。十4八

古温 gü'ü·n[→kü'ün] (人) 人。一8三, 9二, 四<sup>2</sup>, 11一, 三, 13一, 18九, 19三, 20三, 22九, 26四, 33三; 二17五, 18五<sup>2</sup>, 20八, 24五, 28十, 32二, 六, 41四, 44十, 47三; 三27六; 四8七, 27五, 34一, 39二, 45七, 十<sup>2</sup>, 46一, 五, 50三, 六; 五1十, 10一, 20七, 25七<sup>2</sup>, 八, 九, 43三; 六11十, 13五七, 24三, 26二, 52三; 七6十, 7十, 15四, 23八, 24七, 29五, 38九, 43六, 45六; 八2六, 13八, 21五, 八; 九15二, 34三, 41十, 42四; 十19五; 十一21八; 十二17一, 十, 20二, 38四, 44一, 三, 四

-突舌児 -dür 三20十; 四43七; 八46七; 十一36二; 十二34八

-魯額 -lü'e 九4一, 二, 11五; 十一26八

-途児 -tü 一13六

古温捏 gü'ü·n·ne (人行, 被人行) <→kü'ün·e> 一4二; 三20九; 四40四

-別児 -bēr 一4十

古温捏徹 gü'ü·n·neče (人行, 人処) <→kü'ün·eče> 七38九; 十一51三

古温泥 gü'ü·n·ni (人行) <→kü'ün·i> 三21三, 23二, 39八; 六36五

古温訥 gü'ü·n·nü (人的) <→kü'ün·ü> 一46八; 四45九; 七33六

\*古亦扯- güiyiče- (趕上) <→güiyiče-, küiyiče->

-古 -gü [→kü] 八8三

-周 -jü 四20二

\*古纏扯- güiyiče- (同上) [同上]

-周 -jü 五28九

\*突纏- güiyi- (走) 走る。

-古 -gü [→kü] 七35三

-周 -jü 二5九, 17七, 46五; 三15八, 21一; 四39九, 41九; 六12四; 九13三, 九14七, 15一, 六

\*突纏扯- güiyiče- (趕上) 追いつく。<→güiyiče-, küiyiče->

-周 -jü 五2四, 五; 六48九; 九13十, 15六; 十一七, 十

突纏扯克迭- güiyiče·gde- (被趕上) [güiyičeの受動形]

- (舌) 倫 -rün 七43七

昆 gūn (深) 深い, 深さ。十一34十

昆訥 gūn·nü (深的) [gūnの属格形] 八10六 <→古訥>

公主 gūngjū (ナシ) 王女。十一6四

## h

哈赤 hači (簪, 釵, 釵報, 返報, 恩, 還報, 回報) 恩; 釵。—33八; 二7四, 9十, 12五, 48十; 五34十; 六25七, 八; 九11九

-班 -bān 九11八

-秃 -tu 三22九

-顏 -yān 二49一; 三4四, 5六

《中》合赤 hači (還報) 恩; あだ。九17二

\*哈赤刺- hači·la- (報) 釵をとる; 恩に報いる。

-(中) 渾 -qun 三4四

哈赤《舌》闌 hači·n (報) [hači·la-の同時接合副動詞形] 三17八

哈《揚》(中) 渾 hadqu·n (握) [hadqu- '握る, 握む'の同時接合副動詞形] 二11四

《中》合渾 hadqu·n (握着) [hadqu- の同時接合副動詞形] 一40九

\*哈黑- haG- (乾) かわき固まる。

-抽 -ču 四39五

\*哈黑蒼- haG·da- (被凝) [haG- 'かわき固まる'の受動形]

-舌命 -run 六13十

哈刺中合訥 halaqan·u (手掌的) [halaqan '手のひら'の屬格形] 四49七

\*哈里[→黑]- haG- (乾) かわき固まる。

-抽 -ču 四43四

\*哈中忽- haq·u- (凝定) かわき固まる。

-黑三 -gsan 九16六

哈舌兒巴敦 harba·d·un (十的, 十每的) [harbanの複數・屬格形] 九32九, 33九, 34二, 36一, 45二; 三17一, 46五

《中》合舌兒巴敦 harba·d·un (十的) [同上] 九30十, 三52四

《中》合舌兒巴闌 harba·la·n (十做了) [harba·la- '十にする'の同時接合副動詞形] 七18九

《中》合舌兒巴訥 harban·u (十的) [harbanの屬格形] 七18五

哈兒班 harban (十, 十箇, 十歲) 十。—33四, 八; 二17二

-台 -tai 一46五

《中》合兒班 harban (十) 同上。—40一

哈舌兒班 harban (十, 十箇) 同上。三29八; 四3九, 4四, 18四; 五13九, 46二; 九32六, 33三; 十19六; 三49七; 三32一

《中》合《舌》兒班 harban (十) 同上。三26二, 七38三

《中》合舌兒班 harban (十) 同上。七18九, 22五; 三29二

(口) 合舌兒 har (紋) 模樣; 縞。

-台 -tai 三15五

《中》合舌兒巴敦 harba·d·u (紋) 同上。

-台 -tai 三16五

-秃 -tu 三26一

哈舌刺 hara (人) 人, 人々。〈→haran〉十43一

哈舌刺納 hara·n·a (人行) [haranの与位格形] 五32二

哈舌刺泥 hara·n·i (人行, 人每行) [haranの対格形] 二17六; 四18四; 五6一, 7七; 八13九, 14二; 九34十, 48七, 八; 三38二, 39三

《中》合舌刺泥 hara·n·i (人行) [同上] 一35五, 九47九

(口) 合舌刺泥 hara·n·i (人行) [同上] 七38三

哈舌刺訥 hara·n·u (人的) [haranの屬格形] 四18四; 七34一

《中》合舌刺訥 hara·n·u (人的) [haranの屬格形] 三34四

哈舌闌 hara·n (人, 人口, 人每, 家人) 人, 人々; 隸民。〈→hara〉—23四; 二32一, 八, 44九; 四47三; 五5九, 十, 16三, 25三, 26一, 46二, 48五, 七2九, 33四; 八31五; 九26二, 28五, 34四, 五, 六, 47十; 十18一, 37四; 三37十, 42七

《中》合舌闌 hara·n (人) 同上。三17六

哈《舌》闌 haran (人) 同上。五46六

\*哈撒黑- hasaG- (問) 尋ねる。

-罷 -ba 二44十

\*哈撒(黑)- hasaG- (問) 同上。

-罷 -ba 一22九

哈兀《揚》- ha'ūd- (磨尽) 融ける, 磨滅する。

-塔刺 -tala 一33八

\*哈兀《揚》- ha'ūd- (尽絶) 同上。

-塔刺 -tala 三32一

\*哈兀動- ha'ül- (奔, 破, 走) 疾走する; 略奪する; 攻撃する。

-周 -ju 一22八; 三43二; 四34一; 五13八; 三37十

-中灰 -quj 三55四

-中渾 -qun 三49一

《中》合兀動- ha'ül- (擄) 全上。

-周 -ju 三40三

哈兀命 ha'ül·u·n (走馬) 八8十 [ha'ül-の同時接合副動詞形]

《中》合兀動蒼- ha'ül·da- (被擄, 被剝) [ha'ül-の受動形]

-阿 -'ā 三38二

-恢 [→中灰] 阿察 -küj(→quj)·ača 八17六

\*哈兀動中合- ha'ül·ga- (教奔, 教走馬, 教奔去) [ha'ül-の他動・使役形]

-阿速 -'āsu 三49五

-罷 -ba 一22六

- 楊中渾 -dqun 八 8 四  
-梅 -muji ㄊ49-
- \*哈兀勒中合黑苔- ha'ül·ga·gda- (教奔) [ha'ül·qa-の受動形]  
-阿速 -'äsu 六36四
- \*哈兀魯- ha'ül·u- (奔, 勦捕, 征, 尽擄) <→ha'ül->  
-阿速 -'äsu 七 3 二  
-楊中渾 -dqun ㄊ18八  
-舌命 -run 五37二; ㄊ48十  
-牙 -yā -21九, 22二; 五37三
- 《中》合兀魯中合 ha'ülüga (道路) 道。-38三; 二 6 七; 六45十
- \*哈温(勦)- ha'ü(n)l- (走馬) <→ha'ul->  
-周 -ju 二35二
- \*含帖勦- ham[→hem]tel- (教關) こわす, 碎く。  
-罷 -ba[→be]三23-
- \*含帖舌列- ham[→hem]tere- (半) 碎ける。  
-別 -be 三 5 三
- \*含屯勦迭- ham[→hem]tü(n)lde- (被去一半) 碎かれる。  
-額 -'ē 三 4 三
- \*杭中合- hangga- (枯渴, 渴) 喉が渴く。  
-周 -ju 四43六; 七 5 五
- \*杭(中)合 hangga- (枯渴) 同上。  
-黑三 -gsan 四42九
- \*好兀勦- haü'ül- (勦捕) 掠奪する, 殲滅する。<→ha'ül->  
-周 -ju 九25八
- \*好兀魯- haü'ül·u- (毀, 毀滅) 同上。<→ha'ül·u->  
-牙 -yā 三 6 六, 八
- ㊦ \*好温勦- haü'ü(n)l- (奔) 同上。<→ha'ü(n)l->  
-周 -ju -34七
- 赫乞 heki (頭項) 頭。<→eki> 二17七
- 赫里格 helige (肝) 肝臓; 下腹部。三 5 四, 23一; 五13一, 15一  
-別舌里顏 -ber·iyān(→iyēn) 四 3 二  
-突舌兒 -dür 四25七  
-禿 -tü 七39六  
-囟 -tü ㄊ30五
- 赫里格(ト)赤禿 helige·bči·tü (兜肚有的) 胴当て (腹巻き) をつけた。四17四
- 赫里格訥 helige·n·ü (肝的) [helige(n) の屬格形] 三 4 三
- \*赫兒吉- hergi- (旋) 巡る, 回る。  
-周 -jü 二44九

- 赫舌列該 heregei (大拇指) 親指。  
-突舌兒 -dür 四25五  
-顏 -yān[→yēn] ㄊ23二
- \*赫舌魯- herü- (愁) 心配する。  
-周 -jü 二35八, 37一; 八43三
- 赫舌魯巴舌魯 herü baru (尚昏時) 朝方のまだ薄暗い頃。  
-苔 -da 二44八
- \*赫兀失耶- he'üšiyē- (不宜) 悪しとする, よしとしない。  
-周 -jü ㄊ5七
- \*赫亦魯- heyil·ü- (離) 離れる。  
-額速 -'ēsü 四22四  
-克薛勦 -gsed 五 5 四
- \*希扯- hiče- (羞) 恥じる。  
-罷 -ba[→be] 十31二  
-舌列 -re 十44六
- 希纏 hiče·n (羞) [hiče-の同時接合副動詞形] 十31二
- \*嬉魯阿禿- hilu'ātu- (被蠅虫咬) ぶよに刺されて苦しむ。  
-周 -ju 七 5 十
- \*喜(舌)魯中合楊- hirugad- (惹) 争う, 闘う。  
-罷 -ba 六16三  
-中忽由 quyu[→quj·u] 六16三
- 希舌兒箴思 hirmes (瞬眼) まばたきする間, 一瞬。十 2 一
- 喜舌兒箴思 hirmes (轉盼) 同上。ㄊ25七
- 喜舌兒箴思 hirmes (転) 同上。七26九
- 希舌刺兀舌刺 hira'ür·a (底行) [hira'ür '底' の与位格形] 五41八
- \*希舌離徹- hiriče- (分離) 離れる。<→hiriče->  
-罷 -ba[→be] 六33九
- \*希舌里扯兀勦- hiriče·'ül- (分離) [hiriče-の使役形]  
-周 -jü 三44三
- \*希舌離者- hiriče- (分離) [→hiriče-]  
-古由 güyü[→küj·ü] 六33六
- 喜舌魯阿舌刺 hiru'är·a (底行) [→hira'ür·a] 八10六
- 希舌魯額舌兒 hirü'er (祝寿) 祝詞。八20六
- \*豁阿舌刺- ho'ära- (脱) 怠る, ぬける。  
-阿速 -'äsu 九42一, 三, 五, 43二; ㄊ44一, 三, 五, 九, 45三  
-黑三 -gsan 九42一
- 豁 豁 ho·d (星毎) [hodu·nの複數形] 六46一
- 豁都 ho·du (星) 星。

- 台 -tai 十1四; 土24一  
 火敦 hodun (星) 同上。  
 -納察 -n·ača 七24十, 25三, 26六  
 豁黑脱臣 hogtoči·n (断着) [hogtoči- '切断する' の同時接合副動詞形] 十19九  
 豁黑脱勒 hogtol (割) [hogtol-の命令形] 四22三  
 \*豁黑脱勒- hogtol- (断, 割断) 斬る, 切る。  
 -周 -ju 四5一; 七9四; 八3一; 土23二  
 \*《中》豁黑脱勒- hogtol- (割断) 同上。  
 -周 -ju 六12七; 七9十  
 豁黑脱舌兒中忽 hogtorgu (空) 空。三4一  
 豁(黑)脱舌兒中忽 hogtorgu (空) 同上。三5二  
 豁黑脱舌兒中仄 hogtorgui (空, 虚) 同上。三22十, 23一; 十19三  
 \*豁黑脱舌里- hogtori- (割断) 切り断つ。  
 -阿豁 -'ād 二16三  
 豁黑脱舌里中罕 hogtori·ga·n (横断) [hogtori-の使役・同時接合副動詞形] 六49一  
 豁黑脱舌魯 hogtoru (横断) 横切つて。四49九  
 豁只塔刺 hōji·tala (衣短) (衣服の丈が) 短くなるまで。〈→ho'ōjitala〉二5八  
 豁訥 ho·n·u (年約) [honの属格形] 三29六  
 豁幹只塔刺 ho'ōji·tala (短) 短くなるまで。〈→hōjitala〉土26三  
 詞幹甲[→申] hō'ōšin (網索) あみ。十8八  
 \*豁舌兒赤- horči- (転) 周る, 繞る。  
 -周 -ju 土24一  
 \*《中》豁舌兒赤- horči- (繞) 同上。  
 -周 -ju 三38二  
 火舌兒臣 horči·n (周回) [horči- '周る, 囲む' の同時接合副動詞形] 九47七  
 豁兒臣 horči·n (周回, 囲) [同上] 一39五; 二14五, 16二  
 豁舌兒臣 horči·n (周回) [同上] 七20九, 21六, 35二; 十1五, 八, 2一, 9九, 40九; 土42五  
 \*《中》豁舌兒臣 horči·n (周回) [同上] 四40十, 41一; 土37八  
 豁舌兒吉勒 horgil (頂) 頂上。七39十  
 \*豁舌兒中忽- horgu- (逃) 逃げる。  
 -周 -ju 五14二  
 豁舌来塔刺 horaj·tala (緊) しっかりと。土26三  
 豁舌林 horim (径) 小道。〈→horum〉二50五, 九  
 \*豁舌林刺- horim·la- (径依) 小道を行く。  
 -周 -ju 二50五, 九  
 豁舌魯木 horum (径, 逕) 〈→horim〉十18四, 19二  
 豁舌魯米牙舌兒 horum·iyar (径路依着) [horumの造格形] 十18三

- \*豁亦馬思- hoyimas- (護) かばう, 護る。  
 -抽 -ču 四8五  
 槐 hoi (林) 林, 森。一8三, 37八; 二48四; 三6一; 四36八  
 -突舌兒 -dur 十18三  
 -圖兒 -tur 二13七, 14二, 46五  
 -因 -yin 八26, 41九, 42十, 14一, 三; 十15二, 五, 六, 16七, 21六  
 \*槐刺- hoj·la- (入林, 林裏) 林・森に入る。  
 -周 -ju 五1十, 23六  
 桓 ho·n (年) 年。一16十; 三29五; 五14五; 六26四; 九20三; 土43四, 52七; 土47五, 53三  
 -突舌兒 -dur 八34四; 土27三, 47五, 52五, 53三  
 \*桓叱都- hončidu- (怪責) せめる, しかる; 処罰する。  
 -極(中)渾 -dqun 九43五  
 桓赤壇 honči·tan (能発箭的) 遠射の巧みな。四25八  
 桓極 ho(n)d (年) [honの複数形] 土51九  
 \*桓秃察- hontuča- (遠箭射, 賽遠射) 遠射する。  
 -周 -ju 十30八; 土23一  
 \*阿額- hō'e- (爛) 腐らせる, 汚す。  
 -周 jū 四49八  
 阿舌列捏 hōre·ne (西) 西。〈→hōrōne〉一19五  
 阿舌列捏只 hōre·ne·ji (西辺) 西の方。六18六; 九13一  
 阿舌羅捏 hōrō·ne (西) 〈→hōrene〉土47四  
 -扯 -če [奪格形] 二26六  
 \*《中》忽必思 hubis (但動) [副詞的動態言] ちょっと動くさま, 微動するさま。十2四  
 \*忽荅舌魯- hударu- (解析) やぶる, 違反する。  
 -阿速 -'asu 十44五, 六  
 \*許迭- hūde- (送) 見送る。  
 -周 -jū 一33一; 二37五  
 -恢邊 -kūj·bēn 一33六  
 \*忽迭- hūde- (送) 同上。  
 -周 -jū 土7一  
 忽迭速 hūdēsü (皮) 皮条。  
 -秃 -tü 三8五  
 \*《中》忽克迭舌列- hūgdere- (重発) 病が重くなる。  
 -周 -jū 六19一  
 忽札兀兒 huja'ūr (根源) 根元, 根源。一1二  
 忽札兀舌兒 huja'ūr (根源, 根脚) 同上。四17六; 六49三; 八20七; 九33四  
 -秃 -tu 九6四

- 忽札兀舌刺 huja'ür·a (根源行, 根行) [huja'ürの与位格形] 六19八; 八2七, 34三  
 忽札兀舌刺察 huja'ür·ača (根源行) [huja'ürの奪格形] 九33一  
 忽客赤泥 hūke·či·n·i (放牛的行) [hūke·čin '牛飼い'の対格形] 十4四, 9十  
 忽客兒 hūker (牛) 牛。二44七  
 忽客舌兒 hūker (牛, 牛兒) 同上。三38七; 六23二; 八2三, 6二, 10八; 九14四; ㄱ54二  
 忽客舌列 hūker·e (牛行) [hūkerの与位格形] ㄱ31六, 33六  
 忽客舌里顏 hūker·iyān[→iyēn] (牛自的) [hūkerの再帰格形] 二46三  
 忽客舌命 hūker·ün (牛的) [hūkerの属格形] 三8三  
 \*忽勅迭- hülde- (趕, 追, 逐) 追いかける, 追いだす。  
 -額 𐰽 'ēd 五28九; 六2四; 七24二, 32二, 十  
 -周 -jū 二14三, 30九; 五10三, 27四, 28五; 六28一; 七32十, 33三, 四<sup>2</sup>, 八36三; ㄱ39二  
 \*《中》忽勅迭- hülde- (趕) 同上。  
 -罷者 -ba[→be]-je 六40二  
 -周 -jū 一36十; 六28六; 七33八, 35六  
 \*《中》忽勅迭[→迭]- hülde- (趕) 同上。  
 -額 𐰽 'ēd 七32八  
 \*忽(勅)迭- hülde- (趕) 同上。  
 -周 -jū 二29三, 30六; 六25三  
 \*忽勅迭克迭- hülde·gde- (被迫) [hülde-の受動形]  
 -周 -jū 五28七  
 \*忽勅迭勅都- hülde·ldü- (相逐) [hülde-の対動形]  
 -周 -jū 七22六  
 忽勅中渾 hulqun (小独山) 小山。二9六  
 忽刺安 hula'an (紅) 赤い。二17三; 三29八; 四45七; 七22六; 八17九  
 忽刺阿荅- hula'a·da- (紅) 赤くなる。  
 -周 -ju 九14六, 16十  
 忽刺命 hula·lu·n (紅) [hula- '赤くなる'の同時接合副動詞形] 八33十  
 \*忽列迭- hūle·de- (留) とどまる, 残る。  
 -罷 -ba[→be] ㄱ34四  
 \*許列- hūle- (余剩, 剩) 残る, 余る。  
 -克薛 𐰽 -gsed 三21七; ㄱ13六  
 -克薛的 -gsed-i 三23二; 五19八; 八4六  
 \*許列克迭- hūle·gde- (被勝) [hūle-の受動形]  
 -罷者 -ba[→be]-je 八19七, 20一  
 \*忽列兀勅- hūle·'ūl- (剩下) [hūle-の使役形]  
 -恢額徹 -kūj-'eče 七37一

- 許列兀 hūle·'ū (多, 多余, 勝) 余った。八20八, 28三<sup>2</sup>; 22十, 23一  
 許列兀勅 hūle·'ū·d (多余) [hūle·'ūの複数形] 四37七  
 \*忽魯魯- hūlüd- (尽絶) たえる, つきる。  
 -帖列 -tele 八5三  
 \*忽魯舌里格兀勅- hūlüri·ge·'ūl- (愧惚) まどわす, まやかす。  
 -帖列 -tele 七24一  
 忽箴該 hūmegai[→gei] (臭) 生ぐさい。五13一, 15一  
 忽捏堅 hūnegen (野狐) 狐。ㄱ1四  
 忽捏速 hūnesü (灰) 灰。  
 -額兒 -'ēr 二25六  
 -額舌兒 -'ēr 三21六; 四48一; 五1四; ㄱ5十  
 忽泥 huni (烟) 煙; 霧。六21七; 十24五, 六  
 忽你舌兒 hūnir (氣息) 匂い。〈→hūnür〉七44三  
 \*許你思- hūnis- (聞) 匂う; 嗅ぐ。〈→hūnüs-〉  
 -帖列 -tele 一17四  
 忽訥兒 hūnür (香氣) 匂い。〈→hūnir〉一35十  
 忽訥舌兒 hūnür (氣) 同上。七11九  
 \*忽訥思- hūnüs- (聞, 嗅) 〈→hūnis-〉 匂う; 嗅ぐ。  
 -抽 -čü 一35十; 十39三  
 \*忽舌兒- hur- (翻) 反転する。  
 -罷 -ba ㄱ2一  
 \*忽舌兒把- hurba- (翻) 同上。  
 -周 -ju 四35八  
 忽舌兒帖速捏徹 hūrtesün·eče (碎裁帛行) [hūrtesün '破片'の奪格形] 十12八  
 \*《中》忽(舌)刺中合刺- hura·ga·la- (套) わなを作る。  
 -周 -ju 一16五  
 忽舌魯兀 huru'ū (順, 順水, 順着) 川下へ, 下方へ。一3九, 17六, 18八, 九; 二3五, 17九, 22四, 36八; 三14五, 15一; 四13八, 31四, 33一, 37一, 二; 五28八, 33一; 六18四, 24四, 28七, 44三; 八44三  
 忽(舌)魯兀 huru'ū (順, 順水, 順着) 一15九; 五28五; 七31五同上。  
 忽舌輪 hūrū·n (磋商) [hūr(ū)- 'みがく'の同時接合副動詞形] 五49一, 50六  
 許速 hūsü (髮) 髪。  
 -班 -bān[→bēn] 七43三  
 許孫 hūsü·n (毛) 同上。一19七  
 \*忽塔舌魯- hutaru- (毀) やぶる。〈→hudaru-〉  
 -阿速 -'āsu ㄱ33四  
 \*《中》忽壇 hutān (柳木) 旱柳。十2四  
 \*忽兀- hū'ū- (臭爛) くさる。

-秃該 -tügai[→gei] ㄊㄨㄟ ㄍㄟ

忽牙 huya (拴) 結べ。[huya-の命令形] 五50七

\*忽牙- huya- (拴) 結ぶ, 組む。

-黑撒 ㄏㄟㄙㄚ ㄊㄨㄟ

-黑撒的 -gsad-i 五50二

-周 -ju 三6四; 五49五, 十; 七33七; 十28十

\*《中》忽牙- huya- (結, 拴) 同上。

-周 -ju 二7三; 三13七

忽亦倫 huyil·u·n (漩) [huyil- '渦まく' の同時接合副動詞形] 八33十

昏只兀 hunji·'u (爛木) 乾れ朽ちた。ㄊㄨㄥ ㄓ ㄨ, 13四

渾只兀 hunji·'u (爛木) 同上。七43四; ㄊㄨㄥ ㄓ ㄨ

渾討兀 huntat'u (禍) 禍。三18五, 19二

洪只兀列思 hūngji'üle·s (乾樹每) [hūngji'üle '乾樹' の複数形] 一17三

洪失兀 hūngši'üd (腥氣) [hūngši'ü(n) '腥い' の複数形] 腥臭。一17四

## ᠵ

\*札阿- ja'a- (告) 告げる, 教える。

-巴速 -basu 四18六

-黑三 -gsan 八39四

-周 -ju 二29四

-主兀 -ju'u 十28六

-中忽 -qu 二19二

-中忽因 -qu-yin 五21一

秃中孩 -tugai ㄊㄨㄟ ㄐㄞ

\*札阿黑答- ja'a·gda- (告) [ja'a-の受動形]

-周 -ju 三20三

\*札阿哈- ja'a·hā- (告) [ja'a-の使役形]

-黑三 -gsan 一44三

札安 ja'a·n (告) [ja'a-の同時接合副動詞形] 二22二; ㄊㄨㄟ ㄐㄞ

札阿舌里 ja'ari·d (神告, 神告每) [ja'arinの複数形] 三39二; 十28一

札阿舌鄰 ja'a·ri·n (神告) 神のお告げ。三37四; 八39七

\*札ト中合- jabqa- (不見, 失) 失う。

-罷 -ba 六45九

-周 -ju ㄊㄨㄟ ㄐㄞ

\*札(ト)中合- jabqa- (失) 同上。

-周 -ju 二34八

札ト中罕 jabqa·n (失) [jabqa-の同時接合副動詞形] ㄊㄨㄟ ㄐㄞ

札八 jaba (崖縫) 谷。二13九

札巴只 jabaḡi (口膈) 口の両はじ。

-牙(舌)兒 -yār 九16十

札巴只你牙舌兒 jabaḡi·n·iyār (膈依着) [jabaḡin[→jabaḡi]の造格形] 六13四

札巴只你牙(舌)兒 jabaḡi·n·iyār (同上) [同上] 六14一

札必闌 jabila·n (盤脚, 盤) [jabila- 'あぐらをかく'の同時接合副動詞形] 二10四;

十29六

札 ㄐㄞ (世人) 他。一23七

札答 jada (風雨) 風雨を呼ぶ術。四35七, 八, 九

\*札答刺- jada·la- (致風雨) ジャダの術を施す。

-中渾 -qun 四35八

\*札勒把舌里- jalbari- (祷告, 告) 祈る。

-周 ju 十18十

-梅 -muḡi 六16八

\*札勒吉- *jalgi-* (嚥, 吞) のみこむ。〈→札勒乞-〉

-阿速 -'asu 七37十

-中忽 -qu 二11八

-中灰 -quj 土26五

-速 -su 二11七

\*札勒乞- *jalqi-* (嚥) 同上。

-阿魯 -'ad 四39三, 41六

-中忽宜 -qu-yi 四41六

\*札勒中合- *jalqa-* (接) 接合する。

-黒三 -gsan 三23九

札勒中含失黒壇 *jalqamšig-tan* (擾怕的) 恐るべき; 面倒な, 厄介な。二42八

札刺麻 *jalama* (ナツ) 祭祀のために柳枝につける布片。六16七

札刺為 *jala'uj* (年少) 若い。五25六; 七10二

\*札里舌刺- *jalira-* (怒息) (怒りなどが) おさまる, 平静になる。

-周 -ju 土45十; 土34二

\*札《舌》里舌刺- *jalira-* (怒) 同上。

-罷 -ba 十44八

\*札里舌刺兀勒- *jalira-'ül-* (教息) [*jalira-* の使役形]

-魯阿速 -l·u·'asu 土25三

札米牙舌兒 *jam·iyār* (站依着) [*jam* '駅' の造格形] 土49五

札木魯 *jam·ūd* (站每) [*jam* '駅' の複数形] 土50三, 七, 55四

札木の顔 *jam·ūd·iyān* (站每自的) [*jam·ūd* の再帰格形] 土50五

札木臣 *jam·u·čīn* (站戸) 駅夫。土49三, 52八, 53六

\*札你赤- *janči-* (打) 打つ。

-周 -ju 十36五

-主為 -ju'üj 十27二

\*札你赤黒蒼- *janči-gda-* (被打) [*janči-* の受動形]

-阿 -'ā 十27三

札中合 *jaqa* (衣頭, 頭) 襟; へり; 境。十38七, 八, 十

-班 -bān 三50六

-察 -ča 土23五

-蒼乞 -daki 四47六

-突舌兒 -dur 土22八

-思 -s 四27九

-回 -yin 八18九

札(中)合 *jaqa* (領) 同上。

-巴舌兒 -bār 十36三

札(中)合 *jaqa* (頭) 同上。

-秃 -tu 一20九

札中合温 *jaqa-'ün* (両間, 其間) あいだ; へり。九48五, 七; 土39二, 三

札中忽魯 *jaqu·d* (金人每) 金国の人々。土55二

札中忽敦 *jaqu·d·un* (金人的) [*jaqu·d* の属格形]

札舌兒必牙勒 *jarbiya·l* (枸) 積木; 枷。四47六

札兒沓台 *jarčim·tai* (整齊的) 規律のある。二6三

札舌兒里黒 *jarlic* (聖旨) 勅。四43十, 50十; 五20十, 21六, 25五, 26三; 六52一, 十,

53二, 四; 七1五, 2六, 3四<sup>2</sup>, 十, 7八, 19七, 20五, 21七, 24五, 31

八; 八1十, 4十, 6二, 五, 9二, 十, 11一, 13七, 14一, 22九, 24七,

25一, 27二, 五, 29九, 30六, 31六, 33一, 34六, 38六, 40四, 41七, 42

二, 五, 47三, 48三; 九2六, 五4, 八, 6六, 7八, 17六, 21二, 22四,

七, 24九, 31二, 三, 32二, 34二, 三, 40一, 九, 41七, 42八, 九, 43一,

三, 44十, 45六, 九, 47一; 十6十, 7二, 8五, 10三, 16九, 19一, 22

七, 26二, 28一; 土17五, 21七, 28七, 30一, 32一, 九, 33九, 42四, 47

八, 50三; 土6三, 7十<sup>2</sup>, 8十, 10四, 八, 九, 12七, 16七, 八, 17四,

22七, 八, 26九, 28三, 30八, 33七, 36九, 37一, 四, 六, 38九, 十, 39

九, 40七, 42八, 43一, 八, 十, 45一, 二, 四, 46八

-吉牙[舌兒] -giyār 九36二

-圖舌兒 -tur 土34十

札舌兒《舌》里黒 *jarlic* (聖旨) 同上。五23五; 八4五

\*札《舌》里黒 *jarlic* (聖旨) 同上。九9三<sup>2</sup>, 10二, 20四, 25六, 26一, 五, 29二, 32

一, 34九, 35十, 36五, 七, 37八, 39七, 40二, 45十, 49一; 十3一, 11

三, 21二; 土21八, 23四, 33四; 土52十, 54五

札舌兒里吉牙舌兒 *jarlic·iyār* (聖旨依着) [*jarlic* の造格形] 土14二, 37二, 53三

札舌兒里中渾 *jarlic·un* (聖旨的) [*jarlic* の属格形] 九43一; 土44一, 45三

札舌兒中忽 *jarqu* (断事) 訴訟; 裁判。八30十, 31一; 十8五, 六

\*札舌兒中忽刺 *jarqu·la-* (断, 教断) 裁断する。

-黒撒泥 -gsan-i 八31一

-秃中孩 -tucaj 五21五

札[→折]舌列吉顔 *ja[→je-]reg·iyēn* (需自的) 必要。[*jereg* '必要' の再帰格形]

土55四

札舌林 *jarim* (半, 一半) 半分, 半ば。三29六; 土40四

札舌里馬 *jarim·a* (半) [*jarim* の与位格形] 六28四

札舌里米顔 *jarim·iyān* (一半自的) [*jarim* の再帰格形] 土26五

札舌里木魯 *jarim·ūd* (一半, 一半每) [*jarim* の複数形] 二4十; 五32八; 六29九; 八

1五

札舌里木の顔 *jarim·ūd·iyān* (一半自的) [*jarim·ūd* の再帰格形] 十6二; 土40三

\*札舌魯- *jaru-* (使, 使喚) 使う。



- 周 -ju 一10二  
 -禿中孩 -tugaĭ 六52九
- \*札撒- ĵasa- (整治, 整擱) 整える, 治める。  
 -阿魯 -'ad 三12二; 四8四; 五21四  
 -罷 -ba 二43十  
 -周 -ju 二25八; 十; 三12一; 四37八<sup>2</sup>; 五29七, 八, 34二; 六8四, 11八, 25二, 28九, 30八; 八2八; 九33二, 八, 41一, 三, 四, 五; 十18九; 十一九, 12五; 十二43一, 五, 六, 八  
 -間[→周] -ju 四11一  
 -舌命 -run 七32二; 十19一  
 -禿中孩 -tugaĭ 五21三; 十5七; 十二38七, 41一, 三, 五, 八  
 -由 -yu 七38一
- 札撒 ĵasa (整治) [ĵasa- の命令形] 六4六, 八, 九, 6一  
 札三 ĵasa·n (整) [ĵasa- の同時接合副動詞形] 四8三
- \*札撒勅都- ĵasa·ldu- (整治, 相整治, 共整治) [ĵasa- の對動形]  
 -罷 -ba 六5六  
 -周 -ju 二7一; 六29一; 八8九
- 札撒勅教 ĵasa·ldu·n (共整治) [ĵasa·ldu- の同時接合副動詞形] 六6三
- \*札撒兀勅- ĵasa·'ül- (教整治) [ĵasa- の使役形]  
 -罷 -ba 七32五, 六  
 -周 -ju 十19七; 十二53八  
 -中忽 -qu 七29六
- \*札撒兀魯- ĵasa·'ül·u- (教整治) 同上。  
 -中渾 -dqun 十二8六
- 札撒黑 ĵasaġ (軍法, 法度) きまり, 軍規, 節度。五17五, 18四; 七10八, 24六, 47二; 八9一; 十一40四; 十二45八  
 -壇 -tan 二6四
- 札撒(黑) ĵasa[ġ] (法度) 同上。九43五
- \*札撒黑刺- ĵasaġ·la- (法度, 法度做, 伝号令) きまりを作る。  
 -周 -ju 二17一; 八9一  
 -(舌)命 -run 十19五
- \*札撒黑刺勅都- ĵasaġ·la·ldu- (共整治) [ĵasaġ·la- の對動形]  
 -罷 -ba 五17十
- 札撒勅 ĵasal (法度) 規律。七29八
- 札興 ĵahing (底襟) 奥襟。  
 -温 -un [ĵahing の属格形] 八18九
- \*札兀- ĵa'ū- (咬, 啣) 咬む。  
 -罷 -ba 四27八

- 黑撒泥 -gsan-i 二8一
- 札兀 ĵa'ū (百) 百。七18九
- 札兀<sup>𠵼</sup> ĵa'ū·d (百, 百每) [ĵa'ū(n) の複数形] 三17六, 21五; 四15四; 六18五, 六, 七; 七38七, 八; 八47五; 九36三<sup>2</sup>, 七; 十23八, 31五
- 札兀敦 ĵa'ū·d·un (百的, 百每的, 百戸的, 百戸每的) [ĵa'ūd の属格形 七19一; 九30六, 23三, 七, 33八, 34二, 36一, 45二; 十二17一, 46五, 52三
- 札兀納察 ĵa'ūn·ača (百処) [ĵa'ūn の奪格形] 九33四
- 札兀泥 ĵa'ūn·i (百行) [ĵa'ūn 对格形] 八47九
- 札兀訥 ĵa'ūn·u (百的) [ĵa'ūn の属格形] 七18四
- 札兀蘭 ĵa'ū·la·n (百做了) [ĵa'ūla- '百にする' の同時接合副動詞形] 七18九
- 札兀中合速 ĵa'ūca·su (山丹根) 紅百合の根。  
 -巴兒 -bār 二6三
- 札兀舌刺 ĵa'ūra (間, 其間, 中間, 路間) 間に, 間で, 途中で。一28三, 32九, 42四, 47九, 48三, 49二; 二13十, 24五, 36九, 37三; 三16五, 32六; 四1五, 40三, 42八; 五5五, 46二; 六40一; 七3五, 46五, 八, 47五; 八12七, 33六, 35二; 九25三, 27六; 十39六, 43五; 十一13七, 22七, 26五, 49一, 52六; 十二1五, 11一, 12六, 34三, 47六, 55三, 58七
- 札兀(舌)刺 ĵa'ūra (路間) 同上。一9一
- 札温 ĵa'ū·n (百) 百。五10一; 六24三, 52五; 七1四; 十21九; 十二18二, 20二, 五; 十二47五, 52六, 53四
- 札牙 ĵayā (命) 運命。〈→ĵaya'ā〉  
 -阿舌兒 -'ār 七47十  
 -禿 -tu 三18九
- 札牙阿 ĵaya'ā (命) 同上。  
 -禿 -tu 一1三; 三18三; 八19十; 十二57五
- 札牙安 ĵaya'ā·n (命, 気運) 同上。一46八; 七29九; 十一4四
- 札亦刺 ĵayila (縫了) [ĵayila- の命令形] 十40八
- 札亦刺 ĵayila- (縫, 驟) 避ける。〈→ĵaiyila-〉  
 -周 -ju 七20七; 九46二; 十二37六
- 札亦蘭 ĵayila·n (驟) [ĵayila- の同時接合副動詞形] 三10五
- \*札亦刺兀魯- ĵayila·'ül·u- (教驟) [ĵayila- の使役形]  
 -黑三 -gsan 四47六
- \*齋亦刺- ĵaiyila- (驟) 〈→ĵayila-〉  
 -周 -ju 五23二  
 -速 -su 五23四
- 蓋討兀 ĵantaġū (盃) 盃。七7一, 三
- 掌吉 ĵanggi (結了的) 結合。  
 -邊[→班] -bēn[→bān] 三50六

## 442 元朝秘史蒙古語辞典

站 jam (站) 駅。站。ㄱ49四, 52七, 53七, 八

者 je (外甥) 甥。〈→je'e〉

-因 -yin 六20一

者額 je'e (外甥) 同上。

-因 -yin 一44六, 45四

者 je (是, 応許, 応許声, 那般者) はい, よし。[応諾の助辞] 一22一, 46十; 二20八; 三12五; 五45十; 六17五; 九9一; 十24七

-迭址 -deče 三12六

-迭徹 -deče 二32七

-古 -gü[→kü] 二19五

-因 -yin 二32六

者 -je (也者, 却, 罷) ~だろ, ~にちがいない。一13五, 19八, 35九<sup>2</sup>; 二22三, 24五, 29九, 37二, 39六, 九, 51一; 三2八, 5九, 6二, 23三, 48九, 49一; 四40五, 45七, 47七; 五14二, 四, 十, 22九, 26一, 30八, 九; 六26八, 28三; 七6九; 九23九<sup>2</sup>; 十45七; 十一5三, 8八, 35九

折卜薛克 jebseg (器械) 武器。十19七

者別 jebe (器械) 矢・槍の尖端, 矢じり; 武器。十8四; 十一48三

\*者別列 jebe-le- (戦) 鋭い尖端の武器を使って戦う。

-古 -gü[→kü] 四49四, 50七

-耶 -ye 四50八

\*者惕古 jedgü- (当, 阻当) さえぎる, 阻止する。

-周 -ju 二20二; 十一57六

\*者惕古克迭 jedgü-gde- (当, 被止当) [jedgü- の受動形]

-周 -ju 七45十; 十一1六

者惕坤 jedkü-n (止当) [jedgü- の同時接合副動詞形] 十一2一

者額舌兒迭 je'erde (赤馬) (馬の毛色について) 赤黄色の。

-因 -yin 二32六

\*者乞舌兒 jekir- (冷) 冷える, こぼえる。

-抽 -čü 二25三

折舌兒 jer (器械) 武器。十19七

者舌兒格 jerge (班列, 次序, 列位, 列, 次) 仲間, 一緒に。

-迭址 -deče 三12六

-迭徹 -deče 二32七

-突舌兒 -dür 八46四

-額舌兒 -'er 五12四, 29九

\*者(舌)兒格列 jerge-le- (列) 並ぶ, 立ち並ぶ。

-克先 -gsen 九9七

者兒格連 jerge-le-n (列) [jerge-le- の同時接合副動詞形] 一11九

者舌兒格連 jerge-le-n (列着) [同上] 八46四

\*折失- ješi- (欲図) もくろむ, 望む。

-古 -gü[→kü] 三31六

者申 ješi-n (想望) [ješi- の同時接合副動詞形] 三18四, 十

折兀 je'ü (針) 針。二7二

帖連 jem-le-n (做喫的) [jem-le- '食糧をつくる' の同時接合副動詞形] 九14四

\*沼兀都列 jeü'üdü-le- (夢) 夢をみる。

-罷 -ba[→be] 五43, 44二

沼兀敦 jeü'üdü-n (夢) 夢。一43五, 十, 44二<sup>2</sup>

-突舌兒 -dür 八18七; 九23七

-泥顔 -n-iyen 一43七

沼温 jeü'ün (左) 左。三2十, 20八; 八1九, 40二; 九9四, 七, 10三, 29一; 十9四, 八, 39八; 十一18五, 23八; 十二13八, 40十, 41二, 五, 七, 九, 52二

\*只阿- ji'a- (告) 告げる。

-中渾 -dqun 九43六

-周 -ju 九10五

-梅 -muǰ 三39三

-黑三 -gsan 三39七

-(黒)撒訥 -gsan-u 三39四

-中忽 -qu 四41十

-舌命 -run 十9一

只安 ji'an (告) [ji'a- の同時接合副動詞形] 四50五; 九19五

\*只卜失額舌兒 jibši'er- (整揃) 整える, 準備する。

-抽 -čü 七27三

\*只卜失額(舌)兒 jibši'er- (整揃) 同上。

-抽 -čü 六14十

只卜失額舌命 jibši'er-ü-n (整治) [jibši'er- の同時接合副動詞形] 十一20九

只卜失額舌命勅慶 jibši'er-ü(n)-lče-n (共整揃) [jibši'er- の対動同時接合副動詞形] 四35六

只卜失耶舌命 jibšiyer-ün (整治) [jibšiyer- (→jibši'er-) の同時接合副動詞形] 八24七

只卜失耶(舌)魯勅纏 jibšiyer-ü-lče-n (相整揃) [jibšiyer- の相動・同時接合副動詞形] 四49三

\*只卜秃舌刺 jibtura- (消滅) 弱る。

-主為者 -ju'üj-je 十45一

只池 jiči (却) 更に, 一層。二7四; 四12二; 四10七; 五7二, 11三, 13八, 14五, 15五, 44五; 六24五; 八44五; 九12八, 13三; 十18八, 21四, 44四; 十一3二, 5一, 30七, 38十, 40五; 十二2八

只赤 jiči (却, 息) 同上。九28二; 十44八

只赤中忽赤 jīchigučī (反復) 反復して, 再三再四。五43四

\*只惕古兀勒- jīdgū·'ūl- (拽) 拽かせる, ひっぱらせる。[jīdgū- の使役形]

-周 -jū 七37九

只荅 jīda (槍, 槍) 槍。十4六; 三39八

-巴兒 -bār 二3九

-班 -bān 三7五

鎖荅 jīda (槍) 同上。

-突舌兒 -dur 六3六

-禿 -tu 七35四

只克敦 jīgdū·n (前拽) [jīgdū- (=jīgtū-) の同時接合副動詞形] 六23二

\*只克禿- jīgtū- (拽) 引く, 拽く。

-周 -jū 三38八; 八38一

\*只克禿勒都- jīgtū·ldū- (共拽) [jīgtū- の対動形]

-周 -jū 九7四

只勒 jīl (年) 年。五17二, 27二, 40十; 七5一; 八2三, 6二, 10八, 24三; 十14二;

十一二, 10九, 11九, 36五, 52七; 三1三, 13一, 七, 20八, 58八

只勒荅 jīlda (晚, 夕, 晚夕) 晚い, 日暮れ。四34九, 37十; 五29八; 六28十; 七42十;

九49二, 十18二; 三38八

只勒都 jīldū (半截腔子) 死んだ家畜から頭と一緒に心臓と肺を取り出したもの。一8八

只羅阿 jīlo'a (牽臂) 手綱。<→jīlu'a> 八43九; 三36三

只魯阿 jīlu'a (轡繩, 牽臂, 調度) 同上。<→jīlo'a> 三15九; 二29三

-都舌里顏 -dur·iyān 九31七

只中合臣 jīga·čī·n (打魚的每) [jīga·čī '漁師' の複數形] 三14二

只中合速 jīga·su (魚) 魚。二7一, 三

只中合孫 jīga·su·n (魚) 同上。八7四

\*只舌兒中合- jīrga- (快樂, 快活) 楽しむ。

-中渾 -dqun 七3一; 九26五

-中忽 -qu 一39四

\*只舌兒中合勒都- jīrga·ldū- (共快活) [jīrga- の対動形]

-周 -ju 三28八

\*只舌兒中合兀(勒)- jīrga·'ū(1)- (教快活) [jīrga- の使役形]

-中忽 -qu 三39五

\*只舌兒中合兀魯- jīrga·'ūl·u- (教快活) [同上]

-牙 -ya 三47二

只兒中合郎 jīrga·lang (快活) 楽しみ。一39三

只舌兒中合郎 jīrga·lang (快活) 同上。三39九; 十1九

只舌兒中豁阿納 jīrgo'ān·a (六行) [jīrgo'ān の与位格形] 三29四

只舌兒中豁安 jīrgo'ā·n (六) 六。四13六; 三3一

只舌兒(中)豁安 jīrgo'ā·n (六) 同上。四19五; 十40五

只舌兒中豁都阿舌兒 jīrgo·du'ār (第六) 六番目の。四17七; 八29六

只兒瓦阿納 jīrwa'ān·a (六行) [jīrwa'ān の与位格形] 二17二

只舌兒瓦安 jīrwa'ā·n (六, 六箇) 六。<→jīrgo'ān> 六18五; 七18八, 22五

只舌刺木鰯 jīram·ud (小魚兒) 小魚。二7三

只舌里捏 jīrin·e (兩箇行) [jīrin の与位格形] 二1十

只舌里捏 jīrin·eče (徹兩箇) [jīrin の奪格形] 八1四

只舌里泥 jīrin·i (兩箇行) [jīrin の対格形] 二47四; 四10四, 五, 19二

只舌里訥 jīrin·u (兩箇的) [jīrin の屬格形]

只舌林 jīrim (略歇息) 睡眠, うたたね。十1八

只舌鄰 jīrin (兩箇) 二, 二人。[ '二' を意味する女性形] 二1八, 2七; 三15八; 四

7三; 五27五; 七1六; 八45二; 十33七; 三41九, 42二

只舌魯格 jīrüge (心) 心; 心臟。三48十; 七27八, 28三, 29四<sup>2</sup>; 十1八, 19五

-邊 -bēn 二21十

-禿 -tū 四25八

只速 jīsū (顔色, 容貌) 顔色。一34七

-額舌兒 -'ēr 六20一

\*只速- jīsū- (黎閉) きりひらく, きりさく。

-周 -jū 七4五

\*只速列- jīsū·le- (色様) 色別する。

-周 -jū 三10一

只孫 jīsū·n (顔色) 顔色。一44六, 45四

\*只兀- jī'ū- (趕) 追う, 道を行く。

-周 -ju 七35五

只兀舌兒 jī'ūr (翅) つばさ。九7四

-禿 -tū 八6九

\*只兀舌列[→舌刺-] jī'ūre-[→ra-] (調) まぜ合わせる。

-周 -ju 四40六

\*只兀舌兒篋迭- jī'ūrmede- (愈甚) ひどくなる。

-梅 -mūi 三22六

真勒 jī(n)l (年) 年。四30一; 七22五

\*征古- jīnggū- (讒譖) 讒言する, 誹謗する。

-古因 -gū[→kū]-yin 十43六

勺ト jōb (是, 正) 正しい。一12九, 40七; 三50五; 四12八; 五7九; 六43九; 七14十;

八41二, 四; 九2八; 十34六; 三21九; 24十, 49七, 50七

勺(ト) jōb (是, 是的) 同上。四48四; 八38一; 三23九

拙(ト) jōb (正) 同上。二18九<sup>2</sup>

勺ト失顔 jöbšiyē·n (道是) [jöbšiyē- の同時接合副動詞形] ㄊ32九; ㄊ34一

\*勺ト失耶- jöbšiyē- (道是) 是とする。

-額速 -'ēsü ㄊ19八, 49九

-周 -jü ㄊ32五; 六50八, 52一; 七18一, 24五, 48七, 49一; 九28八; ㄊ6二, 47八; ㄊ2九, 20一, 50一

-主為 -jü'üi ㄊ52四, 十

-舌命 -rün ㄊ52四

\*勺ト失耶克迭- jöbšiyē·gde- (被道是) [jöbšiyē- の受動形]

-周 -jü ㄊ53一

\*勺ト失耶勒都- jöbšiyē·ldü- (共說是) [jöbšiyē- の對動形]

-周 -jü 五6八

拙別額徹 jöbe'eče (是行) [jöb の奪格形] ㄊ50七

拙別察[→徹] jöbeča[→če] (是上) [jöb の奪格形] ㄊ21九

勺必 jöbi (是麼) [jöb+i 疑問の助辭] ㄊ30六

勺不兀 jöbü'ü (是麼) [jöb+ü'ü 疑問の助辭] 五43一, 46七

勺班 jöba·n (辛苦) [jöba- の同時接合副動詞形] ㄊ47一

勺般 jöba·n (生受) [同上] 五43九

\*勺巴- jöba- (辛苦, 生受) 苦しむ, 心配する。〈→jöbo-〉

-黑撒 𠵹 -gsad ㄊ22九

-黑三 -gsan 九17二

\*勺巴阿- jöba·'ā (教辛苦, 教生受) [jöba- の他動詞形]

-木 -mu 五13三

-中忽 -qu 八18八

勺巴安 jöba·'ā·n (生受着) [jöba·'ā- の同時接合副動詞形] ㄊ16七

\*勺李- jöbo- (生受, 辛苦) 苦しむ, 心配する。〈→jöba-〉

-周 -ju 五20六

-梅 -muj 五36一

-中忽 -qu 七31三

\*勺李阿- jöbo·'ā- (生受, 教辛苦) [jöbo- の他動詞形]

-周 -ju 六40七

-牙 -yā ㄊ47一

勺李安 jöbo·'ā·n (教生受, 教辛苦) [jöbo·'ā- の同時接合副動詞形] 六40三; ㄊ47三

\*勺李勒都- jöbo·ldü- (共転苦, 共生受, 辛苦) [jöbo- の對動形]

-梅 -muj 十7五

-黑撒的 -gsad-i 九30八

-舌命 -run ㄊ26二

勺李郎 jöbo·lang (生受) 苦しみ。ㄊ49二

\*拙額- jö'e- (置) 得る, 獲得する。

-埃 -'ai[→'ēi] ㄊ35五

-克先 -gsen 九33六

-克薛額舌里顏 -gse'er-iyān[→·iyēn] 九29七

-克薛你耶舌里顏 -gsen-iyēr-iyān[→·iyēn] 九7六

\*拙額兀勒- jö'e·'üi- (教搬運) [jö'e- の使役形]

-古耶 -güi-e[→küi-e] ㄊ55四

\*勺乞- joki- (宜, 合宜) 合り, 適する。

-梅 -muj 八21八

-中忽由 -quyu[→quj-ü] 五44三; 七13七

-中灰 -quj 五22四; ㄊ49九

-恢[→中灰] -kuj(→quj) 七10一

-由 -yu 六3五, 六

\*勺乞勒都- joki·ldu- (相和, 商和) [joki- の對動形]

-周 -ju 四30四

-牙 -yā 四10七, 九, 19一

\*勺勳中合- jolga- (遇) 遇う。〈→joluga-〉

-巴 ba 一42五

-周 -ju 一9二; 二29一

-主為 -ju'üi 五23七

\*勺勳中合勒都- jolga·ldu- (相遇) [jolga- の對動形]

-罷者 -ba-je 八35三

勺里阿 joli'ā (替身) 身がわり。ㄊ21七, 22四

\*勺魯中合- joluca- (遇) 〈→jolga-〉

-周 -ju 一8四, 34六

\*勺魯(中)合- joluga- (遇) 同上。

-周 -ju 一47十

\*勺魯中合勒都- joluga·ldu- (相遇, 共遇) [joluga- の對動形]

-罷者 -ba-je 六27三

-周 -ju 三16六

\*勺魯中合(勒)都- joluga·ldu- (相遇) 同上。

-罷 -ba 二23八

勺斡連 jö'ölen (柔弱) やわらかい; 軟弱な。七10八

\*勺黑撒- jögsa- (歇息) 休む, 止む。

-周 -ju 七16六

\*卓 jö (肉背) 背中の部分。二3九

\*勺舌里- jori- (指) 目指す。

-罷 -ba 八18五

-周 -ju 一42八; ㄊ8二, 12二, 35十, 36二; ㄊ4九, 5六

- 黒三 -gsan 九1九  
 -黒三突舌児 -gsan-dur ㄱ3十
- \*勺(舌)里- jori- (指) 同上。  
 -楊中渾 -dqun ㄱ5一
- \*勺舌里兀勳- jori-'ül- (指, 教指) [jori- の使役形]  
 -罷 -ba ㄱ20四  
 -周 -ju 九1五
- 勺舌里纏 jöri·ce·n (交慘) [jöriče- ‘入りまじる, 交又する’ の同時接合副動詞形] ㄱ38二
- 勺舌鄰 jori·n (指着) [jori- の同時接合副動詞形] ㄱ310三, 24十, 25四; ㄱ436五, 七, 八, 九
- 拙舌児中合勳答- jorga·lda- (柴打) うち合う, なぐり合う [jorga- の対動形]  
 -牙 -yā ㄱ30三
- 莊 jöng (先兆) きざし, 前兆; 予感。八41二
- \*莊列- jöng·le- (先兆) きざす; 予感がする, 予測する。  
 -周 -jü 八40八
- \*主ト赤- jübči- (安来, 続, 接) つなぐ, 接続する。  
 -克先 -gsen 九4二, 三  
 -周 -jü 六41十  
 -牙 -yā [→-yē] ㄱ30四
- \*諸額- jü'e- (置来) <→jö'e> 得る, 獲得する。  
 -(克)先 gsen 二34一
- 主不見 jubur (川) 森林, 平原林。-37八, 39二
- 主額捏 jü'ën·e (冷行) [jü'ën ‘寒冷(な)’ の与位格形] ㄱ11七
- 竹克 jüg (処, 各, 各処, 往) 方角, 方向。ㄱ244五, 47五; ㄱ332八, 47八, 49八<sup>2</sup>; ㄱ37三; ㄱ510三, 19九<sup>2</sup>, 27三; ㄱ614七, 25三, 28一; ㄱ71二<sup>2</sup>; ㄱ85二<sup>2</sup>; ㄱ946一<sup>2</sup>; ㄱ138九; ㄱ185<sup>2</sup>, 21一<sup>2</sup>, 26三<sup>3</sup>, 47八, 48三, 49三, 53二, 55七<sup>2</sup>, 57五  
 -突舌児 -dür ㄱ26三
- 竹(克) jüg (班) 同上。ㄱ38五
- 竹格徹 jüge'eče (各処行) [jüg の奪格形] ㄱ48三
- 竹昆 jüg·ün (各処的) [jüg の属格形] ㄱ47八, 49三, 53二
- 竹克 jüg (正) 正しい方向。  
 -途舌児 -tür ㄱ4二  
 -途(舌)児 -tür ㄱ29二
- \*竹克列兀勳- jüg·le·ül- (教正) 方向づける [jüg-le- ‘一定の方向に向く’ の他動・使役形]  
 -周 -jü 八29十

- 主格黎 jügelī (以竿懸肉祭天) 祭祀場。  
 -突[児] -dür ㄱ25十  
 -迭祉 -deče ㄱ26五
- \*主格舌児- jüger- (詛) のろう; そしる。  
 -額速 -'ēsü ㄱ24四
- 主格舌児堅 jüger·ge·n (詛) [jüger- の使役形] ㄱ24五
- \*主格舌魯- jüger·ü- (詛) <→jüger->  
 -楊中渾[→坤] -dqun[→kün] ㄱ24四
- 主札阿納 juja'an·a (厚行) [juja'an ‘厚い’ の与位格形] ㄱ737五
- 主乞耶舌児 jük·iyēr (正依着) [jük<→jüg> の造格形] ㄱ930二
- 主勳都 jüldü (領功) 一番の手柄。[jüldü の転意] ㄱ914九, 15三, 16一
- 主訥 jun·u (夏的) [jun ‘夏’ の属格形] ㄱ217二
- \*主中合- juqa- (对付) もくろむ, はかる。  
 -主兀 -ju'ü 六35五
- 主中忽倫 juqul·u·n (抽) [juqul- ‘引抜く’ の同時接合副動詞形] ㄱ913六, 14二
- \*主中忽魯- jugulu- (抽) 引抜く。  
 -黒三 -gsan 九15七
- 主中忽思 juqus (急忙) 急いで。-36三
- 主舌魯格 jürüge (心) 心臓。ㄱ42十; ㄱ640三, 42七, 48十; ㄱ22十  
 -邊 -bēn 八14十, 15二, 20二
- 主舌魯格泥 jürügen·i (心行) [jürüge(n) の対格形] ㄱ35八
- 主舌魯格捏徹 jürügen·eče (心行) [jürüge(n) の奪格形] ㄱ25二
- 主舌魯堅 jürügen (心) <→jürüge> ㄱ24九
- \*主撤- jusa- (住夏, 過夏) 夏を過ごす。  
 -周 -ju 六27八; ㄱ43三, 52六; ㄱ7五
- 主撤郎 jusalang (過夏処) 夏营地, 避暑地。ㄱ43三
- 主撤黒 jusag (一歳) 三才の羊・山羊類。ㄱ52六, 53四
- \*主薛舌列- jüsere- (霖雨下) 雨が降り続く。  
 -恢突舌児 -küj-dür 八37四
- \*主速舌里楊- jusurid- (語倭) へつらう, こびる。  
 -抽 -ču 五31一
- 主速舌里敦 jusurid·u·n (語倭) [jusurid- の同時接合副動詞形] ㄱ638九
- 主亦列 jüyil·e (一路) それぞれ。[jüyil の与位格形] ㄱ62一<sup>2</sup>
- 諄 jun (夏) 夏。  
 -訥 -nu 三29七; 七22五
- 准答兀勳 junda'ül (乾糞) 馬の乾いた糞。六17三

## k

客 ke (特件) (何かある) もの。五18八; 土15二, 16三

-邊 -bēn 六1四

\*客ト迭- kebde- (臥) 横たわる, 臥す。〈→kebte-〉

-罷 -ba[→-be] 二17十

-周 -jū 二17九

-恢突兒 küj-dür 二4五

客ト迭石 kebde-si (窩巢) ねぐら。

-顔 -yān[→-yēn] 二12一

客ト迭兀勑 kebde-ül (宿衛) 宿直。〈→kebte-'ül〉 土36四

\*客ト帖- kebte- (臥, 睡) 横たわる。〈→kebde-, gebte-〉

-額(傷) -'ē(d) 三14一

-額速 -'ēsü 二17八; 七16二

-古你顔 -gū[→-kū]n-iyān[→-iyēn] 七20五

-周 -jū 二18八; 七21六; 十1三

-秃該 -tūgaj [→gej] 土42六

\*客(ト)帖- kebte- (臥) 同上。

-周 -jū 四3三; 十1四

客(ト)帖 kebte (臥着) [kebte- の命令形] 二19二, 七

\*客ト帖兀勑- kebte-'ül- (教臥) [kebte- の使役形]

-周 -jū 七20九; 八29二, 三; 九43八

客ト帖兀勑 kebte-'ül (宿衛) 宿直兵, 当直兵, 当番兵。七18十, 20八, 21六, 八; 九

31九, 36三, 39九, 46三, 47三<sup>2</sup>, 四, 六, 七, 八, 48七, 八, 九, 49一;

十1四; 六, 九, 2二, 三, 五, 六<sup>2</sup>, 4六, 八, 九, 十, 5一, 六, 6一,

九, 9六; 土14五; 37七, 八, 九, 十, 38二, 十, 39三, 六, 七, 九, 十,

40二, 四, 六, 42四<sup>2</sup>

-突舌兒 -dür 七21一; 九36四, 48一; 土38四

-突(舌)兒 -dür 九46六

-魯 -lü 十7三

-魯額 -lü'ē 九48二; 土38五, 七

客ト帖兀勑速 kebte-'ül-sū (宿衛) 宿直兵。[=kebte-'ül の集合名詞]

-秃 -tü 九31四

客ト帖兀列 kebte-'ül-e (宿衛行) [kebte-'ül の与位格形] 七20七; 九46四; 土37五,

38九

客ト帖兀(舌)列 kebte-'ül-e (宿衛行) [同上] 九46二, 三49

客ト帖兀列徹 ketbe-'ül-eče (宿衛行) [kebte-'ül の尊格形] 九48三, 四; 十5二,

四, 五, 八, 九, 8六, 四, 九; 土38一, 40四, 42六

客ト帖兀里 kebte-'ül-i (宿衛行) [kebte-'ül の対格形] 九36六; 十6十

客ト帖兀命 kebe-'ül-ün (宿衛的) [kebte-'ül の属格形] 九84五, 六, 49二; 十5七,

7二; 土38八, 39一<sup>2</sup>, 二<sup>2</sup>, 四, 六, 40七

客ト帖兀(舌)命 kebte-'ül-ün (宿衛的) [同上] 九48四, 六

\*客別里兀勑- kebeli-'ül- (歪) [kebeli- '傾く' の使役形]

-周 -jū 六12六

客別里兀(舌)命 kebeli-'ül-ün (斜) [kebeli-'ül- の同時接合副動詞形]

六1九

客扯兀 keče'ü (剛) 剛い。〈→kečeü'ü〉 十25十

客扯温 keče'ü-n (剛硬) 同上。[keče'ü の複教形] 土17十

客潮兀 kečeü'ü (剛) 〈→keče'ü〉

-別舌里顔 -ber-iyān[→-iyēn] 土23一

客(傷) ked (誰毎, 誰) [ken の複数形] 六3三, 5四; 七34五

-別舌兒 -bēr 土21九

客(傷) ked (護[→誰]毎) [同上] 四34四

客堆 kedü-i (幾, 幾多, 幾些) どれだけ(の)。四41七; 九11九, 33六

-者 -je 六35二

-宜 -yi 二33六

客敦 kedü-n (幾多) どれだけ(の)。八33六 [kedüi の複数形]

\*客- kē- (説) (〜と) 言う, 話す。〈→ke'ē-〉

-額(傷) -'ēd 一37八, 47三, 48一, 49六; 二3三, 9五, 19二, 八, 21三, 29四, 30

八, 35一, 37二, 43二; 三21一; 五16一, 31八, 49三; 六8二, 17六, 40

七; 七29十, 32一, 四; 八22七; 十35十; 土50六

-額速 -'ēsü 一48十; 二8二, 25一, 28五; 四50四; 五4三, 13四, 25八; 六16六,

20一, 二, 23六, 35七, 九; 七5七, 34五; 八15三, 21六, 22四, 36八;

九28七; 十39十, 40一; 土22九, 56九

-古 -gū[→-kū] 二11七

-周 -jū 一12一

-主兀 -jū'ü 一8七, 9七; 二4八

-恢突舌兒 -küj-dür 四9五

\*客題- ke'ē- (説) (〜と) 言う, 話す; (〜と) 思う。〈→kē-〉

-罷 -ba[→-be] 一13七, 19九, 20九, 21九, 22十, 46十; 二19五, 20八, 23三,

28五, 六, 30六, 32四, 34二, 35六, 40五, 46八, 47一; 三1五, 3一,

5一, 12七, 十, 30三, 31二, 八, 39五, 七, 40二, 46四, 六, 九, 十,

47二, 四, 九, 48九, 49二, 三, 七; 四9九, 16一, 23三, 26十, 39六,

41三, 七, 42一, 43一, 46五, 47七, 48三, 四, 49五, 50二; 五6七, 7

一, 五, 23三, 五, 26二, 六, 31二, 35一, 50十; 六7七, 十, 11六, 12

九, 14八, 17四, 七, 42四, 49七, 50八, 51十; 七15九, 17一, 19九, 28九, 37一; 八32二; 九2四, 十, 3一, 15四, 十, 17八, 19二, 24一, 五, 29七, 30五, 35一, 36四, 十, 38六, 八, 九, 39一, 44一, 47七, 48二; 十4二, 5三, 六, 九, 十, 6三, 十, 8六, 九, 十, 9三, 五, 六, 八, 30十, 38一, 39四, 43八, 44十; 十一8九, 17一, 22四, 23四, 27四, 29七, 八, 30一, 31二, 十, 32二, 三; 十二2二, 27四, 32十, 36二, 42三, 46三 57十

-罷者 -ba[→be]-je 八46三  
 -別 -be -21五; 二33七  
 -別速 -bēsü 十23十  
 -畢 -bi -14五; 二8七, 42九, 45二, 四, 六, 46九; 五22十  
 -楊坤 -dkün 十2九, 十; 十一28七  
 -額魯 -'éd 二3八, 10四, 30一; 三19六; 四7七, 12二, 九, 19七, 20八, 28四, 40八; 五3二; 六52三; 十37八, 40八; 十一22三, 30四, 31一; 十二24九, 43十  
 -額速 -'ēsü 九8八, 9一, 22四, 26一, 三; 十一47四; 十二2八, 4八, 22六, 32八, 52九  
 -克敦 -gdün 十2七, 八  
 -克先 -gsen 四49十; 五50七  
 -克先突舌兒 -gsen-dür 四50一; 九1六  
 -克先突(舌)兒 -gsen-dür 九1六  
 -古 -gü[→kü] 四42六, 43二; 六38四, 39一, 41八<sup>2</sup>, 42一; 七6六; 十一47五; 十二35一  
 -周 -jü -4五, 8八, 11十, 15六, 八, 26四, 33九, 38三, 43十, 45九, 48九; 二1六, 2一, 十, 8六, 9十, 12六, 15六, 八, 十, 17八, 22三, 23八, 25七, 28七, 32五, 33九, 39九, 41十; 三4四, 16三, 21四, 46四, 50七; 四1十, 4九, 11二, 13五, 22五, 25六, 34十, 48二; 五6一, 四, 六, 7三, 15五, 26二, 33十, 36七, 37一, 40七, 41八, 46十, 47一, 48十; 六2四, 七, 5二, 6五, 12二, 14五, 15一, 20三, 23七, 24二, 29五, 30六, 31五, 九, 34四, 35三, 六, 十, 36一, 二, 37五, 39三, 40九, 46四, 48五; 七2一, 6八, 8一, 9三, 14二, 八, 十, 25四, 27七, 31四, 34八, 35十, 37三, 39三, 42九, 44四, 五, 46七, 48五; 八15八, 47九; 九12十, 27九, 34十, 43八; 十4一, 7九, 13三, 21七, 23一, 30九, 31二, 三, 33八, 34六, 十, 38八, 41四, 44三; 十一1八, 16一, 九, 19一, 26九, 35五, 七, 36四, 37六, 42五, 43五; 十二3三, 4四, 5二, 五, 18二, 20三, 24四, 30六, 36一, 49十, 50二, 八  
 -主兀 -jü'ü -42九, 43一; 二1四, 2三; 五20三; 七35八; 八12六; 九28六; 十34八; 十一30一

-主為 -jü'üi 五30十; 40十, 41二, 三, 六, 44一, 四, 九, 48三, 六, 49三, 九; 六3八, 4五, 六, 8二; 七6九, 7二, 11七, 12三, 五, 13八, 34四, 七, 38十, 39五, 九, 十, 46二, 48六; 八18二, 29五; 十8一; 十一4五, 30三, 五  
 -恢 -küi 十7十  
 -恢突舌兒 -küi-dür 八27十  
 -恢魯額 -küi-lü'e 九13九  
 -中灰[→恢]魯額 -qu[→küi]-lü'e 十40五; 十一22八  
 -坤 -kūn 十一3一, 32八  
 -列埃 -le'ai [→'ei] 六35五<sup>2</sup>; 九28九; 十一35十  
 -列額 -le'e 三2三; 七10六; 八41四  
 -魯額 -lü'e 八5一; 十一35二; 十二3五  
 -木 -mü 二23五, 33六; 六4八, 7七; 十28二, 三; 十一21五, 22四, 29八, 31二, 32三  
 -木者 -mü-je 十一31五  
 -梅 -müi 四12五; 五44八; 六4十; 七26四; 十一28一, 47六  
 -梅者 -müj-je 十7三  
 -舌倫 -rūn 十一22六  
 -耶 -yē 五6七

## \*客額克迭 - ke'e·gde- (被說) [ke'e- の受動形]

-額魯 -'éd 十一30七  
 -額速 -'ēsü 十一31三  
 -古 -gü[→kü] 四26一; 十44六  
 -周 -jü 四10八, 19二, 20五; 六2五, 24九, 36二; 七10十; 九13一, 21十; 十24六, 27八, 28四, 34四; 十一3六  
 -恢 -küi 二2十  
 -坤 -kūn 九28六  
 -魯額 -lü'e 十一22九; 十二23六  
 -木 -mü 十一34四, 五  
 -梅 -müi 三20十; 五4五; 七11一, 14一, 23九, 23十, 27二; 十一5八; 十二18二, 26六  
 -兀者 -'üje 六37三  
 -宜者 -yi-je 七7一  
 -由 -yü 二29十; 七38十, 39六

## 客額克迭魯 ke'e·gde·d (被說的) [ke'e·gde- の断定形] 七35七

## 客額克顯 ke'e·gde·n (被說) [ke'e·gde の同時接合副動詞形] 三31四

## \*客額勒都 - ke'e·ldü- (共說, 相說) [ke'e- の對動形]

-罷 -ba[→be] 二19五, 20十; 三23四, 26一; 四31八; 五15二, 20二, 36

八, 37四, 47四, 48二; 六五七, 九, 十; 七32四

-額速 -'ēsü 七15四, 23四

-克先 -gsen 二39五<sup>2</sup>, 八; 三1九, 26四; 五9七, 11九, 36十; 六27五, 六

-(克)先 -gsen 三26十

-克薛泥 -gsen-i 四31八

-克薛訥 -gsen-ü 六26九

-周 -jü 二6十, 24五, 六, 49一; 三27九, 28七, 29七; 四6八, 33一; 五  
5二, 20八, 45三; 五29四

-主為 -jü'üi 七15六, 23三

-恢 -küi 五9七, 36九, 37一

-恢突兒 -küi-dür 二20三

-中灰[→恢]突兒 -qui[→küi]-dür 二19三

-列埃 -le'ai[→'ei] 三12五, 七, 26五; 四20五; 五16一, 49二; 六21十, 22  
四, 七

-舌命 -rün 八17一

-耶 -yē 五29五, 十

\*客額(勅)都- ke'e·ldü- (共說) [同上]

-額揚 -'ed 四35十

-周 -jü 二22三; 二20八

客額勅敦 ke'e·ldü·n (相說, 說) [ke'e·ldü- の同時接合副動詞形] 二46五; 四33十

\*客額兀魯- ke'e·'ül·ü- (被說) [ke'e- の使役形]

-揚坤 -dkün 六37四

-額揚 -'ed 十6十

客延 keyē·n (麼道) [ke'e- の同時接合副動詞形] 一6四, 9四, 11三, 12八, 15二,  
18三, 四, 八, 十, 22九, 23七, 24六, 33五, 35十, 40十, 42三, 十; 二  
3九, 12六<sup>2</sup>, 13六, 14一, 15一, 18六, 十, 21二<sup>2</sup>, 23五, 30七, 33八<sup>2</sup>,  
37一, 38二, 39一, 六, 七, 十, 41八, 44五, 七, 48九, 49十, 51三; 三  
1六, 九, 二二, 3十, 5三<sup>2</sup>, 7七, 8二, 七, 9四, 10四, 五, 12八,  
14三, 15五, 17八, 18四, 十, 20五, 27七, 30九, 31一, 38五<sup>2</sup>, 39一,  
二, 44五, 45五, 49五, 六, 50二; 四1三, 3八, 4一, 6五, 六, 7四,  
10九, 11四, 12七, 15二, 三, 17五, 八, 18五, 19五, 22八, 23一, 24九,  
31三, 34二, 三, 四, 37八, 42三, 十, 43九, 45三, 四, 七, 十, 46四,  
50九<sup>2</sup>; 五1十, 2四, 十, 3一, 十, 4一, 二, 七, 九, 5八, 6六, 7  
四, 九, 12二, 17十, 18七, 19四, 九, 20一, 21六, 25五, 26一, 29八,  
九, 31六, 37九, 38七, 十, 39四, 43二, 四, 45八, 十, 46一, 七, 九,  
47十, 49三, 八, 50十; 六3三, 四, 5四, 6二, 11八, 15十, 16八, 19  
九, 21三, 24十, 25二, 九, 26八, 27三, 29一, 33九, 34一, 八, 35四,  
38三, 九, 39八, 40六, 41四, 九, 45二, 八<sup>2</sup>, 46四, 六, 七, 48二, 六,

51七, 八, 52二, 十, 53四; 七3三, 十, 6九, 7三, 六, 9八, 11四,  
五, 15七, 16三, 19七, 21七, 24四, 六, 十, 25一, 28四, 31八, 33五,  
35四, 36三, 37五, 42三, 46二, 四, 八, 47一, 二, 六, 58一, 49一, 二;  
八5二, 8六, 9十, 10七, 11一, 13五, 十, 14三, 15九, 17五, 八, 21  
一, 22五, 七, 九, 24十, 27八, 28一, 29九, 30六, 九, 31六, 十, 34六,  
35四, 37五, 38五, 40一, 三, 41六, 42二, 五, 47三, 48二; 九2六, 4  
五, 八, 6六, 7八, 9三, 10二, 五, 11八, 17六, 20四, 21二, 22七,  
23四, 24九, 25六, 26五, 28八, 29二, 31十, 34一, 八, 36五, 七, 37七,  
39七, 40二, 41六, 42七, 43三, 四, 45六, 46十, 49一; 十3一, 7二,  
10一, 三, 11二, 三, 12九, 13四, 16一, 九, 18六, 19一, 21二, 三, 六,  
22八, 23九, 24七, 26二, 27四, 28六, 44七; 十一九, 6一, 三, 8三,  
9九, 12一, 三, 六, 九, 13五, 九, 15四, 16四, 17五, 18三, 四, 20四,  
六, 21七, 27一, 28七, 31四, 32八, 33八, 35十, 38二, 40四, 41七, 九,  
42三, 45九, 47六; 十二三, 3七, 十, 4三, 5六, 7九, 8二, 十, 10  
七<sup>2</sup>, 九, 11二, 七, 12六, 七, 16六, 八, 17三, 18六, 19七, 十, 21八,  
九, 22一, 五, 七, 26八, 28三, 29六, 30九, 34一, 37三, 六, 38九, 十,  
39九, 40七, 42七, 43一, 45七, 十, 46七, 49七, 52十, 54五, 57六

客額里 ke'eli (肚, 肚皮) 腹, おなか。一13二; 三37八, 43七; 六36十; 七27五

-邊 -bēn 一37四

-迭徹 -deče 五24十, 25四

-突兒 -dür 一13二

-突舌兒 -dür 四41七

-額扯 -'eče 一14二

-台 -tai[→te] 一22八, 23六, 40六

客額兒 ke'er (野) 草原, 曠野。一37四

客額舌兒 ke'er (曠野) 同上。七38四

客額舌列 ke'er·e (野地行, 野甸, 野甸行, 野外) [ke'er の与位格形] 一47九; 二29  
七; 三5九, 6二, 13七; 五13六; 八35六; 三33七

客額舌列徹 ke'er·eče (自野甸裏) [ke'er の奪格形] 八35九

客額舌命 ke'er·ün (曠野, 曠野的, 野外的) [ke'er の属格形] 三43六; 六36十; 三33  
七, 十, 35十

客格速 kegesü (窺) うらみ。一48二

\*客格速列- kegesü·le- (陰害) ひそかにうらむ。

-古 -gü[→kü] 五56九, 57一

客古里顏 kegül·iyān(→yēn) (鬢) 前髮, 額髮。一37三

客只額 keji'e (幾遠) どれほど (距離に関して)。二45三

客客 keke (胞) 羊水。三37九

客客孫 kekesü·n (車輻) 車の輻。五54四



- 客勅別思 kelbes (翻着) 傾いて。ㄊ35十
- \*客勅乞- kelki- (直連) 連らなる, 連続する。  
-帖列 -tele 七38五
- 客勅帖該 keltegai[→gei] (半) 傾いた; くずれた。六19三
- 客列 kele (話, 舌, 説) 舌; 言葉; 情報。四31十<sup>2</sup>, 32一, 二, 34二<sup>2</sup>, 三, 四; 六5一, 二, 7六; 七26三, 四, 42三; 八15九
- 邊 -bēn 四50四; 五49二
- 額舌兒 -'ēr 五37九; 六22七
- 額舌魯 -'ēr-ū 六22八
- 延 -yēn ㄊ29八
- 客連 kele·n (言語, 話) 同上。三2八, 9十, 14三, 四, 31六; 四4三, 四, 11四, 五, 12七<sup>2</sup>, 18七; 五48三, 49七, 八; 六1四; 七15二, 31八, 九; 八10五, 35五; ㄊ43七; ㄊ21三
- 突舌兒 -dür 七15三; 十24九
- 客速[→連] kesü[→len] (言語) 同上。九48四
- \*客列- kele- (説来) 話す。  
-魯額 -lū'ē 二23二
- \*客列勅都- kele·ldü- (共説) [kele- の対動形]  
-恢宜 -küi-yi 一11四  
-梅 -müj 一12八
- \*客列赤列- kele·čile- (通話) 知らせる, 話しを通す。  
-周 -jü 九46七
- 客列列 kele·le (説) [kele·le- の命令形] 二21二, 23八; ㄊ22四, 六, 31二
- \*客列列- kele·le- (説) 話す。  
-楊坤 -dkün 九25四, 五  
-克薛泥 -gsen-i 三40一  
-克先 -gsen 三31六  
-古 -gü [→kü] 十27五  
-周 -jü 三1二, 4九; 四12九, 13三; 七21二, 26五; 八21四; 九48一; ㄊ38四  
-恢突舌兒 -küj-dür 五48六  
-舌命 -rün 五3五
- 客列連 kele·le·n (説) [kele·le- の同時接合副動詞形] 二38四; 四48三; 九19七; 十26一; ㄊ12七
- \*客列列克迭- kele·le·gde- (被説) [kele·le- の受動形]  
-周 -jü 十24七; ㄊ50七
- \*客列列勅都- kele·le·ldü- (共説, 教説) [kele·le- の対動形]  
-楊坤 -dkün ㄊ2一

- 秃該 -tūgai [→gei] ㄊ38五
- \*客列列(勅)都- kele·le·ldü- (説話共) [同上]  
-周 -jü 一22五
- 客列列勅敦 kele·le·ldün (説話) [kele·le·ldü- の同時接合副動詞形] 六49六, 八
- \*客列列兀勅- kele·le·'ül- (教説) [kele·le- の使役形] 九48二
- 客列田 kele·ten (舌有的, 言語每有的, 言語有的每, 言語有的) 舌・言葉・情報をもつ (複数形)。七33九; 九47十; 十33一, 35四
- 客列秃 kele·tü (話有的, 舌有的, 有語有的) 舌・言葉・情報をもつ。五40六, 43一, 三
- 客列圖 kele·tü (言語有的) 同上。ㄊ38三
- 客里 keli (幾時) いつ。六41七, 九; 八15三
- 客木 kem (限) 限り, 制限。八8四
- 客木格舌里曷 kemgerid (教碎了) 七10一
- 客木客舌魯 kemkerü (破碎) 副詞的狀態言の一つ。碎細的動作の際に用いられる。〈→  
砍客舌魯〉七9八
- \*客木列- kem·le- (限) 限る, 制限する。〈→斡列-, 坎列-〉  
-周 -jü 八8六
- 客木田 kem·ten (限有的) 限りのある。八8七
- 客篋微 kem·eče (限行) [kem の奪格形] ㄊ54三
- 客米耶(舌)兒 kem·iyēr (限依着) [kem の造格形] 九33七
- 客捏 ken·e (任誰, 誰行, 任誰行, 怎生) [ken '誰' の与位格形] 一14四, 五; 二9十, 12五; 三18八, 19六; 四24九; 五43十; 六37四, 38十; 七4一; 十37一, 三; ㄊ21二, 三, 26七, 八
- 客捏微 ken·eče (誰行) [ken の奪格形] 八28二, 三
- 客泥 ken·i (誰行) [ken の対格形] ㄊ21四; ㄊ32五
- 客納 ken·ü (誰的) [ken の属格形] 一12八; 五36一, 49二; 六38七; 八12五; ㄊ23七, 八, 31七  
-埃 -'ai[→'ei] 一18三  
-延 -yēn ㄊ42二
- 客兒 ker (怎生) どのように; いかに。一37五, 七; 二3九, 8五, 9四, 12六, 15五, 十, 20五, 24十
- 客舌兒 ker (怎生, 怎做, 怎) 同上。三4二, 21一, 39四, 50五; 四7三, 9五, 18八; 五5十, 6五, 7三, 13四, 15一, 19四, 44二, 七, 46六; 六51三, 七; 七11六, 15四, 16十, 23四; 八13八, 31八, 34二; 九7二, 15五; 25一, 27八, 49三; 十7三, 24四, 27七, 37七, 38一; ㄊ6一, 20四, 22七, 30八, 31四, 35九; ㄊ5四, 29九, 47八, 56九  
-別舌兒 -ber 四42二
- 客(舌)兒 ker (怎生, 怎) 同上。三4四; 九28五; ㄊ22十

\*客舌列- kere- (闘) 争う, 闘う。

-周 -jü 七27四

\*客舌列勅都- kere·ldü- (閉殿, 闘殿) 争い, 闘い合う。[kere- の対動形] <→gere·ldü->

-額速 -'ēsü 九45五; 五46七

客舌列克 kereg (所用) 必要 (なもの・こと)。五55四

-禿 -tü 五5一

客舌列(克) kereg (用) 二14一 同上。

客舌列吉顔 kereg·iyän[→iyän] (用自的) [kereg の再帰格形] 三16二

客舌列勅 kere·l (闘) 争い, 闘い。七27四

客舌列門 keremü·n (青鼠) 栗鼠。一6一; 六44三

客舌列兀舌里 kere'ür·i (闘殿的行) [kere'ür '闘争' の対格形] 五21四

客舌里額 kerī'ē (老鴉) 鴉。三47六; 八12十; 九3十 <→kejre'ē>

\*客薛- kese- (戒) 懲りて用心する。

-楊坤 -dkün 一33七

\*客薛額- kese'ē- (懲戒) [kese-の他動・使役形]

-周 -jü 八30七

\*客薛額克迭- kese'ē·gde- (懲戒) [kese'ē- の受動形]

-古 -gü[→-kü] 五45九

客石格徹 kešig<sup>①</sup>·eče (分子内) [kešig '賜物, 供物; 恩賜; 福' の奪格形] 二2二

客失克 kešig<sup>②</sup> (班, 直班, 直, 宿衛) 当番, 宿直 (昼間の)。七20七, 21四; 九33五, 34五, 37一, 二<sup>2</sup>, 三, 四, 五, 六, 40十, 41二, 三, 五, 七<sup>2</sup>, 九, 十, 42一, 三, 五, 43二, 45九, 十, 46九<sup>2</sup>, 47四; 五40八, 九, 41二<sup>2</sup>, 四, 六, 七, 八, 九, 十, 42一<sup>2</sup>, 三, 四, 九<sup>2</sup>, 十, 43四, 六, 七, 44一, 三, 五, 九, 45一, 三

-圖舌兒 -tūr 五42十

-圖(舌)兒 -tūr 九37一, 42九

\*客失克列- kešig·le- (輪班) 当番・宿直にする, 当番になる。

-克薛楊 -gsed 九41八

-克先 -gsen 五44八

客失克連 kešig·le·n (輪直) [kešig·le- の同時接合副動詞形] 七20十

客失克帖捏 kešig·ten·e (宿衛的每行, 護衛行) [kešig·ten の与位格形] 九42九; 五45二, 四

客失克帖泥 kešig·ten·i (護衛的行, 護衛的每行, 護衛行, 班有的行) [kešig·ten の対格形] 九40一, 41一<sup>2</sup>, 二<sup>2</sup>, 三, 四, 五<sup>2</sup>, 九, 43五, 九; 十3七, 九, 十; 五14六, 15三, 44八

客失克帖訥 kešig·ten·ü (護衛的) [kešig·ten の属格形] 五37一, 46五

客失克田 kešig·ten (宿衛的, 護衛, 護衛每, 護衛的每, 護衛每的, 輪班, 扈衛) 当

番・宿直に当る者達。七2九, 18十, 19六, 20六, 21九; 九31八, 32一, 三, 39十, 43二; 十9八; 五45三, 46四, 47七

-突舌兒 -dür 五46六

-突(舌)兒 -dür 九45三

-禿 -tü 九31四

客失克禿 kešig·tü (護衛有的, 扈衛有的, 班有的) 当番・宿直に当った。九41十, 42二, 五, 45一; 五43十, 44二

-突(舌)兒 -dür 九45五

-宜 -yi 九42一; 五45六

-因 -yin 九45三

客失昆 kešig·ün (班的) [kešig の属格形] 九41八, 42四; 五40八, 44四

客失兀鶻 keši'üd (班每) [kešig の複数形] 五41九, 42二

客失兀敦 keši'üd·ün (護衛的每, 班每的, 班的每, 班的) [keši'üd の属格形] 九40十, 41六, 42八, 十, 43三, 45九; 五43二, 44八, 九, 十, 45五, 六

客帖 kete (火鎌) 火打ち金。二25九

客禿格勅覆 ketügelja·n[→je·n] (横越) [ketügelje- '横切る (何度も)' の同時接合副動詞形] 九47二

\*客禿勅- ketül- (渡) 渡る。

-罷 -ba[→-be] 一38一

-周 -jü 一1四; 五31十; 六29六; 七31五; 五41七, 52一

\*客禿魯- ketül·ü- (渡) 同上。

-額楊 -'äd 三13七

-舌命 -rün 八3四

客禿命 ketül·ü·n (渡, 渡的, 渡着) [ketül- の同時接合副動詞形] 八3六, 7七; 五20八, 49九; 五16一

客禿思 ketüs (渡過, 横越着) 横切って。七38四; 五31八

客兀鶻兒格 ke'ürge (鼓) 小太鼓。五39七

客兀(舌)魯 ke'ürü (碎) 副詞的動態言の一つ。ものを碎き割る際に用いられる。四94九

客兀思 ke'ūs (横断) 副詞的動態言の一つ。また横断的動作に際し用いられる。四31三

\*客亦思- keyis- (刮) 吹きとぶ。<→kejis->

-周 -jü 一19八

-帖列 -tele 三21六; 五5十

客亦思干 keyis·ga·n[→ge·n] (刮) [keyis- の他動・同時接合副動詞形] 二25六

客亦思堅 keyis·ge·n (ナン) [同上] 五1五

客亦速木薛兒 keyis·ü·müser (曾刮) 吹かれることのない。一37四

克 kei (風) 風。一19六, 37三; 七33十

鶻舌列額 kejre'ē (老鳥) <→keri'ē> 三18二

- \*克亦思- kejiyis- (風刮) 吹きとぶ。〈→keyis-〉  
-恢突舌兒 -küj-dür 三六一
- 坎客命 kam[→kem]kel·ü·n (撞碎) [kemkel- '碎き割る' の同時接合副動詞形] 九一六
- 坎客舌魯 kam[→kem]kerü (碎) 〈→kemkerü〉 七四三
- \*斡列- kam[→kem]le- (限定) 限る, 限定する, 制限する。[→kemle-, 坎列-]  
-克先 -gsen 五五二
- \*坎列- kam[→kem]le- (限定) [→kemle-, 斡列-]  
-克先 -gsen 九三三
- 虔 ken (誰) 誰。—48九; 四四九; 五三六四; 七三六三, 37五, 39五; 八三〇五; 九四八三, 四, 五; 十44九; 十一一七, 22九, 39七, 57二  
-突舌兒 -dür 七七十; 八13八  
-途兒 -tür 一四二八
- \*乞- ki- (做, 等, 説, 盛) する, 行う。  
-罷 -ba[→-be] 四15七  
-額速 -'ēsü 八21七  
-額魯 -'ed 二35八; 四六十; 五九三, 12十; 六一四; 七44一; 十23一  
-克先 gsen 八47一  
-周 -jü 一15十, 37七; 三二八; 四27七; 六16八, 34三  
-恢突舌兒 -küj-dür 十2四  
-恢突(舌)兒 -küj-dür 十2三  
-坤 -kün 五13四, 15二, 19四; 七15四, 23四, 26九  
-列額 -le'ē 八23三  
-秃該 -tūgai[→gei] 九46十; 十一50二
- 勤 ki·n (做) [ki- の同時接合副動詞形] 十一八, 2一; 十一25八
- \*乞克迭- ki·gde- (做, 被做) [ki- の受動形]  
-罷 -ba[→-be] 二四八; 四18五  
-克薛泥 -gsen-i 三4八  
-魯埃 -lü'aj(→'ēj) 十一30八  
-舌命 -rün 十一34七
- 乞克顯 ki·gde·n (被做) [ki·gde- の同時接合副動詞形] 四九五, 18九
- \*乞勒都- ki·ldū- (相做) [ki- の對動形]  
-梅 -müj 二八四, 12六
- \*乞兀勒- ki·'ül- (教做) [ki- の使役形]  
-周 -jü 十一37七
- 乞卜<sup>1</sup> kib (意快) 満足。十一23十
- 乞不兀的牙舌兒 kibü'üd·iyär (熟絹教) [kib<sup>2</sup> '極めて薄い絹布' の複數・造格形] 十一7三

- 乞赤昂古 kič'i'änggü[→'ēnggü] (謹慎的) 謹勉な, 努力する。十一18四
- \*乞赤額- kič'i'e- (謹慎) 努力する, 努める, 精励する。〈→kičiyē-〉  
-周 -jü 九21七
- \*乞赤耶- kičiyē- (謹慎) 同上。  
-古 -gü[→-kü] 十一57三
- 乞赤延 kičiyē·n (謹慎) [kičiyē- の同時接合副動詞形] 十一26一
- \*乞都- kidu--qidu- (殺, 尽殺, 夷滅) 殺りくする。  
-阿魯 -'ād 十一38十; 十一20十,  
-罷 -ba 五1五; 十一13四  
-周 -jü 五19八; 十一2五, 13四; 十一6一, 27七  
-主為 -ju'ūj 十一4八  
-中忽泥 -qun-i 八4六  
-中仄突舌兒 -quj-dur 五20七  
-(中)仄突舌兒 -quj-dur 九12七  
-牙 -ya 五19八, 20二
- 乞教 kidu·n (尽絶) [kidu- の同時接合副動詞形] 五20九
- \*乞都兀勒- kidu·'ül- (尽殺) [kidu- の使役形]  
-周 -jü 八4六
- 乞都阿赤 kidu·'ači (好殺的) 殺し好きの; 戦闘的な。六41八
- \*乞古舌里- kigūri- (縁) 横断する。  
-周 -jü 六45三
- 乞札阿舌兒 kija'ar~qija'ar (辺) 境, 縁, 辺。〈→kiji'ar〉 十一40二
- 乞札阿舌刺 kija'ar·a (辺行) [kija'ar の与位格形] 二30四
- 乞只阿舌兒 kiji'ar (辺) 〈→kija'ar〉 十一37十, 52四
- 乞只阿舌刺 kiji'ar·a (辺行) [kiji'ar の与位格形] 四3二; 八36二
- 乞真 kijin (縁着) 縁にそって。[動詞語幹 \*kiji- が想定される] 七32七
- 乞勒八舌刺 kilbar·a~qilbar·a (容易行) [kilbar 'たやすい' の与位格形] 一14四, 五
- 乞勒巴舌魯 kilbar·ū (容易歴, 容易有) [kilbar の疑問形] 十一7七, 八
- 乞勒昆 kilgü·n (輻条, 車輻) 車の輻。〈→kiligü, kilgü(n)〉 七2一; 八14五; 九16二
- 乞勒中合孫 kilgasu·n (尾上毛) 動物の粗硬な毛。  
-巴兒 -bar 一16五
- 乞里耶兒 kil·iyer (透入光) [kil '物事と物事との境' の造格形] 一13三
- 乞里古 kiligü (車輻) 〈→kilgün, kilügü(n)〉 一37二
- 乞《舌》零 kiling (怒) 怒り, 憤り。  
-都舌兒 -dur 十一34六
- 乞靈 kiling (怒) 同上。  
-都舌里顏 -dur-iyän 十一27六
- \*乞令刺- kiling·la- (怒) 怒る, 憤る。[qiling·la- と転写すべきかと思える]

- 周 -ju 四18八
- \*乞零刺- kiling·la- (怒) 同上。
- 周 -ju 二45六
- \*乞《舌》零刺- kiling·la- (怒) 同上。
- 阿速 -'asu 二18一
- 周 -ju 三31六, 33九
- \*乞靈刺- kiling·la- (怒) 同上。
- 周 -ju 七31二, 一47; 十18六, 27五, 29五
- \*乞靈刺黑苔- kiling·la·gda- (被怒) [kiling·la- の受動形]
- 周 -ju 十31一
- 乞魯古 kilügü (轅条) <→kilgün, kiligü, kilügün>
- 邊 -bēn 六23二
- 台 -tai [→-tei] 六23一
- 乞魯昆 kilügün (轅条) <→kilgün, kiligü, kilügü> 六23三
- 乞木勒 kimu·l·qimu·l (指甲) 人の爪。<→kimu(n)l> 三32一, 三
- 乞木速 kimu·su·qimu·su (爪甲) 動物の爪。
- 阿舌里顏 -'ār-iyān 八7二
- 乞門勒 kimu(n)·l (指甲) <→kimul> 一33八
- \*乞兒中合- kirga--qirga- (剃) 刈る。
- 舌刺 -ra 二45一
- 乞舌魯額<sup>1</sup> kirü'ē (聚馬) 馬寄せ場, 馬をつないでおく所。
- 迭徹 -deče 十33二
- 突舌兒 -dür 九46六
- 乞(舌)魯額薛 kirü'ē·s·e (下馬) [kirü'ē の複数・与位格形]
- 額徹 -eče 四8六
- 乞舌魯額<sup>2</sup> kirü'ē (鋸子) のこぎり。十19七
- \*乞舌魯格迭兀勒- kirü·gē·de·'ül- (教鋸) [kirügēde- 'のこぎりで切る' の使役形]
- 周 -jü 十19九
- \*乞撒- kisa--qisa- (報) 仇をとる, うらみを報ずる。
- 周 -ju 五19七
- 乞三 kisa·n (報) [kisa- の同時接合副動詞形] 九12五; 二20五
- 乞散 kisa·n (報) [同上] 一40二
- 乞撒勒 kisa·l (讎, 冤, 仇) うらみ, 仇。<→乞散勒> 一40二; 九12五; 二20五
- 乞散勒 kisa(n)·l (仇) 同上。五19七
- 乞克[→失] kig[→š] (怨) うらみ。
- 田 -ten 四19四
- 乞失 kiši (冤) 同上。
- 田 -ten 九12四

- 乞秃中孩 kitucaj-qitucaj (刀, 刀子, 刀兒) 刀。五2八, 20八; 九14二, 15七, 八
- 巴舌兒 -bār 六34二; 九14八
- [巴]舌里顏 -bar-iyān 二16二
- 班 -bān 九13六, 14三
- 亦牙舌蘭 -yiyārān 五3三
- \*輕古勒- kinggül- (横断) 切りさく。
- 罷 -ba[→-be] 二24二
- \*輕古舌里- kinggüri- (截断) 切りさく(続けざまに)。
- 楊坤 -dkün 三46八
- 輕古舌魯 kinggürü (横断) [副詞的動態言。連続的な切断的動作を表わす。] 二29三
- 輕古思 kinggüs (横断) [副詞的動態言。瞬間的な切断的動作を表わす。] 三6三
- 勤勒巴兒 ki(n)lbar (容易) 容易な。一21九
- \*闊卜失勒都- köbši·ldü- (共寒) [köbši- '凍える' の対動形]
- 周 -jü 八40十; 九8六
- \*闊多勒- ködöl- (動) 動く, 移動する。<→歌多勒->
- 主為 -jü'üj 四36六, 七, 八, 九, 37一
- \*闊多勒格- ködöl·ge- (動) [ködöl- の使役形]
- 額楊 -'ed 四37五
- \*可乞- köki- (輕驚動) こわがる, すぐ驚く。
- 迭克 -deg 三5八, 6四
- \*闊乞- köki- (驚) 同上。
- 周 -jü 三32七
- \*可乞兀勒迭- köki·'ül·de- (被挑) [köki- の使役・受身形]
- 罷 -ba[→-be] 六21九
- \*闊乞兀勒迭- köki·'ül·de- (挑唆) [同上]
- 周 -jü 八17四
- 闊闊 kököl (青) 青(い)。二27三; 四49十; 六34十, 35二; 八31二, 四
- 闊闊 kököl<sup>2</sup> (乳) 乳房。<→köken> 十29十, 30一
- 闊闊楊 kököl·d (乳每) [kököl (乳) の複数形] 十30二
- 闊闊的顏 kököl·d·iyān[→iyēn] (乳每自的) [kököl·d の再帰格形] 十29六
- 闊刊 kökan[→ken] (乳) <→kököl> 十29八
- \*闊闊- kököl- (乳) 乳を吸う。
- 克先 -gsen 十29八
- \*闊可- kököl- (唾) 同上。
- 周 -jü 七35二
- 闊楊 köd (脚) 足々。[köl '足' の複数形] 二46七
- 闊勒 köl (脚) 足, 脚。五41三; 七12一; 九43九; 十43五; 二27二, 46一, 47一, 55九
- 突舌兒 -dür 八46四

- 都舌里顔 -dür-iyān[→iyēn] 八29一; 九11三  
 -秃 -tü 八24三  
 -圖兒 -tūr 二24九  
 闊里顔 köl-iyān[→iyēn] (脚自的) [köl の再帰格形] 六13六; 八37七  
 可里耶舌兒 köl-iyār[→iyēr] (脚用) [köl の造格形] 四27二  
 \*闊勒 köl- (駕) 家畜に車をつなぐ。  
 -古 -gū[→kü] 五54  
 -周 -jū 三38八; 十28八  
 \*闊(勒)- köl- (駕) 同上。  
 -周 -jū 二44七  
 \*可勒格- köl-ge- (駕) [köl- の使役形]  
 -周 -jū 一44九, 45二  
 \*闊勒赤舌兒格- kölčirge- (痲病) [この語, köl čirge- '足をひきずる→疲勞する' と  
 解すべきか]  
 -梅 -müi 五5八  
 \*闊勒迭- kölde- (拿) 足をつかむ。  
 -周 -jū 五41三  
 闊勒格 kölge (駕車的) のりもの。十41三  
 闊列孫 kölesün (汗) 汗。五25十, 26一, 46三  
 可門(勒)都兒格 kömü(n)ldürge (拔骨) 胸がよい, 胸あて。二15五  
 \*可門(勒)都兒格列- kömü(n)ldürge-le- (拔骨依旧扣) 胸がよいをつける。  
 -克薛額兒 -gse'er 二15三  
 \*闊舌兒別- körbe- (翻) ひっくりがえる, 覆える。  
 -周 -jū 五24三  
 闊舌里速 körisü (地皮) 土壤; 地表; 外皮。  
 -台 -tai[→tei] 五24三  
 闊薛舌列 köser-e (地行) [köser '土地, 地' の与位格形] 四47五; 五47一, 55九  
 闊薛舌列徹 köser-eče (地行) [köser '土地, 地' の奪格形] 九11三  
 闊雪舌兒 kösör (ナン) 土地; 曠野 (→köser)  
 -途舌兒 -tūr 三44一  
 闊脱臣 kötö-či-n (家人毎, 伴当) 従者, 下僕。八4九; 五46五  
 《中》闊脱臣 kötö-či-n (伴当) 同上。九45三  
 闊脱馬 kötö-d (從馬) [kötö(n)l の複数形] 七32六  
 可圖勒 kötö(n)l (從馬) 余分の牽き馬。二43九  
 团闊勒 kötö(n)l (從) 同上。一47三  
 \*可脱勒- kötöl- (牽引) (馬などを) 引く。  
 -周 -jū 一9二  
 \*闊脱勒- kötöl- (牽) 同上。

- 周 -jū 一37一  
 \*可脱(勒)- kötöl- (牽) 同上。  
 -周 -jū 二15二  
 \*闊脱(勒)- kötöl- (牽) 同上。  
 -周 -jū 二28四  
 \*闊脱魯- kötöl-ü- (牽) 同上。  
 -額魯 -'ed 七6四  
 闊脱勒壇[→田] kötöl-tan[→ten] (牽一匹從馬) 從馬をもった(者)。[複数形] 五3二  
 可兀 kö'ü (兒, 子, 兒子) 子; 息子。〈→kö'ün〉一47一, 二, 49五; 三1五, 13九;  
 五32三, 34五, 36八, 40七; 六16七, 九, 29八, 31二; 九8三; 五16九  
 -別延 -beyēn 一44一  
 -邊 -bēn 一47一, 49一; 二1五, 34七, 八, 41七; 三1五; 五13八, 33七, 44  
 一; 六16一, 33十, 44十; 七37六; 五18二  
 -秃 -tü 一7五; 五36六  
 可兀捏 kö'ü-n-e (子行, 兒子行) [kö'ü(n) の与位格形] 六34三, 52五; 十16一  
 可兀捏扯 kö'ü-n-eče (幼小人行) [kö'ü(n) の奪格形] 二17六  
 可兀捏微 kö'ü-n-eče (兒子兒) [同上] 四28十  
 可兀捏扯延 kö'ü-n-eče-yēn (子兒, 子自的) [kö'ün-eče の再帰格形] 五33五; 六  
 15四, 33一  
 可兀泥 kö'ü-n-i (兒子行, 兒子, 子行) [kö'ü(n) の对格形] 一24六; 三32十, 50四;  
 五36六, 41一, 42四, 44七, 50五; 六17六  
 可兀泥顔 kö'ü-n-iyān[→iyēn] (兒自行) [kö'ü(n) の再帰格形] 一46九  
 可兀你顔 kö'ü-n-iyār[→iyēr] (兒子自的) [同上] 二41五  
 可兀訥 kö'ü-n-ü (兒子的, 子的) [kö'ü(n) の属格形] 一42九; 六16四, 五, 52九; 九  
 14九, 15三, 九  
 可兀訥延 kö'ü-n-ü-yēn (子自的, 子自的) [kö'ün-ü の再帰格形] 五34八, 44五; 六  
 31四  
 可兀魯 kö'ü-d (子, 子每, 兒子, 兒子每, 孩子, 大王, 大王每) [kö'ü(n) の複数形]  
 一7七, 10五, 九, 11二, 三, 12七, 八, 14二, 27十, 28四, 29三, 七,  
 30四, 31三, 九, 41五, 45七, 49一; 二5五, 6三, 八, 8七, 13七, 20  
 四, 21十, 23三, 43三, 47一; 三20九; 五2四, 五, 4六, 八, 5三, 6  
 八, 32十; 八2十, 3十, 6七, 12五; 九32四; 十3八, 4六, 26十, 40  
 五; 五21十, 42一, 44三, 45二, 六, 八, 46七, 九, 50五; 五2一, 三,  
 八, 13七, 八, 九, 16九, 十, 27六, 52一, 三  
 -魯額邊 -lü'e-bēn 四6三; 五1九, 2二, 6十; 七45五; 九27五, 十; 十38四  
 -帖 -te 八30三; 九33三, 八, 九, 十; 十22七; 五21五  
 -帖延 -te-yēn 一14一; 四24八  
 -途(舌)兒 -tūr 四29一

可兀(楊) kō'ū(.d) (子每) [同上] 二六四  
 可兀勒(→楊) kō'ū.l[→d] (子) [同上] 一三  
 可兀迭扯 kō'ū.d.eče (子勉) [kō'ū.d の奪格形] 三四三  
 可兀迭徹 kō'ū.d.eče (大王勉, 大王每勉) [同上] 二二八, 三三四  
 可兀的 kō'ū.d.i (子每, 子每行, 兒每, 兒每行, 兒子每, 兒子每行, 兒子每的[→行], 兒行, 兒子行, 人行, 大王行, 大王每行) [kō'ū.d の対格形] 一三二七; 二二一, 三二, 五, 五六, 四三二; 四四一; 五二七六; 六七〇; 七一九, 二; 八六四, 九八; 九三二六, 八, 九, 十, 三六一; 一九九, 一〇六; 二四一六, 四四, 七, 四六一, 八, 五〇七; 二八四, 一六五, 六, 一八六  
 可兀的顏 kō'ū.d.iyān[→iyēn] (子自的, 子自的每, 子每行, 子每自的, 兒自的, 兒自的, 兒子自的, 兒子每自的, 兒每自的) [kō'ū.d の再帰格形] 一三九, 三二六; 二四七, 十, 一三, 一七, 四六; 三二一; 四一七, 二六; 五三五; 六二五, 四四  
 可兀的耶舌連 kō'ū.d.iyēr.ēn (兒子自的) [kō'ū.d の造格・再帰格形] 三三五  
 可兀的耶舌里顏 kō'ū.d.iyēr.iyān[→iyēn] (兒子自的, 兒子每自的, 子每自的) [同上] 四二二; 八二; 九二五, 二四  
 可兀都延 kō'ū.d.ū.yēn (兒子每自的, 兒子每自的, 兒子自的, 兒子每行) [kō'ū.d の再帰格形] 九一七; 一四三九; 二二四; 二一六九, 一七二, 三, 七  
 可兀敦 kō'ū.d.ün (兒子的, 兒子每, 兒子每的, 兒的, 子每的, 子每行[→的], 大王的) [kō'ū.d の屬格形] 一三三四; 四二五, 六, 二八, 四七; 六二七; 九四六, 一七三; 一六五, 二二四; 二二二, 二三, 二八, 二九; 一七五, 七, 一八五, 二九  
 可兀赤連 kō'ū.čile.n (做兒, 做兒子) [kō'ū.čile- '子とする' の同時接合副動詞形] 八二九; 九一四  
 可兀客都延 kō'ū.ke.d.üyēn (兒子每行) [kō'ūked の再帰格形] 二二二  
 可兀客泥 kō'ū.ken.i (小兒行, 兒行, 兒子行) [kō'ūken '子供' の対格形] 三二四; 四一七, 四, 二五, 二四, 四, 六, 七; 九一三  
 \*可兀列- kō'ū.le- (兒生) 兒を生む。  
 -畢 -bi 一三六  
 可兀舌兒格 kō'ūrge (鼓) 小太鼓。  
 -邊 -bēn 三九, 八  
 -因 -yin 三五  
 可温 kō'ūn (子, 兒, 兒子, 後生, 幼小) (→kō'ū) 一三九, 十, 二, 二, 六, 七, 九, 七二, 二七, 八, 九, 十, 二七, 八, 二九, 二九, 二七, 五, 六, 八, 二八, 二六, 五, 三三, 四, 十, 三一, 三二, 四三, 二, 四七, 四八, 九; 二一五, 二八, 二九, 十, 三三, 三九; 三六六, 二一, 三四, 三五, 四一, 七, 八, 九; 四二八, 一七, 八, 二一, 二五, 二八, 九, 三〇, 三六, 三六, 四七; 五二八, 二七, 三五, 八, 三七一, 三八, 四一, 四二

四, 四六, 四八; 六七五, 二七, 三〇, 五, 三五, 十, 三八, 六, 七, 八, 三九, 十, 四二, 四六, 五二, 七; 七〇四, 三九; 八一三, 八, 三六; 九七二, 一三, 二一, 二五, 三六, 九; 一〇二, 一三; 二二九, 二四, 三〇  
 -別延 -beyēn 一〇二, 六  
 -突舌兒 -dür 五二九, 十, 四二, 六三, 五三  
 -都舌里顏 -dür.iyān[→iyēn] 七二六  
 -魯額邊 -lü'e-bēn 三三六  
 -泥 -ni 一〇一  
 \*闊亦楊- köyid- (謀取) 謀る, 画策する。  
 -抽 -čü 八二二  
 闊亦田 köyi.ten (寒) 寒い。八四〇  
 闊亦由[→田] köyiyü[→ten] (寒) 同上。九八六  
 \*款迭- kōnde- (動) さわる; 刺戟する; (事)をあらだてる。  
 -罷 -ba[→be] 六二五  
 -額速 -'ēsü 二二二; 九四三  
 款類 kōnde.n (動) [kōnde- の同時接合副動詞形] 二三七, 九  
 \*款帖- kōntē- (動) (→kōnde-)  
 -額速 -'ēsü 二四五  
 寬迭列捏徹 kōndelen.eče ((橫行) [kōndelen '橫(の)' の奪格形] 二一三  
 欠[→款] 迭列捏徹 kō[→kōn]delen.eče (自横裏) [同上] 五四〇  
 款迭列都 kōnde.le.dü (莫是橫) 横の, 傍の。  
 -由[→因] -yu[→yin] 六二九  
 款多列都 kōndōle.dü (被傍人) 横の, 傍の(者)。  
 -迭 -de 八一七  
 款只列 kōnjile (被, 被子, 被兒) かけもの, 褥。四一四  
 -迭延 -deyēn 三二八; 二四四  
 -亦顏 -yiyān[→yiyēn] 一三二  
 匡格連 kōngge.le.n (輕) [kōngge.le- '輕くする' の同時接合副動詞形] 六一四  
 匡失列蔑劬 kōngšile.mel (臘) 塩づけの乾いた臭気のある。一三  
 窟出鼯捏 kūčügene (小鼠) 小さな鼠。三二九  
 窟出古兒 kūčügür (野鼠) 山野に住む野鼠。二二七  
 曲魯克 külü.g (俊傑) 俊馬, 俊傑。八一九  
 曲魯吉 külü.g.i (豪傑行) [külü.g の対格形] 八三九  
 曲魯吉耶舌兒 külü.g.iyēr (豪傑教) [külü.g の造格形] 八三六  
 曲魯昆 külü.g.ün (豪傑的) [külü.g の屬格形] 八三八  
 曲魯兀楊 külü.'ūd (傑每, 傑, 俊傑每) [külü.g の複數形] 五三四; 六三一; 二二四  
 曲魯兀楊 külü.'ūd (駿) 同上。一二八  
 曲魯兀的 külü.'ūd.i (傑) [külü.'ūd の対格形] 五三三, 三四

曲魯兀的顔 külü·'ūd·iyān[→iyēn] (傑自的, 傑自的行) [külü'ūd の再帰格形] 五34  
一, 九; 六30五, 31五; 九2一

曲魯兀的耶里顔 külü·'ūd·iyēr·iyān[→iyēn] (傑自的) [külü'ūd の造格・再帰格形] 六30八

曲魯兀敦 külü·'ūd·ün (傑的) [külü'ūd の属格形] 六30九

\*枯児格- kür·ge- (送到) 到らず; とどける, 送る。〈→古舌児格→

-周 -jü 二37六

枯舌魯 kürü (石) 大石。二1 一

窟兀児格 kü'ürge (扇爐的風匣) ふいご。

-邊 -bēn 二41四

恢亦徹- küi'yiče- (趕) 追いつく。〈→güi'yiče-, güi'yiče-〉

-周 -jü 二32二, 七

坤都 kündü (重) 重い。四47五; 七28一; 八21八

-帖 -te 二5九

孔客- küngke- (離的遠) 遠ざかる。

-禿該 -tügai[→tügei] 六51八, 52二

孔客温勒- küngke·'ü(n)l- (離遠) [küngke- の他動・使役形]

-周 -jü 二50二

孔牽 küngke·n (逃出) [küngke- の同時接合副動詞形] 四45二

## 1

老撒速惕 lausa·s·ūd (騾) [lausa '騾馬' の二重複数形]。二27三

## m

- \*馬勒塔- malta- (跑) 掘る。八7二  
馬里安 mali'a·n (侍奉) [mali'a- '仕える, かしづく' の同時接合副動詞形] 八34  
五  
\*馬里牙- maliya- (祭祀) パターなどを塗って祝福する。  
-速中孩 -sugaj 二51二  
馬納 man·a (俺行) 我々に。[ba(n) '我々' の与位格] 九11七; 二21五  
-兀 -'ū 五43十  
馬納中合兒 managar (明, 明日, 清早, 每早) 翌日, 明日。二20七, 九, 28九, 29二,  
42五, 51二  
馬納中合舌兒 managar (明, 明日, 明早, 清, 清早, 早) 同上。三45六; 四34九; 五31  
六, 47三, 48一; 六29三; 七29三; 八20十; 十26一, 44五; 三1十  
馬納<sup>(中)</sup>合[兒]石 managa[r]·ši (明日) 翌日。一46五  
馬納中合兒石 managar·ši (明日行) 同上。二3三  
馬納中可<sup>(舌)</sup>兒石 managar·ši (明日) 同上。四35五  
馬納<sup>(中)</sup>[舌兒]石 managa[r]·ši (明, 明早) 同上。七43五  
馬納中合舌兒石 managar·ši (明, 明早)。四47二; 六1八; 九16七; 十34一, 35二  
馬納中合舌里 managar·i (早行, 明早行) 朝; 翌日。六40四; 七21一; 九47三  
馬納中合舌魯 managar·u (明早, 明, 早晨) 翌日; 明日。五29九; 六28十; 十44四  
馬納中合舌命 managar·un (清早的) [managar の屬格形] 三45四  
馬泥 man·i (俺行) 我々を。[ba(n) '我々' の対格] 二20九; 九15一; 三47一  
馬訥 man·u (俺的) 我々の。[ba(n) の屬格] 一45七<sup>2</sup>; 二4七; 三43十, 44一, 三;  
四20七; 六21二; 七47九; 三5十, 42一  
-埃 -'ai 九15四  
馬<sup>(中)</sup>合 maga (知他, 莫不) はて~だらうか。一19五; 八21八  
馬中合 maga (不知, 莫, 莫不, 且) 同上。五22九, 44七; 七12一, 二, 四, 28八,  
九; 八44一; 九11九; 十44六; 三23一, 31六, 36一, 四; 三3一  
馬中合揚 magad (実) 確かに。二49九  
馬<sup>(中)</sup>合揚 magad (真実, 実) 同上。五49七; 十43三  
馬中合来 magalai (帽, 帽子, 皮帽) 帽子。四39六; 十28十, 29四, 39一  
-班 -bān 二51四  
-因 -yin 三29六  
馬中恰来 magalai (帽兒) 同上。  
-秃 -tu 三23八  
\*馬中孩- maqaj- (ナン) 努力する, 奮い立つ。  
-周 -ju 三45五

- 馬舌刺阿 mara'ā (肌膚) <→mariyā> 三2七  
馬舌刺安 mara'an (仔細) 細く詳べる。[mariya- と同根か?] 七47二  
馬舌蘭勒 mara(n)l (鹿) 牝鹿。一1四  
馬舌蘭<sup>(舌)</sup>命 mara(n)l·un (母鹿的) [mara(n)l の屬格形] 三23八  
馬舌里牙 mariyā (肌膚) 肌, 皮膚。三2二, 5三, 11一  
-班 -bān 三1九  
馬舌里顏 mariyā·n (皮膚) 同上。  
-納察 -nāča 七48一  
\*馬舌里牙- mariyā- (窺覷) ひそかに窺う。  
-周 -ju 一16八  
-主兀 -ju'ū 七6一  
馬石 maši (好生) 大變, とても。二1三, 12八, 29八, 36十, 37一, 40一, 51一; 四  
15四, 八, 18八, 37十; 五20五, 21二; 七47一; 十12六, 18六; 三4五,  
13十, 17二, 三, 39十, 40五; 三1九, 13三, 31六  
-古 -kū 五20九  
\*馬危刺- ma'ūi·la- (煩惱) 怒る, 気にくわない; 叱責する。  
-周 -ju 五44四; 九2七; 十27九  
\*蠻都- mandu- (長進) 育つ; (日) 昇る。  
-塔刺 -tala 十37五  
蠻途兒 man·tur (俺行) 我々の処に。[ba(n) の与位格] 一19四  
忙吉兒速 manggirsu (薙) 山葱。  
-阿兒 -'ār 二6七  
忙吉兒速你牙兒 manggirsu·n·iyār (薙教) [manggirsu(n) の造格形] 二6二  
莽刺納察 mangla·n·āča (頭哨兒) [manglan の奪格形] 四33四  
莽来 manglaj (額, 頭哨, 為頭) 額; 先鋒。一3四; 四33二, 四; 三37二, 38五; 三  
20九  
-突兒 -dur 三26一  
-秃 -tu 三26九  
-壇 -tan 七33九  
-因 -yin 三25十, 46三  
\*莽来刺- manglaj·la- (先鋒, 教做先鋒) 先鋒とする。  
-周 -ju 六8五  
-牙 -yā 六7七  
莽来蘭 manglaj·la·n (為頭, 先鋒) [manglaj·la- の同時接合副動詞形] 六5六, 8  
二; 三12五  
莽蘭 mangla·n (頭哨, 頭哨每) 先遣隊。[manglaj の複数形] 四33九, 34五, 八<sup>2</sup>  
莽中忽思 mangGus (蟒) 妖怪, 魔物。七38九  
蟒<sup>(中)</sup>古思 mangGus (莽蛇) 同上。二11七



## 472 元朝秘史蒙古語辞典

卯兀  $ma\dot{u}'\ddot{u}$  (歹) 悪い。三18六, 八, 十, 19二

\*卯兀刺-  $ma\dot{u}'\ddot{u}\cdot la-$  (煩惱) 叱責する。

-畢 -bi 二12八

\*卯兀刺勅都-  $ma\dot{u}'\ddot{u}\cdot la\cdot ldu-$  (煩惱) [ $ma\dot{u}'\ddot{u}\cdot la-$  の対動形]

-周 -ju 一6二

卯兀納  $ma\dot{u}'\ddot{u}\cdot a$  (歹每行) [ $ma\dot{u}'\ddot{u}[n]$ ( $ma\dot{u}'\ddot{u}$  の複数形) の与位格形] 二1六

卯兀中合鄰  $ma\dot{u}'\ddot{u}\cdot qa\cdot lin$  (相怪) 仇, 不仲者。四9七

卯兀中罕  $ma\dot{u}'\ddot{u}\cdot qan$  (歹) 悪い。 [ $ma\dot{u}'\ddot{u}$  の強意形] 七22十, 25一

卯兀壇  $ma\dot{u}'\ddot{u}\cdot tan$  (歹每有) 悪い。 [ $ma\dot{u}'\ddot{u}tu$ ,  $ma\dot{u}'\ddot{u}tai$  の複数形] 七11九

卯危  $ma\dot{u}'\ddot{u}i$  (歹) 悪い。一21八, 48三, 四, 八, 49三; 三18四, 20十, 45九; 五42六, 44二; 六22十, 33十; 七10二, 五, 44三; 八46三; 三32四

卯危刺-  $ma\dot{u}'\ddot{u}i\cdot la-$  (煩惱, 恚) あきたりない; 叱責する。

-周 五44四; 九2七; 三29七

卯温  $ma\dot{u}'\ddot{u}n$  (歹) 悪い。 [ $ma\dot{u}'\ddot{u}$  の複数形] 六21五<sup>2</sup>; 十37五

箴迭  $mede$  (知者, 知, 管) [ $mede-$  の命令形] 一49四; 八32二; 九9二; 十38一; 三5六

\*箴迭-  $mede-$  (知, 知道, 管, 教管, 教儘) 知る; 支配する。

-罷 -ba[→-be] 四11四

-曷坤 -dkün 五44九

-額曷 -'éd 四4四, 11五, 15四; 十28七; 三43七

-克先 -gsen 七29五

-古 -gü[→-kü] 五36四; 七28十; 九7二; 十7一

-周 -jü 二37一, 39七; 三5三, 四; 六19五, 26九; 八36五, 41十, 48二; 九22六, 36六, 41一, 二, 四, 五; 十18一, 六, 21六, 31五; 三12三, 13五; 三26八

-坤 -kün 四35七; 三16九, 十

-木者 -mü-je 十21七; 三22七

-帖列 -tele 三7九

-秃該 -tügei 三12九; 四16一; 五34十; 六7十, 12二, 25九, 49七; 八31十, 38五, 40三, 42二; 九24四, 28十, 29二, 38六, 五, 七, 八, 39二, 三; 三21七, 23四; 三24八, 30九, 32十, 36一, 二, 40七, 42四, 49八

\*箴迭克迭-  $mede\cdot gde-$  (教知, 可得) [ $mede-$  の受動形]

-罷 -ba[→-be] 六51三

-古 -gü[→-kü] 三6一

箴迭古迭徹  $mede\cdot kü\cdot deče$  (管的行) [ $medekü$  の与位・奪格形] 三40六

箴顛  $mede\cdot n$  (管, 知) [ $mede-$  の同時接合副動詞形] 一32五, 七; 六35八<sup>2</sup>, 36三; 三50七; 三43三<sup>2</sup>

箴迭額  $mede'e$  (知) [ $mede-$  の未完了形動詞形] 十28三

\*箴迭舌列-  $mede\cdot re-$  (教知) その通りと自ら認める。

-周 -jü 四20八

\*箴迭舌列兀勅-  $mede\cdot re\cdot \ddot{u}l-$  (教知) [ $mede\cdot re-$  の使役形]

-周 -jü 四20九

箴迭兀勅  $mede\cdot \ddot{u}l$  (教管, 教官) [ $mede\cdot \ddot{u}l$  の命令形] 三32十, 33一, 二<sup>2</sup>

\*箴迭兀勅-  $mede\cdot \ddot{u}l-$  (教管, 教管) 知らせる。 [ $mede-$  の使役形]

-罷 -ba[→-be] 九29一, 十

-古 -gü[→-kü] 五43十<sup>2</sup>

-周 -jü 三12四, 33三

-坤 -kün 六39一; 十37一, 三, 六; 三22七

\*箴迭兀魯-  $mede\cdot \ddot{u}l\cdot \ddot{u}-$  (教管) (→ $mede\cdot \ddot{u}l-$ )

-額速 -'esü 三39六

箴迭兀倫  $mede\cdot \ddot{u}l\cdot \ddot{u}\cdot n$  (教知, 教管) [ $mede\cdot \ddot{u}l-$  の同時接合副動詞形] 十31三; 三6五, 50十, 51二, 四

箴都昔  $medü\cdot s\cdot i$  (般每行) (→ $metü\cdot s\cdot i$ ) 三21八, 九

箴格只連  $megejile\cdot n$  (扼着) [ $megejile-$  ‘手で絞める’ の同時接合副動詞形] 四27九

\*箴古迭-  $megü[→kü]de-$  (欠) 足りなくなる。

-速 -sü 三45六

\*箴古迭兀勅-  $megü[→kü]de\cdot \ddot{u}l-$  (欠少) [ $meküde-$  の使役形]

-速該 -sügei 三45四

箴捏  $mene$  (繁多, 煩煩) 沢山, 続々。一24八; 三46八

箴(舌)兒  $mer$  (傷) 傷。四9六

箴兒干  $mergan[→gen]$  (能) 才能ある。二5七

箴薛  $mese$  (器械) 刃物, 刃剣類。

-都舌里顏 -dür-iyen 三18一

-思 -s 三18二

箴秃  $metü$  (ナツ) ~のように, ~の如く。一24八

箴圖  $metü$  (般) 同上。一13三, 14三<sup>2</sup>, 四, 19七; 二8七, 11五, 六<sup>2</sup>, 七<sup>2</sup>, 八<sup>2</sup>, 十, 12一, 二<sup>2</sup>, 三, 18七, 39六, 九; 三1九; 五4二<sup>2</sup>, 16一, 34七, 36十; 六13七, 17三, 23三, 五, 30六, 34一; 七3九, 29十, 33四, 35三, 36二, 八; 八10九, 十, 31七, 44四, 47一; 十3五, 12四, 五, 24二<sup>2</sup>, 36九, 十, 37一, 二, 三; 三21一, 二<sup>2</sup>, 三, 27二, 三, 30七, 46七, 八; 三23二<sup>2</sup>, 32一, 34八, 35一, 六

-突舌兒 -dür 六16三, 四

-思 -s 六5四 [ $metü$  の複数形]

-思 -s 六3二; 十36八 [同上]

箴秃薛  $metü\cdot s\cdot e$  (般每行) [ $metü\cdot s$  の与位格形] 九31二

箴秃昔  $metü\cdot s\cdot i$  (似他般的每, 般每行) [ $metü\cdot s$  の対格形] (→ $medüs\cdot i$ ) 五26五;

## 九32五

篋圖昔 metüs-i (般每行) [同上] 八9三

\*米跌舌里- mideri- (踢) 蹴る。

-周 -ju 四23二

米納阿 mina'a (鞭, 鞭子) 鞭。±32六

-壇 -tan 七33十

米訥 minu (我的) 私の。一12七, 13二<sup>2</sup>, 14二, 33八, 35十, 37三, 42九, 43六, 九, 十, 45八<sup>2</sup>, 47一, 二, 48八, 十, 49三, 五<sup>2</sup>; 二2一, 10三, 11三, 22一, 29九, 32四, 33九, 十, 39五, 八, 51三; 三1五, 4七, 5三, 四, 19五, 20九, 21四, 22七, 38五, 40二, 48八, 49一<sup>2</sup>, 49七, 50四; 四1九, 7七, 9六, 12八, 40八, 41七, 42一, 四, 43三, 五, 八, 九, 46二, 四, 47十, 48一, 49四, 50七, 九; 五3六, 4六, 30六, 九, 33九, 34九, 35七, 八, 九, 36四, 五, 40六, 42八, 十; 六5五, 7十, 16四, 21三, 四, 八, 十, 22四, 八, 九, 24七, 九, 十, 25五, 六, 26九, 27五, 29一, 30四, 五, 九, 31一, 三, 六<sup>2</sup>, 34三, 六, 37二, 38八, 39二<sup>2</sup>, 三, 46二; 七3八, 6六, 10四, 五, 八, 15七, 19五, 六, 33六, 36五, 八, 42四, 48三, 六; 八13二, 五, 14九, 18一, 19四, 九, 20四, 九, 21三, 31七, 35六, 37六, 38一<sup>2</sup>, 46十, 47二; 九4六, 8九, 9九, 11一, 九, 15五, 17二, 三, 21六, 22二, 26三, 43四, 九, 45一, 二, 三, 四; 十1二, 四, 五, 六, 八, 九, 2一, 二, 四, 五, 六, 3五, 六, 七, 八, 4一, 7四, 六, 16五, 22九, 十, 29十, 30三<sup>2</sup>, 五<sup>2</sup>, 34八, 35七, 37四, 五, 43四, 五; ±17四<sup>2</sup>, 22三, 28七, 31六, 33三<sup>2</sup>, 七, 48一; ±8八, 11二<sup>2</sup>, 14六, 23八, 24六, 36十, 42五, 45六, 46四, 五, 六, 55一, 三, 56二, 三, 四, 八, 十, 57一, 二

米中合 miqa (肉) 肉。七34一, 二; 八12七; ±13七; ±39九

-阿舌兒 -'ār [miqa の造格形] 七33六

-巴舌兒 -bār [全上] 七37七

米(中)合 miqa (肉) 同上。一8九

米(中)合納察 miqan'ača (肉裏) [miqa(n) の奪格形] 一9六

米中罕 miqan (肉) 肉。十4十

敏中合 minga (千) 千。九7二, 六, 29十, 30九, 36四, 六; ±40七

敏中合訥 minga·n·u (千的) [minga(n) の屬格形] 七18四

敏中合楊 minga·d (千, 千每) [minga(n) の複數形] 八26七, 八, 九, 41七, 48一; 931八, 32二, 39七, 八, 九; 十23三, 四, 五, 六, 七; ±14五, 47八, 48六, 49三, 53二

-塔 -ta 九32二

敏中合答察 minga·d·ača (千行, 千每行, 千処, 千每処) [minga·d の奪格形] 九31八, 35十, 39七; 十3五; ±47九, 49三, 53二

敏中合敦 minga·d·un (千的, 千每的, 千戸的, 千戸每的) [minga·d の屬格形] 七19一; 八24十, 25一, 26十, 27一, 六; 九30八<sup>2</sup>, 31一, 32三, 六, 33三, 34二, 45一; 十15六; ±13十, 16十, 46三, 52三

\*敏中合刺- minca·la- (千做, 做千戸, 千戸做) 千戸にする。

-周 -ju 七18四, 24八; 九2九, 30五, 九

-秃中孩 -tugaï 七19五; 九29七

敏中合闌 minga·la·n (千做了, 千做) [minga·la- の同時接合副動詞形] 七18九, 21七

敏中合里兀楊 minga·li'üd (千戸每, 千每) 九45四; ±46六 [mingalic '千戸の人々' の複數形]

敏中合里兀歹 minga·li'üd·aj (千戸每的, 千的) 千戸の人々に属するもの。九45五

-宜 -yi ±46七

敏中罕 minga·n (千, 千戸) 六4三, 四, 5八, 9三, 18五<sup>2</sup>, 44二; 七18四, 八, 21八; 八24九, 27七, 43六; 九2八, 9二, 37七, 38五, 六, 七, 八, 十, 39一, 二, 四<sup>2</sup>

敏(中)罕 minga·n 同上。九38六

敏中干 minga·n (千) 同上。九33四

敏(中)干 mingga·n (千) 同上。六18五, 七; 十23八, 31四

\*抹赤吉- mōčgi- (踏, 踏蹤) 跡づける。

-周 -jü 二26六, 28九, 30二

-耶楊 -yēd 二26七

\*抹(赤)吉- mōčgi- (踏蹤) 同上。

-周 -jü 二47五

抹赤 moči (木匠) 木工。

-荅 -da 九30二

抹都 modu (木) 木。

-楊 -d 十19九

抹都的 modu·d·i (木每行) [modu·d の対格形] 二16二

抹都納 modu·n·a (木行) [modu(n) の与位格形] <→木都納> 八39七

抹都訥 modu·n·u (木的) [modu(n) の屬格形] 四10四

抹敦 modu·n (樹, 木) 木。一39五; 六17二; ±30四

\*抹額列楊- mō'ēled- (椎) 押える, 押えたたく。<→mōke'ēled->

-抽 -čü 二50三

\*抹額列(楊)- mō'ēled- (椎) 同上。

-抽 -čü 二51五

抹只舌兒中合中渾 mojirqaq·un (ナシ) [mojirqaq '頑迷な, 剛情な' の屬格] 九2七

\*抹客額列楊- mōke'ēled- (椎) 押える, 押えたたく。<→mō'ēled->

-罷 -ba[→-be] 六12二

\*抹可舌里兀勦- mōkōri·'ül- (斬) [mōkōri- '斬る' の使役形]

- 罷 -ba[→be] 五26六
- \*抹闊舌里兀勒- mōkōri·'ül- (斬, 合刃斬) 斬らせる。
- 周 -ju 八14二
- 坤 -kūn 九43六
- \*抹可舌里兀勒迭- mōkōri·'ül-de- (被斬, 斬) [mōkōri·'ül- の受動形]
- 古訥兀 -gü[→kü]n·ü'ü [疑問形] 五6二
- 坤 -kūn 五6一, 7七
- \*抹闊舌里兀勒迭- mōkōri·'ül-de- (可斬) [同上]
- 古 -gü[→kü] 三32七
- \*抹可舌里兀魯- mōkōri·'ül·ü- (斬) 斬らせる。〈→mōkōri·'ül-〉
- 牙 -yā[→yē] 五17十
- \*抹闊舌里兀魯- mōkōri·'ül·ü- (斬, 刃斬) 同上。
- 傷者 -d·je 三45九
- 傷坤 -dkūn 八9五, 13十
- 傷者 -d·je 九43七
- 牙 -yā[→yē] 三40四
- 抹闊舌里兀倫 mōkōri·'ül·ü·n (斬) [mōkōri·'ül[·ü]- の同時接合副動詞形] 三40五
- 抹勒孫 möl·sü·n (氷) 氷。十12四
- 突舌兒 -dür 三26五
- 抹納[→訥] möna[→nü] (久) 今, 現在。七3八; 十3八; 三31五
- 抹那 mönō (久) 同上。六7九; 八46十; 九2十, 28五; 十36九
- 抹幹舌連 mō'ōre·n (吼) [mō'ōr- '(牛が) 吼える' の同時接合副動詞形] 三38五, 六, 九<sup>2</sup>
- \*抹中合阿- moqa'a- (白) 問いつめる。
- 周 -ju 八30八
- 抹中合牙 moqaj·a (蛇行) [moqaj '蛇' の与位格形] 五37五, 七; 六22二, 六
- 抹中孩牙 moqaj·ya (地行) [同上] 二48四
- \*抹中忽<sub>傷</sub>中合- moqudqa- (窮極) 極める, 殲滅する。
- 周 -ju 六28七
- 抹兒 mör (蹤, 道子, 路) ふみ跡, 道。二29四
- 台 -tai[→tei] 二2八, 九
- 途兒 -tür 二28十
- 抹舌兒 mör (路, 道子) 同上。六12八; 九46一; 十16六, 19二, 九
- 突舌兒 -dür 十19八
- 禿 -tü 八21八
- 途舌兒 -tür 三10四, 32六; 八8二
- 禿舌里顏 -tür-iyān[→iyēn] 九46一
- 抹<sub>(舌)</sub>兒 mör (道子) 同上。九19八, 十

- 抹舌兒 mör (職分) 職務。三37五
- 都舌里顏 -dür-iyān[→iyēn] 七21三; 三37五
- 抹舌列 mör·e (路行) [mör の与位格形] 三19四
- 抹舌里額舌連 mör·i'ēr·ēn (路自的) [mör の造格・再帰格形] 二19四
- 抹舌里牙兒 mör·iyār[→iyēr] (蹤跡依着) [mör の造格形] 二30一
- 抹舌里耶兒 mör·iyēr (路行) [同上] 二19五, 20五
- 抹舌里耶舌兒 mör·iyēr (路依着) [同上] 十19四, 八
- 抹舌驪 mori (馬, 馬每) 馬。二27八, 29三, 30三, 43九
- 禿 -tu 二32二; 五14八; 六26七
- 顏 -yān 七6三
- 抹<sub>(舌)</sub>驪 mori (馬, 馬每) 同上。二9六, 43五<sup>2</sup>, 六<sup>2</sup>, 七<sup>2</sup>, 八<sup>2</sup>, 九
- 禿 -tu 二32六, 50五, 八
- 顏 -yān 二15一, 16三
- 抹<sub>(舌)</sub>驪<sub>傷</sub> mori·d (馬每) [mori(n) の複數形] 八35一
- 抹<sub>(舌)</sub>驪的顏 mori·d·iyān (馬每自的) [mori·d の再帰格形] 二33五, 43四
- 抹<sub>(舌)</sub>驪刺 mori·la (上馬) [mori·la- の命令形]
- \*抹<sub>(舌)</sub>里刺- mori·la- (上馬) 馬に乗る; 出陣する。
- 罷 -ba 一39十
- \*抹<sub>(舌)</sub>驪刺- mori·la- (上馬) 同上。
- 阿速 -'āsu 五40九
- 罷 -ba 一22五; 三10二; 六2九; 三1三, 11九, 35四, 37二; 三1四
- 傷者 -d·je 三2八
- 傷中渾 -dqun 三20二
- 周 -ju 二4十; 四4一, 六, 45五; 五27三, 28二; 六24三, 26一, 27九; 七16五, 32一, 33一; 八44七; 九10一; 十28四; 三4一, 20八, 29八
- 黑撒阿舌兒 -gsa'ār 六47一
- 黑撒阿<sub>(舌)</sub>兒 -gsa'ār 三8一
- 黑三突舌兒 -gsan-dur 五27二; 三10六, 十
- 主為 -ju'ūi 三38四
- 中忽 -qu 五49六
- 恢[→中灰]突舌兒 -kui[→qui]-dur 三20六
- 舌命 -run 三8八, 9一, 10二; 四33一; 七22一; 八44六; 三12一, 35一, 36十
- 速 -su 三2九, 4九; 三3七, 19十
- 禿中孩 -tugaj 三4十
- 牙 -yā 三8二; 四13五, 19五, 31七, 八, 32十; 七16十; 三20六; 三1二
- \*抹<sub>(舌)</sub>驪<sub>(舌)</sub>刺- mori·la- (教馬) 同上。
- 禿中孩 -tugaj 三2十

\*秣(舌)驪刺- mori·la- (上馬, 馬上) 同上。

-罷 -ba 四19八

-周 -ju 二44四; 五10三

\*秣(舌)驪刺黑蒼- mori·la·gda- (被上馬) [mori·la- の受動形]

-罷 -ba 三29八

\*秣(舌)驪刺兀勒- mori·la·'ül- (教上馬) [mori·la- の使役形]

-罷 -ba 十14三; 三16五

\*秣(舌)驪刺兀勒蒼- mori·la·'ül·da- (教上馬) [mori·la·ül- の受動形]

-周 -ju 三30六

㊦ \*秣(舌)驪刺溫(勒)- mori·la·'ü(n)l- (教上馬) <→mori·la·'ül->

-周 -ju 二14二

秣(舌)驪闌 mori·la·n (上馬) [mori·la- の同時接合副動詞形] 五1十

秣(舌)驪闌 mori·la·n (上馬) [同上] 十18七

秣(舌)驪納察 mori·n·āča (馬行) [morin の奪格形] 三1九

秣(舌)驪納察 mori·n·āča (馬自) [同上] 二15二

秣(舌)驪泥顏 mori·n·iyān (馬自的) [morin の再帰格形] 一47三

秣(舌)驪你顏 mori·n·iyān (馬自的) [同上] 六12三

秣(舌)驪訥 mori·n·u (馬的, 馬) [morin の属格形] 四5二; 六17三

-安 -'ān 四3二; 五34三

秣(舌)驪訥安 mori·n·u·'ān (馬自的) [morin·u の再帰格形] 六30十

秣(舌)驪 mori·n (馬) 馬。一19三, 36一; 四42八; 六12六, 17二, 48九, 49一; 七22十, 23一, 25一

-突(舌)兒 -dur 九16八

秣(舌)驪 mori·n (馬) 同上。

-秃 -tu 一18十

\*秣(舌)劣勒- möröl- (思想) 気づかう。

-周 -jü 二1三

\*秣(舌)劣勒- möröl- (思想) 同上。

-古 -gü[→kü] 二1五

\*秣(舌)薛勒都- möseldü- (分離) わかれ合う。[möse- '分かれる' の対動形]

-坤 -kūn 八9五

秣(舌)勒孫 moyil·su·n (果名) モイル (果実名)。二5九

\*木(舌)赤勒者- müči·lje- (晒) 微笑する。

-周 -jü 三28八

木(舌) mud (他每, 他每也, 他每但) かの。二46六; 四10七, 35七, 八, 九; 五6九;

六5六, 20二, 51二; 七16九, 42七; 八5一

-古 -gü[→kü] 四18十, 19一, 七

-魯 -lu 五45七, 46四

木(舌)勒動 müdki·n (踏着) [müdki- ' (足) 跡を辿って行く' の同時接合副動詞形] 六12八

木(舌)都木 mudu·d (木頭) 木。<→modu·d> 二13八

木(舌)都納 mudu·n·a (樹行) <=modun·a> 三28七

木(舌)都泥 mudu·n·i (木頭行) <=modun·i> 四47五, 六

\*木(舌)秃勒- mültül- (脱) 脱ぐ。

-周 -jü 一35十; 四8九

\*木(舌)秃勒迭- mültül·de- (被脱) [mültül- の受動・自動詞形]

-周 -jü 七34三

\*木(舌)秃魯- mültül·ü- (脱) <→mültül->

-克先 -gsen 四8十

\*木(舌)秃舌列- mültüre- (脱) 滑り落ちる。

-周 -jü 二15二, 四

\*木(舌)秃舌列- mültüre- (脱落) 同上。

-古 -gü[→kü] 二15五

木(舌)秃思 mültüs (倏然) やっと。四42五

\*木(舌)忽(中)合- muqud·qa- (窮絶, 窮極, 教窮絶, 教窮極) 潰滅させる。

-罷 -ba 五28十; 十30九; 三55二

-周 -ju 五19三; 七43五, 九; 八44八; 十11十; 三12十, 25十

-主為 -ju'üi 八4四

\*木(舌)忽(中)合- muqud·qa- (絶) 同上。

-周 -ju 五18四

\*木(舌)忽(中)合- muqud·qa- (教窮絶) 同上。

-周 -ju 十11七

木(舌)忽(中)罕 muqud·qa·n (教窮極) [muqud·qa- の同時接合副動詞形] 八12一

木(舌)忽(中)舌兒 muqud·r (秃角, 無角) 角のとれて円くなった。三38六; 九14四

\*木(舌)忽(中)舌里- muquri- (巡) 巡察する。

-秃(中)孩 -tugai 三37九

\*木(舌)兒古- mürgü- (触, 叩頭) 突く。

-周 -jü 三38三; 三18一

\*木(舌)兒古列- mürgü·le- (触) 突く (何回も)。

-額(舌) -'ed 三38三

沫(舌)列(舌) müre·d (河, 河每) [müren の複数形] 三18九, 20八

沫(舌)列(舌) müre·d (河每) [同上] 三30二, 49八

沫(舌)列(舌) müre·d·ün (河的) [müre·d の属格形] 六37四

沫(舌)列(舌) müren·e (河行) [müren の与位格形] 三39二

沫(舌)列(舌) müren·e (河行) [同上] 六26三; 十11六

沫(舌)列(舌) müren·e (河行) [同上] 八3八

沫(舌)列(舌) müren·i (江行, 河行) [müren の対格形] 十40四; 三51七

沐舌洌訥 müren·ü (河的) [müren の属格形] 二38十

沐(舌)洌訥 müren·ü (河的) [同上] 八9五

沐舌漣 müren (河) 川。—15九, 18八, 20五, 36三; 二3五, 5八, 22四, 26六, 36八; 三9一, 三; 四31四, 五, 33一; 六44三; 八7七; 十12五; 十一19五, 39五, 六, 41七

-突舌兒 -dür 十一39四

-突(舌)兒 -dür 十一39三

-捏 -ne 十一32九, 34四; 三13六, 14二

-泥 -ni 十一37八; 三6三

-訥 -nü 十一1五; 二42四; 三1一; 8九

沐(舌)漣 müren (河) 同上。

-場 -d 十一16一

-捏 -ne 五14四

木舌魯 mürü (肩, 肩甲) 肩。—31六; 四8十, 19一

\*木舌魯迭- mürü·de- (肩上拿) 肩をつかむ。

-周 -jü 四27六

木舌魯思 mürü·s (肩甲) [mürü の複数形] 九47九

木速魯 müsü·d (箭, 箭幹, 条子) [müsü '矢柄' の複数形] 十一1九, 12一, 14二, 三, 四; 十19六

門 mun (是, 只, 只那, 本, 他) まさにそれ (その)。—20四, 21二, 四<sup>2</sup>, 22六; 二19四<sup>2</sup>, 五<sup>2</sup>, 20五<sup>2</sup>, 29六; 三16二, 五, 32八; 四3一, 20十, 37十, 38十, 40五, 46十, 50七; 五3二, 23十, 26三, 27二, 31六; 六5九, 9七, 12四, 44九, 49八; 七7九, 9二, 11三, 21三<sup>2</sup>, 五, 45二, 48七; 八6二, 9四, 五, 12二, 14一, 21五; 九14八, 33十, 34一, 36一, 42二, 四, 五, 46九<sup>2</sup>; 十28四; 十一15七, 24十, 37八; 十二3二, 14一, 八, 17二, 26九, 31九, 37三, 44二, 四, 47六

門蒼 mun·da (卵, 顛倒) むしろ, 却って。四50四, 五; 五5一, 6二; 八18七

門古 mun gü(→kü) (只那, 也) その, まさにその。—21三; 四38二; 五3一

門窟 mun kü (只) 同上。二22三

蒙 mung (艱難) 苦しみ。二29九

蒙古 münggü (銀) 銀。十13二, 四; 十一47三

蒙昆 münggü·n (銀) 同上。十一5九, 6四, 15一; 十二4九, 9九, 21七, 26一

蒙琨 münggü·n (銀) 同上。四14四

蒙客 müngke (長生) 永遠の。六12二; 七3六; 八9七, 29九, 43九; 九31五; 十18十, 28一; 十一20十, 36二; 十二4一, 5五, 11四, 28五

\*蒙塔你- mung·ta·ni- (艱難) 自分が苦しむ。

-周 -ju 二29八, 33七, 34十

## 兀

納卜搭舌兒中孩 nabdarqaj (破衣) ぼろぼろの。三20八

納赤魯 načid (金段子) 金襴 (高級な緞子の一種)。十13二, 五

納赤都魯 načid·üd (織金) [načid の複数形] 十一27一

納蒼 na·da (我行) [bi '私' の与位格] 私に。—9六; 二34一; 三1八; 四42七; 五35十; 六35一; 八29四, 35七, 47八; 九43六; 十35五

納蒼阿察 na·da·ača (我行将来) 私に与えよ (ača '与えよ')。二32三

納蒼察 na·da·ča (我行, 比我) [bi '私' の与位·奪格] 私より, 私から。五22四<sup>2</sup>; 六4十, 5三, 6四; 九43五

納都舌兒 na·dur (我行) [bi '私' の与位格] 私に。三37十, 39三; 六40八, 九; 八36五; 九8三, 17四, 23九, 25五; 十一4九, 29七

納都(舌)兒 na·dur (我行) 同上。九11十, 31八

納突舌兒 na·dur (我行) 同上。八31三

納馬 nama (我行) 私。[不定格] 六21四, 35四, 40二, 41九; 八41三

納麻 nama (我行) 同上。四7三

納馬阿兒 nama·ār (我行) 私を以て。—33六

納馬魯阿 nama·lu'ā (与我一同) [bi '私' の共同格] 私と。八35十

納馬宜 nama·yi (我行, 将我, 教我) [bi '私' の对格] 私を。—12七; 二10一, 21一, 22一, 二, 三, 25六; 三39四, 八, 48七, 49五; 四41八, 十, 42六; 五3五, 七, 八, 4五, 七, 22七, 36二; 六4八, 九, 6二; 七14七; 八18二, 20一<sup>2</sup>, 22三, 29二, 四, 33七, 37五, 40八; 九5九, 15六, 23一, 六; 十38七, 39九; 十一22十; 十二23四

\*納蠻赤刺兀勒- namančila·'ül- (教悔過) [namančila- '祈禱する; 悔過する' の使役形] -周 -ju 十35九

納蠻赤闌 namančila·n (悔過, 教悔過) [namančila- の同時接合副動詞語尾] 十34九, 38七, 39十

納木舌兒 namur (秋) 秋。六27八; 七45二; 十一52七; 十二1三

納木(舌)兒 namur (秋) 同上。五17二

納木舌兒中罕 namurgan (陷泥) 泥濘状 (に)。四41一

納中台出 nagaču (母舅) 母方の親族。

-納兒 -nar 十一42十

-納舌刺察 -nar-ača 十一42二

納中忽魯 naqud (湶金) あらがね。十一27一

納舌刺魯 nara·d (松, 松每) [nara·sun '松' の複数形] 十36八, 37三

納舌列[→舌刺]訥 naran·u (日的) [naran の属格形] 九46二

納舌刺塔牙 nara·tai·a (日有行) 日のある時に。十一37五

納舌蘭 nara·n (日, 日処) 太陽。—13三, 43六, 六; 二17四, 28二, 29二, 30二, 32七, 51三, 五; 四38十; 六1八, 9九; 七11四, 五, 20七, 42九; 九47一, 112四, 28九; 土27二, 46十; 土37九

-突舌兒 -dur 八19三

-納察 -nača 八19三

納舌鄰 narin (細) 細い。十25五

\*納《舌》魯亦魯- naluyid- (探) 身をのり出す。

-抽 -čü 一36一

納速蒼 nasu·da (如常) いつも。四8八

納速禿 nasu·tu (歳, 歳有, 歳有的) 歳をもった, ~歳の。—41六, 七<sup>2</sup>, 42一; 二36七; 三23十, 26二; 九13二

-宜 -yi 五13四, 十

納孫 nasu·n (歳) 歳。—46四

納活兒 na'ür (海子) 湖。—32九; 二27三

納活舌兒 na'ür (海子, 海) 同上。六43八; 八44五; 土27三

-途舌兒 -tur 六19八

納兀舌兒 na'ür (海子般) 同上。七32三

納活舌刺 na'ür·a (海子行) [na'ür の与位格形] 四18二; 五28九; 六27二, 28七

納兀舌刺 na'ür·a (海上行) [同上] 五11八

納活舌刺察 na'ür·ača (海子行) [na'ür の奪格形] 八44六

納活(舌)刺察 na'ür·ača (海子処) [同上] 六46九

納顔 nayan (八十) 八十。〈→najan〉九31四, 36二

\*納亦塔- nayita- (嫉妒) ねたむ。〈→najta-, najda-, najyita-〉

-周 -ju 十7一

柰 naj (好生) まさに。三50四

\*乃荅- najda- (疾悪) ねたむ。

-周 -ju 六40二

乃蠻 najman (八, 八箇, 八疋) 八。二27八, 29三, 30三; 八35一; 九36三<sup>2</sup>, 39八; 十23四; 土14五

\*乃塔- najta- (嫉妒) ねたむ。〈→nayita-, najda-, najyida-, najyita-〉

-木 -mu 二37一

乃塔黒丹 najta·gda·n (嫉妒) [najta- の受動・同時接合副動詞形] 二19一

乃顔 najyan (八十) 八十。〈→nayan〉七18十, 21八

\*乃亦荅- najyida- (妒, 嫉妒) 〈→najta-, nayita-, najyita-〉

-罷者 -ba[→-be]-je 六35一

-周 -ju 五37五

\*乃亦塔- najyita- (嫉妒) 〈→najta-, nayita-, najda-〉

-周 -ju 九23三

\*乃亦塔黒荅- najyita·gda- (被嫉妒) [najyita- の受動形]

-木 -mu 九23四

南巴里思 namba·li·s (越過) 一越えして。—35二

南不中合 nambuga (皮桶) 大皮袋。二25八, 29七

喃不中合 nambuga (皮袋) 同上。八35六

\*南不中合刺- nambuga·la- (皮桶盛) 皮袋に入れる。

-周 -ju 土25八

捏客勒 nedkel (乱麻, 麻襪) (羊毛などが) からみ乱れた。十36十; 土21一

\*捏額- ne'ë- (開, 開 [→開]) 開く。〈→nege-, negü-, nekë-〉

-克先訥 -gsen-nu 九20十

-周 -ju 十43二; 土21十

\*捏格克迭- negë·gde- (被開) [negë-〈→ne'ë-〉の受動形]

-罷者 -ba[→-be]-je 八43十

捏古思 negüs (倒, 傾) グラッと (倒れる, 傾く) 十36十; 土21一

捏古温勒 negü'ũ(n)l (教開) [negü-〈→ne'ë-, negë-〉の使役・命令形] 二41十

\*捏客<sup>①</sup> neke- (襲, 追襲, 追趕, 襲去) (追いつくために) 追う。

-罷者 -ba[→-be] 四37三, 四

-周 -ju 一36九; 二32一; 四3一, 20二; 五28四, 32六; 六2七, 11八, 29七;

八2二, 35二, 十; 十11九; 土1十, 52二

-速 -sü 二28五, 六, 七

-耶 -ye 土1九

\*捏客<sup>②</sup> neke- (織) 織る。

-周 ju 土9六

捏客兀命 neke·'ül·ü·n (教追襲, 追襲) [neke<sup>①</sup> の使役・同時接合副動詞形] 八6四, 10七, 24五; 土39九

捏虔 neke·n (追襲) [neke- の同時接合副動詞形] 十11六

\*捏客<sup>③</sup> nekë- (開) 〈→捏額-, 捏格-, 捏古-〉

-克薛訥 -gsen-ü 六53一

捏克 nekej (羊皮) 羊皮。三20八

捏坤 nekün (家人) 家つき使用人, 召使。八13四

捏勒客 nelkë (襦衣) むつき。九5九, 6三

捏勒克 nelkej (褌兒的褌) むつき。二41七

\*捏篋- neme- (添) 添える, 加える。

-罷者 -ba[→-be]-je 土55十, 57九

-周 -ju 三49四

-恢宜 -küi-yi 四15十

\*捏篋克迭- neme·gde- (被添) [neme- の受動形]

-周 -ju 三22八; 八9八, 44八; 九31六; 土45三, 47二; 土11四

捏綿 neme·n (添) [neme- の同時接合副動詞形] ㄱ35七

捏篋額孫 neme'ēsü·n (添助) 補足, 補給。八八五

捏木舌兒格 nemürge (襪衫) 毛氈などの蔽いもの。

-邊 -bēn 八37五

捏木舌兒堅 nemür·ge·n (教搭) [nemür- '蔽う, かぶせる' の使役・同時接合副動詞形] 八八九

捏木舌兒列勅教 nemür·le·ldü·n (共蓋) [nemün·le- '蔽いものをする' の對動・同時接合副動詞形] 三47七

\*捏木舌魯- nemür·ü- (襪衫被) かぶる, 蔽う。

-克薛額舌兒 -gse'er 八37六

捏木舌列 nemüre (遮護, 遮蔽) 遮蔽物。

-帖 -te ㄱ9五

-田 -ten 六17二

捏木舌刺[→舌列] nemüre (遮護) 同上。八44四

捏舌列 nere (名, 名字, 名分, 姓名) 名前。-4十, 23七, 24六, 40十; 二15十; 四15四, 五, 六, 十, 16一; 八19四, 24四, 五, 40二; 九7五; 十12六; ㄱ8五; ㄱ10五, 25十

-額舌兒 -'er 八30三

-台 -tai[→te] -4十, 5五, 七, 27五, 41五, 46五; 二23八, 37五; 四4二; 五22八, 25九; ㄱ6四, 8三

-壇 -tan[→ten] -28四

-帖宜 -te[i]-yi -35九

-田 -ten -7三, 28六; ㄱ50四

-禿 -tü -27六, 28二, 29六; 二30一, 33九, 41五; 三32十; 四23四, 24三, 四, 五, 七, 50六; 五28六; 七13九, 14五; 十33六, 35六; ㄱ6十, 10十, 18二, 40一

捏(舌)列 nere (名字) 同上。

-田 -ten -10六

-禿 -tü -23八, 25七, 九; 三23十

担[→捏]舌列 nere (名分) 同上。九28十

\*捏舌列亦勅- nere·yid- (名子与, 名子喚, 名子做, 題名, 名) 名づける。

-罷 -ba [→be] -23七, 六

-抽 -čü -27九, 39一; 四17八, 50九

\*捏(舌)列亦勅- nere·yid- (被題) 同上。

-抽 -čü 三22九

\*捏舌列亦(勅)- nere·yid- (名子做, 名) 同上。

-抽 -čü 三44五; 四50八

\*捏舌列亦都- nere·yid·ü- (名, 名提, 提名来, 名分, 名喚) 同上。

- (克) 薛額(舌)兒 -gse'er 四15六

-克先 -gsen 八27一; ㄱ32四; ㄱ14一

-舌命 -rün 八25一

-由 -yü -35九

\*捏舌列[亦]都- nere·yid·ü- (提名) 同上。

-克薛勅 -gsed 八27六

\*捏兀- ne'ü- (起行) <→neü'ü->

-古 -gü[→kü] 二46三

捏兀列 ne'üle (大木, 古樹) 切った大木; 枯樹。十36九; ㄱ21一

捏兀舌里 ne'ü·ri (起行) 移動, 行程。三30六

[捏]兀舌里 [ne'ü·ri (起行) 同上。三30五

捏兀舌里勅 ne'ü·ri·d (程) [ne'ür·i の複數形] -3四

捏亦列 neyile (相合) [neyile- の命令形] ㄱ43五

\*捏亦列- neyile- (相合) 一つになる, 合一する。

-罷 -ba[→be] 六45四; ㄱ4二, 14九, 43九

-周 -jü 八2六

-主兀 -jü'ü ㄱ38三

-帖列 -tele 七32九

\*捏亦列兀勅- neyile·'ül- (相合) [neyile- の使役形]

-周 -jü 五18二

\*捏亦列兀列- neyile·'ül·e- (相配) [同上]

-額勅 -'ed 二37二

㉞捏亦列兀命 neyile·'ül·ü·n (教相合) [neyile·'ül- の同時接合副動詞形] 七24三; ㄱ39一

捏亦連 neyile·n (相合) [neyile- の同時接合副動詞形] 三10九, 25九, 34七, 42二; 四6四, 34十, 48二; 五33一; 六30三; 八3九; ㄱ19一

捏亦速[→連] neyilen (相合) [同上] 三34九

\*捏亦連勅都- neyile(n)·ldü- (相合) [neyile- の對動形]

-周 -jü 二27二

-牙 -yā[→yē] 三9四

粘別額 nembe'ē (蓋) 蔽った。三47七

粘不列 nembüle (庵) 仮小屋。-15十, 17八

\*擦迭- nende- (搗先, 掩襲, 潛謀) 奇襲する。

-額速 -'ēsü 五40八; 十28三

-周 -jü 八13四

撚顛 nende·n (掩襲) [nende- の同時接合副動詞形] 六50七

年都 nendü (福) 幸福。八40十

年都兀勅 nendü·'üd (ナン) [nendü の複數形] 十4一

\*能知- nengji- (搜) 搜す。

-周 -jü 二24七

\*能知連(勳)都- nengjile(n)·ldü- (相搜尋) [nengji- ‘搜す’ の対動形]

-罷 -ba[→be] 二24六

-牙 -yā[→yē] 二24六

能知兀里 nengji·ü·l·i (搜的毎行) [nengji·ü·l ‘搜索の人々’ の対格形] 二25五

能知温(勳)孫 nengji·ü(n)·l·sü·n (搜的毎) 搜索の人々。二25一

\*擗兀- neü'ü- (起) 移動する, (家畜と共に) 移る。

-罷 -ba[→be] 一7八; 三29九; 六18七, 八; 十41四

-楊坤 -dkün 二3二

-克先 -gsen 九4一

-古 -gü[→kü] 三11六

-者埃 -je'ej 二3八

-周 -jü 一3九, 4三, 6五, 17七, 18九; 二28六; 三10五, 42二; 四31四; 五12四, 40四; 六18八

-主為 -jü'üj 二5一

-坤 -kün 二2三

-中灰[→恢]突舌兒 -quj[→küj]-dür 九3十; 十7六, 八

-舌命 -rün 三29七; 八44三

-牙 -yā[→yē] 十41三

-耶 -ye 三29七

擗温 neü'ü·n (起) [neü'ü- の同時接合副動詞形] 六23五

擗兀克迭- neü'ü·gde- (被起, 起, 起行) [neü'ü- の受動形]

-周 -jü 二5六

-舌命 -rün 二3六, 4七, 九

\*你阿- ni'ā- (粘) はりつける。

-周 -ju 三26七

你出裨 ničügü·n (赤裸) 肌の露な。四8九, 十, 41九, 42二

你出《中》裨 ničügün (赤裸) 同上。六39九

你多泥 nidoni (去年) 去年。三1七; 三3四

你都 nidü (眼) 目。

-秃 -tü 一3四

你覩 nidü (眼) 同上。

-邊 -bēn 二25七

你覩捏扯延 nidün·ečē·yēn (眼自的) [nidü(n) の奪格再帰格形] 六14二

你覩訥 nidün·ü (眼的) [nidü(n) の屬格形] 二10一; 五26五; 九34八; 十23九; 三44七

你敦 nidü·n (眼) 目。四24九, 40八, 42十, 43七; 八30一; 三17四

-突舌兒 -dür 三39二

-都舌里顏 -dür·iyān[→iyēn] 二18十; 三23十, 38一; 五3九

-你顏 -n·iyān[→iyēn] 七26八

-秃舌里顏 -tūr·iyān[→iyēn] 一43二, 46三

-延 -yēn 三21十

你都舌刺- nidura- (乾) (水などが) かれる, なくなる, 断たれる。

-魯阿 -lu'ā 二3七

你都舌刺塔刺 nidura·tala (緊) ギュッと (‘断たれるほど’ から)。三26四

你黑撒中合勒札- nic saga·lja- (顫動) びっしりと山積になる。

-塔刺 -tala 二28三

你只額勳 niiji'el (每一隻, 一隻) 一つずつ。一11九, 14三

你只額里 niiji'el·i (一隻行) [niiji'el の対格形] 一11十

你刊 nikan[→ken] (一, 一箇, 一件, 一遍, 一次, 一下) 一 (数詞の‘一’)。一3七, 九, 4四<sup>2</sup>, 8二, 9二, 11七, 14五, 20三, 24五, 25九, 41五, 46四; 二7七, 八, 8一, 17一, 27八, 28十, 29九, 30三, 32一, 42五, 43四, 五, 六<sup>2</sup>, 七<sup>2</sup>, 八<sup>2</sup>, 九; 三9二<sup>2</sup>, 10七, 八, 26二, 27六, 29五, 七, 32九, 36三, 41一, 二, 四, 八, 九, 十; 四6十, 7二, 17一, 26九, 33五, 六, 八, 40二, 45六; 五14五, 24八, 25六, 40三, 50一; 六11九, 13五, 18五, 七, 26四; 七1四, 22十, 31三, 37六; 九8四, 28八, 32七, 八, 33一, 37二<sup>2</sup>, 三, 四, 38六, 七, 八, 九, 十, 39一, 二, 四<sup>2</sup>, 40十, 41二, 三, 五, 47九; 十23八, 29十, 30一, 41二; 三49七; 三29二, 六, 35三, 40九<sup>2</sup>, 41一, 四, 六, 43四, 六, 七, 47四, 五, 52五, 六, 53三, 四, 九, 56三, 八, 九

-捏 -n-e 七16二

-帖 -te 一37五, 六, 七<sup>2</sup>, 二9三, 17七, 34九<sup>2</sup>, 三4二; 四43四; 五35八; 十28一, 二; 三35五

你客捏 niken·e (一処, 一処行, 一行) [niken の与位格形] 五37二, 三; 八14六, 27五; 九30四

你客泥 niken·i (一箇行) [niken の対格形] 三33三

你客你顏 niken·iyān[→iyēn] (一箇自的) [niken の再帰格形] 三32十, 33一<sup>2</sup>, 二

你客訥兀 niken·ü'ü (一箇也) [niken の疑問形] 三33八

你客帖列 nike·tele (一并) 一つになるほど。43三七, 八; 六36八, 九, 十

你客田 nike·ten (一箇每的) 一つにする, 一つをもつ。三37九

\*你勳不- nilbu- (唾) 唾をはく。

-周 -ju 五16二

-主為 -ju'üj 五16四

\*你勳不黑苔- nilbu·gda- (被唾) [nilbu- の受動形]

-周 -ju 五16三



你勅不速 nilbu·su (涙) 涙。十27八, 36四, 40二  
 -安 -'ān 十38二  
 -巴兒 -bār 二34八

你勅不孫 nilbu·su·n (涙) 同上。六14二; 十37八

你勅中合 nilqa (最少的, 最小) 赤兒。五44四; 七39六; 十22十, 24五

你舌魯兀 niru'ū (脊梁) 背。四3三, 27十, 28五; 十40十  
 -班 -bān 四29二

你(舌)魯兀 niru'ū (脊梁) 同上。十39七  
 -班 -bān 四28一

你舌路兀惕 niru'ū·d (嶺每) [niru'ū の複数形] 六45三

你舌魯温 niru'ū·n (嶺脊, 脊) <→niru'ū> 四49三; 十43三; 十24一<sup>2</sup>, 三

\*你思- nis- (飛) 飛ぶ。  
 -抽 -čü 八6九, 7一  
 -周 -jü 一43六

\*你失- niši- (打) 打つ。  
 -擲者 -d-je 九43八  
 -中忽牙 -quya[→quj-a] 十19六  
 -禿中孩 -tugaj 八9二

你孫 nisun (涕) 鼻水。二34八

你禿命 nitul·u·n (断絶) [nitul- '断つ, 切る' の同時接合副動詞形] 九1八

\*你兀- ni'ū- (藏) 隠す, かくまう。  
 -罷 -ba 二24五  
 -擲中渾 -dqun 七13八  
 -周 -ju 四50四; 九23六  
 -速 -su 二44五

你温 ni'ū·n (隠諱, 藏) [ni'ū- の同時接合副動詞形] 九4十, 19六

你兀兒 ni'ūr (面) 顔。二17十  
 -禿舌里顔 -tür-iyān 一43二, 46三; 二18十

你兀舌兒 ni'ūr (面, 面皮) 同上。三21一; 七27六, 48三; 九4二, 三; 十24三  
 -都舌里顔 -dur-iyān 五3九  
 -台 -tai 七7一  
 -途舌兒 -tur 五16二

你兀舌兒中罕 ni'ūr·qa·n (通面皮) [ni'ūrqa- 'いい顔をする' の同時接合副動詞形] 六24六

你兀舌里顔 ni'ūr·iyān (面皮自的) [ni'ūr の再帰格形] 八17六, 九

你亦台塔刺 niyitaj·tala (緊) しっかりと。十26三

那卜失勅都- nobši·ldu- (共湿) [nobši- 'しめる, ぬれる' の對動詞形]  
 -周 -ju 八40六; 九8六

\*那都- nōdū- (擣, 築) (白などを) つく; 築く。  
 -別古 -be gü[→kü] 五13七  
 -克先 -gsen 十8十; 十2四, 五

那都兀勅- nōdū·'ül- (教築) [nōdū- の使役形]  
 -周 -jü 十57六

那敦 nōdū·n (血塊) 血塊。一40九; 二11四

\*那克扯額- nōgče·'ē- (教過去) <→nōgči·'ē-, nōgči·yē->  
 -速 -sü 八20二

\*那克赤- nōgči- (歿, 過去) 去る; 死ぬ。  
 -罷 -ba[→be] 一49六; 二19二, 八, 21三; 六19二  
 -主兀 -jü'ü 十37八, 九

\*那克赤額- nōgči·'ē- (教過去, 過去, 過) [nōgči- の他動詞形]  
 -周 -jü 八22八, 十  
 -速 -sü 四39四  
 -禿該 -tügei 八22七; 十10七

\*那克赤耶- nōgči·yē- (教過去) [nōgči- の他動詞形] <→nōgči·'ē-, nōgče·'ē->  
 -擲坤 -dkün 十10六

那克臣 nōgči·n (過去) [nōgči- の同時接合副動詞形] 二22二

\*那可扯- nōkōče- (作伴, 做伴) 仲間になる, 伴になる。  
 -罷 -ba[→be] 十40四  
 -罷者 -ba[→be]-je 八36六  
 -額速 -'ēsü 七8一  
 -克薛額舌兒 -gse'er 九5十  
 -周 -jü 六37二; 八18六, 35十; 九17四; 十8十  
 -古 -gü[→kü] 八13九, 36五  
 -坤 -kün 十5三  
 -中仄[→恢] -quj[→küj] 八18二  
 -魯額 -lü'e 九30四  
 -牙 -yā[→yē] 八14四, 22四, 36八  
 -耶 -yē 八18二

\*那可徹- nōkōče- (做伴) 同上。  
 -克薛額兒 -gse'er 二38六  
 -克先 -gsen 四51一  
 -周 -jü 二33八, 35一  
 -恢 -küj 二38六  
 -坤 -kün 五5十  
 -舌列 -re 五9一  
 -速 -sü 二29九, 30七

- 耶 -yē 二38二
- \*那闊扯- nököče- (做伴, 作伴) 同上。
- 周 -jü 四1十, 3九
- 坤 -kün 四29一
- 速 -sü 三4八
- \*那闊徹- nököče- (做伴) 同上。
- 速 -sü 三49六
- \*那可扯克迭- nököče·gde- (伴当可做) [nököče- の受動形]
- 古 -gü[→-kü] 六52三
- \*那闊扯克迭- nököče·gde- (被做伴) [同上]
- 周 -jü 三22七
- \*那可扯勒都- nököče·ldü- (作伴, 伴当, 做伴) [nököče- の對動形]
- 罷 -ba[→-be] 八18三
- 周 -jü 九11十
- 速 -sü 八35四
- 那可徹勒 nököče·l (做伴) 友たること。五5十
- 禿 -tü 四50六
- 那可纏 nököče·n (做伴) [nököče- の同時接合副動詞形] 八36九
- 那可揚 nökö·d (伴当每, 伴当) [nökör の複數形] 二32七; 七36十; 八12七; 九33三
- 帖延 -te-yên 八12四, 九
- 禿 -tü 八12二, 19九; 九32六, 八
- 圖宜 -tü-yi 二18二
- 那闊揚 nökö·d (伴当) [同上] 三49七; 九33九, 十
- 那可迭延 nökö·d·e·yên (伴当每自的) [nökö·d の与位・再帰格形] 六4七
- 那可的 nökö·d·i (伴当行) [nökö·d の對格形] 六40九
- 那可的都[→耶]舌里顔 nökö·d·iyêr·iyân[→iyên] (伴当每自的) [nökö·d の造・再帰格形] 八19六
- 那闊的顔 nökö·d·iyân[→iyên] (伴当每自的) [nökö·d の再帰格形] 四2十
- 那可的耶舌里顔 nökö·d·iyêr·iyân[→iyên] (伴当每領着自的) [nökö·d の造・再帰格形] 六45一
- 那可額 nökö'ê (第二) 第二の, 次の。三29六
- 那闊額 nökö'ê (第二, 第二次, 第二件, 次, 那箇手) 同上。六23二, 三, 四, 五; 七2一; 八45八; 九14一, 16二; 三55三, 五, 56五
- 帖 -te 七9十; 八45四, 七; 九42二; 三12十, 44三
- 那可[額] nökö[ê] (第二次) 同上。[「那可」のまま, nökö と読むことも可能であろう。]
- 帖 -te 三26十
- 那闊只 nökö·ji (第二) 同上。

- 宜 -yi 六31九
- 那可兒 nökö·r (伴当) 友。一8七; 二8四, 10二, 12三, 29八, 30五, 32三, 33五, 34十
- 那可舌兒 nökö·r (伴当) 同上。五48八; 六4十, 6三; 七6一; 十40一; 三32六; 三11三, 35八
- 禿 -tü 九33一
- 途舌兒 -tür 八35四
- 那可(舌)兒 nökö·r (伴当) 同上。九11七
- 那闊舌兒 nökö·r (伴当, 被敵人) 同上。三48五; 五17六
- 那可舌列 nökö·r·e (伴当行) [nökör の与位格形] 二33八; 七15十, 29二
- 那可舌里 nökö·r·i (伴当行) [nökör の對格形] 二33七; 七38四
- 那中合訥 noqa·n·u (狗的) [noqai の複數・屬格形] 七10一, 六
- 那中合昔顔 noqa·s·iyân (狗每自的) [noqai の被數形, noqas の再帰格形] 九1五, 九
- 那中合牙 noqa·i·a (狗行) [noqai の与位格形] 三31七, 33七
- 那中孩 noqa·i (狗, 狗兒, 狗般) 犬。二11五; 五17二, 27二; 七6十, 27四; 三11七; 三1三
- 思 -s 七33八, 34五
- 昔 -s-i 七33六
- 那(中)孩 noqa·i (狗) 同上。一13三
- 牙察 yača [→i-ača] 一47二<sup>2</sup>
- 那中豁安 noGo'ā·n (青草) 青草。
- 突舌兒 -dur 六2一
- 那中豁揚 noGo·d (鴨每) 野鴨たち。一17二, 三
- 那中豁的顔 noGo·d·iyân (豁每自的) [noqai の複數形, noqod の再帰格形] 三47一
- 那中豁速 noGo·su (鴨子) 野鴨。八12十
- 那(中)忽揚 nogud (鴨每) [=nogud] 一19六
- 那牙 noya (ナツ) 首長, 長官。[不定格] 三40八
- 那牙揚 noya·d (官人, 官人每) [nya(n) の複數形] 四47十; 五12十; 八24十, 25一, 27一; 九30九, 十<sup>2</sup>, 34二; 十14十, 15一; 三2一, 三, 八, 13十, 17一, 33六, 43九, 52四
- 塔 -ta 九3八, 31一, 45八
- 途(舌)兒 -tur 九42四
- 那牙蒼察 noya·d·ača (官人行, 官人每行, 官人每内, 官人每处) [noya·d の奪格形] 九45一, 二; 十25六; 三19二; 三33五, 46四, 五
- 那牙的 noya·d·i (官人每, 官人每行) [noya·d の對格形] 五25二; 八26十, 27五, 九, 32四; 十15六, 七
- 那牙的顔 noya·d·iyân (官人每自的) [noya·d の再帰格形] 五15七

## 492 元朝秘史蒙古語辞典

那牙敦 noya·d·un (官人毎的, 官毎的) [noya·d の属格形] 七19一; 九32四, 六, 七, 九, 33三, 八, 九, 36一

\*那牙刺- noya·la- (官做, 断) ノヤンになる, ノヤンとして振舞う。  
-周 -ju 八1八  
-中忽 -qu 三33七, 八

那牙泥 noyan·i (官人行) [noyan の对格形] 七32五; 十10九, 17八, 18五, 21五

那牙訥 noyan·u (官人的) [noyan の属格形] 七18一

那黯失克[→黒] noyamšig (癡官人) ノヤンのような。→27五

那顔 noyan (官人) 首長, 長官。→5四, 32一; 三21三, 39六, 八, 九; 五1九, 28六; 六5八; 七15六, 九, 18四<sup>2</sup>, 五, 28十, 46二, 九, 47四; 九4七, 19八, 41八; 十10十, 17九, 18一, 20九, 33五, 34七; 三4三; 三13八, 52二  
-泥 -ni 三37一

那亦舌兒 noyir (睡) 睡眠。〈→nuyir〉 八37五

那亦壇 noyitan (湿) 湿った。八40九; 九8六

訥都舌兒中合 nudurga (拳頭) 拳。九44一; 三46二  
-因 -yin 九43十; 三46二  
-失顔 -š-iyān[複数・再帰格形] 九14六

訥亦舌兒 nuyir (睡) 〈→noyir〉 六21六

\*弩客列- nūke·le- (鑽眼兒) 穴をあける。  
-周 -jū 三26八

弩木 numu (弓) 弓。二25九, 32三; 十8七  
-揚 -d 三48二  
-壇 -tan 三26六

弩門 numun (弓) 同上。  
-魯額邊[→魯阿班] -lu'ā-bān 七16一

訥舌刺思 nura·s (溝) [nura '崖崩れの所' の複数形]  
-途(舌)兒 -tur 四35九

訥塔 nuta (静) 安寧な, 堅固な。十1三

訥兀<sup>①</sup> nu'ū (隅, 地角) 川の湾曲部 (の牧草地)。八34三  
-苔 -da 四31五

訥兀<sup>②</sup> nu'ū (兒) 男子。  
-揚 -d 三9九

訥温 nu'ū·n (兒, 兒孩) 同上。→45七; 六52六

嫩只 nunji (不動的) 動かない, 緩慢な。三8九; 三2五, 六

嫩秃黒 nuntug (營盤) ノタック。→45七; 八42一; 九24二, 六; 十9一, 24五; 三30三; 三48五<sup>2</sup>  
-阿察 -ača 九11三

-突舌兒 -dur 五3十

-壇 -tan 三8十; 三2五

-圖 -tu 三4八

-圖兒 -tur 二3二, 5六

-圖舌兒 -tur 三24一, 32九, 十; 四17一

嫩秃赤塔泥 nuntū·či·tan·i (營營盤的行) 居營地の管理者(?) 三47十

\*嫩秃黒刺- nuntug·la- (營盤做, 做營盤) ノタックを定める, ノタックとする。

-周 -ju 一1五; 二27四; 八42一; 九24三, 六; 三41十, 42三

\*嫩秃(黒)刺兀動- nuntug·la·'ūl- (做營盤) [nuntug·la- の使役形]

-中忽牙 -quj-a 三48六

嫩秃黒闌 nuntug·la·n (營盤做) [nuntug·la- の同時接合副動詞形] 二39一

嫩秃吉顔 nuntug·iyān (營盤自的行) [nuntug の再帰格形] 三2六

嫩秃中合察 nuntug·ača (營盤行, 營盤処) [nuntug の奪格形] 三29六; 四17二, 23四, 24二, 四, 五, 六

嫩秃兀赤泥 nuntu·'ū·či·n·i (管營盤的行) [nuntu·'ū·čin の对格形] 三48九

嫩秃兀臣 nuntu·'ū·či·n (管營盤的, 管營盤的毎) 居營地の管理者。十5九; 三40五, 48六

農中合速 nungga·su (毛) 羊毛。二24九

-秃 -tu 二23七, 24八

農中合孫 nungga·su·n (毛) 同上。二24十

## q

- 中合 qa (皇帝, 係官) 皇帝。—39四; 三50五; 四31二; 六<sup>2</sup>, 36十; 七<sup>2</sup> 九六  
 中合<sup>陽</sup> qa·d (帝王, 皇帝, 皇帝每, 王子) [qan の複数形] —13六; 二六三; 三20九;  
 六36一<sup>2</sup>, 三  
 中合納 qan·a (皇帝行) [qan の与位格形] 七42一; 七<sup>2</sup> 4三, 5八  
 舌合[→中合]納 qan·a (同上) [同上] 五16三  
 中合泥 qan·i (皇帝行) [qan の対格形] 五10三; 六28五; 七43五; 八24六; 十一一,  
 九; 七<sup>2</sup> 5三, 11一  
 中合你顔 qan·iyān (皇帝自的) [qan の再帰格形] 五2九, 十, 5七, 6一, 五, 7  
 三, 六, 七, 八, 15五; 九27八, 28一, 四<sup>2</sup>, 六, 七  
 中合訥 qan·u (皇帝的) [qan の属格形] 四12三, 25四, 六, 28六; 五9八; 14一; 七<sup>2</sup>  
 4三  
 -埃 -'āi 汗のもの, 王のもの。七15八, 16七  
 中合 qā (前脚) (動物の) 前脚。六36八  
 中合<sup>陽</sup> qad (體) 体; 体格。九42四  
 中合阿 qa'ā (那裏) どこ(に, で)。二20五; 六17一  
 -察 -ča どこから。七27九  
 (中)合阿 qa'ā (同上) 同上。—19五  
 -黒石 -gši どこへ。五22十  
 中合阿- qa'ā- (固) 閉じる; 囲む。  
 -周 -ju 十34五, 35九  
 中合阿<sup>勅</sup>中合 qa'ā·lga (関) 門, 戸。七<sup>2</sup> 2六  
 中合阿<sup>陽</sup>[→勅]中合 qa'ā·lga (門) 同上。二47二  
 中合阿納 qa'ān·a (皇帝行) [qa'ān '皇帝' の与位格形] 四40七, 46六, 49七; 五26  
 三, 27七; 九28三; 十27四, 十; 七<sup>2</sup> 6三, 8四, 11八, 20七, 44五, 46六,  
 50六  
 中合阿泥 qa'ān·i (皇帝行) [qa'ān '皇帝' の対格形] 五50九; 六45二; 十18八, 35二,  
 36一, 40八; 七<sup>2</sup> 7一, 9四, 10七, 12二  
 中合阿訥 qa'ān·u (皇帝的) [qa'ān '皇帝' の属格形] 四42九, 49八; 五9六; 六8  
 一, 三; 九35十; 十12五, 33二, 七<sup>2</sup> 8五, 15九, 16八, 38四<sup>2</sup>  
 -埃 -āi 七15八, 16八, 45三  
 中合阿台 qa'ā·tai (ナツ) 閉じられた。二47二  
 中合<sup>ト</sup>察<sup>勅</sup> qabčal (窄狭, 窄狭, 狭) 山峡。三18七; 五9十; 六24五  
 中合<sup>ト</sup>察<sup>刺</sup> qabčal·a (窄狭) [qabčal の与位格形] 三19四  
 中合<sup>ト</sup>察<sup>察</sup> qabčal·āča (狭) [qabčal の奪格形] 六24七  
 \*中合<sup>ト</sup>赤<sup>②</sup> qabči- (夾) はさみつける。

- 周 -ju 九13五  
 \*中合<sup>ト</sup>赤<sup>②</sup> qabči- (藏匿) 匿す。[上の qabči- の転義]  
 -中<sup>渾</sup> -qun 九4十  
 中合<sup>ト</sup>臣 qabči·n (匿) [qabči<sup>2</sup>- の同時接合副動詞形] 九19六  
 中合<sup>ト</sup>赤<sup>中</sup>合牙 qabčigaya[→Gai·a] (狭) [qabčigai '山峡' の与位格形] 四4八;  
 八22二  
 \*中合<sup>ト</sup>中合<sup>舌</sup>里兀魯- qabqari·'ül·u- (教大) [qabqari- '大声で笑う' の使役形]  
 -中<sup>坤</sup> -dqun 七30六  
 中合(ト)塔中孩 qabtaGai (匾) 平らな, 扁平な。七25八  
 中合<sup>ト</sup>蒼孫 qabqa·sun (板) 板。八30四  
 中合巴舌兒 qabar (鼻子) 鼻。七54五  
 中合巴舌刺察 qabar·āča (自界[→鼻]行) [qabar の奪格形] 十24六  
 中合必兒(中)合兒 qabirGār (同上) 同上。—8四  
 中合必舌兒中合 qabirGa (肋扇) あばら, 肋骨。四1五  
 中合鏃 qabu (射箭) 射ること, 射力。十30六  
 中合<sup>ト</sup>兒 qabur (春) 春。—11七  
 中合不兒 qabur (同上) 同上。—17二  
 中合不舌兒 qabur (同上) 同上。二1八[卷二における舌兒は例外]  
 中合不舌兒 qabur (同上) 同上。三26六; 五40一, 46八; 八2三  
 中合察兒 qačar (腮) 頰。—44七  
 中合察舌兒 qačar (腮, 聰[→腮]) 同上。三43四; 六16一, 36五; 七48三; 八43八  
 -途舌兒 -tur 六16四  
 中合察舌里顔 qačar·iyān (腮自的) [qačar の再帰格形] 六9七; 七26九  
 \*中合<sup>勅</sup>中忽- qadqu- (荆, 挿) 突き刺す。  
 -罷 -ba 七24二  
 -周 -ju 四1五; 六8八, 34二  
 -主兀 -ju'ü 二3十  
 -中忽牙 quya[-qui·a] 七36六, 七  
 \*中合<sup>陽</sup>中忽黒蒼- qadqu·gda- (被刺, 被擗, 戳) [qadqu- の受動形]  
 -阿速 -'āsu 六26九  
 -罷 -ba 六21九  
 -周 -ju 八17四  
 \*中合<sup>陽</sup>中忽<sup>勅</sup>都- qadqu·ldu- (斯殺) [qadqu- の対動形]  
 -阿速 -'āsu 七24四  
 -罷 -ba 四37九  
 -陽者 -d·je 六15一, 20二  
 -黒赤 -gči 五29七  
 -黒三 -gsan 六10二, 17七

- 周 -ju 五9二, 18一; 六27十; 八22二; 三5七  
 -梅者 -muji-je 六3四  
 -中忽 -qu 五29七; 九21七  
 -中灰 -quj 三43九; 六42三  
 -中灰突舌兒 -quj-dur 八15四, 43二; 九16四, 21八  
 -中灰因 -quj-yin 五17四  
 -中渾 -qun 六3二, 5四, 14九  
 -舌刺 -ra 五9二  
 -速 -su 六7九, 8二; 三4七  
 -秃中孩 -tugaj 七19六  
 -牙 -yā 四34九; 五29八, 九, 31六; 六11八, 14五, 29一; 七31四, 32三; 三4十
- \*中合楊(中)忽(勦)部- qadqu·ldu- (同上) [同上]  
 -周 -ju 一40一
- \*中合楊中渾勦都- qadqu(n)·ldu- (同上) [同上]  
 -周 -ju 四37十  
 -牙 -yā 四37八
- \*中合楊(中)渾勦都- qadqu(n)·ldu- (同上) [同上]  
 -黑三 -gsan 四38一
- 中合楊中忽勦都阿 qadqu·ldu·'ā (斃殺) 突き刺し合い, 合戦。七32三; 三4七  
 中合楊中忽勦都阿訥 qadqu·ldu·'ān·u (斃殺的) [qadqu·ldu·'ā(n) の屬格形] 六42二  
 中合楊中忽勦都安 qadqu·ldu·'ān (斃殺的) 合戦(の)。七19五; 八46六; 九2一, 39六  
 -突舌兒 -dur 四38八  
 -突兒[→舌兒] -dur 九20九
- 中合楊中忽勦敦 qadqu·ldu·n (斃殺) [qadqu·ldu- の同時接合副動詞形] 六4九, 6四  
 中合楊中忽(勦)敦 qadqu·ldu·n (同上) [同上] 三8二  
 中合楊中忽舌刺速 qadqura·su (桃皮) 山桃皮。  
 -秃 -tu 三8一
- 中合蒼 qada (崖, 崖子) 岩山。九1七  
 -途兒 -tur 二11五  
 -因 -yin 六36七
- 中合打 qada (崖) 同上。  
 -蒼 -da 六19三
- 中合蒼兀勦- qada·'ül- (釘) [qada- '釘を打つ' の使役形]  
 -罷 -ba 六16五
- 中合蒼阿舌兒 qada'ār (轡, 轡領) 馬勒, くつわ。八8八  
 -秃宜 -tu-yi 三39五
- 中合蒼阿孫 qada'ā·sun (釘子) 釘。六16五

- \*中合蒼勦- qadal- (分析) 尋ねる, 探索する。  
 -周 -ju 三46二
- 中合蒼命 qadal·u·n (根尋着) [qadal- の同時接合副動詞形] 二12七  
 中合蒼(舌)命 qadarun (ナツ) [qadar- '嚙る' の同時接合副動詞形か(?)] 十29八  
 中合蒼中合 qadaga (緊要事, 緊要) 重要な, 主要な。三49四  
 -秃 -tu 八17五
- \*中合蒼中合刺兀勦蒼- qadagala·'ül·da- (被教管) [qadagala- '保管する' の使役・受身形]  
 -周 -ju 十7五
- 中合蒼舌兒 qadār (轡領) <→qada'ār>  
 -秃宜 -tu-yi 九48十
- \*中合蒼舌刺- qadara- (点) (馬が前後の2本の足で同時に地を蹴って) 走る。<→qata-ra->  
 -周 -ju 一20五; 二46七
- \*中合蒼兀赤- qada'ūči- (教戒慎) 耐えて頑張る。<→qada'ūji>  
 -秃中孩 -tugaj 六5一
- 中合蒼兀赤 qada'ūči (謹慎) [qada'ūči- の命令形] 七42七  
 中合蒼兀只 qada'ūji (同上) <→qada'ūči-> [qada'ūji の命令形] 二19八; 六6五  
 -古 -gu[→-ku] 二19八 (助辭の -kü)
- 中合的牙舌兒 qad·iyār (独自自的) [qad の造格形] 自分で, 自ら。九33五  
 中合敦 qadun (娘子) 妃。<→qatun> 四10六, 五, 六<sup>2</sup>, 19二; 五22六, 23三, 八, 24九<sup>2</sup>, 十; 六36五; 七29五, 47三, 48四; 三20七, 21八, 24八, 27二; 三2一
- 楊 qadu(n)-d 八1三  
 -蒼察 -dača 三1五  
 -魯阿 -lu'ā 七46八  
 -納 -na 三13二  
 -泥 -ni 七48九; 三1五  
 -訥 -nu 七10七, 48七, 八
- 中合罕 qahān (皇帝) 皇帝。一30三, 32五, 六, 十, 33三, 五, 39三, 九, 40七, 44七; 三44五, 十, 48六, 49四; 四4四, 七, 6五, 六, 9三, 10四, 11十, 13一, 七, 14一, 四, 15二, 16三, 17四, 18七, 19八, 20四, 26二, 四, 九, 27七, 31七, 32一, 九, 33二, 37九, 38八, 39四, 40七, 41二, 八, 43一, 45五, 八, 46六, 七, 十, 47四, 49二, 50二; 五1二, 六, 5七, 八, 7五, 9二, 11八, 12一, 四, 17二, 五, 19四, 20十, 22五, 六, 23一, 三, 五, 24一, 八, 25一, 28一, 29五, 七, 31六, 九, 32一, 33六, 37四, 38七, 39六, 46二, 47一; 六1二, 2八, 7六, 10一, 11三, 七, 12一, 14二, 18三, 六, 19二, 20四, 十, 34八, 35三, 38三, 39八, 43八,

44九, 45五, 46十, 49五, 51十, 53一; 七1五, 七, 2六, 3四, 7八, 14十, 18一, 20五, 24五, 31九, 32四, 42九, 44二, 五, 45三, 46十, 47十, 48七, 九; 八1七, 2二, 八, 4二, 五, 十, 6二, 五, 10一, 12十, 13二, 六, 14三, 21二, 24八, 27五, 七, 29七, 33三, 34七, 39五, 40八, 43一, 45十, 47四, 十; 九1二, 3七, 5六, 7一, 8一, 9三, 11一, 19四, 20八, 22四, 23一, 24四, 五, 九, 27四, 31三, 32一, 39十, 40九, 44十, 45九; 十1二, 4五, 6八, 11二, 12六, 十, 13七, 16四, 18六, 21六, 22七, 25十, 27四, 六, 28四, 28九, 29二, 31一, 37九, 39三, 40七, 41一, 43四, 八; 十一二, 2二, 七, 6八, 10六, 九, 11八, 12一, 九, 13九, 14六, 15一, 16三, 17一, 18四, 20一, 三, 七, 21八, 23七, 29七, 30一, 31三, 32一, 四, 九, 35一, 八, 36十, 39六, 41五, 九, 42四, 九, 43二, 44六, 45六, 十, 47七, 八, 50二; 十二四, 六, 2二, 十, 5三, 六, 7五, 十, 9五, 10三, 四, 六, 九, 12九, 13一, 14四, 15二, 五, 17四, 18三, 19五, 六, 八, 20八, 21二<sup>2</sup>, 十, 22十, 23一, 四, 六, 八, 十, 24八, 26九, 28十, 30八, 31六, 33六, 九, 34一, 九, 36九<sup>2</sup>, 37二, 43八, 46十<sup>2</sup>, 47二, 51十, 54十, 55一, 十, 56一, 七, 57二, 八

-突舌兒 -dur 四4一, 6一, 四, 22七, 32三; 五8十, 9四, 33六, 50三; 六5二, 45四; 七7五, 46九; 八12八; 十11一, 12二, 13六, 15七; 十一六, 14九, 18二, 38七, 43九

-都舌里顏 -dur-iyān 四48二

-魯阿 -lu'ā 五36七

-納 -na -33二; 四6九, 15四, 十, 18六; 五6三, 7一, 四; 六18十, 42八, 50五, 51九; 七14六, 23五, 42二, 45八, 46一, 47五; 八1四, 24四; 十二九, 5二, 9七, 14七, 28九

-納察 -nača 四28二; 七48二

-泥 -ni -33二; 二2九; 三50二; 四4二, 27七, 31九; 五27二; 十一八, 14二, 三, 33九

-訥 -nu -30四, 31九, 32五<sup>2</sup>, 33四, 39一, 40一; 二1八; 四8四, 18二; 七31七, 47四; 八26十, 31十; 十一二七, 14一, 52五, 十, 53二

-訥完 -nu'an 七48五

(中)合罕 qahān (同上) 同上。四37三; 九21五

-訥 -nu -1二

中合《中》罕 qahān (同上) 同上。十一52六

-突舌兒 -dur 六49五; 十一4二

\*中合札- qaja- (咬) 咬む, ギューと咬む。

-黑撒魯 -gsad 十29九

-中忽 -qu 二11五, 八

\*中合勒- qal- (惹, 闕) 近付く。

-中忽 -qu 三18五

-中忽由 -quyu[→quj-ū] 五16四

-中渾 -qun 六16五

中合勒 qal (惹) [qal- の命令形] 四49九; 九1六

中合勒不中合 qalbuca (匙般) 匙。十一54四

中合勒都魯 qaldu·d (崖每) [qaldun の複數形] 山峯。

-塔 -ta 五36三

中合勒中合 qalqa (団牌, 筒牌, 関) 楯。三18八; 八46六; 十一14七

\*中合勒中合刺黑蒼- qalqa·la·gda- (被遮護) [qalqa·la- '守る' の受動形]

-罷 -ba 二15一

中合勒中合孫 qalgasun (破閉柳条的) 柳条。二50一

\*中合勒塔亦- qaltayi- (破) 剥ぎ取る。

-周 -ju 三2六, 5六

\*中合勒塔舌里兀魯- qaltari·'ül·u- (滑擦) [qaltari- '滑る' の使役形]

-阿楊 -'ād 二16三

中合勒塔舌鄰勒 qaltari(n)·l (避) 避けること, 滑ること。七26十

中合刺 qala (号令) 命令。三43九

中合刺阿舌兒 qala·'ār (必然) 必ず。十一4十

中合刺魯 qalad (猛然, 忽然) 勢いよく。二11三; 十一25一

中合刺兀納 qala·'ū·n·a (熱行) [qala·'ūn の与位格形] 二24十

中合刺兀納察 qala·'ū·n·ača (自熱勉, 熱的行) [qala·'ūn の奪格形] 二11三; 十一25一

中合刺温 qala·'ū·n (熱, 煖) あつい。六14四; 八17七; 十一43四; 十一2二, 5三

中合里敦 qalidu·n (親近) [qalidu- '近づく, せまる' の同時接合副動詞形]

八17六

中合里速 qalisu (殘皮) 外皮, 表皮。三18三

中合里兀泥 qali'ūn·i (黑鬃尾馬) [qali'ūn の対格形] 三28一

中合《舌》里温 qali'ūn (黑鬃尾黃) たてがみの黒い黄白色の馬。五14八

中合里温 qali'ūn (同上) 同上。六26七

中合里牙兒孫 qaliyarsu·n (山薙) 野薙。二6二

中合秃 qamtu (一箇, 一同, 同, 一処) 共に, 一緒に。-44十; 二7七, 9四, 30八; 三29九; 四1六, 13五, 八, 38二; 五23六, 30五

中合木黑 qamuG (普) 全ての, 全。-32五, 七; 三2六, 5六, 18五; 五36四; 十一25六

中合水[→木]中渾 qašui[→mu]G·un (普的) [qamuG の屬格形] -13六

(中)合木(中)渾 qamuG·un (同上) [同上] -33十

\*中合納- qana- (刺) 刺して血を出す, 嚙血する。

-周 -ju 五11七, 14七; 六26七

中合納勒中合 qanalga (機會) 好機。

- 突舌兒 -dur 四12二, 13五
- 中合泥勒中斯 qaniŋga·n (比着) [qaniŋga- ‘なぞらえる’ の同時接合副動詞形] 一13六
- \*中合黑蒼- qaŋda- (被射) [qa- ‘射る’ の受動形]
- 周 -ju 五34三; 六9七, 12四, 16二, 30十
- \*中合中合- qaqa- (噎) 悶える。
- 阿速 -’āsu 五43八
- \*中合中合察- qagača- (分離, 離, 相離) 分離する, 離れる。
- 罷 -ba 六22五, 33八; 七42九
- 罷者 -ba·je 九8五
- 周 -ju 一7八; 二36七; 三34六, 八, 41六; 四6一, 三; 五33一; 六10二; 八44二
- 黑撒泥 -gsan-i 八45四
- 黑三 -gsan 二40二; 三2一; 八46七
- 中忽 -qu 六12八
- 中忽由 -quyu[→quj-ū] 六33八
- (中)灰 -quj 七26七, 28九
- 中渾 -qun 三37十; 六11五
- \*中合中合察兀勒- qagača·’ül- (教離, 教分離) [qagača- の使役形]
- 罷 -ba 四1六; 六34九
- 周 -ju 三43十; 八30四
- 中合中合察兀命 qagača·’ül·un (教離) [qagača·’ül- の同時接合副動詞形] 四1六
- 中合中合潺 qagača·n (分離, 分離着, 離着) [qagača- の同時接合副動詞形] 三31八, 41五, 十; 四36三; 六10三; 七42二; 八3六, 14六, 17四, 45五
- \*中合中合勒蒼- qaŋal·da- (分) 分かちあう。
- 周 -ju 八17三
- 中合[→中合]中合命 qa[→qam]qal·u·n (撞破) [qamqal- ‘打ち砕く’ の同時接合副動詞形] 九1七
- 中合中合思 qaga·s (分離分明, 分閉, 剪破) 分かれて, 分離して。六15十; 十7九<sup>2</sup>, 24七; 十一40十, 41三, 五七, 54四, 五
- 中合中合孫 qagasu·n (梗) 小骨。二10一
- 中合中忽納中合察 qaqunaŋ·ača (衣胞行) [qaqunaŋ ‘衣胞; 陰のう’ の奪格形] 十一25一
- \*中合剛亦- qalayī- (回顧) 顧みる; 遠望する。
- 周 -ju 一38二
- 中合兒心速 qarbisu (同上) 胞衣。
- 班 -bān 二11五
- 中合舌兒必速 qarbisu (胞衣) 同上。
- 完 -’ān 十29九
- 中合兒必牙勒敦 qarbiya·ldu·n (射箭) [qarbiya- ‘射る’ の對動形・同時接合副動詞形]

三26六

- \*中合兒鏢- qarbu- (射) 射る。
- 周 -ju 一16八
- \*中合舌兒鏢- qarbu- (同上) 同上。
- 阿速 -’āsu 七38六, 八
- 黑撒訥 -gsan-u 四50八; 八43九
- 周 -ju 十30七
- 主兀 -ju’ū 六49四
- 刺阿 -la’ā 四49五, 七
- 由 -yu 七38二, 四, 六, 七, 八
- \*中合舌兒鏢- qarbu- (同上) 同上。
- 周 -ju 四3四
- \*中合舌兒不擦- qarbu·ča- (交參) 射合う。
- 周 -ju 十30六
- \*中合舌兒鏢察- qarbu·ča- (相射) 全上
- 周 -ju 八6八
- \*中合兒不闌勒都- qarbula(n)·ldu- (斲射) [qarbula- ‘射る’ の對動形]
- 罷 -ba 二32五
- \*中合兒鏢刺勒都- qarbula·ldu- (相射) 同上。
- 周 -ju 二13九
- \*中合兒鏢闌勒都- qarbula(n)·ldu- (斲射) 同上。
- 速 -su 二32五
- \*中合兒鏢闌(勒)都- qarbula(n)·(l)du- (同上) 同上。
- 速 -su 二32三
- 中合兒赤中孩 qarčigaj (黃鷹) (一般に) 鷹; 雌鷹。一16三
- 中合兒赤中孩 qarčigaj (同上) 同上。一18二, 19四, 六
- 巴安 -ba’ān 一17二, 七
- 巴安別兒 -ba’ān·ber 一16九
- 巴兒 -bār 一19六
- 圖者 -tu·je 一19四
- 中合兒乞 qarqi (溜道) 早瀬, 忽流。
- 圖兒 -tur 二17八, 18八
- \*中合舌兒馬勒都- qarma·ldu- (共攻聚) [qarma- ‘集める’ の對動形]
- 速 -su 三47六
- 中合舌兒中合[→中合] qarŋa[→gam] (膀) 尻部。六36六
- 中合舌兒中合 qarŋam (臂筋, 後膀) 同上。三43四; 七29二, 48四
- 中合舌兒甘 qarŋam (後膀) 同上。[「中甘」gam を認むべきもの]
- 突(舌)兒 -dur 十一26十

中合舌兒石 qarši (行宮) 宮殿。ㄅ11六  
 中合(舌)刺 qara (黒) 黒い。五13五  
 中合舌刺 qara (同上) 同上。-13五, 35八, 44八; 二11四, 39二, 六, 40一, 44六;  
 三1三, 2一, 2六, 6一, 7八, 九, 18二, 六, 25四, 44一, 47六; 四  
 42十, 43七, 50一; 五36八; 六25五, 27五, 49三; 七26八, 十; 八12十,  
 17六, 18七; 九3四, 十, 14四, 23七; 十28八; 十一25六, 七, 52七  
 -蒼 -da 五43八  
 -禿 -tu 三19四  
 中合舌刺蒼察 qara-dača (家活処) [複合語を形成する際の後半の語 eres qara '男ど  
 も'の奪格形] 三44二  
 \*中合舌刺- qara- (望, 看) 見る, 望み見る (ものの総体, 全体を見る)。  
 -周 -ju 一43七  
 -由 -yu 一45七  
 \*中合舌刺- qara- (望, 望見, 看) 同上。  
 -周 -ju 一3十; 六45九, 46一  
 -中忽 -qu 一3五; 五39二  
 \*中合(舌)刺- qara- (望) 同上。  
 -周 -ju 一3八; 二9六  
 中合舌闌 qara·n (着[→看]) [qara-の同時接合副動詞形] 五39四  
 中合舌刺阿 qara'a (形影, 遠看見) 望遠。六45九  
 -禿 -tu 三7七, 8三  
 中合舌刺出 qaraču (下民) 平民。八13一  
 中合舌刺除 qaraču (同上) 同上。三18六  
 中合(舌)刺除思 qaraču·s (同上) [qaračuの複數形] 一13七  
 中合舌刺出撒 qaraču·s·a (下民行) [qaraču·sの与位格形] 十一21五  
 中合舌刺黒赤兀楊 qara·gči'ūd (黒每) [qaraの女性形複數] 六3七  
 中合舌刺中合納 qaragana (叢草般) 植物の一種, カラガナ。七32二  
 中合舌刺訥兀楊 qara·nu'ūd (黒每) [qaraの複數形] 十15二, 八  
 中合舌刺兀勸 qara'ül (哨望) 斥候。四33五, 六, 七, 八; 五28六; 七5六  
 中合舌刺兀勸 qara'ül (哨望的) 同上。七22九, 23一, 24八, 31七  
 中合舌刺兀(勸) qara'ül(1) (同上) 同上。七32八  
 中合舌刺兀勸命 qara'ül(1)un (哨望的) [qara'ülの屬格形] 十19二  
 中合舌刺兀勸孫 qara'ül·sun (哨望) 斥候。〈→qara'ül〉六1七  
 中合舌刺兀刺 qara'ül·a (出哨的行) [qara'ülの与位格形] 五28七  
 中合舌刺兀刺 qara'ül·a (哨望的行, 哨望的) [同上] 七22九, 23一  
 中合(舌)刺兀刺 qara'ül·a (哨望的行) [同上] 十18四  
 中合舌刺兀刺察 qara'ül·ača (哨望処, 哨望的行) [qara'ülの奪格形] 四34一; 七22十  
 中合舌刺兀里 qara'ül·i (哨望的行) [qara'ülの対格形] 七32一, 33七

中合舌刺兀里 qara'ül·i (同上) [同上] 七24二, 32八  
 中合舌刺兀命 qara'ül·un (哨望的) [qara'ülの屬格形] 七26三  
 中合舌郎中忽 qarangu (黒暗) 暗い。三18七, 19四  
 中合舌邦恢[→中灰] qarangküi[→qui] (黒) 同上。二20三  
 \*中合舌籃刺- qaram·la- (食) 食る。  
 -周 -ju 三57六  
 中合舌里 qari (一, 外邦, 部落) 外の, 他部族(の)。三43三; 七48三; 八18四; 九8  
 九<sup>2</sup>, 22二; 十一30三  
 中合(舌)鄰 qari·n (部) [qariの複數形] 四3九  
 中合舌鄰 qari·n (部落毎, 邦) 同上。四31一; 十一49七; 十三17十, 29二  
 \*中合舌里- qari- (回, 回去) 帰る, 返る。  
 -罷 -ba 二37四; 五5二, 47二, 48七; 十一1八, 7一; 十三3一, 27十  
 -楊中渾 -dqun 五3八, 4六  
 -周 -ju 一35四, 36十; 二15三, 六, 九, 20八, 41三, 45二; 三3二; 四16  
 四, 21七; 五29五; 六10一, 28八; 八4二; 十一3一, 4一, 11二, 41五,  
 52四, 六; 十三24四  
 -主為 -ju'üi 五32九  
 -中灰突舌兒 -qui-dur 六42五  
 -舌命 -run 四4十  
 \*(中)合舌里- qari- (回) 同上。  
 -牙 -ya 五5二  
 \*中合舌里黒蒼- qari·gda- (被回) [qari-の受動形]  
 -周 -ju 十一1八  
 \*中合舌里兀勸- qari'ül- (回報, 回, 教回, 教回去, 回復) [qari-の使役形]  
 -罷 -ba 九11十  
 -周 -ju 三2七; 十一6十  
 -主為 -ju'üi 十33十  
 -中忽宜 -qu-yi 六25八  
 -禿中孩 -tugai 九44一; 十一46三  
 \*中合(舌)里兀勸- qari'ül- (回) [同上]  
 -中忽宜 -qu-yi 五34十  
 \*中合舌里兀魯- qari'ül·u- (教回) [同上]  
 -阿楊 -'ad 二38二; 四5八  
 中合舌里兀命 qari'ül·un (回) [qari'ül-の同時接合副動詞形] 三5七  
 中合舌鄰 qari·n (回, 回去) [qari-の同時接合副動詞形] 一34七; 二19三, 四, 五,  
 20一, 四, 六, 32五; 六17七, 48八; 七6四; 八6七; 十一3二, 43九  
 (中)合(舌)鄰 qari·n (回) [同上] 四73一  
 中合舌里兀 qari'ül (回奉, 回, 回復) 返礼。二40一, 三; 三1七, 十, 2一, 四, 六,



- 30十; 七14三; 九43十<sup>2</sup>; 十12十; 土28九; 土46二<sup>2</sup>
- 中合舌里牙壇 qariya・tan (属的每, 親属的每) [qariya・tu '属する' の複数形] 七1十; 八45三; 十33四, 35五
- 中合撒黑帖兒堅 qasaq tergen (大車) 高い車。  
-圖兒 -tū[→dū]r 一44八
- \*中合失- qaši- (斃) ものが崩れないように板などで守りかためる。  
-秃中孩 -tuqaj 土48十
- \*中合塔舌刺- qatara- (點着去, 點去, 點) <→qadara->  
-罷 -ba 二46二; 七30一  
-周 -ju 一20五; 二44九; 四46七  
-主兀 -ju'ū 七7四  
-主為 -ju'ūi 七6五
- \*中合塔舌刺兀勦- qatara・'ūl- (教點) [qatara- の使役形]  
-周 -ju 三43五
- \*中合塔舌刺温勦- qatara・'ū(n)l- (點) [同上]  
-周 -ju 一44九
- 中合(ト)榻孫 qabtasun (板) 板(の)。三20三
- \*中合塔兀赤- qata'ūči- (謹慎) <→qada'ūči-, qada'ūji->  
-遠中孩 -sugaj 土31五
- 中合秃 qatu (婦人, 娘子) 婦人, 既婚の女性。[qatu(n) の不定格] 一34七, 35八; 五24二  
-榻 -d 一35八; 二1八, 2七; 五27六  
-榻者 -d・je 二47二
- 中合秃納察 qatu・n・ača (娘子内) [qatu(n) の尊格形] 土36十
- 中合秃泥 qatu・n・i (娘子行) [qatu(n) の対格形] 五22五, 23八; 土36十
- 中合秃訥 qatu・n・u (娘子的) [qatu(n) の属格形] 五23十
- 中合壇 qatan (銅) 銅鉄の。三7十
- 中合堂斤 qatangci・n (剛硬) 剛直な。七26十
- 中合唐中忽 qatanggu (鋼硬) 鋼のように固い。三7十
- 中合堂中忽 qatanggu (同上) 同上。土32三
- 中合堂中忽牙 qatangguya[→i・a] (剛硬行, 嚴行) きびしく。七47一; 十18九
- 中合屯 qatun (娘子) <→qatu> 一44九, 45四; 三2七, 5六, 18五, 43三, 四, 十;  
四7二, 三
- \*中合兀赤勦- qa'ūči・d- (旧) 老いる, 老いすぎる。  
-罷 -ba 五36三  
-抽 -ču 五36三
- 中合兀臣 qa'ūčün (同上) 古い。土46二
- 中合兀陳 qa'ūčün (同上) 同上。二12七
- 中合兀里 qa'ūli (體例) 法規, 規律。

- 巴舌兒 -bār 九46十
- \*中合亦- qayi- (尋他縦) さがし尋ねる。  
-巴速 -bāsu 一38二
- \*中合亦刺- qayila- (叫, 喚) 泣き叫ぶ。  
-阿速 -'āsu 一38二  
-周 -ju 四46五; 九13八  
-恢[→中灰]突兒 -küi[→qui]-dur 二18六
- 中合亦闌 qayila・n (叫喚) [qayila- の同時接合副動詞形] 四45八, 九
- \*中合亦舌刺- qayira- (愛惜) 愛惜する。  
-阿速 -'āsu 八22五
- \*中合亦舌刺刺- qayira・la- (同上) [qayira- の iterative.]  
-阿速 -'āsu 八7十  
-周 -ju 五44六; 土11二  
-中渾 -qun 八7九
- 中合亦舌闌 qayira・n (可惜) 惜しい。六16四; 七29七
- 中合亦舌刺闌 qayira・la・n (愛惜) [qayira・la- の同時接合副動詞形] 二50八
- 中合翼舌魯中合納 qayirugan・a (白翎雀兒) [qayirugan '雲雀' の与位格形] 五30八
- 中孩 qaj (不知) はて, さて。七47八
- \*中孩刺- qajla- (叫) 呼び叫ぶ。<→qajyila->  
-罷 -ba 五4八  
-周 -ju 五3五
- \*中孩亦- qajyi- (踏) 探し尋ねる。<→qayi->  
-周 -ju 六45十
- \*中孩亦刺- qajyila- (叫) <→qajla->  
-周 -ju 六45十
- 中合中合兀勦孫 qamqa'ūlsun (蓬高) にかよもぎ (植物の一種)。三6一
- 中合中合舌魯 qamqaru (碎) 碎いて, 碎けて。四50一
- \*中合撒- qamsa- (夾攻) 一緒にする; あわせる; 狭撃する。  
-中渾 -dqun 土37六  
-周 -ju 四15七; 七14一; 土35二  
-牙 -yā 四12二, 六, 九, 13五
- 中合秃 qamtu (一同, 同) 一緒に, 共に。五37二, 三; 六3一; 七46三, 九, 47四;  
九48二; 土32七, 38五, 七  
-巴(舌)兒 -bār 土26二
- 中合[→中合]秃 qa[→qam]tu (一同) 同上。一12一
- (中)合秃 qamtu (同上) 同上。一14五
- 中合圖 qamtu (相合) 同上。八14六
- 中合三 qamsan (併, 逼併) [qamsa- の同時接合副動詞形] 四13九, 19五

\*中含秃(機)- qamtu·d- (相合, 相同, 一同) 一緒になる。

-罷 -ba 八14四

-抽 -čü 三11六, 14五, 24七; 四30二, 32十; 八2七, 3三

-中忽 -qu 三4十

\*中含秃(機)- qamtu·d- (相同) 同上。

-抽 -čü 三24十

\*中含秃(機)中合- qamtu·d·qa- (合併, 教相合, 相合) [qamtu·d- の他動詞形]

-罷 -ba 八18四

-黑撒訥 -gsan·u 八46八

-周 -ju 二40二

\*中含秃(機)中合勅都- qamtu·d·qa·ldu- (相収合) [qamtu·d·qa- の対動詞形]

-周 -ju 三2二

\*中含秃都- qamtu·d·u- (相合) (<→qamtu·d->)

-阿速 -'äsu 七27一

中含秃教 qamtu·d·u·n (相合) [qamtu·d- の同時接合副動詞形] 七26七, 八, 28八

中罕 qa·n (皇帝) 皇帝, 汗。二39五; 三1五, 4七, 7五, 8八, 10一, 二, 七, 11五, 12一, 七, 16一, 22二, 三, 24七, 25一, 43一, 二, 44五, 48一, 50二, 四<sup>2</sup>; 四1七, 八, 10十, 12六, 八, 13一, 二, 七, 14一, 15二, 16一; 五9九, 10二, 11三, 13一, 七, 九, 22八, 28三, 30七<sup>2</sup>, 36九, 43七, 八; 六16七<sup>2</sup>, 21三, 四, 八, 十, 22四, 八, 九, 23六, 七, 八, 24七, 九, 26, 八, 九, 29一, 九, 30四, 31三, 六, 34九, 十, 35二, 七, 九, 36二, 37一, 39十, 40三, 五, 六<sup>2</sup>, 十, 41七, 45八, 46四<sup>2</sup>; 七9二, 八, 九, 10二, 八, 十, 11四, 13七, 14六, 23十, 26三, 四, 27七, 28五, 六, 29一, 31二, 33一, 二, 34七, 十, 35九, 36三, 37二, 四, 39一, 三, 九, 42四, 43六, 八2四, 3七, 16十, 17七, 18一, 五, 24四; 十10十; 十一6二, 8五, 12三, 13五, 14四, 18一, 22九, 23四, 九, 25五, 28一, 29一, 五, 35七, 37七, 十, 38一, 三, 六, 九, 39五, 九, 40二, 三, 52一, 二; 十二14二, 三, 五, 15二, 56十

-機 -d 七11六; 十一21五, 22二

-突舌兒 -dur 三50三; 五10一, 11二, 四, 14四, 40六; 六24一; 七25一; 十一5四

-突(舌)兒 -dur 四12三

-突舌里顏 -dur-iyān 八13一

-都舌里顏 -dur-iyān 八13七, 九

-魯 -lu 六35八

-魯阿 -lu'ā 五9七, 11八; 六25五

(中)罕 qan (同上) 同上。六25五, 28二; 十28一

中罕納 qan·na (皇帝行) [qan の与位格形] 三9十

中罕納察 qan·nača (皇帝自, 皇帝妣) [qan の奪格形] 三3八; 六25十

中罕泥 qan·ni (皇帝行) [qan の対格形] 五28九; 十一19九, 25十

中罕你顏 qan·niyān (皇帝自的行) [qan の再帰格形] 六51六, 52一; 七6七, 7九

中罕訥 qan·nu (皇帝的) [qan の属格形] 三4六, 10七; 七9一, 28十; 八39六; 十一8六

中罕出 qanču (袖) 袖。

-班 -bān 四8六; 十一25八

中罕出機 qanču·d (衣袖, 袖毎) [qanču(n) の複数形] 十28十, 29四

中罕出的顏 qanču·d·iyān (衣袖自的行) [qanču·d の再帰格形] 十40六

中罕純都舌里顏 qanču·n·dur-iyān (袖裏自的行) [qanču(n) の再帰与位格形] 五20七

\*中罕出刺- qanču·la- (袖) (ものを) 袖に入れる。

-周 -ju 五20八

\*中罕蒼- qanda- (満立) 充たされる, 満足される。

-中忽 -qu 九25一

\*中康中合- qangga- (足) 充たす。

-周 -ju 四43八

中康中合思 qanggas (破閉, 劈閉) きり裂いた状態に。-31六; 四9一

中康中罕 qangga·n (教足) [qangga- の同時接合副動詞形] 六21六

\*(中)康失- qangši- (搶) 匂う。

-塔刺 -tala 十24七

中豁埃 qo'āi (椶白色) 淡黄色の, 淡紅色の。-1四

\*中豁綽蒼- qočoda- (落後) (<→qočor->)

-由 -yu 七39八

\*中豁綽兒- qočor- (落後) 残る; ~てしまう, ~のままになってしまう。

-罷 -ba 二27十, 32九

\*中豁綽舌兒- qočor- (同上) 同上。

-罷 -ba 五30九

-抽 -čü 三30五; 五3十; 八19八; 十24四

-出兀 -ču'ū 五39七; 六11五; 七6八

-出為 -ču'ūi 六42七

-速 -su 四49八

\*中豁擲兒- qočor- (墮落) 同上。

-出兀 -ču'ū 二15三, 四

\*中豁擲(舌)魯- qočor·u- (落後) 同上。

-黑撒機 -gsad 一49三

\*中豁擲(舌)魯- qočor·u- (落後) 同上。

-黑撒機 -gsad 四18六

-黑撒你 -gsan-i 四18三

\*中豁綽(舌)魯- qočor·u- (地下, 落後) 同上。

-黑撒泥 -gsan-i 三24一, 32十; 五40一

-黑三 -gsan 四47十

-兀澤 -'ūjai 七16七, 八

-由 -yu 七39八

中豁楊 qo·d (箭筒) [qor の複数形] 三48二

\*中豁都刺- qodula- (罰) 罰として取りたてる; 引き抜く。

-中忽宜 -qu-yi 三12九

中豁黑 qog (碎草) 塵芥; 残渣。十10二

中豁只楊 qojid (落後) 後れて。二1九; 三12八; 十2四

\*中豁只苔- qojida- (落後) 後になる, 遅れる。

-罷者 -ba-je 九17五

-黑撒泥 -gsan-i 三12六

-黑撒你顔 -gsan-iyān 三29三

-速 -su 三45七

-牙 -yā 三12四

中豁只丹 qojida·n (同上) [qojida- の同時接合副動詞形] 三32七

ㄅ \*中豁只苔兀魯- qojida·'ül-u- (教落後) [qojida- の使役形]

-梅 -muj 二2二

ㄅ \*中豁只苔兀魯- qojida·'uul-da- (被落後) [qojida·'uul-<→qojida·'ül-> の受動形]

-周 -ju 二1九

中豁只兀刺思 qoji'ūla·s (枯橋) [qoji'ūla '切株' の複数形] 一17三

\*中豁巴阿舌刺- qolba'āra- (並行) 並ぶ。

-塔刺 -tala 三30一

中豁巴阿舌蘭 qolba'āra·n (同上) [qolba'āra- の同時接合副動詞形] 三29十

中豁巴阿舌蘭 qolbāra·n (同上) [同上] 三29二

中豁刺 qola (遠) 遠い。<→qolo> 三44七

-宜 -yi 八7八

\*中豁里- qoli- (和) 混ぜる。

-周 -ju 一48三

中豁羅 qolo (遠) 遠い。<→qola> 四41三, 四; 七11十, 34八, 35十; 八10九; 九34八, 42七

中豁魯中合 qoluca (惡的) 耳垢。

-楊 -d 二13六

中豁馬兀勒 qoma'ül (乾糞) 家畜の乾いた糞。十10二

\*中豁抹舌兒- qomor- (屈合) 屈む。

-抽 -ču 七15一

中豁木撒 qomsa (費耗) <→qor qomsa>

中豁納黑刺- qona·g·la- (当宿食) 宿泊食を作る。

-周 -ju 三25十

\*中豁那- qono- (宿, 宿来) 泊る, 宿る。

-阿速 -'āsu 五46三; 六29一; 八33八, 37三; 三1九

-罷 -ba 二15六, 九; 三16五; 四38一, 47一; 五29九; 七43一; 三2二

-周 -ju 二15一, 28九, 30二; 五31六; 六11二, 七; 八35二; 九47三

-黑撒楊 -gsad 四45一; 九46五; 三38一

-黑三 -gsan 四45五

-中忽 -qu 一17九; 十7七

-秃中孩 -tugaj 七20八, 21七; 九46三; 三37六, 七, 十

\* (中) 豁那- qono- (宿) 同上。

-罷 -ba 四34十; 六10二

-巴速 -bāsu 二21九

-周 -ju 一46五

中豁難 qona·n (宿) [qono- の同時接合副動詞形] 九46三

中豁那(你)阿兀魯来 qono(n) a·ül·u·lāi (教宿来) 宿りあらしめた。二22一

\*中豁那動都- qono·ldu- (共宿) [qono- の對動形]

-罷 -ba 四38三

-周 -ju 七21五; 九16七, 41十

-中渾 -qun 三28八

\*中豁那兀勒- qono·'ül- (教宿) [qono- の使役形]

-罷者 -ba-je 九12二, 三

中豁那兀命 qono·'ül·u·n (同上) [qono·'ül- の同時接合副動詞形] 二17一<sup>2</sup>

ㄅ \*中豁那温(勒)- qono·'ü(n)(l)- (宿) [=qono·'ül-]

-恢[→中灰]突兒 -küi[→qu] -dur 二21九

(中) 豁那(你) qono(·n) (宿) [qono- の同時接合副動詞形] 一19五

中豁那黑 qono·g (宿) 泊まること, 一昼夜。一48三; 二15九, 50一; 八35十; 三3一

-途舌兒 -tur 三45七

中豁你赤 qoni·či (牧羊, 牧羊的) 羊飼い。五14二

-蒼 -da 九29九

中豁你臣 qoni·či·n (放羊的) [qoni·či の集合名詞形] 同上。十9十

中豁你楊 qoni·d (羊每) [qoni(n) の複数形] 七33三

(中) 豁你楊 qoni·d (同上) [同上] 三54一

中豁你蒼察 qoni·d·āca (羊処, 羊行) [qoni·d の奪格形] 三47五, 52六, 53四

中豁你訥 qonin·u (羊的) [qonin の屬格形] 六41十

中豁紐 qoni·n (羊) 羊。一11七; 二45一; 三1二, 10九; 三47四, 五, 53四

中豁紐赤楊 qonin·či·d (放羊的每) [qoni(n)či(n) の複数形] 三30二, 八

中豁紐楊 qoni·n·d (羊每) [qonin の複数形] 三45九, 十

- 中豁綬的 qoni·n·d·i (羊每行) [qonin·d の対格形] 三45七  
 (中)豁綬的 qoni·n·d·i (同上) [同上] 三45八  
 中豁綬的顔 qoni·n·d·iyān (羊每自的) [qonin·d の再帰格形] 七12二  
 中豁幹刺牙 qo'ōlaya[->i·a] (喉嚨行) [qo'ōlai の与位格形] 三30三, 九  
 中豁幹来 qo'ōlai (喉嚨) のど。二5九; 五3三; 九9九  
 -蒼安 -da'ān 一16九  
 -都舌里顔 -dur-iyān 七37十  
 -顔 -yān 二26五  
 中豁幹闌察舌兒 qo'ōlančar (饒) 食いしん坊の。三45九  
 中豁幹孫 qo'ōsu·n (空) 空っぽの。三6八; 五4十; 九12一; 二26六  
 中豁乞理 qoqimai (枯乾) 枯れた, 乾いた。三19三  
 中豁乞舌兒 qoqir (ナン) 頑迷な。三19二  
 \*中豁乞舌刺- qoqira- (罄絶) 根絶する。  
 -塔刺 -tala 三14一  
 中豁舌兒① qor (折損, 害) 損失。七31十; 八21四, 七; 九15三, 九  
 中豁舌兒② qor (箭筒, 弓箭) 矢筒。三5九, 45一, 二; 七12四, 14二, 六, 16一, 五;  
 九37五, 46四; 十2二, 四; 二42十  
 -突(舌)兒 -dur 九46七  
 -壇 -tan 二30二  
 -秃 -tu 七37十  
 (中)豁舌兒 qor (箭筒) 同上。十8七  
 \*中豁舌兒- qor- (躲) 身を避ける, 隠れる。  
 -罷 -ba 四4八  
 -出(中)灰 -čuquī 二26八  
 \*中豁舌兒中合- qor·ga- (教躲) [qor- の他動詞形]  
 -罷 -ba 四4九  
 中豁舌兒赤 qor·či (帶弓箭的) 矢筒兵。二46五<sup>3</sup>  
 -宜 -yi 二20四  
 -回 -yin 二15六  
 中豁舌兒赤泥 qor·či·n·i (帶弓箭的行) [qor·či(n) の対格形] 九36八, 37二, 三, 四,  
 六; 二47九; 二42八  
 (中)豁舌兒赤泥 qor·či·n·i (同上) [同上] 九37四  
 中豁(舌)兒赤泥 qor·či·n·i (同上) [同上] 十2十  
 中豁舌兒赤你顔 qor·či·n·iyān (同上) [qorči(n) の再帰格形] 九37六; 二43一  
 \*中豁舌兒赤刺兀勒- qor·čila·'ül- (教帶弓箭) [qorčila- '矢筒を帯びる' の使役形]  
 -周 -ju 七2十; 九24七  
 \*(中)豁舌兒赤刺兀勒- qor·čila·'ül- (同上) [同上]  
 -周 -ju 九26四

- 中豁舌兒臣 qor·či·n (帶弓箭的, 帶弓箭) [qor·či の集合名詞] 矢筒兵。七20五, 十,  
 21二; 九31九, 36七, 37一, 45十, 46四, 五, 七; 十5三, 9一, 40九;  
 二46六; 二14五, 36十, 37四  
 -魯阿 -lu'ā 九39九  
 (中)豁舌兒臣 qor·či·n (帶弓箭的) [同上] 十8十  
 中豁(舌)兒臣 qor·či·n (同上) [同上] 十2十  
 中豁舌兒中合 qorqa (寨子) とりで。四14一; 八1六, 4四  
 中豁舌兒中合納察 qorqa·n·ača (寨子尢) [qorqa(n) の奪格形] 四14二  
 中豁舌兒埋 qormaj (裾, 衣襟) 麓; 襟; 裾。七31六, 32七; 二8五  
 -班 -bān 二25九  
 \*中豁舌兒埋刺- qormaj·la- (包) 裾で包む。  
 -周 -ju 六17三  
 \*中豁舌兒中合(黑)刺- qorqa·la- (寨子巴) とりでを築く。(<->qorgala->  
 -主兀 -ju'ū 五20四  
 \*中豁舌兒中合刺- qorqa·la- (寨子巴, 巴塞子) 同上。  
 -主為 -ju'ūi 八1六  
 -黑撒楊 -gsad 八1九, 4四  
 -黑三 -gsan 四16十  
 -黑撒的 -gsad-i 四14二  
 \*(中)豁舌兒中合[刺]- qorqa·la- (寨子巴) 同上。  
 -黑撒楊 -gsad 五20四  
 \*(中)豁舌兒中合刺- qorqa·la- (同上) 同上。  
 -黑撒楊 -gsad 五20五  
 \*中豁兒中豁- qorqo- (趕入) 追い込む。(<->qorga->  
 -巴速 -bāsu 二23四  
 \*中豁舌兒中豁- qorqo- (教趕) 同上。  
 -周 -ju 八22二  
 \*中豁兒中豁刺- qorqo·la- (寨做) とりでを築く。(<->qorgala->  
 -黑三 -gsan 二26四  
 -周 -ju 二13七  
 \*中豁舌兒中豁刺兀勒- qorqo·la·'ül- (寨巴) [qorqo·la- の使役形]  
 -周 -ju 二5八  
 中豁舌兒中豁木撒 qor qomsa (費耗) 消耗; 少量。十5二  
 中豁舌兒中豁速訥 qorgosu·n·u (羊糞塊的) [qorgosun '羊糞' の属格形] 三19三, 五  
 中豁舌藍 qoram (暫) しばらく。二24五  
 (中)豁舌藍 qoram (零) 同上。一20三  
 中豁舌里阿楊 qori'ād (每二九箇) 二十ずつ; 約二十。二53十  
 中豁舌里牙安 qoriya'ān (院子) かこい。三19五

中豁舌里牙舌里顔 qor·iyār·iyān (箭筒自的行) [qor の再帰・造格形] 七11二  
 中豁舌里顔 qor·iyān (同上) [qor の再帰格形] 七14九, 15十, 29十  
 中豁舌鄰 qorin (二十, 二十箇) 二十。六25三; 七38三; 五53九  
 中豁舌羅 qoro (毒) 毒。一48三 <→qoron>  
 \*中豁舌羅黒- qorog- (刁) 気づかう; 大切にする。  
 -抽 -ču 六23十  
 中豁舌羅中渾 qorog·u·n (刁, 費) [qorog- の同時接合副動詞形] 三18七, 19四; 六24四, 35三, 51七, 52二; 五39五  
 中豁舌樂 qoron (毒) 毒。五11三  
 \*中豁舌魯阿- qoru'ā- (廢) 亡ぼす, 害する。  
 -周 -ju 七4六  
 中豁舌魯舌刺 qor·u·ra (躲避) [qor- '隠れる' に -ra のついた形] 七16九  
 中豁舌魯木楊 qorumud (且, 少頃) ほんの少し。<→qorumud> 四9九; 六13五  
 \*中豁舌魯兀勒- qoru'ül- (教癡) [qor(u)- '凝る' の使役形]  
 -周 -ju 五24九  
 中豁室 qoš (房子) 小舎。  
 -都舌里顔 -dur·iyān 五49九  
 中豁失里黒 qošilig (帳房) 帳房。十41二  
 中豁失里中渾 qošilig·un (帳房的) [qošilig の属格形] 二15七, 16一; 十42一  
 中豁失兀訥 qošī'ün·a (猪行) [qošī'ū(n) の与位格形] 五1十, 7一  
 中豁失兀訥 qošī'ün·u (猪) [qošī'ū(n) の属格形] 二26八  
 中豁失兀壇 qošī'ū·tan (猪有的) 鼻面をもった。七33九  
 中豁失温 qošī'ū·n (山猪) 山鼻; 嘴。一35三, 36一  
 中豁塔楊 qota·d (城子每) [qota '城, 城術' の複数形] <→qoto·d> 五6八  
 -圖舌兒 -tur 五6九  
 中豁脱楊 qoto·d (同上) <→qota·d> 五2八<sup>2</sup>; 五21一, 六  
 中豁脱刺 qotola (都行) 全て(の)。三6七, 19二  
 -宜 -yi 七37十  
 中豁脱来顔 qotola·iyān (都自的行) [qotola の再帰格形]  
 (中)豁团 qoto·n (圈子) 羊圈い。三45九  
 -突舌兒 -dur 七33三  
 中豁牙兒 qoyar (兩箇, 兩, 二) 二。一2八, 十, 7二, 10九, 12七, 30三, 31一, 十, 32一, 九, 37五, 39九; 二7九, 十, 9二, 10五, 11二, 21十, 23三, 25十, 36五, 46七  
 -圖兒 -tur 一40一  
 中豁牙舌兒 qoyar (兩箇, 二, 兩箇[→箇]) 同上。三2九; 十, 4十, 9二, 九, 10二, 八, 11十, 14五, 24十, 25九, 26七, 29五, 九, 34四, 十, 35三, 41八, 45二, 48七; 四1四, 五, 八, 13二, 七, 16三, 20一, 22一, 六, 27九,

32九, 35七, 47三<sup>2</sup>; 五21六, 27六, 28一, 29五, 八, 32一, 十, 35十, 36六, 40十, 49八, 50二, 四, 七, 九; 六8三, 11四, 18五, 21十, 23一, 四, 30一, 35四, 38十, 40十, 41一<sup>2</sup>, 二, 四<sup>3</sup>, 42三, 48一, 49四, 50五; 七5四, 11五, 六, 34六<sup>2</sup>; 八2六, 14四, 26八, 33七, 36四, 37十, 47五, 47六; 九14四, 六, 十, 26二, 30四, 39九; 十5八, 12三, 18七, 20九, 23七, 29六, 七, 30二; 十一3二, 八, 16二, 十, 23五, 29一, 九, 30七, 38三, 六, 39五, 50四; 十二8三, 九, 14七, 29六, 七, 35三, 40八, 41一, 三, 六, 43四, 五, 48九, 49六, 58七  
 -魯阿 -lu'ā 八41八  
 -途舌兒 -tur 四31七; 五39七  
 中豁牙(舌)兒 qoyar (兩箇) 同上。四14一; 五37四; 七11六; 九9四, 五, 10一, 17二, 25二, 29六, 30四  
 (中)豁牙舌兒 qoyar (二, 豁箇) 同上。三4八, 49二; 四4二, 15三, 20六; 五42七  
 -途舌兒 -tur 九4五  
 (中)豁牙(舌)兒 qoyar (兩箇) 同上。十28五  
 中豁牙舌刺 qoyar·a (兩箇行, 兩箇) [qoyar の与位格形] 二8二; 三7七, 16一, 22七, 48五; 四1三, 20四; 六21一, 35四; 五7九, 8一  
 中豁牙(舌)刺 qoyar·a (兩箇行) [同上] 五30七  
 中豁牙舌刺察 qoyar·ača (兩箇行) [qoyar の奪格形] 二7九; 七10九; 九4三  
 中豁牙舌里 qoyar·i (兩, 兩箇, 兩箇行) [qoyar の対格形] 一43六; 三3十, 22五, 50三; 四1二, 六, 7六, 20三, 21七, 26九, 27四; 五11十, 18七, 37五, 46十, 47二, 49五, 九; 六23九, 25一, 26十, 31八<sup>2</sup>, 35十, 39十, 46八, 九, 50九, 51三; 七22七; 九2二, 9八, 15九, 24十; 十26三; 十一5, 13十, 17二, 39九, 十, 47十, 52一, 三; 十二5七, 32六, 36一, 53八  
 (中)豁牙舌里 qoyar·i (兩箇行, 兩箇) [同上] 一39一; 三46十; 十26三  
 中豁牙舌里牙舌兒 qoyar·iyār (兩箇, 兩箇行教) [qoyar の造格形] 六41五, 45七  
 中豁牙舌命 qoyar·un (兩箇的) [qoyar の属格形] 二36八; 三5十, 24九; 六1二, 27六, 38三, 40九, 48四; 七2七, 3五; 八19二, 21十; 九25一; 十30十, 38九, 49一, 51三; 十一35二, 42一<sup>2</sup>  
 (中)豁牙(舌)命 qoyar·un (兩的) [同上] 一42四  
 中豁牙兀刺 qoya'ūla (兩箇) 二つ一緒に, 二人一緒に。十30一  
 中豁亦馬舌兒 qoyi·mar (正面) (ゲル内の最北の) 奥座。五39二  
 中豁亦馬舌刺 qoyi·mar·a (同上) [qoyimar の与位格形] 五39三  
 中豁亦赤 qoyi·či (後) 後のこと, 将来。  
 -余安 -yu'an 五45七  
 中豁亦納 qoyi·na (後, 在後, 後行) 後に, 後で。一7七, 14九, 32五; 二25五, 28二; 四2五, 19三, 30一; 五8十, 11一, 14三, 21二, 五, 28一; 六7九, 23

七, 25九; 七3八; 八36八, 37二, 46十; 九2十, 28五, 47一; 十3八, 33一, 36九; 十一二, 5六, 11六, 20一, 28六; 十二三, 13二, 37九, 38一, 55一, 十, 57八

(中)豁亦納 qoyi·na (後, 後頭) 同上。—8二, 10五, 26三; 十一三

中豁亦納[→納] qoyi·nu[→na] (後頭) 同上。三26六

中豁亦納察 qoyi·na·ča (後頭自, 後自, 自後, 後行, 後自行, 後処) [qoyina の奪格形] 後から。—35三, 36九; 二5一, 32一, 45五, 47四, 48五; 三38八; 四20二; 五32六; 六1七, 11七, 九, 15九, 49二; 七34九, 36一, 37五, 39四; 九13十; 十10二, 34十, 35十; 十一三7八, 九, 38九

-安 -'ān 十36七

(中)豁亦納察 qoyi·na·ča (後自, 自後, 後処) 同上。—20八; 二3九, 50一; 六2二, 13八; 九16九

中豁亦納黑石 qoyi·na·gšī (望後, 往後) 後へ。七7四, 34八, 35十; 十一2一

-荅 -da 一37七

中豁亦納温 qoyi·na'ūn (後, 縦後, 後行, 自後) 後を。六48十; 九47二; 十18四; 十一37八

中豁亦凶 qoyi·tu (後頭, 後頭的) 北側の, 後ろの。二23七, 24八, 32八

中豁亦秃思 qoyi·tu·s (後頭的毎) [qoyitu の被数形]

中豁亦秃兀刺察 qoyi·tu·'ül·ača (後行) [qoyitu·'ül '北側に一緒にあるもの' の奪格形] 十41一

中管只牙孫 qonjiasun (白腸) 直腸。三45十

中見中豁黑赤兀 qonggo·gči·'ūd (黄色) [qonggo·gči '薄黄色の牝の' の複数形] 三45八

中見中豁児 qonggo·r (黄馬) 黄馬, 栗毛の馬。

-途児 -tur 二28三

中見中豁舌里 qonggo·r·i (甘草黄馬, 黄馬行, 甘草黄馬行) [qonggor の对格形] 二28一, 八, 29四, 38四; 八35七, 36八

中荒失兀 qongši·'ūd (臭気) 臭気。—17三

中忽卜察速 qubča·su (衣服) 衣服。七11九

中忽卜察速你顔 qubča·sun·iyān (服自的行) [qubčasun] の再帰格形] 四39七

中忽卜察孫 qubča·sun (衣服) 衣服。四42七; 九48十; 十一39六

中忽(卜)察孫 qubča·sun (同上) 同上。四42四

中忽(卜)游 qubča·n (同上) [qubčasun の複数形] 四18四

中忽必<sup>①</sup> qubi (分子, 分) 分け前。—15二; 八30三, 31一, 八; 十23一; 十一44五

-阿察 -'āča 九33七, 十

-亦牙舌児 -iyār 八29七

(中)忽必 qubi (分) 同上。九33五

中忽必<sup>②</sup> qubi (黄馬, 淡黄馬) 淡黄色の馬。

-圖 -tu 一35一

-宜 -yi 二29六; 八35八

-因 -yin 一36二

-余安 -yu'ān 一35二

\*中忽必刺- qubi·la- (分) 分ける, 部分にする。

-周 -ju 八30五

-黑撒泥 -gsan-i 八31一

中忽必刺勒都 qubi·la·ldu (同上) ['qubi·la-' の对動形の命令形] 八29八

\*中忽必牙- qubi·yā- (分) 分ける。

-周 -ju 七1三, 4五; 十22八; 十一45一; 十二48五

\*中忽必牙勒都- qubi·yā·ldu- (共分) [qubi·yā- の对動形]

-傷者 -d'je 五17七

-周 -ju 四16四; 十一44四, 45二; 十二8三

-舌命 -run 一14十

-牙 -yā 五19七

\*中忽必牙兀勒- qubi·yā·'ül- (教共分) [qubi·yā- の使役形]

-罷 -ba 八5三

中忽不舌里 quburi (岡, 低山) 丘。—35二, 36九; 二30二; 六9九

\*中忽察- quča- (吠) 吠える。

-(中)灰 -quī 七10一

-梅 -muī 七10七

中忽察勒 quča·l (吠) 吠え。七10七

\*中忽赤<sup>①</sup>- quči- (包裹) 蔽う, 包む; かこむ, めぐる。

-阿速 -'āsu 十一31六, 33七

\*中忽赤- quči- (同上) 同上。

-阿速 -'āsu 十一31七, 33六

\*中忽赤<sup>②</sup>- quči- (咽) 喉に(ものが)つかえる。

-周 -ju 十一26五

\*中忽察阿- quča'ā- (省惜) 節儉する, 儉約する。(<→quči'ā->)

-速 -su 八8一

\*中忽赤阿- quči'ā- (同上) 同上。(<→quča'ā->)

-場中渾 -dqun 八7十

\*中忽赤勒都- quči·ldu- (共繞, 裹, 相回繞) [quči<sup>①</sup>- の对動形]

-罷者 -ba'je 八37一

-周 -ju 一36二

-黑撒楊 -gsad 三21五

\*中忽赤兀勒- quči·'ül- (教繞, 繞) [quči<sup>①</sup>- の使役形]

-周 -ju 八10三

- (中)灰突舌兒 -quj-dur 三17九; 四43三  
 -中灰突舌兒 -quj-dur 八37一
- \* (中)忽赤温勒- quči·'ū(n)l- (繞) [同上]  
 -周 -ju 二48二
- 中忽臣 quči·n (波噎) [quči<sup>2</sup>- '喉につかえる' の同時接合副動詞形] 九9九  
 中忽赤里思 qučilis (裹過) 一回めぐって。-35四  
 \*中忽楊中忽刺- qudqu·la- (攪) かきまぜる。[qudqu の iterative]  
 -中忽 -qu -28一
- 中忽蒼 quda (親家) 夫婦の妻側から見て、夫側の親族。-42八, 43五, 十, 45八, 九, 47二; 二1五
- 中忽蒼勒 qudal (誑) うそ, いつわり。五21四  
 中忽蒼里 qudal·i (誑行) [qudal の対格形] 八30八  
 \*中忽蒼勒都- qudaldu- (買) 買う, 商売する。  
 -周 -ju 六44三
- \*中忽蒼刺- qudala- (聘) 縁組をする。  
 -禿中孩 -tugaj 六52八
- 中忽都(黑) qudug (福神) 福, 吉慶。三13九  
 中忽都舌兒中合 qudurga (鞞) (馬の) しりがいい。八8八  
 中忽都舌兒中合刺兀勒 qudurga·la·'ül (教套) [(馬の) しりがいいをつけるの命令形]。八8八
- 中忽都兀勒 qudu·'ūd (井每) [qudug '井戸' の複数形] 三48九, 55六  
 中忽刺 qula (黃馬) たてがみと尾は薄黒色で他は淡黄色の(馬)。  
 -宜 -yi 四50七  
 -因 -yin 四49四
- 中忽刺楊 qula·d (野馬每, 野馬) [qula の複数形] 七5十; 三1七, 11一  
 中忽刺的 qula·d·i (野馬行) [qula·d の対格形] 三1六  
 \*中忽刺只- qulaji- (驚出) 驚く。  
 -周 -ju 十31七
- 中忽刺勒(→)楊- qulal[→d]- (墜) ころげおちる。  
 -抽 -ču 七43二
- \*中忽刺黑- qulag- (偷) 盗む。  
 -抽 -ču 二15十, 16九
- \*中忽刺中忽- qulag·u- (偷) 盗む。  
 -黑三泥 -gsan-ni 四8七
- 中忽刺黑赤沉 [→泥] qula·gčim[→n·i] [qula·gčim '茸毛の牝馬' の対格形] 二25七  
 中忽刺中孩 qulagai (賊, 盗) 盗人。四8七; 五21四  
 -宜 -yi 八30七
- 中忽蘭 qulan (野馬) 驃馬に似た薄栗毛色の馬。八6八

- 中忽魯中合納 qulu·gana (老鼠) 鼠; (曆の) 子。三47五  
 中忽鷄中合納 qulugana (鼠, 鼠兒) 同上。三18九; 七22五, 45二; 三31九; 三13七, 58五
- 中忽納舌兒 qunar (ナシ) (衣類などを含めて) 外見。三18十  
 中忽中忽 qugu (折) [副詞的動態言。後続する動詞の動作の結果, qugu '折れ・割れ' の状態に到ることを示す。]  
 \*中忽中忽赤- qugu·či- (各折折) 折る (何回も)。  
 -周 -ju -11十
- \*中忽中忽勒- qugu·l- (折, 折折, 折挫) 折る。  
 -周 -ju -10一; 四27十; 十39八, 40十; 三34五
- \*中忽中忽勒蒼- qugu·l·da- (被折折) [qugu·l- の受動形]  
 -周 -ju 四29三  
 -中渾 -qun -14四
- \*中忽中忽魯- qugu·l·u- (折折, 割折) (→qugul-)  
 -楊中渾 -dqun -11九, 12一  
 -舌刺 -ra 五3三
- 中忽中忽魯 qugu·l·un (折折) [qugu·l- の同時接合副動詞形] -12二  
 \*中忽中忽舌刺- qugu·ra- (折) 折れる。  
 -阿速 -'āsu 六23二, 四  
 -周 -ju 四28一; 八44十
- \*中忽中忽(舌)刺- qugu·la- (折) 折る。  
 -周 -ju 三38四
- \*中忽中忽(舌)刺(黑)蒼- qugu·la·gda- (被折) [qugu·ra- の受動形]  
 -周 -ju 二46四
- 中忽中忽舌魯 qugu·ru (折斷, 折了, 折着, 断, 折, 折折) [qugu の多回体] 二13八; 三6七, 13十; 四3三, 10五, 28五
- 中忽中忽思 qugu·s (折) [qugu の一回体] 二46四  
 中忽舌兒察 qurča (鋒利) 巖しい(く), 鋭い(く)。七10八; 三9一, 三  
 -壇 -tan 三18二
- (中)忽兒敦 qurdun (快) 速い。-36二  
 中忽兒敦 qurdun (同上) 同上。二29六  
 中忽舌兒敦 qurdun (快, 疾快, 疾快的) 同上。六48九; 八35八; 九12一; 十2五; 三9一, 二
- (中)古兒敦 qurdun (快) 速い。-35一  
 中忽舌兒都你顏 qurdun·iyān (快馬自的) [qurdun の再帰格形] 三7九, 8四  
 中忽舌兒堆蘭 qurduj·la·n (疾快) [qurduj·la- '速める' の同時接合副動詞形] 三12七  
 中忽舌刺 qura (雨, 雨 [→雨]) 雨。三12四; 八37四, 六; 九12一  
 -蒼 -da 十1七

- \*中忽舌刺- qura- (衆, 聚) 集まる。  
 -阿速 -'āsu ㄊ2三  
 -周 -ju ㄊ39二
- \*中忽舌刺兀勒- qura-'ül- (聚) [qura- の使役形]  
 -周 -ju ㄊ9八
- \*中忽舌刺兀魯- qura-'ül·u- (収) [同上]  
 -阿速 -'āsu ㄊ5二
- 中忽舌刺勒 qura·l (聚会) 集まり。  
 -突舌兒 -dur ㄊ12四
- 中忽舌蘭 quran-guran (七) のろじか。[quran sara は '七月' の意] ㄊ58五
- 中忽舌里 quri (ナン) [官職の名称の一つ(?)] ㄊ15四
- \*中忽舌里- quri- (聚, 聚会) (血縁者が) 集まる。  
 -周 -ju ㄊ18六; ㄊ36八; ㄊ24三; ㄊ33二; ㄊ14一, ㄊ58五  
 -中灰突舌兒 -quj-dur ㄊ33三  
 -中渾 -qun ㄊ33三
- 中忽舌里門 qurim·un (筵会的) [qurim '同族の集まる宴' の属格形] ㄊ17五
- 中忽舌癩中合 quriga (羔兒) 小羊。  
 -班 -bān ㄊ50一
- 中忽舌里中合赤湯 quriga·či·d (放羔兒的每) 小羊飼い達。ㄊ30三, 九
- 中忽舌里牙安 quriyā'an (収拾) [quriyā'a- '収集する' の同時接合副動詞形] ㄊ22九
- \*中忽舌里牙- quriyā- (収, 収拾) 収める, 収集する。  
 -罷 -ba ㄊ43十  
 -周 -ju ㄊ19一; ㄊ36一?, ㄊ43九
- \*(中)古舌里牙黑苔- quriyā·gda- (収来) [quriyā- の受動形 (こゝでの意味は尊敬)]
- \*中忽舌里牙勒都- quriyā·ldu- (共収集, 共収拾) [quriyā- の対動形]  
 -黑三 -gsan ㄊ7四  
 -速 -su ㄊ47五
- 中忽舌里牙勒敦 quriyā·ldu·n (共収集) [quriyā·ldu- の同時接合副動詞形] ㄊ7三
- 中忽舌林 qurim (筵席, 筵会) (同族の集まる) 宴。ㄊ8四, 六, 9四; ㄊ29四, 七,  
 -突兒 -dur ㄊ17五
- \*中忽舌林刺- qurim·la- (做筵会, 筵席, 做筵席) qurim を行なう。  
 -梅 -muǰ ㄊ50六  
 -中灰突舌兒 -quj-dur ㄊ18九; ㄊ29五  
 -舌論 -run ㄊ6八  
 -牙 -yā ㄊ6八; ㄊ29四
- \*中忽(舌)林刺- qurim·la- (筵会) 同上。  
 -恢 [→中灰] 突兒 -küǰ(→-quj)-dur ㄊ31五
- 中忽舌林蘭 qurim·la·n (筵会, 做筵席, 做筵会, 筵席) [qurim·la- の同時接合副動詞

形] ㄊ39三; ㄊ28七; ㄊ48三; ㄊ20一; ㄊ29八

\*中忽舌林刺勒都- qurim·la·ldu- (相筵会) [qurim·la- の対動形]

-周 -ju ㄊ17四

中忽舌鄰勒塔 quri(n)lta (聚会) 血縁者の会合, クリルタイ。ㄊ58五

中忽舌羅中渾 qurog·u·n (勻了) [qorog- の同時接合副動詞形] ㄊ26一

舌忽舌魯阿 quru'ā (寨) <→qorGa> ㄊ57六

中忽舌魯木楊 qurumud (少時) <→qorumud> ㄊ38三

中忽舌魯兀的顔 quru'ū·d·iyān (指頭自的) [quru'ū·d '指 (複数形)' の再帰格形]  
 ㄊ33七, 八

中忽舌魯兀敦 quru'ū·d·un (指每的) [quru'ū·d '指 (複数形)' の属格形] ㄊ32一, 二

\*中忽失兀舌刺- quši'ū·ra- (出尖) 鼻面をつきだす。

-周 -ju ㄊ36二

\*中忽塔黑刺勒都- qutacla·ldu- (ナン) [qutacla- '重なる' の対動形]

-周 -ju ㄊ43三

中忽秃黑 qutuǰ (福神, 神, 福, 吉慶, 慶) 慶福, 吉祥。ㄊ6六; ㄊ40七; ㄊ4一

-台 -tai ㄊ19一

-秃 -tu ㄊ14九, 33五; ㄊ6四

\*中忽兀舌兒答兀勒- qu'ūr·da·'ül- (教彈) [qu'ūr·da- 'ホールをひく' の使役形]

-周 -ju ㄊ7九六

中忽牙黑 quyaǰ (甲, 甲器, 甲每) かぶと。ㄊ7九; ㄊ8四; ㄊ48二

(中)忽牙吉顔 quyaǰ·iyān (甲自的) [quyaǰ の再帰格形] ㄊ8五

中灰[→恢] 亦顔 quǰ[→küǰ]·yiyēn (膺帶自的) [küǰ 'へそ' の再帰格形] ㄊ29九

中聽 qun (天鵝) 白鳥。ㄊ18九



## G

- 中合蒼 gadā (外面, 外前, 在外) 外, 外で。五24九, 49—  
 -宜 -yi 五24二
- 中合蒼納 gada·na (外行) 外の, 外に。三20九; 九46二, 五; 五37六  
 (中)合蒼納 gada·na (外面) 同上。五21三
- 中合蒼納察 gada·na·ča (自外) [gadanaの奪格形] 外から。九13三
- 中合蒼納都思 gada·nadu·s (在外毎, 在外的毎) [gadanadu '外の, 外にいる'の複数形] 九44十, 45二, 四; 五46三, 四, 六
- 中合蒼溫 gada·'ūn (在外, 外面, 経外面) 外を。三47六; 七5九; 五37五, 八
- 中合札兒 gaĵar (地) 所, 場所。一6四; 二42七  
 -秃舌里顏 -tur·iyān 一6—  
 -都舌里顏 -dur·iyān 二26五
- 中合札舌兒 gaĵar (地, 地面, 也 [→地]) 同上。三38十, 44—; 七11六; 九24三, 六;  
 五5七, 12九; 五21五, 22二, 三, 26六, 53七  
 -都舌里顏 -dur·iyān 五17八  
 -途舌兒 -tur 八7二
- 中合札(舌)兒 gaĵar (地) 同上。四49八
- 中合札舌刺 gaĵar·a (地行, 地裏, 地面行, 他 [←地]行) [gaĵarの与位格形] 一3四,  
 5五, 37四; 三9四, 11八, 12八, 22八, 44三; 四38—, 49十; 五14三;  
 六26三, 48七; 七28—, 38二, 七, 八; 八3八, 44七; 九1九, 31五, 34  
 八, 42七; 十16六; 五3—, 45三, 46二, 47二, 52二; 五44七, 47二, 48  
 七, 55五, 九
- 中合札(舌)刺 gaĵar·a (地行) [同上] 三49四
- 中合札舌刺察 gaĵar·ača (地行, 址行, 地処) [gaĵarの奪格形] 四45三, 五; 六10二,  
 17七; 五23三; 五57四
- 中合札舌里牙舌兒 gaĵar·iyār (地面裏, 地行, 地行依着) [gaĵarの造格形] 五14六,  
 15十; 六26五
- 中合札舌里顏 gaĵar·iyān (地自的, 地自的行) [gaĵarの再帰格形] 一6二; 二19四,  
 20四
- 中合札(舌)魯 gaĵaru (地裏) [gaĵarの方向格] 場所へ。二1八
- 中合札舌論 gaĵar·un (地, 地的) [gaĵarの属格形] 五34十; 六25八; 八7八; 五4四
- \*中合林舌兒赤刺- gaĵar·čila- (引路) 道案内をする。  
 -周 -ju 十14三, 六
- 中合勒 gal (火) 火。六14三; 七24九  
 -突舌兒 -dur 八33十  
 -圖兒 -tur 二23七

- 中合里牙舌兒 gal·iyār (教火) [galの造格形] 七23九, 24—
- 中合里顏 gal·iyān (火自的行) [galの再帰格形] 十24—
- 中合勒只舌兒中忽 galĵirgu (被斜人行) 曲った; 斜めの。  
 -蒼 -da 八17四
- 中合勒只舌兒中忽由 galĵircuyū [→galĵirgui-ū] (莫是傍) [galĵirgui '斜めの'の疑問形] 六21八
- 中合勒訥兀楊 gal·nu'ūd (火毎) [galの複数形] 五29十; 六29二; 七23八, 24六, 八
- 中合勒塔牙 galtaya [→i-a] (光有行) 日のあるうちに。九46二
- 中合勒台 gal·tai (火有) 火を持った, 火のある。一46三
- 中合勒壇 gal·tan (火毎, 火有的) [gal·taiの複数形] 七24十, 25四, 26六
- 中合勒秃 gal·tu (火有的, 大 [→火] 有的, 人 [→火] 有的) 火のある。一43二; 二18  
 十, 三23十; 五3九
- 中合鵝兀楊 galaq'ū·d (雁毎) [galaq'ū(n)の複数形] 一17三
- 中合鵝兀敦 galaq'ū·d·un (同上) [galaq'ū·dの属格形] 一19七
- 中合鵝溫 galaq'ūn (雁) 雁。三18三
- 中合黑察 gagča (独) ひとりの, ひとりで。一3四, 11二, 14三<sup>2</sup>; 二29十, 33十, 50  
 八; 三28八; 四39七, 42四; 五14八, 19三, 36五<sup>2</sup>; 六13七, 26七; 八36  
 五; 九31七; 十24三; 五23—, 25—; 五31九  
 -阿兒 -'ār 二32二  
 -阿舌兒 -'ār 七46五; 五34七, 35—, 六  
 -中罕 -qan 二50八; 三18七  
 -壇 -tan 三37九
- 中合楊(→黑)察 gadgča (同上) 同上。一14二
- 中合黑潺蒼 gagčan·da (独次) ただ一度。八37八
- 中合中孩 gaqaj (猪兒) 亥, 豚。五40—; 五13—
- 中合兒 gar (手) 手。一43六  
 -都舌里顏 -dur·iyān 二11四  
 -圖兒 -tur 一43九  
 -秃舌里顏 -tur·iyān 一40八; 二51四
- 中合舌兒 gar (同上) 同上。三2九, 十, 4九; 五41三; 七12—, 14—, 四, 七; 八13  
 一, 七, 九; 九15七, 43九; 十43五; 五8三, 八, 35二, 四; 五3五, 46  
 一, 47二, 55九  
 -都舌里顏 -dur·iyān 八9九; 五11五
- 中合(舌)兒 gar (手) 同上。九14二; 五3二
- 中合舌刺察 gar·ača (手行) [garの奪格形] 五23六<sup>2</sup>
- 中合舌里牙舌兒 gar·iyār (手用) [garの造格形] 四27—
- 中合舌里牙舌里顏 gar·iyār·iyān (教手自的行) [garの再帰造格形] 九14—
- 中合舌里顏 gar·iyān (手自的行) [garの再帰格形] 二51四

中合舌倫 gar·un (手的) [gar の屬格形] 八1九, 38四, 40二; 九28十, 29一; 十14二, 118五, 41六; 113七, 六, 52一, 二

\*中合兒- gar- (出, 上去, 出, 出来, 上, 出去) 出る, 登る。

-罷 -ba 一3八, 8三, 16十, 230九, 44五, 47六

-抽 -čū 二4八, 15六

-周 -ju 二9五

-中忽 -qu 一13四

-(中)灰魯阿 -quj-lu'a 二16三

-速 -su 二15一, 十

-速中孩 -sugaḡ 二30六

-也 [→巴] 速 -ye[→bā]su 二16二

\*中合舌兒- gar- (上, 上去, 出, 出去, 纔出, 直上) 同上。

-罷 -ba 七42五, 六, 七, 45五; 113一

-抽 -čū 四9四, 27六; 五10一; 六4七, 12八, 14八, 23十, 24七, 26二, 四, 40四, 45一; 七5四, 42二, 43八; 八12三; 九12八, 13三, 五, 46三, 47六; 十16六, 38三, 39四, 七; 113六, 15七, 37五; 1124十, 35五

-出兀 -čū'ü 五44五; 十43二

-中忽 -qu 117八

-中忽宜 -qu-yi 十5六; 1138六

-中忽魯阿 -qu-lu'a 十40八

-(中)灰 -quj 六21七

-中渾 -qun 九47六

-塔刺 -tala 1126一

-禿中孩 -tugaḡ 十6九; 1140二

\*中合(舌)兒- gar- (出) 同上。

-抽 -čū 八32三

\*中合兒中合- gar·ga- (逐出) [gar- の他動詞形]

-周 -ju 一26五

\*中合舌兒中合- gar·ga- (出去, 出, 望, 教出, 教出去) [同上]

-阿速 -'äsu 114十; 1148七, 52六, 八

-周 -ju 五2八; 六2六; 九36二; 十29六; 115十, 6四, 六, 8四, 9六; 1120三, 47五, 九, 十, 49四, 52七

-主兀 -ju'ü 1144五

-中渾 -qun 十7一

-牙 -ya 三12六; 1118五

中合舌兒中罕 gar·ga·n (教出) [gar·ga- の同時接合副動詞形] 八20三, 22六, 八

\*中合舌兒中合黑蒼- gar·ga·gda- (被出) [gar·ga- の受動詞形]

-梅 -muḡ 十7三

-速 -su 六34一

\*中合舌兒中合兀勒- gar·ga·'ül- (教出) [gar·ga- の使役形]

-罷 -ba 1153四, 六

-周 -ju 1153五, 七, 55六

\*中合舌兒蒼①- garda- (被勝) [gar- の受身形] 出られる, 勝たれる。

-阿速 -'äsu 1123二

\*中合舌兒蒼②- gar·da- (下手) 手にかける, 手にする。(<→garta->)

-罷 -ba 五2十<sup>2</sup>

-周 -ju 五5七, 八, 41三; 八12八; 1110七, 八

-黑撒楊 -gsad 五6一, 7七

-黑三 -gsan 八14二

\*中合(舌)兒蒼- gar·da- (同上) 同上。

-周 -ju 五7六

\*中合舌兒塔 gar·ta- (同上) 同上。

-周 -ju 八45六; 九28二, 四

\*中合(舌)兒塔- gar·ta- (同上) 同上。

-黑撒(楊) -gsa(d) 九28四

\*中合舌魯- gar·u- (出, 上, 上去, 出来, 出去) (<→gar->)

-阿楊 -'äd 三20八

-阿速 -'äsu 五19八, 36三<sup>2</sup>; 七26十; 八6十; 十6九, 19一; 1140一

-黑撒阿舌兒 -gsa'är 八2五

-黑撒楊 -gsad 八3五

-黑撒的 -gsad-i 1116七

-黑撒泥 -gsan-i 六51三; 八2二; 十30六, 七

-黑撒訥 gsan-u 1113二

-黑三 -gsan 六12八, 17一; 七23十, 28一

-黑三突舌兒 -gsan-dur 二1九

-刺阿 -la'a 二50六, 十; 1125二

-魯阿 -lu'a 四43四

-舌倫 -run 一13三; 二11四; 三18二; 六24五; 十39五; 1114十

-兀澤 -ūjaj 七16九

-牙 -yā 七39十; 十40八

\*中合舌魯勅察- gar·u·lča- (共出) [gar- の相動詞形]

-周 -ju 九13十

中合舌倫 gar·u·n (出) [gar- の同時接合副動詞形] 六47十; 七20八

中合失兀 gaši'ü (苦) 苦しみ。二8五

中合失温 gaši'ü·n (同上) 同上。二9九, 12五

中合塔舌兒 gatar (ナシ) 外形, 外見。三18四

## 524 元朝秘史蒙古語辞典

- \*中罕土[→主]中合刺- gantu[→ju]ga·la- (馬上捎) ガンヂュガ(馬の鞍についている皮条)につける。  
-周 -ju ㄊ25六
- 中豁阿 go'a (美) 美しい。-4九, 44七; ㄋ38七, 43四; ㄋ36五; ㄋ48三; ㄊ24三  
-黒臣 -gč'in ㄋ38一  
-思 -s ㄋ39十  
-思壇 -s-tan ㄋ21一
- 中豁多黎 godoli (秃) ちびた(尾について)。-15七
- 中豁多里 godoli (驢頭) かぶら。ㄋ26九
- \*中豁多里惕- godolid- (教驢頭射) 鎗矢を射る。  
-中忽 -qu ㄋ21四
- \*中豁多里都- godolid·u- (驢頭射) 同上。  
-黒撒泥 -gsan-i ㄋ9三
- 中豁都 godu (蹄皮) (動物の) 脛皮。ㄋ36十
- 中豁敦 godun (同上) 同上。ㄋ23九
- 中豁勒 gol (脊梁) 背筋。-15七
- 中豁勒 gol (中軍, 中, 在內, 潤) 中心, 本隊。ㄋ4五; ㄋ32五; ㄋ40二; ㄊ2三; ㄊ13九  
-突舌兒 -dur ㄋ30二, 八; ㄋ24三, 32九; ㄋ43七
- (中) 豁勒 gol (中軍) 同上。ㄋ5十
- 中豁刺察 gol·ača (在內処) [golの奪格形] ㄊ16七
- 中豁命 gol·un (在內) [golの屬格形] ㄊ14八, 15三, 52三
- 中火炉木塔 golumta (火盤) 炉。ㄋ10三
- 中豁魯[木]塔 golumta (同上) 同上。ㄋ39一
- 中豁魯木塔 golumta (同上) 同上。ㄋ40六
- \*中豁幹只- go'ōji- (退翮) 流れ出る。  
-主兀 -ju'ū ㄋ13六
- 中豁中豁孫 goGosun (韭菜) 韭。ㄋ6七
- 中豁舌兒吉 gorgi (疆兒) 鉄輪, 金輪。  
-荅察 -dača ㄋ12七
- 中豁舌滸中合訥 gorqa·n·u (小河的) [Goroqan '小河'の屬格形] ㄋ21一
- 中豁舌兒中豁納 gorqo·n·a (小行) [Goroqan(=Goroqan)の与位格形] ㄋ10五
- 中豁舌兒中豁訥 gorqo·n·u (小河的) [Goroqan(=Goroqan)の屬格形] ㄋ10九
- 中豁舌羅中合納 goroqa·n·a (河行, 小行) [Goroqanの与位格形] ㄋ21七; ㄋ35七, 37六
- 中豁舌羅中合納察 goroqa·n·ača (小河自) [Goroqanの奪格形] ㄋ38九
- 中豁舌羅中合訥 goroqa·n·u (小河的, 溪的) [Goroqanの屬格形] ㄋ27三; ㄋ41五, 42一, 三; ㄋ40四

- 中豁(舌)羅中合訥 goroqan·u (河的) [同上] ㄋ20九
- 中豁舌羅中罕 goroqan (小河) 溪流。-3九, 17六, 20三; ㄋ26六, 44七  
-訥 -nu ㄋ26七
- (中) 豁舌羅中罕 goroqan (同上) 同上。-18八
- \*中忽ト赤- gubči- (斂, 打, 收拾, 科斂) 徵収する。  
-周 -ju ㄋ12二, 14九; ㄋ27四; ㄋ7六; ㄋ93三, 33四, 七, 八, 34一; ㄊ9十
- \*中忽ト赤黒荅- gubči·gda- (可科斂) [gubči-の受動形]  
-中灰 -quī ㄋ47八
- 中忽ト赤舌里 gubči·ri (科斂) 家畜による現物人頭税。ㄋ12二, 14九; ㄋ27四
- 中忽ト赤兀舌兒 gubči·ūr (拖網) 漁網。ㄋ7五
- 中忽臣 guč'in (三十) 三十。ㄋ40一; ㄋ25三; ㄋ42六; ㄋ21二, 十
- 中忽噀 guč'in (三十箇, 三十) 同上。ㄋ41三, 六; ㄋ44六
- 中忽都速 gudu·su (靴子) モンゴル靴。  
-秃 -tu ㄋ23九
- 中忽都孫 gudu·sun (靴) 同上。ㄋ39六
- \*中忽只兒- gujir- (毒) 害する。  
-周 -ju ㄋ48二
- \*中忽刺都- guladu- (倒) ころげおちる。  
-阿魯 -'ād ㄋ43九
- 中忽納真 guna·jin (三歳) 三歳の牝家畜。ㄋ37八
- 中忽難 gun·an (同上) 三歳の牡家畜。-41八
- 中忽納 gun·a (崖行) [Gun '峡谷'の与位格形] ㄋ11九
- 中忽訥 gun·u (崖的) [Gun '峡谷'の屬格形] ㄋ43七
- 中忽舌兒巴納 gurba·n·a (三箇人) [Gurbanの与位格形] ㄋ12四
- 中忽舌兒巴納察 gurba·n·ača (三箇行) [Gurbanの奪格形] ㄋ16四
- 中忽兒巴泥 gurba·n·i (同上) [Gurbanの対格形] ㄋ49十
- 中忽舌兒巴泥 gurba·n·i (同上) [同上] ㄋ42三, 三; ㄋ25三; ㄋ12七, 15三, 四, 19二
- (中) 忽舌兒巴泥 gurba·n·i (同上) [同上] ㄋ25九
- 中忽兒把泥 gurba·n·i (同上) [同上] ㄋ13九
- 中忽舌兒巴訥 gurba·n·u (三箇的) [Gurbanの屬格形] ㄋ24九
- 中忽兒巴兀刺 gurba·'ūla (三箇) 三人で。-35三, 36一, 九
- 中忽舌兒巴兀刺 gurba·'ūla (同上) 同上。ㄋ6二; ㄋ44二
- 中忽兒班 gurba·n (三, 三箇) 三。-3四, 10五, 11二, 三, 12七, 29三, 31九, 35五, 48三; ㄋ15一, 六, 九, 28九, 30二, 33四<sup>2</sup>, 35六<sup>2</sup>, 39三, 48六, 七, 49四, 50一
- 中忽舌兒班 gurba·n (三, 三箇, 三件, 三疋) 同上。ㄋ1二, 四, 3八, 4一, 11五, 八, 12八, 17五, 六, 21五, 24七, 45三; ㄋ3九<sup>2</sup>, 4四, 21十, 43二,

八; 五11三, 13九, 18五; 六11三, 18六, 七, 37四, 44十, 51一, 五, 六;  
七21四<sup>2</sup>, 五, 37七, 八, 九, 46七<sup>2</sup>; 八10二, 19六, 26七, 35二, 十, 36  
十, 41七; 九8二, 14九, 32十, 33十, 41九, 42二; 十18一, 24一, 27九,  
37五, 38三, 39六; 十一12二, 38九, 41六, 42一, 44三, 五, 七<sup>2</sup>, 九, 45十  
46六, 47九; 十二4二

-荅 -da 四43三

-古 -gu[->kü] 四4五

-魯阿 -lu'ā 十一2十

-泥 -ni 三46六, 47一

-塔 -ta 三17九; 四40七; 八10三, 37一; 九42五

-塔 -ta 二48二

(中)忽兒班 gurban (三) 同上。

-塔 -ta 一40二

中忽(舌)兒班 gu(r)ban (三) 同上。

中忽舌蘭勒秃黑 gura(n)ltug (麋子) のろ鹿。三26三

中忽塔阿舌兒 guta'ār (第三) 第三の。<->guta'ār 十一10三, 44十<sup>2</sup>

-塔 -ta 十一44五

中忽塔阿(舌)兒 guta'ār (同上) 同上。九42八<sup>2</sup>

中忽秃阿兒 gutu'ār (同上) 同上。<->guta'ār 二24五

中忽秃阿舌兒 gutu'ār (同上) 同上。四12九; 六51二; 十43一

中忽牙 guya (腿, 大腿, 腿子, 後脚) 腿; 家畜の後脚。一9十, 35二, 36三; 三43八;  
六30十, 36九

中忽揚 guyang (臀) 家畜の後脚。六49三

\*中忽亦- guyi- (索) のぞむ, 求める。<->guyu->

-阿速 -'āsu 五38十

-楊中渾 -dqun 九25六

-中渾 -qun 九25三

-舌刺 -ra 十33六, 34四, 35八

-舌命 -run 五38八

\*中忽余- guyu- (同上) 同上。<->guyi->

-阿速 -'āsu 一18二; 五46四

-巴速 -bāsu 一46六

-周 -ju 一6七; 五33八; 六25十; 十一3八, 21十

-[你] -n 五45二

-舌刺 -ra 十35六

-速 -su 一42三, 十

-牙 -yā 一4五

\*中忽余温勒- guyu-'ū(n)l- (同上) [guyu- の使役形]

-周 -ju 一46六, 七

中崑 gun (崖) 山峽。

-途兒 -tur 一16七

中崑 gun (崖, 山崖) 同上。

-訥 -nu 三28六; 六36九; 七31六, 32九, 42十

## S

- \*撒阿- sa'ā- (擠) 乳をしぼる。  
-阿湯 -'ād ㄣ47九  
-周 -ju 五14七; 六26六
- 撒安 sa'ā·n (同上) [sa'ā- の同時接合副動詞形] 二29一; 四40一; 八35五
- \*撒阿勳都- sa'ā·ldu- (共擠) [sa'ā- の対動形]  
-周 -ju 五11六
- \*撒阿兀勳- sa'ā·'ül- (教擠) [sa'ā- の使役形]  
-中渾 -qun 七12二
- \*撒阿舌刺- sa'āra- (疑, 不疑式) ためらう。  
-梅 -muḷ 五26五  
-中忽 -qu 二12二
- 撒阿舌刺 sa'āra (疑) [sa'āra- の命令形] 四11二
- \*撒阿舌刺黒蒼- sa'āra·gda- (疑惑) [sa'āra- の受動形]  
-中忽 -qu 八42五
- 撒阿舌里 sa'āri (腎) 尻。四27六
- 撒阿鄰 sa'ālin (擠的) 乳搾り(牛, 馬)。ㄣ54一
- 撒阿《舌》鄰臣塔泥 sa'ālin·čin·tan·i (擠馬每的行) [sa'ālin·čin·tan '乳搾り人達' の対格形] ㄣ47九
- 撒巴 saba (皿) 器。七2八; 九46四; 十4九; ㄣ9九, 11六, 39八  
-都舌里顔 -dur·iyān 九46八
- 撒察 sača (一般, 齊等) 等しい。七29二; ㄣ29九
- \*撒察- sača- (搶[→噲]) むせる。  
-阿速 -'āsu 五43八
- 撒察兀 sača'ū (一般, 同共, 齊, 齊等) 等しい。六40一; 八31八; 九11七; ㄣ8三
- 撒察温 sača'ū·n (一般毎, 齊毎, 同等毎, 同等, 齊等) [sača'ū の複数形] 一21八;  
九11五, 43四, 八, 45四; ㄣ26七, 八; ㄣ29十, 45六
- \*撒出- saču- (祭祀, 祭) 神々を祭り, 祈りを捧げるために酒を天と地にふりかけ, 撒きちらす。  
-阿湯 -'ād 七22三  
-罷 -ba 三7三, 8三
- 撒純 saču·n (揚着) [saču- の同時接合副動詞形] 三38六<sup>2</sup>
- 撒出里 saču·li (灑奠) saču- する行為およびその際にふり撒く酒。二51五
- 撒黒刺舌兒 saqlar (鬃鬃) 生い茂った。〈→saqlagar〉 八39六
- 撒黒刺《中》合兒 saqlagar (蓬鬆) 〈→saqlar〉 一39五
- 撒黒刺中合舌兒 saqlagar (同上) [同上] 三28六

撒勳 sal (筏子) 筏。三6四, 13七

\*撒勳- sal- (分) 分れる。

-中忽 -qu ㄣ30三

\*撒勳中合- sal·ga- (同上) 分ける。[sal- の他動詞形]

-牙 -ya ㄣ30四

\*撒勳中合勳都- sal·ga·ldu- (教分) [sal·ga- の対動形]

-牙 -ya ㄣ30十

\*撒魯勳察- sal·u·lča- (分離) [sal- の相動形]

-中灰 -quḷ ㄣ29三

撒卯兀 samaḷ'ū (乱) 混乱。

-突舌兒 -dur 七47七

\*撒卯兀舌刺- samaḷ'ū·ra- (乱, 作乱) 混乱する。

-中忽 -qu 七46七, 47五

撒卯危 samaḷ'ūḷ (乱) 混乱(せる)。〈→samaḷ'ū〉 七46五

-突舌兒 -dur 七24三

撒中合勳 saqal (髻) 髻。八28七, 十

-壇 -tan ㄣ29一

撒中合勳伯顔 saqal baiyan (猪鬃草) 莎草バヤン。三6三

\*撒乞- saqi- (守) 守る。

-周 -ju 二14五, 16四; 四22八; 十7七

-梅 -muḷ 十7四

-中忽 -qu 十19二

撒勳 saqi·n (同上) [saqi- の同時接合副動詞形] ㄣ14四

撒乞勳都- saqi·ldu- (相守) [saqi- の対動形]

-周 -ju 四39二

\*撒乞兀勳- saqi·'ül- (教守) [saqi- の使役形]

-秃中孩 -tuḡaj ㄣ48四

撒乞兀《舌》魯- saqi·'ül·u- (同上) [同上]

-阿速 -'āsu 十43一

\*撒乞兀魯- saqi·'ül·u- (同上) [同上]

-牙 -yā ㄣ48三

撒中忽湯 saqud (些) 少し, いくらか。ㄣ48八

撒舌兒中忽蒼察 sarqud·ača (胙) [sarqud '祭時に供した飲食類の余餐' の奪格形] 二  
2二

撒舌刺 sara (月) 月。一43六; 七11五<sup>2</sup>; 九20三

-蒼 -da ㄣ58五

-突舌兒 -dur 八34四

-宜 -yi 一43七

-因 -yin 一13三; 二17二; 三29四; 六28四; 七22二

撒舌刺兀舌兒 sara'ūr (月明) 月あかり。三15九

撒舌刺兀舌刺 sara'ūr·a (月明裏) [sara'ūr の与位格形] 二18七

\*撒塔- sata- (論, 議論) 施す。

-周 -ju 八34四; 九20四

\*撒兀- sa'ū- (生, 坐, 住坐, 纒坐, 全具) すわる; 住む。

-罷 -ba 一15十; 五19六, 七

-畢 -bi 五23十

-毳(中)坤 -dqun 九10四

-黑撒阿舌兒 -gsa'ār 七2八

-黑撒納 -gsan-a 九9六

-黑三 -gsan 四40十; 五23九; 十3八

-周 -ju 二6十, 7七, 七, 10四, 47三; 四9四, 39二; 五2七, 24九, 十, 39三, 49一<sup>2</sup>, 50六; 七3九; 八38三, 39十, 47一; 九13二, 八, 46六; 十29六, 36二; 五24五, 26十, 40十, 41五, 七, 47三, 54十

-中忽牙 -quya[→qui-a] 一23四

-(中)灰 -qui 六21六

-中灰突舌兒 -qui-dur 十7八, 20二

-中灰魯阿 -qui-lu'ā 十38六

-舌翁 -run 九10二

-塔刺 -tala 四40九; 六49三

-秃中孩 -tugaj 七21三; 九10四; 48三; 五28三, 39七

撒兀 sa'ū (坐) [sa'ū- の命令形] 二9七; 九13一

撒温 sa'ū·n (同上) [sa'ū- の同時接合副動詞形] 九16八; 五23八

\*撒兀黑苔- sa'ū·gda- (可坐) [sa'ū- の受動形]

-中忽 -qu 七15八, 16十

\*撒兀勒- sa'ūl- (坐, 教坐) [sa'ū- の使役形]

-罷 -ba 四47二; 五24二; 五53五

-周 -ju 五23十; 八34四; 九20三

\*撒兀魯- sa'ūl·u- (教坐) [同上]

-摸 -mu 一44十

\*撒温(動)- sa'ū(n)l- (坐) [同上]

-周 -ju 一11九

\*撒温勒- sa'ū(n)l- (教坐) [同上]

-(中)灰 qui 一45三

\*撒兀勒苔- sa'ūl·da- (同上) [sa'ūl- の受動形]

-周 -ju 五56一

撒兀魯中合 sa'ūluga (皮斗, 皮桶) 皮桶。

-班 -bān 二29七; 八35六

撒兀舌里 sa'ū·ri (坐位, 坐次, 坐) 座席; 宿場 八34三, 38三, 39十; 九10二, 20三, 48三

-毳 -d 五49四

撒兀舌里敦 sa'ū·ri·d·un (坐的) [sa'ū·ri·d(sa'ūrin の複数形) の属格形] 五53七

撒兀舌里訥 sa'ū·ri·n·u (坐位的) [sa'ū·ri·n の属格形] 五39六

撒兀舌鄰 sa'ū·ri·n (坐位, 坐次, 坐, 位子, 位) 座席。四33五, 七; 九10五; 五39一, 53七, 九

-突舌兒 -dur 五53九

-都舌里顏 -dur-iyān 五23九; 七21三; 九46八

-圖兒 -tur 一44九, 45三

撒兀舌数[→舌鄰] sa'ū·šu[→ri·n] (坐位) 同上。四33八

撒亦 sayi (好, 好好, 好生) よい(こと), よく。一43九; 三4七; 九12九, 十; 五27一

-巴舌兒 -bār 五9六

-毳 -d 一45一; 二6八<sup>2</sup>; 三39十; 五6一, 8三, 五

-的 -d-i 九32五; 五9八

-泥 -n-i 六23一; 九23七

-中合秃舌兒 -qa-tur 四1十

-壇 -tan 七19三

-秃 -tu 一6四; 四17六; 十16六

-秃舌兒 -tur 八22九; 十3十; 五13八

-途舌兒 -tur 六37二

撒亦 sayi (恰纒, 纒, 恰) はじめて, やっと。四9八; 八34一; 五46七<sup>2</sup>

撒兀 sayi (纒) 同上。十16六

賽亦 saiyi (恰纒) <→sayi> 五22九

撒因 sayi·n (好, 好的) よい, よく。一4四, 九, 6四, 20九, 21八, 44二; 二4六, 33七, 八, 34十; 三43三, 四; 四17六; 五23一, 25六, 34六; 六21二, 36六; 七16二, 47九, 48四; 八41五<sup>2</sup>; 十24三, 五, 七; 五20二, 33八; 五28八<sup>2</sup>, 52七

\*三把- samba- (抽) 番える。

-周 -ju 二9八

\*毳失- samši- (磨耗) 痛手を受ける, 消耗する。

-主兀 -ju'ū 五20五, 九

\*毳失牙- samši·ya- (同上) [samši- の使役形]

-罷 -ba 五21二

\*散都舌兒- sandur- (温散) 狼狽する, あわてる。

-抽 -ču 三16五

薛撒毳 seče·d (聰明每) [sečen の複数形] 二6四

- 薛禅 sečen (聡明) 賢い。八19四  
 \*薛赤- seči- (戳) つき刺す。  
 -周 -jü 四1五  
 \*薛惕乞- sedki- (想) 思う。考える。  
 -罷 -ba[→be] 二10三; 二20九  
 -罷者 -ba[→be]-je 八28八  
 -惕坤 -dkün 八9七  
 -額速 -'esü 五41七, 42十, 44三; 六33十; 二18八  
 -克薛你顔 -gsen-iyän[→iyän] 九19七, 25五; 十26一  
 -克失突舌兒 -gsen-dür 九1五  
 -古 -gü[→kü] 五16一; 八19一  
 -古宜 -gü[→kü]-yi 八21四  
 -周 -jü 二21八; 三4八, 49六; 四1八, 42九, 十, 47九; 五25一, 26三, 38八, 39一, 四; 六26十; 八7八, 8三, 10十, 34一, 三, 36八, 39九, 44四, 46五, 九, 47一; 九23七, 八, 25一; 十3五, 24八; 二27一, 33三; 三34八, 49七  
 -主兀 -jü'ü 二17三  
 -主為 -jü'ü 九28八  
 -坤 -kün 十43十  
 -木 -mü 八14六  
 薛惕勤 sedki·n (同上) [sedki- の同時接合副動詞形] 五42八; 六30六  
 薛惕乞勤 sedkil (心) 心。三48八; 四1八, 九, 42一, 九, 43九; 五4五, 7八, 46七; 六40七; 七10九, 48六; 八18八; 九9十; 二5六  
 -突舌兒 -dür 三48四; 十31六  
 -突(舌)兒 -dür 八41二  
 -田 -ten 十1九  
 -秃 -tü 八17十; 二27三  
 薛惕乞里顔 sedkil-iyän[→yän] (心自的) [sedkil の再帰格形] 六40五; 九2四, 25二; 二46九  
 薛惕乞命 sedkil·ün (心的) [sedkil の属格形] 八36六  
 \*薛額只格列- se'ējige·le- (掛) 小筐のように掛ける。  
 -周 -jü 二51四  
 薛古兀命 segü·'ül·ü·n (巻退, 教抽起) [segü- 'たくしあげる' の使役・同時接合副動詞形] 七27二, 五  
 薛勤帖 selte (連, 帶) ~など; ~と共に。五13十, 15九, 27七, 32七; 六31二; 九49一; 十43二, 七; 二11六, 39六  
 撒[→薛]勤帖 sa[→se]lte (連) 同上。七2九  
 撒[→薛]勤帖 sa[→se]lte (帶) 同上。四11四

- 薛米耶兒 sem·iyēr (嚙声的) [sem 'しずかに; ひそかに' の造格形] 二11八  
 薛米耶舌兒 sem·iyēr (同上) 同上。  
 \*薛舌兒古- sergü- (醒, 省) めざめる。  
 -周 -jü 四39十  
 -帖列 -tele 三24六  
 \*薛舌兒古額- sergü·'ē- (消解) [sergü- の使役形]  
 -周 -jü 六40四  
 薛舌兒古兀命 sergü·'ül·ü·n (呼醒) [sergü- の使役・同時接合副動詞形] 二2三  
 薛舌兒客昔 serkes·i (羯股癩) [serke '雄の三才以上の山羊' の複数形] 二52五  
 \*薛舌列- sere- (疑) 疑う。  
 -恢 -kü 一12九  
 \*薛舌列克迭- sere·gde- (被覚) [sere- の受動形]  
 -罷 -ba[→be] 五47三  
 薛舌列勤敦 sere·ldü·n (疑的) [sere- の対動・同時接合副動詞形] 一12八  
 \*薛舌列兀勤- sere·'ül- (提省, 教省) [sere- の使役形]  
 -周 -jü 七14九; 八15五  
 薛舌列勤田 serelten (可防的) 注意すべき。六3七  
 \*薛舌里兀都- seri·'ü·d·ü- (凉了) 涼む。  
 -額速 -'esü 三2七  
 \*薛舌里兀勤- seri·'ül- (喚省) [seri-<→sere-> の使役形]  
 -周 -jü 三32六; 三23六  
 -古 -gü[→kü] 三23八  
 \*薛舌里兀魯- seri·'ül·ü- (喚教覚) [同上]  
 -惕坤 -dkün 二43二  
 \*薛舌里兀魯勤扯- seri·'ül·ü·lče- (共覚省) [seri·'ül- の相動形]  
 -周 -jü 八14八  
 薛兀迭兒 se'üder (影) 影。  
 -秃舌里顔 -tür-iyän[→yän] 二11七  
 薛兀迭舌兒 se'üder (影兒) 同上。三48八  
 -途舌兒 -tür 四9三  
 薛兀迭(舌)兒 se'üder (同上) 同上。九11七  
 薛兀迭舌列扯 se'üder·eče (除影兒) [se'üder の奪格形] 三48七  
 薛兀迭舌列徹 se'üder·eče (影外) [同上] 二8四, 10二, 12三  
 薛兀勤 se'ül (尾子, 尾) 尾。<→se'ü(n)l> 三48十; 六41十; 三30四  
 -突舌兒 -dür 四5二  
 薛兀列扯 se'ül·eče (尾子処) [se'ül の奪格形] 三48十  
 薛兀列徹 se'ül·eče (尾外) [同上] 二10二, 12四  
 薛兀薛 se'üse (小厮) 小使。三25十

- 昔 -s-i ㄊ26二  
 薛温勒 se'ü(n)l (尾)尾。〈→se'ül〉  
 -秃 -tü -15七, 16四  
 薛温(勒) se'ü(n)[l] (同上) 同上。  
 -額徹 -eče 二8四  
 擗 sem (禁声, 噤) 静かに, 黙って。-38三; ㄊ23八  
 襄格舌連 senggere·n (来) [senggere- '注意を向ける' の同時接合副動詞形] 四9二  
 \*僧帖勒- sengtel- (開裕) 掘り開ける, 切り開く。  
 -罷 -ba[→be] 四43五  
 \*僧帖舌列- sengtere- (同上) 掘り開かれる, 切り開かれる。  
 -周 -jü 五4五  
 \*噓兀舌列勒- seü'ürel- (嘆息) 溜息をつく。  
 -畢 -bi 五25一  
 石阿 šī'ā (碑石) くるぶしの骨の遊び道具。三26三, 四  
 失阿 šī'ā (同上) 同上。  
 -因 -yin -40八  
 \*石阿勒札- šī'ā·lǎ- (打碑石) šī'ā を投げる。  
 -中灰突兒 -quǐ-dur 三26五  
 失把 šiba (乱箭) 乱れ飛び来る矢。  
 -因 -yin 八2九  
 失巴兒 šibar (泥) 泥。二48三  
 失鴞兀 šibaü'ü (鷹) 鷹; 鳥 〈→šibaü'ün〉  
 -班 -bān ㄊ8四  
 失保兀中合泥 šibaü'üqa·n·i (雀兒行) [šibaü'üqai '鶻' の複数・対格形] 二23四  
 \*失鴞兀刺- šibaü'ü·la- (放鷹) 鷹を放って獲物をとる。  
 -中忽 -qu 七10九  
 -中灰 -quǐ ㄊ40二  
 \*釋鴞兀刺- šibaü'ü·la- (同上) 同上。  
 -中灰 -quǐ 十5十  
 釋鴞兀關 šibaü'ü·la·n (同上) [šibaü'ü·la- の同時接合副動詞形] -34四; 十7四  
 釋鴞兀刺勒敦 šibaü'ü·la·ldu·n (共放鷹) [šibaü'ü·la- の対動・同時接合副動詞形] 十6一  
 失鴞温 šibaü'ün (鳥, 鷹) 鷹; 鳥。〈→失鴞兀〉 三18八; 七36二, 八; ㄊ9七, 46六  
 失別額 šibe'e (藩籬) 防柵, 標垣。二13八  
 \*失別額列- šibe'e·le- (藩籬把) 防柵をつくる。  
 -周 -jü 二26四  
 \*失別舌里- šiberi- (長進) 滴る, 流れ出る。  
 主兀 -jü'ü 二13六

- 失必勒格舌兒 šibilger (練椎) (一種の) 弁髪。〈→šibülger〉 九14一, 15六  
 石不格 šibüge (錐子) 錐。七33九  
 -迭 -de 七36六  
 失不勒格舌里顏 šibülger·iyān[→yēn] (練椎自的) [šibülger〈→šibilger〉 の再帰格形] -37五  
 \*拭察班勒札- šičaba(n)lǎ- (爬) 這う。  
 -周 -jü -13四  
 失坤勒 šidkü(n)·l (一見公姑の礼) 引出物。二39一  
 失都 šidü (牙) 齒。  
 -辺 -bēn 二19七  
 失都舌兒中忽中合- šidurgu·d·qa- (教直了) 征定する。真直ぐにする。  
 -周 -jü 八24二; 九31六  
 \*失額- šī'e- (尿) 放尿する。  
 -恢 -küj 七28一  
 失額克 šī'e·g (尿壺) おむつ; 渡瓶  
 -帖額徹 -te[ī]-eče 八28九  
 失吉顏 šigi·yān (牙縫中肉) 齒の間にはさまった肉。ㄊ25十  
 失吉中忽舌魯兀訥安 šigi quru'ün·u·'ān[šigi quru'ün '小指' の再帰・属格形] 六34二  
 失(中)灰 šiguǐ (密) 森。二48五  
 石(中)灰 šiguǐ (密, 密林) 同上。二13七, 15一; 三21二  
 -都兒 -dur 二14四, 五  
 -因 -yin 二15七  
 失勒 šil (模様, 状貌) 容貌, 姿形。七19三; 九32五  
 失勒古惕刊 šilgüd·ke·n (教額) [šilgüd·ke- 'ふるわす' の同時接合副動詞形] 十1七  
 失勒只舌鄰 šiljiri·n (移動) [šiljiri- '移動する' の同時接合副動詞形] 十1七  
 \*失勒塔- šilta- (推辞) 口実をつくる。  
 -周 -jü 五46九  
 \*申勒塔黑答- šī(n)lta·gda- (同上) [šilta- の受動形]  
 -中忽 -qu 七15七  
 申勒塔阿 šī(n)lta'ā (緣故) 原因; 理由。ㄊ44四  
 申勒塔阿你牙舌兒 šī(n)lta'ā·n·iyār (緣故裏) [šilta'ān の造格形] 七1九  
 申勒塔安 šī(n)lta'ā·n (緣故) 同上。八21七, 八  
 申勒塔吉牙舌兒 šī(n)lta·g·iyār (緣故裏) [šiltag の造格形] 八45二  
 失勒帖速 šiltesü (編了壁子) 柞木 [ははそ——くぬぎ, なら類の木の総称]  
 -台 -tai[→tei] 十1八  
 失列古 šilegü (二歳) 二歳の(羊)。三45六; ㄊ47四, 52五, 53三  
 \*失列篋勒扯- šilemelče- (垂涎) よだれを垂らす。〈→失列篋勒攪〉  
 -周 -jü 七36二



失列蔑勒穩 šilemelje·n (同上) [šilemelje-(=šilemelče-) の同時接合副動詞形] 七  
34四, 36九

失《舌》里 šili (家活) 俊秀 (な)。  
-透址 -deče 三43十

失里兀牙 šili'ūya[→j·a] (善行) まっすぐに。三31七

失里温 šili'ū·n (清俊) 選りすぐりの。七11十

識理温 šili'ū·n (君子) 忠実な。五31一

失魯格機 šilüge·d (誕取不的) よだれを垂らした者。二13六

\*失魯舌兒帖- šilürte- (被傷) 傷つけられる。  
-周 -jü 四38八

失魯速你顔 šilüsü·n·iyān[→yēn] (誕自的行) [šilüsün の再帰格形] 土25九

\*失馬里中合黑苔- šimaliqa·gda- (被挽) [šimaliqa- 'まき上げる' の受動形]  
-舌倫 -run 十40七

\*食米- šimi- (啞) 吸う。  
-周 -ju 六14一; 九16七

食民 šimi·n (啞着) [šim- の同時接合副動詞形] 四39一<sup>2</sup>, 40十, 41一; 九16十<sup>2</sup>

\*食民- šimi(n)- (啞) (→šimi-)  
-周 -ju 四43五

濕納阿 šina'a (洲) 三角洲。  
-因 -yin 四31五

失納中合 šinaga (杓) 杓子。土35九

失你 šini (新) 新しい。土1三

\*失中合- šiqā- (靠, 擠) 撞る, しめつける; 近づく。  
-周 -ju 三43七, 八; 六36八, 九, 37一  
-中忽 -qu 二11十

失中罕 šiqā·n (挨, 倚, 靠) 同上。三30一, 二, 七; 四19七; 七16五; 土5五

失(中)罕 šiqā·n (挨) 同上。三30八

\*失中合黑苔- šiqā·gda- (被擠) [šiqā- の受動形]  
-周 -ju 十40七

失舌兒不孫 širbüsün (筋) 腱。六45三

\*失舌兒戈列- širgō·le- (拘) širgō(→širgū'ē) をつけて乳が吸えないようにする。  
-周 -jü 六26六

\*失舌兒古額列- širgū'ē·le- (同上) 同上。  
-周 -jü五11六, 14七

失兒中合 širga (慘白色, 慘白) 黄白色の。二9六, 27八, 28四, 八, 29一, 三, 30一,  
三, 六, 九; 八36一

失(舌)兒中合 širga (慘白) 同上。八35一

\*失舌兒中合- širqa- (傷) 傷つく。

-黑三 -gsan 八43十

失舌兒中罕 širqa·n (傷着) [širqa- の同時接合副動詞形] 十16七

\*失兒中忽- širgu- (鑽) もぐる。  
-阿速 -'āsu 二48四  
-周 -ju 二14四

\*石舌兒中窟- širgu- (鑽入) 同上。  
-主兀 -ju'ū 三21二  
-速 -su 三19五  
-連[→速] -len[→su] 三18七

\*石(舌)兒中忽勒苔- širgūl·da- (教鑽了) [širgu- の使役・受身形]  
-罷者 -ba·je 六24五

\*失舌兒中忽兀勒苔- širgu·'ül·da- (共攢) [同上]  
-周 -ju 五9十

失舌刺 šira (黄) 黄色。一13一, 三, 47九; 土26十  
-苔 -da 十43二

\*失舌刺- šira- (燒) 焼く。  
-周 -ju 一8四; 八12四

失舌刺馬勒 širamal (黄) 薄黄色の。土26十

失(舌)闌勒 šira(n)l (黄) ほの黄色の。二42五

\*失舌列克迭- šire·gde- (煉来) [šire- '鍛える' の受動形]  
-克三[→先] -gsan[→sen] 七36六

失舌列木 širemü (生鋼) 生鉄。  
-額舌兒 -'ēr 七36五

失舌列門 širemü·n (同上) 同上。七33九

失舌羅 širo (概子) 掘棒, 串。二6一

失舌羅埃 širo'aī (上[→土], 土) 土埃。三38六; 八31九

失(舌)羅勒中合 širolga (燒肉) 串にさした焼肉。  
-苔 -da 一8七

失舌里 širi (生皮) 皮。六45三

失圖 šitü (般) ~の様に。五36五

失禿 šitü (同上) 同上。土30三

\*失禿額列勒都- šitü'ēle·ldü- (相抗拒) [šitü'ēle- '對峙する' の對動形]  
-周 -jü 九12二

\*失禿額(列)勒都- šitü'ēle·ldü- (共抗拒) [同上]  
-周 -jü 八37三

\*失禿勒都- šitü·ldü- (相抗拒, 相抗) 對峙する。[šitü-の對動形]  
-周 -jü 四38六, 39八, 45一

\*失禿(勒)都- šitü·ldü- (相抗) 同上。

- 周 -jü 四38-
- \*失兀- šī'ü- (撈) すくい取る。  
-周 -jü 二7四; 八7五
- 石兀赤 šī'üči (鑿子) 鑿。七33九
- 失兀赤 šī'üči (同上) 同上。七32三; 十19七
- 失兀迭舌里 šī'üder·i (露) [šī'üder '露' の対格形] 七33十
- 失兀速訥 šī'üsü·n·u (分例的) 食肉; 食物。三54-
- 失亦舌刺 šiyira (蹄) 動物の足の下部。一21八; 三35四
- \*升格- šingge- (落, 透, 消化) 太陽が沈む; しみ透る; 消化する。  
-額速 -'esü 二17四  
-克薛訥 -gsen-ü 九47-; 三37九  
-克先訥 -gsen-nü 二28二  
-周 -jü 二32七  
-古 -gü[→kü] 一13三  
-古額徹 -gü[→kü]-'eče 一46十  
-古因 -gü[→kü]-yin 七20七  
-恢 -küj 六9九  
-中灰[→恢] -qui[→küj] 八17-
- \*外[→升]格- wai[→šing]ge (落) 同上。  
-(中)灰 -küj 八19三
- 升格兀翁 šingge·'ül·ü·n (落後) [šingge- の使役・同時接合副動詞形] 四38十
- 升中豁惕 šingqo·d (海青每) [šingqor の複数形] 十15二
- 升中豁的牙舌兒 šingqo·d·iyär (海青每教) [šingqo·d の造格形] 十15八
- 升中豁兒 šingqor (海青) 海青; はげ鷹。一43五, 八; 二11八
- 升中豁舌兒 šingqor (同上) 同上。八6十
- 升中忽刺 šingqula (白, 白馬, 青白馬) 灰青色の馬。七22十  
-宜 -yi 一15七; 二29五; 八35七  
-因 -yin 一16四
- 升中忽刺中罕 šingqula·qan (白小) 白っぽい。七25-
- 升塔命 šingtal·u·n (退後) [šingtal- 'ひるます' の同時接合副動詞形] 一46八
- 昔思該 sisgai[→gej] (糧) フェルト。八24二
- \*莎必刺- sobila- (試) 看病, 看護する。  
-周 -ju 三3二
- 鎖赤温[勅] soči·'ü(n)[l] (驚) [soči- '驚き恐れる' の使役・命令形] 一47二
- \*雪都舌兒帖- södür·te- (被挑唆) [södür- 'つきさす' の受動形]  
-額速 -'esü 五37六; 六22二
- 雪都舌兒堅 södür·gen (挑唆) いばらの類。  
-突舌兒 -dür 五37六; 六22二

- \*雪[那]額- sö[nö]'ë- (絶了) 絶やす。  
-罷者 -ba[→be]~je 一39四
- 莎葛惕 sögöd (跪) [sögöd- の命令形] 十34十
- \*莎葛惕- sögöd- (同上) ひざまづく。  
-抽 -čü 十35三
- \*莎葛[惕]- sögöd- (同上) 同上。  
-抽 -čü 二51五
- \*莎葛惕格- sögöd·ge- (跪了, 教跪) [sögöd- の使役形]  
-主為 -jü'üi 十34十  
-梅 müj 十36七
- \*莎葛惕客兀勒迭- sögöd·ke·'ül·de- (教跪) ひざまづかせられる。  
-罷 -ba[→be] 十35十
- \*莎歌都- sögöd·ü- (跪告) <→sögöd->  
-額速 -'esü 十27四
- 雪因 söyi·n (教訓) [söyi- 'さとす' の同時接合副動詞形] <→süyü-, süyi-> 五4三
- 莎只舌兒 sojir (斜) 牛などの角が折れて不揃いになった。三38四
- 莎勒賓 solbi·n (交) [solbi- '交叉する' の同時接合副動詞形] 四27九
- 雪勒速 sölsü (胆) 胆汁; 胆力。  
-台 -tai[→tei] 二5十  
-壇 tan[→ten] 四25十  
-禿 -tü 四25七
- 莎勒塔泥 soltan·i (王行) [soltan の対格形] 一44十
- 莎勒塔訥 soltan·u (王的) [soltan の属格形] 一43三
- 莎勒壇 soltan (王) 王, スルタン。一38三, 六, 九, 39五, 九, 47五, 52-, 二  
-突舌兒 -dur 一38二, 48二; 一5六
- 鎖郎中合 solangga (黄鼠狼) いたち。二50三
- 鎖納 sona (新) 調教されていない。五4二
- 雪你 söni (夜) 夜。一17八, 19五, 43五, 46五; 二5九, 20三, 22-, 33三?, 35六  
-惕 -d 一13-
- 迭 -de 二22九; 六11六, 29二
- 訥 -nü 八18七
- 雪泥 söni (同上) 同上。三14三, 15九, 16二, 三, 28八, 31八, 32六, 八, 33六, 九;  
四3一, 24九, 39二, 四, 45二; 五29十, 31六, 49五, 50三; 六1三, 四,  
51-, 三; 七20八, 21四, 五, 六, 24八, 九, 43-, 46七; 八37四, 五,  
七; 九3九, 12-, 16七, 23七, 46三, 47七, 八, 十; 十1二, 四, 28四,  
七, 43-; 一3三; 一1十, 2二, 37七, 十, 38三
- 惕 -d 六50七, 九, 51五
- 迭 -de 三15一, 三, 16四; 五50三; 十28八

- \*雪那額- sönö'ë- (減) 減ぼす。  
-古 -gü[→kü] 十24二
- 莎那思 sonos (聽) [sonos-の命令形] 三40二
- \*莎那思- sonos- (同上) 聽く。  
-罷 -ba 五57七  
-抽 -ču 二22十, 23一; 三15七, 27六; 四45九; 五48七; 七15八; 十12六; 十二8六, 23七  
-中忽因 -qu-yin 二50四; 四24九; 八30一; 十二17四
- \*莎那思答- sonos-da- (被聽得, 聽的) [sonos-の受動形] <→sonosta->  
-罷 -ba 六46一  
-罷者 -ba-je 八21五
- \*莎那思塔- sonos-ta- (聽得) [同上]  
-木 -mu 二42八
- \*莎那思中合- sonos-qa- (教聽) [sonos-の使役形]  
-阿速 -'äsu 九42十; 十二45四  
-中渾 -dqun 九42九  
-禿中孩 -tugaj 十二45二
- \*莎那速- sonos-u- (聽, 聽得) <→sonos->  
-阿速 -'äd 四18七, 46七; 九34四, 43一; 十二45二  
-阿速 -'äsu 九15五  
-黑撒你顏 -gsan-iyän 九4十, 19六
- \*莎那速勅察- sonos-u-lča- (共聽) [sonos-の相動形]  
-禿中孩 -tugaj 十8六
- 莎幹舌兒 so'ör (引鬪) 鬪。六12五  
-途舌兒 -tur 八45一  
-圖舌兒 -tur 六30二
- 梭幹舌兒 so'ör (同上) 同上。  
-圖舌兒 -tur 五32九
- \*莎幹舌刺- so'öra- (解釈) 静まる, 安静になる。  
-周 -ju 十二47七
- \*莎汪中忽- soongu-[→songu-] (選揀) 選ぶ。  
-周 -ju 八41六; 十二23二
- \*莎汪中忽兀魯- soongu-'ül-u- (教揀) [soongu-の使役形]  
-阿速 -'äsu 九8九
- \*莎黑塔- sogta- (醉) 酔う。  
-罷 -ba 十二24六, 九  
-中忽宜 -qu-yi 十二24六
- 莎中豁舌兒 soqor (瞎) めくら。六26七

- 鎖中豁舌兒 soqor (同上) 同上。五14八
- 莎舌里 sori (試) [sori-の命令形] 十19一
- \*莎舌里- sori- (同上) 努める; 試みる。  
-阿速 -'äsu 七48八  
-中渾 -qun 一33九  
-速 -su 三47七, 九  
-牙 -yā 十二1八
- \*莎舌里勅都- sori-Idu- (共試) [sori-の對動形]  
-牙 -ya 十38八, 39十
- 莎亦魯黑 soyilug (ナシ) あわれむべき。六33七
- \*莎余- söyü- (教導) いましめる, さとす。  
-額魯 -'äd 九42六
- \*雪余- söyü- (同上) 同上。  
-罷者 -d-je 十二45十  
-額魯 -'äd 十二44七  
-禿該 -tügaj[→gej] 十二44四
- 雪余額兒 söyü-'er (教訓) 教訓。一14一
- 雪余額舌兒 söyü-'er (教誨) 同上。十二46四
- 雷[→雪]余額舌兒 söyü-'er (教訓) 同上。十二34二
- 莎余[舌兒]中合- soyu[r]qa- (恩賜) <→soyurqa->  
-周 -ju 十二39十
- \*莎余[舌兒]中合黑答- soyu[r]qa-gda- (被恩賜) [soyurqa-の受動形]  
-罷 -ba 十13四
- \*莎余舌兒中合- soyurqa- (恩賜) おゆるし下さる, 嘉みする。  
-阿速 -'äsu 五22七, 23三, 50九; 七47十; 八20一, 31八; 九22一, 三, 23十, 24二; 十12七; 十二5三, 45八; 十二33九  
-罷 -ba 五7九; 七49二  
-周 -ju 六52三, 53一; 七2一, 7九, 19四, 48十; 八18一, 20三, 41四, 46一, 48二; 九2六; 十11三, 12十, 13七, 16一, 五, 44七; 十二17三, 31三, 47九  
-舌命 -run 八46五; 十二7九  
-中命[→舌命] -run 九24十 [『統攷(中)』のp.232では<舌>命と校した]  
-速 -su 九8十
- \*莎余(舌)兒中合- soyurqa- (同上) 同上。  
-阿速 -'äsu 十二9四  
-罷 -ba 十二13十
- 莎余舌兒中罕 soyurqa-n (同上) [soyurqa-の同時接合副動詞形] 六52十
- \*莎余舌兒中合黑答- soyurqa-gda- (被恩賜) [soyurqa-の受動形]

-阿速 -'äsu 四49八; 六51九  
 莎余舌兒中合兀《舌》命 soyurqa·ül·u·n (恩賜) [soyurqa- の使役・同時接合副動詞形] 八32三  
 莎余舌兒中合勅 soyurqa·l (恩賜, 賜) 嘉賞。八24十, 27八, 28四, 29四, 七, 31十, 34五; 九8七, 八, 17七, 19一, 24四, 31一, 二<sup>2</sup>; 三8一, 48二  
 莎余《舌》兒中合勅 soyurqa·l (恩賜) 同上。九23十  
 速 su (福蔭, 福, 洪福) 幸, 至福; 賢明。  
 -突舌兒 -dur 三29一  
 -台 -tai 三19一  
 -壇 -tan 二5十  
 -圖 -tu 三22十  
 速別額 sübe'e (腰窩) 脇腹。四1五  
 速別思 sübe·s (口子每) 守口, 守備の要所。  
 -突舌兒 -dür 十19三  
 速不<sup>2</sup> subud (珠, 珠子) 真珠, 東珠。十13二, 五; 三27一  
 \*速蒼勅必- sudalbi- (不開口) 口輪をはさず。  
 -周 -ju 八8九  
 速都 sūdū (牙) 牙。  
 -額舌兒 -'er 五37六; 六22三, 五  
 -禿 -tü 五37五; 六22二  
 速只阿速 suji'a·su (頂脉) 頸筋。〈→sujiyäsü〉  
 -班 -bān 九16五  
 速只牙速 sujiyā·su (項脉, 項脉) 同上。  
 -班 -bān 四38八; 六13九  
 速客 süke (斧子, 銀錠) 斧; 銀錠。九14六; 十19六  
 -別舌兒 -bēr 九14七  
 -思 -s 三48二  
 速勅別舌兒婦 sülbergüi (怠慢) だらしない。七29八  
 速勅迭兒 sülde (吉兆) 吉兆。—44三  
 速勅迭舌兒 sülde (威靈) 同上。  
 -禿 -tü 三8六  
 速勅迭舌列 sülde·e (威靈行) [sülde の与位格形] 八20八  
 速勅迭舌列徹 sülde·eče (同上) [sülde の奪格形] 三8七  
 \*速刺刺- sula·la- (鬆) ゆるめる; 脱す。  
 -周 -ju 二22一  
 速蔑思 süme·s (仏每) 仏像入れ。三9八  
 速木 sumu (箭) 矢。二25八, 32三  
 -班 -bān 二9八; 七38二, 五

-赤 -či 二16二  
 -的顔 -d-iyān 五49一, 50六  
 -禿 -tü 八6八  
 速木納 sumu·n·a (箭行) [sumun の与位格形] 六13十; 八2九; 九16五  
 速木你顔 sumu·n·iyān (箭自的行) [sumun の再帰格形] 三8一, 六  
 速木訥 sumu·n·u (箭的) [sumun の属格形] 六49二  
 速門 sumu·n (箭) 矢。四49四  
 速斡舌刺兀命 su'ōra·'ül·u·n (引鬪) [su'ōra- '戦う' の使役・同時接合副動詞形] 六51八  
 \*速舌兒- sur- (慣, 学) 学ぶ, 習う。  
 -抽 -ču 三4七  
 -中忽 -qu 五4一  
 -禿中孩 -tugaï 三45七  
 \*速舌兒答- sur·da- (可学) [sur-の受身形]  
 -(中)忽 qu 八21五  
 \*速舌兒中合- sur·ga- (教訓, 調, 教) 教える。[sur-の使役形]  
 -阿速 -'äsu 五4一  
 -周 -ju 三9八  
 中忽 -qu 五4二  
 速《舌》兒中罕 sur·ga·n (教訓) [sur·ga- の同時接合副動詞形] 五4三  
 \*速舌刺- sura- (問, 挨問) 問う, たずねる。  
 -阿速 -'äsu 一18十  
 -巴速 -bāsu 二29一  
 -中忽途兒 -qu-dur 一19三  
 速舌里木孫 surimusun (毛) まつ毛。二10一  
 \*速舌魯勅察- sur·u·lča- (共学) [sur- の相動形]  
 -速 -su 九34十  
 速舌魯格徹 sürüg·eče (群行) [sürüg '群れ' の奪格形] 三53三  
 速舌魯昆 sürüg·ün (群的) [sürüg の属格形] 三47四, 52五  
 速舌命 sur·u·n (学) [sur- の同時接合副動詞形] 三46八  
 \*速中忽赤- suguči- (抽出) 抜く。  
 -周 -ju 四10五  
 速兀 su'ü (肘腋) 腋。  
 -都舌里顔 -dur-iyān 九13五  
 \*速亦- süyi- (教導) 教えさすと。〈→süyü-, söyü-〉  
 -禿該 -tugaï[-geï] 九42二, 三  
 \*速余- süyü- (教導) [=söyü-, süyi-]  
 -禿該 -tugaï[-geï] 三44二

\*孫都刺- sundula- (昼騎) 騎手の後に乗る。

-周 -ju 六13八; 九16八

\*孫都刺温勒- sundula·'ū(n)l- (同上) [sundula-の使役形]

-周 -ju 二47四

\*孫都刺温勒都- sundula·'ū(n)ldu- (教量騎) [sundula-の使役・对動形]

-周 -ju 二46五

暑漣 šüle·n (湯) スープ, スープ状の食物。三45六; 七21一; 九12三, 46六, 七

暑冽捏 šüle·n·e (湯行) [šülenの与位格形] 三47四, 52五, 53三

\*孫都舌兒- sundur- (陸統) 続く。

-抽 -ču 二2二

循 šün (乳) 乳。二22九; 五48六; 七35二; 二24九

ts

倉 tsang (倉) 倉。

-兀 兀 -'ūd 三48三

## t

塔 ta (您) あなた達。—13四, 六, 14二, 四, 五, 44二; 二2二, 三, 3三, 8四, 七, 10一, 三, 12六, 20二, 28七; 三48七, 九, 49一, 二, 三, 五, 七, 50五; 四1四, 六, 七, 八<sup>2</sup>, 15八, 47六, 七<sup>2</sup>; 五3七, 4六, 7八, 25二, 40八, 42九, 44八<sup>2</sup>; 六35三, 四, 五, 六, 36一, 37三, 46四; 七9十<sup>2</sup>, 13七, 36九, 37一; 八9五, 七, 十, 11一, 20十; 九1四, 八<sup>2</sup>; 3七, 8三, 9五, 八, 11二, 十, 15五, 23六, 九, 24一, 25二<sup>2</sup>, 五, 七; 十7三, 30九, 33七, 44一, 三; 十一21十, 25一, 二, 28五, 31一, 33五; 十二4七, 8三, 九, 32八

塔納 tan·a (您行, 等行) [ta(n) の与位格形] 五40八; 六36二; 七35七

塔泥 tan·i (您行) [ta(n) の対格形] 三49八; 五7七, 20二; 六36一, 三, 46五; 九11八, 23十; 十二24十

塔你顔 tan·iyān (您每自的) [ta(n) の再帰格形] 七26四

塔訥 tan·u (您的, 等的) [ta(n) の属格形] —12九, 44八; 二14一, 30一; 四15八, 九; 五7九, 16一; 八8二; 九11五, 六, 23七; 十29八, 44一; 十二25五, 26二, 七, 八, 九<sup>2</sup>, 27一

壇魯阿 tan·lu'ā (您一同) [ta(n) の共同形] 九27五; 十二30十

\*塔阿刺- ta'āla- (愛, 喜) 喜ぶ, 愛撫する。

-罷 -ba 七48十

-周 -ju 五43二

-主為 -ju'ūi 五39六

-(中)渾 -qun 九24一

\*塔阿刺黑苔- ta'āla·gda- (被愛, 被寵) [ta'āla-の受動形]

-罷 -ba 四35十

-周 -ju 十43七

-中忽訥 -qun-u 五44七

-中渾 -qun 五43一, 44三

-舌命 -run 五22六

塔阿蘭 ta'āla·n (愛) [ta'āla-の同時接合副動詞形] 二9二, 23六

\*塔阿舌刺勒都- ta'āra·ldu- (復) [ta'āra- '合う; 遇う' の対動形]

-秃中孩 -tugaï 九46九

塔巴舌兒 tabar (物, 財物) 財宝, 物品。七6五, 47三; 十二4十, 26一

塔必 tab·i (是麼) [tab '適切な' の疑問形] <→tab·u·'ū> 七30六

塔賚 tabi·n (五十) 五十。四18三

塔不兀 tab·u'ū (是麼) [tab '適切な' の疑問形] <→tab·i> 五43二, 46七

塔不兀刺 tabu·'ūla (五箇) 五つとも, 五人とも。—12二, 14十, 23三

塔奔 tabu·n (五, 五隻, 五箇) 五。—11八, 12一, 二, 14一, 二<sup>2</sup>, 33七, 41七; 二8七; 三23十, 33十, 四17七; 五11六, 14六; 六26五; 七23八, 24八, 38八; 八12二, 七, 26九, 27一, 六; 九8二, 13二, 32八, 33九; 十3六, 23四, 五, 八; 十二32二

塔乞 taqi (也) こそ (強意の助辭)。<→teki> —35九; 七16一, 46六

\*塔乞- taqi- (侍奉) 奉ずる。

-周 -ju 九20三

塔乞牙 taqiya (雞兒) 鶏; 酉。七52七

\*塔勒- tal- (腕) 解く。

-周 -ju 四39七, 42四

\*塔魯- tal·u- (脱, 解) 同上。

-阿 -'ā 四42五

-中渾 -dqun 三50六

\*塔勒必- talbi- (放, 放下, 放了, 留下, 放來) 放つ, 置く; ~しつくす。

-阿魯 -'ād 十29四

-阿速 -'āsu 七38二, 五

-罷 -ba —15九, 17四, 20六; 二29七; 四33六; 十39三

-黑撒魯 -gsad 三14三; 四40一; 七35一; 十二15五

-黑三 -gsan 四34一; 十42十

-周 -ju —47四, 49二; 五6二, 六, 九, 7四, 20四; 六1七; 七9五; 八35九; 九23六, 27九, 28三; 十二50四; 十三26二, 四, 27十, 31十, 32二, 40四, 49四, 55八

-魯阿 -lu'ā 七19九

-速 -su —47一

-秃中孩 -tugaï 七28八; 十6三

塔勒賚 talbi·n (放) talbi-の同時接合副動詞形] 六40五; 十二25八

\*塔勒必舌刺- talbira- (放慢) 和らく, 鎮まる。

-梅 -muj 七22七

塔勒必舌蘭 talbira·n (放) [talbira-の同時接合副動詞形] 七21八

\*塔勒必兀勒- talbi·'ūl- (教放, 放) [talbi-の使役形]

-罷 -ba 四33七, 八; 五16二; 六19三; 七55五

-周 -ju 八35七; 十41三; 十二47二, 52七, 55九

-中忽 -qu 七50七

\*塔勒必兀魯- talbi·'ūl·u- (教放) [同上]

-舌命 -run 七53八

\*塔勒必温[勒]- talbi·'ū(n)l- (教放) [同上]

-周 -ju 二29五

塔刺 tala (容貌) 姿, 外見。八46三

- \*塔刺- tala- (虜, 搶) 掠め収める, 没収する。  
 -罷 -ba 八45七; ㄱ27八  
 -中灰突舌兒 -quj-dur 四17一
- 塔蘭 tala·n (掠着) [tala-の同時接合副動詞形] 三15三  
 塔刺兀勒- tala·'ül- (虜, 教虜) [tala-の使役形]  
 -罷 -ba 七1三, 2二; 八4七; ㄱ5十, 7四  
 -罷者 -ba-je 七4四
- \*塔木- tamu- (秃, 尽無) すりへる, なくなる。  
 -塔刺 -tala 一33八; ㄱ32三
- 塔納 tana (大珠) 真珠母, 螺鈿。  
 -思 -s 十13二, 五; ㄱ27一  
 -秃 -tu 四14四
- \*塔泥- tani- (認) 識る, 知る。  
 -周 -ju 一20五
- \*塔你- tani- (同上) 同上。  
 -周 -ju 三15七, 九, 十; 七9五
- 塔紐 tani·n (認得, 認) [tani-の同時接合副動詞形] 一48一; 七5八
- \*塔你黑苔- tani·gda- (認, 認得) [tani-の受動形]  
 -中忽 -qu 五26一  
 -中渾 -qun 八9三, 四
- \*塔紐勒都- tani(n)·ldu- (相認) [tani-の対動形]  
 -周 -ju 三12三
- \*塔你兀魯- tani·'ül·u- (教認) [tani-の使役形]  
 -阿速 -'äsu ㄱ29六
- \*塔兒巴中合赤刺- tarbaga·čila- (土撥鼠捕) タルバガンを狩る。  
 -舌刺 -ra 二28一
- 塔兒巴中合楊 tarbaga·d (土撥鼠每) [tarbagan の複数形] 二27四, 28三  
 塔舌兒巴中罕 tarbaga·n (土撥鼠) タルバガン。八7一
- \*塔兒中合- tarqa- (散) 散会する, 四散する。  
 -罷 -ba 二17四  
 -黑撒楊 -gsad 二18六  
 -周 -ju 二20四
- \*塔舌兒中合- tarqa- (同上) 同上。  
 -黑撒訥 -gsan-u ㄱ38一
- \*塔舌兒中合黑苔- tarqa·gda- (散) [tarqa- の受動形]  
 -罷 -ba ㄱ30八
- 塔兒中合兀魯 tarqa·'ül·u·n (散教) [tarqa-の使役・同時接合副動詞形] 二17六  
 塔兒(中)合兀魯 tarqa·'ül·u·n (散, 教散) [同上] 二21一, 九

塔舌兒中忽楊 tarGu·d (肥每) [tarGun '太っている'の複数形] 七15八, 27五  
 塔舌兒中忽刺兀魯- tarqu·la·'ül·u- (教肥) [tarqu·la- '太る'の使役形]  
 -楊中渾 -dqun 六42四

塔舌刺 tara (散) 散り散りに。[cf. bura] 九8十, 22二

塔舌刺黑 taraG (酪) ヨーグルト。四40二, 五, 六

塔舌里牙楊 tariya·d (田禾) [tariya 'たなつもの'の複数形] 六28二

\*塔速勒- tasu·l- (断) 断つ。

-周 -ju 四22十

-秃中孩 -tugaï 八47三

\*塔速魯- tasu·l·u- (同上) 同上。

-黑撒楊 -gsad 十29九

\*塔速勒苔- tasu·l·da- (被断) [tasul-の受動形]

-周 -ju ㄱ35四

塔速勒丹 tasu·l·da·n (教断) [tasul·da-の同時接合副動詞形] ㄱ20四

\*塔速(舌)刺黑苔- tasu·la·gda- (被断) [tasul(a)-の受動形]

-周 -ju 五28八

塔申 taši·n (拍着, 拍) [taši- '拍する; (日)が沈む'の同時接合副動詞形] 二30二; 六9十

\*塔塔- tata- (扯, 掉, 做妾, 提, 縮, 縛) 引く。

-阿楊 -'äd 四28五; ㄱ3二

-黑三 -gsan 十44八

-周 -ju 一25九; 二17六; 四27十; 九11五, 六, 15七; ㄱ2一, 7三, 23六, 七, 26七, 八, 36三; ㄱ29三

-(中)灰 quj 二7八

-中灰魯阿 -quj-lu'a 九14二

塔壇 tata·n (滅) [tata-の同時接合副動詞形] 七38七

\*塔塔刺- tata·la- (扯, 相扯, 施出) 何度も引く。

-周 -ju 二13八, 24九; 四10五

\*隨兀- ta'ü- (趕) 追う。(<→討温 taq'ü·n)

-周 -ju 六44二

塔兀来 ta'ülaj (兔兒) うさぎ。(<→taqlaj) 十14二

\*塔亦- tayi- (祭祀) 供物・犠牲を供えて祭る。

-主為 -ju'üi 七9七

-牙 -ya 七9三

\*塔亦黑苔- tayi·gda- (被祭祀) [tayi-の受動形]

-舌命 -run 七9七

台中合勒 taiqal (山頂) 岩峯。八4三

\*談秃魯- tamtul·u- (扯) 裂き破く。

-黑[→楊]中渾 -g[→d]qun 三50七 [『全釈(中)』のp.381では「談秃魯(楊)中渾」

と校した]。

儻吉 tanggi (弱) 臆弱な, 甘えん坊の。七23十

討兀 ta·u'ū (遍) [ta '遍, 回' の疑問形] 一46六, 七

討来 taqlaj (兎, 兎兒) うさぎ。〈→ta'ūlaj〉 一36九; 一20八

討温 taq'ū·n (趕) [taq'ū- '追う' の同時接合副動詞形] 〈→薩兀-〉 一10—

\*討兀勒- taq'ūl- (分付) ゆだねる, 託する。

-罷 -ba 一14八<sup>2</sup>

-周 -ju 九46四, 47六

\*帖ト赤- tebči- (棄, 弃捨, 捨棄, 弃, 捨) 棄てる。

-楊坤 -dkūn 二10四

-古 -gū[→kü] 五44二; 十24四

-周 -jū 五41一; 六35五; 七6七, 7十; 九27八

-速 -sū 五44八

帖ト巨 tebči·n (捨, 棄捨) [tebči-の同時接合副動詞形] 五6五, 7三, 八, 15五;

六51七, 52一; 九27九, 28二, 六, 七

帖ト赤勅教 tebči·ldü·n (相棄) [tebči-の對動形]

帖別捏 tebene (大針) 大針。

-迭 -de 七36七

\*別帖舌里 teberi- (抱) 抱く。

-周 -jū 九16九

\*帖別舌鄰勅都- teberi(n)·ldü- (相見) [teberi-の對動形]

-罷 -ba[→be] 四46八

帖別舌鄰勅教 teberi(n)·ldü·n (相抱) [teberi(n)·ldü-の同時接合副動詞形] 三15十

帖迭 tede (那的每, 那每, 那, 那的, 他每, 那裏, 他每行) それら (の), その人たち (の)。一4三, 九, 5三, 7九, 17七, 18二, 三, 四, 19三, 22二, 23三, 24一, 九, 27十, 28二, 五, 29七, 八, 31一, 35五, 48一; 二4十, 22三, 30六, 32八, 46二, 十, 48六, 十, 49九; 三15六; 四21四, 46九, 47三, 48一, 49三; 五17四, 40三, 41六; 六3四, 七<sup>2</sup>, 11六, 17二<sup>2</sup>, 43十; 七11一, 四, 12四, 26九, 33三, 七, 八<sup>2</sup>, 34一, 二, 四, 五<sup>2</sup>, 六, 34七, 35一, 四<sup>2</sup>, 七, 八, 九; 十27一, 36五, 37一, 三, 六, 七; 一5一, 三; 一2六<sup>2</sup>, 16三, 18一, 二, 30二

-額舌兒 -'ēr 五42六

-額舌里 -'ēr-i 六17四; 七11九; 一30三

帖迭捏 teden·e (他每行) [tede(n)の与位格形] 十37七

帖迭泥 teden·i (他每行, 那的每行, 他行) [tede(n)の対格形] 一21九; 五5二, 四; 八4九, 6九; 一30十; 一30四

帖迭客勒 tedeked (那些, 那幾箇) 彼等。七11七, 14二

帖顯 teden (他每) それら (の), その人たち (の)。

-突舌兒 -dür 四34八; 六3九

帖堆 tedüj (那般, 般, 便, 只那般, 那些, 那即便, 那遍) そのように。一7五, 38四, 40八; 二13五, 15七, 16一, 25十, 46二, 50七, 十; 三1二, 19四, 五, 21二, 23三, 41四; 四10四, 16二, 49七; 五20九, 25五; 六2九, 42五, 43八, 46七, 48六; 七1二, 4六, 7四, 21七, 24七, 32八, 45七; 八24二; 十40三, 四; 一41五, 42九; 一20九, 25十

帖対 üedti (隨即) 同上。

-古 -gū[→kü] 五26六

\*帖額- te'ē- (載) 積む。

-周 -jū 二46八, 九; 三39一

帖古思 tegüs (全) 完全な(に), すっかり。七7七

\*帖只額- tejijē- (養) 養う。〈→tejiyē-〉

-罷 -ba[→be] 二5十, 7四; 四24十; 五12三, 14九

-罷者 -ba[→be]~je 六27七; 九11八

-畢 -bi 二6二

-[克]薛[楊] -gsed 二6二

-克薛[楊] -gsed 二6四, 七

-克先 -gsen 九11八

-周 -jū 七33六, 37七

-舌命 -rūn 二5七, 6一; 四24八; 九11四

-耶 -yē 二6九; 五46九

帖只額勅教 tejijē·ldü·n (養兼着) [tejijē-の對動・同時接合副動詞形] 一16十

\*帖只耶- tejijē- (養) 〈→teji'ē-〉

-罷<sup>原作</sup> -ba[→be] 三33二

帖只延 tejijē·n (養来的) [tejijē-の同時接合副動詞形] 九17二

帖乞 teki (也) こそ (強調の助辭)。〈→taki〉 四41七; 五2十, 3一

帖勅中忽舌里中罕 tel qurigan (喫二母乳的羔兒) (二匹の親羊の乳をのむ) 子羊。二25六

帖列格 telege (車) 鉄車。八10七

-秃 -tü 十11五

-秃宜 -tü-yi 八6三

帖列堅 telege·n (同上) 同上。

-突舌兒 -dür 一54一

帖里 teli (那事, 那箇) それ。〈→deli<sup>◎</sup>〉 十44七; 一36二, 四; 一5三, 35十

\*帖箴徹- temeče- (争) 争う。

-徹 -d 一44七, 十

\*帖箴扯- temeče- (同上) 同上。

-克赤 -gči 三6一



## 552 元朝秘史蒙古語辭典

- 耶 -yē 七39二
- 帖篋纏 temeče·n (同上) [temeče-の同時接合副動詞形] 七42五; ㄱ12六
- \*帖篋扯勒都- temeče·ldü- (相争) [temeče-の対動形]
- 楊坤 -dkün 十39四
- 額速 -'ēsü 九14十
- 驢篋額 teme'ē (駱駝) ラクダ。〈→temeyēn〉
- 楊 -d ㄱ9五, 十, 10九, 52五
- 禿 -tü 六44二
- 鐵篋額 teme'ē (駱駝) 同上。
- 楊 -d ㄱ9十
- 帖篋額的顔 teme'ē·d·iyān[→yēn] (駱駝自的) [teme'ē·dの再帰格形] 五14一
- 帖篋額訥 teme'ēn·ü (駱駝的, 駱駝的) [teme'ēnの屬格形] 五11七, 14七
- 驢篋額訥 teme'ēn·ü (駱駝的) [同上] 六26六
- 帖篋延 temeyēn (駱駝) ラクダ。〈→teme'ēn〉 十28七
- 驢篋延 temeyēn (駱駝) 同上。ㄱ4九, 5九
- 鐵篋延 temeyēn (同上) 同上。ㄱ7七
- 驢篋臣 temē·čin (放駱駝的) 駱駝飼い。十9十
- 帖篋額赤泥 teme'ē·čin·i (放駱駝的行) [teme'ē·čin〈→temē·čin〉の対格形] 十4六
- 帖木(舌)兒 temür (鍊, 鉄) 鉄。七33十; 八6三
- 帖木(舌)兒 temür (鉄, 鉄) 同上。八10七; 十11五
- 帖木舌里耶(舌)兒 temür·iyēr (鉄教) [temürの造格形] 七36七
- 帖兒干 tergan[→gen] (車子) 車。
- 圖兒 -tūr 二23七, 24七, 八
- 帖(舌)兒干 tergan[→gen] (同上) 同上。三38二
- 帖(舌)兒格 terge (車) 同上。〈→tergen〉十7六, 9七
- 楊 -d 三30五; ㄱ54二
- 敦 -d-ün 三29九; 十39八, 40十
- 台 -tai[→tej] 十28八
- 帖兒格勒 tergel (円光) 円い太陽の照る。二17三
- 帖(舌)兒格勒 tergel (光) 同上。三29八
- 帖(舌)兒格列 tergel·e (光行) [tergelの与位格形] 七22六
- 帖兒格捏扯 tergen·eče (車自) [tergenの奪格形] 二47三
- 帖(舌)兒格捏扯 tergen·eče (車子自) [同上] 三15七
- 帖(舌)兒格捏徹 tergen·eče (車処, 車子行) [同上] 四40二; 十29三
- 帖(舌)兒格泥 tergen·i (車子行) [tergenの対格形] 三46二, 三; 十4七
- 帖兒格訥 tergen·ü (車的) [tergenの屬格形] 一4四; 二46四, 47二
- 帖兒堅 tergen (車, 車子) 車。二46七
- 都(舌)里顔 -dür·iyān[→yēn] 一35四

- 圖兒 -tūr 一45一; 二44七
- 帖(舌)兒堅 tergen (同上) 同上。三46四; 五2六; 六23一, 四; 十7七; ㄱ39十
- 突(舌)兒 -dür 四39九; 五2一; 十6二; ㄱ40三
- 帖(舌)兒格兀(舌)兒 terge·'ūr (車路) 広い道。三46三
- 帖(舌)兒格兀(舌)里耶(舌)兒 terge·'ūr·iyēr (車路依着) [terge·'ūrの造格形] 三38八
- 帖(舌)兒篋 terme (撤帳) とぼり。六48三, 50六; 七2七; ㄱ4八
- 帖(舌)列 tere (那, 那箇) その, それ。一5七, 9一, 四, 五, 十, 10一, 14三, 四, 16十, 20十, 21四, 22九, 23六, 八, 24五, 六, 七, 25八, 26六, 31六, 32一, 34四; 二1八, 2七, 16一, 17四, 六, 18五, 20五, 22六, 26七, 29一, 30四, 38五, 39二, 48九; 三1六, 2四, 5七, 6四, 14四, 18一, 20五, 29六, 33六; 四8四, 八, 11五, 34二, 38八, 40十, 45十, 46一, 五, 49六; 五9一, 10五, 12三, 17二, 六, 25八, 30十, 31十, 32九, 39六, 44一, 四, 48五; 六1八, 2七, 十, 3八, 4六, 14九, 23三, 五, 27六, 七, 52二; 七1八, 4六, 6十, 14三, 23一, 24三, 27七, 37五, 38十, 39五, 43一, 七; 八2五, 12六, 13六, 27七, 29五, 33六, 34一, 二, 41一, 44二<sup>2</sup>, 四, 45六; 九5十, 23六, 34七, 42一, 48九<sup>2</sup>; 十12九, 31六; ㄱ8一, 10六, 九, 37六; ㄱ1二, 十, 10二, 17十, 18三, 26七, 34六, 39四, 47七
- 帖(舌)列 tere (那) 同上。一23八, 26三; 二32六; 四8六; 六30二; 七28十
- 帖(舌)里兀 teriü (頭, 等, 名項, 等項, 等項, 為頭) 頭, 源。一21八, 28一; 三44一; 四5一; 七9二, 四; 八3一
- 辺 -bēn ㄱ25六
- 楊 -d 六42二
- 壇 -tan[→ten] ㄱ18六
- 帖 -te 七22八
- 田 -ten 一27十, 40五; 三41一; 四3八, 12四, 13二, 十, 30二, 三, 四, 五, 六, 七; 八4一, 6四, 七, 27九; 九3八; 十11六; ㄱ11七, 20二, 四, 41八, 50十; ㄱ13七, 八, 九, 16二, 五, 27五, 九, 51十
- 由[→田] -yü(→ten) ㄱ33六
- 禿 -tü 一13五, 20九
- 帖(舌)里兀 teri'ü (等項) 同上。
- 田 -ten 四11三
- 帖(舌)里兀捏 teri'ü·n·e (源行, 源頭行, 頭行) [teri'ünの与位格形] 一1五; 二42四; 三8十, 八24三; 十39一
- 帖(舌)里兀捏徹 teri'ü·n·eče (源頭処, 頭処) [teri'ünの奪格形] 五11十; 七24九
- 帖(舌)里温 teri'ü·n (頭, 源, 源頭) 頭, 源。二17二, 38十; 三11七, 29七; 六37四; 七9七, 九, 22五
- 突(舌)兒 -dür 十43十

-都舌里顔 -dür-ıyan[→yen] 三18六, 19三

\*帖舌里兀列- teri'ü·le- (為頭) 頭となる, 率いる。

-周 -jü 九4七; 三48九

帖舌里兀連 teri'ü·le·n (同上) [teri'ü·le-の同時接合副動詞形] 四6十, 7三<sup>2</sup>, 十5五; 三9九

帖(舌)里兀連 teri'ü·le·n (同上) [同上] 四7一

帖兀別舌兒 te'ü·bēr (為那般) それによって; そのように。十30四

帖兀捏徹 te'ün·eče (那箇行) それから。八37九

帖兀泥 te'ün·i (那的行) それを。三17八

帖兀訥 te'ün·ü (那的, 那的的) それの。一8二; 三26四; 四2五, 19三, 28八, 30一, 33六, 七; 五8十, 11一, 14二, 28一; 六5九, 25九; 七34九, 36一, 39四; 八36八, 37二; 十33一; 十一一, 11六, 20一, 37八, 九

帖兀訥埃 te'ün·ü'āi[→'ēi] (他的) 彼のもの。一11三, 26四

\*帖兀舌列兀勒- te'üre·'ül- (教壞) [te'üre- 'こわれる' の使役形]

-速 -sü 三46三

帖温 te'ü·n (那的) それ。

-突舌兒 -dür 五7五; 六16六; 七11八, 12三, 15六, 31二; 十38二; 十一4七六

-突(舌)兒 -dür 九24五

-圖兒 -tūr 二4八

\*帖亦列温勒- teyile·'ü(n)l- (餓) [teyile- '家畜類の腹が小さくなる, 飢える' の使役形]

-周 -jü 一17二

帖亦木 teyimü (那般, 那般有, 那般有的) そのような。一6八; 四51一; 五37一; 十7十, 31七, 44一; 十一24五; 十二24十

帖亦模 teyimü (那般, 那般有) 同上。一18九<sup>2</sup>, 十, 38五, 40十; 二38六; 三26十, 27八; 四26一; 八10四

帖亦門 teyimü·n (那般, 那般每) そのような。[teyimü の複数形] 四26二; 八13八; 十一6一

帖因 teyi·n (那, 那般) そのように。一10四, 16三, 22一; 二8三, 10三, 19一, 七, 23五, 26四, 48三; 三16六, 39六; 四8十, 9一, 14二, 18五, 37二, 42九, 45九; 五14十, 31一, 37九, 40一, 42八, 十, 47十, 48四, 六, 49三; 六1二, 3九, 8二, 17五, 18八, 21八, 24十, 26八, 48五; 七6七, 7六, 9七, 12三, 24五, 31三, 32四, 十, 33四, 34四, 35三, 八, 九, 39一, 九; 八8九, 32八, 42四; 九9一, 八, 20四, 22五, 33八, 34一, 37六, 46十; 十7八, 33三, 37七; 十一28五, 六, 33三; 十二3六, 50一, 57二

-古 -gü[→kü] 二9三, 四, 19二

忝迭克 temdeg (明白) 印, しるし, 一13五 <→temteg·ün>

忝帖昆 temteg·ün (明白的) [temteg<→temdeg> の属格] 八39八

\*添古- temgü- (拾) 拾り, 摘む。

-周 -jü 二5九

\*忝古勒都- temgü·ldü- (同上) [temgü-の対動形]

-周 -jü 一16九

\*忝帖勒- temte·l- (磨[→摩]) 手探りする。

-周 -jü 九13六

田迭 tende (那裏, 裏) そこに, そこで。一6七, 12六, 13七, 15十<sup>2</sup>, 35五, 40五, 六, 七; 二4五, 27二, 36九; 三1十, 16五, 17十, 26五, 48五; 四4七, 5八, 6二, 四, 13十, 14三, 四, 15五, 16三, 20十, 27三, 31六, 38二, 十, 46十; 五1二, 5五, 9三, 12十, 13八, 14四, 15五, 18四, 20十, 21六, 22五, 六, 23八, 25一, 28八, 九, 29十, 30五, 31六, 32十, 33十, 34六, 38十, 45九, 46三; 六3一, 三, 9七, 15九, 16二, 19二, 20九, 24八, 25六, 29七, 30四, 七, 31三, 42六, 43九<sup>2</sup>, 46六, 49四, 九; 七5八, 7六, 9七, 九, 10十, 14十, 18四, 五<sup>2</sup>, 八, 十, 19四, 22九, 23三, 四, 33一, 二, 34二, 46二; 八1四, 八, 2九, 3二, 4五, 十, 9四, 十, 12二, 四, 22三, 十, 24五, 七, 33三, 35三, 39八; 九13一, 14八, 23三, 27七, 十, 28七; 十20十, 27十, 31七, 43三, 八; 十一1七, 八, 5六, 16三, 17一, 18四, 20六, 23八, 35八, 39四, 43二, 44八, 51九, 52六; 十二2二, 3三, 4十, 9八, 10六, 八, 21二, 26十

-扯 -če 一21七, 22一; 二36六, 41三, 45三; 三10六, 11五, 16一, 42二

-徹 -če 二9二; 四5八, 15六, 16二, 31四, 39六, 41四; 五11五, 29五, 31八, 32一, 45七; 六2七, 18三, 24五, 25四, 28八; 七7二, 35八, 46八, 十; 八4二; 九30三; 十34五, 35九, 41四; 十一28五; 十二7八, 51十

-額徹 -'eče 七39一

-古 -gü[→kü] 七44一; 八24五

騰格里(克) tenggelig (車軸) 車軸。<→騰吉里格> 二46四

-遣 -bēn 二46四

騰格舌里 tenggeri (天) 天。<→tenggiri> 三5六, 57四

騰格舌理 tenggeri (同上) 同上。二15五, 八; 四40四, 534十; 六12二, 25八; 七11四; 八44七; 九31五; 十一4四, 24一, 45三, 47二

-迭 -de 四35十; 五42十, 44三, 七; 六36四; 七3六; 八9七, 10十, 29十, 41二, 43九; 十43六; 十一36二; 十二4一, 11四

-突舌兒 -dür 八6十; 十一13一

-額扯 -'eče 一1三

-額徹 -'eče 八19十

-宜 -yi 十18十

-因 -yin 七47十; 八39七; 九31五; 十28一; 十一28十

騰吉舌里 tenggiri (同上) 同上。三22三, 38十, 49四

-迭 -de 三22八

- 因 -yin 一13五  
騰吉思[→里]格 tenggis[→li]ge (ナツ) 車軸。〈→tenggelig〉  
-台 -tai[→tei] 三46三  
挑兀別兒 teü'ü·bēr (為那般) それによって。一13五  
挑兀別兒 teü'ü·bēr (同上) 同上。八19十, 39九  
脱阿 to'ā (数, 数目) 数。〈→脱安, 脱幹〉九48六, 八; 三1三, 39一, 四  
-班 -bān 七18三  
\*脱阿[黒]答- to'ā·gda- (被数) [to'ā-の受動形]  
-周 -ju 一15六  
脱安 to'ān (数) 数。〈→to'ā, to'ō〉一15二  
脱必察兀惕 tobiča'üd (西馬每) アラビア馬。[tobičagの複数形] 三27二  
\*脱迭額- töde·'ē- (止当) 止める。[töde- '止まる'の他動詞形]  
-周 -jü 七47一; 三35八  
脱中豁阿泥 togo'an·i (鍋) [togo'an<→togo'ō〉の対格形] 三35九  
脱中豁幹惕 togo'ō·d (鍋每) [togo'ō<→togo'ā〉'鍋'の複数形] 四4十  
脱中鶴舌刺兀泥 togura'ün·i (鶻鶻) [togura'ün '鶻'の対格形] 三18三, 十  
脱歌舌里該 tögorigai[→gei] (円) 普ねぎ。八18三  
脱古門 tögü[→kü]m·ün (徭的) [töküm '盆地'の属格形] 一5三  
脱勒格 tölge (卦) 占い。  
-突舌兒 -dür 八21六  
脱勒格赤捏 tölge·či·n·e (卜人行) [tölge·čin '占い師'の与位格形] 三21四  
脱勒格列兀魯- tölge·le·'ül·ü- (教卜) [tölge·le- '占う'の使役形]  
-額速 -'ēsü 三21四  
\*脱勒乞思- tolkis- (震動波浪) 波立つ。  
-塔刺 -tala 一37八  
脱列惕 töled (替頭) 代りに, 代って。三47十 [\*töle-に同時接合語尾 -d (複数形) が  
ついた形]。  
脱里 toli (指彈) 指の腹。六34二  
脱羅 tolog (大種) 大氈。七9五  
\*脱那- tono- (剝脱) 剥ぎ取る。  
-主為 -ju'üi 四18四  
脱那黒 tono·g (同上) 剥ぎ取られたもの。七4四, 35五  
脱那黒臣 tono·gči·n (剝脱的毎) 剥ぎとるところの。七35五  
脱幹 to'ō (数, 正数) 数。〈→to'ā(n)〉六18四  
-秃 -tu 十19五  
\*脱幹- to'ō- (算) 数える。  
-来 lai 五32二  
\*脱幹刺- to'ō·la- (数) 数える。〈→脱兀刺-〉

- 周 -ju 一16三  
\*脱幹刺勒都- to'ō·la·ldu- (共数) [to'ō·la-の対動形]  
-阿速 -'äsu 六18四  
-罷 -ba 六18四  
-周 -ju 七18三  
\*脱幹刺兀魯- to'ō·la·'ül·u- (教数) [to'ō·la-の使役形]  
-舌命 -run 一15二  
\*脱幹(舌)里- tö'ōri- (迷) 迷う。  
-罷者 -ba[→be]~je 九8五  
\*脱幹舌里- to'ōri- (転) 転る, 転戦する。  
-恢[→(中)灰] -küi[→qui] 六3五  
\*脱幹舌鄰- to'ōri·n (周匝, 繞) [to'ōri-の同時接合副動詞形] 十40六, 九  
\*脱幹舌里中合- to'ōri·ca- (繞) [to'ōri-の他動詞形]  
-周 -ju 七34九  
脱幹舌里中罕 to'ōri·ga·n (繞着) [to'ōri·ga-の同時接合副動詞形] 七35二  
脱幹孫 to'ōsun (塵) 砂塵。七2七, 八, 14六, 七  
脱中忽兀勒 toqu·'ül (教輔) [toqu- '鞍を置く'の使役·命令形] 二41九  
\*脱舌兒答- tor·da- (被碍) [tor- 'つかえる'の自発形]  
-由 -yu 七38一  
脱兒古惕 törgü[→kü]·d (家) [törküm '実家'の複数形] 一42二  
脱舌兒魯黒 torlug (ナツ) 木偶。七10四, 八, 13七  
脱舌兒中合惕 torga·d (段匹, 段匹毎) [torgan '緞子'の複数形] 十13三, 五  
脱舌兒中罕 torga·n (紵絲) 緞子。四17三  
\*脱舌列- töre- (生) 生れる。〈→脱舌劣-, 脱舌羅-, 染舌劣-〉  
-罷 -ba[→be] 一14二, 24八, 41五  
-畢 -bi 一41六  
-額速 -'ēsü 六52六, 七; 三31八, 33七  
-克先 -gsen 一1三, 六, 10九, 25七, 27四, 28五, 29六, 46八; 二5十; 三  
37八; 七10四, 16一, 38九; 三20十, 21四, 25二, 四  
-(克)先 -gsen 一5七, 6七  
-古 -gü[→kü] 三33八  
-古因 -gü[→kü]-yin 三23十  
-古魯額 gü[→kü]-lü'e 八33四  
-周 jü 二5七  
-主為 -ju'üi 一40八, 九  
-恢突兒 -küi-dür 一40八  
-中灰[→恢]突舌兒 -qui[→küi]-dür 九5九  
-中灰[→恢]魯額 -qui[→küi]-lü'e 九6二

- 列埃 -le'ai[→ēi] ㄊ24十  
-里吉 -ligi ㄋ11四
- \*脱(舌)列- töre- (同上) (→脱舌劣-, 脱舌羅-, döřö-)  
-罷 -ba[→be] ㄋ25九, 40十  
-周 -jü ㄋ19五
- \*脱舌列勒都- töre·ldü- (共生) [töre-の対動形]  
-克先 -gsen ㄋ33二
- \*脱舌列兀勒- töre·'ül- (生) [töre-の使役形]  
-畢 -bi ㄋ7二, 24五
- \*脱舌列兀魯- töre·'ül·ü- (生, 教生) [同上]  
-克先 -gsen ㄋ74八一  
-列額 -le'e ㄋ710四
- \*脱舌列温勒- töre·'ül(n)l- (生) [同上]  
-畢 -bi ㄋ10五, 11二, 12七
- \*脱舌劣- törö- (生) (→töre-, döřö-)  
-克先 -gsen ㄋ57五
- \*脱舌羅- törö- (同上) [同上]  
-恢突兒 -küi-dür ㄋ41七
- \*脱舌羅勒都- törö·ldü- (共生) (→töreldü-)  
-克先 -gsen ㄋ96二
- 脱舌命 törü·n (生) [töre-, törö-の同時接合副動詞形] ㄋ16九  
脱舌列 töre (道理) 筋道, 制度。 (→döre) ㄋ46五, 47一  
脱舌列勒乞 törelki (生) 生まれつき。  
-突舌兒 -dür ㄋ19二
- \*脱舌里楊- törid- (止) とどまる。  
-抽 -čü ㄋ723四, 六
- \*脱舌里楊格- törid·ge- (教止止住, 止) [törid-の他動詞形]  
-額速 -'esü ㄋ438九  
-主為 -jü'üi ㄋ746四, 八  
-舌命 -rün ㄋ746四
- 脱舌劣 törö (道理, 理, 体例) (→dörö) ㄋ46九; ㄋ917七; ㄋ51四  
-宜 -yi ㄋ39七; ㄋ928八
- 脱(舌)劣 törö (道理) (同上)  
-迭徹 deče ㄋ633七
- 脱舌羅命 torolu·n (疾靈) [torolu- 'めぐる' の同時接合副動詞形] ㄋ735二  
脱舌魯勒乞 törü·lki (生像) (→törelki)  
-秃 -tü ㄋ20七, 八
- 脱舌魯勒米石 törülmiši (ナツ) 支配下の。ㄋ710五
- 脱舌命勒乞 törü(n)·lki (生的) (→törlülki, törelki) ㄋ19四  
脱孫 tosu·n (蘇油) 油。ㄋ24九  
\*脱兀刺- to'ü·la- (数) (→to'öla-)  
-周 -ju ㄋ1三
- 脱兀舌兒中合 to'ürga (帳裙) 帳幕。  
-秃 -tu ㄋ24二
- 脱兀速泥 to'usun·i (塵土行) [to'usun '砂塵' の対格形] ㄋ62三  
脱宜 toyi (陳勢) 支配力, 統率力。ㄋ63五  
\*脱亦楊- toyid- (撥) 自分の足を相手の足に掛ける。  
-抽 -ču ㄋ427二
- 秃卜連 tüb·le·n (面北) [tüble- '北面する' の同時接合副動詞形] ㄋ910四  
\*土卜失魯客- tübši·d·ke- (教平) 平定する。  
-罷 -ba(→be) ㄋ18四
- 土卜申 tübšin (平安) 平和な。ㄋ26四  
\*土別- tübe- (配) とつぐ, 配する。  
-周 -jü ㄋ320十
- 土不舌里温 tübüri'ün (震的声) 馬の蹄の音。ㄋ242八  
秃不兀的 tüb·ü'üd·i (大槩行) [tüb '基盤' の複数・対格形] ㄋ532二  
土奔 tüb·un (中的) [tüb '中, 中央' の属格形] ㄋ929一  
秃中合(舌)刺 tudqar·a (使喚行) [tudqar '使役者' の与位格形] ㄋ23四  
秃中合舌里 tudqar·i (ナツ) [tudqar '使役者' の対格形] ㄋ346五  
秃黑 tuG (旄纛) 旗旄, 纛。ㄋ642三; ㄋ722六; ㄋ824五; ㄋ14八; ㄋ393七  
-壇 -tan ㄋ63七
- 秃乞顔 tug·iyān (英頭自的) [tuG の再帰格形] ㄋ37七, 8三  
\*秃黑刺- tug·la- (莫頭拿) 纛をたてる。  
-周 -ju ㄋ24九
- 秃中合舌兒 tuGar (恰纜) さっき。ㄋ549二  
秃中合舌刺察 tuGar·ača (同上) [tuGar の奪格形] ㄋ21四  
秃中合舌命 tuGar·un (恰纜, 恰纜的) [tuGar の属格形] ㄋ21七; ㄋ331五; ㄋ549七  
秃中合中命[→舌命] tuGar·un (恰纜) [同上] ㄋ14二
- \*土格- tüge- (儘勾) つぐ; 配る。(→土客-)  
-帖列 -tele ㄋ234一
- \*秃格- tüge- (勾) 同上。  
-帖列 -tele ㄋ74三
- \*秃格額- tüge·'ē- (給散) 分け与える。(→土客額-)  
-額坤 dkün ㄋ910二  
-額速 -'esü ㄋ99九  
-舌命 -rün ㄋ15五

- 秃該 tügai[→gei] 十5五  
 \*秃格額勒都- tüge·'ē·ldü- (共散, 共散与, 教共給散) [tüge·'ē-の対動形]  
 -罷 -ba[→be] 七4二  
 -周 -jü 七4二  
 -秃該 -tügai[→gei] 十8八, 十  
 秃中忽倫 tuGul·un (犢的) [tuGul '仔牛' の属格形] 七28二  
 \*秃客- tüke- (給散) <→tüge-  
 -秃該 -tügai[→gei] 十5四  
 \*秃客額- tüke·'ē- (給散) <→tüge·'ē-  
 -舌倫 -rün 九9五; 十5三  
 \*秃乞舌兒- tükir- (峻) けしかける。  
 -抽 -čü 三47一  
 秃客勒 tükel (平安) 平和な。三26四  
 \*秃勒巴勒- tulbal- (劈破) きりさく。  
 -罷 -ba 三24一  
 秃勒巴思 tulbas (倒) [副詞の様態言] どっと (倒れる)。三21三  
 秃勒八思 tulbas (同上) 同上。十37二  
 秃刺 tula (上頭) ので。一27五, 八, 28一, 三; 二18十, 32四, 50四<sup>2</sup>; 三39四; 四7二, 六, 9六, 26一, 50八; 五9九, 10四, 21一; 六26十, 52四, 53一, 三; 七1四, 2七, 3六; 八21十, 29八, 39八, 41四, 43九, 45九, 十; 九2七, 7五, 20十; 十21九, 30六, 43五, 六; 三30八, 51四; 三12九  
 秃(舌)刺思填 tura·s·tan (方牌有的毎) 盾をもった (複数形)。四37七  
 \*土列- tüle- (燒) 燃やす。  
 -周 -jü 二23七  
 \*土烈- tüle- (同上) 同上。  
 -周 -jü 七23八  
 \*秃列- tüle- (同上) 同上。  
 -周 -jü 十10三  
 \*土烈兀勒- tüle·'ül- (教燒) [tüle-の使役形]  
 -罷 -ba[→be] 七24八  
 -周 -jü 五29十; 六29二  
 \*土烈兀魯- tüle·'ül·ü- (同上) [同上]  
 -楊坤 -dkün 七24六  
 -額魯 -'ed 六14三  
 土烈食連 tüle·ši·le·n (做燒飯) [tüle·ši·le- '食物にする' の同時接合副動詞形] 五31八  
 土烈失連 tüle·ši·le·n (同上) [同上] 六29五  
 \*秃里- tüli- (盖) 押す。  
 -周 -jü 十42十

- 秃魯 tulu (柱脚) 支柱, 支え。十37一; 三21二  
 秃魯黒 tulug (倚仗) 拄杖。五44二  
 秃(舌)魯黒 tulug (同上) 同上。五42九; 六37三; 九26四  
 \*土木不刺- tumbu·la- (為頭) 筆頭とする。  
 -周 -ju 六5六  
 土木不闌 tumbu·la·n (同上) [tumbu·la-の同時接合副動詞形] 六5五  
 秃木蒼阿 tumda·'ā (円全) 全て。<→tumtag·ā, tundaG·ā, 屯蒼合> 七1十  
 土木塔中合 tumtag·ā (完全行) 完全に。<→秃木蒼阿, 屯蒼合> 八45三  
 土篋 tüme (万) 万。八41九  
 土篋魯 tüme·d (万, 万毎) [tüme(n) の複数形] 三2九, 十, 4八, 十, 10二, 11十; 四3十, 4五  
 土篋敦 tüme·d·ün (万的, 万戸的, 万毎的) [tüme·d の属格形] 九30十, 31一, 32三; 十15六; 三13九, 16十, 52三  
 \*秃篋列- tüme·le- (万做) 万戸をつくる。  
 -周 -jü 九30十  
 土篋訥 tüme·n·ü (万戸, 万戸的) [tümen の属格形] 三39六, 八, 九; 九4七  
 土綿 tüme·n (万, 万戸) 万, 万戸。三9二<sup>2</sup>, 三, 10七, 八; 五9三; 八38五, 40三, 42二; 三14六, 15三  
 秃綿 tüme·n (同上) 同上。九28十, 29一<sup>2</sup>, 31十, 39十, 40一; 十3七, 十, 14四, 六, 九, 15十, 23一, 25五  
 土綿的耶舌兒 tüme·(n)d·iyēr (万教) [tüme·d の造格形] 三10八  
 \*秃你- tuni- (完備) 解放する; なしとげる。  
 -黒三 -gsan 三35一, 六  
 秃舌兒格捏 türge·n·e (緊行) きびしく; はやく。<→秃舌兒古捏> 三22五  
 秃舌兒古捏 türgü·n·e (緊行) 同上。三21六, 九, 22四  
 秃舌兒魯黒 turlug (ナシ) 怯懦の。七29九  
 土舌兒中合黒 turGa·G (散班) 当直, 当番。七19六  
 秃舌兒中合黒 turGa·G (散班, 侍衛) 同上。九31四, 八, 九, 39五, 46八; 三18三  
 秃舌兒中合吉 turGa·G·i (散班毎行) [turGag の対格形] 十2八  
 土舌兒中合兀魯 turGa·'üd (散班, 散班的毎, 宿衛的) [turGag の複数形] 七18十, 20五, 十, 21二, 八  
 秃舌兒中合兀魯 turGa·'üd (散班, 散班毎) [同上] 九38四, 39八, 45十, 46五; 十2八, 9二, 四, 40九; 三14五, 36十, 37四  
 -魯阿 -lu'ā 九36十  
 土舌兒中合兀的 turGa·'üd·i (散班的) [turGa·'üd の対格形] 七19七  
 土(舌)兒中合兀的 turGa·'üd·i (護衛行) [同上] 六4三  
 秃舌兒中合兀的 turGa·'üd·i (護衛行, 散班, 散班行) [同上] 八43六; 九38六, 七, 九<sup>2</sup>, 十, 39四; 十9九; 三43五, 六, 七

秃(舌)兒中合兀的 turga'ūd·i (散班, 散班行) [同上] 九39一, 三  
 土舌兒中合兀的牙舌兒 turga'ūd·iyār (ナン, 依着, 護衛領着) [turga'ūd の造格形]  
 四3十; 六9四  
 土兒中合兀的顔 turga'ūd·iyān (伴当的毎) [turga'ūd の再帰格形] 二13五  
 秃舌兒中合兀敦 turga'ūd·un (護衛的, 散班的, 散班毎的) [turga'ūd の属格形] 六  
 4四, 5八; 九37五, 40九; 十9一; 三42十, 43二  
 \*秃舌里- türi- (推, 推動) 追い上げる。  
 -周 jü 四11四, 12四; 三30一  
 土舌林台 turimtai (竜多兒) 雀鷹。二23四  
 \*秃舌魯- turu- (瘦) やせる。  
 -埃 -'aj 八7八  
 -黑撒泥 -gsan-i 六28四  
 -周 -ju 五12二; 三13七  
 秃舌魯黒 turug (遠, 久遠) 久しく。八20五, 40九  
 土舌魯訥 türün·ü (始初的) [türün の属格形] 五17八, 九  
 土舌魯中合魯 turuqad (瘦, 瘦毎) やせた。[turqan の複数形] 五46九; 七15五, 七,  
 23二, 26五, 27一  
 秃舌命 turu·n (瘦) [turu-の同時接合副動詞形] 八7十  
 秃舌命 türün (初) 以前, かって。三17三  
 圖思 tus (正主) 当該の; 自分の。五5七, 十, 6五, 7三, 六, 八; 六51六, 52一;  
 七7九; 八13七, 九; 九27八, 28一, 四, 七  
 圖昔顔 tus·iyān (正主自的) [tus の再帰格形] 五5八  
 圖速安 tus·u'ān (同上) [同上] 三56十  
 \*秃思- tus- (到, 要打) 当る, 命中する。  
 -抽 -ču 三22九  
 -中忽阿察 -qu-ača 十34七  
 \*土思答- tus·da- (被著) [tus-の受動形]  
 -周 -ju 六13十  
 \*秃思答- tus·da- (被中, 被射) [同上]  
 -阿速 -'asu 九16五  
 -周 -ju 八2九  
 土撒 tusa (濟, 恩, 息) 助け。二33八, 34一, 二; 三4七; 四15八, 47七; 七3五,  
 九, 16一; 八15六, 九, 18六, 28三, 四, 33五, 34三, 43一, 44二, 45八,  
 47一; 九6一, 16三, 17三, 21十, 23六  
 -昔 -s-i 四43九  
 -孫 -s-un 八29八, 46九  
 -塔納 -tan-a 八27八  
 -宜 -yi 四15九; 八34一

-因 -yin 六25七, 53三; 七1四, 2七; 九20十  
 秃撒 tusa (恩) 同上。九11九  
 \*土失 tüši- (委付, 伸頸) 任命する。  
 -罷 -ba[→be] 三49八; 七18五, 六, 八; 八30十; 三51五  
 -額魯 -'ed 八27七  
 -周 -jü 四20八; 七21八; 八24十; 九30十, 31一; 三14十, 37二, 51一; 三20二,  
 四, 33十  
 -舌命 -rün 三40八, 43三  
 -速 -sü 七49二  
 -耶 -yē 九28九  
 \*秃失- tüši- (委付) 同上。  
 -罷 -ba[→be] 十10一, 25七, 八, 九, 26三, 四<sup>2</sup>  
 -周 -jü 九41六  
 -舌命 -rün 九40四; 十18九  
 \*委[→秃]失- üj[→tü]ši- (同上) 同上。  
 -罷 -ba[→be] 十26五  
 土申 tüši·n (同上) [tüši-の同時接合副動詞形] 六6二; 八25一; 三22六  
 土失牙魯敦 tušiyaldū·n (相对) [tušiyaldū-‘ぶつかる, 戦う’の同時接合副動詞形] 六3十  
 \*土速魯察- tus·u·lča- (猛到) [tus-の相動形]  
 -罷 -ba 三15十  
 \*秃速舌兒- tüsür- (注, 傾) 注入する。  
 -抽 -čü 三48三  
 -出為 -čü'üj 四6十  
 -仄[→恢] -qui[→küj]-yin 四7二  
 \*秃速舌魯- tüsür·ü- (傾) 同上。  
 -額魯 -'ed 二22九  
 -由 -yü 四7四  
 秃速舌兒格 tüsürge (甕, 酒局) 酒入れ。四6十, 7二; 十5八; 三42七  
 -因 -yin 十38五  
 秃速(舌)兒格 tüsürge (酒局) 同上。  
 -因 -yin 九10三  
 \*秃塔黒答- tutağda- (被欠) 欠ける, 足りなくなる。  
 -周 -ju 九30二  
 \*土薩阿- tuta'a- (走, 逃走) 逃げる  
 -周 -ju 六24四, 26二; 七43八, 45六  
 -主兀 -ju'ü 五23七  
 -中忽 -qu 五28七  
 \*秃塔阿- tuta'a- (走, 逃) 同上。

- 罷 -ba ㄊ39六  
-主兀 -ju'ü 六48八
- 土秃木 tutum (毎遍, 毎) ~毎。〈→tutum〉 六3五<sup>2</sup>  
-突舌兒 -dur 九8十
- 秃秃迷 tutum·i (毎行) [tutumの対格形] 八18四
- 土屯 tutun (毎, 各, 各各) 〈→tutum〉 -17三, 四, 35七, 八; 四25九; 五20七; 七23八; ㄊ47八  
-突舌兒 -dur ㄊ53九
- 秃屯 tutun (毎裏) 〈同上〉 九22二
- \*秃兀- tu'ü- (落) (鳥などが) とまる。  
-巴 -ba -43六  
-罷 -ba -43九
- \*秃兀(舌)兒必- tu'ürbi- (做) 試みる, 行う。  
-阿速 -'äsu 十18八
- 秃牙勒 tuyal (羣鳥, 雀羣) 雀の一種。十37二; ㄊ21三
- \*秃亦揚- tüyid- (遮) 妨げる。  
-抽 -ču 十36三
- 拖亦蘭 toyi·la·n (ナシ) [toyi·la- '宴をはる' の同時接合副動詞形] 三28八
- \*推(揚)- tüjd- (生) 妨害する。  
-恢突舌兒 -küi-dür 七47七
- 屯 tün (林) 林。二17八  
-突舌兒 -dür 四6八, 18九  
-納 -na[→ne] 三1三; 五36八; ㄊ52七  
-捏 -ne 二39六; 六25五, 27五  
-泥 -ni 二18七; 三25四  
-圖兒 -tür -31五
- 屯蒼中合 tundag·ā (全) [tundag〈→tumdag, tumtag〉 'ひとまとまり' の与位格形] 〈→秃木蒼阿, 秃木塔合〉 八5一
- \*統中合- tungqa- (伝, 伝布, 宣布) 伝達する, 公布する。  
-罷 -ba 七24六  
-舌命 -run 九32二, 41七, 45十
- \*統中合阿- tungqa·'ā- (伝, 宣布, 宣諭) [tungqa-の使役形]  
-周 -ju 五23五; ㄊ18五  
-舌命 -run ㄊ38二
- 統中合黒 tungqa·g (伝説) 布告。五20四
- 統中渾 tungqu·n (作新) [tungqu-'改めて行う' の同時接合副動詞形] ㄊ37一
- \*統中忽勒都- tungqu·ldu- (重新, 共重新) [tungqu-の対動形]  
-周 -ju 三26一, 27八

## y

- \*牙阿舌刺- ya'āra- (忙) 急ぐ。  
-周 -ju 四41五, 47九; 八35九  
-中忽 -qu 四47九  
-由 -yu ㄊ23九
- 牙阿舌刺勒 ya'āra·l (同上) 急ぎ。〈→ya'āra(n)l〉 ㄊ38三
- 牙阿舌蘭 ya'āra·n (同上) [ya'āra-の同時接合副動詞形] 四48二
- 牙阿舌蘭勒 ya'āra(n)·l (急忙) 〈→ya'āral〉 九47十
- 逐步 yabu (行) [yabu-の命令形] -20九, 35十; 四50九; 六40四; ㄊ23六
- \*逐步- yabu- (行) 行く, 進む; (時が) 経過する, 暮す; 仕える。  
-阿魯 -'ād 六45四; 七22八, 31五  
-阿速 -'äsu 八8十, 10十, 14九, 15一  
-罷 -ba ㄊ7三; 24六  
-罷者 -ba-je 六36三; 八17七, 18一, 41一; 九8七, 23八, ㄊ24五, 七  
-巴速 -bäsu 二22十  
-揚 -d 七34一  
-揚中渾 -dqun 二3三; 八9六; ㄊ42五; ㄊ8四, 43十  
-蒼黒 -dac 五43一  
-周 -ju -21三, 37十, 48四; 三29十, 38二; 四34三; 五25十, 28六; 六12八; 七27三, 四; 八21三, 36八; 九2七, 10一, 13五, 34九, 46三; 十5九; ㄊ51九; ㄊ35二, 37五, 40五  
-主兀 -ju'ü 五26四  
-主為 -ju'üj 四34八; ㄊ38五  
-(舌)灰 -quj ㄊ26二  
-(舌)灰班 -quj-bān 九34六  
-恢[→中灰]突舌兒 -kuj(→quj)-dur 五14一; 六18九  
-刺阿 -la'ā 五4三, 26二  
-魯阿 -lu'ā 六4九, 6四, 35八  
-木 -mu -9五; 五15一  
-黒三 -gsan 四50三; 十19四, 八  
-黒撒阿舌兒 -gsa'ār 三35九  
-黒撒揚 -gsad ㄊ36十  
-黒撒你顔 -gsan-iyān 五14十  
-中忽 -qu 四8九; 八44四; 九47二, 49三; 十19二; ㄊ38八  
-中忽宜 -qu-yi -9二; 五23七; 八42四  
-中忽牙 -quya[→quj-a] ㄊ52九

- 中灰 -quj ㄊ26六  
 -中灰班 -quj-bān 九42六  
 -中灰突舌兒 -quj-dur 三15二, 四, 五; 四45六; 五28五; 六2二, 12四, 49一; 八8三  
 -中灰突(舌)兒 -quj-dur 九13六; 十7五  
 -中灰顏 -quj-yān (-qu-iyān) ㄊ44六  
 -中灰宜 -quj-yi 四9三  
 -中渾 -qun 三15二; 九32五, 48七, 八; 十18三; ㄊ42三; ㄊ15二, 37三, 十, 39三<sup>2</sup>  
 -舌刺 -ra 十18二  
 -舌命 -run 五14六, 30五  
 -塔刺 -tala 八38一  
 -秃中孩 -tucaj 七21三; 八8九; 九48五, 六; 十6二, 7十, 8九, 9三, 五, 六, 八, 10三; ㄊ37三, 39二<sup>2</sup>, 40  
 -秃(中)秃孩 -tucaj 八42四  
 -牙 -yā ㄊ5五  
 -由 -yu 五13二; 六38九, 41十; ㄊ17九
- \*迓步黑蒼- yabu-gda- (可行, 被行) [yabu-の受動形]  
 -中忽 -qu 九2九  
 -舌命 -run ㄊ39二
- \*迓步勒都- yabu-ldu- (共行, 共行來) [yabu-の對動形]  
 -罷 -ba 一18五  
 -黑撒魯塔 -gsad-t-a 八24九 [yabucsad の与位格形]
- \*迓步兀勒- yabu-'ül- (教行, 行) [yabu-の使役形]  
 -罷 -ba 四33三, 四  
 -周 -ju 四35五; ㄊ21一  
 -中忽泥 -qun-i 九33二
- 迓奔 yabu-n (行) [yabu-の同時接合副動詞形] 四35九; ㄊ14六  
 迓步蒼勒 yabu-dal (行, 行動, 行止, 行程) 行為。九46一; 十21七; ㄊ37一, 49一  
 -壇 -tan 十2五, 7九
- 迓步中合魯 yabu-gad (步行) 徒歩の(者)。[yabuganの複數形] 二27十  
 迓步中合的牙兒 yabu-gad-iyār (步行着) 徒歩で。[yabugadの造格形] 二46五  
 迓步中罕 yabu-gan (步行) 徒歩で。二28三; 十33九, 34一, 三, 35七  
 迓步(中)罕 yabu-gan (同上) 同上。六12四
- \*迓蒼- yada- (不能, 不得) できない。  
 -阿速 -'āsu 十19五  
 -罷 -ba 一12三, 40二; 二48三; 五15五; 六45十; 七4六; 九28六  
 -罷者 -ba-je 六36一

- 黑三 -gsan 五7八; 九28七  
 -周 -ju 一9五; 三30四, 十; 四13七, 35九, 39十, 40二; 五6五, 7四, 28三, 43五; 六6四, 34九, 36二, 42七, 48十, 51七, 52一; 七43八; 八2十, 3一, 三, 17七, 十, 44十; 九27六, 28二; ㄊ3一, 52四; ㄊ3一
- 主為 -ju'ūj 二48五  
 -木 -mu 七29四  
 -木者 -mu-je ㄊ9三  
 -梅 -muj 十30九  
 -梅者 -muj-je ㄊ9二  
 -中忽 -qu 二11六; 五2六; 七29十  
 -中忽宜 -qu-yi 九16八  
 -忽由 -quyu[->quj-ū] 五4四  
 -(中)灰宜 quj-yi 七29四  
 -舌命 -run 七27八, 28三  
 -塔刺 -tala ㄊ10一; ㄊ46三  
 -由 -yu 六23二, 五
- \*牙蒼黑蒼- yada-gda- (被不敢) [yada-の受動形]  
 -周 -ju 四2十
- 牙丹 yada-n (不得, 不能) [yada-の同時接合副動詞形] 二9九, 12五; 四27六; 六4九, 45三; 八17六; 十29六; ㄊ35六
- \*牙怛- yada(n)- (不得, 不能, 貧乏, 窮乏) 全上 <->yada->  
 -周 -ju 二11十, 14四; 五11七, 14六, 八; 六29五, 八, 27三, 45三; 51二; 九12八
- 牙当吉 yadangi (窮乏) 窮乏した。一9二  
 牙舌刺 yara-n (傷, 傷痕) 傷。  
 -秃 -tu 二4三  
 -秃宜 -tu-yi 六10一  
 -昔顏 -s-iyān 六18十
- 牙速 yasu (骨頭, 骨) 骨。七43三; 八2十, 22八, 十  
 -秃 -tu 三21三; 五1三
- 牙速訥 yasu-n·u (骨頭的) [yasunの屬格形] 十21九  
 牙孫 yasu-n (骨殖, 骨, 骨頭) 骨。六19三; 八20四  
 -魯阿 -lu'a 七16二
- 牙兀 ya'ū (怎, 甚, 如何) どんな, いかなる。一11十; 四20五; 五26一, 五, 40九, 49二; 六11五; 八13二, 五, 36五, 42四; 十37六; ㄊ16四, 22四, 29八, 31一, 二; ㄊ20一, 35六
- 牙兀 ya'ū (甚麼, 物件, 物件等) 何。三31一; 五15十, 16一, 18八, 26四, 27七, 41七; 六1四, 6三, 7七, 20四, 21十; ㄊ15二, 16三, 31一, 三, 32三



## 568 元朝秘史蒙古語辞典

-巴 -ba 三40一

-揚 -d 七33三, 四, 35一

-壇 -tan 七12四

牙兀真 ya'ü·jin (甚氏) [ya'ü の女性形] 一22九

牙兀納 ya'ü·n·a (甚麼行) [ya'ün の与位格形] 一20十, 21二; 四9二; 五43六

牙兀訥 ya'ü·n·u (甚的) [ya'ün の属格形] 一12八

牙兀訥埃 ya'ü·n·u·'ai (甚的) 何のもの。一18三

牙温 ya'ü·n (甚麼, 有甚) どんな, いかなる。一9四, 15六, 18四, 21四, 44二, 二34二, 十, 44十, 46八; 三39八; 四7七, 41二, 43二, 45九; 五5九; 25七; 六21四; 七10一, 15十, 29七; 八9十, 18六, 28四, 五; 十30二, 35七, 36一; 十22四, 52六

才[→牙]温 tsaj[→ya]'ü·n (甚麼) 同上。五48五

鬮巴兒 yam·bar (甚麼) どんな, なんらかの。一43九

鬮巴舌兒 yam·bar (甚麼, 怎, 怎生) 同上。四1七, 41三; 五19八, 48三; 六31六; 八29四, 44一; 九8七, 23十; 十36七; 十22十, 30九; 十19六

也古兀者埃 yegü·'üje'ei (休) [yegü-'けなす' の懸念形] 二8三

也客 yeke (大) 大きな。一21八, 27七, 八, 30五, 37九, 46五; 二2一, 18五, 30四, 36十, 45一; 三38七, 八; 四7七, 15八, 十, 40二, 45七, 46十; 五3三, 四, 4七, 19二, 21一, 二, 27四; 六4五, 5十; 七9二, 11二, 13七, 16四<sup>2</sup>, 九, 28十, 32九, 47四, 49二; 八1三, 43七, 44二, 46五; 九10三, 28八, 40二; 十5八, 7七, 18二; 十4三, 四, 17二, 18十, 19六, 29六, 35八, 37一; 十5四, 五, 16九, 23二, 29四, 32六, 54十, 56一, 58五

-迭 -de 五24十; 七38六

-思 -s 十2八, 十; 十20四

-薛 -s-e 二1八

-孫 -s-un 二2一

-台 -tai[→tei] 一4十

-禿 -tü 七16三

-亘 -yi 六48八

也客只列- yeke·jile- (做大) 尊大にかまえる。

-坤 -kün 五46六

也客只連 yeke·jile·n (大做) [yeke·jile-の同時接合副動詞形] 五38十, 39四

\*也乞- yēki- (做甚, 做甚麼) どうする。

-克薛 -gsed 十36四, 37六

-坤 -kün 五5一, 41六

-兀澤 -üjaj[→jei] 五3七

-兀者 -üje 七11八

\*耶乞- yēki- (做甚, 怎做) 同上。

-別 -be 十29十

-坤 -kün 七15五

也勤 yēki·n (如何, 為甚) [yēki-の同時接合副動詞形] 一13四, 六, 14五; 二2二, 8三, 七, 10一, 三, 23二, 五, 30八; 四1五, 七, 41九, 47七, 九; 五6十, 31一, 42八, 43四, 十, 46七; 六21六, 七; 七6七, 15七, 八, 29四, 35三, 44四, 46十; 十36六; 十11十, 15十, 16九, 23九, 28五, 45六, 46八

也琴 yēki·n (怎地) [同上] 九15二

也舌連 yeren (九十) 九十。八27一, 六

也舌速[→舌連] yesüren (同上) 同上。十3六

也速<sub>楊</sub> yesü·d (九) 九。[yesün の複數形] 十9九, 十<sup>2</sup>, 10一也孫 yesü·n (九, 九箇, 九次) 一41六, 42一; 二9六, 15九, 36七; 七38二, 七; 八24三, 29八, 38三; 九6五, 17五, 24八; 十23三, 33一, 35四; 十9九, 十<sup>2</sup>, 10一

-帖 -te 二51五

\*也兀<sub>楊</sub>格- ye'üd·ge- (交換, 交代) 交代する。

-周 -jü 九47五

-恢 -küi 十4五

\*也兀<sub>楊</sub>格<sub>都</sub>- ye'üdge·ldü- (替換) [ye'üdge-の對動形]

-周 -jü 七21六

\*也兀<sub>楊</sub>客- ye'üdke- (換, 更改) 改めさせる。

-周 -jü 八37八

-坤 -kün 八31五

-禿該 -tügaj[→gei] 八31五

\*也兀<sub>楊</sub>客<sub>都</sub>- ye'üdke·ldü- (交班, 交換) [ye'üdke-の對動形]

-中灰[→恢]突舌兒 -qui[→küi]-dur 十45一

-舌倫 -rün 九47四

-禿該 -tügaj[→gei]

\*約兒赤- yorči- (去) 赴く。

-罷 -ba 一42三; 二4九, 9五, 22四, 25一, 27十, 29三; 四28六

-周 -ju 一15九<sup>2</sup>, 20六; 二35六

\*約舌兒赤- yorči- (同上) 同上。

-罷 -ba 六14八; 十8一

-畢 -bi 五22十

-周 -ju 五11四, 48八, 49六, 50三; 六27二; 七5九, 32二; 十27九, 28八; 十39七

主兀 -ju'ü 八3二

-主為 -ju'üi 八4二

-牙 -yā 五49八

約舌兒赤勒 yorči-l (行) yorči-すること。七32二

約舌里顔 yor-iyān (響饜頭) [yor ‘骨製或いは木製の鐃矢のやじり’の再帰格形] 三26八

約速 yosu (道理, 理) 筋道。五37一; 九28七; 二17三, 50六; 三56四, 七

-阿舌兒 -'ār 五11九, 36十; 六27五; 七21五; 八9六; 九33十, 46十; 二37九; 三14八, 17三, 37三, 四, 44二, 45三

-阿(舌)兒 -'ār 九43二

-塔泥 -tan-i 八30八, 九

-台 -taj 二2八, 九

-壇 -tan 九43六, 七; 十44二

-禿 -tu 三45九, 十

\*約速刺- yosu-la- (譏擬) 筋道をたてる。

-周 -ju 八31四

約孫 yosu-n (理, 道理) 筋道。一6八, 38五; 二38六; 三16七, 26十, 27七; 四25三, 26一, 51一; 五9八, 36九; 六27六, 38四, 39一; 九19九; 十21一, 31六, 36七; 三51四; 三17五, 18七, 24十

-突舌兒 -dur 六31七; 三50七

約兀舌兒中合 yo'ürga (牆) 壁。三57六

-禿 -tu 八31九

## 元朝秘史全訳語句・事項総索引

### 凡 例

本索引は『元朝秘史全訳(上・中・下)』及び『元朝秘史全訳続攷(上・中・下)』に於て施された数多の註の検索の便をはかるために作成されたものである。本索引の利用に当り、以下のことに御留意願いたい。

- (1) 索引の排列はa, b, c, ……順によった。
- (2) 索引中の(上), (中), (下)は『元朝秘史全訳』の上巻, 中巻, 下巻を示し, (続上), (続中), (続下)は『元朝秘史全訳続攷』の上巻, 中巻, 下巻を示す。例えば, 「(上) p. 80, 195」は「『全訳』の上巻の80頁及び195頁」の意味であり, 「(続上) p. 358」は「『全訳続攷』の上巻の358頁」の意味である。
- (3) 索引中の「~」は見出し語の重出を示す。例えば, 「阿主兀 a-ju'u (上) p. 17, 30…」の項のすぐ下行の「~の, 推測の意(ようだ)を表わす用法」は「阿主兀 a-ju'u の, 推測の意(ようだ)を表わす用法」の意味である。
- (4) キリル文字による現代モンゴル語の語句及び事項は当該の諸項の末尾に排列した。例えば, 「бай-, байз, байна」等は「b」の項の項末にбай-, байз, байнаの順に——即ちキリル文字のアルファベットの順に——排列した。
- (5) 語句でなく事項についての註は当該の諸項の最後に——即ちキリル文字の語句の次に——一括して示した。例えば「語幹末音決定原理」はgの項の最後部に置かれている。

## a

- 阿- a- (存在動詞) の意義素 (上) p. 80, 195, (中) p. 131, (続上) p. 358, (続中) p. 66, 225
- a-と bü- の意味のちがひ (上) p. 174, (続上) p. 58-59, (続中) p. 130, 225
- a-から派生された若干の語 (続上) p. 59
- a-と撒兀- sa'u- を連続して用いる表現 (上) p. 143, 183
- 阿黒撒阿舌兒 a-Gsa'ār (続上) p. 358
- 阿黒撒傷 a-Gsad (続上) p. 330
- 阿只埃 a-jī'āi (上) p. 21, (続下) p. 260
- 阿主 a-ju (続中) p. 65
- 阿岡別舌兒 兀窟岡別舌兒 a-ju ber ükü-jü ber (続上) p. 58
- 阿主兀 a-ju'ü (上) p. 17, 30, 107, 194, (下) p. 270
- ~の, 推測の意《ようだ》を表わす用法 (中) p. 165, (続上) p. 269
- ~の「~である」を表わす用法 (下) p. 76
- ~と不列額 bü-le'e (上) p. 257, (下) p. 77, (続下) p. 259-260
- 阿魯阿 a-lu'ā という形が用いられている理由 (上) p. 107, 194-196
- 阿塔刺 a-tala (上) p. 107
- 阿都中孩 a-tugaï の転写法 (中) p. 198, 375
- 阿秃中孩 a-tugaï (続下) p. 370
- 阿兀勒答 a-'ül-da- (続中) p. 61
- 阿牙 a-ya (続中) p. 65
- a/-e (与位格語尾) の意義素 (上) p. 42, 258, (続下) p. 117
- ~の形容詞を副詞化する用法 (下) p. 337, (続上) p. 342, (続中) p. 94
- ~の「~にある」と訳しうる例 (上) p. 23, (続下) p. 268
- ~の「~によって」を表わす用法 (中) p. 163
- ~の「~のために」を表わす用法 (上) p. 216, 262, (中) p. 15, 33, (続上) p. 92
- [(続下) p. 117, 404 も参照]
- a<sup>2</sup> 系語尾の解 (uqaĵu aqui-a の -a) (続下) p. 285-288
- [この -a/-e については -da/-de の項も参照]
- a/-e (「呼びかけ」) (続中) p. 171, (続下) p. 404
- a<sup>2</sup> (間投詞) (続下) p. 210
- 阿/-額 -'ā/'ē, ~ -埃 -'āi/'ēi (未完了の形動詞語尾) (上) p. 59-60, (下) p. 156, (続上) p. 92, 153, (続下) p. 159
- [-'ā<sup>2</sup>~ -'āi<sup>2</sup>] の全ての用例 (続下) p. 263-264
- [-'ā<sup>2</sup>~ -'āi<sup>2</sup>] の意義素 (上) p. 274, (中) p. 284, (続下) p. 264
- [-'ā<sup>2</sup>~ -'āi<sup>2</sup>] の終止形としての用法 (中) p. 254, (続下) p. 155

- 埃 不列額 -'āi/-'ēi bū-le'ē (続上) p.153-154  
 -阿 兀都為 -'ā üdü'ūi (続下) p.264  
 -埃 兀都為 -'āi/-'ēi üdü'ūi (続上) p.92, 153, (続下) p.264  
 阿ト-, 阿<不> ab-の補助動詞の用法 (上) p.167, (続上) p.136  
 ab-の factitive 形について (続中) p.12-15  
 阿ト抽 中合<舌魯> ab-ču gar- (下) p.163  
 阿ト中合兀勑- ab-qa-'ül- (続中) p.12-15  
 阿把 保兀- aba bau'ū- (続上) p.276  
 阿巴舌里- abari- (続上) p.332  
 阿ト赤舌刺- abčira- (上) p.100  
 阿必魯 abid, 阿必魯刺- abidla- (上) p.84-86, (続下) p.459  
 阿ト里中合 abliga (続上) p.206, (続中) p.225  
 阿備巴備 abui babui (続上) p.84  
 阿ト鄰 abulin (上) p.190  
 阿不舌里 aburi (続下) p.209, 364  
 阿不<舌蘭> abura- (上) p.220  
 -ača/-eče (奪格語尾)の「全体の中の一部」を表わす用法 (上) p.98, (続中) p.118,  
 (続下) p.63, 86, 325, 485-486  
 ~の「~からの」を意味する用法 (続中) p.89  
 ~の「~による, ~によつての」を意味する用法 (上) p.13  
 ~の「~を通して」と解せる例 (続上) p.308  
 ~の「するほど(の)」を意味する用法 (続下) p.157  
 ~の原因・理由を表わす用法 (下) p.294, (続中) p.81, (続下) p.289  
 ~と -dača/-deče の使い分けの原則 (上) p.12, (続下) p.395  
 阿察 ača 《与えよ, 呉れ》(中) p.172  
 阿赤<敦> ačid (続下) p.523  
 -'ad/-'ēd (副動詞語尾)の「逆説」の意味 (上) p.103, (続上) p.202  
 阿荅里中合- adali-d-qa- (続中) p.67  
 阿荅舌兒- adar- (下) p.304, (続上) p.127  
 阿荅舌兒中罕 adargan (続上) p.127  
 阿都兀 adu'ū, 阿都温 adu'ün (上) p.135  
 阿都温亦哇額<捏> adu'ün ide'ēn (上) p.186  
 阿都兀刺兀勑孫 adu'ūla-'ūlsun (続上) p.127  
 阿都孫 adūsun, 阿都兀孫 adu'ūsun (上) p.135  
 阿黑塔, 阿黑驕 agta (上) p.39, (下) p.39, (続上) p.23, (続中) p.67, (続下)  
 阿黑驕 agta を用いた比喩表現 (続中) p.87 [p.63, 462  
 阿黑驕昔顔 把舌里周 中豁那周 agtas-ıyan bariju qonoju (続上) p.59  
 阿黑驕壇 agta-tan の -tan の解釈 (中) p.77  
 -ai (動詞語尾 -u の複数形) (下) p.15, (続上) p.36, 329, (続下) p.260, 399 [u  
 の「-u/-ü, -i, -ai (動詞語尾)」の項参照]  
 -埃 -'āi/-'ēi 《~のもの》(上) p.158, (続下) p.262  
 埃莎亦魯黑 ai, soyilug (続上) p.138  
 阿只舌刺- ajira- (下) p.275  
 阿勑中渾 al-qun の al- について (続下) p.332  
 阿刺突舌兒 失額克帖額徹 ala-dur ši'ēg-te (続中) p.105  
 阿刺出<中合> alačuc (中) p.335  
 阿刺黑赤刺- alagčila- (続下) p.497  
 阿蘭中豁阿 Alan go'ā という名の由来 (上) p.75, (下) p.264  
 阿郎吉舌兒 atanggir (中) p.325  
 阿刺沙 alaša (続下) p.470  
 阿刺兀納, 阿刺閏納 ala'ün-a (下) p.309, (続中) p.206  
 阿勑荅- alda- (中) p.117, (続下) p.332  
 ~の補助動詞の用法 (中) p.147, (続下) p.366  
 阿勑荅兀勑- alda'ül- (下) p.509  
 阿勑中合撒- algasa- (続上) p.170, (続下) p.364  
 阿勑斤赤 alginči (上) p.179, (続上) p.328, (続下) p.472  
 ali 《どれ》(続中) p.66, (続下) p.212, 337  
 阿里別舌兒 ali-ber (続下) p.468  
 阿勑札- alja- (下) p.50, (続上) p.69, 87, (続下) p.458  
 阿勑只阿思 alji'ās (続下) p.557  
 阿勑只牙- aljiya- (下) p.159, (続上) p.87  
 阿勑<三> alsa- (続上) p.331  
 阿勑壇 不薛 altan büse (中) p.328, (続下) p.86  
 阿勑壇 阿舌兒中含只 altan argamji (続下) p.281  
 阿勑壇 只羅阿 巴禿荅 塔塔周 亦舌列額速 altan jilo'ā batuda tataju ire'ēsü (続  
 下) p.337  
 阿魯兒中孩 alurqai (中) p.152  
 阿魯思 alus, 阿魯思 薛魯乞- alus sedki- (下) p.116, (続中) p.34  
 阿馬阿舌兒 幹魯勑察- ama'ār olulča- (続上) p.126  
 阿馬阿舌刺<鄰> ama'ārali- (下) p.306  
 阿蛮都兀舌連 客列列- aman dü'üren kelele- (続中) p.92  
 阿蛮客連 阿勑荅- aman kelen alda- (続中) p.40  
 阿蛮客連 札ト<中罕> aman kelen jabqa- (続下) p.458  
 阿蛮你舌里兀 aman niri'ü, 阿蛮你舌魯兀 aman niru'ü (下) p.175  
 奄都舌里- amduri- (下) p.151  
 阿米 額舌魯<孫> ami erüs- (続上) p.83

- 阿民 札兀舌刺 amin ja'ūra (続上) p.222  
 阿民 幹羅兀勒 amin oro'ül- (下) p.163  
 阿木撒阿舌里 amsa'ari (続上) p.341  
 an 系の三人称代名詞 (続上) p.86, 212, (続下) p.336  
   安都舌兒 an-dur  
   阿你, 阿泥 an-i } (上) p.18, (続上) p.86, 212, (続下) p.263  
   阿訥 an-u }  
 阿納埃 ana'ai (続上) p.306  
 安荅 巴 中豁牙〈舌命〉 anda ba qoyar という表現法 (続中) p.86  
 安都舌里- anduri- (下) p.151  
 昂中忽阿 速木 angGu'a sumu (続上) p.345  
 昂吉荅 anggida (中) p.177, (続中) p.268  
 昂吉荅 幹額舌列 anggida ö'ere の読み方 (続下) p.56  
 阿中合 aqa (上) p.56, (続中) p.229, (続下) p.440  
 阿中合 迭兀 aqa de'ü (下) p.49, 277, (続中) p.229  
 -阿舌兒 -'är (出動実詞接辞) (続下) p.367  
 阿舌藍 aram (中) p.370  
 阿舌刺孫你牙舌兒 arasun-iyar と阿舌刺速巴舌兒 arasu-bar (中) p.269  
 阿舌兒巴- arba- (続下) p.465  
 阿舌兒必刺- arbila- (中) p.312  
 阿舌兒中合 arga (続上) p.172  
 阿兒中合察 arga-ča (中) p.25, (続下) p.336  
 阿舌兒中合〈丹〉 argada- (下) p.114, (続中) p.121  
 阿舌兒中含只 argamji (続下) p.281  
 阿舌里赤 ariči (中) p.328  
 阿舌里黑兀孫 arig usun (中) p.362  
 阿舌里牙- ariya- (下) p.114, 353  
 阿舌里牙勒 兀該 ariyal ügei (下) p.114, 353  
 asa- (続上) p.331  
 阿撒黑- asaG- と 阿撒中忽- asaGu- (下) p.55  
 阿撒黑塔- asacta- (続下) p.458  
 阿撒舌刺- asara- (続下) p.33, 50  
 阿失吉- asigi- (下) p.36  
 -阿速/-額速 -'äsu/-'ësü (仮定の副動詞語尾) (上) p.57, 166  
   ~の意味・用法 (中) p.130, (続中) p.43, 65  
   ~の「讓歩 (concessive)」の意に用いられた例 (上) p.236, (下) p.54  
   ~の《~なので》と解せる例 (中) p.224, (下) p.301, (続下) p.102  
   ~の《~して》と解すべき例 (続下) p.396  
   ~で率いられる従属文 (続下) p.102  
   ~と -bäsu/-bësü (上) p.57, 166, 236  
 -'äsu/-'ësü taki/teki (〜するとしても) (続上) p.268  
 -'äsu' ülü bol- (下) p.54, (続下) p.303,320  
 阿兀 a'ü (下) p.123, (続下) p.325  
 阿兀傷〈動〉 a'üdqi- (続下) p.324-325  
 阿兀牙 a'üi-a (続下) p.535  
 阿兀中合 a'üca (続中) p.38  
 阿兀刺 a'üla (続上) p.150  
 阿兀舌兒 a'ür (下) p.104  
 阿兀舌兒 那都- a'ür nüdü- (下) p.229  
 阿兀舌魯黑 a'ürug (下) p.82, (続下) p.50-54  
 阿兀舌刺速 a'ürasu, 阿兀舌刺孫 a'ürasun (続下) p.64, 236, 243, 261  
 阿牙刺-, 阿牙〈關〉 ayala- (続下) p.368-369, 440  
 阿亦中合黑刺- ayiGaGla- (下) p.230  
 阿寅勒 ayi(n)l (中) p.110  
 ayil と ger (中) p.110  
 阿亦馬黑 ayimag (下) p.258  
   ~の複数形 (続中) p.280, 301, (続下) p.38  
 ayis- という動詞の意味用法 (上) p.48, (続上) p.51  
   阿亦賽 ayis-ai (上) p.49, (下) p.15, (続上) p.36, 329, (続下) p.260, 399  
   阿亦石 ayis-i (上) p.49, (中) p.22, 211, 287, (下) p.15, 128, (続上) p.34, 36,  
     (続下) p.260, 323, 399  
   阿亦速 ayis-u (上) p.48, (中) p.22, 211, 287, (下) p.15, 128, (続上) p.34, 36,  
   ayis- と ire- (上) p.48 [121, (続下) p.260, 323, 399  
 阿亦速舌命 ayisurun (上) p.93, (続中) p.204, 242  
 阿余兀魯 ayu-'ül-u (下) p.15, (続上) p.121  
 -aa<sup>4</sup> (形動詞語尾) (上) p.274, (中) p.254, (続上) p.153, (続下) p.155,  
 -aagүй<sup>4</sup> と -sangүй<sup>4</sup> (上) p.59, (続上) p.92  
 -aac<sup>4</sup> болж (続下) p.487  
 -aач<sup>4</sup> 《動作を行う人, 行う者》(続上) p.474  
 авхуул- (続中) p.15  
 ажээ (аж) (中) p.165  
   ~と билээ (中) p.165, (続下) p.260  
   ~の直接の遡旧形 (下) p.76, (続下) p.260  
 айл と гэр (中) p.110  
 айсуй (上) p.48, (続上) p.51, (続下) p.261

алга と байхгүй (上) p. 60  
 алга の語構成 (上) p. 62, (続上) p. 59, (続下) p. 332  
 алд- (続下) p. 366  
 алзахгүй (下) p. 50, (続上) p. 69  
 андуур- と эндүүр- (上) p. 112 [анд-, андуур- については (下) p. 151-152]  
 аргада- と аргала- (下) p. 114  
 ах の形容詞的用法 (下) p. 251

-'ā- によって拡大された動詞語幹 (続中) p. 33→[(中) p. 70 参照]

アイラグ (айраг) (上) p. 157, (中) p. 135, (続上) p. 149  
 家族の包の配置状況 (中) p. 211, 212

## b

巴 ba (人称代名詞) (上) p. 112, (中) p. 348, (続中) p. 86-87  
 巴 ba (強調の助辞) (中) p. 312, (続中) p. 237, (続下) p. 190, 236, 322  
 把 ba (接続詞) (上) p. 159  
 -ba/-be (動詞終止形語尾) の意義素 (上) p. 78, (下) p. 270, 273  
 ~の「直前の過去」を表わす用法 (上) p. 227-228  
 ~と -ju'ū/-jū'ū (下) p. 270  
 「罷」(-ba/-be, 過去の語尾) の転写法 (上) p. 23  
 -巴安/-別延 -ba'ān/-beyen から -班/-辺 -ban/-ben への推移 (上) p. 45  
 巴阿舌里歹 Ba'āridai という名の由来 (上) p. 187  
 -baču<sup>2</sup> (蒙古文語の副動詞語尾) (続中) p. 42  
 巴蒼舌児乞周 badar ki-jū (下) p. 369  
 巴黑蒼- bagma- (続下) p. 366  
 巴黑蒼阿勒蒼蒼刺 bacta aldata (続下) p. 365  
 -bai/-bei (動詞終止形語尾) (上) p. 78, (下) p. 200, 271  
 「罷由」(-bai-ū) の転写法 (下) p. 200  
 擺亦- baiyi- の意味と, [現代語の] баһ- (bai-) の意味 (中) p. 160, (下) p. 40, 51, (続中) p. 188, (続下) p. 197  
 擺亦- baiyi- (bai-) の使役形 (下) p. 259  
 擺亦蒼勒突舌児 兀者- baiyidal-dur üje- (下) p. 281  
 巴刺中合速 balacasu, 巴刺中合速〈納〉 balacasun (続下) p. 354, 534  
 巴刺中合場 balacad (続下) p. 534  
 -balja<sup>2</sup>-, -malja<sup>2</sup>- (動詞接辞) (続下) p. 294  
 巴勒渚納 Baljuna 《バルヂュナ湖》(続上) p. 175

-ban (再帰語尾) (続中) p. 155, (続下) p. 350  
 邦刺你- banglani- (続中) p. 129  
 -巴児/-別児 -bar/-ber (造格語尾) の注意すべき用法 (上) p. 264, (中) p. 182, 306, (続下) p. 250  
 巴舌刺- bara- (中) p. 85, (下) p. 337, (続中) p. 208-209, (続下) p. 346  
 ~の他動詞の意味の例 (中) p. 88  
 ~の補助動詞的用法 (中) p. 57, (続上) p. 304  
 巴舌刺黑撒場 baragsad (中) p. 85  
 巴舌刺秃壇 bara-tu-tan (続上) p. 256  
 巴舌刺温 額帖額場 barn'ün ete'ed (続下) p. 190  
 巴児忽歹蔑児干 Bargudai-mergen (上) p. 66  
 把舌里- bari- (上) p. 191, (中) p. 117, (下) p. 115, 232, (続下) p. 37  
 把舌里阿思 bari'ās (下) p. 232  
 把舌里勒都- barildu- (下) p. 115  
 把舌林 barim (上) p. 191  
 巴舌里牙 古温 阿勒蒼罷 bariya kü'ün aldaba の解 (中) p. 117  
 巴舌魯阿 buru'ā の基本的意味 (続上) p. 190  
 巴舌魯阿〈納〉 baru'ān (続上) p. 349  
 把舌魯黑 barug (上) p. 201, (中) p. 88  
 把撒阿刺- basa'āla- (中) p. 373, (続下) p. 189  
 保里牙 baqlia (続下) p. 323, 368  
 保兀- bau'ū- の意義素と派生的意味 (下) p. 69, (続上) p. 276  
 「保兀-」 bau'ū- という表記 (続下) p. 39  
 保兀周 亦舌列- bau'ū-ju ire- (続下) p. 362  
 保兀勒- bau'ül-, 保温勒- bau'ül- [bau'ū- の使役形] (上) p. 268, 274, (中) p. 194, (続下) p. 39-40  
 保兀舌児臣 bau'ürčün (中) p. 369, (続中) p. 188  
 伯顔 bayan (上) p. 35, (中) p. 261  
 別 be (疑問の助辞) (上) p. 159  
 別 be (強調の助辞) (上) p. 159, 272, (中) p. 312, (続下) p. 322  
 -be (過去の語尾 -ba の女性形) [-ba/-be の項参照]  
 「-別」(-be 過去の語尾) という表記 (上) p. 23  
 別勒 bel (起文詞) (下) p. 326, 328, (続下) p. 186  
 別連 belen (下) p. 171, (続下) p. 449, 531  
 別勒格 belge (中) p. 135  
 別勒只額勒 belji'eī と, 文語形の belčiger (続下) p. 308  
 別舌児 ber (強調の助辞) 《~は, ~も》(上) p. 59, (中) p. 338, (下) p. 300, (続上) p. 59, 129 (続中) p. 43, (続下) p. 35, 288, 290, 322

## 580 元朝秘史全訳語句・事項総索引

ber -'äsu/'esü 《～であっても》(続上) p. 129, (続中) p. 42  
 ber bö'esü (讓歩の意味を示す形) 《～であっても》(続上) p. 128, (続中) p. 42  
 別舌里額思 beri'es (続中) p. 293  
 別舌里列- beri-le- (続上) p. 249  
 別舌里裡的顔 beri-ned-iyen の -ned- の成立について (続上) p. 121, 249  
 別児客 berke (続下) p. 439  
 ～の副詞の用法 (中) p. 33  
 別舌児客勒都克迭周 berke-ldü-gde-jü の解 (続下) p. 439  
 別舌魯迭 berü-de (続下) p. 466  
 別帖舌児 beter (続下) p. 495  
 別耶 中合的牙舌児 beye qad-iyār (続中) p. 267  
 別耶 薛勒帖 beye selte (続下) p. 205  
 別耶昔顔 beyes-iyēn の示す副詞の意味 (続上) p. 235  
 別耶延 beye-yēn と別耶邊 beye-ben (中) p. 234  
 別延格敦 beyengedün の解 (下) p. 326  
 必 bi (人称代名詞) (中) p. 169  
 -畢 -bi (動詞語尾 -ba/-be の女性形) (下) p. 78, (中) p. 50, 206, (下) p. 258, (続上) p. 250  
 必蒼 bida と巴 ba (中) p. 348  
 必蒼訥埃 bidan-u'āi (続下) p. 262  
 必刺- bila- (続上) p. 159  
 必勒都兀舌児 bildü'ūr (下) p. 274-275, (続中) p. 244  
 必列兀 <舌列> bile'ūr (中) p. 17  
 必里- bili- (上) p. 122, (続下) p. 462  
 必勒只兀児 bilji'ūr (中) p. 75, (下) p. 275, (続中) p. 244  
 敵中合舌児蒼兀倫 biqarda-'ül-un (続上) p. 306  
 必撒舌里- bisari- (続下) p. 160  
 必秃- bitü-, 必秃温勒-, 必秃兀 <倫> bitü'ül- (上) p. 115  
 李多 bodo (下) p. 250, (続上) p. 343  
 李黑塔刺- bogtala- (中) p. 41, (続下) p. 305  
 李勒- bol- (下) p. 54, (中) p. 148, 359, (続中) p. 33, (続下) p. 297  
 ～の代動詞の用法 (上) p. 133  
 bolai (文語形) (下) p. 15, (続上) p. 36, (続下) p. 399  
 李勒蒼- bol-da- (中) p. 58, 173, 301, (下) p. 140, 253, (続上) p. 371  
 李勒蒼忽由 bolda-quyu (中) p. 301  
 李勒中合- bolga- (中) p. 148  
 李勒周 bol-ju (続中) p. 143, (続下) p. 487  
 李勒阿楊 bolu'ād (上) p. 243

李魯者 bol-u-je の -u について (続上) p. 256, (続下) p. 323, 398  
 李命 bolun (中) p. 359, (下) p. 28, 316, (続中) p. 16, 144  
 李魯宜 boluyi の解釈 (下) p. 15, 86, (続中) p. 33-34  
 李勒蒼黑, 李勒蒼 <中合> boldac (下) p. 260, (続上) p. 36, (続下) p. 563  
 李勒中合 bolga (中) p. 96  
 李勒中合阿- bolga'ā- (下) p. 350, (続上) p. 371  
 李勒中合- bolgā-, 李勒中罕 bolgā-n の表記 (続上) p. 371, (続下) p. 206-208  
 李勒札勒都- bolja-ldu- (続上) p. 185  
 李幹勒 bo'öl (続上) p. 162  
 李舌児 蒼舌刺速 <納> bor darasun (続下) p. 556  
 李舌児臣莎那 borčün sono (続中) p. 56  
 李舌驟, 李舌羅, 駢舌羅 boro (上) p. 38, (中) p. 189, (続下) p. 395  
 李舌羅 失鴉温 boro siba'ün (続下) p. 368  
 李舌羅罕凶児 borohan-dur (続下) p. 118  
 李舌児孩 borqai (続上) p. 161  
 李舌羅兀勒 Boro'ül (人名) (下) p. 98  
 李莎- boso- と bos- (続中) p. 60-61  
 李莎中合 bosoga (下) p. 98, (続中) p. 60, (続下) p. 192  
 李莎中合因 李幹勒 bosoga-yin bo'öl (続上) p. 162  
 李速 bosu (続中) p. 173  
 李- bö- 《ある, いる》(上) p. 103, (下) p. 17, (続上) p. 12  
 李額<sup>鼻</sup> bö'ed (下) p. 17, (中) p. 210, (続中) p. 53  
 ～の, 《まさに》《こそ》《すら》などと訳せる例 (中) p. 336, (続上) p. 294, (続中) p. 37, (続下) p. 236  
 ～の, 文末で《いざ》と訳せる例 (中) p. 271  
 ～の söni bö'ed という例 (中) p. 338, (続上) p. 12  
 ～の逆説的意味を表わす例 (上) p. 103, (中) p. 336, (続上) p. 267, (続下) p. 336  
 ～の本質的機能の総括的検討 (続上) p. 12-16  
 李額速 bö'esü (下) p. 17  
 李額帖 bö'ēt-ē, bö'ēt-e (中) p. 210, (続上) p. 14  
 李額帖列 bö'ētele (上) p. 106, (下) p. 17, (続下) p. 336  
 李額 <舌> 列 bö'ere (中) p. 197  
 李克秃舌魯- bögtür(ü)- (中) p. 189  
 李戈秃児 bögötür (中) p. 189  
 李刊 böken (中) p. 210  
 李客列- böke-le- (続中) p. 266  
 李闕 bökö (続下) p. 192  
 李勒迭亦<sup>鼻</sup> böldeyid- (下) p. 259, (続上) p. 36

- 孛連 bölen (下) p. 170  
 孛児帖 börte (上) p. 16  
 不 bu (禁止の助詞) (上) p. 222  
 不敦 budun (統中) p. 59 [(中) p. 234 参照]  
 不倒兀 budau'ü (上) p. 136  
 不吉 bugi (統下) p. 548  
 不黑撒- bugsa- (統上) p. 329  
 不吉牙 秣舌驪 bugiya mori (中) p. 235  
 備 bui (上) p. 108-109, (中) p. 9  
 備者 bui-je (上) p. 108  
 不舌刺阿 bula'ä (<bulag + ä) (下) p. 122  
 不勅中合 bulga, 奔勅中合 bu(n)lga (中) p. 96, (下) p. 210, (統上) p. 175, (統中) p. 94, (統下) p. 124, 242,  
 不勅中合-, 孛勅 <中罕> bulga-, 奔勅中合- bu(n)lga- (中) p. 96, (下) p. 210, (統上) p. 175, (統下) p. 124, 421  
 不里- buli- (中) p. 70, (統中) p. 33, (統下) p. 218  
 奔勅只- bu(n)lji- (中) p. 224, 235  
 不勅薩舌里- bultari- (統中) p. 271  
 不中合兀 buqa'ü (中) p. 113  
 不中忽- buqu- (中) p. 164, (統中) p. 130  
 不舌刺 塔舌刺 bura tara (統中) p. 187  
 不舌刺兀 bura'ü (上) p. 137, (下) p. 303  
 不舌兒備 額舌兒古兀勅- burbui ergü'ül- (統下) p. 306-308  
 不兒中合里黑 察孫 burgalič časun (上) p. 164  
 不峯 <中罕> 孛思中合黑三 Burqan bosqagsan の解釈 (上) p. 72  
 不峯 <中罕> 中合勅敦 Burqan-qaldun (上) p. 26  
 不舌魯惕- burud-, 不舌魯兀惕- buru'üd- (上) p. 227, (統上) p. 17~20  
 不舌雷 <闕> burūila-, 不舌魯為 <闕> buru'ūila-, 不舌魯兀亦 <闕> buru'ūyila- (統上) p. 17  
 buru'üd- と burūila- 系の語 (統上) p. 17~20  
 不舌魯兀牙 buru'ūi-a (下) p. 337, (統上) p. 18, (統中) p. 94  
 不散中合- busanga-, 不桑中合- busangga- (中) p. 313, (統中) p. 94  
 buši と busu の使い分けと語構成 (中) p. 4~9  
 不失, 不石, 不實 buši (上) p. 222, (中) p. 4~9  
 不速 busu (上) p. 222, (中) p. 4~9, (統中) p. 173  
 「不速秃」(busutū, busud-ū) の読みかた (中) p. 255  
 不塔舌刺- butara- (統中) p. 187, (統下) p. 135  
 不兀勅札舌兒 亦唾舌列 bu'üljar idere (下) p. 336  
 不亦 阿舌里勅中合- buyi arilga- (統下) p. 306-308  
 備由 buyu (中) p. 9  
 ~の転写法 (上) p. 52, 108  
 ~の意味 (上) p. 164  
 不由者, 備由者 buyu-je (上) p. 108, 164  
 不 bü (否定辞) (統上) p. 127, 170, (統下) p. 26  
 不- bü- 《ある, いる》(上) p. 106, (中) p. 9, (下) p. 245, (統上) p. 57, 170  
 bü-の意味(意義素)用法 (上) p. 107, 173, 194, (中) p. 292, (下) p. 252, 327, (統中) p. 225  
 bü- と a- の意味のちがひ (上) p. 174, (統上) p. 58-59, (統中) p. 130, 225  
 bü- と bu- の二つの stem を立て得るか否かについて (上) p. 108, (下) p. 17  
 不額惕 bü'ed (上) p. 103, (下) p. 351, (統上) p. 14  
 卜克先 bü-gsen (下) p. 252  
 不周 bü-jü (統上) p. 257, (統中) p. 53  
 büjü'ü (上) p. 107  
 不主為 büjü'üi (上) p. 195-196, (中) p. 292  
 不恢 бүкүй (中) p. 322, (統上) p. 163  
 「不中灰」の転写法 (büküi か buquī か) (中) p. 322, (下) p. 7, 17  
 不坤, 不古 <泥> бүкүн (上) p. 173  
 ~から現代語 бyxэн への意味変化 (下) p. 245 [(統上) p. 57 参照]  
 不列額 büle'e (上) p. 39, 43, 107, 125, 195, (統上) p. 153  
 ~と aju'ü (上) p. 257, (下) p. 77, (統下) p. 259-260  
 ~の《~である, ~であった》を表わす用法 (上) p. 39, 125, (下) p. 62, 76, 260  
 不列埃 büle'eï (上) p. 195, (統上) p. 70, 256  
 不里亦 büliyi (女性形) の用法 (上) p. 235  
 不舌命 büriin (上) p. 94, 246, (中) p. 164, 276, (下) p. 62, 76, 178, 289, (統中) p. 17, 295  
 ~の用法の全 22 例による検討 (統中) p. 49~54  
 不禿該 бүтүгейの意味変化 (中) p. 72, (下) p. 50, (統上) p. 257, (統中) p. 226  
 бүтүгей-bitügei (統下) p. 26  
 不敦 büdün (中) p. 234  
 不克迭兀 <里> бүгдe'ül (統中) p. 248  
 不克惕- бүгүд- (中) p. 195, (統上) p. 57, (統中) p. 291, (統下) p. 349  
 бүгүдe (中) p. 195, (統上) p. 57, (統下) p. 349  
 不克惕格- бүгүдge- (統上) p. 57  
 不克惕客- бүгүдke- (中) p. 195, (統上) p. 57, (統中) p. 290, (統下) p. 350  
 бүкү (бyx) (統上) p. 57, (統下) p. 349  
 不列- büle- (中) p. 136, (統下) p. 300



不勒屬 büled (続下) p. 299  
 不列額〈捏〉 büle'en (続下) p. 299  
 不舌列勒- bürel-, 不舌連勒- büre(n)l- (中) p. 247, (続下) p. 231  
 不舌兒古- bürgü- (続中) p. 130  
 不舌里 büri の用法 (続下) p. 163  
 不舌里額台 塔舌刺黑 büri'etei tarag (下) p. 155  
 不舌兒乞〈舌連〉 bürkire- (中) p. 269  
 不薛勒〈昆〉 büselgü- (続上) p. 355  
 不石舌列-, 不失〈舌連〉, 不識〈舌恰〉 büšire- (上) p. 10, 137, (中) p. 310, (下) p. 204, 303  
 不帖- büte- (続上) p. 294, (続中) p. 157, (続下) p. 219, 420  
 不帖- büte- (下) p. 92, (続中) p. 157  
 不帖額- büte'e- (下) p. 92, (続上) p. 295, (続中) p. 157, (続下) p. 420  
 不禿額- bütü'e- (続中) p. 157  
  
 ба (上) p. 159  
 бай- (中) p. 160, (下) p. 40, 51  
 байз, байзна (下) p. 51  
 байна と бий (上) p. 62  
 бий (続下) p. 260  
 бизээ (上) p. 109  
 билээ (上) p. 125-126, (下) p. 62, 76, (続下) p. 259-260  
 битгий (下) p. 50  
 битүү (下) p. 419  
 биш (中) p. 9, (続下) p. 260  
 бод мал と бог мал (下) p. 250, (続上) p. 343  
 бол- (下) p. 54, (続中) p. 33  
 болж (続下) p. 487  
 болбол (中) p. 160  
 бололтой (下) p. 203  
 болон (続上) p. 13  
 болоод (上) p. 243, (続上) p. 13  
 боль- (上) p. 237  
 бөгөөд (中) p. 336, (続上) p. 12~14  
 буруу, буруул-, бурууд-, буруут- (下) p. 337, (続上) p. 17~20  
 бус (中) p. 9  
 буу- (下) p. 69  
 бүлгээ (上) p. 125

бүр (下) p. 163  
 бүх, бүхэн (下) p. 245, (続下) p. 351  
 бэлэн (続下) p. 531  
 бэрх (中) p. 33  
 -вч (続中) p. 42  
 вэ(бэ) (上) p. 159

b~g の交替 (文語形の語中における交替) (続上) p. 79  
 -b- と -l- とが入れ替った形 (続上) p. 22  
 b~m の交替現象 (中) p. 112, (下) p. 48  
 ブリヤート方言と秘史の言語 (上) p. 244, (中) p. 47, (下) p. 274, 329  
 文法的な女性扱い (続上) p. 34, (続下) p. 7  
 文末の述語動詞の他動性・使役性のカバーする範囲 (続上) p. 35  
 母音で終わる動詞語幹：その母音が除去されて -ga-(-qa-), -gü-(-kü-) が附された動詞語幹 (ほぼ意を同じくするベアの動詞) (続下) p. 203  
 母音の円唇化, a>o, e>ö の変化 (下) p. 212, (続中) p. 177, (続下) p. 331, 394  
 母音の交替による造語法 (上) p. 23, 111, 129, 226, (中) p. 30, 270, (下) p. 150  
 [以下, 「母音」に関する事項]  
 本来的な長母音の表記 (中) p. 200~201  
 モンゴル祖語における長母音の発見 (上) p. 53  
 秘史モンゴル語の母音間の「中合, 中豁, 中忽, 格」の現代モンゴル諸語での実現 (続上) p. 150  
 秘史の「V' V」の現代語での現われ (下) p. 123~124  
 秘史の言語での, 「長母音化」「長母音の出現」の可能性 (上) p. 81, (続上) p. 131, (続中) p. 58  
 v+g(g)+v に由来する長母音 (中) p. 200~201  
 現代語で長母音をもっている語 (上) p. 81, (中) p. 200, (続上) p. 150, (続中) p. 58  
 文語の「V+y+V」 (続上) p. 332

## c

察阿荅 ča'ada (続中) p. 284  
 察阿勒孫 ča'alsun (続中) p. 117, (続下) p. 16  
 察阿(舌)翁 Ča'älung (人名) (下) p. 264  
 察卜赤- čabči- (下) p. 122, (続下) p. 321  
 察中合阿〈納〉 čaga'an と中合舌刺 qara (下) p. 327  
 察中罕 職蔑額禿- čagān teme'etü (続上) p. 175

## 586 元朝秘史全訳語句・事項総索引

察黒都兀朮孫 čagdu'ulsun (続中) p. 58, 205, (続下) p. 523

察黒刺- čacla- (続中) p. 118, (続下) p. 43~45, 547

察黒圖 那可舌兒 čagtu nökör (続上) p. 41, (続下) p. 45

察中合 čaqa (上) p. 278, (下) p. 328

察兀朮 中忽舌里 Ča'ud-quri (続上) p. 155

察兀舌兒 ča'ūr (続中) p. 102

察兀舌刺- ča'ūra- (続中) p. 102, (続下) p. 76

潮舌魯 čaḡ'ru (下) p. 176

潮兀舌刺- čaḡ'ūra- (中) p. 28-30, (続中) p. 167

扯額只 額兒点秃 če'eji erdemtü (続下) p. 164

扯額勅 če'eī (中) p. 28-29

扯克徹兒 Čegčer (地名) (上) p. 250

超堅 čegen, čeügen (上) p. 119, (中) p. 29

扯客舌列 čekere (中) p. 196

扯兒別格勅者温勅- čerbegelje'ū(n)l- (中) p. 217

扯舌兒必〈泥〉 čerbi(n), 扯舌兒廣 čerbin (続上) p. 276, (続下) p. 49, 64

扯舌里克 čerig, 扯舌里兀朮 čeri'ūd (続中) p. 301, (続下) p. 38, 403

扯舌里克 中合舌兒- čerig gar- (続下) p. 48

扯舌里昆 脱幹秃 古温 čerig-ün to'ōtu kü'ūn (続下) p. 116

扯舌里兀敦 阿中合納兒 čeri'ūd-ün aqanar (中) p. 219

超兀〈命〉 čeḡ'ūl- (続中) p. 167

潮兀舌列- čeḡ'ūre- (続中) p. 167

-či 《〜好きの》(下) p. 103, (続上) p. 349, (続中) p. 88, (続下) p. 322

-či (職業に従事する人を表わす接辞) (続中) p. 250

赤赤吉納 čičigina (中) p. 48

赤出阿 čiču'ā (中) p. 71

赤丹額列 委亦列都朮坤 čida-n ele üjyiledüdkün (下) p. 332

赤文兒孫 čigörsün (中) p. 46

-čila<sup>2</sup>- (出実動詞形成接辞) (続中) p. 201, 308

赤勅不舌兒 čilbūr (中) p. 292

赤魯篋古 中古ト赤兀兒 čilümekü cubči'ūr (中) p. 64

赤馬 čima (中) p. 282, (続上) p. 310, (続下) p. 367

赤馬里阿舌兒 čimali'ār (続下) p. 367

赤馬舌兒, 吃馬舌兒 čimar (中) p. 281, (続上) p. 121

赤馬里中孩 兀格 čimaliqaj üge (続下) p. 367

赤馬舌兒刺- čimarla- (中) p. 281, (続上) p. 121, (続下) p. 367

\*čina-系の語と\*ina-系の語 (続上) p. 37~40

赤納納 činana (続上) p. 38 (続下) p. 268

赤納舌魯 činaru (続上) p. 37

成吉思 Činggis という名の由来 (上) p. 8

成吉思中合罕 額赤格 Činggis-qahan ečige (続下) p. 326

成吉思中合罕訥 阿兀舌魯黑 Činggis qahan-nu a'uruc (下) p. 82

成吉思中合罕訥 忽札兀兒 Činggis qahan-nu huja'ūr (上) p. 4, (続上) p. 97

činu (人称代名詞属格) (続下) p. 20

擲中豁里兀朮- čoguli'ūl- (中) p. 318

擲刺亦〈壇〉 čolayita- (続下) p. 330

擲幹舌兒中合 čo'örga (中) p. 371

緯舌兒中罕 čorgan (中) p. 318

輟額不忽 čö'e bugu (上) p. 84

輟額孝舌里 čö'ëböri (中) p. 87

輟延討兀 čö'en-ta-'ū (上) p. 270

川勅, 駁勅 čöl (続上) p. 238, (続下) p. 292

駁列思 čöles (下) p. 45, (続下) p. 328

駁勅客 阿兀刺 čölke a'ūla (続下) p. 219

緯羅 čölö/čolo (続下) p. 331

駁延, 輟延 čöyēn (下) p. 35

駁延 別耶昔顏 čöyēn beyes-iyēn (中) p. 287

出察勅- čučal- (中) p. 138

出出- čuču- (続下) p. 462

-čüd<sup>2</sup> と -čül<sup>2</sup> (続下) p. 439

出勅兀朮札兀朮刺 čul ulja'ūr-a (続下) p. 290~294

充 čung (続上) p. 148

出舌刺中合 čuraga (中) p. 87

出ト秃思抽 cüb tuscu の解 (続中) p. 17

-ч (続上) p. 130, 349, (続中) p. 88

чанаргай (続下) p. 374, 486

чи бид хоёр (続中) p. 86

цаас (続下) p. 16

цагаан と цэгээн (上) p. 112

цойл- (続下) p. 204

цөл と говь (続上) p. 238

цэцэн үг ь зүйр үг, 俚諺を盛り込んだ表現 (上) p. 89, 169, (中) p. 260, (下) p. 260, (続下) p. 114

č~s の交替 (語頭) (続下) p. 330

-č- と -t- の交替 (下) p. 310  
 cooha (満洲文語) (続中) p. 102, (続下) p. 76  
 チンギス汗碑文 (下) p. 103  
 チンギス・ハーンの生れた地 (上) p. 246

## d

-d (動詞終止形語尾) (上) p. 127, 261, (下) p. 236, (続上) p. 250, (続中) p. 114, 168, 299  
 ~の特徴と意義素 (上) p. 127, (続中) p. 299  
 -d (副動詞語尾 -n の複数形) (続上) p. 29, 250, (続下) p. 300, 533  
 -d (実詞の複数語尾) (中) p. 94  
 -d- (実詞から自動詞を形成する接辞) (続中) p. 30  
 -d- (形容詞から動詞を形成する接辞) (下) p. 301  
 -da (副詞形成接辞) (続上) p. 148  
 -da<sup>-2</sup> (動詞受身形形成接辞) (続中) p. 16, (続下) p. 208  
 ~の尊敬表現に使われた例 (下) p. 338  
 ~の自発の意味 (中) p. 58  
 -da<sup>-2</sup> (自動詞語幹に附され自動詞をつくる接辞) (続上) p. 160, 350  
 -da<sup>-2</sup> (形容詞に附され『過剰性』を示す動詞をつくる接辞) (続下) p. 461  
 -da 系 (-a/-e 系) 語尾と -dur 系語尾 (与位格) (上) p. 150, 193, 216, 258, (中) p. 51, 127, (下) p. 219, (続中) p. 229, (続下) p. 140~142  
 -da 系 (-a/-e 系) 語尾と -dur 系語尾の意義素 (続下) p. 141  
 「-da<sup>2</sup>+ -(g)da<sup>2</sup>-」 (続上) p. 68, (続中) p. 16, 78, 80  
 蒼阿-, 蒼<安> da'ā- (上) p. 150, (続上) p. 69, (続下) p. 253, 381  
 蒼阿舌里- da'āri- (中) p. 264, (続下) p. 399  
 蒼阿舌零中忽 da'āring-qu の「舌零」の字 (続下) p. 399  
 蒼ト赤秃 中豁児 dabčitu qor (中) p. 258  
 蒼ト失- dabsi- (中) p. 256  
 dad- と das- (続上) p. 62  
 蒼子 dadz (下) p. 75~76  
 -dag/-deg (形動詞語尾) (上) p. 128  
 蒼黒台 dagtai (続上) p. 141  
 -歹 -daj (部族・氏族の男性を表わす接辞) (上) p. 37, 95, 186, 187, (下) p. 277, (続中) p. 301  
 歹亦只- daiyiji- (続上) p. 236  
 歹亦速 daiyisu, 歹亦孫 daiyisun (下) p. 261  
 蒼来因 中合罕 dalaj-yin qahan (続下) p. 545

蒼闌 dalan (下) p. 20  
 蒼勅巴舌魯 察ト赤- dalbaru čabči- (続下) p. 321  
 蒼勅周 dal-ju (続下) p. 160  
 當刺速<訥> danglasun (続下) p. 194  
 蒼舌刺速<納> darasun (続下) p. 556  
 蒼舌兒巴安 darba'ān (続中) p. 212  
 蒼舌兒巴勅札- darbaļja- (続中) p. 213  
 蒼舌兒蒼思 dardas (続下) p. 479  
 蒼兒吉 dargi (中) p. 161  
 蒼舌兒中合刺-, 蒼舌兒中合<闌> darqala- (中) p. 352, (続上) p. 222, (続中) p. 236  
 蒼兒中罕 darqan (上) p. 210, (中) p. 352, (続上) p. 222, (続中) p. 236  
 蒼舌魯阿 daru'ā (上) p. 196  
 蒼舌魯- daru- (続下) p. 73, 377, 473  
 蒼舌倫 daru-n (上) p. 196, (続下) p. 72~73  
 蒼舌魯察 daruča (続下) p. 222  
 蒼舌魯察- daruča- (続上) p. 358, (続下) p. 221  
 蒼舌魯中合臣 darugač'in と 蒼舌魯中合思 darugas (続下) p. 377, 473  
 蒼舌魯中合刺- darugala- (続下) p. 36  
 蒼舌魯勅察- darulča- (続上) p. 358  
 倒里- dauli- (中) p. 245  
 蒼温 da'ūn (続下) p. 161-162  
 蒼兀思- da'ūs- (中) p. 144  
 蒼兀昔 da'ūsi (続下) p. 479-481  
 倒兀 把里-, 擣兀 把里- daū'ū bari- (続上) p. 120, (続中) p. 27-28  
 倒兀里- daū'ūli- (上) p. 182, (続下) p. 118  
 ~と, 塔刺- tala- の意味のちがひ (続上) p. 226  
 擣兀舌里思- daū'ūris- (上) p. 236  
 倒兀<孫> daū'ūs- (中) p. 80  
 蒼因 dayin 《敵達》 (続上) p. 236  
 ~に対して動詞の女性形語尾が用いられる理由 (中) p. 23, 287, (下) p. 128, (続上) p. 34 [(続中) p. 34 にも関連事項]  
 蒼驛兒, 蒼亦舌兒 dayir (上) p. 38, (続下) p. 194  
 迭ト帖舌兒列- debterle- (続中) p. 117  
 迭額舌列 de'ere (下) p. 251-252  
 de'ere tenggeri-eče jaya'ātu tōregsen (上) p. 11~16, (続中) p. 89  
 迭格列<泥> degelen (続下) p. 251  
 迭格勅秃 朵舌劣克先可温 degeltü tōregsen kō'ūn と 你出視 朵舌劣克先 可温 ničü gūn tōregsen kō'ūn (続上) p. 168

迭格温 dege'ün (統中) p. 310, (統下) p. 262  
 迭列<sup>陽</sup> deled- (統中) p. 42  
 迭列<sup>陰</sup> deleme (上) p. 126  
 迭勒〈堅〉 delge- (統上) p. 292  
 迭里温 孛斡答〈中合〉 Deli'ün-boldag (上) p. 246, (統上) p. 36  
 點, 迭〈篋〉 dem (統上) p. 31, (統中) p. 212  
 登薛<sup>陽</sup> dengsel- (統上) p. 87  
 迭兒別〈魯〉 derbel- (中) p. 203  
 迭舌列 阿奔 兀窟<sup>陽</sup> dere abun ükü- (下) p. 195  
 迭舌列列<sup>陽</sup> derele- (統中) p. 134  
 迭舌列<sup>陽</sup>古<sup>陽</sup> derelgü- (統上) p. 30  
 迭舌兒格〈纏〉 dergeče- (下) p. 169  
 迭舌兒格迭温 dergede'ün (下) p. 155. (統上) p. 16  
 迭兀捏兒 可兀〈的〉 de'ü-ner kö'üd (中) p. 219  
 迭兀兒格 de'ürge (中) p. 182  
 丁 撒兀<sup>陽</sup> ding sa'ü- (統上) p. 122  
 多卜禿来者 dobtulaj-je の -aj について (下) p. 15, (統上) p. 36  
 朶羅安 dolo'an (上) p. 232  
 朶羅安 孛斡答兀<sup>陽</sup> Dolo'an-bolda'üd (下) p. 87, (統下) p. 563  
 朶抹黑赤 domog-či (統中) p. 88  
 domog の語構成 (統中) p. 89  
 多舌兒中忽<sup>陽</sup> dorgud (統下) p. 438, 450  
 朶舌羅 dorog (統下) p. 493  
 朶舌羅納只 doronaji (統上) p. 91  
 朶舌羅温 dorog'ün (統下) p. 262  
 朶脱阿只 doto'aji (下) p. 155  
 朶脱中合 dotoga (上) p. 120, (下) p. 94  
 朶脱納 dotona (統中) p. 271  
 朶脱舌刺 dotora (中) p. 68, (下) p. 152, 157, (統下) p. 421  
 朶脱舌刺温 dotora'ün (下) p. 155, (統上) p. 16, 192, (統下) p. 262  
 dotu- 《中》(文語形) (下) p. 347  
 多牙<sup>陽</sup> doya- (中) p. 373  
 朶魯思格<sup>陽</sup> dölüs-ge- (統上) p. 122, (統下) p. 494  
 朶魯思古<sup>陽</sup> dölüsgü- (統下) p. 494  
 朶舌列卜赤 dōrebči (下) p. 75  
 朶舌兒篋該 dörmegei (統下) p. 493  
 朶舌羅 dörö (統下) p. 32~34  
 朶帖連 dōtele-n (中) p. 260

朶宜 döyi (下) p. 308, (統上) p. 211  
 朶亦蔑<sup>陽</sup> döyimed (統上) p. 211  
 -<sup>陽</sup>中<sup>陽</sup>渾/-<sup>陽</sup>坤 -dqun/-dkün (中) p. 27, 81, (統上) p. 265  
 -dqun<sup>2</sup> と -gtun<sup>2</sup> (中) p. 81, (統下) p. 18  
 -du<sup>2</sup> (出実実詞形成接辞) (統上) p. 148, (統中) p. 79  
 -du/-dü~-dui/düi (形容詞形成接辞) (統上) p. 124, (統中) p. 281  
 敦答都 dundadu の読み方 (統下) p. 153  
 -dur 系語尾と -tur 系語尾 (上) p. 69  
 -dur/-dür 系語尾 (与位格) (統下) p. 94  
 ~の意義素 (上) p. 77, (統下) p. 117, 141  
 都舌刺 dura (下) p. 312, (統下) p. 421  
 都舌蘭 duran (下) p. 330, (統上) p. 69  
 dura(n) の意義素 (統上) p. 69  
 都兀<sup>陽</sup>中<sup>陽</sup>罕 du'ül-ga-n (統下) p. 367  
 都牙<sup>陽</sup> duyai- (統上) p. 332  
 都列<sup>陽</sup> düled (統上) p. 37, (統下) p. 459  
 都里 düli (統上) p. 20, 200  
 都里- düli- (統上) p. 200, (統下) p. 225  
 都里里格<sup>陽</sup> dülilige- (統上) p. 200, (統下) p. 224  
 都舌兒別<sup>陽</sup> dürbe- (下) p. 138  
 都兀申 dü'üšin (中) p. 173  
  
 даа- (上) p. 150, (統下) p. 382  
 дараа (上) p. 196  
 дарга (統下) p. 474  
 дөг (中) p. 260  
 дэрлэ- (統中) p. 134  
 дэргүүр (統中) p. 312  
 дээж (統上) p. 92  
  
 -d- と -r- の交替 (音節末) (統上) p. 309  
 -d- と -s- の交替 (音節末) (下) p. 95  
 ダウル・モンゴル語の三人称代名詞 (上) p. 18, (統上) p. 212, (統下) p. 268  
 奪格語尾の母音の長さ (下) p. 41  
 動詞終止形語尾の体系 (上) p. 78  
 動詞語尾の女性形の用法 (上) p. 78, 235, (中) p. 22, 50, 86, 206, 287, (統上) p. 34,  
 (統下) p. 302, 505

## e

-e の解 (与位格語尾か呼びかけの -e か) (続下) p. 404  
 厄別臣 ebečün (続下) p. 397  
 額別楊 ebed- (続上) p. 309, (続下) p. 395  
 額別舌列- ebere- (続上) p. 309  
 額賓 ebin (続上) p. 48  
 額不都克帖 ebüdüg-te (上) p. 242  
 額不干, 額不堅 ebügen (上) p. 45  
 額不格思 額赤格 <昔> ebüges ečiges (続下) p. 413  
 額不舌兒 ebür (下) p. 228  
 額不舌兒途舌兒 闊動突舌兒 幹舌羅- ebür-tür, köl dür oro- (続中) p. 159  
 額不舌里楊 ebürid- (下) p. 228  
 額赤楊格- ečidge- (続下) p. 131  
 額赤格 ečige (上) p. 56, (続中) p. 229, (続下) p. 326  
 額赤捏 ečine (続上) p. 83, (続下) p. 131, 262  
 額赤捏温 ečine'ün (続下) p. 262  
 額迭 ede (上) p. 107  
 額楊客- edke- (下) p. 95  
 額朵額 edö'e (中) p. 246, (続下) p. 232  
 額朵額楊圖舌兒 edö'ed-tür (続下) p. 232  
 額都 edü (中) p. 351, (下) p. 24  
 edüge (文語) (中) p. 246, (続下) p. 232  
 額堆 edüj (上) p. 60, (中) p. 351, (下) p. 24, (続上) p. 85, (続下) p. 285  
 額敦 edün (下) p. 24, (続上) p. 85, (続下) p. 285  
 edür (文語形) という形について (上) p. 45, (続上) p. 93  
 額額迭 e'ede (中) p. 262  
 額額迭- e'ede- (続下) p. 297  
 額額捏克徹 e'enegče (下) p. 310  
 額額舌列-, 額額 <舌連> e'ere- (下) p. 244, (続下) p. 8  
 額克迭- egde- (続中) p. 55  
 額格赤 egeči の形容詞的用法 (下) p. 251  
 額格赤篋楊 egečimed (続上) p. 211  
 額甘 egem (続上) p. 150, (続下) p. 308  
 ejen (続下) p. 459  
 額氈 兀該 ežen ügej (下) p. 196  
 額只額 eji'e (下) p. 324, (続中) p. 141

額客 幹難 eke Onan (中) p. 58  
 額客宜 乞靈刺黑蒼周 eke-yi qilinglacdaju (続下) p. 165  
 額客因 失楊坤勳 eke-yin sidkü(n)l (中) p. 193  
 額客額舌兒-, 額客額 <舌魯> eke'er- (下) p. 237, (続上) p. 52  
 額客舌命 eke-rün→eker-ü-n (下) p. 139, (続上) p. 52  
 額客温勳- eke'ü(n)l- (中) p. 62  
 額乞 eki と, teri'ün (上) p. 202  
 額勳別速 elbesü, 額勳別孫 elbesün (続上) p. 84, 251  
 額勳臣, 額勳赤 <泥> elčün (続下) p. 397, 536  
 額勳赤田 elčiten (続下) p. 180~183  
 額列 ele (続上) p. 330, (続下) p. 322, 336  
 額列額都 ele edü の読み方 (中) p. 351, (下) p. 25, (続上) p. 330  
 額勳古兀兒 鈎吉 elgü'ür geügi (中) p. 59  
 額隣出 <昆> elinčüg (続上) p. 161  
 額劣兀楊 elö'üd (続下) p. 480  
 額勳薛-, 額勳 <先> else- (続上) p. 100, (続下) p. 92, 233  
 奄不舌魯 embürü (中) p. 263  
 奄出 emčü, 奄出 中忽必 emčü qubi (続中) p. 177, 268  
 額篋可兀 eme kö'ü (中) p. 245  
 額篋古温 那中孩 你兀舌兒台 eme kü'ün noqaj ni'ürtaï (続上) p. 239  
 額篋格秃 emege-tü (nemege-tü) の解 (続中) p. 83  
 奄古- emkü- (続上) p. 344  
 額木捏 emüne 《~のために》 (下) p. 299, (続下) p. 92  
 額木思格勳 emüsgel (上) p. 192, (中) p. 195  
 額捏 ene, 額迭 ede (近称の指示代名詞兼形容詞) の訳出法 (上) p. 107  
 額捏雪你 ene söni (上) p. 256  
 「昂」の転写法 (eng) (中) p. 363  
 昂格思格 中合察舌兒 enggesge qačar (続上) p. 77  
 昂格失格- enggešige- (続下) p. 496  
 昂客 engke (中) p. 363  
 額舌兒別格勳折- erbegelje- (続下) p. 113  
 額舌列- ere- (続下) p. 294  
 額舌列賓 erebin→ 額舌列賓 ere-yin (続下) p. 401~403  
 額舌列坤 幹抹中渾 erekün omoqun (中) p. 58, (続下) p. 402  
 額舌廉迭克 瞻迭克 只中合速 eremdeg jemdeg jicasu (中) p. 61  
 額舌列木克 eremüg (中) p. 147  
 額舌列兀舌列- ere'üre- (続下) p. 346  
 額舌列延の解 (ereye-n, ere-yen) (続上) p. 183

額舌児古- ergü- (下) p. 159  
 額舌里格列- erige-le- (中) p. 237  
 額舌里兀勒孫 eri'ülsün (続中) p. 58, 205  
 額児帖 erte (中) p. 210, 298  
 額舌魯格 erüge (上) p. 119, (中) p. 263, (続下) p. 6, 9, 203  
 erüge de'ere-če dau'üli- という表現 (続下) p. 120  
 額舌魯思-, 額舌魯<孫> erüs- (中) p. 223, 306  
 ~の意義素 (下) p. 160, (続上) p. 83  
 額舌魯思帖- erüste- (中) p. 173, (続下) p. 290  
 額薛 ese (と兀魯 ülü) (上) p. 55, 380, (続上) p. 329, (続下) p. 264  
 額薛舌児古 esergü (中) p. 352, (続下) p. 192~194, 261, 345, 538  
 額薛児古 中合<舌隣> esergü qari- (中) p. 173  
 額薛兀 ese'ü の用法 (続上) p. 329  
 額思格勒 esgel (中) p. 328  
 額失格 ešige の語頭母音 (続上) p. 340  
 額速克, 額速<吉> esüg (上) p. 157, (中) p. 135  
 額速克赤列- esügčile- (上) p. 157  
 額速勒扯- es-ü-lče- (続中) p. 177  
 額秃堅, 額秃格<捏> etügen~斡脫堅 ötögen (中) p. 311, (続下) p. 295  
 額閎闐 e'üden (中) p. 76, 201, 307, (続中) p. 60, (続下) p. 190, 191, 195  
 額兀闐 李莎中合 札兀舌刺 e'üden bosoga ja'üra (続下) p. 192  
 額閎闐 塔舌魯周 擺亦- e'üden daruju baiyi- (続中) p. 310  
 額兀顛 只羅阿 捏格克迭罷者 e'üden jilo'a negegdebe-je (続中) p. 154  
 e'üden-dür oro- と üden-ber oro- (中) p. 308  
 額兀迭訥 奄出 李斡勒 e'üden-ü emčü bo'ol (続上) p. 162  
 額兀連 e'ülen の母音の長さ (中) p. 200  
 額兀舌列 e'üre (続中) p. 90  
 額兀舌列 e'üre- (続上) p. 271  
 額兀思- e'üs- (下) p. 64  
 額兀思格- e'üsge- (上) p. 222, (中) p. 185  
 額耶 eye (下) p. 231, 243, 316, 337, (続上) p. 52, (続下) p. 233  
 額耶秃- eyetü-, 額耶屯- eyetü(n)- (上) p. 177, (下) p. 243, (続下) p. 233  
 eyetü-ldü- (上) p. 177, (下) p. 243, (続中) p. 17  
 額因 eyin (続上) p. 307, (続下) p. 236  
 額因 客額- eyin ke'ë- (続下) p. 49

эе と эв (下) p. 231

эргүй (下) p. 196

элэг~элгэн (続上) p. 347

элэнцэ, элэнцэг (続上) p. 161

энэ шөнө と өнгөрсөн шөнө (上) p. 256

e-:te- の対立 (中) p. 76, (続上) p. 40, (続下) p. 236

(語頭) e-:ü- (文語:秘史) (続上) p. 93

## G

-g/-g (出動実詞形成接辞) (下) p. 85, 324, (続上) p. 130, (続中) p. 137

-ga- (動作の継起性, 継続性を意味する接辞) (下) p. 133

-gā- (文語) (自動詞を他動詞化する接辞) (続下) p. 218

中合察兀舌刺 gača'ūra (中) p. 319

-gači/-geči (文語) (動作を行う人を意味する接辞) (続下) p. 473

中合苔 gada の転写 (下) p. 347

中合温 gada'un (中) p. 376, (続上) p. 192, 237, (続下) p. 344

中合黒察 只魯阿 都舌里顏 斡舌羅兀<魯> gacča jilu'a-dur-iyān oro'ül- (続中) p. 262

中合札舌児 gaĵar (続下) p. 547

中合札舌児 兀速訥 額者楊中罕楊 gaĵar usun-u eĵed qad (続下) p. 459

-galĵa<sup>2</sup> (中) p. 217, (続中) p. 309

中合勒只舌児中忽 galĵirgu (続中) p. 80

中合勒只舌児中忽由 galĵirquĵ-ū (続上) p. 123

-gana (植物を意味する語を作る接辞) (続上) p. 128

-gana<sup>2</sup> と -lĵa<sup>2</sup>-, -galĵa<sup>2</sup>- (中) p. 217-218, (続上) p. 332-334, (続下) p. 113

ganĵuga (続下) p. 184, 303

中罕主中合刺- ganĵuga-la- (続下) p. 303

中合舌児 gar (下) p. 319, (続上) p. 154

中合舌児關脫勒田 gar kötölten (続下) p. 224

中合舌児- gar-の意味 (上) p. 83, (中) p. 103, (続上) p. 61, (続下) p. 555

~の補助動詞的用法 (中) p. 225

-gar/-ger (形容詞形成接辞) (中) p. 225

中合舌児苔- garda- (下) p. 319

中合苔舌児 catar (中) p. 300

中合兀魯中合 ga'ülüga (中) p. 54

-gči/-gči (形動詞語尾) の成立 (続上) p. 130, 348-349

-gčīn/-gčīn (動物の牝やその毛色を表わす接辞) (上) p. 20, 37, 144, (中) p. 147, (続上) p. 32~34

- gda<sup>2</sup>- (受身の接尾辞) (下) p. 294, (続下) p. 209  
 ~の「可能」を意味する用法 (上) p. 257, (続上) p. 268, (続中) p. 168  
 ~の「尊敬」を表わす用法 (中) p. 34  
 ~の解 (受身か敬語表現か) (続下) p. 24, 326-327  
 ~が使役の意味を表示していると解することも可能な例 (続下) p. 165
- 中豁阿 go'a (上) p. 35, 37  
 中豁多黎 godoli (上) p. 140, (中) p. 307  
 中豁多里<sup>脇</sup>- godolid- (中) p. 307  
 中豁都 Godu (続上) p. 340  
 中豁中豁孫 Gogosun (中) p. 54  
 中豁勒 gol (中) p. 335, 356, (続上) p. 36, 328, (続下) p. 548  
 中豁勒 荅阿舌里秃 中豁多黎 薛温勒秃 gol da'aritu, godoli se'ültü (上) p. 140  
 中豁魯木塔 帖舌里兀捏 golumta teri'ün-e (続下) p. 190-192  
 中豁斡只- go'ōji- (中) p. 93  
 中豁舌兒吉 Gorci (続下) p. 85  
 中豁舌羅中罕 Goroqan と沐舌連 müren と中豁勒 gol (中) p. 356  
 中豁舌羅中罕 Goroqan, (文語) Goroqan, (ハルハ方言) горхи (上) p. 146  
 -黒撒阿舌兒/-克薛額兒 -gsa'ār/-gse'ēr (副動詞語尾) の成立と本来の意味 (中) p. 379, (下) p. 69, (続上) p. 358, (続中) p. 246  
 -黒撒<sup>脇</sup>/-克薛<sup>脇</sup> -gsad/-gsed (形動詞語尾) (中) p. 226, 285, (下) p. 62, 202, (続上) p. 330, (続中) p. 280, (続下) p. 37, 162  
 ~が名詞的に用いられた例 (中) p. 85, (下) p. 202, (続中) p. 283  
 -黒三/-克先 -gsan/-gsen の用法, 職能 (上) p. 29, 191, 208, (続上) p. 338  
 -黒三/-克先 阿主兀 -gsan/-gsen aju'ü (上) p. 66, (続下) p. 259  
 -gsan<sup>2</sup> aju'ü と -gsan<sup>2</sup> bülüge (続下) p. 259  
 -gsaniyar<sup>2</sup> (続中) p. 247  
 -gtun<sup>2</sup> (-gtün/-gtun), -gtud (文語) (中) p. 27, (続下) p. 18  
 -gu-/-gü- (出動動詞形成接辞) (下) p. 153, (続上) p. 199  
 -gu<sup>2</sup> (出動実詞形成接辞) (続中) p. 80  
 中忽ト赤舌里 Gubčiri (下) p. 216  
 中忽ト赤兀舌兒 Gubči'ür (続中) p. 31  
 中忽都思 Godus (中) p. 30  
 中忽只兒 Gujir- (上) p. 275  
 中忽刺<sup>脇</sup>-, 中忽刺〈都〉 gulad- (下) p. 134, (続上) p. 356  
 中昆 gun(qun) (上) p. 147  
 中忽納真 孛多 亦啞失秃 gunajin bodo idešitü (続上) p. 343  
 中忽舌蘭撒舌刺 Guran sara (続下) p. 562  
 中忽舌蘭勒秃黒 石阿 Gura(n)ltug ši'a (中) p. 323

- 中忽塔阿舌兒 Guta'ār, 中忽秃阿舌兒 Gutu'ār (続中) p. 294  
 中忽秃阿舌兒 雪泥 兀都舌兒 失舌刺荅 gutu'ār söni üdür šira-da (続下) p. 204  
 中忽牙 Guya (上) p. 100  
 中忽余(你)不列額 Guyu(n) büle'ë (下) p. 335
- gar- (続下) p. 555  
 ~の補助動詞の用法 (中) p. 168  
 гатаг- と гэтэл- (上) p. 23, 111  
 гурил (続上) p. 308  
 гутгаар, дөтгээр (続中) p. 294
- g-(g-) の消失と保存 (下) p. 123, (続上) p. 150, (続下) p. 535  
 (語末の) -g/-g が -üd/-üü などの添加に伴ない脱落, 弱化する例 (上) p. 39, (中) p. 93, (下) p. 82, 122, 294, (続中) p. 280, 301, (続下) p. 38  
 g(g) と r との交替 (続上) p. 57, (続下) p. 497

## g

- 格- gē-《棄てる》の母音の長さ (上) p. 81, (中) p. 27, 200, (続下) p. 283  
 -格- -ge- (動作の持続性を示す接辞) (続上) p. 294  
 -ge- (動作の到終性を意味する接辞) (続上) p. 200  
 格格 gege と 格格延 gegeyen (上) p. 120-121, (中) p. 69  
 格格延 孛勒中合- gegeyen bolga- (続上) p. 60  
 格只格 gejiige (続上) p. 35, (続下) p. 524  
 格只格列兀〈里〉 gejiigele'ül (続下) p. 524  
 格勒不舌列 gelbüre (中) p. 112  
 格〈鄰〉 geli- (中) p. 87  
 「格木」の解 (gē-mü か ge-mü か) (続下) p. 283  
 格木舌里- gemüri- (続下) p. 25, 302  
 gene-の原義 (中) p. 245, (続上) p. 27-29, 190, (続下) p. 224  
 格年 genen (中) p. 244, (続上) p. 27, 190, (続下) p. 119, 224  
 格捏<sup>脇</sup> gened (中) p. 245, (続上) p. 27, 190, (続下) p. 118-119  
 格捏<sup>脇</sup>格- gened-ge- (続上) p. 29, 190, (続下) p. 223  
 genedte (文語) (続上) p. 37, 190  
 格捏帖 genete (続上) p. 37, 190  
 格訥額舌兒 genü'er (続下) p. 302  
 格兒 ger (中) p. 110, 350  
 格舌兒 帖舌兒格 (堅) ger terge(n) (続下) p. 50, 66~72

格舌命可兀惕 ger-ün kö'üd (続下) p. 30, 72  
 格舌列 gerē(gere) (上) p. 254, (続上) p. 255  
 格舌列勒- gerel- (続下) p. 196  
 格舌連勒 失闌勒 gere(n)l šira(n)l (中) p. 203  
 格兒該 gergei の「該」の字 (上) p. 17  
 格兒該 保温勒- gergei baŋ'ū(n)l- (中) p. 194  
 格舌兒堅 gergen (上) p. 184, (中) p. 373  
 格舌里額思 geri'ēs (続下) p. 24  
 格舌里思格 gerisge (中) p. 376  
 格兒魯格 gerlüge の語構成 (中) p. 350  
 格舌魯 gerü (上) p. 156  
 格耶克- geyeg- (続下) p. 160  
 格亦- geyi- (中) p. 343  
 鈎吉 geügi (中) p. 60, 62  
 斤察思乞周 ginčas kiŋu (下) p. 45, 111  
 戈勒篾 gölme (中) p. 256  
 歌勒迷 gölmi (続中) p. 31  
 果舌疆- gōr-(ü-) (下) p. 262  
 戈舌劣額 göre'ē (上) p. 97  
 戈舌劣額速〈訥〉 göre'ēsün (上) p. 97  
 戈舌劣兀魯臣 gōrō'ülüčün (中) p. 285  
 歌舌魯列 görüle- (続下) p. 295  
 戈魯兀黎 gōrū'ūli (上) p. 71  
 歌兀兒 gō'ūr (中) p. 149  
 -gsed → [-gsad]  
 -克薛你耶〈舌里〉 -gsen-iyer (続中) p. 247  
 -克敦 -gtün (続下) p. 18  
 -克秃惕 -gtüd (続下) p. 18  
 古舌劣勒古 莽中忽思 gürelkü mangcus (続上) p. 346  
 古舌魯 gürü と赤老温 čilaŋ'ün (中) p. 105  
 古舌魯額 gürü'ē (続上) p. 221  
 古舌魯篾列 gürümele (中) p. 162  
  
 гэ- (〜と云う) (続下) p. 283  
 гээ- (続下) p. 283  
 гэгээ と гэгээн (上) p. 120-121, (続上) p. 255  
 гэнд, гэнэн (続上) p. 28  
 гэндэ- (続下) p. 223

гэр (上) p. 114, (中) p. 110, (下) p. 156  
 гэрлүүгээ харь- と гэрээдээ харь- (上) p. 47

「語幹末音決定原理」(上) p. 70  
 「語種類決定原理」(上) p. 69  
 語中の重子音 (上) p. 149  
 疑問語形成の語根 (ke- と ya-) (続上) p. 171, (続中) p. 66  
 疑問の助辭の位置 (続上) p. 264

## h

哈赤 hači の意味 (《恩》と《讎》) (上) p. 220, (中) p. 226, (続上) p. 134  
 哈赤 中合舌里兀勒- hači qari'ül- (続上) p. 134  
 哈赤 帖只額- hači tejiye- (中) p. 65  
 哈黑- hač-, 哈中忽黑三 hač-(u-gsan) (下) p. 153, (続中) p. 212  
 杭中合- hangGa- (続上) p. 236  
 合舌兒 har (続下) p. 261  
 哈舌闌 haran (上) p. 48, 183, (下) p. 203, (続中) p. 270  
 哈舌兒班 中忽舌兒班 古舌列額惕 harban gurban küre'ed (下) p. 18  
 哈舌里 失(舌)里 hari šili (中) p. 362  
 哈兀惕- ha'ūd- (上) p. 219, (続下) p. 495  
 哈兀勒-, 哈兀〈魯〉 ha'ül- (上) p. 168, 174, (中) p. 265  
 好兀〈魯〉 haŋ'ül- (中) p. 265  
 赫乞 heki (上) p. 114, (中) p. 202  
 赫里格 helige (下) p. 11, 228, (続上) p. 347  
 赫里格秃 helige-tü の解 (続上) p. 347  
 赫里格卜赤 heligebči (下) p. 76  
 含屯勒- hemtü(n)l- (中) p. 255  
 赫舌魯巴舌魯蒼 herü baru-da (中) p. 211  
 赫兀失耶- he'ūšiyē- (続下) p. 234  
 赫亦〈魯〉 heyil- (下) p. 94, 202  
 希扯舌列 hičer-e (続下) p. 210  
 蟻魯阿 hilu'a (続上) p. 239  
 蟻魯阿秃- hilu'ātu- (続上) p. 80, 239  
 希舌里扯- hiriče- (続上) p. 139, (続中) p. 115  
 希舌離者- hirije- (続上) p. 139, (続中) p. 115  
 喜舌兒篾思 hirmes (上) p. 208, (下) p. 45  
 喜舌魯中合惕- hirucad- (続上) p. 79-81  
 豁阿舌刺- ho'āra- (続中) p. 293



豁阿思篋舌兒乞〈敦〉 Ho'ās-merkid (続上) p. 366  
 豁黑脱舌兒中忽 hocctorGu (中) p. 254, (続上) p. 18  
 豁黑脱舌兒中灰 hocctorGuĭ (続上) p. 18  
 豁黑脱舌兒中灰 額舌兒別格勒折兀勳周 hocctorGuĭ erbegelje'üljü (続下) p. 110~114  
 豁黑脱舌里〈中罕〉 hocctori-Ga- (続上) p. 191  
 豁黑脱舌魯 hocctoru (下) p. 177, (続下) p. 321  
 槐 主不兒 hoĭ ĵubur (上) p. 236  
 槐 帖篋扯- hoĭ temeče- (中) p. 260, (続上) p. 347  
 豁只塔刺 hoĭi-tala, hōĭi-tala, 豁斡只塔刺 ho'ōĭi-tala (中) p. 43, (続下) p. 305  
 恒 hon と只勳 ĵil, [он と жил] (秘史での用法と現代語での用法) (続下) p. 355  
 恒突舌兒 hon-dur (続下) p. 481  
 恒叱都- hončid(u)- (続中) p. 298  
 恒赤壇 honči-tan (下) p. 102  
 豁舌来塔刺 horaj-tala (続下) p. 305  
 豁兒臣, 豁舌兒臣 horči-n (中) p. 107, (続下) p. 197  
 訶額- hō'e- (下) p. 176  
 款迭 hōnde- (続中) p. 298  
 訶斡申 hō'ōšin (続下) p. 63  
 訶舌列捏只 hōreneĭi (続上) p. 91  
 忽必思 hubis (下) p. 45, (続下) p. 16  
 忽荅〈舌魯〉 hudar- (続下) p. 210  
 忽札兀兒, 忽札兀舌兒 huja'ūr (上) p. 6, 9, 136, (続中) p. 90, 122, 177, 265  
 ~の, 語尾 -a を伴った場合の意味 (続上) p. 96~99  
 huja'ūr 系統の語と hiĵa'ūr 系統の語 (上) p. 9~11  
 忽刺安不中合因 迓步無三 抹舌里耶舌兒 hula'ān buqa-yin yabugsan mōr-iyer (続  
 忽刺安迭格列〈泥〉 Hula'ān degelen (続下) p. 251 (下) p. 115  
 忽刺安 帖兒格勒 兀都兒 hula'ān tergel üdür (中) p. 110, (続上) p. 290  
 忽刺安 帖舌兒格列 hula'ān tergel-e (続上) p. 290  
 忽里牙秃 速卜赤 huliĵatu subčid (中) p. 319  
 忽勳中渾 hulqun (中) p. 77  
 忽泥 huni (続上) p. 122, (続下) p. 132, 135  
 渾只兀 hunĭi'ü ~ hūngĭi'ü (続上) p. 357, (続下) p. 222  
 渾討兀 huntau'ü (中) p. 300  
 忽舌刺中合刺- huraqala- (上) p. 145  
 忽舌兒罷- hurba- (続下) p. 219~220  
 忽舌兒罷 塔塔- hurba tata- (続下) p. 219  
 忽舌魯兀 huru'ü (上) p. 46  
 忽迭速 hüdēsü (中) p. 271

忽客赤〈泥〉 hühečin (続下) p. 30  
 忽客舌兒 hūker (続下) p. 31  
 忽勳迭- hūde- (上) p. 232, (中) p. 168, (続上) p. 291  
 忽勳迭周 中合兒- hūdeĭü gar- (中) p. 168  
 忽勳迭勳都- hūdeldü- (続上) p. 291  
 許列- hūle-, 許列克迭- hūlegde- (続中) p. 87-88  
 忽列迭- hūlede- (続下) p. 503  
 許列兀 hūle'ü (上) p. 137, (下) p. 304, (続中) p. 88  
 忽魯舌里格- hūlūrige- (続上) p. 294  
 忽篋該 hūmegeĭ (下) p. 228  
 忽捏堅 hūneĭen (上) p. 154  
 忽捏速額舌兒 客亦思- hūnesü'er keyis- (続下) p. 401, [(中) p. 147 に関連事項]  
 昏只兀, 渾只兀 hūnjĭ'ü (続下) p. 222  
 洪只兀列思 hūngĭi'üle-s (上) p. 153, (続下) p. 222  
 洪失兀 hūngši'üd (上) p. 154  
 忽你兒 hūnir (上) p. 154  
 忽你思- hūnis- (上) p. 154  
 忽訥兒 hūnūr (上) p. 154  
 忽訥思- hūnūs- (上) p. 154  
 忽兀- hū'ü- (続下) p. 494

(語頭の) h- (上) p. 154, (中) p. 114, 254, 272. (下) p. 43, 154, (続上) p. 80, 347, 357, (続中) p. 87, (続下) p. 234

~を保持している形と失った形が共存する例 (続下) p. 16

~を保存している方言 (上) p. 46, (中) p. 272, (続上) p. 236, 347

(語中に) -h-をもつ語 (続中) p. 82, (続下) p. 118

秘史漢字音訳本の底本 [Urtext, 原典] (上) p. 206, (中) p. 15, 149, 164, 168, 220, 226, (下) p. 5, 101, (続下) p. 181

秘史漢字音訳上の特徴

- 1) 語の意味に関連づけた用字 (上) p. 3
- 2) 漢字の意味を考慮し, 音声上の差異を犠牲にした音訳 (上) p. 9, 23, 45, (中) p. 29, 34, 61, (下) p. 44, (続上) p. 62, 293, (続下) p. 399, 558
- 3) 「古」の字の特殊性 (上) p. 53, (中) p. 125, (続上) p. 239, 345, (続中) p. 130
- 4) 「忙」の字と「蒙」の字 (上) p. 36
- 5) -n で終わる実詞+対格語尾 i を, -n-ni とする音訳 (上) p. 66, (中) p. 39, (続下) p. 395

秘史モンゴル語の特徴的な表現法

- 1) 「必 bi」の位置 (中) p. 169

- 2) 最初に概略的に地域を示し次にその場所を限定する表現法 (上) p. 24, 66-67, (下) p. 233, (続下) p. 563
- 3) 同一内容を別の表現で繰返す修辞法〔頭韻〕(上) p. 261, 263, (中) p. 89, 335, 371, (続上) p. 31, 80, 127, 139, 162, (続中) p. 37, 80, (続下) p. 242, 289, 299, 301, 548

## 秘史モンゴル語に特徴的な使役構文と受動構文

- 1) 使役構文 (中) p. 113, 188, 276, (下) p. 124, 280, (続上) p. 136, 182, (続中) p. 187, 238
- 2) 受動構文(受身形) (上) p. 132, (中) p. 107, 127, 163, 173, 217, (下) p. 10, 211, 338, (続上) p. 68, 371, (続中) p. 16, 78, 229, (続下) p. 157, 184, 185, 458, 506
- 3) 使役形と受身形の意味の相違 (下) p. 152, (続上) p. 56, 303 [(下) p. 140, 280,
- 4) 受身表現の二つの様式 (続上) p. 32, 265, (続下) p. 189 [(続上) p. 60 も関連]
- 5) 使役の意味を表示する二様式 (続下) p. 421~423

否定を意味する語 (上) p. 60

否定の形(動詞と実詞) (続下) p. 159

副詞的動態言, 副詞的様態言 (下) p. 45, (続上) p. 72, 292, (続中) p. 30, 155, 167, 複数形成接辞, 複数語尾 (続下) p. 38, 95, 439 [187, (続下) p. 16, 331, 338, 464 複数形の解釈 (続下) p. 487~488

honorific plural 表現 (続下) p. 48, 488

不定格 (上) p. 218, 241, (中) p. 125, 256, 269, 382, (下) p. 36, 201, 238, 265, (続中) p. 121, 122, 145, 156, 202, 205, (続下) p. 76, 231, 431, 354

補助動詞 (上) p. 96, 114, 141, 167, (中) p. 57, 78, 101, 160, 168, (下) p. 44, 95, 113, 115, 152, 196, (続上) p. 136, 271, (続下) p. 120, 161

花嫁の嫁入り道具を表わす語 (上) p. 191~192

羊の肉 (上) p. 112, (続下) p. 462, 547

## i

- i (述語的に機能する実詞形成接辞) (上) p. 103
- i (動詞語尾 -u の女性形) の用例 (中) p. 211, (続下) p. 302, 505
- i (疑問の -ü/-ü の一変種と見られるもの) (下) p. 325
- i~-yi 「指定の i」「強調指定の -i」(下) p. 219~221, 324, 346, (続上) p. 163, 170, 292, 341, (続中) p. 142, (続下) p. 258, 370
- i~-yi (対格語尾) の、(〜のことを) と訳すべき用法 (中) p. 374, (下) p. 170  
〜を繰り返し附する用法 (続上) p. 120  
〜の、主格表示→[ ] の「従属節の主語を示す対格語尾 -i~-yi」の項参照]

〜の二とおりの読み方の可能な例 (続中) p. 134, (続下) p. 478

亦不倫 ibülün (ibül~ ibülü-) (続下) p. 13

亦赤勒勤 札舌兒中合黒 ičilkin ĵargag (中) p. 315

亦出-, 亦&lt;純&gt; iču- (中) p. 35, (続下) p. 486

亦出阿- iču'a- (中) p. 35

亦出中合- ičugā- (中) p. 35, (続下) p. 486

-id- (-yid-) (出実動詞形成接辞) (下) p. 229, (続上) p. 161, (続下) p. 331

亦唾- ide- (続上) p. 135

亦唾延 ideyen (中) p. 167

亦魯客勒 薛魯乞- idkel sedki- (下) p. 171

亦魯&lt;中罕&gt; idqa- (続下) p. 210

亦都兀楊 idu'ūd (続下) p. 84

亦都舌列- idüre- (下) p. 160, (続上) p. 253

亦古勒古- igülgü- の二つの解 (続上) p. 198

亦刺阿舌里 ila'ari (下) p. 50

ila- [(勝つ) の文語形] の生じた過程 (下) p. 55

ila-:ilagu- (ял- と ялгу-) (下) p. 55

亦刺黒- ilac- (下) p. 55, (続下) p. 155, 157

ilbi (文語) (続上) p. 84, 251

ilbi- と ili- (文語) (上) p. 122-123

亦列- ile- (上) p. 77, (続上) p. 200, (続下) p. 184, 485

〜の補助動詞の用法 (下) p. 113, 196

亦魯卜帖 ilüfte (続下) p. 546

亦魯該 ilügei (下) p. 112

亦馬阿舌里 ima'ar-i (上) p. 18, (下) p. 221, 324, (続上) p. 212, (続中) p. 142, (続下) p. 268

亦馬荅 imada (上) p. 18, (続上) p. 212, (続下) p. 267

亦馬宜 imayi (上) p. 18, (続上) p. 86

\*in, \*an 系の三人称代名詞 (上) p. 18, (下) p. 324, (続上) p. 212, (続下) p. 268

\*ina- 系の語と \*čina-系の語 (続上) p. 37~40

亦捏舌魯 inerü (中) p. 13

影吉舌兒察黒 inggirčag (続上) p. 60

引者 inje (上) p. 191

亦訥 inu (上) p. 18, (続下) p. 20, 131-132

〜の読み方(前置の inu か後置の inu か) (続中) p. 267

亦舌忽舌里- iquri- (下) p. 132

亦舌刺荅 irada (中) p. 44

亦舌列- ire- と与位格語尾 (上) p. 77

- ire- の意義と用法 (上) p. 49, 223, (続下) p. 80, 337  
 亦舌列埃 ire-'ēi の訳 (上) p. 274  
 亦舌列克迭- ire-gde- (下) p. 210, (続下) p. 241, 421-423  
 亦舌列兀〈魯〉 ire-'ūi- (続上) p. 182  
 亦舌児格 irge 《モンゴル包の下縁部の細い帯》 (続下) p. 15  
 亦舌児格 irge 《去勢羊》 (中) p. 370, (続上) p. 176, (続下) p. 462, 545  
 irge~irgen 《人々》 (下) p. 212  
 亦児堅, 亦舌児堅 irgen という語の, 現代諸方言での用法 (上) p. 47  
 ~の「文法的複数扱い」 (上) p. 51, (下) p. 61-62, (続上) p. 257  
 ~と ulus (と haran) の意味のちがひ (上) p. 48, (中) p. 360, (下) p. 25, 105,  
 (続上) p. 268, (続中) p. 201  
 亦舌児格訥 嫩秃黑 irgen-ü nuntuG (続中) p. 200  
 亦舌里扯兀勒- iriče'ül- (続中) p. 115  
 亦薛舌里 iseri (下) p. 351  
 亦思該 isgei (続中) p. 100  
 亦帖格勒 itegel (下) p. 171  
 亦秃格孫 itūges-ün (下) p. 54  
 -iyan/-iyen (再帰格語尾) (続中) p. 156, 202, (続下) p. 350, 438  
 ~の呼びかけの用法 (中) p. 219  
 ~の再帰属格形としての用法 (下) p. 78, (続中) p. 81  
 -iyar/-iyer (造格語尾) の《~を通して》を意味する用法 (続上) p. 68, (続中) p. 9,  
 (続下) p. 250  
 ~の《~を伴って, ~と共に》を意味する用法 (中) p. 343, (続中) p. 9  
 ир- (上) p. 223, (続下) p. 80  
 i 母音の転位 (上) p. 149, (続上) p. 294, 368, (続下) p. 204  
 i の折れ (上) p. 137, (中) p. 47, (下) p. 303, (続上) p. 125, 306, 368, (続中) p. 211  
 (語末に) -i をもつ形と然らざる形の交替 (下) p. 193, 337, (続上) p. 18, (続下) p. 562  
 i を含まない語 : i を含む語 (文語 : ハルハ方言) (上) p. 146  
 i~ni- の交替 (中) p. 36  
 (語末の) -i と -r の交替 (続中) p. 210  
 (第一音節の) i : u/ü (文語 : 秘史の言語) (上) p. 10, 136, (中) p. 310, (下) p. 45,  
 133, 303, (続下) p. 14, 221, 419, 463  
 (秘史モンゴル語における) i~ü の交替現象 (続中) p. 18, 209, 244, (続下) p. 354  
 -i で終わる実詞の複数形 (中) p. 94, (下) p. 128

## j

- 札阿- ja'a- (続中) p. 136  
 札阿中合- ja'aga- (上) p. 258  
 札阿舌里葛 ja'arid (中) p. 349, (続下) p. 158  
 札阿舌鄰 ja'arin (中) p. 349, (続中) p. 136, (続下) p. 158  
 札巴只你牙舌児 jabajin-iyar の解 (続上) p. 66  
 札ト中合- jabqa- (中) p. 181, (続下) p. 458  
 札葛 jad (上) p. 186  
 札苔 jada (下) p. 133  
 札苔刺- jadala- (下) p. 133  
 札中忽葛 亦舌児堅 jagud irgen, 札中忽敦 亦舌児堅 jagud-un irgen (続下) p. 554~555  
 札興 jahing (続中) p. 82  
 札刺麻 jalama (続上) p. 84  
 札刺兀 jala'ū~札刺危 jala'ūi ~ (札刺温) jala'ūn (上) p. 20, (続下) p. 252  
 札勒把舌里- jalbari- (続上) p. 85  
 札里舌刺- jalira- (続下) p. 211, 301  
 札勒舍失黑壇 jalqamšigtan (中) p. 204  
 蓋討兀 jantaq'ū (続上) p. 241  
 札中合 jaqa (続中) p. 313, (続下) p. 294  
 札中合温 jaqa'ūn (続中) p. 313, (続下) p. 262, 294  
 札舌児必牙勒 jarbiyal (下) p. 170  
 札舌児中忽 jargu (続中) p. 116, (続下) p. 61~63  
 札舌林 jarim と札舌里木葛 jarimūd (と qacas) [意味の変化と保存] (下) p. 287~  
 289, (続下) p. 40~43, 44  
 札舌児里黑 孛〈魯〉 jarlig bol- (続中) p. 9, 27  
 札舌児里黑 篋迭秃該 jarlig medetügei (続下) p. 288  
 札撒- jasa- (下) p. 39, (続中) p. 290, (続下) p. 522  
 札撒黑 jasag (中) p. 109, (続上) p. 368, (続下) p. 116, 346  
 札撒黑 孛勒中合- jasad bolga- (続上) p. 368, (続下) p. 346  
 札撒黑 款迭- jasad kōnde- (続中) p. 298, (続下) p. 346  
 札撒黑刺- jasadla- (中) p. 109, (続下) p. 115  
 札撒兀勒 jasa'ul (続下) p. 522, 524  
 札兀葛中忽舌里 ja'ūd-quri (下) p. 68, (続上) p. 155, (続下) p. 555  
 札兀中合速 ja'ūgasu (中) p. 51  
 招討 jaqtaq (下) p. 69

札牙阿禿 脱舌列克先 jaya'ātu töregsen (秘史の冒頭部分) の jaya'ā とは? (上)  
p. 14

札亦刺 中合舌魯牙 jayila Garuya (続下) p. 197

者 je (間投詞) (上) p. 176, 272, (中) p. 280, (続下) p. 330

者 安苔中合舌兒壇 je andagartan (中) p. 280

者 孛魯勸察- je boluča- (上) p. 272

者 帖里 je teli (続下) p. 337

者因那可舌兒 jē-yin nōkōr (続下) p. 330

者 je (当為的推量の助辞) (上) p. 228

者 je (強意の助辞) (続中) p. 236

者別列- jēbele- (下) p. 175, 178

折不格 jēbūge (中) p. 63

者魯古- jēdgū- (続上) p. 366

者額 je'e (上) p. 261

者額舌兒迭 je'erde (続下) p. 331

者乞舌兒- jēkir- (続下) p. 301

帖連 jēmlen (続中) p. 210

征古- jēnggū- (下) p. 277

者舌兒格 jerge (中) p. 280, (下) p. 219

者舌兒格額舌兒 jerge'er (下) p. 218

折失-, 者〈申〉 jēši- (中) p. 299, 336

趙官 jēūgan (続下) p. 249

-只 -ji (partitive の接辞) (続上) p. 91, 136

-jī'āi (-ju'ū の女性形) (上) p. 21, (中) p. 165

只ト失額舌兒-, 只ト失額〈舌命〉 jībšī'er- (下) p. 133, (続上) p. 71, (続下) p. 281

只池 jīči (下) p. 56, 232, (続下) p. 224

只中合臣 jīcačīn (中) p. 285

只克禿- jīgtū- (中) p. 351

只勸苔 jīlda (下) p. 140

只勸苔 孛魯勸察- jīlda bolda- (下) p. 130, 140, (続上) p. 56

只勸都 jīldū (上) p. 91, (続中) p. 211

只羅阿 jīlo'ā (続中) p. 154, 262, (続下) p. 337

只魯阿 jīlu'ā (続下) p. 486

-jin (「部族・氏族」を表わす女性形) (上) p. 37

征古- jīnggū- (続下) p. 208

整〈坤〉 jīngkū- (下) p. 277

只舌刺木魯 jīramūd (中) p. 65

只舌林 jīrim (続下) p. 13

只舌鄰 jīrin (中) p. 20, (続下) p. 182~183

只舌魯格 jīrūge (下) p. 104, (続上) p. 172, 191

只舌魯格 牙苔- jīrūge yada- (続上) p. 307, (続下) p. 117

只舌兒瓦安 jīrwa'an と只舌兒中豁安 jīrco'an (数詞の《六》) (続上) p. 90

只速列- jīsūle- (続下) p. 418

只兀- jī'ū- (続上) p. 334

只兀舌兒蔑克 jī'ürmeg (続下) p. 460

卓 中忽都思 中合魯中忽- jō Gudus qadqu- (中) p. 31

勺乞- jōki- (続上) p. 264

拙舌兒乞蔑思 jōr kimes (下) p. 104

拙舌兒中合勸苔- jōrgalda- (続下) p. 488

勺莎 jōso (続下) p. 395

拙ト jōb (中) p. 119, (下) p. 325, (続上) p. 266

勺ト額薛 孛魯- jōb ese bol- (続下) p. 463

勺必 塔必 孛勸- jōb-i tabī bol- (下) p. 325, (続下) p. 490

勺不兀 塔不兀 jōb-ū'ū tabu'ū (下) p. 325

拙額- jō'e- (中) p. 177, (続中) p. 181, 246

莊 jōng (続中) p. 143

-ju/-jū (副動詞語尾) (上) p. 22, (下) p. 8, (続中) p. 205

-ju(-ču) a-(bū-) (中) p. 131, (続下) p. 156

-ju ab- (上) p. 167, (続上) p. 136

-ju(-ču) ile- (下) p. 113, 196

-ju ülü bol- (続中) p. 271

-ju yada- (中) p. 97, (続上) p. 152

主不舌兒 jūbur (中) p. 319

主中合- jūca- (続上) p. 150

主中忽思 jūgus, jūqus (上) p. 227, (下) p. 45

主札阿納 阿亦速中渾 jūja'an-a ayisuqun (続上) p. 342

准苔兀勸 jūnda'ül (続上) p. 86

主撒- jūsa- (続下) p. 393

主撒黑 jūsağ (続下) p. 545

主速舌里〈敦〉 jūsurid- (続上) p. 160

-ju'ū/-jū'ū 系語尾の, 意味・意義素 (上) p. 194, (中) p. 106, 292, (下) p. 64, 270, 273, (続上) p. 58

~の《~していた》を表わす用法 (下) p. 64, 130, (中) p. 279

~の《~している, ~してある》と訳出すべき例 (続上) p. 58

~の《~してしまう》を表わす用法 (下) p. 275

~と -ba/-be のちがひ (下) p. 270, 273

〜と -la'a 系語尾 (下) p. 273  
 -主為 -ju'u᠊ (-ju'u の複数形) (続下) p. 183  
 -周 不列埃 -jü büle'e᠊ (続上) p. 71  
 -周 斡克- -jü ög- (下) p. 95  
 主因 亦児堅 jü-yin irgen (上) p. 216  
 主ト赤- jübči- (jubči-) (続上) p. 171, (続中) p. 173, (続下) p. 489  
 諸額- jü'e- (中) p. 177, (続中) p. 181  
 竹克竹克 抹舌児抹舌児 秃舌里額 jüg jüg mör mör-tür-iyen (続中) p. 307  
 主乞耶舌児 jüg-iyēr (続中) p. 251  
 竹克列兀勒- jüg-le-'ül- (続中) p. 114  
 竹克途舌児 斡舌羅兀勒- jüg-tür oro'ül- (続下) p. 399, 486  
 主格黎 jügelī (上) p. 192, (続下) p. 465  
 主格〈舌魯〉 jüger- (続下) p. 465  
 主勒都 jüldü (続中) p. 211  
 主舌魯格 jürüge の第三音節の子音の有声・無声について (続上) p. 172, 191  
 主舌魯格 牙苔- jürüge yada- (続上) p. 172, 191  
 jürüke(n) (上) p. 137  
 主亦列 主亦列 jüyil-e jüyil-e (続上) p. 23

за (と тийм) (上) p. 176, (中) p. 280  
 зарим (と хагас) (下) p. 288, (続下) p. 42  
 зөв (中) p. 120  
 зөвхөн (続上) p. 267  
 зургаа(н) (続上) p. 90  
 зүгээр (続中) p. 251  
 зүрх (下) p. 11, (続上) p. 172, 191, 307, (続下) p. 117  
 зүтгэ- (中) p. 351  
 зэрэг, зэргээр (中) p. 280, (下) p. 219  
 зээ (上) p. 272  
 -ж(-ч) бай- (中) p. 131  
 -ж болохгүй (続中) p. 271  
 -ж хоцор- (中) p. 101  
 -ж яд- (下) p. 268  
 жуулчин (続上) p. 335

-j- と -d- の交替 (中) p. 75  
 -j- と -y- の交替 (上) p. 142  
 実詞の性と数 (上) p. 102

実詞の造格形で終わる表現 (続下) p. 114~115  
 実詞語幹・動詞語幹共用の語 (上) p. 88, 137, 276, (中) p. 96, 189, 207, (下) p. 134, 260, (続上) p. 41, 175, 200, 327, (続中) p. 63, 102, (続下) p. 98, 222, 367  
 自動詞の受身形 (中) p. 58, 107, 174, (下) p. 10, 210~211, 338, (続上) p. 371  
 自・他両用の動詞 (中) p. 89, 141, (下) p. 62, 63, (続上) p. 292, (続中) p. 36  
 従属節の主語を示す対格語尾 (上) p. 80, 134, 236, (中) p. 28, 127, (下) p. 196, 211, 301, (続上) p. 48, 78, 96, (続中) p. 215, 235, (続下) p. 36, 102, 108~109, 194, 396, 478  
 受動文・受動表現→ [h の「秘史モンゴル語に特徴的な使役構文と受動構文」の項参照]  
 順序数詞を形成する接辞 (続中) p. 294  
 女性形語尾が人以外の対象物に関して用いられた例 (続上) p. 32~34, 250  
 風格語尾を表記するのに用いられる文字 (続下) p. 403

## k

客 ke (牙兀客 ya'ü ke) (下) p. 238  
 客- kē- 《〜と言う》(上) p. 81, (続上) p. 51  
 客ト帖兀勒 kebte'ül (続上) p. 277, 283, (続中) p. 284, 311~313, (続下) p. 37, 63~65  
 客扯兀 keče'ü (続下) p. 142~145  
 客額- ke'e- 《〜と言う》(続下) p. 85  
 ke'e- と kele- (中) p. 136, 138, (続上) p. 51, (続下) p. 49  
 ke'e- で受ける文の起点 (上) p. 217, (中) p. 129  
 客額里 ke'eli (上) p. 180  
 客格速 kegesü (上) p. 274, (続下) p. 557  
 客格速列- kegesüle- (上) p. 275, (続下) p. 557  
 客古〈里〉 kegül (上) p. 234  
 克 kej (上) p. 233  
 客亦速木薛児 kejsümüser (上) p. 234, (続下) p. 107  
 客只額 keji'e (中) p. 211, (続中) p. 66, 142  
 客客 keke (中) p. 349  
 客客孫 kekesün (続下) p. 557  
 客勒別思 kelbes (下) p. 45, (続下) p. 336  
 客列(客連) kele(n) (下) p. 129, (続上) p. 16, (続中) p. 308  
 客列 阿〈不〉 kele ab- (下) p. 128  
 客列(客連) 亦舌列兀〈魯〉 kele(n) ire-'ül- (下) p. 124, (続上) p. 16  
 客列(客連) 古児格兀〈魯〉 kele(n) kürge-'ül- (下) p. 63, 124, (続上) p. 16  
 客連 乞- kelen ki- (続上) p. 16

客連 古舌兒〈堅〉 kelen kürge- の二通りの解釈 (下) p. 345~346  
 客列- kele- (中) p. 136, 138, (下) p. 345, (続下) p. 49  
 客列赤列- kelečile- (続中) p. 308  
 客里 keli (《いつ》) (続上) p. 171, (続中) p. 66, (続下) p. 337  
 客勒乞- kelki- (続上) p. 346  
 客勒帖該 中合打 keltegei qada (続上) p. 93  
 客魯舌連 Kelüren (続上) p. 308  
 坎客〈翁〉 kemkel- (続上) p. 250, (続中) p. 166  
 客木格里魯 kemkeri-d (続上) p. 250  
 客木客舌魯, 坎客舌魯 kemke-rü (中) p. 263 (下) p. 177, (続上) p. 250, 357, (続下)  
 -ken (下) p. 75, (中) p. 315, [p. 321  
 ken (下) p. 238  
 客舌兒 ker (下) p. 311, (続中) p. 314  
 客舌列- kere- (続上) p. 305  
 客舌列勒 kerel (続上) p. 305  
 客舌列兀〈舌里〉 kere'ür (下) p. 245  
 客舌列〈吉〉 kereg (中) p. 293  
 客薛- kese- (上) p. 218  
 客失克, 客石〈格〉 kešig (中) p. 16, (続上) p. 278, 283  
 客失克 豁阿舌刺- kešig ho'ara- (続中) p. 296  
 客失克 斡舌羅- kešig oro- (続上) p. 282~284, (続中) p. 262  
 客失克田 kešigten (続上) p. 276, 277, (続中) p. 262, 284, 297  
 客失克帖泥 篋迭- kešigten-i mede- と客失克帖泥 札撒- kešigten-i jasa- (続中)  
 p. 289  
 客秃格勒〈獲〉 ketügelje- (続中) p. 309  
 客秃勒- ketül- (上) p. 22, (続下) p. 329  
 客秃思 ketüs (下) p. 45, (続下) p. 328~329  
 (文語の) keü(n) と köbegün (上) p. 32~34  
 客兀舌兒格 ke'ürge (続下) p. 31  
 客兀舌魯 ke'ürü (中) p. 263, (下) p. 177, (続下) p. 321  
 客兀思 ke'üs (下) p. 45  
 客兀思 察卜赤- ke'üs čabči- と qugus čabči- (下) p. 122  
 客延 keye-n (《~と云って》) (中) p. 136, (下) p. 77, (続上) p. 181, (続下) p. 253,  
 ~の形動詞的用法 (続上) p. 29 [p. 328  
 客亦不舌兒 keyibür (続上) p. 345  
 乞赤都魯 kičidüd (続下) p. 480  
 乞赤昂古 kič'i'ënggü (下) p. 193, 337, (続下) p. 446  
 乞額魯 ki'ëd の意味と用法 (下) p. 29, 208, (続下) p. 130

乞古舌里- kigüri- (続上) p. 181  
 乞里古 kiligü (上) p. 233, (続上) p. 129  
 乞魯古 kilügü (続上) p. 129  
 乞里耶兒 kili-yer (上) p. 123  
 乞木勒 kimul と乞木速 kimusu (上) p. 219  
 kinggü (続下) p. 464  
 輕古勒- kinggöl- (続下) p. 464  
 輕古舌里- kinggüri- (中) p. 375, (続下) p. 464  
 輕古舌魯 察卜赤- kinggürü čabči- (続下) p. 321, 464  
 輕古思 kinggüs (中) p. 260, (下) p. 45  
 乞舌魯額 kirü'e (下) p. 41, (続下) p. 180  
 乞〈散〉 kisa- (上) p. 244  
 乞撒勒 kisal (上) p. 244  
 乞(失)田 kišiten (下) p. 85  
 乞秃中孩 kitugaı (下) p. 193  
 闊卜失勒都- köbšildü- (続中) p. 142  
 闊朵額阿舌刺〈翁〉 Ködö'e-aral (下) p. 87  
 歌多勒- ködöl- の意味 (中) p. 203, 211  
 ~と neü'ü- (文語 negü-) の意味のちがひ (下) p. 182, (続上) p. 90  
 歌多勒(格)- ködöl(ge)- の「歌」の表記 (下) p. 18, 93  
 可乞- köki-, 可乞兀勒迭- köki-'ül-de- (中) p. 257, (続上) p. 125, (続中) p. 79  
 闊闊 kökō, kökō- (下) p. 93  
 闊闊迭卜帖舌兒 kökō debter (続中) p. 117  
 闊勒 köl (中) p. 143, 211, (下) p. 93, 319  
 闊勒巴兒中忽真 脫古木 Köl bargujin tököm (上) p. 65  
 闊勒阿訥 闊薛舌列 中合舌兒 阿訥 中合札舌刺 köl anu kösör-e gar anu gaĵar-a  
 という表現の含意 (続下) p. 531  
 闊勒都舌里顏 都舌魯- köl-dür-iyën dür- (続中) p. 201  
 闊勒- köl- (上) p. 263, (中) p. 210  
 闊勒赤舌兒格- kölčirge- (続下) p. 234-235  
 闊勒迭 kölde- (下) p. 319  
 可勒格- köl-ge- (上) p. 263  
 款迭- kōnde- (続上) p. 101  
 款迭列都由 kōndeledüj-ü (続上) p. 123  
 款多列都 köndöledü (続中) p. 79  
 匡失列篋勒 köngšile-mel (上) p. 111  
 可舌里速 körisü (中) p. 298  
 闊薛〈舌列〉 köser (続中) p. 201

闊脱臣 kōtōčīn (統中) p. 19  
 闊脱<sub>楊</sub> 札撒兀勒<sub>罷</sub> kōtōd jasa'ūlba. (統上) p. 327  
 可<sub>團</sub>勒<sub>勒</sub> kōtō(n)l (中) p. 207, (統上) p. 327  
 kōtōl jasa- (統上) p. 327  
 kōtōl- (中) p. 207, (統上) p. 327  
 可兀 kō'ū (中) p. 315, (下) p. 75, (統上) p. 49, (統中) p. 207  
 可兀赤<sub>連</sub> kō'ūčīle- (統中) p. 201  
 可兀<sub>楊</sub> kō'ūd (中) p. 58, 125, (統上) p. 49  
 可兀都延 (kō'ūd-ū-yēn~kō'ūd-ū'ēn) の解釈・転写 (統中) p. 201, (統下) p. 284  
 可兀客<sub>都</sub> kō'ūked (上) p. 32  
 可兀客都延 kō'ūked-ū-yēn の -ū- の解釈 (中) p. 85  
 可兀客<sub>泥</sub> kō'ūken (上) p. 32, (中) p. 315, (下) p. 75, (統中) p. 207  
 可温 kō'ūn (上) p. 31, (中) p. 112, 125, (統中) p. 207  
 可温古温 kō'ūn kü'ūn (中) p. 112  
 可兀<sub>舌</sub>兒格 kō'ūrge (統下) p. 31  
 闊亦<sub>楊</sub> köyid- (統中) p. 93  
 闊亦田 köyiten (統中) p. 142  
 古 kü (助辞・小辞) (上) p. 57, (中) p. 338, (統下) p. 322  
 -古 -kü (形動詞語尾) (上) p. 54, 55, (統上) p. 163  
 古<sub>卜</sub>臣 kübčīn (中) p. 125, (統上) p. 339  
 古出 küčü (上) p. 54, (統下) p. 446  
 古出 牙<sub>丹</sub> küčü yada- (統下) p. 335  
 窟出<sub>謎</sub>捏 küčügene (中) p. 302  
 窟出古兒 küčügür (中) p. 154  
 古出<sub>舌</sub>兒格古<sub>泥</sub> küčürgeg-ūn (中) p. 374  
 -恢 -küi (形動詞語尾 -kü の女性形) (中) p. 203, (統上) p. 163  
 ~が: 「-古宜」 -küyi と表記されたことと見ることの可能な例 (統上) p. 163 [関連事項  
 (統中) p. 262]  
 曲魯克, 曲魯<sub>吉</sub> külüg の意味・用法 (上) p. 39, (下) p. 294, (統中) p. 132  
 曲驟兀<sub>的</sub> külü'ūd (下) p. 294  
 曲驟兀<sub>楊</sub> 阿黑<sub>賜</sub>思 külü'ūd actas (上) p. 39  
 kümüs (文語) (統下) p. 403  
 -kün (形動詞語尾) (統中) p. 134  
 坤都 抹<sub>舌</sub>兒秃 古温 kündü mōrtü kü'ūn (統中) p. 92  
 古捏速捏 阿把<sub>關</sub> künesün-e abala- (統上) p. 92  
 孔客-, 孔<sub>牽</sub> küngke- (中) p. 233, (下) p. 169  
 古<sub>舌</sub>兒- kür- (上) p. 54, 55  
 ~の意味 (上) p. 183, (中) p. 51, (統上) p. 230

~と格語尾 (上) p. 77, (中) p. 51  
 ~の受動形 (統下) p. 475  
 古<sub>舌</sub>兒格<sub>勒</sub><sub>敦</sub> kürgeidü- (統上) p. 230  
 古<sub>舌</sub>兒格兀<sub>魯</sub> kürge'ül- (中) p. 188, 276, (下) p. 124, (統上) p. 302~303  
 古<sub>舌</sub>兒帖- kürte- (統上) p. 302, (統下) p. 475  
 古兒敦 kürdün (上) p. 226  
 古<sub>舌</sub>列格 kürege (統中) p. 176  
 古<sub>舌</sub>列干 küregen (上) p. 272  
 古<sub>舌</sub>零 küreng (統下) p. 480  
 古<sub>舌</sub>列延 küreyen (中) p. 355  
 古<sub>舌</sub>里格<sub>楊</sub>帖 küriged-te (上) p. 272  
 古<sub>舌</sub>里延 küriyen (上) p. 54, (中) p. 166  
 古兀 kü'ū (kü'ūn の不定格) (上) p. 114, (中) p. 125, (統下) p. 403  
 古兀列<sub>勒</sub>敦 kü'üle-ldü-n (上) p. 114  
 古温 kü'ūn (中) p. 125, 139, 141, (統下) p. 403  
 ~の「古」の表記について (上) p. 53  
 古兀<sub>舌</sub>兒格 kü'ūrge (上) p. 54, (統下) p. 31  
 窟兀兒格 kü'ūrge (統中) p. 176  
 -x 《~のもの》 (上) p. 158  
 хий (上) p. 233  
 хийгээд (下) p. 29, 209, (統上) p. 13  
 хил (上) p. 123  
 хөдөл-と хөдөлмөрлө- (中) p. 203  
 хөлөг (上) p. 39, (統中) p. 132  
 хөлчүү (統下) p. 235  
 хөхөл ~ гөхөл (上) p. 234  
 хүн (中) p. 113  
 хүний сайныг ханилаж мэд. ... (上) p. 52, (統中) p. 132  
 хүр- (上) p. 183, (中) p. 51  
 хүү, хүүхэн, хүүхэд (上) p. 32, (中) p. 112, 125, 315, (下) p. 75, (統下) p. 207  
 хэзээ (統中) p. 142  
 хэрүүл (下) p. 245, (統上) p. 305  
 хэрэг (中) p. 293  
 хэцүү (統下) p. 143  
 kö を表わす文字 (下) p. 93, (統上) p. 55  
 kü を表わす漢字 (上) p. 54

仮定の副動詞語尾→ [-'äsu/-'esü の項]

敬語形語尾, 敬語表現 (上) p. 56, 178, 253, 272, (中) p. 34, (下) p. 212, 338, (続中)  
p. 187, (続下) p. 48, 351, 458, 463, 475

形容詞的実詞形成接辞の体系 (上) p. 20, 102

## I

-l- (iterative の接辞) (続上) p. 332, 346

-l- と -la- の, 実詞を自動詞にするのに用いられた例 (続上) p. 252

-la-/-le- (出実動詞形成接辞) の意義 (上) p. 114

-la'ä 系語尾の意義素 (上) p. 195, (下) p. 273, (続上) p. 359

-la'ä 系語尾と -lu'ä 系語尾 (上) p. 253

-läj (-la'äj の縮約形) (中) p. 131

老撒 lausa (続下) p. 481

-lča→ [-ldu- と -lča-]

-ldaj (男性の個有名詞作成の接辞) (上) p. 37, (下) p. 49

-ldu- と -lča- (上) p. 71, 135, (下) p. 133

(文語の) -lga<sup>2</sup>- (causative の接辞) の成立 (続下) p. 40

-lig (出実動詞形成接辞) (中) p. 104, (続上) p. 200

-ligi (動詞女性形語尾) (中) p. 86

-lja<sup>2</sup>- (中) p. 162, 217, (続上) p. 66, 330, (続下) p. 113, 318

-lja<sup>2</sup>- と -cana<sup>2</sup> のちがい, (続上) p. 332~334

-ljin (下) p. 49

-ltaj/-ltej (下) p. 203, (続下) p. 561

-lten (下) p. 203

-ltuc/-ltüg (中) p. 324

-lu'ä (動詞語尾) (上) p. 195, 253

-lu'ä/-lü'e (共同格語尾) (続中) p. 111, 144, (続下) p. 62

-lun/-lün (女性名に附加される接辞) (下) p. 264

-魯 -lü (小辞) (続下) p. 322

-魯額 你客捏 -lü'e niken-e (続中) p. 111

l~n の交替 (上) p. 164, (続上) p. 328, (続下) p. 194

l 音と r 音にかかわる異化現象と, 両者の入れ替わり (上) p. 235, (続上) p. 308

-l~-sun の交替 (上) p. 219

-l-sun(sün) の -l- の脱落 (続下) p. 16

-л と -д の交替 (上) p. 113

## m

-ma/-me (出動実詞形成接尾辞) (下) p. 105

-mad/-med (続上) p. 211

馬中合 maga (上) p. 163, (下) p. 330, (続中) p. 93, (続下) p. 210

-maGaj (動詞接辞) (続下) p. 493

-mal/-mel (出動実詞形成接辞) (上) p. 111

馬里〈安〉 mali'ä- (続中) p. 123

馬里牙- maliya- (中) p. 236

馬納中合兒 managar (中) p. 369, (下) p. 338, (続上) p. 169, 309, (続下) p. 210

managar 系の語と margāši 系の語 (下) p. 132

managari (続下) p. 210

馬納中合(舌)兒石 managarši (下) p. 132, (続上) p. 20, (続下) p. 210

馬納中合舌魯 managaru (続下) p. 210

忙吉兒速〈你〉 manggirsun (中) p. 45, 49, 270

蟒古思, 莽中忽思 mangcus (中) p. 86, (続上) p. 346

莽來 manglaj (下) p. 128

莽來敦荅 中合黑察 你都禿 manglaj dumda gagča nidütü (上) p. 41, 125

莽刺〈納〉 manglan (下) p. 128

馬納 manu (中) p. 34

馬中孩- maqaj- (続下) p. 363

馬舌刺〈安〉 mara'ä- (続上) p. 367

馬舌里牙- mariya-, mariyā- (上) p. 149, (続上) p. 369

馬舌里顏 mariyan (続上) p. 369

mau'ü~mau'üj~mau'ün (上) p. 20, 102, (続下) p. 251, 252, 285, 419

卯兀 mau'ü

卯危 mau'üj の用法 (上) p. 102

卯温 mau'ün の意味 (続下) p. 188, 288

卯危 幹魯- mau'üj od- (上) p. 276

卯危刺- mau'üjla- (下) p. 329, (続中) p. 167

卯兀刺- mau'üla- (中) p. 90, (続中) p. 167

卯兀中合鄰 mau'üqalın (下) p. 49

篋迭- mede- (続中) p. 290, (続下) p. 237, 288

~と兀中合- uqa- (中) p. 232

篋迭額 兀該 mede'e ügej の解 (続下) p. 159

篋迭舌列- medere- (下) p. 88

篋格只〈連〉 megejile- (下) p. 113



- 篋勅〈斡〉 melje- (続下) p. 363  
 篋捏 mene~篋年 menen (上) p. 188, 197  
 篋舌兒 mer (下) p. 48  
 篋兒干 mergen (上) p. 34, (中) p. 40  
 篋薛 mese (下) p. 193  
 篋圖, 篋禿 metü (上) p. 188, (続下) p. 131  
 米跌舌里- mideri- (下) p. 96  
 米納阿 mina'a (上) p. 164, (続上) p. 328  
 敏中合里兀楊 mingali'ūd (続中) p. 301  
 敏中合里兀歹 mingali'ūдай (続中) p. 301  
 米訥 minu の解釈 (呼格か主格か) (上) p. 122  
 ~の文中における位置 (前置と後置) (続下) p. 20, 188  
 ~の一用法 (続下) p. 432  
 米訥埃 minu'ai (続下) p. 262  
 抹赤 moči (続中) p. 250, (続下) p. 31  
 modun (続中) p. 250, (続下) p. 31, 489  
 抹敦薛兀勅 modun se'ül (続下) p. 489  
 抹只舌兒中合〈中渾〉 mojiŋqag (続中) p. 167  
 忙中豁勅 MongGol の「忙」の字の転写 (上) p. 36  
 「忙中豁諭 紐察 脱(ト)察安」Monggolun niuča tobča'an という表題 (上) p. 7,  
 (続上) p. 265  
 抹中合阿- moqa-'ā- (続中) p. 116  
 抹中忽楊中合- moqudqa- (続上) p. 136  
 mori(n) (下) p. 40, 197  
 mori unu- (上) p. 178, (中) p. 163  
 抹舌驪刺- morila- (上) p. 77, (下) p. 192  
 ~の意味変化 (上) p. 178, (下) p. 212  
 抹舌驪禿 morintu (上) p. 161  
 抹亦勅孫 moyilsun (中) p. 44  
 抹赤吉- močgi- (中) p. 152, (続上) p. 62  
 抹額列楊- mō'ēled- (中) p. 233, (続上) p. 60  
 抹客額列楊- mōke'ēled- (続上) p. 60  
 抹可舌里-, 抹闊舌里- mökōri- (下) p. 203, (続中) p. 62, 299  
 木勅禿思 möltüs (下) p. 159  
 抹那 mönō~抹訥 mönü (中) p. 182, (続上) p. 49, 224  
 抹舌兒 mör (中) p. 10, 121, (続上) p. 61, 285  
 抹舌里額舌連 mör-i'er-ēn の解釈 (中) p. 121  
 抹舌劣勅- möröl- (中) p. 9  
 -msar<sup>2</sup> (続下) p. 107  
 -msig/-msig (上) p. 200, (中) p. 204  
 -mu/-mū~-mui/-müi の意義素 (上) p. 96, 172  
 ~の historical present の用法 (続上) p. 85, 183  
 木楊 mud (下) p. 57, 86, (続上) p. 285, (続中) p. 34  
 門 mun (下) p. 57, 178, (続上) p. 285  
 門蒼 munda (下) p. 178, 201  
 蒙 mung (中) p. 166, (続中) p. 129  
 蒙塔你- mungtani- (中) p. 166, (続中) p. 129  
 木中忽刺舌兒 muqular (中) p. 350, (続中) p. 209  
 木中忽里 木思中忽里 muquli musquli (続下) p. 427  
 木赤勅者- müčilje- (続下) p. 318  
 木楊 müd → mud (中) p. 217, (下) p. 57  
 木楊〈勅〉 müdki- (続上) p. 62  
 木勅禿勅- mültül- (続上) p. 329  
 木勅禿舌列- mültüre- (中) p. 101  
 門 mün → mun (上) p. 171, (中) p. 120, 182, (下) p. 57  
 蒙客 騰格舌里因 古純突舌兒 müngke tenggeri-yin küčün-dür の解釈 (続中) p.  
 259  
 沐舌漣 müren (中) p. 356, (続下) p. 374  
 木舌魯迭- mürüde- (下) p. 111  
 -müser (上) p. 234, (続下) p. 107  
 магад (上) p. 163  
 манай, танай (続中) p. 301  
 морь (下) p. 40, 212, (続下) p. 395  
 морьт хүн, морьтой хүн (上) p. 226  
 морил- (上) p. 178, (下) p. 212  
 мөн (上) p. 171, (中) p. 120, 182  
 мөнөө と өнөө (続上) p. 49  
 мөрөөд- (中) p. 9  
 мяраа- (続上) p. 368  
 m>n の変化 (下) p. 151  
 -mb- (蒙古文語など)>-m- (現代の言語) (中) p. 149  
 モンゴル語での「一日」の分け方 (中) p. 343, 369, (下) p. 205, 351, (続上) p. 21,  
 23, 169, (続下) p. 205

モンゴル語の《翌日, 明日; 朝》を意味する語 (下) p. 132, (続下) p. 210  
 モンゴル語の《川, 河, 江》を意味する語 (中) p. 355-356  
 モンゴル語の《速い》を意味する語 (続下) p. 460  
 モンゴル語の《人間の死》に対する表現 (続下) p. 463  
 モンゴル語の《揺れる》を表わす語 (中) p. 203, (続上) p. 87  
 モンゴル語の《刀剣類》を表わす語 (下) p. 52  
 モンゴル語の《敵を襲撃する》に際しての慣用表現 (続下) p. 120  
 モンゴル語の数詞, 「多数」と「吉数」(上) p. 233, 248, (下) p. 20, (続中) p. 101,  
 モンゴル語の数詞, 《二》を意味する語 (上) p. 20 [(続下) p. 180]  
 モンゴル語の数詞による表現 (続上) p. 134  
 モンゴル語の月名表示の様式 (続下) p. 562  
 モンゴル語的(モンゴルの)表現 (続下) p. 462, 531  
 モンゴル語とテュルク語起源の語との二つによる表現 (上) p. 236, (中) p. 18, 315,  
 モンゴル人にとっての《時》(続下) p. 44~45 [371, (続下) p. 465, 466, 474, 481]  
 モンゴル人の女性観が言語面に現われている一例 (中) p. 20~23, (続上) p. 240  
 モンゴル人のいみ嫌う存在 (続中) p. 173  
 モンゴル人の慣習《吉凶を占う》(続下) p. 459  
 モンゴル人の慣習「宴」(下) p. 47  
 (モンゴル人の) 婚約の際の儀式 (下) p. 336  
 モンゴル人が常食とする羊肉 (続下) p. 462→[hの「羊の肉」の項参照]  
 モンゴル人の乗用の馬 (下) p. 39, (続下) p. 462  
 モンゴル牧民の遊牧形態 (中) p. 166  
 モンゴル牧民の家畜の乳搾り (下) p. 215~216  
 モンゴル牧民のしきたり (中) p. 143, (続下) p. 199  
 モンゴル牧民の視力 (上) p. 41  
 モンゴルの児童の遊び (上) p. 246  
 モンゴルの駱駝(続上) p. 175  
 モンゴル包(上) p. 114, (中) p. 235, 351, (下) p. 156, (続下) p. 12, 16, 39, 68, 191,  
 199, 424  
 モンゴル包の入口・戸口(中) p. 77, 263, 307, (下) p. 94, 309, 311  
 モンゴル包の《車》を置く位置(中) p. 143, (続下) p. 198  
 モンゴル包の中での席次(下) p. 311, 352, (続中) p. 122, 188  
 モンゴル包の中での“右側, 左側”(続下) p. 190

## n

-n (副動詞語尾)の機能(上) p. 127, 223  
 ~の(〜しに)・(〜するために)の意を示す例(上) p. 160, (続上) p. 16, (続下)

p. 252

~の「動作の様式」を表わす用法(下) p. 332  
 ~の形動詞的用法(続上) p. 29, (続下) p. 72, 281  
 ~を省略する(落す)語法(上) p. 163, (中) p. 78, 130, (下) p. 336  
 -n a- (副動詞語尾+存在動詞)の意義素(上) p. 213, (中) p. 131, (続中) p. 130,  
 -n alda- (中) p. 117, (続下) p. 366 [225, (続下) p. 73, 156]  
 -n bö'etele (続下) p. 336  
 -n bü- (続中) p. 130, (続下) p. 156  
 -n sori. (続下) p. 110  
 -n tu'ürbi- (続下) p. 108  
 -n yada- (中) p. 97, (下) p. 268, (続上) p. 152, 230  
 -n yadan (下) p. 111  
 -n (複数語尾)(上) p. 70, (中) p. 374, (下) p. 14, 85, 121, 128, (続中) p. 188  
 nabči (上) p. 164, (続下) p. 489  
 納赤都<sup>ᠨᠠᠴᠢᠳᠤ</sup> načid-ūd (続下) p. 480  
 乃塔-<sup>ᠨᠠᠶᠲᠠ</sup> naṭa- (中) p. 120, 185  
 納舌魯亦<sup>ᠨᠠᠯᠠᠭᠢᠳᠤ</sup> naluyid- (上) p. 229  
 納麻 nama (一人称単数代名詞, 語幹兼不定格)(下) p. 36  
 納蛮赤刺-<sup>ᠨᠠᠮᠠᠨᠴᠢᠯᠠ</sup> namančila- (続下) p. 185  
 南巴里思 nambalis (上) p. 227, (下) p. 45  
 南不中合 nambuqa (中) p. 149, 182, (続中) p. 130  
 納中忽<sup>ᠨᠠᠬᠤᠳ</sup> naqu-d (続下) p. 480  
 納舌蘭 升格兀<sup>ᠨᠠᠷᠠᠨ ᠰᠢᠩᠭᠡᠦᠯ</sup> naran šingge'ül- (下) p. 152  
 納舌兒 擺亦勒都<sup>ᠨᠠᠷᠤᠢ ᠪᠠᠶᠢᠶᠢᠯᠳᠤ</sup> na'ür baiyildul (続上) p. 326  
 奈亦荅-<sup>ᠨᠠᠶᠢᠳᠠ</sup> nayida- (続上) p. 149  
 -ned (複数形成語尾)の成立(続上) p. 249  
 捏客<sup>ᠨᠡᠬᠡ</sup> nekkel (続上) p. 187, 282  
 捏額-<sup>ᠨᠡᠭᠡ</sup> ne'e- (続中) p. 154  
 捏格-<sup>ᠨᠡᠭᠦ</sup> negē- (続中) p. 154  
 捏古-<sup>ᠨᠡᠭᠦ</sup> negü- (中) p. 201  
 捏古思 negüs (下) p. 45, (続下) p. 187, 282  
 捏古思 幹<sup>ᠨᠡᠭᠦᠰ ᠣᠳ</sup> negüs od- (続下) p. 187, 282  
 捏客-<sup>ᠨᠡᠬᠡ</sup> neke- (続上) p. 205  
 ~と hülde- (上) p. 232  
 捏坤 nekün を ũ と長母音で表記する理由(続中) p. 57  
 粘不列 nembüle (上) p. 142  
 捏木舌兒<sup>ᠨᠡᠮᠦᠷᠭᠡ</sup> nemüre (上) p. 142, (続上) p. 85, (続下) p. 242  
 捏木舌兒<sup>ᠨᠡᠮᠦᠷᠭᠡ</sup> nemür-ge- (続中) p. 35

撚迭-、撚〈頭〉 *nende-* (下) p. 318, (続上) p. 200, (続中) p. 61, (続下) p. 158  
 年都 *nendü* (続中) p. 143, (続下) p. 25  
 年都兀<sub>𠵹</sub> *nendü-'üd* (続下) p. 25  
 能知温<sub>𠵹</sub> *nengji'(n)lsün* (中) p. 144  
 捏舌列亦<sub>𠵹</sub> *nereyid-* (中) p. 311, (下) p. 78, 228, 260, (続上) p. 161, (続下) p. 331  
 捏兀列 *ne'üle* (続下) p. 186, 282  
 捏兀舌里 *ne'üri* (中) p. 335  
 捏兀舌里<sub>𠵹</sub> *ne'ürid* (上) p. 41  
 擣兀古 中合舌兒石 *neü'ükü qarši* (続下) p. 424  
*neyile-* (上) p. 77  
 你多泥 *nidoni* (中) p. 246  
 你都舌刺- *nidura-* (中) p. 28-29, (続中) p. 167, (続下) p. 305  
 你敦秃舌里顏 中合勅秃 你兀兒秃舌里顏 格舌列秃 *nidün-dür-iyän gal-tu, ni'ür-tur-iyän gerētü* (上) p. 253, (続上) p. 255  
 你黑撒中合勅札塔刺 *niG sagaljatala* (中) p. 161  
 你只額勅 *niji'el* (上) p. 112  
 你刊 *niken* の表記について (上) p. 44  
 ~の意味 (中) p. 166  
 你刊 額耶田 孛<sub>𠵹</sub> *niken eyeten bol-* (下) p. 316  
 你客帖列 *niketele* (中) p. 361  
 你勅中合 嫩秃黑 *niIqa nuntug* (続下) p. 132~135  
 你勅中合桑昆 *niIqa Senggüm* (下) p. 311  
 你舌里温 *niri'ün*~你舌里兀 *niri'ü* と, 你舌魯温 *niru'ün*~你舌魯兀 *niru'ü* (続下) p. 354  
 你失- *niši-* (続中) p. 36, (続下) p. 117  
 你秃〈翁〉 *nitul-* (続中) p. 167  
 你兀- *ni'ü-* (中) p. 141, (続上) p. 265  
 紐察 脱卜察安 *niüča tobča'an* (続上) p. 265  
 你兀〈舌里〉 *ni'ür* と 赤舌来 *čiraj* (続中) p. 81  
 你兀舌兒〈中罕〉 *ni'ürqa-* (続上) p. 131  
 你亦台- *niyitaj-* (続下) p. 305  
 那卜失勅都- *nobšildu-* (続中) p. 142  
 那中豁安 *nogo'an* と, *ebesü(n)* (続上) p. 25  
*noqaj* (続下) p. 251, 285  
 那中孩 客舌列勅 客舌列- *noqaj kerel kere-* (続上) p. 305  
 那中合〈訥〉 *noqan* (続上) p. 250, (続下) p. 251, 285  
 那黯失克 *noyamšig* (上) p. 200  
 那亦壇 *noyitan* (続中) p. 142

那可額, 那闊額 *nökö'e* (中) p. 334, (続上) p. 129, 136  
 那闊只 *nököji* (続上) p. 136  
 那闊舌兒, 那可舌兒 *nökör* とその原義 (中) p. 226, (下) p. 237, (続下) p. 423  
 那可舌兒 薛兀迭舌兒 *nökör se'üder* (続中) p. 202  
 訥都舌兒中合 *nudurca* (続中) p. 211  
 (文語の) *-nugüd²* (複数形成語尾) の成立 (続下) p. 95  
 農中合速 *nungcasu* (中) p. 219, (続上) p. 49  
 嫩只 *nunji* (続下) p. 241  
 嫩秃黑 *nuntug* (上) p. 27, 149, (続下) p. 38, 50  
 嫩秃黑 蒼舌兒中合刺- *nuntug darqala-* (続中) p. 236  
 嫩秃黑 中合舌刺- *nuntug qara-* (上) p. 267  
 嫩秃黑刺- *nuntugla-* (上) p. 27  
 嫩秃赤 *nuntüči* (続下) p. 37  
 嫩秃兀兒, 嫩秃兀赤〈泥〉 *nuntu'üčün* (続下) p. 37, 66  
 訥舌刺思 *nuras* (下) p. 134  
 訥兀 *nu'ü* (下) p. 123, (続上) p. 150, (続中) p. 122, (続下) p. 535  
 訥温 *nu'ün* (続下) p. 535  
 那都- *nüdü-* (続下) p. 241

-на<sup>4</sup> (上) p. 172

нөгөө, нөгөөдөр (中) p. 334

нөхөр (中) p. 226, (下) p. 237, (続下) p. 423

нуруу (続下) p. 354

нүүр (続上) p. 81

\*наа- と \*цаа- (続上) p. 39

-н(-n) をもたない “яв явсаар”, “гүй гүйсээр” という形 (続下) p. 366

0~n の交替語幹 (上) p. 121, 218, (中) p. 254, (下) p. 261

n-:l- (文語・ハルハ方言など: ダウール語) (続中) p. 37

ni-~i- の交替 (語頭) p. 320

人称代名詞 (上) p. 18, (下) p. 36, (続上) p. 86, 212

人称代名詞の風格の位置 (上) p. 117, 132, (中) p. 35, (続中) p. 267, (続下) p. 20

## 0

幹<sub>𠵹</sub>- *od-* (上) p. 77, 216, 276, (中) p. 153, (続上) p. 238, (続下) p. 187, 208

幹<sub>𠵹</sub>蒼- *odda-* (下) p. 338, (続下) p. 208

幹<sub>𠵹</sub>塔- *odta-* (下) p. 10, (続下) p. 555

幹<sub>𠵹</sub>札<sub>𠵹</sub>- *oçjad-* (続中) p. 29

- 幹黒札揚中合- oġjadqa- (続上) p. 292, (続下) p. 9  
 幹中豁都兒 oġodur (中) p. 161  
 幹勅札 olja (続下) p. 293  
 幹樂古温 olon kü'ün (続下) p. 441  
 幹樂討兀 olon-ta'ü (上) p. 270  
 幹樂 兀都舌兒 olon üdür (続上) p. 279, (続中) p. 280  
 幹魯勅察-, 幹魯勅〈滌〉 olulča- (下) p. 305, (続上) p. 126, (続下) p. 335  
 幹抹黒 omoc (続下) p. 504  
 汪吉秃 onggitu (中) p. 272  
 汪札勅答- ongja-l-da- (続中) p. 155  
 汪舌刺只- ongraġi- (中) p. 375  
 幹那 ono (中) p. 273  
 幹那- ono- (続下) p. 410  
 幹那刺- onola- (中) p. 273  
 幹弩卜赤 onubči (続上) p. 140  
 幹幹兒- o'ör- (中) p. 76  
 ～の補助動詞的用法 (上) p. 113  
 幹幹舌兒察黒 o'örčag (下) p. 261  
 幹舌兒朵格舌兒 ordo ger (続下) p. 39, 69  
 幹舌兒朵 格舌兒 帖舌兒格 ordo ger terge という三語連鎖の解 (続下) p. 66～72  
 幹舌兒中合 orga (下) p. 121  
 幹兒乞〈敦〉, 幹舌兒乞揚- orkid-(orqid-) (中) p. 89, (続下) p. 365  
 幹羅 oro (中) p. 253, (続下) p. 231, 533  
 幹舌羅 兀該 oro ügeġ (続下) p. 208  
 幹舌羅- oro- (中) p. 70, (続上) p. 237, (続中) p. 205, 280, (続下) p. 95  
 ～と与位格語尾 (上) p. 77, 193  
 幹羅阿 戈舌劣額孫 oro'a ġörö'sün (中) p. 360  
 幹舌羅出 迭兀 oroču de'ü (続中) p. 114  
 幹舌羅黒 orog (上) p. 140  
 幹舌樂 oron (続下) p. 9, 224  
 幹舌羅申 orošin (続下) p. 533  
 幹舌羅兀勅- oro'ül-の解 (続下) p. 93  
 幹因, 幹亦〈納〉 oyin (続下) p. 469  
 幹亦速刺- oyisula- (上) p. 275  
 幹亦速刺揚-, 幹亦速刺〈敦〉 oyisulad- (上) p. 275, (続下) p. 559  
 овоо (続上) p. 84  
 он と жил (続下) p. 355-356

[名詞属格形]+оронд (続上) p. 225  
 отгон тэнгэр (中) p. 311

《王に推戴する》を表わす表現 (続下) p. 431

## ö

- 幹〈纏〉 öče- (続下) p. 363  
 幹赤- öči-の使役形 (続上) p. 370  
 幹揚刊 ödken (中) p. 271, (続下) p. 35  
 幹揚刊別舌兒 米中罕 亦旺額〈泥〉 ödken ber miqan ide'eñ (続下) p. 34  
 幹揚刊 米中合 ödken miqa (続下) p. 523  
 幹額迭 ö'ede (上) p. 47, 233  
 ö'er と ö'esün の現代語での現われ (続下) p. 349  
 幹額舌兒 ö'er, 幹額舌命 ö'er-ün (下) p. 211, (続中) p. 65, (続下) p. 348, 350  
 幹額舌兒秃 [～都] 舌里顔 ö'er-t[～d]ür-iyen (続中) p. 291～293, (続下) p. 438  
 幹額舌兒迷赤〈連〉 ö'er mičile- (続中) p. 65  
 幹額孫 ö'esün (下) p. 211, (続下) p. 348, 350  
 幹克- ög-の補助動詞的用法 (下) p. 95  
 ～の受身形(幹克迭- ögde-と 幹克帖- ögte-) (上) p. 66  
 ～と与位格語尾 (続下) p. 141  
 幹乞 öki と 幹勤 ökin (上) p. 218, (中) p. 125, (下) p. 261, 264, (続下) p. 76  
 幹乞 中合秃 öki qatu (上) p. 223, (下) p. 264  
 幹乞揚 古舌里格揚 ökid küriged (続下) p. 443  
 幹乞都延 ökid-ü-yen という表記について (続中) p. 156  
 幹列 öle (上) p. 263  
 幹郎 öleng (続下) p. 327  
 幹里兒孫 ölirsün (中) p. 44  
 幹勅澤秃 槐因 亦舌兒格〈泥〉 öljeitü hoġ-yin irgen (続下) p. 98  
 完勅只格 ölġige (上) p. 51  
 幹羅速木薛兒 ölsümüser (上) p. 234, (続下) p. 107  
 幹魯克牙孫 ölüg yasun (続中) p. 89  
 幹魯木列- ölümle- (続中) p. 157, (続下) p. 304, 558  
 幹篋兒- ömër-, 幹篋舌列- ömëre- (中) p. 87, (続下) p. 155  
 幹捏赤揚 önečid (続上) p. 49  
 önečin kö'ü の意味 (続上) p. 49  
 汪格古 önggegü (続中) p. 35  
 幹那兒 öñör (中) p. 255

幹舌兒中豁里牙舌兒 ör gol-iyar (続下) p. 548  
 幹舌列 öre (中) p. 10, (続上) p. 344, (続下) p. 548  
 幹舌劣額列 öre'ele (上) p. 99  
 幹舌兒篋格 örmege (続下) p. 243  
 幹舌羅 örō (中) p. 10, (続下) p. 548  
 幹舌魯克 örüg (続下) p. 9, 50, 322  
 幹舌魯格 örüge ~ 額舌魯格 erüge (続下) p. 9  
 ——の意味と現代諸方言での形 (上) p. 119, (続下) p. 6-7  
 幹思- ös- (続中) p. 177  
 幹速勒扯- ös-ü-lče- (続中) p. 177  
 幹<旋> öse- (上) p. 244  
 幹雪勒 ösöl (上) p. 244  
 幹帖兒篋列- ötermele- (中) p. 81  
 幹脱克 ötög, 幹脱克列- ötögle- (下) p. 246, (続上) p. 221  
 幹脱古思 兀格思 ötögüs üges (中) p. 89, (続下) p. 365  
 幹耶薛- öyese- (続上) p. 339  
 幹亦速列<都> öyisüled- (上) p. 275, (続下) p. 558

өвдөгцөө (上) p. 242  
 өвөг эцэг (続下) p. 413  
 өвөрмөц (続中) p. 65  
 өг- (補助動詞) (下) p. 95  
 өдий (下) p. 24, 48  
 өлмий (続中) p. 158, (続下) p. 305  
 өмнөөс (下) p. 300  
 өнжи- (続中) p. 173  
 өнөө (続上) p. 49  
 өө (続下) p. 234  
 өөд と уруу (上) p. 47  
 өөрөө (中) p. 288, (続上) p. 235  
 өр, өрөвдө- (中) p. 10, (続上) p. 344  
 өрх (上) p. 119, (続下) p. 6  
 өтгөн (中) p. 271

## q

中合 qa (qan の不定格) (上) p. 241, (中) p. 382, (続下) p. 431  
 中合 額舌兒古- qa ergü- (上) p. 241, (続下) p. 431

中合 qa 《貢物》 (続下) p. 243  
 中合 qā 《前脚》 (続上) p. 153  
 中合- qa- 《射る》 (下) p. 294, (続上) p. 78  
 中合阿 qa'a 《何処》 (続上) p. 307  
 qa'a- 《閉じる》 (中) p. 220  
 中合阿納 qa'an-a, 中合阿泥 qa'an-i, 中合阿訥 qa'an-u (上) p. 9  
 中合阿台 qa'atai (中) p. 220  
 中合巴舌刺察 忽泥 康失塔刺 qabar-ača huni qangšitala (続下) p. 135  
 中合卜赤- qabči- (続中) p. 174  
 中合必兒中合 qabirga (続下) p. 459  
 中合必兒中合塔 qabirga-ta (上) p. 241  
 中合必兒中合兒 qabirgar (上) p. 84  
 中合卜闌 qablan (中) p. 86  
 中合卜中合舌里- qabqari- (続下) p. 325  
 中合鏤古出 額舌兒點 qabu küčü erdem (続下) p. 164  
 qabur qaburji- (続下) p. 393  
 中合赤都魯 qačid-üd (続下) p. 479-481  
 中合蒼中合 兀該 qadaga ügei (続下) p. 537  
 中合蒼勒-, 中合蒼<論> qadal- (中) p. 89, (続下) p. 365  
 中合蒼(舌)論 蒼温 qadar-u-n da'ün (続下) p. 161  
 中合蒼舌刺 qadara (中) p. 63  
 中合蒼舌刺- qadara- (中) p. 220  
 中合蒼兀只- qada'üji- (中) p. 121  
 中合楊中忽舌刺速 qadqurasu (中) p. 270  
 中合中合察- qaGača- (続中) p. 78  
 中合中合勒蒼- qaGalda- (続中) p. 77  
 中合中合孫 qaGasun (中) p. 80  
 中合中合思 qagas (上) p. 208, (下) p. 45, (続中) p. 79  
 ~の意味の変化 (続上) p. 76, (続下) p. 42, 548-549  
 ~を繰返した表現 (続下) p. 54-56  
 中合罕 qahān (続下) p. 326, 545  
 ~の「罕」の表記について (上) p. 9  
 中合罕 額徹 qahān-eče の解 (続下) p. 326  
 中合勒- qal- (続上) p. 79, 81  
 中合刺 qala (中) p. 361  
 中合刺阿舌兒 qala'ār (続下) p. 231  
 中合刺楊 qalad (中) p. 85, (続下) p. 299  
 中合勒都楊塔 中合<舌魯> qaldud-ta gar- (下) p. 302

中合勅中合孫 qalGasun (中) p. 235  
 中合里速 qalisu (中) p. 298  
 中合里温, 中合里兀〈泥〉 qali'ün (中) p. 328, (下) p. 230  
 中合里牙兒孫 qaliyarsun (中) p. 49  
 中合勅塔赤- qaltači- (中) p. 247  
 中合勅塔舌鄰勅 兀該 qaltari(n)l ügei (統上) p. 304  
 (文語の) qamiga 系の語 (統上) p. 307  
 中合木中合〈翁〉, 中合中合〈翁〉 qamqal- (統上) p. 250, (統中) p. 166  
 中合中合舌魯 qamqaru (中) p. 263, (下) p. 177, (統中) p. 166, (統下) p. 321  
 中合中合兀勅孫 qamqa'ülsun (中) p. 259  
 中合秃揚-, 中合秃〈敦〉 qamtud- (統上) p. 303, (統中) p. 17  
 ~と 捏亦列- neyile- (統中) p. 15  
 中合撒- qamsa- (下) p. 63, (統下) p. 344  
 中合木黒 忙中豁勅 qamuG Monggol (上) p. 212  
 中罕 qan (上) p. 241, (統下) p. 430, 459  
 中罕 額舌兒古- qan ergü- (統下) p. 430  
 中罕 額赤格 qan ečige (統下) p. 326  
 中合納勅中合 qanalga (下) p. 62  
 中罕蒼- qanda- (統中) p. 238  
 中罕蒼中孩 qandagai (統下) p. 327  
 中康- qang- (統下) p. 464  
 中康中合思 qangGas (上) p. 208, (下) p. 45, 122  
 中康失- qangši- (統下) p. 137  
 中合泥勅〈中罕〉 qanilga- (上) p. 129  
 中合中忽納黒 qaqunag (統下) p. 299-300  
 qar~qara (附屬語) (上) p. 184  
 中合舌刺 qara (下) p. 327, (統下) p. 303  
 中合舌刺中忽舌魯 qara quru (上) p. 145  
 中合舌刺 帖舌里兀 qara teri'ü (中) p. 362  
 中合舌刺 帖舌里兀秃 古温 qara teri'ütü kü'ün (上) p. 129  
 中合舌刺 兀台 qara ü-tai (上) p. 51  
 中合舌刺訥兀揚 qara-nu'üd (統下) p. 95  
 中合舌刺秃 qara-tu (中) p. 303  
 中合舌脚- qara- の意義素 (上) p. 42  
 中合舌脚- qara- と兀者- üje- (上) p. 43, 49  
 中合舌刺中合納 約舌兒赤勅 qaragana yorčil (統上) p. 326  
 中合舌刺黒赤兀揚 阿刺黒赤兀揚 秃黒壇 qaragči'üd alagči'üd tugtan (統上) p. 32  
 中合舌藍伯 那中豁速 qarambai nogasu (統中) p. 54

中合舌郎中忽 qarangu ~中合舌郎中仄 qarangui (下) p. 193, (統上) p. 18, (統下) p. 562  
 中合舌刺兀勅 qara'ül (統下) p. 523  
 ~と中合舌刺(舌剛) 兀勅孫 qara'ülsun (中) p. 45, 145, (統上) p. 23, (統中) p. 58,  
 中合舌刺兀勅 逐步- qara'ül yabu- (下) p. 268 [205  
 中合兒必牙- qarbiya- (中) p. 325  
 中合兒察 qarča (中) p. 236  
 中合舌兒中含, 中合舌兒中甘 qarGam (中) p. 360, (統下) p. 308  
 中合舌里 qari (中) p. 360, (下) p. 14, 121, (統下) p. 325  
 中合〈舌鄰〉 qari- (統中) p. 29-31, (統下) p. 224  
 中合舌鄰 塔塔- qarin tata- (統下) p. 223-224  
 中合舌撒 qarin (下) p. 14, 121  
 中合兒乞 qarqi (中) p. 114  
 中合舌兒中合- qarqa- (統上) p. 26  
 中合撒兒 qasar〈狗名〉(中) p. 86  
 中合壇 qatan, 中合唐中忽 qatangGu (中) p. 270  
 中合塔兀赤- qata'nüči- (中) p. 121  
 qatu~qatun (上) p. 218, (下) p. 261, 264  
 中合秃揚 qatud の二つの解 (下) p. 264  
 中合兀赤揚- qa'üčid- (下) p. 300-302  
 中合亦刺- qayila-と, ungši- (中) p. 118  
 中合翼舌魯中合納 qayirugana (下) p. 274  
 乞卜 qib (統下) p. 464  
 乞不兀的牙舌兒 qib-u'üd-iyär (統下) p. 237  
 乞都- qidu- (統下) p. 222-223  
 吉〈真〉, 乞〈真〉 qiji-(n) (統下) p. 268  
 乞只阿舌兒 qiji'är (統下) p. 268  
 乞靈刺- qilingla- (統下) p. 165  
 中豁埃 qo'ai (上) p. 18  
 中豁綽蒼- qočoda- (統上) p. 350  
 中豁擲兒-, 中豁綽兒- qočor- (下) p. 312, (統上) p. 350  
 ~の補助動詞的用法 (中) p. 101, 160, (統上) p. 271  
 中豁都刺- qodula- (中) p. 281  
 中豁黒 qoG (統下) p. 73  
 中豁只兀刺思 qo'ji'ulas (上) p. 152, (統下) p. 222  
 中豁乞埋 qokimai (中) p. 303  
 中豁乞舌兒 qokir (中) p. 302  
 中豁勒巴〈舌蘭〉 qolbara- (統下) p. 320

- 中豁魯中合揚 qolugad (中) p.93  
 中豁馬兀勒 qoma'ül (続下) p.73  
 中晃中豁〈舌里〉 qonggor (中) p.161  
 中豁紐 qonin (続下) p.545  
 中管只牙孫 qonjijasun (中) p.371  
 中豁那(倭)阿主兀 qono(n) aju'ü (上) p.163, (中) p.130, (下) p.336  
 中豁那(倭)阿兀魯來 qono(n) a'ülulaj (中) p.130  
 中豁幹來顏 中忽赤- qo'ölaj-yän quči- (続中) p.189, (続下) p.306  
 中豁舌兒 qor (中) p.369, (続上) p.221  
 中豁中里顏 迭列〈都〉 qor-iyän deled- (続上) p.311  
 中豁舌兒中豁木撒 qor qomsa (続下) p.36  
 中豁舌兒- qor- (下) p.19  
 中豁舌兒赤刺- qorčila- (続上) p.221  
 中豁舌兒臣 qorčin (続中) p.284, (続下) p.63,64-66  
 中豁舌兒中合 qorga (とりで) (下) p.19  
 中豁舌兒中合- qorga- (qor-の他動詞形) (上) p.148, (下) p.19  
 中豁兒中豁- qorgo- (中) p.138  
 中豁兒中豁刺- qorgola- (中) p.95, (下) p.19  
 中豁舌羅黑- qorog- (上) p.229  
 中豁舌兒埋 札撒兀〈魯〉 qormaj jasa'ül- (続下) p.412  
 中豁舌魯木楊 qorom-üd (上) p.165  
 中豁舌魯- qor(u)- (続下) p.297-298  
 中豁室 qoš (下) p.351  
 中豁失里〈中渾〉 qošilig (中) p.104, (下) p.351  
 中豁團 qoton (中) p.371  
 中豁牙兒 qoyar と只舌鄰 jirin (中) p.20  
 中豁亦刺兀楊 qoyila'üd (中) p.54  
 中豁亦馬舌兒 qoyimar (下) p.311,352, (続中) p.122  
 中豁亦納察 qoyina-ča (中) p.212  
 中豁亦納察 速木訥 古舌兒恢 兀主兀舌列 qoyina-ča sumun-u kürküj üjü'ür-e (続上) p.192  
 中豁亦納温 qoyina'ün (続上) p.192, (続下) p.262  
 中豁亦圖 農合速禿 帖兒干 qoyitu nunggasutu tergen (中) p.143  
 中撒亦禿兀〈刺〉 qoyitu'ül (続下) p.198  
 -qu/-kū- (強調辞) (中) p.301  
 -中忽-/古 -qu/-kū (形動詞語尾) の平叙文での終止用法 (上) p.271, (続上) p.184  
 -中忽 -qu で過去の事実を表現した例 (続下) p.123  
 -qu<sup>2</sup> bol- (続上) p.237, (続下) p.123,156  
 -中忽 不列額 -qu(-kū) büle'e の意味 (上) p.126, (中) p.177,307, (下) p.110  
 -qu<sup>2</sup> ügej (続下) p.159  
 中忽卜滌 qubčan (下) p.85  
 中忽必 qubi (上) p.137,226, (続中) p.268  
 中忽不舌里 quburi (上) p.226  
 中忽赤-, 中忽〈臣〉 quči- (上) p.227, (中) p.223, (続中) p.33,189, (続下) p.306  
 中忽赤阿- quči'ā-, 中忽察- qučā- (続中) p.33  
 中忽赤里思 qučilis (上) p.227, (下) p.45  
 中忽赤兀勒- quči'ül-, 中忽赤温勒- quči'ü(n)l- (使役形の訳出) (中) p.223, (下) p.162  
 中忽蒼 quda (上) p.252  
 中忽蒼勒都周 阿不- qudaldū-ju ab(u)- (続上) p.176  
 中忽中忽赤- quguči-と中忽中忽〈魯〉 qugul-のちがい (上) p.113  
 中忽中忽舌刺- qugura-と中忽中忽勒蒼- qugul-da- (下) p.113  
 中忽中忽舌魯 qugururu (中) p.95, 263, (下) p.11,177, (続下) p.321  
 中忽中忽思 qugus (上) p.208, (中) p.216, (下) p.45,122  
 -中灰 -quī が -quyi (中忽宜) と音訳されたと思われる例 (続中) p.262 [関連事項, (続上) p.163]  
 -quī<sup>2</sup>-a<sup>2</sup> と -quī<sup>2</sup>-dur<sup>2</sup> (続下) p.117,286  
 -quī-ača/-küī-eče (続上) p.340-341, (続下) p.157,237  
 -中忽由 -quī-ū (-qu-yū) の転写法について (中) p.103,301, (下) p.198~200, [関連事項, (続上) p.79]  
 中鶴刺都, 中忽刺都 quladu (中) p.301, (続中) p.56  
 中忽刺黒- qulag-系の語と, 中忽刺中忽- qulagu-系の語 (下) p.55  
 中忽刺中孩 把舌里- qulagaj bari- (下) p.42  
 中忽刺黒赤〈泥〉 qulagčīn (中) p.147  
 中忽廳中合納 qulugana (続下) p.328  
 -中渾 -qun (-quの複数形) (上) p.51, (下) p.348, (続下) q.49  
 中忽納舌兒 qunar (中) p.302  
 中忽舌刺- qura- (中) p.118, (続下) p.561  
 中忽舌兒堆〈闐〉 qurduīla- と, 実詞 qurduī の存在の推定 (続下) p.252  
 qurdun (続下) p.252,460  
 中忽舌里- quri- (中) p.70, (続中) p.33  
 ~と qura- (中) p.118, (続下) p.561  
 中忽舌里中罕 qurigan (中) p.147  
 中忽舌鄰勒塔 quri(n)lta と, quriltaj という形 (続下) p.560  
 中忽舌林 札撒- qurim jasa- (下) p.39

中忽舌里牙- quriya- (中) p. 34  
 Γ(中)古舌里牙- quriya-という表記 (中) p. 34  
 中忽塔黒刺- qutaġla- (続上) p. 356  
 中忽秃黒 qutuġ (続中) p. 143

-x (文語 -ki) 《~のもの》 (上) p. 158  
 -x (動詞語尾) (続上) p. 184  
 -x бол- (続下) p. 123  
 хавирга (上) p. 86  
 хагас (続上) p. 42, 76, (続下) p. 549  
 хазаар (続下) p. 557  
 хамхуул (中) p. 259  
 ханила- (上) p. 129  
 хар (附属語) (上) p. 184, (続上) p. 220  
 хар-と үз (上) p. 43  
 хойлог (中) p. 56  
 хоймор (続中) p. 122  
 худと худгуй (上) p. 252  
 -хуйц/-хүйц (続上) p. 340, (続下) p. 157  
 хуралと хурим (と хуралдаан) (中) p. 119, (続下) p. 561  
 хурууд (続下) p. 298

## Г

-ra<sup>2</sup>-, -l- (-la-/-le) による自動詞と他動詞の形成 (上) p. 114, (続下) p. 16  
 -ra<sup>2</sup>- (反照動詞 [middle verb・再帰動詞] 形成接辞) (上) p. 220, (続下) p. 155, 290, 466  
 -ra/-re (目的副動詞) (中) p. 33, (下) p. 262  
 -ra/-re (場所・方位を意味する接辞) (中) p. 79  
 -ri (出動実詞形成接辞) (続下) p. 243  
 -ri- (出動動詞形成接辞) (中) p. 375, (下) p. 152, (続中) p. 63, (続下) p. 10  
 -rqa/-rke- (出実動詞形成接辞) (下) p. 204, (続上) p. 133, (続下) p. 235  
 -rqaġ/-rkeġ (中) p. 374-375  
 -舌魯 -ru/-rü をもつ副詞的狀態言 [副詞的動態言] (中) p. 95, 263, (下) p. 11, 177, (続上) p. 357, (続下) p. 321  
 -舌倫 -run/-rūn (上) p. 93, 216, (中) p. 129, 164, (下) p. 139, 289, (続中) p. 9, 263, 296, (続下) p. 210  
 ~の意義素 [意味の本質・基本的職能] (上) p. 246-248, (続上) p. 130, (続中) p.

27, (続下) p. 85  
 ~の理由の提示を意味する例 (続中) p. 40  
 ~の用法の原則 (続下) p. 85  
 ~の発生的な意味, 起源について (上) p. 279, (下) p. 290, (続中) p. 204, 242

o~-r-, -r の交替語形 [語末に -r をもつ形ともたない形の共存] (上) p. 85, (続中) p. 91, (続下) p. 466  
 -r>-l の変化 (語末) (中) p. 292, (下) p. 245  
 -ri- と -yi- の交替 (続上) p. 366  
 reduplication の語法 (続下) p. 154

駱駝 (下) p. 229, (続上) p. 175, (続下) p. 401

## S

-s (複数形語尾) (下) p. 104  
 -思 -s (動作の瞬間性を表わす接辞) (上) p. 208, 227, (中) p. 216, 260, (下) p. 45, 122, (続上) p. 77, (続下) p. 187, 188, 282, 329, 336  
 -s と -ru/-rü (中) p. 260, 263, (続下) p. 321  
 -s ki-, -s kiġü (下) p. 111, (続上) p. 355  
 -s- (自動詞形成接辞) (続上) p. 123  
 -sa-/-se- (出実動詞形成接辞) (続上) p. 339  
 撒阿- sa'a- (続上) p. 150, (続中) p. 130, (続下) p. 39  
 撒安阿舌倫 sa'a-n a-run の a- の用法 (続中) p. 130  
 撒阿兀勒- sa'a-'ül- (続下) p. 39  
 撒阿舌鄰臣 sa'alinčin (続下) p. 532  
 撒察兀 sača'ū ~撒察温 sača'ūn (上) p. 20, 102, (続中) p. 296  
 sača'ūn の二つの解 (続中) p. 296  
 撒出- saču- (中) p. 269  
 撒出里 sačuli (中) p. 237  
 撒中合- saġa- (中) p. 162  
 撒黒刺中合児抹敦 saġlaġar modun (上) p. 241  
 撒中忽傷 saġud (続下) p. 535  
 撒仰兀 samaŋ'ū (続上) p. 367  
 撒仰危 samaŋ'ūġ (続上) p. 367  
 三把- samba- (中) p. 79  
 毯失- samši-, 毯失牙- samšiya- (下) p. 244  
 撒中合勃伯顔 saġal bayan (中) p. 261



- 撒舌刺兀舌兒 sara'ür (中) p. 292  
 撒舌兒中忽〈蒼〉 sarqud (中) p. 17  
 撒塔- sata- (統中) p. 123, 223  
 撒兀- sa'ü- (統中) p. 138, (統下) p. 471, 536, 555  
 ～の補助動詞の用法 (中) p. 78, (下) p. 152, (統下) p. 120  
 撒兀 不恢突兒 sa'ü büküj-dür (上) p. 163, (中) p. 78, (下) p. 336  
 撒兀黑蒼- sa'ü-gda-の意味 (統上) p. 268  
 撒兀黑撒阿舌兒 sa'ü-gsa'är (統上) p. 217  
 撒兀勅蒼- sa'ülda-の表記 (統下) p. 555  
 撒兀舌里 sa'uri (統中) p. 121, 138  
 撒兀舌鄰 sa'ürin (下) p. 128, (統下) p. 546  
 掃花 saquqa (中) p. 316  
 撒亦 sayi (sayin の不定格) (上) p. 218, (中) p. 256, (下) p. 261, (統中) p. 205  
 撒亦 兀者速 sayi üjesü (統下) p. 308  
 撒亦, 撒宜 sayi (文語形 saya) (統中) p. 121, (統下) p. 97  
 撒亦巴舌兒 sayibar (下) p. 209  
 撒亦中合秃舌兒 sayiqatur (下) p. 7  
 薛赤- seči- (下) p. 4  
 薛乞勅突舌兒 幹脫舌兒 朶脫列- sedkil-dür ötör dötöle- (統下) p. 165  
 薛乞勅 曲魯吉耶舌兒 sedkil-ün külüg-iyer (統中) p. 132  
 薛額只格列- se'ejigele- (中) p. 237  
 薛古- segü- (統上) p. 304  
 sele- ~selgü- (下) p. 153, (統上) p. 199  
 薛勅帖 selte (統上) p. 220, (統下) p. 205  
 擲 孛里 sem boli の解釈 (上) p. 237  
 襄格〈舌連〉 senggere- (下) p. 46  
 僧帖勅- sengtel- (下) p. 163  
 僧帖舌列- sengtere- (下) p. 201  
 薛舌列- sere- (上) p. 117  
 ～と薛兒古- sergü- (下) p. 153, (統上) p. 199  
 薛兀迭舌兒 se'üder (下) p. 47  
 薛兀薛 se'üse (統下) p. 470  
 驢兀舌列勅- seü'ürel- (下) p. 258  
 失阿 ši'ā と, その現代語での形 (上) p. 246  
 失把 šiba (統中) p. 15  
 失保兀中合〈泥〉 šibaq'ūqan (中) p. 136  
 失別舌里- šiberi- (中) p. 94  
 失必勅格舌兒 šibilger ～失不勅格〈舌里〉 šibülger (上) p. 235, (統中) p. 209  
 拭察班勅札- šičabalja- (上) p. 124  
 失惕坤勅 šidkü(n)l (上) p. 192, (中) p. 195  
 失都舌兒中忽 šidurgu (統下) p. 426  
 失都舌兒忽惕中合- šidurgudqa- (統中) p. 261  
 失都 šidü (下) p. 304  
 失額克 ši'ëg (統中) p. 113  
 失吉顏中豁納黑刺- šigi-yën qonaqla- (統下) p. 304  
 失乞刊中忽都中忽 šigiken-quduqu (下) p. 78  
 失勅 šil (統上) p. 279  
 失列古 šilegü (中) p. 370, (統下) p. 532, 545  
 失列篋勅種 šileme-lje-n (統上) p. 329  
 失勅古勅〈刊〉 šilgüd-ke- (統下) p. 10  
 失里温 šili'ün (統上) p. 257  
 失勅只〈舌鄰〉 šilji-ri- (統下) p. 10  
 失勅帖速 šiltesü (統下) p. 12  
 失魯格惕 šilüged (中) p. 94  
 失魯舌兒帖- šilürte- (下) p. 150  
 失馬里中合黑蒼- šimalica-gda- (統下) p. 195  
 濕納阿 šina'a (下) p. 123  
 晒赤伯顏 šinči-bayan (上) p. 73  
 失怎 šini (統下) p. 393  
 失中合-, 失〈中罕〉 šiqā- (統上) p. 269, (統下) p. 197, 400  
 失舌刺阿勅壇 šira altan と失舌刺馬勅 阿勅塔壇 širamal altatan (統下) p. 479  
 失舌闌勅 šira(n)l (中) p. 203  
 失舌兒不孫 širbüsün (統上) p. 182  
 失舌列- šire- (統上) p. 339  
 失舌列木 širemü (統上) p. 339  
 石舌兒中忽勅蒼罷者 širgüldaba-je の転写と「長母音の出現」(統上) p. 131  
 失舌兒戈列- širgöle- (統上) p. 135  
 失舌兒古額列- širgü'ële- (下) p. 215  
 失舌里 širi (統上) p. 182  
 失舌羅 širo (中) p. 46  
 失舌羅勅中合 široлга (上) p. 87  
 失舌兒中合-, 失舌兒〈中罕〉 širqa- (統中) p. 154, (統下) p. 98  
 昔思該 sisgej (統中) p. 100  
 失圖, 失秃 šitü (下) p. 302, (統下) p. 325  
 失秃- šitü- (下) p. 140, (統中) p. 133  
 失秃額列勅都 šitü-'ë-le-ldü- (統中) p. 133

失兀赤 中合楊中忽勒都阿 ši'üči qadquldu'a (続上) p. 326  
 失兀速 <訥> ši'üsün (続下) p. 547  
 -šiya-/-šiye- (出実動詞形成接辞) (下) p. 347, (続上) p. 72, (続中) p. 271, (続下) p. 234  
 失亦舌刺 siyira (上) p. 191  
 莎必刺- sobila- (続下) p. 397  
 鎖中豁孫 sogosun (中) p. 69  
 莎只舌兒 sojir (中) p. 349  
 莎勳 <窟> solbi- (下) p. 113  
 鎖納 sona (下) p. 196  
 莎汪中忽- soongu- (続中) p. 144, 187  
 梭幹舌兒, 莎幹舌兒 so'ör (下) p. 289, (続上) p. 203  
 莎幹舌刺- so'öra- (下) p. 289, (続下) p. 370  
 鎖中豁舌兒 soqor (下) p. 230  
 鎖舌里- sori- (上) p. 220, (続下) p. 110, 219  
 莎余舌兒中合- soyurqa- (下) p. 204  
 雪泥 söni (続下) p. 205  
 雪泥 額舌兒帖 söni erte の解釈 (下) p. 348  
 雪泥迭 söni-de (下) p. 352  
 雪都舌兒- södür- (südür-) (下) p. 304, (続上) p. 125  
 雪都舌兒堅 södürgen (südürgen) (下) p. 304, (続上) p. 125, 127  
 雪余-, 莎余- söyü- (続中) p. 293  
 雪余額舌兒 söyü'er (上) p. 131, (続下) p. 367  
 -速 -su (一人称の希願を表わす語尾) (続上) p. 140  
 速 su, 速壇 sutan (中) p. 46  
 速蒼勳必- sudalbi- (続中) p. 36  
 速只牙速 sujiyasu (下) p. 149  
 -su(n)/-sü(n) をもつ語: -su(n)/-sü(n) をもたない語 (秘史: 文語や現代の諸方言) (中) p. 45, 145, 270, (下) p. 149, (続上) p. 23, 251, (続中) p. 84  
 -su(n)/-sü(n) で終わる実詞の複数形 (中) p. 287, (下) p. 128  
 -su(n) で終わる実詞からの動詞形成 (続下) p. 196  
 孫都舌兒- sundur- (続下) p. 220  
 速幹舌刺- su'öra- (下) p. 289, (続上) p. 203  
 速別赤 sübeči (続上) p. 237  
 速都 südü 《齒》(šidü の交替形) (上) p. 10, 137, (下) p. 303, (続上) p. 125  
 速敦 südün (植物名) (中) p. 47  
 速客思 sükes (続下) p. 539  
 速勳別舌兒歸 sülbergüi (続上) p. 310

速勳迭兒, 速勳迭 <舌列> sülder (上) p. 258, (続中) p. 91  
 暑漣, 暑洌 <捏> sülen (続上) p. 284, (続中) p. 203, (続下) p. 545  
 ~の表記と現代語での形 (続下) p. 531-532  
 速篋思 sümes (süme の複数形) (続下) p. 417  
 速舌魯 <昆> sürüg (続下) p. 545  
 速亦- süyi-, 速余- süyü- (続中) p. 293  
 -саар<sup>4</sup> (中) p. 379, (下) p. 69, (続上) p. 358  
 -саар<sup>4</sup> と -снаар<sup>4</sup> (続中) p. 247  
 сайн と сайтар (下) p. 7  
 сайн と сайнаар (下) p. 209  
 -сан<sup>4</sup> ажээ と -сан<sup>4</sup> билээ (続下) p. 259  
 сархад (中) p. 18  
 соёл (続中) p. 294  
 суу-の補助動詞の用法 (中) p. 78  
 суурь (下) p. 128  
 сэл- ~сэлгэ- (続上) p. 30, 199  
 шагаа ~ шагай (上) p. 246  
 шинэ (続下) p. 393  
 шөл (続上) p. 284  
 шөлөглөн саа- (下) p. 216  
 -s- ~ -d-の交替 (音節末) (上) p. 219, (下) p. 103, (続上) p. 62, 355  
 (モンゴル文語の音節) si のあらわす音, [si] と [ši][fi] (続上) p. 125, (続中) p. 100  
 再帰格語尾・再帰曲用方式 (中) p. 219, 234, (下) p. 78, 112, (続下) p. 350  
 再帰対格・再帰属格 (下) p. 11, 134, (続中) p. 81, 202, 229, (続下) p. 351, 395, 441, 558  
 再帰不定格 (続中) p. 156, 202  
 指上形・指下形 (続中) p. 229, (続下) p. 209  
 指示代名詞 (上) p. 108, (続上) p. 212  
 主格か対格か (下) p. 229  
 性と数の一致 (上) p. 39, 248, (中) p. 51, 58, 89, 139, 217, (下) p. 61, 139, 348, (続上) p. 16, 32, 49, 138, 355, (続中) p. 280, (続下) p. 285  
 性と数の一致の崩壊過程を示す例 (上) p. 248, 279  
 シャーマニズムの祭事・祭礼, シャーマン祈禱 (上) p. 14, 75, 192, 241, (続上) p. 84, 251  
 戦闘時の三つの戦法 (続上) p. 326

## t

- ta (回数を表わす接辞) (上) p. 270  
 -ta/-te (高さ格の語尾) (上) p. 242, (続上) p. 340  
 塔 ta (下) p. 6, (続下) p. 182, 209  
 塔阿舌刺勒都- ta'āra-ldu- (続中) p. 309  
 -tai/-tei (-tu/-tü の女性形) の用法 (続下) p. 7, 470  
 台中合勒 taiqal (続中) p. 8  
 塔乞 taki (助辞) (上) p. 229, (続上) p. 268→[teki 参照]  
 塔勒-, 塔魯- tal(u)- (中) p. 382, (下) p. 155  
 -tala/-tele (副動詞語尾) の, 本来の意味 (続上) p. 369  
 ~の「逆説」の意味 (中) p. 160  
 ~と a-, bü- (上) p. 106-107  
 ~で率いられる従属節 (続上) p. 78  
 ~の珍しい用法 (続下) p. 336  
 ~の実詞語尾性 (中) p. 361  
 塔刺- tala- (続上) p. 226  
 塔勒必- talbi-の補助動詞的用法 (上) p. 141  
 塔勒必黒撒揚 talbigsad (中) p. 285  
 探馬 tamma, 探馬赤 tammači, 探馬臣 tammačīn (続下) p. 470, 474  
 談秃〈魯〉 tamtul- (中) p. 382  
 -tan<sup>2</sup> (-tai の複数形) (続下) p. 374  
 -壇/-田 -tan/-ten (《~等, ~達》) (上) p. 202, (中) p. 78, (下) p. 209  
 -壇 李命 -tan bolun (下) p. 25  
 塔納 tana (下) p. 65  
 儼吉 tanggi (続上) p. 293  
 塔乞- taqi- (taki-) (続上) p. 248, (続中) p. 222  
 塔舌刺黒 不舌里額秃 tarag būri'ētü (下) p. 155  
 塔兒巴中合揚 tarbagad (中) p. 154  
 塔兒中忽台 Targutai (下) p. 192  
 塔兀勒- ta'ül- (続中) p. 307  
 討兀勒- taū'ül- (続下) p. 431  
 塔亦- tayi- (続上) p. 247, (続中) p. 222  
 -te (現象・物事の程度を表わす) (続上) p. 37  
 帖ト騰格舌里 Teb-tenggeri (続下) p. 154  
 帖ト赤- tebči- (中) p. 81, (続中) p. 244  
 帖迭 tede (中) p. 168, (続上) p. 86

- 帖迭 李命 tede bolun (下) p. 316  
 帖堆 tedüi (上) p. 60, 80, (中) p. 244  
 ~の副詞的用法と形容詞的用法 (続上) p. 210  
 帖額- te'e- (中) p. 200  
 帖乞 teki (《~さえ, ~も》) (下) p. 194, (続上) p. 268  
 帖勒 tel (中) p. 147  
 帖列格 telege (続中) p. 28  
 帖里 teli (te-li) (続中) p. 66, (続下) p. 211, 337  
 忝迭克, 忝帖〈昆〉 temdeg の語構成 (上) p. 128, (中) p. 137  
 帖箴徹-, 帖箴扯- temeče- (上) p. 265, (中) p. 260, (続上) p. 347  
 帖箴額の顔 阿都刺兀〈倫〉 teme'ēd-iyēn adūla'ül- (下) p. 229  
 曠箴延 阿赤阿 temeyēn ači'ā (続下) p. 400  
 忝古- temgū- (上) p. 149, (中) p. 45  
 -ten (-tü の複数形) (続中) p. 262  
 田迭 tendē (下) p. 24, (続上) p. 266  
 田迭徹 tendēče の接統詞的用法 (中) p. 75  
 騰格舌理 tenggeri (上) p. 11, (続下) p. 295  
 騰汲思 Tenggis (上) p. 21  
 帖舌列 tere (続下) p. 337  
 ~の漠然とした《その》を表わす用法 (下) p. 283  
 ~の文全体をひきしめる機能 (続下) p. 345, 504  
 ~の《そのように, かくして》と訳しうる例 (続下) p. 241  
 帖舌列 兀主兀舌列 tere üjü'ür-e の解 (続下) p. 445  
 帖舌兒格 阿撒舌刺- terge asara- (続下) p. 50  
 帖舌兒格敦 兀主兀舌列 terged-ün üjü'ür-e (続下) p. 198  
 帖兒格勒 tergel (中) p. 111  
 帖舌里兀, 帖舌里温 teri'ü(n) (上) p. 24, 202, (続上) p. 98, (続下) p. 190  
 帖舌里兀捏 teri'ün-e の -e の解 (上) p. 23  
 teri'ün と秃舌命 türün (上) p. 26  
 帖舌里兀邊 中罕主中合刺- teri'ü-ben ganjugala- (続下) p. 303  
 帖舌里温突舌兒 古舌兒- teri'ün-dür kür- (続下) p. 209  
 帖舌里兀連 teri'üle-n (下) p. 32  
 帖舌里兀田 teri'üten (上) p. 202, (続中) p. 172  
 帖舌兒箴 terme (続上) p. 189, (続下) p. 400  
 帖兀別舌兒 te'ü-ber (続下) p. 164  
 帖兀訥埃 te'ün-ü'eī (続下) p. 262  
 帖兀舌列兀勒速 te'üre'ülsü (中) p. 373  
 帖亦列- teyile- (上) p. 152

帖亦木 teyimü の文終止の用法 (下) p. 303  
 帖因 客額- teyin ke'e- (続下) p. 49  
 帖因客額揚 teyin kē'ed (そして、それから) (続上) p. 50  
 帖因古 teyin-kü (中) p. 75  
 脱阿 to'ā, 脱幹 to'o (続下) p. 393, 394  
 脱阿班 脱幹刺勅都- to'ā-bān to'ōlaldū- (続上) p. 276  
 脱安 to'ān (上) p. 137  
 脱必察兀揚 tubičaūd (続下) p. 480  
 脱勤乞思- tolgis- (上) p. 235  
 脱里 toli (続上) p. 140  
 脱納黑 tonag, 脱那黑 tonog (続上) p. 227, 335  
 脱幹刺- to'ōla- (続下) p. 394  
 脱幹舌里中合- to'ōriGa- (続上) p. 332  
 脱舌兒魯黑 torlug (続上) p. 251  
 脱舌羅命 torolu-n (続上) p. 334  
 脱兀刺- to'ūla- (続下) p. 394  
 脱兀舌兒中合 to'ūrga (続中) p. 101  
 脱宜 toyi (続上) p. 30  
 脱亦- toyid- (下) p. 109  
 拖亦<闕> toyila- (中) p. 329  
 脱孛都揚 那中豁<的> töbödūd noqad (続下) p. 369  
 脱迭額- töde'e- (töde-の他動詞形) (続上) p. 367  
 脱歌舌里該 tögōrigej, "tögōrigej ulus" (続中) p. 82  
 脱列揚 töled (続下) p. 533  
 脱舌列 töre ~ 脱舌劣 törö (続中) p. 160  
 töre~törö と約孫 yosun (続中) p. 160, 220  
 脱舌列 薛乞- töre sedki- (続中) p. 160  
 脱舌劣 乞赤耶- törö kičiye- (続下) p. 558  
 脱舌列- töre- と脱舌列兀勑- töre'ül- (上) p. 77  
 脱舌列勑乞 törelki (続中) p. 85  
 脱舌里- törid- (下) p. 151, (続上) p. 366  
 脱兒古揚 törküd (上) p. 249  
 脱舌魯勑乞秃 törülkitü (続中) p. 88  
 脱舌魯勑米石 törül-miši (続上) p. 252  
 倉兀揚 tsang-ūd (続下) p. 534  
 -tu/-tü, -taj/-tej, -tan/-ten (実詞形成接辞) (〜をもつ) (上) p. 58, 102, (中) p. 139, (下) p. 62, (続下) p. 7, 374  
 [-tu<sup>2</sup>, -taj<sup>2</sup>, -tan<sup>2</sup>] の使い分け (続下) p. 78

[-tu<sup>2</sup>, -taj<sup>2</sup>, -tan<sup>2</sup>] の文(或いは節)構成力 (続中) p. 28  
 [-tu<sup>2</sup>, -taj<sup>2</sup>] の用法 (続下) p. 470  
 秃揚中合<舌刺> tudqar (上) p. 183, (中) p. 373  
 土敦 tudun (上) p. 197  
 秃黑 tug (続上) p. 32, (続中) p. 101  
 -tugaj/-tügej (中) p. 10, 379, (続上) p. 285, (続下) p. 26, 288, 370  
 秃中忽<命> tugul (続上) p. 308  
 秃刺 tula (後置詞) (続中) p. 167  
 秃勑巴 tulba (続下) p. 464  
 秃勑巴勑- tulbal- (続下) p. 464  
 秃勑八思 tulbas (下) p. 45  
 秃勑八思 幹<都> tulbas od- (続下) p. 188, 464  
 秃魯 tulu (続下) p. 187  
 秃魯黑 tuluc (下) p. 324, (続上) p. 155, (続中) p. 142  
 土木不<闕> tumbula- (続上) p. 41  
 秃木苔阿 tumda'a (続中) p. 20  
 土木塔中合 tumtaga (続中) p. 20  
 屯苔中合 tundaga (続中) p. 20  
 統中忽-, 統<中渾> tungqu- (中) p. 323, (続下) p. 522  
 秃你- tuni- (続下) p. 505  
 秃乞舌兒- tuqir- (続下) p. 369  
 秃舌刺思壇 turastan (下) p. 139  
 秃舌兒中合黑 turgag (続中) p. 262, 280, 284  
 秃舌兒中合兀揚, 土兒中合兀<的> turga'ūd (中) p. 93, (続上) p. 277, 282, (続中) p. 262, 280  
 土舌林台 turimtai (中) p. 136  
 秃舌魯黑 turug (下) p. 324, (続中) p. 90, 141  
 秃舌魯中合揚 turugad (turuqan の複数形) (続上) p. 267  
 圖思 中合你顔 tus qan-iyān (続下) p. 558  
 圖思 中罕你顔 tus qan-niyan (続上) p. 202  
 圖昔顔 tus-iyān, 圖速安 tus-u'ān (続下) p. 558  
 土思-, 土<速> tus- (中) p. 293, (続中) p. 16, (続下) p. 294  
 土撒 tusa (中) p. 256  
 土失 tuši- (中) p. 70, (下) p. 89 →[tüši-]  
 土失牙勑<敦> tušiya-ldu- (続上) p. 34  
 土屯 tutum (上) p. 153  
 秃兀- tu'ū- (上) p. 256  
 秃兀兒必- tu'ürbi- (続下) p. 108

秃牙勒 tuyal (続下) p. 188  
 土別 түбе- (中) p. 307  
 土ト申秃客勒 түбшин түкел (続下) p. 474  
 土不舌里温 түбүри'үн (中) p. 204  
 秃格- түге-, 秃格額- түге'е- (続上) p. 226  
 土格帖列 түгетеде (中) p. 178  
 推搡恢突舌兒 түйдкүй-дүр (続上) p. 369  
 土烈食〈連〉 түлешиле- (下) p. 282, (続上) p. 136  
 秃里- түли- (続下) p. 203  
 統格黎克 中豁舌羅中罕 Tünggelig goroqan (上) p. 46  
 土篋 түме (tümen の不定格) (続中) p. 145  
 土綿 түмен (続上) p. 225  
 秃綿 鞞亦舌刺傷 түмен Oyirad (続下) p. 91  
 秃舌兒格捏 түрген-е (続下) p. 460  
 түри- と түлки- (続下) p. 204  
 秃舌命 түрүн (türün) (上) p. 26, (中) p. 297  
 秃失-, 土失- түши- (続中) p. 245, (続下) p. 141 → [tuši-]  
 秃速舌兒格 түсүрге (下) p. 33, (続下) p. 37, 190, 232  
 秃亦傷- түйид- (続上) p. 366, (続下) p. 186  
  
 -т と -тай³ (と тан⁴) の productive 性 (生産性) (続下) p. 7, 78-79  
 тавь- (上) p. 142  
 тамга と тэмдэг (上) p. 128  
 тар- と тарх- (続上) p. 26  
 тат- (上) p. 192  
 тонох (続上) p. 228  
 тоо, тооло- (上) p. 137  
 туу- (続下) p. 162  
 түргэн と хурдан (続下) p. 460  
 тэгээд (続上) p. 51  
 тэр と наадах чинь (上) p. 108  
 тэргүүтэн (上) p. 202  
  
 对格的 不定格 (下) p. 261  
 ~と与位格的 不定格 (続下) p. 354  
 「高さ格 -цаа⁴」「-tsā⁴ (高さの限度)」 (上) p. 242, (続上) p. 340  
 定格 (下) p. 330, (続下) p. 76, 431 → [「不定格」の項参照]  
 倒置語法 (上) (中) p. 57

## U

-u/-ü, -i, -aj~-ui (進行中の動作を表わす動詞語尾) (中) p. 211, (下) p. 86, (続上) p. 36, 121, 256, (続下) p. 261, 323, 398, 399,  
 —の意義素 (下) p. 15  
 -ü/-ũ (疑問の助辞) (中) p. 255, (下) p. 200, (続上) p. 264, 269  
 ~の動詞の後に来ない語法 (続下) p. 232  
 -ü/-ũ, -üj/-ũj, -ün/-ün (実詞形成接辞) (上) p. 102  
 -u'-aj/-ü-ej (〜に属するもの) (上) p. 158, (続中) p. 212, (続下) p. 262, 284  
 兀- ü- (上) p. 81  
 -u'än (続下) p. 441, 558  
 兀ト赤黒台 Ubčigtaĭ (下) p. 276  
 兀必思 ubis ~忽必思 hubis (下) p. 45, (続下) p. 16  
 兀不兒 速不兒 ubur subur (中) p. 171  
 兀赤舌刺- učira- (続上) p. 177  
 兀出馬 Učuma (続上) p. 77  
 -üd² (複数形成接辞) (続下) p. 38, 84, 95  
 兀荅阿舌刺-, 兀荅阿〈舌闌〉 uda'ara- (続上) p. 185, (続下) p. 289  
 兀都- udu- (続上) p. 305  
 ~と udurid- (続上) p. 23, (続中) p. 156  
 兀中忽勒札 ugulja (続中) p. 44  
 兀哈里 uhāli (続下) p. 118  
 -兀齋, -兀澤 -'üĭaj/-'üĭej (中) p. 173, 380, (下) p. 49, 195, (続上) p. 87, 256, 271,  
 (続中) p. 31, (続下) p. 26, 364  
 -兀只宜 -'üĭiyi (-'üĭaj の一変種) (続中) p. 31  
 兀乞塔刺 ukitala (中) p. 41, (続下) p. 305  
 -兀勒- -ül/-'ül- (使役形接辞) (中) p. 144, (続上) p. 182, (続下) p. 39-40  
 ~の「〜してもらう」と訳せる例 (上) p. 268, (中) p. 235  
 ~の「〜られる」と訳せる例 (上) p. 271, (中) p. 233, (続上) p. 265, (続中) p. 12  
 ~の《〜られる》と訳せる場合の -gda- との意味のちがひ (続上) p. 82  
 ~の敬語法, 「君主たることの権威」を示す語法 (続中) p. 187, 238  
 ~の謙讓用法 (続上) p. 370  
 -兀勒 -'ül/-'ül (出動実詞形成接辞) (中) p. 144, 237, (続上) p. 23, 277, (続中)  
 兀刺阿 ula'a (続中) p. 32 [p. 58, 248, (続下) p. 523  
 兀刺阿 古出 ula'a küčü (続中) p. 265  
 兀藍 ulam (続上) p. 225  
 兀勒〈斤〉 ulgi-, 兀勒〈勤〉 ulki- (下) p. 277

兀里思 ulis- (続下) p. 505  
 -'ūlsun/-'ūlsūn (続上) p. 23  
 兀魯思 ulus (上) p. 48, 265, (下) p. 25, (続中) p. 201  
 兀魯孫 孛可 ulus-un bōkō (下) p. 110, 117  
 兀木不 umbu (中) p. 225  
 -溫 -'ūn/-'ūn (-ūn<sup>2</sup>) (場所的副詞形成の接辞) (中) p. 376, (下) p. 155, (続上)  
 p. 16, 192, 237, (続中) p. 311~313, (続下) p. 192, 262  
 -un (属格語尾) の一用法 (続上) p. 170  
 -un<sup>2</sup>-iyan<sup>2</sup> (再帰属格形) (続中) p. 156  
 兀納- una-, 兀納中合- unaga- (続下) p. 395-396  
 溫都舌命 undur-u-n の読み方 (続上) p. 295  
 翁中合孫 ungasun と農中合孫 nungasun (中) p. 219, (続上) p. 49  
 翁失- ungši- (中) p. 96, 118, (下) p. 130, (続下) p. 208  
 ~と uri- (続中) p. 213  
 溫只勳札- unjilja- (続上) p. 66  
 穩榻舌刺- untara- (続下) p. 290  
 兀訥- unu- の要求する格語尾 (中) p. 206, (続中) p. 130, (続下) p. 395  
 兀訥阿 unu'ā (続上) p. 86  
 兀訥中忽臣 unugučīn (続下) p. 533  
 兀中合 uqa- (中) p. 232, (続上) p. 172, (続中) p. 168, (続下) p. 131, 285~288  
 兀中合<sup>屬</sup> uqad (上) p. 127, (続中) p. 168  
 兀中含撒舌兒 uqamsar (続下) p. 106-108  
 uraqa (上) p. 145  
 兀舌兒邦 urbang (続上) p. 182  
 兀舌里<sup>屬</sup> urid と, 兀舌里荅 urida と, 兀舌里都 uridu (続上) p. 148, (続中) p. 281  
 兀舌里荅 urida (続上) p. 203, (続下) p. 91, 110  
 兀舌里荅溫 urida'ūn (続上) p. 192, (続下) p. 262  
 兀舌里牙 uriya, 兀舌里- uri- (続中) p. 213  
 兀舌里牙舌兒中渾 uriyarqun (続下) p. 17  
 兀速〈闌〉 usula- (続上) p. 176  
 兀速舌兒中合- usurqa- (続上) p. 238  
 兀速壇 沐舌<sup>屬</sup> usutan müred の -tan の用法 (続下) p. 374  
 -'ūta (副動詞語尾) (中) p. 232  
 兀秃舌刺- utura- (中) p. 360  
 兀秃舌刺兀勳荅- utura-'ūl-da- (続上) p. 154  
 u'ū- (続上) p. 135  
 -uyi (続中) p. 33 →[孛魯宜 boluyi]

удаа (続上) p. 185  
 удган мод (上) p. 241  
 узуур (上) p. 10  
 улс と улсууд (上) p. 48  
 урд, урьд (続中) p. 282  
 уруу と өөд (上) p. 46

u<sup>2</sup>~i の交替語幹 (続下) p. 354

## ü

兀卜 üb (続上) p. 335  
 兀不勳 übül (上) p. 45, (続上) p. 93, (続下) p. 393  
 兀不勳者- übülje- (続下) p. 393  
 兀出格<sup>屬</sup> üčüged (中) p. 40, (下) p. 33, (続下) p. 188  
 兀出兀干 üčü'ügan(gen) (中) p. 40  
 兀出兀堅 üčü'ügen (中) p. 40, (下) p. 33  
 兀迭 üde (中) p. 369, (続上) p. 169, (続下) p. 105  
 兀迭〈舌鄰〉 üderi- と 兀迭舌里<sup>屬</sup>- üderid- (上) p. 275, (続上) p. 22, 81, 190, (続  
 兀迭失 üdeši (中) p. 369, (下) p. 351 [中] p. 156  
 兀都- üdü- と, 現代モンゴル語の өд-, ödö- ödö- (続下) p. 218  
 兀都<sup>屬</sup> üdüd (üdür の複数形) (続中) p. 280, (続下) p. 31  
 兀都舌兒 üdür (上) p. 45, 60, (中) p. 27, (続上) p. 93, (続中) p. 280, (続下) p. 31  
 兀都舌兒都里 üdür dūli (続上) p. 20  
 兀都舌兒 格亦- üdür geyi- (中) p. 343, (続上) p. 60  
 兀都舌兒 格亦兀〈命〉 üdür geyi'ül- (下) p. 280, (続上) p. 56, 60  
 兀都舌兒途舌兒 üdür-tür (続上) p. 295  
 兀都舌命 額舌兒帖 üdür-ün erte (中) p. 298  
 兀都為 üdü'üi (否定語) (上) p. 59, (下) p. 48, (続上) p. 153, (続下) p. 264  
 兀格 巴舌刺黑荅- üge baracda- (続下) p. 211  
 兀格 把舌刺勳都- üge baraldu- (中) p. 363, (下) p. 344, (続下) p. 346  
 兀格額舌兒 荅阿舌里- üge'er da'ari- (続下) p. 399  
 -ü'en (続下) p. 284→[-ü-yën 参照]  
 兀該 ügei (上) p. 20, 55, 60, 101, (続上) p. 355  
 ~の用法と意味 (続下) p. 159  
 兀該兀 ügei'ü ~兀該為 ügei'üi ~兀該溫 ügei'ün (上) p. 101  
 ügei'ü (下) p. 227  
 ügei'ün (下) p. 302, (続上) p. 355

兀格兀 üge'ü ~兀格為 üge'üj ~兀格温 üge'ün (上) p. 20, 101  
 üge'ü (下) p. 227  
 嗚詰列- ügüle- (続下) p. 156  
 嗚詰列揚 ügüle-d (上) p. 127  
 嗚詰列舌論 ügülerün の用法 (下) p. 202, (続上) p. 181, (続中) p. 9, 91, 252  
 委亦列帖〈泥〉 üjyilet-en-i (下) p. 245  
 兀者- üje- (中) p. 34, (続上) p. 202  
 兀瞻 牙荅-, 兀斡 牙荅- üje-n yada- (続上) p. 146, 165, (続中) p. 81  
 -兀者埃 -ü'je'e'i (中) p. 71  
 兀主兀〈連〉 üjü'üle-n (続中) p. 41  
 兀窟- ükü- (中) p. 107, (続上) p. 355  
 兀窟揚古- üküdgü- (続上) p. 354  
 兀窟克迭- ükügde- (中) p. 107  
 -兀勦- -'ül- (使役形接辞) の謙讓用法 (続上) p. 370  
 兀勦都 üldü (上) p. 10, 136, 193, (下) p. 303  
 兀勦格- ülge- (続上) p. 345  
 兀里- üli- (下) p. 243  
 兀里揚〈刊〉 üliidke- (続中) p. 203  
 兀里格 ülige (続中) p. 158  
 üliiger (下) p. 243  
 兀禄, 兀魯 ülü (上) p. 60, 222, (中) p. 379  
 ~と ese (上) p. 80, (続上) p. 329, (続下) p. 159  
 ~の否定性の及ぶ範囲 [ülü が否定するもの] (続中) p. 219, (続下) p. 26  
 兀禄 阿勦札中忽 ülü aljaqu (下) p. 50  
 ülü bol- (下) p. 54, (続中) p. 33, (続下) p. 302, 320, 323, 523  
 兀禄 升格恢 亦陞額 ülü šinggeküj ide'e (続中) p. 76  
 兀禄兀 ülü-'ü (中) p. 379  
 「兀禄兀——兀澤」 ülü'ü——'üjaj (中) p. 379, (続上) p. 271, (続下) p. 26  
 「兀禄兀——兀只宜」 ülü'ü——'üjiji (続中) p. 31  
 兀魯揚客- ülüidke- (中) p. 256, (続中) p. 203  
 兀篋克石 ümegši (下) p. 352  
 兀篋舌列 ümere (中) p. 79, (下) p. 352, (続下) p. 466  
 温都揚帖 中合〈舌魯〉 ündüd-te gar- (下) p. 301  
 温都舌兒 帖篋扯耶 ündür temeče-ye (続上) p. 347  
 兀年米石格- üne(n)mišige- (下) p. 347  
 兀年古 ünen-kü (上) p. 57  
 温只- ünji- (続中) p. 173  
 兀訥昆 ünügün (中) p. 329

兀兒-, 兀舌兒- ür- (中) p. 200, (続中) p. 58, 176  
 兀舌里額 üri'e (下) p. 197  
 兀圖 都舌魯回 古兀〈訥〉 ütü dürü-yin kü'ün (続上) p. 278  
 -ü'ü (疑問辞) (続上) p. 269  
 兀也中合牙 üye qaya (上) p. 105  
 兀耶列- üyele- (続上) p. 120  
 -ü-yēn (再帰曲用属格形) の成立 (続下) p. 350, 440, [(中) p. 85, (続中) p. 201, (続  
 兀耶〈訥〉 üyen (続上) p. 170 [下) p. 284 参照]  
 兀亦勦孫 üyilsün (続下) p. 16

үйл, үйлтэн (下) p. 246

үүр гий-, үүр цай- (中) p. 343

《馬》を表わす語彙 (上) p. 39, (下) p. 39, 197, (続下) p. 470

《馬に乗る》に当るモンゴル語の表現 (上) p. 178, (中) p. 163, (下) p. 212, (続中)  
 p. 130, (続下) p. 395

《馬の毛色》を表わす語彙 (上) p. 37, 140~141, 226, (中) p. 147, 161, 329, (下) p. 230,  
 《馬の走り方》を表わす語彙 (上) p. 167, 175 [(続上) p. 33, (続下) p. 331, 395  
 馬の「足を縛る索条」と「鞍の附属物」(中) p. 235, (続下) p. 184

## y

-牙/-耶 -ya/-ye (一人称の願望を表わす語尾) (続下) p. 36, 219

(文語における) -ya/-ye- をもたない語根のままの動詞 (中) p. 70, (続中) p. 33

迓歩- yabu- (上) p. 96, (下) p. 260, 268, (続中) p. 266, (続下) p. 66

~の意義素 (上) p. 94

~の補助動詞の用法 (下) p. 44, (続中) p. 81, 168, (続下) p. 297

迓歩(你)嗚詰列舌論 yabu(n) ügülerün (上) p. 163, 169

迓歩黒荅- yabu-gda- の意味 (続中) p. 168

迓歩荅荅- yabu-ldu- (上) p. 159

迓歩荅黒 客列禿 yabudag keletü (下) p. 325

迓歩中罕 yabuGan の意味・用法 (続下) p. 183

迓歩中罕 額篋額勦 yabuGan eme'eil (続下) p. 183-184

牙荅- yada-, 牙怛 yada-(n) (中) p. 97, (下) p. 267, (続上) p. 152

牙速 yasu (下) p. 181, (続下) p. 124

牙速把〈舌鄰〉 yasu bari- (続中) p. 16

牙速許速 yasu hüsü (続上) p. 357

牙兀客 ya'ü ke (下) p. 237

- 牙温 ya'un (疑問語) (続上) p. 310, (続中) p. 112  
 也古兀者埃 yegü-'üje'ei (中) p. 70  
 也客 中豁勒 yeke gol (続上) p. 36  
 也客 格兒 yeke ger (中) p. 211  
 也客可兀 yeke kö'ü と阿中合 aqa (続下) p. 440  
 也乞兀者 yēki-'ü-je, 也乞兀澤 yēki-'ü-je(i) (下) p. 195, (続上) p. 256  
 也客薛 中合札舌魯 亦捏舌魯 中合舌魯黒三突兒 yekes-e gaǰaru inerü garugsan-dur (中) p. 13  
 -顔 -yēn (-iyēn) (再帰属格形) (続中) p. 229  
 也孫 yesün (上) p. 233, (続下) p. 180  
 也孫 闊勒秃 察中合安秃黒 yesün költü čaga'an tug (続中) p. 101  
 也兀格- ye'üdge- (続下) p. 231  
 -宜 -yi (指定の -i~-yi) (続下) p. 258 →[-i~-yi]  
 -宜 -yi (对格語尾) (続上) p. 37, (続中) p. 145 →[-i~-yi] の項  
 -yi (deductive present -yu/-yü の女性形) (上) p. 228, (続上) p. 241, (続中) p. 33, (続下) p. 302, 505  
 -yid- (出実動詞形成接辞) (中) p. 220, (続上) p. 36, (続下) p. 331 →[-id]  
 亦克秃捏- yigtüne- (下) p. 63  
 -yin (属格語尾) の, 《~のもの》と解される例 (続中) p. 212  
 ~の従属節の主語を示す例 (続上) p. 96, 203, 223  
 約舌里顔 yor-iyān (中) p. 325  
 約舌兒赤- yorči- (上) p. 141, 142, (続上) p. 238, 326  
 ~の補助動詞的用法 (下) p. 115  
 約孫 yosu(n) (続下) p. 380  
 約兀舌兒中合 yo'ürga (続中) p. 117  
 -yu/-yü (deductive present) (上) p. 228, (中) p. 301, (続上) p. 241, (続中) p. 33, (続下) p. 302, 505  
 -yü/-yü (疑問の助辞) (中) p. 103, (下) p. 200  
 -余安/-余延 -yu'an/-yü'(y)ēn の意味・用法 (上) p. 56, 134, (続中) p. 229, (続下) p. 350, 440  
 -yu'an/-yü'(y)ēn と -u'an/-ü'ēn (-üyēn) (続下) p. 285, 440, 558  
 -yüyēn と -yēn (続中) p. 229  
 -yu'an/-yü'(y)ēn と -bān/-bēn (-ba'an/-be'ēn) (上) p. 56  
 -yugān<sup>2</sup> (モンゴル文語) (上) p. 56, (続下) p. 284, 350, 440  
 яв- (上) p. 96, (下) p. 260, (続下) p. 66  
 ясан, ю(н) (続上) p. 310  
 яд- (下) p. 117, 268, (続上) p. 152

- язгуур, ёзоор (上) p. 10  
 ялаа, шумуул, батгана (続上) p. 239  
 -юу/-юу (中) p. 103, (下) p. 200

- 与位格語尾の -du/-dü (文語形) (上) p. 193  
 与位格語尾を伴わない慣用表現 (続下) p. 48  
 与位格的不定格 (続中) p. 122, (続下) p. 354



## あ と が き

いつものことながら、校正刷りの点検は、心身消耗を余儀なくされる作業である。心臓に持病をもつ私には、この作業は本当にこたえる。今回は風間書房の佐藤和久氏の協力が得られて、私の苦しみは減少したが、それでも校正洩れの責は勿論私自身にあるので、力の及ぶ限度で私は校正刷りと苦闘した。今はただただ誤植の少しでも少なからんことを祈って本書の出版を待つ心境である。

「はしがきに代えて」に誌した様に、元朝秘史蒙古語の研究は近い将来、その終点に近づけそうな感をもっているが、この文献のもつ、幾つかの大きな、文献学的、書誌学的な課題まで考慮に入れれば、「はしがきに代えて」で誌した文言は訂正を迫られることになる可能性なきにしもあらずである。

秘史蒙古語研究に終止符を打って、次の研究課題——今、頭に浮かぶ課題だけでも五指に余る——に進み入るのは何時になるのであろうか。その日の到来のおそからざることを自分自身に願って、この短かいあとかきを結びたい。今は、疲れ果てた体をゆっくり癒して、次の課題への体力を貯えねばならない。

モンゴルの美しい碧空は、訪れるたびに、私の心を洗ってくれるが、日本の冬晴れの清明な美しさを、私は日本人として、少年時代からこよなく愛し続けて来た。この冬晴れの様な澄みきった心で、これからもモンゴル系の言語の研究にいそしみたいと思う。

平成五年二月十一日、日本の建国に思いをはせつつ。

小 沢 重 男

## 著者略歴

1926年8月18日東京に生れる。  
1947年3月東京外事専門学校蒙古語学科卒業。  
1951年3月東京大学文学部言語学科卒業。  
1951年4月より東京外国語大学に奉職し、モンゴル語の教授・研究に従事し1989年3月に退官。その間、多くの著書・論文を発表し、『元朝秘史全釈（上・中・下）』、『元朝秘史全釈続攷（上・中・下）』はその一つの集大成であり、また『現代モンゴル語辞典』（大学書林1983）もその代表作の一つである。現在、東京外国語大学名誉教授の他、モンゴル国立ウラーン・バートル大学名誉教授、内蒙古大学名誉教授、モンゴル科学アカデミー海外会員、国際モンゴル学会会長、日本モンゴル学会会長。

平成5年2月20日 印刷  
平成5年2月28日 発行

---

## 元朝秘史蒙古語文法講義

定価 25,750円  
(本体25,000円)

著者 小澤 董 男

発行者 風 間 務

印刷者 千 葉 昭 男

発行所 株式会社 風 間 書 房

〒101 東京都千代田区神田神保町1の34  
電話 (3291)5729番 振替東京1-1853番

---

(中台整版・有朋製本)

ISBN4-7599-0850-1